

IMS
15.1.0

メッセージおよびコード 第3巻:
IMS 異常終了コード
(2021-04-19 版)



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[661 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IMS 15 (プログラム番号 5635-A06)、IMS Database Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-DS5)、IMS Transaction Manager Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-TM4)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリソースおよびモディフィケーションに適用されます。

© Copyright International Business Machines Corporation 1974, 2020.

目次

本書について.....	v
前提知識.....	v
新規および変更された情報の識別方法.....	v
IMS 15 のアクセシビリティ機能.....	vi
第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード.....	1
IMS 15 の新しいメッセージとコード.....	1
IMS 15 で変更されたメッセージとコード.....	3
IMS 15 で削除されたメッセージとコード.....	5
第 2 章 IMS 問題判別.....	11
第 3 章 IMS 異常終了コード.....	15
IMS 異常終了.....	15
標準異常終了.....	15
疑似異常終了.....	16
マルチモジュール異常終了.....	17
IMS 異常終了に関する情報の入手.....	17
障害分析表.....	18
定様式ダンプ.....	18
IMS 異常終了の検索および通知.....	18
第 4 章 システム異常終了コード.....	19
第 5 章 IMS 異常終了コード 0000 - 0050.....	21
第 6 章 IMS 異常終了コード 0051 - 0100.....	49
第 7 章 IMS 異常終了コード 0101 - 0150.....	83
第 8 章 IMS 異常終了コード 0151 - 0200.....	107
第 9 章 IMS 異常終了コード 0201 - 0250.....	141
第 10 章 IMS 異常終了コード 0251 - 0300.....	155
第 11 章 IMS 異常終了コード 0301 - 0350.....	167
第 12 章 IMS 異常終了コード 0351 - 0400.....	179
第 13 章 IMS 異常終了コード 0401 - 0500.....	191
第 14 章 IMS 異常終了コード 0501 - 0600.....	217
第 15 章 IMS 異常終了コード 0601 - 0700.....	267
第 16 章 IMS 異常終了コード 0701 - 0750.....	291

第 17 章 IMS 異常終了コード 0751 - 0800.....	323
第 18 章 IMS 異常終了コード 0801 - 0850.....	381
第 19 章 IMS 異常終了コード 0851 - 0900.....	419
第 20 章 IMS 異常終了コード 0901 - 0950.....	447
第 21 章 IMS 異常終了コード 0951 - 1000.....	477
第 22 章 IMS 異常終了コード 1001 - 1050.....	497
第 23 章 IMS 異常終了コード 1051 - 2000.....	557
第 24 章 IMS 異常終了コード 2001 - 3000.....	563
第 25 章 IMS 異常終了コード 3001 - 3100.....	575
第 26 章 IMS 異常終了コード 3101 - 3300.....	617
第 27 章 IMS 異常終了コード 3301 - 4100.....	639
特記事項.....	661
商標.....	662
製品資料に関するご使用条件.....	662
IBM オンライン・プライバシー・ステートメント.....	663
参考文献.....	665

本書について

本書には、IMS によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

本書には、IMS によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

第 1 巻は、DFS 接頭部が付いた IMS メッセージの参照情報を、それに関連する戻りコードと一緒に提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断情報も提供します。

第 2 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、および IBM® リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などに関連する、DFS 以外の接頭部が付いた IMS メッセージについて、参照情報を提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報を提供します。

第 3 巻は、すべての IMS 異常終了 (アベンド) コードに関する参照情報を、分析、説明、考えられる原因、および APAR 処理命令も含めて提供します。

第 4 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、IBM リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などの戻りコード、理由コード、センス・コード、機能コード、および状況コードを提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報も提供します。

本書は、IBM Knowledge Center の一部として www.ibm.com/support/knowledgecenter で入手できます。

前提知識

本書を使用するには、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) の知識が必要です。さらに、z/OS® および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書を使用するには、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) のいずれかの知識が必要となります。さらに、z/OS および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書の読者は、z/OS、そのシステム生成、および通信について、また、IMS で使用されるアクセス方式について理解しておく必要があります。関連資料は、『参考文献』にリストされています。

z/OS の詳細については、[IBM Knowledge Center](#) の「z/OS basic skills」トピックを参照してください。

IMS の基本概念を理解するには、「*An Introduction to IMS*」(IBM Press 出版)をお読みになると役立ちます。

IBM では、IMS の学習に役立つような講習会や自習講座を数多く提供しています。利用可能な講習の詳細いリストについては、[IBM Skills Gateway](#) にアクセスして、IMS を検索してください。

新規および変更された情報の識別方法

IMS ライブラリーの PDF 資料のほとんどの新規および変更された情報は、左マージン内の文字 (改訂マーカ) によって示されています。「リリース計画」、ならびに「*Program Directory*」および「*Licensed Program Specifications*」の第 1 版 (-00) には、改訂マーカは含まれていません。

改訂マーカは、以下の一般的な規則に従っています。

- 技術的な変更のみにマークが付けられています。形式上の変更や文法的な変更には、マークは付けられていません。

- 段落、構文図、リスト項目、操作手順、または図などの要素の一部が変更された場合、その要素の一部だけの変更であっても、要素全体に改訂マークが付けられています。
- トピックの変更が 50% を超えた場合には、そのトピック全体に改訂マークが付けられています (そのため、新規トピックではなくても、新規トピックのように見ることがあります)。

改訂マークは情報に加えられたすべての変更を示しているとは限りません。削除されたテキストとグラフィックスには、改訂マークでマークを付けることはできないためです。

IMS 15 のアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

アクセシビリティ機能

以下のリストは、IMS 15 を含む z/OS 製品の主なアクセシビリティ機能を示しています。これらの機能は、以下をサポートしています。

- キーボードのみの操作。
- スクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) およびスクリーン拡大鏡によって通常使用されるインターフェース。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ。

キーボード・ナビゲーション

IMS 15 ISPF パネル機能には、キーボードまたはキーボード・ショートカット・キーを使用してアクセスできます。

TSO/E または ISPF を使用して IMS 15 ISPF パネルをナビゲートする詳細については、「z/OS TSO/E 入門」、「z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド」、および「z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第 1 巻」を参照してください。上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む、各インターフェースのナビゲート方法が記載されています。それぞれの資料では、PF キーのデフォルトの設定値とそれらの機能の変更方法についても説明しています。

関連のアクセシビリティ情報

IMS 15 のオンライン資料は、IBM Knowledge Center で参照できます。

IBM におけるアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティに対する取り組みについて詳しくは、*IBM Human Ability and Accessibility Center* (www.ibm.com/able) を参照してください。

第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード

IMS 15 には、新規、および変更または削除されたメッセージとコードが多数あります。

IMS 15 の新しいメッセージとコード

IMS 15 には、以下にリストされている新しいメッセージが含まれています。

新しい CQS メッセージ

以下は新規メッセージです。

CQS0224E
CQS0249E

新しい CSL メッセージ

以下は新規メッセージです。

CSL2202E
CSL2505W
CSL4200W
CSL4201W
CSL4202W
CSL4203W

新しい DFS メッセージ

以下は新規メッセージです。

DFS686I
DFS0745E
DFS3253W
DFS3458
DFS3478
DFS4401E
DFS4550W
DFS4553W
DFS4555W
DFS4690I
DFS4691I
DFS4692E
DFS4723A
DFS4725I
DFS4787I
DFS4852E
DFS4861W
DFS4862W
DFS4863W
DFS4864W
DFS4865E

DFS4866E
DFS4867A
DFS4878I
DFS4879I
DFS4881I
DFS4888I
DFS4896I
DFS4897I
DFS4898E
DFS4899W
DFS4892E
DFS4930I
DFS4965E
DFS4896I
DFS4897I
DFS4898E
DFS5055I
DFS5386I
DFS7411I
DFS7412I
DFS7413I
DFS7419E
DFS7420E
DFS7421E
DFS7422E
DFS7423E
DFS7424E
DFS7431I
DFS7433E
DFS7435E
DFS7436E

新しい G メッセージ

以下は新規メッセージです。

G116
G117
G118
G119
G120
G121
G122

新しい FLD メッセージ

以下は新規メッセージです。

FLD760
FLD761
FLD763
FLD764
FLD765

FLD766
FLD767
FLD768
FLD769

新しい HWS メッセージ

以下は新規メッセージです。

HWSX0908W
HWSX0915W
HWSX0916W

新しい異常終了コード

以下の異常終了コードは新規コードです。

0133
0397
0421
0423
0424
0425
0426
512
1155

新しいコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードは新規コードです。

IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード

IMS 15 で変更されたメッセージとコード

このリリースでは、以下にリストされている、DSP メッセージが変更されています。

変更された BPE メッセージ

BPE 0042E

変更された CQS メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

CQS0035E

変更された DFS メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DFS0413I
DFS0730I
DFS982I
DFS1769W
DFS1919I
DFS1934E
DFS2205I

DFS2385E
DFS2411I
DFS2679A
DFS2854A
DFS3177E
DFS3254I
DFS3377
DFS3398E
DFS3435A
DFS3498W
DFS3505E
DFS3551E
DFS3613I
DFS3649A
DFS3656
DFS4198E
DFS4427E
DFS4585W
DFS4593E
DFS4610E
DFS4615E
DFS554A
DFS3176E
DFS3438
DFS4332E
DFS3446
DFS4447E
DFS4830I
DFS4851E

変更された DSP メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DSP0012I
DSP0141I

変更された HWS メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

HWSC0010I
HWSP1503E
HWSX0909E

変更された異常終了コード

以下の異常終了コードが変更されました。

U0021
U0070
U0071
U0073
U0166

U0711
0718
U0757
U1002
U1060
U1143

変更された AIB 戻りコードおよび理由コード

以下の状況コードが変更されました。

0110/0050

変更されたコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードが変更されました。

BPESTART コード
OTMA C/I 戻りコード
OTMA 001A
IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード
IMS TM Resource Adapter 戻りコードおよび理由コード

IMS 15 で削除されたメッセージとコード

以下のセクションにリストされているメッセージは、IMS 15 から削除されました。

このリリースでは、以下のメッセージが削除されました。

DFS2211I
G040
G043
G904
G042
G1205
G1212

削除された LGEN メッセージ

大規模システム定義 (LGEN) のサポートが除去されたことで、以下のメッセージが削除されました。

DFS3512I	G008
DFS3514I	G1211
DFS3516I	
DFS3518I	
DFS3520I	
DFS3522I	
DFS3524I	
DFS3526I	
DFS3528I	
DFS3530I	
DFS3532I	
DFS3534I	
DFS3536I	
DFS3538I	
DFS3540I	
DFS3546I	
DFS3548I	
DFS3550I	
DFS3552I	
DFS3554I	
DFS3556I	
DFS3558I	
DFS3559A	
DFS3560I	
DFS3562I	
DFS3564I	
DFS3566I	
DFS3567I	
DFS3568I	
DFS3569I	
DFS3570I	
DFS3572I	
DFS3574I	
DFS3577A	
DFS3593I	
DFS3599I	

削除された RSR メッセージ

リモート・サイト・リカバリー (RSR) のサポートが除去されたことで、以下のメッセージおよび異常終了が削除されました。これらのメッセージには、トランスポート・マネージャー・サブシステムおよびその他の RSR サービス (オンライン・フォワード・リカバリー、ログ・ルーター、DBRC サービス・グループなど) によって発行されたメッセージが含まれます。

異常終了	DFS2953I	DFS4030A
360	DFS2954I	DFS4031A
361	DFS2955W	DFS4032A
362	DFS2956I	DFS4033I
363	DFS2959I	DFS4034A
364	DFS2960A	DFS4034I
365	DFS2961I	DFS4035A
378	DFS2962I	DFS4036I
379	DFS2963A	DFS4037A
380	DFS2964I	DFS4039A
381	DFS2965A	DFS4041I
388	DFS2966A	DFS4042A
3090	DFS2967A	DFS4043A
3091	DFS2968A	DFS4044A
3399	DFS2969A	DFS4045A
DFS メッセージ (IMS)	DFS2980E	DFS4046A
DFS170	DFS2981E	DFS4047A
DFS176	DFS2982E	DFS4048I
DFS2903I	DFS2983E	DFS4049I
DFS2908I	DFS2984I	DFS4050A
DFS2909I	DFS2989I	DFS4051I
DFS2910I	DFS4010W	DFS4052A
DFS2911I	DFS4011I	DFS4053A
DFS2912I	DFS4012I	DFS4054A
DFS2913I	DFS4013W	DFS4055I
DFS2914I	DFS4014I	DFS4056I
DFS2915I	DFS4015I	DFS4057A
DFS2916W	DFS4016A	DFS4058A
DFS2917I	DFS4017A	DFS4060I
DFS2918A	DFS4018I	DFS4061A
DFS2922A	DFS4019I	DFS4062W
DFS2923I	DFS4020I	DFS4063I
DFS2924I	DFS4021I	DFS4064W
DFS2925I	DFS4022I	DFS4065A
DFS2926I	DFS4024I	DFS4066I
DFS2927I	DFS4025I	DFS4067A
DFS2928I	DFS4026I	DFS4068A
DFS2929A	DFS4027I	DFS4069A
DFS2931I	DFS4028I	DFS4070A
DFS2932I	DFS4029I	DFS4071I
DFS2933I		
DFS2935I		
DFS2936I		
DFS2937I		

	DSP メッセージ (DBRC)
DFS4072A	
DFS4073A	DFS4130I
DFS4074W	DFS4131A
DFS4075A	DFS4132A
DFS4076A	DFS4133A
DFS4077I	DFS4134I
DFS4078I	DFS4135I
DFS4079A	DFS4136I
DFS4085W	DFS4150I
DFS4086W	DFS4152A
DFS4087A	DFS4153W
DFS4088A	DSPM058I
DFS4089A	DSPM059I
DFS4090A	DSP1001I
DFS4091I	DSP1002I
DFS4092A	DSP1030I
DFS4094A	DSP1004I
DFS4095A	DSP1005I
DFS4096A	DSP1006I
DFS4097I	DSP1007I
DFS4098A	DSP1009I
DFS4099A	DSP1010I
DFS4100I	DSP1011I
DFS4101A	DSP1012I
DFS4102A	DSP1013I
DFS4103I	DSP1014I
DFS4104A	DSP1016I
DFS4105A	DSP1017I
DFS4106I	DSP1021I
DFS4107A	DSP1022I
DFS4108A	DSP1025I
DFS4109	DSP1027I
DFS4111I	DSP1028I
DFS4112A	DSP1029I
DFS4113I	DSP1030I
DFS4114A	DSP1032I
DFS4115I	DSP1035I
DFS4121I	DSP1036I
DFS4122A	DSP1037I
DFS4123I	DSP1038I
DFS4124I	DSP1042I
DFS4125I	DSP1043I
DFS4126I	DSP1044I
DFS4127A	

ELX メッセージ (TMS)		G メッセージ (SYSGEN)
ELX0001A	ELX0201W	
ELX0002A	ELX0202I	G1205
ELX0003A	ELX0203W	G1212
ELX0004A	ELX0204I	
ELX0005A	ELX0205I	
ELX0100A	ELX0209I	
ELX0101W	ELX0210A	
ELX0102W	ELX0211I	
ELX0103I	ELX0212A	
ELX0104A	ELX0213A	
ELX0105I	ELX600A	
ELX0106A	ELX1001E	
ELX0107I	ELX1002I	
ELX0108I	ELX1003W	
ELX0109I	ELX1004W	
ELX0111A	ELX1005W	
ELX0112I	ELX1010I	
ELX0113A	ELXC106I	
ELX0114I	ELXC109I	
ELX0115I	ELXC112A	
ELX0116A	ELXC160I	
ELX0118A	ELXC161I	
ELX0119I	ELXC162A	
ELX0120I	ELXC181I	
ELX0122I	ELXC315I	
ELX0128I		
ELX0129I		
ELX0130I		
ELX0150I		
ELX0170I		
ELX0171A		
ELX0181A		
ELX0183A		
ELX0184I		
ELX0185I		
ELX0187I		
ELX0188I		
ELX0189I		
ELX0200I		

第 2 章 IMS 問題判別

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

問題判別は、障害のあるモジュールまたはプログラムを特定し、示された問題の解決をユーザーまたは IBM のどちらかが担当するかを判別するための手順を使用して行われます。

本書内にリストされたメッセージおよびコードに、該当する場合は、問題判別情報が含まれています。ほとんどの場合、メッセージまたはコードの『問題判別』という見出しの後に、1つ以上の番号(例えば、「4、6」)が表示されています。これらの番号は、以下に示す、ユーザーが取る標準的な問題判別処置 リストの番号付き項目への相互参照です。

1. z/OS コンソールからコンソール・シートを保管します。
2. ジョブに関連する入力を保管します。
3. ジョブに関連する SYSOUT (システム出力) を保管します。
4. IMS 制御領域の障害時のストレージ・メモリー・ダンプを保管し、関連するすべてのメッセージ領域のメモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
5. IMS ログ印刷出力を保管します。
6. IMS マスター端末の印刷出力を保管します。
7. ローカルまたはリモート端末の印刷出力を保管します。
8. JCL リストを保管します。
9. ACB 生成の出力を保管します。
10. IMSGEN リストを保管します。
11. SYSABEND メモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
12. ユーザー修正の IMS モジュールのアセンブリー・リストを保管します。
13. バインド・マップを保管します。
14. LOG トレースを保管します。
15. 異常終了の直前に書き込まれたレコードで始まる IMS ログの印刷出力を保管します。
16. MFS 言語ユーティリティの実行の出力リストを保管します。
17. 次の問題に関連するデータを収集します。
 - a. バッチで実行している場合、システム・メモリー・ダンプ。
 - b. オンラインで実行している場合、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FF' (疑似異常終了) を印刷します。これらのレコードを印刷するには、ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用します。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。
 - c. 障害のあった呼び出しの前後で、SNAP ステートメントを指定した DL/I テスト・プログラム (DFSDDLTO) を実行します。
 - d. 障害に関連した PSB および DBD のリストまたはステートメント (あるいは両方) を保管します。
 - e. ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FE' (プログラム分離トレース) のメモリー・ダンプを作成します。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用して、レコードを印刷します。ログを作成するときに、プログラム分離トレースを使用可能にする必要があります。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA40 を指定する必要があります。
 - f. オンラインの場合、オンライン領域のログからのスナップ。
 - g. データベースのバックアウト、リカバリー、および再編成のアクティビティの履歴。
18. 関連する DBD のアセンブリー・リストを保管します。
19. 関連する PSB のアセンブリー・リストを保管します。
20. 障害時の関連データ・セットの VSAM カタログ項目のリストを保管します。

21. 将来の利用のために予約済み。
22. 将来の利用のために予約済み。
23. IBM に連絡して、ハードウェア・サポートを要求します。
24. IMS ログから 3270 診断エラー・ログ・レコード (レコード・タイプ X'67': サブレコード・タイプ X'03') のメモリー・ダンプを作成します。
25. IMS ログのコピーを実行します。
26. スクラッチパッド域の SPACCB フィールド、または CTBCCBPT フィールドから、関連する CCB を判別します。関連する (a) ソースと出力 CNT、および (b) 回線と PTERM (CTB) を判別します。
ログ・レコード 01、02、03、07、08、11、12、および 13 から、会話の状況を判別します。
 - a. メッセージは準備できたが、アプリケーションがスケジュールされませんでした。01 宛先は会話型 SMB です。
 - b. アプリケーションがスケジュールされ、08 レコードが生成されました。
 - c. アプリケーションが、会話型端末にセグメントを挿入しました。メッセージの宛先が CNT の場合、03 および 13 レコードが生成されます。
 - d. アプリケーションが、会話型プログラムにセグメントを挿入しました。SPA は、03 レコード内のメッセージの最初のセグメントです。
 - e. アプリケーションは正常に終了したか、または異常終了しました。07 レコードに、会話型アプリケーションの完了コードが入っています。DLRFLAG2 エリア (07 ログ・レコードの最終ワード) に、同期点情報が入っています。
 - f. 12 レコードは、会話が終了したことを示します。
 - g. コマンド **/EX1**、**/HOLD**、**/REL**、または **/START LINE** (PTERM なし) に対して生成された 02 レコードが、会話中の端末に影響を与えたかどうかを判別します。
 - h. IMS の再始動が会話に影響を与えますか? 詳しくは、再始動への入力ログおよび再始動からの出力ログを参照してください。
27. z/OS ハードコピー・メッセージ・ログ出力を保管します。
28. 通常操作中に、このシステムが接続されている他のシステム内で作動している z/OS および IRLM の状況を判別します。
29. 障害時に生成された IRLM アドレス・スペース・ダンプを保管します。
30. IRLM 障害の近辺の時間に障害のあった IMS オンラインまたはバッチのアドレス・スペースのメモリー・ダンプを保管します。IMS メモリー・ダンプに関連する IMS の問題判別手順に従ってください。IMS 障害は、IRLM 障害に関連している可能性があります。
31. IRLM 始動プロシージャ JCL のリストを保管します。
32. IRLM をインストールするために実行された IMSGEN のリストを保管します。
33. IRLM をインストールするために実行された VTAM® 定義のリストを保管します。
34. 障害時のアクティビティを示すために使用可能であれば、GTF トレース出力を保管します。
35. 問題を解決するためにさらに支援が必要であれば、次のマニュアルを参照してください。
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード
 - IMS Version 15 Diagnosisすべての入力 that 正確かどうかを調べ、すべてのメモリー・ダンプを分析します。
それでも問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。
36. 問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。
37. タイプ X'02' ログ・レコードのコピーを実行依頼します。

38. CCTL SNAP または SDUMP データ・セットを保管します。
39. DBRC RECON のリストを保管します。
40. SVC メモリー・ダンプを取得し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

第3章 IMS 異常終了コード

IMS モジュールが異常終了すると、IMS 異常終了コードが発行されます。IMS 異常終了は、ユーザー異常終了です。

IMS 異常終了が発生した場合、コードを使用して以下のことを行います。

- 問題を解決するために必要な文書を定義する
- エラーの原因を特定するのに役立つ可能性がある条件 (レジスターの内容、ビットの設定) を識別する
- IMS 問題定義ステートメントの標準化を可能にする

IMS 異常終了コードの記述は、障害が発生したときにアクティブであった機能から障害のあるサブルーチンを特定するのに役立ちます。

問題のある症状を提供するこの情報は、IBM 早期警告システム (EWS) および RETAIN に利用することができます。障害の診断時には、異常終了コードの情報を使用して、障害が起きたコード単位を素早く確認することができます。例えば、テーブルの情報を使用して、エラー条件を検出して異常終了を発行したモジュールとそのモジュール内のコード単位のラベルを識別することにより、その異常終了 (アベンド) を固有に定義することができます。

トラブルシューティングによって問題を解決できない場合、あるいは IMS 内部エラーが発生した場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

IMS 異常終了

異常終了する IMS モジュールは、IMS 異常終了コードを発行します。

IMS モジュールは、エラーを検出すると、次の2つの方法のいずれかで終了します。

- 標準異常終了 (アベンド)
- 疑似異常終了

各異常終了は、4桁のコード (例えば、0123) で識別されます。これらの異常終了は、ユーザー異常終了とも呼ばれます。通常は、サービス情報内に ABENDUxxxx 形式で示されますが、ときには短縮形式で Uxxxx のように表示されることもあります (例えば、ABENDU0123 と U0123 のように)。

これらのトピックを使用して、DB/DC 環境および DBCTL 環境で発生した IMS 問題を診断してください。また、表を活用して、DL/I データベースのバッチ処理で発生した問題を効率的に定義することもできます。IMS 問題を定義するために必要な文書は、次のとおりです。

- システム (SYSABEND) またはユーザー (SYSUDUMP) ダンプ、または DFSERA30 定様式ログ印刷。
- エラー条件を検出したアセンブル済みモジュールのリスト、およびエラーを検出したモジュールに関連したモジュールのリスト。
- エラーを検出したモジュールによって使用されたデータ域のリスト。このデータ域を入手するには、最初に、エラーを検出したソースから PRINT NOGEN ステートメントを削除し、次に、エラーを検出したモジュールを指定して IDLI マクロをアセンブルします。

標準異常終了

標準異常終了コードは、エラーが検出された時点でマクロによって発行されるか、またはコードを発行するサブルーチンに分岐することにより発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) に (これは、ダンプ内に示されます)、異常終了マクロを発行したモジュール内の命令のアドレスが入っています。

疑似異常終了

IMS モジュールは問題を検出すると、疑似異常終了を発行できます。疑似異常終了により、従属領域内のアプリケーションは終了しますが、領域は終了しません。疑似異常終了が発生した場合、エラー条件を検出したモジュールは、異常終了マクロを発行しません。

代わりに、呼び出しアナライザー・モジュール DFSDLA00 に制御ブロックを渡し、これが従属領域の異常終了を示します。呼び出しアナライザー・モジュールは DFSERA20 を呼び出して、重要な制御ブロックの内容をシステム・ログに書き込むか、メモリー・ダンプを作成するかを判別します。

異常終了時に、プログラム状況ワード (PSW) には、エラーを検出したモジュールではなく、要求処理プログラム・モジュールのアドレスが入ります。バッチ領域の場合、要求処理プログラム・モジュールは DFSPR000 です。オンライン領域の場合、モジュールは DFSPROX0 (DFSISIO0 のサブルーチン) です。オンライン領域が終了するのか、バッチ領域が終了するのかに応じて、2つのタイプのいずれかのダンプが生成されます。

DB/DC または DBCTL 環境で、制御領域を終了する必要がない場合は、従属領域のみがダンプされます。疑似異常終了でダンプが発行されないときは、ログから制御ブロックを印刷してください。ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSERA10) に、該当する OPTION ステートメントを渡して、以下を行います。

- 該当するシステム・ログ・データ・セット (SLDS) から X'67FF' レコードを選択する。
- レコード・フォーマットおよび印刷モジュール (DFSERA30) 出口ルーチンを呼び出して、制御ブロックをフォーマットして印刷する。

ただし、バッチ環境では、バッチ領域が終了し、SYSABEND ダンプが印刷されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、プログラム要求ハンドラー・モジュール DFSPR000 を示しています。これらのトピックの情報を使用して、障害時のプログラム・レジスターの内容を検索する手順を理解してください。プログラム・レジスターの内容の検索は、障害の原因をさらに詳しく調べるために必要です。



重要: DL/I 内のエラーの結果出される異常終了コードを適切に診断するには、DL/I 呼び出しトレースがアクティブであることが必要です。

入力メッセージのスケジュールを変更する可能性がある疑似異常終了

以下の異常終了により、通常の異常終了処理の一環としてスケジューリングのために入力メッセージが再キューイングされる場合があります。

- 0128
- 0129
- 0777
- 0778
- 0804
- 0830
- 2478
- 2479
- 3303
- 3048
- 3049
- 3051
- 3053
- 3057

通常の異常終了処理を無効にするためには、廃棄不能メッセージ出口ルーチン (DFSNDMX0) を使用します。

関連概念

[DL/I トレース \(診断\)](#)

関連資料

NDMX: 廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 (DFSNDMX0 およびその他の NDMX 出口) (出口ルーチン)

マルチモジュール異常終了

マルチモジュール異常終了は、複数のモジュールによって発行される IMS 異常終了です。

マルチノード異常終了は、1つのモジュールによって発行される異常終了とは異なるフォーマットを使用します。各異常終了の『分析』セクションで、発行元のモジュールを指定し、障害のあるモジュール内のラベルを特定しています。

IMS 異常終了に関する情報の入手

この資料では、異常終了の原因、原因を判別する方法、および問題を修正するため取る処置について説明します。

多くの異常終了コードの情報には、詳細を示した障害分析表が含まれており、特定の問題を診断するのに役立ちます。

以下に、IMS 異常終了コードに関する情報の例を示します。

9999 (サンプル異常終了コード)

説明

このセクションでは、異常終了の原因となったイベントについて説明します。

分析

『分析』セクションには、問題の原因を診断するための情報が入っています。情報には通常、障害が起きたモジュールの汎用レジスターの使用法、障害が起きる前の一般的な制御フロー、および関係のある制御ブロックの名前が含まれます。このセクションの情報を発行元モジュールによって分けると、具体的な問題を特定するのに役立ちます。

この情報には、戻りコードまたは理由コードのリストおよび障害分析表が含まれている場合があります。以下に、障害分析表の例を示します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10'	ABNDXXX	具体的な問題を特定するのに役立つ情報

考えられる原因: このタイプの障害の原因になる可能性がある状態。

APAR 処理の場合: この特定の異常終了に関する APAR を完成させるために必要な追加資料。

システムの処置

『システム処置』セクションでは、異常終了の結果としてのシステムの状況を説明しています。

オペレーターの応答

『オペレーター応答』セクションには、異常終了に対応してシステム・オペレーターが取る必要がある処置が示されています。

プログラマーの応答

『プログラマー応答』セクションには、異常終了に対応してプログラマーまたはシステム・プログラマーが取る必要がある処置が示されています。

問題判別

『問題判別』セクションでは、問題を特定し、文書化するために取るステップについての情報を提供します。このセクションの番号は、[11 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』](#)に指定された問題判別処置のリストを参照しています。

ソース

このセクションでは、異常終了を発行するコンポーネントを示しています。

モジュール

このセクションは、異常終了を発行するモジュールをリストしています。

障害分析表

IMS 異常終了コードに関する情報には、障害の原因を診断するために役立つ表が含まれています。これは、障害分析表と呼ばれます。

それぞれの表は「キー」、「ラベル」、「説明」の 3 つの列から成り、以下の情報が含まれています。

キー

エラーを単一の原因に切り分けるために使用できるキー条件。

この列は、異常終了への入り口における重要なレジスターの内容を記述しています。場合によっては、具体的な情報が得られないことがあります (例えば、レジスターの内容が保管されなかったり、オーバーレイされた場合)。そのような場合は、表の「キー」部分はブランクです。

ラベル

エラーを検出したルーチンのラベル。このルーチンは、必ずしも異常終了を発行したルーチンとは限りません。

説明

このルーチンの機能の概要と、障害の原因についての指示。

定様式ダンプ

IMS ダンプの全体、あるいは問題を分析するために必要な制御ブロックおよびデータ域のみを、フォーマット設定および印刷するには、IMS ダンプ・フォーマッターまたは IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターを使用してください。

対話式フォーマッターおよびオフライン・フォーマッターが推奨される方式ですが、オンラインでダンプをフォーマットすることも可能です。IMS ダンプ・フォーマッターおよび IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターについての詳細は、以下の資料を参照してください。

- *IMS V15 システム 定義*
- *IMS Version 15 Diagnosis*

IMS 異常終了の検索および通知

IMS 異常終了検索および通知機能を使用すると、E メール・アドレスにメッセージを送信して、異常終了の発生を通知し、異常終了に関する追加情報を提供することができます。

異常終了についての詳しい情報は、IMS 製品資料、IBM 技術サポート・データベースの技術情報、および予防サービス計画 (PSP) データベースの情報からも入手できます。IMS 異常終了検索および通知機能のセットアップおよび使用については、IMS 診断情報を参照してください。

第4章 システム異常終了コード

このトピックでは、以下のシステム異常終了コードについて説明します。

AC6

説明

IMS は、1 つの z/OS タスクを別の z/OS タスクから強制的に終了させるときに、この z/OS 異常終了コードを使用します。これが発生するのは、次の 3 つの状態の場合です。

- システム内の異常終了のために、ESTAE ルーチンが制御を得ました。この終了タスクは、ログ・バッファをページしようとする前に、物理ログ・タスク (バッファの所有者) にその意図を通知します。終了タスクが 1 秒以内に応答を受け取らない場合、物理ログ・タスクはこの異常終了で終了します。いずれの場合も、ログ・バッファはページされます。
- 分離ログ・セクター (ILS) のこのインスタンスに必要な DBRC インスタンスが終了しました。異常終了した DBRC に従属する残りのすべての ILS インスタンスは、この異常終了コードおよび理由コード X'01' で終了するまでその DBRC を待機します。
- 以下のいずれかの状態が発生した場合、SLDS 読み取りは、この異常終了コードと理由コード X'02' を出して、OPEN/CLOSE サブタスクを強制的に終了することがあります。
 - /STOP SLDSREAD コマンドが入力されました

- SYSZTIOT リソースに対する競合が検出されました
- 補助記憶域不足が検出されました

ソース:

IMS システム異常終了

モジュール:

DFSFDLFO、DFSFDLGO、DFSIL220

Fnn

説明

z/OS が、IMS™ タイプ 2 SVC または DBRC タイプ 4 SVC のインストールが正しくないことを検出しました。この異常終了コードの末尾 2 桁 nn は、16 進数での IMS SVC 番号です。例えば、異常終了コード SFE1 は、システムが SVC X'E1' (つまり SVC 225) を処理しているときにエラーが発生したことを意味します。

プログラマーの応答:

インストール・エラーを訂正してください。IMS™ タイプ 2 SVC または DBRC タイプ 4 SVC のインストールについて詳しくは、IMS のための z/OS インターフェースに関する考慮事項 (システム管理) を参照してください。

ソース:

監視プログラム制御

第 5 章 IMS 異常終了コード 0000 - 0050

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。ほとんどのコードは、4 桁の 10 進数です。

0002

説明

IMS 制御領域が異常終了すると、アクティブな従属領域がこの異常終了を強制されます。この異常終了は、制御領域の通常シャットダウン後に新たに従属領域を開始しようとした場合にも発生します。

分析

これは、従属領域を異常終了させるためにモジュール DFSV4100 によってスケジュールされる疑似異常終了です。

システムの処置

従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答

IMS 再始動手順に従います。

問題判別

ありません。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSV4100

0005

説明

IMS 再始動で、入力オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) をクローズ (終了) することができませんでした。詳しい説明については、メッセージ DFS0738I および DFS0738X を参照してください。

分析

異常終了 0005 は、DFSFDLW0 によって検出され、DFSFDLY0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSFDLW0 は、最後の IMS 障害時にオンライン・データ・セット (OLDS) に書き込まれなかったログ・データのブロックを再作成します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了スーパーバイザー 要求ブロック (SVRB) レジスターのレジスター 9 に、DFSFDLW0 で使用された作業域のアドレスが入っています。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	説明
Reg15=X'01' RLWABC=X'01' PDCB、SDCB	先行書き込みデータ・セット (WADS) の OPEN が失敗しました。PDCB は 1 次 WADS DCB です。重複 WADS が使用されている場合、SDCB は 2 次 WADS DCB です。
Reg15=X'02' RLWABC=X'02'	WADS は、OLDS が使用されたときには使用されないものでした。
Reg15=X'03' RLWABC=X'03'	WADS の読み取り中に、入出力エラーが検出されました。
Reg15=X'04' RLWABC=X'04'	WADS レコードの連結時にログ・シーケンス・エラーが検出されました。
Reg15=X'06' RLWABC=X'06'	WADS レコードの欠落問題が検出されました。前のレコードはさらにレコードが存在することを示していますが、ファイルの終わりが検出されました。
Reg15=X'07' RLWABC=X'07'	WADS の 1 つのトラック・グループを構成するトラックの数が不十分であるか、TRKCALC 障害がありました。
Reg15=X'08' RLWABC=X'08'	長さエラーが検出されました。 <ul style="list-style-type: none">レコード長が予測されていたのに、ゼロが検出されました。最後のブロック内にタイプ 48 レコード用の十分な余裕がありませんでした。

キー	説明
Reg15=X'09' RLWABC=X'09' RLWP.PABLKCNT	ログ・シーケンス番号が再作成ブロックの間で欠落しています。WADS データは OLDS データ (RLWP.PABLKCNT) より大きいブロック・シーケンス番号を持っていましたが、シーケンス番号が連続していないか、クロック値がシーケンス番号と異なる順序になっていました。
Reg15=X'B' RLWABC=X'B'	トラック・グループに、複数の非残余ブロックからのセグメントが含まれていました。
Reg15=X'C' RLWABC=X'C' RLWPBA	RLWPBA が指し示す再作成ブロックに含まれるブロック記述子のブロック・サイズが、OLDS ブロック・サイズに一致していません。
Reg15=X'D' RLWABC=X'D' RLWPBA	RLWPBA で指し示された再作成ブロックで、無効なレコード長が検出されました。
Reg15=X'E' RLWABC=X'E' RLWPBA	負のレコード長が検出されました。負のレコード長は、RLWPBA で指し示された不完全なブロックのデータの終わりを示します。負のレコード長が見つかった不完全なブロックが、最後のブロックではありません。
Reg15=X'F' RLWABC=X'F' RLWPBA	RLWPBA で指し示された再作成ブロックで、ログ・レコード・シーケンス・エラーが検出されました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

ログ・リカバリー・ユーティリティを使用して、ログをクローズ (終了) します。

問題判別

1、5、8、11、35、40

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFDLY0

関連情報

[DFS0738I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS0738X \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

006

説明

ライセンス・マネージャーが、DB フィーチャーまたは TM フィーチャーのいずれかの証明書を検出しませんでした。メッセージ DFS2930I を参照して、どちらの (または両方の機能) 証明書を持っていないかを判別してください。

システムの処置

異常終了を出した領域が終了します。

プログラマーの応答

必要な証明書を LM に追加するか、または LM モードを変更して、証明書が存在しない場合でも要求が許可されるようにします。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール

DFSXSTM0

0008

説明

領域用に指定されたストレージの量が、PROCLIB メンバー・データを入れるためのテーブルを作成するのに不十分です。このため、IMS は、初期設定に必要な情報を獲得できません。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0610W に、TABLE 名および追加情報が示されています。

分析

この標準異常終了は、DFSXRPS0 によって発行されます。モジュールは、IMODULE GETMAIN マクロを発行して、ストレージを取得しようとしていました。IMODULE GETMAIN によって、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

ヘッダー・テーブルを作成する IMODULE GETMAIN ルーチンが IMS システム・サービスからゼロ以外の戻りコードを受け取ったため、メッセージ **DFS0610W - GETMAIN FAILED FOR TABLE = DFSXRPS0** が発行されています。

DD 名テーブルを作成する IMODULE GETMAIN ルーチンが IMS システム・サービスからゼロ以外の戻りコードを受け取ったため、メッセージ **DFS0610W -**

GETMAIN FAILED FOR TABLE = PROCLIB が発行されています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

領域サイズを増やして、IMS を再試行します。

プログラマーの応答

領域サイズを増やします。

問題判別

1、3、6、8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSXRPS0、DFSPMBR0、DFSRED20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0009

説明

データ・セットの OPEN が失敗しました。この失敗により、イムスは初期設定に必要な情報を取得できません。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0597W は、DDNAME=xxxxxxx でデータ・セット名を識別し、追加情報を提供します。

分析

この異常終了は、DFSXRPS0、DFSIILD0、および DFSRED20 によって発行される標準異常終了です。これらのモジュールはデータ・セットをオープンしようとしたが、z/OS システム OPEN コマンドが失敗しました。最も一般的な問題は、DD ステートメントが欠落していることです。DFSXRPS0、DFSIILD0、および DFSRED20 の場合、レジスター 6 には DCB アドレス DCBOFLGS が入っています。

モジュール	キー	ラベル	解説
DFSXRPS0、 DFSIILD0	Reg6=DC B	オープン チャ ック	データ・セットをオープンするルーチンは、DCB がオープンされたことを示す標

モジュール	キー	ラベル	解説
デュプレ ッド 20			識を受け取りませんでした。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

DFS0597W を参照してください。DDNAME xxxxxxxx データ・セットを確認してください。

問題判別:

1, 3, 6, 8

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSXRPS0、DFSIILD0、DFSRED20

関連情報

[DFS0597W \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0010

説明

データ・セットのレコード・フォーマットが無効のため、データ・セットを処理できません。この状態のため、IMS は、初期設定に必要な情報を獲得できません。次のいずれかの理由で、異常終了が発生しました。

- データ・セットのレコード・フォーマットが無効である。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0604W に、DDNAME xxxxxxxx および追加情報が示されています。
- データ・セットのフォーマットが無効であることを示すために、システムがメッセージ DFS0604W を戻した。レコード・フォーマットは固定または固定ブロックである必要があります。このメッセージを初期設定中に受け取った場合、システムは必要な情報を受け取っていない可能性があります。このメッセージを MFS DCT ユーティリティから受け取った場合、記述子メンバーが使用不可であり、ユーティリティは戻りコード 4 で終了しました。

この異常終了は、非 Java 従属領域 (MPP、BMP、IFP 領域) でも発生する可能性があります。

分析

この異常終了は、DFSXRPS0、DFSIILD0、および DFSRED20 によって発行される標準異常終了です。こ

これらのモジュールは、データ・セットの RECFM=F または RECFM=FB パラメーターを検査します。DCBRECFM フィールドを調べて、レコード・フォーマットを確認してください。JCL が正しい PROCLIB データ・セットを指すようにしてください。DFSXRPS0、DFSIILD0、および DFSRED20 の場合、レジスター 6 に DCB アドレス DCBRECFM が入っています。

モジュール	キー	ラベル	説明
DFSXRPS0	Reg6=DCB	XRCFME RR	DCB レコード・フォーマットの妥当性検査に使用されるルーチンは、DCBRECFM = X'80' を予期します。
DFSIILD0	Reg6=DCB	XRCFME RR	DCB レコード・フォーマットの妥当性検査に使用されるルーチンは、DCBRECFM = X'80' を予期します。
DFSRED20	Reg6=DCB	RECFME RR	DCB レコード・フォーマットの妥当性検査に使用されるルーチンは、DCBRECFM = X'80' を予期します。

DFSRRRC10、DFSRRRC40 の場合:

この異常終了は、DFSRRRC10、DFSRRRC40 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'4'		必要な JVMOPMAS=member が指定されていません。
Reg15=X'6'		BPX1SDD が失敗しました。
Reg3=BPX1SDD 戻りコード Reg4=BPX1SDD 理由コード		

DFSPCC20 の場合:

この異常終了は、DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1'		言語環境エンクレープを作成できません (CEEPIPI エラー)
Reg3=CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'2'		JVM を作成できません。
Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'3'		JVM はアプリケーションを開始できません (CEEPIPI エラー)。
Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'5'		項目を追加できません (CEEPIPI エラー)。
Reg3=考えられ		

キー	ラベル	説明
る CEEPIPI 戻りコード		

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS0604W を参照してください。DDNAME xxxxxxxx によって識別されたデータ・セットが RECFM=F または RECFM=FB を持つようにします。

問題判別:

1、3、6、8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXRPS0、DFSIILD0、DFSRED20、DFSRRRC10、DFSRRRC40

関連情報

[DFS0604W \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0011

説明

WRITE 割り込みを処理するために、システム・コンソールの装置依存モジュール・エンタリー・ポイントに入る試みが行われました。WRITE 割り込みを処理するために、モジュール DFSICIO0 によって、システム・コンソールの装置モジュール DFSDNSCO が呼び出されました。このエンタリー・ポイントは存在しません。

分析

これは、システム・コンソールの通信装置モジュール DFSDNSCO によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。異常終了時のレジスター 14 に、通信アナライザー (DFSICIO0) からの無効なエンタリー・ベクトル値が入っています。このコードは、条件を処理するためのブランチ・テーブルへの指標として使用されます。

通信アナライザー DFSICIO0 は、ラベル OUTINT で装置依存のモジュール・エンタリー 2 (WRITE INTERRUPT) を呼び出します。このルーチンは、レジスター 14 にエンタリー・ベクトル値を入れます。

DFSDNSCO が受け入れるレジスター 14 の有効な内容は、以下のものに限られます。

コード

コード (16 進数)

X'00'

WRITE SETUP の場合

X'08'

READ SETUP の場合

X'0C'

READ INTERRUPT の場合

X'04' または X'10' は、異常終了への分岐の原因となります。

キー	ラベル	説明
Reg6=WTOR dsect のアドレス Reg14=X'04' または X'10' Reg1=異常終了 完了コード、 X'8000000B'	DENTRY	このルーチンは、レジスター 14 で無効なエントリ・ベクトル値 (X'04' または X'10' のいずれか) を検出し、終了するためにラベル ABEND に分岐します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

CSECT DFSICIO0 がユーザーにより変更されていないこと、および CSECT DFSDNSCO に分岐する他の変更が行われていないことを確認します。

問題判別

1、2、3、4、5、11、12、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSDNSCO

0012

説明

ブロック・サイズが無効のため、データ・セットを処理できません。このため、IMS は、初期設定に必要な情報を獲得できません。システムは、次のいずれかの理由で異常終了しました。

- データ・セットのブロック・サイズが無効である。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0605W

に、DDNAME xxxxxxxx および追加情報が示されています。

- DDNAME データ・セットのブロック・サイズが無効であることを示すメッセージ DFS0605W が戻された。このメッセージが初期設定中に戻された場合、システムは必要な情報を受け取っていない可能性があります。このメッセージを MFS DCT ユーティリティから受け取った場合、ユーティリティは戻りコード 4 で終了しました。

分析

これは、DFSXRPS0、DFSIILO0、および DFSRED20 によって発行される標準異常終了です。これらのモジュールは、DCBBLKSI フィールドが 80 の倍数であることを検査します。DCBBLKSI フィールドを調べて、ブロック・サイズを確認してください。JCL が正しい PROCLIB データ・セットを指すようにしてください。DFSXRPS0、DFSIILO0、および DFSRED20 の場合、レジスター 6 に DCB アドレスが入っています。DFSXRPS0 の場合、レジスター 9 に DCBBLKSI 値が入り、レジスター 8 に剰余が入っています。DFSIILO0 および DFSRED20 の場合、レジスター 5 に DCBBLKSI 値が入り、レジスター 4 に剰余が入っています。

Module	キー	ラベル	説明
DFSXRPS0	Reg6=DCB アドレス Reg9= DCBBLKSI Reg8= 剰余	XBLKE RR	DCB ブロック・サイズを妥当性検査するルーチンは、ブロック・サイズが 80 の倍数であることを予期します。
DFSIILO0	Reg6=DCB アドレス Reg5= DCBBLKSI Reg4= 剰余	BLKSZ ERR	DCB ブロック・サイズを妥当性検査するルーチンは、ブロック・サイズが 80 の倍数であることを予期します。
DFSRED20	Reg6=DCB アドレス Reg5= DCBBLKSI Reg4= 剰余	XBLKE RR	DCB ブロック・サイズを妥当性検査するルーチンは、ブロック・サイズが 80 の倍数であることを予期します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

DFS0605W を参照してください。DDNAME xxxxxxxx のブロック・サイズを 80 の倍数にします。

問題判別

1、3、6、8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSXRPS0、DFSIILD0、DFSRED20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0013

説明

IMS が、次のいずれかの理由で異常終了しました。

- IMS が IMS バッチ用のシステム・ログをオープンできなかった。Reg 15 = 1。
- 出力システム・ログ・データ・セット (SLDS) IEFORDER/2 が、拡張フォーマット・データ・セットに割り振られている。Reg 15 = 2。
- マクロ ISITMGD から、ゼロ以外の戻りコードが戻された。Reg 15 = 3。

分析

0013 は、DFSFDLS0 によって発行できる標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、モジュールのこのエントリ (DFSFDLS1) の基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、1 次ログ・データ・セットをオープンできないことが検出されたアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=A (DCB) DCBOFLGS	OPNB01 00	1 次 DCB に対して OPEN (SVC 19) が発行されています。その DCB の DCBOFLGS フィールドを

キー	ラベル	説明
-= X'10'		テストして、OPEN が成功したかどうかを判別します。成功していなかった場合、この異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この問題に対する応答は、次のように、レジスター 15 の値に依存します。

- Reg 15 = 1 の場合は、IEFRDER に DD ステートメントを含め、それを正しく指定したことを確認します。次に、ジョブを再実行依頼してください。
- Reg 15 = 2 の場合は、出力 SLDS (IEFRDER/2) を SMS 以外のストライプ・データ・セットに再割り振りします。
- Reg 15 = 3 の場合は、レジスター 15 の ISITMGD 戻りコードを確認します。ISITMGD 戻りコードについて詳しくは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFDLS0

関連資料

[z/OS: ISITMGD の完了コード](#)

0014

説明

イムシステム・ロガーが、無効なログ呼び出しを受信しました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

分析

DFSLLGO の場合:

これは、論理ログ書き込み機能 DFSLLGO によって発行される可能性がある標準異常終了です。発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル LOGABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11、レジスター 10、およびレジスター 9 には、それぞれシステム目録ディレクトリー (SCD)、ログ制御ディレクトリー (LCD)、および DECB のアドレスが入っています。レジ

スター 15 に、この異常終了の理由コードが入っています。

コード (16 進数)
説明

X'04'

レコード長が無効です

X'08'

無効なパラメーター

X'0C'

無効な要求

X'10'

ラッチが既に保持されているときに、ラッチが要求

X'14'

ラッチが所有されていないときに要求されたラッチ・リリース

X'20'

誤った通知コード

X'24'

使用可能な保管域はこれ以上

さらに、保管域トレースには、イムス ロガーを呼び出したモジュールが表示されます。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04' Reg5=長さ 又は Reg6=A(D FSPRMLL)	LLRE T4	ログ・レコードをバッファに転送するためのルーチンでは、レコード長が5バイト未満であるか、ログ BLKSIZE よりも大きくなっています。ログ・パラメーター・リストが渡されると (DFSPRMLL)、レコード長は正ではなく、呼び出し元が出口ルーチンを指定していません。
Reg15=X'08' Reg9=A(D ECB) Reg6=(DF SPRMLL)	LLRE T8	DECBC に渡されたパラメーターが無効でした。以下のいずれかの条件が存在します。機能コードが無効です。レコード・ポインターがない、DFSPRMLL 内の AWE ポインターがない、DFSPRMLL 内の要求フラグの無効な組み合わせ、出口ルーチンからの無効な戻りコード、またはトップ・セグメントの長さが4よりも小さい。
Reg15=X'0C' Reg9=A(D ECB) Reg10=A(L CD)	LLRE T12 年	このモジュールのエントリー・ポイントで、未定義の機能が要求されたか、またはログがオープンされませんでした。再始動時に、この呼び出しの前に必要なセットアップが行われませんでした。リリース・ログ・ラッチのルーチンでは、呼び出し側がラッチの所有者ではありませんでした。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'20'	LLRE T32C	論理ロガーは、物理ロガーからのポストを待っていました。イベント制御ブロック (ECB) が、無効なポスト・コード値を使用して通知されました。
Reg15=X'24'	レ TER M	続行するには、別の保管域が必要です。順方向保管域ポインターは0です。これは、これ以上使用可能な保管域がないことを示します。

DFSCMS00 の場合 :

複数システム結合機能 (MSC) アナライザーは、X'64F2' ログ・レコードをログに記録するために、ロガーに呼び出しを発行しました。ログ・レコード・サイズが入力バッファを超えています。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04' Reg9=A(DEC B)		ログ・レコードの長さが無効です。

システムの処置

イムスは異常終了する。

オペレーターの応答

ログ・データ・セットを保管する。イムスシステム・プログラマーに連絡して再始動してください。

プログラマーの応答

ユーザーはイムスを緊急再始動できます。保管域トレースは、無効な要求を持つロガーを呼び出した人を示しています。

APAR 処理の場合 : 保管域トレースを使用して、ログおよびシステム・ダンプのコピーを組み込みます。

問題判別:

1, 4, 5, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSFLG0、DFSCMS00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0015

説明

データ・セット内に、必要なメンバーがありません。このため、IMS は、初期設定に必要な情報を獲得できません。メッセージ DFS0579W、DFS0596W、DFS3652X、または DFS3659X により、見つからなかったメンバーの名前が識別され、さらに追加情報が示されます。

終了の理由は、以下のとおりです。

DFS3652X

システム初期設定が、PROCLIB という DD 名のライブラリーから必要な動的端末記述子または動的ユーザー記述子を見つけることができません。システム初期設定では、DYNT=YES が要求された場合、少なくとも 1 つの有効なログオン記述子と、1 つの有効なユーザー記述子が必要です。DFSDSCTy (y は DSCT=EXEC パラメーターで指定) も、DFSDSCMy (y は SUF=EXEC パラメーターで指定される中核接尾部) も IMS.PROCLIB 内で見付からなかったか、あるいは少なくとも 1 つの有効なログオン記述子および 1 つの有効なユーザー記述子を含んでいませんでした。

DFS3659X

システム初期設定が、IMSVS.PROCLIB メンバーから記述子名について記述子レコードを読み取り中に入出力エラーを受け取りました。

分析

これは、DFSXRPS0、DFSIIILD0、および DFSRED20 によって発行される標準異常終了です。これらのモジュールは、IMS によって必要とされるメンバーを検査します。JCL が正しい PROCLIB データ・セットを指すようにしてください。DFSXRPS0、DFSIIILD0、および DFSRED20 の場合、レジスター 6 に DCB アドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'08' Reg6=DCB	XOPVSM NM	メンバーを妥当性検査するルーチンが、必要なメンバーを検出できませんでした。
アドレス Reg2=		
メンバー・		
アドレス		

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS0579W、DFS0596W、DFS0671W、DFS3652X、および DFS3659X を参照してください。

問題判別:

1、3、6、8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXRPS0、DFSIIILD0、DFSRED20

関連情報

[DFS0579W \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS0596W \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS0671W \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS3652X \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS3659X \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0016

説明

IMS システムは、次のいずれかの理由で異常終了しました。

- VTAM 制御ブロックのハッシュ・テーブルに必要なストレージ (IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0) の要求が失敗した。メッセージ DFS1996 の送信後に DFSIINVO によって発行されます。R3 = ストレージ要求の長さ。R5 = IMODULE 戻りコード。
- VTAM 制御ブロック (DFSCLVyx) を初期設定できなかった (y は 0 から 9 または A から F の値、x は IMS 中核接尾部)。異常終了は、メッセージ DFS1998 の送信後に DFSIINVO によって発行されます。
- 次のいずれかが発生しました。
 - VTAM 制御ブロック・モジュールをロードできなかった。異常終了は、メッセージ DFS1999 の送信後に DFSIINVO によって発行されます。R5 = IMODULE 戻りコード。
 - すべての VTAM 制御ブロック・モジュールを IMS 制御領域の拡張専用域にロードできなかった。メッセージ DFS1999 の送信後に DFSIINVO によって発行されます。R5=8。
- CNT/LNB/RCNT、SPQB、または CCB の各制御ブロックのハッシュ・テーブル用に必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0 内のストレージに対する要求が失敗した。メッセージ DFS1992 の送信後に

DFSIIINU0 によって発行されます。R3 = ストレージ要求の長さ。R5 = IMODULE 戻りコード。

- CCB 制御ブロックのビットマップに必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0 内のストレージに対する要求が失敗した。異常終了は、メッセージ DFS1992 の送信後に DFSIIINU0 によって発行され、R3 = ストレージ要求の長さ、R5 = IMODULE 戻りコードです。
- LQB/RCNT 制御ブロック・モジュール (DFSCLCms、DFSCLSms、DFSCLRms、DFSCLIDs、ここで m は 0 から 9 または A から F の値、s は IMS 中核接尾部) を初期設定できなかった。異常終了は、メッセージ DFS1990 の送信後に DFSIINVO によって発行されます。
- LQB/RCNT 制御ブロック・モジュール (DFSCLCms、DFSCLSms、DFSCLRms、DFSCLIDs。ここで、m は 0 から 9 または A から F の値、s は IMS 中核接尾部) をロードできなかった。異常終了は、メッセージ DFS1991 の送信後に DFSIINVO によって発行され、R5 = IMODULE 戻りコードです。
- 一時的構造を作成するための、作業域用またはシステム・ログオン記述子とユーザー記述子用に必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0 内のストレージに対する要求が失敗した。異常終了は、メッセージ DFS1993 の送信後に DFSIILDO によって発行され、R3 = ストレージ要求の長さ、R5 = IMODULE 戻りコードです。
- ログオン記述子およびユーザー記述子用のハッシュ・テーブル用に必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 0 内のストレージに対する要求が失敗した。異常終了は、メッセージ DFS1993 の送信後に DFSIILDO によって発行され、R4 = ストレージ要求の長さ、R5 = IMODULE 戻りコードです。
- VTAM 制御ブロックに必要な、IMS 制御領域の拡張専用域のサブプール 214 内のストレージに対する要求が失敗した。異常終了は、メッセージ DFS1996 の送信後に DFSIINVO によって発行され、R4 = ストレージ要求の長さ、R5 = IMODULE 戻りコードです。

分析

この異常終了の前に、7つのエラー・メッセージ DFS1990I、DFS1991I、DFS1992I、DFS1993I、DFS1996I、DFS1998I、または DFS1999I のいずれかが出されます。該当するメッセージを参照して、必要な処置を決定します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1990I、DFS1991I、DFS1992I、DFS1993X、DFS1996I、DFS1998I、または DFS1999I を参照して、適切な処置を決定します。

問題判別:

4、6、8、10

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINV0、DFSIIINU0、DFSIIILDO

関連情報

[DFS1990I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS1991I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS1992I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS1993X \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS1996I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS1998I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS1999I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0017

説明

IMS システム・ログ書き込み機能は、読み取り操作および書き込み操作のログ・バッファの不規則なシーケンスを検出しました。

分析

これは、バッファ後処理ルーチン DFSFDLBO によって発行される可能性がある標準異常終了です。発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) を発行するラベル ABEND017 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、この異常終了条件が最初に検出されたアドレスが入っています。レジスター 15 に、この異常終了の理由コードが入っており、内部エラーを示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'08' Reg9=A(LBUF FER)	WRTE07 00	検査されたバッファが、 バッファをシステム・ロ グに書き込む順序を保守 するために使用されてい る、作業処理キュー・チェ ーン (LCD 内の LPWKTDQ) 内にありませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0C' Reg9=A(LBUFFER) Reg8=A(LDSET)	WRTE17 00	検査されたブロックが、ログ・データ・セットに最後に書き込まれた、次のブロックではありませんでした。LBUFFER内のLBBLKCNT(レジスター9)が、LDSET内のLDSBSEQL+1(レジスター8)に等しくありませんでした。
Reg15=X'10' Reg9=A(LBUFFER)	READ02 00 READ13 00	読み取りバッファがLDSETからの正しいチェーン内にありませんでした。使用されたOLDSは、DSETテーブル(LCD内のLDSETPTR)に存在し、かつLDSET内のLDSRBUFFからのチェーン内に存在する必要があります。

システムの処置

IMSが異常終了します。

オペレーターの応答

IMSを緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別:

1、4、5、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFDLBO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0019

説明

通信名テーブル (CNT) 内のコンポーネント番号が最大許容値より大きいことが、通信端末ブロック (CTB) に適切なコンポーネント作動不能ビットを設定するルーチンによって判別されました。レジスター 10 が、エラーのあった CNT のアドレスを示しています。

分析

これは、CNT 内のコンポーネント番号に基づいて CTB に COMPINOP ビットを設定するための SESSIONC 完了ルーター DFSCVRB0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード

(PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元モジュール DFSCVRB0 (ラベル ABEND19 内) の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 10 に、エラーのあった CNT のアドレスが入っています。無効なコンポーネント番号は、CNT 内のフィールド CNTCMPNT で見つけることができます。4つのコンポーネントのみが許可されます。このフィールドの有効な値は、X'00'、X'01'、X'02'、および X'03' のみです。

キー	ラベル	説明
Reg10=CNT の アドレス Reg7=CTB の アドレス Reg1=異常終了 完了 コード、 X'80000013'	VRB 05	CNT 内の出力コンポーネント番号 (CNTCMPNT) の比較が行われます。値が X'03' より高い場合、異常終了するためにラベル ABEND19 に分岐します。

システムの処置

IMSが異常終了します。

オペレーターの応答

IMSを緊急時再始動して、処理を再開します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCVRB0

0020

説明

IMS システムまたは指定された外部サブシステム・タスクが、**MODIFY** コマンドの使用によって終了しました。

分析

0020 は、DFSFCTT0 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: ユーザーが、IMS の全タスクあるいは外部サブシステム 接続を表す特定のタスク (DB2® など) を異常終了するために、z/OS MODIFY コマンドを入力しました。

システムの処置

IMS の全タスクまたは指定された外部サブシステム・タスクが終了します。外部サブシステム・タスクが指定された場合、そのタスクのみが終了し、IMS の残りの部分は処理を継続します。

オペレーターの応答

外部サブシステム・タスクが終了した場合、IMS を再始動します。/START SUBSYS コマンドを発行することにより、そのタスクを再始動できます。

プログラマーの応答

IMS に対して MODIFY コマンドを使用した理由を調べて、訂正処置を取ります。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFACTO

0021

説明

IMS システム・ログ書き込み機能が、無効な要求を渡したか、正しくない条件を検出しました。無効な要求エレメントが、物理ログ・マスター ITASK またはセットアップ ITASK に通知されました。

分析

DFSFDLGO の場合:

これは、物理ログ書き込み機能マスター・ルーチン DFSFDLGO から発行される可能性がある標準異常終了です。発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、これらのモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、異常終了条件が発生したアドレスが入っています。理由コードは内部エラーを示します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg2=A(AWE)	MAIN06 00	AWE 要求内のルーチンの処理中に、AWLFUNC フィールドに無効なコードが含まれていました。
Reg15=X'08'	MSTRCLS E MSTRFE OV	FEOV/CLOSE ログ・データ・セット・ルーチンで、1つ以上のバッファがまだ作業処理キュー (LCD 内の LPWKTDQ) に残っています。FEOV/CLOSE の前に、このフィールドが 0 になっていなければなりません。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0C' Reg9=A(OLDS バッファ 接頭部)	WRTE17 00	バックエンド OLDS 書き込み処理中に、レジスター 9 が指すバッファ接頭部のブロック・シーケンス番号が、OLDS に最後に書き込まれたブロック・シーケンス番号より 1 だけ大きい値ではありません。
Reg15 = X'10' Reg6 = INITECB に失敗した A(ECB) Reg7 = INITECB からの戻りコード Reg9 = A(バッファ接頭部)	CKCP081 7 WRTE11 10	INITECB 呼び出しは、ロガー ITASK に関連付けられている ECB に対してゼロ以外の戻りコードを返しました。

DFSFDLS0 の場合:

これは、物理ログ書き込み機能セットアップ・ルーチン DFSFDLS0 から発行される可能性がある標準異常終了です。発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、この異常終了条件が発生したアドレスが入っています。レジスター 15 に、この異常終了の理由コード (内部エラーを示す) が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' Reg2=A(AWE)	SUBTO 600	AWE 要求を処理するルーチン DFSFDLS0 で、AWLFUNC フィールドに無効なコードが含まれていました。
Reg15=X'08'	SOPNO 200	次の OLDS を最初にオープンしたルーチン DFSFDLS で、LCD 内に使用可能な DCB がありませんでした。LCD には 2 セットの DCB (LDCBP1/LDCBS1 と LDCBP2/LDCBS2) が含まれていましたが、両方のセットともオープン状況 (DCBOFLGS-X'10') でした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0C'	DFSFDL S5	タイマー出口ルーチン DFSFDLS5 で、現行の TCB からターゲット SCD を見つけることができませんでした。最初のレジスター保管域のレジスター 1 フィールドは、IMS ディスパッチャー作業域を指していなければなりません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別:

1、4、15、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFDLG0、DFSFDLS0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0022

説明

SESSIONC 完了時、要求パラメーター・リスト (RPL) のセッション制御コードが無効です (STSN、SDT、または CLEAR でない)。

分析

これは、3770/3767 SESSIONC 完了ルーター・モジュール DFSCVRG0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 6 に、エラーのある RPL を含む VTAM バッファのアドレスが入っています。レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

コード

説明

X'00'

CLEAR 完了。

X'04'

開始データ・トラフィック (SDT) 完了。

X'08'

シーケンス番号の設定およびテスト (STSN) 端末の完了。

キー	ラベル	説明
Reg6=エラー のある RPL を 含む VTAM バ ッファのアド レス Reg1= 異常終了完了 コード、 X'80000016'	CVRG0 10	機能コードを操作タイプと比較します。操作が CLEAR、SDT、または STSN でない場合、異常終了するために分岐します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

11、35

異常終了時のレジスター 6 に、エラーのあった RPL を含むバッファのアドレスが入っています。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCVRG0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0023

説明

DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されました。この異常終了は、IMS プロシージャでの ACBLIB データ・セットの指定が、DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャの指定と一致しなかったことを示しています。この異常終了の前に出力されたメッセージ DFS0404W に詳しい情報が示されています。

分析

ACBLIB DDNAMES IMSACBA および IMSACBB の指定を訂正する必要があります。DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャで指定された ACBLIB データ・セットは (アクティブ、非アクティブの両方とも)、IMS プ

ロシージャーで指定されたものと同じであり、しかも連結順序が同一でなければなりません。

キー	ラベル	説明
以下の説明を参照。	DLI6 0	以下の説明を参照。

z/OS スケジューラー作業域ブロックがメモリー・ダンプに含まれている必要があります。これらのブロックを含めるには、z/OS **CHNGDUMP** コマンドで **SDATA=SWA** を指定します。

この異常終了の前にメッセージ **DFS404W** が出され、理由コードを提供します。適用できるデータ域は、以下のとおりです。

- 制御メモリーの場合:
 - モジュール **DFSSDLC0** 内の **ACBCK** は、**DFSACBCK** のアドレスを指しています。
 - **DFSACBCK+8** は、**IMSACBA** の **DSNAME/VOLSER** リストのアドレスです。
 - **DFSACBCK+X'10'** は、**IMSACBB** のリストのアドレスです。
- **DL/I** メモリーの場合:
 - モジュール **DFSSDLC0** 内の **AATIOT** は、**IMSACBA** の最初の **TIOT** エントリーのアドレスです。
 - **BBTIOT** は **IMSACBB** のアドレスです。

メッセージ **DFS0404W** が理由コード **02** を示す場合:

- **AAERTIOT** は、**IMS** プロシージャーの指定に一致しなかった **IMSACBA** に関連する **TIOT** エントリーのアドレスです。
- **AAERJFCB** は、**AAERTIOT** に関連するジョブ・ファイル制御ブロック (**JFCB**) のアドレスです。
- **AAERCTL** は、比較に使われた制御メモリーのデータのアドレスです。
- **BBERTIOT**、**BBERJFCB**、および **BBERCTL** は、**IMSACBB** に使用されます。

システムの処置

DL/I 従属アドレス・スペースが **0023** で異常終了し、これにより制御領域が **0150** 異常終了で終了します。

プログラマーの応答

DL/I 従属アドレス・スペース開始プロシージャーで指定された **ACBLIB** データ・セットは、制御領域の **JCL** で指定されたものと同じで、しかも連結順序が同じでなければなりません。このことは、アクティブと非アクティブの両方の **ACBLIB** に適用されます。 **ACBLIB DDNAMES IMSACBA** および **IMSACBB** の指定を訂正します。ストレージ・ダンプを分析する必要がある場合、**MVS™** スケジューラー作業域 (**SWA**) ブロックを含める

必要があります。これらのブロックを含めるには、z/OS **CHNGDUMP** コマンドで **SDATA=SWA** を指定します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSDLC0

関連情報

[DFS0404W \(メッセージおよびコード\)](#)

[IMS 異常終了 0150](#)

0024

説明

DL/I 従属アドレス・スペース領域または **DBRC** 領域のいずれかが **IMS** 制御領域に接続しようとして失敗しました。接続要求で渡されたジョブ名が、**DLINM=** (**DL/I** 従属アドレス・スペース領域の場合) または **DBRCNM=** (**DBRC** 領域の場合) の指定と一致しません。これらの値は、**IMSCTRL** システム定義マクロまたは制御領域 **JCL** から得られます。これらのキーワードのデフォルトは、それぞれ **DLISAS** および **DBRC** です。

この異常終了は、ラベル **TESTSAS** から発行されます。

システムの処置

接続を試みた領域は、**0024** で異常終了します。

プログラマーの応答

正しい名前プロシージャーを開始するか、またはしかるべき名前オーバーライドして制御領域を再始動します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSRRAO0

0025

説明

DL/I 従属アドレス・スペース領域または **DBRC** 領域のいずれかが **IMS** 制御領域に接続しようとして失敗しました。制御領域のその領域タイプに対する接続は、すでにアクティブです。このエラーは、例えば、**DL/I** 従属アドレス・スペース領域を2度開始させることにより発生します。

この異常終了は、ラベル **TESTSAS** から発行されます。

システムの処置

接続を試みた領域は、異常終了 **0025** で終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRA00

0026

説明

IMS が (E)STAE マクロを正常に実行することができません。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析

0026 は、3 つの異なるモジュール DFSPCC20、DFSPCC30、または DFSPR000 から発行される可能性がある標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。PSW は、異常終了 (SVC 13) の発行元である、障害が起きたモジュール内のラベル/ルーチンを指しています。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 15 には常に、失敗した (E)STAE (SVC 60) からの戻りコードが入ります。

コード

説明

X'00'

(E)STAE 要求の正常終了。

X'04'

(E)STAE OV が有効な出口アドレスで指定されましたが、現行の出口ルーチンが、存在しないか、ユーザーの要求ブロック (RB) によって所有されていないか、あるいは (E)STAE 出口ルーチンではありません。

X'0C'

取り消し (出口アドレスがゼロに等しい) が指定されましたが、このタスク制御ブロック (TCB) 用の出口ルーチンがないか、最新の出口ルーチンが呼び出し元によって所有されていないか、あるいは最新の出口ルーチンが (E)STAE 出口です。

X'10'

この要求の処理中に、予期しないエラーが発生しました。

X'14'

(E)STAE は、セッション制御ブロック (SCB) 用のストレージを取得できませんでした。

DFSPCC20 の場合:

0026 は、MPP/BMP プログラム・コントローラー DFSPCC20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が最終的に発

行されるラベル PSABEND 内の命令を指しており、エラーを検出したルーチンによってここへ分岐されます。

異常終了時には、異常終了 SVRB レジスタのレジスター 15 に、失敗した (E)STAE からのゼロ以外の戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg3=(E)STAE 出口ルーチンのアドレス	PC0 0	領域間通信機能の初期設定中に、失敗した (E)STAE (SVC 60) が発行されました。レジスター 15 をテストして戻りコードが調べられます。ゼロ以外の場合は、異常終了を処理するためにラベル PCAB026 に分岐します。
Reg1=完了コード、X'8000001A'	PC0 1	

DFSPCC30 の場合:

0026 は、バッチ・アプリケーション・プログラム・コントローラー DFSPCC30 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PSABEND 内の命令を指しています。ここへの分岐は、エラーを検出したこのモジュール内のルーチンによって行われます。

異常終了時には、異常終了 SVRB レジスタのレジスター 15 に、失敗した (E)STAE (SVC 60) からのゼロ以外の戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg15=(E)STAE からのゼロ以外の戻りコード Reg1=完了コード、X'8000001A'	PC1 A	バッチ初期設定中に、(E)STAE が発行され、これが失敗しました。レジスター 15 に戻りコードがロードされ、これがゼロ以外であるため、異常終了を処理するためにラベル PSTAEND に分岐します。

DFSPR000 の場合:

このモジュールからの異常終了は、非 z/OS システムでのみ発生します。

この異常終了は、バッチ・アプリケーション・プログラム要求ハンドラー DFSPR000 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この場合は、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PRABEND 内の命令を指し、ここへの分岐はエラーを検出したルーチンによって行われます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 15 に、失敗した (E)STAE (SVC 60) からのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=最初の(E)STAE 制御ブロックへのポインター Reg1=完了コード、 X'8000001A'	STATES T	初期条件のセットアップおよび検査中に、STAE が発行される原因となる状態(つまり、最初の DL/I 呼び出しではない、アクティブな STAE がない、現行の STAE がこのモジュールに属していない)が発生しました。STAE は失敗し(レジスター 15 内のゼロ以外の戻りコードによって示される)、異常終了を処理するためにラベル PRAB3 に分岐します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この問題は IMS 内部エラーです。

問題判別

4、35

レジスター 15 に、(E)STAE からの戻りコードが入っています。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCC20、DFSPCC30、DFSPR000

関連資料

[z/OS: ESTAE の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0027

説明

DFSDUMP 要求の処理中に、IMS ダンプ・サービス・ルーチンがシステムまたは IMS 異常終了要求を受け取りました。この異常終了は、ダンプ処理が完了した後、正常な IMS リカバリーおよび終了を強制するために発行されます。メッセージ DFS629I の最初の行にある理由コード・フィールドに、元の異常終了コードが含まれています。

システムの処置

エラーは通常の IMS リカバリー・ルーチンに渡され、現行 DFSDUMP 要求は TERM=YES を強制され、元の終了要求についてのソフトウェア LOGREC 項目が要求されます。

プログラマーの応答

異常終了 0027 によって参照される元の異常終了を分析するには、元の異常終了についての LOGREC 項目、および元の異常終了が据え置かれたときに進行中であったダンプの両方を使用します。

ソース:

IMS 異常終了

0028

説明

DUMP キーワードが / チェックポイント コマンドに含まれていたため、イムス 制御領域が終了しました。

この異常終了は、/CHE 凍結、ページ、または **ダンプ・ダンプ・ダンプ** コマンドの結果として発生します。

分析

0028 は、モジュール DFSTERM0 によってイムス 制御領域の正常終了時に発行される標準異常終了です。この異常終了は、イムス またはプログラミング・エラーの結果ではありませんが、診断または通知の目的でメモリー・ダンプを要求したイムス オペレーターによる要求の結果としての結果にすぎません。イムスは、ダンプを生成し、通常を終了するために異常終了を出します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 には、SCD アドレスが入っています。レジスター 13 に、保管域アドレスが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg11= SCD のアド レス	スキップ レース	SCD の SCDSTOP1 + 1 フィールドは、制御領域の終了時にダンプが要求されたかどうかを判別するために、X'10' でテストされます。設定すると、異常終了が発行されます。

システムの処置

イムスは異常終了を発行し、メモリー・ダンプを生成し、正常に終了します。

プログラマーの応答

Determine the reason why the operator specified the DUMP option to the / **チェックポイント** command.

問題判別:

なし。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSTERMO

0029

説明

異常終了 0029 は、DL/I 従属アドレス・スペースの初期設定によって発行される標準の異常終了です。これは、要求されたサービス (IMS または z/OS のいずれか) がゼロ以外の戻りコードを戻す場合に発行されます。異常終了時には、レジスター 3 に理由コードが入っています。レジスター 15 に、要求されたサービスからの戻りコードが入っています。レジスター 14 は、エラーが検出された位置を指しています。

分析

DFSXDL00 の場合:

表 2. モジュール DFSXDL00 からの 0029 のコード		
キー	ラベル	説明
Reg3=X '01'	ABCO 1	一時保管セット用の IMODULE GETMAIN が失敗しました。
Reg3=X '02'	ABCO 2	初期設定パラメーター・ブロック用の IMODULE GETMAIN が失敗しました。
Reg3=X '03'	ABCO 3	モジュール DFSFDLI0 をロードできません。
Reg3=X '04'	ABCO 4	ジョブ・ステップ TCB ESTAE が確立されませんでした。
Reg3=X '05'	ABCO 5	DL/I 従属アドレス・スペースの SSCT を作成するために、DFSV4200 が開始されました。
Reg3=X '06'	ABCO 6	OS によるモジュール DFSDRCL0 のロードが失敗しました。
Reg3=X '07'	ABCO 7	モジュール DFSXDL00 は、DL/I 従属アドレス・スペースのプリロード・リスト (DFSXDLLL) を処理中であり、必要なモジュールをロードできませんでした。レジスター 4 は DLST 項目を指しています。この項目の最初の 8 バイトはモジュール名です。

表 2. モジュール DFSXDL00 からの 0029 のコード (続き)		
キー	ラベル	説明
Reg3=X '08'	ABCO 8	DFSFXC10 をロードできません。
Reg3=X '09'	ABCO 9	DFSSDL80 をロードできません。
Reg3=X '0A'	ABCO 10	QSAV ブロックを取得するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X '0B'	ABCO 11	DL/I 従属アドレス・スペースのジョブ・ステップ TCB のディスパッチャー作業域を作成するために、DFSKDP00 が呼び出されました。
Reg3=X '0C'	ABCO 12	DFSBCB60 をロードできません。
Reg3=X '0D'	ABCO 13	CMWU ブロックを取得するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X '0E'	ABCO 14	ストレージ圧縮用の ITASK 構造を作成するために、DFSCIR00 が呼び出されました。
Reg3=X '0F'	ABCO 15	DFSXDL10 をロードできません。
Reg3=X '10'	ABCO 16	バックグラウンド書き込み ITASK 構造を作成するために、DFSCWU00 が呼び出されました。
Reg3=X '11'	ABCO 17	DFSSDL40 をロードできません。
Reg3=X '12'	ABCO 18	DFSSDL40 ITASK 構造を作成するために、DFSCWU00 が呼び出されました。
Reg3=X '13'	ABCO 19	共通サービス作業域 (DFSCSSWK) を取得できません。
Reg3=X '14'	ABCO 20	DFSCSS00 をロードできません。
Reg3=X '15'	ABCO 21	共通サービス ITASK 構造を作成するために、DFSCIR00 が呼び出されました。
Reg3=X '16'	ABCO 22	QSAV ブロックを解放するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X '17'	ABCO 23	一時保管セットを解放できません。
Reg3=X '18'	ABCO 24	DFSXRPS0 をロードできません。
Reg3=X '19'		許可索引予約 (AXRES) 要求が失敗しました。

表 2. モジュール DFSXDL00 からの 0029 のコード (続き)		
キー	ラベル	説明
Reg3=X '1A'		許可索引設定 (AXSET) 要求が失敗しました。
Reg3=X '1B'		リンケージ索引予約 (LXRES) 要求が失敗しました。
Reg3=X '1C'		エントリー・テーブル作成 (ETCRE) 要求が失敗しました。
Reg3=X '1D'		エントリー・テーブル接続 (ETCON) 要求が失敗しました。
Reg3=X '1E'		許可テーブル・セット (ATSET) 要求が失敗しました。
Reg3=X '20'		モジュール DFSNOTB0 のロードが失敗しました。
Reg3=X '21'		モジュール DFSCPY00 のロードが失敗しました。
Reg3=X '22'	ABCOD 34	DFSRSMDO に関する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg3=X '23'	ABCOD 35	DFSRSMDO 呼び出しが失敗しました。
Reg3=X '24'	ABCOD 36	DFS5DL60 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg3=X '25'	ABCOD 37	DFSCWU 呼び出しが DFS5DL60 の ITASK の作成に失敗しました。
Reg3=X '26'	ABCOD 38	DFS3DL00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg3=X '27'	ABCOD 39	DFSCWU 呼び出しが DFS3DL00 の ITASK の作成に失敗しました。
Reg3=X '28'	ABCOD 40	システム初期設定モジュール DFSSCPIO が失敗しました。

DFSXDL10 の場合:

表 3. モジュール DFSXDL10 からの 0029 のコード		
キー	ラベル	説明
Reg3=X '01'	ABCOD 1	ストレージ管理の初期設定を実行するために、モジュール DFSIINSO が呼び出されました。
Reg3=X '02'	ABCOD 2	DFSSDL20 ITASK 用の作業域を GETMAIN できません。
Reg3=X '03'	ABCOD 3	DFSSDL20 をロードできません。

表 3. モジュール DFSXDL10 からの 0029 のコード (続き)		
キー	ラベル	説明
Reg3=X '04'	ABCOD 4	QSAV ブロックを取得するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X '05'	ABCOD 5	DFSSDL20 ITASK 構造を作成するために、DFSCIR00 が呼び出されました。
Reg3=X '06'	ABCOD 6	QSAV ブロックを解放するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X '07'	ABCOD 7	データベースの初期設定を実行するために、DFSIND0 が呼び出されました。
Reg3=X '07'	ABCOD 7B	プログラム仕様ブロック (PSB) およびデータ管理ブロック (DMB) ディレクトリーの初期設定を実行するために、DFSRDB30 が呼び出されました。
Reg3=X '08'	ABCOD 8	OSAM および VSAM バッファの初期設定を実行するために、DFSDVBIO が呼び出されました。
Reg3=X '09'	ABCOD 9	ページの固定化オプションを処理するために、DFSIFIX0 が呼び出されました。
Reg3=X '0A'	ABCOD 10	DFSNOTB0 をロードできません。
Reg3=X '0B'	ABCOD 11	QSAV ブロックを取得するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X '0C'	ABCOD 12	QSAV ブロックを解放するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X '0D'	ABCOD 13	DFSSDL30 をロードできません。
Reg3=X '0E'	ABCOD 14	初期設定するために、DFSSDL30 が呼び出されました。
Reg3=X '0F'	ABCOD 15	非同期作業エレメント (AWE) を解放するために、DFSBCB00 が呼び出されました。
Reg3=X '10'	ABCOD 16	DFSXRAC0 が RACF® ユーザー ID を設定できませんでした (特定の問題についての説明は、メッセージ DFS0841I に関する情報を参照してください)。

DFSXDT10 の場合:

以下の戻りコードは、DFSXDT10 によって 10 進形式で発行されます。

コード
説明

- 81** DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻されました。初期設定中に SAVEAREA を取得できなかったことを示します。
- 82** DFSCDSP からエラー戻りコードが戻されました。ディスパッチャー作業域を作成できなかったことを示します。
- 83** 初期設定中に、IMODULE LOAD からエラー戻りコードが戻されました。トラッキング・モジュールをロードできないことを示します。
- 84** 初期設定中に、DFSCWU からエラー戻りコードが戻されました。トラッキング ITASK を作成できなかったことを示します。
- 85** 初期設定中に、IMODULE GETMAIN からエラー戻りコードが戻されました。サブプール 0 内で DFSXDT10 作業域用のストレージを取得できなかったことを示します。
- 86** 初期設定中に、IMODULE GETMAIN からエラー戻りコードが戻されました。サブプール 0 内で終了 ITASKS 用のストレージを取得できなかったことを示します。
- 87** 初期設定中に、DFSBCB GET からエラー戻りコードが戻されました。終了 ITASKS に必要な保管域用のストレージを取得できなかったことを示します。
- 88** 初期設定中に、DFSCIR からエラー戻りコードが戻されました。終了 ITASKS を作成できなかったことを示します。

DFSSDLC0 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg3= X'01'	ABCOD 1	ACBLIB 検査域用の共通ストレージ域 (CSA) スペースを取得できません。

システムの処置

DL/I 従属アドレス・スペース領域は異常終了 0029 で終了し、その結果、制御領域が異常終了 0150 で終了します。

プログラマーの応答

上記の表を使用して原因を判別し、問題を修正してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXDL00、DFSXDL10、DFSXDT10、DFSSDLC0

関連情報

[DFS0841I \(メッセージおよびコード\)](#)

[IMS 異常終了 0150](#)

0031

説明

あるログ・データ・セットでエラーのあるブロックの検出中に、CSECT DFSFLTPO がレジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

分析

0031 は、複合モジュールであるログ・リカバリー・ユーティリティによって発行される標準異常終了です。DFSULTR0 はロード・モジュール名、DFSULG10 はそのエントリー CSECT です。DFSULG20 は、現行の入力ログで読み取りエラーを検出し、モジュール DFSFLTPO に BALR します。モジュール DFSFLTPO はエラー戻りコードをレジスター 15 に入れて、DFSULG20 に戻ります。

障害時には、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元である、CSECT DFSULG20 のラベル SWAPABND 内の命令を指しています。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 15 に、モジュール DFSFLTPO からの戻りコードが入っています。戻りコードは、モジュール DFSULG20 のラベル SWAP1040 にあるブランチ・テーブルを調べることでより判別できます。

システムの処置

モジュール DFSULG20 は、メモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 15 の中の戻りコードを確認して、問題を修正してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSULG20

0032

説明

ログ・リカバリー・ユーティリティーによってログ・シーケンス・エラーが検出されました。

分析

0032 は、ログ・リカバリー・ユーティリティーによって発行される標準異常終了です。DFSULG40 は、誤りのあるログを検出した場合、DFS3288I メッセージと異常終了を発行します。検出されたエラーは、シーケンス番号の誤りまたはログ・レコードが短すぎることで、エラーは、発行された DFS3288I メッセージから判別できます。

障害時には、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) を発行した命令を指しています。レジスター 2 にログ・レコードのアドレス、レジスター 3 に入力ログ DCB アドレス、およびレジスター 4 にレコード長が入っています。シーケンス番号が誤っている場合、レジスター 5 に予期されたログ・シーケンス番号 (LSN) が入り、レジスター 6 に受け取った LSN が入っています。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーは異常終了 0032 を発行します。

プログラマーの応答

JCL 内でのログ・データ・セットの順序が正しいかどうかを確認します。順序が正しい場合、ログ・リカバリー・ユーティリティーの DUP モードおよび REP モードを使用して、ログ・データ・セットを訂正します。その後でジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSULG40

関連情報

DFS3288I (メッセージおよびコード)

0034

説明

VTCB、VLQB、または CBTS ラッチを取得または解放するために、モジュール DFSSCBT0 または DFSBCB30 が呼び出されました。ラッチ取得要求の場合、共通ラッチ・マネージャー・モジュール DFSCLM00 がゼロ以外の戻りコードを戻しました。ラッチ解放要求の場合、共通ラッチ・マネージャー・モジュール DFSCLM10 がゼロ以外の戻りコードを戻しました。

分析

0034 は、GET ラッチ要求からモジュール DFSCLM00 に、または RELEASE ラッチ要求からモジュール DFSCLM10 に正常でない戻りコードが戻された後で、モジュール DFSSCBT0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 に、ラッチ要求からの戻りコードが入っています。

異常終了時に作業単位 (UOW) が所有していたラッチを判別するには、SAPACLL を使用して SAP に付加されている共通ラッチ・リスト・エレメント (CLLE) ブロックを確認します。フォーマット設定された CLLE 域の説明については、マッピング・マクロ DFSCLL を参照してください。

以下の戻りコードは、DFSCLM00 によって 10 進形式で発行されます。

コード 説明

RC = 12

要求されたラッチは現行の最高の保持ラッチであり、リソース・ヘッダーが同一です (ラッチは既に所有されている)。

RC = 16

要求されたラッチは、現行の最高の保持ラッチより小さい値です (階層違反)。

RC = 20

排他的ラッチに対する要求は認可できず、要求側は待機を望んでいません (WAIT=NO を指定)。

RC = 24

共用ラッチに対する要求は認可できず、要求側は待機を望んでいません (WAIT=NO を指定)。

RC = 28

要求されたラッチは現行の最高の保持ラッチに等しく、リソース・ヘッダーが同一ではありません (内部システム・エラー)。

以下の戻りコードは、DFSCLM10 によって 10 進形式で発行されます。

コード 説明

RC = 12

要求されたリソースは割り振られていません (システム内にこのリソースの所有者がいません)。

RC = 16

要求されたリソースは割り振られていますが、この要求側に対してではありません。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0034 が示されません。

プログラマーの応答

異常終了 0034 は、共通ラッチ・マネージャー (DFSCLM00 および DFSCLM10) によって発行される異常終了 0780 と同一です。レジスター 15 で見つかった異常終了サブコードについての説明は、上記の説明と異常終了 0780 の説明を参照してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSCBT0
関連情報
[IMS 異常終了 0780](#)

0035

説明

この異常終了は、データベース制御 (DBCTL) フェーズ 1 同期点プロセッサ (DFSDSC00) が障害を検出した場合に発行されます。DFSDSC00 は、フェーズ 1 同期点処理を実行するために、高速機能呼び出し内の障害または DL/I による障害に対して、異常終了をセットアップします。

分析

障害が高速機能内にあった場合、PAPL のフィールド PAPLSTCD に、障害の理由を説明する高速機能状況コードが入っています。

障害が DL/I 内にあった場合、フィールド PAPLSTCD には空白が入り、フィールド PAPLPLRC に IMS 異常終了コード (障害の理由として DL/I によってセットアップされた) が入っています。

これらのフィールドは両方とも、DRA SDUMP/SNAP のフェーズ 1 PAPL に現れます。CCTL は、DRA SDUMP/SNAP で戻された情報に基づいて、診断を生成することができます。

システムの処置

DBCTL はリカバリー単位を終了させ、データベース変更をすべてバックアウトします。

プログラマーの応答

データベース・リソース・アダプター (DRA) によって作成されたスナップ・ダンプを調べます。このダンプには、DRA 設計済みパラメーター・リスト (PAPL) およびその他の診断情報が含まれています。

問題判別:
38

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDSC00
関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0036

説明

ヴタム、イムス 論理エラー、またはその両方のいずれかで発生した、ヴタム 要求パラメーター・リスト (RPL) の予期しない通知。

分析

0036 は、通信装置モジュール DFSCVCK0 (ヴタム RPL 検査ルーチン) によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 9 には、CLB (DECB) のアドレスが含まれています。レジスター 1 に異常終了完了コード X'80000024' があります。

キー	ラベル	解説
Reg9=DE CB アドレス	DFSCVC K0	イベント制御ブロック (ECB) の DECSDECB フィールドがテストされます。フィールドに X'00' または X'40' 以外のものが含まれている場合、ECB は不良であり、異常終了するために分岐が行われます。

システムの処置

イムスは異常終了する。

オペレーターの応答

イブソ ソフトウェア・サポートの関連情報を保管し、イムスを再始動してください。

問題判別:
4, 5, 6, 11, 14, 35

ソース:
イムス 異常終了

モジュール:
DFSCVCK0
関連情報
[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0037

説明

テークオーバー中に、モジュール DFSHTKRO がテークオーバー要求処理のために内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) と呼ばれ、IRLM が 4 より大きい戻りコードを戻しました。レジスター 15 に戻りコードが入っており、IRLM パラメーター・リスト内のフィールド RLPFCODE には理由コードが含まれています。

分析

0037 は、モジュール DFSHTKRO によって発行される標準異常終了です。戻りコードはレジスター 15 に含まれており、理由コードは IRLM パラメーター・リスト・フィールド RLPFCODE に入っています。IRLM パラメーター・リスト・アドレスは、区画指定テーブル (PST) フィールド PSTIRMLA から取得できます。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードと理由コードの情報を参照してください。

考えられる原因: IRLM に障害があると、この異常終了の原因となる可能性があります。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、イムス代替システムを再始動してください。

問題判別

1, 4, 10, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール

DFSHTKRO

関連資料

[IRLM 要求の戻りコードと理由コード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0038

説明

緊急時再始動の完了時またはデータベース・バックアップの実行時に、以前の実行からサブシステムによって保持されているロックの解放を試みた結果、IRLM から正常でない戻りコードを受け取りました。これらのロックは、前の実行のときからサブシステムによって保持されていたロックです。この異常終了の前に、メッセージ DFS038I が出されます。レジスター 15 に、IRLM から戻りコードが入っています。障害の原因を判別するには、以下を参照してください。

- 障害の原因を判別するための、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードの情報にある PURGE 要求の説明。
- メッセージ DFS038I に関する情報。

考えられる原因: IRLM 内の障害がこの異常終了の原因と考えられます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードによって判別された問題を訂正してから、IMS を再始動します。

問題判別

1, 4, 10, 35

ソース:

IMS 異常終了

DFSPCC0, DFSRST00

関連資料

[IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[DFS038I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0039

説明

IDENTIFY 要求が IRLM に対して発行され、要求は失敗しました。戻りコードがレジスター 15 に入り、理由コードが IRLM パラメーター・リストのフィールド RLIFCODE (オフセット X'8F') にあります。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードの情報にある IDENTIFY 要求の説明を参照してください。

分析

0039 は、DFSRST00 または DFSRDSH0 (オンライン) または DFSPCCCO (バッチ) によって発行される標準異常終了です。正常再始動(この場合は、X'04' の戻りコードでも異常終了を起こします)を除き、X'04' より大きいどの戻りコードでもこの異常終了が発生します。IRLM パラメーター・リストのアドレスは、区画仕様テーブル (PST) のフィールド PSTIRLMA から取得できます。戻りコードがレジスター 15 に入り、フィードバック状況情報が IRLM パラメーター・リストにあります。IRLM がアクティブではない場合、戻りコード X'08' とサブコード X'40' が IMS に返されます。OS オペレーターがメッセージ DFS039A に対して CANCEL または DUMP を応答した後で、ABENDU0039 が発行されます。

SCOPE=LOCAL が指定され、DBRC=YES である場合、IRLM はロックを解放します。バックアウトを実行し、識別要求処理を再実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

サブシステム名 (IMSID または JOBNAME) が別のアクティブな IMS サブシステムで現在使用中でないこと、および IRLM が始動されており、このシステムに対してアクティブであることを確認します。バックアウトが必要な場合があります。

問題判別:

1、4、10、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCCCO、DFSRDSH0、DFSRST00

関連資料

[IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0040

説明

グローバル・コマンド・ロックの獲得により、無効な戻りコードが戻されました。このロックは、すべての共用サブシステム間の通信に使用され、必須です。

分析

これは、モジュール DFSPCCCO、DFSRDSH0、および DFSRST00 によって発行される標準異常終了です。IRLM 理由コードはレジスター 15 に含まれており、イムス 戻りコードは PST DL/I データ共用セクションの PSTLRXRC の下のオフセット +- X'347' で見つけることができます。要求の発行に使用されるパラメーター・リストは、再始動 PST によって示されます。IRLM パラメーター・リスト・アドレスは、PST フィールド PSTIRLMA から取得できます。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードと理由コードの情報を参照してください。

考えられる原因: IRLM に障害があると、この異常終了の原因となる可能性があります。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

IRLM がまだアクティブであることを確認してください。

問題判別

1, 4, 10, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール

DFSPCCCO、DFSRDSH0、DFSRST00、DBFLHCKO

関連資料

[IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0041

説明

DBRC へのサインオン要求が失敗しました。DBRC 戻りコードがエラー内容を説明しています。障害の原因を判別するには、以下を参照してください。

- DBRC 要求戻りコードに関する情報を参照して、障害の原因を判別します。
- メッセージ DFS041I の情報

分析

0041 は、DFSRST00 (オンライン)、DFSPCCCO、または DFSPCC30 (バッチ) によって発行される標準異常終了です。異常終了の発行時に、レジスター 15 に戻りコードが設定されます。オンライン IMS サブシステムの場合、サブシステム名は SCD 内にあります。バッチ・サブシステムの場合、サブシステム名は PXPparms 内にあります。パラメーター・リスト・アドレスは、DFSBRLSC マクロ (PRMAREA=parameter) から取り出すことができます。パラメーター・リストには、サインオン要求で DBRC に渡された情報が入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

オンライン・サブシステム名 IMSID またはバッチ・ジョブ名が開始プロシージャで正しく指定されているかどうかを確認します。また、適切な RECON データ・セットがこの IMS サブシステムに割り振られているかどうかを確認します。IMS 代替サブシステムを再始動中の場合は、DBRC コマンド **CHANGE.SUBSYS SSID(name) NOBACKUP** を発行します。このコマンドにより、代替サブシステムがサインオンしていることを示すフラグがリセットされます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCCCO、DFSPCC30、DFSRST00

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[DFS041I \(メッセージおよびコード\)](#)

0042

説明

この始動でバックアウトが要求されたが、DBRC サインオン要求はこのサブシステムに関する項目が存在しないことを示しています。緊急時再始動中に、同じ環境を確立する必要があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS042I が出されます。

分析

0042 は、DFSRLP00 によって発行される標準異常終了です。DBRC のサブシステム名と状況は、SCD の SCDIMSNM と SCDSHFL2 にあります。JCL プロシージャを調べて、同じ RECON データ・セットが指定されたことを確認してください。

考えられる原因: 始動プロシージャで、無効なサブシステム名、DBRC= の指定、または RECON データ・セットが指定されました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

サブシステム名 IMSID または DBRC= が始動プロシージャで正しく指定されているかどうか、および適切な RECON データ・セットがこの IMS サブシステムに割り振られているかどうかを確認します。

問題判別:

1、4、10

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRLP00

関連情報

[DFS042I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0043

説明

「リカバリー終了」のサインオン要求が DBRC に対して発行されましたが、要求は失敗しました。この要求は、緊急時再始動の終わりの最初のチェックポイントの後で発行され、DBRC に緊急時再始動の完了を通知します。これにより、DBRC は、以前の IMS 実行から保持されていた保留情報をすべて除去できます。DBRC 戻りコードがエラー内容を示しています。この異常終了の前に、メッセージ DFS043I が出されます。障害の原因を判別するには、以下を参照してください。

- DBRC 要求戻りコードに関する情報を参照して、障害の原因を判別します。
- メッセージ DFS043I に関する情報。

分析

0043 は、DFSRST00 (オンライン) または DFSPCCCO (バッチ) によって発行される標準異常終了です。異常終了の発行時に、レジスター 15 に戻りコードが設定されます。オンライン IMS サブシステムの場合、サブシステム名は SCD 内にあります。バッチ・サブシステムの場合、サブシステム名は PXPparms 内にあります。パラメーター・リスト・アドレスは、サインオン要求を発行するために必要なすべての情報と共に、チェックポイント PST リスト内にあります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

エラーの原因を判別し、問題を訂正してください。

問題判別:

1、4、10、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCCCO、DFSRST00

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[DFS043I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0044

説明

正常再始動または緊急時再始動が指定されました。DBRC が、前の実行中はアクティブでしたが、現在はアクティブではありません。DBRC 名またはサブシステム名が、X'4001' チェックポイント・レコードで検出された名前と同じではありませんでした。

インストール・デフォルト・モジュール DFSIDEF0 で DBRC=FORCE が指定されましたが、IMS の実行は実行パラメーター DBRC=N で要求されました。

HALDB 区画化を使用している場合、この異常終了は、必要なときに DBRC がアクティブでなかったことを示しています。この異常終了の前に、メッセージ DFS0415W、理由コード X'74' が出されます。

分析

0044 は、DFSRLP00 および DFSXBATO によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: この異常終了の考えられる原因は、DBRC=N が指定されたことです。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

今回の実行のときに DBRC が存在したかどうか、および DBRC=N が指定されなかったかどうかを確認します。

緊急時再始動およびデータベース・バックアウトの場合、以前の実行時と同じ環境、すなわち同じ DBRC の使用状況でこの環境を使用する必要があります。今回の実行で使用される入力テープ、または再始動コマンドで指定されるチェックポイント値の正確さを確認します。

問題判別:

1、4、10

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRLP00、DFSXBATO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0045

説明

以前の IMS 実行では IRLM を使用したが、今回の実行では IRLM が存在していません。緊急時再始動では、以前の実行中に IRLM が存在していた場合は、今回の実行でも同じ IRLM が存在することが要求されます。この異常終了の前に、メッセージ DFS045I が出されます。

分析

0045 は、モジュール DFSRLP00 から発行される標準異常終了です。X'4001' レコードに IRLM システム名が存在するという事は、前の実行時に IRLM がアクティブであったことを暗黙に示しています。SCD 内に存在する IRLM システム名は、この実行で IRLM がアクティブであるかどうかを示します。

考えられる原因: IRLM= または IRLMNM= で誤った指定が行われました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IRLM=N が指定されていないかどうか、あるいは以前の IMS 実行で使用されていたのと同じ環境が今回の実行で存在するかどうかを確認します。

問題判別:

1、4、10

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRLP00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0046

説明

PSB (EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定される) に含まれる DBPCB のいずれかに IMS システム定義の DATABASE マクロ・ステートメントで定義された ACCESS パラメーターと互換性のない PROCESSING INTENT があります。PROCESSING INTENT は、PSBGEN の PROCOPT オペランドの指定から導き出されます。

分析

これは、モジュール DFSSBMP0 によって設定され、モジュール DFSPCC20 から発行される、疑似異常終了です。障害の理由については、メッセージ DFS046A の情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
BMPAB046		モジュール DFSDBLM0 によって PSTSCHDF フィールド内のスケジューリング障害コードが X'09' に設定されました。このコードは、PSB で互換性のない処理意図が検出されたことを示します。

システムの処置

エラー・メッセージ DFS046A が発行されます。バッチ領域は異常終了します。従属領域は、データベースへのアクセスが限定された状態で処理を継続します。

プログラマーの応答

次のいずれかの対応が可能です。

- マスター端末オペレーターに連絡を取って、データベースの ACCESS パラメーターを PROCESSING INTENT と互換性のあるレベルに変更してもらいます。
- PROCOPT オペランドの指定を変更して、IMS システム定義の DATABASE ステートメントで定義された ACCESS パラメーターと互換性のあるレベルにします。

ACBGEN を再実行してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

6、10、19

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCC20、DFSSBMP0

関連情報

DFS046A

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0047

説明

指定された PSB (EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで示される) 内の DBPCB のいずれかが、データベースを参照して DBRC からデータベース許可を取得するのに失敗したか、あるいは PSB スケジューリング中にデータベース許可要求リストを作成するためのより大きい作業用ストレージ域を取得するのに失敗しました。

分析

DFSDBAU0 の場合:

0047 は、DL/I のモジュール DFSDBAU0 または DBB バッチ領域によって発行される標準異常終了です。IMS がオンライン制御領域である場合、PSB 名がメッセージ・テキストに現れます。メッセージ DFS047A に関する情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
DFSDBAU0	ABND 47	DL/I または DBB バッチ領域がデータベース許可の取得に失敗しました。

DFSPCC20 と DFSSBMP0 の場合:

0047 は、モジュール DFSSBMP0 によって設定され、モジュール DFSPCC20 から発行される、疑似異常終了です。障害の理由については、メッセージ DFS047A を参照してください。

キー	ラベル	説明
BMPAB047		モジュール DFSDBLM0 によって PSTSCHDF フィールド内のスケジューリング障害コードが X'0A' に設定されました。このコードは、PSB のデータベース許可要求が失敗したことを示します。

システムの処置

エラー・メッセージ DFS047A または DFS049I が発行され、当該データベースは停止されます。バッチ領域は異常終了します。従属領域は処理を継続するが、このデータベースへのアクセスは禁止されます。

プログラマーの応答

障害の理由および障害への対応については、エラー・メッセージ DFS047A または DFS049I を参照してください。メッセージ DFS047A の場合、以下のいずれかの対応を行う必要があります。

- マスター端末オペレーターに連絡して、/DBR コマンドを入力することにより、データベース許可を保持していた他の IMS サブシステム内のデータベースをクローズする。
- データベース許可を保持していた別の IMS サブシステムが終了するまで待ってから、ジョブを再実行する。

問題判別:

11、19

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDBAU0、DFSPCC20、DFSSBMP0

関連情報

[DFS047A](#)

[DFS049I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0048

説明

データベース・リカバリー管理 (DBRC) の初期化中にエラーが発生しました。戻りコードはレジスター 15 に入っています。

分析

DFSXDRC0 の場合:

0048 は、すべての異常条件に対して出される。レジスター 15 に、次の理由コードが入っています。

コード 説明

X'10'

DBRC 初期設定 (INIT1) がゼロ以外の戻りコードを出しました。レジスター 5 = DBRC 戻りコード。

X'14'

DFSBCB 高速保管の取得が失敗しました。レジスター 5 = DFSBCB 戻りコード。

X'18'

DFSCIR ITASK の作成が失敗しました。レジスター 5 = DFSCIR 戻りコード。

DFSXRIC0 の場合:

0048 は、すべての異常条件に対して出される。レジスター 15 に、以下の理由コードが入っています。以下のいずれかの理由により、データベース・リカバリー管理のレジスター 15 に初期設定中にエラーが発生しました。

法	リーズン	アクション
X'04'	IMS-DBRC 制御ブロック (DFSRCWK) の IMODULE GETMAIN が失敗しました。	イムス 制御領域サイズを増やしてください。
X'08'	DFSRCQM0、DFSRCQRO、または DSPCRTR0 の IMODULE LOAD が失敗しました。	JOB/STEPLIB DD ステートメントを訂正するか、または DBRC モジュールを正しいライブラリーにバインドしてください。
X'0C'	初期設定の最初の呼び出し (INIT-0) がゼロ以外の戻りコードを持っていました。	該当する DBRC データベース・リカバリー管理の資料を参照して、DBRC 初期化障害の理由を判別してください。
X'10'	初期設定の 2 番目の呼び出し (INIT-1) がゼロ以外の戻りコードを持っていた	DBRC 初期設定 (INIT-1) の 2 回目の呼び出しによって、DBRC 初期設定が失敗した理由を判別します。この理由は、ゼロ以外の戻りコードでした。

エラー・コードに従って、適切な処置を行ってください。

システムの処置

イムスが異常終了した。

プログラマーの応答

上記のエラー・コードに従って、適切な処置を行ってください。

問題判別:

1, 2, 3, 4, 8, 12

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSXDRC0、DFSXRIC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0049

説明

この異常終了は、OS RDJFCB エラーまたはストレージ不足状態が発生したときに発行されます。ストレージ不足状態に関しては、この異常終了は IRLM の使用時に IRLM 障害または IRLM 通信障害が発生した場合にのみ発生します。

分析

0049 は、モジュール DFSDBAU0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、次の場所のいずれかを指します。すなわち、ラベル ST307 の後、モジュール DFSDBAU0 内のラベル AB049、または DBFDBAU0 内のラベル DBFSTATS のいずれかです。

キー	ラベル	説明
Reg8=必要なストレージのサイズ	ST307	IRLM または通信障害を処理するには、この量のストレージが必要です。
ラベル AB049 にある PSW	AB049	レジスター 15 には、RDJFCB 監視プログラム呼び出し (SVC) からの X'00' または X'04' 以外の戻りコードが入ります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別

4、12、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSDBAU0、DBFDBAU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0050

説明

外部トレースの初期設定に必要な イムス サービス要求 (QSAV、DFSCDSP または DFSCWU のための DFSBCB) が、予期しないゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析

外部トレース TCB が異常終了し、OLDS 外部トレースのみが許可されました。レジスター 2 に、失敗した外部トレース要求が含まれています。レジスター 14 に、エラーがあったルーチンを指す BAL REG が入っています。レジスター 15 に、失敗した下位レベルのサービスを識別する理由コードが入っています。

- レジスター 2 は、失敗した イムス サービス要求を識別します。

コード (16 進数) 意味

01

QSAV 要求のための DFSBCB が失敗しました。

02

DFSCDSP 要求が失敗しました。

03

DFSCWU 要求が失敗しました。

04

IMODULE 要求が失敗しました。

- レジスター 14 は、エラーが検出されたアドレスです。
- レジスター 15 に、失敗したサービスからの戻りコードが入っています。

システムの処置

外部トレース TCB は終了します。イムスが再始動されるまで、OLDS 外部トレースのみが許可され

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSXTRA0

第 6 章 IMS 異常終了コード 0051 - 0100

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0053

説明

IMS の再始動時に、IMS が障害のある IMS システムによって使用されたディレクトリー・データ・セット名を含むログ・レコード 7002 を処理しました。このデータ・セット名は、再始動された IMS システムによって使用されているディレクトリー・データ・セット名と同じでなければなりません。

分析

0053 は標準異常終了です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

考えられる原因の説明については、メッセージ DFS3511E を参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSMOL20

関連情報

[DFS4591E \(メッセージおよびコード\)](#)

0055

説明:

アプリケーション・プログラムは、共用仮想記憶オプション (SVSO) バッファ・プールからのバッファを要求しましたが、SVSO プールがすでにその拡張上限に達しているために、この要求は実行されませんでした。この異常終了は、通常のバッファ割り振り (NBA) およびオーバーフロー・バッファ割り振り (OBA) の使用とは無関係です。

分析

これは、SVSO バッファ・プールの限度に達したときに、DBFIRC10 (高速機能領域間通信制御モジュール) により発行される標準異常終了です。

システムの処置

従属領域は、疑似コード 0055 で異常終了します。

プログラマーの応答:

SVSO バッファ・プール・サイズを、従属領域の同時アクセスに対応できるように増やしてください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFIRC10、DBFSGAB0

0056

説明

高速機能がコーディネーター・コントローラー (CCTL) 要求のためにバッファにアクセスしようとしているとき、データベース制御 (DBCTL) サブシステムでエラーが発生しました。このエラーは、CCTL の識別、終了、スレッド・スケジュール、またはスレッド同期点の各要求のときに発生する可能性があります。

分析

CCTL スレッド・スケジュール (DBFINTE0) 要求時またはスレッド同期点 (DBFINTT0) 要求時に障害が発生した場合、IMS 制御領域が異常終了します。異常終了 SVRB 内のレジスター 12 に、どのモジュールが異常終了を発行したかが示されます。いずれの場合も、この異常終了は 1 つの場所で発行されます。両方の要求とも、要求を行っている CCTL 用の CBUF 制御ブロックを高速機能が検出できなかったためにエラーが発生します。高速機能は、バッファの取得 (スケジュール) およびバッファの解放 (同期点) のために、このブロックを必要とします。

CCTL 終了要求時に障害が発生した場合、DBFDBF10 は 2 つの条件に対して異常終了を発行します。どの条件が異常終了の原因になったかを調べるには、異常終了 SVRB 内のレジスター 15 を調べます。

Reg15=4

高速機能が CCTL 名の CBUF を検出できませんでした。IMS 制御領域は異常終了します。

Reg15=8

高速機能が AWE を取得できませんでした。この状態は、IMS 制御領域またはデータベース・リソース・アダプター (DRA) TCB のいずれかで発生する可能性があります。IMS 制御領域または DRA TCB のいずれかが異常終了します。

CCTL 識別要求時に障害が発生した場合、DFSDASIO は疑似異常終了 0056 をセットアップして、要求は理由コード 0056 で失敗したことを DRA が CCTL に通知でき

るようにします。その後、DRA はスナップ・ダンプを取ります。ヘッダー・タイトルに、識別要求が 0056 障害の原因であることが示されます。この要求の場合、高速機能は CCTL 用のバッファを取得できなかったため、異常終了も発行されます。SSOB 内のフィールド SSPICODE に、障害の正確な理由を示す文字ストリングが入ります。これらのストリングおよび理由は、以下のとおりです。

SSPICODE

説明

AWE

使用可能な CSA ストレージがないため、AWE ブロックを作成できません。

CBUF

使用可能な ECSA ストレージがないため、CBUF ブロックを作成できません。

NBA

CCTLNBA 要求を満たすために使用可能な十分なバッファがありません。

システムの処置

スケジュールまたは同期点要求時に障害が発生した場合、IMS 制御領域は 0056 で異常終了します。同期点エラーは、フェーズ 2 の打ち切りまたはコミットの後で発生します。

識別要求時に障害が発生した場合、識別要求は疑似異常終了 0056 で失敗しますが、IMS および CCTL は影響を受けません。スナップ・ダンプが作成されます。

終了要求時に障害が発生した場合、終了要求は疑似異常終了 0056 で失敗しますが、IMS および CCTL は影響を受けません。スナップ・ダンプが作成されます。CCTL は IMS には識別されなくなるが、その FP バッファは解放されません。

プログラマーの応答

失敗した要求のタイプを判別します。

スケジュールまたは同期点の要求が失敗した場合は、内部エラーが発生しました。

識別要求が失敗した場合、要求されたバッファ数に対応できるだけの十分な FP バッファが IMS にはない可能性があります。DRA 始動テーブルの CCTLNBA を調べて、要求されたバッファ数を確認します。

終了要求が失敗した場合、内部システム・エラーまたはストレージ不足問題が発生した可能性があります。

問題判別:

1、4、38

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFDBF10、DFSASIO、DBFINTE0、DBFINTT0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0069

説明

プログラム DBFIRC10 または DFSDCPY0 によって再帰的 IRC 項目が検出されたか、または高速機能 (FP) が使用できないときに、高速機能への呼び出しが DBFIRC10 によって検出されました。

分析

0069 は、DBFIRC10、DFSCPY00、および DFSDCPY0 から発行される標準異常終了です。PST 内の PSTREP ビットを検査して、再帰的項目を判別します。PSTREP がオンの場合、異常終了が発行されます。エラー・サブコードがレジスター 15 に入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04'		領域間通信 (IRC) に対する再帰的項目が発生しました。レジスター 8 に、エラーを検出した命令のアドレスが入っています。(モジュール DFSDCPY0 は、レジスター 8 を設定しません。) レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。
Reg15=X'08'		高速機能が使用不能であるのに、高速機能呼び出しが検出されました。レジスター 8 に、エラーを検出した命令のアドレスが入っています。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。

考えられる原因: 内部プログラム・インターフェース・エラー: アプリケーション・プログラムが (E)STAE ルーチンから DL/I 呼び出しを発行しました。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。その他の従属領域および IMS 制御領域は実行を継続します。

プログラマーの応答

理由コード 4 はユーザー・エラーです。ユーザー STAE が IMS 呼び出しまたは MVS STAE 再試行を実行していないことを確認してから、呼び出しを実行します。その他の理由コードは IMS システム・エラーとして扱う必要があります。

理由コード 8 は、メッセージ DFS2768W が先行し、エラーは IMS 始動時に発生しました。元のエラーについては、コンソール・ログを検査して、IMS 始動時にメッセージ DFS2713I または DFS2718I などが発生していないかどうかを調べます。IMS が再始動されるまでは、高速機能への呼び出しを行うアプリケーションはすべてこの異常終了で終了します。

APAR 処理の場合: 従属領域の異常終了ダンプを提供します。

問題判別:

1、5、6、11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFIRC10、DFSCPY00、DFSDCPY0

関連情報

[DFS2768W \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0070

説明

システム初期化またはそれ以降の実行中に、IMODULE 障害が起きました。

分析

0070 は、いくつかのモジュール DFSSTKMG、DBFICI10、DBFIFIX0、DFSIIINFO、DFSIRST0、DFSTMOD0、DFSTMOD0、DFSXCIC0、DFSXLGIO、DFSXLGIO、DFSXSTM0、DFSFDLCO、または DFSFDLJ0 から発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了の入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 SVC を出したモジュールを識別します。

各モジュールでは、IMS/VS SVC (SCD から) が実行命令を使用して発行されました。サービス GETMAIN が DFSMODU0 になっている IMS/VS SVC。実行ライブラリーのロード・モジュール名は IGC14xxx です。ここで、xxx はユーザー指定の IMS/VS SVC 番号です。IMS/VS SVC (DFSMODU0) は、レジスター 15 (バイト 0 および 1) にエラー・コードを戻します。

レジスター 15 に、IMODULE 機能からの戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードの説明については、イムスシステム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

レジスター 15 (バイト 0 および 1) には、DFSBCB GET 機能からの 2 番目の戻りコードが含まれている場合があります。DFSBCB 戻りコードの説明については、イムスシステム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

これは、高速機能緊急再始動モジュール DBFNRSSTO によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口での PSW (プログラム状況ワード) は、異常終了が発行された命令を指しています。

HALDB 区画化を使用している場合、この異常終了は以下のいずれかを

- 制御ブロック DFSPCA に対するストレージの割り振りが失敗する。
- 区画サポート・モジュールのロードに失敗しました このモジュールが DFSDT150 である場合は、理由コード X'45' のメッセージ DFS0415W がこの異常終了の前に付きます。これが DFSDT150 以外のモジュールである場合、この異常終了の前にメッセージはありません。

DFSSTKMG の場合:

イムス スタック・マネージャーが、IMODULE GETMAIN からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

異常終了 0070 は、スタック・マネージャー DFSSTKMG によって発行される可能性のある標準異常終了です。この異常終了が発生すると、異常終了時の入り口点からのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) 命令の後の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、スタック・マネージャー・ルーチンの基底レジスターです。

レジスター 15 に、IMODULE からの非ゼロ戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg15= IMODULE からの戻りコード		IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

DBFICI10 の場合:

これは、IMS/VS 高速機能 ITASK 初期設定モジュール DBFICI10 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 が、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスター、レジスター 4 には GETMAIN 要求のサイズが入り、レジスター 2 には AWE アドレスが入っており、レジスター 15 にはエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg1=完了コード Reg2=AWE アドレス Reg4= サイズの請求 Reg15=DFSQCSS FUNC=STORAGE 戻り値 コード (AWSIRCD)	異常終了 1	このルーチンは、IMS/VS/高速通信 ROUTER ITASK を初期化します。この ITASK 用の作業域 (DBFWORK2) は、FUNC=STORAGE を指定した DFSQCSS マクロに必要です。DFSQCSS マクロからの AWSIRCD 内のゼロ以外の戻りコードは、結果として異常終了します。

DBFIFIX0 の場合：

0070 は、IMS/VS 高速機能修正メカニズム・モジュール DBFIFIX0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令ラベル ABEND1 を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 14 が、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスター、レジスター 4 には GETMAIN 要求のサイズが入り、レジスター 2 には AWE アドレスが入っており、レジスター 15 にはエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg1=完了コード = Reg2 =AWE アドレス Reg4= 要求のサイズ Reg15=DFSQCSS FUNC=STORAGE E 戻りコード (AWSIRCD)	異常終了 1	このルーチンは、デフォルトまたはユーザー指定のページ固定パラメーターに従って、高速機能制御ブロックを修正します。FUNC=STORAGE を指定した DFSQCSS マクロによって要求されたストレージが、ページ固定リストに使用されます。DFSQCSS マクロからの AWSIRCD 内のゼロ以外の戻りコードは、結果として異常終了します。

DFSFDLC0 の場合：

IMS ロガーは、DFSMS メディア・マネージャーの使用に必要なストレージの取得またはページ固定に問題が発生しました。

キー	ラベル	解説
R15=X'04' R3=戻りコード・フォーム IMODULE GETMAIN		ロガーは、さまざまなエリアのストレージの取得に失敗しました。

キー	ラベル	解説
R15=X'08' R3= PGSER FIX マクロからの戻りコード		ロガーは、さまざまなエリアのストレージをページ固定することができませんでした。

DFSIIINFO の場合：

0070 は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール初期設定モジュール DFSIIINFO によって発行される可能性がある標準異常終了です。このモジュールでエラーが検出された場合は、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、ABEND (SVC 13) が発行されたラベル ABEND9D 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	解説
Reg15=ゼロ以外の戻りコード Reg12=サブプール番号 ゲメイン Reg9= バイトの数 GETMAIN 要求 Reg1=完了コード、 X'80000046'	アイモド	IMODULE GETMAIN (IMS/VS SVC) が発行され、レジスター 15 に戻りコードがロードされています。戻りコードがゼロではない場合は、ラベル PFERR に分岐します。ラベル PFERR は、GETMAIN エラー標識 (IMODERR) をレジスター 3 にロードし、異常終了を処理するためにラベル ABEND9D に分岐します。

DFSIRSTO の場合：

イムス IMODULE LOAD が失敗しました。

0070 は、再始動サービス ITASK モジュール DFSIRSTO によって発行される可能性がある標準異常終了です。レジスター 15 には、テーブルにリストされたエラー戻りコードの 1 つが入っています。(このコードは IMODULE LOAD からのものではありません。)

キー	ラベル	解説
戻りコード =1	RSTRO 10	XRF モジュール DFSHRCL0 に対して、IMODULE LOAD が失敗しました。
戻りコード =2	RSTRO 10	XRF MSSF TCB ATTACH が失敗しました。
戻りコード =3	RSTRO 30	イムス 再始動モジュール DFSIRSTO0 に対して、IMODULE LOAD が失敗しました。

キー	ラベル	解説
戻りコード=5	レスト レスト	モジュール DFSRRSIO に対する IMODULE LOAD が失敗しました。このモジュールは、保護会話処理に必要です。
戻りコード=7	RST017 0ラン ド	ページ固定障害が発生しました。

DFSTMOD0 の場合：

0070 は、変更/終了タスク初期設定モジュール DFSTMOD0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が発行されたラベル GMFAIL 内の命令を指しています。

レジスター 12 は基底レジスターです。レジスター 11 は、SCD へのポインターです。レジスター 15 に、障害サブコードが入っています。

キー	ラベル	解説
サブコード 4 Reg1=X'8000 0046' Reg4= 要求のサイズ	イート ルエラ —	このルーチンは、変更/終了作業域用のサブプール 0 ストレージを取得しようとしています。
サブコード 8	イート ルエラ —	DFSFMOD0 の IMODULE LOAD が失敗しました。
サブコード 12	イート ルエラ —	DFSFMOD0 に対する ITASK の作成に失敗しました。

DFSXBATO の場合：

ストレージ割り振りの要求が失敗しました。

0070 は、バッチ TCB ITASK 作成モジュール DFSXBATO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、プログラム状況ワード (PSW) が、ABEND (SVC 13) の発行元の命令を指しています。

異常終了時点のレジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 4 はシステム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg15=戻り コード Reg4=A(SCD)	アベ ンド	ストレージ割り振り要求の後、ゼロ以外の戻りコードが DFSXBATO に渡されました。レジスター 14 は、ゼロ以外の戻りコードが検出された後の BAL 命令を指します。

DFSXCIC0 の場合：

0070 は、制御タスク初期設定コントローラー DFSXCIC0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、ラベル ABEND1 内の命令を指しています (ABEND (SVC 13) が発行されました)。

異常終了 SVRB 内のレジスター 14 はキーとして使用され、レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 2 (該当する場合) には GETMAIN 要求のサイズが含まれます。

キー	ラベル	解説
Reg14= BAL	異常終 了 1	この異常終了は、制御タスクの初期化中に、以下の理由で発生 <ul style="list-style-type: none"> • DFSSDLOO のための IMODULE LOAD が失敗しました。 • AWE 要求 (DL/I SAS INIT) が失敗しました。 • QUICKSAVE 要求が失敗しました。 • DPST 要求が失敗した。

DFSXSTMO の場合：

0070 は、ストレージ管理コントローラー DFSXSTMO によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が発行されたラベル ABEND1 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 14 は、特定のラベルに分離するために使用する必要があります。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 にはエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg14 =BAL	XSTM 0030	DFSTSAV の IMODULE GETMAIN が失敗しました には
Reg14 =BAL	XSTM 0050 年	DFSIPB の IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14 =BAL	XSTM 0210 型	DFSSFVT のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14 =BAL	XSTM 040 型	DFSSLX に対する IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14 =BAL	XSTM 0500 型	DFSTAB の IMODULE GETMAIN が失敗しました

キー	ラベル	解説
Reg14 =BAL	XSTM 0744	RSWB の IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14 =BAL	再 UUINI 1	XSLOECBS のための IMODULE GETMAIN が失敗しました
Reg14 =BAL	XSTM 0720	QS24 の DFSBCB FUNC=GET が失敗しました
Reg14 =BAL	XSTM 0810	CREATE_TASKS ルーチン中の IMODULE GETMAIN または DFSBCB FUNC=GET の障害

DFSXLGIO の場合：

0070 は、論理/物理ロガー初期設定モジュール DFSXLGIO によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、ラベル ABEND070 内の命令を指しています (ABEND (SVC 13) が発行されます)。

異常終了の前に、メッセージ DFS2205I が IMS/VS マスター・コンソールに送信されます。

異常終了 SVRB 内のレジスター 0 は、特定のラベルを分離するために使用する必要があります。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 にはエラー戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg15= IMODULE からの戻りコード。 Reg14= IMODULE のアドレス されます。	アベンド 070	このルーチンは、IMODULE による GETMAIN です。

DFSRESPO の場合：

モジュール DFSRDB30 がロードされませんでした。DFSRST00 によって DFSRDB30 が以前にロードされていないことが検出された場合は、異常終了 0070 が発行されます。イブン サポート・センターに連絡してください。

考えられる原因: DFSRST00 は、DFSRDB30 のロードをバイパスしたエラーを持っています。

DFSFDLJO の場合

IMS ロガーが、ログ・バッファに必要ストレージの取得またはページ固定の問題を検出しました。

キー	ラベル	解説
R15=X'104'	エリモード	IMODULE GETMAIN が、DFSFDLJO 動的ストレージについて

キー	ラベル	解説
		失敗しました。R6 には、IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っていません。
R15=X'108'	エル GTCMW	IARV64 REQUEST=GETCOMMON が、WADS 暗号化バッファおよびロガー作業ストレージについて失敗しました。R6 には IARV64 戻りコードが含まれています。R7 には IARV64 理由コードが含まれています。
R15=X'10C'	ERRFX6 4W	IARV64 REQUEST=PAGEFIX が WADS 暗号化バッファに対して失敗しました。R6 には IARV64 戻りコードが含まれています。R7 には IARV64 理由コードが含まれています。
R15=X'110'	エルグ クトーム	IARV64 REQUEST=GETCOMMON は、ロガー OLDS バッファについて失敗しました。R6 には IARV64 戻りコードが含まれています。R7 には IARV64 理由コードが含まれています。
R15=X'114'	エルフ クス 64B	IARV64 REQUEST=PAGEFIX がロガー OLDS バッファで失敗しました。R6 には IARV64 戻りコードが含まれています。R7 には IARV64 理由コードが含まれています。

キー	ラベル	解説
R15=X'118'	エリモ ブ	IMODULE GETMAIN がロガ ー OLDS バッファ ーに対して失敗し ました。R6 には、 IMODULE GETMAIN 戻りコ ードが入っていま す。

システムの処置

IMS は異常終了する。

プログラマーの応答

上記のエラー・コードに従って、適切な処置を行ってください。

問題判別:

1, 4, 11, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSSTKMG、DBFIFIX0、DFSIRST0、DFSIRST0、
DFSTMOD0、DFSTMOD0、DFSXC0、DFSXLGI0、
DFSXSTM0、DFSRESP0、DFSFDLC0、DFSFDLJ0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージ
およびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0071

説明

システムの初期化時または後続の実行時に、下位レベルのモジュールまたは IMS 始動パラメーター内でエラーが発生し、この異常終了の前にいくつかのメッセージの 1 つが出される可能性があります。この異常終了の前に DBRC 領域または制御領域のいずれかから出されたメッセージを参照してください。

アクティブ ACBLIB に DFSMDA メンバーがない場合は、この異常終了でイムス 制御領域の初期設定が終了し、メッセージ DFS0887A が発行されます。

分析

0071 は標準異常終了です。

考えられる原因:

- /ERE COLDSYS コマンドを発行してイムスを再始動する前に、OLDS ログをクローズできませんでした。
- 内部エラーが下位モジュールで検出されました。
- IMS 始動パラメーターで内部エラーが検出されました。

DBFXFP00 の場合:

0071 は、DBFXFP00 によって発行される標準異常終了です。DBFXFP00 は、特定の初期化を実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、下位レベルのモジュールの 1 つから、ゼロ以外の戻りコードが DBFXFP00 に戻された結果です。

異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 が、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 には戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg1=完了コード Reg14=BAL Reg15=DFSBCB 機能 = ストレージ 戻りコード = DFSCDSP 機能 = 作成 戻りコード = DFSICIRO	異常終了 1	DBFXFP00 は、IMS/高速機能初期設定制御タスクです。このモジュールは、下位モジュール用の高速保管域を取得するために DFSBCB FUNC=GET を発行します。DFSCDSP FUNC=CREATE は、この高速機能タスクのディスパッチャー作業域を作成し、DFSICIRO を呼び出して ITASK を初期化します。これらの 3 つの関数からゼロ以外の戻りコードが渡された場合は、異常終了

DBFXFP10 の場合:

0071 は、DBFXFP10 によって発行される標準異常終了です。DBFXFP10 は、特定の初期化を実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、下位レベルのモジュールの 1 つから、ゼロ以外の戻りコードが DBFXFP10 に戻された結果です。異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 が、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 15 には戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg1=完了コード Reg14=BAL Reg15=DFSBCB 機能 = 取得 戻りコード =DFSCBTS 機能 = 検索 戻りコード =DFSCBTS 機能 = 変更 戻りコード =DFSCWU 機能 = CWU 戻りコード =DBFICI10 戻りコード =DBFINI20 戻りコード =DBFIFIX0	異常終了1	DBFXFP10 は、IMS/高速機能初期化モジュールです。このモジュールは、下位モジュール用の高速保管域を取得するために DFSBCB FUNC=GET を発行します。DFSCBTS が、FSRB の長さを CBTE 入力に設定する FSRB 項目を検出するために FUNC=FUNC を発行しました。DFSCBTS FUNC=ALTER は、高速機能 EPST 用の WORK UNIT を解放するための WORK UNIT を作成するために、FSRB の長さを CBTE 項目 DFSCWU、DFSCWU FUNC=CWU に設定します。また、高速機能制御ブロックを初期設定するために DBFICI10、高速機能制御ブロックを初期設定するための DBFINI20、および高速機能制御ブロックを修正するための DBFIFIX0 も呼び出します。DBFXFP10 の呼び出し先モジュールからゼロ以外の戻りコードが渡された結果、異常終了が発生します。

DBFXFP20 の場合：

0071 は、DBFXFP20 によって発行される標準異常終了です。DBFXFP20 は、特定の初期化を実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、下位レベルのモジュールの 1 つから、ゼロ以外の戻りコードが DBFXFP20 に戻された結果です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'0001 '	ローラ 01	LOCESCD マクロは、高速機能 ESCD 制御ブロックを見つけておくことができませんでした。
Reg15=X'0002 '	ローラ 02	QSAV ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。異常終了した R8 には、DFSBCB からの戻りコードが入っています
Reg15=X'0003 '	ローラ 03	FP2 TCB のディスパッチャー・ブロックを作成するための DFSCDSP 呼び出しが失敗しました。異常終了した R8 には、DFSCDSP から

キー	ラベル	解説
		の戻りコードが入っています

DFS3DF10 の場合：

0071 は、モジュール DFS3DF10 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFS3DF10 異常終了は、イムス カタログ初期設定に関連しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'1003 '		パラメーター検証が失敗しましたこの理由コードによる異常終了は、通常 イムス IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内に ALIAS パラメーターが指定されていないことが原因で発生します。
Reg15=X'1004 '		GETMAIN の失敗。
Reg15=X'1008 '		IMODULE をロードできませんでした。
Reg15=X'3000 '		BPESTART が失敗した。
Reg15=X'3002 '		BPERDPDS が失敗しました。
Reg15=X'3004 '		DFSDFxxx メンバーを構文解析するための BPEPARSE 文法のコピーを保管するためのストレージを取得できません。
Reg15=X'3008 '		BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できません。
Reg15=X'3010 '		DFSDFxxx PROCLIB メンバーの指定されたセクションの構文解析エラーです。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'3011 '		<p>DFSDFxxx PROCLIB メンバーのカタログ・セクション内のパラメーターの組み合わせを検証中にエラーが発生しました。</p> <p>法</p> <p>意味</p> <p>RC_PARMVAL (1003x) パラメーター検証が失敗しました ALIAS が必要です。</p> <p>RC_GETMAIN (1004x) Getmain が失敗しました</p> <p>RC_IMODULE (1008x) IMODULE をロードできませんでした。</p> <p>RC_BPESTART (3000x) BPESTART が失敗した。</p> <p>RC_BPERDPDS (3002x) BPERDPDS が失敗しました。</p> <p>RC_STGGRAMR (3004x) DFSDFxxx データ・セットを構文解析するための、BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できません。</p> <p>RC_STGPARSO (3008x) BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できません。</p> <p>RC_BPEPARSE (3010x) DFSDFxxx PROCLIB メンバーの指定されたセクションの構文解析エラーです。</p>
Reg15=X'3014 '		DFSDFxxx PROCLIB メンバーの CATALOG セクションに指定された DSN の構文解析中にエラーが発生しました。

DFSCSL10 の場合：

0071 は、共通サービス層処理モジュール DFSCSL10 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'0002 '		DFSDFN20 の IMODULE LOAD が失敗しました。 R2

キー	ラベル	解説
		は、IMODULE マクロからの戻りコードです。
Reg15=X'0003 '		パラメーター検証が失敗しました 異常終了の前に、エラーを説明する 1 つ以上の DFS3305E メッセージが表示されます。

DFSDFDBO の場合：

異常終了 0071 は、モジュール DFSDFDBO によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X '1008'		IMODULE をロードできませんでした。
Reg15=X '2008'		DFSDF 三十 PROCLIB メンバーの DATABASE セクションの構文解析中にエラーが検出されました。
Reg15=X '200C'		システムは、DFSDF 三十データ・セットを構文解析するための BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できませんでした。
Reg15=X '2010'		システムは、BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できませんでした。
Reg15=X '2014'		システムは、UNREGCATLG リストまたは DFSDDWA 制御ブロック用のストレージを取得することができませんでした。
Reg15=X '3000'		BPESTART が失敗した。
Reg15=X '3002'		BPERDPDS が失敗しました。

DFSDFN20 の場合：

0071 は、DFSDF 三十 および代替 PROCLIB メンバー・パーシング・モジュール DFSDFN20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'3004 '		BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できません。レジスター 2 に、モフ STORAGE マクロからの戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'3008 '		BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できません。レジスター 2 に、モブ STORAGE マクロからの戻りコードが入っています。
Reg15=X'300C '		代替 PROCLIB メンバーの読み取りエラーです。レジスター 2 は、BPERDPDS からの戻りコードです。この異常終了の前に、エラーに関する追加情報が記載されたメッセージ BPE0002E があります。
Reg15=X'3010 ''		DFSDFxxx PROCLIB メンバーの指定されたセクションの構文解析エラーです。レジスター 2 は、BPEPARSE からの戻りコードです。この異常終了の前に、エラーに関する追加情報が記載されたメッセージ BPE0003E があります。
Reg15=X'3014 '		代替 PROCLIB メンバーの構文解析エラーです。レジスター 2 は、BPEPARSE からの戻りコードです。この異常終了の前に、エラーに関する追加情報が記載されたメッセージ BPE0003E があります。

DFSFDLBO の場合：

イムス物理ロガーは、下位のモジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、物理ロガー DFSFDLBO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 およびレジスター 10 には、システム目録ディレクトリー (SCD) とログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出されたアドレスが入っています。レジスター 15 に、ゼロ以外の戻りコードが DFSBCB または DFSBRLSC マクロから入っています。

キー	ラベル	解説
Reg14= A (呼び出し元) DFSBCB	GETA 0100 年	DFSBCB マクロが非同期作業エレメント (AWE) 域の取得に失敗し、レジスター 15

キー	ラベル	解説
Reg15=戻りコード		にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=A(呼び出し元) DFSBRLSC Reg15=戻りコード	正しい くない TE05 40	DBRC 障害発生後、DFSBCB マクロがレジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。レジスター 15 のバイト 2 には X'04' 戻りコードがあり、DBRC 戻りコードは、レジスター 15 のバイト 3 に設定されています。

DFSFDLDO の場合：

イムスログ・タイマー・タスクが、DFSBCB マクロからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSBCB マクロによって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル DLDA0100 の下の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 およびレジスター 10 は、システム目録ディレクトリー (SCD) とログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスです。レジスター 15 に、DFSBCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg15=戻りコード	DLDA01 00	非同期作業エレメント (AWE) が要求されたときに、DFSBCB マクロが失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

DFSFDLGO の場合：

イムス物理ロガーが、STCK または LRA 命令、または IMODULE または DFSBCB 要求のいずれかから、ゼロ以外の条件コードを受け取りました。

0071 は、物理ロガー DFSFDLGO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 およびレジスター 10 には、システム目録ディレクトリー (SCD) とログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出されたアドレスが入っています。IMODULE 戻りコードの説明

については、イムスシステム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

キー	ラベル	解説
Reg14=A(呼び出し元) アイモジュール Reg15=戻りコード インポート・モジュール	ムストロペン メストレスト	再始動ログ読み取りルーチンに対する IMODULE ロードが失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg15=X'80'	CKCP0600	STCK 命令は、プログラム状況ワード (PSW) 内でゼロ以外の条件コードを設定しました。時刻の値が正しく設定されなかったか、または時刻タイマーが作動不能になっています。
Reg15=X'84'	CKCP0700	LRA 命令は、プログラム状況ワード (PSW) 内でゼロ以外の条件コードを設定しました。z/OS システム ページング機構が損傷しています。
Reg14=A(呼び出し元) DFSBCB Reg15=戻りコード	GETA0100年	DFSBCB マクロは、非同期作業エレメント (AWE) 域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

DFSFDLS0 の場合：

0071 は、DBRC 出口 (例えば、OPEN、CLOSE、SWITCH、および STATUS) からエラー戻りコードを受け取ったときに DFSFDLS0 によって発行される標準異常終了です。

発行されたメッセージを参照して、失敗した DBRC 出口コードおよび戻りコードを示します。

DFSFLG0 の場合：

イムス 論理ロガーは、DFSBCB マクロからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSBCB マクロによって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル LOGAB071 の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11、レジスター 10、およびレジスター 9 には、システム目録ディレクトリー (SCD)、ログ制御ディレクトリー (LCD)、および DECB のアドレスが入っています。レジスター

15 に、DFSBCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg15=戻りコード	ラウェ0100	非同期作業エレメント (AWE) が要求されたときに、DFSBCB マクロが失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが戻されました。
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=X'80'	レイジエット0500	STCK 命令は、プログラム状況ワード (PSW) 内でゼロ以外の条件コードを設定しました。時刻の値が正しく設定されなかったか、または時刻タイマーが作動不能になっています。

DFSHSRVO の場合：

IMS/VS ホット・スタンバイの dasd/リンク監視モジュールが、下位のモジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、ホット・スタンバイ監視モジュール DFSHSRVO によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSHSRVO は、低レベル・モジュールを呼び出して、メモリーの取得、メモリーの解放、ITASK の作成を行います。ゼロ以外の戻りコードによって示されるモジュールの 1 つによる障害が、この異常終了の結果として出されます。レジスター 14 は、異常終了の原因となった指定された低位モジュールへの分離に使用されます。

レジスター 12 は基底レジスターです。レジスター 11 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出されたアドレスが入っています。レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが入っています

キー	ラベル	解説
Reg14= A (呼び出し元) DFSBCB FUNC=GET または REL Reg15=戻りコード	SRVADS D1 SRVALN K1	DFSBCB マクロは、AWE 域の取得または解放に失敗しました。ゼロ以外の戻りコードが返されました。
Reg14= A (呼び出し元) DFSCIR FUNC=ITASK Reg15=戻りコード	SRVADS D1 SRVALN K1	DFSCIR マクロは、ITASK の作成に失敗し、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。

DFSPCC30 の場合：

0071 は、DFSPCC30 によって発行される標準異常終了です。DFSPCC30 は、特定の初期化を行うために下位モジュールを呼び出します。0071 は、下位レベルのモジュールのいずれかから、ゼロ以外の戻りコードが

DFSPCC30 に戻された結果です。これには、DFSDLBLO、または CICS® の DFSIINDO が含まれます。付随するメッセージがない場合は、ゼロ以外の戻りコードの理由を調べてください。

キー	ラベル	解説
Reg3=A(PXPARMS) Reg1=CCCCUUU CCCC=完了コード UUUU=ユーザー異常終了タイプ Reg15=戻りコード		PDIR または DDIR の初期化が失敗したか、DL/I 制御ブロックの作成に失敗したか、あるいはその両方。

DFSPRSLO の場合：

0071 は、DFSPRSLO によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
R15=X'0000100C' R0=戻りコード： IMODULE GETMAIN		BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できません。
R15=X'00001010' R0=戻りコード： IMODULE GETMAIN		BPEPARSE 文法の実出力域用のストレージを取得できません。
R15=X'00002008' R0=戻りコード： ブピパース		DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバー内に必須の LOGGERS セクションが見つかりません。
R15=X'0000200C' R0=戻りコード： ブピパース		DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの LOGGERS セクションの構文解析中にエラーが発生しました。この異常終了の前に、エラーに関する追加情報が記載されたメッセージ BPE0003E があります。
R15=X'00002010' R0=戻りコード		IMS の始動時に、必要な DFSDFxxx メンバーが指定されませんでした。この異常終了の前に、メッセージ DFS2205I が出力される

キー	ラベル	解説
ド： ブピパース		DFSDFxxx メンバーには、LOGGERS セクションが入っていないなければなりません。

DFSRCFSO の場合：

ラクトール (RCF TCB) AWE プロセッサ・モジュールが、下部モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSRCFSO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、ABEND (SVC 13) が発行された位置に続く命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスタ 12 は、このモジュールの基底レジスタです。レジスタ 11 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスタ 15 に異常終了サブコードが入っています。

キー	ラベル	解説
アイモジュール Reg15=戻りコード		IMODULE GETMAIN が失敗し、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

DFSRRDB30 の場合：

0071 は、DMB および PSB がロードされているときに ACBLIB 問題が検出された場合に、DFSRRDB30 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=4		PSB および DMB ディレクトリーを初期化するために、DFSRRDB30 が呼び出されます。システムは、障害の原因を説明するメッセージ DFS822I、DFS824I、DFS825I、または DFS831I を発行します。
Reg15=8		RM がアクティブではないため、ACBSHR=Y が設定されていません。

DFSRESPO の場合：

0071 は、DFSRESPO によって発行される標準異常終了です。DFSRESPO は、特定の機能を実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、ゼロ以外の戻りコードが、下位レベルのモジュールの 1 つから

DFSRESPO に戻された結果です。異常終了への入り口の PSW は、異常終了を発行するラベル ABND071 を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 が、KEY として使用されます。

12 は基底レジスターであり、レジスター 15 には戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg15=DFSCB CB リターン コード	M01511 号	DFSBCB マクロが残余リカバリー・エレメント (RRE) 域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=BAL Reg15=DFSCB CB リターン コード	M10151 2	DFSBCB マクロが RRE 域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=BAL Reg15=DFSCB CB リターン コード	シック スポル ド	DFSBCB マクロは、サブシステム索引項目 (SIDX) 域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。

DFSBCB FUNC=GET からの戻りコード (10 進数) は、レジスター 15 に入っています。DFSBCB 戻りコードの説明については、イムスシステム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg15=DFSCB TS 戻り コード	5 月 91 日	DFSCBTS マクロが、TYPE=SIDX の RRE のエンキューに失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg14=BAL Reg15=DFSCB TS 戻り コード	- M1015 15	DFSCBTS マクロが、TYPE=SIDX の RRE のエンキューに失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg14=BAL Reg15=DFSCB TS 戻り コード	シック スプレ ッド 0	DFSCBTS マクロが、TYPE=SIDX のための SIDX のエンキューに失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

DFSCBTS マクロの戻りコード (10 進数) がレジスター 15 にあり、以下のリストに示されています。

コード 説明

- 4 チェーンの終わり (SCAN)

- 8 ブロックが見つかりませんでした。

- 12 無効な機能コード

- 16 要素タイプが設定されていません。

- 20 要素アドレスが設定されていません。

- 24 デキューされるエレメントがチェーン上にありませんでした。

- 28 制御ブロック・テーブル (CBT) エントリーが見つかりませんでした。

- 32 ページ番号/バッファ・オフセットが無効です

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻りコード	スキ ャン 5	IMODULE GETMAIN マクロがストレージの取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが戻されました。IMODULE 戻りコードの説明については、イムスシステム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

DFSRST00 の場合 :

0071 は、DFSRST00 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSRST00 は、拡張リカバリー機能 (XRF) アクティブ・システム内の共用キュー・サブシステムを登録して接続しようとしたが、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。異常終了への入り口の PSW は、異常終了 SVC を指しています。

キー	ラベル	解説
R3=戻りコード R12=DFSRST00 ベース Reg14=呼び出しの戻りアドレス	レスタ 019	共用キュー・システムへの登録および接続の呼び出しが失敗しました。

DFSRLP00 の場合 :

0071 は、DFSRLP00 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFSRLP00 が、XRF アクティブ・システム内の共用キュー・サブシステムを登録および接続しようとしたが、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。異常終了への入り口の PSW は、異常終了 SVC を指しています。

キー	ラベル	解説
R3=戻りコード R12=DFSRLPO 0 ベース Reg14=呼び出しの戻り アドレス	レジスタ 019	共用キュー・システムへの登録および接続の呼び出しが失敗しました。

DFSSQ012 の場合：

0071 は、共用キュー・パラメーター処理モジュール DFSSQ012 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'0001 '		IMODULE GETSTOR が、DFSSQM ブロックのために失敗しました。レジスター 2 は、IMODULE マクロからの戻りコードです。
Reg15=X'0002 '		モジュール DFSDFN20 の IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 2 は、IMODULE マクロからの戻りコードです。
Reg15=X'0003 '		パラメーター検証が失敗しました この異常終了の前に、エラーを説明する 1 つ以上の DFS0779E メッセージが出されます。
Reg15=X'0004 '		IMODULE GETSTOR が IB ブロックのために失敗しました。レジスター 2 は、IMODULE マクロからの戻りコードです。

DFSXBAT0 の場合：

下位の初期化要求が失敗しました。

0071 は、バッチ TCB ITASK 作成モジュール DFSXBAT0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、プログラム状況ワード (PSW) が、ABEND (SVC 13) の発行元のコマンドを指しています。

異常終了時のレジスター 12 は、基底レジスターであり、レジスター 4 はシステム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。

キー	ラベル	解説
Reg4=A(SCD) Reg14=BAL	アベン ド	初期設定要求の後、ゼロ以外の戻りコードが DFSXBAT0 に渡されました。レジスター 14 は、ゼロ以外の戻りコ

キー	ラベル	解説
Reg15=戻りコード		ードが検出された後の BAL 命令を指します。
Reg14=BAL Reg15=00000 00C	アベン ド	R14 はラベル USESSM の後に BAL を指しています。R15 は、PROCLIB 内のサブシステム・メンバー (SSM) が、2 つ以上の外部サブシステムを指定していることを示します。DL/I または DBB バッチ・ジョブに使用できる外部サブシステムは 1 つだけです。
Reg14=BAL Reg15=xxxxyy	XLICO 135	DFSFTINO が初期設定中にエラーを検出しました。xxxx は、以下のリストに示されている理由コードの後に、下位サービスからの戻りコードが示されています。
		法 意味 0004 IMODULE GETMAIN が失敗しました。yyyy - は IMODULE 戻りコードです。 0008 DFSLOADL が失敗した。yyyy - は、DFSLOADL 戻りコードです。

DFS3DF10 の代わりに DFSXBAT0 に対して出される場合：

0071 は、モジュール DFS3DF10 の代わりにモジュール DFSXBAT0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。DFS3DF10 異常終了は、イムスカタログ初期設定に関連しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'1003 '		パラメーター検証が失敗しました この理由コードによる異常終了は、通常、イムスの DFSDF 三十メンバーに、ALIAS パラメーターが欠落していることが原因です。PROCLIB データ・セット。
Reg15=X'1004 '		GETMAIN の失敗。
Reg15=X'1008 '		IMODULE をロードできませんでした。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'3000		BPESTART が失敗した。
Reg15=X'3002		BPERDPDS が失敗しました。
Reg15=X'3004		DFSDF 三十メンバーを構文解析するための BPEPARSE 文法のコピーを保管するためのストレージを取得できません。
Reg15=X'3008		BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できません。
Reg15=X'3010		DFSDF 三十 PROCLIB メンバーの指定されたセクションの構文解析エラーです。
Reg15=X'3012		DFSDF 三十 PROCLIB メンバーまたはカタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) のいずれかのカタログ・セクションで、パラメーターの組み合わせが無効です。
Reg15=X'3014		DFSDFxxx PROCLIB メンバーまたはカタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) の CATALOG セクションのいずれかで提供される DSN の構文解析エラー。

DFSXCIC0 の場合：

0071 は、制御タスク初期設定コントローラー DFSXCIC0 によって発行される標準異常終了です。DFSXCIC0 は、制御タスク初期化機能を実行するために下位モジュールを呼び出します。これらのモジュールのいずれかによって障害が発生し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが示された場合は、異常終了 0071 が出されます。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、以下の表に示されている特定のラベルに分離します。レジスター 12 は基底レジスターです。レジスター 11 は、SCD へのポインターです。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg15=X'04 'または X'0C'	カリー リンド	PSB および DMB ディレクターを初期化するために、DFSIIND0 が呼び出されます。レジスター 15 の戻りコードが X'04' の場合、システムは、障害の原因 (DFS822I、DFS823I、DFS824I、DFS825I、または DFS831I) を提供する以下のメッセージのいずれかを発行します。戻り

キー	ラベル	解説
		コードが X'0C' の場合、DFSIIND0 は、常駐 DMB のロードを準備しているときに、内部論理エラーを検出しました。
Reg15=戻り コード	ノドリ ス 1	DFSXIIOB0 は、VSAM および OSAM バッファ・プールを初期設定し、メッセージ・キュー・バッファ・プールをページ固定するために呼び出されます。
Reg14=BAL	ノドリ ス 1	通信機能を初期設定するために、DFSIINB0 が呼び出されます。
Reg14=BAL	ノカン クヴェ ト	DFSIFIX0 は、ユーザーの指示に従ってストレージを修正するために呼び出されます。
Reg15=戻り コード	XCIC51 00 指数	API コンポーネントを PC ルーター・サービスに接続するために、DFSPCR00 が呼び出されました。
Reg14=BAL Reg15=戻り コード インポー ト・モジュー ル	ノドリ ス 4	モジュール DFSCST00 の IMODULE LOAD が正常に実行されませんでした。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg15=理由 コード	スкас 340	DFSSQ020 が呼び出され、共用キューの登録および接続が実行されました。この異常終了コードと共に、障害の原因を示すメッセージ DFS1936E またはメッセージ DFS4455E および DFS3308E が発行されます。理由コード： X'0101' CQSREG 要求が失敗しました。 X'0102' CQSCONN 要求が失敗しました。 X'0103' CQSCONN 要求がメッセージ・キュー (MSGQ) 構造エラーで失敗しました。 X'0104' CQSCONN 要求が、急送メッセージ・ハンドラー・キュー (EMHQ) 構造エラーのために失敗しました。 X'0105' CQSCONN 要求が失敗し、MSGQ および EMHQ 構造エラーが発生しました。 X'0106' MSGQ 構造属性 WAITRBLD が正しくありません。 X'0107' EMHQ 構造属性 WAITRBLD が正しくありません。 X'0108' IMODULE GETSTOR 要求が失敗しました。 X'0109' MSGQ または EMHQ 構造の CQSUNLCK FORCE が失敗しました。

DFSXCTL0 の場合：

0071 は、DFSXCTL0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=戻り コード	異常終了2	下位のサービスからゼロ以外の戻りコードが返されました。レジスター 14 は、エラー

キー	ラベル	解説
		を検出したモジュール DFSXCTL0 内の位置を指しています。

DFSXCTX0 の場合：

0071 は、モジュール DFSXCTX0 によって発行される標準異常終了です。

DFSXCTX0 は、特定の初期化を実行するために下位モジュールを呼び出します。異常終了 0071 は、下位のモジュールの 1 つから、ゼロ以外の戻りコードが DFSXCTX0 に戻されたことを示すものです。

異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令を指しています。SVRB 内のレジスター 15 には、異常終了サブコードが含まれています。

キー	ラベル	解説
Reg15=X '01'		QSAV の DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。
Reg15=X '02'		DFSCDSP が、制御補助 TCB のためのイムス ディスパッチャー作業域の作成に失敗しました。レジスター 8 に、DFSCDSP 戻りコードが入っています。

DFSXDCC0 の場合：

0071 は、DFSXDCC0 によって発行される標準異常終了です。DFSXDCC0 は、特定の初期化タスクを実行するために下位モジュールを呼び出します。0071 は、下位レベルのモジュールの 1 つからゼロ以外の戻りコードが DFSXDCC0 に戻された結果です。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離します。レジスター 12 は基底レジスターです。レジスター 15 には戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg15=xxxx yyyy	XDC87 25	DFSFTINO が初期設定中にエラーを検出しました。xxxx は、以下のリストに示されている理由コードを示し、その後下位サービスからの戻りコードが続きます。 法 意味 0004 IMODULE GETMAIN が失敗しました。yyyy - は IMODULE 戻りコードです。 0008 DFSLOADL が失敗した。yyyy - は、DFSLOADL 戻りコードです。

DFSXDGSO の場合：

/ 診断 コマンド DGS TCB 初期設定ルーチン DFSXDGSO が、初期設定時に呼び出された下位モジュールの 1 つからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSXDGSO によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了が発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が異常終了命令 (SVC 13) を指しています。異常終了レジスタのレジスター 12 は、モジュールのデータ域を指しています。レジスター 13 は作業域を指しています。レジスター 15 には異常終了理由コードが入り、レジスター 8 には下位モジュールからの戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'0001 ,		ABENDU0071: サブコード 01 QSAV の DFSBCB GET が失敗しました。 レジスター 8 に DFSBCB からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0002 ,		ABENDU0071: サブコード 02 DGS DWA の DFSCDSP が失敗しました。 レジスター 8 に、DFSCDSP からの戻りコードが入っている。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'0003 ,		ABENDU0071: サブコード 03 IMODULE DGS80 のロードが失敗しました レジスター 8 に、IMODULE からの戻りコードが入っている。
Reg15=X'0004 ,		ABENDU0071: サブコード 04 DFSCWU ITASK の作成が失敗しました レジスター 8 に、DFSCWU からの戻りコードが入っている。
Reg15=X'0005 ,		ABENDU0071: サブコード 05 DGS の IPOST POST が失敗しました レジスター 8 に IPOST からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0006 ,		ABENDU0071: サブコード 06 AWE の DFSBCB GET が失敗しました レジスター 8 に DFSBCB からの戻りコードが入っています。
Reg15=X'0007 ,		ABENDU0071: サブコード 07 DGSAQ INIT エンキューが失敗しました レジスター 8 に DFSBCB からの戻りコードが入っています。

DFSXDLGO の場合：

イムス システム・ログ初期設定モジュールが、下位のモジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、ログ初期設定モジュール DFSXDLGO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、ABEND (SVC 13) が発行された位置に続く命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。

す。レジスター 14 に、障害が検出されたアドレスが入っています。レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが入っています

キー	ラベル	解説
Reg14=A(呼び出し元) DFSBCB 機能 = 取得 Reg15=戻り コード	DFSXDLG 0	DFSBCB マクロが QSAV 域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=A(呼び出し元) アイモジュール Reg15=戻り コード	DFSXDLG 0	モジュール DFSXLGIO の IMODULE LOAD が失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=A(呼び出し元) DFSCDSP 機能 = 作成 Reg15=戻り コード	ディップ 0100	DFSCDSP がディスパッチャー作業域の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=A(呼び出し元) DFSCIR 機能 = ITASK Reg15=戻り コード	エンキ 90236 DLOG030 0 DLOG040 0 MLOG020 0 は、	DFSCIR が ITASK の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。

DFSXDYAO の場合：

イムス 動的割り振り初期設定ルーチンが、下位レベルのモジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSXDYAO によって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了が発行される命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 14 に、障害が検出されたアドレスが入っています。レジスター 15 に、失敗したサービスからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg14=A(呼び出し元)	XDYAO 10 形	DFSBCB GET 機能が失敗しました。R15 には、DFSBCB 戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg15=戻り コード		
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻り コード	XDYAO 30 XDYAO 40 は、	IMODULE GETMAIN 機能が失敗しました。R15 には、IMODULE 戻りコードが入っています。
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻り コード	ジア 120 ジア 125 ジア 140 シュデ ィア 145	DFSCDSP CREATE 機能が失敗しました。R15 には、DFSCDSP 戻りコードが入っています。
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻り コード	X ディ ーア 130 ジア百 三十五 XDYA1 50 形	DFSCWU 作業単位の作成に失敗しました。R15 には、DFSCWU 戻りコードが入っています。
Reg14=A(呼び出し元) Reg15=戻り コード	ントゲ ムーン	NAME TOKEN SERVICES CREATE 要求 (IEANTCR) が失敗しました。R15 には IEANTCR 戻りコードが含まれています。

DFSXLGIO の場合：

イムス システム・ログ初期設定モジュールが、下位モジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取ったか、または LRA 命令が失敗しました。

0071 は、ログ初期設定モジュール DFSXLGIO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行されたラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出されたアドレスが入っています。レジスター 15 に、IMS AUTH または DFSQCSS からのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg14=A(呼び出し元) イムザウス Reg15=戻りコード Reg10=A(LCD)	イル CD130 0	LCD の IMSAUTH FUNC=PGFIX が失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=A(呼び出し元) ドフスクス Reg15=戻りコード	ログ B0320 XLG02 60	バッチ・ロガーの IMODULE LOAD が失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=A(呼び出し元)	XLG00 80	イムス PROCLIB の DFSDFxxx メンバーに、 OLDSDEF または WADSDEF 制御ステートメントが欠落 しています。異常終了の前に メッセージ DFS2205I が発 行されました。

DFSXLICO の場合：

0071 は、DFSXLICO によって発行される標準異常終了です。DFSXLICO は、特定の初期化タスクを実行するために下位モジュールを呼び出します。異常終了 0071 は、下位レベルのモジュールの 1 つからゼロ以外の戻りコードが DFSXLICO に戻された結果です。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離します。レジスター 12 は基底レジスターです。レジスター 15 には戻りコードが入っています。指定タスク異常終了 (STAE) 作業域を確立できない場合、STAE 戻りコードは以下のとおりです。

コード 説明

X'00'

ワークエリアの作成

X'04'

要求がキャンセル

X'08'

作業域オーバーレイ

キー	ラベル	解説
Reg14=BA L		永続プールをビルドおよびフォーマットするための DFSIINSO を呼び出します。
Reg14=BA L Reg15=xxx yyyyy	XLIC01 35	DFSFTINO が初期設定中にエラーを検出しました。xxxx は、以下のリストに示されている理由コードを示し、その後下位サービスからの戻りコードが続きます。

キー	ラベル	解説
		法 意味 0004 IMODULE GETMAIN が失敗しました。yyyy - は IMODULE 戻りコードです。 0008 DFSLOADL が失敗した。yyyy - は、DFSLOADL 戻りコードです。
Reg14=BA L	免許 3	ITASK 初期設定の終了/変更を実行するために、DFSTMOD0 が呼び出されます。
Reg15=ゼロ		高速機能の場合、DFSXLICO のバインディングに DBFIFLIO が含まれていませんでした。
Reg15=ID M1 Reg15=ID M2 Reg15=ID M3 Reg15=ID M4 Reg15=ID M5 Reg15=ID M6		DFSIIDM0 は、以下のいずれかの原因を戻します。 • DFSPPOOL AOIP の割り振りが失敗しました。 • 制御ブロックの AOIP ストレージ要求が失敗しました。 • DFSA0E00 の標準ユーザー出口定義が失敗しました。 • DFSA0E00 または別の AOIE タイプのユーザー出口作業域に対する AOIP ストレージ要求が失敗しました。 • DFSA0E00 または別の AOIE タイプのユーザー出口インターフェース・ブロックに対する AOIP ストレージ要求が失敗しました。 • DFSA0SC0(ICMD セキュリティー・モジュール) のロードに失敗しました。
Reg14=BA L		オンライン変更ブロックを処理するために、DFSIIOC0 が呼び出されます。

DFSXRCFO の場合：

イムス システム初期設定モジュールが、下位のモジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、システム初期設定モジュール DFSXRCFO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行されると、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、ABEND (SVC13) が発行された位置に続く命令を指しています。

異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 15 に異常終了サブコードが入っています。これらのサブコードについて詳しくは、メッセージ DFS2930I を参照してください。

キー	ラベル	解説
Reg15=X '01'		QSAV に対する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB からゼロ以外の戻りコードが入っています。
Reg15=X '02'		DFSCDSP が、ラクトール (RCF) 用の イムス ディスパッチャー 作業域の作成に失敗しました。TCB。レジスター 8 に、DFSCDSP からゼロ以外の戻りコードが入っています。
Reg15=X '06'		DFSRCFSO 作業ブロックについて、IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 8 にゼロ以外の IMODULE 戻りコードが入っています。
Reg15=X '07'		DFSCIR が ITASK の作成に失敗しました。レジスター 8 に、DFSCIR からゼロ以外の戻りコードが入っています。

DFSXSL10 の場合：

DFSXSL10 が、下位レベルのモジュールからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

0071 は、DFSXSL10 によって発行される標準異常終了です。DFSXSL10 は、タスク初期化機能を実行するために下位モジュールを呼び出しますこれらのモジュールのいずれかによって障害が発生し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが示された場合、結果は 0071 になります。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離します。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 11 は SCD へのポインターです。

異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令を指しています。障害が検出されたアドレスは、レジスター 14 に含まれています。SVRB 内のレジスター 15 には、異常終了サブコードが含まれています。

キー	ラベル	解説
Reg14=A(呼び出し元) DFSBCB		DFSBCB マクロが QSAV 域の取得に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。

キー	ラベル	解説
Reg15=1		
Reg14=A(呼び出し元) DFSCDSP Reg15=2		DFSCDSP がディスパッチャー 作業域の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードが戻されました。
Reg14=A(呼び出し元) ドッシャリ Reg15=3		DFSCIR は、DFSOCMO のための ITASK の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元) ドッシャリ Reg15=5		DFSCIR は、DFSSINPO に対する ITASK の作成に失敗し、レジスター 15 にゼロ以外のコードを戻しました。

DFSXSTM0 の場合：

0071 は、DFSXSTM0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。これは、特定の初期化機能を実行するために下位モジュールを呼び出します。

共用キューの初期設定が失敗したことを DFSXSTM0 が検出すると、この異常終了の前に、メッセージ DFS2930I および DFS1936E がシステム・コンソールに発行されます。これらのメッセージは、障害の理由を示します。メッセージ DFS2930I の理由コードとエラー・コードも、ダンプ内に示されています。レジスター 15 に、共用キューの初期設定障害を示す理由コード X'16' が入っています。レジスター 3 には、失敗した機能を識別するエラー・コードが入っています。これらのコードについて詳しくは、メッセージ DFS2930I を参照してください。

共通サービス層 (CSL) の初期設定中に DFSCSL00 がエラーを検出すると、モジュール DFSXSTM0 はメッセージ DFS2930I を理由コード X'18' および 0071 で発行します。

以下の理由コードは、DFSCSL00 によって検出されたエラーの結果です。

コード 説明

1004

GETMAIN からの RC

1008

IMODULE ロードからの RC

100C

DFSLOADL からの RC

1010

DFSBCB からの RC

1014

ATTACH からの RC

1018

DFSBCB からの RC

101C

DFSSQPP からの RC

以下の理由コードは、DFSCSL10 によって検出されたエラーの結果です。

コード 説明

2004

DFSCGxxx PROCLIB メンバーの問題が検出されました。詳細については、メッセージ DFS3305E を参照してください。

200C

OLC=GLOBAL が指定されたが、OLCST が指定されていない。

DFSXWTR0 の場合：

異常終了 0071 は、モジュール DFSXWTR0 によって発行される標準異常終了です。

DFSXWTR0 は、特定の初期設定を実行するために下位モジュールを呼び出します。異常終了 0071 は、下位のモジュールの 1 つから、ゼロ以外の戻りコードが DFSXWTR0 に戻されたことを示すものです。異常終了への入り口の PSW は、異常終了が発行された命令を指しています。異常終了時のレジスター 15 に異常終了サブコードが入っています。異常終了時のレジスター 8 に、失敗したサービスからの戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
R15=X'01'	ローラット 01	QSAV の DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。
R15=X'02'	ローラット 02	DFSCDSP が、WTR TCB 用の イムス ディスパッチャー作業域を作成できませんでした。レジスター 8 に、DFSCDSP 戻りコードが入っています。

システムの処置

イムスは異常終了する。

オペレーターの応答:

緊急時再始動 イムス 処理を再開する。

問題判別:

1, 4, 15, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール

DBFXFP00、DBFXFP10、DFSCSL10、DFSCSL10、DFSDFN20、DFSFDLB0、DFSFDLG0、DFSFDLG0、DFSFDLG0、DFSFDLB0、DFSFDLB0、DFSFDLB0、DFSPPCC30、DFSRCF0、DFSSQ012、DFSSQ012、DFSXCIC0、DFSXCTLO、DFSXCT0、DFSXCT0、DFSXCT0、DFSXRFC0、DFSXSTG0、DFSXST0、DFSXWTR0、DFSXST0、DFSXST0、DFSXST0、DFSXRFC0、DFSXRFC0、DFSXRFC0、DFSXRFC0、DFSXST0、DFSXST0、DFSXWTR0、DFSXWTR0、DFSDFDB0、DFSXDGS0、DBFXFP20、DFSPPRSLO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[DFS0887A \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS2930I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0072

説明

ログ・データ・セットに対して発行された DEVTYPE または TRKCALC マクロによって、ゼロ以外の戻りコードが発行されました。データ・セット (DD 名) は、IMS バッチの場合は IEFORDER または IEFORDER2、IMS オンラインの場合は DFSOLPnn、DFSOLSnn、または DFSWADSn であった可能性があります。

分析

0072 は、DFSXLGIO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、DEVTYPE

または TRKCALC マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=A(呼び出し元) DEVTYPE Reg15=戻りコード	ABEND 072	DEVTYPE マクロが、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg14=A(呼び出し元) TRKCALC Reg15=戻りコード	WADSO 200	TRKCALC マクロが、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

ログ・データ・セットを定義する有効な DD ステートメントがあるかどうかを確認します。オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) および先行書き込みデータ・セット (WADS) に対して DASD 装置が指定されているかどうかを確認します。同じ DASD 装置タイプがすべての WADS に対して指定されているかどうかを確認します。

問題判別

必要なアクションはありません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXLGIO

0073

説明

オンライン初期設定時または再始動時に、十分な数の有効なログ・データ・セットが存在しませんでした。IMS オンラインでは、少なくとも 3 個のオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) および 1 個の先行書き出しログ・データ・セット (WADS) が必要です。OLDS ブロック・サイズが、ログ・レコード X'3A' を処理するために十分な大きさではありません。

DBRC がアクティブでない場合、必須の IEFORDER DD ステートメントが欠落しています。

DBRC がアクティブな場合、IEFORDER DD ステートメントが欠落しているか、あるいは DD DUMMY または

DSN=NULLFILE (ヌル・データ・セット) が指定されました。レジスター 15 に理由コードが入っています。

あるいは、DFSDFxxx PROCLIB メンバー内の OLDSDEF ステートメントの BLKSIZE= パラメーターで指定された OLDS ブロック・サイズが無効です。

分析

DFSFDLSO の場合:

IMS に与えられたログ・データ・セットの数が不十分です。

0073 は、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動中に、物理ロガー DFSFDLSO によって発行される可能性がある標準異常終了です。IMS リカバリー・リソースを保護するために、この異常終了はメモリー・ダンプを生成しません。

OLDS ブロック・サイズの大きさが不十分です。最小ブロック・サイズは、以下の項目のサイズの合計です。

項目	項目の値の取得場所	現行値
ブロック記述子ワード	定数	4 バイト
X'4800' レコード	DFSPALOG 部分の PARECLEN	58 バイト
X'3A' レコード	QLFXFREE 部分の L3ABASE、DFSLOGRC 部分のレコード接尾部の長さ、およびラージ・メッセージ・キュー・レコード・サイズを加算した値	32 バイトに、ラージ・メッセージ・キュー・レコード・サイズを加算した値

この再始動の前に、オンライン・データ・セット (OLDS) でいくつかの入出力エラーが発生した可能性があり、必要な新規またはエラー・フリーの OLDS の数が不足していました (2 個より少ない)。

DFSPRSLO の場合:

IMS ロガーは、DFSDFxxx PROCLIB メンバーの LOGGER セクションに指定されているパラメーターに関する問題を検出しました。

キー	ラベル	説明
R15= X'14'		WADSDEF パラメーターで指定された WADS データ・セットの数が十分ではありませんでした。単一 WADS の場合、必要な WADS は 1 つのみですが、二重 WADS の場合は使用可能な WADS が 2 つ必要です。

キー	ラベル	説明
Reg1 5=X'0 8'		オンライン・システムの場合、3 個未満の OLDS DD ステートメントが指定されました。バッチ・システムの場合、必要な IEFORDER DD ステートメントが欠落していました。
Reg1 5=X'1 0'		DFSDFxxx PROCLIB メンバーの OLDSDEF ステートメントの BLKSIZE= パラメーターが無効です。2048 の倍数で、かつ 6144 から 30,720 までの値を指定する必要があります。

DFSXLGIO の場合:

IMS に与えられたログ・データ・セットの数が不十分でした。

0073 は、ログ初期設定モジュール DFSXLGIO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行される場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。この異常終了の前に、メッセージ DFS2205I がシステム・コンソールに送信されます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に理由コードが入っています。

DD ステートメントと、事前割り振りオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) の VTOC を確認してください。

キー	ラベル	説明
Reg15 =X'08'	ABE NDO 73	オンライン・システムの場合、3 個未満の OLDS DD ステートメントが指定されました。バッチ・システムの場合、必要な IEFORDER DD ステートメントが欠落していました。
Reg15 =X'0C'	ABE NDO 73	OLDS ブロック・サイズが小さ過ぎるか、2048 の倍数ではありませんでした。

DFSXLICO の場合:

DD DUMMY パラメーターまたは DSN=NULLFILE が指定されましたが、DB/DC 環境、IRLM を使用するバッチ環境、および処理意図が更新の場合は DBRC を使用するバッチ環境のいずれでもシステム・ログに対してサポートされません。

0073 は、ラベル ABEND4 でモジュール DFSXLGIO によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了

SVRB 内のレジスター 10 の BAL を使用して、該当するラベルを判別する必要があります。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1 0=BA L	GETJF CB	このルーチンは、IEFRDER が DD DUMMY として指定されていないことを確認します。DEVTYPE マクロは、DDNAME と出力域 (DEVAREA) をパラメーターとして提供します。この出力域は 5 ワードの長さで、装置特性を IMS に提供するためにオペレーティング・システムによって使用されます。SVC 24 の完了後にこの出力域に移動されたデータがあるかどうかを判別するための検査が行われます。この検査は「And Characters」命令 (NC): によって行われます。この命令は、それ自身にゼロを追加します。結果がゼロの場合 (データが提供されなかったことを示します)、異常終了が発生します。
Reg6 =JFC B Reg1 0=BA L	(ラベ ルの直 前の) GETJF 1	このルーチンは、DSNAME が NULLFILE ではないことを確認します。定数 NULLFILE と JFCBDSNM フィールドの間で比較が行われます。比較の結果が等しい場合、異常終了が発生します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

必要なログ・データ・セットに対して、十分な数の有効な DD ステートメントを使用してジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSFDLS0、DFSXLGIO、DFSXLICO、DFSPRSL0

0074

説明

RDJFCB マクロでゼロ以外の戻りコードがシステム・ログまたはモニター・ログに対して発行されました。

分析

0074 は、DFSXLGIO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、

異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 に、RDJFCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=A(DC B) Reg15=	ABEND 074	この DCB の RDJFCB マクロが失敗しました。DDNAME は DCBDDNAM フィールドにあります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別

4、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSXLGIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0075

説明

IMS ログの初期設定で、無効なログ装置特性が検出されました。磁気テープ装置の場合、IMS バッチ・システム・ログは標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベルがなければなりません。IMS OLDS は直接アクセス装置上になければなりません。複式ペアの 1 次 OLDS と 2 次 OLDS は、共に同じ装置タイプ上になければなりません。先行書き出しログ・データ・セットはすべて、同じ直接アクセス装置タイプ上になければなりません。

分析

0075 は、システム・ログ初期設定モジュール DFSXLGIO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 に、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害が検出された場所のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=A(DD 名)	TIOT02 00	DFSWADSx という DD 名を持つ WADS データ・セットが DASD 装置上にないか、あるいは複数の WADS が存在する場合は、装置タイプが異なっています。
Reg3=A(DD 名)	TIOT03 00 TIOT11 00	DFSOLPnn/DFSOLSnn という DD 名を持つ OLDS データ・セットが、DASD 装置タイプ上にありません。
Reg4=A(JF CB) Reg5=A(DC B)	MAKEL OGB	バッチ 1 次ログ (IEFRDR) が磁気テープ上にありますが、これには標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベルが付いていません。
Reg4=A(JF CB) Reg5=A(DC B)	LOGBO 340	バッチ 2 次ログ (IEFRDR2) が磁気テープ上にありますが、これには標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベルが付いていません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

ログ・データ・セット用の DD ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSXLGIO

0076

説明

この異常終了は、カップリング・ファシリティ・サービスに対して、以下のいずれかの初期設定処理によって発行されます。

- 制御アドレス・スペース初期設定
- DL/I 従属アドレス・スペース初期設定

レジスター 3 に異常終了理由コードが入っています。レジスター 15 に、エラーを検出したシステム・サービ

ス (例えば、IMODULE) からの戻りコードが入っています。

分析

DFSTRA00 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg3=X'0 1'	ABEN D76	キー 7 CFB 用の IMODULE GETSTOR が失敗しました。

DFSXCFB0 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg3=X'0 2'	ABEND 76	DFSDCFR0 の IMODULE LOAD が失敗しました。DFSDXES0 の
Reg3=X'0 3'	ABEND 76	IMODULE LOAD が失敗しまし た。DFSDENF0 の IMODULE
Reg3=X'0 4'	ABEND 76	LOAD が失敗しました。 DFSMDAWO の IMODULE LOAD
Reg3=X'0 5'	ABEND 76	が失敗しました。CFR AWE の ための IMODULE GETMAIN が
Reg3=X'0 6'	ABEND 76	失敗しました。ENFREQ LISTEN 要求が失敗しました。
Reg3=X'0 7'	ABEND 76	

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

障害の原因を判別してください。

問題判別:

1、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSTRA00、DFSXCFB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0077

説明

初期設定中に **DELETE** 障害が発生しました。

分析

0077 は、ストレージ管理タスク初期設定コントローラ
ー (DFSXSTMO) およびバッチ TCB ITASK 作成モジュー

ル (DFSXBATO) によって発行される可能性がある標準
異常終了です。DFSBCB マクロの呼び出しの結果が、ゼ
ロ以外の戻りコードでした。

DFSXBATO の場合:

これは、バッチ TCB ITASK 作成モジュール DFSXBATO
によって発行される標準異常終了です。この異常終了
が発行された場合、プログラム状況ワード (PSW) は、
異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指していま
す。

異常終了時のレジスター 12 は基底レジスターであり、
レジスター 4 はシステム目録ディレクトリ (SCD) を
指しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=A(S CD) Reg14=B AL Reg15=戻 りコード	ABEN D	IMODULE DELETE 要求の後、ゼロ 以外の戻りコードが DFSXBATO に渡されました。レジスター 14 は、ゼロ以外の戻りコードが検出 された後の後続の BAL 命令を指 しています。

DFSXSTMO の場合:

0077 は、ストレージ管理タスク初期設定コントローラ
ー DFSXSTMO によって発行される可能性がある標準異
常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワ
ード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離し、異
常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND にある
ルーチン内の命令を指しています。このルーチンへは、
ラベル ABEND8 にあるルーチンによって無条件分岐さ
れ、ラベル ABEND8 のルーチンへは、エラーを検出し
たルーチンによって条件付き分岐されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモ
ジュールの基底レジスターです。レジスター 1 に、異常
終了完了コード X'8000004D' が入っています。レジス
ター 15 に、DPSBCB リリース・マクロからのゼロ以外
の戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=DPS BCB からの 戻りコード	ABEN D	非同期作業エレメント (AWE) を解放するためのルーチン内 で、レジスター 15 の戻りコ ードがテストされ、これがゼロ以 外の場合、異常終了を処理する ためにラベル ABEND8 に分岐 します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSXBAT0、DFSXSTMO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0078

説明

この異常終了は、制御領域の初期設定中に制御ブロック・モジュール (ロード・モジュール DFSBLK00、PI 制御ブロック・モジュール DFSFXC00、または OTMA 制御ブロック・モジュールの DFSYINIO と DFSYIMIO) をロードできなかった場合に発生します。モジュール名の最後の文字は IMS システムの接尾部であり、始動プロシージャの SUF パラメーターによって決定されます。

この異常終了の前にメッセージ DFS1921I が 1 つ以上表示される場合、DFSPBxxx メンバーの構文を検査してください。

分析

0078 は、制御ブロック・モジュール・ローダー DFSXDBIO によって発行される標準異常終了です。モジュール DFSYINIO、DFSBLK0x、または DFSFXC00 に対して IMODULE LOAD が発行されています。ここで x は、IMS 始動プロシージャの SUF パラメーターによって決められる中核接尾部です。OTMA TSCD、MTE、および MCB 制御ブロックを確立するために、DFSYIMIO および DFSYINIO 用に IMODULE GETMAIN が発行されます。Open Transaction Manager Access (OTMA) 制御ブロック用のストレージを取得できない場合、異常終了が発生する可能性があります。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了の場所を分離することができます。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に、障害の原因を示す IMODULE LOAD 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

この異常終了の前に 1 つ以上の MSGDFS1921I が出現する場合は、IMS システム定義情報内の PROCLIB メンバーの指定に関する説明に従って、DFSPBXXX メンバーの構文を確認してください。

キー	ラベル	説明
Reg15→= 0	ABEND0 78	IMODULE LOAD SVC が発行されており、レジスター 15 に IMODULE LOAD 戻りコードがロ

キー	ラベル	説明
		ードされます。レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが入ると、ルーチンは異常終了します。
Reg9=I MODULE LOAD サ ブコード		サブコード=4 DFSBLKx サブコード=8 DFSFXCx サブコード=12 DFSYINIO または DFSYIMIO サブコード=X'C' DFSBLKx または DFSFXCx 以外のモジュールのロード障害。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXDBIO

関連資料

IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0079

説明

この異常終了は、制御領域の初期設定中に IMS 中核のロード・モジュール DFSVNUCs または DFSCNUCs (s は IMS システムの接尾部) をロードすることできなかった場合に発生します。レジスター 15 に、IMODULE LOAD からの戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析

0079 は、中核のロードおよびアドレス解決用のモジュール DFSXNCL0 によって発行される標準異常終了です。モジュール名 DFSVNUCs または DFSCNUCs に対して発行された IMODULE LOAD が失敗しました。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了の発行元であるラベル ABEND079 に分離することができます。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。この問題の解決に関連のある他の SVRB レジスターを以下に示

します。レジスター 15 に、障害の原因を示す IMODULE 戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg3=RGPAR MS アドレス Reg4=IPB ア ドレス Reg8= モジュール名 のアドレス (DFSVNUCs または DFSCNUCs の IMODULE LOAD が失敗 した場合)。 Reg11=SCD アドレス Reg15→=0	ABEND 079	IMODULE LOAD SVC が発行 されており、レジスター 15 に戻りコードがロードされ ます。テスト時に、レジスタ ー 15 にゼロ以外の戻りコー ドが入っている場合、ルーチ ンは異常終了します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:
35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSXNCL0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージ
およびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0080

説明

オーバーフロー 順次アクセス方式 (OSAM) OPEN/
CLOSE/EOV 処理の実行中にエラーが発生しました。

分析

これは、モジュール DFSAOSF0 および DFSAOS10 によ
って発行される標準異常終了です。異常終了への入り
口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC
13) の発行元であるルーチン内の命令を指しています。
このルーチンへの分岐は、エラー状態が検出された時点
で DFSAOSF0 内のさまざまな場所から行われます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 2 の第 4 バイ
トに障害コードが入り、レジスター 2 の第 2 バイトに、
失敗した処理に対応する値が入っています。

レジスター 2、第 2 バイト 失敗した処理

X'10'
入力処理。

X'50'
終了処理

レジスター 8 に、専用域アドレスが入っています。

レジスター 6 は、専用域を指しています。この領域のオ
フセット X'68' に、TIOT 項目のアドレスがあります。
この項目には DD 名が入っています。

以下にリストされた処理タイプでは、異常終了 SVRB レ
ジスターのレジスター 2 に、障害コードが入っていま
す。レジスター 14 は、異常終了ルーチンへの BAL レジ
スターであり、制御が渡された場所のアドレスが入って
います。

入力処理 (ラベル *ENTABxx*)

コード
説明

X'01'
非互換のオペレーティング・システム

X'02'
無効なパラメーター・リストが渡されました。

X'03'
無効な機能コードが検出されました。

X'04'
ベクトル内のゼロの SCD アドレス。

終了処理 (ラベル *OTRMABxx*)

コード
説明

X'01'
CSA DEB のための IMODULE GETMAIN が失敗しま
した。

X'02'
CSA DEB のページの固定化が失敗しました。

X'03'
最終 DEB のページの固定化が失敗しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターへの応答

IMS を再始動し、IMS システム・プログラマーに連絡し
て支援を受けてください。

問題判別
2、3、4

モジュールと作業域の両方を表示するメモリー・ダンプ
を取得します。必要ならば、メモリー・ダンプ・パラメ

ーターを変更するか、または SYSABEND ステートメントを使用して、上記の情報を取得します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSAOSF0、DFSAOS10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0081

説明

IMS IMSAUTH SVC BLDSSCT 機能が、サブシステム制御テーブル (SSCT) を作成できなかったか、終了制御ブロックに SCD アドレスを作成または設定できませんでした。レジスター 14 に、異常終了を呼び出したプログラムのアドレスが入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH BLDSSCT 戻りコードが入っています。IMSAUTH BLDSSCT 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

分析

0081 は、ストレージ管理初期設定コントローラー DFSXSTM0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND のルーチン内の命令を指しています。このルーチンへは、ラベル ABEND9 にあるルーチンによって無条件分岐され、ラベル ABEND9 のルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'80000051' が入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH マクロからの戻りコードが入っています。IMSAUTH BLDSSCT 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg15= 戻りコード		グローバル制御ブロックを取得するためのルーチンで、ラベル IMSSCT で作成された SSCT に SCD アドレスを設定するために IMSAUTH マクロが発行されています。レジスター 15 に戻りコードがロードされた後、戻りコードがテストされます。戻りコードがゼロ以外の場合、異常終了を処理
Reg14= SCD のアドレス		

キー	ラベル	説明
		するためにラベル ABEND9 に分岐します。

システムの処置

IMS 初期設定は異常終了します。

プログラマーの応答

呼び出し元が許可されていない場合、JOB または STEP ライブラリーに許可を与え、DFSPCC30 を再入可能 (RENT) 属性でバインドしてください。

問題判別:

1、4、8、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXSTM0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0083

説明

この異常終了は、メッセージ DFS1920I に ABEND が追加される場合に発生します。実行パラメーターが誤った値に設定されました。この種のエラーは、次の IMS 制御領域実行パラメーターの場合にはリカバリー不能です。

- TRN
- SGN
- RCF
- ISIS

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

パラメーターおよびエラーを訂正してから、IMS を再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

DFS1920I (メッセージおよびコード)

0084

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラムが未定義のデータ・セットにアクセスしようとしていました。

ソース:

IMS 異常終了

0085

説明

オンラインで読み取られたメッセージ・フォーマット・データ・セット (DD 名は FORMATA または FORMATB) ディレクトリー・ブロックが、IMS の初期設定時に読み取られたディレクトリー・ブロックと矛盾しています。

分析

0085 は、事前取り出しまたは即時取り出しによりブロックをストレージに入れるモジュール DFSFDSCO によって発行される標準異常終了です。異常終了への入口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、基底レジスターです。ここには、異常終了時のモジュール DFSFDSCO のエントリー・ポイント・アドレスが入っています。DFSFDSCO 内のラベル SRCHDICT にあるサブルーチンが、要求されたブロックのディスク・アドレス (TTR) を戻します。常駐ディレクトリーがないため (レジスター 8 がゼロ)、区分データ・セット (PDS) 索引を使用してメンバー名を見つけます。レジスター 5 に、PDS 索引内のメンバーへのポインターが入り、レジスター 10 に、フェッチ要求エレメント (FRE) dsect へのポインターが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=PDS 索引内のメンバーへのポインター	DPDS COMP	レジスター 5 とレジスター 9 が比較されます。レジスター 5 のアドレスがレジスター 9 のアドレスより先を指している場合、おそらく PDS が損傷しています。2つのレジスター内のアドレスが等しい場合は、メンバー名を検出せずにブロックの終わりに達したことを意味しており、おそらく、メンバー名はストレージ内にある索引が作成された以降に削除されたものと考え
Reg9=ディレクトリー入出力域終了のアドレス		

キー	ラベル	説明
		えられます。いずれの場合も、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IMS がアクティブの間にメッセージ・フォーマット・データ・セットが更新され、ストレージ内にある索引に対してそれに対応する更新が行われていません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

プログラマーの応答

メッセージ形式データ・セットが、IMS がアクティブな間に更新されていないことを確認します。また、形式ライブラリーを処理装置間で共用するかどうかを決定します。アクティブ・フォーマット・ライブラリーが PDS ファイルであることを確認します。PDS-E は、IMS のメッセージ・フォーマット・データ・セットについてはサポートされていません。

問題判別:

8、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFDSCO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0088

説明

ローカル・ストレージ・オプション (LSO) の初期設定が失敗しました。

分析

0088 は、すべての異常条件について、モジュール DFSKLSO0 および DFSXLSM0 によって発行されます。

レジスター 15 に、以下の理由コードが入っています



重要: DFSKETXR において、すべての LSO 異常終了を伝搬する異常終了 4095 が発行されます。

DFSXLSM0 の場合:

コード
説明

X'01'

DFSBCB 高速保管取得マクロが失敗しました。

X'02'

LSO 作業域に対する DFSBCB GET コマンドが失敗しました。(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)

X'03'

LSO 制御モジュール DFSKLSO0 に対する DFSQSS ロードが失敗しました。(レジスター 3 = DFSQSS 戻りコード)

X'04'

ITASK CREATE のための DFSCIR マクロが失敗しました。(レジスター 3 = DFSCIR 戻りコード)

X'15'

モジュール DFS5DL60 に対する IMODULE ロードが失敗しました。(レジスター 3 = IMODULE ロード戻りコード)

X'16'

DFS5DL60 ITASK CREATE のための DFSCWU マクロが失敗しました。(レジスター 3 = DFSCWU 戻りコード)

DFSKLSO0 の場合:

コード
説明

X'05'

LSO にエンキューされた非同期作業エレメント (AWE) が、無効な機能を持っています。レジスター 3 は、無効な機能を示し、レジスター 9 は AWE のアドレスを示します。

X'06'

サインオン時に、DFSBCB 高速保管の取得が失敗しました。(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)

X'07'

サインオン時に、LSO ブロックに対する DFSBCB GET コマンドが失敗しました。(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)

X'08'

サインオフ時に、PST に LSO が指定されていませんでした。(レジスター 3 = 指定された PST)

X'09'

従属がサインオフされなかったため、システムは終了しました。(レジスター 2 = 制御ワードの内容、レジスター 3 = 最初のアクティブ LSO ブロック・アドレス)

X'0A'

無効な LSO 制御作業更新が発生したため、システムが終了しました。(レジスター 2 = 制御ワードの内容)

DFSXLSDO の場合:

コード
説明

X'11'

DFSBCB 高速保管取得マクロが失敗しました。(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)

X'12'

ITASK CREATE のための DFSCIR マクロが失敗しました。(レジスター 3 = DFSCIR 戻りコード)

X'13'

DFSFLSDO の ESTAE 作成が失敗しました。(レジスター 3 = ESTAE サービス戻りコード。)

DFSXLSDO の場合:

コード
説明

X'14'

DFSBCB クイック保管取得マクロが失敗しました(レジスター 3 = DFSBCB 戻りコード)。

システムの処置

イムスは異常終了する。

オペレーターの応答

イムスの内部エラーと考えられます。システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別:

1, 2, 3, 4, 8, 12, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSXLSDO、DFSXLSDO、DFSXLSDO、DFSXLSDO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0090

説明

イムスの内部通知が失敗しました。フォーマット・ブロックを待機していた通信回線ブロック (CLB) をポストすることができませんでした (IPOST からゼロ以外の戻りコードが返されました)。

レジスター 8 に、CLB アドレスが入っています。レジスター 10 に、FRE+0 にフォーマット・ブロック名がある FRE アドレスが入っています。

分析

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 8 には、CLB アドレスが入っています。レジスター 10 に、フェッチ要求エレメント (FRE) のアドレスが入っています。ここで、FRE+0 はフォーマット・ブロック名を持っています。

DFSFFETO の場合：

0090 は、フォーマット・ブロック即時取り出しモジュール DFSFFETO によって発行される可能性がある標準異常終了です。このモジュールでエラーが検出された場合は、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル IPOSTM1 内の命令を指しています。IPOST がロードを待っている要求に対して失敗したために、異常終了が発行されます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 11 は、基底レジスターです。レジスター 8 には、通知されるイベント制御ブロック (ECB) のアドレスが入っています。レジスター 1 に、異常終了完了コード X'8000005A'が入っています。

キー	ラベル	解説
Reg8= ECB のアドレス (CLB) Reg15=ゼロ以外の戻り IPOST からのコード	IPOSTM1 (\$IPCO006)	レジスター 8 に指定されている ECB を適切なイベント表に通知するために、IPOST マクロが発行されました。レジスター 15 は、IPOST からの戻りコードでロードされ、テストされます。レジスター 15 がゼロでない場合、異常終了が発行されます。

DFSFRFO の場合：

0090 は、モジュール DFSFRFO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了は、ブロックをストレージにプリフェッチします。このモジュールでエラーが検出された場合は、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル IPOSTM1 内の命令を指しています。この異常終了は、IPOST マクロからの戻りコードがゼロでない場合に出されます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 11 は、基底レジスターです。レジスター 8 には、通知される ECB のアドレスが入っています。レジスター 1 に、異常終了完了コード X'8000005A'が入っています。

キー	ラベル	解説
Reg8= ECB のアドレス (CLB) Reg15=ゼロ以外の戻り IPOST からのコード	IPOSTM1 (\$IPCO017)	レジスター 8 に指定されている ECB を適切なイベント表に通知するために、IPOST マクロが発行されました。レジスター 15 は、IPOST からの戻りコードでロードされ、テストされます。レジスター 15 がゼロでない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

イムス は異常終了する。

オペレーターの応答

緊急時再始動 イムス 処理を再開する。

問題判別:

1, 11, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSFFETO、DFSFRFO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0092

説明

イムス 制御領域の専用域または拡張専用域内のストレージに対する IMODULE GETMAIN 要求が正常に実行されませんでした。

分析

専用ストレージ域または拡張専用ストレージ域は、緊急時再始動時に更新する必要がある入力シーケンス番号を持つノードのリストを維持します。セット・シーケンス番号およびテスト・シーケンス番号 (STSN) ノードは、緊急時再始動時にタイプ 28 のログ・レコードから取得されます。

レジスター 1 に、IMODULE パラメーター・リスト・アドレスが入ります。レジスター 8 には、イムス 制御領域のサブプール 0 で要求されたストレージの量が入っています。レジスター 15 に、IMODULE GETMAIN 要求からの戻りコードが入っています。

システムの処置

イムス 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

IMODULE GETMAIN 戻りコードの説明については、イムス システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。ストレージ割り振りエラーの場合は、専用または拡張専用域に割り振られているサイズを大きくして、イムスを再始動してください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSCRPOQ、DFSRLP00

関連資料

IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

0095

説明

ログオン、ユーザー、および MSC の各記述子の初期設定中にエラーが発生しました。このエラーはリカバリー不能です。

分析

障害の理由については、この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS3658X を参照してください。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ DFS3658X の「応答」を参照してください。

問題判別

メッセージ DFS3658 の「問題判別」を参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIILD0

関連情報

[DFS3658X \(メッセージおよびコード\)](#)

0097

説明

VSAM ローカル・リソース・プールを削除するために DFSPCC30 によって発行された VSAM DLVRP マクロ要求が失敗しました。

分析

VSAM 戻りコードはレジスター 15 に入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=エラーを検出した DFSPCC30 内の場所のアドレス	ABEN D97	VSAM が DLVRP 要求を満たしませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=戻りコード		

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

VSAM 戻りコードはレジスター 15 に入っています。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCC30

関連資料

[z/OS: DLVRP 戻りコード](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0098

説明

IMS は、ユーザー編集ルーチン・アドレス・テーブル内でユーザー編集ルーチン名を見つけられなかった場合に、この異常終了を発行します。

分析

チェックポイント・レコードの作成中に、システムは、「ユーザー編集ルーチン名およびアドレス」テーブル内でユーザー編集ルーチン名を見つけられませんでした。記述子は無視され、メッセージ DFS3680W が戻されました。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答

端末記述子が、再始動前に有効であったユーザー編集ルーチンと同じルーチンを記述しているかどうかを確認します。

問題判別:

1、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:
DFSRCP30

関連情報

[DFS3680W \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0100

説明

タイプ X'47' ログ・レコードを作成しようとしたときに、IMS 制御領域が異常終了しました。レジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入ります。

コード
意味

X'01'

BMP の変更されたデータベース・リストが、作成するログ・レコードの容量を超えるため、タイプ X'47' ログ・レコードは作成できません。

X'02'

タイプ X'47' ログ・レコードを作成するストレージを獲得するための IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

分析

R15=X'01'

BMP または IMS バッチ領域に、IMS ログ・レコードに収まらない破損したデータベース・リストがあ

る場合、この異常終了によりオーバーレイを防止します。

R15=X'02'

タイプ X'47' ログ・レコードを作成するためのストレージを獲得しようとしたときに、IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 10 に IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了コード 0100 で異常終了します。

オペレーターの応答:

問題を修正した後で、/ERESTART コマンドを使用して IMS を再始動します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSRCP10

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

第7章 IMS 異常終了コード 0101 - 0150

このトピックでは、IMSにより発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4桁の10進数です。

0101

説明

Java™ 従属領域の処理中にエラーが発生しました。

この異常終了は、Java 以外の従属領域、例えば MPP、BMP、IFP 領域でも発生することがあります。

分析

従属領域のジョブ出力で、この異常終了のすべてのインスタンスについて文字ストリング DFSJVM00: で検索を行い、障害の原因を調べてください。

DFSRCJBO の場合:

このコードは、DFSRCJBO によって発行される標準異常終了を示します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'3'		必要な ENVIRON=member が指定されていません。
Reg15=X'4'		必要な JVMOPMAS=member が指定されていません。
Reg15=X'6' Reg3=BPX1SDD 戻りコード Reg4=BPX1SDD 理由コード		BPX1SDD が失敗しました。

DFSPCJBO の場合:

0101 は、DFSPCJBO によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		LE エンクレーブ (CEEPIPI エラー) を作成できません。
Reg15=X'2' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		Java 仮想マシン (JVM) を作成できません。
Reg15=X'3' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		JVM はアプリケーションを開始することができません (CEEPIPI エラー)。
Reg15=X'4'		JVM はアプリケーションを開始することができません。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'B' Reg5=LE エンクレーブ 終了 戻りコード Reg3=LE エンクレーブ 終了 理由コード Reg6=LE エンクレーブ 終了 フィードバック・コード		LE エンクレーブが未処理状態のために終了しました。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。

DFSPCJMO の場合:

0101 は、DFSPCJMO によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		LE エンクレーブ (CEEPIPI エラー) を作成できません。
Reg15=X'2' Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		JVM を作成できません。
Reg15=X'3' Reg3=CEEPIPI 戻りコード		JVM はアプリケーションを開始することができません (CEEPIPI エラー)。
Reg15=X'4'		JVM はアプリケーションを開始することができません。
Reg15=X'B' Reg5=LE エンクレーブ 終了 戻りコード Reg3=LE エンクレーブ 終了 理由コード Reg6=LE エンクレーブ 終了 フィードバック・コード		LE エンクレーブが未処理状態のために終了しました。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。

DFSRCJMO の場合:

0101 は、DFSRCJMO によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'3'		必要な ENVIRON=member が指定されていません。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'4'		必要な JVMOPMAS=member が指定されていません。
Reg15=X'6'		BPX1SDD が失敗しました。
Reg3=BPX1SDD 戻りコード		
Reg4=BPX1SDD 理由コード		

DFSRRRC10、DFSRRRC40 の場合:

0101 は、DFSRRRC10 または DFSRRRC40 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'4'		必要な JVMOPMAS=member が指定されていません。
Reg15=X'6'		BPX1SDD が失敗しました。
Reg3=BPX1SDD 戻りコード		
Reg4=BPX1SDD 理由コード		

DFSPCC20 の場合:

0101 は、DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。

異常終了時に、レジスター 7 とレジスター 8 全体にフィールド RCPGM (プログラム名) の値が含まれます。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'1'		LE エンクレーブ (CEEPIPI エラー) を作成できません。
Reg3=CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'2'		JVM を作成できません。
Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'3'		CEEPIPI がアプリケーションを開始できませんでした。
Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'5'		項目を追加できません (CEEPIPI エラー)。
Reg3=考えられる CEEPIPI 戻りコード		Reg3=X'0C' の場合、この異常終了の前にメッセージ DFS650E が発行されます。
Reg15=X'7'		LE @LOAD テーブル用のストレージを取得できませんでした。
Reg3=IMODULE GETMAIN 戻りコード		
Reg15=X'8'		LE PIPI テーブル用のストレージを取得できませんでした。
Reg3=IMODULE GETMAIN 戻りコード		

キー	ラベル	説明
Reg15=X'9'		LE @LOAD テーブル修正ルーチン (PC20LETS) を呼び出すことができません。
Reg3=CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'A'		アプリケーションが IMS に戻った後に、未処理 Java 例外が存在しました。IMS はその例外をキャプチャーし、ジョブ出力に表示します。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。
Reg15=X'B'		LE エンクレーブが未処理状態のために終了しました。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。
Reg5=LE エンクレーブ 終了 戻りコード		
Reg3=LE エンクレーブ 終了 理由コード		
Reg6=LE エンクレーブ 終了 フィードバック・コード		
Reg15=X'C'		CEEPIPI が APPTERMEXIT の add_entry 機能を実行できませんでした。考えられる原因は、APPTERMEXIT= オプションで指定されたユーザー出口が存在しないか、ユーザー出口名のつづりが誤っていたことです。
Reg3=CEEPIPI 戻りコード		
Reg15=X'D'		CEEPIPI が APPTERMEXIT= オプションで指定されたユーザー出口を呼び出すことができませんでした。
Reg3=CEEPIPI 戻りコード		

DBFFPPRO、DFSTMPRO の場合:

0101 は、DBFFPPRO または DFSTMPRO によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'A'		アプリケーションが IMS に戻った後に、未処理 Java 例外が存在しました。IMS はその例外をキャプチャーし、ジョブ出力に表示します。IMS は、これをバックアウト状態として処理します。アプリケーションは、一部の作業が完了していない可能性があるため、コミットを許可されません。コミットしても不正確な部分コミットになるからです。

CEEPIPI エラーについては、「z/OS Language Environment® プログラミング・ガイド」を参照してください。

システムの処置

異常終了が DFSPCJM0 で理由コード 3 または 4 で発生した場合を除き、従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了の場合はすべて、従属領域のジョブ出力を文字ストリング DFSJVM00: で検索して、障害の原因を調べます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRCJB0、DFSRCJM0、DFSPCJB0、DFSPCJM0、DFSRCJM0、DBFFPPR0、DFSTMPR0

関連資料

[z/OS: アプリケーションの呼び出し \(CEEPIPI\)](#)

0102

説明

拡張再始動のための位置付けを実行中にエラーが検出されました。

0102 は標準異常終了です。プログラム再始動ハンドラーは、OLDS または IMSLOGR データ・セットからシンボリック・チェックポイント・レコードを見つけようとしているときに、この異常終了を発行する場合があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS1000I が発行されます。プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。レジスター 14 は、エラー・ディスカバラーへの BAL 戻りレジスターです。レジスター 2 に、エラー・ディスカバラーによって設定されたエラー理由コードが入っています。このエラー理由コードは、障害が起きた場所のラベル名に対応しています。

追加情報については、メッセージ DFS1000I を参照してください。

分析

オンライン・バッチ処理時に、IMS は、内部 IMS テーブル内の残余リカバリー・エレメント (RRE) にある BMP または JBP アプリケーションの最後の完全なチェックポイントから OLDS の位置を判別します。RRE 項目は、BMP または JBP アプリケーションを、ジョブ名、PSB 名、およびプログラム名によって識別します。BMP または JBP アプリケーションの再始動時に IMS がこのテーブル・エントリーを見つけるためには、BMP または JBP アプリケーションがプログラム異常終了時に持っていたのと同じジョブ名、PSB 名、およびプログラム名を持っている必要があります。

テーブル・エントリーを検出した後、BMP または JBP 領域の JCL で IMSLOGR という DD 名を持つデータ・セットが割り振られている場合、アプリケーション再始動

処理は、IMSLOGR DD 名を持つデータ・セットからのみチェックポイント・レコードへのアクセスを試みます。そうではなく、最後のチェックポイントが記録されて以降に OLDS が上書きされていない場合、IMS は OLDS から最後のチェックポイント・レコードを見つけようとします。

バッチ環境では、チェックポイント・レコードは IMSLOGR という DD 名を持つデータ・セットからアクセスされます。

DFSZSR00 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg2=E 2D9000 2	E2D9 0002	内部拡張再始動 (XRST) 呼び出しからモジュール DFSDLA00 に、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。DFSCPY00 に PSEUDO ABEND が設定されます。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg2=E 2D9000 3	E2D9 0003	内部 XRST 呼び出しからモジュール DFSDLA00 に、非ブランクの状況コードが戻されました。PSB 内の実際のセグメント (またはセグメントのパス) が、XRST パラメーター I/O area gen で指し示された領域にコーディングされている長さ (バイナリー) より長くなっていました。
Reg2=E 2D9000 4	E2D9 0004	XRST 呼び出し処理の開始パラメーターとして LAST が指定されましたが、処理を完了できません。モジュール DFSDLA00 によって、レジスター 3 にエラー理由コードが戻されました。
Reg3=C 4D3A00 1		初めてのエラー

キー	ラベル	説明
Reg3=C 4D3A00 2		この BMP の RRE が見つかりませんでした。 1. コールド・スタートは実行されました。 2. 同じジョブ名、プログラム名、および PSB 名を持つ BMP が実行され、正常に完了しました。 3. 障害が起きた BMP のチェックポイントが取られませんでした。 4. 拡張再始動時に指定された PSB 名、プログラム名、およびジョブ名が、元の異常終了が発生した BMP の PSB 名、プログラム名、およびジョブ名と一致しませんでした。
Reg3=C 4D3A00 3		OLDS の ILOG® 読み取りから、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg3=C 4D3A00 4		ログ読み取り出口ルーチン LOGREXIT からエラーが戻されました。
Reg2=E 2D9000 5 Reg9=// IMSLOG R DCB ア ドレス	E2D9 0005	IMSLOGR データ・セットに対する OPEN マクロの発行後に、DCBOFLGS がデータ・セットがオープンされていないことを示しました。誤ったデータ・セットがマウントされたか、//IMSLOGR DD ステートメントが欠落しています。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。
Reg2=E 2D9000 6	E2D9 0006	バッチ環境で、再始動の開始パラメーターとして無効な LAST が指定されました。 正しいパラメーターを指定して、ジョブを再実行してください。
Reg2=E 2D9000 7 Reg9=// IMSLOG R	E2D9 0007	リカバリー不能エラーが検出されたため、IMSLOGR データ・セットに対して SYNAD 出口ルーチン (ラベル IOERROR) が取られました。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg2=E 2D9000 8	E2D9 0008	IMSLOGR データ・セットの READ によって戻されたレコードが、可変ブロック化の BSAM 規則に従ってフォーマット設定されていませんでした。//IMSLOGR DD ステートメントで参照されているデータ・セットは、おそらく有効な IMS ログではありません。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。
Reg2=E 2D9000 9 Reg5=a (チェッ クポイ ント Reg9=// IMSLOG R DCB ア ドレス	E2D9 0009	XRST 呼び出しで渡されたチェックポイント ID のタイプ X'18' ログ・レコードが見つからずに、//IMSLOGR データ・セットのデータの終わり (EOD) に達しました。 • 不適切なチェックポイント ID が指定されました。 • 誤ったまたは不十分な数のボリューム通し番号が指定されました。 • Execute ステートメントのプログラム名が、タイプ X'18' ログ・レコード内のプログラム名と一致していません。 • 不適切なジョブ名が使用されました。再始動されたジョブ名は、元のジョブ名と一致しなければなりません。 正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。
Reg2=E 2D9000 A	E2D9 000A	SVC インターフェースに対して無効な呼び出しが行われました。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg2=E 2D9000 B	E2D9 000B	最後に取られたものではないチェックポイント ID から再始動を試みています。PSB 内に全機能データベース PCB があります。再始動は、最後に取られたチェックポイントから開始する必要があります。 正しいパラメーターを指定して、ジョブを再実行してください。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2D9 2D9000 C	E2D9 000C	OLDS で検出されたものではない チェックポイント ID から再始動を 試みています。 必要なチェックポイント・レコード が入っているデータ・セットを参照 する IMSLOGR DD ステートメント を指定して、ジョブを再実行してく ださい。

DFSZSR10 の場合:


キー	ラベル	説明
Reg2=E2D91 001 Reg7=a(DBP CB) Reg8=a(X'18 'ログ・ レコード内 のバケット)	E2D9 1001	プログラムを再始動中の PSB の PCB が、プログラムのチェッ クポイントを取られた時点の PSB の PCB と同じ順序でない か、同じ DBD または論理端末 を指定していません。PCB 内 の DBD 名が、X'18' ログ・レ コード内のデータ・セット DBD 名と比較されます。これらが 等しくなければなりません。 ユーザー・ブロック GEN が行 われました。前の GEN を使用 して再実行してください。
Reg2=E2D91 002	E2D9 1002	汎用順次アクセス方式 (GSAM) 非 DASD データ・セットの位置 変更中に、データの終わり (EOD) に達しました。DD 名を 指定したメッセージ DFS0780I が出されます。 GSAM データ・セットが、チェ ックポイントを取られた時点 のものと同じではありません。
Reg2=E2D91 003 Reg6=X'18' ログ・ レコードか らの チェックポ イントを 取られた領 域の長さ Reg9=XRST 呼び出して 渡された長 さのアドレ ス	E2D9 1003	XRST 呼び出して、領域リスト が誤って指定されました。リ ストの長さが全領域のアドレ スと長さを含めるには不十分 であるか、あるいは、ユーザー 提供の領域がチェックポイン トを取られたデータと同じ長 さではありません。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2D91 004 Reg15=DFSC PY00 からの 疑似異常終 了コード	E2D9 1004	DFSCPY00 がレジスター 15 に 疑似異常終了コードを戻しま した。
Reg2=E2D91 005	E2D9 1005	内部 XRST 呼び出しからモジ ュール DFSDLA00 への非ブラ ンクの状況コード。
Reg2=E2D91 006 Reg3=C4D3 A003 Reg3=C4D3 A004	E2D9 1006	OLDS からのチェックポイン ト・レコードの読み取りエラ ー。モジュール DFSDLA00 に よって、レジスター 3 にエラー 理由コードが戻されました。 OLDS の ILOG 読み取りから、 ゼロ以外の戻りコードを受け 取りました。 ログ読み取り出口ルーチン LOGREXIT からエラーが戻さ れました。
Reg2=E2D91 007 Reg9=// IMSLOGR DCB アドレ ス	E2D9 1007	リカバリー不能エラーが検出 されたため、IMSLOGR データ・ セットに対して SYNAD 出口ル ーチン (ラベル IOERROR) が取 られました。 正しい、またはリカバリーされ た IMSLOGR データ・セットを 提供して、ジョブを再実行す る必要があります。
Reg2=E2D91 008	E2D9 1008	IMSLOGR データ・セットの READ によって戻されたレコー ドが、可変ブロック化の BSAM 規則に従ってフォーマット設 定されていませんでした。// IMSLOGR DD ステートメント で参照されているデータ・セッ トは、おそらく有効な IMS ログ ではありません。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2D91009 Reg5=a (チェックポイント ID) Reg9=// IMSLOGR DCB アドレス	E2D91009	XRST 呼び出しで渡されたチェックポイント ID のタイプ X'18' ログ・レコードが見つからずに、//IMSLOGR データ・セットのデータの終わり (EOD) に達しました。 <ul style="list-style-type: none"> 不適切なチェックポイント ID が指定されました。 誤ったまたは不十分な数のボリューム通し番号が指定されました。 <p>正しい、またはリカバリーされた IMSLOGR データ・セットを提供して、ジョブを再実行する必要があります。</p>
Reg2=E2D9100A Reg15=戻りコード	E2D9100A	領域間通信 (IRC) への内部 PC 呼び出しでのゼロ以外の戻りコード。
Reg2=E2D100B	E2D9100B	GSAM データベースを配置するための無効な呼び出し。
Reg2=E2D9100C	E2D9100C	再始動時のいずれかのデータベース PCB 内の PCB 名フィールドが、チェックポイント・レコード内の PCB 名と一致していません。名前は有効であるが一致しない場合は、チェックポイントと再始動の間に PSBGEN が PSB 内の PCB を追加または削除した可能性があります。いずれかの名前が無効のときは、多くの場合、アプリケーションが原因での PCB のオーバーレイの結果であるか、PSB メンバーがストレージ内の前の PCB に変更されています。名前フィールドを調べて、考えられる手掛かりを見つけてください。

DFSZDC00 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg2=C4C30001	C4C30001	XRST 処理時に、GSAM が、位置変更しようとしている出力データ・セットが空であることを判別しました。XRST ジョブを正常に再実行依頼するには、以下を行います。

キー	ラベル	説明
		<ol style="list-style-type: none"> 異常終了するジョブによって停止された PSB に対して、/STA コマンドを発行します。 GSAM 出力データ・セットの DD ステートメントを訂正して、XRST を要求して異常終了が発生した時点で使用中であったのと同じデータ・セットを指すようにします。 XRST ジョブを再実行依頼してください。 <p>注: この問題の最も一般的な原因は、おそらく世代別データ・グループ (GDG) データ・セットの使用に関連しています。最初のジョブが失敗した後、XRST ジョブが実行依頼されます。しかし、ユーザーが GSAM 出力データ・セットの世代番号を (+1) から (0) に変更しませんでした。その結果、XRST の位置変更は、データ・セットの現行 (異常終了時に 0) のコピーではなく、新しい (+1) データ・セット上で実行されます。</p> <p> 重要: 誤った再始動データ・セットを指定して XRST ジョブが実行された場合、XRST は正常に完了しますが、有効なデータが上書きされます。</p>

システムの処置

プログラムは異常終了します。

オペレーターの応答

エラーの原因を判別し、問題を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSZSR00、DFSZSR10、DFSZDC00

関連情報

DFS1000I (メッセージおよびコード)

0103

説明

CHKP 呼び出しのパラメーター・リストで指し示されるユーザー域のいずれかの長さフィールドが、ゼロまたは負です。

これは、拡張チェックポイント・モジュールが、OLDS または IMSLOGR データ・セットにシンボリック・チェックポイント・レコードの書き込みを試みているときに発行する可能性がある標準異常終了です。この異常終了の前に、メッセージ DFS1000I が発行されます。プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。レジスター 14 は、エラー・ディスカバラーへの BAL 戻りレジスターです。レジスター 2 に、エラー・ディスカバラーによって設定されたエラー理由コードが入っています。このエラー理由コードは、障害が起きた場所のラベル名に対応しています。

分析

拡張チェックポイント・モジュールは、データベース位置付けデータ (RRA または SSA) を含むシンボリック・チェックポイント・レコードを書き込みます。レコードには、CHKP 呼び出しのユーザー位置決めパラメーターで指定された領域も含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2C30001	E2C30001	CHKP 呼び出しを発行しようとしたが、アプリケーションはその中で主記憶データベース (MSDB) 領域を定義していません。これはサポートされません。
Reg2=E2C30002	E2C30002	許可される最大レコード・サイズを超えるチェックポイント LOG レコードを書き込もうとしました。
Reg2=E2C30003	E2C30003	BMP 領域からの内部 ILOG 呼び出しが、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。
Reg2=E2C30004	E2C30004	内部 ILOG 呼び出しから、非ブランクの状況コードが戻されました。レジスター 3 に状況コードが入っています。
Reg2=E2C30005 Reg9=パラメーター・リスト内の長さのアドレス	E2C30005	CHKP 呼び出しのパラメーター・リストで指し示されるユーザー域のいずれかの長さフィールドが、ゼロまたは負です。レジスター 5 に値が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=E2C30006	E2C30006	USERLOG ルーチン内の MOVE LONG (MVCL) 命令が、破壊的なオーバーレイを検出しました。CHKP 呼び出しで指定されたユーザー域の長さが長すぎます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

CHKP 呼び出しのパラメーター・リストで指定したユーザー域の長さフィールドを検査します。無効なフィールドが見つかった場合、それを変更してジョブを再実行します。

問題判別:

2、3、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSZSC00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0106

説明

従属領域の初期設定時に、IMODULE LOAD 要求に対応してゼロ以外の戻りコードが発行されました。環境コントローラー (DFSECP10 または DFSECP20) に対する IMODULE LOAD がゼロ以外の戻りコードで失敗しました。これは、モジュール DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 に戻りコードが入っています。IMODULE LOAD 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析

これは、ロードに失敗した結果としてモジュール DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 に IMODULE LOAD Prolog 内の戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000006A'	PCAB106	IMODULE エラー。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正して、IMS を再始動してください。

問題判別:

4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCC20

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0107

説明

リソース・アクセス・セキュリティー初期設定で問題が検出されました。次のいずれかの問題が発生しました。

- セキュリティー・モジュールの 1 つが、完全にロードに失敗しました。
- RACF が使用されている場合 (z/OS のみ)、RACF が誤ったレベルであるか、システムにインストールされていません。

レジスター 15 にある 16 進数エラー・サブコードが、初期設定に失敗した理由を示しています。

分析

これは、モジュール DFSXLIC0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、以下のいずれかのコードが入ります。

コード

説明

X'01'

モジュール DFSSCHRO の IMODULE LOAD が失敗しました。

X'02'

予約済み。

X'03'

モジュール DFSRAS00 の IMODULE LOAD が失敗しました。

X'04'

リソース・アクセス・セキュリティー・ユーザー出口 (RASE) を IMS に定義する試みが失敗しました。

X'05'

リソース・アクセス・セキュリティー・ユーザー出口 (RASE) の初期設定呼び出し用のストレージを取得する試みが失敗しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正して、IMS を再始動してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXLIC0

0108

説明

LU 6.2 シャットダウン中に、タイマー要求障害が発生しました。LU 6.2 シャットダウンは完了せず、続行することができません。DFSTIMER が正常でない戻りコードを戻しました。

分析

0108 は、通常 IMS シャットダウン時に LU 6.2 メッセージが失われるのを防ぐために DFSASLT1 によって発行されるユーザー異常終了です。

システムの処置

シャットダウンは異常終了します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別:

1、5、6、8、10、27、34、36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASLT1

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0109

説明

モジュール **DBFSLM62** および **DFSTMS00** の場合:

IMS は、APPC 同期トランザクションまたは OTMA 送信後コミット (CM1) トランザクションに対する応答の送信に失敗しました。

あるいは、LU 6.2 装置または OTMA クライアントが、XCF 通信を使用して CONFIRM (SL1) の同期レベルを指定した送信後コミット (CM1) トランザクションの出力メッセージに対して否定応答 (NACK) を戻しました。

異常終了理由コードが発行されている場合、DFS554A または DFS555I メッセージにはその理由コードが含まれます。

以下の表に理由コードを示します。

コード	意味
X'01'	XCF 通信が使用されている場合は、同期レベルが NONE または CONFIRM (SLO または SL1) の送信後コミット (CM1) トランザクションの出力メッセージの送信に対して、NACK を受け取ります。

モジュール **DBFGHU10** および **DFSDLA30** の場合:

XCF 通信が使用されていて、次のいずれかの条件が検出された場合は、GU 処理では、同期レベルが NONE または CONFIRM (SLO または SL1) の APPC または OTMA 送信後コミット (CM1) トランザクションは廃棄されます。

- フロントエンド IMS システムが終了した。
- トランザクション・メッセージのタイム・スタンプが FE IMS システム・リスタートのタイム・スタンプより前のものである。

異常終了理由コードが発行されている場合、DFS554A または DFS555I メッセージにはその理由コードが含まれます。

以下の表に理由コードを示します。

コード	意味
X'02'	XCF 通信が使用されている場合、同期レベルが NONE または CONFIRM (SLO または SL1) の送信後コミット (CM1) トランザクションは廃棄されます。

分析

0109 異常終了は、トランザクションのこのインスタンスを終了させました。

システムの処置

この異常終了が従属領域の処理中に発生した場合、従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

否定応答の原因を判別してください。

問題判別:

1、5、6、8、10、27、34、36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFHGU10、DBFSLM62、DFSDLA30、DFSTMS00

関連情報

[DFS554A \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS555I \(メッセージおよびコード\)](#)

[IMS 問題判別 \(メッセージおよびコード\)](#)

0110

説明

コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが、データベース制御 (DBCTL) サブシステムに接続するために INIT 呼び出しを発行しました。接続ルーチンは、DBCTL モジュールをロードするために IMS 制御領域に要求を送ったが、ロード要求は失敗しました。

システムの処置

IMS は、接続処理を終了させ、メッセージ DFS697I を発行します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ DFS697I を参照してください。

問題判別:

6、8、10、38

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS697I \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0111

説明

コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが、データベース制御 (DBCTL) サブシステムに接続するために

INIT 呼び出しを発行しました。DBCTL は、この CCTL 用にサブシステム 状況索引項目 (SIDX) を作成してから、これを SIDX チェーンにエンキューしようとしたが、エンキュー要求が失敗しました。

分析

0111 は、モジュール DFSASIO に設定される疑似異常終了です。

SNAP または SDUMP データ・セットからのサブシステム・オプション・ブロック (SSOB) のフィールド SSPSCODE 内の戻りコードを確認してください。戻りコードには、以下の意味があります。

コード
説明

X'14'

エンキュー用の SIDX エレメントがありません。

その他
内部エラー

システムの処置

IMS は、接続処理を終了させます。

システム・プログラマーの応答

IMS 制御領域をメモリー・ダンプ付きで停止してから、緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、6、11、15、35、38

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0112

説明

コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが、データベース制御 (DBCTL) サブシステム・スレッドの終了 (ページ) を要求しました。

システムの処置

IMS は、このスレッドおよびスレッド TCB をパージします。

ソース:

IMS 異常終了

0113

説明

DL/I または DC が従属領域で呼び出しを処理中に、IMS 異常終了が検出されました。この異常終了を起こした領域の診断域には、プログラム状況ワード (PSW)、汎用レジスター、および入り口に異常終了への目印が付いている IMS 関連ブロックのコピーが含まれています。

注: オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定が選択されている場合、従属領域の異常終了処理中にメモリー・ダンプが作成され、従属領域の異常終了コードが示されます。続いて、制御領域は異常終了 0113 で終了しますが、SDUMP が失敗しないかぎり、追加のメモリー・ダンプは作成されません。従属領域 SDUMP を分析する方法は、他の IMS SDUMP を分析する方法と同じです。

MVS IEFUTL タイムアウト出口ルーチンを実装して、CPU または待ち時間の制限を超過することによって生じる異常終了をキャプチャーし、オーバーライドすることができます。DFSUTL は、IMS で提供されるサンプル出口ソースです。BMP を取り消す必要がある場合、影響が最小限になる時間まで待つことができます。

分析

DFSASK00 と DFSFUNLO の場合:

DL/I または DC がメッセージ領域で呼び出しを処理中に、メッセージ領域またはバッチ・メッセージ領域で異常終了が発生しました。

これは、主にモジュール DFSASK00 によって発行される標準異常終了です。IRC/ISI サービス呼び出し (高速機能、外部サブシステム、および通常の DL/I または DC データベース) からの他のモジュールも、この異常終了を発行します。

また、IMS ラッチ管理 (DFSFUNLO) も、この異常終了を発行します。モジュール DFSFUNLO は、3 つの CSECTS、つまり DFSFUNLO (ラッチ取得)、DFSFLAT0、および DFSFLRC0 (ラッチ・リカバリー) から構成されます。ラッチ・リカバリーが実際にこの異常終了を発行します。CSECT DFSFLRC0 は異常終了 0113 を発行します。

この異常終了を起こした領域の区画仕様テーブル (PST) 診断域には、プログラム状況ワード (PSW)、汎用レジスター、および異常終了への入り口の PST のコピーが含まれています。

DFSASK00 内のサービス要求ブロック (SRB) ルーチン ASKSRBE は、制御を取得した後、ただし、異常終了 0113 を発行する IRB を確立する前に、DFSABSAV のアドレスをフィールド SRBEP に保管します。

診断作業域は、以下の方法で見つめます。

1. 制御領域のマザー・タスク・ロード・リストまたは CDE を見つけて、モジュール DFSBLKXX を検出します。

DFSBLKXX = SCD アドレス

2. SCD (SCDU113) でシステム診断作業域を見つめます。
 - SCDU113 フィールドは、U113 SRB を指していません。診断域のアドレスは、SRB + X'14' にあります。
 - ジョブ・ステップ TCB の下で、CDE チェーンを見つめます。モジュール DFSABSAV を検出します。これが、システム診断作業域です。
 - フィールド SRBEP にも DFSABSAV のアドレスが入っています。
3. 異常終了 0113 のフォーマット済みセクションまたは非 IMS 定様式メモリー・ダンプで、IMS の処理中に異常終了したメッセージ領域のシステム診断作業域を見つめます。以下の 3 つの領域は、システム診断作業域のフォーマットの概要を示しています。

SDWA
PST
SAP

4. 関連のメッセージ領域ダンプ (ABENDU0002) を見つけて、標準診断手順に従います。



重要: オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定が選択されている場合、従属領域の異常終了処理中にメモリー・ダンプが取られ、従属領域の異常終了コードが示されます。その後、制御領域は 0113 で終了しますが、オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定が成功しない限り、追加のメモリー・ダンプは取られません。従属領域 SDUMP を分析する方法は、他の IMS SDUMP を分析する方法と同じです。

DFSSDA20 の場合:

IMS タスク終了 (EOT) 出口ルーチンが、DL/I または DC 呼び出しでアクティブな従属領域を発見しました。DFSABSAV には、異常終了 0113 診断情報は入っていません。代わりに、異常終了時のレジスター 4 に、元の異常終了の PST のアドレスが入ります。

異常終了時のレジスター 4 で指し示された PST を見つけます。制御領域メモリー・ダンプ内の PST の PSTNJOB フィールドから、ジョブ名を入手します。ジョブ名を使用して、元の異常終了が発生した従属領域を見つめます。ダンプには、PSW レジスター、元の異常終了の完了コード、および 0002 の RTM2WA が含まれています。

元の異常終了の完了コードで示された適切な処置を取ってください。

LPS フラグとディスパッチャー仮想記憶間フラグの両方がオンの場合、IMS ディスパッチャー仮想記憶間フラ

グ (SAPS3CXM) の追加テストも、この異常終了を発行します。

DBFATRMO の場合:

高速機能が、終了中の従属領域の「in Fast Path」条件を検出しました。DFSABSAV には、異常終了 0113 診断情報は入っていません。代わりに、異常終了時に、レジスター 4 に元の異常終了の PST のアドレスが入ります。

異常終了時のレジスター 4 で指し示された PST を見つけます。制御領域メモリー・ダンプ内の PST の PSTNJOB フィールドから、ジョブ名を入手します。ジョブ名を使用して、元の異常終了が発生した従属領域を見つめます。ダンプには、PSW レジスター、元の異常終了の完了コード、および 0002 の RTM2WA が含まれています。

元の異常終了の完了コードで示された適切な処置を取ってください。

LPS フラグとディスパッチャー仮想記憶間フラグの両方がオンの場合、IMS ディスパッチャー仮想記憶間フラグ (SAPS3CXM) の追加テストも、この異常終了を発行します。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

IMS を緊急時再始動して制御領域を稼働させます。

問題判別

1、4、6、14、35

異常終了が MVS CANCEL、SMF JOB STEP TIMING、/ STOP REGION CANCEL、またはその他のユーザー始動による異常終了の結果である場合は、APAR を提出しないでください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00、DFSSDA20、DBFATRMO、DFSFUNLO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0114

説明

IMODULE GETMAIN 要求が DFSSCHR 作業域の取得に失敗しました。

分析

0114 は、モジュール DFSSCHR0 によって発行される標準異常終了です。DFSSCHR 作業域を取得しようとしているときに、IMODULE GETMAIN 障害が発生しました。レジスター 15 に IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置

従属領域は終了します。

プログラマーの応答

領域サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSSCHR0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

システムの処置

LU 6.2 セッション障害でこの異常終了が発生した場合、シャットダウンは正常に継続します。OTMA エラーの場合、IMS への着信 SEND-THEN-COMMIT メッセージ、およびクライアントへの REPLY メッセージは共に失われます。

プログラマーの応答

セッション障害または SEND 障害の原因を判別します。

問題判別:

1、5、6、8、10、27、34、36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSTMS00

関連情報

[DFS555I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0119

説明

LU 6.2 同期会話で LU 6.2 セッション障害が発生したか、または OTMA SEND-THEN-COMMIT トランザクションで SEND 障害が発生しました。この異常終了は、以下の場合に発生します。

- LU 6.2 同期会話で LU 6.2 セッション障害が発生した。非同期で出力メッセージを送信するのではなくトランザクションを終了するために、ユーザー宛先出口ルーチンが選択されたか、またはユーザー宛先出口ルーチンが提供されませんでした。
- OTMA SEND-THEN-COMMIT トランザクションで SEND 障害が発生した。こうなる可能性があるのは、次のときです。
 - 応答が送信されるべき TPIPE が停止している。
 - OTMA が停止している。
 - OTMA クライアントがシステム間カップリング・ファシリティー (XCF) グループから抜けた。
 - OTMA 出力メッセージ・セグメントのサイズが 32K より大きかった。

0119 コードは、トランザクションのこのインスタンスを終了するために使用されました。プログラムおよびトランザクションは停止されません。

0120

説明

IMS 中核をロード中にモジュール DFSXNCL0 によりエラーが検出されました。エラーは次のいずれかです。

- DFSXNCL0 は IMS 中核をロードする際に、その中核内に格納されている IMS 製品番号について妥当性検査を実行します。この中核製品番号は、DFSXNCL0 に格納されている製品番号と一致する必要があります。この検査は、IMS 中核が、実行中の IMS と同じ IMS リリース・マクロを使用して作成されたことを確認するためのものです。中核製品番号が一致しない場合、DFSXNCL0 は異常終了 0120 を発行します。異常終了時のレジスター 15 は、この場合はゼロになります。実行する IMS リリースの IMS マクロ・ライブラリーで IMS システム定義が確実に行われるようにする必要があります。
- IMS 高速機能がインストールされている場合、DFSXNCL0 は SCD 拡張に対してアドレス解決を実行します。SCD 拡張が見つからない場合 (LOCESCD サービスが失敗した場合)、DFSXNCL0 は異常終了 0120 を発行します。異常終了のレジスター 15 はゼロ以外になり、モジュール DFSXNCL0 内のラベル XNCLABND のアドレスを指し示します。

分析

0120 は、制御領域の初期設定時に、モジュール DFSXNCL0 (中核のロードおよびアドレス解決用のモジュール) から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了

(SVC 13) の発行元であるラベル XNCLABND 内の命令を指しています。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 11 には SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg6=IMODULE LOAD から戻されたロード・モジュール DFSVNUCs (ここで「s」は中核接尾部) の エントリー・ポイントの アドレス Reg15=0	NCL010 0	制御領域の中核がロードされると、IMS 中核ロード・モジュール内の著作権文を検査することにより、その妥当性が検証されます。これらの著作権文に互換性がない場合、この異常終了が発行されます。中核のエントリー・ポイント DFSIOPLO は、中核内の変位 0 にあります。実行している IMS バージョン用の IMS マクロ・ライブラリーを使用して IMS システム定義が確実に行われるようにする必要があります。IMS マクロ・ライブラリーと、使用されている IMS バージョンの間の不一致が、この問題の一般的な理由です。
Reg6=オプション・リスト内の ESCD ID のアドレス Reg15=ラベル XNCLABND の アドレス	XNCLLO CE	IMS 高速機能がインストールされている場合、SCD 拡張に関するアドレス解決も実行されます。LOCESCD マクロが失敗すると、異常終了が発行されます。レジスター 6 は、見つからなかった (つまり、SCDESCDQ を使用して SCD にチェーニングされていない) ESCD の ESCD ID を指しています。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXNCL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0121

説明

IMS 制御ブロック・モジュール (DFSBLK00) がロードされたが、SCD (CSECT DFSISCD) は、要求どおりのエントリー・ポイントではありません。

分析

0121 は、制御領域の初期設定時に、DFSXDBIO (制御ブロック・モジュール・ローダー) から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了の発行元であるラベル DBI2000 に分離することができます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。その他の関連 SVRB レジスターについて、以下の表で詳しく説明します。

キー	ラベル	説明
Reg8=モジュール名のアドレス Reg9=BAL Reg10=ロード・モジュール・エントリー・ポイント	DBI2000 (ラベルの前)	モジュール DFSBLK00 がロードされると、最初の数バイトを検査して、その SCD がエントリー・ポイントであるかどうかを判別します。つまり、最初のバイトがユーザー IMS SVC (0A) の最初の半分と比較され、第 3 バイトと第 4 バイトが分岐 (07FE) と比較されます。これらのバイトの一方または両方が対比していない場合、モジュール DFSBLK00 は無効なフォーマットであり、異常終了するためにラベル DBI2000 に分岐します。

考えられる原因: バインダー制御ステートメントの変更が行われました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

DFSBLK0x を正しいエントリー・ポイントで再バインドします。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXDBIO

0123

説明

変更された DL/I アプリケーション・プログラムの IMS データベース呼び出しの処理中に、再試行できないデッドロック条件が検出されました。デッドロック条件が検出されたとき、変更された標準 DL/I プログラムは、少なくとも 1 つの LU 6.2 会話を割り振っていました。この異常終了は、異常終了 0777 と似ているが、再試行できません。入力メッセージは廃棄されます。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

デッドロックが検出されたとき、アプリケーション・プログラムは少なくとも 1 つの CPI-C 会話を割り振り済みでした。この異常終了は、異常終了 0777 と似ていますが、再試行不能であり、入力メッセージは廃棄されません。CPI Communications ドリブン・アプリケーション・プログラムは、常に再試行不能です。

分析

0123 は、モジュール DFSTMR00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。

システムの処置

変更されたアプリケーション DL/I プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答

トランザクションを再入力します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSECP10、DFSECP20

0124

説明

変更されたアプリケーション DL/I プログラムの IMS データベース呼び出しの処理中に、再試行できない U2478 条件が検出されました。PI ウェイターの数 が 63 を超えたとき、アプリケーション・プログラムは、少なくとも 1 つの CPI-C 会話を割り振り済みでした。この異常終了は、異常終了 2478 と似ていますが、再試行できません。入力メッセージは廃棄されます。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

分析

0124 は、モジュール DFSTMR00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。

システムの処置

変更されたアプリケーション・プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答

トランザクションを再入力します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSECP10、DFSECP20

0125

説明

変更されたアプリケーション DL/I プログラムに対する IMS データベース呼び出しの処理中に、再試行不可能な LOCK REJECT 条件が検出されました。ロック・リジェクトが発生したとき、アプリケーション・プログラムは、少なくとも 1 つの CPI-C 会話を割り振り済みでした。この異常終了は、異常終了 3303 と似ているが、再試行できません。入力メッセージは廃棄されます。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

システムの処置

変更されたアプリケーション・プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答

トランザクションを再入力します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSECP10、DFSECP20

0126

説明

変更されたアプリケーション DL/I プログラムで、再試行できない異常終了 2479 条件が検出されました。バッファー・キュー・エレメント (BQEL) 用のストレージが不十分であることを IMS が検出したとき、変更された標準 DL/I プログラムは、少なくとも 1 つの CPI-CI 会話を割り振り済みでした。この異常終了は、異常終了 2479 と似ていますが、再試行できません。入力メッセージは廃棄されます。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

分析

0126 は、モジュール DFSTMR00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。

システムの処置

変更されたアプリケーション・プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答

トランザクションを再入力します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSECP10、DFSECP20

0127

説明

SAA Communications ドリブン・プログラムが、IMS リソースを非コミット状態にして終了しました。終了前に、CPI 通信ドリブン・プログラムが CPI-RR COMMIT(SRRRCMIT) または BACKOUT(SRRBACK) 呼び出しの実行に失敗したときに、この状態は発生します。IMS は暗黙的なコミットを実行しようとしたが、コミットは失敗しました。IMS 管理対象リソースは、非コミット状態でした。コミットされていない変更はすべてバックアウトされました。CPI 通信ドリブン・プログラムは再試行できません。

分析

0127 は、DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

リソースがリカバリーされているかどうかを確認します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCC20

0128

説明

APPC/MVS ASSOCIATE 呼び出しが失敗しました。ASSOCIATE 呼び出しは、LU 6.2 会話が処理される APPC/MVS を通知します。

分析

0128 は、モジュール DFSASK00 またはモジュール DFSCPY00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される疑似異常終了です。試行された呼び出しからの戻りコードを示すために、X'67D0' ログ・レコードが書き込まれます。入力メッセージがメッセージ・キューに戻されます。

システムの処置

プログラムは異常終了します。入力メッセージはスケジューリングのために再キューイングされ、会話は非同期に変更されます。

プログラマーの応答

トランザクションを再入力してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSECP10、DFSECP20

0129

説明

アクセサー環境エレメント (ACEE) のコピーを作成するための RACF 呼び出しまたはそれと同等の呼び出しが失敗しました。この呼び出しは、従属領域のセキュリティー環境を確立します。

分析

0129 は、モジュール DFSASK00 またはモジュール DFSCPY00 によって設定され、モジュール DFSECP10 および DFSECP20 によって発行される、疑似異常終了です。X'67D0' ログ・レコードが書き込まれ、試行された呼び出しからの戻りコードが示されます。RACF または同等の機能によって実際のセキュリティー違反が指摘された場合、入力メッセージはシステムから廃棄されます。入力メッセージが廃棄された場合、DFS554A メッセージは、トランザクションもプログラムも停止されなかったことを示します。入力メッセージがメッセージ・キューに書き戻される場合 (例えば、RACF または同等の機能がアクティブでない場合)、DFS554A メッセージは、トランザクションとプログラムの両方が停止されたことを示します。

RACF または同等の機能によって実際のセキュリティー違反が指摘された場合、入力メッセージはシステムから廃棄されます。入力メッセージが廃棄された場合、

DFS554A メッセージは、トランザクションもプログラムも停止されなかったことを示します。入力メッセージがメッセージ・キューに書き戻される場合 (例えば、RACF または同等の機能がアクティブでない場合)、DFS554A メッセージは、トランザクションとプログラムの両方が停止されたことを示します。

システムの処置

プログラムは異常終了します。RACF または同等の機能によって実際のセキュリティ違反が指摘された場合、入力メッセージはシステムから廃棄されます。入力メッセージが廃棄された場合、DFS554A メッセージは、トランザクションもプログラムも停止されなかったことを示します。入力メッセージがメッセージ・キューに書き戻される場合 (例えば、RACF (例えば、RACF または同等の機能がアクティブでない)、DFS554A メッセージは、トランザクションとプログラムの両方が停止されたことを示します。

プログラマーの応答

RACF または同等の機能が使用可能かどうか確認してから、トランザクションを開始します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSECP10、DFSECP20
関連情報
[DFS554A](#)

0130

説明

メッセージ処理プログラム (MPP) 領域が DBCTL 領域に接続しようとしていました。DBCTL は MPP 領域からの接続を許可していないため、この試みは無効です。

分析

0130 は、MPP 領域による SIGNON の試行中にモジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

MPP は疑似異常終了 0130 を受け取ります。

プログラマーの応答

アクティブな DBCTL 領域に関連した IMSID に接続しようとする MPP を開始しないでください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSASK00

0131

説明

DFSASK00 の識別機能で、DFSSRB 用の SP230 ストレージに対する IMODULE GETMAIN 要求からゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

これは、モジュール DFSASK00 および DFSDASIO によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:
4、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00、DFSDASIO
関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0132

説明

IDENTIFY 時に、ストア・クロック (STCK) 命令の後で、ゼロ以外の条件コードを受け取りました。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: ハードウェアまたはシステム制御プログラム (SCP) の問題が、この異常終了の原因である可能性があります。

システムの処置

従属領域は終了します。

プログラマーの応答

ストア・クロック (STCK) 障害戻りコードについては、「*System 370 Principles of Operation*」(GA22-7000) を参照してください。

問題判別:

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0133

説明

DFSASK00 の識別機能で、ATBCONN 要求からゼロ以外の戻りコードが戻されました。この原因として、ATBCONN 要求で指定されたアドレス・スペースのクリーンアップに ATBCMAS 要求が失敗したことが考えられます。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

従属領域は終了します。

プログラマーの応答

イニシエーターをドレインして、従属領域を再始動します

ATBCONN 要求エラーについては、X'67D0' ログ・レコードを参照してください。

ATBCMAS 要求エラーについては、メッセージ DFS1959E を参照してください。

問題判別:
15, 25, 40

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

関連資料

[DFS1959E メッセージ情報 \(診断\)](#)

関連情報

[DFS1959E \(メッセージおよびコード\)](#)
[11 ページの『IMS 問題判別』](#)
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0134

説明

制御領域のシャットダウンの進行中に、従属領域が IDENTIFY 要求を出しました。これは、処理中のシャットダウンでは正常です。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:

4, 35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0135

説明

無効な要求コードが DFSASK00 に渡されました。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: これは、おそらく IMS システム・エラーです。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:

4, 35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSASK00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0136

説明

同一の従属領域から 2 番目の IDENTIFY 要求が出されました。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: これは、おそらく IMS システム・エラーです。

システムの処置

従属領域は終了します。データベース制御 (DBCTL) サブシステムの場合、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステム接続処理が終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0137

説明

コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが 2 番目の IDENTIFY を発行しましたが、前の接続のクリーンアップがまだ進行中です。同じアドレス・スペース制御ブロック (ASCB) アドレス、または同じ CCTL ID がエラーを検出しました。エラーを検出したものを判別するには、SSOB の SSPSCODE フィールドを調べてください。このフィールドには、「名称」または「アスカブ」

システムの処置

接続プロセスは終了します。

システム・プログラマーの応答

直前の接続に対するクリーンアップが完了するまで待つてから、別の接続を試行してください。ディシス CCTL コマンドを使用して、CCTL 状況を検査することができます。

問題判別:

1, 5, 8, 38

ソース:

イムス 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0138

説明

コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが INIT 要求を発行しました。データベース・リソース・アダプター (DRA) が、DBCTL の異常終了、DBCTL の正常終了 (/CHE FREEZE)、または DRA スレッドに対する /STOP REGION コマンドなどの DBCTL イベントについて DRA に通知するために呼び出されるモジュールをロードします。DBCTL は DRA 通知モジュールを見つけることができませんでした。

システムの処置

CCTL INIT 要求はリジェクトされます。

プログラマーの応答

DRA 始動テーブルに定義されたライブラリーが DRA モジュールのすべてを含んでいるかどうかを検査します。

ソース:

IMS 異常終了

0139

説明

SYSEVENT SVC からエラー戻りコードを受け取りました。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: これは、おそらく SCP またはハードウェア障害です。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0140

説明

DL/I 呼び出しを行っているアプリケーションが識別されていませんでした。IDENTIFY トークンが無効です。

この異常終了は、DL/I 呼び出し実行中に従属領域が PST ID テーブル内に見つからない場合にも発生します。

分析

この異常終了は、DFSCPY00 によって発行される疑似異常終了です。この異常終了は、実際には DFSECP10 (MPP の場合) または DFSECP20 (BMP の場合) によって発行されます。

考えられる原因: これは、おそらく IMS システム・エラーです。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:
4、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSCPY00、DFSECP10、DFSECP20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0141

説明

サインオン・トークンが無効です。要求側がトークンを追跡できませんでした。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:
4、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0142

説明

従属領域に割り当てられる作業単位ブロック (LCRE、OSWA、DPST、GMQW、XPST、D1WA、EPST、または D2WA) を作成できませんでした。従属 PST 用のストレージが利用不能でした。この異常終了は、最大区画仕様テーブル (MAXPST) 限度に達した場合にも発生します。

分析

0142 は、DFSPCJM0 によって発行される標準異常終了です。リソース不足または内部エラーのため、サインオンが失敗しました。

考えられる原因:

1. 作業単位ブロックの 1 つに、ECSA ストレージを使用できませんでした。
2. MAXPST に達しました。
3. BCB IPAGE 制御ブロックの獲得または解放に関する内部 IMS エラー。モジュール SIGNSAVE+X'58' には、制御ブロック名 (最初の 3 バイト) と、下位バイトに BCB 戻りコードが入っている可能性があります。
4. 以下のいずれかのブロック内の BCB ブロック数が不十分でした。

LCRE	OSWA
DPST	GMQW
XPST	D1WA
EPST	D2WA

システム・プログラマーの応答

それでも IMS が許容範囲のスループットを処理できる場合は、処置は必要ありません。

IMS コマンドの DISPLAY ACTIVE または DISPLAY CCTL によって上記のように MAXPST に達した場合は、システム・リソースを調整して増加させることが可能であれば、MAXPST 値を大きくすることを検討してください。SCDPSTCT により内部的に示される MAXPST は SCDPSTMX と等しくなります。この変更には、推奨の

FORMAT RS オプションを指定して再始動時に IMS 再起動 (recycle) が必要です。

IMS スループットが許容範囲ではなく、しかも CSA が満杯の場合は、CSA 使用率を把握して解決しなければなりません。この際には、システム・モニター表示情報分析やダンプ分析が必要になることがあります。

IMS スループットが許容範囲でない場合は、再始動時に FORMAT RS オプションを指定して IMS を再起動 (recycle) することによってスレッドをリセットできます。これによって、制御ブロックのオーバーレイに関連するほとんどの内部エラーは解消されます。IMS の再起動 (recycling) 前に IMS 制御領域のメモリー・ダンプを作成し、問題を IBM ソフトウェア・サポートへ報告してください。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0143

説明

従属領域の初期設定に使用できる仮想記憶域が不十分です。

分析

これは、SIGNON または CREATE-THREAD 処理中にモジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

従属領域は終了します。

プログラマーの応答

領域 (区画) サイズを大きくして、ジョブを再実行依頼してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00

0144

説明

従属領域の IDENTIFY 要求が失敗しました。おそらく、IDENTIFY テーブルに必要なストレージ要求が失敗したためです。この異常終了は、DFSBCB FUNC=GET が以下のものを取得しようとして失敗した場合に発行されます。

- 従属領域 IDENTIFY 要求で、IDENTIFY テーブル用の非同期作業エレメント (AWE) またはストレージ。IDENTIFY テーブルは使用できません。
- 従属領域からの SIGNOFF 時の AWE。
- DBCTL 再同期呼び出しのための AWE。

分析

これは、モジュール DFSASK00、DFSDASIO、DFSDASS0、および DFSDASR0 によって発行される疑似異常終了です。

この異常終了が IDENTIFY 中に発行される場合は、一部の領域が終了した後で要求を再発行してください。DBCTL の場合、通常 SSOB 内の SSPSCODE フィールドには、どのブロックを取得中であったかを示す 3 バイトの障害目印と、BCB GET からの 1 バイトの戻りコードが入ります。

システムの処置

従属領域は終了します。

オペレーターの応答

リソースが使用可能な場合、IMS 定義で指定されたより多くの従属領域 (最大 255 まで) の始動を試みてください。領域が IDENTIFY 要求を試行したときに、IMS 制御領域に定義された最大数の従属領域がアクティブでした。

プログラマーの応答

領域 (区画) サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00、DFSDASIO、DFSDASS0、DFSDASR0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0145

説明

DFSASK00 の呼び出し元が妥当ではありません。呼び出しの処理中、呼び出して渡された識別トークンが IDT のものと一致しなかったか、または呼び出し元が ID と同じアドレス・スペースでなかったかのいずれかです。

分析

このコードは、DFSASK00 によって検出され、モジュール DFSRRA00、DFSPCC20、DFSRRC10、または DFSRRC40 によって発行される、疑似異常終了を示します。0145 は、以下のいずれかの理由で発行される可能性があります。

- SIGNON 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が、SIGNON 呼び出し (SSCNTOKI) で渡された識別トークンが、従属領域の IDENTIFY 処理中に IDT (IDTIDTKN) に入れられた識別トークンと一致していないことを判別した。
- CREATE THREAD 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が以下のいずれかを判別した。
 - アドレス・スペース制御ブロック (ASCB) アドレスが、従属領域の SIGNON 時に PST (PSTID) に入れられた ASCB アドレスと一致していないため、呼び出し元は ID と同じアドレス・スペース内にない。
 - CREATE THREAD トークンに関連付けられた PST が、従属領域の SIGNON 時に PST 索引テーブル (KIT) に入れられた PST と一致していない。
- TERMINATE THREAD 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が、呼び出し元が ID と同じアドレス・スペース内にないことを判別した。ASCB アドレスが、従属領域の SIGNON 時に PST (PSTID) に入れられた ASCB アドレスと一致していなかった。
- SIGNOFF 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が、呼び出し元が ID と同じアドレス・スペース内にないことを判別した。ASCB アドレスが、従属領域の SIGNON 時に PST (PSTID) に入れられたアドレスと一致していなかった。
- TERMINATE 呼び出しの処理中に、DFSASK00 が、TERMINATE 呼び出し (SSTMTOKI) で渡された識別トークンが、従属領域の IDENTIFY 処理中に IDT (IDTIDTKN) に入れられた識別トークンと一致していないことを判別した。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0147

説明

1 つ以上のスレッドがまだ活動状態の間に、SIGN-OFF 要求を受け取りました。SIGN-OFF は、TERMINATE THREAD を発行しました。これは、以前の TERMINATE-THREAD が異常終了したときに、SIGNOFF が従属 イムス 階層から次に進む要求であるときに発生する可能性があります。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSASK00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0148

説明

従属領域の終了 (SIGN-OFF 処理) の間に、IMODULE GETMAIN または QSAV 要求に回答してゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

これは、従属領域の終了 (SIGN-OFF) の間にモジュール DFSASK00 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

IMS 従属領域は異常終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0149

説明

制御領域に対する ISWITCH が失敗しました。DFSASK00 は、ISWITCH TO=CTL 要求の後に、DFSIDSP0 からレジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析

これは、DFSASK00 によって確立された疑似異常終了です。

考えられる原因: イムス ディスパッチャーは、その領域に対して a/STO REG ABDUMP が進行中の場合、ISWITCH TO=CTL を許可しません。/STO REG

ABDUMP コマンドが入力されなかった場合は、これは内部システムの問題です。問題を分析するには、イムス ディスパッチャー・トレースおよびログからの疑似異常終了ダンプが必要です。SAPSCNTL フラグ SAPSISWT を調べて、ISWITCH が既に進行中であったかどうかを確認してください。

システムの処置

従属領域は終了します。

オペレーターの応答

異常終了した領域について **領域のダンプの停止 / 停止** コマンドが入力されなかった場合は、イムス システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

問題を判別し、訂正してください。詳しくは、上記の「分析」セクションを参照してください。

問題判別:

4, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSASK00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0150

説明

DBRC 領域、DL/I 従属アドレス・スペース領域、または IMS 制御領域のいずれかが異常終了すると、他の領域が異常終了 U150 で終了します。

分析

DBRC 終了の場合:

- 制御領域が異常終了すると、DBRC 領域は、制御領域ジョブ・ステップ ESTAE、DFSSTMO によって発行される SIGNOFF ABNORMAL 要求によって通知されます。DFSRCQM0 はこの要求を処理し、DBRC 領域を 0150 で異常終了します。
- DBRC が異常終了すると、DBRC ESTAE、DFSXRID0 は、CALLRTM を使用して制御領域を終了します。CTL TCB ESTAE、DFSFCST0 または制御領域ジョブ・ステップ ESTAE、DFSSTMO は、システム 4095 異常終了を 0150 に変換します。CTL TCB がまだ初期化されていない場合、ジョブ・ステップに対して CALLRTM が発行されます。

DL/I 従属アドレス・スペース終了の場合:

- 制御領域が異常終了すると、DL/I 従属アドレス・スペースを終了するために、制御領域は CALLRTM を発行します。これにより、DL/I 従属アドレス・スペースのジョブ・ステップ TCB、DFSFDL10 の ESTAE は、システム 4095 異常終了を 0150 に変換します。この CALLRTM は、DFSSTMO (制御領域ジョブ・ステップ ESTAE)、DFSFMOD0 (制御領域 TCB ETXR ルーチン)、または DFSABND0 (定様式ダンプ) から発行される可能性があります。
- DL/I 従属アドレス・スペース領域が終了すると、制御領域に対して CALLRTM が発行されます。これにより、CTL TCB ESTAE、DFSFCST0 または制御領域ジョブ・ステップ ESTAE、DFSSTMO は、システム 4095 異常終了を 0150 に変換します。CTL TCB がまだ初期化されていない場合、ジョブ・ステップに対して CALLRTM が発行されます。この CALLRTM は、DFSSDL20 (DL/I 従属アドレス・スペース TCB ETXR ルーチン)、DFSFDL10 (DL/I 従属アドレス・スペース・ジョブ・ステップ ESTAE)、または DFSABND0 から発行される可能性があります。
- DL/I 従属アドレス・スペースが初期化されているときに制御領域が異常終了の処理中である場合、DL/I 従属アドレス・スペース初期設定モジュール DFSXDL00 によって、異常終了 0150 が発行されます。

システムの処置

IMS、DBRC、および DL/I 従属アドレス・スペースは異常終了します。

プログラマーの応答

DBRC、DL/I 従属アドレス・スペース、および IMS 制御領域のメモリー・ダンプを取得します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSSTMO、DFSRCQM0、DFSXDL00、DFSFDL10、DFSFSCT0

第 8 章 IMS 異常終了コード 0151 - 0200

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0151

説明

//DFSCTL データ・セットに無効なデータ・セット属性があります。この異常終了と共に、メッセージ DFS1071I が発行されます。

分析

これは、DFSSBIO0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 3 は、//DFSCTL データ・セットを記述するデータ制御ブロック (DCB) を指しています。

キー	ラベル	解説
Reg3= DCB のアドレス	バッドブ	//DFSCTL データ・セットの DCB をオープンした後、DFSSBIO0 は、レコード・フォーマットが固定長で、レコード長が 80 であるかどうかを検査します。そうでない場合、DFSSBIO0 はこの異常終了を発行します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1071I の情報に基づいて、データ・セット属性を訂正してください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSSBIO0

関連情報

[DFS1071I](#)

0152

説明

順次バッファリング (SB) の COMPARE オプションが SB バッファ・ハンドラーが OSAM バッファ・ハンドラーに戻す予定のバッファの内容と DASD 上に保管されているブロックの内容とが一致していないこと

を検出しました。この異常終了と共に、メッセージ DFS1070I が出されます。

分析

0152 は、モジュール DFSSBCR0 の COMPARE サブルーチンによって検出される疑似異常終了です。不一致を検出した後、DFSSBCR0 はモジュール DFSSBSN0 を呼び出して、診断情報を含んでいるスナップ・メモリー・ダンプを作成してから、異常終了を要求します。

IMS システムの場合、SNAP レコードは、IMS ログに X'67EF' ログ・レコードとして書き込まれます。CICS システムの場合、SNAP レコードは、テープまたはディスク上にある CICS システム・ログ Journal 01 に書き込まれます。バッチ領域の場合、SNAP 出力は、(//DFSCTL データ・セットの SNAPDEST 制御ステートメントのユーザー提供の指定に応じて) IMS ログまたはユーザーによって選択されたデータ・セットのいずれかに書き込まれます。IMS および CICS の両方のログ・レコードの印刷方法については、[ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ \(DFSERA10\) \(システム・ユーティリティ\)](#)を参照してください。CICS では、SNAP ログ・レコードを印刷するためのユーティリティ (DFHJUP) も提供しています。

SNAP 出力は、以下の項目で構成されます。

- 要約 (PSB 名、DBD 名、および DD 名など)
- OSAM バッファ・ハンドラーの IBFPRF バッファ制御ブロック
- 最初の不一致バイトのバッファ内の変位
- DASD に保管されているブロック
- SB バッファ・ハンドラーが OSAM バッファ・ハンドラーに戻そうとしたバッファ
- DL/I 制御ブロックおよびバッファ・プール

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1070I を参照して適切な応答を得ます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSSBCR0

関連情報

[DFS1070I \(メッセージおよびコード\)](#)

0153

説明

IMS がエリアに必要なストレージを獲得できなかったか、または IMS システム・モジュールをロードできませんでした。この異常終了の前に IMS はメッセージ DFS1075A、DFS1076A、または DFS2347A を発行して、問題の原因を示します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1075A、DFS1076A、または DFS2347A にある情報に基づいてエラーを訂正します。

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS1075A \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS1076A \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS2347A \(メッセージおよびコード\)](#)

0154

説明

OSAM アクセス方式と順次バッファリング (SB) バッファ・ハンドラーとの間で予期しないインターフェース・エラーが発生しました。OSAM アクセス方式と DFSSBIO0 の間のインターフェース・エラーにより、OSAM アクセス方式は入出力を開始できません。スナップ・ダンプが IMS ログまたはユーザー指定のデータ・セットに書き込まれます。

分析

0154 は、DFSSBIO0 によって発行される標準異常終了です。この異常終了を発行する前に、DFSSBIO0 は DFSSBSNO を呼び出して、診断情報を含んでいるスナップ・ダンプを作成します。SNAP 出力は、(//DFSCTL データ・セットの SNAPDEST 制御ステートメントのユーザー提供の指定に応じて) IMS ログに X'67EF' ログ・レコードとして書き込まれるか、またはユーザーによって選択されたデータ・セットに書き込まれます。

SNAP 出力は、以下の項目で構成されます。

- 「要約 (Summary)」には、テキスト INTERFACE ERROR BETWEEN DFSSBIO0-MODULE AND OSAM が入っています。
- DL/I 制御ブロックおよびバッファ・プール

キー	ラベル	説明
Reg5=OSAM への RWOS マクロ呼び出しの DFSSBIO0 によって使用される DECB のアドレス Reg10=PST のアドレス PST	CHECKS8 0	DFSSBIO0 の CHECKS サブルーチンは、前に発行された RWOS TYPE=READMULT OSAM 読み取り入出力操作の完了を確認するために、ICHECKOS マクロを発行します。レジスター 15 内のゼロ以外の戻りコードは、問題があることを示しており、CHECKS サブルーチンは DECBNOIO ビットをテストします。DECBNOIO ビットがオンの場合、インターフェース・エラーが発生しました。CHECKS サブルーチンはレジスターを PSTSAVL に保管し、DFSSBSNO を呼び出してスナップ・ダンプを作成し、異常終了を発行します (バッチ領域のみ)。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

詳しい診断情報については、上記の『分析』を参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSSBIO0

0155

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、実行中にエラーを検出しました。

異常終了の前に、SB テスト・プログラムは、問題を示すメッセージを発行し、レジスター 15 の下位バイトに理由コードを設定します。

分析

0155 は、DFSSBHD0 によって発行される標準異常終了です。SB テスト・プログラムが問題を検出すると、IMS はレジスター 15 の下位バイトに理由コードを入れ、エラー・メッセージを発行します。各理由コード (下記の表で説明) は、エラーのタイプを識別するエラー・メッセージに関連付けられています。下の表で、理由コードに対応するメッセージを参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'00' メッセージ DFS1080A	TCBFS A	DFSSBHDO は、PXPparms 内のフィールドをテストして、それがバッチ領域で実行されていることを検査します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'01' メッセージ DFS1081A	BATCH H	DFSSBHDO は PST 内のフィールドをテストして、SB が正しく初期化されていることを検査します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'02' メッセージ DFS1082A		DFSSBHDO は、SYSPRINT データ・セットが正常にオープンされたかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'03' メッセージ DFS1083A		DFSSBHDO は、SYSIN データ・セットが正常にオープンされたかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'04' メッセージ DFS1084A		DFSSBHDO は、SYSUT1 データ・セットが正常にオープンされたかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'05' メッセージ DFS1085A		DFSSBHDO は、SYSUT1 データ・セットのレコード・フォーマットが可変であるかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg2=A(PSB) Reg15=X'06' メッセージ DFS1086A	GETU TS30	DFSSBHDO は、PSB が少なくとも 1 つのデータベース PCB を持っているかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ログ・レコード) Reg15=X'07' メッセージ DFS1087A		DFSSBHDO は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに有効な PCB 番号が含まれているかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ログ・レコード) Reg15=X'08' メッセージ DFS1088A	FINDP CB5	DFSSBHDO は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに有効な DBD 名が含まれているかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ログ・レコード) Reg15=X'09' メッセージ DFS1089A		DFSSBHDO は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに有効な相対データ・セット・グループ制御ブロック (DSG) 番号が含まれているかどうかを判別します。そうでない場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg2=A(DSG) Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ログ・レコード) Reg15=X'0A' メッセージ DFS1090A		DFSSBHDO は、データベース・データ・セットのデータ・セット編成が VSAM に変更されているかどうかを判別します。そうである場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ログ・レコード) Reg5=A(DMB)) Reg15=X'0C' メッセージ DFS1092A		DFSSBHDO は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに保管されている DD 名を検査します。これが無効である場合、DFSSBHDO はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ログ・レコード) Reg15=X'0D' メッセージ DFS1093A		DFSSBHD0 は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに保管されているサブレコード・タイプを検査します。これが無効である場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'0F' メッセージ DFS1095A	EODL OG	DFSSBHD0 は、アプリケーションの実行開始を記述しているイメージ・キャプチャー・ログ・レコード (//SYSUT1 データ・セット内) を検出できません。
Reg3=A (イメージ・キャプチャー・ログ・レコード) Reg15=X'13' メッセージ DFS1099A		DFSSBHD0 は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードに保管されている DD 名を検査します。これが無効である場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。
Reg15=X'14' メッセージ DFS2343A	EODS YSIN	DFSSBHD0 は、//SYSIN データ・セットで提供されたテスト・プログラム制御ステートメントを検査します。1 つ以上の制御ステートメントが無効である場合、DFSSBHD0 はエラー・メッセージおよび異常終了を発行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

理由コードに対応するメッセージを参照して、適切な対応を取ります。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBHD0

0156

説明

アプリケーション・プログラムが DL/I 呼び出しを行いました。呼び出し元は監視プログラム状態にありました。

分析

これは、DFSCP00 によってセットアップされる疑似異常終了です。この異常終了は、実際には DFSECP10 (MPP の場合) または DFSECP20 (BMP の場合) によって発行されます。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムでエラーが発生しました。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:

4、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSCP00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0157

説明

アプリケーション・プログラムが DL/I 呼び出しを行いました。呼び出し元のキーが、タスク制御ブロック (TCB) 内のキーと異なっていました。

分析

これは、DFSCP00 によってセットアップされる疑似異常終了です。この異常終了は、実際には DFSECP10 (MPP の場合) または DFSECP20 (BMP の場合) によって発行されます。

考えられる原因: ストレージ保護キーの設定が原因で、アプリケーション・プログラムにエラーが発生した可能性があります。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:

4、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSCP00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0158

説明

GSAM 初期設定モジュール DFSZDI20 が GSAM データ・セットの DD ステートメント情報を取得するためにタイプ 13 RDJFCB マクロを実行したとき、問題が発生しました。

分析

下の表は、レジスター情報および説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg14=X '01'	AB15 801	レジスター 15 に、RDJFCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。これは、そのステップに DD ステートメントがないことを示している可能性があります。ただし、前の DEVTYPE マクロは、DD ステートメントが存在することを示していました。
Reg14=X '02'	AB15 802	RDJFCB マクロから戻ったときに、RDJFCB によって取得された ARLAREA (ARA 領域のアドレス) が 0 です。この場合、ARLCODE はおそらく 8 です。ARLCODE=8 の説明は、Reg14=X'03' を参照してください。
Reg14=X '03'	AB15 803	RDJFCB マクロから戻ったときに、R5 + X'1C' にある ARLCODE がゼロ以外です。ARLCODE=4 の場合、RDJFCB マクロを発行する前に ARL が正しく初期化されていませんでした。ARLCODE=8 の場合、ARA 領域を戻すための十分な仮想記憶域がありませんでした。その領域用に使用可能な最大仮想記憶域を増やして、再度このステップを実行してください。ARA 領域は、DD ステートメントに含まれているデータ・セットの数に 200 バイトを乗算した値にほぼ等しくなります。

システムの処置

IMS バッチまたは BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

RDJFCB マクロを実行するには、追加の仮想記憶域が必要です。領域のサイズが十分かどうかを確認します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSZDI20
関連資料

z/OS: RDJFCB マクロの仕様

0160

説明

IMS 従属領域で実行していないアプリケーションが DL/I 呼び出し、SRRRCMIT 呼び出し、または SRRBACK 呼び出しを発行しました。次のいずれかが発生しました。

- アプリケーションが DL/I プログラム呼び出しを発行し、これがモジュール DBFIRC10、DFSCPY00、または DFSCPY50 によって処理された。
- アプリケーションが SRRRCMIT または SRRBACK 呼び出しを発行し、これが DFSCPY70 によって処理された。

DFSCPY00、DFSCPY50、または DFSCPY70 で、以下のいずれかが妥当性検査に失敗しました。

PST
DIRCA
サインオン・トークン
アドレス・スペース制御ブロック (ASCB)
スレッド・トークン

分析

モジュール DFSCPY00、DFSCPY50、および DBFIRC10 によって発行された場合、このコードは疑似異常終了を示します。モジュール DFSCPY70 によって発行された場合、これは標準異常終了です。

DBFIRC10 は、現行の TCB が IMS 従属領域 TCB でない場合、この疑似異常終了を発行します。

この異常終了が DFSCPY70 によって発行された場合、異常終了時のレジスター 15 には、EBCDIC に以下の文字ストリングのいずれかが入っています。

PST (X'D7E2E340')
DIRC (X'C4C9D9C3')
VTDE (X'E5E3C4C5')
ASCB (X'C1E2C3C2')
THRD (X'E3C8D9C4')

システムの処置

アプリケーションは終了します。

ソース:
IMS 異常終了
モジュール:

0166**説明**

IMS セキュリティー・オプションで、サインオン検査およびコマンドまたはトランザクションの許可、または RAS 許可に RACF を使用するよう指定しましたが、IMS RACF セキュリティー初期設定が、失敗したかまたはシステム内に存在しません。

分析

0166 は、モジュール DFSIRAC0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了時のレジスター 15 に入っている戻りコードが、RACF 初期設定障害の原因を示しています。レジスター 6 に、レジスター 0 の RACF によって戻された値が入っています。RACF RACLIST 呼び出し時にエラーが発生した場合、レジスター 5 に、障害が起きたクラスを示す値が入っています。

コード**説明**

4	CIMS
5	TIMS
6	IIMS
7	LIMS
8	PIMS
9	AIMS

Reg 15**説明****X'04'**

要求された機能を実行できません

X'08'

指定されたクラスが RACF に定義されていません

X'0C'

RACLIST 処理エラー

X'10'

RACF がアクティブでないか、クラスがアクティブではありません

X'14'

RACLIST インストール・システム 出口ルーチン・エラー

X'18'

パラメーター・リスト・エラー

X'1C'

RACF がインストールされていないか、RACF のレベルが不十分です

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

この RACF システムの IMS セキュリティーをアクティブにします。

プログラマーの応答

ABEND 時のレジスター 15 に入っているコードが、RACF 初期設定での障害の原因を示しています。RACF RACLIST 呼び出しでエラーが起こった場合は、レジスター 5 に、失敗したクラスを示す値が入ります (4 - CIMS、5 - TIMS、6 - IIMS、7 - LIMS)。

セキュリティー・マクロ内の RAS 定義によって、あるいは DFSPBxx メンバー内の ISIS= A、C、または R によって、RAS セキュリティーが活動化されており、クラス IIMS、LIMS、または TIMS がアクティブではない場合、IMS は異常終了 0166 で異常終了し、レジスター 15 に RC=4、レジスター 5 に RC=5、6、または 7 が入りません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIRAC0

0168**説明**

再始動時に問題が検出されました。次のいずれかのエラーが発生しました。

- チェックポイントを取られたブロックがロードされたブロックと一致しません。指定されたチェックポイントが取られた後で、IMS 制御ブロックの構造が変更されていると、この状態が発生します。
- チェックポイントを取られた通信名テーブル (CNT) が再始動時に見つかりません。IMS コード障害の結果、この状態が発生します。

分析**DBFERSTO と DBFNRSTO の場合:**

チェックポイントを取られたブロックがロードされたブロックと一致しません。指定されたチェックポイントが取られた後で、IMS ブロックの構造が変更されていると、この状態が発生します。

0168 は、高速機能緊急時再始動モジュール DBFNRSO および高速機能緊急時再始動モジュール DBFERSTO によって呼び出されるモジュールから発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。異常終了 SVRB レジスタのレジスター 2 に、発生したエラーのタイプを示す EBCDIC コードが入っています。レジスター 9 に SCD アドレスが入っています。SCD 内のフィールド SCDCWRK には、異常終了が発生したときに処理中であったログ・レコードへのポインターが入っています。有効な高速機能ログ・レコード (タイプ X'59') については、「IMS Version 15 Diagnosis」内のログ・レコードのリストを参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg2=C'A DSC'	NRST40 87	チェックポイントを取られたエリアが、再始動システムに定義されていません。
Reg2=C'A DSC'	EROCS59 21	高速処理データベース (DEDB) エリア・データ・セット (ADS) オープン・ログ・レコードが読み取られましたが、ログ・レコードで指定された DEDB ADSC は、システム内 (フィールド ADSCDDN) に存在しました。
Reg2=C'A DSC'	EROCS59 22	DEDB ADS クローズ・ログ・レコードが読み取られましたが、ログ・レコードで指定されたエリア・データ・セット制御ブロック (ADSC) が、再始動システムに存在しません。
Reg2=C'A DSC'	EROCS59 23	DEDB ADS 状況ログ・レコードが読み取られましたが、ログ・レコードで指定された ADSC が、再始動システムに存在しません。
Reg2=C'A DSC'	EROCS59 24	チェックポイントを取られたエラー・キュー・エレメント (EQE) の ADSC が存在しません。
Reg2=C'A VAQ'	NRST40 86	正常再始動が、未確定制御インターバル (CI) を再作成するためのバッファを取得できませんでした。
Reg2=C'B MMM'	PROC40 80	バッファ・マネージャーの不一致が発生しました。トラッキング・システムのバッファ・マネージャーが、FPBP64=Y N および DBBF、DBFX、BSIZ で定義されたアク

キー	ラベル	説明
		タイプ・システムのバッファ・マネージャーと異なっています。トラッキング・システムのバッファ・マネージャーは、アクティブ・システムのバッファ・マネージャーと同じでなければなりません。
Reg2=C'D BFR'	NRST40 86	未確定 CI を含んでいるバッファまたは現行の順次従属セグメント (SDEP) バッファが、チェックポイントでログに記録されました。バッファは単一のログ・レコードに入れるには大き過ぎます。さらに、複数のログ・レコードが誤って作成されており、これらを再始動によって処理することはできません。
Reg2=C'D MAC'	NRST40 84	チェックポイントを取られた DEDB 名またはチェックポイントを取られたエリア名を、再始動システムで見つけることができません。
Reg2=C'D MAC'	NRST40 88	チェックポイントを取られた IEEQE に、再始動システム上で定義されていないエリアの未確定データが含まれています。
Reg2=C'D MCB'	various	ログ・レコード内の DEDB 名を、システム DEDB マスター制御ブロック (DMCB) リストで見つけることができません。
Reg2=C'D MHR'	NRST40 80	再始動システム上の高速機能バッファ定義 (バッファの数、バッファ・サイズ) が、チェックポイントを取られた情報と一致しません。31 ビットの高速機能システム (FPBP64=N) の場合、DBBF 値は、FDBR とアクティブ IMS の両方で同じでなければなりません。
Reg2=C'IE QE'	NRST40 86	ウォーム・スタート時に、未確定 CI のチェックポイント・レコードが見つかりましたが、対応する IEEQE のチェックポイント・レコードが見つかりませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg2=C'IE QE'	NRST40 88	チェックポイントを取られた IEEQE の継続を含むログ・レコードが見つかりましたが、初期ログ・レコードが見つかりませんでした。
Reg2=C'M SDB'	NRST40 89	イメージ・コピー・データ・セット MSDBCP1/2 から主記憶データベース (MSDB) をロードしようとしているときに、DBFDBDLO でエラーが発生しました。
Reg2=C'M SDB'	EROCS59 20	イメージ・コピー・データ・セット MSDBCP1/2 から MSDB をロードしようとしているときに、DBFDBDLO でエラーが発生しました。
Reg2=C'R CTE'	NRST40 83	チェックポイントを取られた RCTE の数が、拡張システム目録ディレクトリー (ESCD) (フィールド ESCDNRCE) 内の宛先コード・テーブル・エントリー (RCTE) の数に等しくありません。あるいは、対応する RCTE が同じ宛先コードを持ちません (フィールド RCTE CODE)。

DBFNDC00 の場合:

チェックポイント・レコードに含まれている通信名テーブル (CNT) 名に対して行われた FIND 要求が失敗しました。

0168 は、高速機能再始動 FIND DC 制御ブロック・モジュール DBFNDC00 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。

レジスター 12 (異常終了 SVRB レジスター内) は、基底レジスターです。レジスター 2 (異常終了 SVRB レジスター内) に、発生したエラーのタイプを示す EBCDIC コードが入っています。レジスター 9 に SCD アドレスが入っています。SCD 内のフィールド SCDCWRK には、異常終了が発生したときに処理中であったログ・レコードへのポインターが入っています。有効な高速機能ログ・レコードのリストが、IMS 診断情報内に示されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=C' CNTE'	NRST40 82	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=C' CNTE'	NRST40 85	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C' CNTE'	ASOC40 89	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C' CNTE'	ERMG5 903	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C' CNTE'	ERMG5 911	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。
Reg2=C' CNTE'	ERMG5 936	DBFNDC00 が CNT を見つけることができませんでした。R3 と R4 に、CNT 名が入っています。

DBFTORS0 の場合:

FINDDMAC 呼び出しは、ログ・レコード内の DEDB エリアに対して対応する DMAC アドレスを見つけていることができませんでした。この状態が発生するのは、再始動後のシステムにログ・レコードからの DEDB エリアに対応する DMAC アドレスがない場合です。

0168 は、入出力許容再始動モジュール DFSTORS0 によって呼び出される入出力許容高速機能再始動モジュール DBFTORS0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるモジュール内の命令を指しています。

DFSFR10 の場合:

高速機能ログ・レコードが、高速機能を含まない FDBR 領域によって検出されました。

0168 は、FDBR のモジュール DFSFR10 から発行される標準異常終了です。この FDBR 領域は高速機能を含みませんが、処理中のログ・テープに、高速機能チェックポイント・ログ・レコードを含むチェックポイントが含まれていました。この領域が誤ったログ・ストリームを処理していたのか、あるいはこの FDBR 領域に FP=Y を指定して高速機能を組み込む必要があるかのいずれかです。

DFSRLP00 の場合:

チェックポイントを取られたブロックがロードされたブロックと一致しません。この状態が発生するのは、指定されたチェックポイントが取られた後に、ユーザーが IMS ブロック構造を変更した場合です。

0168 は、モジュール DFSRLP00 (再始動ログ・プロセッサ) から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終

了 SVRB レジスタのレジスタ 12 は、基底レジスタ
ーです。

チェックポイントを取られたブロックとロードされた
ブロックの間に矛盾が検出されると、異常終了が発行さ
れます。異常終了 SVRB レジスタのレジスタ 15
に、矛盾しているブロックを示すコードが入っていま
す。

エラー・コード 1 および 2 はモジュール DFSRDBP0 で
検出されます。エラー・コード 3 は DFSRLP00 で検出
されます。エラー・コード X'6' から X'19' は DFSCRSP0
および DFSCRPB0 で検出されます。

コード 説明

X'01'

チェックポイントを取られた DDIR のカウントが、
ロードされたカウントに等しくありません。

X'02'

チェックポイントを取られた PDIR のカウントが、
ロードされたカウントに等しくありません。

X'03'

高速機能チェックポイント・レコードが検出されま
したが、高速機能はシステムに組み込まれていま
せん。

X'04'

X'22' ログ・レコードの処理中にエラーが発生しま
した。ログ・レコードを処理するためのストレージ
を取得できなかったか、あるいは X'22' ログ・レ
コードの後続のセグメントを最初のセグメントより
前に受け取りました。

X'06'

チェックポイントを取られた CNT のカウントが、ロ
ードされたカウントに等しくないか、あるいはチェ
ックポイントを取られた CNT の長さが、ロードされ
た CNT に等しくありません。

X'07'

チェックポイントを取られたレコード内の CNT 名
が、ロードされた CNT 名と一致しません。

X'08'

チェックポイントを取られた SMB のカウントが、
ロードされたカウントに等しくないか、チェックポ
イントを取られた SMB の長さが、ロードされた
SMB に等しくないか、SMB の順序が正しくないか、
あるいはモジュールが新規 SMB の取得に失敗しま
した。

X'09'

チェックポイントを取られたレコード内の SMB 名
が、ロードされた SMB 名と一致しません。

X'0A'

チェックポイントを取られた通信端末装置ブロッ
ク (CTB) のカウントが、ロードされたカウントに等
しくありません。あるいは、チェックポイントを取
られた CTB の長さが、ロードされた CTB と等しく
ありません。

X'0B'

X'0B' エラー・コードは、以下の問題を示している
可能性があります。

- チェックポイントを取られた CLB のカウントが、
ロードされたカウントに等しくない
- チェックポイントを取られた CLB の長さが、ロー
ドされた CLB に等しくない
- X'4036' ログ・レコード処理で、LLB ブロックが
見つからなかった
- X'4036' ログ・レコード処理で、関連の LCB ブロ
ックが見つからなかった
- X'4036' ログ・レコード処理時に、MSCWA 再作成
用の HIOP ストレージが利用不可であった
- X'4036' ログ・レコード処理時に、LLB ブロック
が既に英字チェーンに存在した

X'0C'

チェックポイントを取られた会話制御ブロック
(CCB) の長さが、ロードされた CCB の長さに等しく
ありません。

X'0D'

チェックポイントを取られた CCB のカウントが、ロ
ードされたカウントに等しくありません。

X'0E'

X'0E' エラー・コードは、以下の問題を示している
可能性があります。

- チェックポイントを取られたリンク制御ブロック
(LCB) のカウントが、ロードされたカウントに等
しくない
- チェックポイントを取られた LCB の長さが、ロー
ドされた LCB に等しくない
- X'4037' ログ・レコード処理時に、LCB ブロック
が見つからなかった
- X'4037' ログ・レコード処理時に、LCB ブロック
が既に英字チェーンに存在した

X'0F'

チェックポイントを取られた CRB のカウントが、ロ
ードされたカウントに等しくないか、あるいはチェ
ックポイントを取られた CRB の長さが、ロードされ
た通信再始動ブロック (CRB) に等しくありません。

X'10'

チェックポイントを取られたサブプール・キュー・
ブロック (SPQB) のカウントが、ロードされたカウ
ントに等しくありません。あるいは、チェックポ
イントを取られた SPQB の長さが、ロードされた
SPQB と等しくありません。

X'11'

チェックポイントを取られたレコード内の SPQB
名が、ロードされた SPQB 名と一致しません。

X'12'

チェックポイントを取られた VTAM 端末制御ブロ
ック (VTCB) のカウントが、ロードされたカウント

に等しくありません。あるいは、チェックポイントを取られた VTCB の長さが、ロードされた VTCB に等しくないか、チェックポイントを取られたレコード内の VTCB 名が、ロードされた VTCB 名と一致しないか、または VTCB 内でチェックポイントを取られた SPQB 名が、ロードされた SPQB 名の中に見つかりません。

X'13'

DFSBCB が、X'4040' ログ・レコード処理用の UOWE を取得できませんでした。

X'14'

X'4024' (TIB) ログ・レコード処理で、IMS 会話ビットマップも CCB ブロックも取得できませんでした。

X'15'

X'4034' (YTIB) ログ・レコード処理で、IMS 会話ビットマップも CCB ブロックも取得できませんでした。

X'16'

X'4003' ログ・レコード処理の後の SID テーブル再作成時に、HIOP ストレージが利用不可でした。

X'17'

X'0E' エラー・コードは、以下の問題を示している可能性があります。

- X'4038' ログ・レコード処理時に、関連の LLB ブロックが見つからなかった。
- X'4038' ログ・レコード処理時に、DFSBCB が QLST を取得できなかった。
- X'4038' ログ・レコード処理時に、DFSBCB が MPCB を取得できなかった。

X'18'

X'4036' ログ・レコード処理時に、LNB ブロックが見つかりませんでした。

X'19'

IMS と IMS の再始動元のチェックポイントの間に不一致が検出されました。IMS が FP=Y で再始動され、再始動に使用されたチェックポイント・レコードに高速機能リソースが含まれていなかったか、あるいは再始動時に FP=N が指定され、再始動に使用されたチェックポイント・レコードに高速機能リソースが含まれていたかのいずれかです。FP=Y が指定されている場合、高速機能を含んでいるチェックポイントから IMS を再始動する必要があります。FP=N が指定されている場合、高速機能がないチェックポイントから IMS を再始動する必要があります。

X'1A'

再始動を介して MODBLKS=OLC|DYN パラメーターを変更しようとした。このパラメーターは、コールド・スタートを介してのみ変更できます。

X'1B'

再始動を介して FPBP64=Y|N パラメーターを変更しようとした。このパラメーターは、コールド・スタートを介してのみ変更できます。

X'1C'

以下のいずれかの状態が発生しました。

- ウォーム・スタート全体に渡って IMSRSC リポジトリを使用不可にする試みがなされました。ウォーム・スタートで IMSRSC リポジトリを使用可能に変更することはできませんが、それを使用不可にしようとするとき失敗します。IMSRSC リポジトリを使用不可にするには、IMS のコールド・スタートを実行する必要があります。
- 緊急時再始動の後に、IMSRSC リポジトリを使用可能または使用不可にする試みがなされました。緊急時再始動の後に IMSRSC リポジトリを使用可能または使用不可にすることはできません。

以前使用可能でなかったリポジトリを使用可能にするには、IMSRSC リポジトリが使用不可の状態に緊急時再始動 (JERE) を実行し、再始動の完了後に **UPDATE IMS** コマンドを使用してください。

以前使用可能だった IMSRSC リポジトリを使用不可にするには、IMS のコールド・スタートを実行する必要があります。

- XRF 環境では、IMSRSC リポジトリは IMS アクティブ・システムおよび IMS 代替システムで使用可能であるか、またはその両方で使用不可でなければなりません。RC=X'1C' は、IMSRSC リポジトリが IMS システムのいずれか一方で使用可能であり、もう一方では使用不可の場合に戻されます。この状態を訂正するには、IMS アクティブ・システムまたは IMS 代替システムで DFSDFxxx メンバーを変更して、IMSRSC リポジトリが両方のシステムで一貫して使用可能または使用不可になるようにしてください。

この決定は、アクティブ IMS システムの再始動方法および IMSRSC リポジトリが再始動前に使用可能であったかどうかに基づいて行います。

X'1D'

X'1D' エラー・コードは、以下の問題を示している可能性があります。

- X'4039' ログ・レコード処理時に、関連の LNB ブロックが見つからなかった。
- X'4039' ログ・レコード処理時に、DFSBCB が RCNT ブロックを取得できなかった。
- X'4039' ログ・レコード処理時に、RCNT ブロックをハッシュ・テーブルに追加できなかった。

X'1E'

再始動を介して MSC= 実行パラメーターを変更しようとした。MSC= パラメーターは、コールド・スタートを介してのみ変更できます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

チェックポイントを取られたブロックがロードされたブロックと一致しないことがエラーの原因である場合、IMS を再 IPL してから、現行のブロック構造を反映するチェックポイントを入力するか、またはシステムをロード・スタートします。

チェックポイントを取られた CNT が再始動時に見つからなかったことがエラーの原因である場合、または理由コード X'04'を検出した場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別:

4、5、10、35、36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRCPO0、DBFERST0、DBFNDC00、DBFNRST0、DFSFDLR10、DFSRLP00、DBFTORS0

関連資料

[ログ・レコード \(診断\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0172

説明

再始動時のワークスペース所要量を満たすだけの十分なスペースが作業域プール (WKAP) にありません。

分析

0172 は、DFSRST00 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内の Reg14 BAL を使用して、該当するラベルに分離する必要があります。レジスター 11 は、基底レジスターです。

ICREATE ルーチンは、DFSRST00 内のさまざまな時点から呼び出されます。レジスター 10 は BAL レジスターであり、これを使用して呼び出し元を判別する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg2=POOL ID Reg3=プール要求の サイズ Reg9=SCD Reg14=BAL (ICREATE へ)	ICREATE	変数プールの要求が、ゼロ以外の戻りコードをレジスター 15 に戻しました。異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IMS 作業域プール (WKAP) のサイズを増やしてから、もう一度再始動します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRST00

0175

説明

再始動中に入力ログの処理中にリカバリー不能エラーが検出されました。メッセージ DFS0739A および DFS0739X を参照してください。この異常終了の前に受け取る可能性があります。

この異常終了は異常終了 0176 に関連しています

分析

DFSFDLY0 の場合:

この異常終了は、以下のモジュールによって検出されたエラーの応答として、モジュール DFSFDLY0 で発行されます。

DFSFDLNO

OLDS または SLDS を割り振る。

DFSFDLQ0

DFSFDLQ0 によって使用されるサブルーチン

DFSFDLP0

SLDS 読み取り

DFSFDLQ0

DFSFDLX0 によって使用される STATE ルーチン

DFSFDLRO

再始動 - 読み取りドライバー

DFSFDLTO

WADS のフォーマット

DFSFDLU0

WADS から OLDS を終了します。

DFSFDLV0

DFSFDLX0 によって使用される OLDS 読み取り STATE 遷移表には実行可能コードが含まれていませんが、これは OLDS 読み取りロジックの中心部です。

DFSFDLX0

OLDS 読み取りドライバー

DFSFDLY0

すべての再始動読み取りで使用されるサブルーチン

DFSFDLZ0

OLDS 読み取りと SLDS 読み取りを切り替えるための緊急再始動で使用されます。

再始動時に、入力ログ・データ・セットがリカバリー不能エラーまたはログ・データ・セット処理で決して発生しない論理エラーを検出したかのいずれかです。メッセージ DFS0739I または DFS0739X が発行されます。

0175 は、この異常終了にリストされているモジュールから発行できる標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、ABEND (SVC 13) の発行元の命令を指しています。

2つのモジュールのどちらが実際にエラーを検出するかに関係なく、すべての 0175 異常終了は、モジュール DFSFDLY0 内の csect DFSFDLY2 内の共通 ABEND サブルーチンを呼び出すことによって行われます。レジスター 14 には、呼び出し元の戻りアドレスが入っています。このアドレスは、実際の障害点に非常に近いものでなければなりません。レジスター 15 の下位ハーフワードには、異常終了の理由を識別する戻りコードが入っています。

DBRC エラーが関係している場合は、レジスター 15 の高位ハーフワードに DBRC 戻りコードが入っています。

DFSMDA エラーが関係している場合は、レジスター 15 の高位ハーフワードに DFSMDA 戻りコードが含まれています。(異常終了戻りコードを定義する Equate ステートメントは、マクロ DFSFRLWA にあります。) 残りの異常終了レジスターは、再始動読み取り作業域 (RLWORK) の RLWAREGS に保管されています。RLWORK は、レジスター 9 (または LCD の LRESTWK を使用) を使用して配置され、マクロ DFSFRLWA によってマップされます。

定様式ダンプから作業を行う場合、DFSFDLY2 への入り口でのレジスターは、RLWAREGS に保管されているレジスターにクローズされますが、必ずしも同一ではありません。

以下の異常終了レジスターは、0175 のすべてのオカレンスについて同じ意味を持ちます。

レジ 8

モジュールの 2 番目の基底レジスター (必要な場合)

正規表現 9

RLWORK - 再始動 - 読み取り作業域

レジ 10

LCD

レジ 11

SCD

レジ 12

モジュールの最初の基底レジスター

レジ 13

イムス 事前チェーン保管域

正規 14

BALR 戻りアドレス - エラーが実際に発生した場所

レジ 15

戻りコード

ルウワーク は、すべてのロガー再始動読み取りモジュールに対するキー・データ域であり、DSECT マクロ DFSFRLWA によってマップされます。RLWORK 内の以下のフィールドは、特に役立ちます。

RLWQDECB

再始動読み取りに渡されるパラメーター・リストのコピー

ルウルトフ

OLDS DECB およびバッファー・アドレスのテーブル内の最初の項目へのポインター。これらの項目は DFSFRLWA 内の DSECT OLAT によってマップされます。

ルヴグロル

再始動- グローバル状況フラグの読み取り

ラレアック

DBRC に渡された最後のログ割り振り要求 (タイプ)

ルヴァロック

割り振られたログのタイプ

ルヴドブレト

DBRC 作業域アドレス

ルヴデット

現在読み取られている OLDS の DSET 項目

ルウエン

現在読み取られているログの割り振り情報

ルヴェスタット

ログ状況フラグ

ルヴェイクブ

ログ例外フラグ

ルヴァヴル

ログ可用性フラグ

ルヴェープン

ログのオープンフラグ

ルヴェムデ

ログモードフラグ

ルウエファック

ログのファイルの終わり (EOF) の書き込み済みフラグ

ルヴェクセント

現在のログで読み取られた良好ブロックの数

ルワシュフ

最後の正常なブロック読み取りのための OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSFRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWPCNT

POINT の相対ブロック数

ル WOPDCB

OLDS 1 次 DCB

ルウォドップ
OLDS 2 次 DCB

RLWSDCB
スズ DCB

ル WWDCB
ワズ DCB

ラウェッグス
異常終了時の呼び出し元のレジスターのコピー

ルヴッ
現行 OLDS 上の最初のブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSFLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWDSUFF
最後に読み取られた重複ブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSFLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWTFGL1
OLDS エラー許容フラグ

RLWXSTAT
OLDS XRF 状況フラグ

RLWXSTT2
OLDS XRF 状況フラグ (バイト 2)

ルウムズルート
OLDS 再始動読み取り遷移表アドレス。OLDS 再始動読み取り遷移表についての詳細は、モジュール DFSFDLVO のプロログを参照してください。OLDS 再始動読み取り遷移表は、DFSFLWA 内の DSECTs HSRRTT、XSTATBL、および XSTATENT によってマップされます。

ルリクドマ
OLDS ドメイン・マッピング (前の状態/イベントおよび現在の状態/イベント)

RLWPPART
OLDS の前のドメイン区画 (DFSFDLVO 内にある)

RLWCPCPART
OLDS 現行ドメイン・パーティション (DFSFDLVO 内)

ラヴンパート
OLDS 次のドメイン・パーティション (DFSFDLVO 内)

ルヴシュトルクトン
OLDS 次の遷移トレース・エントリー・アドレス

RLWXTRCE
OLDS の遷移トレース・テーブル・アドレスの終わり

RLWXTRC
OLDS 遷移トレース・テーブル (25 項目 - それぞれ 5 ワード)。トレース・テーブル項目は、DFSFLWA 内の DSECT XTRCENT によってマップされます。(このトレース・テーブル内の項目を分析する必要が生じた場合は、イブン サポートに連絡して支援を求めてください。)

XSXX
OLDS 遷移状態の状態の等価ステートメント

ゼククス
OLDS 遷移 EVENT の等式ステートメント

クプティノット
OLDS 遷移 PARTITION の等式ステートメント

RLWWPARM
モジュール DFSFDLWO に渡された WADS 読み取りパラメーター・リスト

ルワブク
ABEND コード保管域。さまざまな再始動読み取り異常終了コードおよび戻りコードの Equate ステートメントは、RLWABC に従います。

DFSFDLNO の場合:

モジュール DFSFDLNO は、再始動読み取りプロセスが必要とするログ・データ・セットを割り振ります。DBRC に対して、特定のタイプのログ・データ・セットを見つけるための要求が出されます。データ・セットが正常に配置されると、データ・セットが割り振られます。以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLWLL LF RLWDBRC=DB RC 戻りコード	ルタ 1430	DBRC が最新の OLDS を検出できませんでした。
Reg15=RLWAF RLWAREGF=R DJFCB 戻りコード	ルタ 1578	出力用に新しい OLDS を割り振ろうとしているときに RDJFCB が失敗しました。
Reg15=RLWLL NF	ルタ 1585	ログのクローズ・プロセスを完了するには、出力に新しい OLDS が必要です。再使用可能 OLDS が見つかりませんでした。使用可能な OLDS について DBRC を検査できなかったか、またはオペレーターがメッセージ DFS0739I に対して "アベン" を応答したかのいずれかです。
Reg15=RLWDB RCF RLWDBRC=DB RC 戻りコード	ルタ 1590	DBRC 状況出口ルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DF SMDA 戻りコード	ルタ 1620	システム・ログ・データ・セット (SLDS) に対する割り振りが失敗しました。DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC はゼロ以外です。それ以外の場合、DFSFDLYO 内の SLOPN サブルーチンは SLDS をオープンすることに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DF SMDA 戻りコード	ルタ 2120 0	SLDS の割り振りが失敗しました。DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC はゼロ以外です。それ以外の場合、DFSFDLYO 内の SLOPN サブルーチンは SLDS をオープンすることに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DF SMDA 戻りコード	ルタ 2220 0	SLDS の割り振りが失敗しました。DFSMDA が失敗した場合、RLWMDRC はゼロ以外です。それ以外の場合、DFSFDLYO 内の SLOPN サブルーチンは SLDS をオープンすることに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWDBRC=DB RC 戻りコード	ルタ 2220	DBRC は 2 次ログ・データ・セットを見つけられません。
Reg15=RLWLG CE	アロ ペノ ール	起こり得ない論理エラー。
Reg15=RLWLG CE	アロ ペン トル	起こり得ない論理エラー。
Reg15=RLWAF	LTD3 20	ALOPENOL サブルーチン内の最終検査で、OLDS 割り振りが失敗したことが判別されました。

DFSFDL00 の場合：

モジュール DFSFDL00 には、モジュール DFSFDLQ0 内の OLDS 読み取り遷移状態ルーチンによって使用される複数のサブルーチンが含まれています。

スリード

現在の OLAT エントリーに対して READ を発行し、次の OLAT エントリーに対する未解決の READ に対して CHECK を発行します。

スレラード

BSAM DCB 状況 (CHECKs は未検査の READ) をリセットし、最後の正常なブロック読み取りのために POINT を発行し、最後の正常なブロックに READ および CHECK を発行し、次のブロック (XREAD が最後に呼び出されたときにエラーになったブロック) に対して READ および CHECK を発行します。

シュブルクチク

最後の CHECK の結果を調べます。EOF、READ エラー、およびシーケンス・エラーをテストします。最後の READ/CHECK の相対的な成功を示すために、CURRENT EVENT を設定します。再始動読み取り遷移表 (DFSFDLV0) で使用される NEXT PARTITION を選択します。

以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLW LGCE RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	X レル 0020	DFSFDLYO 内の CLROLD サブルーチンが、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。現行 OLDS を再読み取りすることはできません。また、代替 OLDS は使用できません。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現行状態 RLWTFLG1= エラー 容認フラグ	XBLKO 016	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとしています。STATE XS18 に対するエラー許容は必須であり、不明な条件が発生しました。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現行状態 RLWTFLG1= エラー 容認フラグ	XBLKO 026	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとしています。STATE XS12 でエラーの許容値が必要であり、不明な条件が発生しました。
Reg15=RLW LGCE	クシュ ルケオ ブ	起こり得ない論理エラー。XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとしていますが、OLDCALC サブルーチンは、データ・セット内で EOF が発生した場所を判別しようとしたときに、正しくない戻りコードを戻しました。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLW LGCE	XBLKR EAD	起り得ない論理エラー。 XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとして います。読み取りエラーが検 出されました。OLDCALC サ ブルーチンは、データ・セッ ト内で読み取りエラーが発生 した場所を判別しようとした ときに、正しくない戻りコード を戻しました。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現行状態	XBLK3 500	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとして います。最初のブロック読み 取りエラーが検出され、 RLWCSTAT が正しくありませ ん。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現行状態	XBLK4 500 は、	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとして います。中間ブロック読み取 りエラーが検出され、 RLWCSTAT が正しくありませ ん。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現行状態	XBLK5 500	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとして います。最後のブロック読み 取りエラーが検出され、 RLWCSTAT が正しくありませ ん。
Reg15=RLW LSE RLWLOGSQ= 最後の 良好なログ・ レコード シーケンス 番号 登録時の Reg6 DFSFDLY2 ポ イント ログ・バッフ ァーへ 外れを保持 すること 順序ログ・レ コード	XBLK6 140	XBLKCHK は、OLDS 内の最初 のブロックを正常に読み取り ましたが、ブロック内の最初 のレコードのシーケンス番号 が、直前の OLDS/SLDS ログ・ レコード・シーケンス番号 +1 に等しくないことを検出しま した。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現行状態	XBLK7 500	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとして います。古いデータ・シーケ ンス・エラーが検出され、 RLWCSTAT が正しくありませ ん。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLW LGCE LWAREG2= 現行 ブロック接 尾部アドレ ス RLWTSUFF= 最初のブロ ック 最後の正常 な OLDS 接尾 部の RLWTFGL1= エラー 容認フラグ 次の場合の RLWTSKIP= BSN 分析される ブロック 新しいデー タが シーケンス・ エラー 検出しまし た	XBLK8 075 年	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとして います。スキップされた OLDS のため、新しいデータ・ シーケンス・エラーが検出さ れました。しかし、キー・フ ィールドは予期しない状態を 示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLWLGCE RLWAREG2=現行ブロック・アドレスサフィックス RLWTSUFF=最初のブロック最後の正常な OLDS 接尾部の RLWTFGL1=エラー容認フラグ次の場合の RLWTSKIP=BSN 分析されるブロック新しいデータがシーケンス・エラー 検出しました	XBLK8085年	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとしています。スキップされた OLDS のため、新しいデータ・シーケンス・エラーが検出されました。スキップされた OLDS が見つかりました。スキップされた OLDS の順方向読み取りを実行しているときに、スキップされた OLDS 処理開始点 RLWTSKIP に戻る前に、2 番目の新しいデータ・シーケンス・エラーが検出されました。
Reg15=RLWLGCE RLWCSTAT=現行状態	XBLK8500	XBLKCHK は、最後の BSAM CHECK を分析しようとしています。より新しいデータ・シーケンス・エラーが検出され、RLWCSTAT が正しくありません。

DFSFDLPO の場合：

モジュール DFSFDLPO は、ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時にシステム・ログ・データ・セット (SLDS) を読み取ります。以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg4=RLWSDECB Reg15=RLWLR E	DFSFDLPO	SLDS の読み取り中に入出力エラーが発生しました。
Reg15=RLWLGCE ルヴェムデ	ルサノオ	2 次 SLDS の読み取り中に入出力エラーが発生しました。ログ・リカバリー・ユーティリティを使用して SLDS をリカバリー

キー	ラベル	解説
		し、再始動を再試行してください。
Reg15=RLWAF ルヴァロック	ルサ210	DBRC は 2 次 SLDS を見つけることができませんでした。
Reg15=RLWLSE SAVELSN=最後の LSN 2 次から読み取る 再試行中の SLDS それに一致する 1 次 SLDS。 (SAVELSN があります。 DFSFDLPO 内) RLWLOGSQ=最後の 読み取り元の LSN 1 次 SLDS。	ロルザ ル	1 次 SLDS から読み取られた最後のレコードに一致するレコードを検出せずに、2 次 SLDS 上で EOF に到達しました。
Reg4=RLWSDECB Reg15=RLWLR E	ロルサ	1 次 SLDS との突き合わせを試みているときに、2 次 SLDS 上で入出力エラーが発生しました。
Reg2=最初の LSN ブロック内 Reg3=RLWLOGSQ+1 Reg15=RLWLSE	ルザ250	1 次 SLDS と一致しようとしているときに、2 次 SLDS 上でシーケンス・エラーが発生しました。レジスター 2 内のログ・シーケンス番号 (LSN) が、1 次 SLDS から読み取られた最後の LSN よりも 2 つ大きい値になっています。
Reg15=RLWLSE	ルサ21R	1 次 SLDS と一致するブロックを切り捨てようとしているときに、2 次 SLDS 上でシーケンス・エラーが発生しました。

DFSFDLQO の場合：

モジュール DFSFDLQO には、OLDS の読み取りに使用されるすべての STATE ルーチンが入っています。各 STATE ルーチンの開始時に、8 バイトの目印があります。

モジュール DFSFDLXO は STATE 表 DFSFDLV0 を読み取り、次に実行する STATE を決定します。DFSFDLXO は、DFSFDLQO を、レジスター 0 にある STATE ルーチンのアドレスで呼び出します。STATE ルーチンが実行

され、制御が戻りコードとともに DFSFDLX0 に戻されます。以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLWL RE または ルヴドレ RLWEOPN= オープン データセット・フラグ RLWTFGL1= エラー 容認フラグ	XS02 0035 年	読み取りエラーを分析するために、ルーチン XSTATS02 が呼び出されました。CLROLD サブルーチンは、CLOSE および OPEN を使用して BSAM 状況をリセットできませんでした。必要な OLDS データ・セットはすべて使用できないため、再始動が異常終了します。
Reg15=異常終了コード (変数) 最後からの RLWXDOMA= 最後 STATE フラグ RLWCPART= 最後 区分	XSTAT S03	STATE テーブル DFSFDLVO により、U0176 異常終了が必要であると判別されました。
Reg15=RLWL GCE	XS04 0100 年	起こり得ない論理エラー。正常なブロック内の最後の LSN がゼロでした。
Reg15=RLWL GCE RLWDBRC=D BRC 戻りコード	XS05 0300 (起こり得ない論理エラー。XSTATS05 は、LOCATE LAST 要求で DBRC から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWL GCE RLWDBRC=D BRC 戻りコード	XS05 0700	起こり得ない論理エラー。XSTATS05 は、LOCATE NEXT 要求で DBRC から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWL GCE RLWDBRC=D BRC 戻りコード	XS07 0025	起こり得ない論理エラー。XSTATS07 は、ALLOCATE NEXT 要求の DFSFDLNO から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWL GCE	XS16 0200	起こり得ない論理エラー。XSTATS16 が、DFSFDLU0 から予期しない戻りコードを受け取りました。

キー	ラベル	解説
Reg15=異常終了コード (変数) 最後からの RLWXDOMA= 最後 STATE フラグ RLWCPART= 最後 区分	XS21 出口	STATE テーブル DFSFDLVO が、U0175 異常終了が必要であることを判別しました。
Reg15=RLWL GCE	XS29 0025	起こり得ない論理エラー。XSTATS29 は、ALLOCATE PRIOR 要求の DFSFDLNO から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWL GCE	XS32 0025	起こり得ない論理エラー。XSTATS29 は、ALLOCATE LAST 要求の DFSFDLNO から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=異常終了コード (変数) 最後からの RLWXDOMA= 最後 STATE フラグ RLWCPART= 最後 区分 RLWXTRC= 遷移 トレース・テーブル	XSTAT S99	起こり得ない論理エラー。STATE テーブル DFSFDLVO を検索しても、一致は生成されませんでした。U0175 または U0176 異常終了が強制的に行われます。

DFSFDLRO の場合：

モジュール DFSFDLRO は、ログ再始動読み取り機能のためのドライバー・モジュールです。DFSFDLGO は、再始動 TCB の下の DFSFDLRO に分岐し、以下のいずれかの機能を実行します。

検索

最新のタイプの X'42' ログ・レコード (チェックポイント ID テーブル) を見つけて、再始動に渡します。

この要求の間に、OLDS は WADS から終了していない可能性があります。

オープン

再始動チェックポイントが入っているログを OPEN し、チェックポイントの開始位置を見つけます。

リード()

再始動チェックポイントから開始して、ログ転送を読み取ります。再始動するには、一度に1ブロックのデータを渡してください。必要な場合は、WADSからOLDSを終了してください。

クローズ

最後のログのEOFの後で、データ・セット項目テーブル、DSET(ログ初期設定からの初期DSET、最新のX'4301'ログ・レコードからのDSET、順方向ログ読み取り時に作成されたDSET)をマージして、すべてのOLDSを割り振ります。

形式

/STA WADS、/NRE、または/ERE コマンドで要求されたとおりにWADSをフォーマット設定します。

以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=RL WLRE	ロア 200	再始動チェックポイントが入っているOLDSから最初のブロックを読み取ろうとしているときに、OPEN機能で読み取りエラーが発生しました。
Reg15=RL WLNT RLWGLOBL =グローバル 旗	ルカエ ー	CLOSE機能が要求され、RLWGLOBLは、OLDSがWADSから終了されたことを示すものではありません。
Reg2=ロ グ・レコー ド アドレス Reg3=ロ グ・レコー ド 長さ Reg15=RL WLSE RLWGLOBL =グローバル 旗	LCA21 210	CLOSE機能が要求されました。ブロック内でDSET(X'4301'ログ・レコード)を検索しているときに、長さゼロのレコードが検出されました。
Reg15=RL WLGCE	LCA23 00型	起こり得ない論理エラー。
Reg2=ロ グ・レコー ド アドレス Reg4=ロ	ロブ 110	OPEN機能が要求されました。ブロック内で開始チェックポイント・レコード(X'4001'ログ・レコード)を検索しているときに、長さゼロのレコードが検出されました。

キー	ラベル	解説
グ・レコー ド 長さ Reg15=RL WLSE RLWGLOBL =グローバル 旗		
Reg15=RL WLRE	LFB01 0(核)	FIND(またはCLOSE)機能は、最新のOLDSから最初のブロックを読み取ろうとしているときに、読み取りエラーを検出しました。
Reg15=RL WLLL RLWALLO =割り振り 旗	LFB19 0年	FIND(またはCLOSE)機能が、最新のログを割り振る要求のためにDFSFDLNOから予期しない結果を受け取りました。
Reg2=ロ グ・レコー ド アドレス Reg4=ロ グ・レコー ド 長さ Reg15=RL WLSE RLWGLOBL =グローバル 旗	LFC10 R	FIND(またはCLOSE)機能が要求されました。X'42'(またはX'4301')ログ・レコードのブロックを検索しているときに、長さゼロのレコードが検出されました。

DFSFDLROの場合:

モジュールDFSFDLU0は、最新のOLDSをWADSから終了します。以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLWL LF RLWDBRC=D BRC 戻りコード	ルバ 100	DFSFDLU0は、再始動読み取りが最新のOLDSに正しく配置されていることを検証しようとしています。DBRCに対するLOCATE - latest-OLDS要求が失敗しました。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLW RLGB	ルバ 106	DFSFDLU0 が、最初に見つかったデータ・セットから最後の正常なブロックを再読み取りしようとしたが、失敗しました。
Reg15=RLW RLGB	ルバ 110	DFSFDLU0 が、最初に見つかったデータ・セットから最後の正常なブロックを再読み取りしようとしたが、失敗しました。
Reg15=RLWL GCE RLWXSTAT= 最初の XRF 状況フラ グ・バイト RLWXSTT2= 2 番目 XRF 状況フラ グ・バイト	ルバ 208	OLDS は、XRF テークオーバーの一部として終了されています。OLDS および WADS の RESERVE は必須ですが、設定されていません。
Reg15=RLWL NT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	オー ルズ クス ル	OLDS の BSAM 状況 (CLOSE および OPEN を使用して) を消去しようとしたが、失敗しました。
Reg15=RLWL NT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	レイ クセ リン	OLDS の BSAM 状況 (CLOSE および OPEN を使用して) を消去しようとしたが、失敗しました。
Reg15=RLWL NT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	LDX0 200 (無人)	OLDS の BSAM 状況 (CLOSE および OPEN を使用して) を消去しようとしたが、失敗しました。

DFSFDLX0 の場合：

モジュール DFSFDLX0 は、OLDS 読み取りプロセス用のドライバーです。以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg2=ルー プの カウンター Reg3=次の 項目 DFSFDLV0	エクス トラネ クスト	起こり得ない論理エラー。DFSFDLX0 は、STATE 遷移表 DFSFDLV0 のパーティション内の遷移エントリーを検索しています。区画内のすべての項目が検索され、一致が見つかりませんでした。すべての

キー	ラベル	解説
内 アドレス Reg15=RL WLGCE		区画は、いずれかの条件に一致する項目を最後に入力する必要があります。このエントリーは、異常終了する STATE XS99 に処理を送信する必要があります。さらに、すべてのパーティションには、パーティション内のエントリー数がカウントされます。このカウントは、レジスター 2 を初期設定するために使用
Reg15=RL WLGCE	XTRA37 00	起こり得ない論理エラー。予期しない戻りコードが DFSFDLQ0 によって戻されました。

DFSFDLY0 の場合：

モジュール DFSFDLY0 には、再始動読み取りモジュールによって一般的に使用されるすべてのサブルーチンが含まれています。以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLWT CF RLWAREGF= 戻り値 TRKCALC か らのコード	アヌ ラー ウ	ANALEOF サブルーチンが TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=RLWL GCE RLWEOPN= オープン OLDS のフラ グ	LBN1 20 年	起こり得ない論理エラー。OLSETM サブルーチンはオープン OLDS を検出ませんでした。
Reg2=ログ・ レコード・ア ドレス Reg3=バッフ ァーの終わり アドレス Reg4=ログ・ レコード長 Reg15=RLWL SE	LLC10 R	RCDSCH サブルーチンが、無効な長さのログ・レコードを検出しました。
Reg15=RLWT CF	LDG2 00 (無人)	OLDSCALC サブルーチンが TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLWT CF	オル プ ン ト	OLPNT サブルーチンが TRKCALC からゼロ以外の戻り コードを受け取りました。
Reg15=RLWD BRCF RLWDBRC=D BRC 戻りコー ド RLWAREQ= 要求 DBRC に渡さ れる	LTH1 50 の	DBRCEXEC サブルーチンが、 DBRC から予期しない戻りコ ードを受け取りました。
Reg5=DCB Reg15=RLWL CF RLWEEXCP= 例外フラグ	L スク ロー ル 105	SLCLS サブルーチンが、SLDS を CLOSEしようとしたときに エラーを受け取りました。
Reg15=RLWL GCE	ルパ ン	起こり得ない論理エラー。
Reg2=一時 DSET エント リー Reg15=RLWL GCE RLWASET= DSET エント リー	ルパ ン	起こり得ない論理エラー。 RLWASET または一時 DSET のいずれかが正しくありませ ん。

DFSFDLZO の場合：

モジュール DFSFDLZO は、ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に、OLDS 読み取りまたは SLDS 読み取りのいずれかを実行します。以下の表は、レジスターのコードと説明を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=RLWL LFF RLWALLOC= 割り振り 旗	ラ 330	非最後のログ・データ・セッ トで EOF が発生しました。 次のログ・データ・セットを 割り振るための DFSFDLN0 へ の要求が失敗しました。
Reg15=RLWL SE	ラ 440	非最後のログ・データ・セッ トで EOF が発生しました。 次のレコードを見つけようと

キー	ラベル	解説
		したときにシーケンス・エラ ーが発生しました。
Reg15=RLWL SE	ラ 500	非最後のログ・データ・セッ トで EOF が発生しました。 次のレコードを見つけようと したときにシーケンス・エラ ーが発生しました。
Reg15=RLWL SE	ラー ラ 600	非最後のログ・データ・セッ トで EOF が発生しました。 次のレコードを見つけようと したときにシーケンス・エラ ーが発生しました。

システムの処置

イムス は異常終了する。

問題判別

1, 5, 8, 11, 35

OLD および WADS のコピーを保管します。

DBRC RECON データ・セットをリストします。

ソース：

イムス 異常終了

モジュール：

DFSFDLY0、DFSFDLN0、DFSFDL00、DFSFDLP0、
DFSFDLQ0、DFSFDLX0、DFSFDLZ0

[IMS 異常終了 0176](#)

[DFS0739I](#)

[DFS0739X](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0176

説明

拡張リカバリー機能 (XRF) 複合システムで再始動時の
入力ログ処理中に、IMS 代替システムでリカバリー不能
なエラーが発生しました。高速データベース・リカバリ
ーでエラーが検出された場合にも、この異常終了が発生
します。この異常終了の前に受け取る可能性があるメ
ッセージ DFS0739I および DFS0739X を参照してくだ
さい。

この異常終了は、異常終了 0175 に関連しています。

分析

DFSFDLY0 の場合：

この異常終了は、以下のモジュールによって検出されたエラーに対応して、モジュール DFSFDLY0 によって発行されます。

DFSFDLNO

OLDS または SLDS の割り振り

DFSFDLQ0

DFSFDLQ0 で使用されるサブルーチン

DFSFDLP0

SLDS 読み取り

DFSFDLQ0

DFSFDLX0 で使用される STATE ルーチン

DFSFDLRO

再始動読み取りドライバー

DFSFDLTO

WADS のフォーマット

DFSFDLU0

WADS からの OLDS の終了

DFSFDLV0

DFSFDLX0 で使用される OLDS 読み取り STATE 遷移テーブルに実行可能コードが含まれていませんが、これは OLDS 読み取り論理の中心です。

DFSFDLX0

OLDS 読み取りドライバー

DFSFDLY0

すべての再始動読み取りで使用されるサブルーチン

DFSFDLZ0

緊急時再始動時に、OLDS 読み取りと SLDS 読み取りの間で切り替えるために使用されます

XRF トラッキングまたはテークオーバー中に、入力ログ・データ・セットがリカバリー不能エラーを検出したか、ログ・データ・セット処理が発生してはならない論理エラーを検出したかのいずれかです。メッセージ DFS0739I または DFS0739X が発行されます。

0176 は、この異常終了に関してリストされたモジュールから発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

2 つのモジュールのどちらが実際にエラーを検出するかに関係なく、0175 および 0176 異常終了はすべて、モジュール DFSFDLY0 の CSECT DFSFDLY2 内の共通 ABEND サブルーチンを呼び出すことにより発行されます。レジスター 14 に、呼び出し元のリターン・アドレスが入ります。これは実際の障害点にきわめて近いはずですが、レジスター 15 の下位ハーフワードに、異常終了の理由を示す戻りコードが入ります。

DBRC エラーが含まれている場合、レジスター 15 の上位ハーフワードに DBRC 戻りコードが入ります。

DFSMDA エラーが含まれている場合、レジスター 15 の上位ハーフワードに DFSMDA 戻りコードが入ります。

(異常終了戻りコードを定義している `equate` ステートメントは、マクロ DFSFRLWA 内にあります。) 残りの異常終了レジスターは、再始動読み取り作業域 RLWORK 内の RLWAREGS に保管されています。RLWORK は、レジスター 9 を使用して (または、LCD 内の LRESTWK を使用して) 位置指定され、マクロ DFSFRLWA によってマップされます。

定様式ダンプから作業している場合、DFSFDLY2 への入り口でのレジスターは、RLWAREGS で保管されたレジスターに近似していますが、必ずしも同一ではありません。

以下の異常終了レジスターは、発生するすべての 0176 で同じ意味を持ちます。

Reg8

モジュールの第 2 基底レジスター (必要な場合)

Reg9

RLWORK - 再始動読み取り作業域

Reg10

LCD

Reg11

SCD

Reg12

モジュールの第 1 基底レジスター

Reg13

IMS の事前チューニングされた保管域

Reg14

BALR リターン・アドレス - エラーが実際に発生した場所

Reg15

戻りコード

RLWORK は、すべてのロガー再始動読み取りモジュール用のキー・データ域であり、DSECT マクロ DFSFRLWA によってマップされます。RLWORK 内の以下のフィールドは特に役立ちます。

RLWQDECB

再始動読み取りに渡されたパラメーター・リストのコピー

RLWOLTFE

OLDS DECB およびバッファー・アドレスのテーブルの最初のエントリーへのポインター。これらのエントリーは、DFSFRLWA 内の DSECT OLAT によってマップされます。

RLWGLOBL

再始動読み取りグローバル状況フラグ

RLWAREQ

DBRC に渡された最後のログ割り振り要求 (タイプ)

RLWALLOC

割り振られたログのタイプ

RLWDBRET

DBRC 作業域アドレス

RLWDETE

現在読み取り中の OLDS の DSET エントリー

RLWEN

現在読み取り中のログの割り振り情報

RLWESTAT

ログ状況フラグ

RLWEEXCP

ログ例外フラグ

RLWEAVL

ログ可用性フラグ

RLWEOPN

ログ・オープン・フラグ

RLWEMODE

ログ・モード・フラグ

RLWEFOK

ログのファイル終了 (EOF) 書き込みフラグ

RLWECNT

現行ログで読み取られた正常なブロックの数

RLWOSUFF

最後に読み取られた正常なブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWPCNT

POINT の相対ブロック・カウント

RLWOPDCB

OLDS 1 次 DCB

RLWOSDCB

OLDS 2 次 DCB

RLWSDCB

SLDS DCB

RLWWDCB

WADS DCB

RLWAREGS

異常終了時の呼び出し元のレジスターのコピー

RLWTSUFF

現行 OLDS 上の最初のブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWDSUFF

最後に読み取られた重複ブロックの OLDS ブロック接尾部。OLDS 接尾部は、DFSRLWA 内の DSECT SUFFIX によってマップされます。

RLWTFLG1

OLDS エラー許容フラグ

RLWXSTAT

OLDS XRF 状況フラグ

RLWXSTT2

OLDS XRF 状況フラグ (バイト 2)

RLWHSRRT

OLDS 再始動読み取り遷移テーブル・アドレス。
OLDS 再始動読み取り遷移テーブルについての詳細

は、モジュール DFSFDLVO の Prolog を参照してください。OLDS 再始動読み取り遷移テーブルは、DFSRLWA 内の DSECT HSRRTT、XSTATBL、および XSTATENT によってマップされます。

RLWXDOMA

OLDS ドメイン・マッピング (前の状態/イベント、および現行の状態/イベント)

RLWPPART

OLDS の前のドメイン区画 (DFSFDLVO 内)

RLWCPCPART

OLDS の現行のドメイン区画 (DFSFDLVO 内)

RLWNPART

OLDS の次のドメイン区画 (DFSFDLVO 内)

RLWXTRCN

OLDS の次の遷移トレース・エントリー・アドレス

RLWXTRCE

OLDS の遷移トレース・テーブル終了のアドレス

RLWXTRC

OLDS 遷移トレース・テーブル (25 エントリー - 各 5 ワード)。トレース・テーブル・エントリーは、DFSRLWA 内の DSECT XTRCENT によってマップされます。(このトレース・テーブルのエントリーの分析が必要になった場合は、IBM サポートに連絡して支援を受けてください。)

XSXX

OLDS 遷移 STATE equate ステートメント

XEXX

OLDS 遷移 EVENT equate ステートメント

XPTINIT

OLDS 遷移 PARTITION equate ステートメント

RLWWPARM

モジュール DFSFDLW0 に渡された WADS 読み取りパラメーター・リスト

RLWABC

ABEND コード保管域。RLWABC の後に、さまざまな再始動読み取り異常終了コードおよび戻りコードの equate ステートメントが続きます。

DFSFDLNO の場合:

モジュール DFSFDLNO は、再始動読み取り処理に必要なログ・データ・セットを割り振ります。特定のタイプのログ・データ・セットを見つけるために、DBRC に要求が出されます。データ・セットが見つかり、それが割り振られます。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLL LF RLWDBRC=DB RC 戻りコード	LTA14 30	DBRC が最新の OLDS を検出 できませんでした。
Reg15=RLWAF RLWAREGF=R DJFCB 戻りコード	LTA15 78	出力用に新しい OLDS を割 り振ろうとしているときに、 RDJFCB に障害が起きました。
Reg15=RLWLL NF	LTA15 85	ログ・クローズ処理を完了す るには、出力用の新しい OLDS が必要です。再使用可 能な OLDS が見つかりませ んでした。使用可能な OLDS について DBRC を検査でき なかったか、メッセージ DFS0739I に対してオペレー ターが「ABEND」を応答した かのいずれかです。
Reg15=RLWDB RCF RLWDBRC=DB RC 戻りコード	LTA15 90	DBRC 状況出口ルーチンが、 ゼロ以外の戻りコードを戻 しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DF SMDA 戻りコード	LTA16 20	システム・ログ・データ・セ ット (SLDS) の割り振りが失 敗しました。DFSMDA が失 敗した場合、RLWMDRC がゼ ロ以外です。そうでない場 合は、DFSFDLY0 内の SLOPN サブルーチンが SLDS のオー プンに失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DF SMDA 戻りコード	LTA21 200	SLDS の割り振りが失敗しま した。DFSMDA が失敗した 場合、RLWMDRC がゼロ以外 です。そうでない場合は、 DFSFDLY0 内の SLOPN サブ ルーチンが SLDS のオープン に失敗しました。
Reg15=RLWAF RLWMDRC=DF SMDA 戻りコード	LTA22 200	SLDS の割り振りが失敗しま した。DFSMDA が失敗した 場合、RLWMDRC がゼロ以外 です。そうでない場合は、 DFSFDLY0 内の SLOPN サブ ルーチンが SLDS のオープン に失敗しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWAF RLWDBRC=DB RC 戻りコード	LTA22 20	DBRC が 2 次ログ・データ・ セットを見つけることがで きません。
Reg15=RLWLG CE	ALOP ENOL	発生してはならない論理エ ラー。
Reg15=RLWLG CE	ALOP ENSL	発生してはならない論理エ ラー。
Reg15=RLWAF	LTD3 20	ALOPENOL サブルーチン内 の最終検査で、OLDS 割り振 りが失敗したと判別されま した。

DFSFDL00 の場合:

モジュール DFSFDL00 には、モジュール DFSFDLQ0 内
の OLDS 読み取り遷移 STATE ルーチンによって使用さ
れる複数のサブルーチンが含まれています。

XREAD

現在の OLAT エントリーに対して READ を発行し、
次の OLAT エントリーに対して未解決 READ の
CHECK を発行します。

XREREAD

BSAM DCB 状況をリセットし (未チェック READ の
CHECK)、最後の正常なブロック読み取りに対して
POINT を発行し、最後の正常なブロックに対して
READ および CHECK を発行し、次のブロック (前回
に XREAD が呼び出されたときにエラーがあったブ
ロック) に対して READ および CHECK を発行しま
す。

XBLKCHK

最後の CHECK の結果を調べます。EOF、READ エラ
ー、およびシーケンス・エラーをテストします。最
後の READ/CHECK の相対的成功を示すために、
CURRENT EVENT を設定します。再始動読み取り
遷移テーブル (DFSFDLVO) で、使用する NEXT
PARTITION を選択します。

以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示してい
ます。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLW LGCE RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	XRERO 020	DFSFDLY0 内の CLROLD サブ ルーチンが、ゼロ以外の戻り コードを戻しています。現行 の OLDS の再読み取りは不可 能であり、代替の OLDS は利 用不可です。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現在の状態 RLWTFGL1= エラー 許容フラグ	XBLK0 016	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。STATE XS18 にエラー許容が必要ですが、不明な条件が発生しました。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現在の状態 RLWTFGL1= エラー 許容フラグ	XBLK0 026	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。STATE XS12 にエラー許容が必要ですが、不明な条件が発生しました。
Reg15=RLW LGCE	XBLKE OF	発生してはならない論理エラー。XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。EOF が検出され、OLDCALC サブルーチンがデータ・セット内の EOF が発生した場所を調べようとしているときに、正常でない戻りコードを戻しました。
Reg15=RLW LGCE	XBLKR EAD	発生してはならない論理エラー。XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。読み取りエラーが検出され、OLDCALC サブルーチンがデータ・セット内の読み取りエラーが発生した場所を調べようとしているときに、正常でない戻りコードを戻しました。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現在の状態	XBLK3 500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。最初のブロックで読み取りエラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現在の状態	XBLK4 500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。中央のブロックで読み取りエラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現在の状態	XBLK5 500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。最後のブロックで読み取りエラーが検出され、

キー	ラベル	説明
		RLWCSTAT が正常ではありません。
Reg15=RLW LSE RLWLOGSQ= 最後の正常な ログ・レコー ド・ シーケンス 番号 DFSFDLY2 へ の入り口の Reg6 が、順 不同のログ・ レコードを 保持してい る ログ・バッフ ァーを 指していま す	XBLK6 140	XBLKCHK は OLDS 内の最初のブロックを正常に読み取りましたが、そのブロックの最初のレコードのシーケンス番号が、前の OLDS/SLDS ログ・レコード・シーケンス番号+1 に等しくないことを検出しました。
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現在の状態	XBLK7 500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。古いデータ・シーケンス・エラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLW LGCE LWAREG2= 現在のブ ロック 接尾部アド レス RLWTSUFF= 最後の正常 な OLDS 接尾部 の最初の ブロック RLWTFGL1= エラー 許容フラグ RLWTSKIP= 新たなデー タ・ シーケンス・ エラーが 検出された ときに 分析中であ った ブロックの BSN。	XBLK8 075	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。スキップされた OLDS が原因で、新たなデータ・シーケンス・エラーが検出されました。しかし、キー・フィールドが予期しない条件を示しています。
Reg15=RLW LGCE RLWAREG2= 現在の ブロック・アド レス接尾 部 RLWTSUFF= 最後の正常 な OLDS 接尾部 の最初の ブロック RLWTFGL1= エラー 許容フラグ RLWTSKIP= 新たなデー タ・ シーケンス・ エラーが 検出された ときに 分析中であ った	XBLK8 085	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。スキップされた OLDS が原因で、新たなデータ・シーケンス・エラーが検出されました。スキップされた OLDS が見つかりました。スキップされた OLDS の順方向読み取りの実行中に、スキップされた OLDS 処理の開始点 RLWTSKIP に戻る前に、2 番目の新たなデータ・シーケンス・エラーが検出されました。

キー	ラベル	説明
ブロックの BSN。		
Reg15=RLW LGCE RLWCSTAT= 現在の 状態	XBLK8 500	XBLKCHK が最後の BSAM CHECK の分析を試みています。新たなデータ・シーケンス・エラーが検出され、RLWCSTAT が正常ではありません。

DFSFDLPO の場合:

モジュール DFSFDLPO は、ウォーム・スタート時または緊急時再始動時に、システム・ログ・データ・セット (SLDS) を読み取ります。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=RLWSDE CB Reg15=RLWLR E	DFSFDL P0	SLDS の読み取り中に入出力エラーが発生しました。
Reg15=RLWLG CE RLWEMODE	LSA200	2 次 SLDS の読み取り中に入出力エラーが発生しました。ログ・リカバリー・ユーティリティを使用し、再始動を再試行してください。
Reg15=RLWAF RLWALLOC	LSA210	DBRC が 2 次 SLDS を見つけることができませんでした。
Reg15=RLWLSE SAVELSN=1 次 SLDS との 突き合わせを試 みている ときに 2 次 SLDS から 読み取られた最 後の LSN。 (SAVELSN は DFSFDLPO 内に あります) RLWLOGSQ=1 次 SLDS から 読み取られた最 後の LSN。	LSA235	1 次 SLDS から読み取られた最後のレコードに一致するレコードを検出できずに、2 次 SLDS で EOF に達しました。

キー	ラベル	説明
Reg4=RLWSDE CB Reg15=RLWLR E	LSA240	1次 SLDS との突き合わせを試みているときに、2次 SLDS 上で入出力エラーが発生しました。
Reg2=ブロック 内の最初の LSN Reg3=RLWLOG SQ+1 Reg15=RLWLSE	LSA250	1次 SLDS との突き合わせを試みているときに、2次 SLDS 上でシーケンス・エラーが発生しました。レジスター 2 中のログ・シーケンス番号 (LSN) が、1次 SLDS から読み取られた最後の LSN よりも 2 以上大きくなっています。
Reg15=RLWLSE	LSA21R	1次 SLDS と一致するようにブロックを切り捨てようとしているときに、2次 SLDS 上でシーケンス・エラーが発生しました。

DFSFDLQ0 の場合:

モジュール DFSFDLQ0 には、OLDS の読み取りに使用されるすべての STATE ルーチンが含まれています。各 STATE ルーチンの先頭に 8 バイトの目印があります。

モジュール DFSFDLX0 は、STATE テーブル DFSFDLV0 を読み取って、次に実行する STATE を判別します。DFSFDLX0 は、レジスター 0 に STATE ルーチンのアドレスが入っている DFSFDLQ0 を呼び出します。STATE ルーチンが実行され、制御が戻りコードと共に DFSFDLX0 に戻されます。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWL RE または RLWDRE RLWEOPN=オ ープン・ データ・セッ ト・ フラグ RLWTFLG1= エラー 許容フラグ	XS02 0035	読み取りエラーを分析するために、ルーチン XSTATS02 が呼び出されました。CLROLD サブルーチンが、CLOSE と OPEN を使用して BSAM 状況をリセットするのに失敗しました。すべての必要な OLDS データ・セットが利用不可であるため、再始動読み取りは異常終了します。
Reg15=異常 終了コード (変数) RLWXDOMA= 最後の	XSTAT S03	STATE テーブル DFSFDLV0 は、U0176 異常終了が必要であると判別しました。

キー	ラベル	説明
STATE フラグ RLWCPART= 最後の 区画 (partition)		
Reg15=RLWL GCE	XS04 0100	発生してはならない論理エラー。正常なブロック内の最後の LSN がゼロでした。
Reg15=RLWL GCE RLWDBRC=D BRC 戻りコード	XS05 0300	発生してはならない論理エラー。XSTATS05 が LOCATE LAST 要求で DBRC から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWL GCE RLWDBRC=D BRC 戻りコード	XS05 0700	発生してはならない論理エラー。XSTATS05 が LOCATE NEXT 要求で DBRC から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWL GCE RLWDBRC=D BRC 戻りコード	XS07 0025	発生してはならない論理エラー。XSTATS07 が ALLOCATE NEXT 要求で DFSFDLNO から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=RLWL GCE	XS16 0200	発生してはならない論理エラー。XSTATS16 が DFSFDLU0 から予期しない戻りコードを受け取りました。
Reg15=異常 終了コード (変数) RLWXDOMA= 最後の STATE フラグ RLWCPART= 最後の 区画 (partition)	XS21 EXIT	STATE テーブル DFSFDLV0 は、U0175 異常終了が必要であると判別しました。
Reg15=RLWL GCE	XS29 0025	発生してはならない論理エラー。XSTATS29 が ALLOCATE PRIOR 要求で DFSFDLNO から予期しない応答を受け取りました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWL GCE	XS32 0025	発生してはならない論理エラー。XSTATS29がALLOCATE LAST 要求で DFSFDLNO から予期しない応答を受け取りました。
Reg15=異常 終了コード (変数) RLWXDOMA= 最後の STATE フラグ RLWCPT= 最後の 区画 RLWXTRC=遷 移 トレース・テ ーブル	XSTAT S99	発生してはならない論理エラー。STATE テーブル DFSFDLVO の検索で、一致するものが検出されませんでした。0175 または 0176 異常終了が強制されます。

DFSFDLRO の場合:

モジュール DFSFDLRO は、ログ再始動読み取り機能のドライバー・モジュールです。DFSFLG0 は、以下のいずれかの機能を実行するために、再始動 TCB の下の DFSFDLRO に分岐します。

FIND

最新のタイプ X'42' ログ・レコード (チェックポイント ID テーブル) を見つけて、再始動に渡します。

この要求時には、OLDS が WADS から終了される場合もあります。

OPEN

再始動チェックポイントを含んでいるログを OPEN し、チェックポイントの開始点を見つけてみます。

READ

再始動チェックポイントから始めて、ログを順方向に READ します。一度に 1 ブロックのデータを再始動に渡します。必要な場合は、WADS から OLDS を終了します。

CLOSE

最後のログの EOF の後、データ・セット・エントリー・テーブル DSET (ログ初期設定からの最初の DSET、最新の X'4301' ログ・レコードからの DSET、順方向ログ読み取り時に作成された DSET) をマージして、すべての OLDS を割り振ります。

FORMAT

/STA WADS、/NRE、または /ERE コマンドの要求に応じて、WADS をフォーマットします。

以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RL WLRE	LOA20 0	OPEN 機能が、再始動チェックポイントを含んでいる OLDS から最初のブロックを読み取ろうとしているときに、読み取りエラーが発生しました。
Reg15=RL WLNT RLWGLOBL = グローバル・ フラグ	LCA10 E	CLOSE 機能が要求されましたが、RLWGLOBL は、OLDS が WADS から終了されたことを示していません。
Reg2=ロ グ・レコー ド・アドレ ス Reg3=ロ グ・ レコード長 Reg15=RL WLSE RLWGLOBL = グローバル・ フラグ	LCA21 210	CLOSE 機能が要求されました。ブロック内で DSET (X'4301' ログ・レコード) を検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。
Reg15=RL WLRE	LCA23 00	発生してはならない論理エラー。
Reg2=ロ グ・レコー ド・アドレ ス Reg4=ロ グ・レコー ド長 Reg15=RL WLSE RLWGLOBL = グローバル・ フラグ	LOB11 0	OPEN 機能が要求されました。ブロック内で開始チェックポイント・レコード (X'4001' ログ・レコード) を検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。
Reg15=RL WLRE	LFB01 0	FIND (または CLOSE) 機能が、最新の OLDS から最初のブロックを読み取ろうとしているときに、読み取りエラーが発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLLF RLWALLOC =割り振り フラグ	LFB19 0	FIND (または CLOSE) 機能が、最新のログを割り振るための要求で、DFSFDLNO から予期しない結果を受け取りました。
Reg2=ログ・レコード・アドレス Reg4=ログ・レコード長 Reg15=RLWLSE RLWGLOBL = グローバル・フラグ	LFC10 R	FIND (または CLOSE) 機能が要求されました。X'42' (または X'4301') ログ・レコードのブロックの検索中に、長さゼロのレコードが検出されました。

DFSFDLRO の場合:

モジュール DFSFDLU0 は、WADS から最新の OLDS を終了します。以下の表は、コードおよびレジスタの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWLLF RLWDBRC=D BRC 戻りコード	LBA1 00	DFSFDLU0 は、再始動読み取りが最新の OLDS 上に正しく配置されていることを検査しようとしています。DBRC への最新 OLDS 検索 (locate-latest-OLDS) 要求が失敗しました。
Reg15=RLWRLGB	LBA1 06	DFSFDLU0 は、当初の検出元データ・セットから最後の正常なブロックを再読み取りしようとして失敗しました。
Reg15=RLWRLGB	LBA1 10	DFSFDLU0 は、当初の検出元データ・セットから最後の正常なブロックを再読み取りしようとして失敗しました。
Reg15=RLWLGCE RLWXSTAT= 最初の XRF 状況フラグ・バイト RLWXSTT2= 2 番目の	LBA2 08	XRF テイクオーバーの一部として、OLDS が終了中です。OLDS および WADS の RESERVE が必要ですが、確立されていません。

キー	ラベル	説明
XRF 状況フラグ・バイト		
Reg15=RLWLLNT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	OLDS CLR	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。
Reg15=RLWLLNT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	LDX0 100	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。
Reg15=RLWLLNT RLWEOPN= オープン OLDS フラグ	LDX0 200	OLDS を終了するために BSAM 状況をクリアする (CLOSE と OPEN を使用して) 試みが失敗しました。

DFSFDLX0 の場合:

モジュール DFSFDLX0 は、OLDS 読み取り処理用のドライバーです。以下の表は、コードおよびレジスタの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg2=ルー プ・カウン ター Reg3=DFSFDLVO 内の 次のエント リーの アドレス Reg15=RLWLGCE	XTRANE XT	発生してはならない論理エラー。DFSFDLX0 が、STATE 遷移テーブル DFSFDLVO の区画で遷移エントリを検索しています。区画内のすべてのエントリを検索しましたが、一致が見つかりませんでした。すべての区画は、任意の条件に一致するエントリを最後のエントリとして持っている必要があります。このエントリは、処理を STATE XS99 (異常終了する) に送る必要があります。さらに、すべての区画は、区画内のエントリの数のカウントを持っています。このカウントは、レジスタ 2 を初期化するために使用されます。
Reg15=RLWLGCE	XTRA37 00	発生してはならない論理エラー。DFSFDLQ0 によって、予期しない戻りコードが戻されました。

DFSFDLY0 の場合:

モジュール DFSFDLY0 には、再始動読み取りモジュールで通常使用されるすべてのサブルーチンが含まれています。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWT CF RLWAREGF= TRKCALC からの戻りコード	ANAL EOF	ANALEOF サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=RLWL GCE RLWEOPN=O LDS の オープン・フラグ	LBN1 20	発生してはならない論理エラー。 OLSETM サブルーチンで、オープン OLDS が見つかりませんでした。
Reg2=ログ・ レコード・アドレス Reg3=バッファ 終了 アドレス Reg4=ログ・ レコード長 Reg15=RLWL SE	LLC10 R	RCDSCH サブルーチンが、無効な長さを持つログ・レコードを検出しました。
Reg15=RLWT CF	LDG2 00	OLDSCALC サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=RLWT CF	OLPNT	OLPNT サブルーチンが、TRKCALC からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=RLWD BRCF RLWDBRC=D BRC 戻りコード RLWAREQ=D BRC に 渡される要求	LTH1 50	DBRCEXEC サブルーチンが、DBRC から予期しない戻りコードを受け取りました。
Reg5=DCB Reg15=RLWL CF RLWEEXCP= 例外フラグ	LSC1 05	SLCLS サブルーチンが、SLDS を CLOSE しようとしているときにエラーを受け取りました。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWL GCE	LBP1 30	発生してはならない論理エラー。
Reg2=一時 DSET エント リー Reg15=RLWL GCE RLWDSETE= DSET エントリー	LBP1 30	発生してはならない論理エラー。RLWDSETE または一時 DSET のいずれかが正常ではありません。

DFSFDLZ0 の場合:

モジュール DFSFDLZ0 は、ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に、OLDS 読み取りまたは SLDS 読み取りのいずれかを行います。以下の表は、コードおよびレジスターの説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=RLWL LFF RLWALLOC= 割り振り フラグ	LLA3 30	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次のログ・データ・セットを割り振るための DFSFDLNO への要求は失敗しました。
Reg15=RLWL SE	LLA4 40	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次の記録を見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが発生しました。
Reg15=RLWL SE	LLA5 00	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次の記録を見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが発生しました。
Reg15=RLWL SE	LLA6 00	最後でないログ・データ・セットで EOF が発生しました。次の記録を見つけようとしているときに、シーケンス・エラーが発生しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別

1、5、8、11、35

OLDS および WADS のコピーを保管し、DBRC RECON データ・セットをリストしてください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSFDLY0、DFSFDLNO、DFSFDL00、DFSFDLP0、
DFSFDLQ0、DFSFDLX0、DFSFDLZ0

IMS 異常終了 0175

DFS0739I

DFS0739X

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0181

説明

重複したデータ・スペース・トークンが検出されました。既存のデータ・スペースと同じデータ・スペース・トークンをもつ新規のデータ・スペースが獲得されました。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

システム・プログラマーの応答

この問題は発生してはならないエラーであり、発生した場合は z/OS エラーを表します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DBFVIDSO

0182

説明

高速機能入出力モジュールのいずれかで、発生してはならない状態が検出されました。

分析

レジスター 15 に診断コードが入っています (バイト 0 から 2 はモジュール ID、バイト 3 はサブコード)。

モジュール **ID FOR (DBFFOR10)** の場合のサブコード:

01

SYNCPOINT で実行中の処理が、書き込み完了必須の状態が設定されていない出力スレッドにバッファを追加しました。この状態は発生してはなりません。

02

入出力後にデータ・スペースの unpin バッファが障害を起こしました。

03

処理中のデータ・スペース入出力の数が、書き込み中の仮想記憶オプション (VSO) バッファの数と一致しません。

モジュール **ID MAI (DBFUMAI0)** の場合のサブコード:

01

事前割り振りの SDEP CI のリソース ID が現行の CI 相対バイト・アドレス (RBA) または HWM CI RBA と同じです。

モジュール **ID MIO (DBFMIO0)** の場合のサブコード:

02

SYNCPOINT で実行中の処理が、書き込み完了必須の状態が設定されていない出力スレッドにバッファを追加しました。この状態は発生してはなりません。

モジュール **ID SRB (DBFMSRBO)** の場合のサブコード:

01

DMAC は VSO をサポートしません。

02

データ・スペース制御ブロック構造が無効です。

03

データ・スペース制御ブロック構造に含まれているエリアが無効です。

04

要求された RBA が大きすぎます (エリアの GE SDEP 部分)

モジュール **ID VOC (DBFVOC10)** の場合のサブコード:

01

データ・スペース・マップ・リスト (DSML) が呼び出し元により渡されません。

02

書き込みステージング・エリアのダミー DMHR が DSML に存在しません。

03

I/O がなく、データ・スペースの unpin に失敗しました。

04

I/O を完了した DSML はありません。

05

I/O の完了後、データ・スペースの unpin に失敗しました。

06

現行カーソルの制御インターバル (CI) アドレス値がビットマップの範囲外です。

07

DSML DSMEL56X 内の L56X ブロックのアドレスはゼロです。

08 データ・スペース CI の相対バイト・アドレス (RBA) がビットマップ CI の RBA と一致しません。

09 データ・スペース CI の相対バイト・アドレス (RBA) が制限を超えています。

モジュール ID VS0 (DBFVSOW0) の場合のサブコード:

01 DMHR で指し示されている DMAC が VS0 を指定しませんでした。

02 DMAC ポインターと DSME ポインターが相互検査を実施しました。

03 DMHR 内の RBA が DSME の有効範囲を超えました。

04 DBFVSOW0 に渡されたブロックが DMHR ではありません。

05 BCB からの戻りコードがゼロ以外でした。

モジュール ID MAI (DBFUMAIO) の場合のサブコード:

01 事前割り振りの SDEP CI のリソース ID が現行の CI RBA または HWM CI RBA と同じです。

モジュール ID NCB (DBFNCSO) の場合のサブコード:

01 事前割り振りの SDEP CI のリソース ID が現行の CI RBA または HWM CI RBA と同じです。

モジュール ID MFL (DBFMFL10) の場合のサブコード:

01 16 進データ・フィールドに対するユーザーのフィールド検索指数 (FSA) が、IMS 入出力作業域によって許可される長さを超えています。

02 10 進データ・フィールドのユーザーのフィールド検索指数 (FSA) が IMS I/O 作業域を超えました。

03 データ・タイプに関するユーザーのフィールド検索指数 (FSA) が 16 進数または 10 進数でなく、IMS I/O 作業域を超えました。

モジュール ID LG2 (DBFSLG20) の場合のサブコード:

01 SYNCPOINT フェーズ 2 の処理中に無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトが検索されました。EPSTAWAQ 上のブロックが EMHB または DMHR ではありません。

モジュール ID SLG (DBFSLOG0) の場合のサブコード:

01 リソースの排他制御ブロック (XCRB) チェーンを使用して取得されたデータベース・バッファ・ヘッダー (DMHR) ブロックに、無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトがあります。

02 UOW 排他的リソース制御ブロック (UXRB) チェーンを使用して取得された DMHR ブロックに、無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトがあります。

03 EPSTEMHB を使用して取得された急送メッセージ・ハンドラー・バッファ (EMHB) ブロックに、無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトがあります。

04 同期に失敗した後、XCRB チェーンを使用して取得された DMHR ブロックに、無効な DMHRFLG1 フラグ・バイトがあります。

モジュール ID VSR (DBFVSOR0) の場合のサブコード:

01 データベース・バッファ・ヘッダー (DMHR) で指し示す DEDB エリア制御リスト (DMAC) で、VS0 を指定しませんでした。

02 DMAC およびデータ・スペース・マッピング項目 (DSME) のポインターがクロスチェックを行っていませんでした。

03 DSME と DMAC には、別々のデータ・スペース・マップ・リスト (DSML) ポインターがあります。

04 DMHR 内の相対バイト・アドレス (RBA) が DSME の有効範囲を超えました。

05 DBFVSOR0 に渡されたブロックが DMHR ではありません。

システムの処置

IMS 制御領域または従属領域は異常終了します。

システム・プログラマーの応答

問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFMRSB0、DBFVOCIO、DBFVSOW0、DBFMIOS0、DBFFORIO、DBFUMAI0、DBFNCS0、DBFMFL10、BFSLG20、DBFVSOR0、DBFSLOG0

0184

説明

IMS は、始動時に、カップリング・ファシリティでのロング・ビジー許容のための構造を割り振ることができませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1552A を参照してください。問題を訂正し、IMS を再始動してください。MADS 入出力タイミング機能が必要でない場合、DFSVSMxx PROCLIB メンバーから MADSIOT 指定を削除して、IMS を再始動します。

ソース:
IMS 異常終了

0195

説明

高速機能モジュールの 1 つで、発生してはならない状態が検出されました。

分析

レジスター 15 に、この異常終了のサブコードが入っています。エラーを検出するモジュールが異常終了を発行する前にレジスターを保管する場合、レジスター 13 に、異常終了時のレジスターを含む保管域のアドレスが入ります。

キー	説明
Reg15=X'01'	DBFARD30 は、DBRC から戻された許可エリアのパラメーター・リスト内のエリア数が 200 を超えていることを検出します。
Reg15=X'02'	DBFHSRTO は、出力メッセージ ISRT の EMHB がないこと、および INIT STATUS GROUP A がないことを検出しています。

システムの処置

異常終了サブコードに応じて、IMS 従属領域または IMS 制御領域が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DBFARD30、DBFHSRTO

0199

説明

BMP または IMS バッチ領域で、1 回のコミット・サイクル内で変更できるデータベースの数を超過しました。

システムの処置

BMP または IMS バッチ領域は、異常終了コード U0199 で異常終了します。

オペレーターの応答:

問題を修正した後で、BMP または IMS バッチ領域を再始動します。

システム・プログラマーの応答

BMP または IMS バッチ領域では、SYNCPOINT 要求を発行せずに、IMS ログ・データ・セット (つまり、IMS ログ・ブロック・サイズ) に割り振られた最大ログ・レコードに収まる数を超過するデータベースに対して変更を行わないようにしてください。あるいは、変更データベースの数を収容できるように IMS ログ・データ・セットのサイズを増やしてください。

最大ログ・レコードに収まる変更データベースの最大数の見積もりは、次の 10 進公式を使用して算定できます。

$$\text{変更データベースの制限} = (64 * N - 15) \text{ データベース}$$

ここで、 N は、IMS ログ・データ・セット (つまり、IMS ログ・ブロック・サイズ) に割り振られた 1024 バイト・ブロックの数 (10 進数) です。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSECP20

0200

説明

入出力域にデータが戻されるのを要求する AIB インターフェースを使用して、GET タイプ機能が発行されました。しかし、入出力域の長さが小さすぎてデータを受け取れませんでした。Java 従属領域 (つまり、JBP ま

たは JMP) で異常終了が発生した場合、これはストレージ関連の問題である可能性があります。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

入出力域のサイズを増やして、データをアプリケーションに戻せるようにします。Java 従属領域 (つまり、JBP

または JMP) で異常終了が発生した場合、JBP または JMP 従属領域の領域サイズを増やします。

ソース:

IMS 異常終了

第9章 IMS 異常終了コード 0201 - 0250

このトピックでは、IMSにより発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4桁の10進数です。

0201

説明

次のいずれかの状態が発生しました。

1. 読み取られて検証された HALDB 入力ステートメントのうちの少なくとも1つに構文エラーがありました。RC=04 または 08 を伴ってメッセージ DFS3777A が発行されました。RC=04 は、構文エラーはないが 20 を超えるステートメントが指定されたことを示している可能性もあります。
2. IFP、JMP、または MPP 領域では、単一の区画を処理することができません。メッセージ DFS3776A が発行されます。
3. DFSHALDB がオープンに失敗したか、またはその属性が無効です。LRECL が 80 ではないか、または RECFM が固定ブロック・フォーマットではありません。対応するメッセージは DFS3775A です。
4. 処理を継続するにはストレージが不足しています。メッセージ DFS3774A が発行され、そのメッセージ上に表示される制御ブロックのための GETMAIN に失敗したことを示します。

システムの処置

ジョブは、次のいずれかの理由コードを伴い、モジュール DFSHSPIO で異常終了します。

コード

メッセージ番号

- | | |
|----|----------------------------|
| 04 | DFS3777A RC=4 |
| 08 | DFS3777A RC=08 |
| 12 | DFS776A IFP/JMP/MPP |
| 16 | DFS3775A RECFM |
| 20 | DFS3775A LRECL |
| 24 | DFS3667A DFSHALDB のオープンが失敗 |
| 28 | DFS3774A ストレージ不足 |

プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- 構文エラーの場合、SYSHALDB の報告書を検討します。HALDB 入力ステートメントを訂正してから、ジョブを再実行します。構文エラーがない場合、入力ステートメントを 10 個までに制限して、ジョブを再サブミットします。
- IFP、JMP、または MPP 領域で DFSHALDB に指定されている HALDB 入力ステートメントの場合、DFSHALDB を削除するか、または入力ステートメントを除去してから、ジョブを再サブミットします。
- DFSHALDB に関連したデータ・セットの属性を調べます。
- REGION パラメーターのサイズ値を増やします。

問題判別:

1、17h

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSHSPIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0202

説明

正常に構文が検証されたステートメントのいずれかについて、PCB 番号が PSB 内のどの DBPCB とも対応しないか、または区画名が無効です。区画名のつづりを誤ったか、または、有効な名前ではあるが指定された DBPCB 番号によって参照されるデータベース内に見つけられなかった可能性があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS3379E および DFS3779A が出力されます。

システムの処置

疑似異常終了 0202 がモジュール DFSHSPP0 から発行されます。

プログラマーの応答

無効な PCB 番号または区画名を訂正してから、ジョブを再サブミットします。

問題判別:
1, 17b, 17h

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSHDPP0

関連情報

[DFS3379E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS3779A \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0203

説明

ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSERA10) の実行中に、OPTION ステートメントから作成されたパラメーター・リストが変更されていることが判明しました。ユーザー出口ルーチン (OPTION 制御ステートメントのオペランド EXITR= で指定) でエラーが発生した可能性があります。このエラーによって、このルーチンはプログラムの正当なアドレス・スペースの外部にあるストレージをアドレッシングして変更しました。

分析

0203 は、フォーマット設定印刷ユーティリティ DFSERA10 から発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターは有効です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) と併せて使用すると、問題を特定するのに役立ちます。

レジスター 6 に、最初のリスト・エレメントへのポインターが入っている場合があります。入っていない場合、エラーはオプション処理の初期設定中に発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg6=最初 のリスト・ エレメント への ポインター Reg11=ル ーチン のアドレス	SELGE T	レジスター 6 がロードされた後、最初のリスト・エレメントへのポインターがあるかどうかテストされます。ポインターが欠落している場合、ラベル SEL03 にあるルーチンに分岐し、このルーチンが異常終了 0203 を発行します。

考えられる原因: ユーザー出口ルーチン (OPTION 制御ステートメントのオペランド EXITR=) にエラーがあり、それが原因で、ルーチンがプログラムの正当なアドレス・スペースの外部にあるストレージをアドレス指定したか変更した、あるいはその両方を行った可能性があります。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

示されたエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:
3, 4, 35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSERA10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0204

説明

TRCPUNCH DD ステートメントで指定されたデータ・セットをオープンする試みが失敗しました。データ・セットは、DFSERA10 からの DL/I 呼び出しトレース出口ルーチンの出力用のものです。

分析

これは、モジュール DFSERA50 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: TRCPUNCH DD ステートメントにエラーがある可能性があります。

システムの処置

ジョブは異常終了します。

プログラマーの応答

TRCPUNCH DD ステートメントが存在するかどうか、および DFSERA10 入力ストリーム内で正しいかどうかを確認します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSERA50

0205

説明

CCTL スレッドまたは ODBA スレッドが ABORT 要求を発行しましたが、高速機能異常終了処理でエラーが発生しました。

分析

高速機能エラー理由コードは SSOB フィールド SSPYCODE (+x'48') に保管されます。CCTL スレッドでは PAPTTRCD にコードが入っています。

システムの処置

データベース・リソース・アダプター (DRA) スレッドは終了します。

プログラマーの応答

5938 ログ・レコードを調べてください。5938 は、高速機能によって書き込まれ、同期点操作が失敗した理由を示しています。

問題判別

1, 3, 5, 11, 25, 35, 38

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDSC00

0206

説明

IMS.PSBLIB または IMS.DBDLIB ライブラリーをオープンすることができません。

分析

これは、モジュール DFSPCC30 によって発行される標準異常終了です。レジスター 1 に、完了コード X'800000CE' が入っています (下の表を参照)。レジスター 2 に、PXPparms のアドレスが入っています。PXPparms 内のラベル PCDCBADR に、DCB アドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800000CE'	BADO PEN	PSBLIB または DBDLIB の OPEN 障害。

システムの処置

IMS バッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

バッチ処理領域の JCL を検査して IMS DD 名が正しいかどうかを調べます。DFSERA10 入力ストリームの JCL を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

2, 3

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCC30

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0209

説明

領域タイプ ULU または UDR が指定されたが、指定された DBD 名が論理 DBD か、またはアクセス方式が無効です。

分析

0209 は、モジュール DFSDPSB0 がエラーを検出した場合に、モジュール DFSDLBLO によって発行される標準異常終了です。

異常終了時のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル SETPSEU 内の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

DFSDLBLO は、特別な領域タイプ (UDR または ULU) が指定されていることを検出すると、ラベル NOLOAD にある DFSDPSB0 にリンクします。異常終了 SVRB 内のレジスター 13 が指し示す保管域には、DFSDPSB0 への入り口で保管されたレジスターが入っています。レジスター 1 には、パラメーター・リストのアドレスが、以下のフォーマットで入っています。

- 領域パラメーター・リストのアドレス
- DBD のアドレス
- 構成された PSB のアドレス
- プログラム制御パラメーターのアドレス

レジスター 2 に、DBD をロードするために使用された名前のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg9=PREFIX ACCESS X'0F' のアドレス Reg10=ロードされた DBD のアドレス	GET DBD	このルーチンは、アクセス方式の妥当性検査を行います。上位 X'80' ビットがオンでない PREACCESS (レジスター 9 + X'0C') が X'0F' より大きい場合 (これは GSAM または MSDB を示します)、無効なアクセス方式により異常終了が発行されます。
Reg9=PREFIX PRENODSG=0 のアドレス Reg10=ロードされた DBD のアドレス	CON T2	アクセス方式が妥当性検査されています。PRENODSG (レジスター 9 + X'0D') (データ・セットの数) がゼロであることが判別されています。データ・セットの指定がないことは、これが論理 DBD であることを意味しているため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSDLBLO、DFSDPSBO

0210

説明

CCTL サブシステムが、DBCTL サブシステムに対して、UNSCHEDULE 呼び出しまたは TERMINATE THREAD 呼び出しを発行しました。DBCTL が未解決の更新を含むリカバリー単位を検出したか、あるいは ODBA スレッドが、前にコミットまたはロールバックを行わずに DPSB 呼び出しを発行したか、PREP (準備) 副次機能と後続のコミットまたはロールバックを行わずに DPSB 呼び出しを発行しました。

この問題が発生すると、IMS は DFS554A メッセージを発行します。メッセージの例は、次のようなものです。

```
DFS554A DDLT40H 00001 CINTDDLT STLDDLT1(5)
000,0210 2008 +
/241 15:45:15 RTKN= ODBA00230000000500000000
```

システムの処置

IMS は、スレッドを異常終了します。DBCTL スレッドが未完了の場合、更新はバックアウトされます。DBCTL スレッドが未確定の場合、更新は保留されます。

システム・プログラマーの応答

問題を訂正するための追加情報については、メッセージ DFS554A を参照してください。

問題判別:

1、3、5、33、36

ソース:

IMS 異常終了
関連情報
DFS554A

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0211

説明

DBCTL を使用する CCTL システムが、CONTINUE オプションを指定した同期点要求で、非固有リカバリー・トークンを提供しました。CONTINUE オプションを使用する場合は、固有のリカバリー・トークンが必要です。

分析

SSPYRTKN+12 を検査します。SSPYRTKN+12 には、サブミットされたリカバリー・トークンの最後の 4 バイトが含まれています。R15 には、既存の同期点のリカバリー・トークンが入っています。

システムの処置

データベース・リソース・アダプター (DRA) スレッドは終了します。

プログラマーの応答

新しい固有のリカバリー・トークンが呼び出しで提供されていることを確認してください。

問題判別

1、3、5、11、25、35、36、38

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:
DFSDSC00

0214

説明

パラメーター・フィールドに、ULU、UDR、DBB、またはDLIの領域タイプが指定されています。提供されたプログラム名は、この領域タイプを使用する権限がありません。

分析

0214は、モジュールDFSDPSB0がエラーを検出したときに、モジュールDFSDLBLOによって発行される標準異常終了です。

異常終了時点のプログラム状況ワード(PSW)が、異常終了(SVC 13)の発行元であるラベルSETPSEU内の命令を指しています。異常終了SVRB内のレジスターは、問題の分離に使用する必要があります。

モジュールDFSDLBLOは、ラベルNOLOADのモジュールDFSDPSB0にリンクします。これは、特殊な領域タイプUDRまたはULUが指定されたかどうかを検出します。異常終了SVRB内のレジスター13によって指し示された保管域を使用して、DFSDPSB0の入り口に保管されているレジスターを使用します。レジスター1には、パラメーター・リストのアドレスが以下の形式で入っています。

- ・ 領域パラメーター・リストのアドレス
- ・ DBDのアドレス
- ・ 構成されるPSBのアドレス
- ・ プログラム制御パラメーターのアドレス

キー	ラベル	解説
Reg3=PCPARMS アドレス Reg8=許可された プログラム リスト・アドレス RCPGM -= APLPGM APLPGM=X'FF' '	オーセン ループ	RCPARMS内のアプリケーション・プログラム名RCPGMフィールドが、許可プログラム・リスト内の項目と比較されます。一致するものがない状態でリストの終わりに到達すると(APLPGM=X'FF')、提供されたプログラム名にはULUまたはUDRの領域タイプを使用する権限が与えられていないため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMSは異常終了する。

プログラマーの応答

JCLを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSDLBLO、DFSDPSB0

0215

説明

IMS ディスク論理ロガーが内部エラーを検出しました。

分析

レジスター15に、以下の戻りコードが入ります。

コード

説明

X'04'

無効なバッファ・アドレス

X'08'

通知コードの誤り

0215は、モジュールDFSFDLLOによって発行される標準異常終了です。

以下に、レジスターの内容を示します。

レジスター

内容

2

ECBの内容(RC=08の場合)

6

無効なバッファ・アドレス(RC=04の場合)

9

ECBのアドレス

14

検出しているルーチンのアドレス

15

戻りコード

考えられる原因: バッファが使用可能になるのを待っている間に、DFSFDLLOが誤って送られました。

システムの処置

IMSが異常終了します。

オペレーターの応答

IMSを緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別:

1、3、4、5、6、および25

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFDLLO

関連情報

11ページの『IMS問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0216

説明

DBRC=YES が要求されたが、ログ・リカバリー・ユーティリティ (DFSULTR0) が DBRC から正常でない戻りコードを検出しました。

分析

0216 は、モジュール DFSULG10 によって発行される標準異常終了です。

以下に、レジスターの内容を示します。

レジスター 内容

14

検出しているルーチンのアドレス

15

DBRC からの戻りコード

考えられる原因: SECLOG レコードの正常でない DBRC PROLOG が発生しました。この異常終了の前に出された DBRC メッセージを参照してください。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティは異常終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

DBRC の問題を訂正するか、または EXEC ステートメントで DBRC=N をコーディングして DBRC を無視します。

問題判別:

1、2、3、4、8、および 25

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSULG10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0219

説明

コマンド・プロセッサ DFSICLD0 が、リカバリー不能のエラーを検出したか、またはコマンド・アクション・モジュールとの無効なインターフェースが検出されました。

分析

この異常終了は、/ 表示 コントローラー DFSICLD0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ACTION 内の命令を指しています。

異常終了 0219 は、特定の DISPLAY アクション・モジュールへの呼び出しから戻ったときに、DFSICLD0 によってアクション・モジュールに渡されたキュー・バッファの長さフィールドが、そのアクション・モジュールによって変更され、獲得されたバッファの元のサイズ (132 バイト) より大きくなるのが検出されたときに、DFSICLD0 によって発行されます。これは、アクション・モジュールがキュー・バッファに書き込んだことを意味するため、他のキュー・バッファおよびメッセージ・キューを破壊する可能性があるため、異常終了が発行されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 9 には、SPAD (スクラッチパッド作業域) のアドレスが入っており、レジスター 5 には、キュー・バッファへのポインターが入っています。SPAD 内の情報 (具体的には、SPADCALL および SPADCOND) では、処置モジュールと、問題の原因となった元のコマンドを識別するだけで十分です。レジスター 5 は、アクション・モジュールが作成しようとしていた表示出力行を指しています。

SPAD 内のフィールド SPADCALL には、/ 表示 アクション・モジュールのアドレスのテーブル内に索引値が含まれています (DFSICLD0 のラベル ACTIONAD)。コンソール・オペレーターによって入力されたコマンドの圧縮形式は、SPAD 内のフィールド SPADCOND によって指し示されます。フィールド SPADNTRY は、/ 表示 アクション・モジュールによって頻繁に使用され、表示の特定の明細行を作成するアクション・モジュール・エントリーを決定します。この場合、SPADNTRY を使用して、無効な長さフィールドを設定するコードを分離することができます。以下の表は、SPADCALL で検出される可能性のある索引値、および対応するコマンド・モジュールとアクション・モジュールを示しています。

インデックス値	コマンド	アクション・モジュール
X'00'	/RDISPLAY	DFSIRD10
X'04'	/ 表示状況	DFSIDP10
X'08'	/ アクティブの表示	DFSIDP20

インデックス値	コマンド	アクション・モジュール
X'0C'	/ 表示キュー	DFSIDP30
X'10'	トランザクションの表示 / 表示 LTERM	DFSIDP40
X'14'	データベースの / 表示	DFSIDP50
X'18'	/ 表示行	DFSIDP60 年
X'1C'	/ASMT の表示	DFSIDP70
X'20'	/ CONV を表示	DFSIDP80 年
X'24'	/ 表示シャットダウン	DFSIDP90 年
X'28'	/ 表示プール	DFSIDPA0
X'2C'	/ 表示ノード	DFSIDPB0
X'30'	ASMT LINK MSNAME SYSID MSPLINK を表示します。	DFSIDPC0
X'34'	/ 表示リンク	DFSIDPD0
X'38'	/ 表示 RTCODE	DBFCDR0
X'3C'	/ DBD を表示	DBFCDD0
X'40'	/ 表示 PSB	DBFCDP0
X'44'	/ 表示サブプール	DFSIDPE0 山
X'48'	サブシステムの表示 / 表示 OASN CCTL	DFSIDPF0
X'4C'	/DIS MODIFY	DFSIDPG0
X'50'	/DIS ゴールド	DFSIDPH0
X'54'	/DIS エリア	DBFCDA0
X'58'	/DIS HSB	DFSIDPI0
X'5C'	/DIS DB BKERR	DFSIDPJ0
X'60'	/DIS トレース	DFSIDPK0
X'64'	/DIS HSSP	DBFPDHS0
X'68'	/DIS 時間オーバー	DFSIDPL0
X'6C'	アプリケーションの表示 / 表示 説明	DFSIDPM0
X'70'	/ 表示 LUNAME TPNAME	DFSIDPN0
X'74'	/FPV の表示	DBFCDVS0

インデックス値	コマンド	アクション・モジュール
X'78'	/ 表示プログラム	DFSIDPP0
X'7C'	/ トラッキング状況の表示	DFSIDP00
X'80'	/ アオトケンを表示する	DFSIDPQ0
X'84'	/DISPLAY OTMA	DFSYDPD0
X'88'	/ 表示 FDR	DFSIDPZ0

以下の表に、レジスターの説明を示します。

キー	ラベル	解説
Reg2=プール ID イ CREATE Reg5= キューの アドレス バッファ Reg9= SPAD の アドレス	アクション1 及び ドレアーテ	これらのルーチンは両方とも無条件でラベル ACTION に分岐します。これは、フィールド SPADCALL 内の値に基づいて特定のアクション・モジュールに BALR を指定します。アクション・モジュールからの戻り時に、アクション・モジュールで作成されたメッセージの長さが出力バッファ・サイズよりも大きい場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

イムスは異常終了する。

オペレーターの応答

メッセージの原因となった端末上のアクティビティをメモし、イムスシステム・プログラマーに連絡して支援を依頼してください。

問題判別:

1, 4, 5, 6, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSICLD0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0220

説明

イムス システム定義の初期設定で制御ブロックが検出されませんでした。検出されなかった制御ブロックについては、メッセージ DFS3563I を参照してください。

DFSIIINM0、DFSIIIRS0、DFSRMC00、およびDFSRMC20 は、エラー・メッセージを発行し、異常終了を発行するモジュールです。

分析

システム定義が実行されると、通信名テーブル (CNT)、通信回線ブロック (CLB)、およびローカル・リンク名ブロック (LNB) が検索され、ブロック・ポインターが解決されます。ポインター解決は、以下のブロック間で行われます

- SPQB および CNT
- RCNT および LNB

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

正しい制御ブロック・セットがシステム定義から使用されていることを確認してください。

問題判別:

1, 4, 10, 13, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSIIINM0、DFSIIIRS0、DFSRMC00、DFSRMC20

関連情報

DFS3563I

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0223

説明

正常に完了したコミットの直後に、DBT スレッドが DLI 呼び出しを発行しました。コミットは正常に完了しましたが、/DBD (DBDUMP) コマンドまたは /DBR (DBRECOVERY) コマンドが、スケジュール済みプログラム (PSB) に関連付けられた 1 つ以上のデータベースに対してアクティブであることが判明しました。

この問題が発生すると、IMS は DFS554A メッセージを発行します。メッセージの例は、次のようなものです。

```
DFS554A DDLT5J 00001 G PLAPJK04(7) 000,0223 2014 +  
/280 11:13:06 RTKN= ODBA00250000000500000001
```

システムの処置

DLI 呼び出しは処理されませんでした。また、未処理のコマンド (複数の場合あり) を完了できるようにするために、DBT スレッドは異常終了しました。

プログラマーの応答

問題を訂正するための追加情報については、メッセージ DFS554A を参照してください。

問題判別:

1, 3, 5, 33, 36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0225

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、DFSMSdss から無効な情報が受信されたと判断したときに、この異常終了を発行します。また、このユーティリティは、問題が発生したデータベース・データ・セットを識別するメッセージ DFS3144A を出します。

分析

0225 は、モジュール DFSUDUI1 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、終了の理由コードが入っています。理由コードには、以下の意味があります。

コード

説明

4

出口オプション 26 呼び出しの DFSMSdss からの出力ボリューム通し番号がゼロであるか、または無効です。

DFSMSdss が異常終了からリカバリーできる場合、ユーティリティは他のデータベース・データ・セットの処理を続行します。ユーティリティ実行の戻りコードは 8 またはそれ以上です。

システムの処置

DFSMSdss が異常終了からリカバリーできる場合、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、他のデータベース・データ・セットの処理を続行します。ユーティリティの戻りコードは 8 またはそれ以上です。

プログラマーの応答

診断を支援するために、DFSMS によって発行された ADRnnn メッセージを確認 ADR メッセージの説明は、z/OS システム モフ システム・メッセージ、ボリューム 1 を参照してください。ソリューションを判別できない場合は、イブン ソフトウェア・サポートに連絡してください。異常終了資料を用意しておいてください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSUDUI1

関連資料

[z/OS: ADR メッセージ](#)

関連情報

DFS3144A

0229

説明

異常終了 0229 は、モジュール DFSRLP00 によって、次の理由で発行されます。

正常再始動コマンドまたは緊急時再始動 (非コールド・スタート・タイプ) コマンドが発行されたが、再始動のために使用されるログが、必要なリソース・ブロックを再構成するために必要なログ・レコードを検出することなく、ファイルの終わり (EOF) 処理に達した。

分析

0229 は、モジュール DFSRLP00 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。EOF 条件により異常終了が発行された場合、レジスター 15 にアドレスが入っています。

考えられる原因: 必要なリソース・ブロックが入っている、必要なシステム・チェックポイント・ログ・レコードのセットが読み取られませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

ログ・レコード・データ・セット (WADS/OLDS) が完全なものであり、IMS を再始動するための正しい順序になっていることを確認します。これが不可能な場合は、コールド・スタート・タイプの再始動を検討してください。

注: 制御領域の異常終了後に IMS のコールド・スタートの実行する場合は、データベースおよびトランザクション・マネージャーの保全性問題が存在する可能性があります。

問題判別:

1、25、30、35、40、LOGREC エントリー

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRLP00

0230

説明

この異常終了は、次の理由でモジュール DFSRLP00 によって発行されます。

- **/ERE BLDQ** コマンドが発行されたが、再始動に使用されたログが、チェックポイント・レコード (4099) の終わりが読み取られる前に、EOF に達しました。
- 再始動中に、MAIN (WKAP) ストレージ・プールから作業域用にストレージを獲得する試みが失敗しました。

分析

0230 は、モジュール DFSRLP00 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。EOF 条件により異常終了が発行された場合、レジスター 15 にアドレスが入っています。作業域の獲得に失敗したために異常終了が発行された場合、レジスター 15 に、ストレージ要求の戻りコードが入っています。

考えられる原因: EOF 障害の場合、必要なチェックポイントが複数のボリュームにわたっており、2 番目のボリュームが読み取られなかった可能性があります。ストレージ要求障害の場合、MAIN (WKAP) プールのサイズが小さすぎて要求を満たせない可能性があります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

以前のチェックポイントを指定して IMS を再始動するか、またはエラーの原因を判別してから再実行します。

問題判別:

1、4、5、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRLP00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0231

説明

IMS が CQS サブシステムと再同期をとることができませんでした。

分析

0231 は、モジュール DFSRLP00 から発行される標準異常終了です。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

IMS の実行間での矛盾した EMHQ の使用についての詳細は、IMS 診断情報を参照してください。

レジスター 15 の異常終了サブコードが障害の理由を示しています。

サブコード 説明

01

オペレーターが、メッセージ DFS3909A に対して ABORT を応答しました。

02

IMS が CQS から 0、4 以外の戻りコードを受け取りました。この戻りコードは、ダンプ内のレジスター 14 に示されています。

03

CQS と共に IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられたが、以前の IMS 実行で CQS はアクティブではありませんでした。CQS の使用法の変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。

04

CQS なしに IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられたが、以前の IMS 実行で CQS はアクティブでした。CQS の使用法の変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。

05

以前の IMS 実行でアクティブだったものとは異なる CQS と共に IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられました。このタイプの変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。

06

以前の IMS 実行で使用されたものとは異なる CQS MSGQNAME を使用して、IMS をウォーム・スタートまたは緊急スタートすることが試みられました。このタイプの変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。

07

以前の IMS 実行で使用されたものとは異なる CQS EMHQNAME を使用して、IMS をウォーム・スター

トまたは緊急スタートすることが試みられました。このタイプの変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。

08

前の IMS 実行で EMHQ 構造が使用されましたが、現在の実行では EMHQ 構造が使用されていません。または、IMS 実行で EMHQ 構造が使用されず、現在の実行で EMHQ 構造が使用されています。このタイプの変更は、コールド・スタート時にのみ行うことができます。異常終了 0231 の原因が、IMS の実行間の矛盾した EMHQ の使用にある場合は、以下を行うことができます。

- 現行の IMS 実行について、DFSSQxxx PROCLIB メンバー内の EMHQ ステートメントを追加または除去することで、PROCLIB メンバーが前の IMS 実行の EMHQ の設定に一致するようにする。
- 緊急時再始動用の **/ERESTART COLDCOMM**、あるいは EMHQ の使用を変更したい場合は、完全なコールド・スタート用の **/NRESTART CHECKPOINT 0** のいずれかを使用して、コールド・スタートで IMS を再始動する。
- これにより、前の実行からの EMHQ に関するメッセージが廃棄されます。廃棄されるメッセージごとに、X'67D0' サブタイプ 11 トレース・ログ・レコードが書き込まれます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRLP00

関連情報

[DFS3909A \(メッセージおよびコード\)](#)

0233

説明

IMS は、現行リソース構造の使用を再開できませんでした。

分析

異常終了サブコードが障害の理由を示しています。

サブコード 説明

01

リソース構造付きで IMS のウォーム・スタートまたは緊急時再始動が試みられましたが、前の IMS の実行では、IMS の TM コンポーネントがリソース構造を使用していませんでした。この変更は、IMS の TM コンポーネントのコールド・スタート時にのみ行うことができます。

02

リソース構造なしで IMS のウォーム・スタートまたは緊急時始動が試みられましたが、前の IMS の実

行では、IMS TM コンポーネントがリソース構造を使用していました。この変更は、IMS の TM コンポーネントのコールド・スタート時にのみ行うことができます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IMS でリソース構造を使用すべきかどうかを決定し、次に、リソース構造がリソース・マネージャーに正しく定義されているかどうかを判断します。IMS のリソース構造の使用法を変更する必要がある場合は、IMS のトランザクション・マネージャー・コンポーネントをコールド・スタートします。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSRLP00

0240

説明

メッセージ処理アプリケーション・プログラムが許容実行時間を超えました。この時間は、ダンプ処理で使用される処理時間があればその時間を含みます。この処理時間は、IMS システム定義で設定します。BMP の場合、この異常終了は CPU TIME で指定された値を超えたことを示します。

分析

0240 は、DFSPCC20 および DFSECP10 によって発行されます。DFSPCC20 によって発行された場合、レジスターはアプリケーションを指します。DFSECP10 によって発行された場合、レジスターはアプリケーションを指しません。この場合、レジスター 13 の逆チェーンは、目印「F1SA」で終了します。BAKR 命令によって作成されたリンケージ・スタックを使用して、異常終了時のアプリケーション・レジスターおよび PSW を取得します。

システムの処置

ストレージ・ダンプが作成され、従属領域のプログラム・コントローラーが再接続されます。BMP ステップの場合、そのステップは終了します。

プログラマーの応答

「[TRANSACT マクロ \(システム定義\)](#)」の TRANSACT マクロを参照してください。

問題判別

5、14

使用中のログ・データ・セット、およびユーザー変更の IMS モジュールがあればそのアセンブリー・リストを保管してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSPCC20、DFSECP10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0242

説明

システムは、以下の理由でこの異常終了を発行します。

- DIRCA パラメーター (BMP の場合) または PCB パラメーター (MPP の場合) に指定されているサイズが、スケジュールされる PSB を収容するには小さすぎます。
- デフォルト DIRCA サイズが、スケジュールされる PSB を収容するのに十分な大きさではありません。
- メッセージ領域の PCB パラメーターが十分な大きさではありません。
- コーディネーター制御 (CCTL) スレッド用の DIRCA の作成中に、データベース制御 (DBCTL) 内部エラーが発生しました。

分析

これは、モジュール DFSASK00 によってエラーが検出された場合の標準異常終了です。

システムの処置

IMS 従属領域は異常終了し、進行中のプログラムは停止します。

オペレーターの応答

プログラムに対して **/START** コマンドを発行し、IMS システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。

プログラマーの応答

デフォルトの DIRCA サイズおよびその計算方法については、IMS システム定義情報を参照してください。DIRCA サイズの指定を増やします。

問題判別:
1、2、3、4、5、6、8、9、17b

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0243

説明

システムは、次のいずれかの理由で、この異常終了を発行します。

- IMS が APPC トランザクションをタイムアウトにしました。タイムアウト値は、APPC IOT=(,XX) パラメーターで指定します。
- IMS は、満了した入力トランザクションを検出し、そのトランザクションを取り消しました。TRANSACT マクロ、IMS 宛先作成出口 DFSINSX0、または DRD タイプ 2 コマンド (**CREATE/UPDATE TRAN** コマンドなど) を使用して、OTMA メッセージ接頭語の中に、取り消されたトランザクションの満了時刻を指定できます。
- IMS は、アプリケーションの GU 時に、OTMA クライアント記述子内の MAXTP= パラメーターで定義されているトランザクション・パイプ (T パイプ) の最大数に達していることを検出しました。そのため、IMS は、新しい T パイプを要求した OTMA 入力トランザクションをキャンセルしました。OTMA クライアント記述子に TODUMP=YES または TODUMP=U243 が指定されているため、システムは、この異常終了を発行しました。

システムの処置

ストレージ・ダンプが作成され、従属領域のコントローラーが再接続されます。

ソース:
IMS 異常終了

関連資料

[OTMA クライアント記述子の構文およびパラメーター \(システム定義\)](#)

0249

説明

バッチ環境での内部のジョブ終了状況呼び出し中に、無効な状況コード (STATUSGA またはブランクでない) が DL/I テスト・プログラム DFSDDLTO に戻されました。DFSVSAMP DD カードで VSAM バッファの指定がないと、状況呼び出しで STATUSGE となり、ABU249 オ

プションが指定されている場合は、DFSDDLTO から異常終了 0249 が発行されます。

分析

この異常終了は、バッチ環境で DFSDDLTO (DL/I テスト・プログラム) によって発行されます。すべての DFSDDLTO 制御ステートメントが処理された後、DFSDDLTO は内部でジョブ終了状況呼び出しを発行します。DFSDLA00 (DL/I 呼び出しアナライザー) は、OSAM および VSAM バッファ統計のために DFSDVBHO (バッファ・ハンドラー) を呼び出します。DFSDVBHO からの戻りコード (レジスター 15) がゼロ以外です。

DFSDLA00 は DBPCBSTC を「GE」(STATUSGE) に設定し、それを DFSDDLTO に戻します。DFSDDLTO は DBPCBSTC がブランクまたは「GA」であるかどうかを検査します。DBPCBSTC がブランクでないとき、ユーザーが ABU249 オプションを指定した場合は、0249 が発行されます。ABU249 オプションを指定しなかった場合は、状況呼び出しの出力の印刷はバイパスされません。

オンライン環境では、ジョブは 0479 で終了します。DFSDLA00 は異常終了を発行し、状況呼び出しを終了するために DFSDDLTO に戻りません。

考えられる原因: ユーザーが DFSDDLTO オプション・ステートメントに ABU249 をコーディングしており、DFSDDLTO が内部のジョブ収集状況呼び出し中に無効な状況コードを受け取りました。



重要: DFSVSAMP DD ステートメントで VSAM バッファの指定がないと、状況呼び出し時に STATUSGE となり、ABU249 オプションがコーディングされている場合には、DFSDDLTO から 0249 が発行されることとなります。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

ダンプ内で PSTRTCDE を見つけて、エラーの原因を判別します。

問題判別:

17a、17b、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDLTO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0250

説明

DL/I テスト・プログラム DFSDDLT0 が、セグメント入出力域に使用されるエリアに対して条件付き GETMAIN マクロを発行しました。オンラインで実行している場合、要求されたサイズは 32732 バイトでした。バッチで実行中の場合、サイズは、ブロックが PSB 用に作成されたときに決定される最大入出力長です。要求されたストレージは使用不可でした。

分析

これは、モジュール DFSDDLT0 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

イムス 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

ステップに対してより大きな領域サイズを指定し、ジョブを再実行してください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDDLT0

第 10 章 IMS 異常終了コード 0251 - 0300

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0251

説明

IMS は、バッチ用の DL/I テスト・プログラムで使用されるデータ・セットのいずれかをオープンできません。障害が SYSPRINT データ・セットのオープン時に発生したのでない限り、SYSPRINT データ・セット上のメッセージが、オープンできなかったデータ・セットの DD 名を示しています。

分析

0251 は、DFSDDL0 (言語インターフェース・モジュール DFSLI000 とバインドされた後の指定された DFSDDL0) から発行される標準異常終了です。SYSIN、SYSPUNCH、または SYSPRINT 用の DCB をオープンできないために、異常終了が発行されます。

障害が SYSIN または SYSPUNCH のオープンにある場合、異常終了の前にメッセージが SYSPRINT データ・セットに書き込まれます。

SYSPRINT データ・セットからの出力(使用可能な場合)と共に、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。以下の表は、レジスター情報を提供しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、X'800000FB'	ISBAT CH	SYSIN DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。データ・セットがオープンしなかった場合、ラベル NOOPEN にあるルーチンに分岐して、完了コードを移動し、印刷データ・セットにメッセージ「ABEND 251 ISSUED DUE TO UNSUCCESSFUL OPEN OF DDxxxxxxx」を書き込みます。次に、異常終了するために、ラベル EPILOGUE にある RETURN に分岐します。
Reg3=SYS2 NDCB のアドレス Reg9=SYSIN DCB のアドレス		
Reg1=完了コード、X'800000FB'	ISBAT CH	PRINT DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。データ・セットがオープンしなかった場合、レジスター 1 に異常終了コードがロードさ

キー	ラベル	説明
		れ、異常終了が発行されます。印刷データ・セットは利用不可であるため、メッセージは出されません。
Reg1=完了コード、X'800000FB'	CDONE	PUNCH DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。データ・セットがオープンしなかった場合、ラベル NOOPEN にあるルーチンに分岐して、完了コードを移動し、印刷データ・セットにメッセージ「ABEND 251 ISSUED DUE TO UNSUCCESSFUL OPEN OF DDxxxxxxx」を出します。次に、異常終了するために、ラベル EPILOGUE にある RETURN に分岐します。
Reg9=PUNCH DCB のアドレス		

システムの処置

IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

そのデータ・セット用の DD ステートメントを用意してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

2、3、4、20

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDL0、DFSDDL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0252

説明

DL/I テスト・プログラム (DFSDDL0) が以下の理由でこの異常終了を発行することがあります。

- 入力制御カードの桁 1 から 5 に ABEND を指定することによって、異常終了が要求された。
- 終了前に統計情報を収集するために STAT 呼び出しが発行された後で、不明な戻りコードを受け取った。
- IMS メッセージ・キューへのメッセージ ISRT 呼び出しの後で、不明な戻りコードを受け取った。このジョブの JCL に PRINTDD ステートメントがありませんでした。

分析

バッチ用の DL/I テスト・プログラム DFSDDL0 (言語インターフェース・モジュール DFSLI000 とバインドされた後の指定された DFSDDL0) を実行中に、異常終了を要求している制御ステートメントが検出されています。

0252 は DL/I テスト・プログラムからの標準異常終了です。SYSPRINT データ・セットからの出力 (使用可能な場合) と共に、異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

この異常終了は、ユーザーによってコーディングされて要求されており、主に診断の目的で使用されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、 X'800000FC' Reg3= メッセージ書き込み機能への BAL	NOTWTS R	フィールド CARDID をテストして、ユーザーが特殊な制御ステートメントを使用して異常終了を要求したかどうかを調べます。そうである場合は、メッセージ「ABEND 252 ISSUED DUE TO ABEND CONTROL CARD 'PRINTDD」を発行するためのルーチンに分岐し、次に、異常終了するためにラベル EPILOGUE にある RETURN に分岐します。

システムの処置

IMS バッチ領域または従属領域は、異常終了 0252 で異常終了します。

プログラマーの応答

異常終了を要求した場合、異常終了は期待通りの結果です。STAT 呼び出しで異常終了が発生した場合、最初のデータベース PCB に戻りコードが含まれています。メッセージ・キューへの ISRT 呼び出しで異常終了が発生した場合、入出力 PCB に戻りコードが含まれています。戻りコードの原因を判別し、エラーを訂正してからジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSDDL0、DFSDDL0

0253

説明

DL/I テスト・プログラムによって読み取られる最後の状況ステートメントの桁 16 から指定されたデータベース PCB の名前が、PSB 内のどのデータベース PCB とも一致しません。

分析

0253 は、バッチ用の DL/I テスト・プログラム DFSDDL0 (言語インターフェース・モジュール DFSLI000 とバインドされた後の DFSDDL0) から発行される標準異常終了です。SYSPRINT データ・セットからの出力と共に、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、 X'800000FD' Reg3= メッセージ書き込み機能への BAL Reg5=PCB アドレス	NOTPCB	レジスター 5 をテストして、アドレスが最後の PCB (負のレジスター) のものであるかどうかを調べます。これが最後のものであり、要求された PCB が検出されなかった場合は、メッセージ「DBDxxxxxxx DOES NOT EXIST-ABEND 253 'PRINTDD」を発行するために、NOFOUND にあるルーチンに分岐します。異常終了するために、ラベル EPILOGUE に RETURN する分岐を行います。

考えられる原因: 状況制御ステートメント内の PCB 名を検査して、それが JCL の //EXEC ステートメントで指定された PSB 内の PCB 名と同じであるかどうかを確認します。

オンライン/BMP トランザクションが、生成された PSB (GPSB) を処理しようとした可能性があります。指定された PSB が GPSB であるかどうか確認してください。

システムの処置

IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

状況制御ステートメント内の PCB 名が、EXEC ステートメントで指定された PSB 内のデータベース PCB 名と

比較して正しいかどうかを確認します。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、3、4、18、19

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDL50、DFSDDLTO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDL50、DFSDDLTO

関連資料

DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0254

説明

DL/I テスト・プログラム DFSDDLTO が、DL/I によって使用されるデータ・セットのいずれかがオープンできなかったことを示す AI 状況コードを受け取りました。出力データ・セット上のメッセージが、オープンできなかったデータ・セットの DD 名を示しています。

分析

0254 は、バッチ用の DL/I テスト・プログラム DFSDDL50 (言語インターフェース・モジュール DFSLI000 とバインドされた後の指定された DFSDDLTO) からの標準異常終了です。SYSPRINT データ・セットからの印刷出力と共に、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、X'800000FE' Reg3=メッセージ書き込み機能への BAL Reg9=PCB アドレス	ONLINE18	呼び出しからの戻りコードで、AI 状況コード (データ管理 OPEN 障害 (任意のデータベース OPEN 障害) を示している) について比較が行われます。AI が戻された場合、印刷データ・セットにメッセージ DATA MANAGEMENT OPEN ERROR-ABEND 254 が出力され、異常終了するために、ラベル EPILOGUE に RETURN する分岐を行います。

システムの処置

IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

AI 状況コードの考えられる原因については、DL/I 状況コード情報を参照してください。

問題判別:

2、3、4、18、19、20

0255

説明

DL/I テスト・プログラム (DFSDDLTO) で、指定された比較不一致の限界に達しました。バッファ・ハンドラーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析

0255 は、モジュール DFSDDLTO によって発行される標準異常終了です。以下は、DSECT PST 内のバッファ・ハンドラー戻りコードのリストです。

PSTRTC DE	DC	1XL1'00 '	呼び出しの状況
PSTCLOK	EQ U	X'00'	EVERYTHING SATISFACTORY
PSTGTDS	EQ U	X'04'	RBN BEYOND DATA SET
PSTRDE RR	EQ U	X'08'	PERMANENT READ ERROR
PSTNOS PC	EQ U	X'0C'	NO MORE SPACE IN DATA SET
PSTBDC AL	EQ U	X'10'	ILLEGAL CALL
PSTEND DA	EQ U	X'14'	END OF DATA SET ENCOUNTERED *NO RECORD RETURNED
PSTNOT FD	EQ U	X'18'	REQUESTED RECORD CANNOT BE FOUND
PSTNWB LK	EQ U	X'1C'	NEW BLOCK CREATED IN BUFFER POOL
PSTNPLS P	EQ U	X'20'	INSUFFICIENT SPACE IN POOL
PSTTRM NT	EQ U	X'24'	USER MUST TERMINATE. NO SPACE IN POOL
PSTDUPL R	EQ U	X'28'	LOGICAL RECORD ALREADY IN KSDS

PSTRTC DE	1XL1'00 DC	'	呼び出しの状況
PSTWRE RR	EQ U	X'2C'	PERMANENT WRITE ERROR
PSTBUFI N	EQ U	X'30'	BUFFER INVALIDATED
PSTBIDI N	EQ U	X'34'	UNABLE TO ACQUIRE BID/B
PSTPDER R	EQ U	X'38'	UNABLE TO LOCATE DDIR/ PDIR ENTRY
PSTNOS TO	EQ U	X'3C'	STORAGE NOT AVAILABLE

この異常終了と共に、メッセージ DFS255 が戻されました。

考えられる原因: RCF、SGN、TRN、または ISIS に対して無効値が指定されました。

システムの処置

IMS 従属領域またはバッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDLTO

関連情報

[DFS255](#)

0256

説明

緊急時再始動時に、会話の通信再始動プロセッサが X'11' ログ・レコードの処理中にエラーを検出しました。この問題は、IMS システムへの変更が原因である可能性があります。

分析

この異常終了は、緊急時再始動時の会話開始 (タイプ X'11') ログ・レコードの再処理中に、IMS/VS 通信再始動プロセッサ (DFSCRPO) から発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターが、問題を切り分けるのに役立ちます。

キー	ラベル	説明
Reg2=タイプ X'11' ログ・レコー ドのアドレス Reg9=RESTART ECB の アドレス Reg11=SCD のア ドレス Reg15=DFSCONS 0 からの 戻りコード	CRPV11	レジスター 15 をテストして、DFSCONS0 からの戻りコード (会話ブロック用の DFSBCB FUNC=GET からの戻りコード) を調べます。ゼロ以外の戻りコードの場合、異常終了になります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

元の問題が発生したときにスケジュールされていた PSB ごとに、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行します。その後で、IMS をコールド・スタートします。

プログラマーの応答

この問題を起こした変更内容を判別します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSCRPO

0257

説明

緊急時再始動で X'11' または X'12' ログ・レコードを処理しているときに、VTAM 端末制御ブロックのスキャン中にエラーが発生しました。この問題は、IMS システムへの変更が原因である可能性があります。

分析

0257 は、モジュール DFSCRPO によって発行される標準異常終了です。

レジスター 2 に、ログ・レコードのアドレスが入っています。ログ・レコードには、ノード名と、ノードが LU6 である場合は、VTAM 端末制御ブロックのスキャンに使用されたサブプール名が入っています。

DSECT LCONVERS (ILOGREC マクロの一部) で、以下のフィールドを定義しています。

LCONNODE

ノード名

LCONHSQN

サブプール名

考えられる原因: この問題はおそらく IMS システムへの変更が原因です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

元の問題が発生したときにスケジュールされていた PSB ごとに、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行します。その後で、IMS をコールド・スタートします。

プログラマーの応答

この問題を起こした変更内容を判別します。

問題判別:

4、5、12、14

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCRVP0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0258

説明

この異常終了は、緊急時再始動中に /**HOLD** または /**RELEASE** コマンド・プロセッサ (DFSICLH0) でエラーが検出されたか、あるいはチェックポイント・ロガー (DFSRC30) でエラーが検出されたことが原因です。

分析

これは、緊急時再始動中に /**HOLD** または /**RELEASE** コマンド・プロセッサによって発行される、あるいは SPA データ・セット内のディスク SPA の読み取りまたは書き込み時の OSAM エラーによりチェックポイント・ロガーによって発行される、標準異常終了です。

以下の表に示すように、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターが、問題を切り分けるのに役立ちます。

キー	ラベル	説明
Reg6=CCB のアドレス Reg9=CCB/DECB のアドレス Reg15=OSAM 戻りコード:	SPAERR	レジスター 15 をテストして、OSAM からの戻りコードを調べます。ゼロ以外の戻りコードの場合、異常終了になります。 DECBSTAT に追加情報が入っています。
04=入出力が異常終了した		
08=入出力が開始されなかった		

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSICLH0、DFSRC30

0260

説明

IMS へのアプリケーション・プログラム呼び出しのパラメーター (USING リストで指定されたデータ項目) の数が、許容限度である 18 を超えています。この異常終了は、チェックポイント呼び出しが使用され、指定されたパラメーターの数が少なすぎる場合、ユーザー指定域の数が XRST 呼び出しで指定された数を超えている場合、あるいはユーザー域パラメーターが対 (ダンプされるエリアごとに、長さおよびアドレス) になっていない場合にも発生する可能性があります。

この異常終了は、次のいずれかの理由で出されます。

- IMS に対するアプリケーション・プログラムからの呼び出しのパラメーターの数が、許容限度の 18 を超えたか、または 0 である。
- チェックポイント呼び出しが使用されたが、次の説明のいずれかが当てはまる。
 - 指定されたパラメーターが少なすぎる。
 - ユーザー指定域の数が、XRST 呼び出しで指定された数を超えている。
 - ユーザー域パラメーターが対 (ダンプするエリアごとに、長さおよびアドレス) になっていない。
- アプリケーション・プログラムが DL/I 機能コードをオーバーレイしたため、最初の文字が英数字でなくなった。この問題により、このフィールドはカウント・フィールドとして扱われます。

分析

0260 は、MPP アプリケーション環境コントローラー DFSECP10 によって発行される可能性がある標準異常

終了です。ここで発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル EC1ABEND 内の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000 0104'	EC1ABEN D	DFSLIE00 または DFSLIE20 が、呼び出しパラメーター・リストが長すぎることを検出しています。疑似異常終了コードが設定され、DFSECP10 が異常終了を発行します。

DFSECP20 の場合:

この異常終了が BMP 環境コントローラー DFSECP20 によって発行される場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル EC2ABEND 内の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000 0104'	EC2ABEN D	DFSLIE00 または DFSLIE20 が、呼び出しパラメーター・リストが長すぎることを検出しています。疑似異常終了コードが設定され、DFSECP20 が異常終了を発行します。

DFSPR000 の場合:

この異常終了は、バッチ・アプリケーション・プログラム要求ハンドラー DFSPR000 によって発行される可能性があります。ここで発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PRABEND 内の命令を指しています。

このモジュールからの 0260 異常終了はすべて、エラー条件を検出したルーチンによるラベル PRAB1 への条件付きブランチの結果です。

レベルを決めるために、モジュール DFSPR000 には以下のラベルがあります。

PRLAN
PRIMP
PRCHKPP
PRCPX
LENXLOOP

システムの処置

オンライン従属領域または独立型バッチ領域は異常終了します。その他の IMS 領域は影響を受けません。

プログラマーの応答

問題がパラメーターの数の誤りである場合、フォーマットおよび内容に準拠するように、アプリケーション・プログラムの DL/I 呼び出しを訂正します。

シンボリック・チェックポイント呼び出しを使用している場合、ユーザー指定域の数が、XRST 呼び出しで指定された数を超えないようにします。

アプリケーション・プログラムが DL/I 機能コードをオーバーレイした場合、アプリケーション・プログラムを訂正します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSECP10、DFSECP20、DFSPR000

0261

説明

アプリケーション・プログラム呼び出しの USING リストで IMS に渡された値のいずれかが無効です。対象のマシン・サイズを超えているか、アライメント要件を満たしていないか、またはストレージ保護境界に違反しています。

アプリケーション・プログラムから IMS への DL/I 呼び出しで、アプリケーション・プログラムの USING リストで渡されたパラメーターのいずれかが無効です。対象のマシン・サイズを超えているか、アライメント要件を満たしていないか、またはストレージ保護境界に違反しています。

障害の原因として、次のものが考えられます。

- 呼び出しは AIB を必要とするが、AIB が用意されていない。
- DL/I 呼び出しのパラメーター・カウントが無効である。
- 無効な PCB が IMS により検出された。以下に例を示します。
 - PL/I プログラムが PSB と対応しない。
 - CMPAT パラメーターが誤って指定されている。アプリケーション・プログラムが IOPCB を使用するように設計されている場合、このプログラムを DL/I バッチ領域で実行するには、PSBGEN ステートメントで CMPAT=YES を指定する必要があります。
 - GSAM 入力データ・セットの DD ステートメントの DCB 情報が不適切である。

分析

0261 は、モジュール DFSCDLI0、DFSPR000、DFSECP10、または DFSECP20 から発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプロ

グラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。

0261 異常終了になる可能性がある条件は、次のとおりです。

- パラメーター・リスト・アドレスがワード境界にない。
- パラメーター・リスト・アドレスが主記憶域の外側である。
- パラメーター・リスト・アドレスが中核 (保護) 境界に違反している。
- AERTDLI への呼び出しで AIB が提供されなかった。
- DL/I 呼び出しリストに AIB のアドレスが含まれていない。

DFSCDLIO の場合:

これは、ODBA 言語インターフェース・モジュール DFSCDLIO AERTDLI によって発行される可能性がある標準異常終了です。このモジュールから発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である DFSCDLIO AERTDLI 内の命令を指しています。

異常終了が発行される可能性がある理由は、次のとおりです。

- AERTDLI への呼び出しで AIB が提供されなかった。
- DL/I 呼び出しリストに AIB のアドレスが含まれていない。

以下は、DL/I 呼び出しリストのフォーマットです。

- オプションの parmcount
- DL/I 呼び出し機能
- AIB
- 追加の呼び出しパラメーター

DFSECP10 と DFSECP20 の場合:

パラメーター・リストがフルワード境界にありません。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000105'	EC1ABEN D EC2ABEN D	DFSLIE00 または DFSLIE20 は、ユーザー・パラメーター・リストがフルワード境界にないことを検出し、疑似異常終了コードを設定します。DFSECP10 および DFSECP20 が異常終了を発行します。

DFSPR000 の場合:

このモジュールから発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル PRABEND 内の命令を指しています。

このモジュールからの 0261 異常終了はすべて、エラー条件を検出したルーチンによるラベル PRAB2 への条件付きブランチの結果です。

キー	ラベル	説明
Reg2=PXPARM S (DFSPRPX0) dsect のアドレス	PRSTAE RN	ユーザー・パラメーター・リストがワード境界にあるかどうかを調べるためのテストが行われます。ワード境界にない場合、異常終了を処理するために、PRAB2 に分岐します。
Reg4=最高のマシン・アドレス Reg6=パラメーター・リスト内のアドレスを指す Reg7=最低の非中核アドレス (動的区域)	VCHK3	レジスター 4 とレジスター 6、およびレジスター 6 とレジスター 7 の間で比較が行われます。パラメーター・リスト内のアドレスが最高マシン・アドレスより高い場合、またはパラメーター・リスト内のアドレスが中核境界より低い場合、異常終了を処理するために PRAB2 に分岐します。

システムの処置

オンライン従属領域または独立型バッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

正しいフォーマットおよび内容に準拠するように、DL/I 呼び出しリストを訂正します。

1. アプリケーション・プログラムの DL/I 呼び出しステートメントを訂正します。
2. ENTRY 制御ステートメントを付けて、アプリケーション・プログラムを再バインドします。

問題判別:

4、17d

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCDLIO、DFSECP10、DFSECP20、DFSPR000

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0262

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラムが、XD 状況コードを受け取った後で DL/I 呼び出しを発行しました。XD 状況コードが設定された理由は、IMS システムがチェックポイント・フリーズ・シャットダウン処理中に、プログラムが DL/I チェックポイント呼び出しまたは SYNC 呼び出しを発行したためです。

分析

DL/I チェックポイント呼び出しまたは同期呼び出しで状況コード XD が戻され、アプリケーション・プログラムが別の DL/I 呼び出しを発行しないように警告しています。アプリケーション・プログラムで、DL/I 呼び出しシーケンスを確認してください。

システムの処置

BMP 領域は異常終了します。

オペレーターの応答

最初に、IMS システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。IMS システム再始動のとき、DL/I チェックポイントからバッチ・メッセージ処理プログラムを再始動することができます。

プログラマーの応答

これは、アプリケーション・プログラムのエラーです。アプリケーション・プログラムが他の DL/I 呼び出しを発行しないように警告するため、DL/I チェックポイント呼び出しで状況コード XD が戻されました。アプリケーション・プログラムを訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSECP20

0263

説明

コーディネーター制御 (CCTL) サブシステム・スレッドで、データベース制御 (DBCTL) サブシステムに対して無効な呼び出しが行われました。この異常終了が、入出力プログラム連絡ブロック (IOPCB) に対して呼び出しを発行しているときに発生した場合、呼び出しはエラーになっていました。その他の場合、この異常終了は IMS 内部エラーです。

分析

0263 は、疑似異常終了です。

スレッド SDUMP の SSOB ブロック内の SSPDCODE フィールドに、原因が示されています。

SSPDCO DE	Module	理由
ICAL	DFSDPRH0	IOPCB を使用している場合、DL/I 呼び出しリスト内の機能が無効です。
RINV	DFSDPRH0	これは、内部データベース・リソース・アダプター (DRA) エラーです。DRA が生成および要求した同期点機能番号が無効です。
	DFSDCPY0	どちらのコードもフィールド SSPDCODE にない場合は、要求された同期点番号が無効です。これは、内部 IMS エラーです。

システムの処置

CCTL スレッドが終了します。

プログラマーの応答

CCTL スレッドの SNAP または SDUMP を行います。

問題判別:
38

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDPRH0、DFSDCPY0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0265

説明

DFSIAF20 によって内部エラーが検出されています。同期点処理のために DFSIAF20 に入ったときに、PSTSYNFC に含まれていた値が DFSIAF20 に対して無効でした。この異常終了は、次のいずれかの状態が起きたときに発生します。

- SPOOL/API 処理ルーチンでインターフェース・エラーが発生した。
- SPOOL/API 処理ルーチンで同期点 PCB アドレッシング・エラーが発生した。

分析

0265 は、DFSIAF20 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、障害が起きたモジュールを分離します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND265 内の命令を指しています。以下のレジスタは、無効な機能および呼び出し元を分離するために使用できます。

キー	ラベル	説明
Reg10=機能コード	ABEND 265	DFSIAF20 に無効な機能コードが渡されました。DFSIAF20 の保管域のレジスタ 14 が、呼び出し側モジュールを指しています。

考えられる原因: コーディングの変更またはユーザー変更を確認してください。

システムの処置

IMS アプリケーション領域は異常終了します。

問題判別:

1、3、4、5、8、11、27

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIAF20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0271

説明

チェックポイント操作中、バッファをページしているときに入出力エラーが検出されました。正常でないデータ・レコードがデータ・セット内に残っている可能性があるため、GSAM は異常終了します。

分析

データ・セットについての詳細は、メッセージ DFS0530I を参照してください。

システムの処置

GSAM は異常終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSZDC00

関連情報

[DFS0530I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0272

説明

フォーマット設定が無効な BSAM 可変長レコードであることを示す AF 状況コードを受け取った後で、アプリケーション・プログラムが、GSAM を再初期設定せずに GSAM データ・セットへの呼び出しを発行しました。

分析

AF 状況コードが戻された時点で、無効なレコードを含んでいるデータ・セットの DD 名を示したメッセージ DFS0768I が出力されました。GSAM 制御ブロックおよび無効なレコードを含んでいるバッファが、IMSERR または SYSPRINT データ・セットに書き込まれました。

システムの処置

GSAM は異常終了します。

プログラマーの応答

詳しくは、メッセージ DFS0768I を参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSZDC00

関連情報

[DFS0768I](#)

0273

説明

XRST 呼び出し中に、GSAM データ・セットを位置変更しているときにエラーが検出されたか、または元の実行と未遂の再始動の実行との間で GSAM DCB に矛盾 (BLKSIZE/LRECL) があります。影響を受けたデータ・セット内の位置が予測不能であるため、GSAM は異常終了します。

分析

GSAM 制御ブロック DSECT を印刷した後で、IMSERR または SYSPRINT 出力に対する GSAM 制御ブロック・ダンプを使用して、非ブランクの状況コードをもつ GSAM PCB を判別します。

システムの処置

影響を受けたデータ・セット内の位置が予測不能のため、GSAM は異常終了します。

プログラマーの応答

GSAM 制御ブロックの分析に使用するため、GSAM 制御ブロック DSECT (SDFSMAC 内のメンバー名 IGLI) を印刷します。エラーの理由を判別して訂正してから、障害のあったジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSZDC00

0274

説明

モジュール DFSSBIO0 とその呼び出し元との間で、予期しないインターフェース・エラーが発生しました。

分析

0274 は、DFSSBIO0 によって発行される標準異常終了です。IMS 機能の要求に応じて、DFSSBIO0 が複数の連続ブロックの読み取り入出力操作を開始し、入出力操作の完了を待ちます。DFSSBIO0 の呼び出し元は、入出力操作の連続ブロックの範囲を示す SRAN 制御ブロックのアドレスを提供する必要があります。DFSSBIO0 の呼び出し元は、入出力操作に関与する SRAN 制御ブロックを所有する PST の下で実行されているモジュールでなければなりません。

キー	ラベル	説明
Reg7=SRAN のアドレス Reg6=SRAN を所有する SDSG のアドレス SDSGPSTA=SDS G/SRAN を所有する PST のアドレス Reg10=DFSSBI	AB0274	DFSSBIO0 は、呼び出しに関与する SRAN および SDSG を所有する PST が、DFSSBIO0 を呼び出しているモジュールの PST に等しいかどうかを調べます。(SDSGPSTA がレジスター 10 と比較されます。)

キー	ラベル	説明
00 の呼び出し元の PST のアドレス Reg14 (呼び出しモジュールの保管域内)= 呼び出し元の リターン・アドレス		

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

詳しい診断情報については、上記の『分析』を参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSSBIO0

0275

説明

IMS が、順次バッファリング (SB) 制御ブロックおよびエリアのスナップ・メモリー・ダンプを作成するのに必要なエリアを獲得できませんでした。この異常終了と共に、メッセージ DFS2350I が発行されます。

分析

0274 は、モジュール DFSSBSN0 によって発行される疑似異常終了です。DFSSBSN0 は、呼び出し元 IMS モジュールからの SNAP 要求を処理するために、作業域が必要です。作業域がまだ獲得されていない場合、DFSSBSN0 は、作業域を獲得するために DFSSBGM0 を呼び出します。DFSSBGM0 が IMODULE/DFSQCSS マクロによる作業域の獲得に失敗すると、DFSSBSN0 は DFSSBGM0 から制御を再取得した後で、異常終了を要求します。

キー	ラベル	説明
Reg7=SBP STのアド レス Reg15=0	DFSSBS NO	SBPST には、DFSSBGM0 を呼び出す DFSSBSNO の呼び出しパラメーターが入っています。DFSSBGM0 が、レジスター 15 に作業域アドレスではなくゼロを戻す場合、DFSSBSNO は異常終了を要求します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS2350I にある情報に基づいてエラーを訂正します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBSNO
関連情報
DFS2350I

0288

説明

HISAM 再編成アンロードまたは再ロード・ユーティリティー (DFSURULO または DFSURRLO) への入力として、高速機能副次索引データベース (FPSI DB) が使用されました。これらのユーティリティーは高速機能副次索引データベースをサポートしていません。詳しくは、メッセージ DFS0288E を参照してください。

分析

REG15 の理由コード X'00000008' を伴う異常終了 0288 は、モジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この終了に伴って、メッセージ DFS0288E が出されます。

システムの処置

バッチ・ジョブは異常終了します。

プログラマーの応答

適切なユーティリティーを使用して、高速機能副次索引データベースの再編成またはリカバリーを行います。FPSI DB を再編成するには、IDCAMS REPRO で十分です。FPSI DB をリカバリーするには、IMS リカバリー・ユーティリティー、DFSURDBO を使用するか、または任意の IMS ベンダー製品の索引ビルダー・ツールを使用します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDBLLO
関連情報
DFS0288E (メッセージおよびコード)

0300

説明

ユーティリティー制御機能 (UCF) の制御下で実行中に、ユーザーが異常終了を発生させるように要求したメッセージが生成されました。

この異常終了は、診断の補助としてユーザーによって要求された場合のみ、UCF 内でモジュール DFSUCP40 によって発行されます。DFSUCF00 のプロシージャに SYSABEND または SYSUDUMP DD ステートメントが組み込まれていた場合、ダンプが生成されます。

分析

DFSUCP40 は、UCF 下で実行中かつ診断メッセージを書き込んだ後でのみ、0300 を発行します。エラー・ポイント異常終了は、2つの方法のいずれかで呼び出されます。

- REQUEST=MSGALL が、FUNCTION=OP 制御ステートメントでコーディングされたか、UCF 未解決 WTOR への応答として入力された (これは、任意の **A** または **W** タイプ・メッセージの時点での異常終了を要求します)。
- MSGNUM=(CCC,...) が FUNCTION=OP 制御ステートメントでコーディングされた (これは、1つ以上の特定のメッセージの時点での異常終了を要求します)。

ダンプ出力を分析すると、DFSUCP40 を呼び出したモジュールにさかのぼることが可能なはずですが、そこに達すると、示されたメッセージの原因および妥当性を判別することができます。0300 でトラップできるメッセージの大多数は各種の IMS ユーティリティーから開始されますが、一部のものは UCF の内部で発行されることに注意する必要があります。また、DFSUCP80 に含まれているメッセージのみトラップできることにも注意してください。ユーティリティーは、UCF のサブタスクとして実行されます。「ブートストラップ」モジュール DFSUCP80 が接続され、このモジュールが要求されたユーティリティー・モジュールをロードします。

異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、レジスター 13 を見つけます。このレジスターには、呼び出し元の保管域データ・セットへのポインターが入っています。レジスター 14 から 12 は、レジスター 13 プラス C に保管されます。以下のレジスターは、呼び出し元の保管域データ・セットに関連しています。

レジスター 15 は、DFSUCP40 の入り口へのポインターです。この同じリテラルのこのアドレス + 5 を検査し

ます。これにより、正しい保管域データ・セットであるかどうかを確認できます。レジスター 14 は BAL であり、呼び出し元のリターン・アドレスを指します。この呼び出し元モジュールが、診断メッセージを発行しました。レジスター 12 は、呼び出し元の基底レジスターです。レジスター 1 は、DFSUCP40 に渡されるパラメーター・リストへのポインターです。パラメーター・リストは、ダブルワードの長さです。最初のワードには、メッセージ番号を定義する 1 バイトのフラグと、パラメーター・マージ・リストの 3 バイトのアドレスが入っています。2 番目のワードは UCFMVEC CSECT へのポインターです。この CSECT はモジュール DFSUCP70 で定義されており、UCF モジュールによって共通作業域または共通ベクトル域として使用される、事実上 1 つの大きな制御ブロックです。

考えられる原因: 0300 でトラップされる可能性があるメッセージは 100 を超えるため、ここですべてを詳しく取り上げることは不可能です。一般に、障害には 2 つの原因があります。

- ユーザー・エラー。おそらく、UCF 制御ステートメントの欠落または無効、DD ステートメントの欠落、またはその他のエラーです。
- UCF またはユーティリティ・ソフトウェア・エラー。特定のメッセージの理由を分析しているときに、ソフトウェア・エラーと判断されることがあります。必要な文書はすべて、異常終了 0300 メモリー・ダンプに含まれているということもあり得ます。しかし、UCF は、DFSCNTRL DD ステートメントで記述された

データ・セット内のさまざまなユーティリティで必要とされる SYSIN を作成します。これは、2 つの機能インターフェース・モジュール DFSUCP60 または DFSUCPA0 によって行われます。これらの 2 つのモジュールは、ユーティリティを開始させる ATTACH マクロも発行します。さらに詳しい診断を行うためには、アタッチ・ポイントでのプログラム・チェック・トラップ、あるいは正常でない SYSIN データ・セットが疑われる場合は、APAR 文書が必要になることがあります。DFSCNTRL データ・セットの印刷出力も含めてください。

システムの処置

ユーティリティ制御機能は終了し、SYSUDUMP または SYSABEND データ・セット上にストレージ・ダンプが生成されます。

プログラマーの応答

ダンプの目的が達成されたかどうかを検証します。このダンプは診断に使用されます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUCF00、DFSUCP40

第 11 章 IMS 異常終了コード 0301 - 0350

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0302

説明

データベース・データ・セット・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 の実行中に、リカバリー不能エラーが発生しました。

分析

0302 は、データベース/データ・セット・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 の DL/I ユーティリティから発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターが、問題分離に役立ちます。

0302 異常終了のほぼすべてにおいて、異常終了の前に IMS メッセージが出されます。そのメッセージはプログラム出力で見つけることができ、ユーザーが指定した場合は、システム・コンソールにも出力されます。

この異常終了が発生する可能性があるのは、ユーザーの SYSIN ストリームに異常終了オプションが含まれており、かつリカバリー・モジュールの内部サブルーチンによって ABORT エラー・スイッチが設定されている場合に限られます。この異常終了は主に診断用であり、ABNDTST のラベルが付いたルーチンへの分岐リンク (BAL) の結果として発行されます。異常終了への入口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABNDTST 内のエリアを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBSC ANC #@LB9 2	このサブルーチンは、制御ステートメントを読み取り、そのフォーマットを検査します。列 1 の最初の文字が制御ステートメントを示す「S」であるかどうかを調べるための比較も行われます。「S」でない場合、メッセージ DFS302A が書き込まれ、ABORT エラー・スイッチが設定されます。このスイッチがオンのときは、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL し、それが原因でこの異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBSC ANC #@LB9 3	データベース記述 (DBD) 名について、制御ステートメントの列 4 から 11 と比較されます。これがブランクの場合、メッセージ DFS304A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。このスイッチがオンであるため、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL し、異常終了が発行されます。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBSC ANC #@LB9 5	この比較は、データベースの DD 名について、制御ステートメントの列 13 から 20 に対して行われます。これがブランクの場合、メッセージ DFS307A が出され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。このスイッチがオンであるため、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL し、異常終了が発行されます。
Reg1=完了 コード Reg2=DBD 接頭部のアドレス Reg10=メッセージ生成 プログラムへの BAL	RDBDB DLD #@120	このサブルーチンは、リカバリーするデータベースを見つけるために、DBDLIB をオープンします。DBD 接頭部のアクセス方式フィールドと比較して、値が X'0F' より小さいかどうかを調べます。値がこれより大きい場合、このデータベースは不明の編成を持っていることを示しており、メッセージ DFS316A が出されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了するために TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了 コード Reg2=DBD 接頭部のアド レス Reg10=メッセ ージ生成 プログラムへ の BAL	RDBDB DLD #@LB1 14	アクセス方式が VSAM でない場合、このサブルーチンに分岐します。値が X'07' より大きくないかどうかを調べるために、比較が行われます。値はこれより大きい VSAM ではない場合は、エラーがあり、メッセージ DFS316A が出力されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、これにより、異常終了するためにラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセ ージ生成 プログラムへ の BAL	RDBDB DLD #@LB1 34 CASE3	制御ステートメントの DBD 「dbdname」 フィールドで DD 名を見つけることができませんでした。メッセージ DFS306A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。これにより、異常終了を発行するために、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセ ージ生成 プログラムへ の BAL	RDBDB DLD #@LB1 12	制御ステートメントの列 4 から 11 で指定された DBD 名が、DBDLIB 内で見つかりませんでした。メッセージ DFS305A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、ラベル TCBFSA 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg5=DCB ア ドレス Reg10=メッセ ージ生成 プログラムへ の BAL	RDBDB DLD #@LB1 10	フィールド DCBOFLGS をテストして、DBDLIB の OPEN が成功したかどうかを調べます。成功しなかった場合、メッセージ DFS301A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定され、これにより、異常終了するために TCBFSA 内のルーチンがラベル ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセ ージ生成 プログラムへ	RDBDU OPN #@LB1 88	IDUCSTRT にあるルーチン内の DEVTYPE マクロ展開から、戻りコード X'04' を受け取りました。これは、装置タイプ障害 (DD 名がない) を示しています。メッセージ DFS315A が出力され、

キー	ラベル	説明
の BAL		ABORT エラー・スイッチが設定されます。ルーチン IDCUSTRT は、このスイッチを調べてそれがオンであることを検出すると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg5=CUM DCB アドレス Reg10=メッセ ージ生成 プログラムへ の BAL	RDBCU OPN	CUM DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。成功しなかった場合、NOSYSIN に分岐し、メッセージ DFS301A を出力して、ABORT エラー・スイッチを設定します。異常終了を発行するために、COPNSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセ ージ生成 プログラムへ の BAL	RDBDU HDR (BADDM PID)	EODUMP にあるルーチンがダンプ・ヘッダーについてテストしましたが、ダンプ・ヘッダーが見つかりませんでした。メッセージ DFS312A が発行され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。IDUCSTRT にあるルーチンは、このスイッチを調べてそれがオンであることを検出すると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了 コード Reg10=メッセ ージ生成 プログラムへ の BAL	RDBDU HDR #@LB2 08	比較の結果、入力データ・セットは、適切な DBD 用のものですが、適切なデータ・セット用のものではないことが示されました。メッセージ DFS317W が出力されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了を発行するために IDUCSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード Reg7=CUMHDR DSECT のアドレス Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBND XSP (DXSPS TRT)	CUMHDR フラグがテストされ、データ・セット記述が DBD 記述に一致しないことが検出されました。メッセージ DFS329A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、IDUCSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg5=DCB アドレス (リカバリーされるデータ・セットの) Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBRV OPN (VOPNS TRT)	リカバリーされるデータ・セットの DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。成功しなかった場合、NOSYSIN に分岐し、メッセージ DFS301A を出力して、ABORT エラー・スイッチを設定します。異常終了を発行するために、IDUCSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg7=CUMHDR DSECT のアドレス Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBDU CIN (CRDSE T) #@LB3 60	CUM DBDname と DBD 名の間で比較が行われます。等しくない、欠落している、または無効なヘッダー条件が示された場合、メッセージ DFS356A が出力されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了を発行するために MERGEI 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg2=レコードの開始からの相対キー位置 Reg7=CUM レコードのアドレス Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBDU CQK (UCQKS TRT) #@LB3 77	キー順データ・セット (KSDS) の基本キーが、CUM レコードの開始からのキーの相対位置と比較されます。これが等しくない場合、メッセージ DFS330A が理由コード ('1') と共に出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、MRGWSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード Reg2=レコードの開始からの相対 RBN Reg7=CUM レコードのアドレス Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBDU CQK #@LB3 90	OSAM または ESDS RBN が CUM RBN と比較され、等しくないことが検出されました。メッセージ DFS330A が理由コード ('2') と共に出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、MRGWSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg9=RBA へのポインター Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBDU COT (RBAER ROR) #@LB4 68	比較により、ACCUM 入力データ・セットからの OSAM レコードの RBN が、データ・セットの終わりを越えていることが検出されました。メッセージ DFS332A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、MRGWSTRT 内のルーチンが ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg5=DCB アドレス Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBND XLG #@LB5 09	DCBOFLGS フィールドをテストして、ログ入力 DCB の OPEN が成功したかどうかを調べます。成功していない場合、NOSYSIN にあるルーチンに分岐し、メッセージ DFS301A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。異常終了を発行するために、ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBND XLG #@LB5 15	DEVTYPE マクロの後の比較で、ログ入力データ・セットがダミー・ファイルであることが示されました。このルーチンはログのみのリカバリー用であるため、DD DUMMY は許可されず、メッセージ DFS324W が出力されます。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード Reg6=DSG アドレス Reg7=DCB アドレス Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBLDC BO (CKBAD CB)	すべてのデータ・セット・グループ (DSG) を検査した後、DBD の DD 名を見つけることができませんでした。メッセージ DFS306A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。このサブルーチンが RDBNDXLG に戻ると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg6=ログ・レコード・アドレス Reg7=DBLOG へのポインタ Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBLGR DL #@LB6 21 および #@LB6 31	イメージ・ログの日付と現在日付の比較が行われ、これらが等しくありません。メッセージ DFS330A が理由コード (「3」) と共に出力され、ABORT エラー・スイッチが設定されます。RDBLGMRG にあるルーチンは、このスイッチを調べてそれがオンであることを検出すると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg5=現行 OSAM RRN Reg6=検出された最高の OSAM RBN Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL	RDBDB RDC #@LB6 79	ログ入力データ・セットの OSAM レコードの現行 RBN と、最高可能 RBN との比較が行われます。比較の結果が等しくない場合、メッセージ DFS332A が出力され、ABORT エラー・スイッチが設定され、RDBLGMRG にあるルーチンは、制御を再取得すると、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。
Reg1=完了コード Reg10=メッセージ生成プログラムへの BAL Reg15=IEHATLAS ユーティリティからの戻りコード	RDBTR CVO (IHB42 3A)	リカバリー・ルーチン (トラック・リカバリーを試みるために IEHATLAS ユティリティにリンクされた) が、代替トラックを割り当てることができなかったことを示す戻りコードを受け取りました。ABORT エラー・スイッチが設定され、異常終了を発行するために ABNDTST に BAL します。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

3、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSURDBO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0303

説明

OPTION ステートメントから構成されたパラメーター・リストが変更されています (IMS バッファ・プールの指定方法については、IMS システム定義情報を参照してください)。ユーザー出口ルーチンでエラーが発生し、それによって、このルーチンがプログラムの正当なアドレス・スペースの外部にあるストレージをアドレス・シングして変更した可能性があります。

分析

0303 は、フォーマット設定印刷ユーティリティによって発行される標準異常終了です。異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB) レジスターが、問題分離に役立ちます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル SEL04 を指しています。

SYSPRINT データ・セットに、メッセージ DFS706I も出されます。

レジスター 6 に、最初のリスト・エレメントへのポインタが入っています。

レジスター 1 に、2 ワード・パラメーター・リストへのポインタが入っています。最初のワードは候補レコードを指し、2 番目のワード (上位ビットがオン) は SYSPRINT データ・セット DCB を指しています。

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

- 出口ルーチンのエントリー・アドレス (ユーザーが OPTION ステートメントで EXITR=パラメーターを指定した場合)、または
- ゼロ (ユーザー出口ルーチンが指定されていない場合。この場合、IEFBR14 はレジスターをクリアします)、または

- ・ 戻りコード。

キー	ラベル	説明
Reg6= 最初のリスト・エレメントのアドレス	SEL08	END オプションについて、テストが行われます。条件を満たしていない場合、異常終了するためにラベル SEL04 にあるルーチンに分岐します。
Reg6= 最初のリスト・エレメントのアドレス	SEL10	OPTION 制御ステートメントの OFFSET パラメーターと VALUE パラメーターに関して、テストが行われます。いずれの条件も満たしていない場合、無効なリスト・エレメントが検出されており、異常終了するためにラベル SEL04 にあるルーチンに分岐します。
Reg3= リストの長さ Reg6= 最初のリスト・エレメントのアドレス	SEL20	OPTION 制御ステートメントで VALUE と LENGTH が指定されたかどうかを調べるために、テストが行われます。次に、リストの長さについて、レジスター 3 がテストされます。これらのテストの一部または全部が失敗した場合、異常終了するためにラベル SEL04 にあるルーチンに分岐します。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

示されたエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

3、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSERA10

関連情報

DFS706I (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0305

説明

VBS 順次データ・セットの読み取り中に、不完全なスパン・レコードが検出されました。開始セグメントの前に開始セグメントがないか、またはファイルの終わり条件が検出されたか、または終了セグメントのない開始セグメントの後に新しいセグメントが検出されました。

分析

0305 は読み取り要求に対してのみ発生します。この異常終了は、無効なスパン・レコードが検出されたときに DFSURIO0 によって発行されます。DFSURIO0 は、以下のモジュールのいずれかによって呼び出されます。

- ・ DFSURDB0 (リカバリー)。変更累積データ・セットまたはログ・レコードを変更累積データ・セットに読み取ります。
- ・ DFSUC150 (変更累積)。タイプ X'24' ログ・レコードを、変更累積データ・セットに対して読み取り / 書き込みタイプにします。
- ・ DFSUC350 (変更累積)。変更累積データ・セットに対するレコードの読み取りおよび書き込みを行うために使用します。

異常終了が発生すると、異常終了 SVRB 内のレジスター 13 は、DFSURIO0 の保管域を指しています。DFSURIO0 保管域のオフセット 4 は、呼び出し側の保管域を指します。レジスター 0 およびレジスター 1 には、呼び出し元によって渡されたパラメーターが入っており、レジスター 14 には、呼び出し元への戻りアドレスが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg2= 入力のアドレス 記録 Reg9= DCB のアドレス	ゲログ	入力レコード内のオフセット X'02' が X'02' (スパン・レコードの途中) または X'03' (スパン・レコードの終わり) で、最初のセグメントが読み取られていない場合は、BADSPAN への分岐が行われます。
Reg9= DCB のアドレス	UC249	
	ウチ237	スパン・レコードの最後のセグメントが読み取られる前にデータの終わりが検出されると、BADSPAN への分岐が行われます。

考えられる原因: この異常終了の原因は、以下のとおりです。

1. ログまたは変更の累積が連続していないか、またはデータ・セットが欠落しています。

2. システムが異常終了し、その間に、システムはログを正しく終了できませんでした。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

問題を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1, 2, 3, 4

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

ドフュリオ 0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0306

説明

出力変更累積レコードを作成しようとしているときに、変更累積ユーティリティによってエラーが検出されました。新規の変更累積出力レコードの長さが出力バッファ・サイズを超えています。

分析

この異常終了は、オフセット/長さテーブル内のエントリーで表されたデータの長さが、現行の最大データベース・ブロック・サイズである 32760 を超えていることを検出した場合、モジュール DFSUC350 によって発行されます。異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB) に、DFSUC350 からのレジスターが入っています。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了を発行したルーチンへの分岐は、エラーを検出したルーチンによって行われます。

キー	ラベル	説明
Reg3=データ長、これは > 32K	MERGP UT2	オフセット/長さテーブルのエントリー内の予備レコードのデータ長が 32K を超えています。
Reg5=データ長、これは > 32K (Reg3=1)	MORE CUM	オフセット/長さテーブルのエントリー内の明細レコードのデータ長が 32K を超えています。

キー	ラベル	説明
Reg7=テーブル・エントリーのアドレス		
Reg8=出力レコードのアドレス		

考えられる原因: 無効なデータ・セットが変更累積ユーティリティへの入力として使用されたか、変更累積ユーティリティ内でエラーが発生しました。

システムの処置

変更累積はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答

変更累積への入力のエラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別

3、35、および入力ログと変更累積データ・セットのコピー。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUC350

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0310

説明

データベース部分再編成ステップが、前に発行されたエラー・メッセージに示された条件のために、異常終了しました。

分析

0310 は、モジュール DFSPRERR (PDBR エラー・メッセージ生成プログラム) によって発行される標準異常終了です。DFS3000 から DFS3099W の範囲のエラー・メッセージが、常にこの異常終了に伴います。レジスター 5 に、PDBR 共通域 (COMAREA) のアドレスが入っており、これに他の PDBR ブロックのアドレスが含まれています。

システムの処置

このステップは異常終了します。

プログラマーの応答

この問題を説明するエラー・メッセージについては、PDBR ステップの出力を参照してください。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPRERR

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0311

説明

調査プログラムがエラーを検出しました。

分析

これは、モジュール DFSPRER (調査プログラム・エラー・メッセージ生成プログラム) によって発行される標準異常終了です。DFS3000 から DFS3099W の範囲のエラー・メッセージが、常にこの異常終了に伴います。レジスター 5 に、調査プログラム共通域 (CMAREA) のアドレスが入っており、これに他の調査プログラム・ブロックのアドレスが含まれています。

システムの処置

このステップは異常終了します。

プログラマーの応答

この問題を説明するエラー・メッセージについては、調査プログラムの出力を参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPRER

0315

説明

IMS が、IMSAUTH SVC 機能からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析

レジスター 15 に IMSAUTH 戻りコードが入っています。これらの戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 15 のコードに応じて、適切な処置を行います。

問題判別:

4、11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIRST0、DFSRLP00、DFSXSTM0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0316

説明

カップリング・ファシリティ・サービスの初期設定または後続の実行中に、予期しないエラーまたはリカバリ不能エラーが検出されました。レジスター 15 に異常終了理由コードが入っています。

分析

DFSDMAW0 の場合:

異常終了時に、レジスター 15 にエラーの理由コードが入れられました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X '10'		呼び出し元が SCD または PST を提供しませんでした。
Reg15=X '11'		IOSB 保全性エラー。
Reg15=X '20'		モジュール出口ルーチンで、バッチ PST シリアライゼーション問題が検出されました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X '30'		内部論理エラー (無効な PC) が発生しました。
Reg15=X '40'		呼び出し元が無効なバッチ SCD を提供しました。
Reg15=X '50'		内部論理エラー (無効な PT) が発生しました。
Reg15=X '60'		呼び出しが処理される前に、バッチ PST シリアライゼーション問題が検出されました。
Reg15=X '70'		キー 7 PST 用の IMODULE GETSTOR が失敗しました。
Reg15=X '80'		「ダミー」キー 7 PST を取得した後で、バッチ PST シリアライゼーション問題が検出されました。
Reg15=X '90'		OSAM 構造への接続時に、予期しない z/OS 戻りコードが戻されました。
Reg15=X 'A0'		VSAM 構造への接続時に、予期しない z/OS 戻りコードが戻されました。

DFSDCF0 の場合:

異常終了時に、レジスター 15 にエラーの理由コードが入れられました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X '11'		IOSB 安全性エラー。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

上記の『分析』を参照して、問題の原因を判別してください。

問題判別:

1、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDMAW0、DFSDCF0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0317

説明

XRF 代替サブシステムで、カップリング・ファシリティー障害が検出されました。障害は次のいずれかの可能性があります。

- 接続の障害
- 構造再作成の障害

分析

0317 は、DFSDCF0 内の GOSTPDS ルーチンによって発行されます。この異常終了の前に発行されるエラー・メッセージが、障害の理由を示しています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

接続の障害の場合、カップリング・ファシリティーへの接続が再確立してから、代替サブシステムを再始動します。

問題判別:

1、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDCF0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0318

説明

モジュール DFSDVBI0 が、カップリング・ファシリティー・サービス機能を初期設定できないと判断しました。この機能を使用するには、MVS リリース・レベル 510 以上が必要です。VSAM 構造を使用する場合、DFSMS リリース・レベル 120 以上が必要です。

分析

レジスター 15 に異常終了理由コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15= X'01'	ABEND 318	CFNAMES 制御ステートメントで、OSAM または VSAM のいずれか、あるいは両方の構造名が指定されましたが、必要な z/OS リリース・レベル (510 以上) が使用されていませんでした。
Reg15= X'02'	ABEND 318	CFNAMES 制御ステートメントで VSAM 構造名が指定されましたが、必要な DFSMS リリース・レベル (120 以上) が使用されていませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

z/OS リリース・レベル、DFSMS リリース・レベル、あるいは両方を確認してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDVBIO

0319

説明

モジュール DFSDVBIO は、カップリング・ファシリティ・サービスの初期化がバッチ環境で失敗したことを判別しましたメッセージ DFS3381E が出されます。メッセージの DATA 部分に障害の理由が示されています。

システムの処置

イムスは異常終了する。障害の理由を識別する 1 つ以上のメッセージが出されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS3381E を参照してください。

問題判別:
1, 4

ソース:
イムス 異常終了

関連情報

[DFS3381E](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0320

説明

カップリング・ファシリティの使用を要求するために CFNAMES 制御ステートメントが指定されましたが、カップリング・ファシリティのサポートを含まないリリース・レベルの IRLM が使用されました。カップリング・ファシリティ・サービスを使用するには、IRLM バージョン 2 以降を使用する必要があります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

使用された IRLM のリリース・レベルを確認してください。

ソース:
IMS 異常終了

0322

説明

カップリング・ファシリティ・サービスの実行中に、OSAM 順次バッファリングで、予期しないエラーまたはリカバリー不能エラーが発生しました。これはイムスシステム・エラーです。

分析

順次バッファリング制御ブロックは、プログラムの終了時に解放する必要があります。トランザクションによって保持されている予約済みローカル・キャッシュ・エントリ (LCE) ビットの妥当性検査中にエラーが検出されました。これらのビットが解放される前にエラーが発生しました。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令 (ラベル LCERET のルーチン DFSSBTD1 内) を指しています。

システムの処置

イムスは異常終了する。

問題判別:
1, 4, 35

ソース:
イムス 異常終了

モジュール:
DFSSBTD0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0330

説明

UPDATE PGM START(REFRESH) コマンドの結果として QC 状況が返された後に、BMP アプリケーションが後続の GU 呼び出しまたは CHKP 呼び出しを発行しました。

分析

レジスターはアプリケーションを指しません。レジスター 13 の逆チェーンは、目印「F15A」で終了します。BAKR 命令によって作成されたリンケージ・スタックを使用して、異常終了時のアプリケーション・レジスターおよび PSW を取得します。

システムの処置

BMP アプリケーションおよび領域は終了します。

プログラマーの応答

BMP を再始動してください。必要であれば、QC 状況コードを正しく処理して終了するように BMP アプリケーションを変更し、U330 が出されないようにします。BMP アプリケーションが終了されないようにする場合は、そのプログラム名を **UPDATE PGM START(REFRESH)** コマンドに含めないでください。

問題判別:

5、14

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSECP20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0347

説明

HD 再編成アンロード中に重大エラー条件が検出されました。このとき、SYSUDUMP または SYSABEND DD ステートメントが指定されていました。エラーの原因は、次のいずれかです。

- 内部システム・エラー
- 欠落 DD ステートメント
- 欠落データ・セット

すべての HD 再編成アンロードおよび再ロードの操作には、PHDAM および PHIDAM データベースも含まれるようになりました。

分析

0347 は、HDAM 再編成アンロード・ユーティリティー DFSURGU0 の実行中に発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB) 内のレジスターが、問題分離に役立ちます。

モジュール DFSURGU0 からの異常終了はすべて、ラベル BADRUN または STOPRUN のいずれか、あるいは両方への条件付き分岐による結果です。何らかのハウスキープングおよびテストが行われた後、最終的にラベル ABND にあるルーチンに分岐し、これが異常終了 0347 を発行します。ほとんどの場合、異常終了の前に IMS マスター・コンソールに IMS エラー・メッセージが出力されており、これを使用して問題を特定のラベルに切り分ける必要があります。以下の表は、メッセージとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
メッセージ DFS315A	TSTR ET2	ラベル NXTSDB でルーチンから DEVTYPE マクロが発行されています。戻りコード X'08' はマクロが失敗したことを示しており、システム障害を処理するために、BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS344W	NODD 1	1 次出力用の DD ステートメントが提供されていなかったため、BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS343W	CHKD UMM Y	DEVTYPE マクロが発行された後 (ラベル NXTSDB にあるルーチンで)、戻りコードを検査して、DD DUMMY が指定されたかどうかを調べます。答えが「はい」であれば、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS318A	GETB LKSI	LRECL が BLKSIZE より大きいかどうかを調べるために、比較が行われます。大きい場合、異常終了を処理するために、BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS301A	OPEN 1OPT	DCBOFLGS フィールドをテストして、出力 DCB の OPEN が成功したかどうかを調べます。成功しなかった場合、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS318A	GETB LKSZ	2 番目の DD ステートメントについてテストされることを除いて、上記のラベル GETBLKSI にあるルーチンの場合と同じです。

キー	ラベル	説明
メッセージ DFS348A	RECR EATE	PCB の DBPCBSTC フィールドをテストして、有効な戻りコードであるかどうか (この場合は、GA、GB、GK、またはブランクが有効) を調べます。有効な戻りコードでない場合、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
	STPT EST2	フィールド UCFCMSTP をテストして、STOP が要求されているかどうかを調べます。答えが「はい」であれば、チェックポイント・レコードが書き出され、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS301A	SETU P1	CHECKPOINT (入力) DCB に対して、OPEN が成功したかどうかのテストが行われることを除いて、上記のラベル OPEN1OPT にあるルーチンの場合と同じです。
メッセージ DFS377A	REST FAIL	Reg15 をテストして、再始動が正常に完了したかどうかを調べます。戻りコード「4」または「8」は障害を示しており、異常終了を処理するために、BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS301A	OPIN ERR	編集および出力統計テーブル用の DCB に対して OPEN が成功したかどうかについてのテストが行われることを除いて、OPEN1OPT の場合と同じです。
メッセージ DFS319A	IOER RIN	データ・セットにレコードまたは統計テーブル・エントリーを出力中に永続的な入出力エラーが検出され、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS377A	EOSY SIN	CHECKPOINT データ・セットの入力が無効であることが検出され、異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS388A	NOTT AB	UNLOAD から統計テーブル・レコードが検出されず、異常終了を処

キー	ラベル	説明
		理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS346A	ERRN OALT	1 次出力データ・セットでボリューム・エラーが発生し、使用可能な代替出力データ・セットがありませんでした。異常終了を処理するために BADRUN に分岐します。
メッセージ DFS301A	NONU CF	OPEN マクロの実行中に、使用可能な SYSOUT データ・セットがないことが検出されました。この事実を IMS マスター・コンソール・オペレーターに伝えるために、レジスター 1 に WTO エリアのアドレスがロードされ、異常終了を処理するために STOPRUN に分岐します。

考えられる原因: 内部システム・エラーが原因でこの異常終了が起きたか、あるいは DD ステートメントまたはデータ・セットの欠落が検出されました。IMS マスター・コンソール・ログ・シートで、異常終了の前に出されたすべてのメッセージを確認し、このユーティリティー用に使用されている JCL を確認してください。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答

ダンプの原因の手掛かりとして、先行するメッセージをすべて検査します。見つかったエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

1、2、3、4、17d、20、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSURGUO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 12 章 IMS 異常終了コード 0351 - 0400

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0355

説明

HD 再編成再ロード中に重大エラー条件が検出されました。このとき、SYSUDUMP または SYSABEND DD ステートメントが指定されていました。この問題は、おそらく内部システム・エラーです。

すべての HD 再編成アンロードおよび再ロードの操作には、PHDAM および PHIDAM データベースも含まれるようになりました。

分析

0355 は、HDAM 再編成再ロード・ユーティリティー DFSURGL0 の実行中に発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターおよび異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、問題分離に役立ちます。

さらに、IMS マスター・コンソールからのコンソール・ログ・シートで、異常終了の前にユーザーに送信されたすべての IMS アクションまたは情報メッセージについて調べる必要があります。IMS メッセージ番号は、エラー条件を検出したルーチンを分離するのに役立ちます。

DFSURGL0 への入力、HDAM 再編成アンロード・ユーティリティーによって作成されたデータ・セットです。0355 異常終了が発生した場合、アンロードからの条件コードとメッセージを綿密に検査する必要があります。以下の表は、メッセージとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
メッセージ DFS301A	ENQ OK	OPEN マクロの実行後に、HDAM 再編成アンロード・ユーティリティーによって作成された入力 DCB の DCBOFLGS フィールドをテストして、OPEN が成功したかどうかを調べます。成功していない場合、異常終了を処理するために、ラベル BADRUN が付けられたルーチンに分岐します。
メッセージ DFS348A	STA TUX	状況/戻りコード・フィールド (DBPCBSTC) が、データベース「ASRT」呼び出しから無効な戻りコードを受け取りました。障害状況コードがエラー・メッセージ

キー	ラベル	説明
		に伝搬され、このユーティリティーの異常終了 SW フィールドがエラー条件 (X'FF') を示すように更新され、異常終了を処理するために、ラベル BADRUN が付けられたルーチンに分岐します。
メッセージ DFS301A	STA TAI	データ管理 OPEN エラーが発生しました。これは、PCB の DBPCBSTC フィールドに戻された AI 状況コードによって示されています。PCB の DBPCBSFD フィールドのセグメント名が、エラー条件を示している可能性があります。異常終了を処理するために、ラベル BADRUN が付けられたルーチンに分岐します。
メッセージ DFS386A	EOD 1	HDAM 再編成再ロード・ユーティリティーが、最後の状況レコードを読み取る前に EOF 条件を検出しました。異常終了を処理するために、ラベル BADRUN が付けられたルーチンに分岐します。
メッセージ DFS331A	TAB OK	HDAM 再編成アンロード・ユーティリティーによって渡された入力データ・セットが空であったか、読み取り時に即時 EOF 条件が検出されました。異常終了を処理するために、ラベル BADRUN にあるルーチンに分岐します。
メッセージ DFS388A	NOT TAB	入力 DCB の処理中に、HDAM 再編成再ロード・ユーティリティーは統計レコードの検出を予想しましたが、検出されませんでした。異常終了を処理するために、ラベル BADRUN にあるルーチンに分岐します。

キー	ラベル	説明
アンロード統計のセグメント・カウントが、再ロード・セグメント・カウントに等しくありません。戻りコードは8です。	LES S	アンロード統計レコードのセグメント・カウントが、再ロードのセグメント・カウントと一致していません。
メッセージ DFS358A	MYL OOP 1	アンロード・セグメント・レコード内で検出されたセグメント名が、データベース・セグメント・テーブルで見つかりませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

ダンプの原因の手掛かりとして、先行するメッセージをすべて検査します。見つかったエラーをすべて訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

1、2、3、4、17d、20、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSURGLO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0359

説明

HISAM 再編成アンロード・ユーティリティまたは再ロード・ユーティリティに対して異常終了オプションが選択されましたが、重大エラーが発生しました。

分析

0359 は、HISAM 再編成アンロード・ユーティリティ DFSURUL0 の実行中に発行される標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) を発行するラベル TRMOPBAD を指しています。

この異常終了は、ユーザーが、このユーティリティまたは HISAM 再編成再ロード・ユーティリティの JCL に OPTIONS=ABEND ステートメントをコーディングした結果です。実行中に重大なエラーが発生すると、0359 異常終了になります。一般的に、この異常終了に対応する イムス メッセージがあります。このメッセージは、プログラム出力の中にあります。

エラー・メッセージとその説明は、問題を識別するための十分な情報を提供する可能性があります。さらに、プログラム・リストの相互参照テーブルを使用してエラー・メッセージを発行するサブルーチンを DFSURUL0 で見つけることができます。サブルーチンの作業レジスターは、LINKSAVE というラベルの付いた保管域に保管されます。プロセス内のルーチンの 14、15、および 0 から 7 までは、LINKPTR によって指し示される位置に保管されます。

レジスター 12 は、すべてのサブルーチンの基底レジスターです。メインライン処理ルーチンの基底レジスターには、レジスター 10、11、および 12 があります。

システムの処置

ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答

ダンプの原因となったヒントについては、先行するすべてのメッセージを調べてください。検出されたエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、4、17d、20、35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSURUL0、DF 囲まれた 0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0367

説明

GU (メッセージ)、ISRT (メッセージ)、または SETO 呼び出しの DL/I 呼び出し処理中に、イムス システム・エラーが検出されました。イムスは、エラーの原因を示す '67D0' ログ・レコードを書き込みます。この異常終了は、DFSDLA30 によって設定され、DFSECP10/DFSECP20 によって発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

'67D0' ログ・レコードをチェックして、エラーの原因を判別し、イブン ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別:

1, 3, 5, 6, 36

ソース:

イムス 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0368

説明

GU (メッセージ) または ISRT (メッセージ) に対する DL/I 呼び出し処理中に、CQS 要求が失敗しました。イムスは、タイプ X'67D0' のログ・レコードを書き込み、エラーの原因を示します。この異常終了は、DFSDLA30 によって設定され、DFSECP10/DFSECP20 によって発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。ISRT 呼び出しで異常終了 0368 が発生すると、入力メッセージは廃棄されます。この異常終了が GU 上で発生した場合、入力メッセージは廃棄されません。トラザクションは停止されず、PSB は停止されません。

プログラマーの応答

X'67D0' ログ・レコードを調べて、エラーの原因を判別してください。ソフトウェア イブン サポートに連絡してください。

問題判別:

1, 3, 5, 6, 36

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSECP10、DFSECP20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0369

説明:

バッファー・ハンドラー・モジュール DFSDVBH0 が内部エラーを検出しました。呼び出し元が提供したバッファー・ハンドラーの RBA では、下位ビットに「0」または「1」が入っています。ビット「0」は HALDB のデ

ータ・セット A から J を参照し、ビット「1」は HALDB のデータ・セット M から V を参照します。この値は DMBORFL2 と矛盾します。

分析

異常終了時に、レジスター 4 とレジスター 5 の両方に、どのような内部エラーの可能性があるかが示されます。両方のレジスターに、0 または 1 のいずれかが入りません。

レジスターの値 説明

0

入出力は、A-J データ・セットのいずれかに対するものです。

1

入出力は、M-V データ・セットのいずれかに対するものです。

処理を続行するには、両方のレジスターに同じ値が入っている必要があります。しかし、レジスターに異なる値が入っている場合には、処理は PSTSUBCD=X'08' および PSTRTCDE=X'10' で即時に呼び出し元に戻ります。

バッファー・ハンドラーへの入力は、RBA を含む PSTBYTNM です。バッファー・ハンドラー DFSDVBH0 を呼び出すと、A から J のデータ・セットの場合、RBA は常に偶数値です。したがって、対応するデータ管理ブロック (DMB) (A-J DMB) のフラグ・バイト DMBORFL2 の値は 0 です。M から V のデータ・セットの場合、RBA は常に奇数値であり、対応する DMB (M-V DMB) のフラグ・バイト DMBORFL2 は 1 です。

X'67FF' ログ・レコードからの疑似異常終了以外のメモリ・ダンプを提供できる場合、同じ領域チェーンは、バッファー・ハンドラーを呼び出したモジュールおよび PSTFNCTN の値を判別するのに役立ちます。

注: このケース分析に加えて、このケースに対する他の診断が存在しており、ここで説明されています。

システムの処置:

タスクは疑似異常終了 0369 で終了します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

ケース 1: DFSDVBH0

関連資料

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

0370

説明

コミットされていないメッセージのトランザクションによる CQS 要求が失敗しました。この要求の例として、出力メッセージに対する CQSPUT 呼び出しや、APPC/OTMA メッセージに対する UPDATE PREFIX 呼び出しが挙げられます。失敗は、構造への接続が構造満杯状態であるか、または接続が失われたためである可能性があります。

この異常終了は、DFSFXC40 によって設定され、DFSECP10、DFSECP20、DFSPCC20、および DFSCPY00 によって発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。トランザクションおよび PSB は停止されます。入力メッセージは廃棄されません。

プログラマーの応答

障害状態を修正すると、入力メッセージは再処理が可能な状態になります。トランザクションを処理するプログラムが 1 つのみの場合、そのトランザクション (/STA TRAN) とプログラム (/STA PGM) を開始する必要があります。その際は、これらを開始すると入力メッセージは再処理されます。

問題判別:

1、3、5、6、36

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0371

説明

フェーズ 1 の同期点処理中に、プログラム間通信メッセージのキュー名に IMSID を付加するための、DFSQMGR Insert Prefix 呼び出しが発行されました。DFSQMGR 呼び出しは RC=08 を受け取りました。これは QMGR 内部エラーを表します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。トランザクションおよび PSB は停止されます。入力メッセージは廃棄されます。

問題判別:

1、3、5、6、36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFXC40

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0384

説明

リカバリー・データ・マネージャーによって呼び出されたサービスが、予期しない結果を戻しました。以下の理由コードは、エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

002

可変長ストレージ取得エラー

リカバリー・データ・マネージャーは、リカバリーに必要なストレージを取得できません。レジスター 14 に、ストレージ取得サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FRDRPPI00、FDRPPR00、FDRPPS00、FDRRVAM0、FDRRVGF0、FDRRVIA0、FDRRVLM0、FDRRVPR0、FDRRVQD0、FDRRVS00

003

ロード・エラー

リカバリー・データ・マネージャーは、リカバリーに必要なモジュールをロードできません。レジスター 14 に、ロード・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRPPI00、FDRPPR00、FDRPPS00、FDRRVMI0、FDRRVS10

004

固定長ストレージの取得

リカバリー・データ・マネージャーが固定長ストレージを取得できません。レジスター 14 に、ロード・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVAC0、FDRRVAM0、FDRRVIA0、FDRRVIC0、FDRRVIRO、FDRRVMO0、FDRRVPR0、FDRRVQD0、FDRRVRB0、FDRRVRC0、FDRRVRD0、FDRRVWIO、FDRRVWRO、FDRRVWTO

005

スレッド作成エラー

モジュールが FDRRVIC0 の場合、リカバリー・データ・マネージャーがイメージ・コピー復元のディスクパッチ可能スレッドを作成できません。モジュールが FDRRVIRO の場合、リカバリー・データ・マネージャーがイメージ・コピー復元のディスクパッチ可能スレッド・ブロックのアクセスを獲得できません。レジスター 14 に、スレッド・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVICO、FDRRVIRO

007

リカバリー・データ・マネージャーが非同期作業エレメントをディスパッチ可能スレッドにエンキューできません。レジスター 14 に、エンキュー・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVACO、FDRRVAMO、FDRRVIAO、FDRRVICO、FDRRVIRO、FDRRVMOO、FDRRVPRO、FDRRVQDO、FDRRVRBO、FDRRVRCO、FDRRVRDO、FDRRVWIO、FDRRVWRO、FDRRVWTO

008

TCB 生成エラー

リカバリー・データ・マネージャーのイメージ・コピー復元コントローラーが、イメージ・コピー復元インスタンスの TCB を生成できません。レジスター 14 に、TCB 生成サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVICO

009

メッセージ・エラー

リカバリー・データ・マネージャーがメッセージを出力できません。レジスター 14 に、メッセージ・サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVAMO、FDRRVDAO、FDRRVDDO、FDRRVIDO、FDRRVIIO、FDRRVIRO、FDRRVISO、FDRRVRBO、FDRRVRCO、FDRRVRDO、FDRRVWCO、FDRRVWRO

00A

リカバリー・データ・マネージャーがデータ・バッファーを取得できません。レジスター 14 に、バッファー取得サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVMIO、FDRRVPRO

00B

ストレージ長の設定

リカバリー・データ・マネージャーが固定長ストレージ取得用の値を設定できません。レジスター 14 に、ストレージ設定サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVMIO

00C

通知エラー

リカバリー・データ・マネージャーがディスパッチ可能スレッドに通知できません。レジスター 14 に、通知サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVAMO

00F

IMS パイプ書き込みエラー

リカバリー・データ・マネージャーが、IMS パイプ・サービスを使用してデータをデータベース・リカバリー・マネージャーに送っているときにエラーを検出しました。レジスター 14 に、待機サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVWRO

011

ストレージ解放エラー

リカバリー・データ・マネージャーがストレージを解放できません。レジスター 14 に、待機サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVPRO

012

スレッド終了出口ルーチン

リカバリー・データ・マネージャーがスレッドを終了させることができません。レジスター 14 に、待機サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVIRO

013

IMS パイプ作成エラー

リカバリー・データ・マネージャーが、アドレス・スペース間通信のための IMS パイプを作成できません。レジスター 14 に、待機サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVPRO

014

アドレス・スペース・パラメーター・エラー

リカバリー・データ・マネージャーのアドレス・スペース作成の一環として、データベース・リカバリー・マネージャーによって渡されたパラメーターにアクセスし、解釈するために ASEXT マクロを使用しているときに、リカバリー・データ・マネージャーでエラーが発生しました。レジスター 14 に、アドレス・スペース作成サービスからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRRVMIO

015

DSPSERV での IMS パイプ作成エラー

IMS パイプ作成サービスが、DSPSERV マクロからのエラーを検出しました。レジスター 14 に、DSPSERV マクロからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRPPIBO

016

ALESERV での IMS パイプ作成エラー

IMS パイプ作成サービスが、ALESERV マクロからのエラーを検出しました。レジスター 14 に、ALESERV マクロからの戻りコードが入っています。

モジュール: FDRPPIB0

017

ESTAEX での ESTAE エラーの設定

IMS パイプ・サービスが、ESTAEX マクロ使用中にエラーを検出しました。

モジュール: FDRPPIB0、FDRPPRB0、FDRPPSB0

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

FDRPPI00、FDRPPIB0、FDRPPR00、FDRPPRB0、FDRPPS00、FDRPPSB0、FDRRVAC0、FDRRVAM0、FDRRVDA0、FDRRVDD0、FDRRVGF0、FDRRVIA0、FDRRVIC0、FDRRVID0、FDRRVII0、FDRRVIR0、FDRRVIS0、FDRRVLM0、FDRRVM00、FDRRVMIO、FDRRVPR0、FDRRVQD0、FDRRVRB0、FDRRVRC0、FDRRVRD0、FDRRVSO0、FDRRVSI0、FDRRVWC0、FDRRVWIO、FDRRVWR0、FDRRVWT0、FDRPPI00

0385

説明

リカバリー・データ・マネージャーが論理エラーを検出しました。以下の理由コードは、エラーのタイプを示します。

理由コード

説明

001

無効な AWE 機能コード

リカバリー・データ・マネージャー・スレッドが、不明な AWE 機能要求を処理しようとしてしました。レジスター 14 に、AWE 機能コードが入っています。

モジュール: FDRRVAM0、FDRRVIR0、FDRRVLM0、FDRRVM00、FDRRVQD0、FDRRVRC0、FDRRVRD0、FDRRVSP1

002

データ・セット割り振りパラメーター・エラー

リカバリー・データ・マネージャーがデータ・セット割り振りパラメーター・エラーを検出しました。レジスター 14 に、FDRRVRA 制御ブロックのアドレスが入っています。

モジュール: FDRRVDA0

003

リカバリー・データ・マネージャー・パイプ制御ルーチンが、データベース・リカバリー・マネージャーからの不明な機能要求を検出しました。

モジュール: FDRRVPR0

005

無効なりカバリー・バッファ

リカバリー・データ・マネージャーが、未使用リカバリー・バッファ・チェーンで無効なりカバリー・バッファを検出しました。

モジュール: FDRRVGF0、FDRRVIC0、FDRRVLM0、FDRRVQD0、FDRRVRB0

006

リカバリー・データ・マネージャーが、ストレージ取得要求では使用できないストレージ・サイズを検出しました。

モジュール: FDRPPIB0、FDRRVDA0

009

SSID エラー

リカバリー・データ・マネージャーが、SSID リスト内で無効な数のサブシステム ID を検出しました。レジスター 14 に、無効な数の SSID を含んだ AWE のアドレスが入っています。

モジュール: FDRRVQD0

00A

無効なレコードの検出

リカバリー・データ・マネージャーが無効なレコードを検出しました。

モジュール: FDRRVPR0、FDRRVRB0

00B

無効データ・バッファの検出

リカバリー・データ・マネージャーが無効データのあるバッファを検出しました。

モジュール: FDRRVIA0、FDRRVQD0

00D

イメージ・コピー復元機能エラー

リカバリー・データ・マネージャーのイメージ・コピー復元処理が無効な機能要求を検出しました。

モジュール: FDRRVID0

015

無効な ECB アドレス

リカバリー・データ・マネージャーがタスク ECB アドレスを取得できません。

モジュール: FDRRVLM0

016

ログ・データ・マージのセットアップまたはパラメーターのエラー

リカバリー・データ・マネージャーが、マージするためにバッファを渡したときに、次のいずれかのエラーを検出しました。

- 新規マージ要求が受け取られなかった (位置ブロックが存在しない)。
- 無効なバッファ・ポインター (0) が検出された。
- 無効なマージ・トークン (0) が渡された。

モジュール: FDRRVLM0

017

無効な「データ終わり」が検出されました。

リカバリー・データ・マネージャーが、少なくとも1つの SSID がまだアクティブ状態にあるデータ終わり通知を検出しました。

モジュール: FDRRVLM0

018

無効なマージ ID

リカバリー・データ・マネージャーが、処理用にバッファを渡されたときに、無効なマージ ID を渡されました。

モジュール: FDRRVLM

019

無効なマージ・バッファ

リカバリー・データ・マネージャーが、次のいずれかのエラーのあるバッファを検出しました。

- サブシステム索引が、サブシステムの総数よりも大きい。
- マージ処理の一部でなければならないという通知が受け取られる前に、処理の要求が (SSID の代わりに) 処理された。
- 処理対象のバッファのログ・シーケンス番号が、同じ PRILOG 時刻をもった前のバッファのものより小さい。
- すでにログ・データが終了した SSID 向けのデータが受け取られた。

モジュール: FDRRVLM0

020

無効なマージ終了

リカバリー・データ・マネージャーが、SSID 呼び出しについてのマージ終了で無効なマージ ID を渡されました。

モジュール: FDRRVLM0

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

FDRPPIB0、FDRRVAM0、FDRRVDA0、FDRRVGF0、FDRRVIA0、FDRRVIC0、FDRRVID0、FDRRVIRO、FDRRVLM、FDRRVLM0、FDRRVMO0、FDRRVPR0、FDRRVQD0、FDRRVRB0、FDRRVRC0、FDRRVRD0、FDRRVSP1

0390

説明

この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXLUM0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、IMODULE LOAD、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

0390 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXLUM0 によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 6、8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。レジスター 12 は基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 には、以下のいずれかが入ります。

コード 説明

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 2 に DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

IMODULE GETMAIN が失敗した。レジスター 2 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'C'

DFSBCB GET LSAV が失敗しました。レジスター 2 に DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'10'

DFSPPOOL GET が失敗しました。レジスター 2 に DFSPPOOL 戻りコードが入っています。

X'14'

IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 2 に IMODULE 戻りコードが入っています。レジスター 6 に、ロード中のモジュール名のアドレスが入っています。

X'18'

IPOST が失敗しました。レジスター 2 に IPOST 戻りコードが入っています。

X'1C'

DFSCIR が失敗しました。レジスター 2 に DFSCIR 戻りコードが入っています。

X'20'

データ・セット SYS1.CSSLIB の動的割り振り (SVC 99) が失敗しました (データ・セットがカタログされていない可能性があります)。SVC 99 戻りコードについては、レジスター 2 を参照してください。

X'24'

データ・セット SYS.CSSLIB のオープン要求が失敗しました。詳細については、これに伴う内容監視メッセージ (CSVxxxI) を参照してください。

コード 説明

X'28'

データ・セット SYS1.CSSLIB が APF 許可されていません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、33

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXLUM0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

X'14'

IPOST が失敗しました。レジスター 8 に、IPOST 戻りコードが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、33

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXRM00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0391**説明**

この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXRM00 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

0391 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXRM00 によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入っています。レジスター 15 には、以下が入ります。

コード**説明****X'04'**

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

IMODULE GETMAIN が失敗した。レジスター 8 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

X'0C'

DFSBCB GET LSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'10'

DFSCIR が失敗しました。レジスター 8 に、DFSCIR 戻りコードが入っています。

0392**説明**

この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXTMCO によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、IMODULE LOAD、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

0392 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXTMCO によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 のサブコードは、以下のとおりです。

コード**説明****X'04'**

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

IMODULE GETMAIN が失敗した。レジスター 8 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

X'0C'

IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 8 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

X'10'

DFSCIR が失敗しました。レジスター 8 に、DFSCIR 戻りコードが入っています。

X'14'

IPOST が失敗しました。レジスター 8 に、IPOST 戻りコードが入っています。

X'18'

DFSBCB GET LSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、33

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXTMCO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0393

説明

この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXALMO によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

0393 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXALMO によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 のサブコードは、以下のとおりです。

コード

説明

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、33

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXALMO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0394

説明

この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXALCO によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

これは、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXALCO によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 のサブコードは、以下のとおりです。

コード

説明

X'04'

DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、33

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXALCO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0396

説明

この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSXXCF0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、IMODULE GETMAIN、DFSCIR、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

0396 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSXXCF0 によって発行されます。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 のサブコードは、以下のとおりです。

コード 説明

X'04'
DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'
DFSBCB GET LSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'0C'
DFSCIR が失敗しました。レジスター 8 に、DFSCIR 戻りコードが入っています。

X'10'
IPOST が失敗しました。レジスター 8 に、IPOST 戻りコードが入っています。

X'14'
IMODULE GETMAIN が失敗した。レジスター 8 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:
4、33

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSXXCF0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0397

説明

この異常終了は、IMS 初期設定中にモジュール DFSYDTLO によって発行される標準異常終了です。DFSBCB GET、DFSCWU、または IPOST が発行された後で、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

0397 は、制御領域の初期設定中にモジュール DFSYDTLO によって発行される標準異常終了です。SVRB レジスター 8、12、14、および 15 に、エラーを診断するための値が入っています。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。すべての異常終了コードについて、レジスター 12 はプログラム基底レジスターであり、レジスター 14 にエラー条件が認知された場所のアドレスが入ります。レジスター 15 には、以下のサブコードが入っています。

コード 説明

X'04'
DFSBCB GET QSAV が失敗しました。レジスター 8 に、DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'10'
DFSCWU が失敗しました。レジスター 8 に、DFSCWU 戻りコードが入っています。

X'14'
IPOST が失敗しました。レジスター 8 に、IPOST 戻りコードが入っています。

システムの処置:
IMS は異常終了します。

問題判別:
4、33

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSYDTLO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0400

説明

IMS 初期設定で、リポジトリ・セクションを処理中にエラーを検出しました。IMS 異常終了の前に発行された DFS4400E または DFS4401E メッセージを参照して、エラーの原因を判別してください。

システムの処置

IMS は異常終了コード 0400 で異常終了します。IMS が異常終了する前に、DFS4400E または DFS4401E メッセージが発行されます。

システム・プログラマーの応答:

異常終了の理由については、DFS4400E または DFS4401E メッセージを確認してください。エラーを修正して、IMS を再始動します。

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS4400E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS4401E \(メッセージおよびコード\)](#)

第 13 章 IMS 異常終了コード 0401 - 0500

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0402

説明

この異常終了は、サブシステム間インターフェース・モジュールが問題を検出した場合に発行されます。無許可プログラムが IMS SVC インターフェースを使用しようとしたか、IMS によって無効な呼び出しが SVC インターフェースに渡されたか、または IMS 制御領域が終了しました。

制御領域が終了した場合、メッセージ領域またはバッチ・メッセージ領域の異常終了の後で、異常終了 0402 が発生することがあります。

このユーザー異常終了は、DL/I 呼び出しで無効な PCB アドレスが渡された場合でも発生します。この PCB は、システム内に高速機能がないにもかかわらず、高速機能 PCB と解釈される可能性があります。

分析

DBFIRC10 の場合:

レジスター 15 内の以下のサブコードは、高速機能領域間通信モジュール (DBFIRC10) が高速機能 DL/I 呼び出しの処理中にエラーを検出したことを示します。

下の表では、異常終了への入り口のレジスター 8 は、DBFIRC10 内のエラーを検出したサブルーチンを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000192' Reg15=X'140'		DBFIRC10 は、PST IDENTIFY テーブル (SCDIDTAB) へのポインターが 0 であることを検出しました。
Reg1=X'80000192' Reg15=X'144'		DBFIRC10 は、呼び出しの発行元 PST の IDENTIFY テーブル・エントリーを見つけることができませんでした。
Reg1=X'80000192' Reg15=X'148'		DBFIRC10 は、監視プログラム状態の制御を受け取ったことを検出しました。
Reg1=X'80000192' Reg15=X'152'		DBFIRC10 は、キーが 8 (ユーザー・キー) ではない TCB の下で実行されていることを検出しました。

DFSDLPRO の場合:

0402 は、モジュール DFSDLPRO 内のラベル AB402 で設定される標準異常終了です。以下の表は、サブコードとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'C0000192'	AB402	
Reg14=BAL	(DFSDLPR0)	制御領域サブシステムのベクトル・テーブルが見つかりません。
Reg14=BAL	(DFSDLPR0)	DFSCPY00 PC 番号が設定されていません。
Reg14=BAL Reg15=PC 戻りコード	(DFSDLPR0)	DFSCPY00 PC 戻りコードがゼロ以外です。

DFSRR00 の場合:

0402 は、DFSIS100 から戻ったときに、モジュール DFSRR00 内のラベル RAAB0402 で設定される標準異常終了です。以下の表は、サブコードとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'C0000192'	RAAB0402	
SSOB +X'4C'='SVC#'	(DFSIS100 内の ISIIDF)	示されている領域の TYPE 2 SVC 番号が、IMS 制御領域と一致しません。
SSOB +X'4C'='VER#' Reg4=A(SSOB)	(DFSIS100 内の ISIIDF)	示されている領域のリリース番号が、IMS 制御領域のリリース番号と同じではありません。
Reg14=BAL Reg15=PC 戻りコード	(DFSDLPR)	DFSCPY00 PC 戻りコードがゼロ以外です。

システムの処置

IMS が SVC を使用しようとした場合、IMS は異常終了します。ユーザー・プログラムが SVC を使用しようと

した場合、そのユーザー・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

ユーザーが SVC を使用しようとした場合は、IMS システム・プログラマーに支援を依頼してください。

問題判別:

1、4、11、または 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFIRC10、DFSDLPRO、DFSRR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

- OSAM 拡張への DEB ポインターが無効である。
- エクステント番号が無効である。
- シーク・フィールド内のシリンダー値またはヘッド値が無効である。
- CCW 命令コードが無効である。
- 仮想 CCW アドレスが無効である。
- グローバル IOMA がそれぞれのローカル IOMA を指していない。
- グローバル IOMA が前の入出力要求から使用中である。
- ローカル IOMA でゼロまたは無効な IOMA シーケンス番号が検出された。

システムの処置

IMS は異常終了します。

0403

説明

この異常終了は、バッチ処理中に発行されます。入出力ドライバーへの OSAM バッチ・インターフェースが、入出力呼び出しに関連した無効なパラメーターまたは制御ブロックを検出しました。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 14 に、エラーが検出された位置のアドレスが入っています。

分析

これは、モジュール DFSAOS70 (フロントエンド OSAM BATCH 領域入出力ドライバー) によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル SVCERRAB のルーチン内の命令を指しています。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 14 は、異常終了ルーチンへの BAL レジスターであり、制御が渡された場所のアドレスが入っています。このレジスター内のコメントは、パラメーター・リストまたは制御ブロックの妥当性検査中に、以下のどのエラー条件が検出されたかを示します。

- DEB 検査が失敗した。DCB は無効な DEB を指しています。
- ローカル IOSB でゼロまたは無効な IOSB シーケンス番号が検出された。
- グローバル IOSB がローカル IOSB を指し戻していない。
- グローバル IOSB が前の入出力要求から使用中である。
- 要求機能がゼロであるか、無効である。
- 要求機能が FORMAT LOGICAL CYLINDER または FORMAT PHYSICAL EXTENT を指定している。バッチ環境では、これらの機能は許可されません。

プログラマーの応答

IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

問題判別:

1、4、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSAOS70

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0404

説明

この異常終了は、作業用ストレージのための呼び出し可能サービスへの要求が失敗したときに、DFSQSPC0 によって発行されます。モジュール DFSQSPC0 は、キュー・スペース通知出口の IBM IMS Queue Control Facility for z/OS 版です。レジスター 14 に、呼び出し可能サービスのエラー・コード (CSPLRTRN) が入り、レジスター 15 に、呼び出し可能サービスの戻りコードが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

システム・プログラマーに連絡して、戻りコードを分析してもらいます。

問題判別:

1、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSQSPC0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0405

説明

DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用量がユーザー制限またはデフォルト制限を超えたことによって発生しました。IMS Queue Control Facility でのユーザー定義の応答は、アプリケーションがさらに IMS キューを使用するのを止めるためにアプリケーションを異常終了させることでした。

システムの処置

アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答

アプリケーションを分析して、キュー・スペースを過度に使用する原因を判別し、必要な修正を行います。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSQSPC0

0406

説明

DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用量がユーザー制限またはデフォルト制限を超えたことによって発生しました。この待ち状態の間に、従属領域が IMS Queue Control Facility 以外のソース、あるいは **/PSTOP** コマンドまたは **/STOP** コマンドによって、無効な通知が行われました。レジスター 4 に通知コードが入っています。

システムの処置

従属領域は終了します。

システム・プログラマーの応答

この異常終了は内部エラーによって発生しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSQSPC0

0407

説明

DFSILTA0 内のメッセージ・ツリーまたは領域ツリー内の項目が 2 回削除されました。

システムの処置

DFSILTA0 は異常終了します。

システム・プログラマーの応答

この異常終了は内部エラーによって発生しました。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSILTA0

0408

説明

DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用量がユーザー制限またはデフォルト制限を超えたことによって発生しました。従属領域が待ち状態にある間、この領域に対して **/STOP** または **/PSTOP** コマンドが入力されました。追加情報については、メッセージ DFS0528I を参照してください。

システムの処置

アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答

アプリケーションを分析して、キュー・スペースを過度に使用する原因を判別し、必要な修正を行います。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSQSPC0

0409

説明

従属領域は、DFSQSPC0(キュー・スペース通知出口のIBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョン)によって待ち状態に置かれました。待ち状態がイムスキュー使用量に基づいて発生しましたが、これはユーザーまたはデフォルトの制限を超えています。従属領域がこの待ち状態になっているときに、無効なイムスキュー制御機能アクションを受け取りました。

システムの処置

アプリケーションは異常終了します。

システム・プログラマーの応答

この異常終了は、イムスキュー制御機能またはイムスの内部エラーが原因で発生しました。イブンソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

ソース:
イムス 異常終了

0411

説明

メッセージ DFS0411I に示されているデータ・セットのオープンが失敗しました。

分析

0411 は、ログ分析モジュール DFSILTA0 によって発行される標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行される、ラベル OPENWTO 内の命令を指しています。

この異常終了に付随するメッセージ DFS0411I のテキストを参照して、OPEN が失敗したデータ・セットの名前を判別してください。以下のいずれかのデータ・セットのオープンに失敗すると、異常終了 (PRINTER、REPORT、LOGIN、HEADING、または LOGOUT) が発生します。

このモジュールによって発行される 0411 異常終了はすべて、DCB オープン・フラグのテストの後に、ラベル OPENERR に対する条件付き分岐の結果です。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 4 は、1 次基底レジスターです。

キー	ラベル	解説
Reg1=異常終了の完了コード、X'80000198' Reg11=アドレスの DCB OPEN が失敗	フンドルスタート及び FNDLOG ()	この異常終了に付随するメッセージ DFS0411I に示されているデータ・セットの OPEN が失敗しました。レジスター 11 は、エラーのあるデータ・セットを指しています。REPORT2、REPORT-FILE、LOGIN、REPORT1、および LOGOUT データ・セットの DCBOFLGS フィールドは、それぞれ正常に OPEN を実行するためにテストされます。OPEN が正常に行われなかった場合は、異常終了するためにラベル OPENERR に分岐します。

システムの処置

ログ・トランザクション分析プログラム (DFSILTA0) は異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS0411I を参照して、データ・セットを識別してください。

問題判別

メッセージ DFS0411I 内の DD 名について、JCL を調べてください。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース:
イムス 異常終了

モジュール:
DFSILTA0
関連情報
DFS0411I

0413

説明

一度に実行されている 255 個のアプリケーション・プログラムの内部表の制限を超えました。これはイムスシステム・エラーです。

分析

0413 は、ログ・トランザクション分析モジュール DFSILTA0 によって発行される標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW)

は、異常終了 (SVC 13) が発行されるラベル P8PGMLP 内の命令を指しています。

DFSILTA0 はログ・レコードを読み取り、タイプ X'08' レコード (アプリケーション・プログラムのスケジューリングを示す) が検出されると、プログラム・テーブル (PGMTBL) 項目をセットアップするためにラベル PROC8 に分岐します。ログ分析は、空のエントリーが見つかるまでテーブルをステンとします。各項目は 19 バイトのログであり、表の終わりは高位エントリー・バイトの X'FF' によって示されます。異常終了 SVRB レジスタのレジスタ 1 に、異常終了完了コード X'80000191D' が含まれています。レジスタ 4 は、1 次基底レジスタです。MPP のタイプ X'08' レコードのみが使用されます。BMP からのタイプ X'08' レコードはすべて無視されます。

キー	ラベル	解説
Reg6=A(X'08' ログ・レコード)	P8PGMLP	DFSILTA0 が、プログラム・テーブルに別の項目を追加しようとしたが、テーブルがいっぱいでした。処理中に、レジスタ 1 はテーブルの開始点を指します。しかし、後で完了コードを使用して異常終了処理によってオーバーレイされます。

システムの処置

ログ・トランザクション分析プログラム (DFSILTA0) は異常終了します。

プログラマーの応答

プログラム DFSILTA0 への入力として使用されるログ・データ・セットに、有効な イムス ログ・レコードが含まれていることを確認

問題判別

1, 2, 3, 4, 8, 25, 35

異常終了コードおよび入力ログ・データ・セットのストレージ・ダンプを保管します。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSILTA0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0415

説明

EXEC ステートメントで無効なパラメーターが検出されました。

分析

この標準異常終了は、メッセージ DFS0408I または DFS0409I を伴い、無効なパラメーターを示します。

システムの処置

ログ・トランザクション分析プログラム (DFSILTA0) は異常終了します。

プログラマーの応答

関連したメッセージを検査して、無効なパラメーターを識別します。

問題判別

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSILTA0

関連情報

[DFS0408I](#)

[DFS0409I](#)

0421

説明

アプリケーション・プログラムのスケジューリングが失敗しました。IMS がプログラム作成 (PGMCREAT) ユーザー出口の要求に応じてプログラム・リソースを作成したときに、同じ名前のプログラム・リソースが既に定義されていましたが、そのプログラム・リソースは BMP タイプ・プログラムとして定義されていませんでした (BMPTYPE(N))。

分析

0421 は、モジュール DFSSBMP0 および DFSSJBPO から発行される疑似異常終了です。BMP 領域および JBP 領域で実行されるプログラムは、BMP タイプのプログラムでなければなりません。この異常終了は、同じ名前のプログラムが既に存在しているが、そのプログラムは BMPTYPE(N) として定義されていたために発生します。

システムの処置

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

既存のプログラム・リソースを削除して、アプリケーション・プログラムのスケジュールを変更してください。

問題判別

2、3、10

ソース

IMS 異常終了

モジュール

DFSSBMP0, DFSSJBPO

0423

説明

プログラム作成ユーザー出口 (PGMCREAT) の呼び出し中に、標準ユーザー出口インターフェースでエラーが発生しました。

分析

0423 は、モジュール DFSSBMP0 および DFSSJBPO から発行される疑似異常終了です。

システムの処置

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

2、3、10

ソース

IMS 異常終了

モジュール

DFSSBMP0, DFSSJBPO

0424

説明

BMP 領域または JBP 領域のスケジューリング・プロセス中に、プログラム・リソースが IMS に定義されていないことが判明しました。プログラム作成ユーザー出口 (PGMCREAT) が、IMS に対して定義され、プログラム・リソースを作成するかどうかを判別するために呼び

出されました。PGMCREAT ユーザー出口は、プログラム・リソースを作成しないことを IMS に通知しました。これは、PGMCREAT パラメーター・リスト (DFSPGMCR によってマップされる) の PGMCR_FC_CREATEPGM ビットを設定しないことによって通知されます。

分析

0424 は、モジュール DFSSBMP0 および DFSSJBPO から発行される疑似異常終了です。プログラム・リソースが作成される場合、PGMCREAT パラメーター・リストで PGMCR_FC_CREATEPGM ビットが設定されている必要があります。ビットが設定されていない場合、従属領域は U0424 異常終了で異常終了します。

システムの処置

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

2、3、10

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSSBMP0, DFSSJBPO

0425

説明

プログラム作成ユーザー出口 (PGMCREAT) は、プログラム・リソースを作成することを IMS に指示しましたが、プログラム・リソースの動的作成に失敗しました。

分析

0425 は、モジュール DFSSBMP0 および DFSSJBPO から発行される疑似異常終了です。

システムの処置

BMP または JBP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

従属領域に対して出された DFS554A メッセージを見つけてください。**REASON= xxxxxxxx** パラメーターは、障害の理由を示しています。xxxxxxx は、プログラム・リソースを作成しようとした際に返された理由コードまたは完了コードです。詳しくは、**CREATE**

PGM コマンド (コマンド) コマンドで返される可能性がある理由コードおよび完了コードを調べてください。

問題判別

2、3、10

ソース

IMS 異常終了

モジュール

DFSSBMP0, DFSSJBPO

0426

説明

プログラム作成ユーザー出口 (PGMCREAT) は、データベース・リソースを作成することを IMS に指示しましたが、データベース・リソースの動的作成に失敗しました。

分析

0426 は、モジュール DFSSBMP0 および DFSSJBPO から発行される疑似異常終了です。

システムの処置

BMP または JBP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

従属領域に対して出された DFS554A メッセージを見つけてください。REASON= xxxxxxxx パラメーターは、障害の理由を示しています。xxxxxxx は、データベース・リソースを作成しようとした際に返された理由コードまたは完了コードです。詳しくは、[CREATE DB コマンド \(コマンド\) コマンド](#)で返される可能性がある理由コードおよび完了コードを調べてください。

問題判別

2、3、10

ソース

IMS 異常終了

モジュール

DFSSBMP0, DFSSJBPO

0427

説明

VSAM データベースの処理中に、論理エラーが発生しました。詳しい説明は、メッセージ DFS0427I を参照してください。DL/I バッファ・オプション・ステートメントで DUMP=YES が指定されている場合、このエラーが発生したときに IMS 制御領域は異常終了します。

ある PCB では PROCOPT=L であり、別の PCB では PROCOPT=I (または GIRD または A) であるプログラム仕様ブロック (PSB) がある場合、結果は予測不能であり、この異常終了が発生する可能性があります。

分析

0427 は、DFSDVSM0 および DFSDVBH0 によって発行される疑似異常終了です。0427 は、ユーザーが DL/I バッファ・オプション・ステートメントで DUMP=YES をコーディングした場合に発行される標準異常終了です。モジュール DFSDVBH0 は、疑似異常終了 0427 をインターセプトし、それを標準異常終了に変更します。

ログに書き込まれた制御ブロックの疑似異常終了ダンプと、このモジュールのエントリー・ポイント・アドレス (SCD 内にある) が必要です。

SCDVSAM=DFSDVSM0

異常終了が発行された理由を判別するには、IMS システム定義情報内の DL/I トレース・テーブル情報を参照してください。バッファ・ハンドラー・トレース・テーブルから、この異常終了のエントリーを見つけます。これを行うには、最初のバイトが X'AB' に等しく、2 番目と 3 番目のバイトが X'0427' に等しいエントリーを見つけます。このエントリーは、以下のようにフォーマット設定されています。

異常終了表示	異常終了	トレース・エントリー
X'00'	DLTRFCTN	X'AB'
X'02'	ENTRY 02	X'0427'
X'04'	ENTRY 1 PSTFNCTN	バッファ・ハンドラー機能コード。
X'05'	ENTRY 1+1 RPLREQ	RPL 要求
X'06'	ENTRY 1+2 TRACE SEQ NO	異常終了へのオフセット
X'08'	ENTRY 2	
X'0A'	ENTRY 2+2 DSGINDA	
X'0B'	ENTRY 2+3 DSGINDB	

異常終了表示	0427	トレース・エントリー
X'0C'	ENTRY 3	Reg8 RPLI
X'10'	ENTRY 4	VSAM 引数
X'14'	ENTRY 5	VSAM 領域ポインター
X'18'	ENTRY 6	VSAM 戻りコード
X'19'	ENTRY 6+1	VSAM エラー・コード
X'1A'	ENTRY 6+2	VSAM 要求オプション
X'16'	ENTRY 7	AMP ポインター

エラーが検出された場所を判別するために、このトレース・エントリー内で使用する必要があるものとして、VSAM 戻りコード、VSAM エラー・コード、およびバッファ・ハンドラー機能コードがあります。

VSAM 戻りコードおよびエラー・コードの説明については、*z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets* を参照してください。バッファ・ハンドラー機能コードの説明については、IMS システム定義情報を参照してください。

ENTRY1

1 バイトの機能コード

ENTRY2

DFSDVSM0 への 2 バイトの変位

ENTRY6

1 バイトの戻りコード

ENTRY6+1

1 バイトのエラー・コード

ENTRY2 の 2 バイト (DFSDVSM0 への変位) から疑似異常終了をセットアップするために BALR が行われました。この値を使用して、以下の表で、使用するラベルを判別します。

この問題を診断するために異常終了ダンプが必要な場合は、VSAM OPTIONS ステートメントにパラメーター DUMP=YES を追加します。この処置により、疑似異常終了の代わりに、異常終了が発行されるようになります。以下の表は、レジスターとその説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg14=B AL	PUT16 00	PUT 要求はエラー・コード X'6D' を返しました。これは、VSAM 索

キー	ラベル	説明
		引トラップがアクティブ化されたことを示します。
Reg14=B AL	PUT42 00	VSAM データベースに追加された論理レコードを取り出そうとしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=B AL	PUT63 00	PUT 要求はエラー・コード X'40' を返しました。これは、使用可能なプレースホルダーがないことを示します。
Reg14=B AL	PUT94 00	VSAM データベースに論理レコードを追加しようとしてしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=B AL	ERSEE RR1	VSAM データベースから論理レコードを消しようとしてしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=B AL	SCHB 4200	VSAM データベースで RBA 用のサブプール・バッファを検索しようとしてしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=B AL	GET50 20	カップリング・ファシリティ・サービスの使用によるバッファ妥当性検査のテスト中に、無効のローカル・ベクトル索引が検出されました。この問題が原因で、異常終了が発行されました。
Reg14=B AL	GET50 30	カップリング・ファシリティ・サービスを使用してバッファの妥当性をテスト中に、無効な VSAM バッファ接頭部が検出されました。この問題が原因で、異常終了が発行されました。
Reg14=B AL	GET98 00	VSAM データベースから論理レコードを取り出そうとしました。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。

キー	ラベル	説明
Reg14=B AL	MRKB ERR1	VSAM バッファァ ALTERED のマークを付けようとしたか、VSAM バッファァの所有権を解放しようとした。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。
Reg14=B AL	WRTB 7400	VSAM データベースにバッファァを書き込もうとした。VSAM から予期しない戻りコードが戻され、それが原因で異常終了が発行されました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDVSM0、DFSDVBH0

関連資料

[z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[DFS0427I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0428

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) ステップまたは高速機能 (IFP) 領域を開始できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB がシステム定義時に定義されていなかったためです。

分析

0428 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。

ラ ベ ル	説明
	このルーチンは、PSB を見つけようとしています。プログラム仕様ブロック・ディレクトリー (PDIR) を見つけるために、サブシステム・オプション・ブロック (SSOB) で渡された PSB 名を使用して、DFSCBTS 検索が行われます。PDIR が見つからない場合、この異常終了が発行されます。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで、誤った PSB 名が指定されました。

システムの処置

BMP または IFP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

IMS システム定義時に定義された PSB のリストを入手し、要求された PSB の正しい名前を見つけます。EXEC ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドにある PSB 名を訂正してから、BMP を実行するために再実行依頼します。

問題判別:

2、3、10

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSSBMP0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0430

説明

モジュール DFSDVBIO が、DL/I データベース・バッファリング・サービス機能を初期設定できないと判断しました。メッセージ DFS0430I が発行され、そのメッセージにある理由コードが障害の理由を示しています。

分析

0430 は、DFSDVBIO (DL/I VSAM プール初期設定用のモジュール) によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND430 内の命令を指しています。このルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって無条件分岐されます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスタ 12 は 1 次基底レジスタ、レジスタ 11 は 2 次基底レジスタです。レジスタ 13 に、保管セット内の保管域のアドレスが入っています。

この異常終了の前に、障害の理由を示すために、1 つ以上の IMS メッセージ (DFS0430I、DFS0431I、DFS0432I、DFS0436I、または DFS0438I) が出されることがあります。もう 1 つ考えられる理由は、DFSVSAMP データ・セットが提供されなかったことです。

DFSDFVBI0 内のルーチンが発行する VSAM マクロの 1 つが失敗した場合、戻りコードがレジスタ 15 に入り、付随する IMS 情報メッセージにも含まれています。その後リストが続き、発行された VSAM マクロとそれぞれの戻りコードを示します。マクロの説明と戻りコードの詳細については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

コード 説明

X'00'
VSAM が要求を完了しました。

X'04'
区画またはアドレス・スペース内 (LSR) またはシステム内 (GSR) に、リソース・プールが既に存在します。

X'08'
要求を満たすには仮想記憶域スペースが不十分です (GETMAIN または ESTAE 障害)。

X'0C'
バッファを実ストレージに固定できません (PAGEFIX 障害)。

X'10'
TYPE=GSR が指定されていますが、BLDVRP を発行したプログラムは、キー 0 または 7 を持つ監視プログラム状態ではありません。

X'11'
特定のサブプール/共用プール ID テーブルの DBD ステートメント、または特定の共用プール ID テーブルの POOLID ステートメントを処理中に、GETMAIN 障害が発生しました。

X'14'
STRNO が 1 より小さいか、255 より大きくなっています。ハイパースペース・バッファリングが 4K バイトより小さいサブプール・サイズに対して指定されているか、あるいは必要に応じて指定されるサブプール・サイズ用の拡張ストレージが不十分であるために、ハイパースペース・バッファリングが利用不可です。

X'18'
BUFFERS の指定が誤っています (サイズ または数が無効です)。

以下は、DLVRP マクロからの戻りコードです。

コード 説明

X'00'
VSAM が要求を完了しました。

X'04'
削除するリソース・プールがありません。

X'08'
要求を満たすための十分な仮想ストレージ・スペースがありません (GETMAIN または ESTAE 障害)。

X'0C'
リソース・プールを使用中のオープン・データ・セットが少なくとも 1 つあります。

X'10'
TYPE=GSR が指定されていますが、DLVRP を発行したプログラムは、保護キー 0 から 7 を持つ監視プログラム状態ではありません。

DFSDFVBI0 内のルーチンが、失敗した IMODULE LOAD を発行している場合、レジスタ 15 にも戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
DVBISW => X'40' DVBISW=X'10' Reg14=WTO への BAL	POOLC K05	VSAM サブプールが必要な場合、スイッチ DVBISW をテストして、サブプールが要求されているかどうかを調べます。このスイッチが設定されていないのに、スイッチがオンにされて、VSAM サブプールが必要であることを示している場合は、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。メッセージ DFS0430I (理由コード 02) が、異常終了に伴って出されます。
Reg14=WTO への BAL Reg15=VSAM BLDVRP マクロからの ゼロ以外の 戻りコード	BLDVP 080	VSAM 共用リソース・プールを作成するために、VSAM BLDVRP マクロが発行されます。レジスタ 15 に戻りコードが入ります。これがゼロ以外の場合、IMS メッセージ DFS0432I が理由コードとともに出され、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。メッセージ DFS0430I (理由コード 06) も異常終了に伴って出されます。

キー	ラベル	説明
DVBISW ⇐= X'80'	BLDVP 100	DVBISW スイッチがテストされます。バッファ・ハンドラー・プールが作成されず、VSAM サブプールが要求されたが作成されなかった場合、ラベル MDL0D040 に分岐した後、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。バッファ・ハンドラー・プールが作成されず、VSAM サブプールが要求され、かつ作成された場合、プールを削除するために VSAM DLVRP マクロが発行され、ラベル MDL0D040 に分岐した後、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。いずれの場合も、IMS メッセージ DFS0430I (理由コード 09) が異常終了に伴って出されます。
Reg9=SCD の アドレス Reg14=WTO への BAL Reg15=IMOD ULE からのゼロ以 外の戻りコー ド	MDL0D 060	DL/I バッファ・ハンドラー DFSDVBH0 の IMODULE LOAD が実行されます。戻りコードがレジスター 15 にロードされます。LOAD が失敗した場合 (レジスター 15 がゼロ以外)、ラベル MDL0D150 に分岐し、モジュール名と戻りコードを示した IMS メッセージ DFS0438I が出され、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。IMS メッセージ DFS0430I (理由コード 07) も異常終了に伴って出されます。
Reg9=SCD の アドレス Reg14=WTO への BAL Reg15=IMOD ULE からのゼロ以 外の戻りコー ド	MDL0D 070	DL/I VSAM インターフェース DFSDVSM0 の IMODULE LOAD が実行されます。戻りコードがレジスター 15 にロードされます。LOAD が失敗した場合 (レジスター 15 がゼロ以外)、ラベル MDL0D150 に分岐し、モジュール名と戻りコードを示した IMS メッセージ DFS0438I が出され、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。IMS メッセージ DFS0430I (理由コード 07) も異常終了に伴って出されます。

キー	ラベル	説明
Reg8=DCB の アドレス Reg14=WTO への BAL	DCBER R	制御ステートメント・データ・セット (DFSVSAMP) を読み取ろうとしているときに、入出力エラーが発生しました。IMS メッセージ DFS0436I が出され、異常終了するためにラベル ABEND430 に分岐します。IMS メッセージ DFS0430I (理由コード 05) も異常終了に伴って出されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。障害の理由を示すメッセージが 1 つ以上発行されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS0430I を参照して、問題の原因を判別してください。

問題判別:

1、2、3、18、19

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDVBIO

関連資料

[z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[DFS0430I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0432

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップをスケジュールできませんでした。要求された PSB はテレプロセシング・プログラムとして定義されたが、BMP ステップはメッセージ・ドリブンで、しかも並列オプションが指定されました。

分析

0432 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
BMPSCH DC		PSB がバッチ・タイプ 2 プログラム用であるかどうかを調べるために、検査が行われます。これに該当しておらず、並列オプションが指定されている場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドに誤ったプログラム名が指定されました。

システムの処置

BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

IMS システム定義時に生成されたプログラム名のリストを入手し、実行すべきプログラムの正しい名前を見つけてください。次に、EXEC ステートメントの PARM フィールドにあるプログラム名を訂正してから、BMP を再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMP0

0436

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップをスケジュールできませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力シンボリック・キューが、システム定義に定義されていないためです。

分析

0436 は、DFSSBMP0 によって検出され、DFSPCC20 によって発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
BMPRS PSB		入力シンボリック・キュー名が指定され、サブシステム・タイプが DBCTL であったか、あるいは宛先検索機能 (DFSICLFO) が SMB を検出できなかったかのいずれかです。DFSICLFO に渡された入力シンボリック・キュー名が、PSTSYMBO に入っています。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力シンボリック・キューが、システム定義時に定義されていませんでした。サブシステムが DBCTL の場合、メ

ッセージ・ドリブン BMP は許可されず、したがって、入力シンボリック・キューは定義されませんでした。

DFSPCC20 の場合:

IMS スケジューラーが、入力トランザクション名が無効であるため BMP ステップをスケジュールできないと判別しました。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力トランザクション名が、システム定義時に定義されていませんでした。

システムの処置

BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

IMS システム定義で定義された入力シンボル名のリストを入手し、名前を訂正します。次に、EXEC ステートメントで指定された入力シンボリック・キューを訂正してから、BMP を再実行します。

データベース制御 (DBCTL) サブシステムの場合、メッセージ・ドリブン BMP は許可されていないので、入力シンボリック・キュー名を指定しないでください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMP0、DFSPCC20

0437

説明

この従属領域に対しては無効な IMS リソース (トランザクション、PSB、および LTERM) が使用されています。従属領域が、リソース・アクセス・セキュリティー (RAS) によって保護されていない IMS リソース (トランザクション、PSB、および LTERM) を使おうとしたときに、セキュリティー違反が発生しました。

分析

0437 は、モジュール DFSASK00、DFSDASPO、または DFSDASS0 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: セキュリティー違反が発生した可能性があります。

システムの処置

従属領域は終了します。

プログラマーの応答

従属領域が IMS リソースに対して適切なアクセス権限を持つようにしてください。

問題判別:

1、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00、DFSDASPO、DFSDASSO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0438

説明

ODBA ユーザーが、APSB 呼び出しで指定された PSB をスケジュールする要求を、SAF RACROUTE 処理に失敗させました。

分析

APSB 要求は失敗します。メッセージ DFS2855A は、SAF RACROUTE AUTH 呼び出しが成功しなかった場合に発行されます。

システムの処置

APSB 要求は失敗します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

1, 2, 4, 6, 11, 35, 36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDASPO

関連情報

DFS2855A

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0440

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップを開始できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力シンボリック・キューが、トランザクション・コードではなかったためです。

分析

0440 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
	BMPRSPS B	入力宛先が検査されています。宛先が SMB ではありません。そのため、異常終了が発行されません。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定された入力シンボリック・キューが、トランザクション・コードとして指定されていませんでした。

システムの処置

BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

IMS システム定義で定義されたトランザクション・コードのリストを入手し、有効なコードを選択します。次に、EXEC ステートメント上の入力シンボリック・キュー名をトランザクション・コードに変更してから、BMP を再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSSBMP0

0442

説明

VSAM 制御インターバルを書き込む前に、レコード定義フィールド (RDF) および制御インターバル定義フィールド (CIDF) が検査された結果、無効であるか、または IMS に必要なレコード・フォーマットと不整合であることが判明しました。レコード・フォーマットの不整合の一例として、複数の RDF に記述されているレコードの長さが異なっていることがあり、これも疑似異常終了 0442 の原因になります。

データベースが、特定のレコード長をもつデータベース記述 (DBD) を使用してロードまたは更新され、後に異なるレコード長を持つ変更された DBD を使用して更新またはロードされた場合、このエラーが発生する可能性があります。

分析

0442 は、モジュール DFSDVSMO によって発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスターは、RPLIERMA + X'40' に保管されています。

考えられる原因: この異常終了に伴う DFS0442A のテキストを参照して、エラーの原因になった DBD および DD 名を入手してください。

キー	ラベル	説明
STLEG L00		キーによる論理レコード検索呼び出しが発行された後、CI が不良であるかどうかを調べるための検査が行われます。そうである場合、異常終了 U0442 が設定され、ラベル L9990 への分岐が作成されます。このルーチンで、呼び出し元に戻ります。
S1800		VSAM に対して GET が発行されています。VSAM から戻った後、不良 CI 用の PST フラグが検査されます。フラグがオンの場合、異常終了 0442 が設定され、S9990 に分岐します。S9990 は呼び出し元のレジスターをリセットし、呼び出し元に分岐します。
Y5220		この JRNAD ルーチンは、バッファを書き出す必要があったために駆動されました。CI が不良であるかどうかを調べるために検査が行われます。そうである場合、異常終了 0845 は発行されず、呼び出し元に戻ります。
Y8020		このルーチンは、CI 分割が進行中であるかどうかを調べます。CI が KSDS 索引 CI であるかどうかを調べるための検査が行われます。そうである場合、不良 CI フラグがリセットされます。CI が KSDS 索引 CI でない場合は、CI が不良であるかどうかを調べるための検査が行われます。そうである場合、不良 CI フラグが設定され、MSGDFS0442A が出されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS0442A を参照して、問題の原因を判別してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDVSMO

関連情報

DFS0442A

0444

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップをスケジュールできませんでした。EXEC ステートメントの PARM フィールドの 5 番目の定位置オペランドで指定された出力シンボリック・キューが、システム定義に定義されていないためです。

分析

0444 は、DFSSBMP0 によって検出され、DFSPCC20 によって発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	解説
BMPRS PSB		出力シンボリック・キュー名が指定されていて、サブシステム・タイプが DBCTL であるか、宛先ファインダー (DFSICLF0) が通信名テーブル (CNT) を見つけることができませんでした。PSTSYMB0 には、DFSICLF0 に渡された出力シンボリック・キュー名が含まれています。

考えられる原因:

- EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 5 番目の定位置オペランドで指定された出力シンボリック・キューが、システム定義で定義されていませんでした。サブシステムが DBCTL の場合、メッセージ駆動の BMP は許可されないため、出力シンボリック・キューはシステム定義で定義されませんでした。
- BMP JCL の EXEC ステートメントの OUT パラメーターにリモート LTERM (CNT) が指定されましたが、許可されていません。

システムの処置

BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

イムスシステム定義で定義されている論理端末名とトランザクション・コードのリストを取得して、右側の端末名を選択します。次に、EXEC ステートメント上の出力シンボリック・キュー名を訂正し、BMP を再実行依頼して実行依頼します。OUT パラメーターにリモート LTERM (CNT) を指定することはできません。

サブシステムがデータベース制御 (DBCTL) の場合、メッセージ・ドリブン BMP は許可されず、出力シンボリック・キュー名を指定しないでください。

問題判別

なし。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:
DFSSBMP0

0448

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップを開始できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された入力トランザクション・コードが、リモート SMB を指定していたためです。

分析

0448 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS554A が出されます。

キー	ラベル	説明
BMPRS	PSB	意図問題が解決された後、入力宛先を検査中に、または BMP のスケジュールを変更しようとしているときに、SMB がリモートであることが検出されました。バッチ・タイプ 2 領域は、リモートとして定義された入力 SMB をスケジュールすることはできません。

考えられる原因: EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランド内のトランザクション・コード名が、リモート SMB 用のものです。

システムの処置

BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

IMS システム定義で定義されたトランザクション・コードを調べます。次に、リモート SMB ではないトランザクション・コードを選択して、BMP を再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMP0

関連情報

[DFS554A \(メッセージおよびコード\)](#)

0451

説明

データベース・データ・セットで物理入力エラーまたは物理出力エラーが発生しました。メッセージ DFS0451I または DFS0451A が発行されました。

異常終了したプログラム用の PSB が生成されたとき、PSBGEN マクロ・ステートメントで IOEROPN パラメータが指定されました。IOEROPN=451 が指定されて、入出力エラー後にこのステップが終了したか、または IOEROPN=(n,WTOR) が指定されて、オペレーターが DFS0451A メッセージに対して ABEND を応答したかのいずれかです。

注: n=451 の場合、オペレーターが DFS0451A メッセージに対して CONT を応答しても、IMS は異常終了 0451 で終了します。

分析

メッセージ DFS0451I または DFS0451A が出され、エラーを検出しているモジュール、DBD 名、および障害のあるデータ・セットの DD 名が示されます。以下のいずれかに該当しない限り、これは疑似異常終了です。

- DL/I バッファ・オプション・ステートメントで「DUMP=YES」がコーディングされている場合、モジュール DFSDVBH0 が疑似異常終了 0451 をインターセプトし、それをラベル VBH050 で標準異常終了に変更します。
- PSBGEN ステートメントで「IOEROPN=(n,WTOR)」がコーディングされており、「n」=451 である場合、ラベル PURGE090 でモジュール DFSDVBH0 から標準異常終了 0451 が発行されます。これは、オペレーターがメッセージ DFS0451A に対して「CONT」を応答した場合も起こります。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了して、疑似異常終了コード 0451 が示され、IMS は処理を続行します。DL/I バッファ・オプション・ステートメントで DUMP=YES が指定されていた場合、アプリケーションは標準異常終了 0451 で終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS0451I または DFS0451A を参照してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDBH40、DFSDISM0、DFSDVBH0、DFSDVSM0

関連情報

[DFS0451I](#)

[DFS0451A](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0452

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップを開始できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定されたトランザクションが、コマンドまたは前のプログラム障害によって停止またはロックされていたためです。

分析

0452 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS554A が出力されます。

キー	ラベル	説明
BMPRS PSB		意図問題が解決された後、入力宛先を検査中に、または BMP のスケジュールを変更しようとしているときに、SMB がロックまたは停止されていること、あるいは既に別の PST にスケジュールされているが検出されました。

システムの処置

BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

そのトランザクションを再び開始してから、ジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMP0
関連情報

[DFS554A \(メッセージおよびコード\)](#)

0453

説明

BMP プログラム・ステップを開始できませんでした。EXEC ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定されたトランザクション・コードが、LU 6.2 主導で動的に作成されたトランザクションかまたは IMS 会話型トランザクションであるためです。

分析

0453 は、DFSPCC20 および DFSSBMP0 によって発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000 01C5'	BMPRS PSB	会話型トランザクションが BMP にスケジュールされました。

システムの処置

BMP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 4 番目の定位置オペランドで指定されたトランザクション・コードが、LU 6.2 主導で動的に作成されたトランザクションでも IMS 会話型トランザクションでもないことを確認します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSSBMP0、DFSPCC20

0454

説明

次のいずれかが発生しました。

- /CHE FREEZE または /CHE DUMPQ コマンドが発行された後で、従属領域をスケジュールしようとした。
- シャットダウン・チェックポイントがすでに他のすべてのアクティブな領域を静止および停止した後で、BMP または MPP が始動された。
- BMP または IFP のスケジューリングが、利用不能な IRLM を検出したため、スケジューリングは継続できない。
- XRF 環境の代替 IMS で事前始動された BMP または IFP スケジューリングが、/STOP BACKUP コマンドによって終了した。スケジューリングは完了しません。
- XRF 環境の代替 IMS で事前始動された BMP または IFP スケジューリングが、代替 IMS で発行された /STOP BACKUP コマンドまたは DFSHSBxx メンバーのアクティブ IMS および PSDEPAB=YES で発行された /CHE FREEZE コマンドによって終了しました。スケジューリングは完了しません。

分析

0454 は、DFSHSBxx PROCLIB メンバーで PSDEPAB=YES が指定されているか、デフォルトで YES

が使用される場合、モジュール DFSASK00 からモジュール DFSPCC20 (異常終了を発行するモジュール) に渡される疑似異常終了です。

DFSRRRA00 の場合:

次のいずれかが発生しました。

- /CHE FREEZE または /CHE DUMPQ コマンドが発行された後で、従属領域をスケジュールしようとした。
- シャットダウン・チェックポイントがすでに他のすべてのアクティブな領域を静止および停止した後で、BMP または MPP が始動された。

0454 は、モジュール DFSASK00 からモジュール DFSRRRA00 (異常終了を発行する) に渡される疑似異常終了です。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

IMS が始動または再始動されたら、ジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSPCC20

0455

説明

異常終了 0455 は、Java アプリケーションが BMP 領域にスケジュールされていることを検出した、DFSSBMP0 によって発行されます。

システムの処置

Java アプリケーションは、Java 領域内で実行しなければなりません。

プログラマーの応答

Java アプリケーションを BMP 領域内にスケジュールすることはできないため、スケジューリングを停止するためにこの疑似異常終了が発行されます。Java アプリケーションは、Java 領域内にスケジュールしてください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMP

0456

説明

DL/I バッチ領域、バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップ、または高速機能 (IFP) を開始できません。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB が、コマンドまたは前のプログラム障害によって、停止またはロックされたために問題が発生しました。

この異常終了は、以下の場合にも発生します。

- バッチ領域、BMP、または IFP が、NOTINIT 状況の PSB を参照しようとした。NOTINIT 状況の原因として、次のものが考えられます。
 - 初期設定中に、PSB が ACBLIB 内にはない。
 - PSB が IMS に定義されていない DBD を参照した。
 - PSB の BLDL が失敗した。
- 参照された PSB が DOPT として定義され、ACBLIB の最初の連結内で見つかった。
- 高速機能 PCB が参照する DBD がシステム内で見つからない。
- 高速機能 PCB が参照する主記憶データベース (MSDB) を、IMS 初期設定中にロードできなかった。メンバー DBFMSDBX が PROCLIB 内で見つからないか、またはメンバー DBFMSDBX 内で MSDB が指定されていないためです。
- 高速機能 PCB が参照する DEDB ランダム化モジュールを、IMS 初期設定中にロードできなかった。
- DMB プールが小さ過ぎるか、または他の PSB に排他的に割り振られている DMB を必要としているため、PSB をスケジュールできなかった。
- 指定された PROCOPT が、発行されている呼び出しと不適合である。
- 以前のバージョンの IMS で作成または更新された ACB メンバーを、新しいバージョンの IMS で使用しようとした。

分析

0456 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS554A が出される可能性があります。

キー	ラベル	説明
	BMPTYP OK SBMP03 20 BMPERR BT	バッチ・タイプ 2 プログラム用の PSB が見つかりましたが、その PSB がロックされているか、利用不可である場合、この異常終了が発行されます。
	BMPERR BT	無効な PSB 処理オプションが指定されたため、PSB のスケジューリングが失敗しました。

キー	ラベル	説明
BMPERR BT		DOPT PCB で入出力エラーが発生し、PSB が利用不可であったため、PSB のスケジューリングが失敗しました。
BMPERR BT		ACBLIB 内で、組み込み EOF が検出されました。この問題は通常、オンライン IMS の実行中に ACBLIB を圧縮しているときに発生します。

システムの処置

バッチ領域、BMP 領域、または IFP 領域は異常終了します。欠落した PSB は、初期設定中に発行されたメッセージ DFS830I 内に示されます。DFS563I も、初期設定中に発行されることがあります。

プログラマーの応答

PSB がロックまたは停止した理由を分析します。障害を起こした問題を訂正し、PSB をアンロックしてから、ジョブを再実行します。

BMP プログラム、非メッセージ・ドリブンの IFP、または DEDB ユーティリティー・プログラムのための PSB をアンロックするには、PSB 名を指定して **/START PROGRAM** コマンドを発行します。次に、ジョブを再実行依頼してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMP0
関連情報
[DFS554A](#)

0457

説明

既にスケジュールされている PSB に対して、バッチ・メッセージ処理 (BMP) 領域、高速機能 (IFP) 領域、CICS スレッド、または ODBA スレッドが始動されました。

リソース・マネージャー (RM) およびシプレックス・シリアル・プログラム管理 (SSPM) がアクティブの共用キュー環境では、シリアル PSB が IMS 領域またはスレッドで使用中のときに制御領域に障害が起きた場合、この異常終了コードが発行されることがあります。このシリアル PSB は、障害が起きた制御領域が再始動されるまで、IMSplex の他のメンバーでスケジュールすることはできません。

分析

0457 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
BMP OK		この PSB は既に別の領域にスケジュールされており、並列スケジューリングは指定されていませんでした。

システムの処置

BMP 領域、IFP 領域、CICS スレッド、または ODBA スレッドは異常終了しました。

プログラマーの応答

PSB の指定が重複した理由を判別します。これが、現行ジョブの重複ではない場合は、現行ジョブが完了してからこのジョブを再実行するか、または IMS システム定義で並列スケジューリング・オプションを指定して PSB を訂正します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMP0

0458

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) プログラム・ステップ、または高速機能 (IFP) 領域が開始されませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB によって使用される高速機能データベースのいずれかが、前のプログラム障害によって停止またはロックされたためです。

高速機能オンライン・ユーティリティーが開始されている場合、EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 2 番目の定位置オペランドで指定されたデータベースが、停止されているか、または DBDGEN で DEDB として定義されていません。

分析

0458 は、モジュール DFSSBMP0 から発行される疑似異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS554A が出されます。

高速機能オンライン・ユーティリティー領域が開始されている場合、この異常終了は、EXEC Parm= パラメーター (つまり、2 番目の定位置パラメーター) で指定されたデータベースが、停止されているか、または DBDGEN で DEDB として定義されていないことを示します。

システムの処置

BMP または IFP 領域は異常終了します。

プログラマーの応答

高速機能データベースが停止している理由を判別します。データベースの停止の原因となった問題を訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMPO
関連情報

[DFS554A \(メッセージおよびコード\)](#)

0462

説明

アプリケーション・プログラムがメッセージ領域にスケジュールされたが、入力メッセージに対する GET UNIQUE を正常に発行することもなく終了しました。アプリケーション・プログラムは、他の呼び出しを少なくとも 1 つは正常に処理しました。

分析

0462 は、スレッド正常終了ルーチン内のモジュール DFSAASK00 によって検出される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
関連ログ・レコード	タイプ X'08'	トランザクションおよびプログラムがスケジュールされました。
	タイプ X'07'	アプリケーションの終了レコード: <ul style="list-style-type: none">• DLRGUMES からコピーされたフィールドがゼロより大きい場合、アプリケーション・プログラムによって GU が発行されました。• DLRGU1 からコピーされたフィールドがゼロより大きい場合、GU が正常に実行されました。異常終了 0462 は、終了時にこのフィールドがゼロに等しかったことを示しています。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了し、PSB および SMB は停止されます。

プログラマーの応答

ユーザーのメッセージ処理プログラムの問題を判別し、それを訂正してから、ジョブを再実行します。

GET UNIQUE が発行されるように、アプリケーション・プログラムを修正します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

0474

説明

/STOP REGION ABDUMP または **/STOP REGION CANCEL** コマンドの使用により、アプリケーション・プログラムが終了させられました。



重要: **/STOP REGION ABDUMP** コマンドが先行しているときに **/STOP REGION CANCEL** コマンドを発行した場合も、異常終了 0474 が発生する可能性があります。

分析

DBFSYN00 の場合:

0474 は、**/STOP REGION ABDUMP** コマンドを検出した後、**DBFSYN00** によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg10=EPST のアドレス		オペレーターが /STOP REGION ABDUMP コマンドを入力した後、 DBFICL40 によって EPSTSTAB フラグがオンに設定されました。

DBFIRC10、**DFSASK00**、**DFSCPY00**、**DFSDASCO**、**DFSDCPY0**、**DFSTMADO** の場合:

異常終了 0474 は、**/STOP REGION ABDUMP** コマンドを検出した後、**DBFIRC10**、**DFSASK00**、**DFSCPY00**、**DFSDASCO**、**DFSDCPY0**、および **DFSTMADO** によって発行される疑似異常終了です。

DFSDLTRO と **DFSUICCO** の場合:

0474 は、**/STOP REGION ABDUMP** コマンドを検出した後、**DFSDLTRO** および **DFSUICCO** によって発行される異常終了です。

DFSDVBHO の場合:

0474 は、**/TERMINATE OLREORG OPTION(ABORT)** コマンドを検出した後、**DFSDVBHO** によって発行される異常終了です。

システムの処置

領域は、ユーザー要求に応じて異常終了します。

abendU0474 が発生する MPP の場合、TLIM カウントは増やされません。MPP では、abendU0474 を TLIM カウントに含めないでください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DBFSYN00、DBFIRC10、DFSASK00、DFSCPY00、
DFSDASC0、DFSDCPY0、DFSDLTR0、DFSDVBH0、
DFSTMADO、DFSUICCO

0475

説明

Java アプリケーション・プログラムが IMS バッチ・ジョブとして実行しようとしてしました。IMS バッチは Java アプリケーション・プログラムをサポートしません。

システムの処置

バッチ・プログラムは異常終了します。

ソース:
IMS 異常終了

0476

説明

DL/I 呼び出しに、有効な PCB アドレスが含まれていません。DL/I 呼び出しでの PCB アドレス (2 番目のパラメーター、または最初のパラメーターがカウントである場合は 3 番目のパラメーター) が、エントリー・ポイントでアプリケーション・プログラムに渡された PCB アドレスのいずれでもありません。

この障害の原因として、次のものが考えられます。

- AIB のアドレスが指定されたが、ブロックの最初の 8 バイトが 'DFSAIB' でない。
- 指定された PSB 言語がアプリケーション・プログラムの言語と同じでない。
- 呼び出しには PCB アドレスが必要であるのに、呼び出しリストの最後の項目が機能である。
- 呼び出しでの PCB アドレスが、エントリー・ポイントでアプリケーション・プログラムに渡された PCB アドレスのいずれでもない。
- オンライン・プログラムが UNLD 呼び出しを発行した。UNLD 呼び出しは内部 DL/I 呼び出しであるため、アプリケーション・プログラムで発行してはなりません。

この異常終了は、アプリケーション・プログラムのアセンブルまたは生成が正しく行われなかった結果として発生することがあります。

分析

DBFIRC10 の場合:

0476 は、モジュール DBFIRC10 から発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1=PCB 検査リスト内のオフセットのアドレス Reg3=EPCB のアドレス Reg7=PCB 検査リストのアドレス		EPCB 内の EPCB オフセットにあるアドレスで、リストが呼び出しで渡された EPCB と一致していないことが検証されました。
Reg1=EPCB のアドレス		EPCB が、呼び出し内の PCB アドレスを指していません。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムにエラーがある可能性があります。

DFSCDLIO の場合:

DL/I 呼び出しリストで、AIB のアドレスが提供されました。しかし、その AIB は無効です。ブロックの最初の 8 バイトが「DFSAIB」に等しくありません。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムにエラーがある可能性があります。

DFSCPY00 の場合:

0476 は、領域間コピー機能モジュール DFSCPY00 によって検出され、DFSPCC20 によって発行される、疑似異常終了です。TCBFSA+X'18' は ECP アドレスで、ECP+X'104' はユーザー呼び出しリスト・アドレスです。PCB アドレスは、リストの 2 番目のワードです。

DFSDLA00 の場合:

0476 は、DL/I 呼び出しアナライザー DFSDLA00 によっても検出されます。該当するレジスターを見つけるには、ログに出力された制御ブロックのスナップ・ダンプを使用します。SCD (ラベル SCDDLICT にある) から DFSDLA00 のエントリー・ポイントを入手して、呼び出しアナライザーの保管域を見つけ、レジスター 15 で、保管域セットを下に向けて検索してそのアドレスを見つけます。この保管域には、呼び出しアナライザーが呼び出された時点のレジスターが入っています。

エラー条件が検出されると、ラベル ERR22 に条件付き分岐し、そこから疑似異常終了コード X'100001DC' が PST の PSTABTRM フィールドに移動されます。

レジスター 14 から 11 は、PSTSAV15 にある保管セットに保管されます。保管セット内のレジスター 12 に、分岐元のラベルを判別するためのキー情報が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=X'80xxxxxx' 、 ここで、xxxは、 パラメーター・リ スト PSTSAV15の項目 の アドレスです Reg12=X'xxxxAA 01'	TESTPC B0	レジスター 8 がロード され、テストされます。 レジスター 8 にリスト 終了標識(上位ビットが オン)が入っている場 合、パラメーター・リス ト内の最後のパラメー ターは「機能」パラメー ターであり、パラメータ ー・リストで PCB アドレ スが渡されませんでした。 ルーチンは異常終了を 発行するためにラベル ERR22 に分岐しま す。
Reg3 ← ユーザー へのポインター PCB Reg10=Reg3=0 PSTSAV15 Reg12=X'xxxxAA 02'	TESTPC B	レジスター 3 からレジ スター 10 がロードされ た後、テストされます。 レジスター 10 がゼロの 場合、パラメーター・リ ストからゼロの PCB ア ドレスが渡されました。 ルーチンは異常終了を 発行するためにラベル ERR22 に分岐します。
Reg3=ユーザーが 渡した PCB アドレス PSTSAV15 Reg5=リスト内の 最後の PCB の アドレス Reg12=X'xxxxAA 03' Reg14=PCB リス ト・アドレス	VALIDC K3	PCB 妥当性検査ルーチ ンが PCB リストをスキ ャンし、リストの終わり を示すエントリー X'80xxxxxx'を検出しま した。しかし、ユーザー 提供の PCB アドレスは 有効な PCB アドレスで ありません。そこで、ル ーチンは異常終了を発 行するためにラベル ERR22 に分岐します。
PSTSAV15 Reg12=X'xxxxAA 04''	PSEUD OCB	オンラインで UNLD 呼 び出しが発行されまし た。

考えられる原因:

- 指定された PSB 言語が、アプリケーション・プログラムと同じでなかった。
- DL/I 呼び出しのパラメーター・カウントが無効であった。
- IMS によって無効な PCB が検出された。以下に例を示します。
 - アプリケーション・プログラムへのエントリー・ポイントが、DLITPLI または DLITCBL ではない可能

性がある。これは、この 2 つのうちのいずれかでなければなりません。

- CMPAT パラメーターが誤って指定されている。アプリケーション・プログラムが IOPCB を使用するよう設計されている場合、プログラムを DL/I バッチ領域で実行できるようにするには、PSBGEN ステートメントで CMPAT=YES を指定する必要があります。
- GSAM 入力データ・セットの DD ステートメントの DCB 情報が誤っている可能性がある。
- DL/I 呼び出しパラメーター・リストで無効な DL/I 機能コードが検出された。

DFSECP10 の場合:

0476 は、領域間コピー機能モジュール DFSCPY00 によって検出され、DFSECP10 によって発行される疑似異常終了でもあります。DFSECP のコピーがモジュール DFSFSWA0 に移動され、文字ストリング「ECP」によって識別されます。モジュール DFSFSWA0 は、従属領域ダンプの CDE エントリーを介して見つけることができます。アプリケーション・プログラムによって渡された呼び出しリスト・アドレスは、DFSECP 内のオフセット X'104' で見つかります。PCB アドレスはこのリスト内にあり、アプリケーション・プログラムで訂正する必要があります。

この異常終了は、拡張言語インターフェース DFSLIE00 および DFSLIE20 によって検出され、セットアップされることもあります。DFSLIE00 が無効な PCB アドレスを検出した場合、または DFSLIE20 が無効な AIB アドレスを検出した場合、疑似異常終了をセットアップし、最終的に DFSECP10 によって疑似異常終了が発行されます。前述のように、DFSECP がモジュール DFSFSWA0 にコピーされ、これは従属領域ダンプの CDE エントリーを介して見つけることができます。

DFSECP20 の場合:

0476 は、モジュール DFSECP20 から発行されます。

キー	ラベル	説明
R14=B AL	EC2ABEN D	DL/I 呼び出しのパラメーター・リストで、無効な PCB または AIB アドレスが渡されました。DFSLIE00 または DFSLIE20 がこの条件を検出し、疑似異常終了をセットアップします。DFSECP20 は、異常終了を検出すると、異常終了を発行するために共通ルーチンに分岐します。R14 は、EC2ABAP0 に分岐した後の命令を指しています。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムが GSAM 呼び出しを行いました。無効な GSAM PCB アドレスを渡しました。DFSPROX0 が異常終了を検出しているときは、アプリケーションが発行した DL/I 呼び

出しが指し示すパラメーター・リストに、ゼロに等しい PCB アドレスが含まれています。

DFSPR000 の場合:

0476 は、モジュール DFSPR000 から発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=A(DFSPRPX0) Reg5=PSB 内の A(PSBCODE)		ユーザー呼び出しのリストで渡された GSAM PCB が、PSB PCB リストの GSAM セクション内の GSAM PCB のいずれにも一致しませんでした。ラベル PCGPSBL にある DFSPRPX0 は、PSB PCB リスト内の最初の GSAM PCB を指しています。レジスター 4 は、PSB の言語フラグが入っている、PSB 内の 1 バイト・フィールドを指しています。このフラグが PL1 の場合、PSB PCB リストには、PCB へのポインター (ドープ・ベクトル) へのポインターが入っていません。

考えられる原因: アプリケーション・プログラムが GSAM 呼び出しを行いました。無効な GSAM PCB アドレスを渡しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

パラメーター・リストを訂正してから、ジョブを再実行します。

- PSB 言語を変更して、アプリケーション・プログラムの言語に合わせます。
- アプリケーション・プログラムの DL/I 呼び出しステートメントを訂正します。

問題判別:

4、17d

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFIRC10、DFSCDLI0、DFSCPY00、DFSDLA00、DFSECP10、DFSECP20、DFSPR000

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0477

説明

FLD ブロックを作成する 1 次エリアの大きさが不十分なため、FLD ブロックに必要な 8192 バイトのエリアを取得するために IGETBUF マクロが発行されました。しかし、このエリアは利用不能でした。バッチ処理では、GETMAIN によりスペースが取得されます。オンライン処理では、スペースはデータベース作業プールから取得されます。

分析

異常終了 0477 は、DL/I 呼び出しアナライザー DFSDLA00 によって検出される疑似異常終了です。該当するレジスターを見つけるには、ログに出力された制御ブロックのスナップ・ダンプを使用します。呼び出しアナライザーの保管域を見つけます。これを行うには、SCD (ラベル SCDDLICT にある) から DFSDLA00 のエントリー・ポイント入手し、レジスター 15 で、保管域セットを下に向けて検索してそのアドレスを見つけます。この保管域には、呼び出しアナライザーが呼び出された時点のレジスターが入っています。その次の下位保管域に、異常終了への入り口のレジスターが入っています。ただし、レジスター 2 は例外で、ここには異常終了完了コード X'000001DD' が入っています。

この異常終了の場合、PST の PSTABTRM フィールドも X'10' に設定され、その後に異常終了コードが続きます。実際の異常終了は、プログラム要求ハンドラーのいずれかによって発行されます。下の表は、レジスター情報および説明を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=IGETBUF からの UF からの ゼロ以外の戻りコード	GETOVER	オーバーフロー FLD 作業域を取得するルーチン内に、ラベル GETOVER が付けられているルーチンがあります。ラベル SCDSMMGB にある SCD 内に、EGETBUF モジュールのエントリー・ポイント・アドレスがあります。呼び出しアナライザーは IGETBUF に BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合、これはストレージが取得されなかったことを示しており、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg15=バッ ファー・ハン ドラーからの ゼロ以外の戻 りコード、 PSTRDCDE => X'04' または X'18'	ABC00 477	GA 戻りコードを持つ STAT 呼び出しの 2 回目のパスス ルー時に、バッファー・ハン ドラーがエラーを検出し、 PSTRTCDE は、比較されたと きに、RBN がデータ・セッ トを越えたことを示してい ます。異常終了が発行され ます。

考えられる原因: バッチの場合、アドレス・スペースの大きさが不十分でした。オンラインの場合、データベース作業プールが小さすぎました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

バッチ処理の場合、より大きなアドレス・スペースを指定します。オンライン処理の場合、より大きなデータベース作業プールを指定します。

問題判別:

13、17a、17b

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA00、DFSDLAS0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0478

説明

DL/I 呼び出しで、単一の DL/I データベース呼び出しのセグメント検索指数を構成する修飾ステートメントの最大許容数を超えました。単一の DL/I 呼び出しでの修飾ステートメントの最大数は 1024 です。

分析

0478 は、DL/I 呼び出しによって、または DL/I 呼び出しアナライザー・モジュール DFSDLAS0 のいずれかによって、検出される疑似異常終了です。アプリケーション・プログラムの異常終了ダンプを調べて、1024 を超える修飾ステートメントをもつ現行呼び出しを見つけます。

DL/I 呼び出しのセグメント検索指数に組み込まれた各修飾ステートメントは、DL/I によって FLD と呼ばれる 8 バイト・ブロックにエンコードされます。単一呼び出

しで DL/I によって FLD ブロック用に割り振られる最大スペースは、8192 バイトです。したがって、単一の呼び出しでは、最大 1024 までの修飾ステートメントを使用できます。DL/I 呼び出しがこの限度を超えると、この異常終了が発生します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

単一の DL/I 呼び出しで修飾ステートメントの数が 1024 の制限を超えないように、アプリケーション・プログラムを変更してください。

問題判別:

11、17a、17b

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLAS0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0479

説明

バッファー・プール統計を入手するためのバッファー・ハンドラーへの STAT 呼び出しから、ゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

0479 は、DL/I 呼び出しアナライザー・モジュール DFSDLA00 によって検出される疑似異常終了です。DL/I 呼び出しアナライザーは、バッファー・ハンドラー統計を戻すために、バッファー・ハンドラー機能を備えたバッファー・ハンドラーを呼び出します。戻り時に、戻りコード (レジスター 15) がゼロでなく、PSTRTCDE がこの場合に可能な 2 つの戻りコードのいずれでもありませんでした。2 つの可能な戻りコードは、PSTGTDS (要約統計が戻された) または PSTNOTFD (サブプールが定義されていない) です。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

これは、多くの場合、IMS 内部エラーです。

問題判別:

17a、17b、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDLA00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0481

説明

IMS が、未確定状態のデータに関する情報を識別し保管するための、リカバリー可能未確定構造 (RIS) を作成できませんでした。未確定データを所有している間にスレッドが異常終了すると、システムは常に RIS の作成を試みます。レジスター 15 にあるサブコードが、問題を詳細に示しています。

分析

この異常終了は、RIS 作成処理中に起きる可能性がある複数の異なる問題を示します。それぞれの問題は、内部 IMS エラーであり、何らかの IMS サービスに対する要求の失敗です。異常終了への入り口にある以下のレジスターを確認してください。

DFSDRISO の場合:

- R14=要求されたサービスが戻るリターン・アドレス。これは、サービス・マクロの直後の命令のアドレスです。
- R5=RRE ブロックのアドレス。これは RIS のアンカー・ブロックです。
- R6=RIS の作成、ロック保護の EEEQ 保護への変換、または障害が起きた CCTL のすべてのロックの保持を要求した AWE のアドレス。

DBFDBLSO の場合:

- R4=この UOR の RPST のアドレス。

DBFDRIso の場合:

- R2=RRE ブロックのアドレス。これは RIS のアンカー・ブロックです。
- R4=この UOR の RPST のアドレス。
- R14=要求されたサービスが戻るリターン・アドレス。これは、サービス・マクロの直後の命令のアドレスです (サブコード 102 の場合)。

レジスター 15 に、問題を識別するサブコードが入っています。サブコード 1xx は、高速機能サブコードです。

サブコード

説明

001

このログを読み取ることができません。

002

IMS ストレージ・マネージャーからブロックを取得できません。

003

この未確定の ITASK を作成できません。

004

RRE ブロックを SIDX ブロックにエンキューできません。RRE は未確定 UOW を識別し、SIDX は作業単位を所有していたサブシステムを定義します。

005

DDIR/PDIR を検出できません。

006

PSB をスケジュールできません。

007

入出力許容 EEEQ ブロックを取得できません。

008

不適切に作成/更新された RIS が検出されました。

009

ロック所有権を別のブロックに転送できないか、ロック保存呼び出しが失敗しました。

101

GETMAIN が高速機能 EEEQ ブロックの取得に失敗しました。

102

IMS ストレージ・マネージャーから高速機能 EQEL ブロックを取得できません。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別:

1、4、5、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDRISO、DBFDBLSO、DBFDRIso

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0482

説明

コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが、IMS DB/DC に接続するために INIT 呼び出しを発行したが、IMS DB/DC システムでは、データベース制御 (DBCTL) サブシステム・サポートに必須指定の DL/I SAS オプションが指定されていません。

システムの処置

IMS は、CCTL 接続処理を終了させます。

システム・プログラマーの応答

DBCTL サポートが必要な場合、IMS DB/DC システムに対して DL/I SAS オプションを指定します。

問題判別:

1、5、8、25、38

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0484

説明

IMS が始動したが、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムと IMS との間の再同期処理を完了することができませんでした。この処理は、IMS と CCTL との間で接続が行われるときか、またはオペレーター・コマンドに伝えるかのいずれかによって開始されます。レジスター 15 にあるサブコードが、問題を詳細に示しています。

この異常終了は、IMS がコーディネーター・コントローラー (CCTL) またはコマンドからの RESYNC 要求を処理中に問題が発生したことを示しています。RESYNC 要求は、未確定作業単位 (UOW) のコミットまたはアボートのいずれかです。

分析

この異常終了は、RESYNC 処理中に起きる可能性がある複数の異なる問題を示します。異常終了への入り口にある以下のレジスターを確認してください。

DFSDRIDO の場合:

- R14=最新の呼び出しのサービス・ルーチンが戻ったリターン・アドレス。異常終了は、何らかのサービスを実行させるのに失敗した結果です。
- R4=RRE ブロックのアドレス。これは、未確定データを識別する、リカバリー可能な未確定構造 (RIS) のアンカー・ブロックです。
- R7=この RESYNC 処理を開始した AWE のアドレス。

DBFDLOGO の場合:

- R6=DBRC に渡されたパラメーター・リストのアドレス。

レジスター 15 に、問題を識別するサブコードが入っています。サブコード 1xx は、高速機能サブコードです。

サブコード

説明

001

PDIR を検出できません

002

PSB をスケジュールできません

003

データベースを許可できません

108

ADSLIST 要求に対して DBRC からゼロ以外の戻りコード

112

ADSTAT 要求に対して DBRC からゼロ以外の戻りコード

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別:

1、4、5、36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDRIDO、DBFDLOGO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0485

説明

DFSDASD0 で、AWE のためのストレージ要求が失敗しました。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別

4, 35

ソース:

イムス 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0499

説明

挿入呼び出し数の最大値を超えたため、アプリケーションが X'A7' 状況コードを受け取りました。アプリケーションは、さらに別の挿入呼び出しの発行を試みたため、0499 で異常終了しました。

分析

0499 は、モジュール DFSCPY00 または DBFHSRTO によって発行される標準異常終了です。PCB でアプリケーション・プログラムに戻されるコードについては、DL/I 状況コードの説明を参照してください。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了し、PSB は停止されます。

プログラマーの応答

アプリケーション・プログラムが X'A7' 状況コードを認識するようにするか、あるいはシステム定義時に TRANSACT マクロで指定される最大挿入数を増やします。

問題判別

アプリケーション・ダンプおよび IMS システム定義のリスト。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSCPY00、DBFHSRTO

関連資料

[DL/I 状況コードの生命 \(メッセージおよびコード\)](#)

0500

説明

イムスは、TCB DEB チェーンの後、7770-3 DCB が指している DEB を検出できませんでした。この問題はおそらく、イムスまたはホスト・システム・エラーによって引き起こされたものです。

分析

0500 は、z/OS システム、モジュール DFSASV20 の 7770-3 DEB ビルダーによって発行される可能性がある標準異常終了です。このモジュールによってエラーが検出された場合は、異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル COMABEND 内の命令を指しています。このルーチンは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 11 は、基底レジスターです。レジスター 10 に、7770-3 の DCB アドレスが入っています。レジスター 6 には、7770-3 DCB が指している DEB のアドレスが入っています。レジスター 1 に、異常終了完了コード X'800001F4'が入っています。

キー	ラベル	解説
Reg2=0 Reg6=ポインター DEB への	ネクストデブ	TCB DEB チェーンは、DCB で指し示されている DEB を検索します。一致するものがないとチェーンの終わり (レジスター 2=ゼロ) に達すると、異常終了が発行されます。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

イブン ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

問題判別:
1, 6, 10, 11, 35

ソース:
イムス 異常終了

モジュール:
DFSASV20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 14 章 IMS 異常終了コード 0501 - 0600

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0501

説明

3270 リモート端末装置または 3275 ダイヤル端末装置の装置依存モジュールが未解決問題を検出しました。

分析

0501 は、3 つのモジュール DFSDN130、DFSDN140、DFSDS060 のいずれかによって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。また、コンソール・シートを調べて、障害が起きた端末に関連した IMS メッセージが出されていないか確認し、それぞれのセンス/状況バイトに注意する必要があります。

現在は 3 つのモジュールのすべてが、ラベル ABEND501 内に無条件ブランチ命令を持っており、0501 異常終了の周辺に分岐します。異常終了を取得するためには、NOOP 命令を使用してこの分岐をザップする必要があります。あるいは、モジュールの外に分岐し、再アセンブルおよび再リンクすることもできます。現在は、異常終了の代わりに、回線がシャットダウンされ、メッセージ DFS001I「UNDETERMINED ERROR ON 3270, LINE x, PTERM y」がマスター・コンソールに送信されます。ログ・レコード X'67'、サブタイプ X'01' がログに書き込まれるため、IMS TRACE により、制御ブロックおよびレジスターをトラップすることができません。

考えられる原因: ユーザーが IMS コードを変更したか、あるいはこれは端末のハードウェア障害である可能性があります。

DFSDN130 の場合:

これは、3270 リモート装置依存モジュール DFSDN130 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールによって検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、(SVC 13) 異常終了の発行元であるラベル ABEND501 内の命令を指しています。このルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって BAL されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、1 次基底レジスターです。レジスター 3 は、2 次基底レジスターです。レジスター 14 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 7 に、CTB のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001F5' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg7=CTB B のアドレス CTBDCTL 2=>X'80' Reg14=BAL	RI0 40	これは、端末が選択された後、発行元端末のデータの開始アドレスを判別するためのルーチンです。READ CONTINUE 操作が完了すると、装置依存モジュールは CTBD2SEL フラグをテストして、入力中の端末 CTB が、前の READ INITIAL で入力を処理するために使用されたのと同じ CTB であることを確認します。メッセージの途中で CTB を変更することはできないため、ルーチンはラベル ABEND501 に BAL します。

DFSDN140 の場合:

これは、3270 ローカル装置依存モジュール DFSDN140 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールによって検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND501 内の命令を指しています。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 14 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 7 に、CTB のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001F5' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg7=CTB のアドレス CTBFLAG3= CTB3LAST Reg11=SCD のアドレス	RSU 003	読み取りセットアップ・ルーチン内に、より大きいバッファを使用し画面を再読み取りする必要があるかどうかを判別するためのルーチンがあります。CLB 内の CLBDBUF フラグはオンですが、装置依存モジュールは、その回線の最後の CTB に達する前に、CTBDBUF も設定された CTB を見つけることができませんでした。CLBDBUF=X'01' の場合、CTBDBUF フラグが設定された CTB が少なくとも 1 つ必要です。そのようになっていない場合、ルーチンはラベル ABEND501 に分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg7=CTB のアドレス Reg9=CLB のアドレス CLBDCTL= CLBDREAD	RI01 0	READ INTERRUPT に対して無効な入力が行われました (DD4 エントリー)。ルーチンは、UNLOCK 完了、READ INITIAL 完了、または READ MODIFIED 完了を検査します。これらの条件のいずれも検出できない場合、ルーチンはラベル ABEND501 に BAL します。

DFSDS060 の場合:

これは、3275 ダイヤル装置依存モジュール DFSDS060 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールによって検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND501 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 9 に、CLB のアドレスが入っています。レジスター 7 に、CTB のアドレスが入っています。レジスター 15 には、モジュール DFSCSEA0 (2 進同期交換回線エラー分析ルーチン) またはモジュール DFSCVETO (3270 切断判別ルーチン) からの戻りコードが入ります。この戻りコードは、エラー条件を処理するためのブランチ・テーブルへの索引としての役目を果たします。

DFSCVETO は、X'08' をレジスター 15 に戻します。

これは、端末上の現行の出力メッセージをデキューするように伝えます。

DFSCSEA0 は X'02' をレジスター 15 に戻します。

DFSDS060 は、この値に 4 を乗算して、戻りコード X'08' の索引値を入手します。これは、競合状態があることを伝えます。

キー	ラベル	説明
Reg9=CLB の アドレス Reg15=DFSC SEA0 からの X'08'	CHEC K	このサブルーチンは、入出力操作でエラーが発生したかどうかを判別します。モジュール DFSCSEA0 に BALR し、これがレジスター 15 に戻りコードをロードします。この場合、競合状態が発生しており、レジスター 15 に X'02' が入ります。DFSDS060 は、この値に 4 を乗算し (ラベル CHK040 で)、その結果、ブランチ・テーブル・エントリ索引 X'08' が生成されます。これにより、ラベル ABEND501 に分岐し、異常終了します。

キー	ラベル	説明
Reg15=DFSC VETO からの X'08'	CON NECT 2	CONNECT1 にあるルーチンはモジュール DFSCVETO に分岐し、これがレジスター 15 に戻りコードをロードします。この場合、渡される戻りコードは X'08' で、これは端末上の現行の出力メッセージをデキューする必要があることを示しています。DFSDS060 は戻りコードの X'08' をブランチ・テーブルへの索引として使用し、これが無効な条件であることを検出して、異常終了するためにラベル ABEND501 に分岐します。

システムの処置

メモリー・ダンプを生成するために、異常終了命令が発行されています。

プログラマーの応答

障害の原因を判別します。この問題が IMS 障害によって発生した場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。この問題がユーザー変更またはハードウェアによって発生した場合、問題を訂正してから、障害のあった操作を再試行します。

問題判別:

4、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDN130、DFSDN140、DFSDS060

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0502

説明

DFSDN070 の IMS グラフィックス・アテンション・ハンドラー・ルーチンが、2260 ローカル CLB を通知しようとしたが、アイドル・フラグ (CLB2IDLE) がオンにもかかわらず、この DECB が制御領域によって使用されていました。これは、IMS システム・エラーです。

分析

これは、モジュール DFSDN070 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

IMS が異常終了します。z/OS システムは、次のジョブ (ある場合) の処理を続行します。

オペレーターの応答

緊急時再始動プロシージャまたはコールド・スタートを使用して IMS を再始動できます。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDN070

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0503

説明

停止を試みている CTB は、現在ディスパッチされている回線と同じ回線上にありません。PTERM に操作不能のマークを付けるルーチンが、PTERM の CTB が通信タスクと同じ回線上にないことを検出しました。レジスター 9 は、その回線の CLB を指し、レジスター 7 は、障害のある PTERM の CTB を指します。

分析

これは、端末に操作不能のマークを付ける通信モジュール DFSCPINO によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。このルーチンへは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。各 CLB (通信回線ブロック。回線状況情報を含む) は、関連付けられた DECB を持っています。このブロック (IECTDECB) は、レジスター 9 で指し示されています。レジスター 7 に、CTB へのポインターが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800002F7' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg7=CTB のアドレス Reg9=DECB の	DOIT	Reg9 内の CLB アドレスが、レジスター 7 で指し示された CTB 内の CLB フィールド (CTBCLB) と比較されます。2 つのアドレスが等しくない場

キー	ラベル	説明
アドレス (CLB)		合、ラベル ABEND に分岐します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

IMS を再始動してください。エラーが続く場合、障害が訂正されるまでは、処理を継続するために、障害のある回線の DD ステートメントを除去します。

問題判別:

5、11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCPINO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0504

説明

IMS 交換回線接続/切断プロセッサ・モジュール (DFSICLA0) が、交換回線上の照会論理端末に属するメッセージを削除しようとしているときに、キュー・マネージャーに対する GET UNIQUE (GU) または DEQUEUE (DEQ) 呼び出しでエラーを検出しました。これは、IMS システム・エラーです。

分析

これは、交換回線の接続/切断プロセッサ・モジュール DFSICLA0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の検出元であるラベル RWQERR 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 11 に、SCD のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001F8' が入っています。レジスター 15 に、キュー・マネージャーからの戻りコードが入っています。DFSICLA0 は、受け入れ不能な戻りコードの場合、異常終了を発行します。

- GU 呼び出しの場合、X'00' と X'08' が受け入れ可能な戻りコードです。それ以外はすべてエラーです。

- DEQ 呼び出しの場合、X'00' が唯一の受け入れ可能な戻りコードです。それ以外はすべてエラーです。

キー	ラベル	説明
Reg11=SC D のアドレ ス Reg14=BA LR Reg15= キュー・マ ネージャー からの戻り コード	DEQM SG	キュー・マネージャーの読み取りキュー・ルーチンのアドレスは、ラベル SCDIRWQE にある SCD 内で見つかります。DFSICLAO は、呼び出しをデキューするためにキュー・マネージャーに BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 に受け入れ可能な戻りコード X'00' が入っていない場合、異常終了するためにラベル RWQERR に分岐します。
Reg11=SC D のアドレ ス Reg14=BA LR Reg15= キュー・マ ネージャー からの戻り コード	GETMS G	キュー・マネージャーのルーチンのアドレスは、ラベル SCDIRWQE にある SCD 内で見つかります。DFSICLAO は、GET UNIQUE 呼び出しを行うためにキュー・マネージャーに BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 に受け入れ可能な戻りコード X'00' または X'08' が入っていない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別

4、35

DFSQMGR0 からの戻りコードがレジスター 2 に入っています。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSICLAO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0505

説明

IMS が、サブプール 230、キー 5 で、新規の 7770-3 DEB のためのストレージを獲得しようとしていました。し

かし、この要求を満たすのに使用可能な仮想記憶域がありませんでした。

分析

これは、モジュール DFSASV20 によって発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 11 は、基底レジスターです。レジスター 10 に、7770-3 DCB アドレスが入っています。レジスター 6 に、DCB で指し示された DEB のアドレスが入っています。レジスター 2 に、要求されたストレージのサイズが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=要求され たサイズ Reg6=DEB へ のポインター	COUNT ED	サブプール 230 に対する GETMAIN SVC が発行されており、戻りコードがレジスター 15 にロードされません。戻りコードがゼロ以外の場合、ルーチンは異常終了するためにラベル GETMFAIL に分岐します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答:

次回に IMS 制御領域を開始するときに、領域サイズを増やしてください。

問題判別:

1、4、8、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASV20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0506

説明

DFSBACK0 によって論理エラーが検出されました。次の 2 つのタイプのエラーのいずれかが発生しました。

- すべてのログ・データ・セットが EOF まで逆方向に読み取られましたが、リカバリー・トークンの 1 つである、バックアウトのための停止点が検出されませんでした。ただし、順方向読み取り時には停止点が検出されました。これは、ログ・データ・セットがラベルなしテープ上にあり、オペレーターが逆方向読み取り時と順方向読み取り時で同じテープをマ

ウントしなかった場合に発生する可能性があります。

2. データベース管理でエラーが発生しました。

分析

レジスター 6 の内容を確認します。

レジスター 6 がゼロの場合

バッチ IMS 入力ログの場合、入力ログの逆方向読み取りは、タイプ X'41' または X'0605' レコードが検出されると終了する必要があります。すべてのログ・データ・セットが EOF に向かって逆方向に読み取られたが、リカバリー・トークンの 1 つである、バックアウトのための停止点が検出されませんでした。ログ・データ・セットの順方向読み取りでは、停止点は検出されました。このエラーの理由として、次のものが考えられます。

- ログ・データ・セットがラベルなしテープ上にあり、オペレーターが逆方向読み取り時と順方向読み取り時で同じテープをマウントしなかった。
- 入力ログがマルチボリューム DASD データ・セットである。

IMS DB/DC または DBCTL サブシステムからの入力ログの場合、この異常終了は発生しないはずで

レジスター 6 がゼロ以外の場合

データ・スペース管理エラーが発生しました。レジスター 6 に、モジュール DFSBACK0 内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 15 に、データ・スペース管理モジュール DFSRVSP0 からの戻りコードが入っています。モジュール DFSRVSP0 からの戻りコードは次のとおりです。

- 12 RVDL ブロックを取得できない
- 16 データ・スペースを取得できない
- 20 データ・スペースを拡張できない
- 24 誤ったデータ・スペースの参照 (誤ったトークン)
- 28 誤った長さの検索
- 32 ALET を取得できない
- 36 使用可能な補助ストレージが不十分である

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 6 がゼロの場合

- ログ・データ・セットがラベルなしテープ上にある場合、オペレーターが逆方向読み取り時と順方向読み取り時で同じテープをマウントしたかどうかを確認します。
- マルチボリューム・テープ・データ・セットに対してモデル DSCB 名が指定された場合、変更されたデータベースごとにデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行します。ただし、バッチ・バックアウトの出力ログは除外します。入力ログの DD ステートメントからモデル DSCB 名への参照を除去して、バッチ・バックアウトを再実行します。

レジスター 6 がゼロ以外の場合

レジスター 6 がゼロ以外であり、レジスター 15 内のコードが 36 の場合は、READBACK オプションを使用してみてください。これでうまくいかない場合、またはレジスター 15 に別の値がある場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSBACK0

0507

説明

バッチ・バックアウト・ユーティリティで異常終了オプションが選択されました。この異常終了は、SYSIN で ABEND 制御ステートメントを指定してバッチ・バックアウト・ユーティリティが実行される場合に常に発行されます。

また、ABENDMSG 制御ステートメントが指定されていて、メッセージ DFS894I、DFS896A、DFS3278A、または DFS3289A が出される場合にも、この異常終了が発行されます。

分析

メッセージ DFS894I の場合:

メッセージ DFS894I は、以下の表に適用されます。

メ ッ セ ー ジ	サブ コー ド	キー	ラベル	説明
DF S89 4I	01	Reg3=0	LOGRSR CH	可変レコードの レコード長がゼ ロです。

メッセージ	サブコード	キー	ラベル	説明
02	2(Reg2)→=0	LOGRSR CH		ゼロ以外のスパン・ビットをもつ可変レコードが検出されました。
03	Reg3→=POO LED +1	GOSUB 2		テープ入力の場合、BDW + バッファ開始アドレスが、POOLENDより大きくなっています。
04	Reg2+Reg3 > BLOCKEND	LOGRSR CH		バッファ内の可変長レコードが BLOCKENDより大きくなっています。

ABEND 制御ステートメントが使用されている場合、すべてのバックアウト処理が完了した後で、異常終了が発生します。これは、最終的な戻りの前、かつログ・データ・セットがクローズされる前です。この異常終了は無条件であり、診断の目的にのみ使用されます。

ABENDMSG 制御ステートメントが使用されている場合、エラー・メッセージを発行し、入力ログをクローズした(必要な場合)後で、異常終了が発生します。

現行ログ・レコードは、RECPTTR フィールド内のアドレスを使用して見つけることができます。エラー・メッセージが出される時点で有効なレジスターは、STM レジスター 12、レジスター 11 を使用して、フィールド REGSAVE から始めて保管されます。

考えられる原因: この異常終了とメッセージ DFS894I の場合、原因には以下のものが含まれます。

- 不適切にクローズされたログ・データ・セット
- 破損したログ入力(正常でないテープ/ドライブ)
- 入出力読み取りエラー
- 正常でないログ・レコード

メッセージ DFS896A の場合:

以下の表は、メッセージ DFS896A に適用されます。

メッセージ	サブコード	キー	ラベル	説明
DFS896A	01	Reg2→ = 0	DBCTL 08	GPR02 で指し示されたリカバリー単位(UOR)トークンが、RECPTTR で指し示された TYPE08 非

メッセージ	サブコード	キー	ラベル	説明
				CICS レコードと同じリカバリー・トークン値を持っています。
02	TOKFA IL がオ ン	MTCHT OK		GPR02 で指し示されたリカバリー単位(UOR)トークンが、RECPTTR で指し示された非 TYPE08 CICS レコードと同じ PST を持っています。動的バックアウトが失敗したことを示している、TYPE07 終了レコードが既に検出されました。

考えられる原因: 誤った、または不完全なログ入力、この異常終了とメッセージ DFS896A の原因である可能性があります。

メッセージ DFS3278A の場合:

以下の表は、メッセージ DFS3278A に適用されます。

メッセージ	サブコード	キー	ラベル	説明
DFS3278A	01	Reg2 + X'21' が、 フィールド SAVETI ME より 小さくな っています。	CASE5 0BF	現行の TYPE5X ログ・レコード(RECPTTR)が TYPE06 より小さい日時を持っているか、あるいは順方向読み取り時に、前の TYPE5X レコードが処理されました。
	02	NBLKA または DPOOLA DR が、 DPOOLE ND より 大きくな っています。	DREAD 020	DASD ログの逆方向読み取り時に、現行バッファを越えて処理しようとなりました。
	03	DDLAST T=TT	DCCHT EST	DASD ログの逆方向読み取り時に、EOF の欠落が検出されました。

メッセージ	サブコード	キー	ラベル	説明
	04	Reg2 + X'14' が、フィールド SAVETIME より小さくなっています。	CASE06BF	バッチ・ログで TYPE06 レコードが検出され、日時が SAVETIME より小さくなっています。
	05	LGSEQNR	GOSUB3 BCKSEQNR	IMS バッチ・ログ入力データ・セットについて、順方向読み取り時に読み取られた最後のログ・レコードのログ・レコード・シーケンス番号 (LGSEQNR) が、逆方向読み取り時に読み取られた最初のレコードのログ・シーケンス番号 (BCKSEQNR) に一致しません。

考えられる原因: この異常終了とメッセージ DFS3278A の原因には、以下のものが含まれます。

- ・ 不適切にクローズされたログ・データ・セット
- ・ 破損したログ入力
- ・ 無効なログ入力
- ・ IMSLOGR 入力の JCL エラーが、この異常終了とメッセージ DFS3278A の原因である可能性があります。

メッセージ DFS3289A の場合:

以下の表は、メッセージ DFS3289A に適用されます。

メッセージ	キー	ラベル	説明
DFS3289A	Reg2 で指し示されたレコードのログ・シーケンス番号が、前のシーケンス番号 + 1 に等しくありません。		2つの隣接するレコードのログ・レコード・シーケンス番号が、1だけ増えていませんでした。メッセージは、予期されたシーケンス番号と、検出されたシーケンス番号を表示します。

考えられる原因: この異常終了とメッセージ DFS3289A の原因には、以下のものが含まれます。

- ・ 不適切にクローズされたログ・データ・セット
- ・ 破損したログ入力
- ・ 無効なログ入力
- ・ IMSLOGR 入力での JCL エラー

システムの処置

処理終了後、ユーティリティーはダンプ付きで終了します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSBACK0
関連情報
[DFS894I](#)
[DFS896A](#)
[DFS3278A](#)
[DFS3289A](#)

0509

説明

メッセージ生成プログラム・モジュール (DFSCLM00) が、IMS コマンドへの応答メッセージの作成中に、無効な SYSID を検出しました。

分析

これは、通信メッセージ生成プログラム・オーバーレイ・セグメント・プロセッサ DFSCLM00 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND509 内の命令を指しています。このラベルへは、エラーを検出したルーチンによって分岐リンクされます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 8 は、スクラッチパッドを指しています。レジスター 7 に、CTB アドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FD' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=ゾーン SID へのポインター Reg6=SID Reg9=CLB のアドレス	SIDBIN	ゾーン SID をバイナリーに変換するためのルーチンで、Reg6 が検査され、SID が 1 文字のみの長さであることが確認されます。そのようなになっていない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND509 に分岐リンクします。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IMS システム・コードに問題の原因がある可能性があります。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCLM00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0511

説明

会話型処理エラーが発生しました。無効なバッファ要求が指定されたか、またはアクティブな会話がないときに会話を解放する要求が出されました。この問題は、おそらく IMS システム・エラーです。

分析

これは、モジュール DFSCONM0、DFSCON00、DFSCON10、DFSCON20 のいずれかによって発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入りのプログラムの状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに分離します。この異常終了は、会話型制御ブロックのいずれかのエラーにより、または処理に不可欠なポインタが無効であるために、会話型処理を続行できないことによって起こります。

通常、レジスター 5 は BAL レジスターとして使用され、そのモジュール内の障害を特定の記述ラベルに分離するのを補助します。

DFSCONM0 の場合:

これは、リモート・システムから SPA を挿入するための会話型プロセッサ・モジュール DFSCONM0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入りのプログラムの状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND511 内の命令を指しています。

このモジュールからの異常終了 0511 の原因になる可能性があるエラーには、2 つの異なるタイプがあります。

1. CTB ポインタが正常でない場合 (これは、下記の最初のラベルに示されたケース)、このエラーを検出す

るルーチンは、異常終了を発行するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

2. CCB 内の情報が意味不明である場合、問題を検出するルーチンはラベル ERRCCB に条件付き分岐し、これが異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 6 に、CCB アドレスが入っています。レジスター 7 に、リンクの CTB アドレスが入っています。レジスター 10 に、宛先 CNT アドレスが入っています。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FF' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=CNT からの CTB ポインタ Reg4=CTB ポインタ	(以下の直前) CONMOK1	会話が進行されているかどうかを判別するためのルーチンで、CTB ポインタが検査されます。レジスター 3 とレジスター 4 が比較されます。これらのレジスターのアドレスが等しくない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=SPA からの CCB 番号 Reg8=パック入力 SPA へのポインタ Reg11=SCD のアドレス	CONMWASE	入力 SPA から CCB を取得して検査するためのルーチンで、SCD (ラベル SCBCCBN にある) 内の CCB 番号が、SPA からの CCB 番号と比較されます。SPA からの CCB 番号の方が高ければ、異常終了を処理するためにラベル ERRCCB に分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg4=CTB へのポインター (会話型 PTERM) CTBFLAG1=X'00' または X'04'	CONM WASE	会話の妥当性検査をするルーチンで、レジスター 4 によって指し示された CTB の CTBFLAG1 フィールドがテストされます。最初に、PTERM が会話モードであるかどうかを調べます。会話モードでない場合、異常終了を処理するためにラベル ERRCCB に分岐します。2 番目のテストでは、会話保留中 (PTERM 上でアクティブでない) かどうかを調べます。答えが「はい」であれば、異常終了を処理するためにラベル ERRCCB に分岐します。
Reg4=CTB のアドレス Reg6=CCB のアドレス	CONM WASE	会話の妥当性検査をするルーチンで、CCB と CTB が一致しているかどうかを調べるための比較が行われます。この 2 つのブロックが等しくない場合、異常終了を処理するためにラベル ERRCCB に分岐します。

DFSCON00 の場合:

これは、会話型プロセッサ START/CONT/END モジュール DFSCON00 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND 内の命令を指しています。このルーチンへは、ラベル ABND511 にあるルーチンによって無条件分岐され、これが異常終了コードをレジスター 1 にロードします。ラベル ABND511 へは、エラーを検出したルーチンによって BAL されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FF' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg0	CONTIN UE	レジスター 0=MINUS に、0 (開始) または 1 (続行) が入っている必要があります。
Reg6=CC B	CONTIN UE	CTBCCBPT からロードされたレジスター 6 に、CCB ポインターが入っている必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg5 ⇐ 0	LOGERR	会話の開始をログに記録しようとしているときに、ゼロ以外の戻りコード。
Reg15 ⇐ 0	ISRTFLG 1	「insert prefix」呼び出しを試みているときに、ゼロ以外のキュー・マネージャー戻りコード。
Reg15 ⇐ 0	ISRTFLG 2	「put locate」呼び出しを試みているときに、ゼロ以外のキュー・マネージャー戻りコード。
Reg15 ⇐ 0	FNDBRE AD	位置変更呼び出しを試みているときに、ゼロ以外のキュー・マネージャー戻りコード。
Reg15 ⇐ 0	ISRTISR T	APPC 接頭部のメッセージ接頭語移動呼び出しを挿入しようとしているときに、ゼロ以外のキュー・マネージャー戻りコード。

DFSCON10 の場合:

これは、SPA を挿入している会話型プロセッサ・モジュール DFSCON10 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND 内の命令を指しています。このルーチンへは、ラベル ABND511 にあるルーチンによって無条件分岐され、これが異常終了コードをレジスター 1 にロードします。ラベル ABND511 へは、エラーを検出したルーチンによって BAL されます。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FF' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg4=入力 端末 SID Reg11=SCD のアドレス	VERSI D	入力端末の SID を取得して検査するためのルーチンで、レジスター 4 にゼロが入っている場合、ラベル VERSIDER に分岐します。ゼロでない場合は、レジスター 4 内の SID と SCD (ラベル SCDSIDN にある) 内の SID 範囲値が比較されます。入力端末の SID が有効範囲より高い場合、ラベル VERSIDER に分岐します。ラベル VERSIDER は、異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

キー	ラベル	説明
Reg7=CTB のアドレス CTBFLAG1= X'00'	CONLL OC	CTBFLAG1 フィールドをテストして、この PTERM が会話モードであるかどうかを調べます。このフィールドがゼロの場合、ラベル CONLERR1 に分岐し、これが異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg8=DFSC ONG0 からの SPA への ポインター Reg9=PST のアドレス Reg15=DFS CONG0 から のゼロ以外 の戻りコード	CONL WASE	CSECT DFSCONL0 内のルーチンが、入力メッセージから SPA を取り出すために、モジュール DFSCONG0 に BALR します。レジスター 15 に戻りコードがロードされた後、戻りコードがテストされます。これがゼロ以外の場合、ラベル CONLESPA に分岐します。ゼロの場合、SPA と PSTCCB 番号が比較されます。これらが等しくない場合、ラベル CONLESPA に分岐します。ラベル CONLESPA は、異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=キ ュー・マネー ジャーから のゼロ以外 の戻りコード DECTYPE=X '9B'	CONLR MT	一連の呼び出しによりメッセージ・キュー内にスペースを予約し、その中にメッセージ・セグメントを入れるルーチンで、ルーチンがキュー・マネージャーに BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合 (無効な長さ、セグメントが移動されなかったことを示しています)、ラベル BAL511 に分岐し、これは異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=キ ュー・マネー ジャーから のゼロ以外 の戻りコード DECTYPE=X '9A'	UPPRF SPA	このルーチンは、接頭部を挿入するためにキュー・マネージャーに BALR し、レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合 (メッセージ接頭語が更新されなかったことを示しています)、ルーチンはラベル BAL511 に分岐し、これは異常終了を処理するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。

キー	ラベル	説明
Reg15=キ ュー・マネー ジャーから のゼロ以外 の戻りコード DECTYPE=X '9A'	ISRT6 2PF	

DFSCON20 の場合:

これは、会話型プロセッサ終了モジュール DFSCON20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。エラーがこのモジュールで検出されている場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND511 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 7 に、CTB アドレスが入っています。レジスター 11 に、SCD のアドレスが入っています。レジスター 1 には、異常終了完了コード X'800001FF' が入っています。レジスター 0 の下位バイト (バイト 3) に、終了のために DFSCONE0 が呼び出された理由を説明するベクトル値が入っていることがあります。以下は、受け入れ可能なベクトル値とその意味を示しています。

コード 意味

- X'00'**
会話型 MPP 異常終了。
- X'04'**
この会話の処理時の重大エラー。
- X'08'**
ローカルまたはリモート /EXIT。
- X'0C'**
/START。
- X'10'**
非アクティブ会話の SPA。
- X'14'**
矛盾する定義が認知された。
- X'18'**
/EXIT および入力メッセージがまだアクティブ。
- X'1C'**
/START および入力メッセージがまだアクティブ。
- X'20'**
会話型 MPP が端末に応答を挿入しなかった。

キー	ラベル	説明
Reg10=SAV VPTR>'X'14' に設定された作業保管域	DFSCO NXO	フィールド SAVVPTR を比較して、保管ベクトルが有効 ('X'14' の戻りコードより小か等しい) かどうかを調べます。保管ベクトルが無効 ('X'14' より大きい戻りコード) 場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CCB 番号 VCT='X'00' Reg11=SC Dのアドレ ス	CONX LOC	レジスター 6 の CCB 番号が、SCD の CCB 番号範囲と比較されます。レジスター 6 の値が有効範囲を超えている場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CCB の アドレス Reg7=CTB のアドレス VCT='X'00'	CONX LOC3	宛先端末が会話中の PTERM であるかどうかを調べるために、レジスター 7 の CTB アドレスと CCB (ラベル CCBCTBPT にある) の CTB ポインターが比較されます。この 2 つのアドレスが等しくない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CCB からの CCB ポイン ター Reg7=CTB のアドレス VCT='X'0C'	CONXI CL4	レジスター 6 に、CTB からの CCB ポインターがロードされます。テスト時に、レジスター 6 の値がゼロまたは負の場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg8 -= SPA へのポイン ター VCT='X'00'	CONX RMT	会話がリモート・システムにあるかどうかを検査するためのルーチンで、レジスター 8 をテストして、SPA が使用可能であるかどうかを調べます。レジスター 8 の値がゼロの場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CTB からの CCB ポイン ター	DFSCO NTO	CCB を非アクティブ・キューにリストアするためのサブルーチンで、レジスター 5 がテストされます。レジスター 5 のアドレスがレジスター 6 のポインターより低いか等しい場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg4=CCB からの	CONT 2	CCB (ラベル CCBCTBPT にある) からの CTB ポインターが、レジスター 7 の CTB アドレスと比

キー	ラベル	説明
CTB ポイン ター Reg4 -= Reg7 Reg7=CTB のアドレス		較されます。この 2 つのアドレスが等しくない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg6=CCB の アドレス CCBFLAG1 =ゼロ	CONT 2A	CCB の CCBFLAG1 をテストして、この CCB 上の会話がアクティブかどうかを調べます。このフラグ・フィールドがゼロの場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=論 理ロガーか らのゼロ以 外の戻りコ ード	CONT 4	会話の終わりをログに記録するためのルーチンが、論理ロガーに BALR し、その戻りコードをレジスター 15 にロードします。ロギングが成功したかどうかを調べるためにレジスター 15 がテストされたときに、レジスター 15 がゼロでない場合、ルーチンはラベル LOGERR に分岐し、これは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
R15=Q マネージャ ー からの ゼロ以外の 戻りコード	CONX RMT2	このルーチンは、処理中の出力メッセージ・チェーンを解放するためにキュー・マネージャーに BALR します。レジスター 15 に戻りコードがロードされます。テスト時に、レジスター 15 がゼロでない場合、ルーチンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=Q マネージャ ー からの ゼロ以外の 戻りコード	ENQIT	ENQ LIFO 要求で SPA をエンキューしようとしているときに、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードが戻されました。
Reg15=ロ ガーからの ゼロ以外の 戻りコード	LOGER R	ロガーが、タイプ 12 ログ・レコードを書き込もうとしている時に、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。

キー	ラベル	説明
Reg6=SPA からの CCB 番号 Reg8=パッ ク SPA への ポインター Reg11=SC D のアドレ ス	VERAC T	会話がまだアクティブかどうか を検査するルーチンで、レジス ター 6 の CCB 番号が、SCD (ラ ベル SCDCCBN にある) の CCB 番号範囲と比較されます。レジ スター 6 の値の方が高い場合、 ルーチンは異常終了するために ラベル ABND511 に分岐リンク します。
Reg4=CCB からの CTB ポイン ター CTBFLAG1 =ゼロ	VERAC T1	CTB の CTBFLAG1 フィールド をテストして、PTERM がまだ会 話中であるかどうかを調べま す。フラグがゼロの場合、ルー チンは異常終了するためにラベ ル ABND511 に分岐リンクしま す。
Reg4=CTB のアドレス CTBFLAG1 ='X'40'	VERAC T2	CTB の CTBFLAG1 フィールド をテストして、会話が保留中 であるかどうかを調べます。保 留中である場合、ルーチンは異 常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg3 -= SID	VERR MT	SID が有効であるかどうかを検 査するルーチンで、レジスター 3 がテストされます。これがゼ ロの場合、ルーチンは異常終了 するためにラベル ABND511 に 分岐リンクします。
Reg3 -= SID Reg11=SC D のアドレ ス	VERR MT1	レジスター 3 の SID 番号と SCD (ラベル SCDSIDN にある) の SID 番号範囲を比較して、 SID が有効範囲内にあるかど うかを調べます。レジスター 3 の値の方が高い場合、ルーチ ンは異常終了するためにラベル ABND511 に分岐リンクします。
Reg15=キ ュー・マネ ージャーか らのゼロ以 外の戻りコ ード	ROUT E	このルーチンは、メッセージ・ キュー・バッファ内にスペー スを予約し、その中にメッセ ージを入れるために、キュー・ マネージャーに BALR します。レ ジスター 15 に、ゼロ以外の戻 りコードがロードされます。テ スト時に、レジスター 15 がゼ ロでない場合(メッセージ・セグ メントが移動されなかったこと を示しています)、ルーチンは異 常終了するためにラベル ABND 511 に分岐リンクします。

キー	ラベル	説明
Reg15=メ ッセージ・ ルーターか らの ゼロ以外の 戻りコード	ROUT ER	このルーチンはメッセージをエ ンキューするためにメッセー ジ・ルーターに BALR し、レジ スター 15 に戻りコードがロー ドされます。テスト時に、レジ スター 15 がゼロでない場合、 ルーチンは異常終了するために ラベル ABND511 に分岐リンク します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

1、4、6、25、26、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCONM0、DFSCON00、DFSCON10、DFSCON20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0512

説明

CCTL または ODBA スレッドからの継続要求を伴う継
続または ROLLBACK を使用した COMMIT の処理中に、
IMS は、未解決の DBD/DBR コマンドがあることを判別
しました。COMMIT または ROLLBACK 要求が完了す
ると、DBD/DBR コマンドの完了を可能にするために、
異常終了 512 で「続行」オプションが拒否されます。

分析

COMMIT または ROLLBACK プロセスが正常に完了しま
したが、スレッドは終了しました。

システムの処置

DBD/DBR コマンドの完了を可能にするために、CCTL/
ODBA スレッドが終了します。

プログラマーの応答

最後の COMMIT 点から CCTL スレッドまたは ODBA ス
レッドを再始動してください。

問題判別

6,7

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDSC00

0513

説明

トランザクション・マネージャー (TM) の 1 つのバッファ・プール (CIOP、HIOP、または SPAP) または自動操作バッファ・プール (AOIP) のいずれかのオーバーレイが発生した可能性があります。高速機能では、高速機能セグメント圧縮作業域 (SEG1 または SEG2) のストレージ・オーバーレイが発生している可能性があります。このエラーは、ユーザーの TM 出口または編集ルーチンの 1 つ、アクセス方式 (ヴタムなど)、またはイムスコード内のエラーのいずれかが原因である可能性があります。オーバーレイが AO プールに対するものである場合は、ユーザーのタイプ 2 AO 出口 (DFSAOE00 または別の AOIE タイプのユーザー出口) がエラーの原因となっているか、またはイムスコード内のエラーが発生した可能性があります。レジスター 15 の理由コードに、この失敗の原因を診断するための追加情報が記載されています。

分析

この異常終了は、通常、AO バッファ・プール AOIP 内でオーバーレイが発生したときに、さまざまなモジュールによって発行される標準異常終了です。バッファがオーバーレイされている回線、ノード、MSC リンク、または従属領域の処理中にエラーが検出された場合は、各モジュール内のエラーの説明を参照して、さらに詳しい診断情報を確認してください。

レジスター 9 には、回線またはノード、リンクの論理リンク・ブロック (LLB)、または従属領域の区画指定テーブル (PST) に関連した通信回線ブロック (CLB) のアドレスが入っています。レジスター 9 は、APPC 装置への入出力のために DFSLIEE0 から出された場合、0513 には適用されません。

レジスター 13 に、活動保管域のアドレスが入っています。イムス 定様式ダンプ内の診断域トレースまたは保管域トレースに設定された完全な保管域は、異常終了に至るまでのモジュール・フローを判別するのに役立ちます。

フィールド SCDSMCON には、4 つのプール (入出力、CWAP、HIOP、および LUMP) 内のすべてのバッファの終わりに検出された 8 バイトの定数が含まれています。バッファは、すべての出口ルーチンの呼び出し前と呼び出し後に妥当性検査されるため、出口ルーチンを呼び出すその後というエラーは、出口ルーチン自体の原因である可能性が高いです。

出口ルーチンが標準レジスター保管規則を使用している場合、ルーチンに渡されるレジスターは、異常終了時のレジスター 13 によって指し示された保管セットにあります。

各モジュールの診断情報は次のとおりです。

DBFCMP10 の場合:

高速機能セグメント圧縮作業域 (SEG1 または SEG2) の潜在的なストレージ・オーバーレイが発生しました。

これは、潜在的なストレージ・オーバーレイが発生したときにモジュール DBFCMP10 によって発行される疑似異常終了です。レジスター 1 に異常終了コードが入っています この異常終了を開始するシチュエーションは、以下

1. ユーザー入出力域からキー 7 作業域 SEG1 へのデータの移動。
 - Reg2=無効データ長
 - Reg7= 作業域接頭部のアドレス
 - Reg8= 入力データのアドレス
 - Reg10=A(EPST)
2. ユーザー入出力域からキー 7 作業域 (SEG2) へのデータの移動。
 - Reg9=無効データ長
 - Reg7= 作業域接頭部のアドレス
 - Reg8= 入力データのアドレス
 - Reg10=A(EPST)
3. セグメント圧縮出口ルーチンの呼び出しの後に、作業域接尾部 (ID) のオーバーレイ。
 - Reg7= 作業域接尾部のアドレス
 - Reg10=A(EPST)

DFSCFE10 の場合:

レジスター 11 は、通信インターフェース・ブロック (CIB) を指しています。フィールド CIBWORK は、ユーザー・バッファを指します。最初の 2 バイトは、バッファの長さです。オーバーレイ定数はバッファの終わりにあります。

レジスター 9 は、回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) を指しています。

レジスター 3 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON にバッファ・オーバーレイ定数が含まれています。

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所を判別し、以下の表に示されている問題の原因を判別します。

キー	ラベル	解説
Reg15=X 'A4'	セグ M28	ユーザー MFS セグメント編集ルーチン呼び出す前に、バッファオーバーレイが検出されました。
Reg15=X 'A8'	セグM 29	ユーザー MFS セグメント編集ルーチンの呼び出し後に、バッファオーバーレイが検出されました。

DFSCMCPO の場合：

MSC チャネル間 (CTC) リンク・バッファに、無効な長さフィールドがあります。

異常終了 SVRB 内の以下のレジスターには、異常終了が発生した時点の診断情報が含まれています。

レジスター 3 はバッファ長です。

レジスター 4 は、通信端末テーブル (CTT) から計算されたバッファ長です。

レジスター 5 には、メッセージ・バッファのアドレスが入っています。

レジスター 9 には、論理リンク・ブロック (LLB) のアドレスが入っています。

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所を判別し、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	解説
Reg15=X '84'	入力デー タ	チャネル間 (CTC) 入出力を開始する準備をしているときに、バッファオーバーレイが検出されました (複数システム結合 CTC アクセス方式のみ)。

DFSCMEIO の場合：

レジスター 4 に、無効なバッファのアドレスが入っています。

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所を判別し、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	解説
Reg15=X 'B8' Reg4= 無 効なバッ ファの アドレス	CKBFRT N	メッセージ制御エラー出口を呼び出す前に、バッファオーバーレイが検出されました。

キー	ラベル	解説
Reg15=X 'BC' Reg4=ア ドレス の 無効な バッファ ー	CKBFRT N	メッセージ制御エラー出口を呼び出した後に、バッファオーバーレイが検出されました。

DFSCMS00 の場合：

レジスター 9 は、MSC リンクの論理リンク・ブロック (LLB) のアドレスです。

レジスター 13 は、現行の保管セットのアドレスです。

レジスター 3 および 12 は、モジュール DFSCMS00 の基本レジスターです。

オーバーレイされたバッファ・アドレスは、DFSCMS00 のフィールド BUFADDR に保管されます。バッファの最初の 2 バイトには、バッファの長さが入っています。

レジスター 11 には、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスが入っています。フィールド SCDSMCON にバッファオーバーレイ定数が含まれています。

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所を判別し、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	解説
Reg15=X '68'	DFSCMS 00	複数システム結合機能 (MSC) 分析プログラム (DFSCMS00 - ITASK CREATE) を入力しているときに、バッファオーバーレイが検出されました。
Reg15=X '6C'	DFSF 01	入力メッセージ (ENTRY A01) を処理するために MSC 装置依存モジュールがアナライザーに戻されたときに、バッファオーバーレイが検出されました。
Reg15=X '70'	プロス ム	ユーザー・リンク受信出口ルーチン呼び出す前にバッファオーバーレイが検出され、リンクから受信した入力メッセージにトランザクション宛先がありました。

キー	ラベル	解説
Reg15=X '74'	プロ ム	ユーザー・リンク受信出口ルーチンの呼び出し後にバッファ・オーバーレイが検出され、リンクから受信した入力メッセージにトランザクション宛先がありました。
Reg15=X '78'	プロカ ント	ユーザー・リンク受信出口ルーチンを呼び出す前にバッファ・オーバーレイが検出されましたが、リンクから受信した入力メッセージは宛先ルーティング・メッセージでした。
Reg15=X '7C'	プロカ ント	ユーザー・リンク受信出口ルーチンを呼び出した後、バッファ・オーバーレイが検出されましたが、リンクから受信した入力メッセージは、有向ルーティング・メッセージでした。
Reg15=X '80'	ランデ イスプ	複数システム結合機能 (MSC) アナライザがイムス ディスパッチャーに送信されたときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSCOFCO の場合:

レジスター 9 は、処理中であり、バッファがオーバーレイされた回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) アドレスです。

CLBOUTBF はオーバーレイされたバッファを指します。バッファの最初の 2 バイトには、バッファの長さが入っています。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON にフィールド・オーバーレイ定数が含まれています。

キー	ラベル	解説
Reg15= '88'	呼び出 し元 6	項目 6 (DD6M または DD6S) の装置依存モジュールを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15= '8C'	呼び出 し元 1	項目 1 (DDM1) の装置依存モジュールを呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSCON20 の場合:

レジスター 9 に、次のいずれかが入っています。

- このイムスシステム内で会話トランザクションが異常終了した場合に、領域の区画指定テーブル (PST) のアドレス。

- コマンドのために会話が終了した場合に、/EXIT コマンドを発行した端末の CLB。
- エラーになっているスクラッチパッド域 (SPA) を受信した MSC リンクの論理リンク・ブロック (LLB)。会話トランザクションは、リモート イムス システム (MSC) で異常終了しました。

レジスター 7 には、会話中の端末の通信端末ブロック (CTB) のアドレス、または会話が既に終了されている場合は 0 が入っています。

レジスター 6 には、会話の会話型制御ブロック (CCB) のアドレス、または会話がすでに終了されている場合は 0 が入っています。

レジスター 10 には、保管セットのアドレスが入っています。

- フィールド SAVGB5 (Reg10+X'30') には、出口ルーチンに渡される SPA バッファのアドレスが含まれています。
- フィールド SAVGB9 (Reg10+X'38') は、このバッファの長さです。

呼び出し側が DFSCONM0 の場合、以下の SPA バッファ・アドレスおよび長さを含む保管セットは、R10 (SAVEID=WORKSA) が指す 2 つの保管セットの前に置かれます。

- フィールド SAVGB2 (オフセット X'24') には、出口ルーチンに渡される SPA バッファのアドレスが入っています。
- フィールド SAVGB6 (オフセット X'34') は、このバッファの長さです。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON にバッファ・オーバーレイ定数が含まれています。

SPA バッファのフォーマットは次のとおりです。

フィールド: SPA LL&ボックス vv;ZZ &ボックス vv;CCBID &ボックス ;トランザクション・ボックス ;SPA データ & ボックス ;ボックス & BOER ; LENGTH: 2 2 2 8 n 8

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所を判別し、問題の原因を判別してください。

キー	ラベル	解説
Reg15= 'X'58'	コー ネ	ユーザー会話の異常終了出口ルーチンを呼び出す前に、ルーチンに渡される SPA が入っているバッファがオーバーレイされていることが検出されました。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'5C'	コネム 10	ユーザー会話の異常終了出口ルーチン呼び出した後、そのルーチンに渡される SPA を含むバッファがオーバーレイされていることが検出されました。

DFSCRTU0 の場合：

レジスター 2 は、バッファ・オーバーレイ 定数が置かれていたバッファ・ロケーションを指します。バッファは USEQDATA パラメーター域です。

レジスター 9 は、回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) を指しています。

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。以下の表に示すように、このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別します。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'9C'	DFSINSX0	ユーザー出口ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'AO'	DFSINSX0	ユーザー出口ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSDMIF0、DFSDMIQ0 の場合：

DFSAOE0 制御ブロック、セグメント域、および作業域は、タイプ 2 自動化操作プログラム (AO) 出口ルーチン (DFSAOE00 または別の AOIE タイプ・ユーザー出口) の呼び出しの前と後に、オーバーレイがあるかどうか検査されます。

レジスター 3 は、関数固有のパラメーター・リストのアドレスです。セグメント域のアドレスは、フィールド AOEOSEG にあります。作業域のアドレスは、フィールド AOEOWRKA にあります。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'CO'	DMIF76 30	タイプ 2 AO 出口ルーチン DFSAOE00 または別の AOIE タイプ・ユーザー出口を呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'C4'	DMIF76 00	タイプ 2 AO 出口ルーチン DFSAOE00 または別の AOIE タイプ・ユーザー出口を呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

DFSICIO0 の場合：

DFSICIO0 内の BUFADDR フィールドには、無効なバッファのアドレスを入れることができます。フィールド RETADDR には、バッファ・オーバーレイ・チェック・ルーチン (CKBFRTN) を呼び出したルーチンのレジスター 14 アドレス、またはユーザー編集ルーチンが 10 バイトを超えるバイト数を追加したために異常終了が発行された場合は、エラーを検出したルーチンが入っています。フィールド BUFADDR および RETADDR の場合は、モジュール DFSICIO0 の現行アセンブリー・リストを参照してください。

レジスター 12 および 6 は、DFSICIO0 基底レジスターです。

レジスター 9 は、処理中であり、バッファがオーバーレイされた回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) アドレスです。

レジスター 13 には、保管域セットに現行の保管域アドレスが入っています。ユーザー編集/出口ルーチンの呼び出し後にエラーが検出された場合、レジスター 13 は、ユーザー・ルーチンに渡されたレジスターが入っている保管域セットのアドレスです (ルーチンが標準の保管規則を使用している場合)。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。以下の表に示すように、このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所と、問題の原因を判別します。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04' Reg10=アドレス 無効なバッファ	DFSCI 000	通信アナライザー (DFSICIO0 - ITASK CREATE) を入力しているときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'08' Reg10=アドレス 無効なバッファ	DFSF 01	入力セグメント (ENTRY A01) を処理するために装置依存モジュールが戻されたときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'0C' Reg10=アドレス 無効なバッファ	グエデ イット	ユーザー物理端末入力編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'10' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	グエデ ィット	ユーザー物理端末入力編集ルーチン呼び出した後にバッファ・オーバーレイが検出されたか、またはユーザーがメッセージの長さを増やしたかのいずれかです。LLフィールドの長さを増やすことはできませんが、長さを任意の値に減らすことができます。
Reg15=X'14' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	ファイ ント FMT	MFS入力編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'18' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	ファイ ント FMT	MFS入力編集ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'1C' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	宛先 2	ユーザー端末ルーティング出口ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'20' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	宛先 2	ユーザー端末ルーティング出口ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'24' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	ゴトレ ーネッ クス	ユーザー・トランザクション・コード入力編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'28' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	ゴトレ ーネッ クス	ユーザー・トランザクション・コード入力編集ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'2C' Reg10=アドレス の	ゴムス ヘセッ クス	ユーザー・メッセージ通信編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

キー	ラベル	解説
無効なバッファ ー		
Reg15=X'30' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	ゴムス ヘセッ クス	ユーザー・メッセージ切り替え編集ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'34' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	DFSCI 002 年	アクセス方式 (ENTRY A02)の呼び出し中に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'38' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	DFSCI 005	アクセス方式 (ENTRY A05)の呼び出し中に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'3C' Reg14=アドレス の 無効なバッファ ー	受信	RECANY バッファをヴタムに戻しているときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'40' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	キヨー ド	通信アナライザーがイムスディスパッチャーに送信されたときに、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'44' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	グオ編 集	ユーザー物理端末出力編集ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'48' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	グオ編 集	ユーザー物理端末出力編集ルーチン呼び出した後に、バッファ・オーバーレイが検出されました。
Reg15=X'4C' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	GOFE S00	FES ユーザー出口ルーチン呼び出す前に、バッファ・オーバーレイが検出されました。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'50' Reg10=アドレス の 無効なバッファ ー	GOFE S00	FES ユーザー出口ルーチン を呼び出した後に、バッ ファー・オーバーレイが検 出されました。
Reg15=X'AC' Reg1= アドレス の 無効なバッファ ー Reg3=最大値 メッセージ長の 許可 Reg5=A(RUNEDI T) または A(NONMFS) または A(PROCNT1) Reg14= サイズ の 入力メッセ ー ジ・セグメント	ユーザ ー RC11	ユーザー編集ルーチンは、 10桁を超える10進数の バイト(端末が事前設定モ ードの場合は19バイト) を使用してメッセージを 拡張しました。
Reg15=X'B0' Reg1=アドレス の 無効な バッファ ー Reg3=最大値 メッセージ長 許可 Reg9=アドレス の 通信 行ブロック (CLB) CLBTEMP4=最大 メッセージ長+ 10個の追加バイ ト。	ポコン ト	ユーザー編集ルーチンが 10進バイトを超えるメッ セージを拡張しました。

DFSIIIDM0 の場合 :

DFSAOE0 制御ブロック、セグメント域、および作業域は、タイプ 2 自動化操作プログラム (AO) 出口ルーチン DFSAOE00 または別の AOIE タイプ・ユーザー出口を呼び出した後で、オーバーレイがないか検査されます。

レジスター 7 は、DFSAOE0 のアドレスです。セグメント域のアドレスは、フィールド AOEOSEG にあります。作業域のアドレスは、フィールド AOEWKRA にあります。

キー	ラベル	解説
Reg15=X' C4'	IIDM61 00 年	タイプ 2 AO 出口ルーチン DFSAOE00 または別の AOIE タ イプ・ユーザー出口を呼び出し た後に、バッファー・オーバ ーレイが検出されました。

DFSIIIEE0 の場合 :

レジスター 2 は、バッファー・オーバーレイ定数が置かれていたバッファー・ロケーションを指します。

レジスター 3 は、オーバーレイされたバッファーを指しています。バッファーの最初の 2 バイトには、バッファーの長さが入っています。

レジスター 11 は、システム目録ディレクトリー (SCD) を指しています。フィールド SCDSMCON にフィールド・オーバーレイ定数が含まれています。

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所を判別し、問題の原因を判別してください。

キー	ラ ベ ル	解説
Reg15=X '00'		バッファー・オーバーレイが検出され た これは、 DFSIIIEE0 ユーザー出口を 呼び出す前です。
Reg15=X '04'		DFSIIIEE0 ユーザー出口を呼び出し た後に、バッファー・オーバーレイが 検出されました。

DFSNC10 の場合 :

レジスター 2 は、バッファー・オーバーレイ定数が置かれていたバッファー・ロケーションを指します。バッファーは、NCLZWORK 域または USEQDATA パラメーター域のいずれかです。

レジスター 9 は、回線またはノードの通信回線ブロック (CLB) を指しています。

異常終了への入り口でのレジスター 15 に、サブコードが入っています。このサブコード番号を使用して、異常終了が検出された場所を判別し、問題の原因を判別してください。

キー	ラ ベ ル	解説
Reg15=X '94'		DFSSGNX0 ユーザー出口ルーチン を呼び出す前に、バッファー・オーバ ーレイが検出されました。

キー	ラベル	説明
Reg5=BAL (FNDCNTへ) Reg10=ゼロ	CNUECN T0	会話が進行中であり、新しいメッセージを処理するための呼び出しが出されています。FNDCNTは、レジスター5 + 変位 (CNTが見つからないことを示す) を使用して戻ります。これにより、異常終了が発行されます。
Reg5=BAL (FNDCNTXへ) Reg6=CCB CCBSAV + 4 →= X'00010001' Reg10=ゼロ	CNUECN T9	ラベル CNUECNT3 で、処理中の入力、処理された最新の会話からのものでないことが判別され、そのため CNT の検索が行われます。すべての CNT がスキャンされてヒットがない場合 (レジスター 5 + 0 変位を使用した戻りによって示される)、この CCB に対して複数の入力が指示されているかどうかを調べるための検査が行われます。「等しくない」条件の場合、異常終了が発行されます。

DFSICLHO の場合:

以下の表に示すように、異常終了 SVRB 内のレジスター 4 を使用して、特定のラベルに分離します。

キー	ラベル	説明
Reg4=BAL (FNDCNTへ) Reg6=CCB Reg7=CTB Reg10=ゼロ	HLDG IC	このルーチンは HOLD コマンドを処理します。FNDCNT からのレジスター 4 + 0 変位を使用した戻りは、この CTB に関連付けられたアクティブ CNT がないことを示しています。
Reg4=BAL (FNDCNTXへ) Reg6=CCB CCBSAV + 4 →= X'00010001'	HLDG IC6	このルーチンは、入力または出力 CNT が 1 つだけアクティブであることを検査します。
Reg4=BAL (FNDCNTへ) Reg5=呼び出し元の リターン・アドレス Reg10=ゼロ	FREI T	このルーチンは、EXIT コマンドが会話を終了できるかどうかを判別します。会話型 CNT が検出されなければなりません。Reg4 + 0 変位を使用した戻りは、「見つからない」条件を示しています。異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

同じ物理端末上で、1 つの入力論理端末および 1 つの出力論理端末のみが同時に会話状態になるようにします。これらの一方が論理入力端末を、他方が論理出力端末を表します。

問題判別:

1、4、25、26、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCON00、DFSICLH

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0517

説明

会話型スクラッチパッド域 (SPA) アンパック・ルーチン (DFSCONU0) が無効なパック SPA を検出し、呼び出し元にゼロ以外の戻りコードを戻しました。通常、SPA はメッセージ・キューに書き込まれるとき、およびログに記録されるときにパックされます。メッセージ・キューから読み取られて処理されるときに、アンパックされます。

SPA をアンパックするために DFSCONU0 を呼び出すルーチンは、ゼロ以外の戻りコードを受け取った後、制御領域を異常終了するか、またはメッセージ領域を終了させるために疑似異常終了を発行するかのいずれかを行います。

分析

これは、3 つの異なるモジュール DFSCON20、DFSCONM0、DFSECP10 (DFSCPY00 およびその他によって設定) から発行される標準異常終了です。

パック SPA を見つけて、その妥当性を調べてください。パック SPA のフォーマットは、次のとおりです。

PPZZBBTRANCODEUUPP...Packed Data...

以下は、PPZZBBTRANCODEUUPP の値を定義しています。

PP

パック SPA の長さを定義する 2 バイト・フィールド

ZZ

2 バイトの Z1 および Z2 フィールド

BB

2 バイトの CCB 番号

TRANCODE

8 バイトのユーザー・トランザクション・コード

UU

アンパック SPA の長さを定義する 2 バイト・フィールド

Packed Data は、以下の記述子フィールドで構成されま
す。

8LLL

削除された長さ LLL の 2 進ゼロ

4LLL

長さ LLL の有効なアンパック・データが続きます

2LLL

削除された長さ LLL のブランク

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) お
よび異常終了スーパーバイザー要求ブロック (SVRB)
内のレジスターを使用して、発行元モジュールおよび該
当するラベルを特定する必要があります。

DFSCONM0 の場合:

MSC アナライザーがリモート会話型トランザクション
から SPA メッセージを受け取りました。入力端末はこ
のシステム内にあります。DFSCONM0 は、SPA をアン
パックするために DFSCONU0 を呼び出し、ゼロ以外の
戻りコードが戻されています。

キー	ラベル	説明
Reg7=LT B および Reg9=LL B	CALLCON U	このエラーの問題判別は、モ ジュール DFSCON20 ラベル CONDA517 の場合と同じで す。

DFSCON20 の場合:

会話型トランザクションが異常終了すると、DFSCON20
が呼び出されます。DFSCON20 は、SPA をアンパック
するために DFSCONU0 を呼び出し、アンパックされた
SPA を会話型異常終了出口 DFSCONE0 に渡します。
SPA は、出口ルーチンが存在しない場合でもアンパック
されます。DFSCONU0 が DFSCON20 にゼロ以外の戻
りコードを戻すと、この異常終了が発行されます。

異常終了の原因を判別するために、入力メッセージ
(SPA セグメントを含んでいる) を見つけてください。

キー	ラベル	説明
Reg5=BAL Reg7=CTB Reg9=CLB Reg10= CON SAVE 作業 域	CONX2	CONSAVE 内の SAVGB6 は、作業 バッファを指しています。 QTPPCBLT のオフセットに、パッ ク SPA があります。SPA の妥当 性を調べます。

キー	ラベル	説明
Reg5=BAL Reg7=CTB Reg8=パ ック SPA Reg9=CLB	CONFA 517	レジスター 8 で指し示されたパ ック SPA の妥当性を検査しま す。
Reg5=BAL , Reg7=LTB および Reg9=LLB	CONDA 517	このエラーはメッセージ DFS2146 によってシグナル通知 され、MSC リンクは処理を異常 終了させ、タイプ 6701 MSS1/ MSS2 レコードをログに記録し ます。エラーがリカバリーされ ない場合、リンクは PSTOPPED されます。リンク LTB の CTBUEOB は、SPA セグメントを 指しています。ダンプされてい ない場合、CLBINBUF は、SPA の 全体または最後の部分を含む入 力バッファを指しています。 CTBPREFX は、メッセージの接頭 部を指しています。この接頭部 (MSC セグメント項目) を使用し て、送信側 IMS システムのログ でメッセージ (タイプ 01 または 03) を見つけることができます。 送信側システム内の SPA を調べ て、エラーがそこで発生したかど うか (つまり、SPA が有効かどう か) を調べます。詳しくは、メッ セージ DFS2146 を参照してく ださい。

DFSECP10 の場合:

DFSCPY00 が、SPA をアンパックしてユーザー入出力域
に入れるために、DFSCONU0 (VS/1) または z/OS SPA ア
ンパック RTN を呼び出しました。

この疑似異常終了に先行する IMS ログ 01 (C10 ディス
パッチ) または 03 (PST ディスパッチ) ログ・レコード
は、異常終了 0517 ABTERM 同期点処理によって IMS
ログに入れられるものであり、入力トランザクション・
メッセージの最初のセグメントとして SPA (LLz、z=40)
を持ちます。正常でない入力メッセージのソースを見
つけるために IMS ログをさかのぼって追跡するか、あ
るいは SPA が DC によってメッセージ・キューにオーバ
レイされている可能性があります。

システムの処置

エラーが発生した領域は異常終了します。

問題判別:

1、4、6、25、26、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCONM0、DFSCON20、DFSECP10

関連情報

[DFS2146 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0519

説明

メッセージ・ルーター DFSICLR0 が、無効なエンキュー要求で呼び出されました。レジスター 8 は理由コードを示しています。

分析

これは、モジュール DFSCMT10、DFSCLRM0、DFSICLR0、および DFSCLM00 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) およびレジスター 5 BAL を使用して、以下の該当するラベルに分離する必要があります。この異常終了は、ラベル ABND519 にある共通異常終了ルーチンへの分岐の結果です。レジスター 8 に、指示理由コードが入っています。レジスター 12 は基底レジスターです。レジスター 5 に、計算された無効なキュー番号が入っています。

コード

説明

X'00'

宛先はリモート SMB ですが、宛先 SYSID はローカルです。

X'01'

これは未確認ディスパッチです。

X'02'

PST 上の ASIS 要求が無効です。

X'03''

複数のシステムでのシステム・ルーティング要求は無効です。

X'05'

宛先はリモート SMB ですが、宛先 SYSID が無効です。

所在地

これは、リモート SMB の宛先 SYSID からの無効なリンク CLB ポインターです。

X'06'

DFSUSE func=inuse からの戻りコードが無効です。

X'07'

DFSUSE func=nouse' からの戻りコードが無効です。

The caller can be determined by locating the save area set prior to the save area with name at entry point of "クレル 2..."

キー	ラベル	解説
Reg5= BAL Reg8= X'02'	プスト ディッ プ	INIT というラベルのサブルーチンでは、要求のタイプが検証されます。このエントリー・ポイント DFSICLR2 の場合、呼び出し側は PST としてディスパッチを示しました。レジスター 1 は PSTDECB を指している必要があります。そうでないと、異常終了が発生します。
Reg8= X'06'		DFSUSE func=inuse からの無効な戻りコードが入っています。レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが含まれている必要
Reg8= X'07'		DFSUSE func=nouse からの無効な戻りコードが含まれています。レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが含まれている必要

システムの処置

複数システムの VS 制御領域は異常終了します。

問題判別:

1, 4, 5, 6, 10, 12, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSCMT10、DFSCLMR0、DFSICLR0、DFSCLM00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0525

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- ハードウェア・クロックが作動不能でした。
- イムスの初期設定で、GMT オフセット値が有効な範囲外であることが検出され、オペレーターがメッセージ DFS0477A に対して A (打ち切りの場合) に応答しました。

分析

これは、タイマー・サービス・ルーチン DFSTIME0 によって発行される標準異常終了です。異常終了の時点で、レジスター 15 には理由コードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg15=X '02'	アベ ンド	ハードウェア・クロックが作動不能であるため、STCK 命令が失敗しました。
Reg15=X '03''	アベ ンド	DFSTIME0 は、CVT からの UTC オフセット値が有効な範囲外であることを検出し、オペレーターがメッセージ DFS0477A に対して A (打ち切りの場合) を応答したことを検出しました。

考えられる原因: この異常終了の原因は次のとおりです。

- ハードウェア障害が発生しました。
- 内部プログラム・エラーが発生しました。

システムの処置

イムス は異常終了するか、または問題が訂正されるまでメッセージ DFS0478A を出します。

プログラマーの応答

ハードウェアまたはソフトウェアのサポートについてイブソ サポート・センターに連絡するか、メッセージ DFS0477A または DFS0478A のオペレーターの応答の指示に従ってください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSTIME0

関連情報

[DFS0477A 型](#)

[DFS0478A](#)

0529

説明

EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM= リスト内の定位置 JVM パラメーターに無効な値が指定されているため、従属領域を初期化できません。

分析

0529 は、無効な JVM オペランド指定が検出されたときに、DFSRRRA40 から発行される標準異常終了です。

JVM パラメーターの有効な値は 64 または 31 です。

キー	ラベル	解説
Reg2= RCPARMS の アドレス	ラージ MP10、	JVM 仕様は、従属領域の初期化中に検証されました。無効な指定

キー	ラベル	解説
	RAJBP 00	が検出された場合は、異常終了が発行されません。

考えられる原因: 従属領域始動プロシーチャーの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドで指定された JVM パラメーターが正しくありませんでした。

システムの処置

従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

EXEC ジョブ制御ステートメントの JVM パラメーターに指定されている値を訂正して、ジョブを再実行してください。JVM パラメーターの有効な値は 64 または 31 です。

問題判別:

2, 8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA40

0544

説明

DCCTL 環境用に作成された RESLIB を使用して高速データベース・リカバリー (FDBR) プロシーチャーが開始されました。

分析

IMS SSCD (DFSVC000) にサブシステム・タイプが DCCTL であることが示されている場合、この異常終了は DFSRRRAFO によって発行されます。

考えられる原因: FDBR には正しくない環境です。IMS は、DB/TM 環境または DBCTL 環境でなければなりません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別

FDBR プロシーチャーの STEPLIB または JOBLIB が有効な DB/TM または DBCTL RESLIB を参照しているかどうかを判別してください。

モジュール

DFSRRAF0

0545

説明

代替システムでのログ・タイプ 2702 のレコード処理中に、アクティブと代替のデータ・セット・エクステンション情報との間の不整合状態が、疑似拡張の完了時に存在していました。

システムの処置

IMS 代替システムは異常終了します。

オペレーターの応答

IMS 代替システムを再始動します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSRELPO

0551

説明

GSAM PCB が存在しましたが、従属領域がバッチ・メッセージ処理領域 (BMP) ではありませんでした。

分析

これは、MPP/BMP プログラム・コントローラー DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行されたラベル PSABEND 内の命令を指します。これは、PCAB551 でルーチンによって分岐されます。このルーチンは、エラーを検出する PC09 のルーチンによって分岐されます。

キー	ラベル	解説
Reg2=アドレスのボックス S (DFSPRPX0) dsect Reg10=アドレスのディルカ 2	PC09 式	DIRCA2 のフィールド PDIRSPLT は、GSAM PCB が存在するかどうかを確認するためにテストされます。「はい」の場合、RCPARMS ブロックの RCTYPE フィールドは、これが BMP 領域であるかどうかを確認するためにテストされます。GSAM PCB が存在し、領域が BMP でない場合は、異常終了を処理するために PCAB551 への分岐が行われます。

考えられる原因: アプリケーション・プログラマーが、アプリケーション・プログラムを BMP として誤って MPP として定義した可能性があります。

システムの処置

従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

アプリケーションの定義が正しくありません。それを BMP として識別します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSPCC20

0552

説明

複数システム環境で会話型 MPP が異常終了しました。入力 SYSID に MSNAME が存在しないため、会話が制御されている入力端末システムに SPA を送信することはできません。入力 SYSID は応答に使用されます。

分析

これは、DFSCON10 または DFSCON20 の 2 つのモジュールのいずれかで発行される可能性がある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害を特定のモジュールに対して分離します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 1 に、異常終了完了コード X'80000228'が含まれます。

考えられる原因: 推定システム定義エラー。複数のシステムにおいて、MSNAME パラメーターが各システムに提供されていることを確認してください。

DFSCON10 の場合:

この異常終了は、SPA、モジュール DFSCON10 を挿入する会話型プロセッサによって発行される可能性があります。異常終了は、ラベル ABND の共通ルーチンから発行されます。

0522 は、PST 内の入力端末システムのシステム ID (SID) が、このシステムに定義されていないか、または無効であるかのいずれかの結果です。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 9 には、PST のアドレスが含まれています。レジスター 6 に、CCB アドレスが入っています。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 12 は、CSECT DFSCON10 の基底レジスターであり、SPA をキューに戻す問題プログラムのエントリー・ポイントです。レジスター 12 は CSECT DFSCON10 の基底レジスターであり、同期点に

到達する前にアプリケーションによって SPA が挿入されなかった場合に、その会話に関連した制御ブロックを更新するためのエントリー・ポイントです。SPA が挿入されなかった場合は、同期点からユーザー呼び出しアナライザー DFSDLA30 の COMM 部分によって SPA セグメントが検出されると、DFSCON10 が呼び出されます。

キー	ラベル	解説
Reg4<ゼロ Reg11=アドレ スの SCD の	コニワゼ	複数のシステムでは、CSECT DFSCON10 内のルーチンは、入力端末システムの SID を検査するためにラベル VERSID に BAL を行います。レジスター 4 は、論理リンク名ブロック (LNB) ポインターが SID 内にロードされてロードされます。テストが行われると、レジスター 4 が負である場合、ルーチンは異常終了を処理するためにラベル ABND552 に分岐し、リンクします。
Reg4<ゼロ Reg8=ポイ ンター SPA への Reg11=アド レ スの SCD の	コンルヴ アース	複数のシステムでは、CSECT DFSCON10 内のルーチンは、入力端末システムの SID を検査するためにラベル VERSID に BAL を行います。レジスター 4 は、論理リンク名ブロック (LNB) ポインターが SID からロードされています。テストが行われると、レジスター 4 が負である場合、ルーチンは異常終了を処理するためにラベル ABND552 に分岐し、リンクします。

DFSCON20 の場合：

この異常終了は、会話型プロセッサ端末モジュール DFSCON20 によって発行される可能性があります。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND552 内の命令を指しています。このラベルは、エラーを検出したルーチンによって条件付き分岐されます。

応答ルーティングの SID に LNB (MSNAME) が定義されていないために、このシステムでは、0552 異常終了が発生します。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 5 は、BAL レジスターとして使用されます。レジスター 10 に、会話異常終了出口ルーチン DFSCONE0 との通信のためのベクトルへのポインターが入っています。DFSCONDO は、DFSCON20 内のエントリー・ポイントであり、"返されました" ERRSPA メッセージが入力システムに到達すると (アプリケーションの異常終了/不整合の定義/処理システム内の SMB が停止された)、リンク・アナ

ライザー (DFSCMS00) によって呼び出されます。DFSCONDO は、ERRSPA メッセージを入力システムに戻す必要があるときに、処理システムによって呼び出されます (加工システム内のリンク・アナライザーによって検出された定義または停止された SMB が不整合になっている場合)。

キー	ラベル	解説
Reg3<ゼロ Reg11=アド レ スの SCD	VERRMT2	SID を検査するルーチンで、レジスター 3 は論理リンク名ブロック (LNB) ポインターを使用してロードされます。テストされると、レジスター 3 が負の場合、異常終了するためにラベル ABND552 に分岐します。

システムの処置

イムス 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

入力 SYSID の異常終了システムで MSNAME を指定してください。

問題判別:

1, 4, 5, 6, 10, 12, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSCON10、DFSCON20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0553

説明

モジュール DFSCMM20 が、2 つの主記憶装置間 IMS システムの間のリンクに書き込み完了コードを通知したが、入出力操作がすでに進行中でした。主記憶装置間通知ハンドラー (DFSCMM20) は、ECB(LXB) で競合を通知する標識を受け取りましたが、ターゲット CLB(LLB) 上には進行中の入出力がありませんでした。入出力アクティビティーはリンク上で同期的に処理されるので、これは無効な状態です。

分析

これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。別の IMS マシンから到着したデータが原因で、入力域 ECB(LXB) が通知されています。ディスパッチ

ャーは、通知の妥当性を調べるために制御を DFSCMM20 に渡します。この場合は、ECB(LXB) で競合が通知されていますが、ターゲット CLB(LLB) 上には進行中の入出力がないことが示されました。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である、ラベル CMM20BF0 を持つ命令を指します。エラーが検出されると、ラベル CMM20B50 に条件付き分岐し、レジスター 12 に異常終了コードがロードされ、異常終了を開始するために CMM20BF0 に無条件分岐します。異常終了 SVRB 内の以下のレジスターが、この異常終了に関連しています。レジスター 9=CLB(LLB) ポインター、レジスター 10=ECB(LXB) へのポインター、およびレジスター 8=基底レジスター。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000229'	CMM20A00	ECB(LXB) で競合通知が示されましたが、CLBFLAGS の検査の結果、進行中の入出力はないことが判明しました。

考えられる原因: IMS 論理エラー。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、4、25、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMM20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0554

説明

主記憶装置間通知ハンドラー・モジュール (DFSCMM20) が、主記憶装置間リンク上で読み取りアテンション標識を受け取りました。これは無効な要求です。

分析

これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。ECB(LXB) が読み取りアテンション (X'7FD9') で通知されました。これは非論理的コードです。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、共通異常終了ルーチン CMM20BF0 を指します。エラーが検出されると、ラベル CMM20B60 に条件付き分

岐し、レジスター 12 に異常終了コードがロードされ、異常終了を発行するために CMM20BF0 に分岐します。異常終了 SVRB 内のレジスター 10 は、ECB(LXB) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000022A'	CMM20B01	ECB(LXB) に読み取りアテンションが通知されています。これは無効な通知です。
Reg10=A (ECB(LXB))		

考えられる原因: おそらく、主記憶装置間アクセス方式 (DFSMTMA0) 内の論理エラーです。

APAR 処理の場合: アクセス方式トレースを呼び出して、両方のシステムからのメモリー・ダンプを保管してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、4、25、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMM20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0555

説明

IMS が主記憶装置間リンクで入出力操作を行う準備をしている間に、モジュール DFSCMM20 が、書き込みアテンションまたは読み取りアテンション以外の通知コードをそのリンクに通知しました。現在、CLB(LLB) も通知またはディスパッチされています。

分析

これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。ECB(LXB) の通知は無効であり (書き込みアテンションも、競合もない)、CLBFLAG3 フィールドで示されているように、現在 CLB(LLB) がディスパッチされています。これは論理エラーであり、有効な通知の前にターゲット CLB(LLB) がディスパッチされていない場合にのみ発生する必要があります。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、共通異常終了ルーチン CCM20BF0 を指します。異常終了は CMM20B70 に分岐することによってセット

アップされます。CMM20B70 は異常終了コードをレジスタ 12 にロードし、CMM20BF0 に分岐します。異常終了 SVRB 内のレジスタ 10 は ECB(LXB) へのポインター、レジスタ 9 は CLB(LLB) へのポインターであり、レジスタ 8 は基底レジスタです。
CLBDECB=CLB + 0 および CLBFLAG3=CLB+X'32'。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000022B' Reg9=A(CLB(LLB)) Reg10=A(ECB(LXB))	CMM20B01	CLBDECB=X'40' および CLBFLAG3 = X'01' の場合、CLB(LLB) が実行を待っている (つまり、通知されたが、まだディスパッチされていない) ときに、無効な ECB(LXB) 通知が検出されました。 CLBFLAG3=X'01' の場合、CLB(LLB) が現在ディスパッチされた状態の間に、無効な ECB(LXB) 通知が検出されました。

考えられる原因: IMS 論理エラー。

APAR 処理の場合: アクセス方式トレースを呼び出した状態で、両方のシステムからメモリー・ダンプを保管してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、4、25、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMM20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0556

説明

モジュール DFSCMM20 が、前の入出力操作の理由で、エラー通知コードを主記憶装置間リンクに通知しました。主記憶装置間通知ハンドラー (DFSCMM20) が、無効な ECB(LXB) 通知を受け取りました。ターゲット CLB(LLB) 上には処理中の入出力はありません。

分析

これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード

(PSW) は、共通異常終了ルーチン CMM20BF0 を指します。エラーが検出されると、レジスタ 12 に異常終了コードをロードするためにラベル CMM20B80 に条件付き分岐し、次に共通異常終了ルーチンに無条件分岐します。

ECB(LXB) が無効なコードで通知されました。有効なコードは書き込みアテンション/競合 (X'E6D9E3') です。CLBFLAG2 フィールドは、ターゲット CLB(LLB) (異常終了 SVRB のレジスタ 9 によって指し示される) には進行中の入出力がないことを示しています。
CLBFLAG2=CLB+X'31'。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000022C' Reg9=CLB(LLB) CLBFLAG2 = X'06'	CMM20B01	CLBFLAG2 フィールドは、この CLB(LLB) については処理中の入出力がないことを示しています。

考えられる原因: IMS 論理エラー。

APAR 処理の場合: アクセス方式トレースを呼び出した状態で、両方のシステムからメモリー・ダンプを保管してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IMS を再度立ち上げて、ジョブの実行を継続します。問題が解決しない場合には、IBM サポートに連絡してください。

問題判別:

1、4、25、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMM20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0557

説明

複数システム結合機能 (MSC) システムの再始動処理中に、LCB/LLB 解決モジュール (DFSCMR00) が複数システム環境の妥当性検査を行います。論理リンク・ブロックのアドレスは存在するが、論理制御ブロックのアドレスがシステム目録ディレクトリー内に存在しません。

分析

これは、DFSCMR00 によって発行される標準異常終了です。DFSCMR00 は最初に、SCD(SCDLLB) 内の LLB アドレスを検査して、MSC がシステム内にあるかどうかを判別します。LLB をスキャンして LCB 割り振り標識をオフにしてから、LCB を検査して、それらが以前に LLB に割り当てられていたかどうかを調べます。割り当てられていた場合、LCB アドレスを LLB に入れて、接続が再確立されます。

この障害は、SCD に LCB アドレス (SCDLCB) が含まれていなかったが、LLB アドレス (SCDLLB) は使用可能であることが原因で発生します。

このモジュールの呼び出し元は DFSRNRE0 であり、異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は SCD を指し、レジスター 15 は基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000 022D'	CMROA00 3	LCB が存在するかどうかを検査するテストが失敗しました (SCDLCB=X'00')。
Reg10=ゼロ		

考えられる原因: 再始動プロシーチャーの誤り

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0560

説明

バッファを獲得しようとして、メッセージ生成プログラムがキュー・マネージャーから無効な戻りコードを受け取りました。

分析

これは、DFSCLMR0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスター 14 の BAL を使用して、該当するラベルを判別します。レジスター 15 内のキュー・マネージャー戻りコードを使用して、異常終

了の原因を特定する必要があります。レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。

DFSQMGRO の戻りコードは、以下のとおりです。

コード 説明

X'00'

エラーなし

X'04'

無効なセグメント長

X'08'

これ以上メッセージはない

X'0C'

宛先が入力のために使用中

接頭部の更新の場合、タイプ 30 ログ・レコードが問題分析に役立ちます。

キー	ラベル	説明
Reg2=QTPPCB Reg14=BAL (DFSQMGRO へ) DECTYPE=X'4 A' (DLI 呼び出し 元) DECTYPE=X'8 A' (MG 呼び出し 元) DECAREA=要 求された バッファの 長さ	GTBFGM GR	メッセージ・バッファ内にメッセージを入れるスペースを取得するために、キュー・マネージャーに要求が出されました。無効な長さが戻された結果、異常終了になります。
Reg2=QTPPCB Reg14=BAL (DFSQMGRO へ) DECTYPE=X'4 9' DECTYPE=X'8 9'	CLMRCA NC	出力メッセージを取り消すための要求が出されました。ロギングは要求されていません。ゼロ以外の戻りコードの結果、異常終了になります。

キー	ラベル	説明
Reg0=メッセージ領域 Reg5=QTTPCB Reg6=メッセージ接頭語 Reg8=メッセージ宛先 Reg9=DECB Reg11=SCD DECTYPE=X'4B'	LU62MP 62	LU62 メッセージ接頭語をキュー・バッファーに挿入するための要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードの結果、異常終了になります。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで終了します。

プログラマーの応答

ダンプにあるレジスター 15 を調べて、キュー・マネージャーの戻りコードを分離します。戻りコードにより問題が識別されます。

問題判別

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSCLMR0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0561

説明

通知要求を処理するために主記憶装置間通知ハンドラー (DFSCMM20) が呼び出されましたが、システム初期設定時にリンク制御ブロックに割り当てられたリンク番号が 0 でした。リンク番号は少なくとも 1 でなければなりません。

分析

これは、DFSCMM20 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、共通異常終了ルーチン CMM20BF0 を指します。異常終了コードをレジスター 12 にロードするためにラベル CMM20B90 に条件付き分岐し、次に共通異

常終了ルーチンに分岐します。異常終了 SVRB 内のレジスター 6 は、LCB へのポインターです。

レジスター 1 の通知 ECB(LXB) により、通知ハンドラーに入ります。リンク制御ブロック (LCB) のアドレス可能性が確立され、ターゲット論理リンク・ブロック (LLB) のリンク番号が判別されます。レジスター 9 に、LCBLNR フィールドからのハーフワードがロードされ、値がゼロより大きいかがテストされます。LCBLNR=LCB+X'0A'。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000231' Reg6=A(LCB) LCBLNR=0 Reg9=ゼロ		ターゲット LLB のリンク番号がゼロです。

考えられる原因: おそらく、LCB ブロックの作成に関するシステム定義問題です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IMS 制御領域へのアクセス権を取得するすべてのアプリケーション・プログラムを調べて、モジュール全体にわたって適切なアドレス可能性をもつようにします。

APAR 処理の場合: システム定義およびバインダー・リストの出力を保持してください。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMM20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0562

説明

主記憶装置間バッファーで非互換性の問題が発生しました。IMS 主記憶装置間システムが、相手の入力バッファーで保持可能なサイズより大きなデータを伝送しました。バッファー長は同じでなければなりません。

分析

これは、DFSCMM20によって発行される標準異常終了です。主記憶装置間アクセス方式(DFSMTMAO)は、出力バッファ・サイズが入力バッファ・サイズを超えていることを判別し(これはLXB内のエラーを示します)、通知を発行します。主記憶装置間通知ハンドラー(DFSCMM20)は、通知コードを無効として認識し、非互換バッファ長条件が存在することを判別します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード(PSW)は、共通異常終了ルーチンCMM20BF0を指します。通知ハンドラーは、エラーのタイプを判別し、CMM20BA0に条件付き分岐して、レジスター12に異常終了コードをロードします。異常終了SVRB内のレジスター10は、通知されたLXBへのポインターであり、レジスター8は基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000232' Reg10=A(LXB)	CMM20B0 1	LXBが長さエラー(X'41D3C5D5')で通知されます。

考えられる原因: 2つのIMS MSCシステムの入出力バッファが同じサイズではありません。

システムの処置

IMSが異常終了します。

プログラマーの応答

主記憶装置間入出力バッファが同じ長さになるようにします。

APAR処理の場合: 両方のシステムのメモリー・ダンプを作成してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSCMM20

0563

説明

システム再始動中に、システムがダウンする前と同様に、すべてのリンク制御ブロック(LCB)が論理リンク・ブロック(LLB)に再接続されます。すべてのリンク番号は1を基準に設定されるが、リンク制御ブロック番号のいずれかが0です。

分析

これは、モジュールDFSCMR00によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1=0233	CMR0C00 1	LCB1ASSフラグがオンで、LLBLNRフィールドが0です。

考えられる原因: システム定義時のエラー。

システムの処置

IMSが異常終了します。

プログラマーの応答

再始動中のリンク番号が正しいかどうかを確認します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMR00

関連情報

11 ページの『IMS問題判別』

IMSメッセージおよびコードの問題判別は、IBMによって確立された手順を使用して行われます。

0564

説明

装置依存のモジュールが、追加の入出力作業バッファを取得するために通信アナライザー(DFSICIO0)を呼び出しましたが、追加のバッファは既に存在します。この状態は、システム・エラーが原因で発生します。

分析

これは、通信アナライザーDFSICIO0によって発行される標準異常終了です。異常終了は、ラベルGXTBUFにある共通ルーチンから発行されます。結果的に異常終了になったエラーは、検出もこのルーチンで行われています。

共通サービス・エントリー(DFSCIOCO)は、アナライザー機能を提供するために(これが提供されなければ、複数のユーザー・インターフェースが必要となる)、選択されたサブルーチンによって使用されます。レジスター4に、このCSECTの機能のエントリー・ベクトル値が入ります。異常終了0564の場合は、レジスター4にX'2C'(追加の作業バッファを取得するための機能)が入っている必要があります。

異常終了 SVRB レジスタのレジスタ 12 は 1 次基底レジスタ、レジスタ 6 は 2 次基底レジスタです。レジスタ 9 に、CLB へのポインターが入っています。レジスタ 1 には、異常終了完了コード X'80000234' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg4=X'2C' Reg9=A(CLB)	GXTBUF	DDM 用の追加の作業バッファータを取得するためのルーチンで、フィールド CLBXTBUF を検査して、追加の作業バッファータが既に存在するかどうかを調べます。フィールドがゼロでない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSICIOO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0565

説明

MSC は、IMS 実行パラメータに MSC=Y を指定して使用可能にされていますが、MSC システム ID (SYSID) は IMS システムに割り当てられていません。各 MSC 対応 IMS システムには、少なくとも 1 つの SYSID を割り当てる必要があります。

分析

これは、モジュール DFSAINBO によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

IMS 初期設定は異常終了する

システム・プログラマーの応答

少なくとも 1 つの SYSID を IMS システムに割り当てるか、または IMS 実行パラメータに MSC=N を指定してください。変更が完了したら、IMS をロード・スタートします。

DFSDF 三十 PROCLIB メンバーの MSC セクションに SYSID パラメータを指定して、SYSID を IMS システムに割り当てます。

あるいは、IMS の stage-1 システム定義プロセス中に、MSNAME マクロを入力としてコーディングすることにより、SYSID を IMS システムに割り当てることができます。また、stage-1 入力には、MSPLINK マクロと MSLINK マクロも含まれている必要があります。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSAINBO

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの MSC セクション \(システム定義\)](#)

[MSNAME マクロ \(システム定義\)](#)

0566

説明

内部およびリモートのコマンドを処理中に、内部論理エラーが検出されました。メッセージ・キュー・バッファータが破壊された可能性があります。

分析

これは、複数システム・リモート・コマンド・コントローラ DFSICIOO によって発行される標準異常終了です。このモジュールは複数 CSECT モジュールであり、異常終了は CSECT DFSCMI06 内から発行されます。この CSECT の目的は、すべての使用可能なブロックをログに SNAP することです。

異常終了 SVRB レジスタのレジスタ 12 は、基底レジスタです。レジスタ 14 は、BAL レジスタとして使用されます。レジスタ 2 に、CTB へのポインターが入っています。レジスタ 1 には、異常終了完了コード X'80000236' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg5=リターン・アドレス Reg15 == ゼロ	REFETCH	メッセージをフェッチする必要があることが判別され、この機能を実行するために、ラベル CALLQ にあるルーチンに BAL します。レジスタ 15 に、キュー・マネージャからの戻りコードがロードされ、テストされます。レジスタ 15 がゼロでない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMI00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0567

説明

通信アナライザーが、システム・コンソールに IMS 作動可能メッセージを送信しているときに、入出力エラー条件を検出しました。

分析

これは、DFSCINB0 によって発行される標準異常終了です。エラー・レジスターは、異常終了 SVRB 内にあります。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル IN1BABND 内の命令を指しています。レジスター 2 に異常終了完了コードがロードされ、INBABND に分岐します。レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg10=DFSIC I00 への BAL	INBA 01	通信の初期設定中に作動可能メッセージがシステム・コンソールに送信されます。通信アナライザーは、戻りコードを呼び出し元の現行保管域に渡します。ゼロ以外の戻りコードは、入出力エラー条件を示します。
Reg13 + X'C' - = 0		

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

23、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCINB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0568

説明

通信初期化モジュール (DFSCINB0) が、イムス作動可能メッセージを伝送するためにキュー・マネージャーからバッファーを獲得しようとしたときに、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

分析

これは、DFSCINB0 によって発行される標準異常終了です。エラー・レジスターは、異常終了 SVRB 内にあります。

異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行されたときのラベル INBABND を持つ命令を指します。ラベル INB4ABND では、異常終了完了コードがレジスター 2 にロードされます。レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に、キュー・マネージャー戻りコードが入っています。

コード

説明

X'00'

バッファーが必要です。

X'04'

誤った長さが指定されました。バッファーは獲得

キー	ラベル	解説
Reg9=DECB デ CTYPE=X'0A 00' (位置指定) DECAREA= メッセージ 長 Reg14= DFSQMGRO に BAL Reg15 - = 0	イン ブク スル	このルーチンでは、キュー・マネージャーは、作動可能メッセージ用のバッファーを獲得するために呼び出されます。エラーが検出された場合は、キュー・マネージャーはレジスター 15 にエラー・コードを渡し、異常終了を出します。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

23, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSCINB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0569

説明

IMS 初期設定時に、BPE 構文解析によって DFSDFxxx PROCLIB メンバーの MSC セクション内でエラーが検出されました。

分析

これは、モジュール DFSAINB0 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

IMS は BPE0003E を出し、異常終了します。

ユーザーの処置

エラーについて詳しくは、システム・コンソールでメッセージ BPE0003E のテキストを参照してください。DFSDFxxx PROCLIB メンバーの MSC セクション内のパラメーターが正しく指定されていることを確認します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSAINB0

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの MSC セクション \(システム定義\)](#)

関連情報

[BPE0003E \(メッセージおよびコード\)](#)

0572

説明

複数セグメント事前編集メッセージの内部セグメントの長さが、負の値です。

分析

これは、DFSCLMR0 によって発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスター 3 を使用して、特定のラベルを分離します。

レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg3=負の値 Reg8=メッセージのセグメント長 フィールドへのポインター	LLZZSS ZZ	複数セグメント事前編集メッセージの処理中に、内部セグメントのセグメント長フィールドが負の値であることが検出されています。この結果、ABEND が発生します。
Reg3=正の値 Reg5=STATISZ1 Reg8=負の値を含む 内部セグメントの SSZZ フィールド へのポインター	ADDSSI NC	上述の同じ複数セグメント・メッセージについて、このルーチンは、内部セグメント・テストにより、負の SS フィールドを増分します。このテストは、SS フィールドの上位ビットがオンでないことをテストする方法で行われます。このビットがオンの場合、異常終了が発生します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4, 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCLMR0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0573

説明

複数セグメント・メッセージの内部セグメントの長さが、メッセージの全長より長くなっています。長さフィールドのいずれかが不適切です。

分析

これは、DFSCLMR0 から発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

DFSCLMR0 は、複数セグメント事前編集メッセージ呼び出しの処理中です。レジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg10 + X'34'= 合計セグメン ト長 (WORK10) Reg15=内部セ グメント length	LLZZSSZ Z	このコードは、内部セグメントの長さが合計セグメント長を超えていないことを確認します。レジスター 15 と WORK10 の間で比較が行われます。レジスター 15 の方が大きい場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCLMR0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0574

説明

高速 DB リカバリー領域でエラーが発生しました。この異常終了コードの前に、エラーを説明するメッセージがあります

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は異常終了します。

オペレーターの応答

この異常終了の前に出されたメッセージのオペレーターの応答を参照してください。

ソース:

イムス 異常終了

0577

説明

VTAM 端末で入力処理が選択されたが、VTAM サポートが DFSICIOO 用に生成されなかったため、この異常終了が発生しました。

分析

「DFSVTAM COPY」でグローバル &DFSVTAM=N の指定を検査します。VTAM サポートが必要な場合は、IMS システム定義に COMM マクロを追加します。

キー	ラベル	説明
&DFSVTAM=N	IPCHECK	DFSICIOO は、&DFSVTAM=N が指定されているときは VTAM サポート・コードを生成しません。代わりに、異常終了 0577 を発行するためのコードを生成します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

「DFSVTAM COPY」でグローバル &DFSVTAM=N の指定を検査します。VTAM サポートが必要な場合、IMS システム定義に COMM マクロを追加します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSICIOO

0578

説明

この異常終了は、CTT 装置タイプ (CTTDEVIC) が 2 進ゼロになっているか、値がシステム・コンソール (X'33') より小さかったために発生しました。CTTDEVIC は、トランザクション・マネージャーの初期化 (制御 TCB) 時に、定義された各端末についてピックアップおよび検査されます。イムス 端末装置タイプは、番号 1 で始まります。

上記の条件はいずれも明らかなエラーであり、おそらく、以下のいずれかの状態が原因である可能性があります。

1. DFSCLL0x のステージ 2 アセンブリーでエラーが発生しました。
2. DFSCLL0x のリンク・エディットでエラーが発生しました。

注: モジュール名の x 値は、中核接尾部を示します。

分析

これは、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。DFSCLL0x のステージ 2 アセンブリーが許容できる出力を生成し、後続のバインドがエラーなしで行われるようにしてください。

キー	ラベル	解説
Reg7=A(C TG)	オブショ ン 010	CTB 内の最初のワードは CTT のアドレスであり、これは誤りです。CTT の最初のバイトは装置タイプ (CTTDEVIC) です。

システムの処置

イムスは初期設定処理を終了

オペレーターの応答

DFSCLL0x のステージ 2 アセンブリーが受け入れ可能な出力を生成し、後続のバインドがエラーなしで行われたことを確認してください。適切なシステム・プログラマーに連絡して、イムスの問題を訂正してください。

問題判別:

1, 4, 6, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSIINB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0579

説明

制御領域の初期設定で、行グループを正常にオープンできませんでした。DFSIINB0 が、イムストランザクション・マネージャーの初期化中に内部イムスエラーを検出しました。さらに初期化を続行すること

分析

これは、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。異常終了の入り口でのレジスターには、以下の情報が含まれています。

レジスター 8 = CIT に、無効な装置タイプ・コードが入っている。

レジスター 15 = 無効な装置タイプ・コード。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

正しいイムス制御ブロックがイムス中核にリンクされていることを確認してください。

問題判別:

1, 4, 6, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSIINB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0580

説明

DFSIINB0 がイムスのトランザクション・マネージャーの初期設定中にイムス内部エラーを検出したか、または DFSDINB0 がデータベース制御 (DBCTL) サブシステムの初期設定中にイムス内部エラーを検出しました。初期化を続行できません

分析

DFSIINB0 の場合:

IMODULE GETMAIN が、DFSCMTI0 のための CSACLB (ECB) 用の CSA ストレージを取得できませんでした。この問題は、イムスの内部エラーです。

0580 は、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。レジスター 3 には、GETMAIN によって獲得される CSA の長さが入っています。レジスター 15 に、以下の戻りコードのいずれかが入っています

コード

説明

X'04'

関数またはオプションが無効です。

X'08'

z/OS システムの実行が、SVC ルーチンのアセンブラー z/OS システムと整合性がありませんでした。

X'14'

サブプール内のストレージが不十分であるか、要求された長さがゼロでした。

X'18'

プログラム・チェックまたはその他の内部エラー。

DFSDINB0 の場合:

DB 制御 (DBCTL) の初期設定中に、IMODULE GETMAIN が失敗しました。

この異常終了と共に、メッセージ DFS697I が出力されます。メッセージ内の EPLOC フィールドには、IMODULE GETMAIN が DWBUF ストレージについて失敗したことを示す文字 DFSDWBUF が含まれています。異常終了 SVRB 内のレジスター 4 に、要求された DWBUF 域のサイズが含まれています。このメッセージには、IMODULE 戻りコードも表示されます。

システムの処置

IMS は異常終了する。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

1, 4, 6, 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIINB0、DFSDINB0

関連情報

[DFS697I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0581

説明

DFSIINB0 または DFSIINB0 が IMS Transaction Manager の初期設定中に内部 IMS エラーを検出しました。初期設定を継続することはできません。宛先検索モジュール (DFSICLFO) が、VTAM/MSU 端末用に定義された CNT/LNB/RCNT を見つけることができませんでした。

分析

これは、モジュール DFSIIMS0、DFSIINB0、DFSIINU0、および DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。

DFSIINB0 の場合:

宛先検索モジュール (DFSICLFO) が、システム制御ブロック DFSMTCNT-CNT または DFSRMCNT-CNT を見つけることができませんでした。これは、内部 IMS エラーです。

レジスター 2 に、見つける宛先へのポインターが入っています。

DFSIINB0 の場合:

宛先検索モジュール (DFSICLFO) が、VTAM 端末ブロック (VTCB) セットに関連したシステム制御ブロック (CNT) を見つけることができませんでした。レジスター 2 は、見つけることができなかった宛先を指しています。

考えられる原因: CNT ブロックを含んでいる IMS モジュール (DFSNUCxx) が変更され、一方 VTCB ブロックを含んでいる IMS モジュールが変更されなかったか、またはその逆です。

あるいは、必須の宛先が見つかりませんでした。これは JCLIN エラーが原因の可能性もあります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

正しい IMS 制御ブロックが IMS 中核にリンクされたかどうかを確認します。ブロックが正しくリンクされていた場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題の判別の支援を受けてください。

問題判別:

1, 4, 6, 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIMS0、DFSIINB0、DFSIINU0、DFSIINB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0582

説明

DFSIINB0 が IMS Transaction Manager の初期設定中に内部 IMS エラーを検出しました。初期設定を継続することはできません。DFSBCB 操作で、VTAM Receive Any のバッファ用ストレージを取得できませんでした。これは、内部 IMS エラーです。

分析

これは、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。DFSBCB 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

以下について検査します。

- EXEC パラメーターの RECA キーワードで指定された VTAM Receive Any バッファの数。
- IMS システム定義の COMM マクロの RECANY パラメーターに指定された VTAM Receive Any バッファの数とサイズ。

問題判別:

1、4、6、10、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINBO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0583

説明

VTAMなしでシステム定義が実行されましたが、SCD 制御ブロックは、VTAM 制御ブロックが存在することを示しています。

分析

これは、モジュール DFSIIINBO によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: IMS/VTAM 制御ブロックが、非 IMS/VTAM 中核とバインドされている可能性があります。

システムの処置

IMS は異常終了する。

プログラマーの応答

正しい SCD が IMS 中核にリンクされていることを確認してください。

問題判別:

1, 4, 6, 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINBO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0584

説明

自動化操作プログラム・インターフェース・メッセージ生成プログラムによって、エラー状態が検出されました。レジスター 5 に、モジュール内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 2 に、異常終了の理由を示すコードが入っています。

分析

0584 は、AOI メッセージ生成プログラム・モジュール DFSCLEMAO によって発行される標準異常終了です。レジスター 5 は、エラーが検出されたモジュール内のコードを指しています。レジスター 2 に、以下のような異常終了の理由を示すエラー・コードが入ります。

コード

説明

X'04'

LTERM ではないリモート宛先のメッセージをエンキューするために、メッセージ生成プログラムが呼び出されました。

X'08'

PUT LOCATE 呼び出し時に、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に、キュー・マネージャーの戻りコードが入ります。

X'0C'

CHANGE PREFIX 呼び出し時に、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に、キュー・マネージャーの戻りコードが入ります。

X'10'

ENQUEUE 呼び出し時に、キュー・マネージャーからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に、キュー・マネージャーの戻りコードが入ります。

X'14'

無効な宛先パラメーターを使用して、メッセージ生成プログラムが呼び出されました。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、3

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:
DFSCSCLMA0

0585

説明

XRF 可能 イムス システムの初期化中にエラーが発生しました。レジスター 15 のサブコードは、特定の問題を示しています。

分析

レジスター 15 のサブコードは、特定の問題を示しています。

キー	ラベル	解説
Reg15=X '01'	ホ ティ 01	HSBID パラメーター値が無効です。
Reg15=X '02'	ホテ ィ 65	システム間通信機能 (ISC) インターフェースとの XRF システム・リンクが イムス システム定義で定義されましたが、有効な通信回線ブロック (CLB) が存在しません。これは イムスの内部エラーです。

原因 考えられる原因: しては、以下の

- レジスター 15 が X'01' の場合、制御領域実行プロシージャの EXEC ステートメント内の HSBID パラメーターは無効です。
- If register 15 is X'02', an internal イムス error occurred. イブソ ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 15 = 1 の場合は、制御領域実行プロシージャの EXEC ステートメントの HSBID パラメーター値を訂正してください。レジスター 15 = 2 の場合は、イブソ ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

問題判別:

1, 2, 3, 4, 6, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:
DFSIINB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0586

説明

XRF 対応の IMS システムの初期設定中に、次のいずれかのエラーが発生しました。

- 制御領域の EXEC ステートメントの HSBID パラメーターで無効な値が検出された。HSBID=1、HSBID=2、または HSBID=ヌルのみが可能。HSBID=ヌルは、XRF 機能を非活動化します。
- プロシージャ・ライブラリーの DFSHSBxx メンバーをオープンできなかった。

分析

これは、XRF 初期設定中に DFSHINT0 によって発行される標準異常終了です。EXEC ステートメントで無効な HSBID パラメーター値が検出されたか、または DFSHSBxx プロシージャ・ライブラリー・メンバーをオープンできませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X '01'	ABND58 61	EXEC ステートメントの HSBID パラメーター値が、1、2、またはブランクではありません。FRBHOTID (レジスター 10 + X'118' で指し示される) に、無効値が入っています。
Reg15=X '02'	ABND58 62	DFSHSBxx プロシージャ・ライブラリー・メンバーをオープンできませんでした。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- 無効なパラメーターが指定された。
- 無効な HSBMBR パラメーターが指定されました。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

最初のエラーの場合、HSBID パラメーターを訂正し、2 番目のエラーの場合、HSBMBR パラメーターを訂正します。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSHINTO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0587

説明

ストレージに対する要求が失敗したか、ロック要求が失敗したために、高速機能の緊急時再始動を完了できませんでした。戻りコード X'08' から X'18' は、DEDB 順方向リカバリー・ルーチン (DBFERS10) からのゼロ以外の戻りコードが原因で、高速機能の緊急時再始動ルーチン (DBFERST0) によって異常終了が発行されたことを示します。戻りコード X'1C'、X'20'、X'24'、または X'28' は、DEDB 緊急時再始動更新ログ・レコード・プロセッサ (DBFERDB0) によって異常終了が発行されたことを示します。

分析

レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

コード

説明

X'08'

高速保管域を取得できません。

X'0C'

一時記憶域を GETMAIN できません。

X'10'

ストレージ不足のため、順方向リカバリー ITASK を作成できません。

X'14'

ストレージ不足のため、SRB を作成できません。

X'18'

DBFMGXCO から CI ロックを獲得できません。下の表は、ロック要求が失敗した理由を判別する方法を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg5=A(D MHR) Reg8=A(D MAC) Reg15=X'18'	ERST DBCL	DBFMGXCO は、CI ロックを取得できず、高速機能ロック要求処理プログラム (DBFLRH00) からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg15=X'1C' Reg15=X'24'		IRLM は、ロック要求がリジェクトされた理由を説明する戻りコードと理由コードを渡し

キー	ラベル	説明
		ます。これらのコードは、以下の方法で検索できます。 SCDRSTEB で指し示された RESTART PST を見つけます。位置 PSTLRXRC に IRLM からの戻りコードが入り、位置 PSTLRXFB に IRLM からの理由コードが入っています。IRLM コードについては、 IRLM メッセージおよびコード に説明があります。

X'1C'

5947 ログ・レコードの処理中に、バッファ用ストレージを取得できません。

X'20'

5950 専用バッファ・ログ・レコードを処理するために、拡張リカバリー機能 (XRF) 代替領域または高速データベース・リカバリー領域 (FDBR 領域) に必要なストレージを取得できません。前のログ・レコード処理で、半分のバッファ数しか取得できませんでした。

X'24'

5950 専用バッファ・ログ・レコードを処理するために必要なストレージを取得できません。

X'28'

拡張リカバリー機能 (XRF) 代替領域または高速データベース・リカバリー (FDBR) 領域が共用 VSO エリア用の専用バッファを取得できません。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードとその意味については、『分析』のセクションを参照してください。

問題判別:

1、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFERST0、DBFERDB0

関連タスク

[戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0588

説明

ユーザー作成の、従属領域用の事前初期設定ルーチンをロードしてリンクする試みが失敗しました。

システムの処置

従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了の前に、メッセージ DFS3848 または DFS3849 が出力されます。どちらの場合も、BLDL マクロ命令により問題が検出されました。BLDL はリンク・ライブラリー、および、ジョブまたはステップ・ライブラリーを検索します。エラー・メッセージにリストされたモジュールがこれらのどのライブラリーにも見つからないか、またはこれらのライブラリーのいずれかを検索中に入出力エラーが発生しました。

問題判別:

1、2、3、6、11、35

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS3848 \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS3849 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0589

説明

内部システム・エラーが発生しました。拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) 制御ブロックに関する入出力許容サービスへの要求が失敗したか、または非同期作業エレメント (AWE) の取得要求または解放要求が失敗したかのいずれかです。

分析

DFSHREQ0 の場合:

CBT サービスに対する FIND BLOCK 要求が失敗しました。

これは、テークオーバー中に XRF 代替システムによってモジュール DFSHREQ0 から発行される標準異常終了です。DFSHREQ0 は、XRF 代替システムによって追跡されるすべてのバッファの入出力許容 EEQE を作成します。DDIR (DMB ディレクトリー) に関する CBT サ

ービスへの FIND BLOCK 要求が失敗すると、この異常終了が発行されます。検索パラメーター (通常は、DDIR 名) が誤っているために、FIND BLOCK 要求が失敗しました。DDIR 名は、バッファー・トラッキング・テーブルから取得されます。問題分析のために、IMS ログが使用可能であるようにしてください。

キー	ラベル	説明
Reg1=A(parms)	EEQE00	CBT サービスのパラメーター作業域のアドレス。バッファー・トラッキング・テーブルのアドレス。検索対象の
Reg4=A(BTTE)		DDIR 名のアドレス。CBT サービスからの戻りコード。
Reg7=A(DDIR)		
Reg15=V(cod e)		

考えられる原因: 以下の原因があります。

- XRF アクティブ・システムが誤ったログ・レコードを生成した。
- XRF 代替システムがログ・レコードを不適切に処理した。

DFSHCI00 の場合:

AWE プールからの非同期作業エレメント (AWE) に関する GET または RELEASE 制御ブロック要求 (DFSBCB FUNC=GET/REL) が失敗しました。

レジスター 14 は、GET AWE の場合はラベル HCIGAW を指し、RELEASE AWE の場合はラベル HCIRAW を指しています。レジスター 15 に、DFSBCB00 から戻されたエラー・コードが入っています。

考えられる原因: この要求を満たすために使用可能な CSA 内のストレージが不十分でした。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードとその意味については、上記の『分析』を参照してください。

問題判別:

1、2、3、4、6、15、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSHREQ0、DFSHCI00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0590

説明

IMS 代替システムが稼働中の XRF 複合システムで、VTAM または IRLM に障害が起きました。中央演算処理装置複合システム (CPC) で、どちらか一方が異常終了しました。

分析

これは、内部 VTAM エラーによって TPEND 出口ルーチンが駆動されたか、代替システムが実行されている CPC で IRLM が異常終了した場合に発行されます。

キー	ラベル	説明
	HTRMTER M	XRF 代替システムは、異常終了 0590 で終了します。ダンプは取られません。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

VTAM または IRLM の障害の原因になったエラーを修正してから、代替 IMS システムを再始動します。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSHTRMO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0591

説明

高速機能リソースをエンキューまたはデキューしようとしたときに、エラーが発生しました。高速機能順方向リカバリー・プロセッサ (DBFERS20) が、CI の順方向リカバリー処理中に CI ブロックを取得できなかったか、解放できなかったかのいずれかです。この問題の原因は、内部 IMS エラーです。

分析

0591 は、高速機能順方向リカバリー・モジュール DBFERS20 によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 を調べて、ロック要求が失敗したのか、ロック解放が失敗したのかを判別します。レジスター 4 を調べて、IRLM 戻りコードと理由コードを判別します。

IRLM コードについての説明は、IRLM 要求の戻りコードと理由コードを参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg2=DMAC アドレス Reg4=X'bbbb cccc' Reg7=XCRB アドレス Reg15=X'000 1aaaa'	ERS2 LOCK	X'0001' は、ロック要求が失敗したことを示します。 X'aaaa' = DBFMGXCO からの戻りコード X'bbbb' = IRLM 理由コード X'cccc' = IRLM 戻りコード DMAC には、DEDDB エリアに関する情報が入っています。XCRB には、そのロック要求に関する CI についての情報が入っています。
Reg2=DMAC アドレス Reg4=X'bbbb cccc' Reg7=XCRB アドレス Reg15=X'000 2dddd'	ERS2 RLSE	X'0002' は、ロック解放が失敗したことを示します。 X'dddd' = DBFLRH00 からの戻りコード X'bbbb' = IRLM 理由コード X'cccc' = IRLM 戻りコード DMAC には、DEDDB エリアに関する情報が入っています。XCRB には、そのロック要求に関する CI についての情報が入っています。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFERS20

関連タスク

[IRLM メッセージおよびコード](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0592

説明

IMS が高速処理データベース (DEDB) のエリア・ロックを取得できませんでした。高速機能 XRF モジュールは、2 番目の CI から DMAC をリフレッシュするための準備中にエリア・ロックを取得できませんでした。これは、内部 IMS エラーです。

分析

DBFMGXCO は、CI ロックを取得できず、高速機能ロック要求処理プログラム (DBFLRH00) からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

IRLM は、ロック要求がリジェクトされた理由を説明する戻りコードと理由コードを渡します。これらのコードは、以下の方法で検索できます。

RESTART PST (SCDRSTEB で指し示された) を見つけます。位置 PSTLRXRC に IRLM からの戻りコードが入り、位置 PSTLRXFB に IRLM からの理由コードが入っています。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFEACLO、DBFHCIRO、DBFENISO、DBFE2CIO、DBFERS10

関連タスク

[戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0593

説明

再始動時にデータベース・ブロック障害が発生した。

分析

DFSRBLB0 の場合:

イムス 再始動処理中にデータベース・ブロック障害が発生しました。

これは、DFSRBLB0 によって発行される標準異常終了コードです。これは、イムスの「ファイルの終了」処理中に発生します。レジスター 14 に、異常終了が検出された元のアドレスが入っています。

レジスター 15 に、次のいずれかの異常終了サブコードが入っています

コード 説明

X'01'

DFSBCB GET の失敗

X'03''

DSFCWU エラー

X'04'

PSB 障害のスケジュール

X'05'

DDIR が見つからないエラー

X'06'

トランザクション・コードが見つからず、タイプ 07 ログ・レコードが存在しない

X'07'

タイプ 0408 ログ・レコードを作成するための作業域用のグローバル・ストレージ用の IMODULE GETSTOR が失敗しました。

DFSRDBP0 の場合:

再始動処理中にデータベース・ブロック障害が発生した。

これは、DFSRDBP0 によって発行される標準異常終了です。これは、再始動、XRF トラッキング、または高速データベース・リカバリー (FDBR) トラッキングの実行中に、X'07'、X'08'、X'47'、または X'5607' のログ・レコードの処理中にのみ発生します。レジスター 12 は基底レジスターです。

レジスター 15 に、以下の戻りコードのいずれかが入っています

コード 説明

X'01'

DFSBCB GET ブロック・エラー

X'02'

DFSCBTS ENQ/DEQ エラー

X'03''

DSFCWU エラー

X'04'

ブロック・ムーバー・エラー

X'05'

DDIR が見つかりません

X'06'

PSB スケジュールのプール・スペースが不十分です

キー	ラベル	解説
Reg2=A(X'47' ログ) 調書) Reg15=X'01'	P4701004 (CLNP020)	DFSBCBGET が、RRE または SIDX を取得できませんでした。
Reg2=A(X'47' ログ) 調書) Reg15=X'02'	P4701304 (CLNP042)	DFSCBTS ENQ または DFSSIDX0 への DEQ 呼び出しが失敗しました。
Reg2=A(ログ) 調書) Reg14=A(CWU 復帰) Reg15=X'03''	ゲッド プスト (CLNP020)	X'07' /X'08' /X'47' ログ・レコード処理で作業単位の作成に失敗しました。
Reg2=A(PDIR) Reg14=A(戻り値) シッド・PSB) Reg15=X'04'	シュド プツブ	この戻りコードは、XRF 代替システムにのみ適用されます。ブロック・ムーバーからエラーが戻されました。PST 内の X'385' の PSTSCHDF フィールドには、以下のいずれかの値が含まれています。 X'01' PSB が停止またはロックされている。 X'02' データベースが停止またはロックされた X'03' PSB/DMB の読み取りでの入出力エラー。DMB が見つからないか、または前の DMB エラー (DDIRBAD セット)。 X'04' インテントの競合。 X'05' PSBW/DMB プールが小さすぎて PSB/DMB を保持できません。 X'06' EPCB/DMB/PSB/PSBW プール・ストレージが一時的に使用できないか、DFSDBAU が必要なスパー

キー	ラベル	解説
		スを取得できませんでした。詳細については、PSTCODE1 を参照してください。 X'07' PCB PROCOPT L または LS が無効です。 X'08' FP バッファ・ページ固定エラー。 X'09' データベース・アクセスと互換性がない PCB 処理インテント。 X'0A' データベース許可の失敗。 X'0B' データベースが使用不可です。 X'0C' 入出力防止を待機しています (テークオーバー後の GSAM との BMP)。
Reg2=A(ログ・レコード) Reg11=PDIR RC の検索 Reg14=A(検索を戻す プディル) Reg15=X'05'	P080020 (P470050)	ログ・レコード内の PSBNAME に対応する PDIR が見つかりませんでした。 検索 検索を戻す プディル) 検索

キー	ラベル	解説
Reg2=A(ログ・レコード)	シュド プップ	この戻りコードは、XRF 代替システムにのみ適用されます。プール・スペース・エラーが発生しました。PST 内のバイト X'B02'には、次のいずれかの値が入っています
Reg14=(戻り SCHD プップ)		
Reg15=X'06'		
	X'40'	
	インテント競合	
	X'20'	
	DMB 待ち行列上の PST	
	X'08'	
	タイプ 3 バッチ領域	
	X'04'	
	PSB 待機キュー上の PST	
	X'x2'	
	X'02'の場合、PSB プールが不足しています。X'12'の場合、PSB 作業プールが不足しています。異常終了の前に発行される DSF992I または DFS993I が、プール・スペースの不足タイプを指定します。	
	X'00'	
	インテント・リスト・ロードまたは DMB のロードおよび再配置からのエラー戻り。PST 内のバイト X'345'の PSTSCHDF をチェックして、原因を判別してください。例えば、PSTSCHDF に X'05'が含まれている場合、DMB プールは小さすぎます。	

DFSRESPO の場合：

再始動中にデータベースまたは再始動ブロックの障害が発生しました

これは、DFSRESPO によって発行される標準異常終了です。これは、DFSBCB/DFSCBTS の問題が原因で、再始動時に X'4027' タイプおよび X'4028' タイプのログ・レコードの処理でのみ発生します。

コード 説明

X'08'

要求された SIDX 関数の実行中にブロックが見つかりませんでした。

キー	解説
Reg2=A(X'4027' または X'4028')	SIDX FUNC=FOUND または GET、BLK=EQEL、DDIR、EQEL、または RRE 要求に対して、DFSBCB/DFSCBTS エラーが発生しました。
ログ・レコード Reg15=X'08'	

DFSRST00 の場合：

再始動処理中にデータベース・ブロック障害が発生した。

これは、DFSRST00 によって発行される標準異常終了です。これは、再始動または XRF トラッキング中にログ・レコードの処理中にのみ発生します。レジスター 14 に、異常終了が検出されたアドレスが入っています。レジスター 15 に、次のいずれかの異常終了サブコードが入っています

コード 説明

X'01'

DFSBCBGET は、サブルーチン GETRPST 内の EQEL、RPST、または SIDX を取得できませんでした。

X'02'

サブルーチン RELRPST で、サブルーチン GETRPST または DEQ の DFSCBTS ENQ が失敗しました。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

異常終了時にレジスター 15 に入っているコードが、障害の原因を示しています。

上記のエラー・コードに従って、適切な処置を行ってください。CSA フラグメント化により、コード 3 および 4 が発生する可能性があります。この場合は、再 IPL して、ジョブを再実行してください。

ソース：

イムス 異常終了

モジュール：

DFSRBLB0、DFSRDBP0、DFSRESPO、DFSRST00

0594

説明

内部システム・エラーが発生しました。RPST 制御ブロックに対するストレージ管理サービスへの要求が失敗しました。リクエスターは異常終了を発行できます。

分析

これは、エラーの再始動時に XRF/非 XRF システムによって発行されるか、トラッキング・フェーズ中に XRF 代替システムによって発行される標準異常終了です。RPST ブロック管理モジュールに対するサービス要求が失敗し、要求元が 0594 を発行しました。これは、内部システム・エラーです。イブンの問題分析に関する以下の情報を入手してください

1. RPST サービス要求が失敗した場所。(異常終了への入り口の PSW を使用して、異常終了したモジュールと、異常終了が出された命令を判別します。これにより、RPST サービス要求が失敗した場所が分離されます。)
2. 処理中のログ・レコードのコピー。(レジスター 2 を参照してください。)ログ・レコード・タイプは X'07/08/37/47/50/51/52'です。
3. レジスター 1 によって示される呼び出し側のパラメーター作業域のコピー。この区域は、40 (X'28') バイトの長さです。
4. レジスター 15 内の異常終了サブコード。

キー	ラベル	解説
Reg1=A(parms)		RPST ブロック管理サービス用の呼び出し側のパラメーター作業域のアドレス。
		呼び出し側のログ・レコードのアドレス
Reg14=A(戻り)		呼び出し元への戻りのアドレス、DFSCBTS 呼び出しからの戻りアドレス、または呼び出しが異常終了ルーチンに分岐した場所のアドレス。
Reg15=V(サブコード)または 0 (エラーが DFSCBTS 呼び出しからのゼロ以外の戻りコードの結果ではない場合)		呼び出し元に戻された異常終了サブコード。

原因 **考えられる原因:** しては、以下の

- XRF アクティブ・システムが、誤ったログ・レコードを生成しました。
- XRF 代替システムが、ログ・レコードを誤って処理しました。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードとその意味を確認してください。

問題判別:

1, 2, 3, 4, 6, 15, 35

ソース:

イムス 異常終了

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0595

説明

サブプール 231 からの主記憶域の GETMAIN 要求が失敗しました。

分析

これは、XRF 同期中に代替システムによって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1=V(異常終了コード) Reg15=V(戻りコード)		ユーザー異常終了コード。 GETMAIN 要求からの戻りコード

考えられる原因: IMS 制御領域 JCL の JOB ステートメントの REGION パラメーターの値を増やす必要があります。

システムの処置

代替システム上の制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードとその意味を確認してください。

問題判別:

1, 2, 3, 4, 6, 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSHDAIO、DFSHPTK0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0596

説明

内部システム・エラーが発生しました。この異常終了は、XRF 複合システム内または高速データベース・リカバリー領域内のすべての IMS バッファ・トラッキング・モジュールによって発行されます。

分析

これは、トラッキングまたはテークオーバー・フェーズ中に XRF 代替システムによって発行される標準異常終了です。問題分析のために、IMS ログが使用可能であるようにしてください。レコード・タイプは、X'07/08/27/37/50/51/52/53' です。

レジスター 1 に、ユーザー異常終了コード 0596 (X'254') が入っています。レジスター 15 に、サブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15= X'04'	RD53	バッファ・トラッキング・プールを見つけることができません。
Reg15= X'08'	CHEC KAG	バッファ・トラッキング 1 次プールでバッファを見つけることができません。
Reg15= X'0C'	MATC HR	バッファ・トラッキング・オーバーフロー・プールでバッファを見つけることができません。
Reg15= X'10'	BLDW KA	バッファ・トラッキング・プール用のストレージを割り振ることができません。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- XRF アクティブ・システムが誤ったログ・レコードを生成した。
- XRF 代替システムがログ・レコードを不適切に処理した。

システムの処置

代替システム上の制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードとその意味を確認してください。

問題判別:

1、2、3、4、6、15、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSHPTK0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0597

説明

内部システム・エラーが発生しました。この異常終了は、XRF 複合システムのすべての IMS ロック・トラッキング・モジュールによって発行されます。

分析

これは、トラッキングまたはテークオーバー・フェーズ中に XRF 代替システムによって発行される標準異常終了です。問題分析のために、IMS ログが使用可能であるようにしてください。レコード・タイプは、X'07/08/27/37/50/51/52/53' です。

レジスター 1 に、ロック・トラッキング障害またはロック再獲得障害からのユーザー異常終了コード 0597 (X'255') が入っています。レジスター 15 に、サブコードが入っています。

DFSHLTK0 の場合:

キー	ラベル	説明
Reg15= X'01'	HLTK02 00	ロック・トラッキング障害 - ログ・レコード内にロック・トラッキング・データがありませんでした。
Reg15= X'03'	TRLK15 00	ロック・トラッキング障害 - 獲得されなかったロック・トラッキング・エントリーを削除しようとしています。
Reg15= X'04'	TRLK17 00	ロック・トラッキング障害 - 獲得されなかったロック・トラッキング・エントリーを削除しようとしています。
Reg15= X'05'	DELLW KAE	ロック・トラッキング障害 - このロック・トラッキングまたはハッシュ・テーブル・エントリーのプール・ヘッダーを見つけることができません。
Reg15= X'06'	GETP0 500	ロック・トラッキング障害 - ロック・トラッキング・プールを IMODULE GETMAIN できません。Reg5 に戻りコードが入っています。
Reg15= X'07'	DELL02 00	ロック・トラッキング障害 - ロック・トラッキング・プールを IMODULE DELETE できません。Reg5 に戻りコードが入っています。

DFSHRALO の場合:

キー	ラベル	説明
Reg15=X' 05'	HRAL042 0	ロック再獲得障害 - ロック・ト ラック・エントリーから DDIR を検出できません。
Reg15=X' 06'	HRAL050 2	ロック再獲得障害 - IRLM から RIDX ロックを再獲得できませ ん。
Reg15=X' 07'	HRAL052 1	ロック再獲得障害 - IRLM から SEGX ロックを再獲得できませ ん。
Reg15=X' 08'	HRAL051 1	ロック再獲得障害 - IRLM から SEGL ロックを再獲得できませ ん。
Reg15=X' 09'	HRAL054 1	ロック再獲得障害 - IRLM から BIDP ロックを再獲得できませ ん。
Reg15=X' 0A'	HRAL055 1	ロック再獲得障害 - IRLM から BIDX ロックを再獲得できませ ん。
Reg15=X' 0B'	HRAL053 1	ロック再獲得障害 - IRLM から BIDL ロックを再獲得できませ ん。
Reg15=X' 0C'	HRAL053 1	ロック再獲得障害 - IRLM から XIDP ロックを再獲得できませ ん。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- XRF アクティブ・システムが誤ったログ・レコードを生成した。
- XRF 代替システムがログ・レコードを不適切に処理した。

システムの処置

代替システム上の制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードとその意味を確認してください。

問題判別:

1、2、3、4、6、15、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSHLTKO、DFSHRALO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0598

説明

拡張リカバリー機能 (XRF) 複合システムの同期フェーズ中、または代替システムの緊急時再始動中に、システム・データ・セット内で不整合が検出されました。レジスター 3 に、この問題の原因となったシステム・データ・セットを示す文字ストリングが入っています。エラーの可能性のあるデータ・セットは、リスタート・データ・セット (RDS)、MODSTAT、QBLK、LGMSG-Q、SHMSG-Q、および MSDB です。詳しくは、メッセージ DFS3889A を参照してください。

分析

DFSRST00 の場合:

XRF 同期時または再始動時に、アクティブ・システムと代替システムのシステム・データ・セットの DSNAME および VOLID が不整合です。

0598 は、XRF 同期中または非 XRF システムの再始動中に、不整合な DDNAME が原因で DFSRST00 によって発行される標準異常終了です。アクティブ・システムの DSNAME および VOLID が、'4001' チェックポイント・ログ・レコードに入れて代替システムに渡され、代替システムの DSNAME および VOLID と比較されます。アクティブ・システムと代替システムのシステム・データ・セットの DSNAME または VOLID が不整合であると、この異常終了が発行されます。

代替システムが終了する前に、戻りコード (RC=) を含むメッセージ DFS3889A がマスター端末に送信されます。レジスター 2 にログ・レコードのアドレスが入り、レジスター 7 に高速再始動ブロック (FRB) のアドレスが入っています。レジスター 15 に、以下の戻りコードが入ります。

コード 説明

RC=04

アクティブ・システムの再始動中に、使用された DSNAME または VOLID が異なっていました。COLDSTART または BLDQ オプションが指定されていない限り、これらは同じでなければなりません。

RC=08

緊急時再始動中は、短いメッセージ・データ・セットおよび長いメッセージ・データ・セットのデータ・セット数が整合している必要があります。変更が必要な場合は、コールド・スタートまたは BLDQ オプションのいずれかが必要です。

RC=0C

XRF 環境での緊急時再始動中に、バックアップ・システムのキュー・マネージャー・データ・セット (qblks-shmsg-igmsg) が同じです。これらのシステム・データ・セットは、アクティブ・システムが使用するシステム・データ・セットとは異なっている必要があります。

RC=10

XRF 環境での緊急時再始動中に、バックアップ・システムのオンライン変更用のシステム・データ・セット、または再始動データ・セットが異なっていました。これらのシステム・データ・セットは、アクティブ・システムと同じである必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg3=C'MODS' Reg8=ONLINE CHANGE 作業 域 MSWA のア ドレス	MODBAD CHECKSD S	アクティブ・システムと代替システムの DSNAME および VOLID MODSTAT データ・セットまたは MODSTAT2 データ・セットが同じではありません。
Reg3=C'RDS' REG4=A(DCB EXT) Reg5=A(DCB) REG8=A(UCB)	RDSBAD CHECKSD S	アクティブ・システムと代替システムの RDS または RDS2 データ・セットの DSNAME および VOLID が同じではありません。
REG3=C'QBLK' REG4=A(DCB EXT) REG5=A(DCB)	QBLKBAD CHKSYS1 0	アクティブ・システムと代替システムの QBLK データ・セットの DSNAME および VOLID が、XRF 同期中に同じであるか、あるいは再始動中に同じではありません。
REG3=C'SMS G' REG4=A(DCB EXT) REG5=A(DCB)	SMSGBA D CHKSYS2 0	アクティブ・システムと代替システムの SHMSG データ・セットの DSNAME および VOLID が、XRF 同期中に同じであるか、あるいは再始動中に同じではありません。
REG3=C'LMS G' REG4=A(DCB EXT) REG5=A(DCB)	LMSGBAD CHKSYS3 0	アクティブ・システムと代替システムの LGMSG データ・セットの DSNAME および VOLID が、XRF 同期中に同じであるか、あるいは再始動中に同じではありません。

DBFNRSO の場合:

再始動または XRF 同期の MSDB データ・セット名または VOLID が不整合です。

再始動または XRF 同期による 4080 ログ・レコードの (高速機能チェックポイントから始まる) 処理中に、ログに記録されている MSDB データ・セット名または VOLID が、再始動/バックアップ・システム内で見つかりませんでした。異常終了の前に、メッセージ DFS3889A が出されます。レジスター 8 は、4080 ログ・レコードを指しています。レジスター 11 は、ESCD を指しています。フィールド ESCDMDSN は、MSDB チェックポイント・データ・セットの DSNAME および

VOLID を含んでいるブロックへのポインターです。このブロックは、マクロ DBFMSDSN にマップされます。

キー	ラベル	説明
Reg3=C' MSDB'	NRST4 080	次のいずれかの問題が発生しました。 1. 正常再始動、緊急時再始動、または XRF バックアップ同期中に、ログに記録されている MSDB DBD 名がシステム内で見つかりませんでした。 2. XRF 同期中に、アクティブ・システムと代替システムの MSDB VOLID の間に矛盾が見つかりました。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- IMS が誤ったプロシージャーを使用して開始された。
- データ・セットが異なるボリュームにマイグレーションされた。
- 内部プログラム論理エラーが発生した。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

制御領域の JCL を訂正します。XRF 対応の IMS システムのデータ・セット名およびボリュームの要件については、「XRF データ・セットの割り振り (システム定義)」を参照してください。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRST00、DBFNRSO

関連情報

[DFS3889A \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0599

説明

XRF 対応の IMS アクティブ・システムのチェックポイント中、または XRF 複合システムの同期フェーズで、ページ固定またはページ解放のエラーが発生しました。IMS AUTH PGFIX/PGFREE 機能によってレジスター 15 に戻りコードが渡されます。これらの戻りコードにつ

いての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析

0599 は、DFSRCPO0 または DFSRLPO0 によって発行される標準異常終了です。IMSAUTH マクロが、ページ固定サービスまたはページ解放サービスのために DFSV4200 を呼び出しました。ゼロ以外の戻りコードが、レジスター 15 で呼び出し元に渡されました。

キー	ラベル	説明
Reg14=IMSAUTH 呼び出しに続く BAL R14,ABND599 の次の順次命令 Reg15=ゼロ以外の戻りコード	ABND599	ページ固定/解放要求が失敗しました。

考えられる原因: 内部プログラム論理エラーまたはインターフェース・エラーが発生しました。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRCPO0、DFSRLPO0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0600

説明

VM のもとで XRF 可能 イムス システムを実行しているときに、DIAGNOSE-0 命令でエラーが発生しました。

分析

これは、DFSRCPO0 および DFSRLPO0 によって発行される標準異常終了です。これは、XRF 可能 イムス シ

テムが VM のもとで稼働しているときに、チェックポイントが取られるか、X'4001' ログ・レコードが代替システムによって処理されるかです。VM のもとで実行中の場合、イムスは DIAGNOSE O 命令を出して、VM USERID を取得します。アクティブおよび代替イムスシステムが同じ USERID のもとで実行されているかどうかを判別するための比較が行われます。

キー	ラベル	解説
Reg14= アドレスの順次の指示 ブランチとリンク (BAL) 命令	アベ ンド 600 ア ブ ダ 600	DFSRCPO0 DFSRLPO0 レジスター 2 (DFSRCPO0) またはレジスター 8 (DFSRLPO0) によって指し示されている DIAGNOSE O 作業域が、文字ストリング「VM」で始まっていないか、または USERID が取得されませんでした。割り込みが使用不可になった状態で、DIAGNOSE O 命令 (DC X'83100000') が実行されます。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーが発生しました。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

XRF 可能 イムス システムを再実行する試みが失敗した場合は、イブン ソフトウェア・サポートに連絡して支援を依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSRCPO0、DFSRLPO0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 15 章 IMS 異常終了コード 0601 - 0700

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0601

説明

IMODULE サービスを使用して、アドレス・スペース専用域または共通サービス域 (CSA) 内のストレージを取得または解放するための要求中に、障害が発生しました。

分析

この異常終了は、IMODULE GETMAIN/ DELETE を使用して一時記憶域を獲得または解放できなかった場合に DBFDBFM0、DBFERS20、DBFTOPU0、DFSIDC00、DFSTODI0、および DFSTOPRO によって発行される標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の命令を指しています。

レジスター 15 に戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードの説明については、イムス システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

領域サイズを大きくするか、CSA のサイズを増やす必要があります。レジスター 15 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

問題判別:

1, 2, 3, 4, 6, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DBFDBFM0、DBFERS20、DBFTOPU0、DFSIDC00、DFSTODI0、DFSTOPRO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

説明

IMS の入出力許容機能で論理エラーが発生しました。この異常終了の前に出力されるメッセージ DFS0612I に、予期しない条件を説明するレジスター 14 およびレジスター 15 の戻りコードが含まれています。

分析

DBFTOFNO と DBFTOPU0 の場合:

これは、DBFTOPU0 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'6 1'	ABNOSRB	FP SRB 取得が失敗しました
Reg15=X'6 2'	ABNOSRB R	FP SRB 解放が失敗しました
Reg15=X'6 3'	ABNPOST	PST が渡されませんでした
Reg15=X'6 4'	ABNEPSTR	EPST 解放が失敗しました
Reg15=X'6 5'	ABNOLCH G	ロック変更が失敗しました
Reg15=X'6 6'	ABNLKREL	ロック解放が失敗しました (RO = IRLM rc)
Reg15=X'6 7'	ABNOEPST	EPST 取得が失敗しました
Reg15=X'6 8'	ABNOBUF F	バッファー・アドレスがゼロです

0602

キー	ラベル	説明
Reg15=X'6 9'	ABNODAT A	データ・バッファが無効 です

DFSTOBHO と DFSTORSO の場合:

これは、DFSTORSO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了の前にメッセージ DFS0612I が出され、マスター・コンソールに書き込まれます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'2 2'	ABND60 2	バッファ・ハンドラー・ルーチンからのゼロ以外の RC
Reg15=X'3 1'	DOMSG	EEQE が見つかりません
Reg15=X'3 2'	DOMSG	ddir が見つかりません

DFSTODIO の場合:

これは、DFSTODIO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了の前にメッセージ DFS0612I が出され、マスター・コンソールに書き込まれます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'4 1'	MSG612	EEQE を作成する DBRC からのゼロ以外の RC
Reg15=X'4 2'	MSG612	EEQE を削除する DBRC からのゼロ以外の RC
Reg15=X'4 3'	MSG612	DBRC からのゼロ以外の RC

DFSTOPRO の場合:

これは、DFSTOPRO によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異

常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。異常終了の前にメッセージ DFS0612I が出され、マスター・コンソールに書き込まれます。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X '10'	ABND6 02	DDIR/DMAC が見つかりません
Reg15=X '11'	ABND6 02	削除するための EEQE が見つかりません
Reg15=X '12'	ABND6 02	EEQE の作成時にバッファ長が指定されませんでした。
Reg15=X '13'	ABND6 02	DBRC 変更 EEQE エラー
Reg15=X '14'	ABND6 02	バッチ・バックアウト中の DBRC 変更 EEQE エラー
Reg15=X '15'	ABND6 02	無効な EEQE が見つかりました
Reg15=X '1F'	ABNOE PST	EEQE COPY で無効な EEQE が見つかりました

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードについては、メッセージ DFS0612I を参照してください。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFTOFNO、DBFTOPUO、DFSTOBHO、DFSTODIO、DFSTOPRO、DFSTORSO

関連情報

[DFS0612I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0603

説明

XRF 複合システムの代替 IMS システムがシステム・ログ・データ・セットから主記憶データベース (MSDB) をロードしたときに、エラーが発生しました。レジスター 15 の戻りコードが、このエラーの理由を示しています。

分析

これは、IMS システム・ログから MSDB をロード中に DBFHLOD0 または DFSRLP00 によって発行される標準異常終了です。CHECKPOINT DUMPQ が取られると、MSDB データが X'407x' ログ・レコードとして IMS システム・ログに書き込まれます。XRF 同期中に、DFSRLP00 はこれらのレコードを読み取って DBFHLOD0 に渡します。異常終了時には、レジスター 14 は BAL R14, ABEND 命令の後の次の順次命令を指しており、レジスター 15 に理由コードが入っています。レジスター 2 は、処理中のログ・レコードを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg8+X'40'=FRB CHKNO のアドレス Reg10=A(ESCD) Reg15=X'01'	ABEND	ログ・レコード X'4070' で渡されたチェックポイント ID が、ログ・レコード X'4071'、X'4071'、X'4072'、X'4073'、X'4074'、または X'4079' 内のチェックポイント ID に一致しません。FRBCHKNO に、チェックポイント ID が入っています。
Reg1=A(ログ・レコード項目) Reg6=ECNT 項目の長さ Reg8+X'28'=FRB ECNT =CURRENT ECNT アドレス Reg10=A(ESCD) Reg15=X'02'	HLOD 4071	X'4071' ログ・レコードで渡された拡張通信ノード・テーブル (ECNT) 名が、システム内で見つかりませんでした。
Reg15=X'03' ESCDBFA=Reg 10+X'224' =X'00000000'	HLOD 4073	X'4073' ログ・レコードが DBFHLOD0 に渡されましたが、ページ固定 MSDB が定義されていませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg7=累算長さ。 Reg10+X'228'=E SCDBFL Reg15=X'04'	HLOD 4079	ページ固定 MSDB データの合計長が、ESCDBFL 内の長さに一致していません。
Reg15=X'05' ESCDBPA=Reg 10+X'22C' =X'00000000'	HLOD 4074	X'4074' ログ・レコードが DBFHLOD0 に渡されましたが、ページング可能 MSDB が定義されていませんでした。
Reg7=累算長さ Reg10+X'230'=E SCDBPL Reg15=X'06'	HLOD 4079	ページング可能 MSDB データの合計長が、ESCDBPL 内の長さに一致していません。
Reg1=A(ログ・レコード項目) Reg 5=A(ヘッダー項目) Reg 15=X'07' Reg15=X'08'	HLOD 4072	X'4072' ログ・レコードで渡された MSDB 名、HEADER 長さ、またはセグメント長が、対応する MSDB HEADER 項目の名前、長さ、またはセグメント長に一致していません。ヘッダーが複数の X'4072' ログ・レコード間にまたがっている場合、レジスター 15 が X'08' に設定されます。
Reg2=A(X'4070' ログ・レコード) Reg10+X'2C'=ES CDCNNO =ECNT の数 Reg10+X'32'=ES CDcnIn =ECNT の長さ Reg15=X'09'	HLOD 4070	チェックポイントが取られた ECNT の合計数と長さが、このシステム内の ECNT の数と長さに一致していません。
Reg14+X'42'= FRBMSDFL=X'80 ' Reg14+X'42' => X'C0' Reg15=X'0A'	L4099 S10	XRF 複合システムの同期フェーズ中に MSDB チェックポイント・レコード (X'407x') が検出されましたが、X'4079' レコードが処理されませんでした。DFSRLP00 はこの検査を X'4099' 処理の最後に行います。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- 内部プログラム論理エラーが発生した。
- アクティブ・システムと代替システムが同じシステムでない。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正してから、代替システムを再実行します。

問題判別:

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFHLOD0、DFSRLP00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0604

説明

代替システムによるテークオーバーを要求するために、XRF 複合システムのアクティブ・システムまたは代替システムから、**/SWITCH SYSTEM FORCE (ACTIVE)** または **/SWITCH SYSTEM ACTIVE** コマンドが入力されました。このコマンドにตอบสนองして、アクティブ・システムに対して異常終了コード 0604 が予想されます。代替システムがテークオーバーします。

システムの処置

アクティブ・システムの制御領域は終了します。

プログラマーの応答

必要ありません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSICA20、DFSTRM00

0605

説明

スケジューリング・シリアライゼーション・ラッチまたは ACBLIB 読み取りシリアライゼーション・ラッチを解放しようとしたときに、予期しない条件が発生しました。この異常終了が発生した理由は、ラッチが所有されていないため、またはラッチを解放しようとしたルーチンがそのラッチの所有者でないためです。これは、IMS システム・エラーです。モジュール DFSBML00 または DFSDBLR0 によって、異常終了 0605 が発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード

(PSW) によって、障害が特定のモジュールに切り分けられます。

分析

DFSBML00 の場合:

スケジューリング・シリアライゼーション・ラッチを解放しようとしていたときに、予期しない条件が発生しました。ラッチが所有されていないか、解放するルーチンがそのラッチの所有者でないために、異常終了が発生しました。これは、IMS システム・エラーです。

DFSBML00 と DFSDBLR0 の場合:

これは、DFSBML00 または DFSDBLR0 のいずれかによって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、障害を特定のモジュールに切り分ける必要があります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSBML00、DFSDBLR0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0606

説明

イムス IRLM 中断出口ルーチンで予期しない状態が発生しました。これは、イムス システム・エラーであるか、または無許可のアプリケーション・プログラムがイムス クロスメモリー・オプションを使用しようとしている可能性があります。

分析

これは、モジュール DFSSUSX0 によって発行される標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABND0606 にあるルーチン内の命令を指しています。このルーチンは、エラーが検出された場合に、DFSSUSX0 内のさまざまな場所から分岐されます。レジスター 4 は、異常終了ルーチンへの BAL レジスターであり、制御が渡された位置のアドレスが含まれています。

システムの処置

イムスは異常終了する。

問題判別:

4, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSSUSX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0608

説明

/TRACE SET ON TRAP 2 コマンドが使用可能な状態のとき、IMS が MFS ブロックの上書きを検出したか、または MOD と DOF のブロック検査が失敗しました。

DFSCFE80、DFSCFE90、DFSCFE10 の場合: **/TRACE SET ON TRAP 2** コマンドが使用可能なときに、IMS が MFS ブロックの上書きを検出しました。

DFSCFE00 の場合: **/TRACE SET ON TRAP 2** コマンドが使用可能なときに、IMS が一部の MOD パラメーターおよび DOF パラメーターを検査しました。MOD または DOF が検査に失敗しました。

分析

レジスターに以下の情報が入っています。

レジスター 11

CIB のアドレスが入っています。CIB は、再コンパイルする必要があるフォーマットを示します。

レジスター 14

エラーを検出したモジュール内のアドレスが入っています。このアドレスを使用して、エラーを検出したモジュールのサブルーチンを判別することができます。

レジスター 15

バッファ境界を越えたストレージ・アドレス、またはブロック検査からのエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
CIB+X'00' =		MID または MOD の名前
CIB+X'0C' =		DIF または DOF の名前

R15 エラー・コード:

コード 説明

- 1** DOF 作業バッファ・サイズ (DOFSWKSZ) が負です。
- 2** DOF の最初のバッファ・オフセット (DOFSBOWF) が負です。
- 3** MOD フィールド・データ長 (MODFLNG) が負です。
- 4** MOD リテラル・オフセット (MODFLIT) がゼロまたは負です。
- 5** MOD syslit ベクトル (MODFVECT) が X'0020' より大きい値です。
- 6** MOD syslit ベクトル (MODFVECT) が 4 で割り切れません。
- 7** MOD リンケージ・エン트리・オフセット (MODDOFL) が負です。
- 8** DOF FDE オフセット・リンケージ (DOFSSIZE) が負です。

DOF ビルド・タイプ 0 (3270):

コード 説明

- 9** DOF 行バッファ・データ・サイズ (DOFSLBDS) がゼロまたは負です。
- A** DOF FDE シリーズ終了 (DOF1EOF) が FDE タイプ 7 より前に検出されました。
- B** DOF シリーズ・リンク (DOFFLINK) がゼロまたは負です。
- C** DOF 索引値 (DOFFLAG1、ビット 4 から 7) が 8 より大きい値です。
- D** DOF データ/リテラル長さ (DOFFLNG) が負です。
- E** DOF リテラル・オフセット (DOFFLIT) がゼロまたは負です。

DOF ビルド・タイプ 1 (3270 以外):

コード 説明

- F** DOF 行バッファ・データ・サイズ (DOFSLBDS) がゼロまたは負です。

- 10** DOF 索引値 (DOFFLAG1、ビット 4 から 7) が 8 より大きい値です。
- 11** DOF 行バッファ・オフセット (DOFFBOFF) が負です。
- 12** DOF データ/リテラル長さ (DOFFLNG1) が負です。
- 13** DOF リテラル・オフセット (DOFFLIT1) がゼロまたは負です。
- 14** DOF 物理ページ・リンク (DOFFLINK) がゼロまたは負です。

システムの処置

形式ライブラリーまたはテスト形式ライブラリーを再コンパイルします。

問題判別

上書きが発生した場合、レジスター 14 に、上書きが検出されたモジュール内の位置が入れられます。MOD または DOF がブロック検査に失敗した場合、レジスター 15 にデバッグ・コードが入れられます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCFE80、DFSCFE90、DFSCFEI0、DFSCFEO0

0611

説明

装置出力形式 (DOF) フィールド記述子エレメント (FDE) の処理中に、メッセージ形式サービス (MFS) が、無効な要求が出されたことを検出しました。MFS 出力作成モジュール (DFSCFE80 または DFSCFE90) のいずれかによって、DOFFLAG1 内で無効な DOFFTYPE が検出されました。原因として、DOF が以下の状態にある可能性があります。

- 正しく作成されていない。
- ストレージ内でオーバーレイされている。
- 正しく変更されていない。

分析

これは、MFS 出力作成モジュール (3270 装置では DFSCFE80、3270 以外の装置では DFSCFE90) から発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、ラベルに分離することができます。レジスター 11 に、エラー

が発生したときに使用中であったメッセージ出力記述子 (MOD) 名のアドレスが入っています (CIB)。両方のモジュールからの異常終了は、ラベル PROCFDE からラベル ABEND611 への無条件ブランチの結果です。

キー	ラベル	説明
Reg2=アクション値 Reg8=DOFFDE dsect アドレス Reg15=DFSCFE 80 基底 DOFFLAG1=DOFFDETYPE	DOSERIES (PROCFDE)	適切な物理ページであることが検証済みであるため、この DOF FDE シリーズは処理できます。要求されたアクション (レジスター 2) が装置には無効であるために、異常終了が発行されています。
Reg2=アクション値 Reg3=CURSTBL DOFFLAG1=X'80' Reg8=DOFFDE dsect アドレス Reg15=DFSCFE 80 基底	STEPFDE (PROCFDE)	このルーチンは、6 バイトまたは 4 バイトのエントリーの FDE を処理中です。要求されたアクション (レジスター 2) が装置には無効であるために、異常終了が発行されています。
Reg1=DOFFLAG1 Reg8=DOFFSZ1 Reg12=DFSCFE 90 基底	FDEDONE (PROCFDE)	現行の FDE の処理が終了して、DOF リテラルの検査が行われています。リテラルがなければ、次の FDE が処理されることとなります。DOFFLAG1 内のビルド・タイプ 1 のビット 5 がオンであり、そのアクションは装置には無効であるため、この異常終了が発行されています。
Reg1=DOFFLAG1 Reg8=DOFFLAG Reg12=DFSCFE 90 基底	FDEDONE (PROCFDE1)	現行の FDE の処理が終了して、DOF リテラルの検査が行われています。リテラルがあれば、その処理に進みます。DOFFLAG1 内のビルド・タイプ 1 のビット 5 がオンであり、そのアクションは装置には無効であるため、異常終了が発行されています。

キー	ラベル	説明
Reg1=DOFFLAG1 Reg8=FDE アドレス Reg12=DFSCFE90 基底	PPLINK (PROCF DE1)	物理ページ・リンク FDE が検出されており、それが処理される予定です。DOFFLAG1 内のビルド・タイプ 1 のビット 5 がオンであり、そのビットは装置には無効であるあるため、異常終了が発行されています。

考えられる原因: DOFFLAG1 が変更された可能性があります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

ありません。

問題判別

11、16、35

レジスター 11 の内容は、エラーが発生したときに使用中だったメッセージ出力記述子 (MOD) 名のアドレスです。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCFE80、DFSCFE90

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0616

説明

最後に残っていた IMS ログ・データ・セットで、永続入出力エラーが発生しました。IMS バッチで重複ロギングが使用されている場合、この異常終了は両方のログ・データ・セットが損傷したときに発生します。IMS オンラインの場合、これが発生するのは、最後に残っていた OLDS に永続入出力エラーがあったか、チェックポイント・フリーズを完了するための十分なスペースがないときです。

分析

これは、物理ロガー (バッファ後処理ルーチン DFSFDLB0) によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了

への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害の検出元のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=A(LDSET) Reg9=A(LBUFFER)	WRTE 1500	SLDS データ・セット IEFORDER (重複の場合は、IEFORDER2) に入出力エラーがあります。バッファ接頭部 LBUFFER には BSAM DECB が入り、LDSET には状況フラグが入っています。

DFSFDLS0 の場合:

バッチの場合、この異常終了は、ログのクローズ中にエラーがあったことを示しています。オンラインの場合は、最大ブロック数の 4 294 967 295 を超過したか、またはエラー・フリー OLDS (または OLDS ペア) が存在せず、現行の OLDS (または OLDS ペア) が満杯であるかのいずれかです。

この異常終了は、物理ロガー・セットアップ・ルーチン DFSFDLS0 によって発行される可能性があります。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指します。

異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 11 とレジスター 10 にはそれぞれ、システム目録ディレクトリー (SCD) のアドレスとログ制御ディレクトリー (LCD) のアドレスが入っています。レジスター 14 に、障害の検出元のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=A(LDSET)	SETU07 00	次の使用可能な OLDS が要求されたとき、エラー・フリー OLDS が残っておらず、現行の OLDS が満杯であったために、要求は無視されました。
Reg8=A(LDSET)	OPEN14 00	ログ・ブロック数が最大値 (4 294 967 295) を超えました。
Reg8=A(LDSET)	EOVSTA RT EOVL13 00	最後の OLDS に充てんした後、EOV ルーチンはエラー・フリー OLDS が残っていないことを検出しました。
Reg8=A(LDSET)	EOVL15 50	ログ・ブロック数が最大値 (4 294 967 295) を超えました。

キー	ラベル	説明
Reg8=A(L DSET)	CLOSEB AD	バッチ・ログ・データ・セットで CLOSE エラーが発生しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

新しいログ・データ・セットを割り振り、入出力エラーを起こしたログ・データ・セットと置き換えます。書き込みエラーまたはクローズ・エラーのないログ・データ・セットを作成するには、ログ・リカバリー・ユーティリティを使用する必要があります。十分な数のログ・データ・セットが使用可能になったら、IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSFDLBO

0622

説明

IMS が、0 から 7 の範囲の保護キーで制御領域以外を初期設定しようとした。キー 0 から 7 の下で稼働できる領域は、z/OS 内の CTL および CTX オンライン制御領域に限られます。詳細については、[IMS 環境で使用されるプロシージャー \(システム定義\)](#) のプロシージャーの説明を参照してください。

分析

これは、DFSRRRA40 (オンライン) または DFSRRRA70 (バッチ) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS0622I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

キー 0 から 7 の下で実行するように指定されたプログラム DFSRRRC00 (領域コントローラー) を使用して、DL/I 領域、従属領域、またはユーティリティ領域が開始されました。このように指定された非制御領域は、メモリー・ダンプ付きで異常終了します。

キー	ラベル	説明
RAMPC OM RADSVC 1	TCB 保護キー・フィールド (TCBPKF) をテストして、キーが 0 から 7 の範囲であるかどうかを調べます。非制御領域は 8 から 15 の保護キー範囲で実行する必要があります。	

考えられる原因: プログラム名 DFSRRRC00 が、間違っず z/OS プログラム・プロパティ・テーブル内にあります。このテーブル (モジュール IEFSD060) は、システムの LPALIB 内にあります。

システムの処置

IMS は、この異常終了を発行した領域を終了させます。

プログラマーの応答

JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。z/OS システム・プログラマーと一緒に、プログラム DFSRRRC00 がキー 0 から 7 の下で実行するように指定されていないかどうかを確認します。

問題判別:
1、2、3、4、8、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSRRRA40、DFSRRRA70

関連情報

DFS0622I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0623

説明

IMS は 8 から 15 の範囲の保護キーを使用して z/OS 内のオンライン制御領域を初期設定しようとしたが、0 から 7 の範囲のキーが必要です。

分析

これは、DFSRRRA00 によって発行される標準異常終了です。異常終了に先行して、メッセージ DFS623I が出力され、マスター・コンソールに送られます。

オンライン制御領域は 0 から 7 のキー範囲で実行する必要があります。制御領域は、CTL か CTX かに関係なく、メモリー・ダンプ付きで異常終了します。

キー	ラベル	説明
RACTX/ RACTL		この 2 つのラベル内で、TCB 保護キー・フィールド (TCBPKF) をテストして、キーが 0 から 7 の範囲であることを確認します。テストが失敗した場合、ラベル RACTXLAB に分岐し、メッセージが出力され、異常終了が発生します。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- ・プログラム DFSMVR0 が z/OS プログラム・プロパティ・テーブルに含まれていないか、プログラムの保護キーが誤っている。このテーブルはメンバー名 IEFSD060 であり、システムの LPALIB 内にあります。
- ・JOB LIB 内の一部のデータ・セットが許可されていない。

システムの処置

IMS は、この異常終了を発行した領域を終了させます。

プログラマーの応答

JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。z/OS システム・プログラマーと一緒に、プログラム DFSMVR0 がキー 0 から 7 の下で実行するように指定されていること、およびすべての JOB LIB データ・セットに APF 許可が与えられていることを確認します。

問題判別:

1、2、3、4、8、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRA00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0624

説明

IMS が、AWE ストレージのための DFSBCB 要求からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 の下位 16 ビットに DFSBCB 戻りコードが入り、高位 16 ビットには場合により修飾情報が入ります。

分析

0624 は、AWE ストレージのための DFSBCB FUNC=GET 呼び出しを発行した後、DFSBCB モジュールからゼロ以外の戻りコードが戻された場合に、さまざまな IMS モジュールから発行される標準異常終了です。レジスター 15 に、DFSBCB からの戻りコードが入っています。DFSBCB 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 15 のコードに応じて、適切な処置を行います。

問題判別:

4、11、35

ソース:

IMS 異常終了

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0630

説明

IMS の初期設定中に以下のいずれかの条件が発生した場合、初期設定モジュール DFSXCB00 は、処理中に検出されたいずれのエラーに対してもこの異常終了コードを発行します。

1. 次のいずれかのモジュールで IMODULE LOAD が失敗しました: DFSSPF00、DFSCBT10、DFSBC000、DFSBCB60、または DFSTRI00。
2. QSAV、BXQE、または AWE で、いずれかのプールの初期設定が失敗した。
3. DFSCBTS FIND 機能が、IMS 制御ブロック・テーブル (DFSCBT10) に定義されている IMS 制御ブロックを見つけるのに失敗した。
4. IMS ストレージ・マネージャー (DFSSTM00) がストレージ要求を満たすことができなかった。
5. IMODULE GETMAIN 要求が失敗した。
6. 下位レベル・モジュールでエラーが検出された。

分析

この異常終了は、DFSXCB00 によって発行される標準異常終了です。

レジスター 14 とレジスター 15 に、必要な診断情報が入っています。レジスター 14 には、異常終了条件が検出されたモジュールのアドレスが入っています。レジスター 15 には、異常終了の正確な原因を特定する標準と戻りコードが入っています。このレジスターに含まれている 4 バイトの戻りコードは、1 文字から 3 文字の EBCDIC 障害標識と、その後続く 16 進数の戻りコードから成っています。以下では、まずレジスター 15 の考えられる内容を要約し、その後でさらに詳しく説明します。

'F' 00 00 nn

CBTE の DFSCBTS FUNC=ALTER または FUNC=Find が失敗しました。戻りコードは nn です。DFSCBT10 が要求された制御ブロック定義を含んでいません。

'G' 00 00nn

DFSCBTHD の IMODULE GETMAIN が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'I' nnnnnn

DFSXCB01 の IMODULE GETMAIN が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nnnnnn です。

'LBC' nn

DFSBC000 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LCB' nn

DFSCBT10 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LC5' nn

DFSCBT50 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LSC' nn

DFSSTC00 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LSP' nn

DFSSPF00 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'LTT' nn

DFSTRI00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'L60' nn

DFSBCB60 の IMODULE LOAD が失敗しました。IMODULE 戻りコードは nn です。

'Q' nnnnnn

QSAV の DFSBCB GET が失敗しました。DFSBCB 戻りコードは nnnnnn です。

'SM' nnnn

IPAGE を取得するために DFSSTM00 が呼び出されました。IMODULE GETMAIN が、要求されたストレージを取得しようとして失敗しました。レジスター 8 に CBTE アドレスが入ります。IMODULE 戻りコードは nnnn です。

'S' 00 00 nn

制御ブロック・テーブル・エントリーの初期設定中に、ブロック QSAV、BXQE、AWE の 1 つ以上で CBTE が見つかりませんでした。値 nn は、DFSCBT10 に定義された CBTE を持っていないブロックの数です。

'TRI' nn

DFSTR00 でエラーが検出されました。nn に DFSTRI00 からの戻りコードが含まれています。エラーに関する追加情報については、メッセージ DFS4561E を参照してください。

- 次のいずれかのモジュールで IMS IMODULE LOAD が失敗しました: DFSSPF00、DFSCBT10、DFSBC000、DFSBCB60、または DFSTRI00。

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

**Bytes
説明****1**

L - IMODULE LOAD が失敗しました

2 および 3

CB - ラベル HDRSTART で DFSCBT10 のロードが失敗しました。BC - ラベル BCB80 で DFSBC000 のロードが失敗しました。SP - ラベル BCB80 で DFSSPF00 のロードが失敗しました。60 - ラベル HDREXIT で DFSBCB60 のロードが失敗しました。

4

IMODULE 戻りコード

- QSAV、BXQE、AWE プール障害。おそらく、バインド・エラーです。DFSCBT10 が、上記の制御ブロック定義の 1 つを含んでいません。DFSCBT10 アセンブリーにエラーがあったのに、出力が IMS にバインドされました。(ラベル BCB07)

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

**Bytes
説明****1**

S - 上記のブロックのいずれかでスキャンが失敗しました。システム・プログラマーはテーブル (DFSCBT10) を調べて、ブロック ID を判別する必要があります。

2

00

3

00

4

00

- DFSCBTS FIND 障害。内部制御ブロック FIND 機能が、必要な制御ブロックを見つけることができませんでした。おそらく、バインド・エラーです。DFSCBT10 が、上記の制御ブロック定義の 1 つを含んでいません。DFSCBT10 アセンブリーにエラーがあったのに、出力が IMS にバインドされました。(ラベル BCB80)

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

**Bytes
説明****1**

F - DFSCBTS FIND 障害。

2

00

3
00

4
08 - DFSSCBT0 戻りコード。ブロックを見つけることができませんでした。

レジスター 7 に、制御ブロック・テーブル (DFSCBT10) で見つからなかった制御ブロック・タイプのアドレスが入っています。

4. ストレージ要求の失敗。ストレージの要求 (DFSSTM00) が満たされませんでした。JCL で領域サイズを増やしてください。(ラベル GETBLK30)

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

Bytes
説明

1 および 2
SM - DFSSTM00 ストレージ要求の失敗。

3 および 4
RC - 失敗の理由を表示する、DFSSTM00 によって設定された 2 バイトの戻りコード。おそらく、これは領域サイズを少なくとも 8K バイト増やす必要があることを示しています。モジュール DFSSTM00 の Prolog を参照して、戻りコードに関する追加情報を入手する必要があります。

5. IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。ストレージに対する内部要求が失敗しました。(ラベル HDRSTART)

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

Bytes
説明

1
G - IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

2
00

3
00

4
RC - IMODULE 戻りコード。

6. DFSCBT50 の IMODULE ロード要求が失敗しました。

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

Bytes
説明

1
L - IMODULE ロードが失敗しました。

2 および 3
C5 - DFSCBT50 のロードが失敗しました。

4
IMODULE 戻りコード。

7. DFSXCB01 のための IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

Bytes
説明

1
I - DFSXCB01 ための IMODULE GETMAIN が失敗しました

2
00

3
00

4
IMODULE 戻りコード。

8. QSAV ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。これはバッチ領域でのみ発生する可能性があります。

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

Bytes
説明

1
Q - QSAV ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。

2
00

3 および 4
DFSBCB00 の 2 バイトの戻りコード。おそらく、これは領域サイズを少なくとも 8K バイト増やす必要があることを示しています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

レジスター 15 によって示される障害の原因を判別し、問題を訂正してからジョブを再実行します。IMODULE および DFSBCB 戻りコードの意味については、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

ストレージ不足のためにこの異常終了が発生した場合、専用ストレージまたは CSA ストレージの割り振りを次のように増やします。

- 専用ストレージのサイズを増やすには、JCL の領域サイズを増やします。
- CSA のサイズを増やすには、より大きな CSA 割り振りを指定して z/OS を再 IPL します。

問題判別:

1、4、5、6、7、11、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSXCB00

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

[DFS4561E \(メッセージおよびコード\)](#)

0631

説明

ECB を初期設定するために、DFSCIR マクロを使用して IMS CREATE ITASK プロセッサに対する呼び出しが行われました。DFSCIR が、要求を処理できないことを示す、ゼロ以外の戻りコードをレジスター 15 に戻しました。

分析

これは、DFSINB0 または DFSINVO によって発行される標準異常終了です。DFSCIR マクロが、レジスター 15 に戻りコードを戻しました。コードの意味は次のとおりです。

コード

説明

X'08'

SAP を割り振ることができません。

X'0C'

保管域オフセットが指定されませんでした。

X'10'

QMGR 作業域を割り振ることができません。

X'14'

ルーチンのアドレスが指定されませんでした。

X'18'

DSPWRK を見つけることができません。

X'1C'

無効な機能が指定されました。

さらに、以下のレジスターがこの問題の診断に役立ちます。

レジスター

意味

レジスター 7

ECB が通知されるときに制御を受け取るルーチンのアドレスが入っています。

レジスター 9

初期設定される予定の ECB のアドレスが入っています。

レジスター 10

DFSCIR マクロを呼び出したルーチンのアドレスが入っています。

システムの処置

IMS は、初期設定処理を異常終了させます。

問題判別:

1、4、6、10、11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSINB0、DFSINVO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0632

説明

EXEC ステートメントの PARM フィールドに入っていた定位置パラメーターが多すぎます。

分析

これは、DFSRA20 によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS632I が IMS マスター・コンソールに送信されます。

考えられる原因: PARM フィールドに正しい個数の定位置パラメーターがあるか検査してください。

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRA20

関連情報

[DFS632I \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0633

説明

イムス DL/I DBB 領域の始動プロシージャが DBRC=C を指定しましたが、MBR パラメーターに DFSBBO00 が指定されていませんでした。DBRC=C は、イムス バッチ・バックアウトの場合にのみ有効です。

分析

これは、DFSRRRA00 によって発行される標準異常終了です。この異常終了になる前に、メッセージ DFS0633I が z/OS システム コンソールに送信されます。

キー	ラベル	解説
	レア	DBRC=C および RCPGM は、バッチ・バックアウト (DFSBBO00) は等しくありません。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

DBRC パラメーターまたは MBR パラメーターのいずれかを訂正してください。

問題判別:

1, 2, 3, 4, 8

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

ドフスラ 70

関連情報

[DFS0633I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0634

説明

EXEC ステートメントの PARM フィールドの定位置パラメーターに、先行ブランクが 1 つ以上あります。

分析

これは、DFSRRRA20 によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS634I がイムスマスター・コンソールに書き込まれます。

考えられる原因: PARM フィールドの定位置パラメーターが先行ブランクを持っていないことを確認してください。

システムの処置

この異常終了を出した領域は終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

問題判別:

1, 2, 3, 4, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

ドフスラップ

関連情報

[DFS634I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0636

説明:

EXEC ステートメントの PARM フィールドの最後の固定長パラメーター値が短すぎました。

分析

これは、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRRA30 (制御領域)、DFSRRRA40 (従属領域)、または DFSRRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS636I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRRA20 内で検出されます。DFSRRRA30、DFSRRRA40、または DFSRRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRRA20 に BAL します。DFSRRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN3	最後の固定長パラメーターが短すぎます。

考えられる原因: PARM の各フィールドの長さが正しいか検査してください。

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正してから、ジョブを再実行依頼します。

APAR 処理の場合: 領域ダンプおよび入力 JCL を保存してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSRRRA30、DFSRRRA40、DFSRRRA70

関連情報

[DFS636I \(メッセージおよびコード\)](#)

0638

説明:

固定長パラメーターの範囲内で、コンマが検出されました。

分析

0638 は、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRRA30 (制御領域)、DFSRRRA40 (従属領域)、または DFSRRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS638I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRRA20 内で検出されます。DFSRRRA30、DFSRRRA40、または DFSRRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRRA20 に BAL します。DFSRRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN5	固定長パラメーター内で、組み込みコンマが検出されました。

考えられる原因: EXEC ステートメントの PARM フィールドにおける JCL エラー。正しいフォーマットについては、IMS システム定義情報を参照してください。

APAR 処理の場合: 領域ダンプ、および入力 JCL。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSRRRA30、DFSRRRA40、DFSRRRA70

関連情報

[DFS638I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0640

説明:

EXEC ステートメントの PARM フィールドの最初の 3 文字によって指定される、実行の種類に応じた必須パラメーターを省略しました。

分析

これは、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRRA30 (制御領域)、DFSRRRA40 (従属領域)、または DFSRRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS640I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRRA20 内で検出されます。DFSRRRA30、DFSRRRA40、または DFSRRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRRA20 に BAL します。DFSRRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
PMSCN	8/	入力パラメーター・リストは、この PARM フィールドに必須フィールドが存在することを示していますが、走査操作は必須の定位置パラメーターが欠落していることを判別しています。

考えられる原因: EXEC ステートメントの PARM フィールドでこれらの必須の定位置パラメーターが省略されています。最初の 3 文字として指定される、異なる領域の必須パラメーターについては、IMS システム定義情報を参照してください。

APAR 処理の場合: 領域ダンプおよび入力 JCL。

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA30、DFSRRRA40、DFSRRRA70

関連情報

[DFS640I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0641

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDBO が無効な領域タイプで実行されました。// EXEC PARM フィールドの最初のサブパラメーターに指定されたバッチ領域タイプは、UDR でなければなりません。

分析

これは、2 番目のサブパラメーターで指定されたデータベース・ユーティリティーが DFSURDBO であったときに、//EXEC PARM フィールドの最初のサブパラメーターの領域パラメーターが ULU として指定されていることを検出すると、DFSRRRA80 (バッチ領域) によって発

行される標準異常終了です。データベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDBO は、指定された領域タイプ UDR を使用して実行する必要があります。

考えられる原因: EXEC ステートメントの PARM フィールドの領域パラメーターが正しくありません。

システムの処置

IMS は異常終了する。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

ドフスラン

0642

説明

DL/I 実行のプログラム名など、パラメーター値が最大許容長さを超えています。

分析

これは、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRRA30 (制御領域)、DFSRRRA40 (従属領域)、または DFSRRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS642I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRRA20 内で検出されます。DFSRRRA30、DFSRRRA40、または DFSRRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRRA20 に BAL します。DFSRRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
PMSC	N9	パラメーターの長さが最大許容値を超えています。

考えられる原因: JCL エラー (例えば、DL/I 実行のプログラム名が 8 文字を超えています)。

APAR 処理の場合: 領域ダンプおよび入力 JCL。

システムの処置

この異常終了を発行した領域は終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正してからジョブを再実行するか、または正しい長さのパラメーターを指定して START コマンドを再発行します。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA30、DFSRRRA40、DFSRRRA70

関連情報

[DFS642I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0643

説明

数値パラメーターに対して非数値が指定されました。

分析

これは、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRRA30 (制御領域)、DFSRRRA40 (従属領域)、DFSRRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS643I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

この異常終了は、モジュール DFSRRRA20 内で検出されます。DFSRRRA30、DFSRRRA40、または DFSRRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRRA20 に BAL します。DFSRRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN 52	数値に対して非数値が指定されました。

APAR 処理の場合: 領域メモリー・ダンプおよび入力 JCL。

システムの処置

この異常終了を発行した領域は終了します。

システム・プログラマーの応答

JCL の EXEC ステートメント・パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼します。

問題判別:

1、2、3、4、8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA30、DFSRRRA40、DFSRRRA70

関連情報

[DFS643I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0644

説明

内部宛先リストが無効です。これは、内部 IMS エラーです。

分析

0644 は、EXEC ステートメント PARM 分析モジュール DFSRRRA30 (制御領域)、DFSRRRA40 (従属領域)、DFSRRRA70 (バッチ領域) によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS644I が IMS マスター・コンソールに書き込まれます。

宛先リストは DFSRRRA00 によって作成され、DFSRRRA30、DFSRRRA40、または DFSRRRA70 によって、入力パラメーターとして DFSRRRA20 に渡されます。リストは、DFSRRRA20 のレジスター 8 でアドレス指定され、命令「BZ PRMC7」(DFSRRRA20 内) をザップしてプログラム・チェックを強制することにより、リストを表示できます。

この異常終了は、モジュール DFSRRRA20 内で検出されます。DFSRRRA30、DFSRRRA40、または DFSRRRA70 は、PARM フィールドの文字ストリング分析を実行するために、DFSRRRA20 に BAL します。DFSRRRA20 は、レジスター 1 で渡されたパラメーター・リストを使用して、PARM フィールドをスキャンし、エラーがないか調べます。エラーが検出された場合、メッセージ・コードがレジスター 15 で呼び出し元に渡され、異常終了が発行されます。戻りコードは、モジュール DFSRRRA20 内のブランチ・テーブルによって作成されます。

異常終了時に、レジスター 14 に、DFSRRRA20 を呼び出したモジュールおよびルーチンを示すアドレスが入ります。

キー	ラベル	説明
	PMSCN3	宛先リスト内の長さ指定 (DESLNT) がゼロです。これは無効です。

考えられる原因: 内部論理エラー。

APAR 処理の場合: DFSRRA20 にインストールされたプログラム・チェック・トラップ付きの異常終了ダンプ。

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

モジュール DFSRRA00 に対するユーザー変更があるかどうかを調べます。

問題判別

1、2、3、4、35

また、サイトで使用されている DFSRRA00 のアセンブリー・リストを入手してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRA30、DFSRRA40、DFSRRA70

関連情報

[DFS644I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0646

説明:

EXEC ステートメントの PARM フィールドの SPIE オプションが無効です。

分析

これは、DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS646I が IMS マスター・コンソールに送信されます。エラーのある IMS 領域は、ダンプ付きで異常終了します。

SPIE オプションは、以下の領域で有効です。

- 独立型バッチ
- メッセージ処理
- バッチ・メッセージ処理

正しい SPIE オプションの設定についての説明は、IMS システム定義情報の中のプロシージャに関する情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
	RADLNM VM	独立型バッチ領域の場合、このルーチンに入ります。SPIE オプションの検査が行われるラベル RAOPTN に BAL します。値が X'01' より大きければ、ラベル RCRC1 に分岐し、メッセージ DFS646I が出され、異常終了が発生します。
	RAMSG/RACMP	メッセージ処理領域を処理するために、これらのルーチンに入ります。上で説明したのと同じ論理が実行されます。
	RABMP/RABMS	バッチ・メッセージ領域のパラメータの処理中に、これらのルーチンに入ります。SPIE オプションを妥当性検査するための論理は、バッチ専用領域の場合と同じです。

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRA00

関連情報

[DFS646I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0648

説明

EXEC ステートメントの PARM フィールドの妥当性検査オプションが無効です。

分析

これは、DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。異常終了の前に、メッセージ DFS648I が IMS マスター・コンソールに出されます。異常終了の発行元の領域は、メモリー・ダンプ付きで終了します。

妥当性検査オプションの指定が (1) か (0) かについて、ユーザー呼び出しリスト内のアドレスを妥当性検査す

る必要があります。このオプションは、DLI または BMP 領域の場合はシンボリック・フィールド (&TEST) であり、MSG 領域の場合は定位置パラメーターです。

キー	ラベル	説明
RADLNMV M		独立型バッチ領域の場合、このルーチンに入ります。妥当性検査オプションの検査が行われるラベル RAOPTR に BAL します。値が X'01' より大きければ、ラベル RCRC2 に分岐し、レジスター 1 にメッセージ・コードがロードされます。RAMSGAB への分岐により該当するメッセージが出され、最終的にラベル RAABND で異常終了します。
RAMSG/ RACMP		メッセージ処理領域を処理するために、これらのルーチンに入ります。上述の論理とまったく同じものが、このルーチンにも適用されます。
RABMP/ RABMS		バッチ・メッセージ領域のパラメーターの処理中に、これらのルーチンに入ります。妥当性検査の論理は、独立型バッチ領域の場合と同じです。

考えられる原因: EXEC ステートメントの PARM フィールドの JCL エラー。

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA00

関連情報

[DFS648I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0652

説明:

PARM フィールドが省略されました。すべての IMS EXEC ステートメントには、PARM フィールドが必要です。

分析

0652 は、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRRA00 によって発行される標準異常終了です。影響を受ける領域の異常終了の前に、メッセージ DFS652I が IMS マスター・コンソールに出されます。

DFSRRRA00 に最初に入った時点で、EXEC ステートメントの PARM フィールドが妥当性検査されます。すべての IMS EXEC ステートメントに PARM フィールドが含まれている必要があります。PARM フィールドのフォーマットについては、「IMS V15 システム・ユーティリティ」または IMS システム定義情報を参照してください。

キー	ラベル	説明
RASTAR T		EXEC ステートメントの初期スキャン中に、PARM フィールドが無効であると判別されています。長さがゼロでないかどうかをテストするために、RCRC3 に分岐します。長さゼロが示された場合、メッセージを発行して異常終了するために、RCRC31 に分岐します。

考えられる原因: JCL エラー

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA00

関連情報

[DFS652I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0654

説明

EXEC ステートメントで指定された PARM フィールドの長さが 3 文字より少なくなっていました。

制御領域タイプの場合、EXEC ステートメントの最初の 2 つのパラメーターが必要です。これらのパラメーターは、両方とも 3 文字の長さでなければなりません。

これが当てはまらない場合、この異常終了が発生します。他の領域タイプの場合、EXEC ステートメントの PARM フィールドの最初のパラメーターが必要です。このパラメーターは、3 文字の長さでなければなりません。これが当てはまらない場合、この異常終了が発生します。

すべての領域タイプの EXEC ステートメントの PARM フィールドで使用されるパラメーターの説明は、IMS システム定義情報を参照してください。

分析

これは、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。影響を受ける領域の異常終了の前に、メッセージ DFS654I が IMS マスター・コンソールに出されます。

PARM フィールドの最初の 3 文字は、開始される領域のタイプを示します。このフィールドは存在する必要があり、正確に 3 文字の長さでなければなりません。

キー	ラベル	説明
RASTAR T		EXEC ステートメントの初期スキャン中に、PARM フィールドにエラーがあることが判別されています。長さゼロ (省略) かどうかをテストするために、ラベル RCRC3 に分岐します。このテストが失敗し、PARM-too-short 出口ルーチンが実行されます。

考えられる原因: JCL 指定エラー。

システムの処置

この異常終了を発行した領域は終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRA00

関連情報

[DFS654I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0657

説明

GSAM 初期設定エラーが発生しました。領域の初期設定中に、GSAM ルーチンで次のようなエラー条件が検出されました。

- 無効な PCB 処理オプション
- 無効な DBD または PCB
- システム・エラー
- ACBLIB および PSBLIB の PSB 定義間の不整合
- ストレージの取得の失敗。
- 障害のある PST の PSTNR または LCRESEQN が 2 進ゼロである。LCRESEQN は、ポインター PSTCRE を使用して LCRE 内で見つかります。

分析

0657 は、GSAM 初期設定モジュールがそのエラー処理ルーチンの結果として発行する標準異常終了です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0657I が発行されます。プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了の発行元モジュール内の命令を指しています。レジスター 14 は、エラー・ディスカバラーへの BAL 戻りレジスターです。レジスター 2 に、エラー理由コードが入っています。このエラーは、障害が起きた場所のラベル名に対応しています。

この異常終了は、PSB に GSAM PCB を追加し、それらの変更をオンライン IMS システムで活動化しなかったために発生した可能性があります。ご使用のシステムで ACB ライブラリーを使用している場合、変更を活動化するには ACBGEN およびオンライン変更が必要です。ご使用の IMS システムが IMS カタログで ACB を管理している場合、変更を活動化するには IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドを発行する必要があります。

ACB ライブラリーを使用する IMS システムでは、定義された GSAM PCB を持つ PSB をオンライン・アプリケーション・プログラムで使用するには、その PSB が ACBLIB と PSBLIB の両方で同じでなければなりません。ACBGEN およびオンライン変更を行わずに GSAM PCB が PSBLIB 内の PSB に追加されている場合、その PSB を使用するアプリケーションがスケジューされると、予測不能の結果が起きる可能性があります。これは、ご使用の IMS システムが IMS カタログで ACB を管理している場合は適用されません。

コード

説明

C4C900xx

DFSZDI00 がエラーを検出しました。

C4C920xx

DFSZDI20 がエラーを検出しました。

キー	ラベル	説明
R2=C4C9 0001	C4C900 01	IMS DD ステートメントのオープン中のエラー。 説明: PSBLIB および DBDLIB の IMS DD ステートメントのオープンに失敗しました。 オペレーター応答: このステップに PSBLIB および DBDLIB の IMS DD ステートメントが含まれていること、およびそれが適切なライブラリーを指定していることを確認します。
R2=C4C9 0002	C4C900 02	PSB の不整合。 説明: ACBLIB 内の PSB はその PSB が GSAM PCB を含んでいることを示していますが、PSBLIB 内の PSB には GSAM PCB が何も含まれていません。 オペレーター応答: 該当する PSB を修正して、ACBGEN または PSBGEN を再実行します。
R2=C4C9 0003	C4C900 03	追加の PCB が拒否されました。 説明: BMP 領域でエラーが発生しました。GSAM PCB を PCB リストに追加中でした。これは、内部 IMS エラーです。 オペレーター応答: ジョブを再実行します。この状態が続く場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。
R2=C4C9 0004	C4C900 04	ストレージの取得の失敗。要求されたストレージの量は、レジスター 6 に記載されています。 オペレーター応答: 領域用に使用可能な最大仮想記憶域を増やして、このアプリケーションを再実行します。
R2=C4C9 0005	C4C900 05	データ・セットのオープンの失敗。 説明: IMS カタログ内の GSAM DBD または PSB を読み取ろうとしているときに、IMS カタログのディレクトリー・データ・セットのオープンに失敗しました。 オペレーター応答: IMS カタログが ACB の IMS 管理用に適切にセットアップされていること

キー	ラベル	説明
		を確認します。ACB の IMS 管理の使用可能化については、 <u>ACB の IMS 管理の使用可能化 (システム定義)</u> を参照してください。
R2=C4C9 0006	C4C900 06	PSB の読み取りの失敗。 説明: IMS カタログにアクティブ ACB を保管するようにセットアップされている (ACBMGMT=CATALOG) IMS システムで、GSAM データベースに対して実行されているアプリケーション・プログラムが IMS カタログ内の PSB を読み取ることができませんでした。 オペレーター応答: アプリケーション・プログラムの実行ステートメント・パラメーターで参照されている PSB 名のスペルが正しいこと、および PSB が IMS カタログ内に存在し、アクティブとしてフラグが立てられていることを確認してください。
R2=C4C9 0007	C4C900 07	DBD の読み取りの失敗。 説明: IMS カタログにアクティブ ACB を保管するようにセットアップされている (ACBMGMT=CATALOG) IMS システムで、アプリケーション・プログラムが IMS カタログ内の GSAM DBD を読み取ることができませんでした。 オペレーター応答: アプリケーション・プログラムに必要なすべての DBD が IMS カタログ内にあり、アクティブとしてフラグが立てられていることを確認してください。エラーをすべて訂正したら、ジョブを再実行します。
R2=C4C9 0008	C4C900 08	ストレージの取得の失敗。 オペレーター応答: ストレージの長さはレジスター 0 で見つかります。領域用に使用可能な最大仮想記憶域を増やします。ストレージを増やしたら、アプリケーション・プログラムを再実行してください。

キー	ラベル	説明
R2=C4C9 2001	C4C920 01	無効な DBD (GSAM DBD でない)。 説明: GSAM PCB が、GSAM DBD ではない DBD を指定していません。メッセージ DFS0657I に DBD 名が含まれています。レジスター 8 も DBD 名を指しています。 オペレーター応答: 該当する PSB または DBD を修正して、PSBGEN、DBDGEN、または ACBGEN を再実行します。
R2=C4C9 2002	C4C920 02	R15 に、RDJFCB マクロからのゼロ以外の戻りコードが入っています。 説明: これは、そのステップに DD ステートメントが存在しないことを示している可能性があります。ただし、前の DEVTYPE マクロは、DD ステートメントが存在することを示していました。 オペレーター応答: 必要な場合、GSAM データベース用の適切な DD ステートメントを提供して、ジョブを再実行します。
R2=C4C9 2003	C4C920 03	RDJFCB マクロから戻ったときに、ARLAREA (RDJFCB によって取得された ARA エリアのアドレス) がゼロです。 この場合、ARLCODE (下記で説明) はおそらく = 08 です。 オペレーター応答: 該当する ARLCODE (下記の C4C9004 に表示) を参照してください。
R2=C4C9 2004	C4C920 04	RDJFCB マクロから戻ったときに、REG5 + X'1C' にある ARLCODE がゼロ以外です。 説明: ARLCODE = 4 の場合 RDJFCB マクロを発行する前に、ARL が正しく初期化されていませんでした。 ARLCODE = 8 の場合 ARA エリアを戻すために使用可能な仮想記憶域が不十分でした。(ARA エリアは、

キー	ラベル	説明
		DD ステートメントに含まれているデータ・セットにつき約 200 バイトです。 オペレーター応答: 領域用に使用可能な最大仮想記憶域を増やして、このステップを再実行します。
R2=C4C9 2005	C4C920 05	GSAM または BSAM DD ステートメントで、連結内のデータ・セットの数が 255 を超えています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

問題を修正して、再実行します。

問題判別:

11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSZDI00、DFSZDI20

関連情報

[DFS0657I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0658

説明

プログラム名パラメーターが PARM フィールドから省略されました。

分析

これは、モジュール DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: JCL 指定エラー

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA00

関連情報[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA00

関連情報[DFS662I](#)[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0662**説明**

PARM フィールドの最初の定位置パラメーターが無効でした。

分析

これは、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRRA00 によって発行される標準異常終了です。影響を受ける領域の異常終了の前に、メッセージ DFS662I が IMS マスター・コンソールに送信されます。

最初の定位置パラメーター (PARM フィールドの位置 1 から 3) に、開始される領域のタイプを示す有効な 3 文字のフィールドが含まれている必要があります。有効な 3 文字のフィールドは、CMP、MSG、DLI、BMP、BMS、CTL、CTX、DBB、UPB、RST、または PRL です。「UST」が選択されている場合、またはフィールドが前述のいずれにも一致しない場合、異常終了が発生します。

CIC 領域は、DCCTL 環境では無効であるため、この異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
RATB S		ラベル RATBID にあるテーブルが、有効なルーチンへのベクトルとして使用されます。PARM フィールドの最初の 3 文字が、有効なエントリーと比較されます。一致が検出されない場合、メッセージおよび異常終了コードを初期化するために、ラベル RAABE に分岐します。

考えられる原因: JCL 指定エラー

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:**0670****説明**

OTMA メッセージを処理する OTMA モジュール DFSYPSIO または DFSYTIB0 で障害が発生しました。

DFSYPSIO モジュールの場合、必要な動的ストレージが、TPIPE に保管されている事前割り振り済み DYNP ストレージより大きく、IMS で OTMA メッセージを処理するための LUMC ストレージが不足しています。

DFSYTIB0 モジュールの場合、IMS で OTMA メッセージを処理する要求に必要な DYNP および LUMC の両方のストレージが不足しています。

分析

DFSYPSIO または DFSYTIB0 の DFSYPROC が、モジュール・エントリー用に LUMC ストレージを取得するために DFSYMAGL マクロを呼び出しました。ただし、IMS では LUMC ストレージが不足しています。LUMC ストレージは、IMS のほとんどの OTMA モジュールに必要なため、システム内にさらに問題が発生するのを防ぐために、IMS は異常終了します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

システム内で十分な LUMC ストレージが使用可能であることを確認し、IMS を再始動して OTMA メッセージを処理してください。

問題判別:

ありません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSYPSIO

0684

説明

IMS タイプ 2 SVC 初期設定が失敗しました。障害の理由として、次のものが考えられます。

- すでに稼働中のものと同じ IMSID を使用して、IMS 制御領域の別のコピーを始動しようとした。この障害は、同じ IMSID を使用した、前の IMS の実行で IMS の SVC 終了が失敗した場合にも発生することがあります。
- SDFSRESL が許可されていないか、または IMS SVC モジュールが無許可ライブラリーからロードされている。
- 領域サイズが小さすぎる。

分析

この異常終了は、SVC 初期設定 (DFSVCI INIT SVC 要求) がエラーを検出した場合、モジュール DFSRRA00 内のサブルーチン SVCRTNE によって発行されます。SVC 初期設定障害の場合、制御領域の終了の前にメッセージ DFS684I がシステム・コンソールに送信されます。

この異常終了は、バッチ初期設定 (DFSVCI INITBAT 要求) がエラーを検出した場合、DFSXBATO によって発行されます。

DFSVCI 機能要求は、タイプ 2 SVC モジュール DFSVC200 および SVC 初期設定/終了モジュール DFSVCI00 によって処理されます。これらのモジュールでの処理中にエラーが検出された場合、機能コードと DFSVCI 要求からの戻りコードが含まれたメッセージ DFS686W が発行されます。

この異常終了に伴って発行されるメッセージ DFS686W により、追加の診断情報が提供されます。

DFSRRA00 の場合:

キー	ラベル	説明
	SVCABEN D	制御領域またはバッチ領域の SVC 初期設定が失敗しました。

DFSXBATO の場合:

キー	ラベル	説明
Reg1 4	CLBCI C	レジスター 14 は、異常終了への入り口 (マクロ DFSBLC) でエラーを検出したサブルーチンを指しています。
Reg1 5		異常終了への入り口の SVC 戻りコード。

考えられる原因: 上述の理由および以下のいずれかの理由。

- システム定義時の IMSCTRL マクロ、JCL の EXEC ステートメント、またはメンバー DFSPRRGO または DFSPRRDO の IMS 実行パラメーターで指定された、

IMSID が固有でない。実行中の別の領域が同じ IMSID を持っています。

- IMS 実行ライブラリーが許可されていない。
- システム定義時、メンバー DFSPRRGO または DFSPRRDO の IMS 実行パラメーター、または JCL EXEC ステートメントで指定された、コマンド認識文字 (CRC) が固有でない。実行中の別の IMS 領域が同じ CRC を持っています。
- DFSMRCL0 (IMS リソース・クリーンアップ) が正常にインストールされていない可能性がある。IMS 終了時にメッセージ DFS627I または DFS627W を受け取っていない場合には、DFSMRCL0 は IMS リソースをクリーンアップするための制御を取得していません。

APAR 処理の場合: 異常終了ダンプ

システムの処置

ABEND を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

次のいずれかを実行してください。

- 重複した IMSID を訂正してから、ジョブを再実行します。同じ IMSID を使用した、前の稼働での IMS SVC 終了が失敗した場合、オペレーティング・システムを再 IPL するか、または別の IMSID を指定して稼働させます。
- SDFSRESL が許可されるようにするか、または IMS SVC モジュールを含んでいる許可ライブラリーを指し示す DFSRESLB DD ステートメントを組み込みます。
- 領域サイズを大きくする。

追加情報については、メッセージ DFS686W を参照してください。

問題判別:

1、2、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRA00、DFSXBATO

関連情報

[DFS684I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS686W \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0688

説明

オペレーターがメッセージ DFS690A に対する応答として、CANCEL または C を入力しました。

分析

これは、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。従属領域の異常終了の前に、メッセージ DFS688I が IMS マスター・コンソールに送信されます。

DFSRRA00 は、従属領域のパラメーター分析の処理中に、制御領域がアクティブでないことを判別しています。次の 2 つのいずれかの条件の結果、この異常終了が発生します。

1. 従属領域の EXEC ステートメントで取り消しオプション (OPT=C) が指定された。
2. オペレーターがエラー・メッセージ DFS690A に対する応答として、CANCEL または C を入力した。

オンライン制御プログラムが間もなくアクティブになることが予想される場合、オペレーターにはメッセージ DFS690A に対して WAIT を指定するオプションもあります。

キー	ラベル	説明
RAENQ 1		オペレーターがメッセージ DFS690A に対して「C」または「CANCEL」を入力しました。メッセージを発行して異常終了するために、ラベル RAENQ6 に分岐します。

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRA00

関連情報

DFS688I

DFS690A

0689

説明

DBRC 領域または DL/I 従属アドレス・スペース領域は、初期設定時に制御領域がアクティブでないと、このコードで異常終了します。START DBRC PROC コマンドを発行している IMS の IMSID が、DBRC プロシージャ内の IMSID に対応していません。異常終了の前に、メッセージ DFS689I が発行されます。制御領域が異常

終了の処理中であるか、制御領域が存在しない可能性があります。

分析

0689 は、EXEC ステートメント PARM 分析プログラム DFSRRA00 によって発行される標準異常終了です。DBRC または DL/I 従属アドレス・スペース領域の異常終了の前に、メッセージ DFS689I が IMS マスター・コンソールに出されます。

DFSRRA00 は、DBRC または DL/I 従属アドレス・スペース領域のパラメーター分析の処理中に、制御領域がアクティブでないことを判別しています。この状態は、次のいずれかの条件が原因です。

1. START コマンドを発行することにより、またはジョブにより、DBRC または DL/I 従属アドレス・スペース領域が開始されたが、IMS 制御領域がアクティブでない。
2. DBRC または DL/I 従属アドレス・スペース領域に対する START コマンドを発行した以降に、IMS 制御領域が異常終了した。
3. IMSID が IMS 以外の SSID に対して定義されている可能性があります。IMSID が、IMS 以外の SSID によって使用されるように定義されていないことを確認してください。

キー	ラベル	説明
RAENQW T1		メッセージを発行して異常終了するために、ラベル RAMSGAB に分岐します。

システムの処置

異常終了を発行した領域が終了します。

プログラマーの応答

制御領域ダンプを分析して異常終了の原因を判別し、ジョブを再実行します。

問題判別

1、2、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRA00

関連情報

DFS689I (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 16 章 IMS 異常終了コード 0701 - 0750

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0701

説明

IMS が、無効なキュー制御ブロックまたは無効なキュー・エレメントを使用してエンキューしようとした。

分析

これは、DFSIIENO によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指します。異常終了 SVRB に保管されたレジスターが、エンキュー・ラベルを判別するのに役立つことがあります。

重要: IMS 定様式ダンプ診断域は、DFSIIENO の代わりに、異常終了したモジュールとして呼び出しモジュール ID を表示します。

DFSIIENO は、IMS キュー制御ブロック (QCB) 上のキュー・エレメント (QE) をエンキューします。このモジュールは、共通システム・キューのキュー・エレメントを処理します。入力レジスターは次のとおりです。レジスター 1=QCB、レジスター 2=QE 順方向ポインター (QE+4)、レジスター 12=基底レジスター、レジスター 14=呼び出しルーチンのリターン・アドレス。

キー	ラベル	説明
Reg2=QE アドレス + 4 QESQCB ビットがオン	SETQE 01	このテストは、レジスター 2 で渡されたアドレスが QE であるかどうかを判別します。上位ビットがオンの場合、入力ブロックは QE ではありません。
Reg1=QCB アドレス QCBSQCB ビットがオフ	SETQE 02	このテストは、レジスター 1 で渡されたアドレスが QCB であるかどうかを判別します。上位ビット (QCBSQCB) がオフの場合、入力ブロックは QCB ではありません。
Reg1=QCB アドレス Reg2=QE のアドレス + 4 Reg3=QE のアドレス	ENQLIFO	このルーチンは、QCB 上の QE LIFO をエンキューしようとしています。レジスター 6 に、使用する最初の QE のアドレスが入っている必要があります。

キー	ラベル	説明
QCBLIFO ビット = ON (QUEUE LIFO) Reg6=ゼロ Reg10=正のアドレス		
Reg1=QCB アドレス Reg2=QE のアドレス + 4 Reg3=QE のアドレス Reg6=ゼロ Reg10=負のアドレス	ENQPR TY	QE のエンキューは指定された優先順位で実行する必要がありますが、デキュー・ポインター (レジスター 6、使用する最初の QE) がゼロです。

考えられる原因: 呼び出しモジュール (レジスター 14 で指し示される) が、レジスター 1 とレジスター 2 に無効なパラメーターを渡しました。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIENO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0702

説明

IMS が、無効なキュー制御ブロックまたは無効なキュー・エレメントを使用してデキューしようとした。

分析

0702 は、DFSIIIDEO によって発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB 内のレジスターは、異常終了が発生したときに現行であったレジスターです。レジスター 14 を使用して、DFSIIIDEO の呼び出し元を判別します。入り口のレジスター 1 は、キュー・エレメントの順方向チェーン・ポインター (QE + 4) またはキュー制御ブロック (QCB) のいずれかを指します。状況ビットは上位ビットであり、制御ブロックを QE (ビットがオフ) または QCB (ビットがオン) として識別します。

以下の原因での異常終了の結果、ラベル ABEND に条件付き分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg1=QE のアドレス + 4 Reg3=QE のアドレス Reg4=0	DEQQ E	レジスター 4 に、キュー・エレメントのバック・ポインターのアドレスが入っている必要があります。制御ブロックはポインターが存在することを示しているが、アドレスが見つからない場合、論理エラーが存在します。

オペレーターの応答:

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIIDEO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0704

説明

バッファーを取得するために、ICREATE 呼び出しが発行されました。しかし、すでに同じ名前でもバッファーが存在するため、バッファーを割り振ることができません。

分析

異常終了 0704 の場合、ラベル ICSTART を検索します。複数の命令の後に ICDUBUF への分岐があり、ここで異常終了コードがレジスター 1 にロードされます。次に ABNDEXIT に分岐し、ここから異常終了が発行されません。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了コード	ICSTAR T	サブルーチン FINDZIB が、同じ名前を持つ既存の ZIB を検出しました。レジスター 2 に、ユーザーが作成しようとしているプールの 4 バイトの名前が入っています。レジスター 6 に、同じ名前を持つゾーン初期設定ブロック (ZIB) のアドレスが入っています。

考えられる原因: 呼び出し元が 2 度目にプールを作成するために DFSISMNO を呼び出しました。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISMNO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0705

説明

バッファーを解放するために IDESTROY 呼び出しが発行されたが、指定された名前のバッファーを検出できません。

分析

異常終了 0705 の場合、ラベル DFSIDEST を検索します。複数の命令の後に IDNOBUF への分岐が検出され、これが異常終了コードをレジスター 1 にロードします。次に ABNDEXIT に分岐し、ここで異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了コード	DFSIDES T	サブルーチン FINDZIB が、指定された名前を持つ ZIB を見つけることができませんでした。レジスター 2 に、ユーザーが戻そうとしているプールの 4 バイトの名前が入っています。

考えられる原因: 呼び出し元が、作成されていないプールを破棄するために DFSISMNO を呼び出しました。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISMNO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0707

説明

IMS が、存在しないプールからバッファーを取得 (IGETBUF) しようとした。異常終了時のレジスター 2 に、誤ったプール名が入っています。

分析

0707 異常終了の場合、ラベル IGSTART を検索します。いくつかの命令の後に IGNOPOOL への分岐があり、これがレジスター 1 に異常終了コードをロードします。次に ABNDEXIT に分岐し、ここで異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了コード	IGSTAR T	サブルーチン FINDPOOL が、指定されたプールを HASH テーブルで見つけるために、DFSSPOOL FIND 呼び出しを発行しました。DFSSPOOL 呼び出しからゼロ以外の戻りコードが

キー	ラベル	説明
		戻されました。指定されたプールが見つかりませんでした。レジスター 2 に、ユーザーがバッファーを取得しようとしたプールの 4 バイトの名前が入っています。

考えられる原因: 作成されていないプールからバッファーを取得するために DFSISMNO を呼び出しました。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISMNO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0708

説明

IMS が、存在しないプールに対してバッファーを解放 (IFREEBUF) しようとした。異常終了時のレジスター 2 に、誤ったプール名が入っています。

分析

異常終了 0708 の場合、ラベル DFSIFBUF を検索します。複数の命令を発行した後、ラベル IFNOPOOL に分岐します。IFNOPOOL は、レジスター 1 に異常終了コードをロードし、ABNDEXIT に分岐します。ここで異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=異常終了コード	DFSIFB UF	サブルーチン FINDPOOL が、指定されたプールを HASH テーブルで見つけるために、DFSSPOOL FIND 呼び出しを発行しました。DFSSPOOL 呼び出しからゼロ以外の戻りコードが戻されました。指定されたプールが見つかりませんでした。レジスター 2 に、ユーザーがバッファを解放しようとしたプールの 4 バイトの名前が入っています。

考えられる原因: 呼び出し元が、存在しないプールからバッファを解放するために DFSISMNO を呼び出しました。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISMNO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0709

説明

IMS は、ストレージ・プールからバッファ (IGETBUF) を取得しようとしていました。要求されたバッファの長さが、許可されている最大バッファ・サイズを超えていました。R2 異常終了時にプール名が含まれています R3 には要求されたサイズが入り

考えられる原因: ストレージ・プールの大きさが、要求を満たすほど大きくありません。

システムの処置

関係するストレージ・プールによっては、ABENDU0709 が以下の条件のいずれかになる場合があります。

- 従属領域は異常終了します。
- IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

Specify a larger pool size at the next イムス start.

関係するプールが EPCB プールである場合、この異常終了には通常、メッセージ DFS0673E が付随します。詳細については、マスター・コンソールでエラー・メッセージを見つけてください。次のイムスの開始時に、より大きな EPCB プール・サイズを指定するか、または従属領域の EPCB サイズ要件を小さくしてください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DBFDBPV0、DFSISMNO

関連情報

[DFS0673E \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0710

説明

最初の保管域を見つけるために、レジスター 13 によって指し示された保管域チェーンが続いています。この保管域には、保管域接頭部 (SAP) へのポインターが含まれていませんでした。保管域チェーンが破壊されたか、あるいは最初の保管域の SAP ポインターがオーバーレイされています。

分析

これは、DFSISMNO 内の 2 つのロケーションのいずれかから発行される標準異常終了です。メインルーチン内のラベル INOSAP では、DFSISMNO は異常終了コードをレジスター 1 にロードし、異常終了が発行される ABNDXIT に分岐します。

DFSIZBRO サブルーチンの異常終了 0710 は、ラベル GSAB710 から発行されます。異常終了の時点で、R13 には現在の保管域のアドレスが入っていなければなりません。このアドレスを使用して、保管域をたどることによって、保管セットのオーバーレイまたは保管域の SAP アドレスのオーバーレイが発生したかどうかを判別することができます。これは、モジュール・フローを判別するのに役立ちます。また、場合によっては、保管セットをオーバーレイした呼び出し元も判別できます。

システムの処置

イムスはメモリー・ダンプを出して異常終了します。ESS TCB の下で異常終了が発生した場合、ESS TCB はメモリー・ダンプを出して終了し、制御領域が実行を継続できるようにします。

プログラマーの応答

この問題は、 イムス 内部エラーです。

問題判別:

4, 11, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSISMNO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0711

説明

A system error was detected while processing in an z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) environment or the z/OS システム UNIX System Services (z/OS システム UNIX) environment.

DFS0613I メッセージが表示される場合があります。このメッセージは、0711 が原因で異常終了 0113 が発生したことを示します。この状態は、RRS が終了し、高速機能同期点処理中に ABEND058 でイムス 従属領域が終了したときに発生する可能性があります。ABEND058 は、診断のために 0711 RC2D に変換されます。この状態を確認するには、以下のステップに従い

1. メッセージ DFS0613I にリストされている従属領域名を見つけます。
2. その従属領域について ABEND058 を示す、前のメッセージを探してください DFS629I
3. 異常終了 0113 ダンプを使用して、その従属領域の DPST を検出します。フラグ SAPX1AFP がオンで、EPSTW1SY=1 になっている。
4. イムス スケジューラー・トレース内の IRC START 項目は、その従属領域に対する異常終了 0058 完了コードを示します。

0711 が RRS 環境で発行されると、イムスはログ・レコード X'67D0' サブタイプ X'0607' を書き込む可能性があります。ここで、X'06' は DOSUBTYP で、X'07' は DOERRCOD です。サブタイプ X'0607' は、イムス DFSRRSI SWITCH_CONTEXT サービスが失敗したことを意味します。RC= 値 (4 バイト・フィールド D06RC) には、失敗した RRS サービスの戻りコードが含まれています。フィールド DOSUBTYP、DOERRCOD、および D06RC は、DFS67D0 マッピング・マクロに定義されています。

z/OS システム UNIX 環境で 0711 が発行されると、イムスはログ・レコード X'67D0' サブタイプ X'0608' を書き込むことがあります。ここで、X'06' は DOSUBTYP で、X'08' は DOERRCOD です。サブタイプ X'0608' は、

BPX1TLS (z/OS システム UNIX タスク・レベル・セキュリティ) のような z/OS システム UNIX サービスが失敗したことを意味します。RC= 値 (4 バイト・フィールド D06RC) には、失敗した z/OS システム UNIX サービスの戻りコードと理由コードが含まれています。高位 2 バイトには z/OS システム UNIX 戻りコードが含まれており、下位 2 バイトには z/OS システム UNIX 理由コードが含まれています。

分析

異常終了 0711 診断では、RRS アドレス・スペース、そのデータ・スペース、イムス 制御領域、およびモフ Logger アドレス・スペースに関する情報を収集する必要があります。この情報を取得するために、以下の SLIP トラップを使用できます。

```
SLIP
SET,C=U0711,JOBLIST=(ctljname,rrsjname,IXGLOGR),

SDATA=(CSA,PSA,RGN,SQA,SUM,TRT,GRSQ,LPA,ALLNUC),
ID=nnnn,DSPNAME=('rrsjname '*),END
```

ここで、

ctljname

制御領域ジョブ名

rrsjname

RRS ジョブ名

nnnn

オプションのトラップ ID

DFSASK00、DFSCPY00、DBFHGU10、DFSPCC20、DFSECP10、DFSDCPY0 の場合は、以下のとおりです。

0711 これらのモジュールのいずれかによって発行されたときの疑似異常終了。イムスは、ログ・レコード X'67D0'、サブタイプ X'07' を書き込み、どのモジュールがレコードを書き込んだかを示し、どの RRS サービスが失敗したか、およびそのサービスからの戻りコードを示します。

異常終了が DFSPCC20 によって発行されたことを示す症状ダンプが作成された場合は、DFSASK00 は異常終了 0711 をセットアップします。症状ダンプが、DFSECP10 が異常終了を発行したことを示している場合は、異常終了が DFSCPY00 によってセットアップされました。

RRS 理由コード 0701 が受信された場合は、RRS が使用可能になったが、イムスが RRS に登録をまだ完了していないことが原因である可能性があります。異常終了 0711 は、登録が完了したときに停止します。これは、メッセージ DFS0653I によって示されます。

DFSDCPY0:

理由コード

説明

X'35'

領域間通信 (IRC) 要求は、ODBA 環境で作成され、リカバリー単位が RRS ローカル・トランザクションであるため、完了できませんでした。

DFSRRRC10 の場合、DFSRRSBO、DFSRRSIO、DFSTMS00、DFS AERGO :

これらのいずれかのモジュールで発行された場合、0711 は標準異常終了です。RRS との保護会話または同期 APPC/OTMA 共用キュー・トランザクションの処理を準備しているときに、重大エラーが発生しました。レジスター 15 に理由コードが入っています。以下の理由コードのすべてが イムス X'12'、X'13'、X'15'、X'16'、X'1E'、X'1F'、X'20'、X'21'、X'26' (バッチ異常終了)、X'32'、および X'33' の異常終了として異常終了します。

DFSRRRC10 :

理由コード 説明

X'2D'

RRS が終了した時点で、従属領域が ATRCMIT または ATRBACK の呼び出しを処理していたため、ABEND058 が発生しました。ABEND058 は、0711 RC2D に変換されます。レジスター 1 は、ABEND058 完了コードを反映します。

DFSRRSBO :

理由コード 説明

X'23'

イムスは、RRS でリソース・マネージャーとして登録できませんでした。レジスター 2 に、CRGGRM サービスからの戻りコードが入っています。

X'24'

イムスは、専用コンテキストを別のバッチ TCB に切り替えることができませんでした。レジスター 2 に、CTXSWCH サービスからの戻りコードが入っています。

X'26'

イムスは、専用コンテキストを作成できませんでした。レジスター 2 に、CTXBEGC サービスからの戻りコードが入っています。

X'2B'

イムスは、すべての RRS 呼び出し可能スタブをロードできませんでした。

DFSRRSIO :

理由コード 説明

X'00'

呼び出し側が無効な DFSRRSI 関数を要求しました。

X'01'

イムスは DFSRRSIB に対するストレージの取得に失敗しました。レジスター 2 に、IMODULE GETMAIN からの戻りコードが入っています。

X'03'

イムス および RRS のログ名の検索が失敗しました。レジスター 2 に、ATRIRLN サービスからの戻りコードが入っています。

X'04'

RRS によって返された イムスのログ名の長さが無効です。レジスター 2 には、ログ名の長さが入っています。

X'05'

RRS によって返された イムスのログ名が無効です。レジスター 2 に、ログ名のアドレスが入っています。

X'06'

The RRS Commit exit failed before イムス committed. UR が全機能の場合にのみ、この異常終了の前にメッセージ ATR306I およびメッセージ DFS0693I が出されます。オペレーターは、**UOR コミットの変更 / 変更** コマンドを発行して、メッセージ DFS0693I で指定された URID をコミットする必要があります。UR が純粋な高速機能または混合モードの場合、この異常終了の前には、メッセージ DFS0698W が出されます。また、異常終了 0113 も発生します。

X'07'

LXRES 呼び出しが、システム LX 値の取得に失敗しました。レジスター 2 に、LXRES サービスからの戻りコードが入っています。

X'08'

イムス was unable to set the イムス log name with RRS. レジスター 2 に、ATRISLN サービスからの戻りコードが入っています。

X'09'

イムスは、RRS で再始動処理を開始できませんでした。レジスター 2 に、ATRIBRS サービスからの戻りコードが入っています。

X'0A'

イムスは、次の不完全なインタレストを取得できませんでした。レジスター 2 に、ATRIRNI サービスからの戻りコードが入っています。

X'0B'

イムスは、検索されたインタレストに回答できませんでした。レジスター 2 に、ATRIRRI サービスからの戻りコードが入っています。レジスター 4 に、イムス 応答コードが入っています。

X'0C'

ETCRE 呼び出しは、イムス リソース・マネージャー 出口ルーチンの入り口テーブルの作成に失敗しました。レジスター 2 に、ETCRE サービスからの

戻りコードが入っています。レジスター 3 に、エントリー・テーブル定義のアドレスが入っています。

X'0D'

ETCON 呼び出しは、エントリー・テーブルをすべてのアドレス・スペースのリンケージ・テーブルに接続できませんでした。レジスター 2 に、ETCON サービスからの戻りコードが入っています。

X'0E'

イムスは、RRS コンテキスト・サービスを使用してリソース・マネージャー出口ルーチンを確立できませんでした。レジスター 2 に、CRGSEIF サービスからの戻りコードが入っています。

X'0F'

イムスは、RRS リソース・リカバリー・サービスを使用してリソース・マネージャー出口ルーチンを確立できませんでした。レジスター 2 に、CRGSEIF サービスからの戻りコードが入っています。

X'10'

イムスは、据え置きリカバリー単位を RRS に通知することができませんでした。レジスター 2 に、ATRPDUE サービスからの戻りコードが入っています。

X'13'

イムスが ATRBACK 呼び出しを発行しましたが、呼び出しが失敗しました。関連付けられたプログラムおよびトランザクションは停止状況にはなりません。レジスター 2 に、ATRBACK サービスからの戻りコードが入っています。

X'14'

イムスが ATRCMIT 呼び出しを発行しましたが、呼び出しが失敗しました。したがって、バックアウト処理を強制するために、アプリケーションは異常終了しました。関連付けられたプログラムおよびトランザクションは停止状況にはなりません。レジスター 2 に、ATRCMIT サービスからの戻りコードが入っています。

X'15'

LCURXITN に、無効な RRS UR 出口番号が含まれていました。レジスター 2 に、無効な出口番号が入っています。

X'16'

次の UR への保護インタレストの式が失敗しました。レジスター 2 に、ATRSROI サービスからの戻りコードが入っています。

X'17'

イムスは、SIDX 上の RRE のエンキューに失敗しました。レジスター 2 に、DFSCBTS サービスからの戻りコードが入っています。

X'18'

イムスは、RRE ブロックの取得に失敗しました。レジスター 2 に、DFSBCB サービスからの戻りコードが入っています。

X'19'

イムスは QSAV ブロックの取得に失敗しました。レジスター 2 に、DFSBCB サービスからの戻りコードが入っています。

X'1A'

イムスは AWE ブロックの取得に失敗しました。レジスター 2 に、DFSBCB サービスからの戻りコードが入っています。

X'1B'

イムス通知出口は、RRS コンテキスト・サービスを使用してリソース・マネージャー出口ルーチンを設定することに失敗しました。レジスター 2 に、CRGSEIF サービスからの戻りコードが入っています。

X'1C'

RRS は、インタレストの再始動式に対して COMMIT 出口または BACKOUT 出口を呼び出しませんでした。レジスター 2 に出口番号が入っています。

X'1F'

コンテキスト (CTXSWCH) を従属領域 TCB に切り替えようとしているときに、既存のコンテキストが関連付けられませんでした。この問題はシステム・エラーです。

X'22'

アクティブ保護された会話タスクを含む内部テーブルが使い尽くされました。

X'27'

イムスは、RRS を使用してリカバリー単位の保護インタレストを表すことができませんでした。レジスター 2 に、ATREINT サービスからの戻りコードが入っています。

注: APPC/OTMA SMQ 使用可能化がアクティブになっている場合、イムスバックエンド・システムは、イムスフロントエンド・システムが使用できなくなった場合に、メッセージ・テキスト内に REASON=03A30027 とともに DFS554A メッセージを受信することがあります。このシチュエーションは、共用キュー内の残りのトランザクションに対して発生します。この状態を判別するには、イムスのフロントエンドとイムスのログ・レコードの検討が必要です。

X'29'

The unit of recovery interest token is no longer valid; RRS might have terminated and was restarted while イムス work was in progress. レジスター 2 に、ATTRURD サービスからの戻りコードが入っています。

X'2C'

現在のコンテキストに対するインタレストの式が失敗しました。レジスター 2 に、CTXEINT サービスからの戻りコードが入っています。

X'2D'

RRS が終了したときに、従属領域が ATRCMIT または ATRBACK の呼び出しを処理していました。

X'31'

イムスは、必要なときにXIDを入手することができませんでした。

DFSTMS00:

理由コード
説明

X'02'

バックエンドのイムスシステム上でカスケード・トランザクションを処理しているアプリケーションが、APPCアウトバウンド保護会話を発行した後で、プログラム間通信を発行しました。フロントエンドイムス上でURをコミットする要求が失敗しました。

X'11'

イムスは、RRSで再始動処理を終了できませんでした。レジスター2に、ATRIERSサービスからの戻りコードが入っています。

X'12'

イムスは同期点コーディネーターを判別できませんでした。レジスター2に、ATRREICサービスからの戻りコードが入っています。

X'1D'

アプリケーションが保護会話に関与しているため、プログラム間通信を実行しようとしたが、これは無効です。

X'1E'

アプリケーションは、保護会話または同期APPC/OTMA共用キュー・トランザクションに関連しています。フェーズ1の同期点処理中に、イムスは、アプリケーションの同期点を終了させるために、LU6.2装置またはフロントエンド共用キューイムスいずれかによって通知されます。CM1 OTMA トランザクションの場合、クライアントは、(PREPAREの代わりに)トランザクション応答の受信時にROLLBACKを応答することによって、アプリケーションのコミット時に終了します。コミット・フェーズ1は開始されません。

イムス Connect は、そのROLLBACK要求を受け入れ、AWE_FUNC = AWERBAUR (ロールバック要求)を使用してAWEをRRSに送信します。リソースRRSコーディネーターは、イムスが0711 RC1E 異常終了を発行して、正しいROLLBACKが行われるように、同期点を続行しないようにイムスに指示します。

この戻りコードは、バックエンドイムスによって処理される同期APPC/OTMA トランザクションに対してフロントエンドRRSが取り消され、再始動された場合にも発生する可能性があります。

X'21'

現行TCBからの専用コンテキストの関連付け解除が失敗しました。レジスター2に、CTXSWCH サービスからの戻りコードが入っています。

X'2A'

作業単位に対して非同期の終了呼び出しが受信されたために、イムス 従属領域疑似異常終了が発生しました。This problem error can also occur if either a / 停止領域 xx ABDUMP command was issued for a region in WAIT-RRS /OTMA PC status, or RRS is restarted at the back-end イムス for synchronous APPC/OTMA transactions.

X'32'

同期点処理中に DFSRRSI FUNC=SET_SIDE_INFORMATION 呼び出しが失敗したために、イムス 従属領域疑似異常終了が発生しました。この問題はイムス 内部エラー」または「RRS」エラーです。擬似ダンプ(67FF ログ・レコード)を分析します。

X'34'

バックエンドのイムスシステム上でカスケード・トランザクションを処理しているアプリケーションが、APPCアウトバウンド保護会話を発行した後にROLB呼び出しを発行しました。アプリケーションは、データ保全性エラーを回避するために異常終了し、元のトランザクションはスケジュール変更されます。

X'35'

APPCアウトバウンド保護会話を発行した後、バックエンドイムスシステム上でカスケード・トランザクションを処理していたアプリケーションが、デッドロックが発生したためにロールバックされました(ROLB)。このデッドロック条件は、アプリケーションのU0777 異常終了を発行したか、またはアプリケーションにFDまたはBC状況コードを戻しました。アプリケーションは、データ保全性エラーを回避するために異常終了し、元のトランザクションはスケジュール変更されます。

DFSAERGO:

理由コード
説明

X'33'

ODBAがアプリケーション呼び出しを正常に検証できませんでした。レジスター5に、CTXRDТА サービスまたはその他の診断情報からの戻りコードが入っています。レジスター14に、エラーが検出されたアドレスが入っています。

DFSPCJM0、DFSPCJB0、DFSPCC20、DFSECP10、またはDFSECP20の場合:

これらのいずれかのモジュールで発行された場合、0711は標準異常終了です。従属領域スケジューリングからのz/OSシステムUNIX呼び出し(BPX1TLSなど)の処理中に、重大エラーが発生しました。

イムスは、ログ・レコードX'67D0'、サブタイプX'0608'を書き込みます。ここで、X'06'はDOSUBTYPで、X'08'は、DOERRCODです。サブタイプX'0608'は、z/OSシステムUNIX呼び出しが失敗したことを意味します。メッセージDFS554Aが発行され、REASON=

メッセージ・テキストに z/OS システム UNIX 戻りコードおよび理由コードが示されたこのエラーが報告されません。

DFSTMAS0 の場合：

0711 は、モジュール DFSTMAS0 によって発行されたときの疑似異常終了です。従属領域スケジューリングからの z/OS システム UNIX 呼び出し (BPX1TLS など) の処理中に、重大エラーが発生しました。

イムスは、ログ・レコード X'67D0'、サブタイプ X'0608' を書き込みます。ここで、X'06' は D0SUBTYP で、X'08' は、DOERRCOD です。サブタイプ X'0608' は、z/OS システム UNIX 呼び出しが失敗したことを意味します。メッセージ DFS554A が発行され、REASON=メッセージ・テキストに z/OS システム UNIX 戻りコードおよび理由コードが示されたこのエラーが報告されません。

システムの処置

この異常終了が再始動処理中に発生した場合は、イムスは異常終了 従属領域の処理中に発生した場合は、従属領域は異常終了します。

システム・プログラマーの応答

この問題が RRS /MVS サービス障害などの内部エラーである場合は、まず RRS /MVS がシステム上でアクティブになっていることを確認してください。次に、イブンソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

ソース：

イムス 異常終了

モジュール：

DFSASK00、DFSCPY00、DBFHGU10、DFSPCC20、DFSCP10、DFSRRRC10、DFSRRRC10、DFSTMS00、DFSRRSB0、DFSAERGO、DFSPCJM0、DFSPCJM0、DFSPCJB0、DFSECP20、DFSTP20、DFSTMAS0

関連資料

[z/OS: z/OS UNIX システム・サービスの戻りコード](#)

関連情報

[DFS0613I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS629I \(メッセージおよびコード\)](#)

IMS 異常終了 0113

0712

説明

イムス トランザクション・エンキューまたはデキュー・サービスで、システム・エラーが検出されました。レジスター 15 の理由コードに、エラーが示されています。

分析

DFSIMBE0 の場合：

これは、モジュール DFSIMBE0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04 ' Reg14=BAL Reg2=ラッチ・マネージャー戻りコードの Reg3=A(TCT)		排他モードで TCTB ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'08 ' Reg14=BAL Reg2=ラッチ・マネージャー戻りコードの Reg3=A(TCT)		TCTB ラッチを排他モードで解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'0C ' Reg14=BAL Reg3=A(TCT)		クラス内で最も高い優先順位のトランザクションへのポインター (TCTPRIOR) が無効でした。
Reg15=X'10 ' Reg14=BAL Reg3=A(TCT)		新しいトランザクションをキューに入れるための優先順位の高いトランザクションを見つけようとしたときに、クラス内で最も高い優先順位が超過しました。
Reg15=X'14 ' Reg14=BAL Reg3=A(TCT)		クラス内の最高優先順位トランザクションへのポインター (TCTPRIOR) がゼロでした。

DFSIMBD0 の場合：

これは、モジュール DFSIMBD0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04 ' Reg14=BAL		呼び出し元によって無効な機能コードが提供されました。
Reg15=X'08 ' Reg14=BAL Reg10=ラッチ・マネージャー戻りコードの Reg9=A(TCT)		排他モードで TCTB ラッチを取得する要求が失敗しました。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'0C' Reg14=BAL Reg9=A(TCT)		トランザクション・クラス・テーブル (TCT) 上の最後にエンキューされたトランザクションのアドレスがゼロでした。
Reg15=X'10' Reg14=BAL Reg10=ラッ チ・マネー ジャー戻り コードの Reg9=A(TCT)		TCTB ラッチを排他モードで解放する要求が失敗しました。

システムの処置

イムス 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行する

システム・プログラマーの応答

レジスター 15 に、エラーの原因を示す戻りコードが表示されています。

問題判別:

1, 4, 5, 6, 25, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSIMBE0、DFSIMBD0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0713

説明

イムス MPP スケジューラーまたはイムス トランザクション・エンキュー・サービスでシステム・エラーが検出されました。レジスター 15 の理由コードに、エラーが表示されています。

分析

DFSSMSC0 の場合:

これは、モジュール DFSSMSC0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04 ' Reg14=BAL		呼び出し元によって無効な機能コードが提供されました。
Reg15=X'08 ' Reg14=BAL Reg7=A(TCT) Reg2=ラッチ・マネ ージャー戻りコード		TCTB ラッチを排他モードで解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'0C' Reg14=BAL Reg5=A(PDIR) Reg2=ラッチ・マネ ージャー戻りコード		排他モードで PDRB ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'10' Reg14=BAL Reg2=ラッチ・マネ ージャー戻りコード		共用モードで APSB ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'14' Reg14=BAL Reg7=A(TCT) Reg2=ラッチ・マネ ージャー戻りコード		排他モードで TCTB ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'18' Reg14=BAL Reg2=ラッチ・マネ ージャー戻りコード		共用モードで SCHD ラッチを取得する要求が失敗しました。
Reg15=X'1C ' Reg14=BAL Reg2=ラッチ・マネ ージャー戻りコード		ANY モードで SCHD ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'20' Reg14=BAL Reg2=ラッチ・マネ ージャー戻りコード		APSB を取得するための要求 共用モードのラッチが失敗しました。
Reg15=X'24 ' Reg14=BAL Reg5=A(PDIR) Reg2=ラッチ・マネ ージャー戻りコード		排他モードで PDRB ラッチを取得する要求が失敗しました。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'28' Reg14=BAL Reg9=A(PST) Reg8=SUBQ 番号 Reg7=戻りコードの開始 スケジューラー・サブキュー エンキュー・サービス		スケジューラー・サブキューの1つで領域 (PST) をエンキューする要求が失敗しました。
Reg15=X'2C' Reg14=BAL Reg9=A(PST) Reg8=SUBQ 番号 Reg7=戻りコードの開始 スケジューラー・サブキュー デキュー・サービス		いずれかのスケジューラー・サブキューから領域 (PST) をデキューする要求が失敗しました。

DFSMBE0 の場合：

これは、モジュール DFSMBE0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04' Reg14=BAL Reg10=A(Current) ITASK) Reg6=A(PST) Reg5=A(SQE) Reg4=A(SMB) Reg3=SUBQ 番号 Reg2=A(SUBQ)		新しくエンキューされたトランザクション (SMB) を処理するための領域 (PST) を検出した後、領域のスケジューラー・サブキュー・エレメント (SQE) は、その領域が間違ったスケジューラー・サブキュー (つまり SQPSTSQNReg3) にあることを示します。

システムの処置

イムス 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。これにより、状況を訂正

システム・プログラマーの応答

レジスター 15 に、エラーの原因を示す戻りコードが示されています。

問題判別:

1, 4, 6, 11, 15, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSSMSC0、DFSMBE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0714

説明

イムス BMP 領域スケジューラーまたは イムス APSB/DPSB 呼び出し処理プログラムが、スケジューラー・サブキュー上の領域をエンキューまたはデキューしようとしたときに、システム・エラーが発生しました。レジスター 15 の理由コードに、エラーが示されています。

分析

DFSSBMP0 の場合：

これは、モジュール DFSSBMP0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04' Reg9=A(PST) Reg2=IMS 宛先 ファインダー・サービス 戻りコード		IN= パラメーターで指定されたトランザクションを検出する要求を処理しているときに、イムス 宛先ファインダー・サービスが失敗しました。
Reg15=X'08' Reg9=A(PST) Reg2=IMS 宛先 ファインダー・サービス 戻りコード		OUT= パラメーターで指定されたトランザクションまたは LTERM を検索する要求を処理しているときに、イムス 宛先ファインダー・サービスが失敗しました。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'0C' Reg10=A(SAP) Reg9=A(PST) Reg3=SUBQ 番号 Reg2=IMS スケジューラー サブキュー・エンキュー・サービス 戻りコード		スケジューラー・サブキューの1つで BMP 領域をエンキューする要求が失敗しました。
Reg15=X'10' Reg10=A(SAP) Reg9=A(PST) Reg3=SUBQ 番号 Reg2=IMS スケジューラー サブキュー・デキュー・サービス 戻りコード		スケジューラー・サブキューの1つから BMP 領域をデキューする要求が失敗しました。
Reg15=X'14' Reg14=リターン・アドレス サブルーチンの呼び出し元 レルプドルビル Reg9=A(PST) Reg7=A(PDIR) Reg2=ラッチ・マネージャー 戻りコード		排他モードで PDRB ラッチを解放する要求が失敗しました。
Reg15=X'18' Reg14=リターン・アドレス サブルーチンの呼び出し元 レルプドルビル Reg9=A(PST) Reg7=A(PDIR) Reg2=ラッチ・マネージャー 戻りコード		共用モードで APSB ラッチを解放する要求が失敗しました。

DFSTMADO の場合 :

これは、モジュール DFSTMADO によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=X'04 ' Reg9=A(PST) Reg3=IMS スケジューラー サブキュー・エンキュー・サービス 戻りコード Reg2=A(SAP)		スケジューラー・サブキュー 4 にある CPI-C アプリケーション領域をエンキューする要求が失敗しました。
Reg15=X'08 ' Reg9=A(PST) Reg3=IMS スケジューラー サブキュー・デキュー・サービス 戻りコード Reg2=A(SAP)		スケジューラー・サブキュー 4 から CPI-C アプリケーション領域をデキューする要求が失敗しました。

システムの処置

イムス 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。これにより、状況を訂正

システム・プログラマーの応答

レジスター 15 に、エラーの原因を識別する理由コードが入っています。

問題判別:

1, 4, 6, 11, 15, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSSBMP0、DFSTMADO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0716

説明

イムス 制御領域の初期設定時に、NO BUFFERS 条件が検出されました。

分析

0716 は、メッセージ・キュー・バッファ初期設定モジュール DFSIINQ0 によって発行される標準異常終了です。DFSIINQ0 の処理中にエラーが検出された場合、DFSIINSO から BAL を使用してキュー管理バッファ・プールを初期設定します。この異常終了が発行されるのは、QPOOL のサイズが 1 つのメッセージ・バッファのサイズより小さいためです。QPOOL サイズは、ラベル SCDQPOOS の SCD 内にあります。バッファ・サイズは、長 MSG キュー・データ・セット (DCBBUFL) の DCB ブロック長に等しくなります。

異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である NOBUFFS のラベルが付いたルーチン内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 11 は SCD を指しており、レジスター 12 は基底レジスター、レジスター 7 には長 MSG キュー・データ・セットの DCB ブロック・サイズが入っています。レジスター 8 に、次の異常終了サブコードが入っています

サブコード (16 進数)

説明

X'04'

IMODULE GETMAIN が、キュー・バッファ・アドレス・リスト DFSPQBFA に専用ストレージを割り振り中に失敗しました。

- レジスター 3 には、要求されたストレージの長さ
- レジスター 15 に、IMODULE 戻りコードが入っています。

IMODULE 戻りコードの説明については、イムスシステム・サービスの戻りコード情報を参照してください。ストレージ割り振りによって IMODULE 障害が発生した場合は、JCL の領域サイズ・パラメータを大きくしてから、ジョブを再実行してください。

X'08'

QBUF プールに必要なバッファの数は、EXEC パラメータまたはシステム定義の間に指定できます。指定された数が 3 より大きい場合、QBUF プールのサイズは、必要なバッファの数にバッファ・サイズを乗算した値を使用して計算されます。指定されたバッファの数が 3 つ以下の場合、QBUF プールは内部デフォルト・サイズを使用して割り振られます。デフォルト・サイズが、少なくとも 1 つのキュー・マネージャー・バッファを保持できるほど大きくない場合は、この異常終了が発行されます。レジスター 5 に、計算されたキュー・マネージャー・バッファの長さが入ります この問題は、内部論理エラーです。

X'10'

ユーザー提供の DD ステートメントの処理中に、DCB DDNAME にすべてブランクが含まれていることが検出されました。レジスター 3 に、処理中の DCB のアドレスが入っています。

X'14'

ユーザー提供の DD ステートメントの処理中に、1 次 DCB DDNAME に 8 文字が含まれています。1 次 DD 名は 8 文字未満でなければなりません。レジスター 3 に、処理中の DCB のアドレスが入っています。

X'18'

IMODULE GETMAIN が、オプションの DCB DD カード用の専用ストレージの割り振り中に失敗しました。レジスター 15 に、IMODULE 戻りコードが入っています。IMODULE 戻りコードの説明については、イムスシステム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。ストレージ割り振りの失敗が原因で IMODULE 障害が発生した場合は、JCL の領域サイズ・パラメータを大きくしてから、ジョブを再実行してください。

X'0C'

QBUF プールが割り振られた後、プールが少なくとも 1 つのキュー・マネージャー・バッファを保持できるだけの大きさであることを確認するために、テストが行われました。この妥当性検査中に、QBUF プール・サイズが不十分であることが検出されました。レジスター 5 に、計算されたキュー・マネージャー・バッファの長さが入ります

X'1C'

QMBA ブロックのブロック・サイズおよび数を設定中に、DFSCBTS FUNC=ALTER が失敗しました。レジスター 15 に、DFSCBTS 戻りコードが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg1=X'800002CC' Reg6=負の値	(以下の前) ループ	QPOOL (レジスター 1) のサイズは、長メッセージ・データ・セット DCB のバッファ長 (DCBBUFL (レジスター 5)) によって除算されます。結果は正の値 (レジスター 6) でなければなりません。または異常終了が起こります。

考えられる原因: MSGQUEUE バッファ・オペランド (サイズ 3) の誤ったシステム定義仕様が正しくありません。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

次のアクションを実行します。

サブコード (16 進数)

アクション

X'04'

ストレージ割り振りの失敗が原因で IMODULE 障害が発生した場合は、JCL の領域サイズ・パラメータ

ーを大きくしてから、ジョブを再実行してください。

X'08'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

X'10'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

X'14'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

X'18'

ストレージ割り振りの失敗が原因で IMODULE 障害が発生した場合は、JCL の領域サイズ・パラメーターを大きくしてから、ジョブを再実行してください。

X'0C'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

X'1C'

これは、内部論理エラーです。問題判別を参照してください。

問題判別:

1, 4, 11, 34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINQO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0717

説明

初期設定中に、プールの初期設定を実行するために DFSIINSO が呼び出されました。IMS 制御領域の EXEC ステートメントのパラメーター・フィールドの指定 (または暗黙の指定) に従ってプール・サイズを設定しようとしたときに、エラーが発生しました。DFSDOBIO 内のバッファー・プールを取得するための IMODULE GETMAIN の実行中に、使用可能な CSA または専用ストレージが不十分であった場合も、このエラーが起こることがあります。

OSAM を使用しているバッチ環境では、該当のバッファー・プールは専用ストレージ内にあります。この領域は、要求されたバッファーを十分収容できるサイズにしておく必要があります。

分析

異常終了 0717 は、モジュール DFSIINSO および DFSDOBIO によって発行される標準異常終了です。

OSAM バッファー・プール初期設定モジュール DFSDOBIO は、バッファー・プール用のストレージを獲得するために IMODULE GETMAIN 呼び出しを発行します。DFSMODUO からの戻りコードがゼロ以外の場合、異常終了 0717 が発行されます。異常終了時に、レジスター 10 には SCD アドレスが入り、レジスター 2 にはバッファー・プールの合計サイズが入っています。IMODULE GETMAIN 要求からの戻りコードは、レジスター 15 に入ります。

この異常終了がモジュール DFSIINSO によって発行される場合は、処理中にエラーが検出されたことを示す一般的な異常終了です。IMS 初期設定中に、ストレージ・プールの初期設定を実行するために DFSIINSO が呼び出されました。レジスター 11 には SCD アドレスが入り、レジスター 8 には以下のいずれかの異常終了サブコードが入っています。

サブコード (16 進数) 説明

X'04'

DFSIINSO によって呼び出されるモジュールに十分な保管域を確保する目的で、QSAV ストレージを取得するための DFSBCB GET 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが DFSBCB から戻されました。レジスター 15 に DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

ZIB および FAQE ブロックの 1 次割り振りである DFSZIB00 用のストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。

- レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。
- レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。
- レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

レジスター 15 のこれらのコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

X'0C'

ストレージ・プール・ヘッダー・ブロック PHDRxxxx (xxxx はストレージ・プール名) 用の拡張 CSA ストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。

- レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。
- レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。

- レジスター 4 に、ストレージ・プール・ヘッダーの CDE 名のアドレスが入っています。
- レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

レジスター 15 のこれらのコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

X'10'

ストレージ・プール DFSPxxxx (xxxx はストレージ・プール名) 用のストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。

- レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。
- レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。
- レジスター 4 に、ストレージ・プールの CDE 名のアドレスが入っています。
- レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

レジスター 15 のこれらのコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

X'14'

IGETBUF/IFREEBUF または DFSPPOOL マクロを使用してストレージ・プール・マネージャーによって取り扱われるすべてのストレージ・プールには、固有の 4 文字のストレージ・プール名がなければなりません。プール名は、ストレージ・マネージャーのハッシュ・テーブル内で、ストレージ・プール・ヘッダーを探すのに使用されます。DFSIIINSO が、ハッシュ・テーブルに新規のストレージ・プール・ヘッダー・アドレスを追加しようとしたが、プール名が重複していました。

- レジスター 4 に、ストレージ・プール名が入っています。
- レジスター 9 に、ストレージ・プール・ヘッダーのアドレスが入っています。

X'18'

DFS1MP00 に対する IMODULE LOAD 要求が行われました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

X'1C'

ラージ (1 MB) ページによってバックアップされた 31 ビット・ストレージを取得するために、STORAGE OBTAIN 要求が行われました。ストレージ・サービスからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

X'20'

1 MB ページング可能ページによってバックアップされたプール内のストレージの合計量が、2 GB の

31 ビット・アドレス・スペース (X'7FFFFFFF') に収まる量を超えています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

DFS モジュールでの障害からリカバリーするには、次の処置を取ります。

DFSIIINSO

IMODULE および DFSBCB 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

DFSMODUO

より大きな CSA またはより大きな領域サイズのいずれか、あるいはその両方を指定して、ジョブを再実行します。

DFSISMNO

JCL EXEC ステートメントの PARM フィールドのプール・サイズ指定にエラーがあれば、それを訂正してから、ジョブを再実行します。

DFSDOBIO

次のいずれかを行います。

- より大きな CSA サイズまたはより大きな領域サイズのいずれか、あるいはその両方を指定します。
- 定義されたサブプールの数またはバッファ・プールのサイズのいずれか、あるいはその両方を減らします。その後でジョブを再実行します。

問題判別:

1、4、11、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINSO、DFSDOBIO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0718

説明

イムス 初期化中にエラーが発生しました 必須モジュールが見つからなかったか、PDS ディレクトリーの検索中に永続入出力エラーが検出されました。

分析

これは、DFSAINB0、DFSPLDR0、DFSPCC30、DFSPLPP0、DFSPLPP0、DFSXBAT0、DFSXCTLO、DFSXDINB0、DFSXLCIO、DFSXLCIO、DFSXSTM0、および DFSXTRA0 のいずれかのモジュールによって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、障害のあるモジュールを判別する必要があります。

DFSPLDR0 は、DFSRR00 から BAL を使用して開始されます。この BAL は、DFSPLD0 および BAL を、DFSPLPP0 (モジュール・プリロード処理プログラム) にロードします。DFSPLPP0 は、PROCLIB メンバー DFSIIN10、DFSIIN20 によって指定されたモジュール、およびメンバー DFSMPLxx のユーザーによって指定されたモジュールについて、BLDL 処理を実行します。BLDL 処理が完了すると、DFSPLPP0 はリストを DFSPLDR0 に戻し、DFSPLDR0 に戻ります。これにより、IMODULE LOAD 機能が実行されます。

レジスター 11 を使用してアドレス指定された作業域 DSECT、DFSPLD0 は、DFSPLPP0 および DFSPLDR0 の共通域として使用されます。

DFSXLIC0 は、共通サービス ITASK の下で制御を取得する最初のモジュールです。共通サービス ITASK は、DFSXSTM0 によって作成されます。

DFSPCC30 は、バッチ・システム用のアプリケーション・プログラム・コントローラーです。ロード中にバッチ・プログラム要求ハンドラー・モジュールが失敗した場合、DFSPCC30 は異常終了 0718 を発行しました。

DFSAINB0 の場合:

DFSCCMD0 のロードが失敗し、ICMD セキュリティーがラクトール (または同等の)、コマンド許可出口ルーチン、またはその両方を使用してインプリメントされる場合、DFSAINB0 CSECT LOADXITS によって異常終了 0718 が発行されます。この異常終了コードが出される前にエラー・メッセージは出されません。

キー	ラベル	解説
Reg15=戻りコード	ロアディシツツ	DFSCCMD0 の IMODULE LOAD のための SVC が、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。ロードが失敗しました。
Reg15=戻りコード	ロアセックス	IRRSPW00 の IMODULE LOAD のための SVC が、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。ロードが失敗しました。

考えられる原因:

- 必要なモジュールが PDS にありません。
- DBC、DCC、または イムス プロシージャーの AOIS パラメーターが、インストール済み環境に対して正しくありません。
- RACF によって提供される IRRSPW00 モジュールは、LPA、LINKLIST 内のライブラリー、または IMS.SDFSRESL 連結データ・セットの 1 つには含まれていません。

DFSPLDR0 の場合:

これは、以下のいずれかの理由により、必要なモジュールのロードが失敗したときに、DFSPLDR0 によって発行されます。

1. z/OS システム が失敗した
2. イムス モジュール・マネージャー DFSMODU0 は、ロード要求をリジェクトしました。

異常終了の前に、メッセージ DFS677I または DFS678I がシステム・コンソールに出され、メッセージ DFS679I が出されます。DFS677I は入出力エラーを示し、DFS678I はモジュールが検出されなかったことを示します。メッセージ DFS679I には、関連する IMODULE LOAD 戻りコードと一緒にモジュール名が含まれています。

異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が発行されたラベル ABNDBADL 内の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	解説
Reg1=X'800002CE'	ラプチェック	必須のイムスモジュールをロードできませんでした。

原因 考えられる原因: しては、以下の

1. ハードウェア障害
2. PDS ディレクトリー損傷
3. 必要なモジュールが PDS にありません

DFSPLPP0 の場合:

この異常終了は、DFSPLPP0 によって発行されます。BLDL 処理で PDS ディレクトリーのスキャン中に永続入出力エラー状態が検出されたためです。メッセージ DFS677I に、入出力エラーが発生したモジュールがリストされます。このメッセージは、異常終了の前にイムスマスター・コンソールに送信されます。

異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル BLAR 内の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 15 には、BLDL マクロ命令からのエラー戻りコードが含まれており、レジスター 12 は基底レジスターです。可能な BLDL 戻りコードは以下のとおりです。

法
意味

X'04'

リスト内の1つ以上の項目を入力できませんでした。指定されたリストが無効である可能性があります。

X'08'

永続入出力エラーが検出されました。

レジスター 15 を使用して、以下の表の特定のラベルに分離する必要があります。

キー	ラベル	解説
Reg15>X'08'	ブロード ループ	BLDL マクロ命令からの戻りが、指定された範囲外にありました。
Reg15=X'08'	ブロード リンク スト	永続入出力エラー条件が検出されました。

考えられる原因: ハードウェア障害または PDS ディレクトリが損傷しています。

DFSXBATO の場合:

これは、DFSBCSD、DFSPCCCO、DFSPCCCO、DFSRRSHO、DFSBNUCO、DFSBNUCO、DFSCST00、DFSCNS00、DFSCNS00、DFSPCC30、DFSBACKO、DFSFXCO、DFSRRBCO、DFSSDL90、DFS3DF10 のいずれかのモジュールで、IMODULE LOAD が失敗した場合に DFSXBATO によって発行されます。

異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が発行されたラベル ABEND 内の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	解説
Reg1=X'800002CE'	異常終了 4	必要な イムス モジュールについて、IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg14=BAL レジスター		レジスター 14 は、エラーを検出したモジュール DFSXBATO 内の位置を指しています。
Reg15=戻り コード		レジスター 15 に、IMODULE LOAD からの戻りコードが入っています。

DFSXCTL0 の場合: は、DFSXCTL0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=戻り コード	異常終了 3	DFSXCICO または DFSKDP10 の IMODULE LOAD が、ゼロ以外の戻り

キー	ラベル	解説
		コードを戻しました。ロードが失敗しました。レジスター 14 は、エラーを検出したモジュール DFSXCTL0 内の位置を指しています。

DFSXLICO の場合: は、DFSXLICO によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	解説
Reg15=戻り コード	カリクリ ック	IMODULE LOAD または DFSPCCCO の SVC が、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。ロードが失敗しました。

DFSDDINBO の場合: DB 制御 (DBCTL) の初期化中に IMODULE LOAD が失敗しました。この異常終了と共に、メッセージ DFS697I が発行されます。このメッセージには、IMODULE がロードできなかったモジュールの名前、および IMODULE からの戻りコードが含まれています。

DFSXSL10 の場合: DFSXSL10 の中の IMODULE LOAD または IMODULE GETMAIN が、イムスの初期設定中に失敗しました。

これは、以下のいずれかのモジュールのために IMODULE LOAD が失敗した場合に DFSXSL10 によって発行されます。DFSSINPO、DFSOCM10、または IMODULE GETMAIN が失敗します。

異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 15 に、エラー戻りコードが含まれています。レジスター 12 は基底レジスターです。

キー	ラベル	解説
Reg14=A(呼び 出し元) IMODULE ロー ド・DFSOCM10 Reg15=1		DFSOCM10 に対する IMODULE LOAD が失敗しました。
Reg14=A(呼び 出し元) IMODULE GETMAIN Reg15=2		IMODULE GETMAIN が失敗しました。

キー	解説
Reg14=A(呼び出し元) IMODULE ロード DFSSINPO Reg15=3	DFSSINPO の IMODULE LOAD が失敗しました。

DFSXSTMO の場合：

これは、以下のいずれかのモジュール (DFSSTMO、DFSXRPS0、DFSHINT0、DFSFDOT0、DFSXLIC0、DFSCNS00) の IMODULE LOAD が失敗した場合に DFSXSTMO によって発行されます。Reg14 は、ロード障害が発生したルーチンからの戻りレジスターであり、Reg15 には IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれている必要があります。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL レジスター		レジスター 14 は、エラーを検出したモジュール DFSXSTMO 内の位置を指しています。
Reg15=戻り コード		レジスター 15 に、IMODULE LOAD からの戻りコードが入っています。

DFSXTRAO 用：システムは、必要な外部トレース・モジュールまたは制御ブロックをロードすることができませんでした。外部トレース TCB が異常終了し、OLDS 外部トレースのみが許可されました。レジスター 14 に、エラーがあったルーチンを指す BAL REG が入っています。レジスター 15 に、IMODULE からの戻りコードが入っています。

システムの処置

イムスは異常終了する。

プログラマーの応答

この異常終了が DFSPLPP0 または DFSPLDR0 のいずれかによって発行された場合は、入出力エラーが発生したモジュールが、メッセージ DFS677I、DFS678I、または DFS679I にリストされます。問題を訂正するために必要な情報については、該当するメッセージを参照してください。

ソース：

イムス 異常終了

モジュール：

DFSAINB0、DFSPLDR0、DFSPPC30、DFSPLPP0、DFSXBAT0、DFSXCTL0、DFSXCTL0、DFSXLIC0、DFSXSL10、DFSXSTMO、DFSXTRAO、DFSXSTMO

関連情報

[DFS677I\(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS678I\(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS679I\(メッセージおよびコード\)](#)

0719

説明

制御領域の初期設定で、どの回線グループも正常なオープンができませんでした。DFSIINB0 が、IMS Transaction Manager の初期設定中に内部 IMS エラーを検出しました。初期設定を継続することはできません。

交換回線装置の場合、端末タイプ識別番号が有効な範囲を超えています。

分析

これは、モジュール DFSIINB0 によって発行される標準異常終了です。異常終了に入ったときのレジスターに、以下の情報が入っています。

レジスター 8

無効な装置タイプが入っている CTT

レジスター 15

無効な装置タイプ

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

正しい制御ブロックが IMS 中核にリンクされたかどうかを確認します。

問題判別：

1、4、6、34

ソース：

IMS 異常終了

モジュール：

DFSIINB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0720

説明

イムス 初期設定で、ストレージをページングできませんでした。レジスター 14 に、異常終了を発行したロケーションが入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH SVC PGFIX 機能からの戻りコードが入っています。IMSAUTH PGFIX 戻りコードの説明については、イムスシステム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

イムスは、他の理由でこの異常終了を発行します

分析

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了を発行したモジュールを判別することができます。異常終了 SVRB 内のレジスターは、問題の分離に使用する必要があります。システムに書き込まれた制御ブロックのダンプが必要です。

ページ・フィックス・エラー以外の理由で、モジュール DFSMINIO から異常終了が発行されます。診断の支援については、DFSMINIO の個別のライトアップを参照してください。

どちらのモジュールでも、イムス SVC IMSAUTH が発行されました。イムス SVC (DFSV4200) が、レジスター 15 にエラー・コードを戻しました。

DFSMINIO の場合:

異常終了 SVRB 内のレジスターは、問題の分離に使用する必要があります。

キー	ラベル	解説
Reg15=X' 01'	未復旧 01	ディスクパッチャー・モジュール (DFSREPO0 または DFSDSPX0) をロードできません。
Reg15=X' 02'	INIDSP0	ディスクパッチャー・モジュール DFSIDSP0 をロードできません。
Reg15=X' 03'' Reg14=B AL		IMODULE GETMAIN がストレージの獲得に失敗しました。
Reg15=X' 04'		"許可索引の予約" が失敗した
Reg15=X' 05'		"許可索引の設定" が失敗した
Reg15=X' 06'		"リンケージ・テーブル索引の予約" が失敗した
Reg15=X' 07'		"エントリー・テーブルの作成" が失敗した
Reg15=X' 08'		エントリー・テーブル接続要求が失敗しました。
Reg15=X' 09'		DFSCP00 をロードできません。
Reg15=X' 0A'		PC ルーター・ルーチン DFSPCR00 をロードできません。

これらのサブコードのすべてについて、レジスター 10 には、エラーを検出したサービスからの戻りコードが

入っており、レジスター 14 には、エラーが検出された DFSMINIO にあるアドレスが入っています。

DFSXIOB0 の場合:

OSAM I/O プール初期設定時に、イムスは OSAM I/O モジュール (DFSAOS70) をページ固定することができませんでした。

異常終了 SVRB 内のレジスターを、問題診断に使用する必要があります。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行されるラベル RETURN5 内の命令を指します。

キー	ラベル	解説
Reg1=異常終了 コード Reg14= RET1A Reg15= 表からのオフセ ット = IMSAUTH ページ固定呼び 出しからの戻り コード	戻り 5	ページ固定の OSAM I/O モジュールが試行されましたが、IMSAUTH によってゼロ以外の戻りコードが戻されました。

考えられる原因: 正しくないパラメーター・リストまたは正しくないモジュール・アドレスが使用されました。

システムの処置

イムスは異常終了する。

問題判別:

1, 4, 6, 34

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSMINIO、DFSXIOB0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0721

説明

存在しないバッファー・アドレスを解放するために、IFREEBUF 呼び出しが発行されました。

分析

異常終了 0721 の場合は、ラベル IFSCAN を見つけてください。それからいくつか後の命令に、命令 BZ IFNOBUFx があります。IFNOBUFx は、異常終了コー

ドをレジスター 1 に設定し、異常終了が発行される ABNDEXIT に分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg1= 異常終了コード Reg2= プール名 Reg3=A(解放するバッファー) Reg6= プール・ヘッダー Reg6 + X'2C'= 先頭の FAQE	IFSCA N	問題のプールに対する FAQE チェーンのスキャンで、レジスター 3 に一致するバッファー・アドレスを見つけることができませんでした。キューをスキャンして、そのキューが正しいかどうか確認してください。

考えられる原因: バッファーを解放するために DFSISMNO が呼び出されましたが、該当のバッファーがプール内にありません。プログラムは、2 回目のバッファー解放を試行している可能性があります。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISMNO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0722

説明

DFSISMNO によって待機された ECB への不適切な通知が検出されました。

分析

0772 は、DFSISMNO 内の 2 つの位置のいずれかから発行される標準異常終了です。

メインルーチン内の WAIT30 の後に、命令 BNE BADPOST があります。BADPOST は、エラー・コードをレジスター 1 に設定し、ABNDEXIT に分岐し、そこで異常終了が発行されます。

DFSIZBRO サブルーチン内の GSTGABND の後に、命令 BAL R14, GSAB722 があります。GSAB722 は、0722 異常終了を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1= 異常終了コード、 Reg15= 予期される通知コード	WAIT 30	WAIT により待機中の ECB が、ストレージ管理以外のルーチンによって通知されました。レジスター 9 に ECB アドレスが入っています。
Reg1= 異常終了コード、 Reg15= 予期される通知コード		ISERWAIT により待機中の ECB が、ストレージ管理以外のルーチンによって通知されました。レジスター 9 に ECB アドレスが入っています。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISMNO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0723

説明:

OSAM 初期設定中に、IMS がサブシステム制御テーブル (SSCT) を見つけることができませんでした。

分析

異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用してください。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル RETURN6 の命令を指しています。この異常終了は、入出力プールの初期設定処理中にエラーが検出された場合の一般的な異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg1= 異常終了コード、 Reg14= RET1A のテーブルからのオフセット、 Reg15= 左半分に機能コード、Reg15= 右半分に戻りコード	RETURN6	入出力プールの初期設定中に無効な条件が発生しました。レジスター 15 に、記述コードが入っています。
Reg15=0001 0004	RETURN6	OSAM 入出力プールが DW 境界に割り振られていません。
Reg15=0002 00xx	RETURN6	OSAM 入出力モジュールの戻りコードが見つかりません。xx は IMODULE によって設定されます。
Reg15=0003 0004	RETURN6	見つかった入出力モジュールは検証チェックで不合格でした。
Reg15=0004 00xx	RETURN6	IMODULE GETMAIN が、ページ固定リストまたは作業域に関して失敗しました。戻りコード xx は IMODULE によって設定されます。
Reg15=0006 00xx	RETURN6	OSAM 入出力プールの割り振りが失敗しました。戻りコード xx は DFSSTM00 によって設定されます。
Reg15=0007 00xx	RETURN6	IMODULE DELETE が作業域に関して失敗しました。戻りコード xx は IMODULE によって設定されます。
Reg15=0008 0004	RETURN6	CCW の変換中に、LRA によってゼロ以外の条件コードが設定されました。
Reg15=0009 0004	RETURN6	無効なプール・タイプがフォーマット設定のために OSAM に渡されました。

考えられる原因: この異常終了の原因として考えられるのは以下の 2 つです。

1. リソース・クリーンアップ・モジュール (DFSMRCL0) が正しくインストールされていない。

2. 誤ったレベルの DFSMRCL0 が使用されている。複数レベルの IMS を同一のオペレーティング・システムで実行している場合は、最高位の DFSMRCL0 を使用してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

リソース・クリーンアップ・モジュール (DFSMRLCO) が、「IMS V15 インストール」で説明されているとおりに正しくインストールされているかどうかを確認します。同じオペレーティング・システム上で複数のレベルの IMS を稼働させている場合、DFSMRCL0 が、稼働中の最も高いレベルの IMS システムからのものであるかどうかを確認します。

問題判別:

1、4、6

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXDCC0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0725

説明

追加の ZIB および FAQE を取得しようとしたときに、IMS でストレージ不足が発生したか、または、DFSMODU0 の実行中にエラーが発生しました。戻りコードはレジスター 15 に入っています。

分析

追加の ZIB および FAQE を取得しようとしたときに、IMS でストレージ不足が発生したか、または、DFSMODU0 の実行中にエラーが発生しました。DFSOCSS 呼び出しからの戻りコードがレジスター 15 に入っています。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

より大きい CSA 割り振りを指定して z/OS の再 IPL を実行してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

1、4、5、6、34

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSISMNO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0728

説明

IMS バッチ領域をスワップ不能にしようとしたとき、IMS AUTH SVC で問題が発生しました。

分析

これは、モジュール DFSDLN00 によって発行される標準異常終了です。

戻りコードはレジスター 15 に設定されています。IMS AUTH NOSWAP 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置

IMS バッチ領域は異常終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別:

1、4、8、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLN00

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0729

説明

DFSPPOOL GET 要求中に、既存のストレージ・プールからブロックを割り振るために、モジュール DFSSPM40 が呼び出されました。処理中に、リカバリー不能な内部エラーが検出されました。

この異常終了は、DFSSPM40 および DFSSPM50 の両方から発行されます。DFSPPOOL GET 要求中に、既存のストレージ・プールからバッファを割り振るために、モジュール DFSSPM40 が呼び出されます。DFSPPOOL REL 要求中に、バッファを解放するために、モジュール DFSSPM50 が呼び出されます。DFSSPM40 が異常終了の発行者の場合、このロジックによって (異常終了の直前に) 使用される R0、R1、および R15 が、DFSSPM40 の後ろに設定されている保管域に保管されます。リカバリー不能な内部エラーがどちらかのモジュールによって検出されると、異常終了 0729 が発行されます。

分析

これは、モジュール DFSSPM40 および DFSSPM50 によって発行される一般異常終了です。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入っています。

コード

説明

X'04'

バッファを取得するとき、呼び出し側のタスクが待ち状態に置かれました。タスクが通知されたとき、ストレージ・マネージャーによって、通知コードが無効であると判断されました。

X'08'

GET 要求の処理中に、ストレージ・マネージャーがフリー・バッファのあるブロックを検出し、ブロック・ヘッダー内のビットマップを更新することによってそのバッファを割り振りました。ストレージ・マネージャーは、バッファのアドレスを呼び出し元に返す前に、バッファがブロック内に存在しているかどうかを検証します。存在していない場合は、この異常終了が発行されます。このエラーは、ストレージ・オーバーレイが原因で発生する場合もあります。

X'10'

バッファ接頭部の最初のワードのアドレスが、ブロック・ヘッダーを指していません。オーバーレイが発生したか、または誤ったアドレスがストレージ・マネージャーに渡されました。

X'14'

バッファが、正しいプールに対して解放されていません。オーバーレイが発生した可能性があります。

X'18'

解放しようとしているバッファは、現在割り振られていません。オーバーレイが発生した可能性があります。

X'C'

バッファ接頭部の最初のワードがゼロになっています。オーバーレイが発生したか、または誤ったアドレスがストレージ・マネージャーに渡されました。

X'1C'

解放しようとしているバッファのアドレスが、ブロック内のバッファ境界上にありません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、4、6、11、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSSPM40、DFSSPM50

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0730

説明

IMS 初期設定中に、ストレージ・プール・マネージャーの初期設定を実行するためにモジュール DFSXSPM0 が呼び出されました。

分析

これは、処理中にエラーが検出された場合にモジュール DFSXSPM0 によって発行される一般異常終了です。IMODULE 戻りコードの説明については、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。レジスター 8 に、異常終了サブコードが入っています。

コード

説明

X'04'

ストレージ・プール・マネージャーのハッシュ・テーブル SPMHSHTB 用の拡張 CSA ストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'08'

ストレージ・プール・マネージャーのビットマップ・ルックアップ・テーブル SPMBMTAB 用の拡張 CSA ストレージを獲得するために、IMODULE GETMAIN 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 3 に、要求されたストレージ・サイズが入っています。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'0C'

ストレージ・プール定義 DFSSPM10 を拡張 CSA にロードするため、IMODULE LOAD 要求が出されました。ゼロ以外の戻りコードが IMODULE から戻されました。レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'10'

ストレージ・プール・マネージャー・ルーチンを含む複合モジュール DFSSPM40 をロードするため、IMODULE LOAD 要求が出されました。IMODULE から、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。レジスター 2 に、IMODULE パラメーター・リストのアドレスが入っています。レジスター 15 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'14'

制御領域 JCL で SPM= 接尾部を使用して IMSVS.PROCLIB メンバーが指定されていますが、そのメンバーが見つかりませんでした。

X'18'

IMSVS.PROCLIB FPL= ステートメントの処理中に、内部エラーが発生しました。DFSXSPM0 が、一時プール域に定義しておいたよりもさらに有効なプール名を検出しました。PROCLIB ステートメントでオーバーライドできるバッファ定義に入れられるのは、固定タイプのプールのみです。固定プール定義はすべて、DFSSPM10 内にあります。DFSXSPM0 で一時定義用に予約されるストレージ量は、すべての固定プールが処理できるほど十分でなければなりません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、4、11、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSXSPM0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0731

説明

モジュール DFSSPM10 で定義された 1 つ以上のストレージ・プールを割り振るために、DFSPOOL ALLOC 機能によってストレージ・プール・マネージャーが呼び出さ

れました。ストレージ・プール割り振り処理中に、1つ以上のエラーが検出されました。ストレージ・マネージャーがゼロ以外の戻りコードを戻したため、呼び出し側が処理を終了しました。

分析

レジスター 2 に、1つ以上のプール割り振り項目を指す DFSPPOOL パラメーター・リストのアドレスが入っています。各項目は、DFSPPOOL GENLISTD で生成される POOLALOC DSECT によってマップされます。リストの最後の項目はワード X'FFFFFFFF' です。各項目のバイト 2 には、その項目で指定されたプールが割り振られたかどうかを示す 2 バイトの戻りコードが入っています。戻りコードの高位バイトは、ゼロ以外の場合には、IMODULE GETMAIN サービスからの戻りコードです。レジスター 15 には、全項目の処理中に検出された最も大きな DFSPPOOL 戻りコードが入っています。DFSPPOOL および IMODULE GETMAIN 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 2 に、1つ以上のプール割り振り項目を指す DFSPPOOL パラメーター・リストのアドレスが入っています。各項目は、DFSPPOOL GENLISTD によって生成される POOLALOC DSECT でマップされます。リストの最後の項目は、ワード X'FFFFFFFF' です。

各項目のバイト 2 には、その項目で指定されたプールが割り振られたかどうかを示す 2 バイトの戻りコードが含まれます。戻りコードの高位バイトは、ゼロ以外であれば、IMODULE GETMAIN サービスからの戻りコードです。戻りコードの低位バイトは、DFSPPOOL ALLOC サービスからの戻りコードです。

レジスター 15 に、全項目の処理中に検出された最も大きな DFSPPOOL 戻りコードが入っています。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFINI20、DFSIINB0、DFSIING0、DFSIINQ0、DFSXESIO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

0732

説明

以前に割り振られたストレージ・プールからバッファータを取得するために、DFSPPOOL GET 機能のためにストレ

ージ・プール・マネージャーが呼び出されました。バッファータ割り振りプロセス中にエラーが検出されました。ストレージ・マネージャーからゼロ以外の戻りコードが戻され、呼び出し元が処理を終了しました。レジスター 15 に、DFSPPOOL GET 戻りコードが入っています。

分析

レジスター 15 に、DFSPPOOL GET 戻りコードが入っています。DFSPPOOL 戻りコードの説明については、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。戻りコードが、上限に問題があることを示している場合は、ユーザーが指定した上限値がエラーではなかったことを確認してください。戻りコードが X'20' より大きい場合、この問題は内部システム・エラーになります。

システムの処置

IMS は異常終了する。

プログラマーの応答

戻りコードが、上限に問題があることを示している場合は、ユーザーが指定した上限値に誤りがなかったことを確認してください。戻りコードが X'28' より大きい場合、この問題は IMS 内部エラーです。

問題判別:

1, 4, 11, 34

ソース:

IMS 異常終了

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0735

説明

この異常終了は、処理中にリカバリー不能な内部エラーが検出されたとき (すなわち、CLB ITASK を実行中であるが、実行フラグがオンでない)、モジュール DFSICIO0 または DFSASLT0 によって発行される一般異常終了です。

この異常終了は、MSCWA_CMS10_SAV がゼロ以外の場合にも、モジュール DFSCMS00 によって発行されます。これは、DFSCMS00 が呼び出し元に戻らなかったこと、その代わりにディスパッチャーへの戻りを試みていることを示しています。

分析

PSW は、DFSIC100、DFSASLT0、および DFSCMS00 内の異常終了が発生した位置を示しています。問題診断に、IMS ダンプおよびログが必要です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、4、5、6、11、36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMI00、DFSCMS00、DFSIC100、DFSASLT0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0736

説明

IMS 初期設定中に、再始動作業域を取得するための十分なストレージがありません。

分析

これは、DFSTMEI0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、ラベル ABEND を持つ異常終了ルーチンを指しています。レジスター 15 に IMODULE GETMAIN ルーチンからの戻りコードが入り、レジスター 0 に、定数 DFSSTPWA へのアドレス・ポインターが入ります。これらを使用して、正しいラベルを分離する必要があります。これらのレジスターは、異常終了 SVRB に入っています。

キー	ラベル	説明
Reg0=A ('DFSSTPWA') Reg1=X'8000 02E0'	IMOS0009	レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードが返されたために、STOP 領域の作業域に関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。IMS システムは異常終了します。

考えられる原因: IMS 制御領域の領域サイズが小さすぎます。

システムの処置

IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答

IMS 制御領域の領域サイズを増やして、IMS を再始動します。

問題判別:

8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSTMEI0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0737

説明

データベースを開始させようとしたときに、IMS 内部エラーが発生しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

異常終了時のレジスター 15 に設定される次のコードのいずれかによって、障害の原因が示されます。

コード (10 進数)

説明

1

作業用ストレージの GETMAIN が失敗しました。要求されたサイズが、異常終了時にレジスター 8 に入れます。

2

制御領域では、開始させようとしているデータベースのバックアウトの必要性が認識されているが、DBRC ではバックアウトの必要性が認識されていません。

3

内部 RRE ブロックを取得する試みが失敗しました。

4

開始しようとしているデータベースは、バックアウトが必要でした。しかし、このデータベースは当初、特定のリカバリー有効範囲の下で変更されたいくつかのデータベースの 1 つでした。バックアウトの実行後、システム情報を更新するために他のデータベースのブロックを見つけることができずでした。

5

制御領域は、開始しようとしているデータベースのバックアウトを正常に実行しましたが、LCRE ストレージの解放に失敗しました。

示された戻りコードに応じて、適切な処置を取ります。

ソース:

IMS 異常終了

0738

説明

IMS 制御領域がメッセージ領域に対するサービスを完了した後で、メッセージ領域への戻りに失敗しました。メッセージ領域が z/OS によって取り消されたためです。

分析

異常終了 0738 は、領域がすでに存在しなくなっているために ISWITCH が失敗するときに発行された疑似異常終了または標準異常終了である可能性があります。ISWITCH は、従属領域から制御領域への切り替えか、制御領域から従属領域への切り替えか、いずれかです。

考えられる原因: 制御ブロックは使用可能でしたが、現在はその制御ブロックはオーバーレイされたか破損しています。

システムの処置

該当 PST は再使用のために解放されます。(メッセージ領域は、MVS CANCEL の結果、すでに終了しています)

問題判別

1

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00、DFSCPY00、DFSUICCO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0739

説明

IMS メッセージ領域内に、従属領域の領域間連絡域を取得するための十分なストレージがありません。

システムの処置

メッセージ領域は終了します。

プログラマーの応答

メッセージ領域のサイズを増やして、ジョブを再実行します。

問題判別:

8

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0740

説明

パートナー製品のユーザー出口が、モジュール DFSRDY00 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。戻りコードはレジスター 15 に入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

パートナー製品のユーザー出口 DFSPUE0 によって発生した問題を訂正します。

ソース:

IMS 異常終了

0741

説明

複数システム結合が、初期設定を完了できませんでした。

分析

0741 は、DFSIIIMS0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 14 を、特定ラベルへのキーとして使用する必要があります。

レジスター 0 およびレジスター 1 は、終了の前にラベル ABENDSAV に保管されます。レジスター 12 はこのモジュールの基底レジスターで、レジスター 11 は SCD へのポインターです。

キー	ラベル	説明
Reg14= BAL Reg9=B AL	GETLXB S	チャンネル間 (CTC) リンクを確立する必要があります。 DFSCMC40 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 15 に、IMS SVC (DFSMODU0) から返された戻りコードが入ります。
Reg14= BAL	IMOS00 05	DFSCMC40 に関する IMODULE LOCATE が失敗しました。レジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。ABENDSAV では、レジスター 0 に DFSCMC40 のサイズが入り、レジスター 1 にそのアドレスが入っています。
Reg14= BAL	IMOS00 07	CTC LXB のストレージに関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。異常終了が発行されます。レジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。
Reg14= BAL	(ラベル なし)	CTC LXB をページ固定するための IMS SVC が実行されました。ページ固定は失敗し、レジスター 15 にエラー戻りコードが入っています。
Reg14= BAL	IMOS00 10	モジュール DFSCMC40 に関する IMODULE DELETE が失敗しました。レジスター 15 にエラー・コードが入っています。 ABENDSAV のレジスター 0 は、z/OS 接頭部保管域 (PSA) を指しています。
Reg14= BAL	TRYMT M	主ストレージ間のリンクのためには、アクセス方式モジュールをロードする必要があります。 DFSMTMA0 に関する IMODULE LOAD が失敗し、異常終了が発生しました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。
Reg14= BAL	IMOS00 14	LXB および入出力バッファに関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。
Reg14= BAL	BLDP1	LXB を初期設定できるように、リンクのタイプを判別するために CTT がテストされます。不明なリンク・タイプの場合、失敗して異常終了が発生することになります。レジスター 15 に、CTT へのアドレス・ポインターが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14= BAL	SIDLOO P1	SID が存在していることは判明しましたが、それはローカル SID ではありませんでした。この結果、異常終了が発生します。 ABENDSAV のレジスター 1 がその SID を指しています。
Reg14= BAL	MSOAB END	考えられる原因: <ul style="list-style-type: none"> システム定義時に定義された MSC リソースのない IMS に対し、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内の MSC セクション内で SYSID が定義されていませんでした。MSC を初期設定するには、少なくとも 1 つの SYSID を定義する必要があります。 内部エラー。

GETMAIN が失敗した場合、ラベル MSOABEND でモジュール DFSCMMP0 から異常終了 0741 が発行されることがあります。CTC 入出力バッファのストレージに関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。異常終了コードが発行されます。レジスター 15 に、エラー戻りコードが入っています。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- CSA の量が不十分で、MSC 制御ブロックを作成できない。
- SVC4 に対する無効な要求が原因で、MSC 通知ハンドラー (DFSCMC20-DFSCMM20) のロードまたは削除が失敗した。
- このシステム用のローカル SID がない (おそらくはシステム定義のバグ)。

APAR 処理の場合: 異常終了メモリー・ダンプ、コンソール・シート。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 14 の内容から 4 を引いた値が、エラーを判別した命令のアドレスです。ロードされるモジュールが SDFSRESL にあるかどうかを確認します。IPL 時に、必ず z/OS に十分な CSA を含めるようにしてください。

問題判別:

1、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIIMS0、DFSCMMP0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0742

説明

DL/I タスク識別子の保守でエラーが検出されました。この識別子は、IMS オンライン実行中に、データベース内の解放されたスペースの再使用を制御します。

分析

DFSDLA00 の場合:

DL/I タスク識別子の保守でエラーが検出されました。この識別子は、IMSS オンライン実行中に、データベース内の解放されたスペースの再使用を制御します。次の 3 つの条件のいずれかが発生しました。

- チェックポイント中に、新しい日付が検出されたが、有効な DL/I タスク識別子を生成できませんでした。原因は、時刻 SVC のエラーまたはプロセッサに設定された日付のエラーがあった可能性があります。この条件は、IMS システムが 658 日を超えて連続稼働した場合にも発生することがあります。日付情報を含むタスク識別子の部分がオーバーフローするためです。
- アクティブな識別番号の範囲内でエラーが検出されました。例えば、低位の識別番号が、次に使用可能な識別番号よりも大きな値でした。
- 従属領域の識別番号が、(アクティブな識別番号の) 既知の範囲の外部にあることが検出されました。

これは、モジュール DFSDLA00 によって発行される標準異常終了です。関係するフィールドは以下のとおりです。

SCDLOWID:

最も古いアクティブ・タスクの識別番号

SCDNAVID:

次に割り振られるタスク識別子

PSTTSKID:

このタスクの識別番号

考えられる原因: IMS システム・エラー

DFSRDBC0 の場合:

XRF テークオーバーの一部としてバックアウトを実行している間に、以下のいずれかの条件が発生しました。

- アクティブな識別番号の範囲内でエラーが検出されました。例えば、低位の識別番号が、次に使用可能な識別番号よりも大きな値でした。

- 従属領域の識別番号が、(アクティブな識別番号の) 既知の範囲の外部にあることが検出されました。

DFSRDBC0 がこの標準異常終了を発行する場合、異常終了 SVRB レジスターのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 9 は PST を指し、レジスター 11 は SCD を指します。以下に説明するフィールド SCDLOWID、SCDNAVID、および PSTTSKID も、問題診断に役立ちます。

SCDLOWID:

最も古いアクティブ・タスクの識別番号

SCDNAVID:

次に割り振られるタスク識別子

PSTTSKID:

このタスクの識別番号

DFSDHD00 の場合:

DFSDHD00 は、PST の TASKID のエンキュー要求から戻った際に、以下の条件があった場合にこの異常終了を発行します。

- ゼロ以外の戻りコードが返され、かつ
 - 現在スケジュールに入っている疑似異常終了がない。
- フィールド PSTTSKID には、このタスクの識別番号が入っています。

システムの処置

条件 1、2、または 4 の場合、IMS 制御領域が異常終了します。条件 3 の場合、従属領域のアプリケーションが異常終了します。

オペレーターの応答

条件 1、2、または 4 の場合、緊急時再始動を実行します。条件 3 の場合、/START コマンドを発行して、影響を受けたプログラムおよびトランザクションを開始し、さらに、その領域が BMP であった場合は、領域を再始動します。

プログラマーの応答

問題を判別し、再実行してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA00、DFSRDBC0、DFSDHD00

0743

説明

SCD にあるアクティブ領域カウンターの値が負です。アクティブな MPP 領域 (SCDMPPAC) またはアクティブな BMP 領域 (SCDBMPAC) の数が、そのタイプの領域

の終了処理中に負になりました。データ・アドレスは、32 ビットでアドレス可能でなければなりません。

分析

これは、DFSSABNO によって発行される標準異常終了です。DFSSABNO が呼び出されるのは、必要な PST クリーンアップ機能を実行するために従属領域に対して TERMINATE THREAD 呼び出しが発行された場合です。

異常終了 SVRB のレジスター 2 には、アクティブ領域の数を表す負の数値が入っています。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 11 は SCD へのポインターです。

キー	ラベル	説明
Reg2= 負の値 Reg11=SCD アドレス Reg12= 基底レジスター	SABN06 00	アクティブな MPP 領域またはアクティブな BMP 領域のいずれかの数が、従属領域の終了処理中に負になりました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSABNO

0744

説明

モジュール DFSSMICO が呼び出されましたが、これは無効です。PST 内の再配置済み RCPARMS イメージの RCSCHD フィールドにある呼び出し機能は、INIT または LOAD でなければなりません。この問題は、内部システム・エラーです。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答:
緊急時再始動を実行します。

問題判別:
1、4、5、6、25、35

ソース:
IMS 異常終了

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0745

説明

IMS スケジューラーが、バッチ・メッセージ処理 (BMP) 領域のスケジューリング中に、SSOB 内で無効な機能 (CREATE THREAD 以外) を検出しました。

分析

渡された関数が CREATE-THREAD ではありませんでした。異常終了 SVRB のレジスター 6 には、EBCDIC フォーマットの呼び出し関数が入っているはずですが、レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800 002E9' Reg8=a(SSOB) Reg9=a(PST)	GOO N	フィールド SSOBFUNC で渡された関数が CREATE-THREAD ではありません。

考えられる原因: DFSASK00 で渡された SSOB が無効です。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

問題判別:
1、5、11、12

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSSBMPO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0746

説明

バッチ終了中またはチェックポイント中に、モジュール DFSDLA00 が CLOSE 呼び出しで障害を検出しました。

分析

IMS OPEN/CLOSE エラー・メッセージからの戻りコードおよび情報を確認してください。システム・エラー・メッセージがある場合には、それらのエラー・メッセージからの戻りコードおよび情報も確認してください。

キー	ラベル	説明
ビット PSTOCBAD がバ イト PSTFNCTN でオンになって います。(??)	UNCLC OM	PSTOCBAD がオンになっ ていて、他の異常終了が開 始されていない場合は、 DFSDLA00 が異常終了 0746 を開始します。

システムの処置

アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答

システム・エラー・メッセージまたは出された IMS エラー・メッセージ (あるいは両方) で、CLOSE 障害を調べます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDLA00

0747

説明

TERM-THREAD を発行せずに、同じ TCB に対して別の CREATE-THREAD が発行されました。

分析

0747 は、モジュール DFSASK00 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: これは、おそらく IMS システム・エラーです。

システムの処置

従属領域は終了します。

問題判別:
4、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSASK00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0748

説明

モジュール DFSCST00 に対して IMODULE LOAD 要求を実行しようとしたときに、IMODULE マクロでエラーが発生しました。

分析

0748 は、モジュール DFSCST00 から発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB のレジスターは、異常終了の時点で最新であったものです。レジスター 15 の下位半分に、戻りコードが入っています。レジスター 15 の上位半分には、DFSCST00 によってロードされた理由コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15 = X'000400xx'	用語	DFSTRM00 に関する IMODULE LOAD が失敗し ました。
Reg15 = X'000800xx'	DBCMSD	DFSDBDR0 に関する IMODULE LOAD が失敗し ました。



重要: xx は、IMODULE マクロから渡される戻りコードに相当します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IMODULE LOAD マクロにより、ゼロ以外の戻りコードがレジスター 15 に戻されました。戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報の IMODULE LOAD 戻りコードを参照してください。

問題判別:

1、4、12、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSCST00

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0749

説明

アプリケーション・プログラムによってユーザー異常終了コード 0 が発行されると、この異常終了が発生します。追加情報は、システム・コンソール・ログから入手できます。スレッド終了処理が、IMS STAE 処理ではなく、タスクの終了またはストレージの終了によって実行された場合、異常終了 0749 が発生することがあります。IMS (E)STAE が、TERMINATE-THREAD 処理が完了する前に、制御を獲得できなかったか、または異常終了しました。

分析

これは、モジュール DFSASK00 および DFSPCC20 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

IMS は、異常終了 0749 を IMS メッセージおよびログ・レコードの完了コードとして使用します。

プログラマーの応答

異常終了 0749 完了が必要であれば、異常終了コード 0 を使用します。異常終了 0749 が必要でない場合は、異常終了コード 0 を使用しないでください。

問題判別:

1、5、6、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCC20、DFSASK00、DFSSDA20、DFSSABN0、DFSBCK00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 17 章 IMS 異常終了コード 0751 - 0800

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0756

説明

XRF 環境で、ローカル・メッセージ・キュー・データ・セットの OPEN 障害が検出されたか、または DFSQDOC0 がロードに失敗しました。

IMS は、ローカル・メッセージ・キューのサイズが小さすぎる場合にもこの異常終了を発行します。ローカル・メッセージ・キュー・データ・セット (IMS.LGMSGSL、IMS.SHMSGSL、および IMS.QBLKSL) のいずれかのレコード数が、システム定義時に定義された MSGQUEUE マクロの SHUTDWN パラメーターに指定されたレコード数より少ない場合に、この異常終了が発生します。

分析

0756 は、以下の 2 つの原因のどちらかで、モジュール DFSCST00 によって発行される標準異常終了です。

DFSQDOC0 に関する IMODULE LOAD が失敗した場合、IMODULE マクロはレジスター 15 に戻りコードを入れます。戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報の IMODULE LOAD 戻りコードを参照してください。

1 つ以上のローカル・メッセージ・キュー・データ・セットに関して OPEN の失敗が発生した場合、DFSQDOC0 はレジスター 15 に戻りコードを入れます。

レジスター 3 は、DFSCNS00 によって使用される以下の情報を指しています。

Reg3+X'00'= AWE のアドレス (X'30' バイト)

Reg3+X'0C'=01 FUNC=OPEN

Reg3+X'30'=DCB オープン・リスト。(各ローカル・メッセージ・キュー・

データ・セットについて、1 項目がリストに含まれています。

項目のフォーマットは以下のとおりで

す。)

+0 DCB アドレス

+4 予約済み

+5 フォーマット・オプション =01

+6 アクセスは OSAM=01

+7 OSAM* からの戻りコード

OSAM 戻りコードの説明については、メッセージ DFS986A を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg5=ABEND U0756 への BAL Reg15=DFSQ DOC0 の IMODULE LOAD からの 戻りコード DFSQDOC0	CST000 3	DFSQDOC0 はロードに失敗しました。
Reg3=AWE のアドレス (DFSCNS00 に渡される オープン・リ ストが 含まれていま す。) Reg5=ABEND U0756 への BALR Reg15=DFSQ DOC0 の IMODULE LOAD からの 戻りコード DFSCNS00	ABEND U0756	ローカル・メッセージ・キュー・データ・セットの 1 つがオープンに失敗しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

これはおそらくユーザー・エラーです。ローカル・メッセージ・キュー・データ・セット (IMS.LGMSGSL、IMS.SHMSGSL、および IMS.QBLKSL) の LRECL および BLOCKSIZE の定義を調べます。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCST00

関連資料

IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報

DFS986A

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0757

説明

IMS システム・メッセージ・キュー・マネージャーのコンポーネントでエラー条件が検出されました。原因として、キュー・マネージャーのいずれかの呼び出し側での論理エラー、キュー・マネージャー・ルーチンのいずれかの内部での論理エラー、または、緊急時再始動状態に関連する操作エラーによる可能性があります。次の操作エラーによって、この異常終了が発生することがあります。

- 定義済みシステムの変更後のウォーム・スタート。
- 誤ったログ・データ・セットを使用した、またはログ・データ・セットなしでの緊急時再始動の試み。
- 不適切に終了したログ・データ・セットを使用した緊急時再始動。

分析

異常終了 0757 は、以下にリストされているモジュールのいずれかから、キュー・マネージャーによって発行される標準異常終了です。エラー状態を検出したモジュールを判別するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用します。異常終了 SVRB のレジスター 15 に、どのモジュールが 0757 を発行したかを判別するのに役立つサブコードが入っています。レジスター 6 には通常、エラーが検出されたおよその場所を示すアドレスが入っています。エラーが検出された時点のレジスター 15、0、および 1 の内容が、異常終了の発行前に QSAPWKAD 領域 (フィールド QSAPAB15、QSAPABR0、および QSAPABR1) に保管されます。これらのサブコードについては、次のセクションに相互参照を示し、各モジュールのサブセクションで詳細に説明します。

DSECT を使用する場合:

モジュール内部で参照されている特定ラベルへの DSECT 内のオフセットを見つけるには、マクロ QSAPWKAD、ISCD、ICLI、QLOGMSGP、IDLI、QBFALSTD、QLOGMSGP、IAPS、OSAMDECB、QLOGRECS、および DFSQMGR を表示して調べます。

サブコードの相互参照

サブコード

モジュール

000

DFSQDQ00 DFSQEQ00 DFSQGU00 DFSQIS00
DFSQMGR0 DFSQNP00 DFSQRH00 DFSQRL00
DFSQXF00

001

DFSQMGR0

002

DFSQMGR0

003

DFSQC070

004

DFSQEQ00 DFSQGU00

005

DFSQEQ00

006

DFSQIS00

007

DFSQDQ00

008

DFSQDQ00 DFSQEQ00 DFSQMGR0

009

DFSQGU00

00A

DFSQIS00

00B

DFSQMGR0

00C

DFSQIS00

00D

DFSQNP00

00E

DFSQDQ00

00F

DFSQIS00 DFSQGU00

010

DFSQIS00 DFSQEQ00

011

DFSQEQ00

012

DFSQEQ00

013

DFSQEQ00

014

DFSQEQ00

015

DFSQEQ00

016

DFSQC060

017

DFSQNP00

018	DFSQGU00、DFSQNP00	031	DFSQC020
019	DFSQGU00、DFSQNP00	032	DFSQC020
01A	DFSQNP00	033	DFSQEQ00
01B	DFSQNP00	034	DFSQEQ00
01C	DFSQMGR0	035	DFSQEQ00、DFSQMGR0
01D	DFSQGU00	036	DFSQDQ00
01E	DFSQGU00	037	DFSQDQ00
01F	DFSQGU00	038	DFSQDQ00
020	DFSQMGR0	039	DFSQDQ00
021	DFSQGU00	03A	DFSQDQ00
022	DFSQGU00	03B	DFSQDQ00
023	DFSQGU00	03C	DFSQDQ00
024	DFSQGU00	03D	DFSQDQ00、DFSQMGR0、DFSQGU00
025	DFSQGU00	03E	DFSQIS00
026	DFSQGU00	03F	DFSQC040
027	DFSQXF00	040	DFSQGU00
028	DFSQXF00	041	DFSQGU00、DFSQEQ00
029	DFSQXF00	042	DFSQGU00
02A	DFSQXF00	043	DFSQGU00
02B	DFSQEQ00、DFSQMGR0	044	DFSQGU00
02C	DFSQEQ00	045	DFSQDQ00
02D	DFSQGU00	046	DFSQEQ00、DFSQIS00
02E	DFSQRL00	047	DFSQIS00
02F	DFSQRL00	048	DFSQGU00、DFSQMGR0
030	DFSQC020	049	DFSQGU00

04A
 DFSQRL00、 DFSQXF00

04B
 DFSQMGR0

04C
 DFSQC010 DFSQC020 DFSQC050 DFSQEQ00
 DFSQGU00 DFSQIS00 DFSQMGR0 DFSQXF00

04D
 DFSQC030 DFSQC060 DFSQC080 DFSQMGR0
 DFSQXF00

04E
 DFSQGU00

04F
 DFSQGU00

050
 DFSQDQ00 DFSQEQ00 DFSQGU00 DFSQMGR0
 DFSQRL00 DFSQXF00

051
 DFSQRL00

052
 DFSQC030

053
 DFSQC030

054
 DFSQDQ00

055
 DFSQEQ00

056
 DFSQEQ00

057
 DFSQDQ00

058
 DFSQGU00

059
 DFSQNP00

05A
 DFSQNP00

05B
 DFSQC010

05C
 DFSQC010

05D
 DFSQC010

05E
 DFSQNP00

05F
 DFSQXF00

060
 DFSQDQ00、 DFSQEQ00、 DFSQGU00、
 DFSQIS00、 DFSQRL00

061
 DFSQGU00

063
 DFSQGU00

064
 DFSQXF00

065
 DFSQRL00

066
 DFSQXF00

067
 DFSQDQ00

101
 DFSQBFM0

102
 DFSQBFM0

104
 DFSQBFM0

105
 DFSQBFM0

205
 DFSQRST0、 DFSQRSQ0

206
 DFSQRST0

209
 DFSQRST0、 DFSQRSQ0

20A
 DFSQRST0、 DFSQRSQ0

20B
 DFSQRST0、 DFSQRSQ0

20C
 DFSQRST0、 DFSQRSQ0

20D
 DFSQRST0、 DFSQRSQ0

20E
 DFSQRST0

210
 DFSQRST0

211
 DFSQRST0

212
 DFSQRST0

213
 DFSQRST0

214
 DFSQRST0

215
 DFSQRST0、 DFSQRSQ0

216
 DFSQRST0

217 DFSQRST0
218 DFSQRST0
219 DFSQRST0
21A DFSQRST0
21B DFSQRST0
21C DFSQRST0、DFSQRSQ0
21D DFSQRST0
21E DFSQRST0
21F DFSQRST0、DFSQRSQ0
301 DFSQLOG0
306 DFSQLOG0
309 DFSQLOG0
30A DFSQLOG0
30B DFSQLOG0
30C DFSQLOG0
30D DFSQLOG0
30E DFSQLOG0
30F DFSQLOG0
310 DFSQLOG0
311 DFSQLOG0
312 DFSQLOG0
313 DFSQLOG0
314 DFSQLOG0
315 DFSQLOG0
316 DFSQLOG0

801 DFSQFIX0
802 DFSQFIX0
803 DFSQFIX0
804 DFSQFIX0
805 DFSQFIX0
806 DFSQFIX0
807 DFSQFIX0
901 DFSQRH00

DFSQC010 の場合:

DFSQC010 は、挿入要求の実行時に相対レコード番号をメッセージに割り当てます。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

S	キー・データ	ラベル	説明
04C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFS BCB 戻り コード	ASSI GN70 ASSI GN90	MSGP タイプのメッセージ・ブロックを取得しようとしたが、失敗しました。
05B	Reg15=X'5B' Reg11=A(SCD) SCDFRB=0 SCDSTOP1 ビット: SCDSTQUE がオフ	ABEN DQU	継続挿入呼び出しの実行時に、キュー・マネージャの通常メッセージ・キューが利用不可で、IMS が XRF 対応ではありませんでした。
05C	Reg15=X'5C' QSAPCFUN ビット: DCDLI がオン	NWA SSIG N	継続挿入呼び出し中または ENQUEUE 呼び出しの実行時に、呼び出し元が DL/I または RESTART でした。
05D	Reg15=X'5D' QSAPAB15=A(C NT) CNTFLG2 ビット: CNTF2CNT がオフ、または CNTF2LQU がオフ	NWA SGN2 0	継続挿入呼び出し中または ENQUEUE 呼び出しの実行時に、DRRN を割り当てようとしたが、ローカル QPOOL が使用中ではありませんでした。

DFSQC020 の場合:

DFSQC020 モジュールには 3 つのエントリー・ポイント (DFSQC020、DFSQC021、DFSQC022) が含まれており、そのうちの 2 つ (DFSQC020、DFSQC021) が理由コードを発行します。DFSQC020 は、キュー・バッファのレコード (DRRN) を解放します。DFSQC021 は、メッセージのチェーンを解放し、必要な「フリー」ログ・レコードを作成して、緊急時再始動ができるようにします。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 3 0	Reg15=X'30' Reg10=A(メッセージの先頭) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	FREE M10	返されたレコードは、解放すべきメッセージの先頭レコードではありませんでした。
0 3 1	Reg15=X'31' Reg4=A(解放されたレコードの DRRN) Reg10=A(返されたメッセージ) MSGMDRRN=QSA PFRFR	FREE M30	メッセージの 2 番目から最後まで DRRN を解放しようとしたが、返されたメッセージ (MSGMDRRN) のメッセージ DRRN が先頭レコード (QSAPFRFR) の DRRN に等しくありませんでした。
0 3 1	Reg15=X'31' Reg4= 解放されたレコードの DRRN Reg10=A(返されたメッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン	FREE M33	メッセージの 2 番目から最後まで DRRN を解放しようとしたとき、返されたメッセージがそのメッセージの先頭レコードでした。
0 3 2	Reg15=X'32' QSAPFRML=QSAP FRFR または 0 QSAPFRML0=0	FREE M60	各メッセージの解放後に、メッセージ・チェーンに対する終了が無効なことが判明しました。
0 4 C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFSBC B 戻りコード	QSMF RE25	MSGP タイプのメッセージ・ブロックを取得しようとしたが、失敗しました。

DFSQC030 の場合:

DFSQC030 モジュールには 4 つのエントリー・ポイント (DFSQC030、DFSQC031、DFSQC032、DFSQC033) が含まれており、そのすべてが理由コードを発行します。DFSQC030 は、キュー・マネージャー汎用ラッチを取得します。このラッチが取得できない場合、ラッチ・マネージャーは異常終了します。DFSQC031 は、キュー・マネージャー・ラッチを解放します。

DFSQC032 は、QBFM スチール汎用ラッチを取得します。DFSQC033 は、QBFM スチール汎用ラッチを解放します。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 4 D	Reg15=X'4D' QSAPAB15=DFSC LM 戻りコード	QC310 070 QC310 080 QC310 090 QC330 005 QC330 010 QC33R CT	キュー・マネージャー・ラッチを解放する試みが失敗し、QSAPAB15 にラッチ・マネージャー戻りコードが入っています。
0 5 2	Reg15=X'52' Reg4=A(ラッチ・ヘッダー)	QC300 005 QC310 005	無効なラッチ・ヘッダー・アドレスが検出されました。
0 5 3	Reg15=X'53' Reg8= ラッチ・モード	QC300 020 QC320 005	無効なラッチ・モードが要求されました。有効なモードは SHR または EXCL です。

DFSQC040 の場合:

DFSQC040 は、挿入されるメッセージ・セグメントの前の処理を完了します。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 3 F	Reg15=X'3F' Reg10=A(メッセージ)	ENDIT2 0	前の呼び出し元が、宛先 DCB の LRECL のサイズを超過しました。

DFSQC050 の場合:

DFSQC050 は、完了したメッセージを、非共用キュー環境内のキュー・バッファまたは共用キューに移動してログに記録します。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 4 C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=D FSBCB 戻りコード	QCSH0 900 QCSH6 010	UOWE タイプのブロックを取得しようとしたが、失敗しました。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
			QLD0L OG	QMBA タイプのブロックを取得しようとしたが、失敗しました。

DFSQC060 の場合:

DFSQC060 モジュールには 2 つのエントリー・ポイント (DFSQC060、DFSQC061) があり、そのそれぞれが理由コードを発行します。DFSQC060 は、宛先アドレスでキュー・マネージャーの直列化を提供します。DFSQC061 は、DFSQC060 により提供された直列化を解除します。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	1	Reg15=X'16'	QXCD	解放する QCB がありませんでした。
1	6	Reg1=0	EQ20	
0	4	Reg15=X'4D'	QXCE	キュー・マネージャーによって取得された DC システム・ラッチを解放しようとしたが、失敗しました。
4	D	QSAPAB15=DFS	NQ3	
D		CLM 戻りコード	QXCD EQ	

DFSQC070 の場合:

DFSQC070 モジュールには 2 つのエントリー・ポイント (DFSQC070、DFSQC071) が含まれており、そのうちの 1 つ (DFSQC071) が理由コードを発行します。DFSQC071 キュー・マネージャーは、QPOOL no-purge カウント・プロセッサの値を減少させます。このキュー・マネージャーは、X'4001' レコードのチェックポイント・ロギングの前に完了しなければならない、進行中の操作の QPOOL カウントを減少させます。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	0	Reg15=X'03'	QC71	ページが待たなければならないアクティビティのカウンタが負になりました。
0	3	Reg0<0	0900	
3		Reg0=QPNOP RG-1 Reg1=QPNOP RG Reg3=A(QPOOL)		

DFSQC080 の場合:

DFSQC080 は、キュー・マネージャーの SMB クリーンアップ・プロセッサです。これは、SMB の中断キューから通常キューにメッセージを移動します。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	4	Reg15=X'4D'	CLNQ	キュー・マネージャーによって取得された DC システム・ラッチを解放しようとしたが、失敗しました。
4	D	QSAPAB15=DFS	0220	
D		CLM 戻りコード		

DFSQBFMO の場合:

DFSQBFMO は、キュー・マネージャー・バッファープールのメッセージ・キュー・レコードにアクセスします。DECTYPE では、以下の要求のタイプを記述します。

X'00'

DRRN による検出

X'04'

解放 (変更なし)

X'08'

検出および変更

X'0C'

ページ (すべての変更済みブロックの書き込み)

X'10'

DRRN へのアドレスの変換

X'14'

バッファの意図カウントの減少

S	C	キー・データ	ラベル	説明
1	0	Reg15=X'101'	QBMLCT	DRRN の「D」部分 (DECBRBN のバイト 0) が、X'00'、X'04'、X'08'、またはストレージ内にある X'88' に等しくありません。
0	1	Reg9=A(DECBA)	QBMLCT	
1		DECBRBN= 要求タイプ・コード	A QBMRD SU QBMSNI D2	
1	0	Reg15=X'101'	QBMLCT	
0	1	Reg1=0	B	「D」を DRRN から除去したあとで、残りの「RRN」部分がゼロであることが判明しました。
1		Reg1=DECBRBN & X'00FFFFFF' Reg9=A(DECBA)	QBMSNI D3	
1	0	Reg15=X'102'	QBMTTY	無効なタイプ要求コードが検出されました。有効なタイプ要求コードのリストは、DFSQBFMO の分析セクションに示されています。
0	2	Reg3=(DECBTYP E-1) & X'0000001F' Reg3>X'14' Reg9=A(DECBA)	P	
2				

S	C	キー・データ	ラベル	説明
1	0	Reg15=X'104'	QBINA1	意図カウントを減らそうとしていたときに、負の値が検出されました。
0	4	Reg3=(QBSTAT1 & X'0000FF00')/256-1	04	
		Reg3<0		
		Reg4=A(QBFFR)		
		Reg14=QBSTAT1		
1	0	Reg15=X'105'	QBINT0	入力 DRRN が、指定されたバッファ範囲に含まれていませんでした。
0	5	Reg2=DECBRBN	50	
5		Reg4=A(QBFFR)=	QBINT0	
		A(入力バッファ)	70	
		NOT(QBIDL≤DECBRBN≤QBIDH)		

DFSQDQ00 の場合:

DFSQDQ00 は、キュー・マネージャーの DEQUEUE/SAVE/DELETE コマンド・プロセッサです。レジスタ 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'04'

デキュー要求

X'05'

保管要求

X'07'

削除要求

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	0	Reg15=X'00'	DEQFRST	無効な関数が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。
0	0	Reg8=A(QTPPC B)	DEQCON	
0	0	QTPRRN=0 または DRRN	T	
0	0	Reg15=X'07'	DEQ40	壊れたキューが見つかりました。キューの先頭メッセージの後にメッセージがありませんでした。
0	7	QSAPDQOP ビット:		
		QLDQOFNM がオフ		

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	0	Reg15=X'07'	DEQ44	壊れたキューが見つかりました。キューの先頭でも最後でもないメッセージの後に、別のメッセージが続いていません。
0	7	QSAPDQOP ビット:		
		QLDQOFNM がオフ		
0	0	Reg15=X'07'	DEQ46	壊れたキューが見つかりました。キューの最後のメッセージの後にある後続メッセージが検出されました。
0	7	QSAPDQOP ビット:		
		QLDQOFNM がオン		
0	0	Reg15=X'08'	DEQ86	中断キューが壊れていることが判明しました。除去するメッセージを検索しているときに、チェーン内の次のメッセージが見つかりませんでした。
0	8			
0	0	Reg15=X'08'	DEQ12G	チェーン内の次のメッセージを見つけようとしているときに、キューが壊れていることが判明しました。レジスタ 10 が指しているメッセージは、メッセージの先頭レコードではありません。
0	8	Reg10=A(メッセージ)	DEQ183	
		MSGFLAGS ビット:	DEQ50	
		MSGFFRST がオフ	DEQ86A	
			DQMSC280	
0	0	Reg15=X'08'	DEQ50A	チェーン内の次のメッセージを見つけようとしているときに、キューが壊れていることが判明しました。ログ・レコード宛先名とキュー・マネージャー宛先名が一致しません。
0	8	Reg7=A(QDEST)	DEQ86B	
		Reg10=A(メッセージ)		
		MSGODSTN=Q		
		DNAME		
0	0	Reg15=X'0E'	DELETE	DELETE の呼び出し元が通信ではありませんでした。
0	E	Reg8=A(QTPPC B)		
		QTPFLG1 ビット:		
		DCALR がオフでない		
0	3	Reg15=X'36'	DEL20	削除に渡されたメッセージの DRRN が無効でした。
3	6	QSAPAB15=		
6		メッセージ DRRN		

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 3 7	Reg15=X'37' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	DELETE2 0	これは、削除すべきメッセージの先頭レコードではありません。
0 3 8	Reg15=X'38' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFQNR がオンでない	DELETE3 0	QNR が正しくセットアップされていませんでした。メッセージを削除する場合、すべてゼロである必要があります。
0 3 9	Reg15=X'39' Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPC B) QTPDST=A(宛先) QTPQNR<1 または QTPQNR>5 QDFLG2 ビット: QDF2SMB がオンでない	DELETE5 2 DELETE5 4	宛先が SMB でなく、QNR が 1 から 5 (両端を含む) の範囲内にありませんでした。
0 3 A	Reg15=X'3A' Reg7=A(QDEST) QDFLG1 ビット: QDF1ERRL がオン	DELETE6 0	読み取り入出力エラーが原因でキューがロックされました。
0 3 B	Reg15=X'3B' Reg7=A(宛先) Reg8=A(QTPPC B) QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオン	DEQ12	宛先 CNT が DL/I 呼び出し元のシステム CNT ではありませんでした。
0 3 B	Reg15=X'3B' Reg7=A(宛先) Reg8=A(QTPPC B) QSAPSV4=次のものに	DEQ12E	DL/I 呼び出し元に関する SMB 宛先をテストしていましたが、DFSQGU00 で設定された DRRN が処理中の DRRN と同じ

S C	キー・データ	ラベル	説明
	よって設定される DRRN DFSQGU00 QSAPSV4=QT PRRN QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオンでない、 かつ QDF2MDEL がオン		ではありませんでした。
0 3 B	Reg15=X'3B' Reg7=A(宛先) Reg8=A(QTPPC B) Reg9=A(PST) PSTQIMSG=解放する DRRN PSTQIMSG=QT TPRRN QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオンでない、 かつ QDF2MDEL がオフ	DEQ12F	DL/I 呼び出し元に関する SMB 宛先をテスト中でしたが、解放される DRRN が処理中の DRRN と同じではありませんでした。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 3 B	Reg15=X'3B' Reg7=A(宛先) Reg8=A(QTPPC B) Reg10=A(メッ セージ) QTPFLG1 ビッ ト: DCDLI がオン QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオ ンでない MSGDFLG3 ビッ ト: MSGF3ZLN が オフ MSGFLAGS ビッ ト: MSGFNRQU が オフ	DEQ12H	SMB 宛先に対するメ ッセージが APPC の 長さゼロのメッセ ージではありませんで した。
0 3 C	Reg15=X'3C' Reg8=A(QTPPC B) QTPFRRN=QT PRRN	DEQQFIV E	除去すべきメッセ ージが、バックアップ キューからの DEQ、 SAVE、または DELETE に関する単 一メッセージではあ りませんでした。
0 3 D	Reg15=X'3D'	DEQ150	DELETE 呼び出しの 実行時に、削除すべ きメッセージが見つ かりませんでした。 そのメッセージは間 違ったキューに入っ ているか、またはキ ューにまったく存在 していない可能性が あります。 DEQOFFQ に対する 参照をすべて確認し てください。
0 4 5	Reg15=X'45' Reg7=A(QDEST) Reg10=A(メッ セージ) QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオ ン	DEQ13B DQMISC1 00	DEQUEUE 呼び出し の実行時に、接頭部 フラグには存在が示 されていましたが、 RACF セグメント項 目が接頭部に含まれ ていませんでした。
0 4 5	Reg15=X'45' Reg7=A(QDest)	DQMISC4 60	DEQUEUE 呼び出し の実行時に、接頭部 フラグには存在が示 されていましたが、

S C	キー・データ	ラベル	説明
	Reg10=A(メッ セージ)		システム・セグメン ト項目が接頭部に含 まれていませんでし た。
0 5 0	Reg15=X'50' QSAPAB15=DF SBCB 戻りコー ド	DEQRET RN	キュー・マネージャ ーのメッセージ・バ ッファ作業域 (QMBA) を解放しよ うとしましたが、失 敗しました。
0 5 4	Reg15=X'54' Reg4= バッファ 一意図の数	RETURN	バッファ一意図が解 放されませんでした。
0 5 7	Reg15=X'57' Reg8=A(QTPPC B) QTPDST=A(宛 先)	DELETE5 0	宛先アドレスがフル ワード境界に位置合 わせされていません でした。
0 6 0	Reg15=X'060' Reg2=A(CCB) Reg5=A(QSAP) Reg10=A(メッ セージ)	DEQ19A	UTC タイム・スタン プを含む予期された システム拡張セグメ ントが見つかりませ んでした。
0 6 7	Reg15=X'67' Reg7=A(QDest) Reg10=A(メッ セージ)	DQMISC1 60 DQMISC1 80 DQMISC2 00	宛先タイプまたは名 前が、メッセージ内 の宛先タイプまたは 名前に一致しませ んでした。

DFSQE00 の場合:

DFSQE00 は、キュー・マネージャの ENQUEUE/
REENQUEUE コマンド・プロセッサです。レジスター
5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドに
は、以下の機能コードが入っています。

X'0C'

FIFO でエンキュー

X'0D'

LIFO でエンキュー

X'0E'

FIFO で再エンキュー

X'0F'

LIFO で再エンキュー

X'2F'

SMB 中断キューから SMB 通常キューに LIFO で再
エンキュー

X'1C'

FIFO-TDEST で条件付きエンキュー

X'1D'

LIFO-TDEST で条件付きエンキュー

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	0	Reg15=X'00'	QEQFIR	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図1の後の表を参照してください。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。
0	0	Reg8=A(QTPPCB	ST	
0	0)	QEQCO	
		QTPRRN=0 または DRRN	NT	
0	0	Reg15=X'04'	ENQ010	ENQUEUE 呼び出しに関して、PCB が正しくないことが判明しました。メッセージの DRRN が、メッセージの先頭バッファの DRRN に等しくありませんでした。
0	4	Reg8=A(QTPPCB	0	
)		
		Reg10=A(メッセ		
		ージ)		
		MSGMDRRN-=Q		
		TPFRRN		
0	0	Reg15=X'05'	CKDS00	宛先がフルワード境界になかったか、または読み取り入出力が原因で宛先がロックされていました。
0	5	Reg8=A(QTPPCB	10	
)	CKDS00	
			20	
0	0	Reg15=X'08'	SQENQ	DFSQBFM0 から返されたメッセージ (QTPFRRN で取得した DRRN) が、正しいメッセージではありませんでした。
0	8	Reg6=A(検出さ	100	
		れたエラー)	SQENQ	
		Reg7=A(QDEST)	150	
		Reg8=A(QTPPCB	SQENQ	
)	200	
		Reg9=A(DEC)		
		Reg10=A(メッセ		
		ージ)		
		Reg11=A(QSCD)		
0	1	Reg15=X'11'	CKDS00	宛先が SMB または CNT ではありませんでした。
1	1	Reg7=A(QDEST)	40	
1	1	QDFLG2 ビット:		
		QDF2SMB がオンでない、かつ		
		QDF2CNT がオンでない		

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	1	Reg15=X'12'	CKDS00	ENQUEUE 呼び出し中に無効な QNR が指定されました。
1	2	Reg8=A(QTPPCB	60	
2	2)	CKDS01	
		QTPQNR<1 または	00	
		QTPQNR>5		
0	1	Reg15=X'13'	CHNT05	FIFO ENQUEUE 要求の実行時に、壊れたキューが見つかりました。前のメッセージ宛先が入力宛先に等しくなかったか、または前のメッセージの DRRN が無効でした。
1	3	Reg7=A(QDEST)	00	
3	3	QSAPABR1=A(前の	CHNT05	
		メッセージ)	30	
		MSGODSTN-=Q		
		DNAME		
		または		
		MSGMDRRNQSA		
		-=PNQPM		
0	1	Reg15=X'14'	ENQ044	通常のエンキューに、無効な QNR が見つかりました。QNR は、メッセージ内ではゼロである必要があります。
1	4	Reg10=A(メッセ	8	
4	4	ージ)		
		MSGFLAGS ビッ		
		ト:		
		MSGFQNR がオ		
		フでない		
0	1	Reg15=X'14'	RENQ0	通常の再エンキューに、無効な QNR が見つかりました。QNR は 1 である必要があります。
1	4	Reg10=A(メッセ	448	
4	4	ージ)		
		MSGFLAGS ビッ		
		ト:		
		MSGFQNR がオ		
		ンでない		
0	1	Reg15=X'15'	CKDS01	REENQUEUE を要求する呼び出し元は、単純通信呼び出しであることが必要です。
1	5	Reg8=A(QTPPCB	10	
5	5)		
		QTPFLG1-=QMR		
		NQFCM		
0	2	Reg15=X'2B'	GFTD02	デキュー・チェーンとエンキュー・チェーンの両方がゼロである必要があるのに、いずれか一方がゼロではありませんでした。
2	B	QSAPABR0=A(D	60	
B	B	EQ チェーン)	GFTD04	
		QSAPABR1=A(E	00	
		NQ チェーン)	GFPD04	
			00	
			GFPD04	
			05	

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	2	Reg15=X'2B' QSAPABRO=A(E NQ チェーン) QSAPABR1=A(D EQ チェーン)	GFTD04 10 GFTD04 15 GFPD04 10 GFPD04 15	デキュー・チェーン とエンキュー・チェ ーンが両方ともゼロ 以外である必要があ るのに、いずれか一 方がゼロでした。
0	2	Reg15=X'2C' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセ ージ) MSGMDRRN=Q TPFRRN	ENQ044 4 RENQ0 444	エンキューまたは再 エンキューの対象と してアクセスされた メッセージが、それ 自体を指していませ んでした。
0	2	Reg15=X'2C' Reg10=A(メッセ ージ) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST がオ フ	ENQ044 6 RENQ0 446	エンキューまたは再 エンキューの対象と してアクセスされた メッセージが、メッ セージの先頭レコー ドではありませんで した。
0	3	Reg15=X'33' Reg7=A(QDEST) QDFLG1 ビット: QDF1BKR がオ ン	RENQ0 150	バックアップ・キュー 呼び出しに対する REENQUEUE の実行 時に、QDFLG1 では 存在が示されていま しましたが、メッセ ージが存在していま せんでした。
0	3	Reg15=X'33' Reg7=A(QDEST) QDFLG1 ビッ ト:5=0 QDF1BKR がオ フ	RENQ0 160	バックアップ・キュー 呼び出しに対する REENQUEUE の実行 時に、QDFLG1 では 存在しないことが示 されていましたが、 メッセージが存在し ていました。
0	3	Reg15=X'34' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: QLNQCREQ が オン、または DCDLI がオフ	GFTD00 90 GFTD01 00	REENQUEUE 呼び出 しがバックアップ・ キュー以外のキュー に対して実行された か、または DL/I が ENQUEUE 要求の呼 び出し元ではありま せんでした。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	3	Reg15=X'35' Reg7=A(QDEST)	GFPD03 20	CNT チェーンに壊れ たキューが見つかり ました。QBLK が割 り当てられていない 場合は、メッセージ が存在するキューが あってはなりません。 レジスタ 10 が指 しているメッセージ に、必要なトランザ クション管理ルー ター・セグメント項目 X'8C' が入っていま せん。
0	4	Reg15=X'41' Reg6=A(検出さ れたエラー) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DEC B) Reg10=A(メッセ ージ) Reg11=A(QSCD)	SQENQ 450	レジスタ 10 が指 しているメッセージ に、必要なトランザ クション管理ルー ター・セグメント項目 X'8C' が入っていま せん。
0	4	Reg15=X'46' Reg10=A(メッセ ージ) MSGCFLG2 ビッ ト: MSGC2MSC が オフ	CONV4 600	ENQUEUE 呼び出し の実行時に、MSC セ グメント項目が接頭 部に含まれていま せんでした。
0	4	Reg15=X'46' Reg10=A(メッセ ージ) MSGCFLG2 ビッ ト: MSGC2MSC が オン	CONV4 6ER	ENQUEUE 呼び出し の実行時に、接頭部 フラグには存在が示 されていましたが、 MSC セグメント項目 が接頭部に含まれて いませんでした。
0	4	Reg15=X'4C' Reg5=A(QSAPW KAD) Reg6=A(検出さ れたエラー) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(DEC B) Reg11=A(QSCD)	SQENQ 300	UOWE ブロックに対 する DFSBCB 要求が 失敗しました。戻り コードは QSAPAB15 に入っています。戻 りコードについて は、FSBCB マクロの BCBRC を参照してく ださい。
0	5	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFS BCB 戻り コード	RETORD 10	キュー・マネージャ ーのメッセージ・バ ッファ作業域 (QMBA) を解放しよ うとしましたが、失 敗しました。

S	キー・データ	ラベル	説明
0 5 5	Reg15=X'55' Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: QLNQCTMP が オン	REENQ	REENQUEUE 関数の 実行時の一時的宛先 が無効です。
0 5 6	Reg15=X'56' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0 QTPFLG1 ビット: DCDLI がオフ	RENQ0 050	現行呼び出しがアク ティブであれば、通 信 REENQUEUE 呼び 出しは無効です。
0 6 0	Reg15=X'060' Reg5=A(ログ・レ コード) Reg10=A(メッセ ージ)	ENQ049 0	UTC タイム・スタン プを含む予期された システム拡張セグメ ントが見つかりませ んでした。
0 6 0	Reg15=X'060' Reg8=A(QTPPCB) Reg9=A(CLB) Reg10=A(メッセ ージ)	RENQ0 513	UTC タイム・スタン プを含む予期された システム拡張セグメ ントが見つかりませ んでした。
0 6 0	Reg15=X'060' Reg3=A(CCB) Reg5=A(QSAP) Reg10=A(メッセ ージ)	CONV4 625 CONV4 820	UTC タイム・スタン プを含む予期された システム拡張セグメ ントが見つかりませ んでした。

DFSQFIX0 の場合:

DFSQFIX0 は、キュー・データ・セットおよびチェーン
が必ず有効になるようにします。これは、キューを検査
して、無効なレコードをすべて除去または訂正します。
レジスター 14 は、QSAPWKAD 領域を指しています。
ほとんどの場合、IMS の再始動時に DFSQFIX0 で 0757
異常終了が発生すると、リカバリーには **/ERE**
COLDCOMM または IMS のコールド・スタートが必要で
す。

SC	キー・データ	ラベル	説明
80 1	Reg15=X'801' Reg10=A(メッセ ージ) QSAPAB15=CHK RCD 戻りコード	MCHN CK4	メッセージのレコー ドを検査している ときに、リカバリー不 能メッセージが検出 されました。

SC	キー・データ	ラベル	説明
80 2	Reg15=X'802' Reg10=A(メッセ ージ) MSGCFLG2 ビッ ト: MSGC2APP がオ ン	NOAPP C	メッセージ・レコー ドを検査している ときに、フラグには存 在が示されていまし たが、APPC システ ム・セグメントが検 出されませんでした。 た。
80 3	Reg15=X'803' QSAPAB15=SCDL SCD 値	LOGDS T10	X'3C' ログ・レコー ドを記録しようとしま したが、ブロックが SMB、CNT、LNB、 QAB、または TIB ブ ロックではありません でした。
80 4	Reg15=X'804' QSAPAB15=DFSL UMIF 戻りコード	LOGDS T26	APPC TIB ブロック の X'3C' ログ・レコ ードを記録しようと しましたが、LUP ト ークンを取得できま せませんでした。
80 5	Reg15=X'805' Reg10=A(メッセ ージ) QSAPAB15=DFSL UMIF 戻りコード	CHKRC D1E	APPC メッセージ・ レコードの検査時 に、宛先が一致しま せませんでした。
80 6	Reg15=X'806' QSAPAB15=DFSL UMIF 戻りコード	LOGDS T46	APPC QAB ブロック の X'3C' ログ・レコ ードを記録しようと しましたが、LU、 SIDE、および TP 名 を取得できませんで した。
80 7	Reg15=X'807' Reg2=A(CCB) Reg10=A(メッセ ージ)	MCHN CK1C	UTC タイム・スタン プを含む予期された システム拡張セグメ ントが見つかりませ んでした。
80 7	Reg15=X'807' Reg7=A(CCB) Reg10=A(メッセ ージ)	CKCCB 3	UTC タイム・スタン プを含む予期された システム拡張セグメ ントが見つかりませ んでした。

DFSQGU00 の場合:

DFSQGU00 は、キュー・マネージャーの GET コマン
ド・プロセッサです。これは、UNIQUE および NEXT
という 2 つのタイプの GET コマンドを処理します。レ
ジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィ
ールドには、以下の機能コードが入っています。

X'02'

get unique

X'03'

get next

S	C	キー・データ	ラベル	説明
000		Reg15=X'00' Reg8=A(QTPPC B) QTPRRN=0 または DRRN	QGUFIRST QGUCONT_10 QMGGNTDLIGU	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。継続呼び出しの場合、QTPQMBA はゼロであってはなりません。
004		Reg15=X'04' Reg10=A(メッセージ) MSGMDRRN=QTPFRRN	BYP62ENQ	ENQUEUE 呼び出しに関して、PCB が正しくないことが判明しました。メッセージの DRRN が、メッセージの先頭バッファの DRRN に等しくありませんでした。
009		Reg15=X'09' Reg8=A(QTPPC B) QTPFLG3 ビット: QTPQCOMP がオン QTPFLG1 ビット: DCDLI がオフ	QGUABO9	GU 継続呼び出しの実行時に、呼び出し元が DL/I または RESTART ではありませんでした。
00F		Reg10=A(メッセージ) Reg8=A(QTPPC B)	BSHR1270 BSHR1290 BSHR1280	メッセージ・チェーンが壊れています。
018		Reg15=X'18'	QMGGN10	GN 呼び出しの実行時に、入力レコードのセグメント長が無効でした。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
018		Reg15=X'18' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFLAST がオン	GUGNSE G1	GN 呼び出しの実行時に、入力レコードのセグメント長が無効でした。
019		Reg15=X'19' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン	GUGN100 MGN0070	GN 呼び出し中に次のレコードを取得しようとしたが、返されたレコードが先頭レコードでした。
01D		Reg15=X'1D'	GU11 GU20 GU61 BY60520	宛先アドレスがフルワード境界に位置合わせされていませんでした。
01E		Reg15=X'1E' Reg7=A(QDEST) SMBFLAG2 ビット: SMB2RMT がオフ	GU12	Communications がローカル SMB に対して GU を発行しました。
01F		Reg15=X'1F' Reg7=A(QDEST)	GU14A	GU 呼び出しに関して、無効な QNR 番号が提供されました。
021		Reg15=X'21' Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPC B) QTPFLG1 ビット: DCDLI がオン QTPFLG2 ビット: QDF2SMB がオンでない	GU61A	GU 呼び出しの実行時に、宛先が SMB のアドレスではありませんでした。
021		Reg15=X'21' Reg7=A(QDEST) SMBFLAG2 ビット: SMB2RMT がオン	GU61B	GU 呼び出しの実行時に、宛先 SMB がリモートでした。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 2 2	Reg15=X'22' Reg4=A(バッファ ァー接頭部) Reg8=A(QTPPC B) Reg10=A(メッセ ージ) QTPFLG1 ビッ ト: DCDLI がオフ MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST が オフ	GU21	壊れたキューが見つ かりました。GU 呼 び出しの実行時に、 次のメッセージがチ ェーンの先頭レコー ドで始まっていませ んでした。
0 2 3	Reg15=X'23' Reg10=A(メッセ ージ) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST が オフ	GU65	DL/I、RESTART、ま たは GU 呼び出しの 実行時に、壊れたキ ューが見つかりまし た。GU 呼び出しを ログに記録するため にメッセージへのア クセスが行われたと き、コピー対象の先 頭レコードがメッセ ージの先頭レコード ではありませんでした。
0 2 4	Reg15=X'24' Reg10=A(メッセ ージ)	GUCSWE ND GU10_1 D GU10_3 D GU67	メッセージのチェー ン・ポインタが壊 れていたか、または 正しく終了していま せんでした。
0 2 5	Reg15=X'25' Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPC B) Reg10=A(メッセ ージ) MSGODSTN=Q DNAME QTPOFST ビッ ト: QLGUFOPD が オン	GU81 RELOC_4 0 RELOCAB D	宛先が誤ったキュー に入っていました。
0 2 5	Reg15=X'25' Reg7=A(QDest) Reg8=A(QTPPC	MGUCM4 60	宛先名が、メッセー ジにある名前と一致 しません。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 2 6	B) Reg10=A(メッセ ージ) MSGODSTN=Q DNAME Reg15=X'26' Reg10=A(メッセ ージ) Reg8=A(QTPPC B)	GU82 GU83 MGUCM5 00 MBUCM5 20	PCB とメッセージ QNR が等しくあり ませんでした。
0 2 D	Reg15=X'2D' Reg10=A(メッセ ージ) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST が オフ	GU18 GU23 SHR002 0 SHRA10 0 SHRA12 0 SHRLKCL N MGUSQ2 00	GU 呼び出しの実行 時に、返されたメッ セージが先頭レコー ドではありませんで した。
0 3 D	Reg7=A(QDEST)	SHR412 0 SHR000 7	LOCAL=yes オプシ ョンが指定された GU 呼び出しの実行 時に、QBLK が割り 当てられませんでし た。
0 4 0	Reg15=X'40'	QMGGNT 05 MGN003 0	前の GU 呼び出しで メッセージの検出に 失敗した後で、GN 呼 び出しが発行されま した。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 4 1	Reg15=X'41' Reg10=A(メッセ ージ)	GU30A1 GU32A GU32C GU64_A 1 GU72_0 05 GU72G GU72I GU79_A GU79A GU80AB 42 DELO185 DELO200 MGUCM1 00 MGUCM1 60 MGUCM4 20	GU 呼び出しの実行 時に、APPC セグメン ト、TMR セグメン ト、会話接頭部セグ メント、拡張接頭部 セグメント、WLM 接 頭部セグメント、ま たはセキュリティ ー・セグメントのう ちのいずれかのセグ メント項目が、メッ セージ接頭語から欠 落していました。
0 4 3	Reg15=X'43' Reg10=A(メッセ ージ)	GU66AB 43 GU68AB 43 BYP6031 0 GU75AB 43 GU75AE 43 SHRLK05 5	DL/I GU 呼び出しの 実行時に、TMR セグ メント項目が接頭部 に含まれていません でした。
0 4 4	Reg15=X'44' Reg10=A(メッセ ージ)	GU80AB 44 MGUCM3 00	GU 呼び出しの実行 時に、接頭部フラグ には存在が示されて いましたが、RACF セ グメント項目が接頭 部に含まれていませ んでした。
0 4 8	Reg15=X'48' Reg10=A(メッセ ージ)	GU80AB 48 MGUCM3 80	GU 呼び出しの実行 時に、接頭部フラグ には存在が示されて いましたが、ISC セ グメント項目が接頭 部に含まれていませ んでした。
0 4 9	Reg15=X'49' Reg8=A(QTPPC B)	QMGGUF	シリーズの最初の GU 呼び出しの実行 時には、メッセージ が完了してログに記

S C	キー・データ	ラベル	説明
	QTPFLG3 ビッ ト: QTPQCOMP が オン		録されている必要が あります。その後で なければ、GU 呼び出 しは処理できませ ん。
0 4 C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFS BCB 戻り コード	DFSQGU 09 QGU09_ 300 PREFUP DT SHR005 0 SHR011 0 REC_BUF REC_BUF 200 QLD0LO G CQS_DEL DELO170 SHRLK04 5	QMBA、UOWE、また は QLST を取得しよ うとしましたが、失 敗しました。
0 4 E	Reg15=X'4E' QSAPIFL1 ビッ ト: QSAP1PRM が オフ	GU30B GU64A GU74B GUGNEX IT MGUCM6 60	パラメーター・リス ト・インターフェー スが、キュー・マネ ージャーとの通信に 使用されませんでした。
0 4 F	Reg15=X'4F'	GU16	宛先を指定しない GU 呼び出しが発行 され、QSAPAREA フ ィールドに提供され た DRRN が無効でし た。
0 5 0		QGU09_ 200 QGU09_ 400	GU 呼び出しの間に、 キュー・マネージャ ーのメッセージ・バ ッファ作業域 (QMBA) を解放しよ うとしましたが、失 敗しました。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 5 8	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFS BCB 戻り コード	QGUCON T1 QMGGUT DLIGU01 0 BYP6050 0	GU 呼び出しの実行時に、宛先アドレスがゼロでした。
0 6 0	Reg15=X'58' Reg8=A(QTPPC B) QTPDST=0	GU790C A	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
0 6 1	Reg15=X'061' Reg6=A(ABEND) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPC B) Reg9=A(DECBC) Reg10=A(メッセ ージ) Reg11=A(QSCD)	SHR115 0 SHR125 0 BSHR12 35 BSHR12 50	CQS のメッセージ・レコードが、ラージ・メッセージ・キュー・バッファのサイズよりも大です。
0 6 3	Reg15=X'063' Reg6=A(ABEND) Reg7=A(QDEST) Reg8=A(QTPPC B) Reg9=A(DECBC) Reg11=A(QSCD)	QGUCON T4 BYPRTN BYP000 CONTRT N BYP6032 0 GU10_1 A GU61F SHRQRT N_DC GU60 GUISRTN BYPQRT N MGUSQ1 00	呼び出されたルーチンから返された戻りコード値が無効です。

DFSQIS00 の場合:

DFSQIS00 は、キュー・マネージャーの INSERT コマンド・プロセッサです。これは、LOCATE、PREFIX、MOVE、MOVE(スパン可能) の 4 つのタイプの INSERT コマンドを処理します。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'0A'

Insert Locate

X'0B'

Insert Move

X'15'

エラー出口 - メッセージ転送

X'1A'

Insert Prefix (接頭部内のフィールドを更新)

X'1B'

Insert Move (スパン可能呼び出し)

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 0 0	Reg15=X'00' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0 または DRRN	QIS10 00 QISCO NT	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。QTPRRN がゼロの場合、呼び出しは一連の呼び出しの最初のもので、ゼロ以外の場合、呼び出しは一連の呼び出しの継続部分です。
0 0 6	Reg15=X'06' Reg1=a (メッセ ージ・テキスト) MSGXFLG1 ビッ ト: MSGX1FST がオ フ	ISMF1 0J	メッセージ・テキストの先頭セグメントではありません。
0 0 6	Reg15=X'06' Reg3=必要なレ コード・サイ ズ Reg4=拡張接頭部 の長さ	ISIEP HAL	メッセージ接頭語が長すぎてメッセ ージ・レコードに収ま りません。
0 0 6	Reg15=X'06' Reg3= 残りのメッ セージ・ テキストの長さ Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG1 ビット: FSPC がオン	ISMF6 0	直前の呼び出し元が宛先 DCB の LRECL を超過してしま した。
0 0 6	Reg15=X'06' Reg3= 残りのメッ セージ・ テキストの長さ Reg10=A(メッセ ージ)	ISMFC3 0	INSERT-MOVE 呼び出しの実行時に、直前の呼び出し元が宛先 DCB の LRECL を超過してしま した。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 0 A	Reg15=X'0A' Reg11=A(SCD) SCDSSSTYP ビット: SCDSSDBC がオン	PREFO 20	INSERT-PREFIX 呼び出しの実行時に、DBCTL システムから UPDATE FORMAT-NAME が要求されました。MFS がないので、DBCTL システムではこの要求は無効です。
0 0 C	Reg15=X'0C' QSAPPFUN ビット: QMGOPIL がオンでない	ISMCO NTS	処理中の呼び出しは INSERT-MOVE SPANNABLE ですが、直前の呼び出しが INSERT-LOCATE ではありませんでした。
0 0 F	Reg15=X'0F' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPRRN= 新規 DRRN MSGFLAGS ビット: MSGFLAST がオン	ISICM P	無効な継続メッセージ・セグメントです。メッセージの最後の DRRN が検出されました。
0 0 F	Reg15=X'0F' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPRRN= 新規 DRRN MSGRDRRN=元の DRRN	ISICM P10	無効な継続メッセージ・セグメントです。レコードの DRRN が元の DRRN に等しくありません。
0 0 F	Reg15=X'0F' Reg8=A(QTPPCB) Reg10=A(メッセージ) QTPRRN= 新規 DRRN MSGRDRRN=最初のバッファの DRRN	ISICM P20	無効な継続メッセージ・セグメントです。メッセージの DRRN が、最初のバッファ (QTPFRRN) の DRRN に等しくありません。
0 1 0	Reg15=X'10' Reg8=A(QTPPCB) QTPRRN=0	QIS09 00	正しくない INSERT-PREFIX 要求が出されました。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 3 E	Reg15=X'3E' Reg11=A(SCD) SCDPRDEF ビット: SCDPDMUL がオフ	PREFO 21	INSERT-PREFIX 呼び出しの実行時に UPDATE MSC FLAGS が要求されましたが、MSC がシステムに含まれていませんでした。
0 4 6	Reg15=X'46'	PREFO 21C	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、UPDATE MSC FLAGS 要求の処理中ですが、MSC のシステム・セグメントが無効です。
0 4 6	Reg15=X'46'	PREFO 22A	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、UPDATE RESPONSE MODE INDICATOR 要求の処理中ですが、MSC のシステム・セグメントが無効です。
0 4 7	Reg15=X'47' Reg10=A(メッセージ) MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオフ	PREFO 29	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、REPLACE APPC MESSAGE PREFIX 要求の処理中ですが、APPC のシステム・セグメントが無効です (セグメント項目が存在しません)。
0 4 7	Reg15=X'47' Reg10=A(メッセージ) MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオン	PREFO 29B	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行していて、REPLACE APPC MESSAGE PREFIX 要求の処理中ですが、APPC のシステム・セグメントが無効です。

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 4 7	Reg15=X'47' QSAPABR2= 新規 APPC length	PREFO 29C	INSERT-PREFIX 呼び出しを実行している、REPLACE APPC MESSAGE PREFIX 要求の処理中ですが、APPC のシステム・セグメントが無効です(新規 APPC の長さがセグメント項目の長さに等しくありません)。同じではありません。
0 4 C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFSB CB 戻り コード	ISLF1 0 ISMF1 0	キュー・マネージャのメッセージ・バッファ作業域(QMBA)を取得しようとしたが、失敗しました。
0 6 0	Reg15=X'060' Reg5=A(QSAP) Reg10=A(メッセージ)	PREFO 28D	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。

DFSQLOGO の場合:

DFSQLOGO は、IMS 中核の一部として存在していて、論理的にはキュー・マネージャー・モジュールの拡張機能です。これは、以下の 2 つの機能を実行します。

1. メッセージが IMS メッセージ・キューに挿入されるにつれて、メッセージ接頭語を作成し、メッセージ・レコードをログに記録する(01 および 03 レコード)。
2. DFSQMGR0 での必要に応じて、他のログ・レコードを作成する。

入り口では R0 に以下のログ・コードが入っています。

X'00'

メッセージの先頭レコード

X'01'

メッセージの先頭以外のレコード

X'02'

DL/I 入力リジェクト

X'03'

QBLK 付き転送

X'04'

QBLK なしで転送(ロギングは実行されない)

X'05'

DL/I メッセージ GU

X'06'

非 DL/I メッセージ GU

X'07'

解放(後続のチェーンを受け入れ)

X'08'

解放(後続メッセージ・セグメントなし)

X'09'

入力解放(入力メッセージなし)(ロギングなし)

X'0A'

入力メッセージ解放

X'0B'

出力メッセージ解放(出力キュー解放)

X'0C'

メッセージのエンキューまたは再エンキュー

X'0D'

キューからの DEQ/SAVE/DELETE

X'0E'

キュー 5 からの DEQ/SAVE/DELETE

X'0F'

メッセージのキャンセル

X'10'

メッセージ接頭語情報

X'11'

ROLS からの RELB 時に TDEST から出力メッセージを解放

X'12'

ROLS からの RELB 時にメッセージ DRRN を更新

X'13'

ROLS からの RELB 時に QBLK を更新

X'14'

入力メッセージ解放の終わり(REL/ROLB または ROLS)

X'15'

REL/ROLS の終わり

S C	キー・データ	ラベル	説明
3 0 1	Reg15=X'301' Reg1= ログ・コー ド * 2	QLOG01 00	無効なログ・コードが検出されました。有効なコードのリストについては、DFSQLOGO 分析セクションを参照してください。
3 0 6	Reg15=X'306' Reg14=CTBCNTP T=A(ソース CNT) CNTFLG2 ビット: CNTF2CNT がオ ンでない	MSG23 5	入力端末 CTBCNTP の CNT オフセットが無効です。

S C	キー・データ	ラベル	説明
3 0 9	Reg15=X'309' Reg8=A(QTPPCB) QTPDST=0	MSG32 0 MSG52 0A1 MSG52 2	出力宛先オフセット が設定されていま せん。
3 0 A	Reg15=X'30A' Reg1=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2PRM がオ フ	MSG52 3	メッセージが永続宛 先用ではありません でした。
3 0 B	Reg15=X'30B' Reg1=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2CNT がオ ンでない	MSG52 0A	宛先の CNT オフセ ットが無効でした。
3 0 B	Reg15=X'30B' Reg1=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2SMB がオ ンでない	MSG52 5	宛先の SMB オフセ ットが無効でした。
3 0 C	Reg15=X'30C' Reg4=A(ログ・レ コード) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST がオ フ	MSG52 8	接頭部を作成しよう としたとき、ログに 記録するレコードが メッセージの先頭セ グメントではありま せんでした。
3 0 C	Reg15=X'30C' Reg3=A(メッセー ジ) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST がオ フ	DEQ90 XFER90	返されたレコード は、デキューするメ ッセージまたは転送 するメッセージの先 頭レコードではあり ませんでした。
3 0 D	Reg15=X'30D' Reg4=A(ログ・レ コード) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST がオ ン	LMSGB	接頭部を作成しよう としたとき、ログに 記録するレコードが メッセージの先頭セ グメントでした。

S C	キー・データ	ラベル	説明
3 0 E	Reg15=X'30E' Reg4=A(ログ・レ コード) MSGDRRN また は MSGMDRRN が X'04' または X'08' に等しくな い	MSG60 0 MSG61 2	レコード DRRN また はメッセージ DRRN が X'04' または X'08' に等しくあり ま せんでした。
3 0 F	Reg15=X'30F' Reg4=A(ログ・レ コード) Reg5=A(QSAPWK AD) QSAPAB15=ILOG 戻りコード	MSG62 16 QLOG93	論理ロガーは、リカ バリ不能メッセー ジのレコードの一部 (短い部分) またはレ コード全体をログに 記録できませんでし た。
3 1 0	Reg15=X'310' Reg7=A(QDEST) QDFLG2 ビット: QDF2SMB がオ ンでない、かつ QDF2CNT がオ ンでない	GU3	GU 呼び出しの実行 時に、宛先が CNT で も SMB でもありま せんでした。
3 1 0	Reg15=X'310' Reg4=A(QLGURC D) Reg11=A(SCD) QLGUFLLGS ビッ ト: QLGUFDLI がオ フ SCDPRDEF ビッ ト: SCDPDMUL がオ フ	GU5	通信 SMB 宛先を使 用する GU 呼び出し の実行時に、MSC が システムにありませ んでした。
3 1 1	Reg15=X'311' Reg4=A(ログ・レ コード) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFQNR がオ フでない	MSG61 4	メッセージ接頭語 (MSGFLAGS の下位 4 ビット) に、メッセ ージ・キュー番号 (QNR) が予定外に検 出されました。 DFSQLOGO は、 QTPQNR からのフィ ールドを設定する前 にこの検査を行いま す。このフィールド は本来はゼロでなけ ればなりません。

S C	キー・データ	ラベル	説明
3 1 2	Reg15=X'312' Reg5=A(QSAPWK AD) QSAPAB15=A(メ ッセージ)	MSG19 9 MSG15 A MSGI05	接頭部を作成しよう としたときに、MSC セグメント項目がメ ッセージ接頭語に含 まれていませんでした。
3 1 2	Reg15=X'312' Reg5=A(QSAPWK AD) QSAPAB15=A(メ ッセージ)	QLOG30 10	APPC 接頭部をロ グ・レコードに追加 しようとしたとき に、APPC セグメン ト項目がメッセージ 接頭語に含まれてい ませんでした。
3 1 3	Reg15=X'313' Reg5=A(QSAPWK AD) QSAPAB15=DFSP OOL 戻りコード	QLOG30 20	ログ・レコードを完 了するためのストレ ージを HIOP から取 得できませんでした。
3 1 4	Reg15=X'314' Reg3=A(メッセー ジ) MSGCFLG2 ビッ ト: MSGC2APP がオ フ	XFER91	メッセージを転送し ようとしたとき、ト ランザクションが APPC トランザクシ ョンではありません でした。
3 1 5	Reg15=X'315' Reg5=A(QSAPWK AD) QSAPXFRB=A(宛 先 QBLK)	XFERDQ LP	APPC トランザクシ ョンのメッセージを 転送しようとしてい るときに、QBLK の 5 つのキューのいずれ にもメッセージがあ りませんでした。
3 1 6	Reg15=X'316' Reg4=A(メッセー ジ)	LMSGA	UTC タイム・スタ ンプを含む予期され たシステム拡張セグ メントが見つかりませ んでした。

DFSQMGRO の場合:

DFSQMGRO は、どの機能が要求されたかを判別して、適切なモジュールを呼び出します。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。レジスター 5 は、QSAPWKAD 領域を指しています。

SC	キー・データ	ラベル	説明
000	Reg15=X'00' Reg8=A(QTPP CB)	CANCI025	無効な CANCEL INPUT 呼び出しが DL/I によって行わ れました。

SC	キー・データ	ラベル	説明
001	Reg15=X'01' QSAPPFUN ビ ット: QTPFLG3 ビッ ト: QTPQCOMP がオフ	QMAGENT4 5	前の呼び出しは入 力で、現在の呼び 出しは出力です。 QSAPXFUN には要 求された機能が入 っていますが、呼 び出し元 ID がな く、QSAPCFUN に 呼び出し元 ID が 入っています。
001	Reg15=X'01' QSAPPFUN ビ ット: FOUT がオフ QTPFLG1 ビッ ト: QMRNQFDL がオフ	QMAGENT4 A	前の呼び出しは出 力で、現在の呼び 出しは入力です。 QSAPXFUN には要 求された機能が入 っていますが、呼 び出し元 ID がな く、QSAPCFUN に 呼び出し元 ID が 入っています。
002	Reg15=X'02' Reg8=A(QTPP CB) QTPFLG1 ビッ ト: FDN がオン	RPOS050 0	現在のメッセージ なしで、位置変更 呼び出しが行われ ました。
00B	Reg15=X'0B' Reg10=A(メッ セージ) Reg11=A(SCD) SCDSSTYP ビ ット: SCDSSDBC が オン	PREFI	フォーマット名を 取り出す必要があ るのに、フォーマ ット・サービスが (DBCTL) システム にありません。
01C	Reg15=X'1C' QTPFLG1 ビッ ト: DCDLI がオフ	QMREJEC T	REJECT 呼び出し の実行時には、呼 び出し元は DL/I で なければなりません。

SC	キー・データ	ラベル	説明
020	Reg15=X'20' Reg8=A(QTPP CB) QTPFLG3 ビッ ト: QTPQMBP が オフ	QMGENT1	キュー・マネー ジャーのメッセ ージ・バッファ作 業域 (QMBA) が使 用不可です。
02B	Reg15=X'2B' Reg10=A(QBL K) Reg0= デキュ ー・チェーン Reg1= エンキ ュー・チェーン	MCINS10 0 MCINS12 0	デキュー・チェ ーンとエンキュー ・チェーンが両方 ともゼロである必要 があるのに、いず れか一方がゼロで はありませんでした。
02B	Reg15=X'2B' Reg10=A(QBL K) Reg0= デキュ ー・チェーン Reg1= エンキ ュー・チェーン	MCINS14 0 MCINS15 0	デキュー・チェ ーンとエンキュー ・チェーンが両方 ともゼロ以外である 必要があるのに、 いずれか一方がゼ ロでした。
035	Reg15=X'35' Reg7=A(QDES T)	MCINS06 0	CNT チェーンに壊 れたキューが見つ かりました。 QBLK が割り当て られていない場合 は、メッセージが 存在するキューが あってはなりません。
03D	Reg15=X'3D' Reg6=A(ABEN D) Reg7=A(QDES T) Reg8=A(QTPP CB) Reg9=A(DEC B) Reg11=A(QSC D)	CANCI110 CANCI200	CANCEL INPUT 呼 び出しの CNT に QBLK レコードが 割り当てられてい ませんでした。
048	Reg15=X'48' Reg10=A(メッ セージ)	RPOSERR	GU 呼び出しの実 行時に、接頭部フ ラグには存在が示 されていましたが、 ISC セグメント 項目が接頭部に含 まれていませんで した。

SC	キー・データ	ラベル	説明
04B	Reg15=X'4B' QSAPAB15=D FSQC080 戻りコード	QMGENT3 8	IMS はクリーンア ップ・ルーチン (DFSQC080) に分 岐します。クリー ンアップに失敗し た場合は、ゼロ以 外の戻りコードが レジスター 15 に 入れられます。
04C	Reg15=X'4C' Reg3= 機能コ ード Reg8=A(QTPP CB) QSAPAB15=D FSBCB 戻りコード QSAPCFUN= 呼び出し元 ID + 機能コード QTPRRN=0 ま たは DRRN	QMGENTC	キュー・マネー ジャーのメッセ ージ・バッファ作 業域 (QMBA) を再 取得しようとしま したが、失敗しま した。QTPRRN が ゼロの場合、呼び 出しは一連の呼び 出しの最初のもの です。ゼロ以外の 場合、呼び出しは 一連の呼び出しの 継続部分です。 この失敗の原因 は、通常、IMS 制 御領域の 「REGION=」JCL パ ラメーターに指定 した仮想ストレ ージの量が不足し ていることです。
04D	Reg15=X'4D' QSAPAB15=D FSCLM 戻りコード	QMGRLAT E	QLOG が取得した DC システム・ラッ チを解放しようと しましたが、失敗 しました。
050	Reg15=X'50' QSAPAB15=D FSBCB 戻りコード	RELQMBA	キュー・マネー ジャーのメッセ ージ・バッファ作 業域 (QMBA) を解 放しようとした が、失敗しまし た。
008	Reg15=X'08' Reg10=A(メッ セージ) MSGFLG3 ビ ット: MSGFFRST がオフ	MCI0120	返されたレコード が、取り消すべき メッセージの先頭 レコードではあり ませんでした。

DFSQNP00 の場合:

DFSQNP00 はキュー・マネージャーの NOTE および POINT コマンド・プロセッサです。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'1F'
Note

X'3F'
Point

S	C	キー・データ	ラベル	説明
000		Reg15=X'00'	QMGNP005	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図 1 の後の表を参照してください。
00D		Reg15=X'0D' Reg8=A(QTPPC B) QTPRRN=0	QMGNP010	呼び出しが継続呼び出しでない場合、NOTE/POINT 機能要求は無効です。
017		Reg15=X'17' QSAPCSV1= 直前の機能コード	QMGNP020	NOTE/POINT 機能が要求されましたが、前の呼び出しが無効でした。NOTE/POINT 呼び出しは、GU、GN、または DL/I ROLB 呼び出しの後に続く必要があります。
018		Reg15=X'18' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFLAST がオン	GUGNSE G1	入力レコードのセグメント長が無効でした。
019		Reg15=X'19' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン	GMGGNT 4	次のレコードを取得しようとしているときに、返されたレコードが先頭レコードでした。
01A		Reg15=X'1A' Reg8=A(QTPPC B) Reg10=A(メッセージ) QTPFRRN-=MS	POINT10	POINT 呼び出しの実行時に、返されたレコードがメッセージの先頭レコードでも、同じメッセージの一部でもありませんでした。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
		GMDRRN MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ		
01A		Reg15=X'1A' Reg8=A(QTPPC B) Reg9=A(DEC B) Reg10=A(メッセージ) QTPFRRN-=DEC BRBN MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン	POINT20	POINT 呼び出しの実行時に、返されたレコードはメッセージの先頭レコードでしたが、そのレコードは同じメッセージの一部ではありませんでした。
01B		Reg15=X'1B' Reg10=A(メッセージ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオフ	POINT55	現在のメッセージを再読み取りする DL/I POINT 呼び出しの実行時に、メッセージの先頭レコードを取得できませんでした。
059		Reg15=X'59' Reg10=A(メッセージ)	POINT30	POINT 呼び出しの実行時に、提供されたレコード・オフセットがレコードを超えていました。
05A		Reg15=X'5A' Reg10=A(メッセージ)	POINT31	POINT 呼び出しの実行時に、処理されるメッセージへのオフセットの LL が 4 以下でした。
05E		Reg15=X'5E' Reg10=A(メッセージ)	POINT32	POINT 呼び出しの実行時に、オフセットに LL を加算した結果がレコードを超えました。

DFSQRH00 の場合:

DFSQRH00 は、新規パラメーター・リスト・インターフェースです。このパラメーター・リストは、dsect DFSQMGR によって記述されます。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	0	Reg15=X'000'	QRH240	要求された機能が無効です。有効な機能コードのリストについては、図1の後の表を参照してください。機能コードは、レジスター4が指しているパラメーター・リストの中にあります。このパラメーター・リストをマップする DSECT は DFSQMGR です。
0	0	Reg4=A(DFSQM	00	
0	0	GR)	QRH250	
		QMGRFUNC=機能コード	QRH260 00	
9	0	Reg15=X'901'	QRH110	APPC 接頭部の長さがゼロまたは負です。この長さは、QSAPABR1 が指す接頭部の最初のハーフワードに入っています。
0	0	Reg5=A(QSAPW	00	
1	0	KAD)	QRH120	
		QSAPABRO=APPC 接頭部長	QRH270 00	
		QSAPABR1=A(PPC 接頭部)	QRH280 00	

DFSQRL00 の場合:

DFSQRL00 は、キュー・マネージャーの RELEASE コマンド・プロセッサです。レジスター5が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'16'

Release

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	0	Reg15=X'00'	REL10	正しくない機能が要求されました。有効な機能コードのリストについては、図1の後の表を参照してください。
0	0			
0	0			
0	2	Reg15=X'2E'	REL190	RELEASE 呼び出しの実行時に、宛先が無効でした。
		Reg7=A(QDEST)		
E		Reg10=A(メッセージ) MSGODSTN-=QDNAME		
0	2	Reg15=X'2F'	REL215	メッセージが解放された後で、SMB が空ではありませんでした。
		Reg7=A(QDEST)		
F		QDFLG1 ビット: QDF1LQ1 がオン		

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	2	Reg15=X'2F'	REL230	前のメッセージが存在していたので、SMB は、中に含まれているものがあることを示すフラグを立てる必要がありました。
F		QDFLG1 ビット: QDF1LQ1 がオフ		
0	4	Reg15=X'4A'	REL337	QBLKDSTN フィールドに指定された宛先が見つかりませんでした。
A		Reg10=A(QBLK) QSAPAB15=DFSFNDST 戻りコード	REL634	
0	5	Reg15=X'50'	REL102	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファー作業域 (QMBA) を解放しようとしたが、失敗しました。
0	0	QSAPAB15=DFSBCB 戻りコード	0	
0	5	Reg15=X'51'	REL175	キュー・マネージャーのメッセージ・バッファー作業域 (QMBA) が使用不可でした。
1		Reg8=A(QTPPCB) QTPFLG3 ビット: QTPQMBP がオフ	REL280	
0	6	Reg15=X'060'	REL340	UTC タイム・スタンプリを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。
0	0	Reg2=A(CTB)		
0	0	Reg5=A(QSAP)		
0	0	Reg7=A(CNT) Reg10=A(ログ・レコード)		
0	6	Reg15=X'65'	REL112	保護会話メッセージの処理時に、RRE アドレスが呼び出し元から渡されませんでした。
5			0	

DFSQRSQ0 の場合:

DFSQRSQ0 モジュールは、共用キュー環境での IMS キューの ERE 再始動を取り扱います。ERESTART が、このモジュールの唯一の呼び出し元です。DECTYPE に、呼び出しタイプまたは実行する必要のある機能が記述されています。

X'00'

BUILDQ 処理

X'01'

ERE 作業域初期設定

X'02'

キュー・マネージャーのログ・レコードの ERE 処理

X'03'

ERE クリーンアップ処理

S	C	キー・データ	ラベル	説明
2	0	Reg15=X'205' Reg5=A(ログ・レコード) Reg3=A(メッセージ)	UPDM SGA0 UPDM SGA1	セグメント拡張または TMR セグメントのいずれかのセグメント項目が、メッセージ接頭語から欠落していました。
2	0	Reg15=X'206' Reg5=メッセージ・レコード長	BLDM SGOB	メッセージ・レコード長が、論理レコード長より大でした。
		Reg5>DCBLRECL		
2	0	Reg15=X'209' Reg9=A(DECBC) DECBTYP=X'01'	BLDW KA10	作業域内に、少なくとも 2 項目分の十分なスペースがありませんでした。
2	0	Reg15=X'20A' Reg9=A(DECBC) Reg11=A(SCD) DECBTYP=X'02'	QRSQ ERE	キュー再始動作業域が ERE 処理用に初期設定されていませんでした。
		X'03'、または X'04'		
2	0	Reg15=X'20B' Reg9=A(DECBC) Reg11=A(SCD) DECBTYP=X'01' SCDQRWKA=0	BLKW KA	キュー再始動作業域がありませんでした。
2	0	Reg15=X'20C' Reg8=A(RWKA)	FRWK ABND	作業域を解放しようとしたとき、作業域チェーン・ポインター・アドレスがゼロでした。
2	0	Reg15=X'20D' Reg5=A(ログ・レコード) Reg9=A(DECBC) DECBTYP=X'02' MSGLCODE=X'01'	QLOG REC QLOG RECA PPLO OPA PPCLN	ログ・コードが、X'01'、X'03'、X'07' でもなければ、キュー・マネージャー・ログ・レコード (X'30' から X'3F') でもありませんでした。
		X'03'、または X'07' で、かつ、(X'30' ≤MSGLCODE≤X'3F')	30	
2	1	Reg15=X'215' Reg5=A(メッセージ)	QLOG RINB	X'01' または X'03' APPC メッセージを挿入しようとしたときに、QAB/TIB が見つ

S	C	キー・データ	ラベル	説明
		ジ) MSGFLAGS ビット: MSGFFRST がオン MSGCFLG2 ビット: MSGC2APP がオン		らなかったか作成されておらず、宛先が SMB ではありませんでした。
2	1	Reg15=X'21C' Reg7=ログ・レコード長 Reg5=A(ログ・レコード)	BLDPF X0B UPDP FXI2	許容メッセージ長を超えました。
2	1	Reg15=X'21F' Reg5=A(ログ・レコード)	QLOG RINA	BUILDQ 処理の実行時に、フラグには存在が示されていましたが、APPC システム・セグメント・ヘッダーがありませんでした。

DFSQRSTO の場合:

DFSQRSTO モジュールは、緊急時再始動に関するキュー・ログ・レコードを取り扱い、ERESTART の終わりに最終クリーンアップを実行します。ERESTART が、このモジュールの唯一の呼び出し元です。DECTYPE に、呼び出しタイプまたは実行する必要のある機能が記述されています。

X'00'

BUILDQ 処理

X'01'

ERE 作業域初期設定

X'02'

キュー・マネージャーのログ・レコードの ERE 処理

X'03'

ERE クリーンアップ処理

S	C	キー・データ	ラベル	説明
2	0	Reg15=X'205' Reg3=A(メッセージ) Reg8=A(ログ・レコード)	PMSGI2 0	UTC タイム・スタンプを含む予期されたシステム拡張セグメントが見つかりませんでした。

S C	キー・データ	ラベル	説明
2 0 5	Reg15=X'205' Reg5=A(ログ・レ コード) Reg14=A(メッセ ージ)	PENQ33 A	UTC タイム・スタン プを含む予期された システム 拡張セグメ ントが見つかりませ んでした。
2 0 5	Reg15=X'205' Reg1=A(CCB) Reg14=A(メッセ ージ)	PENQ34 C	UTC タイム・スタン プを含む予期された システム 拡張セグメ ントが見つかりませ んでした。
2 0 6	Reg15=X'206' Reg5= メッセー ジ・レコード 長 Reg5>DCBLRECL	PBUILD QP	メッセージ・レコー ド長が、論理レコー ド長より大でした。
2 0 9	Reg15=X'209' Reg9=A(DECBC) DECBTYPEx=X'01'	BLDWKA 11	作業域内に、少なく とも 2 項目分の十分 なスペースがありま せんでした。
2 0 A	Reg15=X'20A' Reg9=A(DECBC) Reg11=A(SCD) DECBTYPEx=X'02' または X'03'	QRSTER E	キュー再始動作業域 が ERE 処理用に初 期設定されていませ んでした。
2 0 B	Reg15=X'20B' Reg9=A(DECBC) Reg11=A(SCD) DECBTYPEx=X'01' SCDQRWKA=0	BLDWKA	キュー再始動作業域 がありませんでした。
2 0 C	Reg15=X'20C' Reg8=A(RWKA)	FRWKAB ND	作業域を解放しよう としたとき、作業域 チェーン・ポインタ ー・アドレスがゼロ でした。
2 0 D	Reg15=X'20D' Reg5=A(ログ・レ コード) Reg9=A(DECBC) DECBTYPEx=X'02' MSGLCODE=X'0 1' X'03'、または X'07' で、 かつ、 (X'30'≤MSGLCOD E≤X'3F') ではな い	QRSTER E1 QRSTER E2	ログ・コードが、 X'01'、X'03'、X'07' でもなければ、キュー ・マネージャー・ ログ・レコード (X'30' から X'3F') で もありませんでした。

S C	キー・データ	ラベル	説明
2 0 E	Reg15=X'20E' Reg9=A(DECBC) DECBTYPEx=0、 1、 2、または 3	CLNERE	無効な機能コードが 検出されました。 有効な機能コードの リストについては、 DFSQRST0 分析セク ションを参照して ください。
2 1 0	Reg15=X'210' Reg9=A(DECBC) DECBRBN=X=0、 4、または 8	PBUILD QG PISRT38 PENQ42	DFSQRST0 で無効な DRRN が検出されま した。DRRN の「D」 部分が X'00'、X'04'、 または X'08' に等し くないか、 DRRN の RRN 部分 がゼロであるか、ま たは DRRN の RRN 部分がデータ・セッ トの高範囲の外部に あります。RRN が高 範囲の外部にある 場合、原因は一般に、 緊急時再始動の前に データ・セット・サ イズが減少したため です。
2 1 1	Reg15=X'211' Reg7=A(RWKID) Reg8=A(RWKA)	NGWKA PCB	呼び出し元の ID が 使用中であってはな らない条件のとき に、その ID が作業域 チェーン内で検出さ れました。
2 1 2	Reg15=X'212' Reg8=A(RWKA)	ACWKAP CB ACWKAX XX	異なる状況シリーズ が作業域で検出され ました。
2 1 3	Reg15=X'213' Reg8=A(RWKA) RWKMINOR=X' 00'	PXFER1 8 PRELI88	XFER または RELI と 同じ ID の古い作業 域が検出されました が、マイナー状況が 一致しませんでした。
2 1 3	Reg15=X'213' Reg8=A(RWKA) RWKMINOR=X' 01' または X'04'	PRELO8 0 PRELO9 0	RELO と同じ ID の古 い作業域が検出され ましたが、マイナー 状況が一致しませ んでした。

S C	キー・データ	ラベル	説明
2 1 4	Reg15=X'214' Reg5=A(QLFNM RCD) QLFRFUNC= ログ に記録された 機能	PFREE7 0	作業域の外部で X'33' ログ・レコード を処理している ときに、ログに記録さ れた無効な機能コー ドが検出されまし た。
2 1 5	Reg15=X'215' Reg5=A(メッセ ージ) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST がオ ン MSGCFLG2 ビッ ト: MSGC2APP が オン	PISRT34 PISRT80 B	X'01' または X'03' APPC メッセージを 挿入しようとしたと きに、QAB/TIB が見 つからなかったか作 成されておらず、宛 先が SMB ではあり ませんでした。 ラベル PISRT80B の 場合、Reg14=A(メッ セージ)
2 1 6	Reg15=X'216' Reg5=A(QLGURC D)	PGU10	X'31' ログ・レコー ドの処理時に、宛先 が 見つかりませんで した。
2 1 6	Reg15=X'216' Reg5=A(QLENQR CD)	PENQ20 PENQ31 B	X'35' ログ・レコー ドを処理している とき、 宛先が見つかりませ んでした。
2 1 6	Reg15=X'216' Reg5=A(QLXFRR CD)	PXFER2 7	X'37' ログ・レコー ドを処理している とき、 宛先が見つかりませ んでした。
2 1 6	Reg15=X'216' Reg5=A(QLRIRC D)	PRELI10	X'38' ログ・レコー ドを処理している とき、 宛先が見つかりませ んでした。
2 1 6	Reg15=X'216' Reg5=A(QLFRER CD)	FENDC2 0	X'33' ログ・レコー ドを処理している とき、 宛先が見つかりませ んでした。
2 1 6	Reg15=X'216' Reg5=A(QLMCRC D)	CLNC08 CLNDCU R	C または D クリー ンアップ・シリーズ中 に X'3E' ログ・レ コードを処理してい るとき、 宛先が見つかりませ んでした。

S C	キー・データ	ラベル	説明
2 1 6	Reg15=X'216' Reg5=A(QLDQSR CD)	PDEQAB ND	X'36' ログ・レコー ドを処理していると き、 宛先が見つかりませ んでした。
2 1 7	Reg15=X'217' Reg8=A(RWKA) QLFRFLGS ビッ ト: QLFRFEND がオ フ	PFREE4 4	フリー・ログ・レコ ードの処理時にシリ ーズが X'0A' (ISRT) でしたが、これは無 効です。
2 1 7	Reg15=X'217' Reg8=A(RWKA) QLFRFLGS ビッ ト: QLFRFEND がオ ン	PFREE5 0	チェーンの最終レコ ードのフリー・ロ グ・レコード処理時 にシリーズが X'0A' でしたが、これは無 効です。
2 1 8	Reg15=X'218' Reg8=A(RWKA) RWKMAJOR>X'1 0'	PFREE4 0	この「FREE」ログ・ レコード用のシリ ーズが、許容最高シリ ーズより大でした。
2 1 9	Reg15=X'219' Reg5=A(QLMCRC D) MSGFLAGS ビッ ト: MSGFFRST がオ ン MSGCFLG2 ビッ ト: MSGC2APP が オン	CLNC04	C クリーンアップ・ シリーズ中に X'3E' ログ・レコードのメ ッセージ DRRN を更 新しようとしたと きに、QAB/TIB が見 つからなかったか作 成されておらず、宛 先が SMB ではありま せんでした。
2 1 A	Reg15=X'21A' Reg3=A(メッセ ージ接頭語)	PMSGI1 10	X'30' ログ・レコー ドの接頭部を 変更し よう としたとき、 QAB/TIB が見つか らなかったか、作成 されていませんで した。
2 1 B	Reg15=X'21B' Reg14=A(メッセ ージ) Reg7=A(SMB)	CLNR24	同一メッセージに 2 回チェーンングしま した。メッセージ・ チェーンは壊れまし た。/ERE BUILDQ を実行して、メッセ ージ・キューを再作 成してください。

S C	キー・データ	ラベル	説明
2 1 C	Reg15=X'21C' Reg3= ログ・レ コード長 Reg5=A(ログ・レ コード)	PISRT38	許容メッセージ長を 超えました。
2 1 D	Reg15=X'21D' Reg5=A(QLENQR CD) または A(QLDQSRCD)	PENQ60 PDEQ30 A	X'35' または X'36' ログ・レコードを処 理 しているとき、OTMA Tパイプが見つかり ませんでした。
2 1 E	Reg15=X'21E' Reg5=A(QLMCRC D)	CLND10 A FDST00	D クリーンアップ・ シリーズ中または FINDDEST の呼び出 し時に X'3E' ログ・ レコードを処理して いるとき、ブロック が SMB、CNT、 LNB、QAB、または TIB ブロックではあ りませんでした。
2 1 F	Reg15=X'21F' Reg4=A(ログ・レ コード)	PBUILD QC PISRTA1 PISRT80 A	BUILDQ 処理の実行 時に、フラグには存 在が示されていまし ましたが、APPC システ ム・セグメント・ヘ ッダーがありません でした。

DFSQXF00 の場合:

DFSQXF00 は、キュー・マネージャーの TRANSFER コマンド・プロセッサです。レジスター 5 が指す QSAPWKAD 領域の QSAPXFUN フィールドには、以下の機能コードが入っています。

X'1E'

Transfer

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 0 0	Reg15=X'00'	DFSQXF0 0	正しくない機能が要 求されました。有効 な機能コードのリス トについては、図 1 の後の表を参照して ください。
0 2 7	Reg15=X'27' Reg7=A(QDEST)	XFR21	キューが空であるこ とが判明しましたが、 キュー・マネー ジャー宛先の DRRN がゼロではありません でした。空のキュー

S C	キー・データ	ラベル	説明
0 2 8	Reg15=X'28' Reg9=A(DECBC) Reg10=A(最終メ ッセージ) MSGMDRRN=D ECBRBN	XFR24	ーの場合はこれはゼ ロでなければなりま せん。 プリンターへの最終 メッセージは、すで にこの DECBRBN に チェーニングされて いました。
0 2 9	Reg15=X'29' Reg10=A(QBLK)	XFR32	一時宛先キューから CNT へのポインター の移動時に、フラグ はそのキューにメッ セージがあることを 示していましたが、 ポインターがゼロで はありませんでした。
0 2 A	Reg15=X'2A' Reg9=A(DECBC) Reg10=A(メッセ ージ) MSGMDRRN=D ECBRBN	XFR34	移動されるメッセー ジは前方にチェーニ ングされてはな りません。
0 4 A	Reg15=X'4A' Reg10=A(QBLK) QSAPAB15=DFS FNDST 戻りコード	XFR11A	QBLKDSTN フィー ルドに指定された宛 先が見つかりません でした。
0 4 C	Reg15=X'4C' QSAPAB15=DFS BCB 戻りコード	CQSDEL DELO40 GETQMB A GETQMB S PROTCO NV PUTR200 QLD0LO G SHR215	UOWE、QMBA、 QMBS、または QLST 作業域を取得しよう としましたが、失敗 しました。

S	C	キー・データ	ラベル	説明
0	4	Reg15=X'4D' QSAPAB15=DFS CLM 戻りコード QSAPNQF2 ビッ ト: QSAPLATE がオ ン	XFR46	QLOG が取得した DC システム・ラッチ を解放しようとしま したが、失敗しまし た。
0	5	Reg15=X'50' QSAPAB15=DFS BCB 戻りコード	GQ MBA_ 300 XFR80	キュー・マネージャ ーのメッセージ・バ ッファ作業域 (Q MBA) を解放しよ うとしましたが、失 敗しました。
0	5	Reg15=X'5F' QSAPAB15=DFS USE 戻りコード	XFR26	DFSUSE FUNC=INUSE 呼び 出しが失敗し、X'1C' 以外の戻りコードが 返されました。
0	6	Reg15=X'64' Reg8=A(QTPPC B) Reg10=A(メッセ ージ)	SHR100	CQS PUT のために アクセスされたメッ セージが、メッセ ージの先頭レコードで はありませんでした。
0	6	Reg15=X'66' Reg4=A(メッセ ージ)	BSTQ100 0 BSTQ150 0 BSTQ200 0 BSTQ300 0 BSTQLO OP BSTQ500 0 BSTQ650 0	CQSPUT エラーの後 でシリアル・トラン ザクションのステー ジ・キュー項目を再 作成しているとき に、ILOG Function Read 呼び出しから 無効なメッセージが 返されました。

図 1: メッセージ・キュー・マネージャーで使用される
Dectype フォーマット

xx..

呼び出し元 ID を定義します。

00..

呼び出し元は通信です。

10..

呼び出し元は DL/I です。(アプリケーション・プロ
グラム要求)

01..

呼び出し元はメッセージ生成プログラムです。

..x.

Note/Point および Insert Move 呼び出しの特殊修
飾子。

..0.

Note/Point の場合、Note を示します。

..1.

Note/Point の場合、Point を示します。

..1.

メッセージ生成プログラムの Insert Move の場合、
AOI 呼び出しを示します。

.... x..

通常、入力(キューにすでに入っているメッセージ
を処理)または出力(メッセージをキューに入れる
アクション)を示すために使用されます。

.... 0..

入力操作クラス。

.... 1..

出力操作クラス。

.... x..

通常、完了したメッセージをキューに入れるか、ま
たはメッセージをキューから除去することによっ
て、キュー・マネージャーに対する一連の呼び出し
を終了するために使用されます。

.... 0..

一連の呼び出しは完了していません。

.... 1..

一連の呼び出しは完了しています。

..xx xxxxx

これらのビットは、要求される機能を完全に定義す
るために使用されます。

機能	名前	説明
..00 0000	Get prefix	指定された接頭部情報を読み取 ります。
..00 0001	Cancel input	入力要求を取り消します。
..00 0010	Get unique	次のメッセージの最初のセグメ ントを取得します。
..00 0011	Get next	現在のメッセージの次のセグメ ントを取得します。
..00 0100	Dequeue	このシリーズの呼び出しで読み 取られたすべてのメッセージを デキューします。
..00 0101	Save	現在のメッセージを保管しま す。
..00 0110	Reject	指定された一時宛先から現在の メッセージをリジェクトしま す。

機能	名前	説明
..00 0111	Delete	指定されたメッセージをキューから削除します。
..00 1000	Cancel output	現在の出力メッセージを取り消し、テキストを取り消し済みとしてログに記録します。
..00 1001	Cancel output	現在の出力メッセージを取り消しますが、テキストをログに記録しません。
..00 1010	Insert locate	出力メッセージ内に連続スペースを予約します。
..x0 1011	Insert move	出力メッセージにメッセージ・セグメントを挿入します。
..00 1100	Enqueue	完了したメッセージを永続宛先にエンキューします。(FIFO)
..00 1101	Enqueue	完了したメッセージを永続宛先にエンキューします。(LIFO)
..00 1110	Reenqueue	保管したメッセージを永続宛先に再エンキューします。(FIFO)
..00 1111	Reenqueue	保管したメッセージを永続宛先に再エンキューします。(LIFO)
..01 0000	Reposition	現在のメッセージの最後のセグメントに位置変更します。
..01 0001	Command input	指定されたコマンド用の AOI 処理を開始します。
..01 0010	AOI SYSMSG	指定されたメッセージ用の AOI 処理を開始します。
..01 0011	Abort	現在のシリーズの呼び出し用の AOI 処理を強制終了します。
..01 0100	AOI term	現在のシリーズの呼び出し用の AOI 処理を強制終了します。
..01 0101	Error exit	MSC エラー・メッセージを転送します。
..01 0110	Release	指定された一時宛先からすべてのメッセージを解放します。
..11 0110	Release	ROLS 機能
..01 0111	予約済み	
..01 1000	予約済み	
..01 1001	予約済み	
..01 1010	Insert prefix	現在の出力メッセージのメッセージ接頭語に追加情報を挿入します。

機能	名前	説明
..01 1011	Put spanned	出力メッセージのスパン・キュー・レコードにメッセージ・セグメントを挿入します。
..01 1100	Enqueue (Temp)	完了したメッセージを、後で永続宛先に転送する目的で、指定された一時宛先に FIFO でエンキューします。
..01 1101	Enqueue (Temp)	完了したメッセージを、後で永続宛先に転送する目的で、指定された一時宛先に LIFO でエンキューします。
..01 1110	Transfer	指定された一時宛先から永続宛先にすべてのメッセージを転送します。
..x1 1111	Note/Point	一連の入力呼び出し内でのメッセージ位置を記録する (Note) か、または Note で記録された一連の入力呼び出し内のメッセージ位置を返します (Point)。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答

まず、操作エラーによる異常終了の可能性を除去します。操作エラーが原因ではない場合は、異常終了時のレジスター 15 のサブコード値を使用して、問題の詳細な説明については、上記の「分析」を参照してください。

問題判別

1、2、3、4、6、8、11、35

最新の DUMPQ/BUILDQ、または最新のコールド・スタート以降のログ・データ・セットを保管します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSQC010、 DFSQC020、 DFSQC030、 DFSQC040、
DFSQC060、 DFSQC070、 DFSQC080、 DFSQBFM0、
DFSQDQ00、 DFSQE00、 DFSQFIX0、 DFSQGU00、
DFSQIS00、 DFSQLOG0、 DFSQMGR0、 DFSQNP00、
DFSQRH00、 DFSQRL00、 DFSQRSQ0、 DFSQRST0、
DFSQXF00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0758

説明

システムが内部チェックポイント・ダンプ・キューを使用してシャットダウンされる前に、メッセージ・キュー・データ・セットがオーバーフローしました。

共用キューを使用して実行されている IMS の場合、DFSQC010 から異常終了 0758 が発行されます。これは、使用可能なすべてのデバイス相対レコード番号 (DRRN) が使い尽くされたためです。

分析

0758 は標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、障害が発生したモジュールを指しています。

考えられる原因: この異常終了は通常、INSERT-LOCATE、INSERT-MOVE、または INSERT-MOVE-SPANNABLE を実行中の従属領域プログラムにループが生じたことが原因で発生します。

- 問題が INSERT-LOCATE の場合:
 - Reg5+X'168'= QSAPXFUN = X'0A'
 - Reg9+X'0C'= DECBAREA = テキストの長さ
- 問題が INSERT-MOVE の場合:
 - Reg5+X'168'= QSAPXFUN = X'0B'
 - Reg9+X'0C'= DECBAREA = テキストのアドレス
- 問題が INSERT-MOVE-SPANNABLE の場合:
 - Reg5+X'168'= QSAPXFUN = X'15'
 - Reg9+X'0C'= DECBAREA = テキストのアドレス

共用キューの場合、この異常終了は通常、QBUFMAX の設定が原因で発生します。QBUFMAX を低く設定しすぎると、使用可能なすべての DRRN を使い尽くしてしまうことがあります。キュー・プールで使用可能なバッファ数が無制限になるように、QBUFMAX パラメータには値を設定しないでおくことをお勧めします。

QBUFMAX パラメータについて詳しくは、IMS システム定義の説明を参照してください。

APAR 処理の場合: ABEND DUMP、コンソール・シート、システム・ログのコピー。

キー	ラベル	説明
Reg6=Bal	ASSIG N65	
Reg3=RRN	ASSIG N65	レジスター 3 の RRN がデータ・セットの最高 RRN より大きい場合、異常終了で QMGNOSPC への BAL が使用されます。

キー	ラベル	説明
		最高 RRN は、Reg7+X'74' のアドレスから X'0C' 離れた位置です。
REG2='QBLK' または 'SMSG' または 'LMSG'	ASSIG N65	レジスター 2 に、エラーのあるデータ・セットの ID が入っています。

レジスター 2 に「SMSG」または「LMSG」が入っていて、そのメッセージ・キュー用に複数のデータ・セットを定義してある場合は、データ・セットが正しく割り振られているかどうか確認してください。「実行データ・セット (インストール)」の中の IMS.QBLKS、IMS.SHMSG1-9、IMS.LGMSG1-9 に関する情報、および「IMS キュー・マネージャー (システム管理)」の中のメッセージ・キュー・データ・セットの割り振りに関する情報を参照してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

下記に示されたキュー・データ・セットのいずれかのスペース割り振りを増やしてから、キュー構築を指定してシステムを緊急時再始動する必要があります。IMS システム定義を実行することにより、シャットダウン・レコード数を増やすことができます。異常終了時のレジスター 14 の内容は、一杯になったキュー・データ・セットの DCB を指しています。

IMS.QBLKS
IMS.SHMSG
IMS.LGMSG

多くの場合、このエラーは、アプリケーション・プログラム内のループによって大量のメッセージ・データが作成されることが原因です。その場合には、ループしているアプリケーションからの出力は、ログ・データ・セットを調べることで識別できます。

問題判別:
ありません。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSQC010

0759

説明

メッセージ・キュー・データ・セットを読み取りまたは書き込みしようとして、キュー・マネージャーでリカバリ不能エラーが発生しました。入出力操作は3回再試行されます。再試行が成功しなかった場合は、異常終了が発行されます。

分析

0759 は標準異常終了です。異常終了 SVRB のレジスターを調べて、DFSQBFM0 内のどこでエラーが検出されたかを判別する必要があります。

レジスター 3

内容

バイト 1

DECBTYPETYPE からの OSAM 命令コード

バイト 2

入出力通知コード

バイト 3

DECBSTAT からの状況コード

バイト 4

DCB ID が入っています。ここで、

X'00' は、キュー・ブロック・データ・セットです。

X'04' は、簡略メッセージ・キュー・データ・セットです。

X'08' は、詳細メッセージ・キュー・データ・セットです。

レジスター 9

エラーのある OSAM DECB を指します。

レジスター 2

エラーが検出された DFSQBFM0 のラベル名/エラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
DECB/=X'7F' (Reg9)、 FUNC=aa (Reg3 バイト 1)、 STATUS=bb,c c (Reg3 バイ ト 2、3)、 DCBid (Reg3 バイト 4)	D8C2C601 (Reg2)	入出力操作が、入出力エラーを示す IOS POST コードで完了しました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0762I が出力されます。
DECB/=X'7F' (Reg9)、 FUNC=aa (Reg3 バイト 1)、 STATUS=bb,c c (Reg3 バイ	D8C2C602 (Reg2)	入出力操作をしようとした結果、入出力エラーを示す IOS POST コードが返されました。メッセージ DFS0762I を発行するための OSAM IOSB が使用で

キー	ラベル	説明
ト 2、3)、 DCBid (Reg3 バイト 4)		きません。レジスター 3 のバイト 1、2、および 3 には、メッセージ DFS0762I の定義に従って、OSAM 命令コード、IOS POST コード、および DECB 状況コードが入っています。レジスター 3 のバイト 4 には、エラーが発生した DCBid が入っています。考えられる原因: Reg 3、バイト 2=X'10' Status=DECBIIBE。追加の IOSB 用の IPAGE を割り振るための余裕が CSA ストレージにありません。
DECB=X'7F' (Reg9)、 FUNC=aa (Reg3 バイト 1)、 STATUS=bb,c c (Reg3 バイ ト 2、3)、 DCBid (Reg3 バイト 4)、読 み込み領域 のアドレス = Reg4+X'40'	D8C2C603 (Reg2)	IMS は、読み取り要求を発行する前に、読み込み領域の先頭バイトに X'FF' を入れます。読み取りの完了が通知された後で、X'FF' がオーバーレイされたかどうかを確認するための検査が行われます。先頭バイトに X'FF' が入っていると、入出力要求は正常に完了した (X'7F'POST) が、データ転送は行われなかったことを示します。この状態は入出力エラーとみなされます。考えられる原因: 入出力エラーが発生しましたが、標識は出ませんでした。入出力装置とバッファ・ストレージの間でのデータ転送は行われていません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

BUILDQ および FORMAT オプションを指定して IMS を再始動します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

0760**説明**

次の 2 つのうちのいずれかのエラー条件が検出されました。

- メッセージ・キュー・データ・セットのフォーマット設定が必要です。
- IMS シャットダウン用にメッセージ・キュー・データ・セットに予約されたレコード数が、データ・セット内のレコード数より大きい。

分析

これは、DFSQDOC0 によって発行される標準異常終了です。DFSCNS マクロが、上記のいずれかのシステム・データ・セットを開くために DFSAOS10 を呼び出しました。戻りコード X'18' が DFSQDOC0 に返されました。

キー	ラベル	説明
レジスター 7 に DCB アドレスが入っています。異常終了 0760 の直前に発行された DFS986A に、エラーのあるデータ・セットの名前が含まれています。	OSM60BA D	IMS シャットダウン用にメッセージ・キュー・データ・セットに予約されたレコード数が、データ・セット内のレコード数より大きい。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

次のことを行ってください。

1. FORMAT キーワード・パラメーターを使用して IMS を再始動することによって、下記にリストされているデータ・セットのいずれかをフォーマット設定します。異常終了 0760 の直前に発行されたメッセージ DFS986A に、フォーマット設定が必要なデータ・セットの名前が含まれています。異常終了時のレジスター 7 に DCB アドレスが入っています。
2. 下記にリストされたシステム・データ・セットのいずれかのスペース割り振りを増やします。再割り振りしたそれらのデータ・セットをフォーマット設定することも考慮して、キュー構築を指定してシステムを緊急時再始動 (JERESTART BUILDQ FORMAT)

します。IMS システム定義を実行することにより、シャットダウン・レコード数を変更することができます。異常終了 0760 の直前に発行されたメッセージ DFS986A に、エラーの原因となったデータ・セットの名前が含まれています。異常終了時のレジスター 7 に、エラーのある DCB のアドレスが入っています。システム・データ・セットには以下のものがあります。

IMS.QBLKS
IMS.SHMSG
IMS.LGMSG
IMS.SPA

フォーマット設定されていないシステム・データ・セット (上記) を使用して IMS を始動するか、またはこれらのシステム・データ・セットのいずれかを少なすぎるスペースで再割り振りすると、このエラーが発生します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSQDOC0

関連情報

DFS986A

0762**説明**

IMS 仮想記憶間処理中に、重大なシステム・エラーが検出されました。

分析

この異常終了は、モジュール DFSDSPX0 が仮想記憶間機能の処理中に重大な内部エラーを検出した場合に、このモジュールによって発行されます。異常終了レジスターのレジスター 14 は、DFSDSPX0 内部のエラーが検出された場所のアドレスを指しています。レジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入っています。

コード**説明****X'01'**

DFSDSPX0 が、無効な機能コードで呼び出されました。

X'02'

DFSDSPX0 が、仮想記憶間モードからホーム・モードに戻ろうとしていたときに、無効な 1 次アドレス・スペース番号を検出しました。IMS 内部制御ブロックに保管されたホームの 1 次アドレス・スペース番号が、真のホーム・アドレス・スペース番号に一致しません。ストレージ・オーバーレイまたは制御ブロック・ポインター・エラーが発生した可能性があります。

X'03'

DFSDSPX0 が、仮想記憶間モードからホーム・モードに戻ろうとしていたときに、無効な 2 次アドレス・スペース番号を検出しました。IMS 内部制御ブロックに保管されたホームの 2 次アドレス・スペース番号が、真のホーム・アドレス・スペース番号に一致しません。ストレージ・オーバーレイまたは制御ブロック・ポインター・エラーが発生した可能性があります。

X'04'

DFSDSPX0 が、仮想記憶間モードに切り替えようとしていたときに、無効なターゲット・アドレス・スペース索引を検出しました。

X'05'

XMCA 仮想記憶間制御ブロックの検証が失敗しました。ブロック内の目印が「XMCA」に等しくありませんでした。

X'06'

XMCI 仮想記憶間制御ブロックの検証が失敗しました。ブロック内の目印が「XMCI」に等しくありませんでした。

X'07'

XMCI 仮想記憶間制御ブロックの検証が失敗しました。XMCI 内の SAP ポインターが現行の SAP アドレスに等しくありませんでした。

X'08'

仮想記憶間モードに入ろうと (または仮想記憶間モードから出ようと) 試みているときに、エラーが発生しました。レジスター 15 の高位バイトには、以下のいずれかの値が含まれています。

X'01'

ターゲットの 1 次アドレス・スペース番号が無効でした。

X'02'

ターゲットの 2 次アドレス・スペース番号が無効でした。

X'09'

DFSDSPX0 が、ITASK の仮想記憶間モードを復元するために呼び出されたときに、無効な 1 次アドレス・スペース番号を検出しました。

考えられる原因: これらのすべての理由コードは、IMS 内部エラーを示します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、3、4、6、33、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDSPX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0763

説明

IMS システム・メッセージ・キュー・マネージャーが、別の IMS サブタスクのキュー・マネージャーによって通知されるのを待機していたが、この IMS システムの別の部分によって DECB が通知されました。これは、IMS システム・エラーです。

分析

これは、DFSQCP00、DFSQMGR0、または DFSQBFM0 によって発行される標準異常終了です。したがって、エラー条件が検出された場所の判別に、異常終了 SVRB のレジスターが使用されます。

異常終了を発行したモジュールを判別するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用し、特定のラベルを分離するにはレジスター 14 の BAL を使用します。

キー	ラベル	説明
Reg14= =BAL	DFSQCP 20	IWAIT から戻った際に、通知コードがキュー・マネージャーからのものかどうかを確認するための検査が行われます。予期される通知コードは X'63' です。そうでない場合は異常終了が発行され、レジスター 9 がエラーのある DECB を指します。
Reg14= BAL	INCNPG 0	IWAIT から戻った際に、通知コードがキュー・マネージャーからのものかどうかを確認するための検査が行われます。予期される通知コードは X'63' です。そうでない場合は、QMGRPERR に分岐して異常終了が発行されます。レジスター 9 は、エラーのある DECB を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg14= BAL	QXCEN Q4	このルーチンでは、宛先アドレスの直列化が行われます。レジスター 7 には直列化されるアドレスが入っていて、宛先所有権に対する IWAIT の後で通知コードがキュー・マネージャーからのものでなかった場合は、異常終了が発生します。レジスター 9 は、エラーのある DECB を指しています。
Reg14= BAL	QBMWT I	IWAIT から戻った際に、通知コードがキュー・マネージャーからのものかどうかを確認するための検査が行われます。キュー・マネージャーからの通知コードでない場合は、異常終了が発行されます。レジスター 9 は、エラーのある DECB を指しています。
Reg14= BAL	QBMIO ER	入出力チェック・ルーチンから戻った際に、DECB の通知コード (レジスター 9) が有効な IOS 通知コードかどうかを検査されます。通知コードが無効な場合、QMGPERR に分岐して異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、2、4、6、9、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSQBFMO、DFSQCP00、DFSQMGR0

0764

説明

WRTQUED 処理中に、OSAM アクセス方式で RBN を MBBCCHHR 形式のフル・ディスク・アドレスに変換できませんでした。OSAM が、等しくない入出力終了コード (X'7F') で入出力 ECB を通知しました。異常終了 0764 が起こる原因は 2 つあります。それらの説明は、次のとおりです。

1. R15 = 0 の場合、WRTQUED 再駆動処理中に、OSAM が RNB を MBBCCHHR 形式の完全なディスク・アドレスに変換できないことを示します。
2. R15 = X'FFFFFFFF' の場合、どの異常入出力終了に対しても異常終了 764 を要求するために、ユーザーが DFSVSMxx に「DUMPIO=YES」を指定したことを示します。

分析

これは、DFSAS080 によって発行される標準異常終了です。異常終了 SVRB にエラー・レジスターが保管され、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル AB0764 内の命令を指しています。

障害発生時に、レジスター 5 には DECB アドレスが入り、レジスター 6 には SCD アドレスが入り、レジスター 4 には IOB アドレスが入っています。レジスター 12 は基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80 0002FC'	INTE RR	X'41' (異常完了) を示す DECB が通知されました。再駆動処理中に、OSAM アクセス方式で無効な RBN が検出されました。RBN は、フル・ディスク・アドレスに変換できませんでした。無効な RBN は、現行バッファー接頭部のフィールド IBFCBLK にあります。現行バッファー・アドレスは、IOB に入っています。

考えられる原因: おそらく、制御装置または制御チャンネルのハードウェアの誤動作です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

これは、内部 IMS エラーです。

問題判別:

1、2、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSAS080

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0765

説明

OSAM アクセス方式が、仮想アドレスを実アドレスに変換しようとしたのですが、変換は失敗しました。変換の前にすべてのページが固定されていたので、この問題はIMS 内部エラーです。z/OS 環境では、ページ固定ルーチンからのエラー戻りコードによってこの障害が発生した可能性があります。DECB の DECBSTAT フィールドに、X'7F' 以外のエラー状況コードが入っています。

分析

これは、DFSAOS80 によって発行される標準異常終了です。エラー・レジスタは異常終了 SVRB に入っています。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、ラベル XLERROR で発行された異常終了 (SVC 13) を指しています。

レジスタ 12 は基底レジスタで、レジスタ 5 には DECB アドレスが入り、レジスタ 4 には IOSB アドレスが入り、レジスタ 1 には、異常終了コード X'800002FD' が入っています。

DECB の状況フィールド (DECB STAT=18) には、特定のエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
DECBSTAT=X'1F'	SOMER R	ページ固定エラーが検出されました。
DECBSTAT=X'20'	SOMER R	CCW 変換エラーが検出されました。
DECBSTAT=X'03'	SOMER R	IDAL 変換エラーが検出されました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

1、2、4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSAOS80

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0766

説明

IMS ITASK ディスパッチング中に、重大なシステム問題が検出されました。

分析

これは、DFSIDSP0 (IMS ITASK ディスパッチャー) によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、ECB の選択、ITASK の作成および終了のエラーの結果として発生します。

X'07' 以外のすべての理由コードの場合、レジスタ 8 に、問題の ECB の ECB 接頭部のアドレスが入っています。

異常終了 SVRB のレジスタ 15 には、以下のいずれかの理由コードが入っています。

コード 説明

X'01'

作動可能キューにある次にディスパッチされる ECB が、それ自体にチェーニングされています。

X'02'

動的 SAP ECB が非動的 SAP TCB に通知されていません。

X'03'

作動可能キューにある次にディスパッチされる ECB に、無効なチェーン・ポインタがあります。ポインタは、キューにある次の ECB のアドレスか、またはゼロでなければなりません。その代わりに、ディスパッチャー・コード X'0FC4E2D7' が入っています。

X'05'

IMS ITASK が、無効な IMS 保管域で終了しました。R13 で指示された保管域の先頭ワードが、ITASK SAP を指していませんでした。R13 が ITASK の元の保管域を指していないか、SAP ポインタがオーバーレイされたか、いずれかです。

X'07'

指定された ITASK 終了は IMS TCB の制御下にありません。

X'08'

再ディスパッチ対象の ECB は、以前に IWAIT の対象になっていません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIDSP0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0767

説明

IMS ディスパッチャーが IWAIT または ISERWAIT 呼び出しを処理中に、重大なシステム問題が検出されました。

分析

これは、DFSIDSP0 (IMS ITASK ディスパッチャー) によって発行される標準異常終了です。ISERWAIT または IWAIT ルーチンで検出されたエラーでは、分岐して SVC 13 が発行されます。

レジスター 8 には、問題の ECB の ECB 接頭部のアドレスが入っています。レジスター 14 には、IWAIT または ISERWAIT の呼び出し元のリターン・アドレスが入っています。

異常終了 SVRB のレジスター 15 には、以下の理由コードが入っています。

コード 説明

X'01'

IWAIT の呼び出し元の ECB にアクティブな ITASK がありません。

X'02'

IWAIT または ISERWAIT 呼び出しで、ディスパッチャーに渡された ECB が現在ディスパッチされている ECB ではありませんでした。

X'03'

TYPE=IXCTL が指定された IWAIT 呼び出しで、IWAIT 呼び出しのターゲット ECB の ECB 接頭部が無効でした。レジスター 5 に、無効な接頭部に関する理由を示す戻りコードが入っています。

コード 意味

X'04'

ECB はディスパッチャー・キューに入っています。

X'0C'

ECB ITASK はすでにアクティブになっています。

X'10'

ECB は、IWAIT 呼び出しの発行元とは異なる IMS TCB に割り当てられています。

レジスター 3 には、ターゲット ECB のアドレスが入っています。レジスター 7 には、現行 ECB のアドレスが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIDSP0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0768

説明

IMS ディスパッチャーが ISWITCH 呼び出しを処理中に、システム問題が検出されました。

分析

これは、モジュール DFSIDSP0 および DFSREPO0 によって発行される標準異常終了です。

X'09' から X'0B' までを除き、以下にリストされているすべての理由コードの場合、レジスター 8 は、問題の ECB (ITASK) の ECB 接頭部を指しています。レジスター 10 は ECB の SAP を指しています。X'01' 以外のすべてのコードの場合、レジスター 4 は、現在実行中の IMS TCB のディスパッチャー作業域を指しています。

異常終了 SVRB のレジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入っています。

コード 説明

X'01'

ISWITCH の呼び出し元がアクティブな ITASK ではありません。

X'02'

呼び出し元 ITASK の SAP のフラグに、ISWITCH がすでに ISWITCH TO= 呼び出しのための処理を進行中だったことが示されているか、または、ITASK が、IMS 制御 TCB の下で実行中に別の TCB に ISWITCH で切り替えようとしている従属領域であるか、いずれかです。

X'03'

呼び出し元 ITASK の SAP のフラグは、ISWITCH がすでに ISWITCH TO=RET 呼び出しのための処理を進行中だったことを示しています。

X'04'

ISWITCH TO=DEP 呼び出しで、ISWITCH のターゲット TCB は従属領域でしたが、ITASK のホーム従属領域ではありませんでした。

X'05'

ISWITCH 呼び出しで、ISWITCH ルーチンに渡された ECB が現在ディスパッチされている ECB ではありませんでした。このサブコードは、DFSIDSP0 の DFSISWIT サブルーチン (通常 TCB ISWITCH) または DFSREPO0 の DFSKXMSW サブルーチン (クロスメモリー ISWITCH) から発行されます。

X'06'

ISWITCH 後に再ディスパッチ中の ECB に無効な通知コードがあります。コードは、TO または RET でなければなりません。

X'07'

ECB は新規 TCB への ISWITCH のように再ディスパッチ中でしたが、SAP 内のフラグが、ISWITCH 処理されなかったことを示しています。

X'08'

従属領域シャットダウン用 ITASK が、IMS 制御領域 TCB 以外の TCB の下で実行されていました。

X'09'

アンスタック機能を実行するためにモジュール DFSDSPX0 が呼び出されましたが、ITASK スタックが空であった (アンスタックすべきものが無かった) か、現行のスタック項目索引が無効でした (スタックの終わりを超えていました)。

X'0A'

スタック機能を実行するためにモジュール DFSDSPX0 が呼び出されましたが、ITASK スタックがいっぱいでした (新規項目を追加する余地がありませんでした)。

X'0B'

アンスタック機能を実行するためにモジュール DFSDSPX0 が呼び出されましたが、現行のスタック索引が無効な項目を示しています。索引が範囲外にあるか、指示されているスタック項目がアクティブでない (有効なデータを含んでいない) か、いずれかです。

考えられる原因: 内部システム・エラー

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

緊急時再始動を実行します。

問題判別:

1、4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIDSP0、DFSREPO0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0769

説明

ディスパッチング・サブルーチンでクリティカル・システムの問題が検出されましたが、ディスパッチャー制御ブロックを初期設定しようとした

分析

これは、DFSIDSP0、イムス イベント ITASK ディスパッチャー、または IPOST、IXCTL、および INITECB のエラーのために DFSREPO0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB 内のレジスター 15 に、以下の理由コードのいずれかが入っています。

コード

説明

X'01'

INITECB 呼び出しで、初期設定されているイベント制御ブロック (ECB) がチェーン上にあったか、またはすでに待機していた。レジスター 8 は、ECB 接頭部を指しています。

X'02'

INITECB 呼び出しでは、初期設定されている ECB は、既にポストされており、キューに入れられています。レジスター 8 は、ECB 接頭部を指しています。

X'03''

INITECB 呼び出しで、初期設定されている ECB が通知されました。ディスパッチャーは通知されたキューに ECB を書き込もうとしたのですが、ECB が割り当てられた TCB が中断されました。レジスター 8 は ECB を指しています。レジスター 4 は、中断状態の TCB を指しています。

X'07'

IXCTL 呼び出しでは、転送先の ECB はすでにアクティブな ITASK になっています。レジスター 8 は現行の ECB 接頭部を指しています。レジスター 3 は、ターゲット ECB 接頭部を指しています。

X'08'

IXCTL 呼び出しでは、ECB は、UNINIT 呼び出しを失敗させるために転送されています。レジスター 9 に、UNINIT 戻りコードが入っています。R9=X'04' の場合、ECB 接頭部のチェーン・フィールドが無効でした。R9=X'10' の場合、ECB は現在実行中の ECB とは異なる TCB に割り当てられています。レジスター 8 は現行の ECB 接頭部を指して

います。レジスター 3 は、ターゲット ECB 接頭部を指しています。

X'09'

DFSKPXT 呼び出し (z/OS システム ブランチ・エンタリー POST) は、ECB がポストされていないときにクロスメモリー・モードで実行されました。レジスター 3 は ECB を指しています。

X'0A'

廃止された SCP ポスト・ルーチンが呼び出されました。

システムの処置

イムスは異常終了する。

オペレーターへの応答

緊急時再始動を実行する

問題判別:

1, 4, 5, 6, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSIDSP0、DFSREPO0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0770

説明

従属領域が ITASK を初期設定しようとしているときに、従属領域を OPEN または CLOSE しようとしているときに、システム・エラーが検出されました。

分析

これは、DFSIDSP0、イムス イベント ITASK ディスパッチャー、または DFSREPO0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB 内のレジスター 15 に、以下の理由コードのいずれかが入っています。

コード

説明

X'01'

ECB 接頭部エラー。SAP アドレスが設定されていません。

X'02'

ECB 接頭部エラー。ディスパッチャー作業域アドレスが設定されていないか、従属領域をオープンするための有効な TCB ではありませんでした。

X'03'

TCB テーブル項目が現在の TCB のディスパッチャー作業域に見つかりませんでした。

X'04'

従属領域のリカバリー・エレメントのエンキューが失敗しました。

X'05'

シャットダウン呼び出しが無効または再帰的です。

X'06'

従属領域の異常終了クリーンアップ・ルーチンが、制御領域以外の TCB から呼び出されました。

X'07'

従属領域異常終了クリーンアップ・ルーチンへの呼び出しで、現行 ITASK が従属領域に関連付けられていませんでした。

X'08'

DEP サインオフ DFSBCB のクイック保存が失敗しました。

X'09'

DEP サインオフ DFSBCB 取得 AWE が失敗しました。

X'0A'

DEP サインオフ 保管域が ITASK セット内にありません。

X'0B'

DFSBCB が LSO サインオン AWE について取得できませんでした。

システムの処置

従属領域は異常終了します。

オペレーターへの応答

メモリー・ダンプを使用して、制御領域をシャットダウンします。制御領域を再始動してから、従属領域を再始動してください。

問題判別

1、5、6 (制御および従属領域のダンプを保管する)、および 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSIDSP0、DFSREPO0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0773

説明

アプリケーションが、単一呼び出しバックアウトを必要とする ISRT または DLET 呼び出しの間にバッファ・ハンドラーから読み取りエラーまたはオープン・エラーを受け取り、その呼び出し中に行われた更新を除去しました。単一呼び出しバックアウトが、次のいずれかの理由で失敗しました。

- バッチで動的バックアウトのディスク・ログが指定されていません。
- PSB 内の他の PCB 内の位置が調整されました。
- バックアウトに失敗した

分析

これは、DFSDA00 が単一呼び出しバックアウトを実行できない場合に、DFSDDLCO または DFSDDLCO によって発行される疑似異常終了です。問題を診断するには、制御ブロックの SNAP が必要になる場合があります。バッチ領域の場合は、動的 backout=Y を持つディスク・ログが指定されていることを確認してください。すべての領域について、PSB 内の他の PCB 内の位置が変更された (PSTDLSB=PSTDLSB7)、または DFSRDBC0 がゼロ以外のコードを戻したために、異常終了 0773 が発生することがあります。後者の場合、DFSRDBC0 は、DFSDLA00 (レジスター 7 の戻りコード) の前のブロックを SNAP にします。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

読み取りエラーまたは単一呼び出しバックアウト障害の原因を訂正してください。

問題判別:

1, 17

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDDLCO、DFSDDLCO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0774

説明

モジュール DFSPLEX0 または DFSPLEX0 からのリソースのロックを待機していた PST が、X'60' または X'6F' ではない通知後コードを持つ待ち状態からポストされました。X'60' の通知コードは、デッドロックの結果と

して PST がポストされるときに使用されます。X'6F' ポスト・コードは、PST が待機中のロックを認可されたときに PST を開始します。

分析

異常終了ダンプのレジスター 10 に、PST のアドレスが含まれています。PST の最初のワードは、無効なポスト・コードが含まれている DECB です。

メモリー・ダンプがイムス 制御領域からのものである場合は、ポストを示す X'06' 項目を見つけるために、Dispatcher トレースをスキャンする必要があります。このエントリーには、ポストが開始された住所が含まれます。

メモリー・ダンプがシックス 領域からのものである場合は、そのポストのエントリーについてシックス トレースをスキャンする必要があります。シックス トレース項目を復号する際にヘルプが必要な場合は、シックス サポート・グループに連絡してください。

システムの処置

イムス は異常終了する。

プログラマーの応答

メモリー・ダンプがイムス 制御領域からのものである場合は、Dispatcher トレースをスキャンして、ポストを示す X'06' エントリーを見つけます。このエントリーには、ポストが開始された住所が含まれます。

メモリー・ダンプがシックス 領域からのものである場合は、シックス トレースをスキャンして、そのエントリーのエントリーを探してください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSPLEX0

0775

説明

IMS がこれ以上 ENQ/DEQ ブロックを獲得できないか、または PIMAX パラメーターで指定されたストレージ量を使い尽くしたときに、この異常終了が発行されます。標準異常終了の場合と疑似異常終了の場合があります。

ケース 1

標準異常終了がラベル XC10ABND で発行されず、異常終了に入ったときのレジスターまたは異常終了 SVRB のレジスター (異常終了 0775 メモリー・ダンプから取得) を使用して、どの CASE1 項目が現在の障害に当てはまるかを判別してください。

ケース 2

疑似異常終了がラベル NOCORE でセットアップされます。メッセージ DFS2450I に関する説明が、異

常終了 0775 の原因を判別し、解決策を得るために役立ちます。

詳しくは、メッセージ DFS2450I を参照してください。メッセージ DFS2450I が発行されなかった場合、PIMAX パラメーターで指定されたストレージ量を使い果たした可能性があります。DB/DC 環境ではメンバー DFSPBIMS の、または DBCTL 環境ではメンバー DFSPBDBC の PIMAX パラメーターのサイズを増やします。バッチ・データ共用については、「CICS Transaction Server for z/OS Messages and Codes」(GC34-6827) を参照してください。

分析

DFSFXC10 がストレージを獲得できなかったことが原因で異常終了が発行される場合は、メッセージ DFS2450I も発行されます。このメッセージでは、SSCDROUT から取得された宛先コードが使用されます。デフォルトの宛先コード 2 および 7 では、メッセージがマスター・コンソールに送付されます。マスター・コンソールは、メイン・システム・コンソール、およびシステム定義中にマスター・コンソールとして定義されたその他の任意のコンソールです。正しいコンソールにメッセージが送られていない場合、IMSCtrl マクロの MCS パラメーターを使用して、宛先コードを変更することができます。

このメッセージに、獲得できなかったストレージの ENQ/DEQ ブロックの名前が示されています。この名前の最後の 2 桁または 3 桁は、ブロック番号です。メッセージには、異常終了を開始した原因が何かを判別する際に役立つ理由コードも含まれています。以下に、理由コードと意味、および取るべき処置を示します。

コード	意味	処置
8	最初の ENQ/DEQ ブロック用として使用可能なストレージがない。メッセージにブロック 01 が示され、標準異常終了が発生します。	z/OS の場合、CSA の割り振りを増やします。
0	最初または最後のブロックでないブロックが要求された。これは、PIMAX パラメーターで指定されたストレージ量を使い果たしたわけではなく、別のストレージ・ブロックに関する GETMAIN が失敗したということです。	z/OS の場合、CSA の割り振りを増やします。

メッセージ DFS2450I が発行されなかった場合、PIMAX パラメーターで指定されたストレージ量を使い果たした可能性があります。DB/DC 環境ではメンバー DFSPBIMS の、または DBCTL 環境ではメンバー DFSPBDBC の PIMAX パラメーターのサイズを増やします。エンキューおよびデキューのストレージ要件については、[エンキューおよびデキュー要件の指定 \(システム定義\)](#) を参照してください。このトピックでは、データベースの保全性を維持するためにデータベース更新イベントを内部ストレージに保管および解放する方法の概要を説明します。実行されている MPP および BMP ごとにストレージを個別に見積もり、次にその見積もりを合計します。異常終了 0775 を回避できるように、PIMAX パラメーターの値はエンキュー/デキューのテーブル項目を保持できる十分な大きさにする必要があります。



重要: BMP でチェックポイントを取る回数が多いほど、必要な合計ストレージ・サイズが減少します。CICS の下で実行していて、DBCTL を使用していない場合は、PIMAX および PIINCR パラメーターで指定する値の取り扱いが異なります。CICS 初期設定パラメーターは、最大ストレージを指定した CORE の 2 番目のパラメーターをオーバーライドします。

この異常終了がなおも続く場合、プログラム分離 (PI) トレース (/TRACE コマンドを参照) を実行し、DFSERA10 を使用して結果を DFSERA40 出力ルーチンで出力します。この結果を分析して、この異常終了の発生時に未処理のままになっていた PST 当たりの ENQ の数を判別する必要があります。続いて、前に説明した数式の PST で使用して、必要なストレージの合計サイズを再計算します。

メッセージ DFS2450I が見つからない場合は、システム・メモリー・ダンプを取ってください。このメモリー・ダンプは、どの CASE 2 障害が発生したのかを判別するのに役立ちます。

CASE 1:

キー	ラベル	説明
Reg0= 負の値 Reg7=REQQ EL	ALTWC 2	このエンキュー要求は共用可能で、待機の必要はありませんでした。待機カウントが減少すると、値が負になって異常終了が発行されます。
(Reg5+X'00') Reg8= 全桁 0 REQTLW BIT4=0	ALTWC ER4	この要求の QEL では、デッドロック保護に割り当てられたマトリックス行がありませんでした。要求が ABORT を指示しなかったため、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1= 全桁 0 PRMENCTN BIT1=1 (Reg10+X'0 6')	GTCIN T	内部呼び出し元が QCB を要求 しました。これ以上 GETMAIN 対象になるコアが なく、使用可能な内部 QCB が ない場合は、異常終了が発行さ れます。
XCGMID2=X 'FB' (Reg11+X'6 2')	XC10W TOA	最初の ENQ/DEQ ブロックに ついてコアを取得できなかった ので、異常終了が発行されま す。
Reg6=BAL(A LTWC) Reg14=BAL	ENQ31	このラベルの後には XC10ABND への 2 つの BAL があります。この新しい要求 は、既存の要求と制御を共用し ません。待機カウントを調整 するルーチンから戻った際に、 待機カウントが負またはゼロ の場合は、異常終了が発行され ます。
Reg6=BAL(A LTWC) Reg14=BAL	ENQ31 C	このラベルの後には XC10ABND への 3 つの BAL があります。待機カウントを 調整するサブルーチンから戻 った際に、カウントが負になっ ていなかったか、または調整が 打ち切られたため、異常終了が 発行されました。
Reg2 & Reg3=QCBI D Reg4=SAVQ CR Reg9=REQQ CB Reg14=BAL	QCDEQ 3	DEQ 要求のための QCB を検 出するサブルーチンから戻っ た際に、QCB が見つからな かった場合、異常終了が発行さ れます。
Reg9=REQQ CB Reg14=BAL	PURGE	リソースをページする試みで は、このリソースの QCB を見 つけるために QCB チェーンが 検索されます。QCB が見つ からなかった場合、異常終了が発 行されます。
Reg5=REQB LK ベース Reg6=BAL(A LTWC)	ADJUP 2	この要求および現在このリソ ースの制御を待っている要求 の待機カウントを調整するた めの呼び出しが行われました。 待機カウントを調整する サブルーチンから戻った際に、 待機カウントが負になった場 合、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg5=REQP REQ Reg14=BAL	ADJUP 3A	REQ を更新しようとしてい て、REQ が見つからないまま チェーンの終わりが検出され た場合は、異常終了が発行され ます。
Reg6=BAL(A LTWC) Reg14=BAL	ADJUP 3B	待機カウントを調整するサブ ルーチンから戻った際に、不可 能条件が示されました。調整 は終了し、異常終了が発行され ます。
Reg6=BAL(A LTWC) Reg14=BAL	ADJDN	このラベルの後には XC10ABND への 2 つの BAL があります。待機カウントを 調整するサブルーチンから戻 った際に、正の値または不可能 条件のいずれかが示されまし た。調整は終了します。これ らのエラー条件について、異常 終了が発行されます。
Reg5=REQP REQ Reg14=BAL	ADJDN 2	QCB で複数の要求が指示され ている場合は、次に処理する要 求を見つけるために検索が行 われます。次の要求が見つ からない場合、異常終了が発行 されます。
Reg6=BAL(A LTWC) Reg14=BAL	ADJDN 3	このラベルの後には XC10ABND への 2 つの BAL があります。待機カウントを 調整するサブルーチンから戻 った際に、正の値または不可能 条件のいずれかが示されまし た。調整は終了します。これ らのエラー条件について、異常 終了が発行されます。
Reg5-=CUR RREQ Reg7=REQQ EL Reg8=0 Reg14=BAL	ALTWC ER1	デッドロック検出に使用可能 な列がなく、無効な要求が行 われたため、異常終了が発行さ れます。
Reg5-=CUR RREQ Reg7=REQQ EL Reg8=0 Reg14=BAL	ALTWC ER3	デッドロック検出に使用可能 な行がなく、無効な要求が行 われたため、異常終了が発行さ れます。
Reg14=BAL	ALTWC Y1	待機カウントの調整時にカウ ントが負になったため、異常終 了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg4=0 Reg14=BAL	RMVRE Q1	QEL および QCB から REQ を除去しようとしたとき、REQ が見つからなかったため、異常終了が発行されます。
Reg4=0 Reg14=BAL	RMVRE Q3	このルーチンが QCB から除去する要求を検出したが、その前の要求を検出できない場合に、異常終了が発行されます。

ケース 2:

キー	ラベル	説明
Reg6=BAL PRMFNCTN=0 Reg7=0 Reg10=PST	NOTF P2	事前初期設定が完了しました。要求された制御レベルがセットアップされ、QEL を割り当てる試みが行われます。GETQCB が QCB を割り当てることができなかった場合、異常終了が発行されます。
Reg6=BAL PRMFNCTN=01 Reg14=BAL	TSTFE NQ	これはエンキュー要求ではなく、対応する QCB が見つかりませんでした。GETQCB が QCB 用のスペースを獲得できなかったため、異常終了が発行されます。
Reg8=PRIOR QCB	NOTF ASTP からの NOCO RE1	QCB が取得された後で REQ 用に使用可能なスペースがありませんでした。QCB が解放され、異常終了が発行されます。
Reg8=BAL PRMFNCTN=0	ENQ3 OA	これはリソースに対する最初の要求です。QEL によって保持または要求されたリソース・リストに新規リソース ID を追加するルーチン (ADDID) が、ID を追加するスペースがないことを検出したため、異常終了が発行されます。
Reg0=0 PRMFNCTN= '03' Reg8=BAL	ENQ3 1	リソースに対する新規要求は、既存の要求と制御を共有しません。リソース・リストへの要求 ID の追加 (ADDID) が試行されました。使用可能なスペースがなかったため、異常終了が発行されます。
REQPCTLW= REQCTLW Reg6=BAL(A LTWC)	ADJU PEO	この要求および現在このリソースの制御を待っている要求の待機 カウントを調整するために、

キー	ラベル	説明
		ALTWC に対する呼び出しが行われました。 要求が強制終了された場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IMS ENQ/DEQ に使用可能な最大ストレージを使用しているにもかかわらず、なお疑似異常終了 0775 を受け取る場合は、エラーが検出された時点の通常の ABEND ダンプを取ってください。メモリー・ダンプを取るには、ENQXTA への無条件ブランチを XC10ABND (ラベル NOCORE から数命令後にある) への無条件ブランチに変更します。

システムの処置

ケース 1 の場合、IMS 制御領域が異常終了します。ケース 2 の場合、アプリケーション・プログラムが異常終了します。

オペレーターの応答

ケース 1 の場合は、ありません。ケース 2 の場合は、領域をいくつか停止してシステム負荷を減らしてから、示された SMB および PSB を開始します。BMP がチェックポイントを取らずに、使用可能な ENQ スペースをすべて使用した場合、BMP を取り消します。

プログラマーの応答

ケース 1 の場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要請してください。ケース 2 の場合、ENQ に使用可能な最大ストレージを増やすか、または ENQ の要求を減らすことによって、問題を修正します。

問題判別:

ケース 1 の場合: 1、2、4、6、13

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFXC10

関連資料

[CICS メッセージおよびコード](#)

関連情報

[DFS2450I \(メッセージおよびコード\)](#)

[IMS 問題判別 \(メッセージおよびコード\)](#)

0776

説明

ROLB 呼び出しの処理中に、動的バックアウトで障害が発生しました。ROLB 呼び出しに必要なチェックポイントが現行のオンライン OLDS に含まれていない場合、この異常終了が発生します。OLDS の割り振りが膨大

な処理量と比べて少なすぎる場合、OLDS が循環した可能性があります。

分析

これは、モジュール DFSRBOIO および DFSFXC50 によって設定され、DFSECP10、DFSECP20、または DFSFDMP0 によって発行される疑似異常終了です。

DFSECP10 と *DFSECP20* の場合:

この異常終了に伴うメッセージ DFS981I を使用して、障害の理由を判別する必要があります。DFS981I メッセージに名前が示されたデータベースに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティーを実行する必要があります。この異常終了については、ダンプは取られません。

DFSFDMP0 の場合:

この異常終了に伴うメッセージ DFS0832I を使用して、障害の理由を判別する必要があります。DFS0832I メッセージに名前が示されたデータベースに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティーを実行する必要があります。この異常終了については、ダンプが取られません。

システムの処置

ROLB 呼び出し障害が発生した IMS 従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

DFSECP10 と *DFSECP20* の場合:

この異常終了に伴うメッセージ DFS981I を参照して、障害の理由を判別します。メッセージで指定されたデータベースに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティーを実行します。

DFSFDMP0 の場合:

この異常終了に伴うメッセージ DFS0832I を参照して、障害の理由を判別します。メッセージで指定されたデータベースに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティーを実行します。

問題判別

DFSECP10 と *DFSECP20* の場合:

メッセージ DFS981I を参照して、障害の理由を判別します。

DFSFDMP0 の場合:

メッセージ DFS0832I を参照して、障害の理由を判別します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSECP10、DFSECP20、DFSFDMP0

関連情報

[DFS981I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS0832I \(メッセージおよびコード\)](#)

0777

説明

潜在的なリソースがデッドロック状態にあったため、または外部サブシステム・リソースの場合は、リソースが利用不可であるかデッドロック状態にあったため、アプリケーション・プログラムが異常終了しました。

この異常終了は、作業単位を強制終了し、場合によっては、関連のトランザクション・メッセージをスケジュール変更させるために使用されます。メッセージがスケジュール変更される場合、異常終了メッセージは生成されません。IMS は、67FF デッドロック・レコードを生成し、これは IMS ログに書き込まれます。また、いかなる場合でも、07 レコード完了コードは U0777 を示します。CICS DBCTL スレッド・メッセージは CICS に関連付けられているため、スケジュール変更できません。スレッドは異常終了します。

分析

これは、モジュール DBFIRC10、DBFLRH00、DFSESPRO、DFSLRH00、DFSFXC10、DFSCMD30、または DFSCMD60 によって発行される疑似異常終了です。異常終了が DFSESPRO によって発行された場合、外部サブシステムは IMS に、デッドロック状態またはリソース使用不可状態を示す、NORMAL CALL 戻りコード 04 または CREATE THREAD 戻りコード 24 を渡しました。外部サブシステムは、問題の原因を示すメッセージを発行している可能性があります。外部サブシステムを参照して、リソースが使用不可になっている原因を判別する必要があります。IMS は以下の処置を取ります。

- メッセージ・ドリブン・プロセスの場合、入力メッセージを入力キュー (MPP または IFP) の先頭に戻します。
- コミットされていないすべてのメッセージ出力およびデータベース更新を廃棄します。

DFSCMD30 または DFSCMD60 から発行された場合は、この異常終了により、アプリケーション・プログラムから ICMD 呼び出しまたは CMD 呼び出しが発行されて、DBR コマンド、MODIFY COMMIT コマンド、および MPP 領域の間の潜在的デッドロックが切断されます。

アプリケーション・プログラムが PROCOPT=GOx を使用して IMS HALDB 区画にアクセスし、その区画に対してデータベース・コマンドが進行中であるために区画が使用不可であり、かつ DFSVSMxx PROCLIB メンバーで PPUR=Y が指定されている場合は、U0777 異常終了も発生する可能性があります。この場合、関連するメッ

セージ (ある場合) はスケジュール変更されますが、67FF レコードは生成されません。

外部サブシステムにアクセスする、非メッセージ・ドリブン BMP がリソース使用不可状態を受け取り、PSB に GSAM PCB が含まれている場合は、U0777 異常終了も発生する可能性があります。この場合に取りられる処置は、関連する PSB の PSBGEN 内の GSROLBOK パラメーターの指定によって異なります。GSROLBOK=YES が指定されている場合、アプリケーションは異常終了 U0777 で終了しませんが、ESS 呼び出しで障害標識を受け取り、その後内部 IMS ROLB が続いています。DB2 の場合、これは SQL CODE -911 です。それ以外の場合、BMP は、異常終了 U0777 で異常終了します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。MPP 領域または IFP 領域で実行されていた場合、処理中のメッセージは自動的にスケジュール変更されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

BMP が失敗した場合は、ジョブを再実行してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFIRC10、DBFLRH00、DFSESPR0、DFSLRH00、DFSFXC10、DFSCMD30、DFSCMD60

0778

説明

ユーザー・アプリケーション・プログラムによって ROLL 呼び出しが発行されたか、あるいは、別の領域でのデータベース・バックアウト・ユーティリティーで障害が発生し、内部的に発行された ROLL 呼び出しの結果としてすべての領域が終了しました。

分析

0778 は DL/I 呼び出しアナライザー・プログラム DFSDLA00 によって検出される疑似異常終了です。この問題を診断するには、制御ブロックの SNAP が必要です。フィールド選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSER30 を指定する必要があります。

この異常終了を開始する状態は 2 つあります。ユーザー発行の ROLL 呼び出し、またはデータベース・バックアウト・ユーティリティーの障害です。最初の状態の場合、ユーザー・プログラムが、実行した処理に何か無効

な点があると判断したときに、ROLL 呼び出しを発行します。最後の同期点以降のすべてのデータベース・アクティビティーはバックアウトされ、ユーザーが実行中の従属領域はダンプなしで終了します。2 番目の状態の場合、データベース・バックアウト・ユーティリティーの障害が生じた結果、すべての従属領域が終了します。この状態の SNAP には、バックアウト障害の発生時にアクティブであった他の従属領域の制御ブロックが含まれています。前に述べたように、従属領域のダンプは出力されません。

バックアウトが完了すると、元のトランザクションは (廃棄可能であれば) 廃棄されます。再実行はされません。リモート・トランザクション・プログラムに通知するために、システムは z/OS APPC verb の **ATBCMDC TYPE (ABEND)** に TPI を指定して発行します。この結果、すべてのアクティブな会話 (アプリケーション・プログラムによって作成されたものも含めて) すべて **DEALLOCATED TYPE (ABEND_SVC)** で処理されます。

メッセージ処理プログラム (MPP) では自動的にスケジュールを変更する処理が実行されます。

キー	ラベル	説明
状態 1	FUNCLOW	ユーザー・アプリケーション・プログラムが ROLL 呼び出しを発行しました。
状態 2	DCPCBOK、RET000	別の領域で失敗したデータベース・バックアウト操作の結果、他のアクティブな従属領域が終了します。

考えられる原因: ユーザー発行の ROLL 呼び出し (アプリケーション・プログラム・データベース・バックアウトの検査) が異常終了しました。この状態の場合、異常終了 0778 は正常です。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは、ストレージ・ダンプなしで異常終了します。

オペレーターの応答

メッセージ処理プログラム (MPP) では自動的にスケジュールを変更する処理が実行されます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA00

0779

説明

アプリケーション・プログラムが、同期点間で、PSB の PSBGEN ステートメントの MAXQ パラメーターで指定

された数より多くの *Q コマンド・コードを発行しようとしてしました。

分析

これは DL/I 呼び出しアナライザー・モジュール DFSDLA00 によって開始される疑似異常終了です。レジスター 12 は、基底レジスターです。

異常終了に入ったときに、アプリケーション・レジスターが PST の 13 番目の保管域で検出された可能性があります。これらのアプリケーション・レジスターは、ラベル PSTSAV13 で始まる保管域内の、オフセット「C」で始まります (システム・ログに書き込まれた制御ブロックのダンプを使用)。

DFSDLA00 は、*Q コマンド・コードが指定されたか呼び出しが処理中であると判別すると、PSBCQCNT (現在の *Q カウント) を PSBMQCNT (最大 *Q カウント) と比較します。PSBCQCNT は PSBMQCNT より小さい必要があります。そうでない場合、異常終了が発行されます。これらのフィールドは両方とも PSB 接頭部に含まれています。PSBMQCNT に保管される値は、その PSB の PSBGEN ステートメントの MAXQ フィールドにコーディングされている処理の結果です。これは、同期点と同期点の間でアプリケーション・プログラムに許される *Q コマンドの最大数を表します。これは、アプリケーションが必要以上に多くのリソースをエンキューし、ループに陥る可能性を許さないためのチェックとして使用されます。

システムの処置

制御領域は正常に継続するが、このメッセージ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

アプリケーション・プログラムにエラー (例えば、ループ) がある場合、それを訂正します。PSB の MAXQ の値が小さすぎる場合、PSB を訂正してから、ACB を再生成します。

問題判別

4、19

最新の同期点以降に発行された *Q コマンドの数の累算が PSB に入っています。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0780

説明

IMS ラッチ・ルーチンが重大なシステム・エラーを検出しました。

分析

これは、モジュール DFSCLM00、DFSCLM10、DFSCLM20、DFSDBDR0、DFSDTTAA0、および DFSASK00 によって発行される標準異常終了です。DFSCLM00、DFSCLM10、または DFSCLM20 から発行された異常終了の場合、メッセージ DFS655I のテキスト、レジスター 15、または PSTLATRC フィールドに、異常終了サブコードが入っています。レジスター 14 には、CLM モジュール内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 10 には、入力パラメーター域のアドレスが入っています (DFSCLM dsect を使用)。DFSDBDR0 から発行された異常終了の場合、レジスター 15 にモジュール DFSCLM00 からの戻りコードが入っています。

異常終了の時点で要求されたラッチ・タイプを判別するには、パラメーター域の CLMPTYPE を調べます。

異常終了時に作業単位 (UOW) が所有していたラッチを判別するには、SAPACLE を使用して、SAP (Save Area Prefix: 保管域接頭部) に付加されている共通ラッチ・リスト・エレメント (CLLE) ブロックを確認します。CLLE 定義を以下にリストします。

以下のコードは DFSCLM00 異常終了に関するものです。DFSCLM00 は、リクエストのラッチを取得します。

コード 説明

X'001'

予約済み。

X'002'

リクエストは、現在、このレベルで割り振られたラッチを所有しています。

X'003'

要求されたラッチ・レベルは、保持されている最高ラッチより小です。

X'004'

排他的ラッチのリクエストは、要求されたラッチの現在の所有者です。

X'005'

ラッチ・マネージャーの ECB の通知コード。待機キューはラッチ・マネージャー通知コードではありません。

X'006'

共用ラッチのリクエストは、要求されたラッチの現在の所有者です。

以下のコードは、CLM01000 (DFSCLM00 のサブルーチン) 異常終了に関するものです。CLM01000 は、ラッチ・リクエストに DLLE を割り振ります。

**コード
説明**

X'011'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CLLE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'012'

ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振りができません。

X'013'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CLLE を割り振るために使用されます。

X'014'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CLLE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'015'

非 ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振りができません。

X'016'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CLLE を割り振るために使用されます。

以下のコードは、CLM01000 (DFSCLM00 のサブルーチン) 異常終了に関するものです。CLM01000 は、ラッチ・リクエスターに DLLE を割り振ります。

**コード
説明**

X'011'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CLLE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'012'

ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振りができません。

X'013'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CLLE を割り振るために使用されます。

X'014'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CLLE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'015'

非 ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振りができません。

X'016'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CLLE を割り振るために使用されます。

以下のコードは DFSCLM10 異常終了に関するものです。DFSCLM10 リクエスターのラッチを解放します。

**コード
説明**

X'102'

リクエスターはこのレベルで割り振られたラッチを所有していません。

X'103'

リクエスターは、要求されたラッチの現在の所有者ではありません。ラッチ要求モードは排他的です。

X'104'

ラッチ要求は共用で、リソースが共用モードではありません。

X'105'

ラッチ要求は共用で、リソース・カウントが正です。

以下のコードは CLM11000 (DFSCLM10 のサブルーチン) 異常終了に関するものです。CLM11000 は、ラッチ・リクエスターの CLLE を割り振り解除します。

**コード
説明**

X'111'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスターの CLLE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます

X'112'

ITASK リクエスター用の CLLE ブロックの割り振り解除ができません。

X'113'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスターの CLLE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます

X'114'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスターの CLLE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます

X'115'

非 ITASK リクエスターの CLLE ブロックの割り振り解除ができません。

X'116'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスターの CLLE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます

以下のコードは DFSCLM20 異常終了に関するものです。DFSCLM20 は、障害が起こった作業単位 (UOW) (つまり SAP) によるラッチをリカバリー (解放) します。

**コード
説明**

X'201'

DFSCLM20 が、無効な通知コードで通知されました。DFSCLM20 は、初期設定ルーチンによって通知されます。DFSCLM20 は AWE プロセッサです。

X'202'

リカバリーするラッチ・タイプが無効です。

X'203'

渡されたラッチ・モード (共用、排他的、任意) が無効です。

X'204'

リカバリー中の排他的ラッチは、SAP が所有していません。

X'205'

排他的ラッチ - リカバリー出口ルーチンが指定されていません。

X'206'

排他的ラッチ - リカバリー出口ルーチンは指定されていますが、何も提供されていません。

X'207'

排他的ラッチ - リカバリー出口ルーチンが指定されて駆動されましたが、障害が発生し、ゼロ以外の戻りコードが返されました。

X'208'

共用ラッチが所有されていません。

X'209'

共用ラッチ - リカバリーされるラッチ・タイプに対してリカバリー出口ルーチンが指定されましたが、ルーチンのアドレスがゼロでした。

X'20A'

共用ラッチ - リカバリー出口ルーチンが指定され、呼び出されました。リカバリー出口ルーチンは、ラッチがリカバリー可能ではないことを示す、ゼロ以外の戻りコードを返しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

問題の原因を判別して、IMS を再始動してください。

問題判別:

4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCLM00、DFSCLM10、DFSCLM20、DFSDBDR0、DFSDDTA0、DFSASK00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0783

説明

DMB および PSB プール・スペース・マネージャー (DFSDPDM0) が、マスター PDIR のチェーン上にない PSB のスペースを削除して解放しようとした。

分析

これは、モジュール DFSDPDM0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 8 は BAL レジスターとして使用されます。レジスター 7 は、削除中の PDIR を指しています。レジスター 10 は、PST を指しています。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

4 および 5、または 25

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDPDM0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0785

説明

IMS は、従属領域またはスレッドの異常終了時に、未完了のシステムの重大な待機が進行中であることを検出しました。

分析

DFSASK00、DFSDDTA0:

スレッドでシステムの重大な待機が進行中であったときに、従属スレッドで異常終了が発生しました。メッセージ DFS4722I が発行され、従属スレッドのタイプと、abend0785 の原因となった異常終了が示されます。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答:

問題の原因を判別して、IMS を再始動してください。

問題判別:

4、5、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSASK00、DFSDTTAA

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0790

説明

IMS USE マネージャー・ルーチンが重大なシステム・エラーを検出しました。

分析

これは、モジュール DFSUSE00、DFSUSE10、または DFSUSE20 によって発行される可能性のある標準異常終了です。

レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。レジスター 14 には、USE モデル内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 10 には、DFSUSE00 および DFSUSE10 (DFSUSE20 のレジスター 9 を使用) の入力パラメーター域のアドレス (DFSUSE DSECT を使用) が入っています。

DFSUSE00 は、リクエスターのために In use、Lock、Connect、Merge、または Inquire 機能を実行します。

コード

説明

X'001'

予約済み。

X'002'

無効なブロック・タイプが指定されたか、または USE アンカー・ポインターがゼロです。

X'003'

リクエスターが、Lock 機能を発行する前に In-use 機能を発行しませんでした。

X'004'

INUSE/LOCK/CONNECT 待機キューが、USE マネージャー以外のユーザーによって通知されました。

X'005'

Use request = LOCK。リクエスターの Use List (CULE) は、エレメントがすでにリソースに割り振り済みであることを示していますが、そのエレメントがリソース・エレメント・チェーンに含まれていません。

X'006'

User request = LOCK。リクエスターは、リソースの現在のロック所有者です。

X'007'

User request = LOCK/CONNECT。この作業単位 (UOW) に対して、別の INUSE/LOCK/CONNECT がアクティブになっています。UOW は、アクティブな LOCK/CONNECT を 1 つしか持つことはできません。追加要求により、デッドロックが発生する可能性があります。

X'008'

ユーザー要求は INUSE でした。リクエスターは、リソースの現在の共用者です。

X'009'

ユーザー要求は INUSE/LOCK/CONNECT でした。リソースは論理的に削除されました。

X'010'

ユーザー要求は MERGE でした。リクエスターの取り出し元リソースにロックがありません。

USE01000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、CULE を割り振ってリクエスターをラッチします。

コード

説明

X'011'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CULE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'012'

ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振りができません。

X'013'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CULE を割り振るために使用されます。

X'014'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。CULE 用の DFSBCB00 を呼び出すため、AWE の割り振りを試行中です。

X'015'

非 ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振りができません。

X'016'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CULE を割り振るために使用されます。USE01000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が CULE を割り振り解除します。

X'021'

予約済み

X'022'

ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振り解除ができません。

X'023'

予約済み

X'024'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB00 を呼び出して CULE を解放するために、AWE の割り振りを試行中です。

X'025'

非 ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振り解除ができません。

X'026'

非 ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。AWE は、CULE を割り振り解除するために使用されます。

X'061'

User request = INUSE。再試行中に、該当エレメントがリソース・エレメント・チェーン上に見つかりませんでした。

X'062'

INUSE/LOCK/CONNECT 待機キューが、USE マネージャー以外のユーザーによって通知されました。

X'063'

User request = INUSE/LOCK/CONNECT。リソースは論理的に削除されました。

USE03000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、DCSL ラッチを割り振ります。

USE07000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、CONV ラッチを割り振ります。

コード**説明****X'041'**

CULEF2LS または CULEF2LE のいずれかが設定されていません。この問題は、USE Manager 内部エラーです。

X'042'

予約済み

X'043'

予約済み

X'044'

ラッチはすでに所有されています。

X'045'

ラッチ階層違反が発生しました。

X'046'

排他的ラッチを取得できませんでした。

X'047'

共用ラッチを取得できませんでした。

X'048'

ラッチ・マネージャーで内部エラーが発生しました。

USE04000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、DCSL ラッチを解放します。

USE08000 (DFSUSE00 内のサブルーチン) が、CONV ラッチを解放します。

コード**説明****X'051'**

リクエスターがそのラッチを所有していません。

X'052'

リクエスターに共通ラッチ・リスト・エレメント (CLLE) がありません。

DFSUSE10 は、No-use、Unlock、または Disconnect 機能を実行します。

コード**説明****X'101'**

共通使用エレメント・ブロック (CULE) が作業単位 (UOW) に割り振られていません。

X'102'

無効なブロック・タイプが指定されたか、または USE アンカー・ポインターがゼロです。

X'103'

request = NOUSE の場合、リクエスターはこのリソースに対するアクティブな INUSE を持っていません。request = UNLOCK/DISCONNECT の場合、リソースに対して LOCK/CONNECT が実行されなかったか、またはリソース・ヘッダーがゼロです。

X'104'

トークン使用リストの workID/callID が、パラメーター・リストの workID/callID に一致しません。

X'105'

ロック使用キュー・ロジックで、無効な通知コードが検出されました。

X'106'

予約済み。

X'107'

リクエスターが、要求されたリソースに対する use 所有権を持っていません。

USE11000 (DFSUSE10 のサブルーチン) が、ラッチ・リクエスターの CULE を割り振り解除します。

コード**説明****X'111'**

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスター用の CULE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます。

X'112'

ITASK リクエスター用の CULE ブロックの割り振り解除ができません。

X'113'

ITASK リクエスター用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。DFSBCB 呼び出しを使用して

リクエストの CULE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます。

X'114'

非 ITASK リクエスト用の AWE ブロックの割り振りができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスト用の CULE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます。

X'115'

非 ITASK リクエスト用の CULE ブロックの割り振り解除ができません。

X'116'

非 ITASK リクエスト用の AWE ブロックの割り振り解除ができません。DFSBCB 呼び出しを使用してリクエスト用の CULE を割り振り解除するには、AWE ブロックが使用されます。

X'120'

無効なブロック・タイプが指定されたか、または use アンカー・ポイントがゼロです。

DFSUSE20 が、In use 所有権を AWE キューからリカバリー (解放) します。

コード 説明

X'201'

初期設定 - アイドル状態からの無効な通知コード

X'202'

無効なりカバリー・タイプが指定されました。

USE21000 (DFSUSE20 のサブルーチン) が、作業単位の使用を割り振り解除します。

コード 説明

X'210'

無効なブロック・タイプが指定されました。

X'211'

無効なりカバリー・トークンが指定されました。

X'212'

作業単位の CULE テーブルは、リソースがロックされていることを示しています。しかし、リソース・ヘッダー所有権がその作業単位に割り振られていません。

X'213'

作業単位の CULE テーブルは、リソースが使用中であることを示しています。しかし、リソース・ヘッダー所有権がどの作業単位にも割り振られていません。

X'214'

作業単位の CULE テーブルは、リソースが使用中であることを示しています。しかし、リソース・ヘッダー所有権がその作業単位に割り振られていません。

DFSSLC00 と DFSSLC10 の場合:

IMS ラッチ・ルーチンが重大なシステム・エラーを検出しました。

異常終了 0790 は、モジュール DFSSLC00 または DFSSLC10 によって発行される可能性のある標準異常終了です。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。レジスター 14 には、SLC モジュール内でエラーが検出された位置のアドレスが入っています。レジスター 10 には、DFSSLC00 および DFSSLC10 (DFSSLC20 のレジスター 9 を使用) の入力パラメーター域のアドレス (DFSSLC DSECT を使用) が入っています。パラメーター域の SLCPTYPE は、異常終了の時点で要求されたラッチ・タイプを判別します。

リクエストのラッチ取得に関する DFSSLC00 GET のサブコードは、以下のとおりです。

コード 説明

X'01'

渡された ECB が SAP に付加された ECB と一致しませんでした。

X'02'

AWE 用の DFSBCB GET にパラメーター域を割り振ることができません。

X'03'

ラッチ割り振りが失敗しました。ラッチはすでに保持されています。

X'04'

ラッチ割り振り解除が失敗しました。

X'05'

パラメーター域の割り振り解除ができません。

リクエストのラッチ解放に関する DFSSLC10 REL のサブコードは以下のとおりです。

コード 説明

X'01'

渡された ECB が SAP に付加された ECB と一致しませんでした。

X'02'

無効な検索タイプが指定されました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

メモリー・ダンプ分析を参照して、USE マネージャーの原因を判別します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSUSE00、DFSUSE10、DFSUSE20

0791

説明

Open Database Access (ODBA) 同期点タスク制御ブロック (TCB) の初期設定または処理で、重大なシステム・エラーが検出されました。

分析

0791 は、モジュール DFSAERS0、DFSAERNO、DFSAERCO、DFSAERGO、DFSAERMO、および DFSAIBEQ によって発行される可能性のある標準異常終了です。

DFSAERS0 の場合:

コード 説明

X'04'

BCB QSAV 取得が失敗しました。

X'08'

DFSCDSP 呼び出しが失敗しました。

X'0C'

IMODULE GETMAIN が失敗しました。

X'10'

DFSCWU 呼び出しが失敗しました。

X'14'

DFSCIR 呼び出しが失敗しました。

X'18'

IMODULE LOAD が失敗しました。

X'1C'

IPOST が失敗しました。

X'20'

IMODULE GETSTOR が失敗しました。

X'24'

名前/トークン・サービス呼び出しが失敗しました。

X'28'

ODBA スレッドを終了するための呼び出しが異常終了しました。

DFSAERNO の場合:

コード 説明

X'04'

DFSBCB GET 呼び出しが失敗しました。

X'20'

ODS 機能が無効です。

X'28'

ODBA スレッドを終了するための呼び出しが異常終了しました。

DFSAERCO の場合:

コード 説明

X'04'

DFSBCB GET 呼び出しが失敗しました。

DFSAERGO

DFSAERMO

コード 説明

X'30'

DFSAERMO 初期設定エラーが発生しました。AIBRSA1 が欠落しているか、無効なサブ関数コードが提供されました。INIT パラメーター・エラーが見つかりました。

X'34'

DFSAERMO は、初期設定を完了するための十分なストレージを取得できませんでした。AERMWORK 領域取得の失敗が検出されました。

X'38'

DFSAERMO 初期設定エラーが発生しました。ESTAE の確立が失敗しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別:

1、3、4、5、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSAERS0、DFSAERNO、DFSAERCO、DFSAERGO、DFSAERMO、DFSAIBEQ。

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0793

説明

モジュール DFSISTS0 が、LOGIN または LOGOUT のいずれの DD ステートメントもオープンできませんでした。

分析

この異常終了は、モジュール DFSISTS0 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: z/OS エラーが発生しました。

システムの処置

モジュール DFSISTS0 は異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

1、2、3、8

各 DD 名の JCL を確認してください。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISTS0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0794

説明

モジュール DFSISTS0 が、SORT プログラムにリンクしようとして、ゼロ以外の戻りコードを検出しました。戻りコードはゼロでなければなりません。

分析

これは、DFSISTS0 (統計フォーマッター・プログラム) によって発行される標準異常終了です。DFSISTS0 は、SORT プログラムを呼び出して、個々の完全なメッセージをまとめて ENQ、DEQ、または CANCEL レコード (あるいはこれら 3 つのレコードすべて) に入れます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル LINKRC 内の命令を指しています。LINK(SVC 6) からの戻りコードはラベル SAVER15 に保管されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000031A'	SORTINIT	SORT プログラムのマクロが失敗し、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを返しました。

システムの処置

モジュール DFSISTS0 は異常終了します。

問題判別:

1、2、3、4、8、25、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISTS0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0795

説明

SORT プログラムの出力フェーズで、無効なレコード・タイプが検出されました。レジスター 7 は無効なレコードを指しています。SORT プログラムの問題である可能性があります。

分析

これは、DFSISTS0 によって発行される標準異常終了です。ログ・データ・セット・レコードが、入力出口ルーチン (E15ON) を使用してインライン SORT に読み取られました。レコードは現在、後続の処理を行うために、出力出口ルーチン (E35ON) を使用して DFSISTS0 に渡されています。DFSISTS0 は、受け取り順にレコードを検証し、無効なレコード・タイプが検出されると異常終了します。有効なレコード・タイプは以下のとおりです。

コード

説明

X'36'

DEQ レコード

X'35'

ENQ レコード

X'34'

CANCEL レコード

X'33'

フリー・キュー・レコード

X'31'

GU レコード

X'03'

出力レコード

X'01'

入力レコード

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル BADSORT 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 7 は無効なレコードを指しており、レジスター 12 は基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000031B'、 Reg7=A(無効なレコード)	CHECKE D	SORT 出力出口ルーチン (E35ON) が、DFSISTS0 に無効なレコード・タイプを渡しました。

考えられる原因: SORT プログラム障害

システムの処置

モジュール DFSISTS0 は異常終了します。

問題判別

1、2、3、4、8、25、35

APAR 処理の場合: コンソール・シート、メモリー・ダンプ、IMS ログのコピー

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSISTS0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0796

説明

REPL 呼び出しの処理中に、DFSDLD00 内の置換モジュール DFSDLDRO が、ルート・セグメントが検索機能によってロックされていないことを検出しました。

分析

これは、モジュール DFSDLDRO から発行される疑似異常終了であり、DL/I トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして使用されています。

キー	説明
41410118	DFSDLDRO は、置換処理用の更新ロックを取得する前に、検索機能によってルート・セグメントがロックされたかどうかを検査します。DSGTOKEN=0 の場合 (ルート・ロック・トークンが含まれていない場合) は、この異常終了が発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a から 17d、17f、17g、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLD00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0797

説明

削除機能または置換機能が、バッファ・ハンドラーから予期しないセグメントを受け取りました。

分析

これは、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。異常終了 0797 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして使用されています。

キー	説明
4343011C	可変長でも圧縮でもないセグメントを置換しようとしたが、置換モジュールが、バッファ・ハンドラーから予期しないセグメント・タイプを受け取りました。
4343012C	可変長セグメントまたは圧縮セグメントを置換しようとしたが、IMS が、置換されているセグメントにナビゲートする無効なセグメント・コードを検出しました。
4343021C	可変長でも圧縮でもないセグメントを置換しようとしたが、古いコピーをログに記録するためにロガーでインターフェース処理をした後で、バッファ内のセグメントがロギング前と同じものではありませんでした。

キー	説明
4343031C	可変長セグメントまたは圧縮セグメントを置換しようとしたが、置換モジュールが、バッファ・ハンドラーから予期しないセグメント・タイプを受け取りました。
4343041C	可変長セグメントを置換しようとして、置換モジュールが、そのセグメントの古いコピーが分離されていることを検出しました。しかし、データベースがHD編成されていなかったか、セグメントのデータ部分のセグメント・コードが接頭部のセグメント・コードに一致しませんでした。
4343051C	可変長セグメントを置換しようとして、置換モジュールが、そのセグメントの古いコピーが分離されていることを検出しました。しかし、接頭部が指すデータ部分は、それが分離されていることを示していませんでした。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a から 17d、17f、17g、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLD00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0799

説明

DELETE/REPLACE モジュールが、セグメントを拡張または圧縮するために、ユーザー作成のセグメント編集/圧縮ルーチン呼び出ししました。戻り時に、削除/置換機能が、セグメントの新しい LL が許容最大 LL を超えていることを検出しました。

高速機能を使用していて、出口ルーチンから戻ったときに、以下のいずれかの問題が検出されました。

- キーが変更された (サブコード 1)。
- 長さが正しくない (サブコード 2)。
- 圧縮セグメント長が変更された (サブコード 3)。

分析

異常終了 0799 は、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0799 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
04040134	セグメントの圧縮解除後に、結果の長さが 2 より小さくなります。
04040234	セグメントの圧縮解除後に、結果の長さが DMBSGMX より大きくなります。
04040334	セグメントの圧縮後に、結果の長さが 2 より小さくなります。
04040434	セグメントの圧縮後に、結果の長さが DMBSGMX より大きくなります。
04040534	固定長セグメントの圧縮後に、結果の長さが DMBDL に 10 を加えた値より大きくなります。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- 可変長セグメントの圧縮データ長が DMBSGMX より大きい。
- 固定長セグメントの圧縮データ長が DMBDL に 10 を加えた値より大きい。
- 編集/圧縮ルーチンにエラーが発生したか、または編集/圧縮ルーチンに無意味なデータが渡された。

DBFCMP10 の場合:

セグメント圧縮出口ルーチンから戻った後で、キーが変更されたか、または長さ (LL) が正しくありませんでした。

この異常終了は、キーが変更された場合にモジュール DBFCMP10 によって発行される疑似異常終了です。レジスター 1 には異常終了コードが入り、レジスター 2 にはサブコード 1 が入っています。

Reg3

A (ユーザー出口ルーチン呼び出し後のセグメント)

Reg4

A (ユーザー出口ルーチン呼び出す前のセグメント)

Reg7

キー長

Reg10

A (EPST)

DBFCMP10 は、以下の条件下でもこの異常終了を発行します (レジスター 1 には異常終了コードが入り、レジスター 2 にはサブコード 2 が入っています)。

1. LL がデータベース記述 (DBD) に指定された最小長より小さい。
2. LL が DBD に指定された最大長 (最大 10 バイト) より大きく、指定された CI サイズ (120 バイトより小さいオーバーヘッド) より小さい。

Reg4

A (MLTE)

Reg5

返された LL

Reg6

ABEND コード

Reg7

CI サイズ (120 バイト)

Reg8

A (DEDB エリア制御 (DMAC))

Reg10

A (EPST)

最大値 (SDBLMAX) および最小値 (SDBLMIN) を見つけるには、MLTESDBS から A (SDBS) を見つけます。CI サイズは DMACBLKL です。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

セグメント編集/圧縮ルーチンを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

17a から 17g、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLD00、DBFCMP10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

説明

使用しているセグメント編集/圧縮出口ルーチンが、可変長の圧縮セグメントを拡張しています。戻されたセグメントの長さが、最大許容長より大きいか、または 2 バイト以下でした。

モジュール DFSDLR00 内の VLEXP ルーチンの処理中に、PROCOPT=GO、GON、または GOT (GOx) を持つ PCB が、圧縮セグメントの LL フィールドに無効な長さを検出しました。LL フィールドの長さの値が、最大セグメント長を 10 バイトより大きく超えているか、または 2 バイトより小さいか等しいか、またはそれより小さい値になっていました。PROCOPT=GOx PCB 用に拡張される前に、更新トランザクションがセグメント・データを変更した可能性があります。

高速機能 DEDB の圧縮出口が使用されていて、拡張セグメント長がセグメント作業域より大きい場合、PROCOPT=GOx の位置が失われたため、この異常終了が発行され、オーバーレイが防止されます。

分析

0800 は、複数のモジュールから発行される疑似異常終了です。

DFSDLR00 の場合: 異常終了が検出されると、リトリーブは、PST 内の最後の保管域にあるオフセット X'C' で開始されるレジスター (レジスター 14 からレジスター 12) を保管します。この保管域はラベル PSTSAVL から開始されます。

キー	ラベル	解説
Reg0=WKA サイズ Reg15=連結 キーの長さ Reg0=00032 0 Reg7=PST	VLEN2	レジスター 15 は、セグメント長を指しています。これは DMBSGMX と比較され、セグメントの長さが大きい場合は、異常終了が発行されません。
	コンバージョン 020	レジスター 3 にセグメント長が入っています。レジスター 3 が 2 バイトより小さいか等しい場合、異常終了が発行されます。

DBFCMP10 および DBFCMP11 の場合: イムスは、PROCOPT GOx 処理のためにオーバーレイされた問題を検出しました。

システムの処置

バッチ処理領域またはメッセージ処理領域は異常終了します。制御領域は正常に続行されます。

0800

プログラマーの応答

セグメント編集/圧縮出口ルーチンを訂正してください。

PCB が LL フィールド内で無効な長さを検出した場合は、PROCOPT=GOx トランザクションを再実行してください。異常終了が再発行された場合は、データベース内のセグメントの LL フィールドを調べてください。

問題判別:

4、17c

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLR00、DBFCMP10、DBFCMP11

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 18 章 IMS 異常終了コード 0801 - 0850

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0801

説明

この異常終了コードが出る理由は 3 つあります。

1. 「PSBIOAWK」作業域が小さすぎて、返すべき連結キーまたはセグメントを保持できない。ユーザーが PSBGEN (PSBGEN ステートメントの IOASIZE= パラメーター) で小さすぎるエリアを定義した場合、またはアプリケーションに戻される連結セグメントの結合された長さが 65535 バイトを超えるようなパス CALL が指定された場合に、この問題が発生する可能性があります。PSBGEN で IOASIZE パラメーターが省略されている場合 (この場合、「PSBIOAWK」のサイズはブロック・ビルダーによって決定されます)、この問題は IMS エラーの可能性がります。
2. DFSDLR00 からの「DBWP」プールに対する GET BUFF 呼び出しへの応答で、ストレージ・マネージャーからゼロ以外の戻りコードが返された。ストレージ・マネージャーからのゼロ以外の戻りコードは、通常、要求を満たすだけの十分なスペースが「DBWP」プール内にないことを示します。
3. 可変長セグメントの長さフィールドが、2 より小さいか、または定義された最大長より大きい。

分析

0801 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。検索トレースがアクティブになっていた場合、それを使用して、異常終了を開始したサブルーチンを見つけることができます。レジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内にある最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。レジスター 14 は、先頭バイトの X'AA' によって示されます。検索トレースがアクティブになっていなかった場合、レジスター 12 に入っている基底アドレスを使用して、異常終了を開始したサブルーチンを判別することができます。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 3=JCB
 レジスター 4= レベル・テーブル
 レジスター 5=SDB
 レジスター 7=PST
 レジスター 8=DSG

レベル・テーブルは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
Reg0=WKA サイズ、 Reg15= 連結 キー長	RDLP200 (RDLPAB ND)	この検索機能では、物理キーを使用して 01 タイプの論理子の連結キー長を検索します。レジスター 15 内の連結キー長とレジスター 0 内の作業域のサイズが比較されます。作業域のサイズは、PSBIOAWK の値と PSBSSAWK の値の差です。レジスター 15 の値の方が大きい場合、異常終了が発行されます。
Reg0=WKA サイズ、 Reg15=0000 0004	RDPR010 (RDPRAB ND)	レジスター 1 内の入力 SDB のデータ長と作業域のサイズが比較されます。作業域のサイズは、PSBIOAWK の値と PSBSSAWK の値の差です。レジスター 1 の値の方が大きい場合、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL(GETBUF)	CCTOMEB (CCTOME ER)	キー長に等しいスペースの場合、IGETBUF が発行されます。DFSIGBUF から戻った際にレジスター 15 がゼロでない場合は、異常終了が発行されます。
JCBSGMX=W KA サイズ	MVSGA (MVSEXA B)	データ長 (JCBSEGLL と JCBSGMV の合計) と作業域のサイズが比較されます。作業域は、PSBIOAWK と PSBSSAWK の差として計算され、JCBSGMX に保管されます。データ長が作業域のサイズを超えている場合、異常終了が発行されます。
Reg0= デー タの長さ	MVSQ (MVSEXA B)	データ長 (JCBSEGLL) は、有効な範囲内になければなりません。JCBSEGLL が 2 より小さいか最大長 (DMBSGMX) より大きい場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: PSBGE が正しくありません。

APAR 処理の場合: DBDGEN および PSBGEN のリスト

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

「IOASIZE=」パラメーターには、必ず、そのパラメーターの指定に従った値を定義してください。ABEND 時の呼び出しがパス CALL の場合、戻される連結セグメントのすべてを結合した長さが 65535 バイトを超えないようにします。このサイズが制限を超えていた場合、1 回の呼び出しではなく、一連のパス CALL を発行することにより、どの呼び出しでも 65535 バイト制限を超えないようにすることができます。異常終了の原因が可変長セグメントの不適切な長さフィールドである場合、その無効な長さを訂正します。

問題判別:

17a、17b

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0802

説明

置換機能は、可変長セグメントを置き換えるためにスペース管理からスペースを取得しようとしていました。新しい LL または最小 LL が、古い LL より大です。そのため、置換機能はスペース管理からの追加スペースを要求しましたが、データ・セット内に使用可能なスペースがないことを示す戻りコードを受け取りました。

分析

0802 は、モジュール DFSDL00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0802 は、バッファー・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
434300 28	置換モジュールが、セグメントを拡張するためにスペース要求を発行しました。スペース管理からの戻りコードにより、使用可能なスペースがないことが示されました。

考えられる原因: フリー・スペースまたは潜在的なフリー・スペースをアクセス可能にするためには、データ・セットの再配置が必要です。それには、UNLOAD を実行し、続いてデータ・セットを再ロードします。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

データベースを再編成します。

問題判別:

17a から 17g、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDL00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0803

説明

削除機能または置換機能が論理的に関連付けられたセグメント (通常、論理親または物理対の論理子) が見つからなかったか、論理子の削除で論理親のカウンターが減少した場合に値が負になったか、あるいは、論理子が論理兄弟チェーン上に見つかりませんでした。

物理対の論理子が見つからなかった場合、次の 2 つの条件のいずれかが存在します。

- 対セグメントが存在しない。
- 対セグメントの交差データが元の交差データに等しくない。

この最後の条件は、ユーザーのロード・プログラムが、両方のコピーに等しい交差データをロードすることに失敗したことが原因です。

分析

これは、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0803 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
3131012 C	論理子セグメントを削除する必要があります。しかし、論理親接頭部のカウンターが 0 で、論理親に論理子がないことが示されています。
3535012 C	削除モジュールが論理チェーンの先頭と判断した論理子セグメントを削除しているときに、論理親内 LCF ポインターがこのセグメントを指していないことが判明しました。
3535022 C	LCF ポインターが、削除すべき論理子を指していません。チェーン上のセグメントを検索中に、LTF ポインターが存在しないことが判明しました。
3535032 C	削除すべき論理子が、論理論理兄弟チェーン上に見つかりませんでした。
6363012 C	削除/置換モジュールは、LC データベースから LP データベースへと進んで関係を全探索する必要があります。論理子には論理親ポインターがありますが、その値が 0 です。
6363022 C	削除/置換モジュールは、LP データベースから LC データベースへと進んで関係を全探索する必要があります。論理子の先頭ポインターは論理親セグメント中に存在していますが、その値が 0 です。
6565012 C	検索したばかりのセグメントの PSTBYTNM が、予期したものではありません。(HISAM)
6565022 C	論理関係を全探索してセグメントを取得した後で、削除/置換モジュールがセグメントを識別できませんでした。(HISAM)
6565032 C	論理関係を全探索してオーバーフロー・レコードを取得した後で、オーバーフロー・

キー	説明
	レコードが空であることが判明しました。(HISAM)
6666002 C	キーによってルート・セグメントを見つけることができません。
6666012 C	キーによってセグメント位置を見つけることができません。
6666022 C	
6666032 C	ポインターによってセグメント位置を見つけることができません。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- データベース再編成後、データベースへの他の呼び出しの前に接頭部更新機能が実行されなかった。
- 物理対の論理子を削除中に、等しい交差データが物理対の論理子にロードされなかった。
- 接頭部解決ユーティリティの実行後、接頭部更新機能の実行前に、実装の有無に関して戻りコードが検査されなかった (0 でない場合)。
- シンボリック・キーを使用している場合、論理親が存在しなかった。
- 論理構造が存在している場合、固有ではないキーの使用時にポインターが失われた。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

再編成およびロード・プログラムが必ず正常に実行されるようにしてください。データベース部分再編成ユーティリティ (DFSPRCT1) (データベース管理) を参照してください。

問題判別

17a から 17g、35

異常終了時に、レジスター 11 が CSECT DFSDLD00 を指している場合は、削除または置換機能が論理親または対の論理子を見つけることができませんでした。ただし、レジスター 11 が CSECT DFSDLD00 を指している場合は、レジスター 15 に問題を識別する値が入れられます。レジスター 15 が負の場合は、削除呼び出しの前に論理親カウンターがゼロでした。レジスター 15 がゼロの場合は、論理親が、削除すべき論理子を指していません。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLD00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0804

説明

DL/I アクション・モジュールが作業用ストレージに対して要求を出しました。データベース作業プール内で使用可能なスペースが十分になかったため、要求を満たすことができませんでした。データベース作業プールは、少なくとも、アクティブな従属領域の数に 2K を乗じた大きさが必要です。

分析

これは、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0804 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
22220130	作業域削除 (DLTWA) チェーンが無効です。削除モジュールが最新作業域を検出しました。しかし、PST は、別の作業域が存在することを示しています。
67670030	作業域を作成するためのストレージを要求した後で、ゼロ以外の戻りコードが GETBUF から取得されました。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- COBOL V3.1 から SORT が呼び出されたとき、VS SORT が割り振り済みストレージの 80 バイトを解放しなかった。
- アプリケーションがバッチ領域内でオーバーレイ・モードで実行されたが、アプリケーション・マクロがこれを反映するようにコーディングされていなかった。
- DB/DC 環境の場合、DBWP が小さすぎる。
- バッチ環境の場合、領域サイズが小さすぎる。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは停止し、現行メッセージはメッセージ・キューに再エンキューされます。

オペレーターの応答

アプリケーション・プログラムを再始動することができ、また、トランザクションは再びスケジュールされません。

プログラマーの応答

オンライン・システムで 0804 異常終了が発生した場合、データベース作業プール (DBWP) のサイズを増やす必要があります。このサイズは、EXEC ステートメントのパラメーターとして指定できます。バッチ領域でこの異常終了が発生した場合、領域サイズを増やす必要があります。

問題判別:

4、5、6

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLD00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0805

説明

High Availability Large Database (HALDB) の区画の再ロード処理中に、接頭部が HALDB 区画に無効であるか、または接頭部の長さが HALDB 区画に無効であることが判明しました。

分析

これは、DFSDLA00 によって設定され、モジュール DFSPR000 から発行される疑似異常終了です。

SYSABEND または SYSUDUMP DD カードによって生成されるダンプで、異常終了の時点でレジスター 11 に入っていたアドレスが指す PST を見つけます。DFSADSCCT モジュールによって参照される IPST dsect をアセンブルして、フィールド PSTFUNCH の正しいオフセットを見つけてみます。

PSTFUNCH には、次のエラー・コードのいずれかが含まれています。

- **RER1** - 無効な区画接頭部
- **RER2** - 無効な区画接頭部の長さ

考えられる原因: アンロードされた HALDB の区画以外のデータベースが、再ロード時に指定されました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

ユーザーの処置

アンロードされた正しい区画データベースを指定して、再ロード・ジョブを再実行します。

問題判別:

1、2、3、17a、35、36

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0806

説明

削除/置換機能が、バイト探索呼び出しでバッファ・ハンドラーから無効な戻りを受け取ったか、または変更されたバッファにマークを付けようとしてエラーが発生しました。バッファ・ハンドラーに対する要求は、Mark Buffer Altered、Byte-Locate 呼び出し、Erase-Logical-Record 呼び出し、SETL、または Block-Locate 呼び出しのいずれかであった可能性があります。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析

これは、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

PSTFNCTN にあるバッファ・ハンドラー機能コードに、実行された呼び出しのタイプが示されます。

呼び出し

PSTFNCTN

X'E1'

Block Locate

X'E2'

Byte Locate

X'E6'

Mark Buffer Altered

X'F1'

Erase Logical Record

X'F2'

SETL

異常終了 0806 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードは、0202xx34 でなければなりません (ここで、xx は上記に示す PSTFNCTN コードです)。4 番目のバイト X'34' は、異常終了 0806 の場合の削除/置換機能の内部コードです。最初の 2 バイトはルーチン識別番号で、最初のバイトがこの項目の発信元、2 番目のバイトが異常終了の発信元を表します。識別番号 X'02' は、削除/置換モジュール内の CALLBH ルーチンを表します (ID 番号についてはモジュールのプロログを参照してください)。

このトレース項目から入手できる追加情報項目は以下のとおりです。

オフセット

項目

22

CSECT (呼び出し元) からの戻りオフセット

24

DSG アドレス

28

PSTBYTNM

最初のトレース項目では問題の診断に不十分な場合、以下の表に従って、CALLBH を呼び出したルーチンを 2 番目のトレース項目から識別することができます。

ルーチン ID

ソース・モジュールおよびルーチン

01 から 1F

DFSDLDC0: 制御/共通サブルーチン

20 から 3F

DFSDLDD0: 削除ルーチン

40 から 5F

DFSDLDR0: 置換ルーチン

60 から 7F

DFSDLDW0: DLTWA 作成ルーチン

例えば、2 番目の項目の ENTRY1 ワードが 4202E234 の場合、PSTFNCTN コード (E2) は Byte-Locate 呼び出しを示し、ルーチン ID (42) は呼び出し元のモジュールが DFSDLDR0 であることを示します。DFSDLDR0 のプロログを参照すると、ルーチン 42 が CPRDATA であることが分かります。コードおよびコメントから、さらに詳細な問題診断を行う必要があります。

複数のロケーションから CALLBH に進むルーチンの場合、CALLBH への正確な出口は、前のトレース項目のオフセット X'16' から判別できます。このハーフワードには、呼び出し元の CSECT の先頭から、CALLBH に分岐した「BALR R10,R11」命令の次の命令までのオフセットが含まれています。問題診断を続けるには、コードおよびコメントをお読みください。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a から 17g、および 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLD00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0807

説明

削除/置換機能が、物理構造内で位置を取得できません(ルートへの物理パスが必要)。この障害は、論理ブロックの検索中、またはルートへの物理パスの検索中に発生した可能性があります。この問題は、おそらくシステム・エラーです。

分析

これは、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0807 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード(オフセット 4)です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下の表でキーとして示されています。

キー	説明
0505003 8	削除/置換モジュールは、バッファ・ハンドラーからオーバーフロー・レコードを取得した後で、そのレコードの予期された位置に有効なセグメント・コードが含まれていないことを検出しました。
2525013 8	VSAM KSDS データベースに論理関係が存在する DELETE の処理中に、論理子のデータベースに削除スキャンを返す際に、ルート・セグメントのキーによる検索で該当セグメントが見つかりませんでした。

キー	説明
2320138	PTF ポインターまたは PCF ポインターを更新しようとしていたとき、セグメントのスペース解放の直前に、削除モジュールが兄弟チェーン上でセグメントを検出できませんでした。
6464013 8	削除作業域のレベル・テーブルに、RBN が 0 の項目が含まれています。
6660038	レベル・テーブル(削除作業域内の)のルート・セグメントの項目で、RBN が 0 で使用可能なキーがありません。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

17a から 17g、および 35

レジスター 11 が CSECT DFSDLDS0 を指している場合、削除/置換機能が、削除または置換されるセグメントからルート・セグメントに向かって、論理ブロック(SDB およびレベル・テーブル)をたどることができませんでした。このエラーは、通常、削除が求められている位置を検索機能によって通知していないために発生します。レジスター 11 が CSECT DFSDLD00 を指している場合、除去すべきセグメントが物理チェーン(PCF、PCL、PTF、PTB、または RAP)によって指し示されていません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLD00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0808

説明

削除/置換機能が、論理関係のデータベース・ブロック記述を解決できなかったか、または検索されたセグメント・コードに対する PSDB のアドレスを計算できませんでした。

分析

これは、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。

異常終了 0808 は、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下でキーとして使用されています。

キー	説明
2020013C 2828013C 3838013C 2A2A013C 2A2A023C 2A2A033C 2A2A043C 3232013C 3232043C 3A3A013C 3C3C013C 3131023C	検索したばかりのセグメント・コードの PSDB のアドレスを計算できませんでした。
2121013C 2626013C	論理子の PSDB のアドレスを、その論理子に関する論理親の SECLST 項目を使用して計算できませんでした。
3131013C	削除モジュールが、論理子を削除する前に論理親のカウンターの値を減らす必要があることを判別しました。その論理親にはカウンターがありません。
3232023C 6565003C	逆方向ポインティングのない兄弟チェーン上のセグメントを検出しようとする際、削除/置換モジュールは親セグメントから開始する必要があります。しかし、親セグメントに、子セグメントへのポインターがありません。
3232033C 3838023C	順方向チェーンに沿って移動しているときに、順方向ポインターのないセグメントが検出されました。
3434013C 3434023C 6868043C	親セグメント (既知の PSDB を持つセグメントの親セグメント) の PSDB のアドレスを計算できませんでした。

キー	説明
3B3B013C 4242023C 4444003C 6868023C	論理子の SECLST 項目に、論理親に関する項目が含まれていません。
3B3B023C 2626013C 4242033C	論理親の PSDB のアドレスを、その論理親に関する論理子の SECLST 項目を使用して計算できませんでした。
3B3B033C 4242053C	論理親の SECLST 項目に、論理子に関する項目が含まれていません。
4242013C 6868013C	論理子の PSDB に、SECLST 項目のアドレスが含まれていません。
4242043C	論理親の PSDB に、SECLST 項目のアドレスが含まれていません。
4242063C 7272033C 7272043C	論理子の SECLST 項目に、対の論理子に関する項目が含まれていません。
4242073C 7272013C 7767013C	対の論理子の PSDB のアドレスを、その対のオリジナルの論理子の SECLST 項目を使用して計算できませんでした。
6363013C	論理子からその論理親へのパスが存在していません。その論理子には、論理親ポインターがなく、論理親のキーも含まれていません。
6363023C	双方向の関係で、論理親から論理子へのパスが存在していません。その論理親には、論理子先頭ポインターがありません。
6666003C	HIDAM で、ルート・セグメント用の SECLST 項目に 1 次索引の項目が含まれていません。
6868033C	論理子のシーケンス・フィールドが、論理親の仮想連結キーに含まれています。
6969033C	論理ブロックから位置とキーを取得しようとしたが、SDB から取得された現行セグメントの PSDB アドレスが、そのセグメントに関する削除作業域レベル・テーブル内の PSDB アドレスに一致しません。
7272023C	論理親または論理子のいずれか (対でなく) の PSDB のアドレスを、SECLST 項目から計算できませんでした。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a から 17g、および 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLD00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0810

説明

アプリケーション・プログラムがデータベースをロードしようとしたが、データベース内のすべてのデータ・セット・グループに対してセンシティブではありませんでした。

分析

0810 は、DFSDLOC0 (DL/I データベース OPEN/CLOSE モジュール) によって検出される疑似異常終了です。この問題を診断するには、制御ブロックの SNAP が必要です。フィールド選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

この疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDLOC0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDLICL の SCD からエントリー・ポイント・アドレスを取得し、保管セットの中からそれに一致するアドレスがレジスター 15 に入っているものを探してください。この保管セットには、OPEN/CLOSE モジュールが呼び出されたときのレジスターが入っています。この保管セットのレジスター 1 は、PST を指しています。

PCB (PSTFNCTN=X'0A') に対して OPEN が要求されました。PCB 処理オプションがロード (PROCOPT=L) の場合に、JCB 内の各 DSG に関連付けされた AMP がすべてオープンかすべてクローズのどちらかになっていることを調べるために、テストが行われます。

キー	ラベル	説明
PSTABTRM=X'1000032A'	LDOCHK	すべての AMP がオープン
PSTFNCTN=X'80'	EG	かクローズのどちらかであることを確認するために、処理バイト (OCWORKSW) がテストされます。不合格の場合、ラベル NOTOPNLD に分岐

キー	ラベル	説明
		し、異常終了が発行されま す。

考えられる原因: PSBGEN が各データ・セット・グループ内の少なくとも 1 つのセグメントに対して、センシティブになっていません。

APAR 処理の場合: PSBGEN、DBDGEN パラメーター、システム・ログのコピー、および従属領域ダンプ

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

PSB 生成を再度実行し、プログラムが各データ・セット・グループ内の少なくとも 1 つのセグメントに対してセンシティブになるようにします。

問題判別:

2、3、9、18、19

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLOC0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0811

説明

削除/置換機能がセグメントの接頭部にあるポインターを変更しようとした。しかし、ポインターの古い値が予期したものではないことをシステムが検出した。以前のポインター保守にエラーがありました。

分析

異常終了 0811 は、モジュール DFSDLD00 から発行され、標準異常終了の場合も疑似異常終了の場合もあります。異常終了 0811 は、バッファー・ハンドラー・トレース・テーブル内で、各項目が先頭バイトの文字 D (X'C4') によって識別される一連の項目でトレースされます。この一連の項目は、トレース・テーブルの現行項目の直前に示されます。

各トレース項目内の重要なフィールドは、ENTRY1 と呼ばれる 2 番目のワード (オフセット 4) です。このワードが、異常終了を識別し、問題が検出された削除/置換モジュール内のルーチンも識別します。

削除/置換機能の異常終了トレースの先頭項目の ENTRY1 ワードが、以下でキーとして使用されています。

キー	説明
37370140	削除されたセグメントは、物理子チェーンの最初または最後のセグメントでした。しかし、親セグメント内のポインタを変更しようとしたとき、削除モジュールが、削除されたセグメントの RBA がポインタに含まれていないことを検出しました。
38380140	削除されたセグメントは、物理チェーンまたは論理チェーン上にありました。
39390140	前または次のセグメントにポインタをチェーンしようとしたとき、削除モジュールが、削除されたセグメントの RBA がポインタに含まれていないことを検出しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a から 17g、および 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDL00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0812

説明

ランダムマイザー・ルーチンから、4 より大きい戻りコードが返されました。

分析

これは、モジュール DFSDLDC0 および DFSDLR00 によって発行される疑似異常終了です。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLDC0、DFSDLR00

0814

説明

データ・キャプチャー処理中に、変更されたデータ・ロギングまたは変更されたデータ出口がデータベースに定義されたときに、リカバリー不能エラーが検出されました。

分析

エラーのタイプは、この異常終了を生成したモジュールによって異なります。

DFSCP40

z/OS データ圧縮サービスの呼び出し準備中にエラーが検出されたか、または z/OS データ圧縮サービスからの戻りコードがエラー状態を示していたために、この異常終了が発行されました。レジスター 5 が負の場合、z/OS データ圧縮サービスに渡す出力長を計算しているときに、エラーが発生しました。レジスター 5 が負でない場合は、z/OS データ圧縮サービスからレジスター 15 にエラーが返されました。CSRCESTRV 戻りコードの説明については、「z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書 第 1 巻(ABEND-HSPSERV)」(SA88-8578) を参照してください。

DFSECP10/DPSECP20

全機能データベースのためのデータ・キャプチャー中に DFSDCAPO がエラーを検出したために、疑似異常終了が発生しました。PST のフィールド PSTCDCRC に、診断情報が入っています (PST は、この異常終了の場合に作成される X'67FF' ログ・レコードでフォーマット設定されます)。フィールド PSTCDCRC の内容は、DFSDCAPO がこの異常終了を発行する場合のレジスター 15 の内容と同じです (下記を参照)。

DFSPCC30

異常終了時に、DSPSERV または ALESERV 要求が無効な戻りコードをレジスター 15 に受け取りました。戻りコード 8 の場合、IEFUSI ユーザー出口ルーチンによってキー 8 データ・スペースの作成が妨げられたため、データ・スペースの作成が許可されませんでした。

DFSDCAPO

バッチ領域 (DLI/DBB) で全機能データベースのためのデータ・キャプチャー中に、エラーが発生しました。レジスター 15 に、以下の情報が入っています。

バイト	サブコード (括弧内は 16 進数) および説明
先頭バイト - エラーを検出したモジュール	04 (04) DFSDCAPO

バイト	サブコード (括弧内は 16 進数) および説明
2 番目のバイト - エラーを検出 したルーチン	04 (04) バイト位置指定の実行 08 (08) バイト位置指定 12 (C) 論理親連結キーの作成 16 (10) ポインタの検出 20 (14) 処理の取得 24 (18) ストレージの取得 28 (1C) パス・データの削除
3 番目のバイト - エラーの理由 コード	04 (04) サブコードは DMB セグメン ト・コードです。 08 (08) サブコードは PST 戻りコー ドです。 16 (10) サブコードは失敗したキャプ チャー機能です。
4 番目のバイト - エラーのサブ コード	nn 理由コード 04 の場合は PST 戻りコード nn 理由コード 08 の場合は DMB セグメント・コード 04 (04) 理由コード 16 の場合、作業 用ストレージを獲得できませ ん。 08 (08) 理由コード 16 の場合、使用 可能なデータ・スペース・ス トレージがありません。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

バッチ領域の JCL を調べます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFDCAPO、DFSECP10、DFSECP20、DFSPCC30、
DFSCP40

関連資料

[z/OS: CSRCESTRV の戻りコードおよび理由コー
ド](#)

0816

説明

索引同期エラーが発生しました。副次索引の内容が、ター
ゲット・データベースの内容と対応していません。
この問題は、ターゲット DBD および 2 次 DBD を参照す
る PSB を再作成せずに、それらの DBD を再作成した結
果である可能性があります。

分析

これは、モジュール DFSDLR00 によって発行される疑
似異常終了です。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

索引がターゲット・データベースと同じレベルでリカバ
リーされるようにします。また、索引セグメントを検
査して、その内容が有効であるかどうかを確認します。
索引セグメントは、PSBXIOWK に含まれているアドレ
スが示す場所にあります。PSB は、PSTPSB にあるポ
インタを PDIR までたどり、さらに PDIRADDR にあ
るポインタを PSB までたどることによって見つけら
れます。データベースおよびすべての副次索引を再ロ
ードします。特定のデータベース呼び出しに至るま
で、同期エラーの原因をたどる必要があります。

問題判別:

4、5、11、17b、17c、17g、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

0819

説明

IMS 内部システム・エラーが検出されました。次のい
ずれかが起こります。

- 同期点のフェーズ 1 の間に **CLOSE** 障害が発生し、同
期点処理は打ち切られます。

- 同期点のフェーズ 1 で、参加プログラムのいずれかが "NO" と表明します。
- モジュールが同期点プロセッサ (DFSFXC30) を呼び出して、未定義の機能を要求しました。
- データベース制御 (DBCTL) 環境で、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステム・スレッドが、同期点 PREPARE を行う前に、同期点 COMMIT を要求しました。
- デッドロックまたは検査エラー以外のエラーが原因で、FLD 呼び出しの処理中に障害が発生しました。

分析

DFSFXC30 の場合:

未定義の機能を処理するために、同期点プロセッサ (DFSFXC30) が呼び出されました。

SPOOL/API 処理を実行していた場合、以下の理由でシステムが異常終了しました。

- 同期点のフェーズ 1 の間に **CLOSE** 障害が発生し、同期点処理を打ち切る決定が行われた。
- 同期点のフェーズ 1 で参加プログラムが NO と表明した。

これは、DFSFXC30 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 SVC を指しています。レジスター 1 には、ラベル ABEND819 にある完了コードがロードされています。

許容されるエンコード済み機能コードは、PST のラベル PSTFUNCT に入っており、以下のとおりです。

コード 説明

X'01'

MSG が固有コードを取得しました。

X'42'

正常/異常終了

X'79'

同期呼び出し

X'85'

チェックポイント呼び出し

X'89'

ROLB

X'8E'

内部 ROLB

異常終了 SVRB のレジスター 13 は、現在の保管域セットを指しています。この保管域セットで、レジスター 14 は呼び出し元のリターン・アドレス、レジスター 1 は PST のアドレスです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'800 00333'	(ラベルの前) WASHRTN E	有効な機能が存在するかどうか、PSTFUNCT フィールドが検査されます。無効なコードが渡された場合、異常終了が発行されず。

DFSDSC00 の場合:

前に PREPARE 要求を出さずに、COMMIT 要求が行われました。

システムの処置

IMS は異常終了します。

オペレーターの応答

(システム・オペレーター) マスター端末オペレーターに、IMS 制御領域の異常終了を連絡してください。

(マスター端末) 緊急時再始動を実行してください。

問題判別:

4、5、11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFXC30、DFSDSC00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0820

説明

モジュール DFSDLA30 または DFSFXC40 のいずれかでエラーが検出されました。次のようなエラーの可能性ががあります。

- DFSDLA30:
 - キュー・マネージャーから無効な戻りコードを受け取った。これは、IMS システム・エラーです。
 - 呼び出しの宛先を探そうとしているときに、障害が発生した。
- DFSFXC40
 - 無効な機能コードが DFSFXC40 に渡された。これは、IMS システム・エラーです。
 - ゼロ以外の戻りコードがメッセージ・ルーター DFSICLRO から戻された。これは、IMS システム・エラーです。

- 入出力 PCB 宛先出力が SMB を表しているが、従属領域はメッセージ・ドリブンである。これは、IMS システム・エラーです。

分析

これは、DFSDLA30 または DFSFXC40 のいずれかによって発行される標準異常終了です。障害が起こったモジュールを分離するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用します。

DFSDLA30 の場合:

0820 は、DFSDLA30 (DL/I 通信呼び出しハンドラー) によって発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル xxxAB820 内の命令を指しています。レジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離します。レジスター 12 は、DL/I 呼び出し機能ルーチンの基底レジスターです。レジスター 9 には、PST アドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg9=PST アドレス	ROLB1 000	ROLB 呼び出し処理。PST SMB アドレスがゼロです。
Reg15=DFSC ON10 からの RC	ROLB2 400	ROLB 呼び出し処理。無効な戻りコードを DFSCONC10 から受け取りました。
	GETGU 20	GU 呼び出し処理。疑似 WFI サブルーチンが、GU 呼び出しを待っている SAP の呼び出しフラグが設定されたことを検出しました。DFSDLA30 は、SMB DEQ ルーチンと同期されていません。
Reg15=DFSQ MGR からの RC		GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSQMGR から受け取りました。
Reg15=DFSSL C からの RC		GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSSLC CNTS 検索呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSSL C からの RC	GMOVA BND	GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSSLC LNBS 検索呼び出しから受け取りました。

キー	ラベル	説明
Reg15=DFSNDST からの RC	GMOV1 900	GU、GN、CHKP、または ROLB 処理で FINDEST 呼び出しを (DFSSLC を使用して) 実行し、無効な戻りコードを受け取りました。
Reg15=DFSSLC からの RC		GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSSLC CNTS 検索呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSNDST からの RC		GU、GN、CHKP、または ROLB 処理で FINDEST 呼び出しを (DFSSLC を使用して) 実行し、無効な戻りコードを受け取りました。
Reg15=DFSQMGR からの RC	CANMS G	GU、GN、CHKP、または ROLB 呼び出し処理で、無効な戻りコードを DFSQMGR から受け取りました。
Reg15=DFSQMGR からの RC	CMSG1 000	GU または CHKP 呼び出し処理。無効な戻りコードを DFSQMGR リジェクト (QMRJDLI) 呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSCMD30 からの RC	GCMDE XIT	GCMD 呼び出し処理。無効な戻りコードを DFSCMD30 から受け取りました。
Reg15=DFSXC40 からの RC	PURG4 000	PURG 呼び出し処理。無効な戻りコードを DFSFXC40 から受け取りました。
Reg15=DFSQMGR からの RC	ISRT08 5	ISRT 呼び出し処理。MODNAME を更新しようとしているときに、無効な戻りコードを DFSQMGR 接頭部挿入 (QMIPDLI) 呼び出しから受け取りました。
Reg15=DFSQMGR からの RC	ISRT09 8	ISRT 呼び出し処理。MODNAME を更新しようとしているときに、無効な戻りコードを DFSQMGR 接頭部挿入 (QMIPDLI) 呼び出しから受け取りました。

DFSFXC40 の場合:

これは、DFSFXC40 (通信同期点プロセッサ) によって発行される標準異常終了です。DFSFXC40 は、同期点の通信部分を処理するために、DFSFXC30 によって呼び出されます。機能ベクトルが DFSFXC40 に渡されます。このベクトル値が無効な場合、またはメッセージ・

ルーター・エラーが発生した場合に、異常終了が発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND820 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 10 には、機能ベクトル値 (16 進数)、またはルーチン ROUTERR の BAL アドレスが入っています。呼び出し元のレジスター (レジスター 14 からレジスター 12) は、レジスター 13 に 'X'C' を加えた位置に保管されません。

キー	ラベル	説明
R10= 機能コード	ABEND8 20	無効な機能コードが DFSFXC40 に渡されました。DFSFXC40 の保管域のレジスター 14 は、呼び出し側モジュールを指しています。
	DLAWQ6	IOPCB が SMB を指していますが、これは無効です。これが有効なのは、非メッセージ・ドリブン BMP の OUT= パラメーターに別のトランザクションが宛先として指定されている場合のみです。
Reg15=DF SICLR0 か	ABEND8 20	メッセージ・ルーター (DFSICLR0) が、ゼロ以外のコードを返しました。レジスター 14 は、メッセージ・ルーターに対する呼び出しの後の命令を指しています。

考えられる原因: ベクトル Router-Qmgr エンキュー戻りコードがゼロより大きい場合は、DFSFXC30 内のコーディング変更またはユーザーによる変更。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、5、11、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCLA30、DFSFXC40

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

説明

DBB タイプの IMS 領域を実行中に、プログラムおよびデータベース制御ブロックの初期設定でエラーが発生しました。

分析

これは、DFSBINDO (DL/I バッチ ACBLIB ブロック・ローダー・インターフェース・モジュール) によって発行される標準異常終了です。特定ラベルを分離するには、異常終了 SVRB のレジスター 10 を使用します。レジスター 11 は SCD を指しており、レジスター 12 は基底レジスターです。異常終了ダンプに加えて、情報メッセージがジョブのメッセージ・クラスに含まれていて、システム出力装置 (SYSPRINT) に書き込まれます。

バッチ・ジョブは、以下の順序で、OLCSTAT または MODSTAT データ・セットのいずれかを選択してオンライン変更状況を読み取ります。

1. JCL 経由で割り振られた OLCSTAT データ・セットがあればそこから。
2. MDA メンバーに定義されている OLCSTAT データ・セットがあればそこから。
3. OLCSTAT DD ステートメントが JCL にコーディングされておらず、しかも OLCSTAT MDA メンバーが定義されていない場合は、JCL で割り振られた MODSTAT データ・セットから。
4. デフォルトでは、JCL にコーディングされた MODSTAT DD ステートメントもなく、OLCSTAT も存在しなければ、ACBLIB を IMSACB DD ステートメントから使用する。

OLCSTAT、MODSTAT、または IMSACB のいずれかのデータ・セットが選択された後で、データ・セット名が正しくないかまたはデータ・セットにアクセスできないために、エラーが発生する場合があります。

キー	ラベル	説明
Reg5=A(DCB) Reg10=BAL	DFSBI NDO	ACBLIB データ・セットが開かれている必要があります。「not open (開かれていません)」状態が発生すると、メッセージ DFS823I が出て異常終了が発行されます。
Reg5=A(BLDL 領域) Reg10=BAL	DFSBI NDO	PSB の BLDL SVC (SVC 18) の結果、戻りコード 8 が返され、メッセージ DFS824I が発行されました。

キー	ラベル	説明
Reg 5=A(SELACB DD)	SELAC BDD	OLCSTAT または MODSTAT データ・セットが開けなかったか、無効なデータが含まれているか、または DD DUMMY としてコーディングされています。説明については、ABEND0821 の前のエラー・メッセージを参照してください。
Reg9=A(BLDL 領域) Reg10=BAL	DFSBI NDO	BLDL SVC は 8 より小さいエラー戻りコードで完了しましたが、TTR フィールドがゼロでした。これは、「not found (見つかりません)」状態を示します。メッセージ DFS830I を参照してください。
Reg9=A(BLDL 領域) Reg10=BAL	DFSBI NDO	このコードは、別名かどうかをテストします。別名は許可されず、エラー状態として処理されます。ALIAS の参照について、メッセージ DFS830I および DFS826I を参照してください。
Reg9=A(BLDL 領域) Reg10=BAL	DFSBI NDO	BLDL は PSB に対するものでしたが、BLDFLAG フィールドのビットは DMB を示しています。NOTPS の参照について、メッセージ DFS830I および DFS826I を参照してください。
Reg0=ゼロ Reg8=A(PDIR) Reg10=BAL	DFSBI NDO	PSB サイズがゼロであることが判明しました。これはクリティカル・エラーです。NOBUF の参照について、メッセージ DFS830I および DFS826I を参照してください。
Reg10=BAL	IDMBD 7	DMB の BLDL SVC (SVC 18) の結果、戻りコード 8 が返されました。メッセージ DFS824I を参照してください。
Reg10=BAL	IDMB2 0	メッセージ DFS826I に、DBD 名および障害の理由が示されています。
Reg10=BAL	EODAD	共用副次索引の読み取り操作中に、入出力エラーが発生しました。メッセージ DFS838I を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL	BINMO DRD	MODSTAT データ・セットが開けなかったか、または無効なデータが含まれています。メッセージ DFS3467I を参照してください。

システムの処置

IMS 領域は異常終了します。1 つ以上のメッセージがシステム・コンソールに書き込まれます。バッチ初期設定モジュール (DFSBINDO) がエラーを検出した場合、メッセージ DFS2855I、DFS823I、DFS824I、DFS826I、DFS830I、DFS838I、DFS3467I のうちの 1 つ以上が表示されます。

ブロック・ムーバー・モジュール DFSDBLMO、またはブロック・ムーバーによって呼び出された任意のモジュールでエラーが検出された場合、バッチ DBB 領域でこれらのモジュールにより出力されたメッセージのすべてが表示されます。これらには、DFS561I、DFS564I、および DFS592I が含まれます。

プログラマーの応答

上記にリストされたメッセージを参照して、障害の原因および問題判別ステップを判断します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSBINDO

0822

説明

単一メッセージ・キュー・セグメントが PSB 索引作業域に収まりません。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析

これは、DFSCLA30 (通信 DL/I 呼び出しハンドラー) によって発行される標準異常終了です。メッセージ・セグメントには、複数のキュー・セグメントが必要な場合があります。QMGR へのそれぞれの呼び出しが、1 つのキュー・セグメントを返します。メッセージが複数のキュー・セグメントにまたがっている場合は、各ブロックごとに QMGR 呼び出しが必要です。QMGR の GU 機能がメッセージの先頭ブロックを検索し、後続の GN 呼び出しがメッセージのすべての追加ブロックを検索します。PSB 索引作業域には、常に、少なくとも 1 ブロックが保持されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル GETAB822 内の命令を指しています。レジスター 14 は、異常終了の

発行元のアドレスです。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000 0336'	GETEND1	これは最初の呼び出しです (レジスター 8=ゼロ)。セグメント全体が XWA に収まりません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4 または 11、および 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA30

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0824

説明

イムスは、ユーザーのプログラム経路指定出口から無効な戻りコードを受け取りました。レジスター 15 に、無効な戻りコードが入っています。

分析

0824is は、DFSDLA30(通信 DL/I 呼び出しハンドラー)から発行される標準異常終了です。メッセージに入力されたもの以外のリモート端末コンポーネントに応答を経路指定するために、複数システム (MS) プログラム・ルーティング出口モジュール (DFSCMPRO) が呼び出されました。DFSDLA30 は、レジスター 15 の戻りコードをテストして、"長" 呼び出しを処理する必要があるかどうかを判別します。有効な戻りコードは以下のとおりです。

コード

説明

X'00'

CHNG 呼び出しによって提供される宛先名を使用して、宛先を見つけます。

X'04'

発信元システム ID を使用して、メッセージを発信元システムに戻します。

X'08'

'A1' の状況コードをアプリケーション・プログラムに戻します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW)

は、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル

ABEND824 内の命令を指しています。異常終了 SVRB 内のレジスター 2 は、"長" 呼び出しによって提供される宛先名へのポインターであり、レジスター 15 には無効な戻りコードが含まれ、レジスター 12 は基底レジスター、レジスター 14 は異常終了が発行された元のアドレスです。

キー	ラベル	解説
Reg14=BAL Reg15<0 また は>X'08'	チグノック	DFSCMPRO によって、無効な戻りコードが DFSDLA30 に戻されました。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLA30

0825

説明

バッファ・ハンドラー (DFSDDBH0) から予期しない戻りコードが検出されたか、Move Character Long (MVCL) 命令の実行中に重大なエラーが発生しました。

分析

0825 は、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって検出される疑似異常終了です。この問題を診断するには、制御ブロックの SNAP が必要です。ユーティリティー DFSERA10 に EXITR=DFSERA30 を指定して実行し、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。

疑似異常終了に適用されるレジスターを (制御ブロックの SNAP を使用して) 検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD から DFSDXMT0 のエントリー・ポイント・アドレスを取得し、保管域セットの中からレジスター 15 にそのアドレスが入っているものを探してください。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが入ります。この保管セットのレジスター 1 には、PST へのポインターが入ります。すぐ下位にある保管セットには、サブルーチン DPRSYS が呼び出されたとき、またはモジュール DFSDDBH0 が呼び出されたときのレジスターが入ります。レジスターが、サブルーチン DPRSYS が呼び出されたときのものであれば、その次の (つまり 2 番目に下位にある) 保管セットに、バッファ・ハンドラー (DFSDDBH0) への入力レジスターが入ります。

バッファ・ハンドラーへの呼び出しのパラメーターおよび実際の戻りコードは、バッファ・ハンドラー・トレース・テーブルに示されます。このトレース・テーブルは、フォーマット設定された SNAP の中でラベル (BFSP) で見つけるか、または SCDDBFSP にあるポイン

ターに従って見つけることができます。現行トレース・テーブル項目は、呼び出しが実行された DSG、および DFSDVBH0 に渡された PSTBYTNM の内容を示しています。

次に、索引作業域 (XWORKARA) を見つける必要があります。PSB の制御ブロックの SNAP をスキャンしてください。PSB の最初のワードが、PST へのポインターです。2 番目のワードが索引作業域 (XWORKARA) へのポインターです。XWORKARA 内のフィールド ASUPRO は、エラーで終了する前のレジスター 14 の保管域として使用されます。このレジスター 14 BAL を使用して、特定のラベルに分離します。索引作業域に加えて、PST 内には以下の関連フィールドがあります。

PSTFNCTN: 要求された機能

PSTRTCDE: バッファ・ハンドラーの戻りコード

PSTBYTNM: 相対バイト・アドレス (RBA)

キー	ラベル	説明
Reg14=BA L (ASUPRO)	DRETSE G	バッファ・ハンドラーが予期しないエラー・コードを返しました。
Reg14=BA L (ASUPRO)	DSPNOT SX	DFSDDDBH0 が予期しない戻りコードを返しました。
Reg14=BA L (ASUPRO)	SPRETC L	DFSDDDBH0 が予期しない戻りコードを返しました。
Reg14=BA L (ASUPRO)	MVTRBL	MVCL 命令が処理に失敗しましたが、エラーは発生しませんでした。

システムの処置

バッチまたはメッセージ処理領域は異常終了します。制御領域は継続します。

プログラマーの応答

PST フィールドを調べます。関連する PST フィールドおよびその内容は、以下のとおりです。

名前

説明

PSTFNCTN

要求された機能

PSTRTCDE

戻りコード

戻りコードが X'04' の場合、以下のフィールドに関連情報が入っています。

名前

説明

PSTBYTNM

不適切な相対バイト・アドレス

PSTDBPCB

PCB のアドレス

DBPCBJCB

JCB のアドレス

入出力エラーが示されている場合、データベースをリカバリーするのに必要な処置を取ります。他のエラーは、おそらく DL/I エラーです。

問題判別

4、5、11、17b、17c、17g、35

バッチ環境で問題を再現し、この異常終了の前の 2 つの呼び出し時点の制御ブロックおよびバッファ・プールのスナップを取ります。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDDBH0、DFSDXMT0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0826

説明

索引保守によって、それ以上のデータベース処理が禁止される状態が検出されました。メッセージ DFS0840I に、索引および状況コードが示されます。原因として、次のものが考えられます。

- バッファ・ハンドラーによって読み取りエラーが検出された。状況コードは「NO」です。
- 索引データベースをオープンできなかった。状況コードは「NI」です。
- 索引 DB に挿入するとき、入出力エラーが検出された。状況コードは「NO」です。
- 副次索引を使用した DB のロード中に、作業ファイル・データ・セットでオープン・エラーが発生した。状況コードは「NI」です。
- 索引保守で、バッファ・ハンドラーから受け取った戻りコードを処理できなかった。状況コードはブランクです。

分析

これは、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって検出される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP を問題診断のために使用可能にする必要があります。ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSERA10) を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

特定のラベルを分離するには、次の2つの項目が必要です。

1. PST。制御ブロックの SNAP で検出されます。
2. メッセージ DFS0840I。IMS マスター・コンソールへ発行されます。メッセージに、障害のある索引および状況コードが示されます。

PST 内の PSTENCTN フィールドには、要求された DL/I 関数が入っています。

疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つけます。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエン트리・ポイント・アドレスを取得し、レジスター 15 内のアドレスに一致するアドレスを保管セットで検索してください。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが入っています。すぐ下位の保管セットには、バッファ・ハンドラー (DFSDDBH0 か VSAM DFSDVBH0 用) または OPEN/CLOSE (DFSDLOC0) のレジスターが入っています。

キー	ラベル	説明
状況コード = ブランク	DREPL S	置換機能プロセッサ・サブルーチン (DREPLACE) は、バッファ・ハンドラーを使用して索引セグメントを置換します。バッファ・ハンドラーが、ゼロ以外の戻りコードを渡しました。
状況コード = 「NO」 PSTFNCTN= X'E2'	DRETS EG	バッファ・ハンドラー検索機能要求で読み取りエラーが検出されました。
状況コード = 「NI」 PSTFNCTN= X'48'	DINIT DSG	LOAD 要求について、データベースのオープンに失敗しました。
状況コード = 「NO」 PSTFNCTN= X'F4'	DISRT VSM	索引セグメントの VSAM 挿入が失敗しました。
状況コード = 「NI」	DTAPE RA	作業ファイル DFSURWF1 を開くことができなかったため、ルート・ロード・サブルーチン (DLOAD) が失敗しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

オープン・エラーの場合、JCL パラメーター、または DD ステートメント漏れの有無を調べます。入出力エ

ラーの場合、影響を受けたデータ・セットのリカバリーの必要性を調べます。

問題判別:

35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDXMT0

関連情報

[DFS0840I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0827

説明

索引出口ルーチンの使用に関連した LATCH、UNLATCH、または IMODULE LOAD の処理中に、エラーが発生しました。原因として、次のものが考えられます。

- ジョブまたはステップ・ライブラリーの中に、DBDGEN で指定された名前の出口ルーチンが見つからなかった。
- ライブラリーから出口ルーチンを読み取るときに、読み取りエラーが発生した。
- 索引出口ルーチンを逐次化しているときに、ラッチ ECB が誤って通知された。

分析

0827 は、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって提示される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP を問題診断のために使用可能にする必要があります。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXTITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエン트리・ポイント・アドレスを取得し、レジスター 15 内のアドレスに一致するアドレスを保管セットで検索してください。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが入っています。

この異常終了は、DBDGEN をコーディングして、キーワード EXTRTN を指定した XDFLD ステートメントを組み込んだ場合にのみ発生します。このオプションのオペランド (EXTRTN) を使用して、ユーザー提供の索引保守出口ルーチンの名前を指定します。この出口ルーチンは、選択した索引ポインター・セグメントの作成を抑制するために使用されます。

この異常終了の原因は2つあります。ユーザー出口ルーチンをロードしようとしている IMODULE LOAD が失敗したか、DMB ラッチ (DMBLATCH) の直列化が失敗しました。1 番目の原因は、DB/DC 環境でのみ発生する可能性があります。IMODULE 障害の場合、異常終了の前に、レジスター 14 からレジスター 12 が 2 番目の下位保管セットに保管されます。この保管セットのレジスター 3 は、索引保守パラメーター・リスト (DMXMPRM) を指しています。ラベル DMBXMXNM に、ユーザー提供の出口ルーチンの名前があり、レジスター 15 には、IMODULE LOAD の戻りコードが入っています。

2 番目の場合、ラッチまたはアンラッチ操作が失敗しました。LATCH/UNLATCH へ入った時点のレジスターは 3 番目の下位保管セットに格納されるはずですが、ここでエラーが発生した場合、終了する前に環境の保管は行われません。したがって、ラベルがロジック全体のガイドとして提供されており、KEY 情報は存在していません。

キー	ラベル	説明
ゼロ以外の Reg15 (2 番目の下位保管セット)	DSPRETA A	出口ルーチンに関する IMODULE LOAD が失敗しました。
	DSUPISL D	LATCH 操作の場合は、ラッチの所有者が呼び出し元ではないか、または通知コード (PSTDECB) が ISERWAIT の後で無効であるかのどちらかです。UNLATCH 操作の場合は、ラッチの所有者が呼び出し元ではありません。

考えられる原因: JOBLIB または STEPLIB JCL が、ユーザー出口ルーチンがあるライブラリーを指していません。

APAR 処理の場合: DBD のアセンブリー、従属領域ダンプ、およびシステム・ログのコピー

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

問題の原因になった可能性のあるライブラリー・エラーを分析します。ラッチ問題は、オンライン環境でのみ発生する可能性があります。ハードウェア・エラーまたはユーザー・エラーでない場合、問題判別を続行します。

問題判別:

3、8、11、17b、18、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDXMT0、DFSURGUO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0828

説明

索引保守は、索引が固有として指定されている新規索引項目を挿入しようとしたが、索引項目が重複しています。

分析

これは、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって提示される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP が、問題診断に使用できるようになっていなければなりません。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラム (DFSERA10) を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

疑似異常終了に適用されるレジスターを見つけるには、DFSDXMT0 によって使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエントリー・ポイント・アドレスを取得し、レジスター 15 にある一致するアドレスの保管セットを検索します。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが含まれています。

PST の印刷出力は重要です。フィールド PSTRTCDE および PSTFNCTN は、2 つの重要なフィールドです。PSTWRK4 には、索引項目セグメントの SSA が含まれています。異常終了の前にメッセージ **DFS0840I** が出力され、イムスマスター・コンソールに出されます。状況コードは NI です。

重複する副次索引項目が発生した場合、索引は固有でないように指定する必要があり、オーバーフロー・エントリー・シーケンス (EDS) データ・セットを指定する必要があります。バッチを実行している場合は、データ・ベース索引を再同期するためにバックアウトを実行する

キー	ラベル	解説
PSTFNCTN =X'F4'	ディスヴ ルスフム	新しい索引項目を挿入しようとしているときに、
PSTRTCDE=X'28'		重複した索引レコードが 検出されました。

システムの処置

エラーが検出された時点で、挿入されているセグメントは既にデータベースに追加されており、他の索引は既に

更新されている可能性があります。ディスク・ロギングを使用するバッチ・システムで実行していて、実行パラメーター BKO=Y (動的バックアウト) が指定されていない場合は、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行する必要があります。そうでない場合、システムは動的バックアウトを

プログラマーの応答

重複する副次索引項目が発生した場合は、索引は非固有として指定し、オーバーフロー入力順データ・セットを指定する必要があります。

問題判別

1, 11, 35

APAR 処理の場合: システム・ログのコピー

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDXMT0

関連情報

DFS0840I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0829

説明

VSAM ERASE 呼び出しが発行されたときに、VSAM バッファ・ハンドラーから無効な戻りコードが戻されました。

分析

0829 は、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって提示される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP が、問題診断に使用できるようになっていなければなりません。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。DFSERA10. OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

疑似異常終了に適用されるレジスターを見つけるには、DFSDXMT0 によって使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエントリー・ポイント・アドレスを取得し、レジスター 15 にある一致するアドレスの保管セットを検索します。この保管セットには、索引保守モジュールが呼び出されたときのレジスターが含まれています。

索引削除が要求されました。正しい索引セグメントが検出されると、タイプ X'50' のログ・レコードが書き込まれ、索引セグメント・エントリーの消去を実行するた

めにバッファ・ハンドラーが呼び出されます。PST の PSTRTCDE フィールドは、バッファ・ハンドラーの戻りコードを判別するために参照される必要があります。また、バッファ・ハンドラー・トレース (BFSP) が、記録された消去の前にある呼び出しの順序になっている必要があります。

キー	ラベル	解説
PSTABTRM=X'10 00033D'	DDLTVS AM	消去操作で、無効なバッファ・ハンドラー戻りコードが戻されました。
PSTFNCTN=X'F1 '		

APAR 処理の場合: システム・ログ、従属領域ダンプのコピー

システムの処置

イムス は異常終了する。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

11, 17, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDXMT0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0830

説明

アプリケーション・プログラムが GU 呼び出しを発行し、DC 呼び出しハンドラー (DFSDLA30) がメッセージに無効なフィールド (MSC SYSIDS、IMSID、SOURCE 名など) が含まれていることを検出しました。

このエラーは次の場合に起こります。

- MSC ネットワークのリモート IMS で (および、共有キュー環境のキューで) このメッセージが未完了の間に、これらのフィールドの設定元のリソースが変更された場合。
- 共有キュー環境の 1 つ以上のシステムが MSC リンク付きで定義されている場合 (それ以外は MSC リンクなしで定義されている)。IMSplex では、ある IMS システムが MSC 対応の場合には、IMSplex 内のすべての IMS システムが MSC 対応でなければなりません。IMS システムを MSC 対応にするには、システム定義時に IMS システムに対して MSC リンクを定義する

必要があります。この MSC リンク定義は、機能させる必要はありません。

- IMS 内部エラーによる場合。

分析

0830 は、DFSDLA30 によって発行される標準疑似異常終了です。以下のイベントが発生します。

- メッセージ DFS554A がマスター端末あてに発行されます。
- メッセージをバックアウトしてメッセージ・キューに戻すために、疑似異常終了 0830 が発行されます。このメッセージは、ローカル・キュー (SQ 以外) または作動可能キュー (SQ) に入れられ、アンロックされません。
- プログラムおよびトランザクションは停止されます。
- タイプ 6701-LA3E のレコードが IMS ログに書き込まれます。タイプ 67D0 のレコードも書き込まれる場合があります。タイプ 67FF の疑似異常終了レコードは書き込まれません。

ログ・ファイル選択ユーティリティ DFSEAR10 を使用して、タイプ X'6701' ID=LA3E および X'67D0' のログ・レコードを印刷してください。

6701-LA3E レコードには、以下の制御ブロックが含まれています。

- PCB (PST 内の入出力 PCB)
- SMB (トランザクション・コードおよび特性)
- INP_QBUF (入力メッセージの先頭または唯一の QBUF)
- PST (従属領域の区画仕様テーブル)
- 2 番目の 6701-LA3E レコードに記録される追加情報には、以下のものが含まれています。

AB830RSN

ABENDU0830 理由コード - ラベル GETAB830 に保管された、DFSDLA30 レジスターからの ABEND 0830 R15 理由コード (以下の表を参照)

PSTJOBNM

PST からのジョブ名およびステップ名。

これに加えて、2 番目の 6701-LA3E レコードに MSC 関連の問題に関する以下のフィールドが含まれていることがあります。

SIDPFHXHD

SID テーブルの接頭部およびヘッダー (MSC がシステム定義処理の一部として IMS に含まれる場合。マクロ DFSMSSIT を参照)

SIDENT

SID テーブル項目 (MSC がシステム定義処理の一部として IMS に含まれる場合。マクロ DFSMSSIT を参照)

IMIDENT

IMS ID テーブル項目 (MSC がシステム定義処理の一部として IMS に含まれる場合。マクロ DFSMSIMT を参照)

これらの制御ブロックの DSECT を取得するには、以下の CSECT をアセンブルします。

```
CSECT
IDLI TPCBASE=0
IAPS SMBASE=0
ILOGREC TYPE=DSECT,RECID=01
IPST ISIT=YES
END
```

要確認: PST には GU 呼び出しの処理に使用される情報フィールドが含まれています。PST には、保管域 PSTSAV1 から PSTSAVxx (ここで、xx=20) も含まれています。DFSDLA30 用の保管域は PSTSAV4 または PSTSAV5 です。疑似異常終了が検出されると、現行レジスターがその保管域に保管され、異常終了 0830 理由コードが Reg15 に、戻りコード (該当する場合) が Reg1 に入っています。

以下の情報フィールドがログに記録されます。

- エラーの入力メッセージは INP_QBUF に記録されます。このメッセージのフォーマットは QLOGMSGP マクロに入っています。
- 疑似異常終了コード 1000033E (X'33E' = 10 進数 0830) は、フィールド PSTABTRM に保管されます。IPST マクロを使用して、IPST DSECT をアセンブルしてください。

エラーが検出されたときの DFSDLA30 からのレジスターは、保管域 PSTSAV4 に入っています。この保管域およびその他のすべての保管域は、以下のフォーマットを備えています。

PSTSAV4	DC	F'0'	0 または最初のセットの SAP ポインター
PSTBCK4	DC	A(PSTSAV3)	PSTSAV3 への逆方向ポインター
PSTFRD4	DC	A(PSTSAV5)	PSTSAV5 への順方向ポインター
	DC	15F'0'	REG14 から REG12 をここに保管

- PSTSAV4 には、エラーが検出されたときの DFSDLA30 内のレジスターが入っています。
- Reg1 は、エラー (例えば FINDEST エラー) を検出した呼び出しからの戻りコードです (エラーがそのような呼び出しに関連している場合)。

PSTSAV5 保管域には、以下のような追加の診断情報が含まれています。

- Reg14、Reg15、Reg0 には、SCDCKTIM からの 12 バイトの UTC 時刻が入っています。これは、この IMS が再始動された時刻です。この時刻を使用して、メッセージ発信元の UTC 時刻 (INP_QBUF のシステム拡張接頭部 (タイプ 8A) の MSGUTC フィールド) と比較

します。このメッセージが、この IMS が再始動される前に送信されたものかどうかを判別してください。

- Reg1 には、PSEUDOABEND コード X'1000033E' が入っています。このコードは、PST の PSTABTRM にも入っています。
- Reg2 および Reg3 には、IMS の IMSID が入っています。この IMSID をメッセージ発信元の IMSID (INP_QBUF の基本接頭部のフィールド MSGORGID) と比較して、このメッセージがこの IMS から発信されたか、IMSplex または MSC ネットワーク内の別の IMS から発信されたかを判別してください。

67D0 レコードには (DFSQD00 によって書き込まれた場合)、以下の情報が記録されています。

- SCD、IMS システム目録ディレクトリー
- ECB (PST と同じアドレス)
- 32 バイトの UOW
- 10 バイトのサービス要求詳細情報
- 8 バイトの宛先名
- 24 バイトの失敗したサービス要求
- 4 バイトの戻りコード
- 4 バイトの理由コード
- ダンプ項目 1
- ダンプ項目 N

DFSQD00 は OCO です。この情報を分析するには、IBM ソフトウェア・サポート へのお問い合わせが必要な場合があります。

異常終了 0830 Reg15 理由コードの説明は、以下の表に示されています。

キー	ラベル	説明
Reg15=0 0000001		<p>ローカル・ソース名は、PSTSYMBO で見つかりましたが、有効な LTERM ではありませんでした (つまり、FINDEST によって返されたブロックが SMB または LNB のどちらかでした)。これは、ローカル CNT またはリモート RCNT のいずれかでなければなりません。</p> <p>最も可能性の高い原因は以下のいずれかです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム定義エラーが検出された。 2. 共用キュー (SQ) を使用している場合、すべての IMS システムが共用キュー・グループ (SQG) に結合される前に、IMSplex が再始動された。

キー	ラベル	説明
		<p>この問題を修正するには、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケース 1 の場合、システム生成を訂正します。 2. ケース 2 の場合、領域を始動する前に SQG 内のすべての IMS システムを再始動するか、またはこのメッセージを SQ からデキューします。
Reg15=0 0000002		<p>QMGR への呼び出しから、ゼロ以外の戻りコードが REG15 に返されました。戻りコードは R1 に移動され、PSTSAV4 または PSTSAV5 の REG1 に保管されます。この戻りコードが無効なことが判明しました。この問題は IMS 内部エラーです。</p>
Reg15=0 0000003		<p>メッセージには MSGIDSTN/ PSTIDSTN に入った APPC/OTMA ソース名がありますが、このメッセージには APPC/OTMA 接頭部のタイプ X'87' セグメントがありませんでした。この問題は IMS 内部エラーです。</p>
Reg15=0 0000004		<p>CQS エラーが発生しました。</p>
Reg15=0 0000006		<p>MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGSRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージから取得された、PSTSIDS のソース SYSID はリモートですが、PSTIDSTN/MSGIDSTN にあるソース名が MSNAME ではありません。この SYSID がメッセージの作成後に変更されたかどうか調べてください。変更されていた場合、プロシージャ・エラーが発生します。変更されていない場合、これはおそらく IMS 内部エラーです。</p>

キー	ラベル	説明
Reg15=0 0000007		MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージから取得された、PSTSIDS のソース SYSID がリモートです。ソースはローカル APPC/OTMA 名です。しかし、メッセージが BE IMS で処理されており、これは無効です。ソース SYSID がこのメッセージの作成後に変更されたかどうか調べてください。変更されている場合、プロシージャ・エラーが発生します。つまり、SQG でフロントエンド IMS を始動せずに、リモート SYSID を持つリモート IMS が単独でオープンされたこととなります。フロントエンド IMS を始動し、メッセージを再処理のために解放してください。変更されていない場合、これはおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000000 8		MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージから取得された、PSTSIDS のソース SYSID が無効です。この SYSID がメッセージの作成後に変更されたかどうか検査してください。変更されていた場合、プロシージャ・エラーが発生します。PSTSIDS の値がゼロの場合、そのメッセージはおそらく、MSC 対応でない(またはメッセージが共用キューに入れられたときに MSC 対応でなかった) IMS から受け取ったものです。共用キュー・グループ内のすべての IMS システムが MSC 対応か、またはすべてが MSC 非対応であることを確認してください。IMSplex では、ある IMS システムが MSC 対応の場合には、IMSplex 内のすべての IMS システムが MSC 対応でなければなりません。IMS システムを MSC 対応にするには、システム定義時に IMS システムに対して MSC リンクを定義する必要があります。この MSC リンク定義は、機能させる必要はありません。変更されていない場合は、この異常終了の原因は多くの場合 IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000009		MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージから取得された、PSTSIDS のソース SYSID が無効です。メッセージは、この IMS に対してローカル

キー	ラベル	説明
		の位置にある非 APPC または非 OTMA LTERM からのものです。この SYSID がメッセージの作成後に変更されたかどうか調べてください。変更されていた場合、プロシージャ・エラーが発生します。変更されていない場合、これはおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 000000A		MSGMSIID (1 バイトの SYSID) または MSGRSID (2 バイトの SYSID) のメッセージ・ソース SYSID が、リモートであるか、または無効です。メッセージは有効なローカル・メッセージであると判別されました。MTO 端末 CNTSIDL を使用してソース SYSID の訂正が試みられましたが、この SYSID はローカルでなかったため、SYSID を変換できませんでした。このエラーは、多くの場合、IMS 内部エラーです。
Reg15=0 000000B		このソース名は MSNAME タイプですが、PSTIDSTN/MSGIDSTN にあるソース名が APPC/OTMA トークン名です。この問題は無効であり、おそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 000000C		ソース SYSID はリモートですが、PSTIDSTN/MSGIDSTN にあるシステム・ソース名が PSTSYMB/MSGMSINM にある端末ソース名と一致しています。これらの名前が一致するのは、ローカル・メッセージの場合のみです。この問題は、おそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 000000D		PSTIDSTN/MSGIDSTN で非 APPC または非 OTMA ローカル LTERM のソース LTERM 名を見つけるための FINDDEST 呼び出しが失敗しました。強制作成が使用されたため、LTERM を検索または作成できませんでした。ETO がアクティブであることを確認してください。ETO がアクティブでない場合はアクティブにして、問題が解決するかどうか確認してください。ETO がアクティブな場合は、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。

キー	ラベル	説明
Reg15=0 000000E		PSTIDSTN/MSGIDSTN でソース MSNAME を見つけるための FINDDEST 呼び出しで、Reg15 にゼロ以外の戻りコードを受け取りました。MSC MSNAME が、この IMS で有効であることを確認してください。有効な名前でない場合、メッセージが SQ で処理を待っていた間に、この MSNAME が除去された可能性があります。変更されていない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 000000F		PSTIDSTN/MSGIDSTN にある MSNAME について、動的 MSNAME の作成要求が失敗しました。この MSNAME は存在しておらず、作成できません。この名前が有効な MSNAME であり、LTERM または TRANCODE として存在していないことを確認してください。問題がこれに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000001 0		PSTIDSTN/MSGIDSTN でソース MSNAME を見つけるための FINDDEST 呼び出しが正常に完了しませんでした。この IMS では、共用キューをサポートしていません。メッセージの作成後に MSNAME がシステム定義から除去されていないことを確認してください。また、IMS がウォーム・スタートで開始されてメッセージがキューに残っていたことを確認してください。MSNAMES を変更するには、少なくとも、CTLBLKS システム生成およびコールド・スタートによって、メッセージをキューから除去する必要があります。変更されていない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000001 1		PSTIDSTN/MSGIDSTN にある MSNAME について、動的 MSNAME の作成要求が失敗しました。この MSNAME は存在しておらず、作成できません。この名前が有効な MSNAME であり、LTERM または TRANCODE として存在していないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000012		PSTSYMBO/MSGMSINM で非 APPC または非 OTMA ローカル LTERM のソース LTERM 名を見つ

キー	ラベル	説明
		FINDDEST 呼び出しで、Reg15 にゼロ以外の戻りコードを受け取りました。これは、MSC メッセージがこの IMS から発信され、処理のためにリモート IMS に送信されたことを示しています。リモート IMS が、プログラム間通信をソース IMS へに戻すように発行しました。名前がまだ有効な LTERM であって、TRANCODE または MSNAME でないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000013		PSTSYMBO/MSGMSINM で非 APPC または非 OTMA ローカル LTERM のソース LTERM 名を見つ
		けるための FINDDEST 呼び出しが失敗しました。強制作成が使用されたため、LTERM を検索または作成できませんでした。ETO がアクティブで LTERM を作成できる状態であることを確認してください。これは、MSC メッセージがこの IMS から発信され、処理のためにリモート IMS に送信されたことを示しています。リモート IMS が、プログラム間通信をソース IMS へに戻すように発行しました。名前がまだ有効な LTERM であって、TRANCODE または MSNAME でないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題は
Reg15=0 0000014		PSTIDSTN/MSGIDSTN にある MSNAME について、動的 MSNAME の作成要求が失敗しました。この MSNAME は存在しておらず、作成できません。この名前が有効な MSNAME であり、LTERM または TRANCODE として存在していないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題は
Reg15=0 0000015		DFSDLA30 内の DLA3MGPL ルーチンが、TMR 接頭部 MSGMSC (タイプ 8C) を見つけることができません。このメッセージは INP_QBUF 領域に入っています。この問題は IMS 内部エラーです。

キー	ラベル	説明
Reg15=0 0000016		DFSDLA30 内の DLA3MGPL ルーチンが、MSC 拡張接頭部 MSGMSCE (タイプ 8B) を見つけることができませんでした。このメッセージは INP_QBUF 領域に入っています。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000017		DFSDLA30 内の DLA3MGPL ルーチンが、TMR 接頭部 MSGMSC (タイプ 8C) を見つけることができませんでした。このメッセージは INP_QBUF 領域にあり、フロントエンド SQ IMS で処理を実行する APPC/OTMA メッセージです。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000018		DFSDLA30 内の DLA3MGPL ルーチンが、TMR 接頭部 MSGMSC (タイプ 8C) を見つけることができませんでした。このメッセージは INP_QBUF 領域にあり、フロントエンド SQ IMS で処理を実行する APPC/OTMA メッセージです。この問題は IMS 内部エラーです。
Reg15=0 0000019		PSTIDSTN/MSGIDSTN にある MSNAME について、動的 MSNAME の作成要求が失敗しました。この MSNAME は存在しておらず、作成できません。この名前が有効な MSNAME であり、LTERM または TRANCODE として存在していないことを確認してください。これに該当しない場合、この問題はおそらく IMS 内部エラーです。

システムの処置

以下のアクションが発生します。

- 疑似異常終了 0830 が発行され、メッセージ DFS554A がマスター端末に送信されます。
- プログラムおよびトランザクションは停止されます。
- メッセージは作動可能キュー (アンロック状態) に戻されます。
- 6701-LA3E レコードが IMS ログに書き込まれます。

オペレーターの応答

共用キュー IMS を使用している場合、まず、このメッセージが共用キュー・グループ内の別の IMS によって正常に処理されていないかどうかを確認します。メッセージがまだキューにある場合は、**/DEQUEUE TRANSACTION tranname PURGE1** を実行して除去でき

る場合があります。*Tranname* はメッセージ DFS554A 内の TRANCODE 名です。**/START** コマンドを出して、トランザクションおよびプログラムを再始動することもできます。エラーが訂正されたら、アプリケーション・プログラムにメッセージの再スケジュールと GU を行わせることができます。

複数システム結合機能 (MSC) に対応した共用キュー IMSplex を使用していて、記録済みの IMS でメッセージが入力され、しかも無効な MSC SYSID がエラーの原因である場合は、共用キュー・グループ内のすべての IMS システムを開始してエラーを訂正できることがあります。この処置により、SQG 内の IMS システム間で SYSID が交換され、すべての SYSID が有効になります。

プログラマーの応答

この問題はプロシージャ・エラーまたは IMS 内部エラーの可能性がありますが、どちらが可能な解決であるかを判別するには、ファイル選択およびフォーマット設定印刷ユーティリティ (DFSERA10) を使用して、タイプ 6701-LA3E レコード (および、作成されている場合は X'67D0' レコード) を印刷し、分析する必要があります。

問題判別

5, 6, 17h

次の情報は 17h に適用されます。

- ログ・レコード・タイプ x'6701'ID=LA3E を印刷します。
- ログ・ファイル選択ユーティリティ DFSERA10 を使用します。
- 次の制御カードを使用します。

```
OPTION PRINT
0=5,V=6701,L=2,C=M,T=X,E=DFSERA30
OPTION PRINT
0=9,V=LA3E,L=4,C=E,T=C,E=DFSERA30
OPTION PRINT
0=5,V=67D0,L=2,C=E,T=X,E=DFSERA30
```

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA30

関連情報

[DFS554A \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0831

説明

全機能データベースのブロック直列化を処理中に、IMS が論理エラーを検出しました。タスクが所有していな

いブロックに対してブロック直列化ロックの解放を要求したと DFSBLSER が判定したため、異常終了が発行されました。

分析

異常終了 0831 は、PST が所有していないブロックに対してブロック直列化ロックを解放しようとした場合に発行される、標準異常終了です。スペース管理は、この PST のエレメントを見つけるために、SCDHPTR の先頭エレメントから開始してエレメント・チェーン全体をスキャンしました。チェーンの終わりに達し、エレメントが検出されない場合は、ラベル WERELOST に分岐します。

異常終了時のレジスターの通常の使用法は、以下のとおりです。

R3

NEXT には、ゼロが入っています。これは、ブロック直列化チェーンの全体がスキャンされ、このタスクのエレメントがチェーン上で検出されなかったことを示します。

R4

OURS には、チェーン上で検出されなかったエレメントへのポインターが入っています。また、PSTDHDEL にはエレメントが入っています。

R10

待機しているタスクの PST アドレスです。R11 - SCD アドレスです。

システムの処置

IMS は異常終了し、IMS 異常終了 0831 が示されます。

プログラマーの応答

IMS 従属領域の活動中に異常終了が発生した場合は、IMS の緊急時再始動ができます。

IMS の緊急時再始動時の動的バックアウトの最中に異常終了が発生した場合は、/ERESTART コマンドにオプション COLDBASE または COLDSYS のどちらかを指定して IMS を再始動し、バッチ・バックアウトを使用してバックアウトを実行する必要があります。

バッチ・バックアウトの最中に異常終了が発生した場合は、順方向リカバリーを使用してデータベースをリカバリーする必要があります。

問題判別:

1、2、3、4、5、6、8、14、15、25、40

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSMMUD0、DFSRDBC0

0832

説明

HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM データベース内のスペースを要求または解放するときに、接頭部アドレスが PSTBUFFA にあるブロックで、誤ったフリー・スペース・エレメント (FSE) が検出されたか、または作成されました。現行呼び出しが完了していない可能性があります。いくつかの条件にチェック・マークが付いている場合は、異常終了が発行されます。

- FSE の長さが DCB バッファの長さを超えている。
- FSE ポインターまたは長さフィールドが正の符号付き数字ではありません。
- FSE 位置は、次の FSE またはブロックの終わりとオーバーラップしています。

分析

0832 は、DFSRCHB0(検索ブロック・ルーチン)または DFSFRSP0(フリー・スペース・ルーチン)のいずれかで検出された疑似異常終了です。これらのルーチンの両方のラベル AB832 では、DFSRCHB0 のソース内にある CSECT DFSAB832 に直接分岐します。DFSAB832 は、オフセット X'C'で開始する最後のレベルの保管域 PSTSAVL に現行レジスターを保管します。X'FF' は、X'C'の最初のバイトに入っています。これはレジスター 14 を示します。レジスター 12(DFSRCHB0 と DFSFRSP0 の両方の基本レジスター)を使用して、どのモジュールがエラー状態を検出したかを判別する必要があります。

DFSAB832 は、DL/I トレース・テーブル内の現行の HD スペース管理要求もトレースします。このトレース項目には、スペース管理の呼び出し元のレジスター 14 の戻りアドレスが含まれています。呼び出し側は、バックアウト、削除、または置換、またはロードまたは挿入を実行します。

フィールド PSTDATA は、現在使用されているブロックまたは CI を含むバッファを指しています。

DFSRCHB0 の場合:

FSE チェーンを探索し、フリー・スペースのブロックを探し出すために DFSRCHB0 が入力されます。これにより、データのセグメントに最適なフリー・スペースが探索されます。チェーンを検索する前に、3つのブレースホルダーが初期化されて格納されます。

1. ぴったりの適合
2. セグメントのための十分なスペースと最小の長さのセグメント
3. 2つのセグメントのスペース

DFSRCHB0 の場合、レジスター 2 はブロックの開始点を指します。

キー	ラベル	解説
Reg2=A(BLOCK) リグヒ 3> Reg11	クトゥン シュルク	フリー・スペース・ポインターがバッファー長を超える位置を示している場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) Reg7>Reg11	マックク	FSE の長さがバッファー長を超える場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) Reg8>Reg3	マックク	前の FSE が現在の位置にオーバーラップしている場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) Reg8=PSTWRK2	スキップ ロ	新しい FSE がバッファー長を超えたかどうかを確認 比較は、PSTWRK3 と PSTWRK2 の内容の合計と、レジスター 11 にあるものの合計との間で行われます。レジスター 11 が低い場合、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) (Reg9 +Reg3)>Reg11	二つ穴	フリー・スペース・ポインターがバッファー長を超えると、異常終了が出されます。
Reg2=A(BLOCK) 再処理の停止 2	二つ穴	前の FSE が現行の FSE をオーバーレイした場合、異常終了が発行されます。
Reg2=A(BLOCK) (PSTWRK2+PSTWRK3) > Reg11	二つ穴	FSE がバッファー長を超える場合は、異常終了が発行されます。

DFSFRSPO の場合：

セグメントを解放する要求があるため、DFSFRSPO が呼び出されました。このセグメントは、新しい FSE を作成する必要があるかどうか、またはこのフリー・スペースを既存の FSE に追加できるかどうかについての判別が行われます。いずれの場合も、タスクは実行され、必要に応じてビット・マップが更新されます。DFSFRSPO の場合、レジスター 6 はブロックの開始点を指します。

キー	ラベル	解説
Reg6=A(BLOCK) リグヒ 3> Reg8 Reg6=>RBASE	ノット ド	バッファー長 (DCB および X'18') が、解放されるバイト数と比較されます。解放されるバイト数が大きくなると、異常終了が発行されます。RBASE は後で PSTDATA から PSTOFFST を差し引いたものとして定義されます。
Reg6=A(BLOCK)	ントフ ム	FSE を作成すると、ビットマップがオーバーレイされます。
Reg6=A(BLOCK) Reg9<0	スキャン	FSE 長が負でないことを確認してください。それが負の場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) Reg9>Reg8	スキャン	FSE の長さがバッファー長を超えるかどうか異常終了すると、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) Reg9>Reg3	スキャン	前の FSE が現在位置にオーバーラップしていないことを確認してください。異常終了すると、異常終了が発行されます。
Reg4=Reg3 Reg6=A(BLOCK)	スキャン	FSE がまだ解放されていないか、またはエリアがゼロでないことを確認してください。そうである場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) Reg11>(Reg3->=0)	オンワ ード	次の FSE がオーバーレイされていないことを確認してください。そうである場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=A(BLOCK) (Reg11+PSTWRK3)> Reg8 PSTFNCTN=E6	イット ドック	FSE がバッファーの長さを超えていないことを確認してください。そうでない場合は、異常終了が発行されます
Reg6=A(BLOCK) (PSTWRK4+2)+ (PSTWRK3+2)> Reg8	イット ドック	2 番目の FSE を作成した後、その長さがバッファー長を超えていないことを確認します。これが行われると、異常終了が発行され

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

どのデータベースがエラーになっているかを識別するには、PSTDMBNM からデータ管理ブロック番号を入手し、SCD から DDIR を入手します。データ管理ブロック番号を使用して、適用される DDIR 番号を見つけます。FSE を訂正するためにデータベースを再編成するか、または以下のことを行ってください。

1. ブロック内の FSE アンカー・ポイントをゼロに設定します。これにより、そのブロック内の FSE がこれ以上使用されなくなります。
2. データベース・イメージ・コピー・ユーティリティを使用して、データベースのメモリー・ダンプを作成します。これは、このブロック内のアクティビティのバックアウトが、FSE をゼロに設定する前に、試行しないようにするために必要です。予期されたスペースが存在しない場合、バックアウトはセグメントを正しく置換しません。結果は予測不能になります。

問題判別:

17a、17b、17g、35、および誤ったデータ・ブロックでのアクティビティへの参照用のログ・テープの保管

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSRCHB0、DFSFRSP0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0833

説明

無効な SYSID が検出されました。レジスター 15 に、無効な SYSID が入っています。このエラーは、おそらく論理エラーであるか、またはデータ域が破壊されています。

分析

0833 は、DFSDLA30 (通信 DL/I 呼び出しハンドラー) によって発行される標準異常終了です。このモジュールは、メッセージ・キューを参照する DL/I 呼び出しを処理します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、障害が発生したモジュールを分離してください。

レジスター 10 の BAL を使用してラベル GETLNB のサブルーチンと呼び出し、発信元 SID に関連付けられた論理リンク名ブロック (LNB) を取得します。発信元の SID 値を PST (ラベル PSTSIDS) から取得し、レジスター 15 に挿入します。値がゼロ (レジスター 15=ゼロ)

の場合、または最大定義 (SCDSIDN) より大きい場合は、異常終了が発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル xxxABEND 内の命令を指しています。レジスター 14 を使用して、特定のラベルに分離することができます。レジスター 12 は、基底レジスターです。レジスター 9 は PST へのポインターで、レジスター 11 は SCD を指します。

キー	ラベル	説明
	CHG14 00	リモート・システムから会話型プログラムの入力が発信されましたが、その入力システムに関連付けられた宛先 LNB の定義がこのシステムで検出されませんでした。
	CHG82 00	リモート・システムから非会話型プログラムの入力が発信されましたが、その入力システムに関連付けられた宛先 LNB の定義がこのシステムで検出されませんでした。
Reg15= 動的 LNB 取得 (DLA3DL NB) ルー チンから の RC		GU、GN、CHKPT、または ROLB 処理が、PSTIDSTN にある MSNAME および PSTSIDS にある SYSID を取得するための動的 LNB 要求を出し、8 以上の戻りコードを受け取りました。
Reg15= 動的 LNB 取得 (DLA3DL NB) ルー チンから の RC		GU、GN、CHKPT、または ROLB 処理が、PSTIDSTN にある MSNAME および PSTSIDS にある SYSID を取得するための動的 LNB 要求を出し、8 以上の戻りコードを受け取りました。REG3 には、DLA3DLNB ルーチン内のどのプロセスが失敗したのかを示すエラー・コードが入っています。
Reg15= 動的 LNB 取得 (DLA3DL NB) ルー チンから の RC		GU、GN、CHKPT、または ROLB 処理が、PSTIDSTN にある MSNAME および PSTSIDS にある SYSID を取得するための動的 LNB 要求を出し、8 以上の戻りコードを受け取りました。REG3 には、DLA3DLNB ルーチン内のどのプロセスが失敗したのかを示すエラー・コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=動的LNB取得 (DLA3DLNB) ルーチンからの RC	GMOV2 830	GU、GN、CHKPT、または ROLB 処理が、PSTIDSTN にある MSNAME および PSTSIDS にある SYSID を取得するための動的 LNB 要求を出し、8 以上の戻りコードを受け取りました。REG3 には、DLA3DLNB ルーチン内のどのプロセスが失敗したのかを示すエラー・コードが入っています。
	ISRT01 06	リモート・システムで、メッセージが発信されましたが、宛先 LNB の定義がこのシステムで検出されませんでした。
	ISRT04 64	宛先システム ID がローカル・システム ID と同一でないことが検出されました。

考えられる原因: 内部論理エラーが存在しているか、またはデータ域が破棄されています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA30

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0834

説明

スペースを検索中に、スペース管理がバッファ・ハンドラーから 3 回連続で読み取りエラーの戻りを受け取りました。この異常終了の前に、バッファ・ハンドラーから入出力エラー・メッセージが発行されています。

分析

これは、ラベル ABEND834 の DFSGGSP0 によって発行される疑似異常終了です。スペース管理からの呼び出し時に、バッファ・ハンドラーが同一のデータ・セットを読み取る 3 つの入出力エラーを検出したときは、常にこの疑似異常終了が発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

トランザクションの終了前に発行された入出力エラー・メッセージを参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSGGSP0

0835

説明

索引ソース・セグメント内のフィールドに関して、フィールド記述子ブロック (FDB) でエラーが検出されました。FDB によって表されるフィールドが、XDFLD ステートメントの SUBSEQ または DDATA オペランドで指定され、FDB はそれがシステム関連のフィールドであることを示しているが、フィールド名が /CK または /SX で始まっていません。索引保守モジュール DFSDXMT0 が、このエラーを検出しました。

分析

0835 は、DFSDXMT0 (DL/I 索引保守モジュール) によって発行される疑似異常終了です。制御ブロックの SNAP を問題診断に使用可能にする必要があります。

疑似異常終了に適用されるレジスターを検出するには、DFSDXMT0 で使用される保管域セットを見つける必要があります。ラベル SCDDXMT0 の SCD からエントリー・ポイントのアドレスを取得し、保管セットの中からそれに一致するアドレスがレジスター 15 に入っているものを探してください。この保管セットには、DFSDXMT0 が呼び出されたときのレジスターが入ります。

この異常終了は、索引ソース・セグメントの処理中に発生します。XDFLD ステートメントの SUBSEQ または DDATA オペランドで指定されたフィールドの FDB は、フィールドがシステム関連のフィールドであることを示していますが、フィールド名が /CK または /SX で始まっていません。PST のアドレスは、DFSDXMT0 用の保管セットのレジスター 1 に入っており、その PST に、ラベル PSTWRK1 の索引ソース・セグメントの SDB または PSDB のアドレスが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この問題は、おそらく IMS 内部エラーです。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSDXMT0、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0840

説明

圧縮サービスまたは拡張サービスの試行中に、セグメント編集/圧縮ルーチンが処理エラーを検出しました。

分析

異常終了の原因を判別するには、以下の情報を参考にしてください。

システム・ログ

エラーを診断するには、システム・ログに書き込まれた制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要になります。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラム DFSERA10 を使用して、タイプ X'67' ログ・レコードを印刷します。OPTION PRINT ステートメントでは、EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

データ圧縮

ハードウェア・データ圧縮 (DFSZLDX0) の問題の場合は、異常終了コード 3325 の戻りコードを参照してください。ソフトウェア・データの圧縮に問題がある場合は、異常終了コード 2990 (DFSCMPX0) および異常終了 2991 (DFSKMPX0) の戻りコードを参照してください。

プストローワ

PSTLOGWA には、処理エラーに関連した診断情報が含まれています。

オフセット

アイテム

X'00'

セグメント編集/圧縮ルーチンによって戻されるラベル名またはエラーの理由。

04

ルーチンによって発行された可能性のあるユーザー異常終了コード。

08

ルーチンに渡されるパラメーター・レジスター:

ワード 1

有効な情報が含まれていません。

ワード 2

ソース・セグメントのアドレス。これは入力フィールドです。

ワード 3

宛先セグメントのアドレス。これは出力フィールドです。

ワード 4

PSDB アドレス、または高速機能の場合はゼロ。

ワード 5

DMBCPAC または DBFCMPC のアドレス (高速機能の場合)。

ワード 6

エントリー・コード。

X'20'

高速機能の場合は、DMBCPAC または DBFCMPC のコピー。

DFSDLR00 の場合: これは、ラベル COMPCALL のモジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。分析のためには、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSDXMT0 の場合: これは、ラベル NOKEY のモジュール DFSDXMT0 から発行される疑似異常終了です。分析のためには、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSDDL00 の場合: これは、ラベル NDXREP3、NOASRT2、または CKKEYLP のモジュール DFSDDL00 から発行される疑似異常終了です。分析のためには、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSDLDC0 の場合: これは、EXPAND ルーチン内のモジュール DFSDLDC0 から発行される疑似異常終了です。分析のためには、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSDCAPO の場合: は、ルーチン PSEUDO_ABEND にあるモジュール DFSDCAPO から発行される疑似異常終了です。分析のためには、SYSTEM LOG および PSTLOGWA を参照してください。

DFSPRIMS の場合: これは、ルーチン IMSOB にあるモジュール DFSPRIMS から発行される疑似異常終了です。レジスター 14 には、PSTLOGWA のアドレスが入っています。

DBFCMP10 の場合: は、ルーチン CALLEXIT のモジュール DBFCMP10 から発行される疑似異常終了です。異常終了時に、レジスター 2 には、セグメント編集/圧縮ルーチンによって戻されたエラーの理由が入っています。

DBFCMP11 の場合: は、ルーチン CALLEXIT のモジュール DBFCMP11 から発行される疑似異常終了です。異常終了時に、レジスター 2 には、セグメント編集/圧縮ルーチンによって戻されたエラーの理由が入っています。

DBFDAC50 の場合: これは、ルーチン DECOMPRESS のモジュール DBFDAC50 から発行される疑似異常終了です。異常終了時に、レジスター 15 には、セグメント編集/圧縮ルーチンによって戻されるラベル名またはエラーの理由が入っています。レジスター 14 には、ルーチンから戻される異常終了コードが入っています。

システムの処置

アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答

編集/圧縮ルーチンが正しく作成され、リンクされていることを確認してください

問題判別:

4、17a、17b、18、19、および編集/圧縮ルーチンのソース・リストおよびリンク・リスト

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLR00、DFSDXMT0、DFSDDL0、DFSDLDC0、DFSPRIMS、DFSPRIMS、DBFCMP10、DFSURGU0、DBFDAC50

関連情報

[異常終了 2990](#)

[異常終了 2991](#)

[異常終了 3325](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0841

説明

イムスがルーチンを開始しようとしたときに、セグメント編集/圧縮ルーチンのアドレスが無効でした。

分析

レジスター 2 およびレジスター 3 に、セグメント編集/圧縮ルーチンの名前が入っています。

システムの処置

バッチ処理領域またはメッセージ処理領域が異常終了しました。制御領域は正常に続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS0733I に追加情報を確認してください。セグメント編集/圧縮ルーチンがアクセス可能であること、およびイムスがルーチンをロードするため

に十分なストレージを持っていることを確認してください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DBFCMP10、DBFCMP11

関連情報

[DFS0733I \(メッセージおよびコード\)](#)

0842

説明

データ共用環境で、疑似データ・セットを OSAM データベースに拡張しようとしているときに、エラーが発生しました。

分析

DFSDBH40 の場合: これは、データ共用環境でデータ・セットを拡張するときの疑似異常終了です。

エラーのあるデータ・セットの DDNAME、DBDNAME、および DSNAME を示す異常終了の前に、メッセージ DFS0842I がマスター端末オペレーターに発行されます。理由コードの定義については、メッセージ DFS0842I を参照してください。

DFSDVBH0 の場合: これは、ユーザーが OPTIONS ステートメントで DUMP=YES をコーディングした場合に、非高速機能障害に対して発行される標準異常終了です。モジュール DFSDVBH0 は、疑似異常終了 0842 をインターセプトし、それを標準異常終了に変更します。

システムの処置

拡張エラーを検出したデータ・セットの DBDNAME、DDNAME、および DSNAME を示す異常終了の前に、メッセージ DFS0842I が発行されました。アプリケーション・プログラムは、疑似異常終了 0842 を出して異常終了し、イムスは処理を続行します。ただし、ダンプ = はいが DL/I バッファ・オプション・ステートメントに指定されていた場合、アプリケーションは標準異常終了 0842 で終了し、制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

すべてのデータベース・データ・セットを、データ・セットを共用するすべてのサブシステムから共用できることを確認してください。

問題判別:

1, 2, 4, 17

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDBH40、DFSDVBH0

関連情報

DFS0842I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0843

説明

ランダム化ルーチンから DL/I に渡されるブロック番号が、ブロック・サイズに乘算されたときに、最大アドレス可能データ・アドレスを超える値を生成します。データ・アドレスは、VSAM の 32 ビットまたは OSAM の 31 ビットでアドレス可能でなければなりません。

分析

0843 は、モジュール DFSDLR00 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

処理タスクは異常終了します。

プログラマーの応答

DMBDACP 内のランダム化ルーチンから戻された値を調べてください。ブロック番号部分に CI サイズを掛けた値が、許容される最大値より大きい場合は、ランダム化ルーチンを変更するか、ルート・アドレス可能域のサイズを小さくしてください。

問題判別:

11, 25, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0844

説明

データベース内に使用可能なスペースがないか、またはデータ・セットが DSNAME=NULLFILE または DD DUMMY として定義されていました。エクステントを持つ VSAM データ・セットの CLOSE TYPE=T 処理中にエラーが発生した場合にも、この問題が起こることがあります。

分析

この異常終了を発行するモジュールの定義は、以下のとおりです。

DBFIRC10

DEDB 領域に使用可能なスペースがありません。

DFSDVSMO、DFSGGSP0

データベース内に使用可能なスペースがないか、またはデータ・セットが DSNAME=NULLFILE または DD DUMMY として定義されていました。エクステントを持つ VSAM データ・セットの CLOSE TYPE=T 処理中にエラーが発生した場合にも、この問題が起こることがあります。

DFSDVBHO

オプション・ステートメントに DUMP=YES パラメーターが指定されている場合の、非高速機能の障害です。

DBFIRC10 の場合: この疑似異常終了は、DEDB 領域が満杯の場合に発行されます。異常終了の前に、スペース不足のデータ・セットの DDNAME を示すメッセージ DFS2765W または DFS2767I が、マスター端末オペレーターに送信されています。DEDB DL/I 呼び出しを処理するために呼び出される DBFMCLX0 にやって、戻りコード 16 が設定されます。同期戻りコード X'36' は、EPSTSPRC フィールドに設定されます。

DFSDVSMO の場合: この標準異常終了は、オプション・ステートメントで DUMP=YES が指定されている場合に、非高速機能障害に関して発行されます。モジュール DFSDVBHO は、疑似異常終了 0844 をインターセプトし、それを標準異常終了に変更します。CLOSE TYPE=T 障害の場合、データベースが停止されたことを示すために X'4C' ログ・レコードが書き込まれます。PSTRTCDE フィールドは、新しい戻りコード X'50' に設定されます。

DFSDVBHO の場合: この標準異常終了は、オプション・ステートメントで DUMP=YES が指定されている場合に、非高速機能障害に関して発行されます。モジュール DFSDVBHO は、疑似異常終了 0844 をインターセプトし、それを標準異常終了に変更します。

システムの処置

高速機能データ・セットの場合、異常終了の前にメッセージ DFS2765W または DFS2767I が発行されて、DDNAME データ・セットがスペース不足であることが示されます。

非高速機能データ・セットの場合、異常終了の前にメッセージ DFS0844I が発行されて、スペース不足状態が発生したデータ・セットの DBDNAME および DDNAME が示されます。アプリケーション・プログラムは異常終了して、疑似異常終了コード 0844 が示され、IMS は処理を続行します。ただし、DUMP=YES が DL/I バッファ・オプション・ステートメントで指定されていた場合は、アプリケーションは異常終了して、標準的な異常終了コード 0844 が示され、制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

高速機能データ・セットの場合、データ・セットのサイズを増やす必要があります。DEDB 直接再編成ユーティリティを実行することにより、スペースが使用可能になることもあります。

非高速機能データ・セットの場合、データベースが無効である可能性があります。データベース・バックアウト・ユーティリティを実行するか、またはより大きなスペースを割り振ってデータベースを再作成します。LIST VTOC ジョブを実行すると、誤解を招く情報が提供されます。オフライン (/DBR コマンドを使用) の間に、より大きなスペース割り振りの領域にデータベースをコピーする必要があります。次に、/START コマンドを使用して、そのデータベースをオンライン領域で使用可能にします。

問題判別:

4、12

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFIRC10、DFSDVBH0、DFSDVSM0、DFSGGSP0

関連情報

[DFS0844I](#)

[DFS2765W](#)

[DFS2767I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0845

説明

DFSTOCL0、DFSDVBH0、DFSNOTB0、DFSDVSM0、DFSNOT0、または DFSFXC50 で、予期しない条件が検出されました。この問題は、IMS システム・エラーです。DFS1058E メッセージからの理由コードか、または異常終了時のレジスターからのレジスター 6 の値を使用して、いずれかの表のキー・フィールドで値が一致するものを見つけてください。そのキーで参照されるラベルが、モジュール内でエラーが検出されたラベルです。

説明

DFSDVBH0 の場合:

0845 は、モジュール DFSDVBH0 内のいくつかのラベルから発行される標準異常終了です。PSW は、エラーを検出した DFSNOTB0 のセクションを指しています。

PSW がラベル NOTBGMER を指している場合、レジスター 10 は、NOTBGMER に分岐した DFSDVBH0 内のアドレスを指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408451 0' 理由コード =010	AB845R10	BQEL が、VSAM BQEL ではありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408451 5' 理由コード =015	AB845R15	BUFC 書き込みエラー 標識が設定されていません。

DFSTOCL0 の場合:

0845 は、モジュール DFSTOCL0 内のいくつかのラベルから発行される標準異常終了です。PSW は、エラーを検出した DFSTOCL0 のセクションを指しています。

PSW がラベル NOTBGMER を指している場合、レジスター 10 は、NOTBGMER に分岐した DFSNOTB0 内のアドレスを指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4520' 理由コード =020	AB845020	BQEL が、VSAM BQEL ではありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4525' 理由コード =025	AB845025	BUFC 書き込みエラー 標識が設定されていません。

DFSDVSM0 の場合:

この問題は、モジュール DFSDVSM0 内のいくつかのラベルから発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および「REGS AT ENTRY TO ABEND」のレジスターを問題分離に使用することができます。

ダンプ内で、PSW アドレスを見つけてください。次に、そのアドレスから下方ヘスキャンして、ラベルおよびエラーの説明が示されている DC ステートメントを見つけてください。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4530 理由コード =030	AB845R3 0	モジュール DFSDVSM0 に入ったときに、VSAM 内の RPL がすでにアクティブになっていました。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4531' 理由コード =031	AB845R3 1	ESDS 挿入処理中に、ゼロ以外の戻りコードを VSI 更新から受け取りました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4532 理由コード =032	AB845R3 2	ESDS 挿入処理中に、VSAM SVC 109 を使用する VSI 更新呼び出しからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4533' Reg8=RPL ブ ロック 理由コード =033	AB845R3 3	JRNAD 出口ルーチンに渡された RPL は、IMS RPL ではありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4534' 理由コード =034	AB845R3 4	サブプール内のすべてのバッファで、書き込みエラーが検出されました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4536' Reg2=バッ ファー・アドレ ス Reg4=CI の RBA 理由コード =036	AB845R3 6	共用読み取り処理の実行中に、VSAM バッファー・プールのバッファ内で、無効な RDF か CIDF のいずれか、またはその両方が検出されました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4537' Reg8=RPL ブ ロック 理由コード =037	AB845R3 7	UPAD 出口ルーチンに渡された RPL は、IMS RPL ではありません。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4538' Reg2=バッ ファー・アドレ ス Reg3=CI サイ ズ Reg4=CI の	AB845R3 8	書き込み先のバッファで、無効な RDF か CIDF のいずれか、またはその両方が検出されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0442A が発行されます。

キー	ラベル	説明
RBA 理由コード =038		
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408 4539' Reg2=バッ ファー・アドレ ス Reg3=CI サイ ズ Reg4=CI の RBA 理由コード =034	AB845R3 9	書き込み先のバッファで、無効な RDF か CIDF のいずれか、またはその両方が検出されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0442A が発行されます。
Reg1=X'034D' Reg6=E40845 3A Reg2=バッ ファー・アドレ ス Reg3=CI サイ ズ Reg4=CI の RBA 理由コード =03A	AB845R3 A	書き込み先のバッファで、無効な RDF か CIDF のいずれか、またはその両方が検出されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0442A が発行されます。

DFSFXC50 の場合:

バッファ・プールがパージされた後の同期点の時点で、データベースに書き戻されなかったバッファが検出されました。

0845 は、ラベル ABEND845 で発行される標準異常終了です。異常終了時のレジスター 2 に、バッファ接頭部のアドレスが入り、レジスター 10 にバッファ・キュー・エレメント (BQEL) のアドレスが入っています。いつバッファが変更されたのか、バッファの変更後に何が起こったのかを判別することが、問題の解決に役立ちます。

考えられる原因: バッファへの書き込みが行われなかったか、または BQEL が作成される前に書き込みが行われました。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084540' 理由コード =040	AB845 R40	BQEL が、VSAM BQEL ではありません。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084545' 理由コー ド=045	AB845 R45	BUFC 書き込みエラー標識が設 定されていません。

DFSNOTB0 の場合:

0845 は、モジュール DFSNOTB0 内のいくつかのラベルから発行される標準異常終了です。PSW は、エラーを検出した DFSNOTB0 のセクションを指しています。

PSW がラベル NOTBGMER を指している場合、レジスター 10 は、NOTBGMER に分岐した DFSNOTB0 内のアドレスを指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084560' 理由コー ド=060	AB845 060	バッファ無効化エラーです。 変更されたバッファが無効化 されました。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084561' 理由コー ド=061	AB845 061	バッファ無効化エラーです。 変更されたバッファが無効化 されました。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084562' 理由コー ド=062	AB845 062	バッファ無効化エラーです。 VSAM VSI アドレスが IMS VSI アドレスに等しくありません。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084563' 理由コー ド=063	AB845 063	保管域ストレージに対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084564 理由コー ド=064	AB845 064	VSAM KSDS データ VSI が IMS KSDS データ VSI と一致しま せん。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084565 理由コー ド=065	AB845 065	VSAM ESDS データ VSI が IMS ESDS データ VSI と一致しま せん。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084566' 理由コー ド=066	AB845 066	VSI は、キー 0 ではありません。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084567 理由コー ド=067	AB845 067	無効な VSI ブロック ID です。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084568' 理由コー ド=068	AB845 068	VSI キーが 0 に等しくありませ ん。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 084569 理由コー ド=069	AB845 069	VSAM/IMS データ・セット名が 一致しません。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 08456A' 理由コー ド=06A	AB845 06A	バッファ無効化エラーです。 変更されたバッファが無効化 されました。
Reg1=X'03 4D' Reg6=X'E4 08456B' 理由コー ド=06B	AB845 06B	保管域に対する getmain が失 敗しました。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408456C 理由コード=06C	AB84506C	保管域に対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408456D 理由コード=06D	AB84506D	保管域に対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E408456E' 理由コード=06E	AB84506E	AWE に対する getmain が失敗しました。
Reg1=X'034D' Reg6=X'E4084570 理由コード=070	AB845070	AWE に対する getmain が失敗しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別

17a、35

疑似異常終了の場合、レジスター 14 が PST のフィールド PSTDATA に保管されます。レジスター 14 の内容は、異常終了が発行されたバッファ・ハンドラー内のアドレスです。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDVBH0、DFSTOCL0、DFSDVSM0、DFSFXC50、DFSNOTB0、DFSNOTO

関連情報

[DFS1058E \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0846

説明

モジュール DFSDBH00 が予期しない通知コードで通知されました。この問題は、おそらく IMS システム・エラーです。

分析

レジスター 14 の内容は、異常条件が検出された DFSDBH00 内のアドレスです。

考えられる原因: モジュール DFSDBH00 は、何らかのバッファ・ハンドラー機能が完了するのを待っていました。通知を受け取ったとき、その通知コードにエラーがありました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDBH00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0847

説明

OSAM バッファ・ハンドラーで予期しない状態が発生しました。この問題は、IMS システム・エラーです。レジスター 14 に、異常条件が検出された DFSDBH00 にあるアドレスが入っています。

分析

区画指定テーブル (PST) はバッファを待機する必要がありますが、スタックは空です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABENDWE のルーチン内の命令を指しています。このルーチンは、エラーが検出されたときに DFSDBH00 内のさまざまな場所から分岐されます。レジスター 14 は、異常終了ルーチンへの BAL レジスターであり、制御が渡された場所のアドレスが含まれます。

カップリング・ファシリティ・サービスを使用してバッファの妥当性をテスト中に、無効なローカル・ベクトル指標が検出された場合にも、異常終了 0847 が発生する

システムの処置

イムスは異常終了する。

問題判別:

4

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDBH00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0848

説明

書き込みエラーのために、OSAM バッファ・サブプール内のすべてのバッファ・接頭部がロックされました。

分析

0848 は、DFSDBH20 によって発行される疑似異常終了です。エラーのマークが付いた各バッファについて、メッセージ DFS0762I が印刷される

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

27, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDBH20

関連情報

[DFS0762I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0849

説明

検索機能が、PROCOPT=GO の DBPCB に関して疑似異常終了を発行しようとした。異常終了コードが異常終了 0849 に変更されました。

分析

モジュール DFSDLR00 が障害を検出し、PROCOPT=GOx の DB PCB に対して疑似異常終了を発

行しようとした。元の異常終了がユーザー異常終了 0849 に変更されました。元の異常終了コードに対応するレジスタの内容は、PST 内の最新レベルの保管域に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。オリジナルの異常終了コードは、PSTSAVL+X'14' に保管される REGO の下位 2 バイトに入っています。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a, 17b

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0850

説明

鍵タイプ呼び出しまたはバイト・ロケイト呼び出しのためのバッファ・ハンドラーへの要求を検索できませんでした。DFSDLR00 が、バッファ・ハンドラーへの呼び出しから無効な戻りコードを受け取りました。

分析

これは、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。バッファ・ハンドラーの戻りコードは、フィールド PSTRTCDE または JCBRC のいずれかにあります。要求された機能は、フィールド PSTFNCTN にあります。

異常終了時のレジスタ 14 から 12 までの内容が、PST 内の最後の保管域のオフセット X'C' から開始されました。この保管域はラベル PSTSAVL から開始されます。通常のレジスタの使用法は以下のとおり

- R3=JCB
- R4=レベル・テーブル
- R5=SDB
- R7=PST
- R8=DSG

レベル・テーブル・アドレスがレジスタ 4 にない場合、それは JCB 内のフィールド SAVELEVR に保管されます。

キー	ラベル	解説
Reg0=X'00 000352' Reg14=BA L	イビタ ー	バッファー・ハンドラーからの 戻り時にレジスター 15 がゼロ でない。IBYTE ルーチンから 入力する場合は、 PSTFNCTN=X'E2'。 PSTFNCTN=X'F0', X'F2', X'F4', or X'F8' if entered from the BYKEY routine.

考えられる原因: この異常終了は、データベースを更新するために使用される DBD とは異なるデータベースを作成するために使用された DBD の結果である可能性があります。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

使用している DBD を分析します。データベースの作成に使用した DBD と、データベースを更新するために使用した DBD が同じであることを確認してください。

問題判別:

17a 年から 17e まで

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 19 章 IMS 異常終了コード 0851 - 0900

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0851

説明

検索に、LRECL の先頭セグメントとして返されるルート・セグメントが含まれていませんでした。バッファ・ハンドラーには、検索で LRECL を検出するためのキーが渡されていました。

HISAM または INDEX データベースの場合、論理レコード内の最初のセグメント・コードがセグメント・コード 1 ではありませんでした。この異常終了は、データベースが最後にロードされた DBD とは異なる、DBDLIB または ACBLIB の DBD を使用して、このデータベースが処理されている場合に起こります。

分析

0851 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。PSTFNCTN は、X'F0'、X'F2'、または X'F8' に等しい値です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。レジスター 1 および JCBUFSC は、X'01' のセグメント・コードであると予期されていたバイトを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'00000353'	ABEND X	LRECL の開始のアドレスは、PSTDATA に入っています。DMBPF0FF には、LRECL の開始から LRECL 内の最初のセグメント・コードへのオフセットを示す定数が入っています。LRECL の最初のセグメント・コードが X'01' でない場合で、しかもそれが HISAM 2 次データ・グループでなく、単

キー	ラベル	説明
		純 HISAM でもない場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a から 17e

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0852

説明

HDAM、HIDAM、HISAM、PHDAM、または PHIDAM データベース用のバッファ・ハンドラーに対するバイト探索呼び出しから、検索機能に無効なセグメント・コードが返されました。

バッファ・ハンドラーへの PSTBYLCT 呼び出しに対する応答として返されたセグメント・コードが、そのデータベースに有効なセグメント・コードではありませんでした。この異常終了は、データベースが最後にロードされた DBD とは異なる、DBDLIB または ACBLIB の DBD を使用して、このデータベースが処理されている場合に起こります。

分析

これは、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。レジスター 1 は、無効なセグメント・コードを指しています。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- R3=JCB
- R4=LEVEL TABLE
- R5=SDB

- R7=PST
- R8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内のフィールド SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'00000354' Reg6=最後にアクセスされたセグメント Reg12=GETPSDB Reg15=DMB	GTPSDBER	このルーチンへの分岐は、GTPSDB10 から行われます。使用されるセグメント・コードは、JCBACSC からのものです。これは、最後にアクセスされたセグメントからのセグメント・コードです。このセグメント・コードは、データベースに対して有効なセグメント・コードの範囲内がないため、無効です。
Reg0=X'00000354' Reg5=SDB Reg8=DSG Reg9=PSDB SDBHH=0 Reg15=SAVELEVR	ABEND	このルーチンへの分岐は、SETR1 から行われます。レジスター 5 は、SDB の基底レジスターです。SDBHH=0 およびバイト探索呼び出しで返されたセグメント・コードが SDBPHYCD に等しくないため、セグメント・タイプは、兄弟タイプ・ポインターを持っている必要があります。(LEVCOMMT=X'80')
Reg0=X'00000354' Reg6=PSDB の先頭の アドレス Reg9=0	ABEND	このルーチンへの分岐は、SETR1 から行われます。レジスター 5=SDB。SDB が階層チェーンにない場合 (SDBHH ≠0)、バイト探索呼び出しで返されたセグメント・コードは SDBPHYCD に等しくなければならず、また、ゼロのセグメント・コードは無効です。
Reg0=X'00000354' Reg6=PSDB の先頭の アドレス Reg9=PSDB オフセット	ABEND	このルーチンへの分岐は、SETR1 から行われます。返されたセグメント・コードが DMB 内で有効なセグメント・コードの 1 つであることを確認するために、テストが行われます。レジスター 9 がレジスター 0 以上の値である場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

データベースを分析します。無効なポインターがある場合、データベースをリカバリーします。

問題判別:

17a から 17e、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0853

説明

HIDAM、HDAM、PHDAM、または PHIDAM データベースの場合、ルート・セグメントを見つけようとして、戻されたセグメントが、セグメント・コード 1 を持っていなかったか、または (HIDAM または PHIDAM の場合) 索引ポインター・セグメント内のキー値とは異なるキー値を持っていました。この異常終了は、データベースが DBDLIB または ACCLIB からの DBD を使用して処理されている場合に、データベースが最後にロードされた DBD とは異なる DBD を使用して処理されている場合に発生することがあります。この異常終了は、すべてのセグメントが削除されているデータベース上で GHU を実行している場合にも戻されることがあります。

分析

これは、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 から 12 までの内容が、PST 内の最後の保管域のオフセット X'C' から開始されました。この保管域はラベル PSTSAVL から開始されます。通常のレジスターの使用法は以下のとおり

- R3=JCB
- R4=レベル・テーブル
- R5=SDB
- R7=PST
- R8=DSG

レベル・テーブル・アドレスがレジスター 4 にない場合、それは JCB 内のフィールド SAVELEVR に保管されます。レジスター 14 は、セグメント・コードが X'01'でない場合に、POSTW ルーチンからの戻りレジスターです。

キー	ラベル	解説
Reg0=X'3000035' 5' Reg1=A(セグメント) セグメント・コード = X'01' Reg14=リターン・アドレス POSTW 呼び出し側の Reg15=RC8	アベンド 33	レジスター 1 は、X'01' セグメント・コードを持つセグメントの先頭を指している必要があります。そうではないため、この異常終了は、POSTW から ABEND33 に分岐することによって呼び出されます。
Reg0=X'3000035' 5' Reg1=A(セグメント) Reg4=レベル・テーブル・アドレス Reg5=root (SDB) Reg8=root (DSG) Reg15=RC8	アベンド 33	レジスター 1 は、戻されたセグメントのセグメント・コードを指しています。戻されたセグメントのキー値が、索引ポインター・セグメントのキー値と一致しませんでした。この異常終了は、HIDBLCT から ABEND33 への分岐によって呼び出されます。

2 番目のテーブル項目で説明されている異常終了の原因となったキーを見つけるには、以下のポインターを取得します。

- ルート DSG からの DSGLRKEY。
- ルート SDB にある SDBTARG からの索引 SDB。
- 索引 SDB からの DSG。
- 索引 DSG からの DSGLRKEY。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a 年から 17e まで

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0854

説明

HSAM データベースの場合、データ管理ブロックの有効なセグメント・コードではないセグメント・コードが検

出されました。検索サービス・ルーチンが、現行ブロック内の次のルートを探していて、無効なセグメント・コードを検出しました。

分析

0854 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 から 12 までの内容が、PST 内の最後の保管域のオフセット X'C' から開始されました。この保管域はラベル PSTSAVL から開始されます。通常のレジスターの使用法は以下のとおり

- レジスター 8=DSG
- レジスター 9=PST
- レジスター 3=JCB
- レジスター 4=レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB

レベル・テーブル・アドレスがレジスター 4 に入っていない場合、それは JCB の SAVELEVR に保管されます。

キー	ラベル	解説
Reg0=X'00000356' 56' DSGNOSAM=ブ ロック・アドレス PSTOFFST=ブ ロック内のオフ セット	ヘスア ベンド	この異常終了は、セグメント・コードが妥当性検査されている NXTSGGHS から SETL サブルーチンに分岐することによって呼び出されます。エラーのあるセグメント・コードは、レジスター 1 によって示されています。ブロック内のセグメント・コードが DMB のセグメント・コードと等しくありません。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a 年から 17e まで

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0855

説明

ロック要求ハンドラーが、ロック要求の処理中にエラーを検出しました。PSTLRPRM に、DFSLR マクロによって設定された要求パラメーターが含まれています。

必要なユーザー出口 (DFSDBUX1) をロードできないか、または DBDGEN で DATXEXIT=YES が指定されているのにユーザー出口が SRCHFLAG を X'FF' に設定した場合に、疑似異常終了 DFSDLA00 が発行されます。

分析

DFSLRH00 と DBFLRH00 の場合:

これは、モジュール DFSLRH00 または DBFLRH00 (ロック要求処理プログラム) によって発行される疑似異常終了です。この異常終了は、ラベル AB855COM にある共通異常終了ルーチンから発行されます。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

DFSLRH00 レジスター 2=PST、レジスター 6=AMPB、レジスター 7=DSG、レジスター 9=SCD。これらのレジスターは、DFSLRH00 が DFSPLEXO を呼び出す場合のみ使用可能で、DFSPLEXO のエントリー・ポイントを収容する保管域に保管されます。DFSCLR00 が DFSLRH00 を呼び出した場合、DFSCLR00 は戻り時に、最新レベル保管域の自己のレジスターを、オフセット「C」で始まる保管域にラベル PSTSAVL から始めて保管します。

DBFLRH00 は、ラベル AB855 の後で、この異常終了を発行します。そして、次のようにしてレジスターを SAV13 に保管します。

レジスター 内容

Reg0

ロック・マネージャー (PI/IRLM) からの戻りコードがある場合、それを保持します。

Reg1

DBFLRH00 の呼び出し元のリターン・アドレス

Reg6

ESCD アドレス

Reg7

DMAC アドレス

Reg8

LRHPARM アドレス

Reg9

EPST アドレス

Reg10

PST アドレス

Reg11

SCD アドレス

Reg14

エラーを検出したサブルーチンを指します。

Reg15

ABENDU0855 デバッグ領域の目印を指します。

PSTLRPRM (4 バイト) に、DFSLR マクロで設定された要求パラメーターが入っています。PSTLRSUB に、異常終了の理由を示すサブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
PSTLRSUB=X'01 , PSTLRPRM=X'30', X'60', X'80', または X'81' PSTLRPRM +2=X'02' DSGTOKEN=0 DSGFLGB=X'20' または X'02'	RTLPRO C	ルート・ロック要求を処理しているときに、LRH が DSGFLGB に基づき、DSGTOKEN 内にルート・ロック・トークンを持つデータベース・レコードで更新が発生したことを判別しました。しかし、要求は共用状態ロック用です。更新の場合、共用状態は無効です。
PSTLRSUB=X'02 , PSTLRPRM=X'60' または X'81', DSGTOKEN=0	RTLNOT OK	ルート・ロックの解放要求を処理しているときに、LRH が、DSG にルート・ロック・トークンが含まれていなかったと判定しました。
PSTLRSUB=X'03 , SCDCMDTK=0 PSTLRPRM=X'26' および PSTLRPRM +2=X'03' または PSTLRPRM=X'56'	FBLCIDT K	ルート・ロックの解放要求か、または読み取り状態で保持されたコマンド・ロックに対する更新状態ロック取得要求を処理しているときに、LRH が、SCD に読み取り状態コマンド・ロック・トークンが含まれていなかったと判定しました。
PSTLRSUB=X'04 , DMBPFTOK=0, PSTLRPRM=X'55'	FBLDIDB	データ・セット参照ロックの解放要求を処理しているときに、LRH が、AMPB にロック・トークンが含まれていなかったと判定しました。

キー	ラベル	説明
PSTLRSUB=X'05 '	CRBN00 40	バッファ・ロック要求を処理しているときに、LRH が、PSTBLKNM で渡された RBA/RRN が無効であると判定しました。HISAM OSAM データ・セットの RRN がゼロの場合、または、RBA の値が ESDS データ・セットまたは HD OSAM データ・セットのブロック・サイズより小さい場合は、AB85505 に分岐します。
PSTLRPRM=X'13' '、X'22' '、X'31' '、X'33' '、X'43' '、X'52' '、X'62' '、または X'63' '	CRBNOS HD FBIDRN A FBIDV06 0	
PSTLRSUB=X'07 ' (DBFLRH00)		高速機能ロック要求のための要求機能コードが無効です。PSTDECB に、その機能コードが入っています。
PSTLRSUB=X'08 ' (DBFLRH00)		高速機能ロック要求の STATE パラメーターが無効です。PST に、STATE パラメーターが入っています。
PSTLRSUB=X'10 ' (DBFLRH00)		高速機能ロック要求のためのリソース名の LOCKID が、非ブロック・レベルの共用では無効でした。LOCKID は、EPSTLKID に入っています。
PSTLRSUB=X'11 ' (DBFLRH00)		高速機能ブロック要求のためのリソース名の LOCKID が、ブロック・レベル共用では無効でした。LOCKID は、EPSTLKID に入っています。
PSTLRSUB=X'12 ' (DBFLRH00)		高速機能アンロック要求または変更要求のトークン・アドレスが指定されていませんでした。EPSTTKNA が指しているトークン保管域のアドレスがゼロであるか、EPSTTKNA がゼロです。
PSTLRSUB=X'13 ' (DBFLRH00)		DMAC 内のロック有効範囲フラグが、高速機能変更要求でリセットされました。DMACLKSF フラグには、ローカル・ロック・フラグもグローバル

キー	ラベル	説明
		ル・ロック・フラグも含まれていません。
PSTLRSUB=X'D '	RELBUF	バッファ・所有権を解放するために LRH が呼び出したバッファ・ハンドラーが、ゼロ以外の戻りコードを設定しました。
PSTLRSUB=X'FE ' Register4=BAL	LMGLGT AB LMGLRT AB	PSTLRIPM に、グローバル・ロック要求の場合には無効な機能コードが入っています。レジスタ 4 には、呼び出しサブルーチンのリターン・アドレスが入っています。
PSTLRSUB=X'FB '		カップリング・ファシリティ・サービスの使用によるバッファ・妥当性検査のテスト中に、予期しない戻りコードが VSAM から戻されました。
PSTLRSUB=X'FD '		カップリング・ファシリティ・サービスの使用によるバッファ・妥当性検査のテスト中に、無効のローカル・ベクトル索引が検出されました。
PSTLRSUB=X'FF '	LR0002 0 BRTABL E	LRH に無効な機能コードが渡されました。PSTDECB に、その機能コードが入っています。

DFSDLA00 の場合:

IMS を再始動してトランザクションを再実行する前に、この出口を必ず APF 許可ライブラリーにバインドしてください。DBDGEN で DATXEXIT=YES が指定されているにもかかわらず、ユーザー出口で SRCHFLAG が X'FF' に設定された場合は、DATXEXIT=YES を DBDGEN から除去するか、SRCHFLAG を X'FF' に設定しないようにユーザー出口を変更してください。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a、17b、17e、17f、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSLRH00、DBFLRH00、DFSDLA00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0857

説明

HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM セグメントの挿入位置の検査で、有効なチェーンを見つけることができませんでした。

挿入位置は判別されました。次に、その位置を検証しようとしたが、挿入されるセグメントが指し示すセグメントをその親からたどって見つけることができませんでした。データベースに、無効なポインターがある可能性があります。この異常終了は、データベースが最後にロードされた DBD とは異なる、DBDLIB または ACBLIB の DBD を使用して、このデータベースが処理されている場合に起こります。

分析

0857 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM の挿入の場合、階層チェーンが壊れるのを防ぐために、SDBPOSP 内のセグメントが SDBPOSN 内のセグメントを指しているかどうかを確認するために、ルーチン ISRTVER が呼び出されます。

異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
JCBR4 BIT3=1	IVRERR	このルーチンへの分岐は、IVRB ルーチンから行われます。チェーンに従って、SDBPOSN セグメントをその親から見つけるための検索が行われます。検索が失敗したため、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
SDBPCF=0 SDBTFLG BIT3=1	IVRERR	このルーチンへの分岐は、代替チェーニングを使用していると判定した IVRB から行われます。しかし、セグメントへの物理子順方向ポインターが SDBPCF に見つからないため、異常終了が発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a、17b、17c、17g

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0858

説明

物理対のセグメントの一方を見つけることができませんでした。

分析

これは、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

レベル・テーブルは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内の SAVELEVR に保管されています。

キー	ラベル	説明
Reg0=X'00000 35A'	DPRERR	SDB が渡されたときに、セグメントの物理対の検索で該当の対を検出できなかったことを示す X'04' 戻りコードがレジスター 15 に返された場合に、RDPRGC からこのルーチンに分岐します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a、17b、17c、17g

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0859

説明

GET 呼び出しのときに、IMS は論理子を見つけたが、論理親は見つかりませんでした。

分析

0859 は、モジュール DFSDLR00 によって発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

- レジスター 3=JCB
- レジスター 4= レベル・テーブル
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

レベル・テーブル・アドレスは、レジスター 4 に入っていない場合は、JCB 内のフィールド SAVELEVR に保管されています。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a から 17e

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0860

説明

データベース・ハンドラーへの呼び出しで、戻りエラーが発生しました。これは、以下の 3 つのうちのいずれかの理由で DFSDDL00 から発行される異常終了です。

1. 検索機能 (DFSDLR00) から SDB への挿入位置が正しくない。
2. データベースに無効なポインターがある (DFSDDL00 のエラー)。
3. 最初にデータ・セットをロードするための十分なスペースが、データ・セットにない。

分析

異常終了 0860 を診断するには、疑似異常終了時の制御ブロックの SNAP dump が必要です。SCD を使用して、DFSDDL00 (SCDDLIO7)、スペース管理 (SCDDHDSO)、バッファ・ハンドラー (SCDDDBHO)、および DFSDLD00 (SCDDLIDR) のエンタリー・ポイントを取得します。保管域セットを検索して、レジスター 12 に DLI/LOAD (DFSDDL00) のエンタリー・ポイントが入っている保管域を見つけます。この保管域のレジスター 1 が PST を指しています。レジスター 8 には DFSDDL00 内の戻り点が入っています。レジスター 4 は SDB を指しています。レジスター 6 は JCB を指しています。PSTRTCDE を調べます。PSTRTCDE がゼロでない場合、PSTRTCDE に、スペース管理またはバッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが入っています。PSTRTCDE がゼロである場合は、可変長 HISAM 置換ルーチンでエラーが検出されたということです。

PSTRTCDE がゼロでない場合は、レジスター 12 に DFSDDL00 のエンタリー・ポイントが入っている保管域が、使用すべき保管域です。この保管域のレジスター 15 に、スペース管理またはバッファ・ハンドラーのエンタリー・ポイントが入っています。レジスター 14 を使用して、不正な戻りコードに関するエラー条件が DFSDDL00 のどこで検出されたかを判別してください。不正な戻りコードの問題については、この分析セクションの後に示すラベル定義の使用で、以下の問題に関連した領域を調べてください。

名前

説明

PSTFNCTN

要求された機能

PSTBYTNM

要求された RRN または RBN

PSTRTCDE

戻りコード

PSTDSGA

データ・セット・グループ (data set group)

バッファ・ハンドラーに問題があり、バッファ・ハンドラーのトレース・テーブルがある場合は、それを使用してバッファ・ハンドラーによる呼び出しをトレースします。バッファ・ハンドラーのトレース・テーブルがない場合は、問題を再現し、トレースをオンにしてジョブを再実行することができます。

すべてのバッファ・ハンドラーへの呼び出しでは、GOTOFUNC の BAL または BALR か、あるいは GOTOBUFF の BAL または BALR を使用します。呼び出しが「GOTOFUNC」または「GOTOBUFF」に進む場合は、バッファ・ハンドラーのアドレスがレジスター 15 にロードされ、続いてレジスター 15 への無条件分岐が行われます。

PSTRTCDE がゼロに等しい場合、DFSDDLE0 のエントリー・ポイントが入ったレジスター 15 を持つ保管域の前の保管域のレジスター 15 が、DFSDDL00 のエントリー・ポイントを指しています。このケースでは、上に示した 4 つのラベルのいずれかから DLETERR への分岐を使用して、HISAM 可変長置換機能によって異常終了が発行されました。これは、HISAM データベース内の可変長セグメントを置換するためにセグメントをシフトするための、DELETE/REPLACE から LOAD/INSERT への特殊呼び出しです。

キー	ラベル	説明
PSTRTCDE= 0 TM SDBORGN for X'0C'=0 (Reg4+X'09)	DLETS FT	HISAM データベースのセグメントをシフトするルーチンは、これが HISAM データベースであることを確認するためのテストを行いました。HISAM データベースでなかったため、異常終了が発行されました。
PSTRTCDE= 0 TM DMBFLAG for X'48'=0 (Reg5+X'20)	CHKPP	前のテストで、データベースに物理対があるはずであることが示されました。物理対を検証するためのテストが行われました。物理対ではなかったため、異常終了が発行されました。
PSTRTCDE= 0 SDBPSDB= PSTDLIW7	FREPP	物理対が検出され、それが置換すべきセグメントでない場合は、異常終了が発行されま

キー	ラベル	説明
PSTRTCDE= 0 TM DMBVLDG for X'0C'=0 X'0C'=0 (Reg5+X'18)	SDBREP	可変セグメントまたは圧縮セグメントかどうかについて、検査が行われます。このセグメントはどちらでもないため、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E2'	NDXREP L	このルーチンは、データベースでの置換の後で索引保守を実行中でしたが、機能コード E2 (セグメント要求) でバッファ・ハンドラーに進みました。レジスター 7 には、置換機能の索引保守に対する BAL を実行した DFSDDLE0 内のリターン・アドレスが入ります。バッファ・ハンドラーによって不正な戻りコードが設定されたため、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E2'	NDXREP 1	このルーチンは、置換後の索引保守を実行中でしたが、機能コード 02 (データの RBA の取得) でバッファ・ハンドラーに進みました。PSTDATA にはデータのアドレスが入り、レジスター 7 に、このルーチンに BAL を実行した DFSDDLE0 内のリターン・アドレスが入ります。バッファ・ハンドラーから不正な戻りコードが返された結果、この異常終了が発行されました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E2'	LPSPLIT	論理親および分割データを処理している間に、データ部分を取得するためにバッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTDLIW1 には接頭部 RBN が入り、PSTBYTNM にはデータ RBN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E2'	VRLPRE P	このルーチンが処理中であった可変長セグメントは、分割されていませんでした。PSTBYTNM に、接頭部 RBA が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E4'	ISIS000 1	新規の OSAM レコード用のバッファを取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われます。PSTBYTNM に、OSAM RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	ISIS001 0	前の OSAM レコードを取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTBYTNM に、前のレコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'F4'	SHISAM 01	新規ルートを挿入するためのセットアップ時には、新しい KSDS LRECL が作成され、これが重複レコードであるかどうかを調べるためにキーによる検索が発行されます。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E2'	NOTC2 N	バッファを取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTBYTNM に、レコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	ANCLB	データがシフトされたオリジナルのレコードを検索するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTBUFFA は、バッファ・接頭部のアドレスです。PSTBYTNM は、オリジナルのレコードの RRN です。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	ANCLD	新規 OSAM レコードの RRN をオリジナルの OSAM レコードへ移動しようとした。しかし、中間スペースが使用されたため、オリジナルの

キー	ラベル	説明
		OSAM レコードを再度検索する必要がありました。PSTBYTNM に、オリジナルの OSAM レコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	RHX5	データをシフトし、セグメントを拡張した後で、ルーチンは元のレコードを取得する必要があります。PSTBYTNM に、元のレコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	SPACEO K	アンカー・ポイント用のエンキュー・コマンドが発行されたときに、WAIT が発生したため、再度レコードを取得する必要があります。PSTBYTNM=RBA。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	UPHDA	HD タイプ編成のアンカー・ポイントを更新しようとした。PSTBYTNM に、アンカー・ポイントの RBA が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	LOGREL NO	これは、親を取得するバッファ・ハンドラーへの呼び出しであるため、接頭部が更新された可能性があります。PSTBYTNM に、親の RBN が入っています。バッファ・ハンドラーによって返されたエラー・コードが、この異常終了の原因です。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	UPPREF IX	セグメントの接頭部を更新しようとした。PSTBYTNM に、更新を要求しているセグメントの RBN が入っています。バッファ・ハンドラーから返されたエラー・コードが、この異常終了の原因です。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	HDREPL	このルーチンは、物理パス内で削除されたセグメントを置換します。PSTBYTNM に、更新すべきセグメントの RBN が入っています。バッファ・ハンドラーからエラー・コードが返されたために、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL	CALLFU CN	これは、バッファ・ハンドラー・サブルーチンへの呼び出しで、DFSDDLEO 内の多くの場所から入ります。ルーチンに入る際には、REG「A」が戻りレジスターとして使用されています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードを受け取りました。バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われた理由を調べるために、REG「A」が指す場所に進んでください。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'01'	TOSPAC E	このサブルーチンには、DFSDDLEO 内の多くの場所から入ります。ルーチンに入る際に、レジスター 8 を戻りレジスターとして指定した BAL が使用されています。スペース管理がエラー戻りコードを返したために、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL	DHDCAL L	このサブルーチンには、DFSDDLEO 内の多くの場所から入ります。ルーチンに入る際に、レジスター 8 を戻りレジスターとして指定した BAL が使用されています。スペース管理がエラー戻りコードを返したために、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'81'	REPVLS 50	以前に分離された可変長セグメントを置換しようとしているときに、スペース管理から返されたエラーが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	SAMED SG	HISAM データベースの OSAM レコードを読み取るために、バッファ・ハンドラーが呼び出されました。PSTBYTNM には、要求された RRN が入ります。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが

キー	ラベル	説明
		原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E4'	NOTVSA M2	JCBSTOR4 に、HISAM ロード書き込みルーチンに入った理由を示すコード・バイトが入っています。PSTBYTNM に、OSAM レコードの RRN が入っています。レジスター 7 に、DFSDDLEO 内部に戻るためのリターン・アドレスが入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'F4'	ISRTR0 R2	HISAM ルーチンでのルート挿入の実行中に、PSTBYTNM が挿入されるキーを指していました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =E2'	NOSWA PIE	PSTBYTNM に、OSAM レコードの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E6'	LOGAFT NX	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	GETLP	論理親を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。PSTBYTNM に、論理親の RRN が入っています。このルーチンに入る際に、R8 を戻りレジスターとして指定した BALR が使用されています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'F4'	NORML OAD	KEY-RECORD による検索のために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	YESVSA M1	新規レコードを取り戻すために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E6'	REINVL SB	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E6'	CKSEGS Z	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E4'	SEGTOO LD	次の OSAM/ESDS LRECL を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E4'	SEGTON EW	次の OSAM/ESDS LRECL を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E4'	ANCLG	OVERFLOW 内の次の LRECL を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	INSADJ US	セグメントの LRECL を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E6'	MOVEIT IN	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E6'	SHFTRI TE	変更されたバッファにマークを付けるために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E4'	NEWOL DTL	次の OSAM/ESDS LRECL を取得するために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E4'	RHX8	次の LRECL のために、バッファ・ハンドラーへの呼び出しが行われました。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'E6'	REPREL D	UCF ロード再始動については、索引項目のポインターが、新規挿入された上位キー (X'FFFF...FF') のルートを指すように訂正されている必要があります。レコードのアドレスは、PSTDATA に入っています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	UPCTR5	HISAM データベースについて、物理対セグメントが挿入されました。論理親カウンターを更新する必要があります。PSTBYTNM に、論理親の RRN が入っています。バッファ・ハンドラーから不正な戻りコードが返された結果、異常終了が発生しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'ED'	CHECKP T	ユーティリティー制御機能 (UCF) がチェックポイントを要求しました。すべてのデータベース・バッファをフラッシュする必要があります。バッファ・ハンドラーが、異常終了の原因を示すエラーを出して戻りました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	REHID	兄弟逆方向ポインターを持つ HIDAM データベースに対する再ロード呼び出しの場合、ルーチンは、上位ルートでのチェーニングを解除し、索引項目を削除します。PSTBYTNM に、セグメントの RRN が入っています。バッファ・ハンドラーから返されたエラー・コードが、この異常終了の原因です。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'EB'	UNCAP	兄弟順方向ポインターを持つ HIDAM データベースに対する RELOAD 呼び出しの場合、アンカー・ポイントをリセットする必要があります。PSTBYTNM は、ルートが入ったブロックを指しています。バッファ・ハンドラーからの不正な戻りコードが原因で、この異常終了が発生しました。
Reg14=BAL PSTFNCTN =X'F2'	DELROO T	このルーチンに入るのは、KSDS レコードを削除するためです。PSTBYTNM に、キーのアドレスが入っています。バッファ・ハンドラーから正常に戻れなかった結果、異常終了が発行されました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

原因として、次のものが考えられます。

- 検索機能 (DFSDLR00) から SDB への挿入位置が正しくない。
- データベースに無効なポインターがある。DFSDLE0 のエラーです。
- 最初にデータ・セットをロードするための十分なスペースが、データ・セットにない。

問題判別:

4、17a、17b、17g、18、19、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0861

説明

HISAM の従属セグメントを挿入するとき、または長さが変わった HISAM の可変長セグメントの置換のとき、挿入ポイントの右側のセグメントの長さを判別しようとした際に、DFSDLE0 (LOAD/INSERT) によって無効なセグメント・コードが検出されました。

分析

0861 は、ラベル ABEND861 で DFSDLE0 から発行されます。0861 の原因を診断するには、ログに出力された制御ブロックの SNAP が必要です。

最新保管域を検出するまで、保管域を下方に検索します。レジスター 12 は、DFSDLE0 (SCDDLI07) のエントリー・アドレスに等しい値です。このレジスター保管域内のレジスターを使用してください。レジスター 14 は、このサブルーチンが入力された DFSDLE0 のポイントを示しています。レジスター 10 は、挿入ポイントまたはシフトする先頭セグメントを指しています。レジスター 9 は、無効なセグメント・コードを指しています。レジスター 1=PST、レジスター 4=SDB、およびレジスター 6=JCB。PSTABTRM は、16 進数の疑似異常終了コードです。

キー	ラベル	説明
Reg14=B AL	NOX 2	シフト・データの長さを計算するため、この BAL が SCANREC に使用されました。ラベル ABEND861 は、ラベル「COMP SHFT」からいくつか後の命令に分岐しました。レジスター 9 で指示されたセグメントのセグメント・コードを使用して計算されたアドレスが、PSDB 範囲の終わりを越えていたことが判明しました。

キー	ラベル	説明
Reg14=B AL	SHF TRIT E	シフト・データの長さを計算するため、この BAL が SCANREC に使用されました。ラベル ABEND861 は、ラベル「COMP SHFT」からいくつか後の命令に分岐しました。アドレス (レジスター 9 で指示されたセグメントのセグメント・コードを使用して計算された) が、PSDB 範囲の終わりを越えていたことが判明しました。
Reg14=B AL	HIS NLP	レコード内の挿入ポイントのオフセットがゼロバイトであることが判明しました。これが VSAM DATA SET であるかどうかを確認するために、テストが行われます。そうである場合、マルチデータ・セット・グループが含まれるエラー状態が生じます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

原因として、次のものが考えられます。

- セグメントの長さを変更して DBD を再作成したが、データベースを再ロードしていない。
- 検索機能 (DFSDLR00) または置換機能 (DFSOLD00) から SDB への挿入位置が正しくない。

問題判別:

4、17a、17b、17g、18、19、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0862

説明

論理子/論理親連結セグメントを論理親挿入規則の仮想で挿入するときに、ユーザー入出力域のフォーマットは正しかったが、論理親を置換しようとした際に、論理親の中のキーが、論理子の中にある論理親の連結キーの対応する部分と一致しませんでした。モジュール DFSDLR00 は、論理子の中の論理親の連結キーを使用し

て、論理親を位置決めしました。この位置は、論理親の SDB の SDBPOSC フィールドに入れられました。その後、論理親の置換が試みられたとき、この位置は論理親の連結キーとは整合しませんでした。

分析

0862 は、ラベル ABEND862 における DFSDDLE0 から発行されます。異常終了を診断するには、ログに出力された制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要です。異常終了時のレジスターは、PST 内にある最新保管域に保管されます。レジスター保管域内のレジスターを使用してください。レジスターの内容は、次のとおりです。

レジスター 内容

1

PST

2

PCB

4

論理親の SDB

6

JCB

9

ユーザー入出力域内の論理子の連結キー内にある論理親のキーのアドレス

10

データ・セットから取得した論理親セグメント内にある論理親のキーのアドレス

キー	ラベル	説明
Reg11=X' 035E'	ABEND8 62	レジスター 9 (論理子の連結キー内にある論理親のキー) とレジスター 10 (論理親セグメント内にある論理親のキー) が比較された際に、これらが等しくありませんでした。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

問題に関連するデータを確認してください。

問題判別:

4、17a、17b、17g、18、19、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0863

説明

編集/圧縮ルーチンのエラーにより、次のいずれかが起きました。

- セグメント長が、定義された最大長より大きい。あるいは、セグメントが固定長の場合は、定義された長さ + 10 より大きい。
- 固定長セグメントの場合は、長さが定義された長さより大きい。
- キー圧縮を指定せずに、キーが変更された。

分析

異常終了 0863 は、ラベル VLDERR の DFSDDLE0 によって検出されます。異常終了 0863 を診断するには、システム・ログに出力される制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要です。DFSDDLE0 のエントリー・ポイントのアドレスに等しいレジスター 12 を持つ保管域セットを使用してください。このレジスターの内容は、以下にリストされています。

レジスター 内容

- | | |
|-----------|------------------------|
| 1 | PST |
| 2 | ユーザーの入出力域にあるセグメントのアドレス |
| 5 | このセグメント用の PSDB のアドレス |
| 10 | 圧縮セグメントのアドレス |
| 4 | SDB アドレス |

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL DMBVLDLDFG=X'0 4' (Reg5+X'25')	NOASR T2	ラベル VLDVSFXL の直前に、CH 命令があります。レジスター 7 にこのセグメントのデータ長があり、これが、可変長セグメントの最大長である DMBSGMX (レジスター 5+X'1E') に照らして比較されます。これは可変長セグメントであるため、長さが最大長より大きい場合は、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL DMBVLDLDFG=X'0 2' (Reg5+X'25')	CKEYC MP	このセグメントがレベル 01 セグメントでないことを確認するために、検査が行われます。01 レベルはルート・セグメントであり、ユーザーが HISAM ルート・キーを圧縮することはできません。セグメント・レベル (レジスター 4+X'08') が X'01' に等しく、SDBORGN で HISAM の SDBORH1 がオンの場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL DMBVLDLDFG=X'0 4' (Reg5+X'25')	VLDVSF XL	これは固定長セグメントで、セグメント・データ長 (レジスター 7) が固定長 (DMBDL、レジスター 5+X'0A') 以下の値であることを確認するために、検査が行われます。データ長が固定長より大きい場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=BAL Reg8 のデータ Reg A のデータ		すべての圧縮は正常でした。ただし、セグメントの先頭部分からキーを通じて取得されたすべてのデータは変更されなかったことを確認するために、検査が行われます。レジスター 8 およびレジスター 10 は、CLCL 命令の結果として比較しない先頭バイトを指しています。これが変更されている場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

編集/圧縮ルーチンが正しく実行するようにします。「問題判別」にリストされた情報を分析用に入手します。

問題判別:

4、17a、17b、18、19、および編集/圧縮ルーチンのソース・リスト

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0864

説明

プログラム分離 ENQ/DEQ ルーチンから、または IWAIT への無効な通知から予期しない結果を受け取りました。これは、IMS システム・エラーです。

分析

0864 は発行されない疑似異常終了で、この疑似異常終了を設定するコードがラベル ABEND864 で DFSDLE0 に入ります。このコードは、診断作業に使用する場合に備えて DFSDLE0 に残っています。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a、17b、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0865

説明

HISAM データベースでセグメントを挿入または置換するとき、1 つの LRECL を保持するために作業域が要求されました。ICREATE マクロを使用してもスペースが使用可能になりませんでした。

分析

0865 は、疑似異常終了です。異常終了 0865 を診断するには、ログ・データ・セットに書き込まれた制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要です。また、DFSDLE0 のエントリー・ポイントも必要です。(SCD 内のラベル SCDDLIO7 で見つかります。)

DFSDLE0 のエントリー・ポイントと同じレジスター 15 を持つ保管域が見つかるまで、保管域セットを検索します。その保管域のすぐ下位の保管域で、レジスター 12 に DFSDLE0 のエントリー・ポイントが入り、レジスター 14 に、ラベル GETSPC への BAL を実行したモジュール内のアドレスが入っているはずです。

これらのレジスターを使用して、レジスター 6 に X'92' を加えた結果が、要求された領域の長さを指しています。

その次に下位の保管域で、DFSICRET の呼び出しが行われた時点で現行状態であったレジスターを見つけることができます。これらのレジスターを、診断 0865 に使用する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg14=B AL	GETPO OL	ICREATE がスペースを取得できなかった場合、DFSICRET (ICREATE) から戻ったときに 0865 が発行されます。レジスター 2 に、4 バイトの POOL 名が入っています。レジスター 3 に、要求された POOL サイズがバイト単位で入っています。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

プログラムに使用可能なストレージを増やします。

問題判別:

17a、17b

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0867

説明

論理子を挿入するとき、論理子の 2 次リストを介して論理親を探し、更新する試みが行われます。挿入される論理子のための 2 次リスト項目が見つかりませんでした。これは ACBGEN が不完全であることを示します。

分析

0867 は、モジュール DFSDLE0 によって発行される疑似異常終了です。この異常終了に入ったとき、レジスター 11 は、論理子の SDB を指しており、レジスター 5 は、有効な 2 次リスト項目が見つからなかった DMBPSDB を指しています。異常終了時のレジスターは、PST 内にある最新保管域に保管されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 11 またはレジスター 5 は、有効な 2 次リスト項目が見つからなかった論理子の SDB を指しています。エラーのある DBD を訂正するか、ACBGEN を戻してから (または両方を行ってから)、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、9、17d

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0868

説明

更新モードで兄弟逆方向ポインターを使用して HIDAM または PHIDAM ルートを挿入しているときに、兄弟順方向ポインターがゼロであることが検出されました。ルート・レベルで兄弟逆方向ポインターが指定された場合、値がゼロの兄弟順方向ポインターがあってはなりません。これは、無効なデータベースであるか、または索引レコード内にすべて FF のキーがないことを示します。

分析

0868 は、ラベル ABEND0868 で DFSDDLE0 から発行されます。オンライン領域で発生するこの異常終了を診断するには、ログに出力されている IMS 制御ブロックの疑似異常終了 SNAP が必要です。SCD を使用して DFSDDLE0 (SCDDLI07) のエントリー・ポイントを取得し、DFSDDLE0 のエントリー・アドレスと同じレジスター 15 を持つ保管セットを見つけるまで、保管域を検索します。この保管セットの下で、レジスター 14 の上位バイトに「AA」が入っていて、レジスター 12 に DFSDDLE0 のエントリー・アドレスが入っている保管セットを見つけます。これが異常終了時の保管セットです。この保管セットのレジスター 4 に、挿入しようとしているセグメント用の SDB のアドレスが入っています。SDB 内のオフセットには、次のような情報が入っています。

コード

説明

X'34'

挿入されるセグメントの位置を示す、3 位置のワードの先頭です。

X'34'

前の兄弟の RBA です (ある場合)。

X'38'

挿入されたセグメントが配置される RBA です。

X'3C'

次の兄弟の RBA です。異常終了 0868 は、X'3C' がゼロであったことを示します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

データベースを分析して、兄弟順方向および兄弟逆方向チェーンが妥当であるかどうか、また、すべて FF のキーがレコード内で欠落しているかどうかを調べます。いずれの場合も、データベースをリカバリーする必要があります。

問題判別:

17a から 17g、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0869

説明

DL/I バッファー・ハンドラー・ルーターが、未定義の機能を実行するように要求されました。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析

0869 は、モジュール DFSDVBH0 によって発行される標準異常終了です。関連 PST フィールドは、PSTFNCTN です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

すべての出力を IMS システム・プログラマーに送信してください。IMS 再始動手順に従います。

問題判別:

4、11、12、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDVBH0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0870**説明**

PTR=TB が指定されている HIDAM または PHIDAM ルートの挿入の位置決め時に、正しくない兄弟チェーンが検出されました。VSAM 索引を使用して取得した DL/I 検索モジュールが、挿入されるルートの子より大きいキー値を持っている、前の HIDAM ルートまたは PHIDAM ルート。

分析

0870 は、モジュール DFSDLR00 から発行される疑似異常終了です。異常終了時のレジスター 14 から 12 までの内容が、PST 内の最後の保管域のオフセット X'C' から開始されました。この保管域はラベル PSTSAVL から開始されます。X'C' の最初のバイトの X'AA' は、R14 を示します。通常のレジスターの使用法は以下のとおり

- レジスター 3=JCB
- レジスター 5=SDB
- レジスター 7=PST
- レジスター 8=DSG

キー	ラベル	解説
R0=X'1000 0366' R6=を指す ポインター ABEND870 ラベル	アベンド 870	JCBWC の RBA は、PRIORRBA 内の RBA と一致します。PRIORRBA の RBA は、呼び出し (X'F2') に等しいかまたはそれより大きいキーによって、検索時に VSAM によって戻された索引項目からのものです。前のルートが読み取られたときには、挿入されるキーより大きいキーが使用されていました。VSAM への呼び出しが再実行された。異常終了 0870 が発行されるのは、VSAM が次回に同じ次回高位キーを戻したときです。

原因 **考えられる原因:** しては、以下の

- インデックスが破損しています (インデックスエントリが欠落しています)
- 以前にシーケンスから挿入された HIDAM ルート

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a - 17d、35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLR00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0880**説明**

HALDB の処理中に予期しない状態が発生しました。以下のいずれかのイベントの処理中にエラーが検出された可能性があります。

- 拡張ポインター・セットの作成
- 間接リスト項目の作成
- 拡張ポインター・セットの訂正
- HALDB 区画の選択
- 間接リスト項目の更新
- 拡張ポインター・セットの妥当性検査

分析

異常終了 0880 は、以下のいずれかの機能のために、HALDB の DL/I 処理中に予期しない条件が検出された場合に発生します。

- パーティションの選択
- 拡張ポインター・セットの作成
- 間接リスト項目の作成
- 間接リスト項目の更新
- 拡張ポインター・セットの妥当性検査
- 拡張ポインター・セットの訂正

異常終了時のレジスター 14 から 12 までの内容が、PST 内の最後の保管域にあるオフセット X'C' から開始されました。この保管域はラベル PSTSAVL から開始されます。エラー理由コードは、この保管域のオフセット X'1C' にあります。考えられる理由コードを以下に示します。

理由コード

説明

X'C001'

パーティション化されていない DB アクセス。

X'C002'

区画が活動状態でない。

X'C003'

区画が停止した

X'C004'

区画構造を終了中。

X'C005'

区画構造が初期設定され

X'C006'

区画構造の再作成が失敗

X'C009'

ILDS DSG が指定されていない

X'C010'

異常な構造状況。

X'C030'

許可理由コードが無効です。

X'C031'

OPEN エラーが発生しました。DFS0730I メッセージを調べて、問題の原因を判別してください。

X'C040'

区画 DDIR が無効です。

X'C041'

パーティション・セット操作が無効です。

X'C042'

PSETE ストレージを割り振ることができません。

X'C043'

パーティション・セット選択アクションが無効です。

X'C050'

ユーザー選択出口が開始されなかった。

X'C060'

機能コードが無効です。

X'C070'

バッファー・ハンドラー・バイト位置指定要求が失敗

X'C071'

キー要求によるバッファー・ハンドラーの位置指定が失敗

X'C073'

バッファー・ハンドラー・マーク変更要求が失敗した

X'C074'

バッファー・ハンドラー・バイトの位置指定およびマーク変更要求が失敗し

X'C075'

ルート・ロックを取得する要求が失敗しました。

X'C076'

ストレージを取得する DFS BCB 要求が失敗しました。

X'C077'

HALDB OLR カーソルのリフレッシュが失敗しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別:

17a - 17d、35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSDLR00、DFSDDL00、DFSXXMT0、DFSDDL00

関連情報

[DFS0730I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0881

説明

HALDB PINT (区画初期設定) 呼び出しまたは UNLD 呼び出しの処理中に、モジュール DFSFXC50 で予期しない条件が発生しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別

17a から 17d、35

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0882

説明

索引/ILDS 再作成ユーティリティー (DFSPPRC0) の実行中に障害が発生しました。理由コードは、以下のようなエラーのタイプおよび取るべき処置を示しています。

コード

説明

04

区画選択および区画初期設定ルーチンに対する呼び出しが、重大エラーのために失敗しました。

08

基本データ・セットをオープンする呼び出しが失敗しました。

0C

索引データ・セットをオープンする呼び出しが失敗しました。

10

基本データ・セットの最初のブロックを探すための、バッファ・ハンドラーからの呼び出しが失敗しました。

14

基本データ・セットをクローズする呼び出しが失敗しました。

18

索引データ・セットをクローズする呼び出しが失敗しました。

20

間接リスト項目を挿入する呼び出しが失敗しました。

24

GN DL/I 呼び出しで、無効な状況コードが戻されました。

28

データベース内で次のブロックを探すための、バッファ・ハンドラーからの呼び出しが失敗しました。

2C

データベース・ブロックをスキャン中に、処理中のセグメントのレベルに応じた PSDB が見つかる前に、PSDB の終わりに達しました。

システムの処置

ジョブは異常終了します。

プログラマーの応答

出力されたダンプおよびレジスターを保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別:

1、3、6、8、17a から 17d、35、40

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0885

説明

以下の理由で、必須ユーザー出口 (DFSDBUX1) でエラーが発生しました。

1. 出口をロードできなかった。
2. DATXEXIT=YES が DBDGEN で指定されたが、ユーザー出口が SRCHFLAG を X'FF' に設定した。

分析

IMS を再始動してトランザクションを再実行する前に、この出口が APF 許可ライブラリーにバインドされているかどうかを確認する必要があります。2 番目の理由に当てはまる場合、DBDGEN から DATXEXIT=YES を除去するか、またはユーザー出口を変更して SRCHFLAG が X'FF' に設定されないようにします。

システムの処置

IMS はデータベースを停止し、トランザクションは疑似異常終了を出して終了します。

プログラマーの応答

問題を訂正し、トランザクションを再実行してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLA00

0888

説明

アクティブ・フォーマット・ライブラリーにはメンバーがなく、イムス システムには MFS がサポートする端末があります。少なくとも、アクティブ・フォーマット・ライブラリーには、イムス システム定義で生成されたデフォルトのフォーマット・ブロックが含まれている必要があります。

分析

これは、MFS バッファ・プール初期設定モジュール DFSIINGO (XA) または DFSIINFO (非 XA) から発行される標準異常終了です。この異常終了は、フォーマット・ブロックのカウントに対してゼロの値が検出された場合に発生します。少なくとも、アクティブ・フォーマット・ライブラリーには、イムス システム定義で生成されたデフォルトのフォーマット・ブロックが含まれている必要があります。

システムの処置

イムスは異常終了コード 0888 で異常終了します。

プログラマーの応答

FORMATA DD ステートメントのフォーマット・ライブラリー指定を正しいデータ・セットに訂正してください。

ソース:
イムス 異常終了

モジュール:
DFSIIINFO、DFSIIINGO

0889

説明

無効なエリア・アドレスを指定して DEVTYPE マクロが出されました。

分析

0889 は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール DFSIIINFO を初期化するためにモジュールによって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元であるラベル ABEND9D 内の命令を指しています。This abend is the result of an unconditional branch to label ABENDA, which issues a WTO (SVC 35) to write out イムス error message DFS891A to the イムス master console prior to terminating abnormally.

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に、DD ステートメント妥当性検査ルーチン DFSIDDPO からの戻りコード (この場合は X'08') が入っています。

キー	ラベル	解説
Reg3=ABEND コード X'00000379'	ドッコ クス	DD 妥当性検査ルーチン (DFSIDDPO) に分岐しました。このルーチンは、エラーが検出された場合に戻りコードを持つレジスター 15 をロードします。この場合、DEVTYPE パラメーター・エラーが発生し (指定されたエリア・アドレスは無効でした)、X'08' がレジスター 15 にロードされます。X'08' 戻りコードは、ラベル ABEND に分岐します。
Reg14=BALR Reg15=戻り コード X'08'		

システムの処置

イムスは異常終了する。

オペレーターの応答

イムスシステム・プログラマーに連絡してください。

問題判別:

2, 3, 4, 35

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

[DFS891A](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0890

説明

DEVTYPE マクロが、アクティブ・フォーマット・データ・セットの DD 名 (FORMATA または FORMATB) に対して発行されたが、不在条件が発生しました。

分析

アクティブ・フォーマット・ライブラリーの DD 名は、DFS3410I のメッセージ・テキストに示されています。

0890 は、DFSIIINFO (メッセージ・フォーマット・ブロック・プールを初期設定するモジュール) によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル ABENDA への無条件ブランチの結果です。ラベル ABENDA は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールへ IMS エラー・メッセージ DFS891A を書き出す WTO (SVC 35) を発行します。

異常終了 SVRB レジスタ内のレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 15 に、DFSIDDPO (DD ステートメント妥当性検査ルーチン) からの戻りコード X'04' が入っています。DFSIDDPO は、エラー条件を検出したモジュールです。X'04' は、DD 名が見つからなかったことを示しています。

キー	ラベル	説明
Reg3=ABEN Dコード X'0000037A '	DDRC04 16	DD 妥当性検査ルーチン (DFSIDDPO) への分岐が行われました。エラーが検出された場合、このルーチンがレジスター 15 に戻りコードをロードします。この場合は、DEVTYPE マクロの DD ステートメントが欠落しており、X'04' がレジスター 15 にロードされます。X'04' の戻りコードは、異常終了 0890 を発行するラベル ABENDA への分岐の原因となります。
Reg14=BALR Reg15= 戻り コード X'04'		

考えられる原因: DD 名 FORMATA または FORMATB のアクティブ・フォーマット・データ・セットを定義している DD ステートメントが、ジョブ・ストリームに欠落していました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

DD 名 FORMATA または DD 名 FORMATB のアクティブ・フォーマット・データ・セット用の有効な DD ステートメントがあることを確認して、ジョブを再実行します。アクティブ・フォーマット・ライブラリーの DD 名は、DFS3410I のメッセージ・テキストに示されています。

問題判別:

2、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

[DFS891A](#)

[DFS3410I](#)

0891

説明

イムスの初期設定中に、アクティブ・フォーマット・データ・セットをオープンできませんでした。

分析

0891 は、2 つのモジュール DFSIIINFO または DFSTMEIO のいずれかから発行できる標準異常終了です。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB 内のレジスターは、障害を特定のモジュールに分離します。

アクティブ・フォーマット・データ・セットは、FORMATA または FORMATB の DDNAME ステートメントを使用してシステムに定義されます。DCBOFLGS は、X'30' の DCB 内にあります。

DFSTMEIO の場合:

これは、4 つのフォーマット・プール DCB のいずれかを開くことができなかったために、DFSTMEIO によって発行されます。レジスター 2 にフォーマット・プール・アドレスが入っていますレジスター 12 は、エン

リー・ポイント・アドレスとモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	解説
Reg1='800 0037B'	プレオープン	PREFETCH ECB の初期設定中に、3270 が定義されているシステムの中で、フォーマット・データ・セットがオープンされます。アクティブ・フォーマット・データ・セット DD 名 FORMATA または FORMATB に関連した 4 つの DCB のいずれか 1 つをオープンできない場合、この異常終了が発生します。

DFSIIINFO の場合:

これは、モジュール DFSIIINFO が、アクティブ・フォーマット・ライブラリー (FORMATA または FORMATB) に対して DDNAME によって定義されたこれらの DCB のいずれかを開くことに失敗した結果として発行することができます。

レジスター 12 は、オープンが失敗した DCB を指し、異常終了の前にメッセージ DFS891A がマスター・コンソールに発行されます。レジスター 11 に、モジュールのエントリー・ポイント・アドレスが入っています。

キー	ラベル	解説
Reg1='800 0037B' 8000037B' Reg12=DC B (失敗) DCBOFLGS =>X'10'	オープンム	このモジュールはフォーマット・ブロック・プールを初期化します OPEN マクロ命令は、DDNAME FORMATA または FORMATB によって定義された DCB に対して発行されます。DCB が開くことができない場合は、OPENERR に分岐し、次にメッセージ DFS891A とこの異常終了が発行された ABENDA にラベルを付ける必要があります。

システムの処置

イムスは異常終了する。

オペレーターの応答

イムスシステム・プログラマーに連絡して援助を求めてください。

ソース:

イムス 異常終了

モジュール:

DFSIIINFO、DFSTMEIO

関連情報

DFS891A

0892

説明:

プールの初期設定を完了させるための十分なストレージが、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール(MFBP)内にありません。

分析

0892 は、DFSIIINFO によって発行される標準異常終了です。DFSIIINFO は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) を初期設定するモジュールです。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル SPACERR にあるルーチンによって、ラベル ABEND0 のルーチンへの無条件ブランチが行われた結果として発生します。ラベル ABEND0 は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールにメッセージ DFS892 を発行します。

異常終了 SVRB レジスタのレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg2=DFS89 2A のアドレス アドレス Reg3=ABEND 完了 コード X'8000037C'	FREIN IT	この時点で、レジスター 3 には、IMS プロシージャ用の EXEC ステートメントの FBP パラメーターから算出された、計算済みの MFBP サイズが入っています。レジスター 15 には、計算済みの MFBP サイズ (FRE のサイズ、プールの固定長、1 DECB のサイズ、12 ディレクトリー項目のサイズ、スラック・スペース用の 40 バイトをすべて足した合計) が入ります。2 つのレジスターが比較されます。この時点でレジスター 3 の方が小さい場合、異常終了を処理するラベル SPACERR に分岐します。異常終了を処理することによって、異常終了時に、レジスター 3 の内容がオーバーレイされることに注意してください。
Reg3=ABEND 完了 コード X'8000037C' Reg2=DFS89	MOVE LAST	ストレージのディレクトリー項目長が MFBP 内のフリー・スペースから減算された後で、レジスター 3 (この時点で、レジスター 3 には、MFBP に残っているフリー・スペースの量が入っています) とデ

キー	ラベル	説明
2A のアドレス		ィレクトリー項目長が比較されます。レジスター 3 の方が小さい場合は、残りのフリー・スペースがないことを示しており、異常終了を処理する SPACERR に分岐します。異常終了を処理することによって、異常終了時に、レジスター 3 の内容がオーバーレイされることに注意してください。
Reg8=\$ \$IMSDIR の サイズ Reg9= プール に残っている フリー・スペースの量	HITIMS	ストレージ内にある索引に対して十分なスペースがあるかどうかを判別するために、比較が行われます。Reg8 の値がレジスター 9+X'04' の値と同等またはそれより大きい場合は、異常終了を処理するラベル SPACERR に分岐します。
Reg2=DFS89 2A のアドレス アドレス Reg3=ABEND 完了 コード X'8000037C'	CLSE	このルーチンの実行時には、MFBP に最小動的スペースがあるかどうかを判別するために、レジスター 2 の内容 (この時点で、レジスター 2 には MFBP の動的スペースの最小サイズが入っています) とレジスター 3 (この時点で、レジスター 3 には MFBP の動的スペースの量が入っています) が比較されます。この時点でレジスター 3 の方が小さく、十分な最小スペースがない場合は、異常終了を処理するラベル SPACERR に分岐します。異常終了を処理することによって、異常終了時に、レジスター 2 およびレジスター 3 の内容がオーバーレイされます。

考えられる原因: IMS プロシージャの EXEC ステートメントの FBP パラメーターを確認してください。さらに大きなプールを定義することが必要な場合があります (FBP のプール・サイズは、1 KB ブロック単位で定義されます)。IMS プロシージャの EXEC ステートメントの FBPR パラメーターを確認してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターへの応答

IMS プロシージャの EXEC ステートメントの FBP パラメータで、より大きな形式プールを定義してから、ジョブを再実行します。

プログラマーへの応答

プール・サイズを定義するときに考慮すべき要因については、「[バッファの指定 \(データベース管理\)](#)」を参照してください。

問題判別:

4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0893

説明

メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) の初期設定中に、入出力エラーが発生し、アクティブ・フォーマット・ライブラリー (IMS.FORMATA または IMS.FORMATB) に関する POINT または FIND マクロが発行されました。

分析

0893 は、DFSIIINFO によって発行される標準異常終了です。DFSIIINFO は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) を初期設定するモジュールです。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル ABEND4 のルーチンによって、ラベル ABEND0 のへの無条件ブランチが行われた結果として発生します。ラベル ABEND0 は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールにメッセージ DFS983I を発行します。

異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 3 に異常終了完了コード X'8000037D' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=READ ルーチンへの BAL、Reg14=0、R1ERRBIT=X'20'	POIN TD1	すべてのディレクトリー・ブロックで読み取りを行うルーチンの場合、レジスター 14 に常駐ディレクトリーのアドレスが入っている

キー	ラベル	説明
		必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されました。これは、入出力エラーが発生したことを示しており、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されている場合、異常終了を処理するラベル ABEND4 に分岐します。
Reg8=READ ルーチン用の BAL、Reg14=0、R1ERRBIT=X'20'	HIT	\$\$\$IMSDIR ディレクトリー・ブロックの読み取り時、レジスター 14 には、常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されました。これは、\$\$\$IMSDIR ディレクトリー・ブロックの読み取り中に入出力エラーが発生したことを示しています。ラベル ABEND3 へ分岐が行われ、フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されている場合、異常終了を処理するラベル ABEND4 に分岐します。
Reg14= ディレクトリー・ブロックの終了、Reg8= 次のディレクトリーの項目名のアドレス、R1ERRBIT=X'20'	IMSC OMP	レジスター 8 とレジスター 14 が比較されます。レジスター 8 のアドレスがレジスター 14 のアドレスと同等またはそれより大きい場合は、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されている場合は、異常終了を処理するラベル ABEND4 に分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg8=READ ルーチン用の BAL、 Reg14=0、 R1ERRBIT=X'20'	HITI MS	ストレージの常駐ディレクトリーの読み取り時、レジスター 14 には、常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されたため、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされています。ビットが設定されている場合、異常終了を処理するラベル ABEND4 に分岐します。

考えられる原因: おそらく、アクティブ・フォーマット・データ・セットの PDS ディレクトリーにエラーがあります。DFS3410I のメッセージ・テキスト内の DD 名 FORMATA または FORMATB は、アクティブ・フォーマット・データ・セットを示します。MFS ユーティリティーが正しく実行されたことを確認してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

おそらく、形式データ・セットの PDS ディレクトリーにエラーがあります。MFS ユーティリティーが正しく実行されたかどうかを確認してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

2、3、4、11、16

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

[DFS983I](#)

[DFS3410I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

説明

メッセージ・フォーマット・ブロック・プールの初期設定中に、アクティブ・フォーマット・データ・セットに対する READ マクロが発行されたときに、入出力エラーが発生しました。

分析

0894 は、DFSIIINFO によって発行される標準異常終了です。DFSIIINFO は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) を初期設定するモジュールです。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND9D 内の命令を指しています。この異常終了は、ラベル ABEND3 のルーチンによってラベル ABEND0 のルーチンへの無条件ブランチが行われた結果として発行されます。ラベル ABEND0 は、異常終了の前に IMS マスター・コンソールにメッセージ DFS894I を発行します。

異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 11 は、このモジュールの基底レジスターです。レジスター 3 に異常終了完了コード X'8000037E' が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg8=READ ルーチンへの BAL、 Reg14=0、 R1ERRBIT=X'20'	POINT D1	すべてのディレクトリー・ブロックで読み取りを行うルーチンの場合、レジスター 14 に常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されました。これは、READ 中に入出力エラーが発生したことを示しており、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされます。ビットが設定されていない場合は、異常終了を発行するラベル ABEND0 に分岐します。

0894

キー	ラベル	説明
Reg8=READ ルーチン用の BAL、 Reg14=0、 R1ERRBIT= X '20'	HIT	\$\$\$IMSDIR ディレクトリー・ブロックの読み取り時、レジスター 14 には、常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されました。これは、\$\$\$IMSDIR ディレクトリー・ブロックの読み取り時に入出力エラーが発生したことを示しています。ラベル ABEND3 への分岐が行われます。また、フィールド R1ERRBIT (SYNAD 出口ルーチンに入ったときのレジスター 1) が X'20' についてテストされ、ビットが設定されていない場合は、異常終了を発行するラベル ABEND0 に分岐します。
Reg14= ディ レクトリー・ブ ロックの終り、 Reg8= 次のデ ィレクトリー の項目名のア ドレス、 R1ERRBIT= X '20'	IMSCO MP	レジスター 8 とレジスター 14 が比較されます。レジスター 8 のアドレスがレジスター 14 のアドレスと同等またはそれより大きい場合は、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT が X'20' についてテストされ、ビットが設定されていない場合は、異常終了を発行するラベル ABEND0 に分岐します。
Reg8=READ ルーチン用の BAL、 Reg14=0、 R1ERRBIT= X '20'	HITIM S	常駐ディレクトリーをコアに読み取っている間、レジスター 14 には、常駐ディレクトリーのアドレスが入っている必要があります。レジスター 14 がテストされ、ゼロであることが検出されたため、ラベル ABEND3 に分岐します。フィールド R1ERRBIT が X'20' についてテストされ、ビットが設定されていない場合は、異常終了を発行するラベル ABEND0 に分岐します。

考えられる原因: おそらく、アクティブ・フォーマット・データ・セットの PDS ディレクトリーにエラーがあります。IMS がアクティブ中は、アクティブ・フォーマット・データ・セットを更新してはなりません。MFS ユーティリティーが正しく実行されたことを確認します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

おそらく、形式データ・セットの PDS ディレクトリーにエラーがあります。IMS がアクティブ中は、アクティブ・フォーマット・データ・セットを更新してはなりません。MFS ユーティリティーが正しく実行されたかどうかを確認してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

2、3、4、11、16

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

[DFS894I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0895

説明

PDS ディレクトリー索引を作成するための十分なストレージが、IMS 拡張専用域内にありません。この索引は、アクティブ MFS 形式ライブラリーから MFS 制御ブロックを読み取るのに使用されます。

オペレーターの応答

IMS 拡張専用域内でより多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIIINGO

0896

説明

DD DUMMY パラメーターは、アクティブ・フォーマット・データ・セットに対してはサポートされていません。DD 名は FORMATA または FORMATB です。メッセージ DFS3410I を参照して、どちらの DD 名がアクティブ・フォーマット・データ・セットかを識別してください。

分析

これは、DFSIIINFO によって発行される標準異常終了です。DFSIIINFO は、メッセージ・フォーマット・ブロック・プール (MFBP) を初期設定するモジュールです。異常終了への入口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABENDND 内の命令を指しています。

この異常終了は、ラベル ABEND6 のルーチンによってラベル ABENDND への無条件ブランチが行われた結果として発行されます。この初期処理およびセットアップでは、DFSIIINFO はモジュール DFSIDDP0 (DD ステートメント妥当性検査ルーチン) への BALR を実行します。DFSIDDP0 は、DD ステートメントのエラー (特にデータ・セット名エラー) を検出すると、エラー戻りコード (X'10') をレジスター 15 に入れて DFSIIINFO に返します。戻りコードに基づいて、DFSIIINFO 内で、DDRC0416 にあるルーチンから異常終了を処理するルーチンへの分岐が行われます。

異常終了 0896 は、ダンプを伴いません。ラベル ABENDND にあるコードには、ダンプ・オプション標識 (レジスター 1 の上位ビット) を設定するための準備機能はありません。この異常終了は、FORMAT データ・セットの DD ステートメントに DD DUMMY をコーディングした直接の結果として発生します。このデータ・セットには、有効なデータ・セット名が指定されていなければなりません (DUMMY は使用できません)。

ダンプが必要な場合は、障害のあるジョブを再実行し、ラベル ABEND6 におけるブランチ命令を変更することで、ラベル ABEND9D (47F0 Bxxx) への無条件ブランチを実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

DD ステートメントを訂正して有効なデータ・セット名を指定してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

2

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

[DFS3410I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0897

説明

ステージング・バッファを割り振るための十分なストレージが、IMS 専用域内にありません。このバッファは、アクティブ MFS 形式ライブラリーから MFS 制御ブロックを読み取るのに使用されます。

オペレーターの応答

IMS 専用域内で、より多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIIINGO

0898

説明

MFS 動的ディレクトリーを作成するための十分なストレージが、IMS 拡張専用域内にありません。このディレクトリーは、アクティブ MFS 形式ライブラリーから MFS 制御ブロックを読み取るのに使用されます。

オペレーターの応答

IMS 拡張専用域内でより多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIIINGO

0899

説明

MFS バッファ・プール制御域を割り振るための十分なストレージが、IMS 専用域内にありません。

オペレーターの応答

IMS 専用域内で、より多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIIINGO

0900

説明

ダミー ECB 用のストレージを割り振るための十分なストレージが、IMS 専用域内にありません。この ECB は、31 ビット・モードで MFS 形式ライブラリーを読み取るのに必要です。

システムの処置

IMS 専用域内で、より多くのスペースが使用可能になったら、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

第 20 章 IMS 異常終了コード 0901 - 0950

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0904

説明

MFS ユーティリティー・プログラムによる PDS ディレクトリー項目の処理中に、32K より大きなフォーマット・ブロック・サイズをもつ無効な項目が検出されました。MFS 形式作成モジュールでは、作成ブロックのサイズが 32K に制限されています。ディレクトリー項目が破壊されています。

分析

0904 は、以下から発行される標準異常終了です。

- DFSIINFO、フォーマット・ブロック・プール・インシエーター
- DFSFDIRO、MFS XA ディレクトリー作成モジュール

MFS 形式作成モジュールでは、作成ブロックのサイズが 32K に制限されています。PDS ディレクトリー項目のサイズが無効です。レジスター 2 にディレクトリー項目のアドレスが入っており、レジスター 8 にフォーマット・ブロックのサイズが入っています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

異常終了に入ったときのレジスター 2 が、ディレクトリー項目を指しています。レジスター 8 にフォーマット・ブロック・サイズが入っています。無効な項目を削除してから、プログラムを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIINFO、DFSFDIRO

0905

説明

ブロック・ビルダーが、必要な制御ブロックを作成するための十分なストレージを取得できません。

分析

0905 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0905I が出力されます。

異常終了 SVRB のレジスターおよび DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されたレジスターを、問題診断に使用できます。特定のラベルに分離するために、ラベル ERRORSVE 保管域からのレジスター 14 BAL を使用します。

制御ブロックを作成するストレージを取得するために GETMAIN マクロが発行されます。レジスター 15 のルーチンに、次のいずれかの戻りコードが渡されます。

コード 説明

X'00'

仮想ストレージ要求が割り振られました。

X'04'

仮想ストレージは割り振られませんでした。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。モジュールによる制御の流れは、次のとおりです。まず、サブルーチンが GETMAINR への BAL を実行します。GETMAINR は、レジスター 15 およびレジスター 0 を SAVE0 に保管し、GETMAIN マクロを発行します。(DFSDLBA0 が基底の場合は、サブルーチンはアドレス可能度の問題を解決するためにラベル GETMAIN への BAL を実行し、その後、GETMAIN が GETMAINR への BAL を実行します。)戻り時に、ADCON ADDR (GETMAIN 領域のアドレス) が X'04' について検査され、同等の場合は ERROR905 に分岐します。ERROR905 は、レジスター 0 からレジスター 15 をラベル ERRORSVE に保管し、レジスター 6 に PSB 名アドレスをロードします。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0905I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN により、SETPSEU に分岐し、これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

これに対する唯一の例外は、サブルーチン SUMSPDX が DFSDLBA0 (エントリー・ポイント INTPROP) への BAL を実行する場合です。この場合は、ラベル BLDLIMT2 で GETMAIN マクロが発行されます。レジスター 15 がゼロの戻りについてテストされ、ゼロでない場合は、INTRET4 へ分岐します。INTRET4 は、戻りコードを設定し、INTRET へ分岐します。INTRET は、一部のハウスキーピングを実行して DFSDLBLO へ戻ります。この時点で ERROR905 への分岐が行われ、前に述べた制御が続行されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=CURLIM アドレス (現行の限度テーブル) Reg11=DFSDLBLO 基底 Reg12=DFSDLBAO 基底 Reg14=BAL Reg15=X'04'	SUMSPDX BLDLIMIT2	このルーチンは、セグメント・タイプ別の意図に基づき、エンキュー・リストを作成します。これは、意図伝搬ルーチン (DFSDLBAO エントリー・ポイント INTPROP) への BAL を実行します。そこで、渡された PSDB から始めて、PSDB アドレスのテーブルが構成されます。サブルーチン BLDLIMT2 は、GETMAIN マクロを発行します。テーブルを構成するためにストレージが使用可能でない場合、DFSDLBAO は、戻りコード X'04' をレジスター 15 に入れて DFSDLBLO へ渡します。その後、DFSDLBLO が異常終了を発行します。
Reg2=必要な DDIR スペース Reg3=PSB アドレス Reg4=DBPCB リスト・アドレス Reg14=BAL Reg15=X'04'	ISDBPCB GETMAIN R	このルーチンは、PSB によって参照されるすべての DBD についての一時 DDIR のリストを作成するために必要なスペースを獲得します。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、要求を満たすために使用可能なストレージがなかったことを示し、そのため異常終了が発行されます。
Reg2=必要な SDB スペース Reg14=BAL Reg15=X'04'	SGTABGSD GETMAIN R	PSB に必要な SDB の数は、PCB をスキャンし、SENSEG ステートメントの数を数えることで計算されます。最後の PCB が処理された時点で、このルーチンは、SDB の作成に必要なストレージを獲得しようとしています。ゼロ以外の戻りコードは、要求を満たすために使用可能なスペースがなかったことを示し、そのため異常終了が発行されます。
Reg1= 必要な新規 PSB スペース Reg2=SDB 拡張サイズ	LOOPN GETMAIN R	このルーチンは、SDB 拡張ブロックのためのストレージを獲得します。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能なスペースがないこ

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL Reg15=X'04'		とを示し、そのため異常終了が発行されます。
Reg2=必要な DMB スペース Reg14=BAL Reg15=X'04'	NOINDXTD GETMAIN R	DMB の作成に必要なストレージのサイズが計算されてから、このルーチンはストレージの取得を試みます。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能なスペースがないことを示し、異常終了が発行されます。
Reg2=必要な SDB スペース Reg3=PSB Reg6=SDB Reg13=DFSDLBLO 基底 Reg14=BAL Reg15=X'04'	GETSDBA GETMAIN R	論理データベース用の SDB を取得するために、BLDSDBEB からこのサブルーチンに分岐しました。GETSDBA は、8 つの SDB を作成するためのスペースの割り振りを試みます。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能なストレージがないことを示し、そのため異常終了が発行されます。
Reg2=PRLSTSZ サイズ Reg14=BAL Reg15=X'04'	BLDLOGLV GETMAIN R	このルーチンは、物理対用に生成された SDB を記述するリストを作成するために、ストレージの取得を試みます。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードによって、異常終了が発生します。
Reg0= SECLIST テーブル項目の長さ Reg2= SECLIST テーブルのサイズ Reg4=DDIR Reg14=BAL Reg15=X'04'	BLDDBNDA GETMAIN R	このルーチンは、SECLIST を処理するために、ストレージの取得を試みます。これは、各 SECTAB + 1 について 1 項目をベースとして、SECLIST テーブルに対して GETMAIN を実行します。GETMAIN からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能な中核がないことを示しており、異常終了を生じる結果となります。

キー	ラベル	説明
Reg2= ENQUEUE リ ストのサイズ Reg14=BAL Reg15=X'04'	ENQACU MA GETMAIN R	物理 DBD のエンキュー・リスト (意図リスト) のサイズが計算され、その後、そのエンキュー・リスト用のストレージの取得が試みられます。GETMAIN 要求からのゼロ以外の戻りコードは、使用可能なスペースがないことを示しており、そのため異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、処理中の PSB を指しています。領域サイズまたは区画サイズを増やしてから、プログラムを再実行します。メッセージ DFS0905I を参照してください。

問題判別:

4、9、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0906

説明

SENSEG ステートメントに、無効な処理オプションが指定されています。

分析

0906 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0906I が出力されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、SENSEG 名と PSB 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR906 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 7 には、PSB

名アドレスがロードされます。レジスター 14 は、ERROR906 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0906I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg7= オプシ ョン・テーブ ルの アドレス Reg15=A(PRO COPT)	BLDSDB LOOPA	このルーチンは、SENSEG ステートメントから SDB を作成します。レジスター 15 にある PROCOPT について、処理オプションを収容しているテーブル項目の比較が行われます。一致するオプションが見つからない場合は、無効な PROCOPT が存在していると判別され、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は SENSEG 名を指し、レジスター 7 は PSB 名を指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。メッセージ DFS0906I を参照してください。

問題判別:

4、9、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0906I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0907

説明

PSB 内に、論理 DBD を参照し、しかも PROCOPT が L または LS である PCB があります。

分析

0907 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0907I が出力されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、DBD 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERR907 に分岐します。これが DFSDLBLO を基底として復元し、ERROR907 に分岐します。ここで、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR907 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS907I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=DDIR DDIRADDR =X'22'	CLRDDI R9	このルーチンは、論理 DDIR を基底、 処理します。X'22' (論理 DBD およびロード・オプションを指 定する) について、DMB ストレ ージ・アドレス (DDIRADDR) の 上位バイトがテストされます。 この状態ではロード PROCOPT が無効なため、異常終了が発行 されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指し、レジスター 5 は PCB 名を指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、9、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0907I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0908

説明

PSB が、有効な PSB ではありません。

注: 付随する DFS0908I メッセージがない場合、この異常終了は、IMS ではなく別のプロダクトによって発行されたものです。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指しています。IMS PSBGEN を使用して PSB を作成してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS0908I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0909

説明

DBD 名が、有効な DBD ではありません。この異常終了の前に、メッセージ DFS0909I が発行されます。

分析

0909 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO および DFSDPSB0 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO の場合:

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、DBD を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR909 に分岐します。これは、レジスター 0 からレジスター 15 をラベル ERRORSVE に保管し、レジスター 6 に DBD をロードします。レジスター 14 は、ERROR909 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0909I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DBD addr Reg4=DDIR addr AMODLEV= ='X'30'	LOADD BD	DBD がロードされました (TYPESW=X'20')。フィールド AMODLEV は、バージョン 1 DBD (ビット 1 および 2=X'30') についてテストされます。DBD が無効な場合は、異常終了が発行されます。

DFSDPSBO の場合:

このモジュールは、領域パラメーターが UDR または ULU である場合に、DFSDLBLO によって呼び出されます。パラメーター・リストのアドレスがレジスター 1 に渡されます。

入力レジスター (レジスター 14 からレジスター 12) は、レジスター 13 に X'C' を加えた位置に保管されます。異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

異常終了 0909 のエラー条件は、このモジュール内で検出されます。ただし異常終了 (SVC 13) は、実際にはモジュール DFSDLBLO から発行されます。DFSDPSBO は、異常終了コードをレジスター 15 に入れて DFSDLBLO に渡し、DFSDLBLO がラベル SETPSEU で異常終了を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg10=D BD 基本 AMODLE V='X'30'	NOLOAD (DFSDLB LO) GETDBD	このルーチンは、現行レベルの DBD の妥当性検査を行います。バージョン 1 DBD (フィールド AMODLEV のビット 1 および 2=X'30') でない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD を指しています。IMS DBDGEN を使用して DBD を作成してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO、DFSDPSBO

関連情報

[DFS0909I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0910

説明

PSB の処理中に、内部プログラミング・エラーが発生しました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0910I が発行されます。

分析

0910 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0910I が出力されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、PSB 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR910 に分岐します。これは、レジスター 0 からレジスター 15 をラベル ERRORSVE に保管し、レジスター 6 に PSB 名アドレスをロードします。レジスター 14 は、ERROR910 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS910I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐し、そこで異常終了 (SVC 13) が発行されました。

キー	ラベル	説明
Reg5=代替 索引 データベ ース名 Reg8=PCB アドレス	LOOP 01	このルーチンは、DDIR の処理を試みています。これは、この PCB の代替処理シーケンスに必要なものを探しながら、最終に達するまで (Reg5 内の DMB 名と Reg15 内の DDIR を比較しながら) DDIR 全体をループします。一致するものが検出されない場合は、異常終了が発行されます。
Reg5=索引 テーブルの 開始 Reg5 + X'8'=X'40' または X'20'	LOOP U	このルーチンは、PSB によって参照されるが、PSB 内の PCB または SENSEG からは参照されない、副次索引データベース名を処理します。このルーチンは、すべての項目が処理されたかどうかを確認するために、代替処理シーケンスの索引テーブル項目のビットおよび INDICES オペランドをテストします。これらのビットは、この時点でクリーンアップされていない場合、処理されていない場合は異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、エラーを起こした PSB 名を指しています。問題の PSB を処理リストから除去して、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0910I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0911

説明

示された PSB について、処理オプション意図リストの長さが誤って計算されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0911I が発行されます。

分析

0911 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0911I が出力されます。

DFSDLBLO (SUMSPDH) は、セグメント・タイプ別の意図に基づいてエンキュー・リストを作成するために、意図伝搬ルーチン (DFSDLBAO エントリー・ポイント INTPROP) への BAL を実行します。INTPROP 内では、さまざまなサブルーチンがルーチン SETNT への BAL を実行します。ルーチン SETNT は、渡された PSDB を配置し、それに関連する意図項目を設定します。意図リストが項目を十分収容できる大きさであることを確認するために、比較が行われます。大きさが不十分な場合は、エラーが発生します。

ルーチン INTPROP および SETNT は、その呼び出し元のレジスター (それぞれ、レジスター 14 からレジスター 12、およびレジスター 14 からレジスター 7) をレジスター 13 に X'C' を加えた値に保管します。異常終了 SVRB のレジスター 13 から、これらの保管域セット全体のトレースを行うことで、エラー条件の原因となった制御の流れをトレースすることができます。特定のラベルに分離するために、ラベル ERRORSVE に保管されているレジスター 14 BAL を使用する必要があります。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。ラベル SETNT でエラーが検出された場合

は、INTRET8 および INTRET への分岐が行われます。ここで、ハウスキーピングが実行され、レジスター 15 に戻りコード X'08' が設定されます。INTRET が、戻りコードと共に CSECT DFSDLBLO に戻り、ERROR911 へ分岐します。ERROR911 は、レジスター 0 からレジスター 15 をラベル ERRORSVE に保管し、レジスター 6 に PSB 名アドレスをロードします。レジスター 14 は、ERROR911 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS911I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg4=BAL Reg8=PSDB アドレス Reg9=DDIR アドレス Reg14=BAL	SETINT NT	このラベルに対して BAL を実行する Reg4 が 6 つあります。これらを使用して、設定する意図項目のタイプを判別します。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。
Reg3=現行の 限度テーブル 項目のアドレ ス Reg14=BAL	DLETU P	更新意図は、「D」 PROCOPT に関する現行の PSDB および関連の PSDB に設定されます。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。
Reg3=現行の 限度テーブル 項目のアドレ ス Reg14=BAL	UPISRT B	更新意図は、「I」 PROCOPT に関する現行の PSDB および関連の PSDB に設定されます。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。
Reg3=現行の 限度テーブル 項目のアドレ ス Reg14=BAL	UPISRT E	更新意図は、「I」 PROCOPT に関する現行の PSDB および関連の PSDB に設定されます。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。
Reg8=現行の 限度テーブル 項目のアドレ ス Reg14=BAL	UPISRP TR	現行 PSDB の更新意図は、論理親に伝搬されます。このルーチンは、Reg14 で SETNT への BAL を実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指しています。これは、内部プログラム・ロジック・エラーです。問題の PSB を除去してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

DFS0911I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0912

説明

プログラム仕様ブロック (PSB) が、DBD 内の SEGM を参照しました。しかし、この SEGM は DBD 内にはありません。PSB、SECM、および DBD は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0912I に示されています。

分析

0912 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0912I が出力されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 7 は、それぞれ、PSB、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR912 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR912 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0912I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=S DB アド レス	BLDSDB DA	このルーチンは、参照されるスケルトン SDB と一致する SEG TAB 項目を DBD 内で見つけようとしています。DBD 内に一致するものが見つからない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PSB 名、レジスター 6 はセグメント名、レジスター 7 は DBD 名をそれぞれ指しています。PSB または DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

DFS0912I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0913

説明

示された DBD に、無効または不明なアクセス方式が含まれています。この異常終了の前に、メッセージ DFS0913I が発行されます。

分析

0913 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、初期時点でロード、再ロード、またはスキャンされている DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR913 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR913 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0913I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐し、そこで異常終了 (SVC 13) が発行されました。

キー	ラベル	説明
Reg9=PREF IX 基底、 PREACCES- =X'0F'	NOPA SS	DDIR によって参照される DBD のロード中に、アクセス方式が X'0F' 以下として定義されているかどうかを確認するための比較が行われます。定義されている値がそれより高い場合、アクセス方式は無効となり、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=0	SIGM AIA	有効なアクセス方式について検査する場合、フィールド PREACCES からの文字がレジスター 1 に挿入されます。レジスター 1 がゼロに等しい場合はアクセス方式が指定されていないため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、初期ロード、再ロード、またはスキャンされた DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0913I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0914

説明

PSB に含まれている SENSEG ステートメントに対応する SEGM が、DBD 内にありません。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了し、プログラムは停止します。

システム・プログラマーの応答

次のいずれかを使用して DBD を新規の DBD コピーに置き換えて、ACBGEN ユーティリティ・プログラムを再実行します。

- BUILD PSB=ALL
- BUILD DBD=dbdname
- BUILD PSB=psbname, DBD=dbdname

問題判別:

11、17a、17b、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0915

説明

指定された INDEX DBD に、索引フィールド長と異なるシーケンス・フィールド長が指定されています。正しい長さがメッセージに示されています。この異常終了の前に、メッセージ DFS0915I が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指し、レジスター 5 は必要とされる長さを指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS0915I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0916

説明

指定された DBD には、ルート・セグメントについてのシーケンス・フィールドの指定が必要です。シーケンス・フィールドが指定されなかったか、または非固有として指定されました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0916I が発行されます。

分析

0916 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラ

ベル ERROR916 に分岐します。これが DFSDLBLO を基底として復元し、ERROR916 に分岐します。ここで、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR916 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0916I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg14=0	ISHISAME	このサブルーチンは、HISAM または索引データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FD B アドレス	ISHISAME	FDB で、HISAM または索引データベースのルート・セグメントが探索されました。フィールド FDBDCENF のビット 1 およびビット 2 が両方ともオンか両方ともオフ (それぞれ非固有ルート・キーであるか、またはシーケンス・フィールドがないことを示す) であるため、異常終了が発行されます。
Reg14=0	ISHDORGC	このサブルーチンは、OSAM HDAM または HIDAM データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FD B アドレス	ISHDORGC	FDB で、ルート・セグメントが探索されました。フィールド FDBDCENF のビット 1 および 2 は、シーケンス・フィールドが指定されていないこと、または重複したシーケンス・フィールドが許可されていることを示します。いずれの場合も、異常終了が発行されます。
Reg14=0	ISVHIB A	このサブルーチンは、共用索引 (VSAM HISAM) データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しない

キー	ラベル	説明
		ため、異常終了が発行されず。
Reg14=FD B アドレス FDBDCENF =X'40'	ISVHIB A	FDB が探索されました。フィールド FDBDCENF は、シーケンス・フィールドが指定されていないことを示しているため、異常終了が発行されます。
Reg14=0	ISVHIB C	このサブルーチンは、VSAM HISAM または索引データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FD B アドレス FDBDCENF =X'40' および X'20' DMBORG= X'0F'	ISVHIB CA	FDG で、VSAM HISAM または索引データベースのルート・セグメントが探索されました。フィールド FDBDCENF が、シーケンス・フィールドが指定されなかったことを示している場合、異常終了が発行されます。フィールド FDBDCENF が、シーケンス・フィールドが指定されており、重複シーケンス・フィールドが許可されていることを示している、さらに、フィールド DMBORG が VSAM 索引編成を指示していない場合、重複シーケンス・フィールドを使用できるのは VSAM 索引のみであるため、異常終了が発行されます。
Reg14=0	ISVHDC	このサブルーチンは、VSAM HIDAM データベースのルート・セグメント用の FDB アドレスを取得中です。ルート・セグメント用に定義されたフィールドがない場合、シーケンス・フィールドが存在しないため、異常終了が発行されます。
Reg14=FD B アドレス	ISVHDC	FDB が探索されました。フィールド FDBDCENF のビット 1 および 2 は、シーケンス・フィールドが指定されていないこと、または重複したシーケンス・フィールドが許可されていることを示しているため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0916I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0917

説明

最初の DBD が、2 番目の DBD 内にある SEGM を参照しました。しかし、この SEGM は、2 番目の DBD 内にはありません。DBD および SEGM は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0917I に示されています。

分析

0917 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 7 は、それぞれ、参照された DBD、参照されたセグメント、および参照された DBD を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR917 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR917 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN へ分岐する前に、ハウスキーピングの目的で各種のサブルーチンへ分岐が行われます。RETURN でメッセージ DFS0917I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg5=2 次リス ト、 DMBSECDB=DDI	EPSILO NV	DDIR から 4 を引いた値 は、セグメント名を収容 している表を指していま す。このサブルーチン

キー	ラベル	説明
R DMBSECNM= セグメント名		は、テーブル全体を探索 して、論理子セグメント 名または論理親セグメン ト名 (DMBSECNM) をテ ーブル項目にゼロを足し た値と比較します。一致 するものが検出されない 場合は、異常終了が発行 されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は参照する DBD、レジスター 6 は参照されるセグメント、レジスター 7 は参照される DBD をそれぞれ指しています。一方または両方の DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0917I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0918

説明

指定された PSB に、指定されたセグメントに関する SENSEG ステートメントが含まれていました。SENSEG ステートメントが、論理子セグメントをセグメント連結の最初の部分として参照していました。論理子の論理親または物理親を示す、連結の 2 番目の部分に、有効な物理親が含まれていません。この異常終了の前に、メッセージ DFS0918I が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PSB 名を指し、レジスター 6 は SENSEG 名を指しています。エ

ラーのある PSB または DBD (または両方) を訂正し、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS0918I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0919

説明

プログラム仕様ブロック (PSB) 内の PCB に、最も長い完全連結キーを保持するには小さすぎる KEYLEN パラメーターが含まれています。正しい長さがメッセージに示されています。PSB および PCB は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0919 に示されています。

分析

0919 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 7 は、それぞれ、PCB 名、PSB 名、および必要とされる長さを指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR919 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR919 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0919I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
TYPESW= X'08'	SUMSPN AB	SDB キーの長さおよび全セグメントのフィードバック位置が判別されました。フィールド TYPESW は、PCB キーのフィードバックの長さが短すぎることを示す X'08' について検査されます。短すぎる場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PCB 名、レジスター 6 は PSB 名、レジスター 7 は必要とされる長さをそれぞれ指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0919I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0920

説明

指定された PSB には、指定された DBD に対して PROCOPT の L で少なくとも 1 つの参照があり、同じ DBD に対して L 以外の PROCOPT で少なくとも 1 つの別の参照があります。参照は、PCB ステートメント内におけるように直接的な場合と、論理関係または索引関係を介して別の DBD を参照する DBD におけるように間接的な場合があります。この異常終了の前に、メッセージ DFS0920I が発行されます。

分析

0920 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、DBD 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR920 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR920 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0920I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
DDIRADDR= X'20' および X'80'	ISHISA M	このルーチンは、HISAM 用の DCB および INDEX タイプの DBD を作成します。ロード および スキャン処理オプションを示す X'A0' について、DDIRADDR の高位バイトがテストされます。競合する PROCOPT が指定されている場合、異常終了が発行されません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は DBD 名を指し、レジスター 6 は PSB 名を指しています。PSB または 1 つ以上の DBD (あるいは両方) を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[DFS0920I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0921

説明

プログラム仕様ブロック (PSB) がロードされました。しかし、検査の結果、この PSB は有効な PSB でないことが判明しました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0921I が発行されます。

分析

0921 は、複数の CSECT のモジュール DFSDBLLO から発行される標準異常終了です。

DFSDBLLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR921 に分岐します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管さ

れます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0921I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg3=P SB Reg15= =0	RETLOAD	このルーチンは、ロードされた PSB が有効かどうかの確認を試行します。PSB 内の索引入出力域アドレスがゼロでない場合、これは実際の DBD であり、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指しています。JCL ステートメントまたは制御ステートメント (または両方) を検査し、エラーを訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[DFS0921I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0922

説明

指定された DBD がロードされました。しかし、検査の結果、この DBD は有効な DBD でないことが判明しました。この異常終了の前に、メッセージ DFS0922I が発行されます。

分析

0922 は、複数の CSECT のモジュール DFSDBLLO から発行される標準異常終了です。

DFSDBLLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR922 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル

ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR922 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0922I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DBD アドレス Reg15=0	BLDSDB C	このルーチンは、DBD をロードしようとして、ロードは成功しましたが、ロードされた項目は PSB で、DBD ではありませんでした。そのため、異常終了が発行されます。
Reg2=PSB 名 アドレス Reg4=PDIR アドレス	RETLOO P	HD アンロード領域、HD 再ロード領域、またはデータベース・リカバリー領域で、DBD 名が提供されませんでした。そのため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指しています。JCL ステートメントまたは制御ステートメント (または両方) を検査し、エラーを訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0922I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0923

説明

指定された DBD 内の指定された論理子セグメントに、論理親の完全連結キーより短い BYTES 指定があります。最小許容長さがメッセージに示されています。この異常終了の前に、メッセージ DFS0923I が発行されません。

分析

0923 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6、レジスター 7、およびレジスター 5 は、それぞれ、セグメント名、DBD 名、および最小長を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR923 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR923 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN へ分岐する前に、ハウスキーピングの目的で、各種サブルーチンへ分岐が行われます。ここでメッセージ DFS0923I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg0= 負の値、 DMBSECSC= 参照さ れるセグメントのセ グメント・コード、 DMBSFD= 論理親キ ーの長さ	EPSILONW	このルーチンは、論理関係を解決しているときに、論理子セグメントのデータ長が、その論理親の連結キーより短いかどうかを確認するためのテストを行います。短い場合は、無効なセグメント長であるため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はセグメント名、レジスター 7 は DBD 名、レジスター 5 は最小の長さをそれぞれ指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0923I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0924

説明

指定された INDEX DBD のルート・セグメントのデータ長が、必要な索引データを保持するには小さすぎます。最小許容長さがメッセージに示されています。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0924I に、DBD 名が示されています。

分析

0924 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 5 は、それぞれ、DBD 名と最小長を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR924 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR924 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0924I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1= 索引 DDIR Reg7=PSD B、 DMBDL<D DIROPT	EPSIL OMO	このルーチンは、索引 DBD を指して作業を行っているときに、ターゲット・セグメントの連結キーのデータ長と索引セグメントのデータ長を比較します (索引セグメントはシンボルで指示されるため、ターゲットの連結キー全体がこのセグメントに含まれていなければなりません)。索引セグメントの長さが十分でない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指し、レジスター 5 は最小の長さを指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

DFS0924I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0925

説明

指定された論理子セグメントに定義されているシーケンス・フィールドが、論理子内の論理親の連結キー領域内にあり、そのキーが VIRTUAL として指定されていました。キーは、物理兄弟シーケンス・フィールドの一部として使用する場合、PHYSICAL と指定する必要があります。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0925I に、セグメントの名前が示されています。

分析

0925 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、セグメント名と DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR925 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR925 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN へ分岐する前に、ハウスキーピングの目的で各種サブルーチンへ分岐が行われます。ここでメッセージ DFS0925II が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg0= シーケン 開始オフセット、 Reg0<Reg14 + X'8'	EPSILOA A	このルーチンは、論理関係を解決しているときに、この仮想論理親のキー領域で始まるシーケンス・フィールドを持つ論理子セグメントを検出しました。これはエラーであるため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はセグメント名を指し、レジスター 7 は DBD 名を指しています。エ

ラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0925I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0926

説明

示されている PSB 内の示されている PCB に代替処理シーケンスが指定されていました。示されている副次索引は、指定されている SENSEG では無効です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0926I が発行されます。

分析

0926 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 7 およびレジスター 8 は、それぞれ、PCB 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR926 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR926 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0926I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg9= ルート・セグ メントの 最新 SEC LIST DMBSCDE=X' 80' Reg15=BAL	LOO PJ	このルーチンへの BAL は NOTPL12 から実行されます。NOTPL12 が PCB を処理中に、代替処理シーケンスが指定されたことが判明したため、副次索引の SDB を作成する必要があります。このルーチンは、索引項目を入手するために 2 次リスト (Reg9) を取得します。該当項目が見つからないままり

キー	ラベル	説明
		ストの終わりに達した場合は、エラーが発生し、異常終了が発行されます。
Reg8= ルート・セグ メントの 最終 FDB FDBXDFLG=X '80' Reg15=BAL	LOO PR	2 次リスト項目が見つかった場合は、適切なシーケンス・フィールドを取得するために FDB がスキャンされます (Reg8)。適切なフィールドが見つからないまま FDB の終わりに達した場合は、エラーが発生し、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は SENSEG 名、レジスター 7 は PCB 名、レジスター 8 は PSB 名をそれぞれ指しています。PSB または DBD (あるいは両方) を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0926I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0927

説明

INDEX DBD が、INDEXED DBD 内の存在しない索引フィールドを指定しました。DBD の名前については、この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0927I を参照してください。

分析

0927 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 5 は、それぞれ、INDEX DBD 名と INDEXED DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR927 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR927 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0927I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg15=LAS TPSDB	INDXL OC	索引フィールドについて、索引付きデータベースの PSDB をスキャン中です。すべての PSDB が処理済みかどうかを確認するため、Reg15 と LASTPSDB が比較されます。処理済みの場合は、索引参照が無効となり、異常終了が発行されます。
Reg1=0 Reg15=タ ーゲット PSDB	EPSIL OMM	X'60'/X'64' タイプのリスト項目について、ターゲット PSDB 内の 2 次リスト項目をスキャン中です。X'60'/X'64' タイプのリスト項目が索引 DDIR にチェーニングされていない場合は、索引参照が無効となり、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は INDEX DBD 名を指し、レジスター 7 は INDEXED DBD 名を指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0927I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0928

説明

INDEX DBD は有効なフィールドを指していますが、そのフィールドはシーケンス・フィールドではありません。DBD は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0928I に示されています。

分析

0928 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、INDEX DBD 名を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 1 は、索引 DDIR を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、Harrower への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、Harrower への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0928I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=FDB FDBDCENF ->X'40' または X'10'	EPSIC HKF	このルーチンは、索引 2 次リストアドレス、項目および FDB を取得しました。これは、シーケンス・フィールドが存在するかどうかを確認するために、X'10' および X'40' のフィールド FDBDCENF をテストします。存在しない場合は、エラーが発生し、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は INDEX DBD 名を指しています。エラーのある DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0928I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0929

説明:

指定されたメンバーのディレクトリー項目リストを構成するために、BLDL マクロ呼び出しが発行されました。このメンバーは DBD または PSB ライブラリーで検出されませんでした。この異常終了の前に、メッセージ DFS0929I が発行されます。

分析

0929 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、メンバー名を指しています。

この異常終了は、IMS カタログが IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーで使用可能になっている場合、または IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) が機能コード 1 に組み込まれている場合にも発行されます。いずれの場合も、カタログ・メンバー (DFSCP000、DFSCD000、および DFSCX000) のすべてが正しいライブラリーに含まれていることを確認してください。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR929 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR929 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0929I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=PSB 名 Reg15=0	MODL OAD	これは特殊な領域要求ではないため、渡された PSB をロードする必要があります。このルーチンは、PSB 名を BLDL リストに移動し、メンバーを見つけるために BLDL を発行します。メンバー PSB 名がライブラリーにない場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=PSB 名 PDSAV<X'B' Reg15=0	MODL ODA	このルーチンは、PSB をロードしようとしているときに、バインド・プログラムが PSB を作成していなかったことを判別しました。そのため、異常終了が発行されます。
Reg4=DDIR Reg4 + X'8'=DBD name	MODL OAD	DDIR によって参照される DBD をロードする必要があります。このルーチンは、DBD 名を BLDL リストに移動し、メンバーを見つけるために BLDL を発行します。メンバ

キー	ラベル	説明
Reg15=0		DBD 名がライブラリーにない場合は、異常終了が発行されます。
Reg4 + X'8'=DBD name PDSAV<X'B' Reg15=0	MODL ODA	このルーチンは、DBD をロードしようとしているときに、バインド・プログラムが DBD を作成していなかったことを判別しました。そのため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はメンバー名を指しています。該当のライブラリーのエラーを訂正してから、プログラムを再実行します。

この異常終了の原因が IMS カタログ・メンバーの欠落にある場合は、DFSCP000、DFSCD000、および DFSCX000 について適切な PSB 生成ユーティリティーまたは DBD 生成ユーティリティーを再実行してください。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0929I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0930

説明

DBD に含まれている LCHILD ステートメントが、指定された SEGM を PAIR= オペランドで参照していました。しかし、その SEGM は見つからなかったか、またはその SEGM は仮想セグメントであり、そのソース・セグメントに PTR=PAIRED オペランドが含まれていました。DBD は、この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0930I に示されています。

分析

0930 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 5 は、それぞれ、DBD 名とセグメント名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR930 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR930 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0930I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DBD Reg5= SEC LIST の アドレス DMBSCDE= X'01' および X'10' Reg8=第 1 LCHILD の オフセット	EPSILO XE	論理子セグメントには、対セグメントへの変位が入っています。2 次リストが作成され、対の論理子の物理対へのパスを示すために、論理親セグメントが記述されています。レジスター 15 に対セグメントへのオフセットが入っていなかったため、終わりに達するまで、LCHILD dsect の検索 (Reg14 と Reg8 の比較) が行われます。対セグメントを検出できなかった場合は、異常終了が発行されます。
Reg6=SDB アドレス SDBTFLG= X'10'	BLDSD BSR	このルーチンは、指定されたセグメントにソース項目があり、これが論理 DBD でないことを判別しました。SDBTFLG=X'10' は、SDB が物理対用であることを示しています。物理対を仮想セグメントにすることはできないため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指し、レジスター 5 はセグメント名を指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0930I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0931

説明

INDEXED DBD が、指定された INDEX DBD と索引関係にありました。INDEX DBD はその INDEXED DBD に対して同様の関係にないか、または指定された PSB で参照されるほかの DBD もその INDEX DBD と索引関係にあります。DBD の名前については、この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0931I を参照してください。

分析

0931 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6、レジスター 7、およびレジスター 5 は、それぞれ、PSB 名、INDEXED DBD 名、および INDEX DBD 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR931 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR931 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS931I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=索引フィー ルドの FDB Reg5= タイプ X'44' の 2 次リスト Reg10=DBD Reg15= 索引接頭部 のサイズ DMBXPSDB= 関連 した索引 PSDB	EPSILOMN	タイプ X'44' の 2 次リストの作成中に、索引付きセグメントは、シンボリック・ポインティングが索引ポインターの検査を行っていないことを示しました。DBD 内の索引接頭部のサイズが 2 以下です。これは、それがシンボリック・ポインティングであって、FDB の情報に一致しなかったことを示しています。異常終了が発行されます。
Reg5=タイプ X'60' の 2 次リスト SAVE0= 索引 PSDB	EPSILOME	タイプ X'60' の 2 次リストは、ターゲット PSDB を指しています。そのターゲット PSDB が、索引 PSDB にチェーニングされた 2 次リスト項目で指示されたターゲット PSDB と異なっています。この索引関係は無効で、異常終了が発行されます。
Reg1= 索引値 Reg13+12= 索引テ ーブル項目	INDXLOOP	索引テーブル項目は、処理される 2 次リストのタイプを示しています。この項目は無効で、異常終了が発行されます。有効な項目値は、0、4、8、および 12 です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名、レジスター 7 は INDEX DBD 名、レジスター 5 は INDEXED DBD 名をそれぞれ指しています。該当する PSB または DBD (あるいは両方) を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0931I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0932

説明

INDEX DBD には、索引セグメント用に定義されたシーケンス・フィールドがありません。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0932I に、DBD が示されています。

分析

0932 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR932 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR932 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0932I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
FDBDCENF== X'10' FDBDCENF=X'80' Reg1= 索引 PSDB Reg5= 索引 2 次リスト	FDBN XT	このルーチンが、索引 2 次リスト項目および FDB を見つけました。ルーチンは、X'10' のフィールド FDBDCENF をテストして、項目がシーケンス・フィールド内にあるかどうかを確認します。ない場合、最終 FDB であるかどうかを確認するために、FDBDCENF の X'80' がテストされます。最終項目である場合、シーケンス・フィールドが指定されていないために、異常終了が発行されます。
Reg5=タイプ X'60' の 2 次リスト項目 Reg15=索引キーの FDB	SETN DXB	タイプ X'60' の 2 次リスト項目の処理中に、索引フィールドでキーを検出することができず、異常終了が発行されました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0932I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0933

説明

PSB に、無効な INDICES オペランドが含まれていました。INDICES オペランドで指定された値が、関連する SENSEG ステートメントの有効な索引名ではありません

んでした。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0933I に、PSB が示されています。

分析

0933 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、索引データベースの PSB 名と DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR933 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR933 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS932I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg7=索引付き PSDB	RELOCJ A	INDICES= を使用して参照される索引の索引テーブル項目が検出されました。参照している SENSEG の PSDB アドレスが対応する SEG TAB 項目から取得されましたが、索引付き PSDB に一致しませんでした。
Reg4=X'04' FDBDCENF=X'80' Reg6=FDB Reg6=SDB Reg8=FDB	RELOC G	索引付き PSDB からの FDB がレジスター 8 にロードされます。FDB は、代替シーケンス・フィールド (FDBXDFLG=X'10') についてスキャンされます。これが最終 FDB であるかどうかを確認するために、テストが行われます。FDBDCENF=X'80' (最終 FDB) が、PSB 上に無効な INDICES オペランドが存在していることを示しており、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指し、レジスター 7 は INDICES=value を指しています。エラーのある PSB または DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

DFS0933I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0934

説明

PSB が、指定された DBD の指定された論理子 SEGM を参照しました。論理子には、物理的に保管される論理親の連結キーが必要ですが、VIRTUAL が指定されていたか、または指定された DBD 内で LP セグメントを見つかることができませんでした。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS0934I に、PSB が示されています。

分析

0934 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 7 は、それぞれ、PSB 名と DBD 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR934 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR934 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0934I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SD B SDBTFLG =>X'20' SDBORGN ≤X'08' Reg15=論 理親 SDB	SUMSP NA	このルーチンは、セグメントの論理親を検査します。論理親は、HISAM データベースに入っています。論理親の連結キーは、物理的に保管されません。編成は HISAM であるため、これはエラーで、異常終了が発行されません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PSB 名、レジスター 6 はセグメント名、レジスター 7 は DBD 名をそれぞれ指しています。該当する DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[DFS0934I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0935

説明

指定された PSB が、SENSEG ステートメントを介して、指定された DBD を参照しています。しかし、このセグメント定義内の論理構造または論理関係が無効です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0935I が発行されます。

分析

0935 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 7、レジスター 6、およびレジスター 5 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR935 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR935 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0935I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB SDBPOSN +1=X'01', SDBLEVEL=X' 01'	CHKVIRRT	このルーチンは、現行の SDB の親子関係を判別し、論理構造を検証します。現行の SDB は論理子で、ルート・セグメントです。この構造は無効であり、異常終了が発行されません。
Reg1=DMB SECLIST, Reg6=SDB, DMBSECDB=- SDBDDIR	SETPRNTB	このルーチンは、論理親の 2 次リスト項目を検査します。このルーチンが、X'02' タイプの 2 次リストを検出することができなかったため、異常終了が発行されます。
Reg6=SDB, SDBLEVEL=X' 01', SDBPHYCD=- X'01', SDBF4=-X'40'	PSRNTSTQ	レジスター 6 にある SDB の SDB 親子関係を調べています。セグメントの論理レベルはルートですが、これは物理ルートではなく、また代替処理シーケンスがありません。PCB がルート・セグメント定義で始まっていないため、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg1= 親 SDB Reg6=SDB	PARNTSTC	このルーチンは、親 SDB (Reg1) と、そのターゲット SDB を見つけます。ルーチンは、現行の SDB および親のターゲット SDB が同一のデータベースにあることを判別し、ターゲットの PSDB (Reg14) を取得します。セグメント・コードの比較によって、SDB および親のターゲット SDB が同一のセグメントを記述しているということが判明しました。これは無効な構造で、異常終了が発行されます。
Reg1= 親 SDB, SDBTFLG=-X' 80', Reg6=SDB	PARNTSTI	このルーチンに入るのは、親 SDB が論理親を持っていないか、反転構造を持っているか、または、そのターゲットが現行の SDB (Reg6) として同一のデータベースにないためです。親 SDB の PSDB が獲得されます。現行 SDB (Reg6) は、親 SDB (REG1) の物理親です。構造の反転を示す指示はありません。これは無効な構造で、異常終了が発行されます。
DMBSCDE=X'8 0'	SUMPSPCD	現行セグメントは論理子です。この 2 次リストが、論理親についてスキャンされます。これが最後の SEC LIST 項目であるかどうかを確認するために、テストが行われます。最後の項目である場合、無効な構造が存在し、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 7 は PSB 名、レジスター 6 はセグメント名、レジスター 5 は DBD 名をそれぞれ指しています。指定された DBD、または PSB によって参照される論理 DBD を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0935I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0936

説明

SEGM が、名前付き PSB 内で PROCOPT に L または LS を使用して参照されました。しかし、SEGM は仮想セグメントであり、そのためロードできません。SEGM の識別については、この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0936I を参照してください。

分析

0936 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、無効なセグメントの名前と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR936 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR936 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS936I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB SDBTFLG=X'08 '	NOTER9 30	このルーチンは、セグメントがソース項目を持っており、物理 DBD 内にある(そのため仮想セグメントとなっている)こと、および呼び出しのセンシティブティー (SDBFB3) が LOAD 用であることを判別しました。仮想セグメントをロードすることはできないため、異常終了が発行されます。
SDBF3=X'01' Reg10=SEGTA B DBDSSOFF=X 'FF'		

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は無効なセグメントの名前を指し、レジスター 6 は PSB 名を指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0937

説明

指定された DBD が、指定されたセグメントを仮想セグメントとして指定しました。SEGM ステートメントの SOURCE パラメーターに、複数のオペランドが含まれています。おそらく、SOURCE オペランドの一对の括弧が欠落していることが原因です。この異常終了の前に、メッセージ DFS0937I が発行されます。

分析

0937 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR937 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR937 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0937I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg0=0 DDIRADRC=X'02'	BLDSD BEB	このルーチンは、仮想セグメントのソースが複数の項目を持つ物理データベースに存在していることを判別しました (レジスター 0=ソース・セグメント数)。仮想セグメントは 1 つのソースしか持つことができないため、異常終了が発行されます。

考えられる原因: SOURCE オペランドの括弧の対の欠落

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はセグメント名を指し、レジスター 5 は DBD 名を指しています。DBD ソース・セグメントを訂正してから、DBDGEN を再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

DFS0937I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0938

説明

指定された PSB 内のデータベース PCB には、PSBGEN 時に SENSEG ステートメントが定義されていませんでした。PSBGEN は無効でした。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0945I に、PCB が示されています。

分析

0938 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、PCB 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR938 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR938 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS945I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=0、 Reg8=PCB アドレス	SGNOT PLI	SENSEG の数を数えて、この PSB に必要な SDB の数を計算するために、PCB をスキャンしています。このルーチンが SENSEG を持たない PCB を検出したため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 5 は PSB 名を指し、レジスター 6 は PCB 名を指しています。PSB ソース・ステートメントを訂正してから、PSBGEN を再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

DFS0945I

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0939

説明

INDEX DBD に含まれている INDEX= オペランドで、先頭の 3 文字が /CK であるフィールド名が指定されました。この異常終了の前に発行されたメッセージ DFS0946I に、DBD が示されています。

分析

0939 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0946I および DFS0939I が出力されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR939 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR939 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0946I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=FDB アドレス、 FDBSYSNM=C'/'、 FDBDCENF=X'10'、 Reg14= 索引付き SEC LIST のアドレス	EPSILOMK	索引 2 次リスト項目および FDB が獲得されました。この FDB は、特殊な FDB (システム関連または索引付き) です。FDBSYSNM は、システム関連フィールドを示す C'/' について検査されます。該当フィールドが存在していれば、無効な索引であるため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、エラーのあった DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[DFS0939I](#)

[DFS0946I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0941

説明

DBD 内のセグメントが、物理対の論理子であり、しかも可変長でした。対の相手は固定長でした。物理対セグメントは、同じ長さ属性を持っていないければなりません。

分析

0941 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って発行されるメッセージ DFS0948I に、セグメントおよび DBD が示されています。

異常終了 SVRB のレジスターおよび DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されたレジスターを、問題診断に使用できます。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、セグメント名と DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR941 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。異常終了コードは、レジスター 1 にロードされます。レジスター 14 は、ERROR941 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS948I が発行され、PSTSTAT が X'16' の戻りコードに設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

上記の唯一の例外は、最初のインスタンス (ラベル UPISRTK) の場合です。この場合、DFSDLBLO (SUMSPDX) は、セグメント・タイプによる意図に基づいてエンキュー・リストを作成するために、意図伝搬ルーチン (DFSDLBA0 エントリー・ポイント INTPROP) への BAL を実行します。セグメントの更新意図が設定され、その論理親および物理対に伝搬されます。論理親の PSDB を処理した後で、物理対が確実に同一の長さ属性を持つようにするため、テストが行われます。同一の長さでない場合、エラーが発生し、INTRET12 および INTRET への分岐が行われます。ここで、ハウスキーピングが実行され、レジスター 15 に戻りコード X'0C' が設定されます。INTRET は、戻りコードと共に DFSDLBLO に戻ります。そこで ERROR941 への分岐が行われ、前に述べた制御が続行されます。

ルーチン INTPROP は、その呼び出し元のレジスター (レジスター 14 からレジスター 12) をレジスター 13 に X'C' を加えた位置に保管します。

キー	ラベル	説明
Reg8=セグメントの PSDB アドレス UPISRTK DMBVLDFG=X'C' Reg15=物理対の PSDB アドレス DMBVLDFG=X'C'	UPISRTK	セグメントの論理親 PSDB が処理されました。セグメントの物理対が存在していることが判別しました。物理対の 2 次リストが探索されます。セグメントに圧縮ルーチンがあるか、またはセグメントに可変長 (DMBVLDFG=X'C') が含まれているかどうかを確認するために、テストが行われます。含まれている場合、物理対の PSDB が取得され、この PSDB に圧縮ルーチンまたは可変長 (DMBVLDFG=X'C') があるかどうかを確認するテストが行われます。物理対にこれらの属性のいずれかが無いと、異常終了が発行されます。
Reg3=PSDB アドレス Reg15=物理対の PSDB アドレス DMBVLDFG=X'04'	CLRDDI R6	DDIR のクリーンアップと有効な論理関係の検査を実行中です。このルーチンが、可変長論理子であるセグメントを検出しました。ただし、これには、可変長でない物理対があったため、異常終了が発行されます。
Reg3=PSDB アドレス Reg15=物理対の PSDB アドレス DMBVLDFG=X'04'	CLRDDI RA	このルーチンが、可変長論理子でないセグメントを検出しました。ただし、これには、可変長でない物理対があったため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 はセグメント名を指し、レジスター 7 は DBD 名を指しています。エラーのある DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0948I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0942

説明

INDEX DBD に含まれている LCHILD ステートメントに、この索引データベースと同じデータベース名の索引付きデータベースが含まれていました。

分析

0942 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って発行されるメッセージ DFS0949II に、DBD が示されています。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR942 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR942 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0949I が発行され、PSTSTAT が X'16' の戻りコードに設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=DBD の DDIR 参照 DDIRADDR -=X'04' Reg1+X'8' =Reg4 +X'8' Reg4= 索引 DBD DDIR アド レス NTNDXB Reg15= デ ータベース ref 表アド レス	NTNDX B	ロードされた索引 DBD が、参照された DBD についてスキャンされ、新規の DDIR が処理用にチェーニングされます。索引 DBD が確実にそれ自体を参照しないようにするために、参照された DBD の DDIR を処理する前に、ロードされた索引 DBD の名前が、参照された DBD の名前と比較されます。自己参照がある場合、異常終了が発行されません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は DBD 名を指しています。DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0949I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0943

説明

無効な論理関係が検出されました。次のいずれかの条件が検出されました。

- 論理子が、指定されたデータベース内の指定されたセグメントを参照しているが、指定された論理親には LCHILD ステートメントがない。
- 論理親が、指定されたデータベース内の論理子セグメントを参照しているが、論理子には論理親への参照がない。
- 論理 DBD には、指定されたセグメントへの参照が SOURCE= オペランドになく、このオペランドではその対応する論理子または論理親を参照しています。

分析

0943 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0950I が出力されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 7 およびレジスター 8 は、それぞれ、DBD 名と参照されるセグメント名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR943 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR943 への分岐の後に続く命令を指します。RETURN へ分岐する前に、ハウスキーピングの目的で各種サブルーチンへ分岐が行われます。ここでメッセージ DFS0950I が発行され、PSTSTAT が戻りコード X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=reg データベースの DDIR アドレス、OR DMBSCs=ref セグメントのセグメント・コード Reg8=SEC LIST 項目アドレス Reg15=DMB	CLRDDI R3	DDIR のクリーンアップと有効な論理関係の検査を実行中です。セグメントは、論理子または論理親のいずれかで、その関連の 2 次リストが獲得されました。セグメントの DDIR と関連の SEC LIST 項目の DDIR が比較されます。それらが同等の場合は、セグメント・コードが比較されます。それらが同等でなく、また、リストの終わりに達した場合、エラーが発生します。セグメント・コードが同等でなく、SEC LIST の終わりに達した場合も、エラーが発生します。いずれの状態の場合も、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 7 は DBD 名を指し、レジスター 8 は参照されたセグメント名を指しています。DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[DFS0950I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0944

説明

メッセージ ID が、メッセージ・テキスト・モジュール (DFSUMGT0) 内で見つかりません。

分析

0944 は、モジュール DFSUMSG0 または DFSDMSG0 のいずれかから発行される標準異常終了です。メッセージ番号が指定されている場合、モジュールは、メッセージ・リストからメッセージを選択し、DFSUMSG0 の場合は SYSPRINT データ・セット、DFSDMSG0 の場合は WTO を使用する JCL データ・セットに、そのメッセージを送信します。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内のラベル TBLEND を指しています。

レジスター 13 で指示される保管域のレジスター 1 には、UERR マクロでセットアップされたパラメーター・リストへのポインターが入っています。パラメーター・リストのフォーマットは以下のとおりです。

ハーフワード

2 進数のメッセージ ID

ハーフワード

H'0' は、メッセージに何も挿入しないことを示します。

H'-1' は、指定した挿入アドレス (ある場合) を挿入することを示します。

レジスター 4 には、レジスター 9 で指示される ID テーブル項目からのメッセージ ID が入っています。レジスター 9 がテーブルの終わりを指している場合、これには X'FFFF' が入ります。

キー	ラベル	説明
Reg2=パラメーター・リストからのメッセージ ID Reg3=パラメーター・リストからの第 2 ハーフワード Reg4=X'FFFF'	TESTID	パラメーター・リストの ID の ID テーブルを検索する場合は、レジスター 9 がテーブルの中の連続項目を指し、レジスター 4 にはテーブルから (レジスター 9 から) ID がロードされます。レジスター 4 は、最後のテーブル項目かどうかをテストするために、X'FFFF' と比較されます。これがテーブルの最後 (レジスター 4=X'FFFF') である場合は、UERR パラメーター・リストで渡されるメッセージ ID がテーブル内で検出されなかったために、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ・テキスト・モジュール (DFSUMGT0) に対して、無効な修正が行われなかったかどうかを確認します。

問題判別:

1、2、3、4、8、9、12、13、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDMSG0、DFSUMSG0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0945

説明

メッセージ・フォーマッターは挿入を渡されると予想していましたが、UERR マクロを介して何も渡されなかったか、または、誤った数のパラメーターが、メッセージ・フォーマッター (モジュール DFSUMSG0) に渡されました。

分析

0945 は、モジュール DFSUMSG0 または DFSDMSG0 のいずれかから発行される標準異常終了です。メッセージ番号が指定されている場合、モジュールは、メッセージ・リストからメッセージを選択し、DFSUMSG0 の場合は SYSPRINT データ・セット、DFSDMSG0 の場合は WTO を使用する JCL データ・セットに、そのメッセージを送信します。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内のラベル TBLEND を指しています。

レジスター 13 で指示される保管域のレジスター 1 には、UERR マクロでセットアップされたパラメーター・リストへのポインターが入っています。パラメーター・リストのフォーマットは以下のとおりです。

ハーフワード

2 進数のメッセージ ID

ハーフワード

H'0' は、メッセージに何も挿入しないことを示します。

H'-1' は、指定した挿入アドレス (ある場合) を挿入することを示します。

キー	ラベル	説明
Reg2=UERR パラメーター・リストからのメッセージ ID Reg3=UERR パラメーター・リスト (=F'0') からの挿入標識 Reg7=メッセージ・バッファ内のテキスト・テーブル項目のアドレス Reg7 + 0 = X'FF'	IDEQ U	UERR パラメーター・リストからの要求メッセージ ID (レジスター 2 内の) が、メッセージ ID テーブルで検出されました。対応するメッセージ・テキスト・テーブル項目がメッセージ・バッファに移動され、レジスター 7 で指示されます。レジスター 7 + 0 は、挿入タイプ・メッセージを示す X'FF' であり、挿入変数が UERR 呼び出しで指定されたかどうかを確認するために、レジスター 3 がテストされません。指定されていない場合 (レジスター 3 = X'FFFF')、挿入が少なくとも 1 つは予約されていたが、UERR マクロ命令にコーディングされていなかったことを示す異常終了が発行されます。
Reg1= ERR パラメーター・リストからのメッセージ ID Reg3= テキスト・テーブル項目 (X'FF') に挿入す	GETM SG	レジスター 7 で指示されるメッセージ・テキストに、少なくとも 1 つの挿入変数が移動されました。レジスター 3 は、フォーマット・リストの終わりではなく、次の挿入変数のオフセットを指しています。これは、レジスター 3 + 0 が X'FF' と同等でないためです。UERR マクロ命令で別の挿入変数が指定されたかどうかを確認するために、レジスター 1 + 0 が

キー	ラベル	説明
る テキストのフォーマット・バイト Reg7=メッセージ・バッファ内のテキスト・テーブル項目のアドレス Reg1 + 0 = X'FFFF'		X'FFFF' と比較されます。指定されていない場合 (レジスター 1 + 0 = X'FFFF')、UERR 呼び出しで指定された挿入変数が少なすぎることを示す異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ・テキスト・モジュール (DFSUMGT0) に対して、無効なプログラム修正が行われなかったかどうかを確認します。

問題判別:

1、2、3、4、9、12、13、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDMSG0、DFSUMSG0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0947

説明

無効な 2 次リスト・コードが、データ管理ブロックで見つかりました。この問題は、IMS システム・エラーです。

分析

0947 は、モジュール DFSUAMB0 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0570I およびメッセージ DFS0951I が出力されます。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了は、ラベル INVSEC の異常終了ルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベルを指しています。

キー	ラベル	説明
Reg5=処理中のDDIR項目 Reg6=DMB Reg7=PSDB Reg8=無効なコード Reg10=PST DMBSCDE=CODETAB	NXSE CL	このセクションのコードは、DMB アドレスを DMB の先頭からのオフセットに再配置します。2 次リストが取得されます。コードをブランチ・テーブル索引に変更するために、DMB コード・バイト (DMBSCDE) に対して TRANSLATE AND TEST 命令を実行します。無効なコードがある場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 8 は無効なコード、レジスター 5 は処理中の DDIR 項目、レジスター 7 は処理中の PSB をそれぞれ指しています。

問題判別:

1、2、3、4、9、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSUAMBO

関連情報

[DFS0951I](#)

[DFS0570I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0948

説明

SYSPRINT データ・セットで、永続入出力エラーが発生しました。

分析

0948 は、SYSPRINT データ・セットへの PUT の実行中に入出力エラーが発生したためにモジュール DFSUACB0 から発行される異常終了で、IOS によって SYNAD 出口ルーチン IOERRORQ 経由で呼び出されません。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。レジスター 14 BAL (分岐リンク) を使用して、どのラベルから PUT が発行されたかを判別することができます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、IOERRORQ 内にある異常終了ルーチン (ABENDQ) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg2=SYSPRI NT DCB Reg14=BAL	PM0	ルーチン GETT が、メッセージ印刷ルーチン (PRTMSG) への BAL を実行しました。ページ・ヘッダーを印刷するために、SYSPRINT データ・セットに対する PUT が発行されました。
Reg2=SYSPRI NT DCB Reg14=BAL	PM11	ルーチン GETT が、メッセージ印刷ルーチン (PRTMSG) への BAL を実行しました。要求された行を印刷するために、SYSPRINT データ・セットに対する PUT が発行されました。



重要: DFSUMSGO (ACBGEN エラー・メッセージ・フォーマッター) は、エラー・メッセージを印刷する PRTMSG ルーチンも呼び出します。

考えられる原因: ハードウェア・エラー。LOGREC を調べて、エラーの原因となった装置およびエラーの理由を判別してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

LOGREC を調べて原因を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4、9、23、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSUACB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0949

説明

SYSPRINT データ・セットをオープンできませんでした。

分析

0949 は、モジュール DFSUACB0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW)

が、ラベル ABEND にある共通異常終了ルーチンを指しています。

エラーが検出された最初のインスタンス (ラベル CMPR3) では、SYSPRINT DCB は、インライン・コードです。

キー	ラベル	説明
DCBOFLGS =X'10'	CMPR 3	IEBCOPY へのリンクによって、ACBLIB でインプレース圧縮を実行中です。SYSPRINT DCB が再オープンされます。DCB がオープンされない場合は、異常終了が発行されます。
Reg4=DCB DCBOFLGS =X'10'	OPENE RR	このルーチンは、開かれなかった DCB ごとにエラー・メッセージを書き込みます。DCB が開かれない場合は、DCB が SYSPRINT 用かどうかを確認するために、比較が行われます。この用途の場合、エラー・メッセージを書き込むことができないため、異常終了が発行されます。

考えられる原因: JCL 内の無効な SYSPRINT DD ステートメント

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

SYSPRINT 用に有効な DD ステートメントが JCL に含まれているかどうかを確認し、ジョブを再実行します。

問題判別:

1、2、3、4、9、23、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSUACB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0950

説明

作業データ・セット生成プログラム (DFSDSEH0) が、制御データ・セットを読み取ろうとしました。データ・セットが正常に開けませんでした。あるいは、開けた場合に、データがなかったか、エラー・データが含まれていたか、データの全ブロックを読み取れなかったか、いずれかです。

分析

この異常終了は、モジュール DFSDSEH0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラ

ム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスター 14 BAL を使用して、エラーが検出されたラベルを判別する必要があります。

制御データ・セットの DCB は、インライン・コード (CDSDCB) です。CDSDCB に X'30' を加えたものに、DCB オープン・エラー・フラグ (DCBOFLGS) が入っています。

キー	ラベル	説明
DCBOFLGS= =X'10'	TEST #@LB 18	このルーチンは、制御データ・セット内での読み取りの準備として、CDS DCB に対する OPEN を発行します。DCBOFLGS がオープン・エラーに関してテストされます。エラーがある場合は、異常終了が発行されます。
Reg3=読み 取り領域 アドレス Reg14=BAL DCBOFLGS= =X'10'	TEST #@LB 20	データの新規ブロックが読み取られ、元のブロックが解放されました。CDS DCB が閉じられ、入力用に再度 CDS DCB に対して OPEN が発行されました。DCBOFLGS がオープン・エラーに関してテストされます。エラーがある場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=block count (読み取られ る ブロック数) Reg3= 読み取られ る 次のブロッ ク Reg14=BAL (ブロック単 位で読み取 る ための GET ルーチン)	CDSEO F (#@LB 22) #@LB 30	すべてのブロックが読み取られたかどうかを確認するために、レジスター 2 がテストされます。レジスター 2 がゼロでない場合は、異常終了が発行されます。
Reg2=0 Reg3=CDSH D (CDS 読み取 り 領域ポイン ター) Reg14=BAL	CDSEO F	レジスター 3 に、CDS の最初のブロックを指すポインターがロードされます。すべてのブロックが読み取られた (レジスター 2=0) が、レジスター 3=X'00' の場合は、CDS が空であるため異常終了が発行されます。
Reg3=CDSH D (CDS 読み取 り 領域ポイン ター) Reg3=X'04' C "control data set" Reg14=BAL	CDSEO F (#@LB 22) #@LB 34	データの最初のブロックが読み取られました。control data set 内の文字について検査が行われます。文字が存在しない場合は、CDS は無効となり、異常終了が発行されます。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

制御データ・セットは、DFSURCDS という名前の DD ステートメントで指定する必要があります。また、制御データ・セットは、データベース事前再編成ユーティリティー (DFSURPRO) を使用して生成する必要があります。

問題判別:

1、2、3、4、17d、18、19、および DFSURCDS データ・セットの印刷出力

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDSEH0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 21 章 IMS 異常終了コード 0951 - 1000

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

0951

説明

作業データ・セット生成ユーティリティー (DFSDSEHO) が動的限度検査を実行していましたが、限度検査が失敗しました。データベースの再編成の前に、限度検査障害が発生したセグメントを示す診断メッセージが発行されます。

分析

0951 は、モジュール DFSDSEHO から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用することができます。

レジスター 11 に、DCB のアドレスが入っています。DCB に X'52' を加えたものが、論理レコード長 (LRECL) です。レジスター 15 には、最大ソート・レコード長 (X'C8') が入っています。

キー	ラベル	説明
Reg4=レコードの CK の長さ	GS #@LB18 5	検査中のレコードの連結キー (レジスター 4) が、レジスター 15 の最大レコード長と比較されます。レジスター 4 の値がレジスター 15 の値を超えている場合は、限度検査障害が発生し、異常終了が発行されません。

システムの処置:

ユーティリティーは異常終了します。

プログラマーの応答

データベース事前再編成ユーティリティー (DFSURPRO) の実行中に、限度検査障害が発生したセグメントを示す診断メッセージが提供されています。これらのメッセージを使用して、適切なアクションを取ってください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDSEHO

0952

説明:

作業データ・セット生成プログラム (DFSDSEHO) が、作業データ・セットを開こうとしましたが、失敗しました。作業データ・セットは、DFSURWF1 という名前の DD ステートメントで指定する必要があります。

分析

0952 は、モジュール DFSURWF1 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用する必要があります。

レジスター 11 には、DFSURWF1 作業ファイル DCB のアドレスが入っています。オープン・エラー・フラグ (DCBOFLGS) は、レジスター 11 に X'30' を加えた位置にあります。異常終了時のその他のレジスター: レジスター 10=PST、レジスター 9=PCB、レジスター 7=SDB、レジスター 6=PSDB。

キー	ラベル	説明
DCBOFLGS =>X'10'	RNDX	作業ファイル・データ・セットが開かれな いため、OPEN が発行されます。DCBOFLGS がオープン・エラーに関してテストされま す。DFSURWF1 の DCB を開けない場合、異 常終了が発行されます。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

初期データベース・ロード時、データベース再ロード時、およびデータベース・スキャン時に、影響を受けるデータベースに論理関係にあるセグメントを含んでいる場合、この DD ステートメントが常に必要です。

問題判別:

4、8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDSEHO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0953

説明

作業データ・セット生成プログラム (DFSDSEHO) が、論理関係にあるセグメントに対応する DL/I 制御ブロックを探そうとしました。DL/I 制御ブロックが見つかりませんでした。

分析

0953 は、モジュール DFSDSEH0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用する必要があります。

レジスター 7 に SDB のアドレスが入っています。レジスター 3 に DMBSEC (DMB 2 次リスト) のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=DMB SEC DMBSND=X '01'	#@LB8 0	DFSDSEH0 は、論理子セグメントについて記述してある DMB 2 次リストを検索します。これは、最後のリストがチェックされるまで (DMBSND 内のバイト 1 のビット 0 まで) ループします。これが終点に達したため、ルーチンが DL/I 制御ブロックが検出できなかったと判定し、異常終了が発行されます。

考えられる原因: DBDGEN エラー。初期ロード、再ロード、またはスキャンするデータベースについて、有効な DBD が使用可能かどうかを調べます。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

初期ロード、再ロード、またはスキャンするデータベースについて、有効な DBD が使用可能かどうかを調べます。

問題判別:

1、2、3、4、17d、および 20。DFSURWF1 データ・セットの印刷出力、および DFSURCDS の印刷出力

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDSEH0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0955

説明

この異常終了コードは、SYSIN 入力ストリームに異常終了制御ステートメントが指定されたときに、モジュール DFSURGP0、DFSURGS0、および DFSURG10 によって発行されます。

分析

この異常終了は、モジュール DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、または DFSURPR0 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

この異常終了は、プログラム実行の終了時に発行されます。

オペレーターの応答

異常終了ステートメントが入力側に提供された理由を判別し、適切なアクションを取ってください。

問題判別:

1、2、3、4、17d、および 20。DFSURWF1 の印刷出力または DFSURWF3 の印刷出力 (あるいは両方)

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、DFSURPR0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0956

説明

作業データ・セット生成プログラムは、論理関係を構築する作業テープを作成するために、HDAM 初期ロード、再ロード、またはスキャンによって呼び出されます。論理関係の解決を試みているときに、ゼロバイトの長さの連結キーを持つ論理親セグメントを検出しました。

分析

0956 は、モジュール DFSDSEH0 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) および異常終了 SVRB のレジスターを問題診断に使用する必要があります。

レジスター 9 に PCB のアドレスが入っています。

DBPCB は、論理親の連結キーの長さを計算するために使用されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=DBPC BLKY Reg4=CENT Reg8=PSDB Reg9=PCB Reg10=PST	LPLC #@LB6 2	このルーチンは、論理親の連結キーを、関係を解決するために使用する必要があるかどうかを判別します。レジスター 2 が、論理親の連結キーの長さについてテストされます。レジスター 2=0 の場合は、異常終了が発行されます。

考えられる原因:: DBDGEN のエラーです。論理子セグメントがルート・セグメントとして定義されていたか、またはシーケンス・フィールドがルート・セグメント上に定義されていませんでした。これを指定するには、NAME=(xx, seq, u) の代わりに NAME=xx を指定する必要があります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

フィールド定義を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

1、2、3、4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDSEH0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0957

説明

セグメントは物理対になっています。2つの交差データ長が等しくないか(固定長セグメントの場合)、または2つの対セグメントについて最大交差データ長が等しくありません。メッセージ DFS0951I は、セグメントを識別します。

分析

0957 は、複数の CSECT モジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴い、メッセージ DFS0951I が発行されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB レジスターでは、レジスター 6 は参照されるセグメント名を指しています。レジスター 2 およびレジスター 4 には、計算後の 2つのデータ長が入っています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERR957 に分岐します。これが、DFSDLBLO を基本として復元し、ERROR957 に分岐します。ここで、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0951I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定

されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2= 物理対のデータ長 Reg3= 物理対の PSDB Reg4= セグメントのデータ長 Reg15= セグメントの DMB	CLRDDI R6	DDIR のクリーンアップと有効な論理関係の検査を実行中です。参照されるセグメントのデータ長は、レジスター 4 にロードされます。セグメントには物理対があり、そのデータ長はレジスター 2 にロードされます。対セグメントのデータ長は等しくなければならないため、2つのレジスターの比較結果が等しくない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は、参照されたセグメント名を指しています。レジスター 2 およびレジスター 4 には、計算後の 2つのデータ長が入っています。DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0951I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0958

説明

PSB が、1 次索引 DBD を参照できません。この異常終了に伴うメッセージ DFS0952I が、DBD を特定しました。

分析

0958 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR958 に分岐します。そこで、レジスター 0

からレジスタ 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS952I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=SEC LIST アドレス DMBXDFLGSVRB を 問題診断 X'10' に使用する必要 があります。 Reg6=SDB アドレ ス Reg7=PSDB	SUMSP AC	PCB を処理中です。データベースは索引 1 です。「G」以外のすべての PROCOPT について、フィールド SDBF3 がテストされます。更新が指定されているため、データベースが副次索引であるかどうかを確認するためのテストが行われます。副次索引でない場合は、エラーが発生します。1 次 HIDAM 索引で使用できるのは読み取り処理オプションのみであるため、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

1 次索引が処理されないように PSB を変更してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

3、4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0952I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0959

説明

メッセージ DFS0953I で示されるデータベースの論理子の SEGM ステートメントにエラーがあります。HISAM 編成のデータベースに対して、直接ポインターを指定することはできません。PTR=LP は不適切な指定であり、PTR= のみを指定する必要があります。

分析

0959 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスタを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスタ 5 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR959 に分岐します。これにより、レジスタ 0 からレジスタ 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0953I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg3=PSDB アドレス DMBPTR=X'02' DMBLORG=X'04' Reg8=SEC LIST 項目 Reg10=SEC LIST 項目	CLRDDIR4	論理関係の妥当性検査を実行中です。論理子セグメントの 2 次リストが取得されました。このセグメントには論理親ポインターがあります。論理親は、HISAM に入っています。HISAM では直接ポインターは使用できないため、異常終了が発行されません。

システムの処置

DL/I の下で実行している場合、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答

論理子の SEGM ステートメントを訂正して、LP 指定を除去します。代わりに、PTR= のみを指定して、DBD を再アセンブルします。ジョブを再実行してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0953I](#)

0960

説明

メッセージ DFS0954I で示されるデータベースの LCHILD ステートメントにエラーがあります。PTR=SNGL と PTR=DBLE のいずれかを指定しています。これはどちらを指定しても誤りです。HISAM 編成のデータベースに対して、直接ポインターを指定することはできません。

分析

0960 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS954I が出力されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスタを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスタ 5 は、エラーのあった DBD 名を指しています。異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR960 に分岐します。これにより、レジスタ 0 からレジスタ 15 がラベル

ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS954I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg3=PSDB アドレス DMBSLCLFSVRB を問題 diagnosis0 に使用する 必要があります。 DMBLORG=X'04' Reg15=DMB アドレス	CLRDDIRC	論理関係の妥当性検査を実行中です。論理子ステートメントには、論理子順方向ポインターが指定されています。論理子セグメントは、HISAM データベースに入っています。HISAM では直接ポインターは使用できないため、異常終了が発行されます。

システムの処置

DL/I の下で実行している場合、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答

LCHILD ステートメントを訂正し、DBD を再アセンブルしてから、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0954I](#)

0961

説明

共用索引を指す DBD の XDFLD ステートメントにエラーがあります (メッセージ DFS0955I を参照)。同じ値を持つ XDFLD 定数を複数指定しています。共用索引に関する各 XDFLD ステートメントは、固有の CONST= 指定が必要です。

分析

0961 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS0955I が出力されます。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、エラーのあった DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR960 に分岐します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メ

ッセージ DFS0955I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DMBXD PAD Reg5=PSDB アドレス Reg6=SEC LIST の アドレス Reg8=FDB ア ドレス	CKCONS TB	このルーチンは、共用索引と共に作動しています。ルーチンは、定数を指定している XDFLD を確認するために、レジスター 2 で指示される定数値のテーブルに照らして、PSDB (先頭の PSDB 以外) を調べます。定数値は固有でなければならないため、レジスター 2 に示されているものと同一の定数値を持つ PSDB が検出された場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

DL/I の下で実行している場合、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答

エラーのある XDFLD ステートメントを訂正し、DBD を再アセンブルしてから、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS0955I](#)

0962

説明

示された PSB 内の SENSEG ステートメントが、階層シーケンス (上から下、左から右) で指定されていませんでした。詳しくは、この異常終了に伴うメッセージ DFS0956I を参照してください。

分析

0962 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、PSB 名とセグメント名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、サブルーチンはラベル ERROR962 に分岐します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS0956I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg7=親 SDB SDBFCSD=0 Reg10=親 SDBから 現行SDBへ の変位	SKIPAND	インライン SDB を作成中です。現行 SDB は、その親の第 1 子であると判別されました。セグメントの第 1 子は階層シーケンスの直後に続くため、これらの 2 つの SDB は隣接していなければなりません。隣接していない場合、階層シーケンス・エラーになり、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

SENSEG ステートメントの順序を訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDBLLO
[関連情報](#)
[DFS0956I](#)

0963

説明

バックアウトで、チェックポイント制御データ・セット (SYSIN) をオープンできなかったか、または DEVTYPE マクロが失敗しました。

分析

0963 は、モジュール DFSBACK0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 12 は基底レジスターです。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、ラベル ABSYSIN の共通異常終了ルーチンを指しています。

DFSBACK0 は、データベース・バックアウト・モジュール DFSRDBC0 への入力として使用するログを処理します。チェックポイント ID の SYSIN 入力を停止点としてチェックするために、DEVTYPE マクロが発行されます。レジスター 15 に、DEVTYPE からの戻りコードが入っています。

コード
説明

X'04'
DD 名が見つかりませんでした。

X'08'

無効な領域アドレスです。出力域のアドレスが、保護違反になっているか、仮想ストレージの範囲外にあります。

モジュールの通常のレジスター使用法: レジスター 7=PDIR、レジスター 9=SCD、レジスター 10=PSB、レジスター 11=PST

キー	ラベル	説明
Reg15>X'04'	DLITCB L	チェックポイント・データ・セットの存在を検証するために、DEVTYPE (SVC 24) マクロが発行されます。ゼロ以外の戻りコードが X'04' より大きい場合は、エラーになり、異常終了が発行されます。
CHKPDCB=DCB DCBOFLGSSVRB	DLITDB L	OPEN (SVC19) マクロが、チェックポイント SYSIN データ・セットに対して発行されます。DCB はモジュールの内部にあり、ラベル CHKPDCB で見つかります。OPEN が失敗した場合は、DCBOFLGSSVRB が問題診断 X'10' に使用され、異常終了が発行されます。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

SYSIN DD ステートメントまたはデータ・セット (あるいは両方) を訂正してから、バックアウトを再実行します。

問題判別:
2、4

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSBACK0
[関連情報](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0965

説明

再編成または初期ロードされるデータベース内のセグメントに関連する DL/I 制御ブロックに不整合があります。論理的に関連したデータベースの制御ブロックが、不完全かまたはエラーです。この問題は、IMS システム・エラーか、または論理関係の定義が不適切です。

分析

これは、モジュール DFSURPRO によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

IMS ユーティリティ事前再編成モジュール (DFSURPRO) は、異常終了します。

プログラマーの応答

論理的に関連したすべての DBD が、正確で使用可能であるかどうかを検査します。

問題判別:

2、8、11、18、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSURPRO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0966

説明

PCB の PROCOPT で H が指定されていますが、DBD は DEDB ではありません。PROCOPT H は DEDB の場合のみ有効です。この異常終了の前にメッセージ DFS964I が発行され、そこに PCB の名前が含まれています。

分析

0966 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 6 およびレジスター 7 は、それぞれ、PCB 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR966 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR967 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS964I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg1=アドレス 'H' または Reg3=アドレス "H"	HMCHK1 HCHK1	これらのルーチンは、非 DEDB DBD の PROCOPT を検査します。PBPCBPRO 内の文字が「H」かどうかをチェックされます。「H」の文字が見つかった場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PCB 名を指し、レジスター 7 は PSB 名を指しています。PSB を訂正してから、プログラムを再実行します。

問題判別:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS964I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0967

説明

PSB に、PROCOPT で L または LS を指定した、PHIDAM DBD への複数の明示的な参照が含まれています。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS1008I に、PSB の名前が示されています。

分析

この異常終了は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内のラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、DBD 名と PSB 名を指します。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合は、ERROR967 への分岐が行われます。レジスター 0 から 15 は、ラベル ERRORSVE に保管されます。レジスター 14 は、ERROR967 への分岐の後に続く命令を指します。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS1008I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
DDIRADDR =X'40'	ISVHDOR G ISHDORG	これらのルーチンは、HIDAM タイプ DBD の DCB を作成します。複数のロードを指示する X'40' について、DDIRADDR の高位バイトがテストされます。複数のロード PROCOPT が指定されている場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

この異常終了に入ったとき、レジスター 6 は PSB 名を指し、レジスター 5 は DBD 名を指しています。PSB を訂正し、再度プログラムを実行してください。

プログラマーの応答:

4、17d、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS1008I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0969

説明

変更累積データ・セットの読み取り中に、ヘッダー・レコードの前に明細レコードが見つかったか、または無効なレコード・タイプ・コードのレコードが見つかりました。

分析

0969 異常終了は、変更累積データ・セットからの入力レコードが有効なレコード・タイプでない場合に発行されます。異常終了 SVRB には、DFSURIOO からのレジスターが入っています。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。エラーを検出するルーチンは、異常終了 (SVC 13) を発行するルーチンに分岐します。

キー	ラベル	説明
Reg1=入力レコードのアドレス Reg14=DFSURIOO への BAL	GETFILE	DLOGCODE が X'00'、X'24'、X'25'、X'50'、X'5B'、または X'5947' の戻りコードに等しくありません。

考えられる原因: 変更累積データ・セットまたはリカバリー・ユーティリティへの入力に無効なデータ・セットが使用されました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

問題を訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

1、2、3、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSURIOO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0970

説明

再始動処理で、再始動に使用するチェックポイントを判別しようとしているときに、予期されたエラー条件のいずれかが発生しました。異常終了時のレジスター 10 に、エラー位置を正確に示す戻りコードが入っていません。

分析

0970 は、モジュール DFSRBCPO から発行される標準異常終了です。この異常終了は、再始動時にのみ発生します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を判別することができます。異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 10 に、サブコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=AWE Reg10=1		再始動データ・セット (RDS) からチェックポイント・テーブルを初期設定しようとしようとしたが、失敗しました。AWE (AWRFDBK) のフィードバック・フィールドに、エラーが検出されたことを示す DFSRDS00 からの戻りコードが入っています。フィードバック・フィールド AWRFDBK は、4 バイトの領域です。下位バイトに下位のサービス・ルーチンからの戻りコードが入っています。この戻りコードについては、ここでは説明しません。上位 3 バイトには、検出されるエラーのタイプを示す下記のいずれかの目印が入っています。
	OPNx	再始動データ・セットのオープン・エラーまたは初期設定エラーが発生しました。再始動データ・セットのオープン障害について詳しくは、この異常終了の前に出力されるメッセージ DFS3128A を参照してください。
	RLVx	アクティブな IMS リリース・レベルとバックアップの IMS リリース・レベルが異なっています。アクティブ・システムとバックアップ・システムの両方が、同一の IMS バージョンおよびリリース・レベルでなければなりません。
	GIBx	再始動データ・セットの入出力で使用する IOSB を取得できません。これは、システム・エラーです。
	BCPx	チェックポイント・テーブル BCPT のための項目を、制御ブロック・テーブルの中で検出できませんでした。これは、システム・エラーです。
	BCBx	高速保管域を取得できませんでした。これは、システム・エラーです。
	LOGx	RDS データ・セットからチェックポイント・テーブルを復元できませんでした。ログ (X'42' ログ・レコード) からテーブルの最新コピーを取得しようとしたが、失敗しました。このエラーは、OLDS オープン/読み取りエラーを示しています。
	CBTx	RRE、LCRE、SIDX のいずれかのブロックのための項目を、制御ブロック・テーブルの中で検出できませんでした。これは、システム・エラーです。
	ALTx	RRE、LCRE、SIDX のいずれかのブロックのための項目を、制御ブロック・テーブルの中で検出できませんでした。これは、システム・エラーです。
	QCSx	BCPT、RRE、SIDX、LCRE のいずれかに対するストレージ割り振り要求が失敗しました。あるいは、戻りコードが 04 の場合、MAXPST 始動パラメーターが、以前の IMS 再始動時の MAXPST 値よりも小さくなっています。

キー	ラベル	説明
	IDMX	IMSID (非 xrf) または RSENAME (xrf) の間に不一致が発生しました。IMS のウォーム・スタート中は、この変更は許可されていません。
Reg2=AWE、 Reg10=2、 Reg15=BCB 戻りコード		IMS は、サブシステム索引ブロック (SIDX) を取得できませんでした。内部 IMS エラーです。
Reg10=3		有効なチェックポイントが書き込まれる前に、システムを再始動しようとした。これは、通常、コールド・スタートが正しく完了する前に /ERE 実行しようとした場合に起こります。
Reg10=4		IMODULE は、再始動のためのログの読み取りで使用するバッファのストレージを取得できませんでした。
Reg10=5 Reg15= ログ の戻りコード		読み取り用にログを開く際のエラー
Reg10=6 R15= ログ の戻りコード		最初のチェックポイント・レコードの読み取り時のエラー
Reg10=7 Reg3=A(BLO CK)		「4001」レコード (チェックポイント開始) が、最初の読み取り要求への応答としてロガーから返されたブロック内で検出できません。
Reg10=8 Reg3=A(BLO CK)		最初の読み取り要求に対する応答としてロガーから返されたブロックに、誤ったチェックポイント ID が入っていました。
Reg10=9 Reg3=A(BLO CK)		ブロック内で検出されたチェックポイントは、正しいチェックポイントでした。しかし、このチェックポイントは、要求された再始動のタイプと互換性がありません。/ERE CHKPT0 を指定したがコールド・スタート時にチェックポイントが返されなかったか、または、BUILDQ を指定したがチェックポイントにキュー・レコードが含まれていないか、いずれかです。
Reg10=0A Reg15= FIND からの 戻りコード		緊急時再始動が要求されました。RDS データ・セットからチェックポイント・テーブルが復元されました。DFSRBCPO は、ローカル・サブシステムの SIDX を検出できませんでした。
Reg10=0B		TOD クロックの値がチェックポイント・テーブルの現行のチェックポイント値より古いことを、DFSRBCPO が判別しました。
Reg10=0C		DFSRBCPO は、RRE をデキューまたはリリースできませんでした。

APAR 処理の場合: ストレージ・ダンプ

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

適切なすべてのログ・データ・セットが制御領域に割り振られているかどうかを確認します。また、十分なストレージが制御領域に割り振られているかどうかも確認します。この異常終了は、おそらく IMS システム・エラーです。

問題判別:

4、5、17b、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRBCP0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0971

説明

再始動処理中に、予期されたエラー条件のいずれかが発生しました。

分析

異常終了時のレジスター 15 に、以下のコードのいずれかが入ります。

コード

説明

X'01'

システム・データ・セットをオープンする試みが失敗しました。オープンに失敗したデータ・セットを示すメッセージも提供されます。

X'02'

再始動で、バックアウト・テーブル DFSRPSTB 用のストレージを取得できませんでした。十分なストレージを制御領域に割り振ってから、再実行します。

X'03'

LCRE をデキューしようとしたときに、内部エラーが発生しました。

X'04'

LCRE を解放しようとしたときに、内部エラーが発生しました。

X'05'

RRE をデキューしようとしたときに、内部エラーが発生しました。

X'06'

RRE を解放しようとしたときに、内部エラーが発生しました。

コード 01、02 の場合、おそらく、JCL および発行されたメッセージを調べれば、問題を解決できます。コード 03 から 06 の場合、問題の内部調査が必要です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

コード 01、02 の場合、おそらく、JCL および発行されたメッセージを調べれば、問題を解決できます。コード 03 から 06 の場合、問題の内部調査が必要になります。

問題判別:

4、5、17b、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRLP00、DFSRST00、DFSRBCP0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0979

説明

データベース変更ロガー DFSRDBLO が、エラー条件またはプロセス障害を検出し、その要求処理を完了できません。レジスター 15 に 16 進数の理由コードが入っています。

分析

0979 は、モジュール DFSRDBLO に渡されるパラメーターでエラーが検出された場合、または変更ログ要求を完了するために必要な処理が失敗した場合に、モジュール DFSRDBLO から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスター 15 に、異常終了の理由コードが入っています。(以下の表を参照してください。) レジスター 14 は、異常終了を発行するラベル ABND979 の共通ルーチンへの BAL に使用されます。レジスター 2、4、8、9、および 11 には、それぞれ、PST、DDIR、ログ作業域、JCB、および SCD のアドレスが入っています。

キー	最も近いラベル	説明
Reg15=1	ORGDONE	無効のデータベース編成
Reg15=1	SETFUNC	無効な PSTWRK1 機能
Reg15=1	BADFUNC	無効な DLOGPARM 機能
Reg15=2	RBAKSDS	HD RBA がゼロです。

キー	最も近いラベル	説明
Reg15=3	GOODLGWX	LGWX IPAGE GET が失敗しました。CTL (LSO=Y) または DLI (LSO=S) 内の拡張専用ストレージの拡張が必要な場合があります。
Reg15=4	ALLOCALL	SWAREQ 要求が失敗しました。
Reg15=5	ALLOCALL	IRLM 終了要求が失敗しました。
Reg15=6	ALLOCALL	DBRC ALLOC 呼び出しが失敗しました。
Reg15=7	ALLOCALL	TIOT DDNAME が DMB と一致しません。
Reg15=8	SERVCMPR	圧縮サービス・エラー
Reg15=9	BFSERCH	無効な PSTBUFFA
Reg15=A	XRFL0100	ローカル DMB 番号を使用する FUNC=SCAN で、DDIR を検出できませんでした。
R15=B	SRG000B	DBRC が、「未登録」または「パーツでない」ことを示しました。
R15=C	SRG000C	DBRC で入出力エラーが検出されました。
R15=D	SRG000D	DBRC が未定義の呼び出しを検出しました。
R15=E	SRG000E	DBRC が、無効な REORG # を渡されたことを検出しました。
R15=F	SRG000F	不明な DBRC 戻りコード
R15=10	SRG000G	DBRC オープン RECON 問題
R15=11	SRG000H	DBRC クローズ RECON 問題
R15=12	SRG000I	DBRC が、REORG# が渡されなかったことを検出しました。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで終了します。

プログラマーの応答

これは、IMS 内部論理エラーです。

問題判別:

1、4、11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRDBLO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0982

説明

緊急時再始動で、参照されたプログラムおよびデータベースのバックアウト・キューを読み取ることができませんでした。

分析

0982 は、DFSRBOIO によって発行される標準異常終了です。

バックアウト処理の緊急時再始動中に、ログ・データ・セットで入出力エラーが発生しました。メッセージ DFS982I がマスター・コンソールに送信され、異常終了が発生します。ICHECKOS ルーチン (DFSASO30) によって入出力エラーが検出され、レジスター 15 に戻りコードが返されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の、ラベル X100 を持つルーチン内の命令を指しています。レジスター 10 に、データベース・ログ・レコードのアドレスが入っています。レジスター 5 に、現行の PST のアドレスが入っています。レジスター 11 に、RSRDSECT のアドレスが入っています。レジスター 12 に、基底レジスターが入っています。これらのレジスターは、異常終了 SVRB に保管されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'03D6'	RBOI0040	動的ログ・データ・セットに読み取り入出力エラーが発生したため、必要なバックアウトを完了できませんでした。メッセージ DFS982I が出され、異常終了となります。

考えられる原因: 障害のある動的ログ・データ・セット

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

このエラーが、バックアウト・レコードがアーカイブされていて OLDS 内にはないために発生した場合、バックアウトを実行するために、入力としての SLDS を指定してデータベース・バックアウト・ユーティリティを使用します。

問題判別:

1、2、3、4、5

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRBOIO

関連情報

[DFS982I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0985

説明

緊急時再始動でバックアウトを実行できませんでした。異常終了時のレジスター 15 に、戻りコードが入っています。

分析

0985 は、DFSRBLB0 によって発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) を指しています。異常終了に入ったときのレジスターのレジスター 15 に入っている理由コードの意味は、次のとおりです。

理由コード

説明

X'01'

ITASK を作成できないか、バックアウト・タスク用の QSAV を解放できません。(内部)。

X'04'

バックアウト用の無効なログ・レコード・アドレスが検出されました。

X'05'

バックアウト・タスク用の QSAV または RRE を取得できないか、RRE を SIDX にエンキューできません。

X'06'

変更されたデータベースの DDIR を判別できません。

X'07'

/ERE コマンドが、データベース・レコードの RBN を判別することができませんでした。

X'08'

タイプ X'31' ログ・レコードの処理中に、XRF 代替システムが DPST の検出に失敗しました。

X'09'

LCRE 用のサブプール 231 ストレージを取得できません。

X'0A'

XRF 代替システムにデータベース・レコード処理のための DPST がありません。

APAR 処理の場合: ストレージ・ダンプおよびログが緊急時再始動のために使用されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

4、5、17b、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRBLB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

0986

説明

ある論理データベース内のセグメントのソースが、別の論理データベース内のセグメントとして指定されています。この異常終了の直前に出力されているメッセージ DFS2425I を参照してください。

分析

0986 は、モジュール DFSDLBLO によって発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS2425I が出力されます。

DFSDLBLO 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題判別に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、次のような、メッセージ DFS2425I で使用される名前を指すポインターが含まれています。

レジスター 5 は、セグメント名を指しています。

レジスター 6 は、最初の DBD 名を指しています。

レジスター 7 は、ソースの DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR986 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2425I が送信され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg4= 第 2 論理 DDIR のアドレス Reg6= セグメント用の SDB のアドレス Reg10= 第 2 ソース・セグメントのアドレス	BCDSDBEF	SDBPOSP フィールドには、ソース・セグメントの名前が入っています。このソース・セグメントは、ソース・セグメントがあることも示しています。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:
DFSDLBLO
関連情報
DFS2425I

0987

説明

索引 DBD 内の LCHILD ステートメントで、索引付きセグメントに誤ったセグメント名が指定されています。この異常終了の直前に出力されているメッセージ DFS2426I を参照してください。

分析

0987 は、モジュール DFSDLBLO によって発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題判別に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、次のような、メッセージ DFS2426I で使用される名前を指すポインターが含まれています。

- レジスター 5 は、索引 DBD 名を指しています。
- レジスター 6 は、索引セグメント名を指しています。
- レジスター 7 は、索引付きセグメント名を指しています。
- レジスター 8 は、索引付き DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR986 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2426I が送信され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg5= 索引付きセグメント名および DBD 名を含んでいる DDIR 拡張。 Reg7= 索引 LCHILD。	NOTER988	索引 LCHILD セグメント名が索引付きセグメント名と一致しません。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDLBLO
関連情報
DFS2426I

0988

説明

索引付き DBD 内の LCHILD ステートメントで、索引 DBD 内に存在しないセグメントが参照されています。この異常終了の直前に出力されているメッセージ DFS2427I を参照してください。

分析

0988 は、モジュール DFSDLBLO によって発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題判別に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、次のような、メッセージ DFS2427I で使用される名前を指すポインターが含まれています。

- レジスター 5 は、索引 DBD 名を指しています。
- レジスター 6 は、正しくない索引セグメント名を指しています。
- レジスター 7 は、索引付きセグメント名を指しています。
- レジスター 8 は、索引付き DBD 名を指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR988 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2427I が送信され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg5= 索引付きセグメント名および DBD 名を含んでいる DDIR 拡張。 Reg10= 索引 segtab 項目	BLDDON	索引セグメント名が DDIR 拡張のセグメント名と一致しません。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSDLBLO
関連情報
DFS2427I

0989

説明

索引関係の解決中に、モジュール DFSDLBLO で、索引 DBD が索引付きセグメント用の複数の LCHILD ステ

トメントによって参照されていることが判明しました。索引 DBD の名前については、付随するメッセージ DFS2428I を参照してください。

分析

この異常終了は、モジュール DFSDLBLO によって発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題判別を使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、次の項目を指すポインターが含まれています。

- レジスター 5 は、索引 DBD の DDIR を指しています。
- レジスター 2 は、索引付きデータベースの DBD を指しています。
- レジスター 4 は、DBD を参照するものについての DBD LCHILD テーブル項目を指しています。
- レジスター 10 は、DBD の現行の SEG TAB 項目を指しています。
- レジスター 14 は、BLDXTDOK において、ERROR989 へ分岐するサブルーチン内の BAL 命令の終わりを指しています。

異常終了は、ラベル SETPSEU の共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR989 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2428I が送信され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg5 + X'14'	DDIRBLDL	先頭セグメントのセグメント名および DDIR を参照する DDIR 索引拡張項目のアドレスは、この索引によって索引付けされることを指定します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

索引付き DBD 内の参照を訂正して、各索引付きセグメントが固有の索引を持つようにします。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS2428I](#)

0990

説明

モジュール DFSDLBLO で、論理 DBD または PSB 内で兄弟セグメントが参照される順序にエラーがあることが検出されました。PTR=HIER を指定した親に従属する兄弟セグメント、または HISAM DBD に従属する兄弟セグメントは、物理 DBD 内で確立された順序と異なる順序で参照できません。この異常終了の直前に出力されているメッセージ DFS2429I を参照してください。

分析

0990 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。レジスター 6 は、順不同の 2 つのセグメントのいずれかの SDB を指し、レジスター 15 はもう一方の SDB を指します。レジスター 8 はデータベース PCB を指し、レジスター 14 は ERROR990 へ分岐するサブルーチン内の BAL 命令の終わりを指します。

この異常終了は、ラベル SETPSEU の共通サブルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR990 に発行します。これにより、レジスター 0 から 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2429I が書き込まれ、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
Reg14	DFSDLB40 内の SUMSPSBNB	上記を参照してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

論理 DBD または PSB を再コーディングし、プロシージャを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS2429I](#)

0991

説明

論理子の目標親連結が無効です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS2430I が出力されます。

分析

0991 は、モジュール DFSDLB70 から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB に保管されたレジスターには、メッセージ DFS2430I で使用される名前を指すポインターが含まれています。レジスター 5 は、処理中の SDB を指し、レジスター 6 は現行の PCB を指しています。

この異常終了は、ラベル SETPSEU の共通サブルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR991 に対して発行します。これにより、レジスター 0 から 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2430I が書き込まれ、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

キー	ラベル	説明
SDBPOSN +1 = Reg7=A(PSDB)、 DMBFLAG=OMB LPEX Reg14 = BAL	CHKV IRT	SDBPOSN は、SOURCE= オペランドで SDB が指定されていることを示します。ただし、PSDB の DMBFLAG で DMBLPEX (=X'20')が OFF の場合は、セグメントが論理子セグメントでないことを示すため、エラー出口ルーチンが実行されます。
SDBTFLG = SDBSLP、 Reg7=A(PSDB)、 DMBFLAG=DABL PEX、Reg14 = BAL	PARN TSTM	SDBTFLG は、SDB が論理子を論理親に連結するためのものであることを示します。ただし、DMBFLAG が DMBLPEX でない場合、SOURCE= オペランドで指定された最初のソース・セグメントが論理子セグメントではないため、参照は無効になります。
Reg1=A (論理親 2 次リスト)。 Reg7=A(PSDB)、 DMBFLAG = DMBLPEX、Reg14 = BAL、SDBTFLG = SDBSLP	CHKN AMES	SOURCE= オペランドで指定された宛先親がセグメントの論理親であるかどうかを確認するために、セグメント名テーブル項目がレジスター 15 にロードされます。テーブル項目の名前がセグメントの論理親の 2 次リスト (レジスター 1) にある名前と一致しない場合は、エラー出口ルーチンが実行されます。
SDBTFLG = SDBSLP、 Reg7=A(PSDB)、 DMBFLAG = DMBLPEX、Reg14 = BAL、Reg15= この セグメントの A (セグメント名テ ーブル項目)。	GETO 2LSA	宛先親がセグメントを論理子として参照しているかどうかを確認するために、このセグメントのセグメント名テーブル項目がレジスター 15 にロードされます。レジスター 1 を使用して、宛先親の 2 次リスト全体を対象にルーチンが実行されます。このセグメントと同一の ODIR およびセグメント・コードを持つ論理子セグメント、およびテーブル項目の名前と一致する名前を持つ論理子セグメントについて、2 次

キー	ラベル	説明
		ストが検出されない場合、エラー出口ルーチンが実行されます。
SDBTFLG=SDBSLP、 DMBFLAG=DMBLPEX、 Reg1=A (宛先親の PSDBPSDB)。 Reg1 + X'20' *X'20' Reg14= BAL	GETL CNME	SOURCE= オペランドで指定された宛先親が論理親セグメントであることを確認するために、レジスター 1 に宛先親の PSDB のアドレスがロードされます。DMBFLAG-DMBPSDB (,R1) で DMBLCEX が OFF の場合は、出口ルーチンが実行されます。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで終了します。

プログラマーの応答

DFS2430I で示されたステップに従います。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLB70

関連情報

DFS2430I

0992

説明

DBD が、LCHILD ステートメントで、索引 DBD として参照されましたが、これは無効です。参照された DBD は ACCESS=INDEX として指定されていませんでした。詳しくは、この異常終了の前に出力される DFS2431I メッセージで示されます。

分析

0992 は、複数の CSECT のモジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の CSECT DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。レジスター 2 は索引付きデータベースの DBD を指し、レジスター 10 は索引付きセグメントの DBD にあるセグメント・テーブルの項目を指し、レジスター 14 は ERROR992 へ分岐するサブルーチン内の BAL 命令の終わりを指します。

この異常終了は、ラベル SETPSEU の共通サブルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出したサブルーチンは、BAL レジスター 14 を CSECT DFSDLB80 のラベル ERROR992 または ERR992A に発行します。これにより、レジスター 0 から 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2431I が書き込まれ、

PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

次の表で参照されるラベルは、DFSDLB00 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg1=A (ターゲット DBD) Reg5=A (索引 DDIR) Reg10=A (ターゲット・セグメント・ テーブル項目) Reg14=BAL	BLDXTDO K	索引には、ターゲット・データベースの完了前に作成されるようにフラグが立っていました。
Reg4= 索引として不正に 参照された DBD の DDIR Reg4 + 20 (DDIRBLDL)= 無効な参照を行われた DBD のセグメント名 および DDIR アドレスを 含んでいる DDIR 拡張のアドレス Reg14=BAL	NOPROT	非索引付きデータベースは、作成済みの索引拡張がありません。これは、LCHILD ステートメントの索引付き DBD として参照されたことを意味します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS2431I](#)

0993

説明

SENFLD ステートメントでセグメント定義の無効なフィールド名が参照されました。詳しくは、メッセージ DFS2432I を参照してください。

分析

0993 は、複合モジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、レジスター 7、およびレジスター 8 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、フィールド名、および DBD 名を指します。

異常終了は、DFSDLB80 のラベル SETPSEU にある共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB40 のサブルーチンは、BAL レジスター 14 を DFSDLB80 のラベル ERROR993 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2432I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSDLB40 に含まれていません。

キー	ラベル	説明
Reg5= PSDB Reg6=S DB Reg7=F SB Reg14 =BAL	FLSM RG00	FSB の名前とレジスター 5 にある PSDB 用の FDB のフィールド名が一致していないことが検出されました。
Reg5= PSDB Reg6=S DB Reg7=F SB	FLSM RG34 FLSM RG32 FLSLP 30	レジスター 6 の SDB が物理論理子を参照した場合に、FSB の名前と、論理親の PSDB 用の FDB のフィールド名または論理子用の FDB のフィールド名が一致していないことが検出されました。レジスター 6 の SDB が仮想論理子を参照した場合に、FSB の名前と、このセグメント用の DMBSEC フィールド項目のフィールド名、論理親の PSDB 用の FDB のフィールド名、または対セグメントの PSDB 用の FDB のフィールド名が一致していないことが検出されました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[DFS2432I \(メッセージおよびコード\)](#)

0994

説明

PSBGEN で指定されたフィールド・マッピングにより、破壊的なオーバーラップが発生します。追加情報については、メッセージ DFS2433I を参照してください。

分析

0994 は、複合モジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 8 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、DFSDLB80 のラベル STEPSEU にある共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB40 のサブルーチンは、BAL レジスター 14 を DFSDLB80 のラベル ERROR994 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2433I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSDLB40 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg1=FSB 1 Reg3=FSB 2 Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BA L	FLSSRT22	アプリケーション・プログラムは、データベース・セグメント (そのうちの少なくとも 1 つは文字タイプ・データでない) のフィールドのオーバーラップにセンシティブです。
Reg1=FSB 1 Reg3=FSB 2 Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BA L	FLSSRT25	フィールドは、データベース・セグメントでオーバーラップしますが、ユーザーの入出力域でのオーバーラップほど大きくはなく、セグメントは更新センシティブを持っていません。
Reg1=FSB 1 Reg3=FSB 2 Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BA L	FLSSRT30	データベース・セグメントからの 2 つの個別フィールドが、ユーザーの入出力域の内の同一のロケーションあてに指定されています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

DFS2433I (メッセージおよびコード)

0995

説明

挿入されるセグメントの PCB で、シーケンス・フィールドに対するセンシティブティーが指定されていません。詳しくは、メッセージ DFS2434I を参照してください。

分析

0995 は、複合モジュール DFSDLBLO からの標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 8 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、DFSDLB80 のラベル SETPSEU にある共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB40 のサブルーチンは、BAL レジスター 14 を DFSDLB80 のラベル ERROR995 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2434I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSDLB40 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg6=SD B Reg8=PC B Reg14=B AL	FLSSRT9 0	ルーチンは、セグメントにユーザーがセンシティブではないキー・フィールドがあり、このセグメントのための PROCOPT は I か L のどちらかであると判別しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

0996

説明

フィールド・レベル・センシティブティーが、PROCOPT=I または L の指定がある論理子に対して指定されています。詳しくは、メッセージ DFS2435I を参照してください。

分析

これは、複合モジュール DFSDLBLO から発行される標準異常終了です。

DFSDLBLO 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 8 は、それぞれ、PSB 名、セグメント名、および DBD 名を指します。

異常終了は、DFSDLB80 のラベル SETPSEU にある共通ルーチンから発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB40 のサブルーチンは、BAL レジスター 14 を DFSDLB80 のラベル ERROR996 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。ここで、メッセージ DFS2435I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定されます。RETURN が SETPSEU に分岐します。これが実際に異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSLB40 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg6=SDB Reg8=PCB Reg14=BAL	BLDFSBS	フィールド・レベル・センシティブティーがこのセグメントに指定されたため、このルーチンに制御が渡され、ルーチンが、処理オプションは I か L であると判断しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO

[関連情報](#)

[DFS2435I](#)

0997

説明

関連する論理関係により内部処理限界を超えるため、必要な PSB 制御ブロックを構築できませんでした。メッセージ DFS2436I が発行され、この異常終了の原因となった PSB および PCB が示されます。

分析

0997 は、複合モジュール DFSDLBLO から発行されます。DFSDLBLO 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了 SVRB のレジスター 5 およびレジスター 6 は、それぞれ、PCB 名と PSB 名を指します。

また異常終了は、DFSDLB80 のラベル SETPSEU にある共通ルーチンからも発行されます。エラーが検出された場合、エラーを検出した DFSDLB70 のサブルーチンは、BAL REG14 を DFSDLB80 のラベル ERROR997 に発行します。これにより、レジスター 0 からレジスター 15 がラベル ERRORSVE に保管されます。その後、RETURN に分岐します。

メッセージ DFS2436I が発行され、PSTSTAT が X'16' に設定された場合、RETURN は SETPSEU に分岐します。これが、異常終了 (SVC 13) を発行します。

次の表で参照されるラベルは、DFSDLB70 に含まれています。

キー	ラベル	説明
Reg5=PCB Reg14=BAL	SUMNOIX1 SUMALTS SUMNOIX3 SUMGENP2 SUMNDSG SUMLDND	最高位の内部処理番号を保管するためにルーチンに制御が渡され、ルーチンが、内部処理番号が限界を超えたと判定しました。

システムの処置

メッセージ DFS2436I を発行した後、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答

PSB または DBD (あるいは両方) を変更して、PCB 内で、LOGICAL CHILD/LOGICAL PARENT 連結を参照する SENSEG ステートメントの数を減らします。PSBGEN を再実行してから、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO、DFSDLB80

[関連情報](#)

[DFS2436I](#)

0998

説明

仮想論理子用に定義されたフィールドが、仮想論理子に収まりませんでした。このフィールドは、論理子内で始まり、論理子内で終わらなければなりません。

分析

0998 は、複合モジュール DFSDLBLO から発行され、メッセージ DFS2437I を伴います。DFSDLBLO 内の DFSDLB80 にあるラベル ERRORSVE に保管されているレジスターを、問題分離に使用する必要があります。SVRB のレジスター 3、レジスター 5、レジスター 6、およびレジスター 8 は、それぞれ、論理親 DBD 名、仮想論理子フィールド名、実論理子セグメント名、および実論理子 DBD 名を指します。

このエラーは、モジュール DFSDLB50 で検出されます。DFSDLB50 は、DFSDLB80 内のラベル ERROR998 に BAL REG14 を発行します。DFSDLB80 は、レジスター 0 から 15 をラベル ERRORSVE に保管し、メッセージ DFS2437I を発行する DFSLBLM0 を呼び出します。その後 DFSDLB80 は、ラベル SETPSEU に分岐します。これが、異常終了 (SVC 13) を発行します。

以下で参照されるラベルは、DFSDLB50 に含まれていません。

キー	ラベル	説明
Reg2=X'08' seclist のアドレス	CLRDL	仮想フィールドが、仮想論理子内で始まっていません。
Reg3=LC PSDB のアドレス	P08	
Reg10=X'02' seclist のアドレス		
Reg14=BAL		
Reg15= 現行 PSDB のアドレス		

キー	ラベル	説明
Reg2=X'08' seclist のアドレス	NOTER 998	仮想フィールドが長すぎて、仮想論理子の終わりを超えています。
Reg3=LC PSDB のアドレス		
Reg5= 仮想フィールド長		
Reg10=X'02' seclist のアドレス		
Reg14=BAL		
Reg15= 現行 PSDB のアドレス		

システムの処置

メッセージ DFS2437I が発行された後、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答

DBD を訂正してから、ジョブを再実行します。論理子の定義の直後の FIELD ステートメントに誤りがあります。フィールドが論理子内で始まっていないか、またはフィールドが長すぎて論理子内に収まらないかのいずれかです。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDLBLO、DFSDLB50

関連情報

[DFS2437I](#)

第 22 章 IMS 異常終了コード 1001 - 1050

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

1001

説明

バッチ DL/I または DBB 領域を初期設定できませんでした。EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された PSB によって使用されるデータベースのいずれかが、MSDB または DEDB であるためです。サブコードがレジスタ 15 に設定されます。

分析

1001 は、EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドの 3 番目の定位置オペランドで指定された無効な IMS 従属領域を検出した際に、DBFUDLBO または DFSBINDO から発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'04' 'または' X'08'		高速機能データベース管理制御ブロックは、アプリケーション制御保守ユーティリティの実行時にのみ作成されます。動的制御ブロックの作成は、その他の環境ではサポートされていません。レジスター 15=4 の場合は、DLS 領域タイプが指定されました。レジスター 15=8 の場合は、DBB 領域タイプが指定されました。

考えられる原因: 従属領域開始プロシージャの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドの、1 番目の定位置オペランドで指定された領域タイプ・パラメーターで、指定に誤りがありました。バッチ・バックアウト・ユーティリティの場合: PSB に高速機能データベースが含まれている場合は、領域タイプ DBB が指定されていることを確認してください。

システムの処置

バッチ領域は異常終了します。

プログラマーの応答

PSB 訂正し、PSBGEN を再実行してから、ジョブを再実行します。PSB 内のすべての PCB が MSDB または DEDB にアクセスする場合は、高速機能 (IFP) 領域プロシージャを使用する必要があります。

バッチ・バックアウトをバッチ DL/I 領域で試みていた場合は、DBB 領域プロシージャを使用してジョブを再実行します。

問題判別:

17a、d

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFUDLBO、DFSBINDO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1002

説明

以下のいずれかの状態が発生しました。

IMS カタログを更新するために DL/I 呼び出しを実行中に、IMS カタログ・ユーティリティの 1 つが、そのユーティリティが処理するよう設計されていない DL/I 状況コードを受け取りました。この異常終了の前に、メッセージ DFS4425E、DFS4432E、DFS4474E、または DFS4892E が出力されます。

または、使用可能なストレージがないために、GETMAIN が失敗しました。この条件ではメッセージ DFS4477E が発行されます。

分析

以下の表は、DL/I 状況コードを受信したときにユーティリティが実行していた内容を示します。

表 8. レジスタ 15 のキーの説明

レジスタ 15 のキー	ユーティリティ ー	説明
X'04'	DFS3CNTL DFS3DBLC DFS3DCNC DFS3LU10 DFS3LU20 DFS3PBLC DFS3PCNC DFS3PDBD DFS3PLOC DFS3PPSB DFS3PSDC DFS3PU00 DFS3REAC DFS3SDBD DFS3SPSB DFS3SREF	使用可能なストレージがないために、GETMAIN が失敗しました。REGION サイズを確認し、それを OM に設定することを検討してください。
X'08'		
X'0C'	DFS3PU00	IMS カタログ内に DBD または PSB インスタンスを挿入中。キー X'0C' について詳しくは、次の表を参照してください。
X'10'	DFS3LU10、 DFS3LU20 DFS3PU00	IMS カタログ内から DBD または PSB インスタンスを検索中または削除中。
X'14'	DFS3LU10	IMS ディレクトリー・データ・セットの動的な作成と割り振りに失敗しました。
X'18'	DFS3LU10	IMS ディレクトリー・データ・セットの動的割り振りに失敗しました。
X'1C'	DFS3LU10	IMS ディレクトリー・データ・セットの動的割り振り解除に失敗しました。
X'20'	DFS3LU10	ブート・ストラップ・データ・セット (BSDS) の動的割り振りと作

表 8. レジスタ 15 のキーの説明 (続き)

レジスタ 15 のキー	ユーティリティ ー	説明
		成が失敗しました。
X'24'	DFS3LU10	IMS ディレクトリーにおけるデータ・セットのオープン・エラー。
X'28'	DFS3LU10	IMS ディレクトリー・データ・セットへの STOW 追加エラー。
X'2C'	DFS3LU10	出力モードでのブート・ストラップ・データ・セット (BSDS) のオープンに失敗しました。
X'30'	DFS3LU10	連結ディレクトリー・データ・セットの動的割り振りに失敗しました。
X'34'	DFS3LU10	IMS ディレクトリー・データ・セットで BLDL が失敗しました。
X'38'	DFS3LU10	スペース不足状態が原因で、IMS ディレクトリー・データ・セットのメンバーの削除に失敗しました。
X'3C'	DFS3LU10	スペース不足状態が原因で、IMS ディレクトリー・データ・セットのメンバーの名前変更失敗しました。
X'40'	DFS3LU10	IMS ディレクトリー・データ・セットをクローズしようとしてループ・エラーが発生しました。

表 8. レジスタ 15 のキーの説明 (続き)

レジスタ 15 のキー	ユーティリテ ィー	説明
X'44'	DFS3LU10 DFS3CATQ	ブート・ストラッ プ・データ・セッ ト (BSDS) の動 的割り振りが失 敗しました。
X'48'	DFS3LU10	スペースを持つ データ・セットが ありません。
X'4C'	DFS3DU10 DFS3PU00	DFS3DU10: 共用 副次索引が検出 された後、それぞ れに別名を STOW します。 DFS3PU00: 一時 ACBLIB データ・ セットの動的割 り振りに失敗し ました。
X'54'	DFS3PU00	ブート・ストラッ プ・データ・セッ ト (BSDS) の内 容が、使用される ユーティリティ ーと矛盾してい ます。
X'58'	DFS3PU00	予期しない状況 コードを受け取 りました。障害 を特定して切り 分けるには、メッ セージ DFS4892E を参 照してください。
X'5C'	DFS3CCE0 DFS3PU10	INQY 呼び出し が失敗した。 INQY サービス 呼び出しの戻り コードと理由コ ードを確認す るには、メッセ ージ DFS4427E を参 照してください。

レジスタ 15 のキーが X'0C' の場合、レジスタ 2 に
は、以下の情報が含まれるエラー・ブロックのアドレ
スが含まれます。

表 9. キー X'0C' のセグメントのインスタンス・エラ
ー・ブロック (SIEB) の内容

内容	10 進数オフ セット	長さ	データ・タイ プ
'SIEB'	0	4	文字
挿入されて いるレコー ド内のカタ ログ・セグメ ント間のセ グメント番 号 (1 番目、 2 番目、3 番 目、と続く)	4	4	2 進数
カタログ・セ グメント名	8	8	文字
ISRT 呼び出 しからの PCB 状況コ ード	16	2	文字
未使用	18	2	文字
挿入されて いるカタロ グ・セグメン トのアドレ ス	20	4	ポインタ
ルート・セグ メントの先 頭からのカ タログ・セグ メントの変 位	24	4	2 進数

システムの処置

IMS はエラー・メッセージを発行し、ユーティリティ
ーは異常終了します。

システム・プログラマーの応答

レジスタ 15 の値を確認して、先行するリストの値の
説明を参照します。

DFS4425E、DFS4432E、または DFS4474E の状況コ
ード情報を参照して、根本的な問題を修正してくだ
さい。

問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポ
ートに連絡してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFS3PU00、DFS3PU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[IMS Catalog Record Purge ユーティリティ \(DFS3PU10\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

関連情報

[DFS4425E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS4432E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS4474E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS4478E \(メッセージおよびコード\)](#)

1003

説明

高速機能 (IFP) 領域を初期設定できませんでした。EXEC ジョブ制御ステートメント上の PARM フィールドの 10 番目の定位置オペランドのセット・タイマー (STIMER) オプションが正しく指定されていなかったためです。

分析

1003 は、無効な STIMER オペランド仕様の検出時に、DFSRRRA00 から発行される標準異常終了です。有効な STIMER オペランドは、0 または 1 です。

キー	ラベル	説明
Reg2=RCPARMS のアドレス	RAIFP	STIMER 仕様が、IFP 領域の初期設定中に検証されました。無効な仕様が検出された場合は、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IFP 開始プロシーチャーの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドで指定された STIMER パラメーターで、指定に誤りがありました。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

EXEC ジョブ制御ステートメントの STIMER オペランドを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別:

8、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1004

説明

高速機能 (IFP) 領域を初期設定できませんでした。EXEC 制御ステートメント上の PARM フィールドの 7 番目の定位置オペランドの異常終了限界カウント (TLIM) オプションが正しく指定されていなかったためです。

分析

この異常終了は、ゼロの TLIM オペランド仕様の検出時に、DFSRRRA00 から発行される標準異常終了です。有効な TLIM オペランドは、1 から 99 です。

キー	ラベル	説明
Reg2=RCPARMS のアドレス	RAFP1	TLIM 仕様は、IFP 領域の初期設定中に検証されます。無効な仕様が検出された場合は、異常終了が発行されます。

考えられる原因: IFP 開始プロシーチャーの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールドで指定された TLIM パラメーターで、指定に誤りがありました。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

EXEC ジョブ制御ステートメントの TLIM オペランドを訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRRRA00

1005

説明

バッチ・メッセージ処理 (BMP) ステップまたは高速機能 (IFP) 領域が、次のいずれかの理由でスケジュールされませんでした。

- 従属領域は BMP であったが、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されていた。
- 従属領域は IFP であったが、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されていなかった。
- 従属領域は IFP であったが、PSB がメッセージ・ドリブン・アプリケーションとして定義され、サブシステム・タイプが DBCTL であった。
- 従属領域は IFP であり、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されていたが、アプリケーションが、メッセージ・ドリブンでも高速機能ユーティリティでもなかった。

分析

この異常終了は、DFSSBMPO によって検出され、DFSPCC20 によって発行される疑似異常終了です。

キー	ラベル	説明
BMPRCF P		BMP または IFP がスケジュールに入れられている場合は、IMS 従属領域のタイプおよび PSB 定義が検証されます。無効な仕様が検出された場合は、疑似異常終了が開始されます。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 1 番目の位置オペランドで指定される従属領域のタイプが BMP でした。PARM フィールドの 3 番目の位置オペランドで指定された PSB が、IMS システム定義の高速機能アプリケーションとして定義されている可能性があります。
- 指定された従属領域のタイプが IFP であった場合、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されていない可能性があります。
- 指定された従属領域のタイプが IFP であった場合、PSB がメッセージ・ドリブン・アプリケーションとして定義され、サブシステム・タイプが DBCTL である可能性があります。
- 指定された従属領域のタイプは IFP であり、PSB が高速機能アプリケーションとして定義されましたが、PSB はメッセージ・ドリブンであるか、または高速機能ユーティリティとして定義されなければなりません。そうでない場合は、異常終了 1005 が発行されます。

システムの処置

従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

問題の原因を判別し、適切な訂正を行います。

問題判別:

8、10、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSSBMPO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1006

説明

DBBF、DBFX、または BSIZ で定義されたバッファーマネージャーを使用している場合、ページ固定のために要求されたバッファの数が現在使用可能なバッファの総数を超過しています。あるいは、FPBP64 で定義され、ユーザーが FPBP64M パラメーターを使用して設定した 64 ビット・バッファーマネージャーを使用している場合に、要求された 64 ビット・ストレージの量が最大量を超過しています。この異常終了は、高速機能データベースにアクセスするように定義された任意の領域で発行されます。

分析

1006 は、従属領域のスケジューリング中に、高速機能バッファーマネージャーのページ固定要求を満たすことができない場合に発行される疑似異常終了です。異常終了 1006 は、DFSSMSC0 または DFSSBMPO によって検出され、DFSPCC20 によって発行されます。

この異常終了は、DBFINTE0 によって戻りコード 08 と共に設定されて返され、DFSSMSC0、DFSSBMPO、DFSSJBMP、または DFSSJMPO によって検出されて DFSIS100 または DFSRRC20 によって発行されます。

必要なページ固定バッファの数は、現行のバッファーマネージャーについて DBBF、DBFX、および BSIZ として定義した場合、次の方法で判別されます。

```
必要なページ固定バッファの合計 =
指定された DBFX オペランドの値
+ すべてのスケジュール済み領域で指定された
NBA オペランドの合計
+ すべてのスケジュール済み領域で指定された
最大 OBA オペランド + 開かれる DEDB 領域の数。
```

この計算結果の合計が IMS 制御領域 EXEC PARM フィールドで指定された DBBF オペランドの値より大きい場合は、疑似異常終了が開始されます。この検査は、領域 JCL で NBA=0 および OBA=0 を指定していても、高速機能データベースへのアクセスが定義された個々の従属領域について行われます。

FPBP64 で定義された FP 64 ビット・バッファーマネージャーの場合、バッファーマネージャーのプールに割り振られた現行の 64 ビット・ストレージの量が、FPBP64M パラメーターまたは **UPDATE POOL TYPE(FPBP64)** コマンドで設定した 64 ビット・ストレージの最大量を超過しています。

考えられる原因: IFP、BMP、または MPP 領域 JCL の EXEC PARM フィールドの NBA および OBA パラメーターに指定した値が大きすぎるか、IMS 制御領域の EXEC ジョブ制御ステートメントの DBBF パラメーターに指定した値が小さすぎる可能性があります。/DIS POOL FPDB コマンドを入力して、使用可能な高速機能バッファの数を調べてください。

FPBP64 で定義された FP 64 ビット・バッファーマネージャーの場合、FPBP64M または **UPDATE POOL**

TYPE(FPB64) で設定した現行の 64 ビット・ストレージの許容量が、現在使用中の 64 ビット・ストレージの量より少なくなっています。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

EXEC ジョブ制御ステートメントに指定された NBA および OBA オペランドを調べてから、次のいずれかを実施します。

- オペランド値を減らして、ジョブを再実行します。
- 他の領域が終了するのを待ってから、ジョブを再実行します。

FPBP64 で定義された高速機能 64 ビット・バッファーマネージャーの場合、**UPDATE POOL**

TYPE(FBP64) コマンドを使用して 64 ビット・ストレージの許容量を増加し、ジョブを再実行します。

問題判別:

8、10、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIS100、DBFBPN61、DBFCBHL0、DBFINTE0、DBFMBED0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1007

説明

高速機能 (IFP) 初期設定中に、プログラム DBFCPY00 で、スケジュールされた高速機能 PSB に 1 つ以上の GSAM PCB が含まれていることが検出されました。

分析

1007 は、モジュール DBFCPY00 によって発行される標準異常終了です。

GSAM は IFP 領域ではサポートされないことに注意してください。GSAM アクセスが必要な場合は、IMS システム定義の APPLCTN ステートメントに FPATH=NO を指定する必要があります。この場合は、PSB を非高速機能アプリケーションとして再定義して IMS システムを変更してから、BMP 領域で PSB を再実行してください。GSAM アクセスが必要ない場合は、TYPE=GSAM を指定している PCB ステートメントを PSBGEN 入力ストリームから除去し、その後で PSBGEN および ACBGEN を再実行してください。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

エラーのある PSB を訂正する必要があります。PSB を非高速機能アプリケーションとして再定義するか、または PSB から GSAM PCB を除去します。

問題判別:

4、9、18、19

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFCPY00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1008

説明

MPP、BMP、または IFP 従属領域の終了中に、プログラム DBFATRM0 でエラーが検出されました。

- IFP メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムが正常に戻ったが、入出力 PCB に QC 状況コードを通知しなかったか、または高速機能バッファを解放しなかった。
- MPP、BMP、または IFP 非メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムが正常に戻ったが、高速機能データベース・バッファを解放しなかった。

分析

1008 は、DBFATRM0 から発行される疑似異常終了です。アプリケーション・プログラムを正常終了するために、クリーンアップ・プロセスの実行中には次の規則が強制適用されます。

1. メッセージ・ドリブン・アプリケーションは、入出力 PCB に通知される「QC」状況コードを受け取り、高速機能データベース・バッファを解放しなければならない。
2. MPP/BMP/IFP 非メッセージ・ドリブン・アプリケーションは、高速機能データベース・バッファを解放しなければならない。

上記の規則に違反すると、異常終了が発生することになります。

キー	ラベル	説明
		従属領域ダンプにコピーされた DBFEPST0 診断領域を取得し、EPST 内の EPSTDREG、EPSTXCOC、および EPSTNRBH フィールドを確認します。(DBFATRMO ソース・コードを調べて、異常終了時の高速機能制御ブロック・コピーがあるかどうか確かめてください。)
		IFP メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムは、正常に戻る前に、「QC」状況コードを受け取っていませんでした。EPSTDRQC フラグがオフになっているか、またはアプリケーション・プログラムが、正常に戻る前にバッファを解放しませんでした。EPSTXCOC または EPSTNRBH のどちらかに、ゼロ以外の値が入っています。

考えられる原因: アプリケーション・プログラム・エラー

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

アプリケーション・プログラムを訂正します。メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムの場合、入出力 PCB に「QC」状況コードが通知された後でのみ、IMS プログラム・コントローラーに制御を戻すようにしてください。あるいは、「SYNC」または「ROLB」呼び出しを発行してバッファを解放した後で、制御を戻します。

問題判別:

17a

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFATRMO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1009

説明

領域タイプに IMS 高速機能 (IFP) が指定されたが、この IMS システムでは高速機能が生成されなかったか、または IFP 領域の初期設定および終了を処理するモジュールで、発生してはならない重大な状態が検出されました。サブコードがレジスター 15 に設定されます。

分析

異常終了 1009 は標準異常終了です。

DBFHIELO と DBFHQMIO の場合:

DFSPOOL REL=EMHB 機能を使用して EMHB を解放しようとしているときに、FP モジュールがゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

1009 は、モジュール DBFHIELO および DBFHQMIO から発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
		Reg15=X'21'

DBFIBUF0 の場合:

発生してはならない重大な状態が DBFIBUF0 で検出されました。

これは、DBFIBUF0 から発行される標準異常終了です。レジスター 15 の内容は、障害の理由を示しています。

キー	ラベル	説明
		Reg15=X'01'
		DMHR チェーンでループが検出されました。
		Reg15=X'05'
		許可されたページ固定呼び出しまたはページ解放呼び出しで、予期しないエラーが発生しました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

診断資料の場合: z/OS コンソール・シート、IMS 制御領域の異常終了メモリー・ダンプ、およびログ・データ・セットの印刷出力。

DBFINI20 の場合:

ユーザー・ハッシュ・モジュールのロードを実行しているときに、発生してはならない重大な状態が DBFINI20 内で検出されました。

1009 は、DBFINI20 から発行される標準異常終了です。レジスター 15 の内容は、障害の理由を示しています。

キー	ラベル	説明
		Reg15=X'0D'
		ユーザー・ハッシュ・モジュールをロードできません。DFSQCSS FUNC=LOAD の下位モジュールからゼロ以外の戻りコードが渡されました。

考えられる原因: ユーザー・ハッシュ・モジュールの IMS システム定義にエラーがあります。

DBFINTE0 の場合:

IFP 領域の初期設定時および終了時に、発生してはならない重大な状態が DBFINTE0 内で検出されました。

1009 は、DBFINTE0 から発行される標準異常終了です。レジスター 15 の中のサブコードの内容は、障害の理由を示しています。

キー	ラベル	説明
		Reg15=X'01'
		適切な PST 検証テーブル項目が ESCD で見つかりません。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0 2'		PST 検証テーブルからの現行の PST 項目が ESCD に見つかりません。
Reg15=X'0 3'		適切なロードおよび平衡化グループ項目 (BALG) が ESCD に見つかりません。
Reg15=X'0 4'		先頭の RCTE が英字チェーンから検出されませんでした。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

APAR 処理の場合: z/OS コンソール・シート、IMS 制御領域の異常終了メモリー・ダンプ、およびログ・データ・セットの印刷出力。

DBFLRLS0 の場合:

解放すべき DEDB リソースが DMAC チェーンに見つかりません。

これは、モジュール DBFLRLS0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X' 18'		解放すべき DEDB リソースが DMAC チェーンに見つかりません。

DBFPUXR0 の場合:

解放すべき DEDB リソースが DMAC チェーンまたは EPST チェーンに見つかりません。

これは、モジュール DBFPUXR0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg15=X' 17'		UXRB に関連するすべての XCRB を解放した後、解放すべき DEDB リソースを DMAC チェーンに見つかりません。
Reg15=X' 18'		UXRB に関連するすべての XCRB を解放した後、解放すべき DEDB リソースが EPST チェーンに見つかりません。

DBFXPIX0 の場合:

DEDB リソースを解放する必要がありますが、DMAC チェーンに見つかりません。

1009 は、モジュール DBFXPIX0 によって発行される標準異常終了です。レジスターには、次の情報が含まれています。

- レジスター 3 = DMAC チェーンのアンカー・ポイント・アドレス
- レジスター 4 = UXRБ のアドレス
- レジスター 5 = リソース ID (RBA)
- レジスター 7 = 解放すべき XCRB のアドレス
- レジスター 8 = DMAC のアドレス

キー	ラベル	説明
Reg15=X' 10'		DEDB リソースを解放するためにモジュール DBFXPIX0 に制御が渡されましたが、そのリソースが DMAC チェーンに見つかりません。
Reg15=X' 11'		内部エラー: UXRБ に関連するすべての XCRB が解放された際に、DBFXPIX0 は、UXRB DMAC チェーンで UXRБ を検出できません。
Reg15=X' 12'		内部エラー: OTHREAD が所有していない UOW ロックを持つ UXRБ を解放するために、DBFXPIX0 が呼び出されました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

APAR 処理の場合: IMS 制御領域のメモリー・ダンプ

DFSDBLMO、DFSDBLP0、DFSDBLBO、DFSSABNO、DFSSMSCO、DFSCST00 の場合:

高速機能ルーチンへの出口ルーチンを実行しようとしたときに、発生してはならない重大な状態が検出されました。

1009 は、上記のリストにあるいずれかのモジュールから発行される標準異常終了です。レジスター 15 の内容は、障害の理由を示しています。

キー	ラベル	説明
Reg15=X' 07'		モジュール DBFINTE0 が IMS 中核に含まれていませんでした。
Reg15=X' 08'		モジュール DBFUDLB0 がモジュール DFSDBLBO に含まれていませんでした。
Reg15=X' 09'		モジュール DBFDBAC0 がモジュール DFSCST00 に含まれていませんでした。

考えられる原因: 内部 IMS システム定義エラー

APAR 処理の場合: IMS 制御/従属領域の異常終了メモリー・ダンプおよび IMS システム定義の STAGE 1 出力。

DFSPCC20 の場合:

EXEC ステートメントの PARM フィールドに IFP が指定されましたが、高速機能がこの IMS システムで生成されませんでした。これは、モジュール DFSPCC20 によって発行される疑似異常終了です。

考えられる原因: この IMS システムに高速機能が生成されていなかった時に、IFP が指定されました。

APAR 処理の場合: IMS 制御領域のメモリー・ダンプ

システムの処置

IMS 制御領域または従属領域は異常終了します。

問題判別:

1、4、5、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFHIELO、DBFHQMI0、DBFIBUF0、DBFINI20、
DBFINTE0、DBFLRLS0、DBFPUXR0、DBFXPIX0、
DFSASK00、DFSDBLM0、DFSDBLP0、DFSDBL0、
DFSPCC20、DFSSABN0、DFSSMSC0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

1010

説明

DBFDBILO は、ECNT 項目内のセグメント・ポインター
が、すでに別のセグメント用に使用されていたことを検
出しました。これは、システム・エラーです。

分析

端末関連 MSDB セグメントまたは端末関連キーを持つ
非関連 MSDB セグメントは、各 MSDB の LTERM ごとに
1 つだけ有効になります。

キー	ラベ ル	説明
Reg4=MSDB セ グメント 接頭部のアドレ ス Reg7=ECNT の アドレス Reg9=BHDR の アドレス	DBIL 0270	順次データ・セットから読み 取られる MSDB レコードは、 DASD の中にあり、 DBFCNT0 内の主ストレ ージ・プール領域に配置されま す。ECNT に関連する MSDB セグメント領域が別の LTERM によって使用されて いる場合、この処理の最中に 異常終了が発行されます。

考えられる原因: MSDB データベースが重複キーを使用
して作成されました。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別

ありません。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFDBILO

1011

説明

IMS の始動または再始動時に高速機能初期設定エラー
が検出されたため、IMS 制御領域の初期設定に失敗しま
した。

詳しくは、この異常終了の前に発行されたエラー・メッ
セージを参照してください。最も可能性の高い原因
は、十分なストレージが CSA または ECSA にないこと
です。特に再始動時に、(フラグメント化のために)
ECSA に十分な連続ストレージ・スペースがない場合
にも、この異常終了が発生する可能性があります。

分析

1011 は、DBFBPNI0、DBFBPNJ1、DBDBPNS0、
DBFBPN50、DBFBPN80、DBFCHKP0、DBFDAC50、
DBFICIR0、DBFICI10、DBFINI20、DBFINI21、
DBFINI22、DBRINI2A、DBFINI23、DBFINI24、
DBFINI25、DBFINI26、DBFINI27、DBFINI29、ま
たは DBFINI2R から発行される標準異常終了です。

DBFDAC50 の場合:

DBFDAC50 はストレージの取得を試みましたが、スト
レージ要求を満たすことができませんでした。DEDB
変更は異常終了し、異常終了コード U1011 が示されま
す。一部のストレージを解放して、DEDB 変更を再実行
します。

R2=
理由 (STOR)

R3=
RSN コード (保守用)

DBFICIR0 の場合:

DBFICIR0 は、DFSCIR マクロを使用する高速機能
OTHRD ITASKS および高速機能 ASYNCHRONOUS
処理 ITASKS を作成するために、下位モジュールを呼び
出します。下位モジュールのうちの 1 つから、ゼロ以外
の戻りコードが DBFICIR0 へ返されます。異常終了に
入ったときの PSW は、異常終了の発行元の命令ラベル
ABEND を指しています。異常終了 SVRB のレジスター
14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基
底レジスターで、レジスター 15 に戻りコードが入って
います。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、 Reg14=BAL、 Reg15=DFSCIR 、 FUNC=ITASK 戻りコード	ABEN D2	DBFICIRO は、IMS/高速機能 ITASKS 初期設定モジュールです。このモジュールは、高速機能 OTHREAD ITASKS および高速機能 ASYNCHRONOUS 処理 ITASKS を作成するために、DFSCIR FUNC=ITASK を実行します。このマクロからゼロ以外の戻りコードが渡される結果として、異常終了が発生します。

DBFICI10 の場合:

DBFICI10 は、下位モジュールを呼び出して、次のことを行います。

- 通信ルーター ITASKS およびエラー・メッセージ・ルーター ITASKS の作成
- ロック制御 ITASKS、通知割り振り ITASKS、コマンド処理 ITASKS、および従属コマンド ITASKS の解放
- 共通サービス用の PST-EPST の作成

下位モジュールのうちの1つから、ゼロ以外の戻りコードが DBFICI10 へ返されます。異常終了に入ったときの PSW は、異常終了の発行元の命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 15 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、 Reg14=BAL レジスター、 Reg15=DFSCIR、 FUNC=ITASK 戻りコードまたは FUNC=CWU 戻りコード。 Reg15 に入る戻りコード: -EPS (高速機能の共通サービス用の EPST 作成時の障害の場合)。 -PST (PST 作成時の障害の場合)。または Reg15=DFSBCB、	AB EN D2	DBFICI10 は、通信ルーター ITASKS、エラー・メッセージ・ルーター ITASKS の作成、制御 ITASKS、通知割り振り ITASKS、コマンド処理 ITASKS、従属コマンド ITASKS のロック解除、および高速機能の共通サービス用の PST-EPST の作成を行うために、下位モジュールを呼び出します。下位モジュールのうちの1つから、ゼロ以外の戻りコードが DBFICI10 へ返される結果として、異常終了が発生します。問題の原因として最も可能性が高いのは、CSA でのストレージ不足状態です。

キー	ラベル	説明
FUNC=GET 戻りコード		

DBFBPNI0、DBFBPNJ1、DBDBPNS0、DBFBPN50、DBFBPN80、DBFCHKP0、DBFICIRO、DBFICI10、DBFINI20、DBFINI21、DBFINI22、DBRINI2A、DBFINI23、DBFINI24、DBFINI25、DBFINI26、DBFINI27、DBFINI29、または DBFINI2R の場合:

高速機能の初期設定中に、DBFINI2x モジュールは、さまざまな制御ブロック、ロード・モジュールおよび作業域、ページ固定ストレージ、予約プール・スペースのためのストレージを取得します。これらの要求のいずれかで起きた障害は、IMS から異常終了 1011 が出る原因となります。多くの場合、追加情報が含まれている関連メッセージも発行されます。

ストレージ不足状態になる場合は、他のジョブを停止することができます。これにより同じく、DBFINI2x が必要なストレージを取得する妨げとなっていた条件を解放できる場合があります。この方法でうまくいかない場合、システムの IPL が必要になることがあります。

ページ固定障害の場合は、PAGEABLE ストレージを解放する必要があります。その他の異常終了は、IMS 内部エラーによるものです。IBM サポートに連絡して、支援を要請することが必要になることもあります。

DBFINI2x モジュール (DBFINI20、DBFINI27、DBFINI29、DBFINI2R、または DBFBPN80) のうちの1つが、高速機能初期設定を実行します。異常終了の前に、障害に関する追加情報を示す IMS メッセージ (DFS2528I、DFS2559I、DFS2627I、DFS2703A、DFS2706A、DFS2707A、DFS2707I、DFS2709W、DFS2710W、DFS2711A、DFS2779I、DFS2840W、DFS3300W、または DFS3704I のいずれか) が発行される場合があります。

異常終了時に、次の表に示す情報を参照すると、問題の診断に役立ちます。

レジスター	内容の説明
レジスター 2	以下に示す、異常終了時に操作されるリソースの記述の1つが入っています。 AWE 非同期作業エレメント AREL 領域リスト BCNT モジュール DBFBCNT0 BPN00 DBFBPN00 のロード不能 BPNK0 DBFBPNK0 のロード不能 BPNIO DBFBPNIO のロード不能 BPN00 DBFBPN00 のロード不能 BSIZ BSIZ パラメーター CON1 DBFCONT1 (MSDB および ECNT を収容するストレージ) CON3 DBFCONT3 (DBHR および BUFFER を収容するストレージ) CON4 DBFCONT4 (DEDB ブロックを収容するストレージ) CON5 DBFCONT5 (OTHREAD を収容するストレージ) CON6 DBFCONT6 (BALG を収容するストレージ) CON7 DBFCONT7 (内部使用バッファを収容するストレージ) DMB DBFDMB (ACBLIB 読み取り用の DEDB 入出力域として使用されるストレージ) DT11 モジュール DBFDT110 DT15 モジュール DBFDT150 FRBM FRBMSDNM (XRF MSDB 作業域) HAGU モジュール DBFHAGU0

レジスター	内容の説明
	HASH ご使用のハッシュ・ルーチン IFIX モジュール DBFIFIX0 L56X L56X 制御ブロック MMIO モジュール DBFMMIO0 MMPR モジュール DBFMMPRO MSDS DBFMSDSN (MSDB 読み取り用の MSDB 入出力域として使用されるストレージ) 64BC 64 ビット共通ストレージ 64BP 64 ビット専用ストレージ
レジスター 3	失敗したサービス呼び出しについて説明する次のいずれかのコードが入っています。 コード 説明 04 GETMAIN の障害。要求されたストレージの量については、レジスター 8 を参照してください。 08 モジュールの探索またはロードが失敗しました。 12 モジュールが、予期されたロード・モジュール内に見つかりませんでした。 16 ページ固定エラー。 20 各種エラー。エラーの説明については、関連メッセージを参照してください。 24 BCB 取得が失敗しました。 28 ストレージ要求を満たすのに十分な 64 ビットの連続ストレージを取得できません。
レジスター 8	要求されたストレージの量 (レジスター 3=00000004 の場合に適用可能)。

レジスター	内容の説明
レジスター 15	異常終了の原因となったサービス呼び出しからの、ゼロ以外の戻りコード。

DBFSYP20 の場合:

DBFSYP20 は、順次従属セグメント (SDEP) 用のシステム・バッファの取得を試みます。この要求が 10 回の試行後に失敗すると、アプリケーションは異常終了 U1011 で異常終了します。

考えられる原因: 異常終了 1011 の原因は、次の状態のいずれかであると考えられます。

- IMS 制御領域始動プロシージャの EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM フィールド内の、REGION パラメーターまたは BSIZ/DBBF オペランドのエラー
- ストレージ不足の状態
- モジュールの探索またはロードの障害
- ストレージ・ページ固定の失敗
- ブロックの取得の失敗

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

エラー・メッセージおよびダンプ分析によって示されたとおりに、障害の原因を判別します。ストレージ不足のためにこの異常終了が発生した場合、CSA ストレージ割り振りを増やします。

問題判別:

3

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFBPN10、DBFBPNJ1、DBDBPNS0、DBFBPN50、DBFBPN80、DBFCHKP0、DBFDAC50、DBFICIR0、DBFIC110、DBFINI20、DBFINI21、DBFINI22、DBRINI2A、DBFINI23、DBFINI24、DBFINI25、DBFINI26、DBFINI27、DBFINI29、DBFINI2R、DBFSYP20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1012

説明

高速機能 MSDB のロード判別処理時にエラーが検出されたため、IMS 制御領域の初期設定に失敗しました。高速機能 MSDB のロード判別処理が失敗しました。詳しくは、この異常終了の前に発行されたエラー・メッセージを参照してください。

くは、この異常終了の前に発行されたエラー・メッセージを参照してください。

- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のステートメントが MSDBABND=Y の場合、MSDBINIT データ・セットのエラーのために MSDB をロードできないときに、この異常終了が発行されます。
- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のステートメントが MSDBABND=C の場合、IMS 始動後の最初のチェックポイントで MSDB を MSDBCPN データ・セットに書き込み中にエラーが発生したときに、この異常終了が発行されます。
- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のカードが MSDBABND=I の場合、上記のオプション「Y」で説明されているように、MSDBINIT データ・セットから MSDB を初期ロード中にエラーが発生したとき、または定義された 1 つ以上の MSDB について MSDBINIT データ・セット内にセグメントがないときに、この異常終了が発行されます。
- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のカードが MSDBABND=A の場合、上記のオプション「C」および「I」で説明された状況のときに、この異常終了が発行されます。
- IMS.PROCLIB の DBFMSDBx メンバーの最初のステートメントが MSDBABND=B の場合、上記のオプション「Y」および「C」で説明された状況のときに、この異常終了が発行されます。

分析

DBFINI10 が ESCDMSDA ビットを設定した場合に、異常終了を発行する DBFINI10 または DBFDL0 から、ゼロ以外の戻りコードが DBFXFP10 へ返されます。

異常終了に入ったときの PSW は、異常終了の発行元の命令ラベル ABEND を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、KEY として使用されます。レジスター 12 は基底レジスターで、レジスター 15 に戻りコードが入っています。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- MSDB テーブル項目が DBFMSDBn (n は IMS.PROCLIB 内の MSDB メンバーの接尾部) に指定された。
- ACBLIB への変更の後、ウォーム・スタートが実行された。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別:

3

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFXFP10、DBFDBDL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1013

説明

従属領域スレッド作成 (スケジューリング呼び出し) 中に、関連する DEDB の DBD に含まれているセグメント数より多いセグメントを PCB が参照していることが、プログラム DBFCPY00 で検出されました。DBFCPY は、DMCB (DMCBSGNNR) からのセグメント・カウントを使用して、セグメント名によって PCB の SDB と SMLTE の突き合わせを試みるループを制御します。

分析

PSB と DEDB の DBD との間に不整合があります。DBD が DBDLIB で変更され、ACBGEN 作成 PSB 処理に使用されました。DBD は ACBLIB で置き換えられなかったことを示す警告が ACBGEN から出されました。DBCTL スレッドについては、メッセージ DFS0526A も発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg14 = DMCB のアドレス	DMCB+8	= 再作成されていない DBD の DBDNAME。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

PSB と DBD の間に不整合があります。DBD が DBDLIB 上で変更されています。ACBGEN が実行されたときに、BUILD PSB は指定されたが BUILD DBD が指定されなかったために、DBD は再作成されませんでした。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFCPY00

関連情報

DFS0526A

1014

説明

モジュール DBFXSL30 が SUSPEND マクロを使用して従属領域を非活動化しようとした。レジスター 4 に戻りコードが入っています。

分析

これは、DBFXSL30 によって発行される標準異常終了です。レジスター 4 に戻りコードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg4=X'01'		従属領域を非アクティブにしようとしている時に、従属領域をアクティブにする試みが以前に複数回行われていたことが判明しました。
Reg4=X'02'		すでに非アクティブにされていた従属領域を非アクティブにする試行がなされました。
Reg4=X'03'		プログラム DBFXSL30 が、LOCAL LOCK を取得できませんでした。
Reg10=EPST のアドレス		エラーの EPST。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

システムの処置

高速機能従属領域は異常終了します。

問題判別

この異常終了の最終的な原因を突き止めるには、レジスター 4 の内容とストレージ・ダンプで十分です。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFXSL30

1015

説明

IMSAUTH SVC で、ストレージのページ固定またはページ解放を試みているときに、問題が検出されました。レジスター 2 に、FIX または FREE が入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH PGFIX/PGFREE 戻りコードが入っています。これらのコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析

1015 は、DBFCSTSO によって発行される標準異常終了です。レジスター 2 に「FIX」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、レジスター 11 に SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'FIX'		ページ固定操作が失敗しました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

DBFDBDLO の場合:

MSDB イメージ・コピー・ロード・モジュール DBFDBDLO が、IMSAUTH マクロを使用する DBFDBDLO によって呼び出されたページ固定/解放モジュール DFSV4200 から、不正な戻りコードを受け取りました。

これは、DBFDBDLO によって発行される標準異常終了です。レジスター 2 に、「FIX」または「FREE」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、レジスター 14 に SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'FIX'	DBDLFIX	ページ固定操作が失敗しました。
Reg2=CL4'FREE'	DBDLFREE	ページ解放操作が失敗しました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

DBFMFLGO の場合:

IMS 高速機能 DEDB 設定フラグ・モジュール DBFMFLGO が、IMSAUTH マクロを使用する DBFMFLGO によって呼び出されたページ固定/解放モジュール DFSV4200 から、不正な戻りコードを受け取りました。

これは、DFMFLGO によって発行される標準異常終了です。レジスター 2 に「FIX」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、レジスター 6 には SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'FIX'		ページ固定操作が失敗しました。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFCSTSO、DBFDBDLO、DBFMFLGO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1016

説明

MSDB イメージ・コピー・ロード・モジュール DBFDBDLO が、チェックポイント論理端末名とシステム論理端末名が一致しないことを検出しました。(チェックポイントの ECNTNAME とシステムの ECNTNAME が等しくありません。)制御ブロックの変更のため、MSDB チェックポイント内の ECNT 名と IMS システム内の ECNT 名とが一致しません。

分析

これは、DBFDBDLO によって発行される標準異常終了です。チェックポイント ECNT は、次の 2 つの場所のいずれかに置くことができます。(1) レジスター 1 によって指し示される入力域、(2) レジスター 7 によって指し示される保管域。レジスター 10 は、システムの ECNT を指します。

キー	ラベル	説明
Reg0= この ECNT の終 AREAENDA = 領域終了 アドレス	DBDLP ROC	レジスター 0 が AREAENDA より高位でない場合は、不一致のチェックポイント ECNT は、レジスター 1 で指示される入力域にあります。レジスター 0 が AREAENDA より高位である場合は、レジスター 7 で指示される保管域にあります。

考えられる原因: 制御ブロックの変更が行われた

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

適切なシステムで IMS を再始動します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFDBDLO

1017

説明

load real address (LRA) 命令を使用して、仮想アドレスを実アドレスに変換しようと試みている MSDB イメージ・コピー・ロード・モジュール DBFDBDLO がエラーを検出し、ゼロ以外の条件コードを設定しました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

分析

これは、DBFDBDLO によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

コード
意味

X'01'
CCW 領域アドレスを変換できませんでした。

X'02'
入力域アドレスを変換できませんでした。

X'03'
IDAW アドレスを実アドレスに変換できませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15= X'01'	DBDLSR D	CCW 領域アドレスを変換できませんでした。
Reg15= X'02'	DBDLM RD DBDLSR D	入力域アドレスを変換できませんでした。
Reg15= X'03'	DBDLM RD	IDAW アドレスを実アドレスに変換できませんでした。

考えられる原因: ハードウェア・エラー、内部プログラム・ロジック・エラー、またはインターフェース・エラーが発生しました。

問題判別

35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFDBDLO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1018

説明

再同期コミット要求中に、順次従属 (SDEP) 処理でエラーが発生しました。

分析

拡張区画仕様テーブル (EPST) にある EPSTUDFI アンカーには、コミットされている順次従属更新レコードのキューが入っています。モジュール DBFDSRPO は、これらのレコードを SDEP バッファへコピーします。SDEP バッファの検索は、DEDB 領域制御リスト (DMAC) のフィールド DMACXNYW から始まり、DMACLYNW で終了します。順次従属更新レコードにある RBA は、DMACXNYW チェーン・アンカーに含まれていなければなりません。チェーンにない場合、モジュールは 1018 で異常終了します。

キー	ラベル	説明
Reg 1		DMACXNYW (SDEP バッファのチェーン) のアドレス
Reg 6		LRST (DBFDSRPO が挿入しようとしている SDEP 更新レコード) のアドレス
Reg 8		この順次従属更新レコードの DMAC アドレス
Reg 9		DMACXNYW からの現行の SDEP バッファ・チェーンのアドレス

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別

1、4、5、6、15、36

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFDSRPO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1019

説明

高速機能キュー・マネージャーに対して無効な呼び出しが行われました。この異常終了は、内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラーが原因です。

分析

レジスター 3 に、ABEND ルーチン用のブランチ・テーブルのアドレスが入っています。異常終了 1019 は、レジスター 3 の内容が 20 から 60 の間か、または 68 より大きい場合にのみ発生します。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

呼び出しインターフェースを訂正するか、または IBM サポートに連絡してください。

問題判別

4、5、11、24

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFHQMIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1020

説明

高速機能の非同期タスク (または OTHREAD タスクのうちの 1 つである非 z/OS システムの非同期タスク) が異常終了したので、IMS の残りを停止するために、この異常終了が発行されます。

分析

これは、DBFFATIO によって発行される標準異常終了です。レジスター 3 に、異常終了した TCB のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg3=T CB アド レス	FPTCBX IT	このルーチンは、DBFFATIO の ATTACH 出口ルーチンに含まれています。非同期タスクから戻るときに、完了コードがゼロ以外の場合は、この異常終了が発行されません。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

問題を訂正してから、ジョブを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DBFFATIO

1021

説明

モジュール *DBFMGAP0* および *DBFMGAP1* の場合:

DEDB ランダム化モジュールから無効なデータが戻されました。次のいずれかの問題が発生しました。

- レジスター 0 が、DEDB 内の有効なアンカー・ポイント・オフセットでない。
- ランダム化モジュール (レジスター 15) からの戻りコードが、0 または 4 ではありませんでした。
- 異常終了時に、レジスター 1 に有効なアドレスが含まれていません。(レジスター 1 は、デバッグ目的のためにレジスター 2 に保管されます。)

モジュール *DBFDADCO* および *DBFDADCS* の場合:

DEDB 変更ユーティリティ、ALTER AREA を実行中に、古いランダムマイザーと新しいランダムマイザーが同じキーに対して異なる AREA を返したことが検出されました。同じキーを使用して異なる AREA にランダム化することは許可されていません。

DEDB 変更ユーティリティーの実行中に、シャドー DEDB ランダマイザーが、変更中の AREA とは異なる AREA (DMAC) を返しました。

分析

この異常終了は、DBFMGAP0、DBFMGAP1、DBFDADCO、および DBFDADCS によって発行される標準異常終了です。ランダム化モジュールは、通常はユーザー提供モジュールです。ユーザーがこのようなモジュールを提供していない場合、システム提供のモジュールを使用できます。システムのサンプルは、DBFHDC40 という名前です。

以下のキーは、モジュール DBFMGAP0 および DBFMGAP1 に対応します。

キー	説明
Reg3、DMACFOVF	レジスター 3 が、DMACFOVF の内容より大か等しくなっています。
Reg15	レジスター 15 が、0 または 4 ではありません。
Reg3、Reg8	レジスター 3 に、返された DMCB への DMAC のポインターが入っています。レジスター 8 に DMCB アドレスが入っています。レジスター 3 がレジスター 8 に等しくありません。
Reg6	異常終了時のレジスター 6 に理由コードが入っています。
	01 異なる DEDB の AREA が、ランダマイザーによって返されました。
	02 次の HSSP AREA の検索を試行中に発生してはならないエラー。
	03 AREA の RAP セクションの外部の CI にランダム化されました。
	04 ランダマイザーが 0 または 4 に等しくない戻りコードを返しました。

以下のキーは、モジュール DBFDADCO および DBFDADCS に対応しています。

キー	説明
Reg 7	レジスター 7 は ACTIVE (現行) DMAC を指しています。
Reg 8	レジスター 8 が、SHADOW DMAC を指しています。

異常終了時の保管域チェーンを見つけてください。次に、現行の保管域より 2 つ高位の保管域を見つけてください。この保管域の RET (R14) スロットに c'rand' があります。R5 を除く残りのレジスターは、ランダム化ルーチンから返されたものです。これらのレジスターを、「IMS V15 出口ルーチン」に記載されている高速処理データベース・ランダム化出口ルーチンについての情報と共に使用すると、ランダム化ルーチンにおける問題の原因を判別するのに役立ちます。

考えられる原因:

モジュール DBFMGAP0 および DBFMGAP1 の場合: ルーチン・エラーのランダム化

モジュール DBFDADCO および DBFDADCS の場合: ステージング ACBLIB のから SHADOW DMCB の新規 RANDOMIZER が無効な方法で変更されました。

システムの処置

高速機能従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

モジュール DBFMGAP0 および DBFMGAP1 の場合: ランダム化モジュールのエラーを訂正します。

モジュール DBFDADCS の場合: ランダマイザーを修正して、DEDB 変更ユーティリティーを再実行します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DBFMGAP0、DBFMGAP1、DBFDADCO、DBFDADCS

1022

説明

LOCESCD マクロが、ESCD によって識別される高速機能 SCD 拡張を見つけることができなかったか、あるいは高速機能モジュールの IMODULE LOAD が失敗しました。レジスター 2 に、マクロで使用される ID が入っています。すべての SCD 拡張が、SCDESCDQ からキューに入れられます。LOCESCD マクロが失敗する場合には、高速機能モジュールからこの異常終了が発行されます。

分析

この異常終了は、高速機能および非高速機能モジュールによって発行されます。SCD アドレスが検査され、また、SCD 内の SCDESCDQ フィールドが検査される必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'ES CD'		高速機能 SCD 拡張 SCD

考えられる原因: 高速機能を備えた IMS システムのリンク内または生成内のエラー。FP=Y パラメーターが欠落しているかどうかを確認します。このパラメーターによって、IMS サブシステムの IMSFP をアクティブにします。

システムの処置

IMS はその領域を異常終了させます。

プログラマーの応答

おそらく、システム定義処理時にバインド・プログラム・エラーがあったか、あるいは SCD が、高速機能が誤ってインストールされていることを示しています。IMODULE LOAD の失敗は、おそらく使用可能ストレージが不十分なためです。

問題判別

35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DBFCNDAR0、DBFCDDBO、DBFCDPS0、DBFCDRCO、
DBFCHKP0、DBFCPID0、DBFCPRC0、DBFCSTS0、
DBFCST00、DBFBAU0、DBFEACLO、DBFENIS0、
DBFENOT0、DBFEPSB0、DBFERST0、DBFERS20、
DBFATC0、DBFFORIO、DBFHIELO、DBFQMIO、
DBFHRTR0、DBFHTMG0、DBFICIRO、DBFICI10、
DBFICLI0、DBFICL20、DBFICL40、DBFINI10、
DBFINI20、DBFINI30、DBFINI40、DBFINTE0、
DBFIRC10、DBFLHCK0、DBFLIRLO、DBFLRH00、
DBFNALC0、DBFNCSB0、DBFNOTM0、DBFNCTX0、
DBFNRS0、DBFSBLK0、DBFTERM0、DBFTOFNO、
DBFTOPU0、DBFTORS0、DBFXFP10、DFSMINIO、
DFSPSTB0、DFSXNCL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

1023

説明

出口ルーチンが受け入れて EMHB バッファーに移した入力メッセージが、IMS システム定義の TERMINAL マクロで定義された最大長よりも大きいことが、高速機能メッセージ入力編集ルーチンで検出されました。

説明

モジュール DBFHIELO は、メッセージ長が EMHB の値より大きいメッセージ接頭語から EMHBMXLN を検出しました。EMHBMXLN は、TERMINAL マクロの FPBUF

パラメーターで指定されたバッファ・サイズから作成されます。

入力メッセージの最初の 2 つの位置には、EMHBMXLN の値より大きい値を指定します。

- レジスター 4= EMHB のアドレス
- レジスター 5= 入力メッセージ・バッファのアドレス

考えられる原因: 以下の原因があります。

- TERMINAL マクロの FPBUF キーワードについてのバッファ・サイズ・パラメーターが、実行している端末に対して小さすぎる。
- 端末からの入力メッセージが長すぎる。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

ユーザー入力編集ルーチンを変更して、EMHBMXLN フィールドを入力メッセージ長と比較し、メッセージ長が EMHBMXLN フィールドより大きい場合は、戻りコード X'1C' を設定するようにします。その場合のメッセージを EMHB バッファーに移動してはなりません。

問題判別

4、10、12、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFHIELO

1024

説明

高速機能アプリケーション・プログラムが、前の GU 呼び出しで QC 状況コードを受け取った後で、入出力 PCB に対して GU 呼び出しを発行しました。

分析

QC 状況コードの受信について、アプリケーション・プログラムを終了させる必要があります。プログラムを訂正し、再実行してください。

考えられる原因: アプリケーション・プログラム・エラー

システムの処置

IMS は、疑似異常終了を伴ってメッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムを異常終了させます。

プログラマーの応答

QC 状況コードが出されたら、入出力 PCB に対して別の GU 呼び出しを発行する代わりに、プログラム・コントローラーへ戻るようにします。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFHGU10、DFSECP10、DFSISI00

1025

説明

DL/I 呼び出しが高速機能呼び出しアナライザーによって処理された後、モジュール DBFIRC10 によって無効な戻りコードが検出されました。

分析

DBFHSYNO の場合:

DL/I 呼び出しが高速機能呼び出しアナライザーによって処理された後、モジュール DBFHSYNO が無効な戻りコードを検出しました。

これは、DBFHSYNO によって発行される疑似異常終了です。高速機能呼び出しアナライザーからの戻りでは、0、4、8、12、または 16 の戻りコードのみが有効です。1025 異常終了ルーチンは、共通ルーチンです。レジスター 8 は、次の表に示すような呼び出しルーチンを指示します。

キー	ラベル	説明
Reg5=RC Reg8= エラー が検出された命令のアドレス		異常終了を呼び出すルーチンです。高速機能呼び出しアナライザーからの戻りコードです。

DBFIRC10 の場合:

DL/I 呼び出しが高速機能呼び出しアナライザーによって処理された後で、プログラム DBFIRC10 が無効な戻りコードを検出しました。

高速機能呼び出しアナライザーからの戻りでは、0、4、8、12、または 16 の戻りコードのみが有効です。1025 異常終了ルーチンは、共通ルーチンです。レジスター 8 は、次の表に示すような呼び出しルーチンを指示します。

キー	ラベル	説明
Reg7=RC Reg8= エラー が検出された命令のアドレス		異常終了を呼び出すルーチンです。高速機能呼び出しアナライザーからの戻りコードです。

考えられる原因: 内部プログラム・エラー。

システムの処置

IMS、高速機能アプリケーション・プログラムを異常終了させます。

プログラマーの応答

問題判別を続行します。

問題判別

1、4、5、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFHSYNO、DBFIRC10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1026

説明

IMS 高速機能モジュールが問題の状態を検出し、その状態を記述するために DBFDEBUG マクロを発行しました。

分析

1026 は、さまざまなモジュールによって発行される標準異常終了です。

異常終了がハード異常終了の場合、DBFDEBUG 呼び出しが行われなため、DFS2712I メッセージは生成されません。異常終了時のレジスターは、すべてのハード異常終了の場合と同様に、RTM2WA にキャプチャーされます。

異常終了が DBFDEBUG マクロ内で見付かった場合は、モジュール名と異常終了の理由が DBFDEBUG マクロによって表示されます。

異常終了が DBFDEBUG マクロ内で見つかった場合、モジュールの名前、レジスターの内容、および (モジュールによっては) レジスター内の数値コードについては、異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2712I を参照してください。以下は、メッセージ DFS2712I で表示される情報の例です。

```
DFS2712I  MODULE NAME:  DBFMDLT0
DFS2712I  DEDB PROBABLY HAS ERROR IN IT
DFS2712I  ABEND SUBCODE:  54
DFS2712I  R0-R3      00000006 00000054 0059B126
0061C85C
DFS2712I  R4-R7      0061C9C4 005DCBF4 00000000
00000000
DFS2712I  R8-R11     007FDC30 007AAD98 00927040
00973AC0
DFS2712I  R12-R15    005F6A50 009195E4 00000004
0061C8DC
```

IBM ソフトウェア・サポートにこの問題の追求を要請したい場合は、異常終了の時点までの DFS2712I メッセージ、ダンプ (ある場合)、最後の正常なイメージ・コピー、および最後の正常なイメージ・コピーからのすべてのログ・レコードを保存してください。

サブコードの要約:

2 桁の 16 進数サブコードの最初の桁は、検出されたエラーの一般タイプを表します。2 番目の桁は、さらに具体的なエラーのタイプを示します。モジュール内で同じサブコードの最初のオカレンスが X'0xx'、2 番目のオカレンスが X'1xx'、3 番目のオカレンスが X'2xx' などとなります。例えば、サブコード X'33' が必要な場合、最初の無効なサブコードは X'033'、2 番目は X'133'、3 番目は X'233' などになります。サブコードには次の意味があります。

サブコード (16 進数)

意味

- 1x** インターフェース・エラー (無効なパラメーターが提供された)
- 10** ゼロの値が提供されたが、ゼロ以外の値が要求された
- 11** 無効なタイプまたは機能コードが提供された
- 12** 無効な長さまたはオフセットが提供された
- 13** 呼び出し元によって規則が破られた (例えば、呼び出し元が、すでに保持しているラッチを取得しようとしている)
- 14** 呼び出し元が無効なパラメーターを渡した
- 2x** 制御ブロックの内容が無効

- 20** ゼロのポインターが検出されたが、ゼロ以外のポインターが必要
- 21** 無効なポインター
- 22** 制御ブロック・タイプが正しくない
- 23** 未使用
- 24** チェーン上でアイテムが見つからない
- 25** 無効なレベルが検出された
- 27** DBFSLGE0 が無効な長さのデータ変更を戻した
- 3x** 予期しない戻りコード
- 30** ISWITCH からの戻りコード
- 31** GETMAIN からの戻りコード
- 32** IMSAUTH PGFIX からの戻りコード
- 33** 一般的な戻りコード・エラー
- 34** 予期しない状況コード
- 5x** DEDB の内容が無効
- 50** 無効なセグメント・コード 0
- 51** この CI に対してブロック・タイプが正しくない
- 52** セグメント・コードを分類できない
- 53** セグメント・コードが期待値と一致しない
- 54** チェーン上でセグメントが見つからない
- 55** CI 内容をスキャンできない (長さが正しくない)
- 56** 無効な FSE
- 57** RBA が有効な範囲外である
- 58** 独立オーバーフローには無効な制御 CI
- 59** 無効なセグメント長

5A

PROCOPT=GO の下で無効なセグメント・コードまたはポインタ・エラーが検出された。PROCOPT は GOx が戻されることを予期していたが、受け取ったのは別のものだった。

5B

PCB に対する VIEW=MSDBL が指定されていない FLD 呼び出し時に、無効なセグメント・コードまたはポインタ・エラーが削除された

6x

無効な MSDB 内容

61

不良セグメントをデキューしようとした

62

不良セグメントをエンキューしようとした

7x

HSSP 無効条件が検出された

70

要求された HSSP バッファの数が、取得された HSSP バッファの数よりも大きい

71

DL/I 呼び出しが無効な領域に対して行われた

72

DL/I 呼び出しが不正な UOW に対して行われた

80

DENDRDF と CI RDF が一致しない

81

DENDRRBA と DMHRSRBA が一致しない

以下のセクションでは、各モジュールについて次の情報が示されています。

- DFS2712I メッセージ・テキスト (1つのモジュールが複数のメッセージを発行する場合があります。)
- サブコード
- 有益な診断情報が含まれたフィールド
- レジスタの内容

DBFARDC0、DBFCST50、DBFDT190、DBHCAS0、DBFSYN10、DBFSYN20、DBFMSRT0、DBFUHDS0、DBFVSOP0、DBFVXO10 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスタ内容

0

ESCDSYNL フィールドの内容

1

サブコード

2

ESCD のアドレス

10

EPST のアドレス

DBFCST50 の場合:

メッセージ・テキスト: no text supplied

キー	ラベル	説明
Subcode =X'9D'		DENDRRBA および DMHRSRBA 間の不一致。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスタ内容

0

DENDRRBA 値

3

DMHR アドレス

15

サブコード

DBFATRM0 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' または X'113'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとした (ESCDSYNL)。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスター内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス
- 10 EPST のアドレス - EPSTR1SL は、Reg10 + X'B5' = X'80' に設定されます

DBFBENQO の場合:

メッセージ・テキスト: ATTEMPT TO DEQUEUE BAD MSDB RECORD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'61'		無効な MSDB レコードをデキューしようとした。

メッセージ・テキスト: ATTEMPT TO ENQUEUE BAD MSDB RECORD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'62'		無効な MSDB レコードをエンキューしようとした。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスター内容

- 1 サブコード
- 6 無効な 10 進数フィールドを持つセグメントの接頭部のアドレス
- 9 この呼び出しの MSNQLIST のアドレス

DBFBGETO の場合:

メッセージ・テキスト: ATTEMPT TO ENQUEUE BAD MSDB RECORD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'62'		無効な MSDB レコードをエンキューしようとした。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスター内容

- 1 サブコード
- 2 無効な 10 進数フィールドを持つセグメントの接頭部のアドレス
- 9 この呼び出しの MSNQLIST のアドレス

DBFCHKPO の場合:

メッセージ・テキスト: DMAC CONTENTS ARE INVALID

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'	CP841 000	DMACRAID (DMAC+70) が正しくないか、DMACOUSZ (DMAC+78) が X'0078' に等しくないか、DMACHRAF (DMAC+7A) が X'0002' に等しくないか、DMACDMCB (DMAC+B8) が DMCB を指していないか、DMACDBNM (DMAC+4) のデータベース名が DMCBNAME (DMCB+8) に等しくありません。

レジスター内容

- 1 1026 異常終了サブコード
- 2 4084 ログ・レコードの DMAC のスロット
- 3 4084 ログ・レコードのアドレス
- 5 DMAC アドレス
- 9 DMCB アドレス
- 10 EPST 再始動アドレス
- 11 ESCD アドレス

12

CHKPDMCB サブルーチン・ベース

15

データベース内の地域番号

DBFDAC50 の場合:

メッセージ・テキスト: BAD RBA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'57'		セグメントの RBA を含むバッファーが見つかりません。
Reg7=望ましい開始 RBA		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター
内容

- 1 サブコード
- 2 DAC1 アドレス
- 3 DAC2 アドレス
- 8 DMCB アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		現行のセグメント・コードが、現行のバッファ位置にあるセグメント・コードと一致しません。
Reg6=現行バッファ位置のセグメント・コード		
Reg7=現行セグメント・コード		

キー	ラベル	説明
Subcode=X'153'		現行のセグメント・コードが、SDBF 内のセグメント・コードと一致しません。
Reg4=SDBF アドレス		
Reg7=現行セグメント・コード		
Reg14=SDBF 内のセグメント・コード		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター
内容

- 1 サブコード
- 2 DAC1 アドレス
- 3 DAC2 アドレス
- 8 DMCB アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

メッセージ・テキスト: UNABLE TO GET IOVF BUFFER
メッセージ・テキスト: UNABLE TO GET IOVF BUFFER - INCREASE BUFNO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'43'		IOVF バッファを取得できません。この問題は、DEDB 変更ジョブの BUFNO 値を大きくすると、修正される場合があります。
Reg7=IOVF CI の開始 RBA		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター
内容

- 1 サブコード

3 DBPCB アドレス

4 サービスの診断サブコード、または 0

8 DMAC アドレス

10 EPST アドレス

11 ESCD アドレス

DBFDRSCO の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode= X'13'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとしてました (ESCDSYNL)。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' ま たは X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとしてました。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' ま たは X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとしてました。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

0 ESCDSYNL フィールドの内容

1 サブコード

2 ESCD のアドレス

10 EPST のアドレス

DBFMCCV9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN THIS MODULE

キー	ラベル	説明
Subcode= X'11'		EPSTSWAR (Reg10 + X'320') の先頭文字は、空白 (X'40') か左括弧 (X'4D') でなければなりません。どちらも検出されませんでした。空白または左括弧が検出されないと、モジュールは、この位置に達することができません。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

1 サブコード

3 EPCB アドレス

4 MLTE アドレス

6 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト

10 EPST アドレス

11 ESCD アドレス

DBFMCRP9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode= X'53'		親セグメント・コードが、親 MLTE から要求されたセグメント・コードと一致しません。DBFMPCGO0 が呼び出され、戻りコード X'24' が発行されました。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') に、バッファのアドレスが入っています。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 2 親 MLTE のアドレス
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 6 バッファ内へのセグメントへのオフセット
- 7 親セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 8 親 MLTESGCD のアドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMCSS9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'	DEBU G	取得したセグメントのセグメント・コードが、セグメント・タイプに定義されたコードと一致しません。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 0 バッファ内へのセグメントへのオフセット
- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス (EPCB + X'48' に DMAC アドレスが入る)
- 4 MLTE アドレス
- 5 ESCD アドレス
- 8 親 MLTESGCD のアドレス
- 9 DMHR アドレス (DMHR + X'10' はバッファ・アドレス)

DBFMCTLO の場合:

メッセージ・テキスト: LOGIC ERROR IN DBFMCTLO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'11'	LOGERR OR	無効な関数型が検出されました。Get Next (GN) 関数 X'40' が要求されました。
Subcode=X'33'	LOGERR OR	レジスター 1 の DBFMSSA9 から返された RCRO 値が、予期されており 0、4、8、または 12 ではありませんでした。
Subcode=X'53'	DEBUG	MLTESGCD が、レジスター 2 で指示された DSEGCODE に等しくありませんでした。DBFMPCG00 が呼び出され、DBFMRCSS マクロから異常終了が発行されました。DMHRBUF (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMDLTO の場合:

メッセージ・テキスト: DEDB PROBABLY HAS ERROR IN IT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'054'	Reg15=直前のセグメントの MLTE のアドレス	直前のセグメントが親で、それが予期されるセグメント・コードと一致しません。
Subcode=X'154'		直前のセグメントが兄弟で、それが予期されるセグメント・コードと一致しません。
Subcode=X'254'		直前のセグメントがルートで、それが予期されるセグメント・コードと一致しません。
Subcode=X'354'		直前のセグメントがルートで、物理第 1 子 (PCF) がセグメントへのポインタと一致しません。
Subcode=X'454'		直前のセグメントが兄弟で、物理兄弟順方向 (PTF) がセグメントへのポインタと一致しません。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスタ 内容

- 0** ダンプされるデータの長さ (6 バイト)
- 1** サブコード
- 2** 削除されるセグメントの MLTE のアドレス
- 3** EPCB アドレス
- 8** セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 9** DMHR アドレス
- 10** EPST アドレス
- 11** ESCD アドレス

DBFMDPT9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'	LOGERR OR	MLTENRBA 内の順方向ポインタが 0 です。

キー	ラベル	説明
Reg0=MLTENRBA		次のセグメントのアドレス

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'	ABND10	親セグメントの MLTE セグメント・コード (Reg14 + X'1E') が、レジスタ 8 で指示されるセグメントのセグメント・コードに等しくありません。マクロ DBFMRDPS から異常終了が発行されます。
Reg8=MLTECLO	26	C、親セグメントのアドレス
Reg14=MLTEPARP (Reg4 + X'3C')		親セグメントの MLTE のアドレス

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスタ 内容

- 1** サブコード
- 3** EPCB アドレス
- 4** MLTE アドレス
- 9** DMHR アドレス
- 10** EPST アドレス
- 11** ESCD アドレス

DBFMDRBO の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		DSEGCODE (R7 + X'00') 内の値は、ルート・セグメントを示す X'01' でしたが、別の値が検出されました。
Subcode=X'54'		ルート・ポインタ (Reg7) が、チェーンの終わりを示す 0 になっていますが、チェーンが終わってはなりません。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスター
内容

- 1 サブコード
- 2 MLTE アドレス
- 3 EPCB アドレス
- 5 DFSE アドレス
- 7 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 8 DMAC アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 15 DMCB アドレス

DBFMDSG9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53' ' Reg5=セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト		レジスター 5 で指示されたセグメント・コードが、SDBSC (Reg4 + X'11') 内の SDBF セグメント・コードに等しくありません。マクロ DBFMRDTS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') に、バッファのアドレスが入っています。
Subcode=X'153' 3' Reg2=子 SDBF のアドレス、Reg6=セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト		レジスター 6 で指示されたセグメント・コードが、子 SDBF セグメント・コード (Reg2 + X'11') に等しくありません。マクロ DBFMRDDS から異常終了が発行されます。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスター
内容

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 SDBF アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス



重要: MLTE は、DBFMDSG9 では使用できません。

DBFMFLG0、DBFSDEQ0、DBFSMP10 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとしてしました (ESCD SYNL)。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとしてしました。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとしてしました。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

レジスター
内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容

- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス
- 10 EPST のアドレス

DBFMFSEO の場合:

メッセージ・テキスト: LENGTH PARM (R7) INVALID

キー	ラベル	説明
Subcode=X'12'	MFSED	レジスター 0 の長さ (レジ
Reg2=MLTE アド	LET	スター 7 で渡された長さ
Reg3=EPCB アド		に基づいて計算される)
Reg5=DFSE アド		が、DMACBLKL の長さよ
Reg7=下位 2 バ		り大です。
イトに入ってい		
る長さ要求		

メッセージ・テキスト: FSE CHAIN IS BAD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'12'	FSEB	FSE の長さが、物理レ
Reg2=MLTE アドレス	AD	コード長によって許可
Reg3=EPCB アドレス		されている長さより大
Reg5=DFSE アドレス		です。
Reg7=下位 2 バイトに入		
っている長さ要求		
Subcode=X'112'		
Reg2=MLTE のアドレ		
ス		
Reg5=バッファ		
の FSE のオフ		
セット		
Reg6=モジュール		
内でエラーが検		
出された位置		
のアドレス (BAL 命		
令から)		
Reg8=DMAC のアドレ		
ス		
Reg9=バッファ		
のアドレス		

メッセージ・テキスト: FREE IOVF CI HAS WRONG UOW#

キー	ラベル	説明
Subcode=X'41'	MFSE	解放された IOVF CI
Reg2=MLTE アド	DLET	UOW が EPCBUOWO に
レス		等しくありません。不適
Reg3=EPCB アド		切な IOVF CI ヘセグメン
レス		

キー	ラベル	説明
Reg5=DFSE アド		トを挿入しないようにし
レス		てください。
Reg8=DMAC のア		
ドレス		
Reg9=バッファ		
のアドレス		

メッセージ・テキスト: FREE DOVF CI HAS WRONG UOW#

キー	ラベル	説明
Subcode=X'42'	MFSEDL	解放された DOVF CI
Reg2=MLTE アドレ	T	UOW が EPCBUOWO
ス		に等しくありませ
Reg3=EPCB アドレ		ん。不適切な DOVF
ス		CI ヘセグメントを挿
Reg5=DFSE アドレ		入しないようにして
ス		ください。
Reg8=DMAC のア		
ドレス		
Reg9=バッファ		
のアドレス		

メッセージ・テキスト: FSE CHAIN IS BAD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'56'	FSE	FSE へのオフセットが、物
Reg2=MLTE のアド	BAD	理レコード長によって許可
レス		されている長さより大
Reg5=バッファ		です。
の FSE のオフ		
セット		
Reg6=モジュール		
内でエラーが検		
出された位置		
のアド		
レス (BAL 命		
令から)		
Reg8=DMAC のア		
ドレス		
Subcode=X'156'	FSE	FSE 標識 (X'80') が、レコー
Reg2=MLTE のアド	BAD	ドの FSE チェーンにある
レス		次の FSE に設定されてい
Reg5=バッファ		ません。
の FSE のアドレ		
ス		
Reg6=モジュール		
内でエラーが検		
出された位置		
のアド		
レス (BAL 命		
令から)		
Reg8=DMAC のア		
ドレス		

キー	ラベル	説明
Subcode=X'256' Reg2= MFSEWORK (サブ ルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ ーの FSE のオフセ ット Reg7 モジュール内 でエラーが検出さ れた 位置のアドレ ス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のア ドレス	FSE ERR	最初の FSE へのオフセッ トが、物理レコード長によ って許可されている長さよ り大です。
Subcode=X'356' Reg2= MFSEWORK (サブ ルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ ーの FSE のオフセ ット Reg7 モジュール内 でエラーが検出さ れた 位置のアドレ ス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のア ドレス	FSE ERR	最初の FSE へのオフセッ トが、物理レコード長によ って許可されている長さよ り大です。
Subcode=X'456' Reg2= MFSEWORK (サブ ルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ ー内の FSE オフセ ット (エラーの FSE) Reg7 モジュール内 でエラーが検出さ れた 位置のアドレ ス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のア ドレス	FSE ERR	FSE 標識 (X'80') が、バッ ファの FSE に設定されて いません。
Subcode=X'556' Reg2= MFSEWORK (サブ ルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ ー内の FSE オフセ ット (現行の FSE) Reg7 モジュール内 でエラーが検出さ	FSE ERR	次の FSE へのオフセット が、現行の FSE の値より大 です。チェーンは、エラー になります。

キー	ラベル	説明
れた 位置のアドレ ス (BAL 命令から) Reg8= DMAC のア ドレス		
Subcode=X'656' Reg2= MFSEWORK (サブ ルーチンの保管域) のアドレス Reg5=バッファ ー内の FSE オフセ ット (エラーの FSE) Reg6=バッファ ー内の FSE アドレス (エラーの FSE) Reg7 モジュール内 でエラーが検出さ れた 位置のアドレ ス (BAL 命令から)	FSE ERR	FSE 標識 (X'80') が、FSE の チェーンにある直前の FSE に設定されていません。
Subcode=X'756' Reg2= MFSEWORK (サブ ルーチンの保管域) のアドレス Reg7 モジュール内 でエラーが検出さ れた 位置のアドレ ス (BAL 命令から)	FSE ERR	新規に割り振られた独立オ ーバーフロー CI のオフセ ット 8 に FSE がありません。
Subcode=X'856' Reg2= MFSEWORK (サブ ルーチンの保管域) のアドレス Reg7 モジュール内 でエラーが検出さ れた 位置のアドレ ス (BAL 命令から)	FSE ERR	新規に割り振られた独立オ ーバーフロー CI のオフセ ット 8 に FSE がありません。
Subcode=X'956' Reg2=MLTE のアド レス Reg5=バッファ ーの FSE のオフセ ット Reg6=モジュール 内でエラーが検出 された位置のアド レス (BAL 命令か ら) Reg8= DMAC のア ドレス	FSE BAD	解放されたスペースの先頭 バイトが、すでにゼロにな っています。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'A56'	FSE	直前の FSE が、この呼び出しで解放されるスペースまで拡張されています。
Reg2=MLTE のアドレス	BAD	
Reg5=バッファの FSE のオフセット		
Reg6=モジュール内でエラーが検出された位置のアドレス (BAL 命令から)		
Reg8= DMAC のアドレス		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 内容

- 1 サブコード
- 9 バッファのアドレス

メッセージ・テキスト: BAD RBA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'57'		バッファ内のレコードの開始 RBA が、解放されるスペースの RBA より大です。
Reg15= バッファ内のレコードの開始 RBA		
Subcode=X'157'		バッファ内のレコードの終了 RBA が、解放されるスペースの RBA 以下です。
Reg15= バッファ内のレコードの終了 RBA		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 内容

- 1 サブコード
- 2 MLTE のアドレス
- 8 DMAC のアドレス
- 9 バッファ・ヘッダーのアドレス (DMHR)

メッセージ・テキスト: IOVF CONTROL FSAP WAS BAD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'58'	CKFS	DBLBKTDW の検査
Reg2=MFSEWORK アドレス	AP	で、スペースは使用可能ですがエラーが検出されました。
Reg3=EPCB アドレス		DHMR アドレスは、レジスター 2 + X'2C' (SAVE9) に入っています。
Reg6=DFSE アドレス		
Reg9=DBLK アドレス (ダンプされる位置へのポインター)		
Reg15= ダンプするバイト数		

メッセージ・テキスト: IOVF CONTROL WORD WAS BAD

キー	ラベル	説明
Subcode=X'158'	CKF	DBLBKTDW の検査で、スペースが使用不可です。
Reg2=MFSEWORK アドレス	SPT	DHMR アドレスがレジスター 2 + X'2C' (SAVE9) に入っています。
Reg3=EPCB アドレス		
Reg6=DFSE アドレス		
Reg9=DBLK アドレス (ダンプされる位置へのポインター)		
Reg15= ダンプするバイト数		

キー	ラベル	説明
Subcode=X'258'	CKFSPT	DBLBKTDW の検査で、スペースは使用可能ですがエラーが検出されました。DHMR アドレスは、レジスター 2 + X'2C' (SAVE9) に入っています。
Reg2=MFSEWORK アドレス	UPCTLC	
Reg3=EPCB アドレス	I	
Reg6=DFSE アドレス		
Reg9=DBLK アドレス (ダンプされる位置へのポインター)		
Reg15= ダンプするバイト数		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 内容

- 1 サブコード

7

bit0=X'0' (削除) の場合、バイト 1 から 3 は、削除するバイト数です。bit0=X'1' (挿入) の場合、バイト 1 から 3 は UOW ID です。

8

DMAC アドレス

10

EPST アドレス

11

ESCD アドレス

DBFMGLA9 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'	DEB UG	PTRPMLTE (Reg2) がゼロ (Reg14) です。この値は無効です。
Subcode=X'120'	DEB UG	レジスター 7 (MLTECRBA - Reg4 + X'14') のポインタがゼロです。ゼロ・ポインタは無効です。
Subcode=X'53' Reg2= 親 MLTE Reg6= バッファ ー内のセグメン トへのオフセッ ト Reg7= 親セグメ ントのアドレス、 DSEGCODE が先 頭バイト	DEB UG	親セグメント (Reg7 で指示される) の DSEGCODE が、親 MLTESGCD (Reg2 + X'1E') と同じではありません。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。
Subcode=X'33'	LOG ERR O2	DBFMCCS9 から無効な戻りコードを受け取りました。0、4、8、および 12 は無効な戻りコードです。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

1

サブコード

3

EPCB アドレス

4

MLTE アドレス

10

EPST アドレス

11

ESCD アドレス

DBFMGNRO の場合:

メッセージ・テキスト: WRONG SEGMENT CODE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		DBFMPG00 からの戻りコードが 24 です。この戻りコードは、無効なセグメント・コードであることを示します。

**レジスター
内容**

0

MLTE アドレス

1

サブコード

3

EPCB アドレス

4

DMCBARTD アドレス

5

DBLK アドレス

7

EPCBCRBA - 現行セグメントの RBA

8

X'01' A(DSEGCURT)

10

EPST アドレス

11

ESCD アドレス

メッセージ・テキスト: DL/I CALL IS TO AN INVALID AREA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'71'		DL/I 呼び出しが、この EPCB に対して無効な領域に対する呼び出しです。
Subcode=X'171'		DL/I 呼び出しが、この EPCB に対して無効な領域に対する呼び出しです。

**レジスター
内容**

1

サブコード

7

ESCD のアドレス

8 DMAC のアドレス

メッセージ・テキスト: SETR area table error

キー	ラベル	説明
Subcode= X'71'		DBFHSSR からの戻りコードがゼロでなく、レジスター 0 にある新規の DMAC アドレスがヌルです。これは、SETR 領域テーブルにエラーがあることを示しています。

レジスター
内容

- 1** サブコード
- 3** EPCB のアドレス
- 7** ESCD のアドレス
- 8** DMAC の直前のアドレス

DBFMGNX0 の場合:

メッセージ・テキスト: WRONG SEGMENT CODE

キー	ラベル	説明
Subcode= X'53'		MLTESGCD (Reg8 に保管され、Reg4 + X'1E' で検出される) が DSEGCODE (Reg7 で指示されるセグメントの先頭バイト) に等しくありません。マクロ DBFMRCSS から異常終了が発行されます。DMHRBUF (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

レジスター
内容

- 1** サブコード
- 3** EPCB アドレス
- 4** MLTE アドレス
- 6** バッファ内のセグメントへのオフセット
- 7** セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 8** MLTESGCD

9 DMHR アドレス

10 EPST アドレス

11 ESCD アドレス

DBFMGPDO の場合:

メッセージ・テキスト: SEGMENT CODE OF SDEP IS NOT X'02'

キー	ラベル	説明
Subcode= X'53'		セグメント・コードが予期されるセグメント・コードと異なっています。テスト対象のセグメントは、順次従属 (SDEP) ですが、セグメント・コードが X'02' ではありません。

レジスター
内容

- 1** サブコード
- 3** EPCB アドレス
- 8** DMAC アドレス
- 9** セグメント・データのアドレス
- 10** EPST アドレス
- 11** ESCD アドレス

DBFMGPFO の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode= X'30'		ISWITCH 障害
Subcode= X'130'		ISWITCH 障害
Subcode= X'31'		IMODULE GETMAIN - CSA ストレージ不足が起きている可能性があります。
Subcode= X'32'		IMSAUTH ページ固定エラー - 実ストレージ不足が起きている可能性があります。

レジスター
内容

- 1 サブコード
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 15 戻りコード

DBFMGRFO の場合:

メッセージ・テキスト: DEDB PROBABLY HAS ERROR IN IT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'150' Reg6=セグメントのアドレス、 DSEGCODE が先頭バイト Reg7=最後のセグメント・ポインタ ー RBA Reg14=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg15=DMC B アドレス	NEXT ITEM	セグメントの先頭バイトである DSEGCODE (Reg2 + X'00') が X'00' です。
Subcode=X'152' Reg6=セグメントのアドレス DSEGCODE が先頭バイト Reg7=最後のセグメント・ポインタ ー RBA Reg14=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg15=DMC B アドレス	NEXT ITEM	これはセグメントではありませんでした。スクラップとして処理するための検査で、レジスター 2 の長さがゼロでした。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'152' Reg6=セグメントのアドレス DSEGCODE が先頭バイト Reg7=最後のセグメント・ポインタ ー RBA Reg14=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg15=DMC B アドレス	NEXT ITEM	これはセグメントではありませんでした。スクラップとして処理するための検査で、レジスター 2 の長さが、FSE の長さ DFSEPLEN (DFSE + X'02') より大でした。
Subcode=X'153' Reg6=セグメントのアドレス、 DSEGCODE が先頭バイト Reg7=最後のセグメント・ポインタ ー RBA Reg14=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg15=DMC B アドレス	NEXT ITEM	DSEGCODE (DSEG + X'00') が、有効セグメント、スクラップ (X'7x')、および FSE (X'Fx') に関してテストされました。これらのうちどれも検出されなかったため、セグメント・コードは無効です。
Subcode=X'153' Reg5=サブルーチンからのリターン・アドレス Reg6=セグメントのアドレス DSEGCODE が先頭バイト	RUNC HAIN	DSEGCODE (DSEG + X'00') は、X'01' でなければなりません。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'253' Reg5=サブチェーンからのリターン・アドレス Reg6=セグメントのアドレス DSEGCODEが先頭バイト	CHEC KBLK	DSEGCODE (DSEG + X'00') は、X'01' でなければなりません。別の値が検出されたため、DBFMFG00 に分岐しました。レジスター 15 に入っている DBFMFG00 からの戻りコードは、X'24' です。
Subcode=X'155' Reg5=サブチェーンからのリターン・アドレス Reg6=検索対象の次のセグメントのRBA Reg7=バッファ内のデータを越えた先頭バイトのRBA	SCAN APB	検索対象の次のセグメントのアドレスであるレジスター 6 のアドレスが、EPCBRBA (EPCB + X'4C') からの最大有効ポインター・アドレスであるレジスター 7 のアドレスより大です。
Subcode=X'255' Reg5=サブチェーンからのリターン・アドレス Reg6=検索対象の次のセグメントのRBA Reg7=バッファ内のデータを越えた先頭バイトのRBA	SCAN ANY	検索対象の次のセグメントのアドレスであるレジスター 6 のアドレスが、EPCBRBA (EPCB + X'4C') からの最大有効ポインター・アドレスであるレジスター 7 のアドレスより大です。
Subcode=X'157' Reg5=サブチェーンからのリターン・アドレス	GETB LOCK	セグメントのRBAが無効です。ブロック長によって分割されてアンカー・ポイントRBAとなるレジスター 7 のアドレス (EPCBRBA (EPCB+X'4C') からの) が、DMACFROW (DMAC +X'84') より大きい値です。レジスター 7 は、データのRBAであり、DMACFROW は、再編成作業域の始まりを示します。

レジスター内容

- 1 サブコード
- 2 MLTE アドレス
- 3 EPCB アドレス
- 8 DMAC アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMIRC9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'		MLTECRBA (Reg4 + X'14' から読み込まれる Reg0) がゼロに等しくなっています。
Subcode=X'120'		MLTENRBA (Reg4 + X'04' から読み込まれる Reg8) がゼロに等しくなっています。
Subcode=X'53'		親の MLTESEGC (Reg14 + X'1E') が、親 DSEGCODE (Reg8 + X'00') に等しくありません。マクロ DBFMRDPS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

レジスター内容

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMIRTO の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		親セグメントの MLTESGCD (Reg2 + X'1E') が、レジスター 7 で指示される親セグメントのセグメント・コードに等しくありません。DMHRBUF (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。DBFMRDPS マクロから異常終了が発行されます。
Subcode=X'153'		DSEGCODE (Reg6 + X'00') が X'01' に等しくありません。これは、ルート・セグメントでなければなりません。
Subcode=X'253'		MLTESGCD (Reg4 + X'1E') が DSEGCODE (Reg6 + X'00') に等しくありません。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 1** サブコード
- 3** EPCB アドレス
- 4** MLTE アドレス
- 6** セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 8** DMAC アドレス
- 9** DMHR アドレス
- 10** EPST アドレス
- 11** ESCD アドレス

DBFMLOPO の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとした (ESCDSYNL)。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 0** ESCDSYNL フィールドの内容
- 1** サブコード
- 2** ESCD のアドレス
- 10** EPST のアドレス

DBFMOCIO の場合:

メッセージ・テキスト: DMACBLKL EXCEEDS MAXIMUM CI SIZE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'55'	MOCICBU F	DMACBLKL (DMAC+7C) が、最大 DEDB バッファ・サイズ ESCDBUFL (ESCD+10C) を超えています。

**レジスター
内容**

- 0** ESCDBUFL
- 1** 1026 異常終了サブコード
- 2** DMAC アドレス

6 DMACBLKL からの不正なバッファ・サイズ

11 ESCD アドレス

DBFMPI9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode= X'53'	ABND1 026	親 MLTESGCD (Reg14 + X'1E') が、親 DSEGCODE (Reg8 + X'00') に等しくありません。DBFMRDPS マクロから異常終了が発行されます。DMHRDMAC (Reg9 + X'20') に、DMAC のアドレスが入っています。DMHRBUF (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode= X'00'	LOGERR OR	モジュールは、どんな状況下でも、この時点ではこのラベルに移動しません。

通常のレジスタの使用法は、以下のとおりです。

**レジスタ
内容**

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 6 バッファ内のセグメントのオフセット
- 8 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 14 親 MLTE のアドレス

DBFMPI9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode= X'53'		レジスタ 2 で指示されたセグメント・コードが、MLTESGCD (Reg4 + X'1E') 内の MLTE セグメント・コードに等しくありません。マクロ DBFMRDCS から異常終了が発行されます。DMHRBUF (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

**レジスタ
内容**

- 1 サブコード
- 2 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 6 バッファ内のセグメントへのオフセット
- 7 バッファの RBA
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMPSG9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'25'	ABND 1026	DBPCBLEV (Reg2 + Reg2= PSB プール (EPCB + X'10' からの) にある PCB のアドレス) の値が 1 より大です。マクロ DBFMCLBS から異常終了が発行されます。
Subcode=X'53'	ABND 1026	親 MLTE セグメント・コード (Reg14 + X'1E') が、予期されている親 DSEGCODE (Reg8 + X'00') に等しくありません。マクロ DBFMRDPS から異常終了が発行されます。DMHRBUF (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN THIS MODULE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'11'	LOGE RROR	無効なコマンド・コードが検出されました。レジスター 6 の値が負であるか、または 3 より大きい値です。モジュールは、コマンド・コード S、W、Z、または M のみを処理します。
Reg6= MLTE + X'57'		
Offset 0=S, 1=W, 2=Z, 3=M で始まるコマンド・コードのテーブルへのオフセット		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMPSI9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		親 MLTESEGC (Reg14 + X'1E') が、親 DSEGCODE (Reg7 + X'00') に等しくありません。マクロ DBFMRDPS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス

- 6 バッファ内のセグメントのオフセット
- 7 親セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 14 親 MLTE のアドレス

DBFMPUGO の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'	DEB	直前の MLTE ポインターがゼロに等しくなっていますが、これは無効です。
Reg8=DMAC アドレス	UG	
Reg9=0		
Subcode=X'120'	DEB	MLTEPARP (Reg4 + X'3C') のポインターがゼロですが、これは無効です。
Reg8=DMAC アドレス	UG	
Reg9=0		
Subcode=X'53'	DEB	直前のセグメントの MLTESGCD (Reg2 + X'1E') が、直前のセグメントの DSEGCODE に等しくありません。MLTECLOC (Reg2 + X'00') は、直前のセグメントのアドレスを指します。また、DSEGCODE は先頭バイトです。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。
Reg6= バッファ内のセグメントへのオフセット	UG	
Reg8=MLTESGCD		
Subcode=X'153'	SDE	直前のセグメントの MLTESGCD (Reg2 + X'1E') が、直前のセグメントの DSEGCODE に等しくありません。マクロ DBFMRCPS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。
Reg6= バッファ内のセグメントへのオフセット	BUG	
Reg7= セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト		
Reg8=MLTESGCD		

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 2 直前の MLTE のアドレス
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMRCUO の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		MLTE セグメント・コード (Reg4 + X'1E') が、レジスター 2 で指示されたセグメントの DSEGCODE に等しくありません。マクロ DBFMRCSS から異常終了が発行されます。DMHRDMAC (Reg9 + X'20') は、DMAC を指します。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 2 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 6 バッファ内のセグメントへのオフセット
- 8 MLTESGCD
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMRPX0 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED SEGMENT CODE ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		MLTE セグメント・コード (Reg4 + X'1E') が、レジスター 2 で指示された現行セグメントの DSEGCODE に等しくありません。マクロ DBFMRCSS から異常終了が発行されます。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 2 セグメントのアドレス、DSEGCODE が先頭バイト
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 6 バッファ内のセグメントのオフセット
- 7 バッファの RBA
- 8 DMAC アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMRQCO の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'33'	DODEB UG	戻りコード (DBFMGPDO または DBFMCTLO からの) が無効です。有効な戻りコードは 0、4、8、および 12 のみです。無効な戻りコードがレジスター 0 に入っています。
Reg8=DMAC アドレス		

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53' Reg6=バッファ内のセグメントへのオフセット Reg8=MLTES GCD	DEBUG	MLTE セグメント・コード (Reg4 + X'1E') が、現行セグメント DSEGCODE に等しくありません。MLTECLOC (Reg4 + X'00') は、現行セグメントを指します。先頭バイトは、DSEGCODE です。マクロ DBFMRCES から異常終了が発行されます。DMHRBUPF (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレスです。DMHRDMAC (Reg9 + X'20') は、DMAC を指します。

レジスター 内容

- 0 パラメーター・リストのアドレス
- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 5 ESCD アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 14 EPSTTRRG (EPST + X'3BC') - レジスター保管域を指示
- 15 ESCDMSG (ESCD + X'3E8')

DBFMSEGO の場合:

メッセージ・テキスト: INVALID SEGMENT LENGTH

キー	ラベル	説明
Subcode=X'59'	DEDB	バッファからユーザー入出力域へセグメントを移動するルーチンが、有効範囲内でないセグメントを検出しました。

レジスター 内容

- 1 SDBF アドレス

- 2 サブコード
- 3 固定長セグメントの長さ
- 7 可変長セグメントの長さ
- 10 EPST アドレス

DBFMSFI9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN THIS MODULE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'25'	LOGERR OR	オペレーター・テーブル (Reg4 + X'2E') からの ブランチ・テーブル項目 MLTELLIO に、有効なオペレーターが含まれていません。

レジスター 内容

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMSFO9 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'21'	DEBU G	SSPP ポインター (Reg14) がゼロではありません。このポイントに達するには、SSPP にゼロ・ポインターがなければなりません。SSPP の検査前にチェックされた PCF ポインターがゼロでした。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53' Reg6=バッファ ー内のセグメン トへのオフセッ ト Reg7=直前のセ グメントのアド レス、 DSEGCODEが先 頭バイト	DEBU G	直前のセグメントの MLTESGCD (Reg2 + X'22') が、レジスター 7 で指示さ れたセグメントの DSEGCODE に等しくあり ません。マクロ DBFMRCPS から異常終了 が発行されます。 DMHRDMAC (Reg9 + X'28') は、DMAC を指します。DMHRBUFP (Reg9 + X'14') は、バッフ ァーのアドレスです。
Subcode=X'153' Reg6=バッファ ー内のセグメン トへのオフセッ ト Reg7=直前のセ グメントのアド レス、 DSEGCODEが先 頭バイト	DEBU G	セグメントの MLTESGCD (Reg4 + X'22') が、レジ スター 8 で指示されたセグ メントの DSEGCODE に等 しくありません。 DMHRDMAC (Reg9 + X'28') は、DMAC を指します。DMHRBUFP (Reg9 + X'14') は、バッフ ァーのアドレスです。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 内容

- 1 サブコード
- 2 直前の MLTE のアドレス
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMSSA9 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'3 3'		レジスター 0 の DBFMCCS9 か らの戻りコードが無効でした。 有効な戻りコードは、0、4、8、 および 12 です。

キー	ラベル	説明
Subcode=X'1 33'		レジスター 0 の戻りコードが 無効です。有効な戻りコードは 0、4、8、および 12 です。この 戻りコードは、ラベル NOUSETOC で生成され、さまざ まな呼び出しからの無効な戻り として使用されます。
Subcode=X'5 3' Reg2=セグメ ントのアドレ ス、 DSEGCODE は先頭バイト Reg6=バッフ ァー内のセグ メントへのオ フセット	DEB UG	MLTESGCD (Reg4 + X'1E') がレ ジスター 2 で指示されたセグ メントの DSEGCODE に等しく ありません。マクロ DBRMRCCS から異常終了が発 行されます。DMHRDMAC (Reg9 + X'20') は、DMAC を指 します。DMHRBUFP (Reg9 + X'10') は、バッファのアドレ スです。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 内容

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMSSD9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION
MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode= X'25'		MLTELLEV (Reg4 + X'54') は、最終 レベルを示す X'80' ですが、ラベル PATHLOOP の終了時にレジスター 15 に入っている戻りコードがゼ ロではありません。この状態は、デ ータがこのレベルで移動されたこ とを示します。

レジスター 内容

- 1 サブコード

- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMSSR9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'		EPCBLCID (Reg3 + X'3A') の EPCBLHLD で保留ビットがオンになり、MLTE ポインター (Reg4) がゼロになっています。レジスター 4 は、EPCBLKFP (Reg3 + X'6C') からロードされ、直前の呼び出しによってセットアップされます。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 ゼロ
- 8 DMAC アドレス
- 9 DMHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 14 ゼロ

DBFMUHE0 の場合:

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED OFFSET OR LENGTH PASSED IN

キー	ラベル	説明
Subcode=X'12'		処理のために DBFMUHE0 に渡された更新のオフセットまたは長さ (あ

キー	ラベル	説明
		るいはその両方) が許容値ではありません。更新のオフセットと長さの合計が CI サイズを超えているか、または渡された長さがゼロです。

**レジスター
内容**

- 0 呼び出し元から渡された長さ
- 1 呼び出し元から渡されたオフセット
- 2 異常終了サブコード (X'12')
- 8 CI サイズ
- 9 呼び出し元からの DMHR アドレス。領域の DMAC アドレスは、DMHRDMAC フィールドに入っています。
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス

DBFMVSN9 の場合:

メッセージ・テキスト: LOGICAL ERROR IN ACTION MODULES

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'		EPCBPRGP (Reg3 + X'60') からロードされる Reg0) には、ゼロが含まれており、親子関係のある MLTE へのポインターが含まれていません。

**レジスター
内容**

- 0 EPCBPRGP (Reg3 + X'60')、親子関係のある MLTE へのポインター
- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス

10 EPST アドレス

11 ESCD アドレス

DBFPFDSO の場合:

メッセージ・テキスト: ADSC TO BE UNCHAINED NOT FOUND

キー	ラベル	説明
Subcode=X'24'		チェーニングを解除すべき次の ADSC/IDSC を指すポインターがゼロです。

レジスター内容

- 1 サブコード
- 4 ADSC のアドレス
- 6 直前の ADSC のアドレス
- 11 ESCD のアドレス

DBFPFPBO の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとしてしました (ESCDSYNL)。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス
- 10 EPST のアドレス

DBFPGAPO の場合:

メッセージ・テキスト: DL/I CALL TO WRONG UOW

キー	ラベル	説明
Subcode=X'72'		呼び出し UOW が、領域のルート・アドレス可能部分の外部にあります。
Subcode=X'172'		HSSP の終了 RBA は、独立オーバーフローにあるか、またはそれを超えています。
Subcode=X'272'		HSSP の終了 RBA は、独立オーバーフローにあるか、またはそれを超えています。

レジスター内容

- 1 サブコード
- 8 DMAC のアドレス
- 11 ESCD のアドレス

DBFSLG20 の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとしてしました。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス
- 10 EPST のアドレス

DBFSLOGO の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス
- 10 EPST のアドレス

DBFSYP20 の場合:

メッセージ・テキスト: ERROR IN DMACNXTS OR SEQ DEPENDENT RBA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'57'		レジスター 2 の RBA が順次従属ポインターより小さく、DMAC サイクル・カウントが一致しません。

メッセージ・テキスト: ERROR IN SEQUENTIAL DEPENDENT INSERT RBA

キー	ラベル	説明
Subcode=X'157'		CI (Reg6 + X'3E') 内の先頭バイトの RBA が、先頭順次従属 (Reg8 + X'B0') の RBA と同じです。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSHR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

レジスター 内容

- 1 サブコード
- 2 このレコードの RBA を指示
- 3 このレコードのデータ長 (ハーフワード)
- 4 このレコードのオフセット (ハーフワード)
- 6 LSRT アドレス
- 8 DMAC アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 14 直接従属域の最初のアドレス (順次従属域を過ぎた位置の最初のバイト)

DBFTOPUO の場合:

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSHR LATCH COUNT WAS ZERO

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13' または X'113'		ラッチ・カウントがゼロのときに、共用同期点ラッチを解放しようとした (ESCD SYN L)。)

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

レジスター 内容

- 0 ESCDSYNL フィールドの内容
- 1 サブコード
- 2 ESCD のアドレス

10

EPST のアドレス

DBFUHCF7 の場合:

メッセージ・テキスト: SPACE FOR FSE AVAILABLE IS NEGATIVE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'56'	ABEND10 26	算出された使用可能なスペースが負であるため、FSE または SCRAP を作成できません。

メッセージ・テキスト: END OF FSE IS NOT AT END OF VSAM CSI

キー	ラベル	説明
Subcode=X'56'	FSEERRO R	元の FSE 長とオフセットをその FSE に加えた長さが、DEDB CI 接尾部 (CI、VSAM RDF、および VSAM CDF の RBA) を除外した VSAM CI の長さに等しくありません。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 1** サブコード
- 2** セグメントの移動先となるバッファ内の FSE アドレス
- 9** UHSW アドレス

DBFUHGS7 の場合:

メッセージ・テキスト: EXPECTED FREE CI NOT EMPTY

キー	ラベル	説明
Subcode=X'58'	IOVFPRO C	HSREORG 中にセグメントのコピーに使用するために、取得された IOVF CI は解放されている必要がありますが、IOVF CI が解放されていませんでした。

通常のレジスターの使用法は、以下のとおりです。

**レジスター
内容**

- 1** サブコード

2

UHSW アドレス

9

DMAC アドレス

DBFUMAFO の場合:

メッセージ・テキスト: UTILITY BUFFER MISSING

キー	ラベル	説明
Subcode=X'20'		DEDB と関連付けられていないバッファのバッファ・ヘッダーのチェーンを指す、レジスター 2 のポインターがゼロです。ユーティリティ用のバッファを見つけることができません。

**レジスター
内容**

- 1** サブコード
- 2** 関連付けのないバッファ・ヘッダーを指すポインター
- 3** TPCB アドレス
- 4** IOAR アドレス
- 6** DMAC アドレス
- 8** UTHR アドレス
- 9** バッファ・アドレス
- 10** EPST アドレス
- 11** ESCD アドレス

DBFUMAIO の場合:

メッセージ・テキスト: I/O BUFFER CHAIN CONTAINS A RING

キー	ラベル	説明
Subcode=X'21' '		レジスタ 0 にゼロが入っています。順方向バッファ・ポインタがレジスタ 14 (UTHRNEXT: Reg14 + X'00') で 0 になってループが終了する前に、レジスタ 0 がゼロに減少してはなりません。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=RSR LATCH NOT OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' または X'113'		所有されていなかったときに、共用同期点ラッチを解放しようとした。

メッセージ・テキスト: DBFSYNL TYPE=GSR ALREADY OWNED

キー	ラベル	説明
Subcode =X'13' または X'113'		タスクがすでに所有している共用同期点ラッチを取得しようとした。

レジスタ 内容

- 0 バッファ番号カウンター
- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 IOAR アドレス
- 8 DMAC アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 13 PSTSAV1 アドレス
- 14 UTHR アドレス

メッセージ・テキスト: WRONG RBA FROM UTILITY, R7

キー	ラベル	説明
Subcode=X'57' Reg2 は検証テーブル (EPSTURVR: Reg10 + X'270') の先頭を指す Reg5 はバッファ・アンカー (EPSTURIO: Reg10 + X'284') を指す Reg7= ブロック番号 Reg9 バッファ・ヘッダーを指す		レジスタ 7 のブロック番号が、順次部分を超えた最初のブロックのブロック番号である DMACFBAD (Reg8 + X'2C') より大か等しくなっています。

レジスタ 内容

- 0 バッファ番号カウンター
- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 IOAR アドレス
- 8 DMAC アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 13 PSTSAV1 アドレス
- 14 UTHR アドレス

DBFUMANO の場合:

メッセージ・テキスト: GETMAIN FAILURE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'31'		レジスタ 2 に、GETMAIN 用の 16 進ストレージ・サイズが入っています。レジスタ 15 に、GETMAIN マクロからの戻りコードが入っています。

レジスタ 内容

- 1 サブコード
- 3 TPCB アドレス
- 4 IOAR アドレス
- 8 DMAC アドレス
- 8 UTHR アドレス
- 10 EPST アドレス
- 11 ESCD アドレス
- 13 SAVEAREA アドレス
- 15 GETMAIN からの戻りコード

DBFUMCB9 の場合:

メッセージ・テキスト: CALLER BUFFER COUNT IS INCORRECT

キー	ラベル	説明
Subcode= X'14'		モジュール (Reg15) によってカウントされたバッファ数が、UTDWBUFN (Reg11 + X'A26') に入っている予想バッファ数に等しくありません。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 3 EPCB アドレス
- 4 MLTE アドレス
- 9 DMAC アドレス
- 10 SDBF アドレス
- 11 UTDW アドレス
- 14 DMCB アドレス
- 15 Count

DBFUMCF9 の場合:

メッセージ・テキスト: PROGRAM LOGIC ERROR

キー	ラベル	説明
Subcode= X'56'	ABND1 026	スペース (Reg0) が負の数値です。これは、FSE の場合には無効です。

メッセージ・テキスト: FSE LENGTH INCORRECT

キー	ラベル	説明
Subcode=X '156'	FSEER ROR	レジスター 14 には、残りのスペースと FSE へのオフセットを加えて計算された長さが保持されています。この値は、UTDWDEN0 (Reg11 + X'8A8') での CI 終了オーバーヘッドについて事前に計算されたオフセットに等しくなるはずですが、この 2 つの値が等しくありません。

**レジスター
内容**

- 1 サブコード
- 3 CITB アドレス
- 4 バッファ・アドレス
- 9 DMAC アドレス
- 10 SDBF アドレス
- 11 UTDW アドレス

DBFUMCW9 の場合:

メッセージ・テキスト: PROGRAM LOGIC ERROR

キー	ラベル	説明
Subcode= X'14'		処理するバッファの数 (Reg0) が、指定したバッファの数 (Reg11 + X'A26' - UTDWBUFN) を超えました。

**レジスター
内容**

- 0 処理するバッファ数
- 1 サブコード

11

UTDW アドレス

DBFUMFR9 の場合:

メッセージ・テキスト: PROGRAM LOGIC ERROR

キー	ラベル	説明
Subcode= X'24'		入力バッファは、まだ解放されていません。ルートのみが残るため、レジスター 2 の索引は X'01' になるはずですが、別の値が検出されました。
Subcode= X'124'		出力バッファは、まだ解放されていません。ルートのみが残るため、レジスター 2 の索引は X'01' になるはずですが、別の値が検出されました。

レジスター
内容

- 1** サブコード
- 2** 索引
- 3** EPCB アドレス
- 4** MLTE アドレス
- 10** EPST アドレス
- 11** UTDW アドレス

DBFUMGS9 の場合:

メッセージ・テキスト: NO FREE SPACE IN NEWLY ACQUIRED IOVF CI

キー	ラベル	説明
Subcode=X'58 '	LOGERR1	フリー CI は空のはずですが、これは空ではありません。

レジスター
内容

- 1** サブコード
- 4** UTHR アドレス
- 8** DBLK アドレス
- 9** DMAC アドレス

10

SDBF アドレス

11

UTDW アドレス

DBFUMIM9 の場合:

メッセージ・テキスト: UNASSIGNED MESSAGE ID ENCOUNTERED

キー	ラベル	説明
Subcode= X'14'		レジスター 2 の ID が、まだメッセージに割り当てられていませんでした。メッセージ ID は、問題分析に使用できるように、レジスター 1 からレジスター 2 に移動されました。

メッセージ・テキスト: NO BUFFER AVAILABLE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'11 4'		使用可能なバッファがありません。

メッセージ・テキスト: INVALID PCL POINTER

キー	ラベル	説明
Subcode=X'21 '		PCL ポインターが無効です。

メッセージ・テキスト: INVALID PCF POINTER

キー	ラベル	説明
Subcode=X'12 1'		PCF ポインターが無効です。

メッセージ・テキスト: SSPT UNUSED IN PARENT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'22 1'		SSPT は、親の中で使用されません。

メッセージ・テキスト: GETMAIN FAILED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'31'		GETMAIN が失敗しました。

レジスター
内容

- 1** サブコード
- 2** メッセージ ID

- 7 IOAR アドレス
- 9 DMAC アドレス
- 11 UTDW アドレス

メッセージ・テキスト: UNEXPECTED STATUS CODE

キー	ラベル	説明
X'34'		DEDB ユーティリティが、サービス要求 (読み取り要求など) から予期しない状況コードを受け取りました。

メッセージ・テキスト: UNMATCHED SEGMENT CODE

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'		再編成ユーティリティが、期待値と一致しないセグメント・コードを検出しました。

メッセージ・テキスト: INVALID SEGMENT LENGTH

キー	ラベル	説明
Subcode=X'59'		再編成ユーティリティが、有効範囲内に入っていないセグメント長を検出しました。

DBFUMPIO の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'14'		UTDWFLG (Reg9 + X'118') に、順次従属がすでに処理されたことを示す X'10' が入っています。
Subcode=X'114'		DCBOFLGS (Reg10 + X'30') が、DCB が正常にオープンされたことを示す X'10' に設定されていません。レジスター 10 は、UTDWPDCB (Reg9 + X'124') からロードされます。無効な DCB アドレスまたはオープンされていない DCB が、この問題の原因となった可能性があります。

レジスター
内容

- 1 サブコード
- 6 バッファー・アドレス
- 9 UTPA (呼び出し元によって設定されたユーティリティ作業域の部分) を指します。UTPA は、UTDW + X'8F0' で始まります。
- 10 DCB アドレス

DBFUMSCO の場合:

メッセージ・テキスト: INVALID SEGMENT CODE FOR SEQ DEPENDENT

キー	ラベル	説明
Subcode=X'53'	UMSCW ORK	レジスター 8 で指示されたデータが、セグメント・コード X'02' で始まっていません。

レジスター
内容

- 1 サブコード
- 7 先頭バッファーの RBA を指す
- 8 バッファー内のセグメントの先頭を指す
- 9 最終データ・バイトのアドレス
- 10 IOAR アドレス
- 11 UTDW アドレス
- 14 UMSCWORK サブルーチンからのリターン・アドレス
- 15 DMAC アドレス

DBFUMTQ9 の場合:

メッセージ・テキスト: PROGRAM LOGIC ERROR

キー	ラベル	説明
Subcode=X'14'		レジスター 0 中の処理されたバッファーの数が、UTDWBUN (Reg11 + X'A26') のキューに入れられたバッファーの数を超えました。これはループです。

レジスター
内容

0

処理されたバッファの数

1

サブコード

3

EPCB アドレス

4

MLTE アドレス

11

UTDW アドレス

DBFXCGL0 の場合:

メッセージ・テキスト: NO TEXT SUPPLIED

キー	ラベル	説明
Subcode=X'13'		ESCDRLAT (Reg11 + X'310') は、ラッチが使用可能な場合はゼロです。リソース・ラッチは、すでに保持されています。この問題は、誰かがリソース・ラッチの解放に失敗したことが原因で発生する場合があります。

レジスター 内容

1

サブコード

4

エントリー・ポイント・アドレス

10

EPST アドレス

11

ESCD アドレス

13

SAVEAREA アドレス

15

ESCDRLAT (Reg11 + X'310')

システムの処置

高速機能従属領域は異常終了します。

問題判別

モジュールの名前、レジスターの内容、および (モジュールによっては) レジスター内の数値サブコードについては、異常終了の前に発行される DFS2712I メッセージを参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFARDC0、DBFATRM0、DBFBENQ0、DBFBGET0、DBFCHKP0、DBFCSTS0、DBFDAC50、DBFDRC0、DBFDT190、DBFHCA50、DBFMBED0、DBFMCCV9、DBFMCSS9、DBFMCRP9、DBFMCTLO、DBFMDLT0、DBFMDPT9、DBFMDRB0、DBFMDSG9、DBFMFLG0、DBFMFSE0、DBFMGLA9、DBFMGNR0、DBFMGNX0、DBFMGPD0、DBFMGPF0、DBFMGRF0、DBFMIRC9、DBFMIRT0、DBFMLOP0、DBFMOCIO、DBFMPER9、DBFMPIO9、DBFMPSG9、DBFMPSI9、DBFMPIUG0、DBFMRCU0、DBFMRPX0、DBFMRQC0、DBFMSEG0、DBFMSFI9、DBFMSFO9、DBFMSRT0、DBFMSSA9、DBFMSSD9、DBFMSSR9、DBFMUHE0、DBFMVSN9、DBFPFDS0、DBFPFPB0、DBFPGAB0、DBFPGAP0、DBFSDEQ0、DBFSLG20、DBFSLOG0、DBFSMP10、DBFSYN10、DBFSYN20、DBFSYP20、DBFTOPU0、DBFUHCF7、DBFUHDS0、DBFUHGS7、DBFUMAF0、DBFUMA10、DBFUMAN0、DBFUMCB9、DBFUMCF9、DBFUMCW9、DBFUMFR9、DBFUMGS9、DBFUMIM9、DBFUMPIO、DBFUMSC0、DBFUMTQ9、DBFVSOP0、DBFVXOIO、DBFXCGL0

関連情報

DFS2712I (メッセージおよびコード)

1027

説明

これは、内部 IMS エラーです。高速機能リソースをエンキューまたはデキューしようとしたときに、エラーが発生しました。

分析

DBFBENQ0、DBFCBHLO、DBFSLOG0 の場合:

高速機能リソースをエンキューまたはデキューしようとしたときに、論理エラーが発生しました。レジスター 15 に、以下の戻りコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'02'	EPSTQ BLK	チェーン上のブロックが、デキュー要求の制御ワードと一致しません。
Reg15=X'03'		指定されたエンキューの前に、QBLOCK が EPST で見つかりませんでした。
Reg15=X'06'	MSNQR CW	負のカウンタ値を持つリソースの制御ワードを指します。
Reg15=X'05'		指定したエンキュー呼び出しが DBFBENQ0 によって発行され、DFSLRH00 からの戻りコードが X'04' でした。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'09'		指定したエンキュー呼び出しが DBFBENQ0 によって発行され、DFSLRH00 からの戻りコードが X'08' でした。
Reg15=X'0D'		DBFBENQ0 がデキュー呼び出しでエンキューを発行し、DFSLRH00 からの戻りコードが X'12' でした。この戻りコードは、無効な呼び出しであることを示します。

DBFSLOGO の場合:

IMS ENQ/DEQ ルーチン DFSLRH00 から受け入れ不能な戻りコードを受け取りました。エラー時のレジスター (R14-R12) は、PSTSAV15 + 'C' に保管されます。レジスター 15 に、ロック要求処理プログラムからの戻りコードが入ります。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーであるか、または ENQ/DEQ プールが満杯です。

DBFMGXCO の場合:

IMS ENQ/DEQ ルーチン DFSLRH00 から受け入れ不能な戻りコードを受け取りました。次の表に示すように、DBFMGXCO の内部には異常終了ルーチンに分岐する 2 つのルーチンがあります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'10'		SDEP CI ロック要求の重複です。
Reg15=X'12'	ENQRTN	DFSFXC10 の呼び出し時のエラーです。
Reg15=X'04' または X'08'	ENQOR TN	内部論理エラー。このコードは発生してはなりません。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー

DBFPUXCO の場合:

UOW 競合検出のときに、DBFPUXCO が、UXRB DMAC チェーンで排他モードの UXRБ を検出しました。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'11'		UOW 競合検出のときに、UXRB DMAC チェーンで排他モードの UXRБ が検出されました。新規 UXRБ も排他モードになっています。PROCOPT H PCB を持つ領域にアクセスできる領域は 1 つだけであるため、この条件は発生してはなりません。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'12'		DBFPUXCO が新規の UXRБ を UXRБ EPST チェーンにチェーニングしようとしたが、同一の領域の UXRБ および RBA が、すでにこのチェーンに存在していました。

DBFSYN20 の場合:

SYNC 中に、既知のロックが解放される前に COMMIT が有効であることを確認する検査が行われます。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'14'		DBFSYN20 は、DFSLR によってロックを解放しますが、ロック・テーブルが使用不可またはアクセス不能になっています。異常終了 0127 の時点で、DL/I、DC、または高速機能入出力が処理されていた場合は、異常終了 0113 も発生する可能性があります。

DBFXPIX0、DBFSDEQ0、DBFLRLS0、DBFPUXR0、DBFSLG20 の場合:

IMS ENQ/DEQ ルーチン (DFSLRH00) からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。異常終了しているモジュールが DFSLRH00 からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。モジュールは、高速機能リソースをデキューしており、ゼロの戻りコードのみを検出しなければなりません。レジスター 15 に、無効な戻りコードが入っています。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラー。IBM サポートに連絡してください。

システムの処置

従属領域は異常終了します。クリティカル・リソースを保持中にエラーが発生した場合、制御領域は異常終了 0113 で異常終了します。

プログラマーの応答

コードおよびその意味については、[545 ページの『分析』](#)を参照してください。

問題判別

4、8、12、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFBENQ0、DBFCBHL0、DBFSLOG0、DBFSLOG0、DBFMGXC0、DBFPUCX0、DBFSYN20、DBFXPIX0、DBFSDEQ0、DBFLRLS0、DBFPUXR0、DBFSLG20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1028

説明

高速再編成ユーティリティの実行中に、再編成中のエリアで重大エラーが検出されました。領域の再編成中に、モジュール DBFUHAC7 がセグメントの非昇順キーを検出し、Subcode= X'C' が発行されました。以下のサブコード *nn* に対応したダンプのタイトルを付けて、SDUMP が取られます。レジスター 3 に、症状ダンプ内の障害サブコードが入っています。また、ルーチン UHREDUMP への入り口にある保管域内のレジスター 11 に、ユーティリティ作業域のアドレスが入っています。

サブコード	モジュール	意味
X'A'	DBFUHAC7	RAP RBA がバッファにない
X'B'	DBFUHRE0	RAP CI のタイプが無効である
X'C'	DBFUHAC7	キーが昇順でない
X'E'	DBFUHCS7	PCL ポインターが無効である
X'F'	DBFUHCS7	PCF ポインターが無効である
X'11'	DBFUHRD7	SSPT ポインターが無効である
X'12'	DBFUHAC7	セグメント・コードが SDBF と一致しない
X'13'	DBFUHAC7	セグメント長が限度を超えている

分析

異常終了 1028 の異常終了時に、汎用レジスターに次の情報が入ります。

レジスター
内容

3
Subcode= X'0000000C'

- 4 ルート・セグメントの RBA
- 5 非昇順キーを備えたセグメントの RBA
- 7 非昇順キー値を備えたセグメントを含む入力バッファのアドレス
- 8 再編成されている AREA 用の DMAC のアドレス
- 9 非昇順キー値を備えたセグメントを含んでいる CI の DMHR のアドレス
- 10 非昇順キー値を備えたセグメントの SDBT テーブルにある現行セグメント・タイプのアドレス
- 11 UHSW テーブルのアドレス

考えられる原因: 内部プログラム・エラー。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFUHRE0

1029

説明

モジュール DBFXWU30 が、非活動化されていない従属領域を再活動化しようとしました。

分析

これは、DBFXWU30 によって発行される標準異常終了です。このモジュールへの入り口で保管されたレジスター 1 は、エラーのあった EPST を指しています。

考えられる原因: 内部プログラム・エラー。

システムの処置

高速機能従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答

/CHECKPOINT ABDUMP コマンドを入力して、制御領域のダンプを取得します。

問題判別

このモジュールへの入り口で保管されたレジスター 1 は、エラーのあった EPST を指しています。制御領域および従属領域のダンプが必要です。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFXWU30

1030

説明

モジュール DBFXTU0 が、非活動化されていない従属領域を再活動化しようとした。

分析

これは、DBFXTU0 によって発行される標準異常終了です。このモジュールへの入り口で保管されたレジスター 1 は、エラーのあった EPST を指しています。

考えられる原因: 内部プログラム・エラー。

システムの処置

高速機能従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答

/CHECKPOINT ABDUMP コマンドを入力して、制御領域のダンプを取得します。

問題判別

このモジュールへの入り口で保管されたレジスター 1 は、エラーのあった EPST を指しています。制御領域および従属領域のダンプが必要です。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFXTU0

1031

説明

IMS 高速機能モジュールが、IMSAUTH マクロによって開始されたページ固定またはページ解放モジュール DFSV4200 から、ゼロ以外の戻りコードを受け取りました。IMSAUTH SVC で問題が検出されました。レジスター 2 に、FIX または FREE が入っています。レジスター 15 に、IMSAUTH PGFIX/PGFREE 戻りコードが入っています。これらのコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

分析

これは、3つのモジュールのいずれかによって発行される標準異常終了です。レジスター 2 に、「FIX」または「FREE」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、REG 14 に SCD のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CL4'FIX'	DBDPFIX	ページ固定操作が失敗しました。
Reg2=CL4'FREE'	DBDPFR EE	ページ解放操作が失敗しました。

上に示した説明および表は、DBFDBDP0 のみに適用されます。DBFERS20 については、R7=A(SCD) (レジスターは、固定/解放リストを指さない) です。FIX および FREE の両方の場合については、異常終了はラベル ERS2ABND から発行されます。DBFTOPU0 については、R1=A (ページ固定/解放リスト)、R9=A(SCD) です。FIX および FREE の両方の場合については、異常終了はラベル ABND1031 から発行されます。

DBFERS21 については、レジスター 2 に「FIX」が入っています。レジスター 15 に戻りコードが入っています。レジスター 5 に、ページ固定/解放リストのアドレスが入っており、レジスター 6 には SCD のアドレスが入っています。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFDBDP0、DBFERS20、DBFERS21、DBFTOPU0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1032

説明

実アドレス・ロード (LRA) 命令を使用して、仮想アドレスを実アドレスに変換しようとしている MSDB チェック

クポイント/ダンプ・モジュール DBFDBDPO が、ゼロ以外の条件コードを設定しました。

分析

これは、DBFDBDPO によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、以下のいずれかの戻りコードが入ります。

レジスター 内容

X'01'

CCW 領域アドレスを変換できませんでした。

X'02'

出力域アドレスを変換できませんでした。

X'03'

制御レコードの領域アドレスを変換できませんでした。

X'04'

IDAW アドレスを実アドレスに変換できませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg15= X'01'	DBDPWD TA	データ・セット域を高速機能チェックポイント・データ・セットにダンプしようとしているときに、変換障害が発生しました。
Reg15= X'01'	DBDPWC TL	制御レコードを高速機能チェックポイント・データ・セットにダンプしようとしているときに、変換障害が発生しました。
Reg15= X'02'	DBDPWD TA	入力データ・アドレスを変換できませんでした。
Reg15= X'03'	DBDPWC TL	制御レコードの領域アドレスを変換できませんでした。
Reg15= X'04'	DBDPWD TA	IDAW アドレスを実アドレスに変換できませんでした。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- ハードウェア・エラー
- 内部プログラム・ロジック・エラーまたはインターフェース・エラー

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFDBDPO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1033

説明

アプリケーション・プログラムが、従属領域の JCL パラメーターの NBA および OBA パラメーターで指定されたものより多くの高速機能データベース・バッファーを要求しました。

分析

これは、DFSECP10、DFSECP20、DFSISI00 によって発行される標準異常終了です。高速処理データベース (DEDB) 呼び出しアナライザー DBFMCL00 または主記憶データベース (MSDB) 呼び出しアナライザー DBFBCL10 が、DBFIRC10 に戻りコード X'0C' を返しました。この戻りコードは、「使用可能なデータベース・バッファーがない」というリソース不足条件を示します。この条件を検証するには、ラベル EPSTBMAX および EPSTBUSE にあるハーフワードを比較します。EPSTBMAX=EPSTBUSE である場合、指定したバッファーの番号はすでに使用されています。

DBFIRC10 が、疑似異常終了コードを設定します。

考えられる原因: アプリケーション・プログラム・エラーであるか、または、NBA か OBA のいずれか (またはその両方) のパラメーターに指定された値が小さすぎます。

システムの処置

IMS は、メッセージ・ドリブン・アプリケーション・プログラムを終了させます。

プログラマーの応答

NBA パラメーターまたは OBA パラメーター (あるいは両方) を増やしてから、メッセージ・ドリブン従属領域を再始動します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSECP10、DFSECP20、DFSISI00

1034

説明

従属領域から制御領域への(または、制御領域から従属領域への) ISWITCH が失敗しました。

分析

DBFATRMO と DBFIRC10 の場合:

従属領域が終了していたため、ISWITCH を実行できませんでした。

これは、DBFIRC10 および DBFATRMO によって発行される標準異常終了です。この異常終了は、ISWITCH が GIVEBACK ルーチンで発行される場合に発生します。このルーチンは、メッセージを BALG に返す際に、直列化するために CTRL に切り替えます。

DBFCSTS0、DBFMER00、DBFMFLG0、DBFXVUN0 の場合:

CTL TCB への切り替えのための ISWITCH、または XFP TCB へ戻るための ISWITCH を実行できません。

異常終了 1034 は、ページ固定要求が発行される前に CTL TCB への ISWITCH が失敗した場合、またはページ固定要求が発行された後に XFP TCB へ戻る ISWITCH が失敗した場合に、DBFCSTS0、DBFMER00、DBFMFLG0、および DBFXVUN0 から発行される標準異常終了です。

DBFDT900 の場合:

モジュール DBFDT900 は、オンライン・リカバリー・サービス (ORS) の下にある高速機能データベース・トラッカー終了モジュールです。FP CTL TCB 下で実行される EDBT のページ解放を確実にするために、ISWITCH が発行されます。その後、ORS の RWM TCB へ戻るための ISWITCH が発行されます。

これは、DBFDT900 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg2=X'01'		FPE TCB への ISWITCH
Reg2=X'02'		RWM TCB (ORS) へ戻る ISWITCH
Reg14=BALR		
Reg15=ISW ITC 戻りコ ード		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFMLCLO の場合:

モジュール DBFMLCLO は、高速機能 TCB の下の AREA または ADS を閉じる、高速機能論理 CLOSE 処理モジュールです。TCB 切り替えのクローズを制御するために、ISWITCH が発行されます。異常終了 SVRB のレジスタ

ー 14 は、キーとして使用されます。また、レジスター 12 は基底レジスターです。

これは、DBFMLCLO によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、 Reg14=BALR、 Reg15=ISWITCH TO=FPE 戻りコード、 Reg15=ISWITCH TO=RET 戻りコード		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFMLOP0 の場合:

モジュール DBFMLOP0 は、高速機能 TCB の下のエリア および ADS を開く、高速機能論理 OPEN 処理モジュールです。これは、従属領域の DL/I 呼び出しによって起動されます。TCB 切り替えを制御するために、ISWITCH が発行されます。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、キーとして使用されます。また、レジスター 12 は基底レジスターです。

これは、DBFMLOP0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1= 完了コード、 Reg14=BALR、 Reg15=ISWITCH TO=FPE 戻りコード、 Reg15=ISWITCH TO=RET 戻りコード		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFMPOP0 の場合:

モジュール DBFMPOP0 は、高速機能 TCB の下の AREA または ADS を開く、高速機能物理 OPEN 処理モジュールです。TCB 切り替えのオープンを制御するために、ISWITCH が発行されます。異常終了 SVRB のレジスター 14 は、キーとして使用されます。また、レジスター 12 は基底レジスターです。

これは、DBFMPOP0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コード、 Reg14=BALR、 Reg15=ISWITCH TO=FPE 戻りコード、 Reg15=ISWITCH TO=RET 戻りコード		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項 目) から渡されました。

DBFMSDPO の場合:

モジュール DBFMSDPO は、領域 SDEP バッファをセ
ットアップする高速機能モジュールです。これは、
DBFMSDPO によって発行される標準異常終了です。モ
ジュール DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) が、ゼロ以外の戻
りコードを渡しました。

DBFPICSO の場合:

モジュール DBFPICSO は、高速機能 TCB 下のイメー
ジ・コピー・データ・セットを開く、高速機能物理 HSSP
イメージ・コピー・セットアップ・モジュールです。イ
メージ・コピー・データ・セットのオープンは、HSSP
イメージ・コピーを指定した従属領域の DL/I 呼び出し
によって起動されます。TCB 切り替えを制御するた
めに、ISWITCH が発行されます。異常終了 SVRB のレジ
スター 14 は、キーとして使用され、レジスター 12 は
基底レジスターとして使用されます。

これは、DBFPICSO によって発行される標準異常終了で
す。異常終了への入り口のプログラム状況ワード
(PSW) が、異常終了の発行元の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg1=完了コー ド Reg14=BALR Reg15=04 (DBFPICSO によ って発行されま す)		ゼロ以外の戻りコードが DFSIDSP0 (ISWITCH 項目) から渡されました。

DBFSGABO の場合:

モジュール DBFSGABO は、共用プールからバッファ
を取得する高速機能モジュールです。これは、
DBFSGABO および DBFSGAB1 によって発行される標
準異常終了です。この異常終了は、FP TCB への
ISWITCH が、モジュール DBFPVTSO で拡張処理を直列
化するために発行された後で、モジュール DBFSGABO
または DBFSGAB1 で待機している場合に発生します。

また、共用 VSO バッファが消耗した場合、またはバ
ッファ使用量 EPSTBUSE が EPSTNBNA と
EPSTABAO の合計より大きい場合も、共用 VSO バッ
ファにリソース不足の状態が生じる可能性があります。

X'0c' の戻りコードが、モジュール DBFSGABO によって
発行されます。

システムの処置

タスクは異常終了します。

プログラマーの応答

このエラー状態は発生してはなりません。IBM サポー
トに連絡してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFATRM0、DBFCSTS0、DBFDT900、DBFIRC10、
DBFMER00、DBFMFLG0、DBFMLCLO、DBFMLOP0、
DBFPICSO、DBFMPOPO、DBFMSDPO、DBFSGABO、
DBFXVUNO

1035

説明

指定された DD 名がないか DEDB エリア名リスト
(DBFAREA) を検索した結果、「NOT FOUND」(見つか
りません) 状態になりました。

分析

これは、DBFMSRHO によって発行される標準異常終了
です。DBFAREA にある特定の DDNAME のバイナリ
ー・サーチを実行するモジュール DBFMSRHO が、
DDNAME を見つけられませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg8=0		DDNAME 項目が領域名リ ストから見つか りませんでした。

考えられる原因: 内部プログラム・ロジック・エラーま
たはインターフェース・エラー

システムの処置

タスクは異常終了します。

プログラマーの応答

このエラー状態は発生してはなりません。

問題判別

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFMSRHO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1036

説明

レジスター 8 に含まれているエラー・メッセージ番号が、異常終了中のモジュール DBFMER00 が使用するエラー・メッセージ・テーブルに含まれていません。

分析

これは、DBFMER00 によって発行される標準異常終了です。エラー・メッセージ・テーブルは、エラー・メッセージ番号とそれらの関連テキストが入っている内部テーブルです。このテーブルは、DBFMER00 に含まれており、DBFMER00 によって保守されています。

キー	ラベル	説明
Reg9=MSGTBL アドレス		エラー・メッセージ・テーブルのアドレス。
Reg8= エラー・ メッセージ番号		欠落しているメッセージ番号。

考えられる原因: この異常終了は、システム・テスト・サイクルの実行中に、新規のメッセージが作成された場合にのみ発生します。

システムの処置

タスクは異常終了します。

プログラマーの応答

このエラー状態は発生してはならないので、このダンプを保管します。

問題判別

1、2、3、4、11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFMER00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1038

説明

緊急時再始動中に、VSAM GENCB マクロが実行され、VSAM からゼロ以外の戻りコードが戻されました。

分析

この異常終了は、VSAM GENCB マクロが失敗した場合に、DBFERST0 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg2=VSAM 理 由コード、 Reg15=VSAM か らの戻りコード	ERSTD MHR	GENCB マクロの VSAM 戻りコードおよび理由コード。

考えられる原因: GENCB マクロのオペランドの指定に誤りがあります。

システムの処置

IMS は異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 15 に戻りコード、レジスター 2 に VSAM からの理由コードが入っています。

問題判別:

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFERST0

関連資料

[z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1039

説明

FP DEDB オンライン・ユーティリティーで異常終了オプションが選択されました。

分析

オプション ERRORACTION=ABEND は、FP DEDB オンライン・ユーティリティーがエラー・メッセージ付きで終了した場合に、診断情報を提供します。

システムの処置

処理終了後、ユーティリティーはダンプ付きで終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

必要なアクションはありません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFUMRTO

1040

説明

DFSBCB マクロは、制御ブロックに関連した IMS 高速機能を取得することができませんでした。

システムの処置

SYNC POINT LOG 処理の場合、この疑似異常終了は PSTABTRM に保管され、エラー・メッセージ DFS3022W が発行されます。処理は続行されます。

それ以外の場合は、IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答

エラー・メッセージおよびメモリー・ダンプの分析によって示される情報に従って、障害の原因を判別します。ストレージの不足によって異常終了が発生した場合は、共通サービス域 (CSA) のストレージ割り振りを増加し、IMS の緊急時再始動を行って処理を再開してください。

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS3022W \(メッセージおよびコード\)](#)

1041

説明

高水準プログラミング・インターフェース HLPI で、プログラミング・エラーに起因する状態が検出されたか、

または DL/I が、プログラミング・エラーを示す状況コードを HLPI に戻しました。

分析

1041 は、DFSEIPB0 によって発行される標準異常終了です。異常終了時に、レジスター 2 に制御ブロック DFSSDIB のアドレスが入ります。マクロ DFSHLPDS の DLZSDIB DSECT を参照してください。すべての領域が、この制御ブロックによってアドレス指定され、DFSHLPDS の DSECT によってそれぞれ記述されます。DFSEIPB0 は、レジスター 11 を基底レジスターとして使用します。DL/I 用の実呼び出しパラメーター・リストが異常終了時に完全ではなかった可能性があります。これは、制御ブロック DFSSDIB にあるラベル DIBPARM で検出されます。

考えられる原因:

レジスター

内容

DHTN

初期設定呼び出し (CICS 変換プログラムによって実行しなければならない) の発行の失敗、または DFSDIB 制御ブロックがオーバーレイされたことが原因と考えられます。

その他のすべてのコード

アプリケーション・プログラムを訂正する必要があります。HLPI は、正常に完了した状況コードのみ、アプリケーション・プログラムに返すことを許可します。

システムの処置

IMS はダンプ付きで異常終了し、メッセージ DFS1041 が発行されます。

プログラマーの応答

状況コードの説明については、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング」を参照してください。アプリケーション・プログラムを訂正します。

問題判別

4、11、19、およびマクロ DFSHLPDS のリストを入手します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSEIPB0

関連情報

[DFS1041](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1042

説明

IMS またはアプリケーション・スレッドで、IMS 内部制御ブロック・エラーのために障害が発生しました。

あるいは、緊急時再始動で、バッファが複数回解放されている状態が検出されました。この状況により予測不能の結果が生じる可能性があるため、緊急時再始動は異常終了しました。

分析

レジスター 15 にある理由コードを確認してください。

理由コード

説明

R15=X'03'

DBFDBLS0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'04'

DBFDLSR0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'05'

DBFEHSH0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'06'

DBFERDB0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'07'

DBFEROC0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'08'

DBFERST0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'09'

DBFERS10 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

R15=X'0A'

DBFERSY0 が、高速機能 64 ビット・バッファが ERE 中に複数回解放されていることを検出しました。

DBFBPNIO、DBFBPNK0:

高速機能バッファの取得または解放を試行中に IMS またはアプリケーション・スレッドが IMS 内部制御ブ

ロック・エラーを検出しました。プロセスは、このエラーからリカバリーできなかったため、終了する必要があります。

システムの処置

バッファの取得を試行しているプロセスは異常終了します。

プログラマーの応答

IMS を再始動または再起動 (recycle) してください。IMS の再始動または再起動 (recycle) 後にも問題が解決しない場合は、DBBF、BSIZ、および DBFX パラメーターを使用して前のバッファ・マネージャーにフォールバックしてください。

緊急時再始動中に異常終了が発生した場合は、緊急時再始動を再試行します。問題が解決しない場合は、IMS のデータベース部分のコールド・スタートが必要です。IMS のデータベース部分のコールド・スタートでは、影響を受けた DEDB エリアのリカバリーが必要になる場合があります。

問題判別

メモリー・ダンプやログなどのサポート用資料を保存した状態で、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFBPNIO、DBFDBLS0、DBFDLSR0、DBFEHSH0、DBFERDB0、DBFEROC0、DBFERST0、DBFERS10、DBFERSY0

1043

説明

DFSDFxxx で FPBP64=Y を定義しましたが、FPBP64M を指定しませんでした。

分析

DBFFATC1 については、IMS 初期設定中に FPBP64=Y の指定が検出されました。このパラメーターにも、FPBP64M の指定が必要です。

システムの処置

IMS 初期設定は終了します。

プログラマーの応答

1 MB から 2047 MB までの値を使用して FPBP64M を指定してください。その後、IMS を再始動します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFFATCO

1044

説明

アプリケーション・プログラムが GUR DL/I 呼び出しを発行しましたが、IMS カタログが使用可能になっていません。

分析

IMS カタログが使用不可の場合、GUR 呼び出しはサポートされません。

IMS カタログはデフォルトで使用不可であるため、そのデフォルトが有効になっているか、CATALOG=N が明示的に指定されています。

システムの処置

IMS 領域は終了します。

プログラマーの応答

IMS カタログが使用可能でない理由を特定し、問題を訂正してください。問題を訂正したら、IMS を再始動します。

デフォルト値が有効になっている理由は、以下のいずれかと考えられます。

- ・ 始動プロシージャ内で DFSDF=xxx パラメーターが指定されていない
- ・ IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) がバッチ環境で使用されなかった
- ・ DFSDFxxx PROCLIB メンバーの <CATALOGxxxx> セクション・ヘッダーに誤った IMS ID が指定されている

CATALOG=N パラメーターが、DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクション内、または DFS3CDX0 出口ルーチン内で明示的に指定されている可能性があります。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCP00、DFSBINT0

1046

説明

IMS 高速機能 SDEP ユーティリティーが、発生してはならない状態を検出し、その状態を記述するために DBFDEBUG マクロを発行しました。メッセージ DFS2712I が、エラーを説明するテキストおよびサブコードと共に発行されます。JOBLOG に送られた診断情報には、DMAC、エラー内の CI バッファ、IOAR 制御ブロック、HWM RBA とそのタイム・スタンプ、開始位置の RBA、停止位置の RBA とそれらのオプション、作業バッファ・セット、および異常終了時のレジスターが含まれます。

分析

これは、モジュール DBFUMDLO、DBFUMSCO、および DBFUMRTO から発行される標準異常終了です。

異常終了 1046 が発行される前に、レジスター 14 に命令のアドレスが入ります。サブコードには、次の意味があります。

キー	ラベル	説明
Subcode=X '91'		タイム・スタンプの変換が正常に行われませんでした。
Subcode=X '92'		ストア・クロックへの変換が正常に行われませんでした。
Subcode=X '93'		ユーティリティー・アプリケーションが領域への接続に失敗しました。
Subcode=X '94'		無効な SDEP CI が見つかりました。
Subcode=X '95'		セグメント・コードが SDEP ではありません。
Subcode=X '96'		無効なユーティリティー名を指定しました。
Subcode=X '97'		無効な CI 接尾部が見つかりました。
Subcode=X '98'		SDEP セグメントのオフセットが CI サイズ外です。
Subcode=X '99'		不正な CC+RBA が見つかりました。
Subcode=X '9A'		すべての新規フォーマットが指定され、旧フォーマットを検索します。
Subcode=X '9B'		読み取られた最初の新規フォーマットが、最初のバッファ内にありません。
Subcode=X '9C'		不正な DMACXVAL が見つかりました。

システムの処置

高速機能 SDEP ユーティリティーは異常終了します。

問題判別

モジュールの名前、レジスターの内容、および (モジュールによっては) レジスター内の数値サブコードについては、異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2712I を参照してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFUMDL0、DBFUMDL0、DBFUMRTO

関連情報

[DFS2712I](#)

第 23 章 IMS 異常終了コード 1051 - 2000

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

1051

説明

オンライン変更中に、高速機能 DEDB 変更の処理で予期しない状態が発生しました。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

IBM サポートに連絡してください。

問題判別

4、36

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1060

説明

DFSCTL データ・セットにエラーがあります。付随するエラー・メッセージ DFS0491A、DFS0492I、DFS4723A、または DFS0533E にエラーが説明されています。

分析

DBFCPY00 の場合:

IMS が、従属領域でスケジュールされた PSB を持つ問題を検出し、DFS0501A、DFS0504A、DFS0525A、または DFS4723A のいずれかメッセージを発行しました。

DBFPHI10 の場合:

IMS は、同時に指定できない SET 制御ステートメントが DFSCTL SYSIN に指定されたことを検出し、メッセージ DFS0533E を発行しました。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

メッセージにある情報に基づいてエラーを訂正します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFCPY00、DFSSBI00

関連情報

[DFS0491A](#)

[DFS0492I](#)

[DFS4723A](#)

[DFS0533E](#)

1061

説明

GETMAIN ルーチンが、HSSP 制御ブロック用のストレージを取得できませんでした。

分析

GETMAIN ルーチンが、sp231 ECSA のセグメント作業域 (EPSTSEG1 および EPSTSEG2) の取得に失敗しました。

GETMAIN を正常に完了するには、ECSA を解放する必要があります。その後で、異常終了したジョブを再実行することができます。DBCTL スレッドについては、メッセージ DFS0527A も発行されます。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

REGION パラメーターのサイズを増やしてから、ジョブを再実行します。この異常終了が再発する場合、CSA 使用量が減るまで待ってから、ジョブを再実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFPCAA0、DBFPHI00、DBFCPY00

1062

説明

高速順次処理 (HSSP) イメージ・コピーが失敗しました。

分析

この異常終了は、DFSECP10 によって発行されます。これは、次の 2 つの場所のいずれかに設定されます。

DBFPICSO

イメージ・コピーのセットアップが失敗しました。レジスター 2 に、DMAC のアドレスが入っています。この異常終了は、メッセージ DFS0531I か、メッセージ DFS0532I のいずれか (または両方) の後に続いて発行されます。

DBFSIC10

イメージ・コピー入出力が失敗しました。レジスター 2 に、DMAC のアドレスが入っています。レジスター 5 に、ESRB のアドレスが入っています。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS0531I または DFS0532I (あるいは両方) の情報に基づいて問題を訂正します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFPICSO、DBFSIC10、DFSECP10

1063

説明

IMS FP バッファ・プールの管理中に、内部 IMS システム・エラーが発生しました。これらのバッファは、SVSO 専用バッファ、DBBF パラメーターおよび BSIZ パラメーターによって定義された共通バッファ、または FPBP64=Y パラメーターを指定して割り振られたバッファの、いずれかの可能性があります。エラーの原因は、分析セクションで説明します。

エリア専用バッファが NBA/OBA バッファ・チェーン上にあったか、または NBA/OBA バッファがエリア専用バッファ・チェーン上にありました。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。

分析

DBFIBUF0 の場合:

データベース・バッファをページ固定しようとしているとき、またはページを解放しようとしているときに、使用可能キューで専用バッファが検出されました。IMS 制御領域は終了します。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

DBFPFAB0 の場合:

通常の DB バッファが、専用バッファ解放ルーチンに返されました。IMS 制御領域は終了します。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

DBFMDBQ0 の場合:

DBFMDBQ0 は、バッファ・ヘッダー (DMHR) および XCRB をそれぞれに対応するキューに入れようとしているときに、DMHR を指すダミー XCRB を検出しました。

DBFPGAB0 の場合:

メッセージ・テキスト: NOT ENOUGH PRIVATE BUFFERS OBTAINED

レジスター 内容

2

DMAC のアドレス

11

ESCD のアドレス

DBFSGAB0 の場合:

モジュール DBFSGAB0 の Csect DBFSGAB1 は、再始動用の共用プールからバッファを取得します。

1063 は、再始動によってバッファを取得できず、プールが拡張されていない場合に、DBFSGAB1 によって発行される標準異常終了です。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

DBFBPNIO の場合:

FP 64 ビット・バッファ・マネージャーによって管理されているバッファの要求中に、呼び出し元へ誤ったバッファが返されそうになりました。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

DBFBPNKO の場合:

FP 64 ビット・バッファ・マネージャーによって再利用可能なバッファを作成中に、返されるバッファが SVSO 専用バッファまたは 64 ビット・バッファ・

マネージャーの一部として割り振られたバッファーではありませんでした。この問題は、IMS 内部システム・エラーです。IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、特定の問題を判別するための支援を受けてください。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、問題を判別するための支援を受けてください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFIBUF0、DBFPFAB0、DBFMDBQ0、DBFPGAB0、DBFSGAB0、DBFBPNIO、DBFBPNK0

1064

説明

HSSP は、エリアの処理を終了すると、すべての専用バッファーが戻された後で、専用バッファー・プールを解放します。一部の専用バッファーが戻されなかったため、HSSP が専用バッファー・プールを解放できませんでした。これは、IMS 内部システム・エラーです。レジスター 15 には、サブコードが入ります。

分析

レジスター 15 には、以下のいずれかのサブコードが入ります。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01'		HSSP 領域終了の際は、OTHEADS がすべての領域専用バッファーの書き込みを終了し、それらを専用バッファー・プールに戻すまで待つ必要があります。これらのバッファーが返されなかったために、OTHEADS が完了しませんでした。
Reg15=X'02'		専用バッファーを備えたすべての DMAC は、ESCDDMPB チェーンに置かれます。この DMAC がチェーンに見つかりませんでした。
Reg15=X'03'		AWE 用ストレージを取得できません。

これは、IMS 内部システム・エラーです。IBM サポート に連絡して、特定の問題の判別の支援を受けます。

システムの処置

IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答

IBM サポート に連絡して、問題の判別の支援を受けます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFPFPB0

1065

説明

アプリケーションが、PROCOPT H および PROCOPT GO を指定して定義されている PCB を使用して、呼び出しを行いました。この処理オプションの組み合わせは無効です。

システムの処置

従属領域は終了します。

プログラマーの応答

処理オプションの無効な組み合わせを訂正するか、または他の PCB を使用します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFIRC10

処理オプションの無効な組み合わせを訂正するか、または呼び出しで他の PCB を使用します。

1070

説明

IMS 制御領域のサブプール 231 にある専用バッファー・プールのストレージに対する **IMODULE GETMAIN** 要求、またはそのストレージのページ固定の要求が失敗しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

CSA または ECSA ストレージ・サイズを増やしてから、IMS を再始動します。

プログラマーの応答

z/OS システム・プログラマーに相談して、CSA または ECSA サイズを増やします。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFPVTS0

1143

説明

進行中の HALDB オンライン変更操作により、セグメントのサイズが大きくなったことを IMS が検出しました。IMS は、より大規模な PSB 作業域を取得しようとしたが、取得できませんでした。原因として最も可能性が高いのは、PSB 作業域プールが小さすぎるか、IMS がより大規模な PSB 作業域に必要なストレージを取得できないかのどちらかです。ただし、この異常終了は、内部論理エラーの結果として発生する場合があります。IMS はこの異常終了についてエラー・メッセージを発行し、エラーに関する追加情報を提供します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了し、IMS はエラー・メッセージを発行します。

システム・プログラマーの応答

この異常終了の原因に関する追加情報は、IMS が異常終了と共に発行したエラー・メッセージを検索してください。

エラー・メッセージでは問題が分からない場合、システム・ストレージの使用量が異常に高くないかどうかを確認してください。IMS または別の z/OS サブシステムで著しく高い作業負荷または問題がある場合には、システム・ストレージを一時的に使い尽くしている可能性があります。

使用可能なシステム・ストレージの量が問題ではない場合、PSB 作業域プールが、同時にスケジュールされている PSB 数に必要な PSB 作業域すべてを保持するために十分な大きさであるかどうかを確認します。HALDB 変更操作とオンライン変更の両方が完了したら、新規のデータベース変更にアクセスできるようになったら、PSB 作業域プールのサイズを変更できます。この際、DBC、DCC、または IMS 開始手順で PSBW パラメーターを変更します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDBLP0, DFS5DBB0

関連概念

[PSB、PSBW、および DMB プールのチューニング \(システム管理\)](#)

関連資料

[IMS プロシージャのパラメーターの説明 \(システム定義\)](#)

[BUFPOOLS マクロ \(システム定義\)](#)

1155

説明

MODBLKS データ・セットが IMS コールド・スタート時にロードされました。その後、モジュールの長さを判別するために CSVQUERY 要求が発行されましたが、この要求は失敗しました。

システムの処置

IMS は異常終了します。

システム・プログラマーの応答:

メッセージ DFS4965E の戻りコード yyyy を使用して、CSVQUERY 要求が失敗した理由を判別し、問題を訂正してください。次に、IMS をコールド・スタートします。

問題判別:

1、4

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFRRT00、DFSRDB00、DFSRPG00、DFSRT00

関連情報

[DFS4965E \(メッセージおよびコード\)](#)

1352

説明

正常に完了したコミットの直後に、DBT スレッドが DLI 呼び出しを発行しました。しかし、DLI 呼び出しの処理中に、SWITCH_CONTEXT サービス要求が失敗しました。

この問題が発生すると、IMS は DFS554A メッセージを発行します。メッセージの例は、次のようなものです。

```
DFS554A DDLT5J 00001 G PLAPJK04(7) 000,1352 2014 +
/280 09:44:18 RTKN= ODBA00260000000200000001
```

システムの処置

DLI 呼び出しは処理されず、DBT スレッドは異常終了しました。

システム・プログラマーの応答

問題を訂正するための追加情報については、メッセージ DFS554A を参照してください。

問題判別:

1、3、5、33、36

モジュール:

DBFIRC10、DFSCPY00

関連資料

[IMS プロシージャのパラメーターの説明\(システム定義\)](#)

1500

説明

データベースのリカバリーが試みられました。タスク入出力テーブルとスケジューラ作業域との間に不整合がありました。割り振られた DD 名が、タスク入出力テーブル内で見つかりませんでした。

分析

これは、モジュール DFSMDA00 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: IMS システム・エラー

システムの処置

IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

4、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSMDA00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1501

説明

サポートされない DASD 装置に対してデータベース・リカバリーが試みられました。

分析

これは、モジュール DFSMDA00 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答

データベースを定義する JCL が正しいかどうか、および IMS でサポートしていない装置をサポートしようとして IMS をユーザー変更していないかどうかを確認します。

問題判別

4、8、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSMDA00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

1780

説明

ラッチが要求されている間に、ラッチのためのアプリケーション呼び出しが待ち状態に入りました。ラッチの実行時に、ITASK はアプリケーションに通知し、ITASK が送信した通知コードとそのアプリケーションが予期している通知コードが一致していることを確認する検査が行われます。一致しないときには、予期しない結果によって異常終了が起こります。

システムの処置

従属領域は終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

4、35

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

第 24 章 IMS 異常終了コード 2001 - 3000

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

2277

説明

OLR のコミットまたはバックアウト中に、バッファークイックが呼び出されました。ただし、バッファークイック・キュー・エレメント (BQEL) によってアドレッシングされるバッファークイックの所有権の取得中に、バッファークイック・ハンドラー DFSDVBH0 で障害が発生しました。DFSDVBH0 からのブロック探索が失敗し、その結果、ラベル VBHP3160 の後に DFSDVBH0 から標準異常終了が発行されました。標準異常終了の理由は、バッファークイックに書き込むことができず、コミットまたはバックアウト中にこのバッファークイックを指し示す BQEL を解放できないことです。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

DL/I トレース・エンタリーまたは PSTRTCDE にある、ブロック探索からの戻りコードを調べてください。レジスター 2 (R2) は BQEL を指し示します。

ブロック探索戻りコードによって示された障害を訂正してください。

問題判別:

1、6、17a から 17e、11、および 35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSDVBH0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2476

説明

RECON データ・セットへの入出力が妨げられると、DBRC が異常終了します。この異常終了の場合は、CICS 緊急時再始動 (テークオーバー) を進めることができます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

ソース:

IMS 異常終了

2478

説明

プログラム分離処理中に、待ち PST の最大数を超過しました。リソースを待つ必要があります。また DFSFXC10 は WAIT 状況ではこれ以上のシステムを処理することができないため、アプリケーション・プログラムは異常終了します。

分析

これは、DFSFXC10 によって発行される疑似異常終了です。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了し、メッセージ処理プログラム (MPP) は自動的にスケジュール変更されます。

オペレーターの応答

アプリケーション・プログラムがバッチ・メッセージ処理プログラム (BMP) であった場合、最新の同期点からスケジュールを変更する必要があります。

問題判別

必要なアクションはありません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSFXC10

2479

説明

バッファークイック・キュー・エレメント (BQEL) に使用可能な十分なストレージが、アプリケーション・プログラムにありません。

分析

これは、DFSDBH10 および DFSDVSM0 によって発行される疑似異常終了です。

アプリケーション・プログラムがバッチまたはバッチ・メッセージ処理プログラム (BMP) であった場合、最後に完了した同期点からスケジュールを変更する必要があります。メッセージ処理プログラム (MPP) では自動的にスケジュールを変更する処理が実行されます。この問題がバッチで発生する場合、領域サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。この問題が DB/DC 環境で繰り返し発生する場合は、IMS 制御領域にさらに大きい CSA サイズまたは領域サイズ (あるいは両方) を指定してから、IMS を再始動します。

考えられる原因: CSA サイズまたは領域サイズが小さすぎた可能性があります。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了し、メッセージ処理プログラム (MPP) は自動的にスケジュール変更されます。

オペレーターの応答

アプリケーション・プログラムがバッチ・メッセージ処理プログラム (BMP) であった場合、最新の同期点からスケジュールを変更する必要があります。

プログラマーの応答

この問題がバッチで発生する場合、領域サイズを増やしてから、ジョブを再実行します。この問題がオンライン環境で繰り返し発生する場合は、IMS 制御領域により大きな CSA サイズまたは領域サイズ (あるいは両方) を指定して、IMS を再始動します。

問題判別

必要なアクションはありません。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSDBH10、DFSDVSM0

2480

説明

IMS データベース・リカバリー管理 (DBRC) で内部エラーが検出されました。エラーの内容を示すエラー・コードを含んだメッセージ DSP0300I が発行されます。個別のエラー・コードの説明については、メッセージ DSP0300I を参照してください。

システムの処置

メッセージ DSP0300I は、IMS が異常終了したか (メッセージ・テキスト内に TERM)、続行するか (メッセージ・テキスト内に CONT) を示します。

プログラマーの応答

メッセージ DSP0300I のエラー・コードを調べて、可能であれば問題を訂正し、ジョブを再実行します。問題を訂正できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題判別の支援を受けてください。

問題判別:

2、3、4、8、35、および RECON データ・セットのリスト。

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DSP0300I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2481

説明

データベース・リカバリー管理 (DBRC) にアクセスするために必要なモジュールの探索に、BLDL マクロがエラーを検出しました。

分析

レジスター 15 に、BLDL マクロからの戻りコード、レジスター 3 に BLDL 理由コードが入っています。DBRC がインストールされている場合、探索エラーの原因を判別します。また、データベース・ログ情報またはユーティリティー情報がアクセス不能であったため、これらの情報を RECON データ・セットに入力しなければならない場合もあることに注意してください。

この異常終了を出すモジュール名を以下に示します。

ユーティリティー

異常終了の発行元モジュール

ログ・リカバリー

DFSULGIO

DEDB ログ・データ・セットおよび検査

DFGLOGC0

変更累積

DFSUCMNO

オンライン・イメージ・コピー

DFSUICPO

システムの処置

この異常終了の前に、メッセージ DFS2481I が出力されます。処理は異常終了します。

プログラマーの応答

レジスター 15 に、BLDL マクロからの戻りコード、レジスター 3 に BLDL 理由コードが入っています。データベース・リカバリー管理がインストールされている場合、探索エラーの原因を判別します。また、データベース・ログ情報またはユーティリティー情報がアクセス不能であったため、これらの情報を RECON データ・セットに入力しなければならない場合もあることに注意してください。

問題判別

1、2、3、4、8、12、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSULGI0、DBFLOGC0、DFSUCMN0、DFSUICP0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2482

説明

前に呼び出された機能要求が進行中であるのに、IMS の機能を実行するために DBRC ルーター (DSPCRTR0) が呼び出されました。DBRC は、呼び出し元の一部でプログラミング・エラーを検出しました。DBRC は、複数の機能要求を並行して実行できません。

分析

DBRC に対する再帰呼び出しは使用できません。マルチタスクの実行中は、呼び出し元は、別の要求を開始する前に、DBRC サービスに対する要求を確実に完了する必要があります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

診断情報をすべて保存し、IBM サポートに連絡して、問題判別の支援を受けてください。

問題判別

2、3、4、8、11、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DSPCRTR0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2483

説明

DBRC モジュールへの呼び出しを解決するため、DBRC ロoader (DSPLOADR) が呼び出されました。既知の DBRC ロード・モジュール内の存在しないエン트리・ポイントか、または、不明なロード・モジュール内のエン트리・ポイントが呼び出されました。DBRC ルーター・ストレージでの呼び出されるモジュールの索引が、未定義のモジュールを示しているため、モジュール呼び出しは無効です。

分析

DBRC には、現在ストレージに無い DBRC ロード・モジュール内のエン트리・ポイントへの呼び出しをインターセプトできるメカニズムが組み込まれています。DBRC では、呼び出しが完了する前に、必要なロード・モジュールを確実にロードすることができます。異常終了 2483 は、不明なエン트리・ポイントへの呼び出しが発生したことを示します。通常これは、システム修正変更プログラム (SMP) プロセスの結果として発生します。ユーザーは、DBRC の「呼び出しインターセプト」メカニズムによる最新の変更で影響を受けたモジュールの再コンパイル、または適切なバインドに失敗しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

診断情報をすべて保存し、IBM サポートに連絡して、問題判別の支援を受けてください。

問題判別

2、3、4、8、11、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DSPLOADR

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2484

説明

DFSBCB マクロを使用して、IMS 高速機能に関連する制御ブロックを取得できませんでした。レジスター 2 に、障害のあった制御ブロックの識別情報が入っています。

分析

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 12 は、異常終了を発行するモジュールの基底レジスターです。

FUNC=GET が指定された DFSBCB マクロは、要求された制御ブロックを取得できなかったことを示す、ゼロ以外の戻りコードを発行します。異常終了 SVRB レジスターのレジスター 2 には、取得できなかった制御ブロックを示す EBCDIC コードが入ります。

また、この異常終了は、FP 通知タスク・モジュール (DBFICLIO) から発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=C'AWE'		非同期作業エレメント (AWE) を取得できませんでした。
Reg2=C'ADSC'		エリア・データ・セット制御ブロック (ADSC) を取得できませんでした。
Reg2=C'FNCR'		FNCR を取得できません。
Reg2=C'FPCP'		FPCP を取得できません。
Reg2=C'FNCR'		FNCR を取得できません。
Reg2=C'L56X'		L56X ブロックを取得できません。
Reg2=C'STOR'		要求されたストレージを取得できませんでした。

システムの処置

IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答

より多くの CSA スペースを与えて、IMS を緊急時再始動して処理を再開します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:

DBFBNPIO、DBFBPNS0、DBFBPN10、DBFBPN50、DBFBPN70、DBFBN80、DBFDIDT0、DBFDT300、DBFICLIO、DBFMEQE0、DBFMFLG0、DBFMLBIO、DBFMLBR0、DBFMLOP0、DBFNRS0、DBFUMER0、DBFARD10、DBFARD30、DBFARD40、DBFCST00、DBFVXCS0、DBFVXCS0、DBFICL40

2485

説明

DBFLATCH マクロを使用した DMAC 排他的ラッチの保持が、ラッチがすでに存在しているために失敗しました。

分析

これは、高速機能強化 DBFLATCH マクロから発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の DBFLATCH 内の命令を指しています。

異常終了 SVRB のレジスター 12 は、DBFLATCH マクロを発行するモジュールの基底レジスターです。

TYPE=GEXC を指定した DBFLATCH マクロを実行すると、DMACSLWC フィールドに、すでに保持されている DMAC 排他的ラッチが表示されます。DMAC 排他的ラッチは、一度に 1 つしか保持できません。

キー	ラベル	説明
	DMACSLWC	ビット 0 がオンの場合、DMAC 排他的ラッチが保持されます。

システムの処置

IMS 制御領域は終了します。

プログラマーの応答

このエラー状態は発生してはならないので、メモリー・ダンプを保管しておいてください。

問題判別

11、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFMLOP0、DBFMLCL0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2486

説明

内部のエリア停止または ADS 停止のための通知要求が、IMS または IRLM での重大エラーのために失敗し、IRLM から戻りコードを受け取りました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードによって判別された問題を訂正してから、IMS を再始動します。問題を修正できない場合は、IBM に連絡して追加支援を受けてください。

問題判別

1、3、4、10、35

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2488

説明

DEDB エリア・データ・セットの使用可能フラグをセット/リセットするために DBRC が呼び出されたときに、IMS または DBRC のいずれかで論理エラーが発生しました。

分析

これは、高速機能緊急時再始動モジュール DBFERST0、DBFEAIS0、または DBFE2C10 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の DBFERST0 内の命令を指しています。

- 異常終了 SVRB のレジスター 12 は、基底レジスターです。
- レジスター 15 に、以下のコードおよびその意味が入っています。

コード (16 進数)
意味

X'0C'

DBRC によって設定された戻りコードは、エリアが RECON データ・セットに登録されていないことを

示しています。エリア・データ・セットの状況呼び出しは、エリアが DBRC に登録されている場合のみ発行されるので、内部エラーが発生しました。

X'10'

DBRC によって設定された戻りコードは、エリア・データ・セットが RECON データ・セットに登録されていないことを示しています。エリア・データ・セットの状況呼び出しは、DBRC に登録されているエリア・データ・セットにのみ発行されるので、内部エラーが発生しました。

X'2C'

DBRC によって設定された戻りコードが、エリア・データ・セット状況呼び出しの処理中に、内部 DBRC エラーが発生したことを示していました。詳しくは、この異常終了の前に DBRC によって発行されるメッセージを参照してください。

X'30'

DBRC によって設定された戻りコードは、必要パラメーターが DBRC に渡されていないことを示しています。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

DBRC に関連した問題を訂正してから、ジョブを再実行します。障害の原因を判別するには、DBRC 要求戻りコード情報にある戻りコードを参照してください。

問題判別

1、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFERST0、DBFEAIS0、DBFE2C10

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2489

説明

DEDB エリアを停止するために高速機能共通サービス ITASK ルーチンに対して発行された非同期作業エレメ

ント (AWE) エンキュー・コマンドが、内部エラーのために失敗しました。

分析

これは、高速機能強化 DEDB の 2 番目の CI 更新プロセス、または高速機能 XRF 領域クリーンアップ・モジュール (DBFEACLO) から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元の DBFMOCIO 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 12 は、基底レジスターです。

この異常終了の前に、次の MTO メッセージが発行されます。

```
DFS3717I  DEDB AREA CONTROL BLOCK NOTIFY
          FAILURE - AREA STOPPED. DBD=dbname
          AREA=areaname
```

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

エリアを停止する理由については、この異常終了の前に発行されたメッセージを参照してください。データベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDBO を実行してエリアをリカバリーしてから、ジョブを再実行します。問題を判別することができない場合、「問題の判別」に進んで、障害の原因を判別します。

問題判別

1、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFMOCIO、DBFEACLO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2490

説明

基本プリミティブ環境で DBRC を実行中に内部 DBRC エラーが発生しました。レジスター 15 に、異常終了の理由を示すコードが入っています。

表 10. レジスター 15 のサブコードおよび説明

サブコード	説明
X'00 10'	ストレージ割り振り中にエラーが発生しました。レジスター 14 に、BPEGETM からの戻りコードが入っています。
X'00 20'	モジュールのプリロード中に、エラーが発生しました。
X'00 24'	BPELOAD の呼び出し中に、エラーが発生しました。
X'01 10'	BPEPARSE 作業域を割り振ることができませんでした。
X'01 20'	DSPBIxxx メンバーの読み取り中に、エラーが発生しました。
X'01 30'	DBRC ランタイム・パラメーターの構文解析中に、エラーが発生しました。
X'01 34'	DSPBIxxx メンバーの構文解析中に、エラーが発生しました。
X'01 40'	DSPBIxxx または DBRC EXEC のパラメーターの妥当性検査中に、エラーが発生しました。
X'02 10'	RECON データ・セットの真のオープン中にエラーが発生しました。
X'02 20'	IMS が使用している IMSplex 名が、DBRC が使用している名前と異なります。
X'02 30'	IMS リソース・マネージャー・パラメーター・リスト・ブロック (IRMP) に DBRC 情報を保管中にエラーが発生しました。
X'02 40'	システム管理機能 (SMF) の登録中にエラーが発生しました。
X'02 50'	IMS システム目録ディレクトリー (SCD) が見つかりませんでした。
X'02 60'	ジョブ名が DBRCNM パラメーターと一致しません。
X'02 70'	DBRC 従属領域はすでに開始しています。
X'02 80'	SVC INIT の障害。
X'02 90'	クロスメモリー POST の障害。
X'06 10'	グループ・サービス・ラッチの取得に失敗しました。レジスター 14 に、BPELAGET からの戻りコードが入っています。

表 10. レジスタ 15 のサブコードおよび説明 (続き)	
サブコード	説明
X'06 20'	グループ・サービス・ラッチの解放に失敗した。レジスタ 14 に、BPELAREL からの戻りコードが入っています。
X'06 30'	グループ・サービスの AWE 取得エラー。レジスタ 14 に、BPECBGET からの戻りコードが入っています。
X'06 40'	グループ・サービスの AWE エンキュー・エラー。レジスタ 14 に、BPEAWSRV からの戻りコードが入っています。
X'06 50'	グループ・サービスの AWE 待機エラー。レジスタ 14 に、BPEWAIT からの戻りコードが入っています。
X'06 60'	グループ・サービスの IMSplex 照会に失敗した。
X'06 70'	グループ・サービスがローカル静止のための GRP2 AWE のエンキューに失敗した。
X'06 80'	DBRC にメッセージを受信する準備ができたことを示す、SCI への呼び出しによるグループ・サービス・エラー。
X'06 90'	特定の DBRC またはすべての DBRC に対するメッセージのブロードキャストでのグループ・サービス・エラー。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答:

メッセージ DSP1125A、DSP1140A、または DSP2002E が発行された場合は、エラー・コードを調べて、可能であれば問題を訂正し、ジョブを再実行します。問題を訂正できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題判別の支援を受けてください。

問題判別:

2、3、4、8、35、および RECON データ・セットのリスト。必要な場合は、セキュリティー管理者に連絡して、示されている DBRC リソースに対する権限を取得します。

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DSP1125A \(メッセージおよびコード\)](#)

[DSP1140A \(メッセージおよびコード\)](#)

[DSP2002E \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2496

説明

IMS または IRLM の重大エラーのため、DEDB エリア・ロックの内部要求が失敗しました。

分析

これは、DBFARD10、DBFARD20、DBFARD50、DBFCMOC2、および DBFEAIS0 によって発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、障害が発生しているモジュール内の異常終了 SVC の後にある命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスタ 12 は、基底レジスタです。

DBFARD10、DBFARD20 の場合:

- IRLM から RC X'14' が戻され、LMREJECT が設定されます。ロックは、障害が発生した IMS によって所有されています (保持ロック)。この不正な IRLM 戻りコードは、内部の ADS 停止コマンドであり、障害が発生したロック所有者以外の他の IMS 共用システムが存在しました。この場合は、レジスタ 15 には PSTLRXRC と PSTLRXFB が含まれており、IRLM からの初期 RC X'14' ではなく IRLM 通知呼び出しを反映します。
- X'14' と LMREJECT を含め、IRLM からのその他の障害戻りコードはどれも設定されません (保持ロックではありません)。

DBFCMOC2 の場合:

- IRLM から RC X'14' が戻され、LMREJECT が設定されます。ロックは、障害が発生した IMS によって所有されている (保持ロック) か、SDEP を含む領域に DMACF7F0 (強制的なクローズとオープン) が設定され、DBFARD50 は据え置きクローズではありません。
- X'14'、LMREJECT (保持ロック)、および DMACF7F0 (強制クローズとオープン) を含め、IRLM からのその他の障害戻りコードはどれも設定されません (保持ロックではありません)。

DBFEAIS0 の場合:

- IRLM から RC X'14' が戻され、LMREJECT が設定されます (保持ロック) が、領域は共用されず DBFEAIS0 は XRF TKO ではありません。
- X'14' と LMREJECT を含め、IRLM からのその他の障害戻りコードはどれも設定されません (保持ロックではありません)。IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード情報を参照してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードによって判別された問題を訂正してから、IMS を再始動します。問題を訂正できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

問題判別:

1、3、4、10、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DBFARD10、DBFARD20、DBFARD50、DBFEAIS0、DBFCMOC2

関連タスク

[戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2610

説明

IMS バッチ・ディスパッチャーでエラーが発生しました。この異常終了は、バッチ IMS の場合のみです。

分析

これは、初期設定でエラーが発生して SCP が待機するときに、IMS バッチ・ディスパッチャー (DFSKBDPO) によって発行される標準異常終了です。レジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入ります。

コード

意味

X'10'

ディスパッチャー作業域に対する IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 3 には、要求された長さが入っています。レジスター 5 に IMODULE 戻りコードが入っています。

X'11'

ECB を待機として初期設定するための呼び出しが行われましたが、バッチ待ちリストが満杯です。レジスター 2 にリストのサイズが入っています。レジスター 8 は ECB を指します。

X'12'

ECB を待機として初期設定するための呼び出しが行われましたが、その ECB はすでに初期設定されていました。レジスター 3 に ECB アドレスが入っています。

X'13'

初期設定中に TCB テーブル・エントリを取得できませんでした。レジスター 3 には、SCD からの TCB テーブル接頭部のアドレスが入っています。

X'14'

SCP WAIT ルーチンに対する呼び出しが行われましたが、ITASK はすでに SCP WAIT でした。レジスター 7 には、WAIT を試行する現行 ITASK の ECB アドレスが入っています。レジスター 6 には、呼び出し元の戻りアドレスが入っています。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSKBDPO

2763

説明

IMS の再始動 (ウォーム・スタートまたは緊急時再始動) の実行中に、高速機能正常再始動プロセッサ (DBFNRSO) が、どのチェックポイントから MSDB を再始動するかを判別するために MSDB チェックポイント・データ・セットから制御レコードを読み取りましたが、選択されたチェックポイントが IMS ログに見つかりませんでした。

分析

この異常終了は、次のいずれかの条件で発行されます。

1. MSDBCP1 または MSDBCP2 の MSDB チェックポイントに、完全なものがまったくない。MSDB チェックポイント・データ・セットの制御レコードにある ID フィールドが、「MSDBCHPT」に等しくありません。
2. MSDBCP1 および MSDBCP2 の MSDB チェックポイントが、両方とも X'4001' ログ・レコードのチェックポイントより前にある。
3. MSDBCP2 のチェックポイントは MSDBCP1 のチェックポイント以降にあるが、MSDBCP1 のチェックポイントが完全でないか、または X'4001' ログ・レコードのチェックポイントよりも前にある。
4. MSDB チェックポイント制御レコードが、チェックポイント・データ・セット内に見つからない。制御レコードに対する GET が原因で、EODAD ルーチンが DBFNRSO に入り、異常終了 2763 が発行されます。これは、前の IMS コールド・スタートを MSDB を指定せずに実行したために起こった可能性があります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IMS コンソール・シートを調べて、以下を確認します。

1. MSDBCP1 および MSDBCP2 上の最新の 2 つの MSDB チェックポイントのうち、古い方のチェックポイント。
2. 上記に該当の MSDB チェックポイントと一致するか、またはそれより前のシステム・チェックポイント。

このシステム・チェックポイントを指定して再始動します。

問題判別

35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFNRS0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2800

説明

IMS の初期設定で、グローバル・オンライン変更関連の初期設定中にエラーが発生しました。異常終了サブコードが障害の理由を示しています。

分析

IMS 初期設定は、この異常終了コードで異常終了します。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。返される可能性のあるサブコードは、次のとおりです。

コード
説明

X'01'

OLCSTAT データ・セットの割り振りまたは割り振り解除が失敗しました。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2848E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

X'02'

OLCSTAT データ・セットのオープン、読み取り、書き込み、またはクローズが失敗しました。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2843E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

X'03'

内部エラーのため、OLCSTAT データ・セット・アクセス要求が失敗しました。

X'07'

OLCSTAT データ・セットの内容が無効です。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2844E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

X'08'

リソース定義の不整合が検出された後、オペレーターはメッセージ DFS2845A に CANCEL を応答し、IMS 初期設定を取り消しました。

X'09'

IMS で定義された OLCSTAT データ・セット名は、IMSplex 内の他の IMS システムで定義された OLCSTAT データ・セット名と矛盾します。IMSplex 内のすべての IMS システムが、同じ OLCSTAT データ・セット名を定義する必要があります。

X'10'

グローバル・オンライン変更が進行中です。グローバル・オンライン変更の進行中に、IMS を初期設定することはできません。

システムの処置

IMS 初期設定は、この異常終了コードで異常終了しません。

プログラマーの応答

OLCSTAT データ・セット異常終了サブコード (0001、0002、および 0007) の場合は、OLCSTAT データ・セット・エラーを訂正してから IMS 初期設定を再試行します。異常終了サブコード 0003 の場合は、IMS ダンプを保管してから、IBM サポートに連絡してください。異常終了サブコード 0009 の場合は、正しい OLCSTAT データ・セット名をこの IMS に定義してから、IMS 初期設定を再試行します。異常終了サブコード 0010 の場合、グローバル・オンライン変更が進行中なので、OLCSTAT データ・セットはロックされています。INITIATE OLC PHASE (COMMIT) コマンドまたは TERMINATE OLC コマンドが正常に完了し、OLCSTAT データ・セットがアンロックされてから、IMS を再始動します。グローバル・オンライン変更中にすべての IMS システムが異常終了した場合は、INITIATE OLC コマンドまたは TERMINATE OLC コマンドを処理する IMS は存在しません。この場合は、OLCSTAT データ・セットをアンロックするためのアンロック機能を指定して、グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLCO) を実行する必要があります。その後で IMS を再始動します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSIIOC0、DFSCSL40

関連情報

[DFS2843E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS2844E \(メッセージおよびコード\)](#)

2801

説明

IMS の再始動で、グローバル・オンライン変更に関連したエラーが発生しました。異常終了サブコードが障害の理由を示しています。

分析

IMS は、この異常終了コードで異常終了します。レジスター 15 に、異常終了サブコードが入ります。返される可能性のあるサブコードは、次のとおりです。

**コード
意味****X'01'**

OLCSTAT データ・セットの割り振りまたは割り振り解除が失敗しました。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2848E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

X'02'

OLCSTAT データ・セットのオープン、読み取り、書き込み、またはクローズが失敗しました。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2843E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

X'03'

内部エラーのため、OLCSTAT データ・セット・アクセス要求が失敗しました。

X'07'

OLCSTAT データ・セットの内容が無効です。この異常終了の前に発行されるメッセージ DFS2844E に、障害関連情報が表示されます。

X'10'

グローバル・オンライン変更が進行中です。グローバル・オンライン変更が開始されたのは、この IMS が初期設定されてからです。

X'11'

再始動の終了時に表示されるこの IMS の変更 ID は、OLCSTAT データ・セット内の変更 ID と同期していません。

テークオーバー中の XRF 代替、緊急時再始動を実行中の DBCTL ウォーム・スタンバイ、または高速データベース・リカバリーを実行中の FDR 領域などのトラッキング IMS の場合、この IMS は OLCSTAT データ・セットと同期していません。これは、X'70' ログ・レコードが最後のグローバル・オンライン変更によって正常にログに記録されていないためと考えられます。

再始動 IMS の場合、この IMS の初期化以降にグローバル・オンライン変更が発生した可能性があります。

X'12'

IMS 再始動コマンドが、最後のグローバル・オンライン変更と矛盾しています。

X'13'

グローバル・オンライン変更はサポートされていません。

システムの処置

IMS 初期設定は、この異常終了コードで異常終了します。

プログラマーの応答

OLCSTAT データ・セット異常終了サブコード (0001、0002、および 0007) の場合は、OLCSTAT データ・セット・エラーを訂正してから IMS 初期設定を再試行します。異常終了サブコード 0003 の場合は、IMS ダンプを保管してから IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。異常終了サブコード 0010 の場合は、グローバル・オンライン変更が終了してから、IMS 初期設定を試行します。異常終了サブコード 0011 の場合は、IMS 初期設定を再試行します。XRF 代替システムのテークオーバーが異常終了した場合、または DBCTL のウォーム・スタンバイが異常終了した場合は、アクティブな IMS の緊急時再始動を実行してください。異常終了サブコード 0012 の場合は、IMS 初期設定を再試行し、最後のグローバル・オンライン変更と矛盾しない IMS 再始動コマンドを発行します。異常終了サブコード 0013 の場合は、DFSCGxxx OLC=LOCAL を定義して、IMS を再始動します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSOLCSO

関連情報

[DFS2843E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS2844E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS2848E \(メッセージおよびコード\)](#)

2990**説明**

IMS セグメント編集/圧縮ルーチン DFSCMPX0 で、圧縮または拡張サービスの実行を試みているときに、ユーザーの編集/圧縮ルーチンからエラーが検出されました。この編集/圧縮ルーチンは、圧縮または拡張サービスを試みているときにエラーを検出しました。

分析

PSW は、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内の命令を指しています。レジスター 14 には、検出モジュールによって設定されたエラー理由コードが含まれます。このエラー理由コードは、障害が起きている位置の

ラベル名に対応します。レジスター 10 には、DMBCPAC (高速機能の場合は DBFCMPC) 制御ブロックのアドレスが入っています。レジスター 9 には、ルーチンの作業域のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=D4 D7E701	D4D7E7 01	圧縮要求時に、可変長セグメントの入力長が 2 バイトより小です。セグメント・データを訂正してください。
Reg14=D4 D7E702	D4D7E7 02	展開要求時に、圧縮されたセグメントの入力長が 2 バイトより小です。
Reg14=D4 D7E703 Reg15=戻 りコード	D4D7E7 03	展開要求時に、z/OS 拡張サービス (CSRCESTRV) から、ゼロ以外の戻りコードが返されました。
Reg14=D4 D7E704	D4D7E7 04	SEGM ステートメントの COMPRTN= パラメーターに INIT が指定されませんでした。
Reg14=D4 D7E705 Reg6=機能 コード	D4D7E7 05	無効な機能コード。
Reg14=D4 D7E706 Reg1=長さ + シーケン ス・ フィールド の オフセット	D4D7E7 06	セグメント・シーケンス・フィールドが、完全なセグメント内にありません。
Reg14=D4 D7E707	D4D7E7 07	入力の長さが負です。セグメント・データを訂正してください。

システムの処置

アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答

編集/圧縮ルーチンが適切に作成され、リンクされているかどうかを確認します。

問題判別:

4、17a、17b、18、19、および編集/圧縮ルーチンのソース・リストとリンク・リスト

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSCMPX0

関連資料

[z/OS: CSRCESTRV の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

2991

説明

IMS セグメント編集/圧縮ルーチン DFSKMPX0 で、圧縮または拡張サービスの実行を試みているときに、エラーが検出されました。ユーザーの編集/圧縮ルーチンが、圧縮または拡張サービスを試みているときにエラーを検出した可能性があります。

分析

PSW は、異常終了 (SVC 13) の発行元のモジュール内の命令を指しています。レジスター 14 には、検出モジュールによって設定されたエラー理由コードが含まれます。このエラー理由コードは、障害が起きている位置のラベル名に対応します。レジスター 10 には、DMBCPAC (高速機能の場合は DBFCMPC) 制御ブロックのアドレスが入っています。レジスター 4 には、ルーチンの作業域のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=D4D7E 701 Reg6= 機能コー ド	D4D7E7 01	無効な機能コード。
Reg14=D4D7E 702 Reg1=長さ + シーケンス・ フィールドの オフセット	D4D7E7 02	セグメント・シーケンス・フィールドが、完全なセグメントを備えていません。
Reg14=D4D7E 703	D4D7E7 03	入力の長さが負です。セグメント・データを訂正してください。
Reg14=D4D7E 704	D4D7E7 04	圧縮要求時に、可変長セグメントの入力長が 2 バイトより小です。セグメント・データを訂正してください。

キー	ラベル	説明
Reg14=D4D7E705	D4D7E705	SEGM ステートメントの COMPRTN= パラメーターで INIT が指定されませんでした。
Reg14=D4D7E706	D4D7E706	展開要求時に、入力セグメントにシーケンス・フィールドが含まれていましたが、このシーケンス・フィールドは SEGM ステートメントに定義されていません。
Reg14=D4D7E707	D4D7E707	展開要求時に、部分展開が行われました。
	D4D7E708	セグメントの拡張時に、拡張長が最大セグメント・サイズを超えます。このオカレンスは、DBD の不一致によって引き起こされる可能性があります。

システムの処置

アプリケーションは異常終了します。

プログラマーの応答

編集/圧縮ルーチンが適切に作成され、リンクされているかどうかを確認します。

問題判別

4、17a、17b、18、19、および編集/圧縮ルーチンのソース・リストとリンク・リスト。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSKMPX0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3000

説明

XRF 代替システムまたは高速データベース・リカバリー領域が適切なデータ・セット (ACBLIB、FMTLIB、

MODBLKS) をセットアップしていたとき、またはオンライン変更レコードを処理していたときに、エラーが発生しました。エラーを示す DFS33xx または DFS34xx メッセージが、この異常終了とともに出力されます。

分析

この異常終了は、モジュール DFSICV90 から発行される標準異常終了です。

タイプ 4001 またはタイプ 70 のログ・レコードの処理中に、XRF 代替システムでエラーが発生しました。

下位レベルのモジュールからゼロ以外の戻りコードを渡されたため、DFSICV90 は異常終了を発行します。この戻りコードは、異常終了が出される前に、付属のメッセージを送信するために使用されます。IMS または z/OS コンソールでメッセージを受信する前に異常終了が発生する場合は、レジスター 7 を使用してメッセージ番号を見つけることができます。

異常終了時のレジスター 7 は、メッセージ AWE へのポインターです。AWE には、オフセット X'30' (つまり、DFS3488) から始まる読み取り可能な事前編集メッセージ・テキストか、またはオフセット X'2E' のキー付きメッセージ番号が入ったハーフワードが含まれていません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

アクティブ・システム上で /CHECKPOINT コマンドを発行して、単純チェックポイントを取ります。DFS3804I メッセージから、最新の再始動チェックポイントのタイム・スタンプがオンライン変更後であることを確認してから、XRF 代替または FDBR 領域を再始動してください。あるいは、付随するメッセージに示された状態を訂正してください。

問題判別:

1、4、5、6

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSICV90

関連情報

[DFS3804I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 25 章 IMS 異常終了コード 3001 - 3100

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

3001

説明

カタログ監査処理中に予期しない状態が発生しました。

分析

この異常終了は、カタログ監査処理中に予期しない状態が発生すると DFS3AU00 によって発行されます。この異常終了の発生時に試みられていた処理は、理由コードによってさらに詳しく説明されます。

システムの処置

従属領域は終了します。

ユーザーの処置

コードの不具合が原因でこのエラーを受け取った可能性があります。IBM サポートに連絡し、追加の支援を受けてください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFS3AU00

3006

説明

アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーから、256 バイトより大きい長さのディレクトリー・ブロックが読み取られました。

分析

これは、モジュール DFSUTL40 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴って、メッセージ DFS1033I が出力されます。異常終了 SVRB 内のレジスターを使用して、問題分離を行う必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg7= ディレクトリー・ブロッ		ディレクトリー・ブロックの最初の 2 バイトには、ブロックの長さが含まれます。これらの 2 バイトには、

キー	ラベル	説明
クのアドレス		256 (X'0100') より大きい値が含まれます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 は異常終了します。

プログラマーの応答

読み込まれたブロックを探し出し、長さ値が 256 より大きい理由を判別します。

問題判別

1、2、4、16

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUTL40

関連情報

[DFS1033I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3007

分析

MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 プロセッサーが、ホスト・システム STOW 機能から予期しない完了コードを受け取りました。

説明

これは、モジュール DFSUTL40 から発行される標準異常終了です。この異常終了に伴い、メッセージ DFS1012I、DFS1031I、または DFS1032I が出力されます。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。STOW マクロ命令からの戻りコードを判別するには、STOWCODE の内容を検査します。

ディレクトリー内の項目の追加、変更、置換、または削除によって、区分データ・セット・ディレクトリーを更新するために、STOW マクロ (SVC 21) が発行されました。STOW は、レジスター 15 で戻りコードを受け渡します。この戻りコードは、ラベル STOWCODE におけるハーフワード内の DFSUTL40 に保管されます。

コード 説明

X'00'

ディレクトリーの更新が正常に完了しました。

X'04'

重複ブロック - ディレクトリーには、すでに指定された名前が含まれています。

X'08'

未定義の STOW 追加 - 指定された名前を検出できませんでした。

X'0C'

ディレクトリーにスペースが残っていませんでした。

X'10'

ディレクトリーを更新しようとしているときに永続入出力エラーが発生しました。

X'14'

指定された DCB が開かれていないか、または正しく開かれていません。

X'18'

STOW を指定した条件付き GETMAIN が失敗しました。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル STOWABND を指しています。

この異常終了に伴うメッセージは、STOWCODE の戻りコードおよび実行される STOW のタイプによって判別されます。ディレクトリー項目が追加される場合 (タイプ A) および戻りコードが X'08'、X'14'、または X'18' である場合は、メッセージ DFS1012I が発行されます。ディレクトリー項目が置換される場合 (タイプ R)、および戻りコードが X'04'、X'08'、X'14'、または X'18' の場合は、メッセージ DFS1012I が発行されます。STOW 戻りコードが X'0C' である場合は、メッセージ DFS1031I が発行されます。戻りコードが X'10' の場合は、メッセージ DFS1032I が発行されます。

キー	ラベル	説明
STOWCODE=0	STOWIT 1	タイプ A の STOW マクロが発行され、ゼロ以外の戻りコードを返しました。これはエラーであるため、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
STOWCODE=X'04'	DUPBLO CK	タイプ A の STOW が失敗したので、タイプ R の STOW を発行するために、このルーチンへ分岐します。ゼロ以外の戻りコードがタイプ R の STOW から渡され、異常終了が発行されます。
STOWCODE=X'0C'	DIRERR	タイプ A またはタイプ R の STOW が失敗しました。メッセージ DFS1031I が発行され、異常終了します。
STOWCODE=X'10'	PERMIO	タイプ A またはタイプ R の STOW が失敗しました。メッセージ DFS1032I が発行され、異常終了します。
STOWCODE=X'08'、X'10'、X'14'、または X'18'	STOWER	タイプ A または R の STOW が失敗しました。メッセージ DFS1012I が発行され、異常終了します。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答

フェーズ 2 の「UTPRINT」出力を調べて、障害を判別します。メッセージ DFS1030I、DFS1031I、DFS1032I、および DFS1012I も参照してください。MFS 形式ライブラリーの状況を判断してから、ジョブを再実行します。

問題判別

1、2、4、16

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUTL40

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3008

説明

MFS サービス・ユーティリティーまたは MFS 言語ユーティリティー・プログラムのフェーズ 2 が、ホスト・システム機能の DEVTYPE または RDJFCB、あるいは OPEN マクロから予期しない戻りコードを受け取りました。

異常終了の時点のレジスター 7 に、障害の原因を示す機能コードが入っています。レジスター 14 に、予期しない戻りコードが検出された場所のアドレスが入っています。機能コードは、以下のとおりです。

コード (16 進数)

説明

04

次のいずれかのエラー条件が、FORMAT ステートメントで示されたデータ・セットに当てはまります。

- DD ステートメントがない。
- DD ステートメントで DUMMY を指定している。

08

これは、FORMAT、UTPRINT、または SEQBLKS の各 DD ステートメントで示された 1 つ以上のデータ・セットの初期オープンが失敗したことを示します。

0C

これは、FORMAT DD ステートメントまたは SEQBLKS DD ステートメントで示された 1 つ以上のデータ・セットの 2 次オープンが失敗したことを示します。

10

これは、DEQBLKS DD ステートメントで示されたデータ・セットの最終オープンが失敗したことを示します。

14

これは、FORMAT DD ステートメントで要求されたデータ・セットの DEQ または ENQ が失敗したことを示します。

分析

これは、モジュール DFSUTL40 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを、問題分離に使用する必要があります。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル BADOPEN 内の命令を指しています。

ラベル CHKDISP1 で、DFSUTL40 は、「FORMAT」の DD 名を持つ DD ステートメントの妥当性検査を行うために、レジスターを DFSIDDPO に分岐リンク (BALR) します。DFSIDDPO は、エラーを検出した場合、レジスター 15 へ戻りコードを返します。レジスター 7 は、理由コードを示す値に設定されるので、ラベルの分離に使用できません。

DFSIDDPO からのゼロ以外の戻りコードは次のとおりです。

コード 説明

X'04'

DD 名が見つかりません。(DEVTYPE)

X'08'

DEVTYPE パラメーター・エラー

X'10'

DD DUMMY が指定されました。

キー	ラベル	説明
Reg7=X'04' Reg14=BAL	CHKDI SP	ルーチンは、「FORMAT」の DD 名を持つ DD ステートメントの妥当性検査を行います。これは、DFSIDDPO にレジスターを分岐リンク (BALR) します。DFSIDDPO は、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを渡します。これはエラーで、異常終了が発行されます。
Reg7=X'08' UTPRINT +DCBOFLGS -= X'10'	NQDON E:	FORMAT DD ステートメント DISP の妥当性検査が実行されます。このルーチンは、サブプール 15 に GETMAIN を実行し、DEVTYPE マクロを発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに OPEN を発行します。その後、データ・セットが開いたかどうかを確認するために、一連のテストを行います。それらのデータ・セットのいずれかが開いていない場合は、異常終了が発行されます。
FORMATIN +DCBPFLGS -= X'10'	NQDON E:	FORMAT DD ステートメント DISP の妥当性検査が実行されます。このルーチンは、サブプール 15 に GETMAIN を実行し、DEVTYPE マクロを発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに OPEN を発行します。その後、データ・セットが開いたかどうかを確認するために、一連のテストを行います。それらのデータ・セットのいずれかが開いていない場合は、異常終了が発行されます。
FORMATOU +DCBOFLGS -= X'10'	NQDON E:	FORMAT DD ステートメント DISP の妥当性検査が実行されます。このルーチンは、サブプール 15 に GETMAIN を実行し、DEVTYPE マクロを発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに OPEN を発行します。その後、データ・セットが開いたかどうかを確認するために、一連のテストを行います。それらのデータ・セットのいずれかが開いていない場合は、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
SEQBLKS +DCBOFLGS →= X'10'	NQDON E:	FORMAT DD ステートメント DISP の妥当性検査が実行されます。このルーチンは、サブプール 15 に GETMAIN を実行し、DEVTYPE マクロを発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに OPEN を発行します。その後、データ・セットが開いたかどうかを確認するために、一連のテストを行います。それらのデータ・セットのいずれかが開いていない場合は、異常終了が発行されます。
Reg7=X'0C' FORMATOU +DCBOFLGS →= X'10' SEQBLKS +DCBOFLGS →= X'10'	REOPE N	FORMATOU および SEQBLKS データ・セットは、FORMAT データ・セットを圧縮するために再オープンされるようになっています。OPEN が失敗した場合は、異常終了が発行されます。
Reg7=X'10' SEQBLKS +DCBOFLGS →= X'10'	EXIT	このルーチンは、終了ハウスキーピングを実行します。これは、サブプール 15 を解放するために FREEMAIN を発行します。次に、FORMATIN、FORMATOU、UTPRINT、および SEQBLKS データ・セットに対して CLOSE が発行されます。その後、データ・セットを初期設定するために、出力に対して SEQBLKS データ・セットが再オープンされます。OPEN が失敗した場合は、異常終了が発行されます。
Reg7=X'14'	NQFMT LIB RETUR N	モジュール DFSMODE0 がターゲット・フォーマット・ライブラリー (ddname=FORMAT) へのエンキューに失敗しました。または、モジュール DFSMODE0 がターゲット・フォーマット・ライブラリー (ddname=FORMAT) のデキューに失敗しました。

プログラマーの応答

SYSUDUMP DD ステートメントで示されたデータ・セットおよびフェーズ 2 ステップの JCL を調べて、SYSTEM IECnnn OPEN ERROR MESSAGES を探します。

問題判別

1、2、4、16

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUTL40

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3009

説明

MFS 言語ユーティリティのフェーズ 2 プロセッサが、SEQBLKS DD ステートメントで示されたデータ・セット内に、無効なレコードまたはレコードの組み合わせを見つけました。このデータ・セットは、フェーズ 1 プロセッサによって作成されます。

分析

これは、モジュール DFSUTL40 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。特定のラベル (異常終了が検出された 3 番目のインスタンスを除く) を分離するには、レジスター 14 BAL を使用することができます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル NOTBLOCK を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg14=BA L STOWBLEN = ブロック・ サイズ VBSTYPE →= X'01' REG= VBSTCL (VBSTYPE を含む)	ISRGE TC2	モジュール制御テーブル (MCT) で、フォーマット・ブロックを SEQBLKS データ・セットから取得して、FORMAT ライブラリー内で置換するよう指示しています。SEQBLKS が読み取られたとき、フォーマット・ブロック・レコードが検出されず、内部論理エラーがあることを示しています。このルーチンには、SEQBLKS データ・セットのブロック・レコードを取得する GET ルーチンへの分岐リンクがあります。フェーズ 1 タイプ・レコードのバイトに、フォーマット制御機構ブロック・レコードの ID である戻りコード X'01' が含まれているかどうかを確認するために、比較が行われます。含まれていない場合は、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg10= VBSCCTL Reg14=BA L VBSTYPE => X'01'	ISRGE TC3	モジュール制御テーブル (MCT) で、フォーマット・ブロックを SEQBLKS データ・セットから取得して、FORMAT ライブラリー内で置換するよう指示しています。SEQBLKS が読み取られたとき、フォーマット・ブロック・レコードが検出されず、内部論理エラーがあることを示しています。GET ルーチンには、SEQBLKS データ・セットからブロック・レコードを取得するための分岐リンクがあります。フェーズ 1 タイプ・レコードのバイトに、フォーマット制御機構ブロック・レコードの ID である X'01' が含まれていることを確認するために、比較が行われます。含まれていない場合は、異常終了が発行されます。
Reg11=フ ェーズ間テ ーブル (PPT) PPTSW1 => X'40'	ISRTE OF	フォーマット PDS ヘブブロックを挿入しているときに EODAD が検出されました。検索が制御レコード用に使用されているかどうかを確認するために、テストが行われます。そうでない場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

オペレーターの応答

SEQBLKS DD ステートメントを磁気テープ装置に割り振って、ジョブを再実行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUTL40

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3010

説明

ITB ツリーの構築中に、エラーが検出されました。障害は次のいずれかの可能性があります。

- 計算された作業用ストレージ所要量が不十分である。
- 入力ソースに無効な階層シーケンス・エラーがある。

分析

これは、ラベル CATSTROP におけるモジュール DFSUTL80 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

キー	ラベル	説明
Reg2= 階層スタック項目のサイズ Reg3= 階層スタックの終わり Reg4= 階層スタック Reg4>Reg3 における現在位置	CATST ROP	モジュールの階層内容の圧縮表記を作成するために、不足している作業用ストレージ要件が階層スタックについて計算されました。
Reg5=0 Reg6= 現行 ITB Reg8= 現行の階層レベル・インデックス	CATST ROP	入力ソースの無効な階層シーケンス・エラーです。現行の ITB モジュール項目 (レジスター 6) が処理されていたときに、親の ITB モジュール項目 (レジスター 5) が処理されませんでした。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUTL80

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3011

説明

IMS.REFERAL .REFERAL ライブラリーにある MSG ITB の内容が、IMS.REFERAL ディレクトリー項目にある出力メッセージ指示と不整合です。

分析

これは、モジュール DFSUTL0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が出されるラベル HORRORS 内の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg4= 使用中のモジュール制御テーブル項目 (MCTE) MCTETYPE=MCTE TMSO MSGFLAG1=MSG1 INP Reg5= 使用中の MSGITB Reg11= PPT テーブル PPTWCNAM=MSG ITB 名 PPTMCT= 使用中のモジュール制御テーブル (MCT)	HORRORS	REFERAL ディレクトリー項目から作成された MCTETYPE フィールドは、メッセージが入力用であることを示していますが、DFSUTL0 によるメッセージ ITB の検査では、メッセージが出力用であることを示しています。

プログラマーの応答

以下のステップを実行してください。

1. SCRATCH REFER=msgname 制御ステートメントを指定して、MFS ユーティリティーを実行します。
2. MFS 言語ユーティリティーを実行し、出力 MSG を再アセンブルします。これにより、出力 MSG ITB が IMS REFERRAL ライブラリーに入れられ、出力メッセージ指示がディレクトリー項目内で設定されます。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUTL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3012

説明

IMS REFERAL ライブラリーにある MSG ITB の内容が、IMS.REFERAL ディレクトリー項目にある入力メッセージ指示と不整合です。

分析

これは、モジュール DFSUTL0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了に入ったときのプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が出されるラベル HORRORS 内の命令を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg5= 使用中の MSGITB、 Reg11= PPT テーブル、 PPTWCNAM=M SGITB 名、 PPTMCT= 使用中のモジュール制御テーブル (MCT)	HORRORS	REFERAL ディレクトリー項目から作成された MCTETYPE フィールドは、メッセージが入力用であることを示していますが、DFSUTL0 によるメッセージ ITB の検査では、メッセージが出力用であることを示しています。
Reg4= 使用中のモジュール制御テーブル (MCT)、 MCTETYPE=MC TETMSI、 MSGFLAG1 = MSG1INP		

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

以下のステップを実行してください。

1. SCRATCH REFER=msgname 制御ステートメントを指定して、MFS ユーティリティを実行します。
2. MFS 言語ユーティリティを実行し、入力 MSG を再アセンブルします。これにより、入力 MSG ITB が IMS REFERRAL ライブラリーに入れられ、入力メッセージ指示がディレクトリー項目内で設定されます。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUTLB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3013

説明

出力メッセージ LPAGE ステートメントまたは入力メッセージ DPAGE ステートメントの処理中に、LPAGE、DPAGE、またはリテラル順序再配置作業スタックがオーバーフローしました。

分析

これは、モジュール DFSUTLC0 または DFSUT150 のいずれかから発行される標準異常終了です。

異常終了を発行したモジュールを判別するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用します。

DFSUTLC0 の場合:

これは、DFSUTLC0 から出される可能性のある標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル HORRORS 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 6 は、MOD 内の現行 MODGRP 項目を指し、レジスター 11 はフェーズ・ツー・フェーズ・テーブル (PPT) を指します。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
PPT1CURI=LPAGE スタック索引 PPT1CURI>PPT1MAXI	CALLSEG	LPAGE スタック・インデックスは、レジスター 1 にロードされます。これは、PPT1MAXI (スタック内の項目の数) と比較されます。現行項目にスペースが残っていない場合は、異常終了が発行されます。
Reg15=現行の リテラル・ スタック索引 Reg15>PPT3MAXI	STACKLIT	LPAGE の現行のリテラル数は、レジスター 15 にロードされます。レジスター 15 は、PPT3MAXI (スタック内の LPAGE リテラル項目の数) と比較されます。LPAGE リテラル・スタック・インデックスの方が高い場合、異常終了が発行されます。

DFSUT150 の場合:

これは、DFSUT150 によって発行できる標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) が出されるラベル HORRORS 内の命令を指しています。異常終了 SVRB のレジスター 5 は、DIF 内の現行 DIFSECTN (DPAGE セクション) 項目を指し、レジスター 11 は、すべての項目を含む作業テーブル (PPT) を指します。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
PPT2CURI=現行の DPAGE インデックス PPT2CURI>PPT2MAXI	CALLDFLD	現行の DPAGE インデックスがレジスター 1 にロードされました。これは、PPT2MAXI (スタック内の項目の数) と比較されます。DPAGE スタックの方が高い場合、異常終了が発行されます。
Reg15=現行の リテラル・ スタック索引 Reg15>PPT4MAXI	STACKLIT	現行の DPAGE インデックスは、レジスター 15 にロードされます。レジスター 15 は、PPT4MAXI (スタック内のリテラル項目数) と比較されます。DPAGE リテラル・スタック・インデックスの方が高い場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUTLCO、DFSUT150

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3014

説明

MFS 言語ユーティリティー入力 SEG プロセッサ・ルーチン (DFSUTLDO) が、リテラル・カウント減少後のフィールドの数がゼロより小さいか、または構成中の MID にリテラル・プールを追加すると設計サイズ制限の 32,748 を超えてしまうことを認識しました。

分析

これは、モジュール DFSUTLDO から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 12 には、CSECT DFSUTLDO のエントリー・ポイント・アドレスが含まれます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル ABEND を指しています。レジスター 14 には、CSECT の始まりから、直前にエラーを検出した命令へのオフセットが含まれます。

フィールドの数およびリテラル・カウントは、それぞれ DFSUTLFO および DFSUTLHO によって作成されます。MID は、サブプール 20 で構成中です。

キー	ラベル	説明
Reg15= MIDSEG 項 目内の リテラル順 序の数 Reg4=MID 制御ブロッ ク内の 現行 MIDSEG 項	MFLDL ITS	このルーチンは、MFLD MID リテラル順序プロセッサから戻ったときに、フィールドの数からリテラルを差し引いた数を計算します。MID ブロック項目内の現行セグメントがレジスター 4 および 15 にロードされ、リテラルが生成されたかどうかを確認するために検査されます。リテラルが生成された場合は、MIDSNF にある

キー	ラベル	説明
目 Reg2= 負の 値		フィールドの数が入ったレジスター 2 がロードされ、リテラルの数が減算されます。レジスター 2 に負の値が含まれている場合、異常終了が発行されます。
Reg4=MID 制御ブロッ クで次に 使用可能な ストレージ	CHKSE G2	このルーチンは、ソースで指定した MID 制御ブロック内の SEG ステートメントごとに、SEG 項目を構成します。MID 制御ブロック内の現行のアドレスがレジスター 4 にロードされた後、レジスター 4 は、MIDSEG 項目のサイズ (X'0A') だけ増加します。新規アドレスが 32,748 を超えた場合は、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティーは異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

1、2、4、16、および 35。フィールドの数およびリテラル・カウントは、それぞれ DFSUTLFO および DFSUTLHO によって作成されます。MID は、サブプール 20 で構成中です。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUTLDO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3015

説明

出力メッセージ MFLD ステートメントの処理中に、リテラル作業スタックが最大サイズを超えました。

分析

これは、モジュール DFSUTLE0 または DFSUTLGO から発行される標準異常終了です。異常終了を発行したモジュールを判別するには、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用します。

DFSUTLE0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターは、問題分離に使用されます。レジスター 6 は、MOD 制御ブロック内の現行の MODFDE へのポインターです。異常終了は、ラベル LITERR におけるルーチンから出されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT3CURI= 現 行の スタック索引 PPT3CURI>PP T3MAXI	SETEOP	レジスター 1 に現在のリテラル数がロードされました。これは、PPT3MAXI (リテラルの最大数) と比較されます。現在のリテラル数の方が大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUTLGO の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、異常終了 (SVC 13) の発行元のラベル LITERR 内の命令を指します。

キー	ラベル	説明
PPT3CURI= 現 行スタック PPT3CURI>PPT 3MAXI	SETLIT S	レジスター 1 に現行のスタック・インデックスがロードされました。レジスター 1 は、スタック (PPT3MAXI) 内の項目の数と比較されます。現行のスタック・インデックスの方が高い場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUTLE0、DFSUTLGO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3016

説明

シンボル・テーブル (PPTSYM または PPTSYM1) をアルファベット順にソートしているとき、内部論理エラーが発生しました。ユーザー変更が原因である可能性があります。

分析

これは、モジュール DFSUTLTO から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。エラーが検出され、異常終了がラベル ARECBREC におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg5=BREC ポインター Reg6=AREC ポインター Reg14=BAL	ARECBREC	このルーチンは、フィールド FLDEKEY をレジスター 6 およびレジスター 5 内の FLDE と比較します。これらが等しい場合、異常終了が発行された理由は等しいフィールドが発生してはならないからです。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答

障害が、MFS 言語ユーティリティへのユーザー変更なしに発生しているかどうかを確認します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUTLTO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3017

説明

シンボル・テーブル (PPTSYM または PPTSYM1) のバイナリー構造化ツリーの構築中に、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、モジュール DFSUTLTO から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了がラベル TREERROR におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg2=待機スタック項目のサイズ Reg3=待機スタック内の最後の項目のアドレス Reg4=待機スタック内の現行項目 Reg4>Reg3 Reg9=待機スタック(サブプール 15 内)のアドレス	SHFT PWR	現行スタック項目 (レジスター 4) のアドレスは 8 (レジスター 2) 増えます。レジスター 4 がレジスター 3 (スタック内の最後の項目のアドレス) より上位である場合、異常終了が発行されます。
Reg2=待機スタック項目のサイズ Reg3=待機スタック内の最後の項目のアドレス Reg4=待機スタック内の現行項目 Reg4>Reg3 Reg9=待機スタック(サブプール 15 内)のアドレス	STKN ODE	現行スタック項目 (レジスター 4) のアドレスは 8 (レジスター 2) 増えます。レジスター 4 がレジスター 3 (スタック内の最後の項目のアドレス) より上位である場合、異常終了が発行されます。
Reg5=待機スタック内の「より小」項目の索引 Reg6=待機スタック内の「センター」項目の	HAVE RT	このルーチンは、待機スタック内のバイナリー・ツリーのアドレス・リストを作成し、テーブル内の各項目に「より小」および「より

キー	ラベル	説明
索引 大	Reg7=待機スタック内の「より大」項目の索引	大」ポインタを設定します。レジスター 6 が負である場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: MFS 言語ユーティリティーの変更

システムの処置

MFS 言語ユーティリティーは異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSUTLTO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3018

説明

TABLE および IF ステートメントの処理中、またはリテラルの再割り振り中にエラーが検出されました。不適切なリテラル・オフセットが見つかりました。

分析

これは、モジュール DFSUT0I0、DFSUT020、DFSUT120、または DFSUT130 から発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了を発行したモジュールを判別します。異常終了 SVRB 内のレジスター 12 には、エラーが発生した時点で制御していた CSECT のエントリー・ポイント・アドレス (基底) が含まれています。

DFSUT0I0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。

DIF DFLD FDE 項目内のテーブル名参照解決時にエラーが検出され、ラベル TABBRLOC におけるルーチンから異常終了が発行されます。または、ラベル IFBRLOC における IF シンボル・テーブル内の IF ラベル参照解決時にエラーが検出されます。異常終了への入り口のプロ

グラム状況ワード (PSW) は、これらのいずれかのラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。異常終了が発行された元のラベルを判別するのにこの PSW を使用する必要があります。

キー	ラベル	説明
Reg3= DIFFDE 内の DIFFTBLO Reg0=DIF ブロ ックの先頭か ら、ブロック内 で次に使用可能 なスペースまで のオフセット Reg11=PPT テ ーブル PPTBLOCK=DIF ブロックの先頭 のアドレス PPTAVAIL=ブロ ック内で次に使 用可能なスペー スのアドレス Reg0≥PPTLDRS Z	TABB RLOC	レジスター 3 に、DIF ブロ ック内の再配置スロットがロ ードされています。その上 で、DIF 内のテーブルへのオ フセットがレジスター 0 で 計算され、レジスター 3 が指 すアドレスに保管されます。 このオフセットはブロック の最大サイズと比較されま す。このオフセットが、DIF ブロックに割り振られた最 大スペース以上である場合、 異常終了が発行されます。
Reg3= IFE 内の IFEFDE Reg0=IF シンボル・テー ブルの先頭か ら、ブロック内 で次に使用可能 なスペースまで のオフセット Reg11=PPT テ ーブル PPTBLOCK=IF シンボル・テー ブルの先頭のア ドレス PPTAVAIL=ブロ ック内で次に使 用可能なスペー スのアドレス Reg0≥PPTLDRS Z	IFBR LOC	レジスター 3 に、DIF ブロ ック内の IF ラベル参照を指す ポインターがロードされて います。ブランチ・アドレス へのオフセットがレジスタ ー 0 で計算され、レジスタ ー 3 が指すアドレスに保管さ れます。このオフセットは、 DIF ブロックに割り振られ ている最大サイズと比較さ れます。このオフセットが DIF ブロックの範囲外であ る場合、異常終了が発行され ます。

DFSUT020 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してく
ださい。

DFLD リテラルのリテラル再割り振り時にエラーが検
出されます。異常終了がラベル USER3018 におけるル
ーチンから発行されます。異常終了への入り口のプロ
グラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常
終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg2= DOF ブロックの 先頭から、 ブロック内 のリテラ ル・ プールの起 点までの オフセット Reg3=リテ ラル再割り 振りの DOFFDE Reg11=PPT テーブル PPTBLOCK= DOF ブロッ ク	RLOC1	DOF ブロックのブロック・スト レージ・アドレスをレジスター 2 から減算して、オフセット起 点が得られます。レジスター 3 には、DOF ブロック項目 (DOFFDE) が入っています。リ テラル・オフセット (DOFFLIT) が取得され、レジスター 1 にロ ードされます。レジスター 2 はリテラル・オフセットに追加 されます。リテラル・オフセッ トが負の値になる場合、異常終 了が発行されます。
Reg2= DOFFDE Reg11=PPT テーブル DOFFLIT6> PPTWCOPN	BCTLO OP2	リテラル・オフセットが作成さ れ、DOFFLIT に保管されまし た。オフセットが DOF ブロッ ク・サイズ (PPTWCOPN) より 大きい場合、異常終了が発行さ れます。
Reg0= DOF ブロックの 先頭から、 ブロック内 のリテラ ル・ プールの起 点までの オフセット Reg2= DOFFDE	BCTLO OP2	DOFFDE のアドレスはレジス ター 2 にあります。レジスタ ー 1 に DOFFLIT (リテラル・プ ール内のリテラル・オフセッ ト) がロードされます。ブロッ ク・オフセット (レジスター 0) がそれに追加されます。レジ スター 1 が負の値になる場合、 異常終了が発行されます。

DFSUT120 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してく
ださい。

DFLD リテラルのリテラル再割り振り時にエラーが検
出されます。異常終了がラベル USER3018 におけるル
ーチンから発行されます。異常終了への入り口のプロ
グラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常
終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg2= DOF ブロックの開始から、 ブロック内の リテラル・ プールの起点 までの オフセット Reg3=リテラル再割り振りの ための DOF ブロック内の DOFFDE Reg11=PPT テーブル リテラル・ オフセット >PPTWCOPN	RLOC 1	計算されたリテラル・オフセット (レジスター 1 内) は、DOF ブロック内の有効値について妥当性検査が行われます。リテラル・オフセットが負の値であるか、DOF ブロック限界 (PPTWCOPN) を超える場合、異常終了が発行されます。

DFSUT130 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

DPAGE リテラルのリテラル再割り振り時にエラーが検出されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3018 内の命令を指します。

キー	ラベル	説明
Reg2=DIF ブロックの開始から、 ブロック内の リテラル・ プールの起点 までの オフセット Reg3=DIF ブロック内の DIFSECTN 項目 Reg11=PPT テーブル PPTBLOCK= DIF ブロック起点 DIFSLIT>PPT WCOPN	RLO C1	レジスター 1 で計算されたリテラル・オフセットは、DIF ブロック内の有効値について妥当性検査が行われます。リテラル・オフセット (レジスター 1) が負の値であるか、DIF ブロック限界 (PPTWCOPN) を超える場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUT010、DFSUT020、DFSUT120、DFSUT130

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3019

説明

DFLD ステートメントの処理中に、リテラル作業スタックが、最大サイズの 32,748 バイトを超えました。

分析

これは、モジュール DFSUT050 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg11=PPT テーブル・アドレス PPT04STK=リテラル・スタック・アドレス PPT4CURI=現行索引番号 PPT4MAXI=この作業スタックに割り当てられた最大項目数 PPT4CURI>PPT4MAXI	SETL IT	リテラル参照が DOFFDE で処理されるときに、このルーチンに入ります。ルーチンは、DOFFDE アドレスを作業スタックに保管しようとしています。作業スタック内の最大項目数を超えているかどうかを確認するために、比較が行われます。超えている場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUT050

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3020

説明

DFLD ステートメントの処理中に、リテラル作業スタック (PPT04STK) が最大サイズを超えました。

分析

これは、各種モジュールから発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了が発行された元のモジュールを判別する必要があります。レジスター 11 は、ラベル PPTxxxx を含むフェーズ間テーブル (PPT) を指します。レジスター 12 は、基底レジスターです。

DFSUT090 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=PPTAVAIL Reg5=リテラル・スタック索引 Reg5>PPT5MAXI	ENDM OVE	レジスター 5 には、リテラル・スタック索引 (これまでにこの DPAGE に必要だったリテラル数) が含まれます。スタック内の最大項目数 (DIV について) を超えているかどうかを確認するために、比較 (レジスター 5 と PPT5MAXI との) が行われます。超えている場合、異常終了が発行されます。
PPT4CURI>PPT4MAXI	BYOR GSET	このコード・セクションは、後のオフセット解決のためにリテラル FDE のアドレスをスタック PPT04STK に入

キー	ラベル	説明
		れます。現行リテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が獲得されます。スタック内の最大項目数を超えているかどうかを確認するために、比較が行われます。短すぎる場合は、異常終了が発行されます。
Reg3=現行のリテラル・スタック項目数	ORGSE T	現行のリテラル・スタック項目数が、許可された最大数を超えたので、異常終了が発行されます。

DFSUT160 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CUR I>PPT4MAXI	SETL IT1	このルーチンは、後のオフセット解決のためにスタック PPT04STK にリテラルを置きます。現行のリテラル・スタック索引が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーフロー条件が存在するかどうかを確認します。現行索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されません。

DFSUT180 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CUR I>PPT4M AXI	SETLI T1	このルーチンは、後のオフセット解決のためにリテラル FDE のアドレスをスタック PPT04STK に入れます。現行のリテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーラン条件が存在するかどうかを確認します。現行索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT190、DFSUT200、DFSUT300 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI>PPT4MAXI	OVERRUN4	このコード・セクションは、後のオフセット解決のためにリテラル FDE のアドレスをスタック PPT4STK に入れます。現行リテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が獲得されます。スタック内の最大項目数 (PPT4MAXI) を超えているかどうかを確認するために、比較が行われず。短すぎる場合は、異常終了が発行されます。

DFSUT260 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 または OVERRUN5 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、これらのラベルのどちらかにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI I>PPT4MAXI	SETLIT1 (OVERRUN4)	現行のリテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーラン条件が存在するかどうかを確認します。現行索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

キー	ラベル	説明
PPT5CURI >PPT5MAXI	SETCATR 1 (OVERRUN5)	現行の DFLD 索引 (PPT5CURI) が取得され、PPT5MAXI と比較されて、スタック上でオーバーフロー条件が存在するかどうかを確認します。現行の DFLD 索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT280 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI I>PPT4M AXI	SETLIT1	このルーチンは、後のオフセット解決のためにリテラル FDE のアドレスをスタック PPT4STK に入れます。現行のリテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーフロー条件が存在するかどうかを確認します。現行のスタック索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT290 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERRUN4 におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
PPT4CURI >PPT4MAXI	SETLIT1 (OVERRUN4)	現行のリテラル・スタック索引 (PPT4CURI) が取得され、PPT4MAXI と比較されて、スタック上にオーバーラン条件が存在するかどうかを確認します。現行索引がスタック項目の最大数より大きい場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティーは異常終了します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUT090、DFSUT160、DFSUT180、DFSUT190、DFSUT200、DFSUT260、DFSUT280、DFSUT290、DFSUT300

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3021

説明

各 DPAGE には、作成する内部物理ページごとに少なくとも 1 つのリテラル・フィールド記述エレメント (FDE) がなければなりません。このスタック内に LLLLZZ リテラルがない場合、内部論理エラーが発生しています。

分析

これは、モジュール DFSUT090、すなわち 3270 プリンター出力 DFLD プロセッサから発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3021 内の命令を指します。レジスター 11 は PPT 作業テーブルを指します。この作業テーブルでは、PPT05STK に LLLLZZ 作業スタックのアドレスが入り、PPT5CURI に現行 DPAGE 作業スタックの索引が入ります。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg3= 現行 DPAGE 内のリテラル数。 Reg5=現行 DPAGE のリテラル・スタックのアドレス	SET ME4	内部物理ページの明細を判別するために、現行 DPAGE 内の DFLD がプリスキャンされました。内部物理ページごとに、1 つの LLLLZZ リテラルが必要です。このルーチンは、LLLLZZ リテラル参照ごとに 1 つの作業スタックを取得します。必要なリテラル数 (レジスター 3) がゼロに相当します。これは誤りであり、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUT090

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3022

説明

処理中の FMT または MSG 記述子が大き過ぎます。その結果、SUBPOOL 20 内に作成中のオンライン・ブロックが、設計制限サイズの 32,748 バイトを超えました。

分析

これは、各種モジュールから発行される標準異常終了です。

この異常終了を発行するモジュール数が原因で、各モジュールの分析が行われませんでした。エラー状態の一般的な説明のみが提供されます。

異常終了が発行された元のモジュールを判別するには、異常終了 SVRB のレジスターを使用します。レジスター 12 には、これらのモジュールで使用される基底レジスターが入っています。

いかなる場合でも、ラベル SIZABEND における異常終了ルーチンから異常終了が発行されます。このラベルに対する複数の参照が生じる可能性があります。異常終了 (SVC 13) を発行したモジュールで、この状態がいかどうか検査する必要があります。レジスター 11 はフェーズ間テーブル (PPT) を指し、これにはすべての PPT ラベルが含まれます。

キー	ラベル	説明
PPTBLKEN <PPTAVAIL		このエラーを検出するルーチンは、ブロック・ストレージの最後のバイトのアドレスを、ブロック・ストレージ内で次に使用可能なバイトのアドレスと比較します。ブロック・ストレージの最後のバイトのアドレスの方が下位である場合、最大ブロック・サイズを超えたため、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

プログラマーの応答

この記述子は、現在の形式では処理できません。可能ならば、記述子を再定義するか、または記述子を複数の記述子として再構築してから、ジョブを再実行します。

問題判別

1、2、4、16

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUTLA0、DFSUTLB0、DFSUTLC0、DFSUTLD0、
DFSUTLE0、DFSUTLF0、DFSUTLH0、DFSUTLJ0、
DFSUTLN0、DFSUTLT0、DFSUTOA0、DFSUTOI0、
DFSUT020、DFSUT030、DFSUT040、DFSUT050、
DFSUT060、DFSUT090、DFSUT120、DFSUT130、
DFSUT140、DFSUT150、DFSUT160、DFSUT170、
DFSUT180、DFSUT190、DFSUT260、DFSUT280、
DFSUT290

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

3025

説明

TABLE 記述のリテラル・スタック (PPT055STK) を処理中に、内部論理エラーが発生しました。ユーザー変更が原因でこのエラーが発生した可能性があります。

分析

これは、モジュール DFSUTOI0、すなわち TABLE および IF プロセッサから発行される標準異常終了です。

590 IMS: メッセージおよびコード 第3巻: IMS 異常終了コード

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル OVERRUN5 内の命令を指します。

このモジュールは DIF ブロック構築ルーチンによって呼び出され、任意の DFLD で参照されるテーブルを処理し、テーブル情報をブロックに取り込みます。

キー	ラベル	説明
Reg4= DIF ブロック内の現 行 DIFTBLE 項目 Reg11-PPT テー ブル PPT5CURI のア ドレス +1= 現行リテラル索 引 PPT5MAXI=PPT 055TK に 割り振られた最 大項目数 PPT5CURI>PPT 5MAXI Reg14=BAL DIFTOP2=リテ ラル・テーブルの 先頭からのリテ ラルのオフセッ ト	PROCIF B3	このルーチンは DFSUTLU0 に分岐リンクして、テーブルにリテラルを入れます。戻ったときに、リテラル・プール内のリテラルのオフセットが作成されます。現行リテラル索引が獲得され、PPT5MAXI (リテラル・スタック内の項目数) と比較されます。現行索引の方が大きい場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: PPT055TK へのストレージの割り振り、または MFS 言語ユーティリティへのユーザー変更における内部論理エラー。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUTOI0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

3026

説明

DFLD テーブル名の TABLE シンボル・テーブルを処理中に、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、モジュール DFSUT060 および DFSUT170 から発行される標準異常終了です。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) を使用して、異常終了が発行された元のモジュールを判別します。

考えられる原因: 内部論理エラー。おそらく、最大参照の計算に誤りがありました。

DFSUT060 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERUNTB におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg3=TBLE TBL1CURI>T BL1MAXI Reg14=BAL	NOTDET	このルーチンは、テーブル名シンボル・テーブルの項目を見つけるために、DFSUTLX0 (エラーを検出する) に分岐リンクしました。レジスター 3 に、テーブル名シンボル・テーブル記述子 (TBLE) のアドレスが入っています。現行の参照索引番号が獲得され、最大参照索引と比較されます。現行索引の方が大きい場合、異常終了が発行されます。

DFSUT170 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用してください。

異常終了がラベル OVERUNTB におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg3=TBLE TBL1CURI>T BL1MAXI Reg14=BAL	GETFLDE	このルーチンは、テーブル名シンボル・テーブル記述子 (TBLE) の項目を見つけるために、DFSUTLX0 (エラーを検出する) に分岐リンクしました。現行の参照索引番号が獲得され、最大参照索引と比較されます。現行索引の方が大きい場合、異常終了が発行されま

キー	ラベル	説明
		す。最大参照索引は、この DIV ステートメントで DFLD によってテーブル名が参照される回数に基づいて計算されます。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUT060、DFSUT170

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3027

説明

TABLE 記述の IF シンボル・テーブルを処理中に、内部論理エラーが発生しました。ユーザー変更が原因でこのエラーが発生した可能性があります。

分析

これは、モジュール DFSUTOIO、すなわち TABLE および IF プロセッサから発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、ラベル OVERUNIF における SVRB を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg5=アド レス IF ラベ ル・シンボ ル・テーブル 項目 IF1CURI-現 行参照索引 番号 IF1MAXI=d sect IFE に よって記述 されるアド レス IF ラベ ル・シンボ ル・テーブル 項目 Reg14=BAL	CHKSE RCH	このルーチンは、DFSUTLX0 (BAL を使用) から戻り、現行ラベル・シンボル・テーブル項目を獲得しました。現行索引 (IF1CURI) を取得し、それに 1 を加え、索引を IF1MAXI と比較して、最大参照索引を超えているかどうかを確認します。超えている場合、異常終了が発行されます。

考えられる原因: 作業スタックへのストレージの割り振り、または MFS 言語ユーティリティへのユーザー変更における内部論理エラー。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、4、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSUTOIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3030

説明

MFS 言語ユーティリティのフェーズ 1 プロセッサが、IMS.REFERAL ライブラリー内で無効なメンバーを検出しました。これは、内部論理エラーで、ユーザー変更が原因の可能性がります。

分析

これは、モジュール DFSUPB70 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 3 に、障害が発生したメンバー名のアドレス

が入り、レジスター 2 に、障害の原因を示す機能コードが入っています。機能コードは、以下のとおりです。

コード 意味

X'04'

最初のレコードが、ESD レコードではない。

X'08'

ESD レコードにあるメンバー名が、ディレクトリーのメンバー名と一致しない。

X'0C'

END レコードが見つからない。

X'10'

ESD レコードにあるブロック・サイズが、ディレクトリーのブロック・サイズと一致しない。

X'14'

要求されたメンバー名が、ディレクトリー内に見つからない。

レジスター 2 の内容を使用して、エラーが検出された特定ラベルまで切り分けます。

異常終了がラベル MYABEND における共通異常終了ルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

IMS.REFERAL ライブラリー・メンバーのブロックがストレージ (サブプール 15) に読み取られます。BUFFADDR (レジスター 12 によってアドレス指定される) には、ブロックの先頭のアドレスが入っています。レジスター 4=BLDL リストのアドレス。DSECT BLDLLIST は、このリストの記述に使用されます。レジスター 5=ブロック内の現行レコードのアドレス。DSECT CRDIMAGE は、ブロック内の各レコードの記述に使用されます。

キー	ラベル	説明
Reg2=X'04' CRDTYPE -= X'02C5E2C4'	START BLK	メンバーが REFERAL ライブラリーで見つかりました。REFERAL の最初のブロックが読み取られました。最初のレコードが ESD レコードであることを確認するために、比較が行われます。END レコードでない場合、異常終了が発行されます。
Reg2=X'08' CRDNAME -= BLDLNAME	START BL1	このサブルーチンは、ESD レコード上のメンバー名が、BLDL リストで指定されるメンバー名と同じであることを確認します。同じでない場合、異常終了が生じます。

キー	ラベル	説明
Reg2=X'0C' CRDTYPE=X' 02C5D5C4'	ENDCA RD	このサブルーチンは、これが END レコードであることを 確認します。END レコード である場合、戻りパラメータ が設定され、ストレージが 解放されます。END レコー ドでない場合、異常終了が発 行されます。
Reg2=X'10' Reg6=BLKSI ZE	ENDCA RD1	出力域が取得され、TXT レコ ードのデータがそこに移動 されました。終了フラグが、 レジスター 6 で指し示され る出力域に移動されます。 その後、ブロックの長さがレ ジスター 6 で作成されます。 レジスター 6 は、ESD レコー ド上の BLKSIZE と比較され ます。これらのブロック・サ イズが一致しない場合、異常 終了が発行されます。
Reg2=X'14' TBLESW=X'0 1' Reg15=X'04'	LOCAT E NOTFO UND	REFERAL ライブラリーでメン バーを見つけるために、 BLDL が発行されました。 BLDL から戻った後、メンバ ーが見つからなかったこと を示す X'04' がないかどう か、レジスター 15 がテストされます。レジス ター 15=X'04' である場合、 ルーチン LOCATE は NOTFOUND に分岐して、要 求が TABLE-NAME に対する ものであったかどうかを確 認します。そうでなかった ので、異常終了が発行されま す。

考えられる原因: IMS.REFERAL ライブラリーまたは
MFS 言語ユーティリティへのユーザー 変更。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティは異常終了します。異常終
了時のレジスター 3 に、障害が発生したメンバー名のアド
レスが入り、レジスター 2 に、障害の原因を示す機能
コードが入っています。

プログラマーの応答

障害が、IMS REFERRAL ライブラリーまたは MFS 言語
ユーティリティへの 変更なしに発生しているかどう
かを確認します。

問題判別

1、2、3、4、8、12、16、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUPB70

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

3040

説明

IMS 制御領域またはバッチ領域の初期設定が失敗しま
した。モジュールおよび関連する理由は以下のとおり
です。

DFSRR30

システム・キュー・ヘッダー制御ブロックまたは外
部サブシステム 作業域を作成するための、サブプー
ル 231 ストレージを獲得できません。

DFSRR70

バッチ領域用のシステム・キュー・ヘッダー制御ブ
ロックを作成するための、サブプール 0 ストレージ
を獲得できません。

DFSRR70

バッチ領域用の HLPI ブートストラップ・ルーチン
をロードするための、サブプール 0 を獲得できませ
ん。

DFSRR80

バッチ領域用の HLPI ブートストラップ・ルーチン
をロードするための、サブプール 0 を獲得できませ
ん。

分析

これは、DFSRR30 (制御領域)、DFSRR70 (バッチ領
域)、または DFSRR80 によって発行される標準異常終
了です。

異常終了時のレジスター 14 に、エラーが検出された場
所のアドレスが入っています。これは、考えられる条
件のどれがこの異常終了を起こしたかを示しています。
レジスター 15 に、障害の原因を示している IMODULE
GETMAIN 戻りコードが入っています。

レジスター	ラベル	Module
Reg14=BAL	RACTL4	DFSRR30
Reg15=IMODULE 戻り コード		0

レジスター	ラベル	Module
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻り コード	RADL13	DFSRRRA7 0
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻り コード	RADSVCI	DFSRRRA7 0
Reg14=BAL Reg15=IMODULE 戻り コード	UTLHLP	DFSRRRA8 0

考えられる原因: GETMAIN 要求 (IMODULE を使用) が、要求されたサブプール (つまり、231 (CSA)) 内で使用可能なストレージ量を超えます。ジョブから使用可能な CSA のサイズを増やしてください。要求がサブプール 0 に対するものであった場合、JOB/実行ステートメント上の領域サイズを増やします。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

異常終了時のレジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。このレジスターは、考えられる条件のどれが異常終了を起こしたかを示しています。レジスター 15 に、IMODULE 障害の原因を示している IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。これらのコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードを参照してください。

問題判別

23、35。CSA のダンプ

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSRRRA30、DFSRRRA70、DFSRRRA80

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3041

説明

外部サブシステム 接続パッケージ (ESAP) から、サポートされない戻りコードが戻されました。IMS と指定サブシステム間のサブシステム 接続が終了します。

分析

これは、DFSESI00、DFSESI20、DFSESI30、DFSESI50、DFSESI60、DFSIESIO、および DFSXESIO によって発行される標準異常終了です。

問題の種類を判別するための情報については、メッセージ DFS3603I、DFS3606I、または DFS3607I を参照してください。

レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

```
bytes 1-2 | bytes 3-4
```

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DFSESFC マクロを参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム 出口ルーチン (つまり、X'08') によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

レジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。前述の、レジスター 15 の内容を参照してください。

ラベル ABEND - 外部サブシステムの出口ルーチンから、サポートされない戻りコードを受け取りました。

考えられる原因: 詳しくは、メッセージ DFS3603I、DFS3606I、または DFS3607I を参照してください。外部サブシステムの資料を調べて、レジスター 15 で示されたとおりに戻りコードの理由を判別してください。

システムの処置

IMS は、外部サブシステムを表す TCB を終了させます。IMS と指定されたサブシステムとの間のサブシステム 接続は終了しますが、処理は続行されます。マスター端末オペレーターには、メッセージ DFS3603I、DFS3606I、または DFS3607I によって障害が通知されます。

オペレーターの応答

外部サブシステム・リソースの訂正が必要であることを、システム・プログラマーに通知します。

システム・プログラマーの応答

外部サブシステムの資料を参照して、サブシステム 障害に関する情報を見つけます。

問題判別

4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSESI00、DFSESI20、DFSESI30、DFSESI50、
DFSESI60、DFSIESIO、DFSXESIO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

[DFS3603I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS3606I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS3607I \(メッセージおよびコード\)](#)

3042

説明

モジュール DFSESPRO が、エラーを検出した後でこの異常終了を発行します。DFSESPRO は、下位レベル・モジュールでエラーが検出された場合も、この異常終了を発行します。エラーを検出したモジュールが、DFSESPRO で発行する異常終了コードを設定します。レジスター 14 および 15 を使用して、検出されるエラー条件をさらに分析します。

分析

レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

```
bytes 1-2 | bytes 3-4
```

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DFSESFC マクロを参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム 出口ルーチンまたは下位レベル・モジュールによって戻された 16 進戻りコードが入っています。

レジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。上記の説明のとおり、レジスター 15 の内容を参照してください。

考えられる原因: 戻りコードの正確な理由については、外部サブシステムの資料を調べてください。

システムの処置

これらのモジュールが実行している従属領域の TCB は終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

レジスター 15 のバイト 1 および 2 に、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS 戻りコードおよび機能コードの情報で IMS モジュールによって検出されるさまざまな条件を説明しているカテゴリーを参照してください。レジスター 15 のバイト 3 および 4 には、外部サブシステム 出口または下位レベル・モジュールによって戻された 16 進戻りコードが入っています。

問題判別

4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSESD70、DFSESPRO、DFSVES00

関連資料

[外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード \(メッセージおよびコード\)](#)

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3043

説明

外部サブシステムのマザー・タスク (TCB) のタスク終了 出口ルーチン (ETXR) がスケジュールされ、無効なドーター・タスク (TCB) アドレスが渡されたときに、この異常終了が発行されます。

分析

これは、EXTR ルーチン、DFSIESIO によって発行される標準異常終了です。外部サブシステム・マザー・タスク (TCB-(ESSM)) は異常終了します。

レジスター 3 に、疑問のある TCB のアドレスが入っています。レジスター 9 には、外部サブシステム・エントリー・テーブル (ESET) 接頭部 (DSECT DFSESETP によってマップ) のアドレスが入り、これは、定義された外部サブシステム・エントリー (DSECT DFSGESE によってマップ) を指します。各エントリーには、それに関連した TCB のアドレスが入っています。レジスター 11 には、条件が検出される、ラベル ETXRFTCB における SCD のアドレスが入っています。

考えられる原因: おそらく、IMS 論理エラー。

システムの処置

外部サブシステム・マザー・タスク (TCB-(ESSM)) は異常終了します。これはおそらく、IMS 論理エラーです。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知して、固有のリカバリー手順があればそれを訂正してもらいます。

プログラマーの応答

IMS /START SUBSYS コマンドを使用して、マザーおよびドーターの外部サブシステム・タスク (すなわち、サブシステム接続) を再始動します。

問題判別

1、2、4、5、6、7、8

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIESIO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3044

説明

発生してはならない状態が、外部サブシステムとの通信中に検出されました。従属領域は異常終了するので、終了した領域でアプリケーション・プログラムの実行がスケジュールされる場合、従属領域を再始動する必要があります。

分析

これは、DFSESPRO、DFSFP0、または DFSTMS00 によって発行される疑似異常終了です。

問題を記述するメッセージ DFS3624I を参照してください。レジスター 15 にはエラー・コードが入り、レジスター 14 にはエラー・アドレスが入っています。この問題を修正し、IMS /START コマンドを使用して、障害が起きた外部サブシステムを再始動してください。

レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

バイト 1 から 2	バイト 3 から 4
------------	------------

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報、または DFSESF0 マクロを参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム 出口ルーチン (つまり、X'20') によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

レジスター 14 に、エラーが検出された場所のアドレスが入っています。上記の説明のとおり、レジスター 15 の内容を参照してください。

考えられる原因: 戻りコードの正確な理由については、外部サブシステムの資料を調べてください。

システムの処置

この異常終了は、アプリケーション終了のクリーンアップ処理中に IMS によって認識され、処理されます。その結果、IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. 関係のあるデータ域をログに記録する。
3. トランザクションが PSTOPPED 状態の場合、メッセージ DFS554A をマスター端末オペレーターに、DFS555I を入力端末に送信する。
4. 外部サブシステムが制御領域および従属領域の両方から関連情報をログに記録できるようにする。
5. 入力メッセージの後処理を判別するために、外部サブシステム ECHO 出口を呼び出す。外部サブシステムが ECHO 要求に応答しない場合、IMS は入力メッセージを保管し、トランザクションを PSTOP 状態にします。外部サブシステムが ECHO 要求に応答する場合、入力メッセージは、後で処理するために再キューイングされます。
6. アプリケーション終了中に、コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
7. メッセージ DFS3624I をマスター端末オペレーターに送信する。

オペレーターの応答

/DISPLAY コマンドを使用して、サブシステム 接続の状況を調べます。接続が終了していることもあります。接続を開始または再始動することができます。

プログラマーの応答

マスター端末に送信されたメッセージ DFS3624I を参照してください。メッセージ DFS3624I には、問題および問題を検出したモジュールを識別する、機能コードおよび戻りコードが含まれています。

選択肢として、外部サブシステムを開始させること、または外部サブシステム PROCLIB メンバー (SSM) で領域エラー・オプションを変更することもできます。

問題判別

4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

■ DFSESPR0、DFSFP0、DFSTMS00

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[DFS3624I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3045

説明

この異常終了は、接続管理の完了必須フェーズのいずれかのときに、外部サブシステムの障害によって引き起こされる IMS 疑似異常終了です。次の外部サブシステム出口のいずれかによって、障害状態を示すゼロ以外の戻りコードが戻されました。

- 外部サブシステムでサインオンが失敗した。
- 外部サブシステムでスレッド作成が失敗した。
- 外部サブシステムで、打ち切りオプション付きのスレッド終了が失敗した。
- 外部サブシステムで打ち切り継続が失敗した。

分析

これは、DFSESPR0、DFSFP0、または DFSTMS00 によって発行される疑似異常終了です。

エラーを検出したモジュールを識別する機能コード (FC)、およびエラー状態を識別する戻りコード (RC) については、メッセージ DFS3624I を参照してください。問題を検出した IMS モジュール (機能コード値) を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。この情報には、モジュール機能 (すなわち、SIGNON および CREATE-THREAD) の要旨が含まれています。この戻りコードを使用して、外部サブシステムの資料で調べてデバッグ情報を探し、出口ルーチンで障害状態が検出された理由を判別することができます。

レジスター 15 = 機能コード (FC) および戻りコード (RC)。

考えられる原因: 考えられる原因については、外部サブシステムの資料を参照してください。

システムの処置

この異常終了は、アプリケーションのクリーンアップ処理中に IMS によって認識され、処理されます。IMS は以下のことを行います。

- アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
- 制御領域および従属領域の両方から関連情報をログに記録する。
- 入力メッセージを破棄する。
- トランザクションを停止する。
- アプリケーション・プログラムによって処理されたデータベース変更をバックアウトする。
- メッセージ DFS555I を入力端末に送信する。
- メッセージ DFS554I をマスター端末に送信する。
- メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知する必要があります。

プログラマーの応答

マスター端末に送信されたメッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、エラーを検出したモジュールを識別する機能コード (FC)、およびエラー状態を識別する戻りコードが含まれています。この戻りコードを外部サブシステムの資料で調べてデバッグ情報を探し、出口で障害状態が検出された理由を判別することができます。

問題判別

1、4、5、6、7、および 14

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSESPRO、DFSFESPO、DFSTMS00

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[DFS3624I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3046

説明

この異常終了は、コミット処理中に IMS によって開始される IMS 疑似異常終了です。外部サブシステムのコミット継続出口またはコミット・オプション付きのスレッド終了から戻りコード 'X'04' が戻された場合、アプリケーション・プログラムを打ち切る必要があります。コミット交差レコードがログに書き込まれており、入力メッセージはアプリケーション・プログラムによって処理されます。ただし、外部サブシステムに接続されたアプリケーション・プログラムは、スレッドのリカバリーが未解決とマークされます。すなわち、残余リカバリー・エレメント (RRE) が、未確定解決処理 (通常の接続プロトコルの一部) または RRE を削除する IMS コマンド (/CHANGE SUBSYS) のいずれかによって解決されるまで、残ります。

システムの処置

IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. 該当するデータ域をログに記録する。
3. メッセージ DFS554A をマスター端末オペレーターに送信する。
4. メッセージ DFS555A を入力端末に送信する。
5. アプリケーション・プログラムに関連する外部サブシステムが、該当する領域 (すなわち、制御領域または従属領域) から関係する情報をログに記録できるようにする。
6. メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。このメッセージは、上記のどの処理で問題が発生したかを示しています。
7. トランザクションを停止する。

オペレーターの応答

メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、問題および問題を検出したモジュールを識

別する、機能コードおよび戻りコードが含まれていません。

プログラマーの応答

外部サブシステム・コミット処理が失敗した理由を判別します。この処理には、外部サブシステムの資料を参照してください。ほとんどの必要情報はログに記録されるか、または診断メッセージを使用して外部化されているので、サブシステムの再始動 (/START SUBSYS xxx) によって、デバッグ情報が破壊されることはありません。

問題判別

4、5、6、および 7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSESPRO、DFSFESPO

関連情報

[DFS3624I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3047

説明

この異常終了は、IMS PROCLIB のサブシステム定義で領域エラー・オプションとして異常終了が指定されたために発行されます。次のいずれかの状態が発生すると、アプリケーション・プログラムは異常終了し、入力メッセージは廃棄されます。

- 外部サブシステム接続が、サブシステムに送られた最初の要求であったので、リソース制約のため接続を確立できない。
- 外部サブシステム接続パッケージ (ESAP) または外部サブシステムのいずれかで、外部サブシステムとの接続が失敗した。
- SSM= パラメーターによって指し示された PROCLIB メンバーの SSN フィールドに指定された外部サブシステム名に、無効なサブシステム名が含まれている。PROCLIB メンバーに REO オプション 'r' (戻りコードを送り返す) が含まれていても、従属領域は異常終了 3047 で終了し、入力メッセージは破棄されます。

SSM メンバーまたはリソース変換テーブル (RTT) について、指定された REO= オプションを検討してください。RTT が使用されているときは、RTT に指定されたオプションが、SSM SSM メンバーの REO オプションをオーバーライドします。詳しくは、DB2 for z/OS インストールおよびマイグレーション・ガイドを参照してください。REO=A が設定されていると、異常終了 3047 が発生する場合があります。

分析

関係する2つのサブシステム(つまり、IMS またはその他のサブシステム)間でリソース定義の競合が外部サブシステムで検出された場合、IMS が異常終了します。おそらく、外部サブシステムからはユーザー ID が不明であり、ユーザー ID が入力パラメーターの一部としてサインオン出口ルーチンに渡されます。

おそらく、問題は、CREATE-THREAD で渡されるアプリケーション・プログラム名または PSB 名が、外部サブシステム内で対応するリソース(例: 計画 ID)と一致しないことです。

そうでない場合、外部サブシステムはおそらく、内部リソースの競合を検出しました。それにより、該当するデバッグ情報が使用可能になります。

異常終了 3047 は、DFSESPRO によって発行される疑似異常終了です。レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

```
bytes 1-2 | bytes 3-4
```

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DFSESF C マクロを参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム出口ルーチン(つまり、X'1C')によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

PXPARMS 内のフィールド RCSSOB2 には、出口ルーチンに渡されるパラメーター(SSESPMA)のアドレスが入っている SSOB のアドレスが入っています。

ラベル PRABEND は異常終了を発行します。

考えられる原因: この問題はおそらく、PSB 名と同種のリソース・タイプが一致しないことです。外部サブシステム・リソースにアクセスする PSB 名が、外部サブシステムに対して適切に定義されていることを確認してください。メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、問題を検出したモジュールを識別する機能コード、および問題を識別する戻りコードが含まれています。外部サブシステムの資料を調べて、メッセージ DFS3624I で示されたとおりに戻りコードの理由を判別してください。

システムの処置

IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. トランザクションを停止する。
4. 入力メッセージを破棄する。

5. メッセージ DFS555I を IMS マスター端末オペレーターおよび入力端末に送信する。
6. 関係のあるデータ域をログに記録する。
7. 外部サブシステムが制御領域および従属領域の両方からエラー情報をログに記録できるようにする。
8. メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。
9. SSM=parameter が指す PROCLIB メンバーで指定されたサブシステム名が、有効な Db2 for z/OS サブシステム名であることを確認する。必要な場合、名前を訂正します。

オペレーターの応答

失敗したサブシステムを始動または再始動します。

メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、問題および問題を検出したモジュールを識別する、機能コードおよび戻りコードが含まれています。

選択肢として、外部サブシステムを開始させること、または外部サブシステム PROCLIB メンバー(SSM)で領域エラー・オプションを変更することもできます。

問題判別:

4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSESPRO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード\(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[DFS3624I\(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3048

説明

この疑似異常終了は、一時的な障害または一時的リソース制約が発生したことを外部サブシステムが示したため発行されます。

分析

これは、DFSESPRO またはによって発行される疑似異常終了です。

この疑似異常終了により、入力メッセージをトランザクション中断キューに入れることができます。この異常終了を他の異常終了から認識することによって、同期点処理は入力データを廃棄するのではなく、将来の処理に使用できることを確実にします。 /DEQ SUSPEND コ

マンドを使用して、中断されたすべてのトランザクションを除去してください。メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、エラーを検出したモジュールを識別する機能コード (FC)、および問題の原因を識別する戻りコード (RC) が含まれています。

レジスター 4 には、SSOB のアドレスが入っています。これには、エラーを検出したモジュールからの機能コードと戻りコードが入っています。SSOB フィールド SSESFRC には、機能戻りコードが入っています。SSESMRC には疑似異常終了コードが入っています。

また、レジスター 15 には、機能コードと戻りコードもそれぞれ入っています。各コードの長さは 2 バイトです。

ラベル PRABEND は、この異常終了が発行される DFSESPRO 内のロケーションです。

考えられる原因: 外部サブシステム 出口ルーチンはおそらく、該当するリソースが使用不可で、この情報を IMS から使用可能にすることを示す戻りコードを受け取りました。IMS は、戻りコードの理由が正当であり、この一時的な状態が終わることを前提とする必要があります。

システムの処置

IMS は以下のことを行います。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. 現行入力メッセージを IMS 延期キューに入れる。障害がリカバリーされるか、またはマスター端末オペレーターが /DEQ SUSPEND コマンドを入力して延期キューを解放すると、この入力メッセージはもう一度解放されて、再処理されます。
4. メッセージ DFS3324I をマスター端末オペレーターに送信して、入力メッセージが延期キューに入れていることを知らせる。
5. 診断メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信して、異常終了の原因の判別を支援する。
6. プログラム・コントローラー・タスク (TCB) が異常終了したことを示すメッセージ DFS554A を送信する。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知して、外部サブシステム・リソース割り振り問題を訂正してもらいます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、エラーを検出したモジュールを識別する機能コード、および問題の原因を識別する戻りコードが含まれています。

選択肢として、外部サブシステムを開始させること、または SSM パラメーターで示された外部サブシステム PROCLIB メンバーで領域エラー・オプションを変更することもできます。

問題判別

4、5、6、7

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSESPRO、

関連情報

[DFS3624I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3049

説明

IMS により次のいずれかの条件が検出されました。

- 外部サブシステム 出口からの戻りのときに、無効な戻りコードが検出されました。戻りコードが、この出口に有効な許容範囲内でなかった (すなわち、X'20' より大きい) か、または範囲検査を超えなかったがこの出口ではサポートされていない戻りコードでした。レジスター 15 の戻りコードが出口の欠落を示している場合 (R15 = FF)、メッセージ DFS3608I も出力されます。メッセージ DFS3624I の RC = xx 値が、問題の戻りコードです。このメッセージはこの異常終了に伴って出力されます。レジスター 15 には、機能コード (FC - モジュール ID) および戻りコード (RC) も含まれます。
- 必要データ (すなわち、パラメーター・リスト、出口アドレス、または RRE) が妥当性検査をパスしなかったことが考えられます。これらの条件は、RC = フィールドの内容によって認識できます。

分析

診断のために、この異常終了にはメッセージ DFS3624I が伴います。メッセージ内の RC = xx 値が、問題の戻りコードです。レジスター 15 には、機能コード (FC - モジュール ID) か戻りコード (RC) 値のいずれか、またはその両方も含まれます。

別の可能性として、必要データ (すなわち、パラメーター・リストと出口アドレス) が妥当性検査をパスしなかったことが考えられます。これらの条件は、RC = フィールドの内容によって認識できます。次のリストでは、フィールドごとの条件を示しています。

R15=FC

IMS は、必要な RRE なしでサブシステムに対する従属領域 SIGNON を試行しています。これは、通常、サブシステム IMS ESI TCB の異常終了後に発生します。

R15 = FF

必要な外部サブシステム 出口ルーチンが外部サブシステム・パッケージで提供されなかったか、またはアドレスが誤って消去されました。

R15 = FE

DFSESGO マクロによって渡され、モジュール DFSESGLO に渡された機能コード。IMS システム・サービスは無効でした。DFSESGLO の呼び出し側に、おそらく機能を無効にする論理エラーがありました。

R15 = FD

パラメーター・リスト内のパラメーターの数を示す、DFSESGLO に渡されたパラメーター・リスト内のカウントが無効です。このシステム・サービスの呼び出し側に論理エラーがあり、パラメーター・カウントを無効にしています (すなわち、負の値にしています)。

システムの処置

IMS は以下の処置を取ります。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理またはサブシステム SIGNON 処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. アプリケーションが同期点に達していなければ、障害時に処理中であった入力メッセージを、後で再処理できるように IMS 入力メッセージ・キューに戻す。この場合、アプリケーションは同期点後に処理を論理的に再開します。
4. メッセージ DFS555I を入力端末に送信する。
5. メッセージ DFS554A をマスター端末に送信する。
6. トランザクションを停止する。エラーがサブシステム SIGNON 処理中に検出された場合、トランザクションは停止されません、
7. 診断のために、メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。
8. R15 = FF (出口の欠落) の場合、メッセージ DFS3608I をマスター端末に送信する。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してから、標準のリカバリー/再始動の処置を取る必要があります。

プログラマーの応答

問題の原因を速やかに判別するには、まず、メッセージ DFS3624I を参照し、RC = xx 値を調べます。FC = yy 値は、エラーを検出したモジュールの ID を示します。

RC = xx 値が Fx で始まっていない場合 (例えば、0C)、検出された問題はおそらく、この異常終了の説明の最初の部分に記載されているように、無効な戻りコードです。これは、外部サブシステム 出口内での論理エラーの可能性を示しています。IBM サポートに連絡して、問題解決の支援を受けてください。

RC = xx 値が Fx で始まっている場合 (例えば、FD)、以下にリストされた受け入れ可能な戻りコードのインストール処置をガイドとして使用します。

R15 = FF

SSM パラメーターによって、サブシステム・メンバー用に指定された外部サブシステム・モジュール・テーブル (ESMT) に、必要な出口が含まれていません。メッセージ DFS3608I により、欠落している出口 ID が示されます。出口が組み込まれていない場合、外部サブシステムの資料を調べて、その出口の組み込み方法を確認します。ただし、出口が定義されていた場合は、IMS の論理エラーによって、出口のアドレスがオーバーレイされたか、またはそのアドレスに一度も挿入されていません。追加の診断情報については、メッセージ DFS3608I を参照してください。IBM サポートに連絡して、問題解決の支援を受けてください。IMS を再始動してください。

R15 = FE

これは、おそらく IMS 論理エラーが原因です。IBM サポートに連絡して、問題解決の支援を受けてください。IMS を再始動してください。

R15 = FD

このシステム・サービスによって検出された無効なパラメーター・カウントは、おそらく、IMS 論理エラーが原因です。IBM サポートに連絡して、問題解決の支援を受けてください。IMS を再始動してください。

R15 = FC

IMS は、必要な RRE なしでサブシステムに対する従属領域 SIGNON を試行しています。これは、通常、サブシステム IMS ESI TCB の異常終了後に発生します。

問題判別

1、4、5、6

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

■ DFSRRA00、DFSFESP0、DFSESPRO、DFSTMS00

関連情報

DFS3624I (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3050

説明

この異常終了は、IMS ディスパッチング・ブロックを初期設定するモジュールが、訂正不能なエラーを検出したときに発行されます。

分析

この異常終了は、すべての異常条件に対して発行されます。レジスター 15 には、DFSKDPO0 と DFSKDS00 の両方のモジュールに対する以下の理由コードが入っています。

DFSKDPO0 の場合:

コード
意味

X'01'

要求されたディスパッチャー・タイプが無効でした。レジスター 2 には、無効なディスパッチャー・タイプが入っています。

X'02'

IDSPWRK セクション 1 の DFSBCB が失敗しました。レジスター 2 には現行ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'03'

IDSPWRK セクション 2 の DFSBCB が失敗しました。レジスター 2 には現行ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'04'

従属領域が DYN 保管セットを要求しました。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。

X'05'

ディスパッチャー・タイプでは特殊な INIT が必要であり、ルーチンがモジュールに追加されませんでした。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。

X'06'

生成された最大ページの TCB エントリーを取得できません。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。

X'07'

TCB エントリーを取得できません。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入って

います。DFSBCB GET が失敗し、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'08'

RCF TCB 初期設定が失敗しました。ITRCFTCB テーブル内の終了 ECB に対する一致 TCB アドレスを見つけることができません。レジスター 5 には、検索の対象である TCB アドレスが入っています。

X'09'

解放が要求されました。TCB は DYN SAP を使用しました。レジスター 2 には、無効なディスパッチャー・タイプが入っています。

X'0A'

IMS CTL TCB ディスパッチャーの動的 SAP 制御ブロックに関して、GETMAIN が失敗しました。レジスター 3 に IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。

X'0A'

この理由コードはモジュール DFSKDPO0 によって発行されます。動的 SAP 制御ブロックに対する IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 2 には、現行のディスパッチャー・タイプが入っています。レジスター 3 に IMODULE GETMAIN 戻りコードが入っています。これらのコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

X'0B'

DPXB の DFSBCB が失敗しました。レジスター 2 には、現行のディスパッチャー・タイプが入っています。レジスター 3 に DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'10'

共通終了 ECB 制御ブロックに関して、IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 3 に IMODULE 戻りコードが入っています。レジスター 14 に、エラーが検出された、DFSKDPO0 内のアドレスが入っています。

X'11'

共通終了 ITASK の保管域に関して、DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 3 に DFSBCB 戻りコードが入っています。レジスター 14 に、エラーが検出された、DFSKDPO0 内のアドレスが入っています。

X'12'

共通終了 ITASK に関して、ITASK CREATE (DFSCIR) が失敗しました。レジスター 3 に DFSCIR 戻りコードが入っています。レジスター 14 に、エラーが検出された、DFSKDPO0 内のアドレスが入っています。

DFSKDS00 の場合:

コード
意味

X'13'

動的 SAPS の初期セットを取得できません。BP1003。レジスター 3 には DFSKDP10 戻りコー

ドが入っています。レジスター 8 には DISP WK 領域アドレスが入っています。

X'13'

DFSCIR マクロが、動的保管域接頭部 (SAP) ウェイクアップ ITASK に失敗しました。BP1003。レジスター 3 には DFSCIR 戻りコードが入っています。レジスター 8 には DISP WK 領域アドレスが入っています。

X'16'

呼び出しディスパッチャーが DYN SAPS に対してセットアップされませんでした。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。

X'17'

動的 SAP の要求数がゼロでした。レジスター 2 には、要求するディスパッチャー・タイプが入っています。

X'18'

SAPS に関する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 2 には要求ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'19'

保管域に関する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 2 には要求ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'1A'

SAP 作業域に関する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 2 には要求ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。

X'1B'

LATE (ラッチ) に関する DFSBCB GET が失敗しました。レジスター 2 には要求ディスパッチャー・タイプが入り、レジスター 3 には DFSBCB 戻りコードが入っています。説明については、DFSBCB 戻りコード情報を参照してください。

DFSKDS10:

R15 の高位ハーフワードには、失敗したサービスからの戻りコードが入ります。低位ハーフワードにはサブコードが入ります。

コード

意味

X'01'

正しくない機能が指定されました。

X'10'

SAP の取得に失敗しました。

X'11'

保管域の取得に失敗しました。

X'12'

QMWA の取得に失敗しました。

X'13'

共通ラッチ・リスト・エレメント (CLLE) の取得に失敗しました。

X'14'

SVPL の取得に失敗しました - BN70022。

X'15'

XMCI の取得に失敗しました。

システムの処置

制御領域は異常終了します。

オペレーターの応答

IMS 緊急時再始動を実施します。

システム・プログラマーの応答

この異常終了は、欠陥のある IMS コードにより引き起こされました。

異常終了時のレジスター 15 に入っているサブコードが、欠陥のタイプを示しています。

サブコード (16 進数)

意味

02,07,18

CSA 不足の可能性があります、ストレージのフラグメント化を解消するためにオペレーティング・システムの IPL が必要です。

03,19,1A

専用アドレス・スペースのストレージ不足の可能性があります、IMS ジョブの領域サイズを増やす必要があります。

X'01'

KDS20 ECB の IMODULE GETMAIN が失敗しました。

X'01'

KDS20 の DFSCIR に失敗しました。

この異常終了は、モジュール DFSKDP00 および DFSKDS00 によって発行されます。サブコードは IMS にとって内部的なものであり、モジュールのプロローグに文書化されています。IMS ソフトウェア問題を訂正するための手順に従います。

問題判別:

1、4、5、12、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSKDP00、DFSKDS00

関連資料

IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

DFSBCB 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3051

説明

これは、IMS 疑似異常終了です。IMS は、外部サブシステムでの使用のためにこの異常終了を割り振りました。この異常終了は、外部サブシステム操作不能 (SNO) 出口から X'10' 戻りコードが戻されたときに発行されます。この戻りコードは、デバッグのために IMS 異常終了を必要としたとき、または外部サブシステムが操作可能でなく、しかも "領域エラー・オプション Q" が選択されていたときに、サブシステム出口によって戻されます。通常、これに伴い、追加のデバッグ情報を含む X'55' ログ・レコードが IMS ログに書き込まれます。

SSM メンバーまたはリソース変換テーブル (RTT) について、指定された REO= オプションを検討してください。RTT が使用されているときは、RTT に指定されたオプションが、SSM SSM メンバーの REO オプションをオーバーライドします。詳しくは、DB2 for z/OS インストールおよびマイグレーション・ガイドを参照してください。REO=Q が設定されていると、異常終了 3051 が発生する場合があります。

分析

これは、DFSESPRO によって発行される疑似異常終了です。インストールの問題判別は、次のもので構成されます。

- 外部サブシステムの資料で、この異常終了を要求する理由が定義されています。この資料から問題の種類を判別して、訂正します。
- /STA SUBSYS** コマンドを使用して、外部サブシステム接続を開始します。

レジスター 2 は、環境コントローラーの作業域を指します。これは、DSECT DFSECP を使用して、作業域内のフィールド ECSAVE2 のオフセットを判別します。システム操作不能 (SNO) 出口ルーチンに渡されるパラメーター・リストの先頭が、この位置です。モジュール DFSESPRO で定義される DSECT パラメーター・リストを使用して、リストを調べて正確さを確保します。3051 異常終了コードはフィールド PARMSRC にある必要があります。そこにある場合、SNO 出口ルーチンが問題判別のためにそこに置きました。

ラベル ESPX010 は異常終了をセットアップします。

システムの処置

IMS は以下の処理を実行します。

- アプリケーション・プログラムを終了させる。

- 関係のあるデータ域をログに記録する。
- トランザクションを PSTOP 状態にする。
- DFS554A メッセージを MTO に、および DFS555I メッセージを入力端末に送信する。
- 外部サブシステムが制御領域および従属領域の両方から関連情報をログに記録できるようにする。
- 後で処理できるように、入力メッセージを再びキューイングする。IMS は、入力メッセージの後処理を判別するために外部サブシステム ECHO 出口を呼び出すことはありません。ただし、入力メッセージは、後で処理するために再キューイングされます。
- アプリケーション終了処理中に、コミットされていないすべての変更をバックアウトする。

オペレーターの応答

失敗したサブシステム 接続を始動または再始動します。

プログラマーの応答

インストール・オプションには次のものがあります。

- 外部サブシステムの資料で、この異常終了を要求する理由が定義されています。この資料から問題の種類を判別して、訂正します。
- /START SUBSYS** コマンドを使用して、外部サブシステム接続を始動します。

問題判別

4、5、6、および 7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSESPRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3052

説明

この IMS 異常終了は、必要な内部機能が正常に完了しなかった場合に発行されます。次のいずれかの問題が発生しました。

- アプリケーション同期点処理中に、無効な機能コードが外部サブシステムの同期点管理機能 (DFSFPSP) に渡されました。

- IMS 同期点管理機能 (DFSFXC30) によって、PST のフィールド PSTSYNFC に 1 バイトのコードが渡されました。

分析

これは、従属領域 SSOB 保管域に置かれているコード DFSFESPO によって発行される疑似異常終了です。このコードが実行されるのは、上記条件の一方または両方が生じる場合のみです。通常、プログラム要求処理プログラム (DFSESPRO) が制御権を獲得し、アプリケーション要求を処理しますが、外部サブシステム・サポートが初期化されなかったため、プログラム要求処理プログラムがロードされませんでした。

考えられる原因: この異常終了が発生したという事実は、外部サブシステム要求を発行したアプリケーションの実行を禁止する (すなわち、/PSTOP tran) か、またはサブシステムを定義する IMS.PROCLIB メンバーの構築後に SSM パラメーターを挿入する正当な理由です。

DFSXLMO の場合:

この異常終了が発行されるのは、DFSXLMO の実行中に IMS サービスが失敗した場合です。失敗したサービスは、次のように、レジスター 15 に含まれているサブコードによって判別できます。

コード
意味

X'04'

DFSBCB get qsav が失敗しました。

X'08'

DFSCDSP が失敗しました。

X'0C'

IMODULE ロードが失敗した。

X'10'

DFSCWU が失敗しました。

X'14'

IPOST が失敗しました。

X'18'

IMODULE GETMAIN が失敗しました。

X'1C'

DFSCIR が失敗しました。

X'20'

DFSBCB get 1sav が失敗しました。

X'24'

DFSTFRGO に関する IMODULE LOAD が失敗しました。

これは、IMS サービスがゼロ以外のコードを戻すときに DFSXLMO によって発行されるユーザー異常終了です。サービスからの戻りコードは R8 に含まれ、次の順次命令のアドレスは R14 に含まれます。IMODULE および DFSBCB の戻りコードについては、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報を参照してください。

DFSCIR に関する戻りコードは、DFSCIR マクロに関するプロログから取得できます。

考えられる原因: 考えられる原因は、失敗したサービスおよび失敗の理由によって異なります。大部分の問題はストレージの不足に関連します。

システムの処置

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. 制御領域および従属領域の両方から関連情報をログに記録する。
3. 入力メッセージを破棄する。
4. トランザクションを停止する。
5. アプリケーション・プログラムによって処理されたデータベース変更をバックアウトする。
6. メッセージ DFS555I を入力端末に送信する。
7. メッセージ DFS554A をマスター端末に送信する。
8. メッセージ DFS3624I をマスター端末に送信する。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してから、定められたリカバリー/再始動処置を実施します。

プログラマーの応答

マスター端末に送信されるメッセージ DFS3624I を参照してください。このメッセージには、機能コード (FC) および戻りコード (RC) が含まれ、エラーを検出したモジュールおよびエラー状態 (戻りコード) を示します。戻りコードについては、IMS 戻りコードおよび機能コードの情報を参照してください。無効な機能コードは、論理エラーを示していることがあります。

問題判別:

- 1、2、3、4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFESPO

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

[外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

説明

これは、外部サブシステムのサインオンまたはコミット準備出口が、戻りコード X'18' をレジスター 15 に戻した場合に発行される IMS 疑似異常終了です。これは、アプリケーション・プログラムに関連するリカバリー・トークン (NID) が、すでに外部サブシステム内に存在することを示しています。この状態が発生する可能性が最も高いのは、アクティブな外部サブシステム接続があるときに、IMS が異常終了後にコールド・スタートを繰り返した場合です。

分析

これは、DFSESPRO および DFSFESPO によって発行される疑似異常終了です。

これは、DFSESPRO、DFSFESPO、または DFSTMS00 によって発行される疑似異常終了です。

レジスター 15 は以下の形式であり、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示します。

```
bytes 1-2 | bytes 3-4
```

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DSECT DFSESF を参照してください。

バイト 3 および 4

外部サブシステム 出口ルーチン (つまり、X'18') によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

上記の情報が提供されるのは、異常終了 3053 が繰り返し発生する問題になる場合です。IMS が頻繁にコールド・スタートされる場合、異常終了 3053 を予想します。

モジュール DFSESS00 (サインオン) で RCOFA のラベルを付け、DFSESP10 (コミット・フェーズ 1) で RETURN のラベルを付けます。

考えられる原因: アクティブな外部サブシステム接続が存在中に、異常終了の後で IMS が繰り返しコールド・スタートされると、この状態が発生する可能性が最も高いです。外部サブシステムは、アプリケーション・プログラムに関連したリカバリー・トークン (NID) を保存しました。これは、その NID に対して未確定解決処理が完了しなかったためです。

システムの処置

IMS は以下の処置を取ります。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。このエラーが同期点処理中に検出された場合は、領域を終了します。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。

3. 障害時に処理中であった入力メッセージを、すぐにスケジュール変更および再処理できるように IMS 入力メッセージ・キューに戻す。スケジュール変更することにより、NID の元のアプリケーション・シーケンス番号 (OASN) 部分が増やされ、そのため固有の番号になります。

4. アプリケーションが BMP にスケジュールされた場合、DFS555 メッセージを入力端末に送信する。

トランザクションまたはプログラムは PSTOPPED 状態にされません。

プログラマーの応答

必要ありません。トランザクションは、インストール/オペレーターの介入なしに即時に再処理されます。ただし、外部サブシステム接続が確立されるたびに (すなわち、/START SUBSYS コマンドの後に) この異常終了が繰り返し発生する場合、外部サブシステムのアプリケーション・プログラムの資料を調べて、問題のリカバリー・トークンを手動で削除する手段をインストール・システムで決定する必要があります。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSESPRO、DFSFESPO、DFSTMS00

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

3054

説明

3054 は、リソース (すなわち、ストレージ作業域) を解放中にエラーが検出された場合、DFSESI40 または DFSESPLO のいずれかによって発行される IMS 異常終了です。レジスター 15 に、IMODULE サービスによって戻された戻りコード、およびゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示す 16 進値が入っています (レジスター 15 の内容は下記を参照)。レジスター 14 に、ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールのアドレスが入っています。

分析

3054 は、制御領域で検出される標準異常終了、または従属領域で検出される疑似異常終了のどちらかの場合があります。この異常終了はモジュール DFSESI40 および DFSESPLO によって発行されます。

レジスター 15 に、IMODULE サービスによって戻された戻りコード、およびゼロ以外の戻りコードを検出したモジュールを示す 16 進値が入っています (R15 の内容は下記を参照)。レジスター 14 には、モジュール内で

失敗した正確な IMODULE DELETE 要求のアドレスが入っています。

レジスター 14 にあるアドレスを使用して、上記のどちらのモジュールが異常終了を発行したか、および IMODULE delete が失敗した理由を判別します。

レジスター 15 には、以下のものが入っています。

```
bytes 1-2 | bytes 3-4
```

バイト 1 および 2

ゼロ以外の戻りコードを検出したモジュール名を示す 16 進値が入っています。モジュール名を判別するには、IMS システム・サービスの戻りコードに関する情報の表、または DSECT DFSESFC を参照してください。

バイト 3 および 4

IMODULE (DFSMODU0) によって戻された 16 進戻りコードが入っています。

キーについては、上記の説明のとおり、レジスター 15 の内容を参照してください。どちらの削除が失敗したかを判別するには、レジスター 14 にあるアドレスに進みます。

ラベル

モジュール内

TEMPA00

DFSESI40 / DFSESPL0

TEMPC00

DFSESI40 / DFSESPL0

TEMPE00

DFSESI40 / DFSESPL0

TEMPG00

DFSESI40 / DFSESPL0

ESIEX30

DFSESI40

ESIEX20

DFSESI40

FREETAB

DFSESPL0

システムの処置

IMS は、外部サブシステムを表す TCB を終了させ、それ自体 (IMS) と指定の外部サブシステムとの間の接続が確立されるのを妨げます。IMS 初期設定処理中に 3054 が発生した場合でも、他のすべての IMS タスク (TCB) は初期設定処理を継続することができます。 / **START SUBSYS** コマンドの結果としてこの異常終了が発生した場合、外部サブシステム・タスクのみが異常終了し、他の IMS 処理は続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してから、定められたインストール・リカバリー/再始動処置を実施します。

プログラマーの応答

IMODULE DELETE 戻りコードの説明については、IMS システム・サービス戻りコード情報を参照してください。

レジスター 14 にあるアドレスを使用して、異常終了を発行したモジュールおよび IMODULE DELETE が失敗した理由を判別します。

IMS /**START** コマンドを使用して、失敗した外部サブシステムを再始動します。

問題判別:

4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSESI40、DFSESPL0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3055

説明

外部サブシステム (Db2 for z/OS) がフェーズ 1 コミット要求を完了することができず、通常のアプリケーション終了中に戻りコード 4 を戻しました。この異常終了は、通常のアプリケーション終了中のコミット要求、または終了しないコミット要求 (メッセージ単独読み取り要求など) の処理中に、フェーズ 1 コミット要求が戻りコード X'10' を戻した場合にも発生する可能性があります。

DB2 からのこれらの戻りコード (RC=X'04'、RC=X'10') は、DB2 モジュールがコミット要求に対して「NO」と表明したことを示します。

分析

これは、以下のような場合に各モジュールによって発行される疑似異常終了です。

DFSPCC20 または DFSPCJBO または DFSPCJMO

フェーズ 1 コミット中に、アプリケーションの通常の終了で RC X'04' または RC X'10' を受け取った時。

DFSCP00

終了しないシナリオのフェーズ 1 コミット中に RC X'10' を受け取った時。

戻りコードは DB2 から DFSESP10 に戻され、DFSESP10 は DFSFESPO に戻りコードを戻します。DFSFESPO は疑似異常終了をセットアップします。

システムの処置

従属領域は、異常終了 3055 で終了します。

プログラマーの応答

Db2 for z/OS がフェーズ 1 コミット要求を処理できない理由を示す異常終了またはメッセージ (あるいは両方) があるかどうか、Db2 for z/OS サブシステムを調べます。

ABEND 3055 の原因の 1 つとして、中断状態ユーザー ID が考えられます。この状態は、RACF またはその他のセキュリティ製品からのメッセージで示されます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSFESPO、DFSTMS00

3056

説明

DB2 RRSAP インターフェース・モジュール DFSD2AF0 が、レジスター 15 が示す機能で重大なエラーを検出しました。

分析

これは、モジュール DFSD2AF0 によって発行される疑似異常終了です。機能 00 の場合、メッセージ DFS3628I が異常終了とともに発行されます。機能 01 から 04 の場合、メッセージ DFS3629I が発行されます。レジスター 2 およびレジスター 3 には、失敗した Db2 for z/OS RRSAP 機能の戻りコードおよび理由コードが入っています。

コード
意味

X'00'
初期設定

X'01'
RRSAF 識別

X'02'
RRSAF サインオン

X'03'
RRSAF スレッド作成

X'04'

RRSAF スレッド終了

システムの処置

異常終了を発行した従属領域が終了します。

プログラマーの応答

システム・プログラマーにお問い合わせください。

問題判別

3, 4

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSD2AF0

関連情報

[DFS3628I](#)

[DFS3629I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3057

説明

アプリケーション・プログラムが外部サブシステムに接続しようとしたが、接続が確立されないときに、この異常終了が発生します。次のいずれかの条件が、異常終了の原因として考えられます。

- 制御領域で、外部サブシステムを IMS に定義するための SSM 実行パラメーターが指定されなかった。
- 従属領域の SSM 実行パラメーターに、外部サブシステム用の定義が含まれていなかった。
- バッチ・アプリケーション・プログラムが SQL 呼び出しを Db2 for z/OS 外部サブシステムに対して発行したが、IMS と Db2 for z/OS サブシステム間に接続が確立されていなかった。この場合、接続を確立するのは Db2 for z/OS の役割です。バッチ環境で IMS と Db2 for z/OS の間で接続を確立する方法については、Db2 for z/OS の資料を参照してください。

分析

これは、従属領域 SSOB 保管域に置かれているコード DFSLI000 によって発行される疑似異常終了です。このコードが実行されるのは、上記条件の一方または両方が生じる場合のみです。通常、プログラム要求処理プログラム (DFSESPRO) が制御権を獲得し、アプリケーション要求を処理します。しかし、この場合、外部サブシ

テム・サポートが初期化されなかったため、プログラム要求処理プログラムがロードされませんでした。

また、DDITV02 または SSM=member のどちらかを使用して、バッチ領域内のアプリケーション・プログラムが、DB2 を指定せずに SQL 呼び出しを行う場合も、この異常終了が生じます。

考えられる原因: この異常終了が発生したという事実により、外部サブシステム 要求を発行したアプリケーションの実行が禁止されなければなりません (すなわち、/ PSTOP transaction が発行されなければなりません)。別の方法として、サブシステムを定義する IMS.PROCLIB メンバーの構築後に適切な SSM パラメーターを挿入する必要があります。

システムの処置

アプリケーション・プログラムが開始した外部サブシステム呼び出しは、外部サブシステムのプログラム要求処理プログラム (DFSESPRO) に送られます。外部サブシステムとの接続が確立されていないので、呼び出しを処理できませんでした。呼び出しは、アプリケーション・プログラムが終了できるように、インターセプトされました。IMS が次の処置を開始するかどうかは、アプリケーション・プログラムがオンライン環境またはバッチ環境のいずれかで実行されているかによります。

1. アプリケーション・プログラムを終了させる。
2. コミットされていないすべての変更をバックアウトする。
3. 障害時に処理中であった入力メッセージを、再処理のために IMS 入力メッセージ・キューに戻す。
4. メッセージ DFS555 を入力端末に送信する。
5. トランザクションは、スケジュール変更されないように、PSTOPPED 状態にされます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

接続障害の理由を判別し、必要な訂正を行います。アプリケーション・プログラムがバッチ環境で実行されている場合、バッチ・アプリケーションを再実行します。アプリケーション・プログラムがオンライン環境で実行されている場合、従属領域アプリケーションを再始動します。

問題判別

4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSLI000

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3058

説明

基本クラスター・ブロック (BCB) ストレージ・マネージャーが障害を検出しました。

モジュール DFSBCB00、DFSBCB30、および DFSBCB90 は、CBT プールと呼ばれる特定のストレージ・プール内でブロックに対する獲得または解放要求をサポートします。モジュール DFSBCB00 および DFSBCB90 は、獲得要求と解放要求のためのインターフェース・モジュールです。モジュール DFSBCB30 は、要求をサポートするサービスを提供します。モジュール DFSBCB60 は、これらのプールに対するオンライン・ストレージ圧縮機能を提供します。

CBT ストレージに対する要求では、マクロ DFSBCB を使用します。その結果、要求されるブロックの特性に応じて、DFSBCB00、DFSBCB80 (モジュール DFSBCB30 内)、または DFSBCB90 への呼び出しが生じます。また、マクロ DFSBCB は、特定のブロック・タイプに対するインライン拡張を使用して要求を処理することもできます。

CBT プールは、DFSCBT00 COPY で定義されます。SCD フィールド SCDCBTA は、DFSCBTS FUNC=DSECT によってマップされる制御ブロック・テーブル・ヘッダー (DFSCBTHD) を指します。ヘッダー内のフィールド CBTFE は、最初のストレージ・プール項目 (ロード・モジュール DFSCBT10) を指します。

所定のプールの場合、ストレージは IPAGE と呼ばれる単位で取得されます。各 IPAGE は接頭部 (DFSPPRE によってマップされる) から始まります。この接頭部には、次の IPAGE へのチェーン (PRENP) と IPAGE フリー・エレメント・キュー (PRENAB) が含まれています。複数の IPAGE にまたがってブロックがチェーニングされることはありません。同じストレージ・プール内であっても、各 IPAGE の長さ (接頭部を含む PREIPL) が異なる場合があります。

ストレージ・プール項目 (DFSCBTS FUNC=DSECT によってマップされる) は、最も古い IPAGE (CBTEPA) と最新のもの (CBTCURR) を指します。IPAGE チェーンをたどるには、PRENP を使用して CBTEPA から始めます。各 IPAGE には、それに関連したストレージ・プールの 4 バイトの名前 (PRENAME) が含まれています。チェーニングのために使用されるブロック内のオフセットは、ストレージ・プール項目 (CBTCOFF) と IPAGE 接頭部 (PRECO) で検出されます。

ブロック獲得要求の処理の一環として追加 IPAGE ストレージが必要な場合、モジュール DFSBCB30 は、ジョブ・ステップ TCB の下で実行される CSS ITASK に作業

エレメントをエンキューします。モジュール DFSCSS00 はこのキューを処理し、モジュール DFSSTM00 を開始して GETMAIN を発行します。

所定のストレージ・プールのブロックは、アドレス・タイプか、ブロック・オフセット・タイプ (CBTFLG1:CBTBOFF) のどちらかです。

前者の場合、IPAGE に使用可能なブロックは、ストレージ・アドレスを使用してフリー・キューからチェーンニングされます。ブロック・オフセットを使用するブロックの場合、IPAGE フリー・キューには、(IPAGE の開始から) 最初の使用可能ブロックまでのオフセットが入っています。最初の使用可能ブロック内のチェーン・フィールドには、(IPAGE の開始から) 次に使用可能なブロックまでのブロック・オフセットが入っています。ブロック・オフセットの上位 16 ビットは IPAGE ID であり、下位 16 ビットは IPAGE の先頭からのオフセットです。ブロック・オフセット・タイプのブロックを解放するには、呼び出し元はブロック・オフセット (つまり、実際のストレージ・アドレスではなく) を渡す必要があります。ブロック獲得機能は両方の値を戻します。

ブロックが割り振られると、Block Formatter ルーチンを使用してフォーマットできます。関連したルーチンの名前は、プール定義マクロで DFSCBT00 COPY で指定されます。

ブロックが割り振られると、IPAGE フリー・キューから除去されます。ストレージ・プール・オプション (CBTFLG1:CBTACTQ) に基づいて、これらの割り振られたブロックは、ストレージ・プール項目 (CBTALLOC) でアンカーされる ACTIVE QUEUE でスレッド化できます。ブロックは、IPAGE フリー・キューからチェーンオフされるのと同じ方法でこのキューでチェーンニングされます。

後者の場合、キューのチェーンニングがアクティブなブロック・オフセット・タイプのプールの場合、CBTALLOC には、キュー上の最初のブロックのブロック・オフセットが入っています。このブロックを含む IPAGE を見つけ、そのチェーン・フィールドにアクセスして、キュー上で次のエレメントのブロック・オフセットを取得することが必要です。

要求の処理中にストレージを割り振ることが必要な場合があります (つまり、呼び出し元が単一の保管域のみを提供したため、追加の保管域が必要)。ストレージ・マネージャーには、SCD (SCDBCBQ) にアンカーされた、この目的のためのエレメントのキューがあります。モジュール DFSXCB00 は、初期化時に BXQE ストレージを取得しました。エレメントが使用不可である場合、ストレージ・マネージャーは BCPE エレメントを GETMAIN して、そのロジックに入って、取得する BXQE ストレージを増やします。次に、要求の完了に進みます。参照されるブロックは、DFSBCB FUNC=EQU を使用してマップされます。追加のストレージ要求に割り振る ECSA ストレージがもうない場合、異常終了 3058 が DFSBCB00 によって発行される場合があります。

パフォーマンス上の理由で、特定のブロックにストレージ・プール項目がありますが、関連したストレージは IPAGE フォーマットではありません。これらのブロックは、SCD でアンカーされるキュー上にあります。非同期作業エレメント (AWE) アンカーは SCDAWEQ であり、BXQE (ストレージ・マネージャー内部エレメント) アンカーは SCDBCBQ であり、SRBC (データ共用 SRB) アンカーは SCDDSSRB です。このような各ブロックには接頭部 (DFSBCB FUNC=EQU によってマップされる) があります。この接頭部は、解放の検証とチェーンニングにストレージ・マネージャーで使用されます。

モジュール DFSBCB60 は、CBT プールのオンライン・ストレージ圧縮機能です。モジュール DFSXBC60 は、BCB60 ITASK のタイマー・サービスを提供します。この ITASK が見つける IPAGE には、使用中のブロックがなく、そのストレージを解放します。IPAGE が固定されている場合、IMSAUTH は、ストレージを最初に固定解除するのに使用されます。

分析

これは、DFSBCB00、DFSBCB30、DFSBCB60、DFSXBC60、および DFSBCB90 によって発行される標準異常終了です。

DFSBCB00 と DFSBCB30 の場合:

レジスター

説明

レジスター 5

指定されたとおりに修飾情報が入っています

レジスター 6

異常終了サブコード

レジスター 7

解放エラーの場合、レジスター 7 には解放対象ブロックのブロック・アドレス/ブロック・オフセットが入っています

レジスター 9

DFSBCBTS FUNC=DSECT によってマップされるストレージ・プール項目のアドレス

レジスター 10

DFSDAWE TYPE=BCB) によってマップされる DFSBCB00 呼び出し元の AWE を指します。またはゼロは、非同期作業エレメント (AWE) が渡されなかったことを示します。

レジスター 11

SCD アドレス

レジスター 13

DFSBCB00 呼び出し元の保管域 (指定されている場合) を示します。元の呼び出し元 0、1、および 15 が使用された可能性があります。

DFSXBC60 の場合:

レジスター 6

異常終了サブコード:

キー	ラベル	説明
Reg6=X' 01'	DFSBCB 00 RBLK00 0	解放するアドレス・タイプ・ブロックが IPAGE で見つかりませんでした。
Reg6=X' 02'	DFSBCB 00 RBLK90 0	呼び出し元が、解放されるブロックのチェーンを渡しました。呼び出し元のカウン트가ゼロになる前に、チェーンが終了しました。レジスター 5 には残りのカウン트가あります。チェーン内の最初のブロックのアドレスは、AWBLKA (DFSDAWE) フィールドにあります。元のカウン트는 AWBCNT にあります。
Reg6=X' 03'	DFSBCB 00 RELBOF F	呼び出し元によって渡されるブロック・オフセットで指定された IPAGE ID を持つ IPAGE が存在しません。
Reg6=X' 04'	DFSBCB 00 FMT60	Block Formatter ルーチンが、レジスター 5 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。
Reg6=X' 05'	DFSBCB 30 RELBAC TQ	呼び出し元はブロック・オフセット・タイプのブロックを解放しようとしています。ストレージ・プールに対してアクティブなキュー・チェーニングが示され、渡されたブロック・オフセットはアクティブ・キュー上にありません。
Reg6=X' 06'	DFSBCB 30 RBACT3 00	呼び出し元はブロック・オフセット・タイプのブロックを解放しようとしています。ストレージ・プールに対してアクティブなキュー・チェーニングが示されます。アクティブ・キュー・チェーンをたどって、呼び出し元が渡したブロック・オフセット (レジスター 7) を見つけているときに、IPAGE 上にないブロック・オフセットがレジスター 5 で見つかりました。これは、アクティブ・キュー・チェーンが破棄されていたことを示します。
Reg6=X' 07'	DFSBCB 30 RACT40 0	呼び出し元は、アドレス・タイプ・ブロックを解放しようとしています。アクティブなキュー・チェーニングが示されます。解放するブロック (レジスター 7) が、アクティブ・キューで見つかりませんでした。
Reg6=X' 08'	DFSBCB 30	BLOCKS のチェーンが、アクティブ・キュー (アドレス・タイプ・

キー	ラベル	説明
	RACT70 5A	ブロック) から除去される予定でした。最初のブロックが見つかりました (レジスター 7)。ユーザー指定のブロック数 (AWBCNT) に達しないうちに、アクティブ・キューが使い果たされました。残りの数はレジスター 5 にありました。
Reg6=X' 09'	DFSBCB 30 RACT21 0	アクティブ・キュー上でレジスター 7 内のブロックを見つけようとしていました。このストレージ・プールの IPAGE がありませんでした。
Reg6=X' 0A'	DFSBCB 30 REL20	呼び出し元は、ストレージ・プール項目ラッチを解放する準備ができ、追加のレジスター・スペースが必要です。使用可能な BXQE がありませんでした。BCBPE エlementのための IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 15 の上位 16 ビットには、IMODULE 戻りコードが入っています。下位 16 ビットには X'0C' が入っています。
	DFSBCB 00 FMTIME RR	block format ルーチンを開始するには、追加ストレージが必要です。BCBPE エlementのための IMODULE GETMAIN が失敗しました。異常終了コード X'0A' を参照してください。
Reg6=X' 0B'	DFSBCB 30 REL20	サブコード X'0A' の説明を参照してください。BCBPE が正常に取得されました。モジュール DFSSTM00 を使用してもっと多くの BXQE ストレージを取得するために、エントリー DFSBCB50 で DFSBCB30 に入りました。DFSSTM00 によって発行された BXQE の IMODULE GETMAIN が失敗しました。レジスター 15 の上位 16 ビットには、IMODULE 戻りコードが入っています。下位 16 ビットには X'1C' が入っています。
	DFSBCB 00 FMTBXE RR	block format ルーチンを開始するには、追加ストレージが必要です。異常終了コード X'0B' を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg6=X' 0C'	DFSBCB 60 FREE00	IPAGE を IMODULE DELETE しようとしてエラーが発生しました。レジスター 3 = IPAGE アドレス レジスター 5 = IMODULE に渡されたサブプール レジスター 15 = IMODULE 戻りコード IPAGE 接頭部 (DFSPPRE:PRECUB) には、関連したストレージ・プール (DFSCBTE) のアドレスが入っています。メッセージ DFS3623E が発行されます。
Reg6=X' 0D'	DFSBCB 60 QP40	IMSAUTH FUNC=PGFREE を使用してページの固定解除しようとしてエラーが発生しました。レジスター 15- IMSAUTH 戻りコード解放リストは、モジュール DFSBCB60 のラベル BCBFIX にあります。元のレジスター 6 はレジスター 2 に保管されました。各 IPAGE 接頭部 DFSPPRE では、PRECUB が関連したストレージ・プールのアドレスです。メッセージ DFS3625E が発行されます。
Reg6=X' 0E'	DFSXBC 60 INT05	ストレージ圧縮タイマー (DFSXBC60) が DFSBCB60 のアドレスを検出できませんでした。制御アドレス・スペースの場合、DFSBCB60 が XSTM0 によってロードされ、DL/I アドレス・スペースの場合、DFSXDL00 がロードされます。
Reg6=X' 0F'	DFSBCB 30 SWITCH	呼び出し元は仮想記憶間モードに入っています。ITASK ECB を見つけるために、呼び出し元の保管域チェーンがたどられました。ECB が見つかりませんでした。レジスター 13 は、呼び出し元の保管域チェーンのアドレスです。
Reg6=X' 10'	DFSBCB 30 GETECB 0	呼び出し元は仮想記憶間モードに入っています。ITASK ECB を見つけるために、呼び出し元の保管域チェーンがたどられました。チェーンをたどった回数は BCB LPCNT 回 (DFSBCB FUNC=EQU) でしたが、チェーンは終了しませんでした。おそらく、保管域がそれ自体にチェーンングされています。レジスター 13 は、呼び出し元の保管域チェーンのアドレスです。

サブコード 12 および 13 の場合、IMS は異常終了します。IPAGE 接頭部がオーバーレイされた可能性があります。

サブコード 1、2、3、5、7、8、および 9 の場合、DFSBCB00 の呼び出し元が無効な入力を渡した可能性があります。

サブコード 4 の場合、ストレージ・プールに関連した block formatter ルーチンを調べて、ゼロ以外の戻りコードを戻した理由を判別します。ブロック・フォーマッターの名前は、DFSCBT00 COPY のプール定義マクロで指定されます。

サブコード 6 は、内部 IMS 論理エラーが発生したことを示しています。

サブコード 10 の場合、IMODULE GETMAIN が 184 バイトに対して発行されました (サブプール 228 z/OS オンライン、その他は 251)。コード 11 の場合、IMODULE GETMAIN が 4096 バイトに対して発行されました (サブプール 231 z/OS オンライン、その他は 251)。

サブコード 14 または 16 は、内部 IMS 論理エラーを示します。

サブコード 15 の場合、仮想記憶間モードの DFSBCB 要求側はすべて、ITASKS でなければなりません。

12 と 13 以外のサブコードの場合、この異常終了が制御領域で発行されるかどうか、および異常終了を起こした TCB が再タスク生成可能かどうかに応じて、IMS が異常終了する可能性があります。

DFSBCB90 の場合:

DFSBCB90 によって管理されるブロックには、ブロックの直後に 8 バイトの接尾部があります。この接尾部は、解放呼び出しでの検証とオーバーレイ検出に使用されます。接尾部の先頭ワードには、解放されるブロックの文字ストリングとしてブロック・タイプ名が含まれています。2 番目のワードの先頭バイトには、ブロックが割り振り済み ('A') であるか、フリー ('F') であるか、または初期化済みであるが割り振られていない ('I') を示す単一文字が入っています。ブロックの解放時にこの接尾部の検証が失敗すると、3058 異常終了が以下のいずれかのサブコードと一緒に発行されることがあります。

キー	説明
Reg15=X' 01'	DFSBCB 解放呼び出しが行われましたが、解放されたブロックが妥当性検査に失敗しました。ブロック接尾部内のブロック・タイプが、解放で指定されたブロック・タイプと一致しませんでした。異常終了時に、レジスター 2 は解放されるブロックを指し、レジスター 14 はブロックの接尾部を指し、レジスター 9 は解放されるブロックのブロック・タイプの CBTE を指します。CBTE 内の最初の 4 バイトには、ブロック・タイプの名前が入っています。

キー	説明
Reg15=X'02'	DFSBCB 解放呼び出しが行われましたが、解放されるブロックが割り振られていませんでした。異常終了時に、レジスター 2 は解放されるブロックを指し、レジスター 14 はブロックの接尾部を指し、レジスター 9 は解放されるブロックのブロック・タイプの CBTE を指します。ブロック接尾部内のオフセット X'04' でのバイトは、ブロックが割り振り済みであることを示す 'A' でなければなりません。バイトが 'A' でない場合、この異常終了が発行されます。
Reg15=X'04'	取得されるブロックには block formatter ルーチンがありますが、このルーチンを検出できませんでした。
Reg15=X'0A'	ブロックに対して block formatter ルーチン呼び出すために BXQE が必要でしたが、BXQE を取得できませんでした。BCBPE ブロックについて IMODULE GETSTOR が GET5000 で (DFSBCB30 で) 失敗しました。
Reg15=X'0B'	ブロックに対して block formatter ルーチン呼び出すために BXQE が必要でしたが、BXQE を取得できませんでした。DFSBCB50 は新しい BXQE IPAGE を取得できませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了するかどうかは、この異常終了が制御領域で発行されるか、および異常終了を起こした TCB が再タスク生成可能かによります。

プログラマーの応答

IMS が終了した場合、適切な再始動手順を実施します。

問題判別:

4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSBCB00、DFSBCB30、DFSBCB60、DFSBCB90

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3059

説明

IPAGE ストレージを取得するために、モジュール DFSSTM00 が開始されました。汎用 IPAGE フォーマッター DFSSPF00 が、この処理の一部として呼び出されました。DFSSPF00 は、プール・ページ・フォーマッターが指定されている場合、それを呼び出します。DFSSPF00 への呼び出しから戻った後、DFSSTM00 は、IPAGE 上のブロック数 (DFSPPRE:PRENOB) が 0 であることを検出しました。詳しい説明と分析については、異常終了 3058 を参照してください。

分析

これは、DFSSTM00 によって発行される標準異常終了です。

キー	ラベル	説明
Reg 3	DFSSTM00 NEWPG30 0	(DFSCBTS によってマップされる) ストレージ・プール項目のアドレス。
Reg 5	DFSSTM00 NEWPG30 0	IPAGE のアドレス (DFSPPRE によってマップされる接頭部)。

この異常終了は、欠陥のある IMS コードにより引き起こされました。ストレージ・プール項目内の値に疑いがあります (一般に、CBTEBL- ブロック長および CBTBLKN- ブロック数はゼロであってはなりません)。ストレージ・プール・ページ・フォーマッターにも疑いがあります。プール・ページ・フォーマッターを検出するために、DFSCBT00 COPY にはプール定義が含まれ、このプールのページ・フォーマッター名 (PFN=) (ある場合) を示します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

問題の原因を判別するには、レジスターを参照してください。

問題判別

4、5、6、7

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSSTM00

関連情報

3058

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3062

説明

メモリー割り振り、ストレージの取得、またはモジュール・ロード中に、いくつかのモジュールの 1 つでエラーが発生しました。理由コードは、エラーのタイプをさらに特定し、切り分けます。

理由コード

説明

4

DFSSQLA のストレージを取得するための SQL10 への呼び出しが失敗しました。

モジュール: DFSSQL00

100 (x'0064')

パーサー作業域用のストレージ取得呼び出しが失敗しました。

モジュール: DBFDT180

104 (x'0068')

パーサー作業スタック域、ツリー解析作業域、または sqlstr 用のストレージ取得呼び出しが失敗しました。

モジュール: DFSSQL10

116 (x'0074')

スタック・ブロック用のストレージ取得呼び出しが失敗しました。

モジュール: DFSSQL10

120 (x'0078')

ルーチン検出呼び出しが失敗しました。

モジュール: DFSSQL10

300 (x'012C')

DFSSQLA ブロック用のストレージを取得するための呼び出しが失敗しました。

モジュール: DFSAERG0、DFSPDLIO

304 (x'0130')

IMS ネイティブ SQL アンカー・ブロック (PNSQA) が存在していません。

モジュール: DFSPDLIO

DFSCAT00 に対する PCRE Locate が失敗しました。

モジュール: DFSDPSQL

308 (x'0134')

IMS SQL 要求の処理中に DFSSQLA が存在していませんでした。

モジュール: DFSDPSQL

SQL 呼び出しで渡された PCB 名を使用して PSB 内の PCB を見つけることができませんでした。

モジュール: DFSDDL30

システムの処置

IMS はダンプ付きで異常終了します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

ソース:

IMS 異常終了

3100

説明

構文解析テーブルの構造内で内部エラーが検出されました。

分析

これは、MFS プリプロセッサ 構文解析エラー分析ルーチン DFSUPAMO によって発行される標準異常終了です。

各ソース・ステートメントは、プリプロセッサの個別のモジュールによって処理されます。各ステートメント・プロセッサには、ステートメントの構文を定義するテーブルが入っています。ステートメント・プロセッサは、モジュール DFSUPAMO を呼び出して、ステートメント・プロセッサによって提供される構文テーブル (MFSGBL 内の PARSTABL を使用してアドレス指定される) を使用して、現行ステートメントで構文検査を実行します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル XFERBUMP 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は、ステートメント・プリプロセッサ・モジュールによって渡される MFS プリプロセッサ・グローバル・ディクショナリー (MFSGBL) を指します。DFSUPAMO を呼び出したステートメント・プリプロセッサ・モジュールは、異常終了 SVRB 内のレジスター 13 によって指し示される保管域セットからレジスター 14 を取得し、それを戻りアドレスとして使用することによって検出できます。レジスター 9 は、構文解析スタックの現行状態に関する構文解析スタック・エントリー (PSE) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'8000 OC1C' Reg9 構文解 析スタック・ エントリー (PSE) Reg10 to the PARSTABL	XFERB UMP	構文解析テーブル全体でループする前に、現行項目と転送項目間の一致が検出されませんでした。これは、内部エラーを示します。レジスター 14 には、このテーブルを渡した呼び出し元の戻りアドレスが入っています。

考えられる原因: MFSGBL 領域の破棄。呼び出し側モジュールの構文解析テーブルが破棄されたか、構文解析スタック・エントリーが破棄されました。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別

1、2、8、11、12、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAM0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 26 章 IMS 異常終了コード 3101 - 3300

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

3101

説明

ソース・ステートメントでエラー・リカバリーを提供しようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、MFS プリプロセッサ 構文解析エラー分析ルーチン DFSUPAMO によって発行される標準異常終了です。

構文エラーが検出される場合、モジュール DFSUPAMO はモジュール DFSUPBMO を呼び出します。

DFSUPBMO は、有効なデフォルトを割り当てることによってエラーを訂正しようとしています。DFSUPBMO がアルゴリズムのトラブルを検出する場合、エラー・リカバリー論理はエラーがあります。DFSUPAMO に戻り、壊滅的なエラーを示します。

異常終了がラベル CATSTROP 内で発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のこのラベル内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 14 を使用して、特定のラベルまで切り分けます。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg14=BAL to DFSUPBMO	LAB 4	DFSUPBMO からの戻りは、アルゴリズムのトラブルが検出されたことを示します。これはクリティカル・エラーです。
Reg14 ←=BAL to DFSUPBMO Reg10+X'CO'←= X'0001'	PAM END	構文解析操作が完了しました。構文解析スタック上には 1 つのエントリーしか存在してはなりません。ラベル PAMEND 内の比較が失敗し、CATSTROP に分岐しました。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

プログラマーの応答

問題判別を実施した後、障害を起こしたソース・ステートメントを調べ、エラーを訂正するかまたはオペランドを再配列してから、ジョブを再実行します。

問題判別

1、11

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAMO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3102

説明

IMS.REFERAL データ・セットに書き込む前に ITB を作成または書き込みしようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、MFS プリプロセッサ Referral マネージャー、DFSUPAX0 によって発行される標準異常終了です。

中間テキスト・ブロック (ITB) のストレージを獲得するために、DFSUPAX0 が各種ステートメント・プリプロセッサによって呼び出されます。ITB ストレージは、テキスト・バッファと呼ばれる 4K ブロックで割り振られます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3102 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 3 には、LOCATE スペース要求のサイズが入っています。異常終了 SVRB 内のレジスター 13 が指す保管域セットでレジスター 14 を使用することによって、呼び出し元の戻りアドレスを検出できます。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C1E' Reg3>X'0FF0'	NEED STG	スペース要求のサイズが、1つのテキスト・ブロックのサイズを超えています。

考えられる原因: 呼び出し側モジュールによって無効なパラメーターが渡されました。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSUPAX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3103

説明

現在処理中の文字を分類しようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、項目取得プロセッサ・モジュール DFSUPAD0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 14 BAL を使用すると、エラーが検出された場所を判別できます。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は、MFSGBL を指します。

異常終了がラベル ABEND001 における共通異常終了ルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg14=B AL Reg11=M FSGBL Reg15>X' 1C' SOURCE=	CHECK VAL	このルーチンは、MFSGBL のエリア CARD から文字を取得します。項目が形成されるまで引き続き文字を取得します。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入り、この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうか

キー	ラベル	説明
現行ソース文字		を確認するために調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=B AL Reg15>X' 1C' SOURCE= 現行ソース文字	ALPHA	このルーチンは、英数字項目の文字を取得しました。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=B AL Reg15>X' 1C' SOURCE= 現行ソース文字	NUMERIC	数値項目の文字が取得されません。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=B AL Reg15>X' 1C' SOURCE= 現行ソース文字	AMERIC	この項目の文字が取得されません。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=B AL Reg15>X' 1C' SOURCE= 現行ソース文字	QUOTE	引用 (リテラル) 項目の文字が取得されます。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。
Reg14=B AL Reg15>X' 1C' SOURCE= 現行ソース文字	QUOQUO	この項目の文字が取得されました。レジスター 15 には、現行のソース文字値が入っています。この索引値がこの項目リストには高すぎるかどうかを確認するためにこの文字値が調べられます。オーバーレイされる場合は、異常終了が発行されます。

考えられる原因: 以下の原因があります。

- ソース・ステートメント内のエラー
- MFSGBL 内の VALUETBL に、ソース・レコード変換用に正しくない変換テーブルが入っています。ALPHA ステートメント・プロセッサ (DFSUPAN0) が

VALUETBL に加えた変更が正しくなかった可能性があります。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

プログラマーの応答

問題判別を実施した後、障害を起こしたソース・ステートメントを調べ、エラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAD0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3104

説明

MFS プリプロセッサが区切り文字を処理していたときに、内部論理エラーが発生しました。スキャンされたばかりの項目を表す文字群に、ソース区切り文字を付加しようとした。MFSGBL 内の ITEM エリアがオーバーフローしました。

分析

これは、項目取得プロセッサ・モジュール DFSUPAD0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。異常終了はラベル DELMOVER におけるルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
SOURCE ←=C! Reg15=SDW SDWCURLT>S DWMAXLT	DELIMIT	項目リストが作成され、現行ソース文字の変換値に基づきます。現在の項目の長さが最大 (SDWMAXLT) を超えているため、現行項目の終わりに区切り文字を付加できません。String Descriptor

キー	ラベル	説明
		Word (SDW) の現行の長さが最大長を超えています。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

プログラマーの応答

障害を起こしたソース・ステートメントを調べ、エラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAD0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3105

説明

継続文字の検出後に、分岐ベクトル・テーブル内の内部論理エラーが検出されました。

分析

これは、モジュール DFSUPAE0 から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。GETCFUNC は、SYSIN からの入力文字の取得時に実行される現行機能を示す 1 バイト・セルです。1つの状態が完了し、次の状態が実行される予定である場合に索引値として使用される値が GETCFUNC に割り当てられます。この異常終了は、GETCFUNC 索引値が許可された値より大きい場合に発行されます。

異常終了がラベル RTN8 における共通異常終了ルーチンから発行されます。異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) が、このラベルにおける異常終了 (SVC 13) を指します。

キー	ラベル	説明
Reg15=GE TCFUNC Reg15>X'1 8'	MOVE SOR	このルーチンは、MFSGBLのCARDエリアからソース文字を取得し、分岐してGETCFUNCによって定義される機能を実行します。GETCFUNCはレジスター15に書き込まれ、その後、索引値の範囲がこのリストには高すぎるかどうかを確認するために調べられます。高すぎる場合、ラベルRTN8への分岐が取られ、異常終了(SVC 13)を発行します。
Reg15=GE TCFUNC Reg15>X'1 8'または Reg15=0	CHKP OS72	このルーチンは非ブランク文字がないかどうか列72で調べ、継続レコードを処理します。列72がブランクである場合、継続レコードはありません。GETCFUNC(索引値)はレジスター15で設定され、索引値が高すぎるかどうかを確認するためにレジスター15が調べられます。索引値が0である場合も、異常終了が発行されます。
Reg15=GE TCFUNC Reg15=0 または Reg15>X'1 8'	BLNK 72	列72はブランクであるので、このルーチンはステートメントの終わり項目を処理します。GETCFUNC(索引値)はレジスター15で設定され、索引値が高すぎるかどうかを確認するためにレジスター15が調べられます。高すぎる場合、異常終了が発行されます。索引値が0である場合も、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

プログラマーの応答

問題判別を実施した後、障害を起こしたソース・ステートメントを調べ、エラーを訂正してから、ジョブを再実行します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3107

説明

ITB を作成、または ITB を IMS.REFERAL データ・セットに書き込みしようとしているときに、PUT 呼び出しで内部論理エラーが発生しました。最後に検出されたストレージ域は、PUT 呼び出しで提供されたのと同じ領域ではありません。

分析

これは、MFS プリプロセッサ REFERAL ライブラリー・マネージャー、DFSUPAX0 によって発行される標準異常終了です。

各種ステートメント・プリプロセッサ・モジュールのいずれかから PUT 呼び出しが行われると、ITB がテキスト・バッファに移動します。ITB スペースに対する LOCATE 呼び出しは PUT 呼び出しに先行する必要があります。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3107 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 3 には、移動される ITB のサイズが入っています。レジスター 3 の値は、直前の LOCATE 呼び出しで要求されたスペースのサイズと比較されます。直前の LOCATE 呼び出しで要求されたサイズは、MFSGBL のラベル STGLOC に置かれます。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は、MFSGBL を指すポインターです。レジスター 13 が指す保管域セットでレジスター 14 を使用することによって、呼び出し元の戻りアドレスを検出できます。レジスター 12 は、基底レジスターです。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C 23' Reg3=>ラベル STGLOC における アドレス	PUT	PUT 呼び出しは、最近検出された領域に対するものではありませんでした。

考えられる原因: 呼び出し側モジュールによって無効なパラメーターが渡されたか、LOCATE および PUT の無効な呼び出しシーケンスが発行されました。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3108

説明

ITB を作成、または ITB を IMS.REFERAL データ・セットに書き込みしようとしているときに、PUT 呼び出しで内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、MFS プリプロセッサ REFERAL ライブラリー・マネージャー、DFSUPAX0 によって発行される標準異常終了です。

各種ステートメント・プリプロセッサ・モジュールのいずれかから PUT 呼び出しが行われると、ITB がテキスト・バッファに移動します。ITB スペースに対する LOCATE 呼び出しは PUT 呼び出しに先行する必要があり、同じ量に対するものでなければなりません。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3108 内の命令を指します。PUT 領域の長さは、ラベル STGLOCS における MFSGBL に含まれています。異常終了 SVRB 内のレジスター 11 は、MFSGBL を指すポインターであり、レジスター 5 には、要求された PUT 領域の長さが入り、レジスター 12 は基底レジスターです。異常終了 SVRB 内のレジスター 13 が指す保管域セットで、レジスター 14 によって呼び出し元の戻りアドレスが指し示されます。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C24' Reg5>STGLOCS 内のサイズ	PUT	呼び出しのサイズが、LOCATE 呼び出しのサイズよりも大きくなっています。

考えられる原因: 呼び出し側モジュールは、以前に LOCATE されたものよりも多い量に、PUT されるストレージ量を増やしたか、MFSGBL 領域が破棄されました。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3109

説明

ITB を作成、または ITB を IMS.REFERAL に書き込みしようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、MFS プリプロセッサ REFERAL ライブラリー・マネージャー、DFSUPAX0 によって発行される標準異常終了です。

特定の ITB をテキスト・ブロックで検索中に、その ITB 全体が 1 つのテキスト・ブロック内に置かれていなかったことが確認されました。これは、非論理的条件です。この条件が検出されるのは、ITB の PRINT が要求される場合です。ITB の印刷は、2 つのステートメントによって制御されます。すなわち、MFS ユーティリティー・プログラムに対する EXEC JCL ステートメントのパラメーター・フィールド内の PDIAG=DIAG、またはコンパイル・ステートメント PRINT=ON,GEN がコーディングされている場合です (これらのオペランドはデフォルトです)。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3109 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 10 は、要求された ITB を指します。次のテキスト・ブロックを指すポインターであるレジスター 4 にはゼロが入ります。レジスター 4 を使用する DSECT BLK は、テキスト・ブロックのリンケージを記述します。

キー	ラベル	説明
Reg1=X'80000C25' Reg4=ゼロ	NOTHERE	PRINT ITB 操作の処理中に、要求された ITB を見つけることができませんでした。

考えられる原因: MFSGBL が破棄されたか、テキスト・ブロックが破棄されました。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3110

説明

ITB を作成、または ITB を IMS.REFERAL に書き込みしようとしているときに、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、Library Write Function モジュール、DFSUPB60 によって発行される標準異常終了です。

新しい中間テキスト・ブロック (ITB) が生成されると、モジュール DFSUPAX0 は DFSUPB60 を呼び出して、ITB を IMS.REFERAL データ・セットに書き込みます。DFSUPB60 妥当性検査は、ITB 内のフィールド ITBTYPE を調べて、その ITB が TABLE、FORMAT、または MESSAGE ステートメントのみによって作成されたことを確認します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のラベル USER3110 内の命令を指します。異常終了 SVRB 内のレジスター 4 は、処理中の現行 ITB を指すポインターであり、レジスター 12 は基底レジスターです。有効な ITBTYPE は次のとおりです。

コード

意味

X'20'

TABLE ITB

X'01'

FORMAT ITB

X'11'

MESSAGE ITB

キー	ラベル	説明
Reg2=BAL Reg4 to the ITB ITBTYPE-=有 効なタイプ	DFSUPB6 0	ITB は IMS.REFERAL への書き込みがスケジュールされていますが、妥当性検査操作で有効な ITB として識別できませんでした。

考えられる原因: 呼び出し側モジュールは有効な ITB を渡しませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別

1、11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPB60

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3111

説明

MFS 言語ユーティリティ・プリプロセッサがソース・ステートメントを分析しようとしたが、プリプロセッサで内部論理エラーが発生しました。プロセッサは DEVITB (DEVOCOR4) 内の装置タイプを分析していました。装置コードが、有効な装置タイプと一致しませんでした。レジスター 6 に、異常終了を検出したステートメント・プロセッサを示す機能コードが入っています。レジスター 15 に、異常終了の原因となった無効な値が入っています。

分析

レジスター 6 には、異常終了を発行したモジュールを示す以下のいずれかのエラー・コードが含まれています。

コード

意味

X'04'

DFSUPAZ0、DEV ステートメント・プロセッサ。

X'08'

DFSUPA10、DPAGE ステートメント・プロセッサ。

X'0C'

DFSUPA30、DFLD ステートメント・プロセッサ。

レジスタ 15 には、DEVITB 内のフィールド DEVOCCR からの無効な装置コードが入っています。DFSUPA10 および DFSUPA30 の場合、レジスタ 3 には、DEVITB を指すポインタが入っています。DFSUPA30 の場合、レジスタ 2 には、DEVITB を指すポインタが入っています。

考えられる原因: DEVITB 内に誤った DEVITB アドレス またオーバーレイされたデータが存在します。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPA30、DFSUPA10、DFSUPA30

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3115

説明

MFS プリプロセッサ・ソース入力用のレコードのスタッキングまたはアンスタッキング中に、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、モジュール DFSUPA30、DFSUPB30、DFSUPBJ0、または DFSUPBK0 から発行される標準異常終了です。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) により、どのモジュールがエラーを検出し、異常終了を発行したかが判別されます。

DFSUPA30 の場合:

異常終了 SVRB のレジスタを問題分離に使用します。レジスタ 10 に、異常終了が開始された場所のアドレスが入っています。レジスタ 12 は基底レジスタです。レジスタ 11 は、スタック・ポインタと ID が入っている MFSGBL を指します。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、エラーを検出したルーチン内の異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL Reg14=BAL to DFSUPBK0 Reg15 =0 STACKID= アンスタック されたばかりのスタック STKIDQCB= スタック ID キュー制御ブロック	ENDST ACK	スタックの終わりに達し、UNSTACK が終了します。このルーチンは、UNSTACK されたばかりのスタック (QE およびブロック) を削除します。DFSUPBK0 (シンボル・テーブル検索ルーチン) は、STACKID エントリがあるかどうかを確認するために BAL されます。STACKID エントリがシンボル・テーブルで検出されなかったことを示すゼロ以外の戻りコードが、レジスタ 15 で渡され、異常終了が発行されます。
Reg10=BAL Reg14=BAL to DFSUPBK0 Reg15 =0 STACKID=そのレコードが追加されるスタックの ID	STACK CRD	MFSGBL の STACKID 内の ID に対応するレコードが、スタックに追加されます。シンボル・テーブル内で STACKID エントリを検索するために、DFSUPBK0 に対して BAL が行われます。レジスタ 15 でゼロ以外の戻りコードが渡されません。スタッキングが進行中である場合は QE が存在しなければならないため、異常終了が発行されます。

DFSUPB30 と DFSUPBK0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスタを、問題分離に使用する必要があります。レジスタ 10 に、異常終了が開始された場所のアドレスが入っています。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、エラーを検出したルーチン内の異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL READSWS=X'1 0'	TMUNST K2	このルーチンは、'STACK ON, ID' ステートメントを処理します。UNSTACK がアクティブです (READSWS=X'10')。これはエラーです。アンスタッキングが行われている間、'STACK ON, ID' ステートメントは存在してはならないからです。アンスタッキングは、メモリー内のスタックから次のソース・ステートメントを取得するプロセスです。このステートメントは、直前の STACK ON, ID ステートメントによってスタック上に置かれていました。異常終了が発行されるラベルは UABEND1 です。
Reg10=BAL Reg14=BAL to DFSUPBK0 Reg15=0	DLETCAR D	特定の ID に関連したストレージ・スタックからのレコードが削除されます。DFSUPBK0 (スタック ID エントリーの検索がシンボル・テーブルで行われた) から戻った後、レジスター 15 はゼロ以外であり、エントリーが検出されなかったことを示します。その後、異常終了がラベル UABENDD1 で発行されます。
Reg10=BAL Reg4=STKIDQ E FIRSTBLK=0 Reg1=queue= 0 内の 最初のブロッ ク	HAVEQE	このルーチンは、現行スタック上の最後のブロックを検出するためのものです。レジスター 4 は、QE へのアドレス指定を確立するようにセットアップされます。レジスター 1 には、ID の最初のブロック (FIRSTBLK) のアドレスがロードされます。レジスター 1 がテストされ、ゼロであることが検出されるので、異常終了がラベル UABENDD2 で発行されます。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、エラーを検出したルーチン内の異常終了 (SVC 13) を指しています。

キー	ラベル	説明
Reg10=BAL READSWS= X'10'	TMUN STK1	このルーチンは、'UNSTACK ID, KEEP/DELETE' ステートメントを処理します。UNSTACK がアクティブです (READSWS=X'10')。ネストされた STACK および UNSTACK ステートメントは使用できません。したがって、UNSTACK ステートメントが進行中の間、スタック内で UNSTACK ステートメントを検出するのは、非論理的条件です。したがって、ラベル UABEND1 から異常終了が発行されます。
Reg10=BAL Reg14=BAL to DFSUPBK0 Reg15=0	DLETC ARD	特定の ID に関連したメモリー内のスタックからのステートメントが削除されます。DFSUPBK0 (スタック ID エントリーの検索がシンボル・テーブルで行われた) から戻った後、レジスター 15 はゼロ以外であり、エントリーが検出されなかったことを示します。その後、異常終了がラベル UABENDD1 から発行されます。
Reg4=STKI DQE FIRSTBLK=0 Reg10=BAL	HAVE QE	このルーチンは、現行スタック上の最後のブロックを検出するためのものです。レジスター 4 は、キュー・エレメント (QE) へのアドレス指定を確立するようにセットアップされます。レジスター 1 には、ID の最初のブロック (FIRSTBLK) のアドレスがロードされます。レジスター 1 がテストされ、ゼロであることが検出されるので、異常終了がラベル UABENDD2 から発行されま

DFSUPBJ0 の場合:

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 10 に、異常終了が開始された場所のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg2=CARD SPER Reg2>1 Reg10=BAL	NOPR EVBL	アンスタックされるソース・ステートメントを含むブロックはこれ以上存在しません。しかし、CARDSPER (削除対象として残っているステートメント/レコード) は >1 です。削除対象として残っているステートメント/レコードは、CARDSPER からレジスター 2 にロードされます。次に、実際にステートメント/レコードが残っているかどうかを確認するために、レジスター 2 が比較されます。残っている場合、異常終了がラベル UABENDD3 から発行されます。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。レジスター 10 に、異常終了が開始された場所のアドレスが入っています。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAF0、DFSUPBH0、DFSUPBJ0、DFSUPBK0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3116

説明

MFS プリプロセッサで使用される汎用ソート・ルーチンで、内部論理エラーが発生しました。

分析

これは、モジュール DFSUPAZO から発行される標準異常終了です。

異常終了 SVRB のレジスターを問題分離に使用します。レジスター 14 には、EXCHSORT または NOZESORT サブルーチンの呼び出し用の BAL 命令の直後に戻りアドレスが入っています。

異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) も、エラーを検出したコードを指します。

サブルーチン EXCHSORT または NOZESORT の呼び出し元のレジスターは、ラベル TEMPSAVE で (レジスター 14 からレジスター 12 まで) 保管されます。これらのレジスター内で、レジスター 1 にはパラメーター・リスト・アドレスが入ります。パラメーター・リストのフォーマットは次のとおりです。

ハーフワード

ソートされるエントリー数

ハーフワード

各エントリーのサイズ

フルワード

最初のエントリーを指すポインター

キー	ラベル	説明
Reg9=エン トリー数	EXCHSO RT	ソートされるエントリー数は、パラメーター・リストから取得され、レジスター 9 にロードされます。エントリー数が 1 より大きいかどうかを確認するために、レジスター 9 が比較されます。大きくない場合、ソート用のエントリー数が無効なために異常終了が発行されます。
Reg5=最初の エントリー Reg8=0 Reg9=最後の エントリー	GOODNU M	ソートされるエントリー数が 1 より大きくなっています。レジスター 8 には、エントリーのサイズ (バイト数) がロードされ、ゼロより大きいかどうかを確認するためにテストされます。END レコードでない場合、異常終了が発行されます。
Reg9=エン トリー数	NOZESO RT	ソートされるエントリー数は、パラメーター・リストから取得され、レジスター 9 にロードされます。エントリー数が 1 より大きいかどうかを確認するために、レジスター 9 が比較されます。大きくない場合、ソート用のエントリー数が無効なために異常終了が発行されます。
Reg5=最初の エントリー Reg8=0 Reg9=最後の エントリー	GOODNU MZ	ソートされるエントリー数が 1 より大きくなっています。レジスター 8 には、エントリーのサイズ (バイト数) がロードされ、ゼロより大きいかどうかを確認するためにテストされます。END レコードでない場合、異常終了が発行されます。

システムの処置

MFS プリプロセッサは異常終了します。

問題判別

1、2、8、11、16、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSUPAZO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3120

説明

IMS 再始動中に、MSC 制御ブロックを復元するためにモジュール DFSCMR00 が必要であるが、このモジュールは使用不能です。

システムの処置

ABEND の前に、IMS DFS3120I メッセージが出力されます。

プログラマーの応答

DFSCMR00 が DFSRST00 ロード・モジュールにリンクされているかどうかを確認します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSRLP00

関連情報

[DFS3120I](#)

3141

説明

緊急時再始動中に、XRF 代替システムまたは高速データベース・リカバリ領域がログ・データ・セットを読み取っているときに、エラーが検出されました。

分析

SCDDKDCB には DCB のアドレスが入り、SCDRSTEB には、OSAM 読み取り操作に使用される PST のアドレス

が入ります。この異常終了は、モジュール DFSRLP00 のラベル ABND3141 から発行されます。

考えられる原因: 考えられる原因は次のとおりです。

- 再始動データ・セット (RDS) で入出力エラーが発生した。
- この再始動では、拡張リカバリ機能 (XRF) 指定を変更できない。メッセージ DFS3851I を参照してください。
- もう一方のシステムがアクティブ・システムでない。メッセージ DFS3852I を参照してください。
- IMSID 名が、チェックポイント・リカバリ可能サービス・エレメント (RSE) 名と一致しない。メッセージ DFS3868I を参照してください。
- XRF 1 次システムとアクティブ・システムで、HSBID が等しくてはならない。メッセージ DFS3894I を参照してください。
- データベース制御 (DBCTL) ログを使用して DB/DC システムを始動しようとしたか、または DB/DC ログを使用して DBCTL システムを始動しようとした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3141 が示されます。

オペレーターの応答

再ロードの後、/ERE コマンドを使用して IMS を再始動します。入出力エラーが発生した場合、アーカイブ・ログからの再始動が必要です。

問題判別

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSRLP00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3265

説明

DFSFDLW0 は、OLDS 入力で最後のログ・ブロックに続くログ・ブロックを検出しようとしませんが、WADS が 1 つまたは複数の入出力エラーを検出していました。ログ・リカバリ・ユーティリティーがエラーを検出しました。

分析

これは、DFSULG20 によって発行される標準異常終了です。ログ・リカバリー・ユーティリティ、DFSULTR0、複合モジュール、および DFSULG10 が、CSECT への入力です。DUP または CLS モードが指定される場合、DFSULG10 はモジュール DFSULG20 にレジスターを分岐リンク (BALR) します。データの終わりが検出されるか、エラー数が指定のユーザー番号に達すると、DFSULG20 は DFSFDLW0 を呼び出して、WADS (エラーを含む) 内の後続のログ・ブロックを検索します。この異常終了が発行されると、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が DFSULG20 で発行元の命令を指します。

異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 12 は、DFSULG20 の基底レジスターです。レジスター 11 は最後に読み取られたログ・ブロックを指します。レジスター 8 は、WADS 処理サブルーチン (WADSPROC) を指します。レジスター 15 には、DFSFDLW0 によって発行される後続の異常終了コードが入っています。

以下のエラーのいずれかが、WADS 選択時に発行される可能性があります。

コード 意味

X'01'

OPEN 障害

X'02'

装置タイプ・エラーまたは DEVTYP マクロ障害

X'03'

CLOSE 障害

X'04'

WADS 読み取りエラー

X'05'

WADS で検出されるファイルの終わり

X'06'

使用可能な WADS なし

X'07'

TRKCALC マクロ障害

以下のエラーのいずれかが、ブロックの再作成時に発行される可能性があります。

コード 意味

X'08'

OPEN 障害

X'09'

次のブロックが使用不可になりましたが、後続のブロックが使用可能です

X'0A'

X'FF' セグメント・カウントが検出されました

X'0B'

OLDS 接尾部におけるタイム・スタンプのシーケンス・エラー

X'0C'

無効なブロック・サイズ (BDW)

X'0D'

無効な RDW (レコード長が 5 未満、または長さが長すぎます)

X'0E'

X'FFNN' の RDW が検出されました

X'0F'

ログ・レコード・シーケンス内のエラー

X'10'

読み取りエラー

X'11'

WADS で検出されるファイルの終わり

X'12'

無効なセグメント・カウント

X'13'

浮動セグメントが検出されました

X'14'

論理エラー

以下のラベルは、モジュール DFSFDLW0 によって発行されます。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'01' RLWABC=X'01' DCBOFLGS →= X'10' PDCB - 1 次 WADS DCB	OPEN	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する OPEN (SVC19) を発行します。OPEN が正常に完了したかどうかを判別するために DCB がテストされます。OPEN が失敗する場合、戻りコード X'12' および理由コード X'01' を戻します。
Reg15=X'02' RLWABC=X'02' DAREA1,D AREA2 - 装置タイプ保管域	LTA12 40	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する DEVTYPE マクロを発行します。DEVTYPE マクロからゼロ以外のコードが戻されたときに、そのコードが以前に処理された WADS 装置タイプと同じではなかった場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'02' を戻します。
DAREA1 - 装置タイプ保管域	LTA12 50	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する DEVTYPE マクロを発行します。DEVTYPE マクロから、レジスター 15 内のゼロ以外のコードが戻された場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'02' を戻します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'03' RLWABC=X'03' DCBOFLGS=X'10' PDCB - 1 次 WADS DCB	CLOSE	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する CLOSE (SVC 20) を発行します。CLOSE が正常に完了したかどうかを判別するために DCB がテストされます。CLOSE が失敗する場合、戻りコード X'12' および理由コード X'03' を戻します。
Reg15=X'04' RLWABC=X'04' DECBA - DECBA アドレス	LTG21 0	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する BSAM READ を発行します。READ が正常に完了したかどうかを判別するために DECBA がテストされます。READ が失敗する場合 (二重 WADS モードの場合は 2 番目のエラー)、戻りコード 12 および理由コード X'04' を戻します。
Reg15=X'05' RLWABC=X'05' IOEI=X'40'	LTG20 R	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する BSAM READ を発行します。データの終わり条件が検出された場合、戻りコード X'12' および理由コード X'05' を戻します。
Reg15=X'06' RLWABC=X'06' WADSAM - WADS 可用性マトリックス保管域	LTA12 0E	最後の IMS 障害時の WADS が使用不可であった場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'06' を戻します。
Reg15=X'07' RLWABC=X'07'	SEGME NTC	DFSFDLW0 は、最後に使用された WADS の検出を試行中に 1 次 DCB に対する TRKCALC マクロを発行します。マクロがレジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'07' を戻します。
Reg15=X'08' RLWABC=X'08' DCBOFLGS=X'10' PDCB - 1	LTA21 00	DFSFDLW0 は、OLDS ブロックの再作成中に 1 次 DCB に対する OPEN (SVC19) を発行します。OPEN が正常に完了したかどうかを判別するために DCB がテストされます。OPEN が失敗する場合、戻りコード X'12' および理由コード X'08' を

キー	ラベル	説明
次 WADS DCB		戻します。
SDCB - 2 次 WADS DCB	LTA21 10	DFSFDLW0 は、OLDS ブロックの再作成中に 2 次 DCB に対する OPEN (SVC19) を発行しません。OPEN が正常に完了したかどうかを判別するために DCB がテストされます。OPEN が失敗した場合、戻りコード X'12' および理由コード X'08' を戻します。
Reg15=X'09' RLWABC=X'09' BLKTABA - ブロック・ テーブル・ アドレス	LTA26 0E	DFSFDLW0 が、OLDS 内の最後のブロックに隣接する、WADS 内の OLDS ブロックを検出できないにもかかわらず、WADS 内で上位のシーケンス・ブロックを検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'09' を戻します。
	LTA26 40	DFSFDLW0 が、OLDS 内で最後のブロックに隣接する、WADS 内の OLDS ブロックを検出し、WADS 内の後続のブロックで不連続シーケンス・ブロックが検出された場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12'、理由コード X'09' を戻します。
Reg15=X'0A' RLWABC=X'0A' WADSBA - WADS バッファ・ アドレス	LTA32 0R	DFSFDLW0 が WADS バッファ内でセグメント ID X'FF' を検出した場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'0A' を戻します。
Reg15=X'0B' RLWABC=X'0B' SEG TABA - セグメント・ テーブル・ アドレス	LTA33 0R	DFSFDLW0 が OLDS ブロックの完全なセグメント・セットを検出できなかったときに、そのブロックが WADS 内で最後のブロックではなかった場合、DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'0B' を戻します。
	LTA33 10	DFSFDLW0 がセグメント 0 を検出できなかったにもかかわらず、後続のセグメントを検出した場合、戻りコード X'12' および理由コード X'0B' を戻します。

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0 C' RLWABC= X'0C' RLWPBA - OLDS バッ ファー・ア ドレス	TRUNC INCOM SEG	DFSFDLW0 が、再作成された OLDS ブロック内で無効な BDW を検出した場合、DFSFDLW0 は 戻りコード X'12' および理由コ ード X'0C' を戻します。
Reg15=X'0 D' RLWABC= X'0D' RLWPBA - OLDS バッ ファー・ア ドレス	LTA34 10 LTA35 40	DFSFDLW0 が、再作成された OLDS ブロック内で無効な RDW を検出した場合、戻りコード X'12' および理由コード X'0D' を 戻します。
Reg15=X'0 E' RLWABC= X'0E' RLWPBA - OLDS バッ ファー・ア ドレス	LTA35 OR	DFSFDLW0 が、再作成された OLDS ブロックの RDW で X'FFnn' を検出し、そのブロック が WADS 内の最後のブロックで はなかった場合、DFSFDLW0 は 戻りコード X'12' および理由コ ード X'0E' を 戻します。
Reg15=X'0 F' RLWABC= X'0F' RLWPBA - OLDS バッ ファー・ア ドレス	LTA35 50	DFSFDLW0 が、再作成された OLDS ブロック内で無効な ロ グ・シーケンスを検出した場合、 戻りコード X'12' および理由コ ード X'0F' を戻します。
Reg15=X'1 0' RLWABC= X'10' DECBA - DECBA アド レス	LTJ220 LTJ230	DFSFDLW0 は、OLDS ブロック の再作成中に WADS DCB に対 する BSAM READ を発行しま す。READ が正常に完了したか どうかを判別するために DECBA がテストされます。READ が失 敗した場合、DFSFDLW0 は戻り コード X'12' および理由コード X'10' を 戻します。
Reg15=X'1 1' RLWABC= X'11' DECBA - DECBA アド レス	LTJ20R	DFSFDLW0 は、OLDS ブロック の再作成中に WADS DCB に対 する BSAM READ を発行しま す。データの終わり条件が検出 された場合、DFSFDLW0 は戻り コード X'12' および理由コード X'11' を 戻します。
Reg15=X'1 2'	LTN21 OR	DFSFDLW0 が無効なセグメント ID (セグメント ID が、ブロック

キー	ラベル	説明
RLWABC= X'12' WADSBA - WADS バ ッファー・ アドレス	LTN32 OR	あたりのセグメント数 - 1 より 大きい) を検出した場合、 DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由コード X'12' を戻し ます。
Reg15=X'1 3' RLWABC= X'13' WADSBA - WADS バ ッファー・ アドレス	LTN23 OR LTN33 20	DFSFDLW0 がトラックに不連続 で書き込まれたセグメントを 検 出した場合、DFSFDLW0 は戻り コード X'12' および理由コード X'13' を戻します。
Reg15=X'1 4' RLWABC= X'14' RLWPBSN - OLDS ブ ロック・シ ーケンス番 号	READT G	DFSFDLW0 が入力パラメーター で無効なブロック・シーケンス 番号を検出した場合、 DFSFDLW0 は戻りコード X'12' および理由 コード X'14' を戻します。
EXITSAVE - REG 保管 域	EXIT	DFSFDLW0 が内部論理エラーを 検出した場合、DFSFDLW0 は戻 りコード X'12' および理由コ ード X'14' を戻します。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティは異常終了しま
す。

問題判別

1、2、3、5、8、11、17a、17g、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSULG20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

3271

説明

ログ・リカバリー・ユーティリティが、OLDS を正し
くクローズ (終了) できませんでした。入力 OLDS でフ

ファイルの終わりが検出されましたが、クローズ・ポイントがまだ検出されていませんでした。詳しくは、メッセージ DFS3271I の説明を参照してください。

分析

これは、DFSULG10 によって発行できる標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 12 は、DFSULG10 の基底レジスターです。

前の OLDS が指定されました

キー	ラベル	説明
Reg15= X'32'	EODADU MP	前の OLDS に書き込まれた最後のブロックを読み取ろうとしているときに、データの終わり条件が検出されました。前の OLDS に書き込まれた最後のブロック・シーケンス番号が、DBRC から取得され、フィールド POLDMBSN に保管されます。

次の OLDS が指定されました

キー	ラベル	説明
Reg11-最 後の読み 取りブロ ックのア ドレス	DUPE0 350	DFSULG20 が入力 OLDS 内のログ・ブロックを読み取ったときに、DFSULG20 はデータの終わり条件を検出しましたが、クローズ・ポイントを検出しませんでした。クローズ・ポイントは、ブロック・シーケンス番号が次の OLDS 内の最初のブロック・シーケンス番号より 1 小さいログ・ブロックです。ラベル CBSEQ には、次の OLDS 内の最初のブロック・シーケンス番号が含まれません。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、3、5、8、11、17a、17g、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSULG10

関連情報

[DFS3271I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3272

説明

ログ・リカバリー・ユーティリティで内部処理エラーが発生しました。DFSULG30 は空の PSTTBL 項目を検出しました。この異常終了に伴って、メッセージ DFS3272E が出力されます。

分析

これは、DFSULG30 から発行される標準異常終了です。内部処理エラーのために発行されます。対応する PSTTBL 項目が空です。DFS3272E メッセージが発行され、ダンプ付きで異常終了が生じます。

キー	ラベル	説明
Reg5=A(PSTTBL を指すポインタ ー)	PSTP OINT	空の PSTTBL 項目が検出されました。
Reg6=A(PSTTBL)		
Reg4=PST#		

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティが処理を終了します。

プログラマーの応答

IBM サポートに連絡して、支援を要求してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSULG30

関連情報

[DFS3272E](#)

3274

説明

ログ保存ユーティリティまたはログ・リカバリー・ユーティリティが、DBRC 出口からエラー戻りコードを受け取りました。このエラーが発生したときに、メッ

セージ DFS3274I が発行され、障害のあった DBRC 出口のタイプおよび DBRC 戻りコードが示されます。呼び出された DBRC 出口のタイプは、次のいずれかの値で示されます。

ARCHIVE INIT
ARCHIVE COMPLETE
RECOVERY INIT
RECOVERY OPEN
RECOVERY EOVS
RECOVERY CLOSE

受け取った DBRC 戻りコードの説明は、DBRC 要求戻りコード情報を参照してください。

DBRC 出口によって、追加のエラー・メッセージが SYSPRINT に出力されることもあります。

分析

これは、ログ保存ユーティリティ DFSUARCO またはログ・リカバリー・ユーティリティ DFSULG10 および DFSULG20 によって発行される可能性がある標準異常終了です。この異常終了が発行された場合、異常終了への入り口のプログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) の発行元である命令を指しています。

この異常終了を発行する前に、両方のユーティリティがエラー・メッセージ DFS3274I を発行します。このメッセージは出口ルーチン名と戻りコードを示します。異常終了 SVRB レジスター内のレジスター 12 は、発行されたモジュールの基底レジスターであり、レジスター 15 には DBRC からの戻りコードが入っています。

ARCHIVE INIT 出口ルーチン (入力は OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg15=X'44'	DINIO10 (DFSUARCO)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	DINIO10 (DFSUARCO)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

ARCHIVE INIT 出口ルーチン (入力はバッチ SLDS)

キー	ラベル	説明
Reg15=X'44'	IOPEN (DFSUARCO)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	IOPEN (DFSUARCO)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

ARCHIVE ARCOMPL 出口ルーチン

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0C'	ARCP10 (DFSUARCO)	無効なボリューム停止時刻を指定しました。
Reg15=X'44'	ARCP10 (DFSUARCO)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	ARCP10 (DFSUARCO)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

ARCHIVE EOJ 出口ルーチン

キー	ラベル	説明
Reg15=X'44'	ENDJ10 (DFSUARCO)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	ENDJ10 (DFSUARCO)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

LOG RECOVERY INIT 出口ルーチン (入力ログは OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg15=X'0C'	DINIO10 (DFSULG10)	DSPINIT マクロ障害または DSPRCLOS マクロ障害が発生しました。
Reg15=X'44'	DINIO10 (DFSULG10)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	DINIO10 (DFSULG10)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

LOG RECOVERY OPEN 出口ルーチン (入力ログは OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg4=A(DBRCRMI1) Reg15=X'04'	DPRI02 0 (DFSULG10)	1 次入力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'04'	DSEC02 0 (DFSULG10)	2 次入力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。

キー	ラベル	説明
Reg4=A(DBRCRMI1) Reg15=X'44'	DPRI02 0 (DFSULG 10)	1次入力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'44'	DSEC02 0 (DFSULG 10)	2次入力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMO1) Reg15=X'44'	OPOL02 0 (DFSULG 10)	1次出力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMO2) Reg15=X'44'	OPOL02 0 (DFSULG 10)	2次出力ログ OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMN1) Reg15=X'44'	NOLD03 0 (DFSULG 10)	次の 1 次 OLDS OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMN2) Reg15=X'44'	NOLD03 0 (DFSULG 10)	次の 2 次 OLDS OPEN 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMI1) Reg15=X'48'	DPRI02 0 (DFSULG 10)	1次入力ログ OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'48'	DSEC02 0 (DFSULG 10)	2次入力ログ OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMO1) Reg15=X'48'	OPOL02 0 (DFSULG 10)	1次出力ログ OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMO2) Reg15=X'48'	OPOL02 0 (DFSULG 10)	2次出力ログ OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMN1) Reg15=X'48'	NOLD03 0 (DFSULG 10)	次の 1 次 OLDS OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。

キー	ラベル	説明
Reg4=A(DBRCRMN2) Reg15=X'48'	NOLD03 0 (DFSULG 10)	次の 2 次 OLDS OPEN 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。

LOG RECOVERY CLOSE 出口ルーチン (入力ログは OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg4=A(DBRCRMI1) Reg15=X'44'	ENDO01 0 (DFSULG 10)	1次入力ログ CLOSE 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'44'	ENDO01 0 (DFSULG 10)	2次入力ログ CLOSE 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMO1) Reg15=X'44'	ENDO01 0 (DFSULG 10)	1次出力ログ CLOSE 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMO2) Reg15=X'44'	ENDO01 0 (DFSULG 10)	2次出力ログ CLOSE 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。レジスター 3 は DCB のアドレスを示しています。
Reg4=A(DBRCRMI1) Reg15=X'48'	ENDO01 0 (DFSULG 10)	1次入力ログ CLOSE 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMI2) Reg15=X'48'	ENDO01 0 (DFSULG 10)	2次入力ログ CLOSE 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMO1) Reg15=X'48'	ENDO01 0 (DFSULG 10)	1次出力ログ CLOSE 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg4=A(DBRCRMO2) Reg15=X'48'	ENDO01 0 (DFSULG 10)	2次出力ログ CLOSE 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。

LOG RECOVERY EOJ 出口ルーチン (入力ログは OLDS)

キー	ラベル	説明
Reg8=A(DBRC 0300) Reg15=X'44'	ENDO010 (DFSULG10)	通常の EOJ 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg8=A(DBRC 0400) Reg15=X'44'	EXIT (DFSULG10)	異常終了 EOJ 出口ルーチンで内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg8=A(DBRC 0300) Reg15=X'48'	ENDO010 (DFSULG10)	通常の EOJ 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。
Reg8=A(DBRC 0400) Reg15=X'48'	EXIT (DFSULG10)	異常終了 EOJ 出口ルーチンで必須パラメーターが指定されませんでした。

入力 LOG は SLDS

キー	ラベル	説明
Reg15=X'44'	DINI010 (DFSULG10)	内部 DBRC 障害が検出されました。
Reg15=X'48'	DINI010 (DFSULG10)	必須パラメーターが出口ルーチン呼び出しで指定されませんでした。

システムの処置

ユーティリティは異常終了します。

問題判別

1、2、3、8、11、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSUARCO、DFSULG10、DFSULG20

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[DFS3274I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3275

説明

IMS または DBRC のいずれかで論理エラーが発生しました。2つの事例を除いて、いずれの場合も、メッセージ DFS030I が異常終了に伴って出力され、障害を説明する理由コードが含まれています。残りの2つの事例

の場合、メッセージ DFS030I は発行されないが、レジスター 15 の下位 2 バイトには、文字フォーマットで理由コードが入っています。理由コードは以下のとおりです。

コード

意味

X'03'

データベース許可処理中に DBRC から戻りコード 12 を受信しました。サブシステムが DBRC にサインオンしていなかったことを示す戻りコード X'0C' が、戻った時点で受信されました。サブシステムの初期設定または DBRC にエラーがない限り、この状態が生じるはずはありません。異常終了が発行された時点でメッセージ DFS030I も発行され、理由コード 3 が含まれています。(DBFDBAU0、DFSDBAU0)

X'04'

データベース許可呼び出しが DBRC に対してなされました。エンコード状態の SHARELVL によって開始された正しいエリア・ロック・スコープが、DBRC および内部ロック・スコープ・テーブル (DBFDBAU0 にある) から戻されました。DBRC または DBFDBAU0 にエラーがない限り、この条件が生じるはずはありませんでした。(DBFDBAU0)

X'05'

サインオフ呼び出しが DBRC に対してなされましたが、IMS が終了しようとしている最中でした。戻りコードで、サブシステム・エントリーが検出されなかったこと、内部エラーが無許可プロセス中に検出されたこと、サブシステム・エントリーは検出されたが、異常終了したこと、またはリカバリー処理が開始されていたことのいずれかが示されました。メッセージ DFS030I を参照してください。(DFSPCCCO)

X'0A'

DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、処理中のデータベースが DBRC に未登録であることを示していました。データベースに対する許可が以前に DBRC から取得されていない限り、DBRC がオープン処理中に呼び出されることはないため、この状態が生じるはずはありません。無許可であることが原因ではありません。DBRC へのオープン呼び出しと DL/I オープン処理の両方が、データベースへのアクセスが許可された後でのみ発行されるからです。サブシステム・レコードが DBRC に存在しなかった場合、サブシステムが削除されるときに、SSID 情報が DBRC 内のデータベース・レコードから除去されたかどうかを確認してください。(DFSDDUI0、DBFMLPO0)

X'0B'

データベース・オープン呼び出しの処理時に DBRC によって設定された戻りコードは、サブシステムが DBRC に未登録であることを示していました。DBRC が DL/I オープン処理中に呼び出されるのは、

サブシステムが以前に、DBRCに登録されている必要があった時点で、データベースに対する許可を取得していた場合のみであるため、この状態が生じるはずはありません。(DFSDDUI0、DBFMLOP0)

X'0C'

DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、サブシステムにはデータベースに対する許可がないことを示していました。(DFSDDUI0、DBFMLOP0)

X'0D'

DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、内部 DBRC エラーが検出されたことを示す場合があります。ゼロの戻りコードは、RECON Initialization Time (RIT) がゼロであることを示す場合があります。(DBFMLOP0)

X'0F'

HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、指定されたイメージ・コピー・レコードが検出されなかったことを示していました。HSSP イメージ・コピー開始呼び出しの結果、そのイメージ・コピー・レコードが作成されるため、エラーが生じました。(DBFPIC0)

X'10'

HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、データベースまたはエリアが RECON データ・セットに未登録であることを示していました。HSSP イメージ・コピーは登録されたデータベースまたはエリアに対してのみ処理できるので、内部エラーが発生しました。(DBFPIC0)

DFSDBDR0 から 3275 が発行される場合、IMS (DDIR) の DMB ディレクトリーと DBRC 間で矛盾があります。DBRC に対して許可されていない DB に対して UNAUTHL 呼び出しが行われました。これが生じる可能性があるのは、RECON の直前の更新で、引き続きアクティブであったサブシステムの ABNORMAL 終了を示していた場合です。システム処置は、サブシステムを終了させることです。

X'11'

DEDB エリアの ADSC 制御ブロックが、DBRC によって戻される ADS リスト内に対応する項目を持っていません。

X'14'

DBRC が、次のいずれかの状態について不整合を検出しました。

RECON 内: データベースまたはサブシステム・レコードのどちらかが、サブシステムがデータベースに対して許可されていないことを示しています。許可される場合は、データベースおよびサブシステ

ム・レコードの両方が、この状態を示している必要があります。

RECON と IMS 間: IMS は、データベースが許可されていることを示していますが、RECON は、許可されていないことを示しています。IMS コマンド以外の外部コマンドが RECON を変更するために使用されると、この状態が発生することがあります。

X'20'

HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、このイメージ・コピー処理については、HSSP イメージ・コピー終了呼び出しがすでに行われていたことを示していました。この戻りコードが受信されたときに、システムが現在、緊急時再始動中ではない場合、この異常終了が発行されます。(DBFPIC0)

X'30'

HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、内部 DBRC エラーが発生したことを示していました。(DBFPIC0)

X'40'

HSSP イメージ・コピー終了呼び出しが、イメージ・コピー終了中に DBRC に対して行われました。DBRC によって設定された戻りコードは、無効なパラメーターが検出されたことを示していました。(DBFPIC0)

X'FF'

無効または予期しない戻りコードが、DBRC (DBFMLOP0) から受信されました。

論理エラーは、**DELETE.SUBSYS** または **CHANGE.SUBSYS** コマンドの無効な使用によって引き起こされることがあります。これが発生した場合、レジスター 15 には、メッセージ DFS030I に関連する理由コードのいずれかが入ります。

分析

DFSPCCCO の場合:

DBRC 戻りコード > 4 に対するサインオフ。

キー	ラベル	説明
Reg15=3	AL340	データベース許可要求後、予期しない戻りコードが DBRC から受信されました。Reg9 には戻りコードが入っていました。詳しい説明については、DBRC 要求戻りコード情報で許可呼び出しの戻りコードに関するセクションを参照してください。Reg15=3 は、異常終了が DFSDBAU0 によって発行されたことを示します。

キー	ラベル	説明
Reg15=6 、7、8 または9	UNAU ERR	DBRC への UNAUTH 呼び出しで戻りコード 0 が戻された後、モジュール DFSDLOC0 によって異常終了が発行されました。レジスター 2 には PST アドレスが入り、レジスター 8 には、UNAUTH 要求が発行された DMB の DDIR アドレスがあります。
Reg15=A 、B、C またはD	VERA BEND	DFSDDUIO

DBFARD30、DBFARD40、DBFSTAP0、DBFHDEP0、DBFMLCLO の場合:

DBRC が UNAUTH 要求に対してゼロ以外の戻りコードを戻す場合、DFS0019I および DSP0230I が書き込まれます。戻りコードが X'10' より大きい場合、異常終了 3275 が発行されます。詳しい説明については、DBRC 要求戻りコード情報で許可呼び出しの戻りコードに関するセクションを参照してください。

考えられる原因: IMS と DBRC 間の通信で故障が発生しました。RECON データ・セットで状況情報が失われた可能性があります。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

プログラマーの応答

これは、IMS 内部システム・エラーです。IBM サポートに連絡して、問題の判別の支援を受けます。

問題判別

1、4、10、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFDBAU0、DFSDBAU0、DFSDBDR0、DFSDLOC0、DFSPCCC0、DFSDDUI0、DBFMLCLO、DBFMLPO0、DBFPIC0

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[DFS030I](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3276

説明

入出力処理を実行中に、未完了入出力カウント (DMACWTCT) が無効であることを高速機能が検出しました。未完了入出力カウントが、減らす前にすでにゼロまたは負の値です。

分析

これは、以下によって発行される標準異常終了です。

- DBFFORIO: 高速機能出力スレッド・ルーター
- DBFVXOW0: VSO XES 出力プロセッサ
- DBFXCNX0: XES コンプリート出口ルーチン
- DBFVXOE0: 共用 VSO 入出力エラー・ルーチン

プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のモジュール内の命令を指します。このエラーは、IMS 内部論理エラーを示します。

システムの処置

IMS は異常終了を発行し、ダンプを作成して、異常終了します。

オペレーターの応答

IMS を緊急時再始動して、処理を再開します。

問題判別

1、2、3、4、6、35

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFFORIO、DBFVXOE0、DBFVXOW0、DBFXCNX0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3287

説明

アプリケーション・プログラムが参照するデータベースのいずれかがグローバル・コマンドによって停止されたか、または入出力エラーがあったために、アプリケーション・プログラムが DL/I 呼び出しアナライザーによって終了させられました。

分析

IMS NOTIFY 出口ルーチンによって、PSTCSFLG バイトが 16 進値「D7」に設定されました。この値は、不良なデータベースまたは停止されたデータベースへのアクセス権を持つアプリケーション・プログラムを獲得するために設定されました。

考えられる原因: マスター端末オペレーターが共用データベースを停止するためにグローバル・コマンドを入力したか、またはデータベースに入出力エラーがありました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

マスター端末オペレーターまたはシステム・プログラマーに連絡してデータベースをリカバリーしてから、ジョブを再実行します。

問題判別

1、4、11

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSDLA00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3289

説明

コマンド・ロック要求が失敗しました。データベース・バックアウト障害を他のサブシステムに通知する試みが行われました。バックアウト障害のあるデータベース名をリストするメッセージが、他のすべての共用サブシステムに送られます。このメッセージを送る前に、サブシステム間でコマンドを逐次化するために、コマンド・ロックが獲得されます。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

IRLM LOCK 要求および他の IRLM 共用サブシステム障害を調べます。IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードを参照して、障害の原因を判別してください。

問題判別:

1、4、10、35

ソース:
IMS 異常終了
関連タスク

[戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3290

説明

同期点処理処理時に、アプリケーション・プログラムが保持するすべてのロックを解放するために、ロック要求ハンドラーが呼び出されました。これらのロックを解放する要求が失敗しました。IRLM に対するアンロック要求が内部 IRLM 問題のために失敗したとき、または IRLM でストレージ不足状態が発生したときに、どのアプリケーションでもこの異常終了が発生することがあります。

分析

これは、DFSFXC50 から発行される標準異常終了です。IRLM パラメーターのアドレスは、PSTIRLMA 内にあります。レジスター 15 に UNLOCK 要求の戻りコード、レジスター 14 に理由コードが入ります。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

UNLOCK 要求の戻りコードによって判別された問題を修正します。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード情報を参照してください。

問題判別:

1、4、10、35

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSFXC50

関連タスク

[戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3300

説明

IRLM に対するロック要求が内部 IRLM 問題のために失敗したとき、または IRLM でストレージ不足状態が発生したときに、どのアプリケーションでもこの異常終了が発生することがあります。バッチ・アプリケーション (DLI または DBB 領域タイプ) で IRLM が異常終了したときにも、この異常終了が発行されます。

IRLM は、次のいずれかの理由でロックを付与できませんでした。

1. IRLM が失敗したか、使用不可であった。
2. IRLM によるロック要求の完了を妨げるシステム・エラーが発生した。
3. GETMAIN 要求での IRLM でストレージ不足状態が発生した。

分析

3300 は、DFSLRH00、DBFLRH00、または DBFNOTM0 から発行される疑似異常終了です。正常に完了しなかったロック要求のロック・トレース項目には、IRLM から渡された戻りコードとフィードバック情報があります。

トレースでは、以下の戻りコードおよびフィードバック・コードが検出されることがあります。

LOCK 要求

次の表では、戻りコード X'08' に対する理由コードがリストされている。

理由コード	説明
X'80'	システム・エラー
X'01'	ストレージ不足

RC=20 は、IRLM が利用不可であったことを示しています。

考えられる原因: 戻りコードとフィードバックを調べて、原因を判別してください。ストレージ不足状態は、IRLM 領域サイズを超えたことを示していることがあります。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

IRLM が異常終了した場合、データベース・バックアウトを実行し、IRLM の再初期設定の後にジョブを再始動します。

この異常終了が IRLM 以外の異常終了によって引き起こされた場合は、IMS ロック・トレース・テーブルには、ロック要求に関する IRLM からの戻りコードおよび理由コードが入れられます。IRLM LOCK 要求情報を参照して、失敗の原因を判別してください。

問題判別:

1、17、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSLRH00、DBFLRH00、DBFNOTM0

関連タスク

[IRLM ロック要求](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 27 章 IMS 異常終了コード 3301 - 4100

このトピックでは、IMS により発行される以下の異常終了コードを識別し、説明します。各コードは、4 桁の 10 進数です。

3301

説明

アプリケーション・プログラムのために獲得されたロックの数が、インストールまたはアプリケーション・プログラマーによって指定された最大値を超えた場合、この疑似異常終了が発行されます。アプリケーション・プログラムがコミット前に累積できるロック最大数は、PSBGEN LOCKMAX= パラメーター、あるいは、DL/I バッチ、DBB バッチ、または従属領域の JCL の LOCKMAX= オーバーライド・パラメーターによって指定されます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは、ユーザー異常終了 3301 で異常終了します。

プログラマーの応答

PSBGEN LOCKMAX= 指定は、バッチ領域または従属領域の JCL で LOCKMAX= パラメーターを使用することによって、実行時にオーバーライドすることができます。オーバーライド・パラメーターの LOCKMAX=0 により、すべてのロック制限がオフにされます。PSBGEN およびオーバーライドの場合の LOCKMAX 値は 1000 単位です。LOCKMAX 値を 10 増やすたびに、アプリケーションはさらに 10,000 のロックを獲得できます。

各アプリケーション・プログラムは、獲得できるロック数の最大数について独自の制限を持つことができます。すなわち、各アプリケーションで個別に、ロックに使用される仮想記憶域リソースを特定量に制限することができます。

制限されない誤ったアプリケーション・プログラムがあると、ロック・ストレージがすべて消費され、同じロック・サービスを使用する他のアプリケーション・プログラムに対して著しい混乱を引き起こします。

ソース:
IMS 異常終了

3302

説明

LOCK 要求処理プログラムが、IRLM から、または IRLM が使用されていない場合はプログラム分離 (PI) ロック・マネージャーから予期しない戻りコードを受け取り

ました。LOCK、UNLOCK、または NOTIFY 要求時に、無効な状態が IRLM によって検出されました。これは、IMS 内部エラーを示します。

分析

これは、DFSLRH00、DBFLRH00、および DBFNOTM0 から発行される疑似異常終了です。

DFSLRH00 のロック・トレース項目には、ロック・マネージャーからの戻りコードとフィードバック情報があります。ロック・トレースがオン (LOCK=ON) になっている場合は、DFSERA10 を使用して X'67FF' ログ・レコードを抽出する必要があります。これらのレコードから、PST + X'344' にある理由コードと PST + X'347' にある戻りコードを見つけます。

これらのコードのマップについては、DFSLR MACRO (DL/I LOCK REQUEST) を参照してください。

トレースでは、以下の戻りコードおよびフィードバック・コードが検出されることがあります。

LOCK 要求

RC=X'08'

コード
意味

X'40'

LOCK 要求が MODE=COND を指定しました。要求は、要求された状態になるために待機する必要があります。

X'10'

互換性のないロックを待機しない無条件要求。

RC=X'0C'

コード
意味

X'80'

指定された親トークンは、作業単位によって所有されていませんでした。

RC=X'10'

コード
意味

X'40'

無効なクラス

X'20'

無効な状態

X'10'

無効な親トークン

X'08'

無効なスコープ

X'04'

無効なトークン

X'02'

無効なりソース名の長さ

UNLOCK 要求

RC=X'0C'

コード

意味

X'40'

ロックは作業単位によって保持されていません

X'20'

指定されたリソース名に対するロックは存在しません

X'08'

ロックは指定された状態で保持されていません

X'04'

ロックは指定されたクラスで保持されていません

RC=X'10'

コード

意味

X'40'

無効なクラス

X'20'

無効な状態

X'04'

無効なトークン

X'02'

無効なりソース名の長さ

考えられる原因: 内部論理エラーが発生しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

1、17、30、34

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSRLH00、DBFLRH00、DBFNOTM0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3303

説明

次のいずれかの状態が発生しました。

1. IRLM に対するロック要求が、障害のある IMS サブシステムの保持ロックとの競合のために失敗しました。この異常終了と共に、メッセージ DFS3304I が出されます。
2. IRLM は IRLM FAILED または COMM FAILED 状態に入るか、異常終了しました。
一部または全部のデータベースをバッチ・モードで許可または検証できない場合に、IRLM が失敗している可能性もあります。
3. IRLM が異常終了したときに、IMS システムがすべてのアプリケーションを終了させました。
4. アクセスも更新もできないデータベースまたは HALDB 区画をアプリケーションが使用しようとしてしました。さらに、アプリケーションでは U3303 異常終了ではなく、DB PCB 内のデータベース状況情報を受信する必要があったことを示す INIT STATUS GROUPA 呼び出しが発行されませんでした。この状態と共に、メッセージ DFS3303I が発行されます。
5. メッセージ DFS2524I に指定された制御インターバル (CI) に入出力許容拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) が存在するため、「任意読み取り」要求がリジェクトされました。この状態の場合、異常終了 3303 とともに、メッセージ DFS2524I が発行されます。
6. 高速機能 IFP 領域内のアクティブ PSB によって参照される全機能データベースに対して、/START、/STOP、または /DBRECOVERY データベース・コマンドが発行されました。領域は異常終了したので、変更 (削除または追加) されたデータベースへのアクセス権でスケジュール変更します。
7. IMS に接続されていた DB2 サブシステムがシャットダウン中であり、DB2 リソースへのアクセス権限を持つロード・バランシング・グループ制御ロック (BALG) 内で IFP が待機中です。IMS はこの状態を、/DBR コマンドが発行された場合と同じ方法で処理します。
8. アプリケーションは、CCTL-IMS 接続に確立されたリカバリー可能未確定構造 (RIS) の一部であるデータへのアクセスを試みました。メッセージ

DFS0693Iにより、PSB およびリカバリー・トークンが表示されます。

9. 以下の状況で、ROLS 呼び出しが発行されました。

- データ使用不能状況コードのいずれかを受け取った DB PCB に対して
- 呼び出しに入出力域もトークンもない入出力 PCB に対して
- 不適切な入力データを受け取ったアプリケーション・プログラムによって

10. データ共用環境のカップリング・ファシリティーに対する「読み取りおよび登録」操作中に、カップリング・ファシリティーの接続障害または構造障害が発生しました。

11. 構造の再作成が行われたときに、データ共用 DL/I バッチ・ジョブが実行中でした。その後、バッチ・ジョブは終了します。

12. アプリケーションが特定のバージョンの全機能データベースまたは高機能データベースにアクセスしようとしたにもかかわらず、IMS システムが要求されたバージョンを取得できなかったか、データベースのバージョン管理が IMS システムで使用可能になっていなかったかのいずれかです。

分析

これは、IRLM 障害または使用不可能なデータのどちらかの問題です。IRLM、データベース、またはデータベースのデータ・ブロックが使用不可能な理由を判別してください。

原因として、次のものが考えられます。

- IRLM 障害
- データ共用パートナー IMS の障害
- 全機能データベースがオフラインである
- アプリケーションが、可用性状況コード (INIT STATUS GROUP A) を要求しなかった
- 未確定データ (CCTL または RRS 問題の結果として)

DBFSYN10 の場合:

高速機能リソースのコミット中に IRLM に障害が起きました。

考えられる原因: IRLM に障害が起きました。

DBFMBEDO の場合:

共用 VSO DEDB 域に対する読み取りが失敗しましたが、CI 内のデータは既に変更されており、この CI に対する EEQE が存在します。

考えられる原因: DEDB 域に対する読み取りエラーが発生しました。

DBFLRH00 の場合:

1. ロック要求中に DBCTL スレッドが終了しました。

2. 要求されているロックに、障害のあるサブシステムの保持ロックが存在します。

3. ロック要求がリジェクトされました。

4. ロックが戻りコード 20 でリジェクトされました。

このリストの 3 と 4 の障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードに関する情報内の LOCK 要求の説明を参照してください。障害 3 の場合、異常終了とともに DFS3304 メッセージが発行されます。

考えられる原因: 以下のいずれかの可能性があります。

- DBCTL が予期せず終了しました。
- 要求されているロックに保持ロックが存在します。
- IRLM がロック要求をリジェクトしました。
- IRLM が異常終了しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。処理中のメッセージは SUSPEND QUEUE に入れられますが、SERIAL=YES オプションが TRANSACT マクロで指定されていた場合、または RRS/MVS で保護会話に関係していた場合を除きます。SERIAL=YES の場合、メッセージはこのトランザクションで処理される次のメッセージとしてキューに書き戻され、トランザクションは停止されます。保護会話の場合、IMS は入力メッセージを破棄しますが、トランザクションを停止しません。

使用不可能なデータ条件 (DFS3303I が発行された) によって、異常終了が 10 回発生した場合、IMS は以下のいずれかのアクションを実行します。

- DB/DC 環境の場合、IMS は USTOPPED 条件でトランザクションを停止します。
- DBCTL 環境の場合、IMS は PSB を停止し、アプリケーション・プログラムのスケジューリングをこれ以上できないようにします。

重要: IFP 領域の場合、DB PCB に対する DL/I 呼び出しの前に、入出力 PCB への GU 呼び出しを発行する必要があります。入出力 PCB への GU 呼び出しの前に、DB PCB に対する DL/I 呼び出しが発行されると、IFP のスケジュール変更中に IFP 領域がループする可能性があります。アプリケーションは、データベースの状況を検査するか、INIT STATUS GROUP A 呼び出しを発行する必要があります。呼び出しから誤った状況コードを受け取った場合は、プログラムを終了する必要があります。アプリケーションは、状況コードを検査して終了しない場合、引き続き BALG からトランザクションを受け取ります。各トランザクションが後続のメッセージで U3303 疑似異常終了をトリガーし、その結果、IFP 領域に障害またはスケジュール変更ループが生じます。

オペレーターへの応答

以下のリストを使用して、異常終了の原因となった各条件に該当する処置を判別します。リストの番号は、「説明」セクションの番号と対応しています。

条件 処置

- 1 障害の起きたサブシステムでデータベース・バックアウトまたは緊急時再始動を実行してください。データベース・バックアウトまたは緊急時再始動を行うことにより、サスペンド・キューにあるトランザクションを解放するように、自動的にこの IMS に通知されます。異常終了 3303 の前に出力されるメッセージ DFS3304I により、障害のあった IMS が示されます。
- 2 IRLM の再始動と IRLM 間の通信の再確立のいずれか、または両方を行うことができます。データベースは **/START** コマンドを使用して再始動でき、中断状態のトランザクションは **/DEQUEUE SUSPEND** コマンドを使用して解放できます。また、BMP の再始動が必要になる場合もあります。

注：IRLM の場合、PSTCSHAB は IRLM の問題を示し、モジュール DFSSDLB0 または DBFNOTM0 で値をオンに設定され、フィールド PSTABTRM の値が設定されるモジュール DBFHGU10、DBFIRC10、DBFLMGR0、および DBFPCC30 で検出されます。
- 3 IRLM を再始動でき、MVS **MODIFY** コマンドを使用して IMS に対して RECONNECT を指定できます。データベースは、**/START** コマンドで再始動できます。また、BMP の再始動が必要になる場合もあります。
- 4 メッセージ DFS3303I を参照してデータベースが使用不可である理由を判別してください。DFS3303I の指示に従い、問題を修正してください。
- 5 代替システムで **/UNLOCK** コマンドを使用してデータベースをアンロックできます。このコマンドにより、EEQE がページされます。中断状態のトランザクションは、データ共用システムで **/DEQUEUE SUSPEND** コマンドを使用して解放できます。BMP の再始動が必要な場合もあります。
- 6 異常終了 3303 によってスケジュール変更が強制されて、全機能データベースの状況変更が検出できるようになります。
- 7 IFP 領域は、再始動されるまで外部サブシステムへアクセスできなくなりました。

- 8 **/DISPLAY CCTL** コマンドを発行して、未確定スレッドを見つけてみます。次に、**/CHA CCTL** コマンドを発行して、RIS を削除します。
- 9 アクションは不要です。
- 10 カップリング・ファシリティまたはキャッシュ構造で問題を修正してください。
- 11 カップリング・ファシリティまたはキャッシュ構造で問題を修正し、必要なバッチ・バックアウトを実行してください。
- 12 メッセージ DFS3303I は、バージョンが使用不可能である理由を示します。

プログラマーへの応答

以下のリストを使用して、異常終了の原因となった各条件に該当する処置を判別します。リストの番号は、「説明」セクションの番号と対応しています。

条件 処置

- 4 アプリケーションに INIT STATUS GROUPA 呼び出しを追加します。この呼び出しを追加することにより、DL/I 呼び出しは、U3303 ではなく状況コード BA を受け取ります。アプリケーションは、適切な処置を実行できます。INIT 呼び出しの説明については、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング API」を参照してください。INIT 呼び出しのフォーマットおよびパラメーターについては、「IMS V15 データベース管理」を参照してください。
- 9 ROLS の原因を判別し、必要ならば修正してください。
- 12 特定のバージョンの全機能データベースの特定のバージョンを取得する問題についても、INIT 呼び出しを発行して、異常終了 3303 の代わりに状況コードを受け取ることができます。

問題判別

- 1、17
ソース：
IMS 異常終了

モジュール

DBFLRH00、DBFDBAC0、DBFHGU10、DBFIRC10、DBFLRH00、DBFMBED0、DBFSYN10、DFSVDVSM0、

DFSDBH20、DFSDBLM0、DFSDLA00、DFSLRH00、DFXES0

関連タスク

[IRLM ロック要求](#)

関連資料

[INIT 呼び出し \(アプリケーション・プログラミング API\)](#)

関連情報

[DFS3303I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3304

説明

データベース読み取りエラーが発生し、しかもこの呼び出しでデータが変更されている場合、この異常終了が発行されます。これにより、潜在的なデータベース健全性の問題を防ぐことができます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。IMS の処理は継続します。

プログラマーの応答

マスター端末に表示されるメッセージ DFS2571I または DFS3712A に、読み取りエラーについての詳細が示されます。アプリケーションを再実行する前に、指定された DEDB エリアに対するデータベース・リカバリーの実行が必要になることもあります。

ソース:

IMS 異常終了

3305

説明

次のいずれかの状態が発生しました。

- IRLM が、代替システムによってアクティブ IMS システムがテークオーバーされたことを通知されてから、IMS 状況出口を駆動した。
- IRLM が、IMS 状況出口を駆動して、代替 IMS システムがトラッキング・モード中またはテークオーバー処理中(ただし、テークオーバーの完了前)に IRLM が異常終了したことを IMS に通知した。
- IRLM が、高速データベース・リカバリー領域で IMS 状況出口を駆動した。
- IRLM がアクティブな IMS 上で IMS 状況出口を駆動して、IRLM が終了したことを IMS に通知した。IRLMFAIL=ABEND は、DFSFDRCx PROCLIB メンバーでコーディングされました。

分析

3305 は、DFSSTAX0 または DFSFDRC0 によって発行される標準異常終了です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

以下の該当の処置を取って、XRF 機能を回復します。

- 最初の状態の場合、IMS 終了の後で、以前のアクティブ IMS システムを代替システムとして立ち上げます。
- 2 番目の状態の場合、IRLM を立ち上げてから、代替 IMS システムを再始動します。
- 3 番目の状態の場合、IRLM ロック構造への接続が再確立された後で、高速データベース・リカバリー領域を再始動します。
- 4 番目の状態の場合、IRLM を再始動してから、IMS を再始動します(該当する場合、FDBR リカバリーの完了後に)。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSFDRC0、DFSHTRM0、DFSSTAX0

3306

説明

この異常終了は、非 APF 許可プログラムが PSW (プログラム状況ワード) 監視プログラム状態 (z/OS 健全性に違反する) を獲得するのを防ぐために発行されます。IRPM ポインターが無効です。キー 8 IRPM が、ペアのキー 7 IRPM を指していません。ペアのキー 7/キー 8 IRPM は、SVC 初期設定中に、互いを指し合うようにフォーマット設定されます。

IMS の PC 番号を使用しようとしたが、障害のあるプログラムがストレージ・オーバーレイを起こした場合、この異常終了が発生します。IRPM ブロック内の IRLM RLPL ストレージを指している PST の PSTIRLMA ポインターがオーバーレイされたか、またはキー 8 IRPM ストレージ自体がオーバーレイされました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

オーバーレイされた IRPM ブロックがあるかどうか、または IMS の PC 番号を使用することを許可されていないアプリケーションがあるかどうかを検査します。

問題判別

1、4、6、13

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSLMGRO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3307

説明

カップリング・ファシリティの使用中に、ロック・テーブルで IRLM ストレージ不足状態が発生した場合、アプリケーションは異常終了して、この異常終了を発行します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。IMS 制御領域は、異常終了コード 0113 で終了する可能性があります。

プログラマーの応答

カップリング・ファシリティのロック・テーブルのサイズを増やすことを検討します。

問題判別:

1、17、30、34

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

IMS 異常終了 0113

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3308

説明

システムは、次のいずれかの理由で終了しました。

- CSL 要求エラーが発生しました。
- オペレーターが DFS4454A メッセージに対して CANCEL で応答しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

CSL 要求エラーの結果として終了する場合、この異常終了の前にメッセージ DFS3308E が出力されます。このメッセージを参照して、終了の理由を判別します。

オペレーターが DFS4454A メッセージに対して CANCEL と応答した結果終了する場合は、このメッセージを参照してこの終了の理由を判別してください。

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS3308E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS4454A \(メッセージおよびコード\)](#)

3310

説明

ロック要求が IRLM によってタイムアウトになりました。DFSVMxx PROCLIB メンバーまたは DFSVSAMP DD のいずれかに LOCKTIME が指定されました。タイムアウトになるまでロックが続く秒数は、IMS 初期設定時に LOCKTIME で指定されます。コマンド **MODIFY irllmproc, SET, TIMEOUT=nn** を発行して、タイムアウト値を変更できます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 (NDMX) を使用して、異常終了に関連した入力メッセージを IMS がどのように扱えばよいかを指示しない限り、メモリー・ダンプは作成されず、トランザクションおよびプログラムは停止されず、トランザクションの入力メッセージは常に廃棄されます。

プログラマーの応答

ロック要求がタイムアウトになった理由を調べます。RMF レコード 79.15 は、この要求が認可されないように妨害しているタスクを示します。リソース測定機能 (RMF) をオンラインで使用して、IRLM LONG LOCK 情報をフォーマットすることもできます。このパラメーターの設定方法については、IRLM ロック・タイムアウト機能の使用可能化 (システム定義) を参照してください。

メッセージ DFS2291I にもブロkkerとウェイターの情報が含まれていて、タイムアウトの原因を分析するのに役立ちます。

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

[DFS2291I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3312

説明

内部システム・エラーについての DBRC 処理中にエラーが発生しました。レジスター 15 には、以下のいずれかの理由コードが入ります。

コード 意味

X'04'

DBRC サインオンにゼロ以外の戻りコードがありました。

X'08'

DSPCRTR0 の BLDL が失敗しました。

X'0C'

DBRC 初期化に対する最初の呼び出し (INIT-0) に、ゼロ以外の戻りコードがありました。

X'10'

DBRC 初期化に対する 2 番目の呼び出し (INIT-1) に、ゼロ以外の戻りコードがありました。

X'14'

DBRC サインオフにゼロ以外の戻りコードがありました。

分析

これは、DFSUDMP0 によって発行される標準異常終了です。

コード 意味

X'04'

レジスター 3 に、サブシステム名のアドレスが入っています。レジスター 5 に、DBRC 戻りコードが入っています。

X'08'

レジスター 5 に、BLDL 戻りコードが入っています。

X'0C'

レジスター 5 に、DBRC 戻りコードが入っています。

X'10'

レジスター 5 に、DBRC 戻りコードが入っています。

X'14'

レジスター 3 に、サブシステム名のアドレスが入っています。レジスター 5 に、DBRC 戻りコードが入っています。

考えられる原因:

コード 意味

X'04'

無効なサブシステム名指定。該当する DBRC 資料を参照してください。

X'08'

必要なモジュールが正しいライブラリー内にか、JOB/STEPLIB DD ステートメントが正しいライブラリーを指定しません。

X'0C'

DBRC 処理で障害が発生しました。該当する DBRC 資料を参照してください。

X'10'

DBRC 処理で障害が発生しました。該当する DBRC 資料を参照してください。

X'14'

DBRC 処理で障害が発生しました。該当する DBRC 資料を参照してください。

システムの処置

処理は異常終了します。

システム・プログラマーの応答

戻りコードに基づいて適切な処置を取ってください。

問題判別

1、2、3、4、8、12

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSUDMP0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3313

説明

IMS ユーティリティー・プログラムで、IBM サポート担当者による分析が必要な重大エラーが発生しました。戻りコードがレジスター 15 に入られます。戻りコードには、以下の意味があります。

コード (16 進数)

意味

00

ログ・マージ・ユーティリティー (DFSRLTMG0) で、デッドロック状態が発生した。

04

ログ・マージ・ユーティリティー (DFSLTMG0) が、1つ以上の入力ファイルで EOF に到達するのに失敗した。

システムの処置

ジョブはダンプ付きで異常終了します。

プログラマーの応答

SYSUDUMP DD ステートメントを指定して、ジョブを再実行します。すべての入力データ・セットおよび出力データ・セットを保存します。IBM サポートに連絡してください。

ソース:

IMS 異常終了

3314

説明

処理中に、次の理由で、リカバリー不能エラーが DFSPCC40 によって検出されました。

- 変更されたデータ出口ルーチンまたは変更されたデータ・ロギングがデータベースに対して定義されていた。
- 変更されたデータ出口ルーチンが異常終了戻りコードを戻した。

z/OS メッセージの異常終了の理由コードおよびレジスター 15 の理由コードの意味は、次のとおりです。

第 1 バイト:

エラーを検出したモジュールを示します。

コード

意味

04

DFSPCC40

第 2 バイト:

エラーを検出したルーチンを示します。

コード

意味

00

セットアップ

04

CAPD チェーン・ループ

08

CAPD ルーチン

12

XPCB 制御ブロック作成

16

XSDB 制御ブロック作成

20

ユーザー出口の呼び出し

24

出口インターフェースの復元および出口ストレージのクリア

28

出口のロード

32

ストレージの獲得

36

ストレージの解放

40

出口の削除

44

メッセージ送信

第 3 バイト:

戻りコードが入ります。

コード

意味

04

セグメントに定義されたユーザー出口が見つからない。メッセージ CSV003I にロード・モジュール名が含まれています。

08

ストレージの取得または解放エラー

12

出口 LOAD エラー

16

出口 DELETE エラー

20

出口戻りコードが異常終了を要求

24

出口ルーチンからの無効な戻りコード。戻りコードが 20 以下であるか、または 4 の倍数でない。

第 4 バイト:

バイト 3 の戻りコードに基づいて、理由コードが入ります。

戻りコード

理由コード

04

00- 追加条件なし。

08

MVS GETMAIN または FREEMAIN により戻された戻りコードの下位バイト (MVS GETMAIN/FREEMAIN 戻りコードを参照)。

12

00- 追加条件なし。

16

戻された戻りコードは、モジュール要求 DELETE で z/OS により戻されたものです (MVS DELETE 戻りコードを参照)。

20

任意の値。値はユーザー出口で定義されます。

24

4 の倍数でないか、または 20 より大きい任意の値。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別

戻りコード 4 (EXIT NOT FOUND) の場合、その出口ロード・モジュールが使用可能かどうかを確認します。戻りコード 20 または出口戻りコード 24 の場合、出口ルーチン・リストを参照してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSPCC40

3315

説明

ハードウェア・データ圧縮ディクショナリー・ユーティリティー (DFSZLDU0) は、ディクショナリーの作成または検証を試行中にエラーを検出しました。

分析

プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC13) が発行された元のモジュール内の命令を指します。レジスター 15 に理由コードが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg15=1		ディクショナリー初期設定モジュール内でストレージを取得できないか、そのモジュールで内部エラーが発生しました。
Reg15=2		プレディクショナリー・ビルダー・モジュールに無効なパラメーターが渡されました。
Reg15=3		ディクショナリー・ビルド・モジュールに無効なパラメーターが渡されました。
Reg15=4		ディクショナリー検証モジュールに無効なパラメーターが渡されたか、不良なディクショナリーが作成されました。
Reg15=5		DD 名 HDCIN、HDCDIT、HDCDCTL、HDCDOUT、または SYSPRINT に割り振られたデータ・セット上で、オープン・エラーまたはクローズ・エラーが検出されました。「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

キー	ラベル	説明
Reg15=6		データ圧縮または展開時に統計/データ保全性モジュールで論理エラーが検出されました。

システムの処置

ジョブは異常終了します。

問題判別:

1, 3, 4, 5, 8, 11, 12, 15, 27

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSZLDU0

関連資料

[z/OS: OPEN -- プログラムとデータの接続 \(BDAM、VSAM への BISAM インターフェース、BPAM、BSAM、VSAM への QISAM インターフェース、および QSAM\)](#)

[z/OS: CLOSE - プログラムとデータの切断 \(BDAM、BISAM、BPAM、BSAM、QISAM、および QSAM\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3325

説明

ハードウェア・データ圧縮出口ルーチンで、圧縮または拡張サービスの実行を試みているときに、エラーが検出されました。

分析

プログラム状況ワード (PSW) は、異常終了 (SVC 13) が発行された元のモジュール内の命令を指します。レジスター 14 に、エラーの理由コードが入っています。この理由コードは、障害が起きたロケーションにおけるラベル名に対応します。レジスター 10 には、DMBCPAC (FP の場合は DBFCMPC) 制御ブロックのアドレスが入っています。レジスター 9 には、ルーチン作業域のアドレスが入っています。

キー	ラベル	説明
Reg14=D3C4E70	D3C4E	無効な機能コード。
1 Reg6=機能	701	

キー	ラベル	説明
Reg14=D3C4E70 2 Reg6=長さ + シーケンス・ フィールドの オフセット	D3C4E 702	セグメントのシーケ ンス・フィールドが、完全 にセグメント内にあるわ けではありません。
Reg14=D3C4E70 3 Reg6=入力長さ	D3C4E 703	入力の長さが負です。
Reg14=D3C4E70 4	D3C4E 704	SEGM ステートメントの COMPRTN= パラメータ ーで INIT が指定されま せませんでした。
Reg14=D3C4E70 5	DEC4E 705	DFSZLDX0 CSECT 内に 辞書アドレスがありが せませんでした。圧縮/展開 リンク・ステップを調べ てください。
Reg14=D3C4E70 6 Reg2=辞書アド レス	D3C4E 706	HDC ディクショナリー がページ境界にありが せませんでした。圧縮/展開 ルーチンは、そのリンケ ージ・ステップで 'page DFSZHDCD' を指定しま せませんでした。
Reg14=D3C4E70 7	D3C4E 707	無効な圧縮/展開ルー チン。目印が DFSZHDCD ではありませんでした。 圧縮/展開リンク・ステ ップを調べてください。
Reg14=D3C4E70 8 Reg3=CVT アド レス	D3C4E 708	ハードウェア・データ 圧縮サービスが使用不可 です。
Reg14=D3C4E70 9 Reg15=GETMAIN からの戻りコ ード	D3C4E 709	z/OS 圧縮シミュレー ション・ルーチン作業域 の GETMAIN が失敗しま した (全機能データベー ス)。ストレージ・サイ ズを増やします。
Reg14=D3C4E70 A Reg15=GETMAIN からの戻りコ ード	D3C4E 70A	z/OS 圧縮シミュレー ション・ルーチン作業域 の GETMAIN が失敗しま した (高速機能 DEDB 呼 び出し)。ストレージ・サイ ズを増やします。

キー	ラベル	説明
Reg14=D3C4E70 B	D3C4E 70B	圧縮要求時に、可変長セ グメントの入力長が 2 バ イトより小です。セグメ ント・データを訂正して ください。
Reg14=D3C4E70 C	D3C4E 70C	展開要求時に、圧縮され たセグメントの入力長が 2 バイトより小です。
Reg14=D3C4E70 D	D3C4E 70D	展開要求時に、ハードウ ェア命令で、第 1 オペラ ンドの終わりに達したに もかわらず、第 2 オペ ランドの終わりに達して いなかったことが判明し ました。
Reg14=D3C4E70 E Reg15=展開シミ ュレーターから の戻りコード	D3C4E 70E	展開要求時に、z/OS 展開 シミュレーターによって ゼロ以外の戻りコードが 戻されました。
Reg14=D3C4E70 F	D3C4E 70F	データベース・クローズ 時に、SEGM ステートメ ントの COMPRTN= パラ メーターで INIT が指定 されませんでした。
Reg14=D3C4E71 1	D3C4E 711	Function Recovery Routine (FRR) が、セグメ ントの圧縮または展開時 にデータ例外割り込みを インターセプトしまし た。データベースまたは ディクショナリーに対す る最近の変更を調べて、 例外の原因 (例えば、アン ロード時に展開されな かったデータベースの圧縮 や、別のデータベース用 に作成されたディクショ ナリーの使用など) を判 別します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

レジスター 14 に、エラーの理由コードが入っています。「IMS Hardware Data Compression Extended for z/OS, User's Guide」(SC27-1005) も参照してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSZLDX0

3368

説明

IMS の初期設定中、IMS が以下のいずれかのアクションを実行しようとしたときにエラーが発生しました。

- 自動インポートまたはエクスポート処理のためにストレージの取得を試みた
- リソース定義データ・セット (RDDS) または自動インポート処理用の IMSRSC リポジトリからリソース定義の読み取りを試みた

分析

自動インポートまたはエクスポートを実行するのに有効なシステム・リソース定義データ・セット (RDDS) が十分ない場合、モジュール DFSRDD10 は異常終了 3368 を発行します。

64 ビット・ストレージ・バッファを取得しようとしてエラーが発生した場合、自動インポート処理中に DFSIP000 によって異常終了 3368 が発行されます。DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーで

IMPORTERR=ABORT を指定したときに、システム・リソース定義データ・セットにアクセスしようとしてエラーが発生した場合も、DFSIP000 は自動インポート処理中にこの異常終了を発行します。メッセージ DFS3368E または DFS3397E には、障害の原因を示す戻りコードが入っています。

IMSRSC リポジトリからのリソース定義の読み取り中にエラーが発生した場合、リポジトリからの AUTOIMPORT 時にモジュール DFSIP300 によって異常終了コード 3368 が発行されます。DFS4401E は、リソース定義の読み取り時に発生したエラーを識別します。

異常終了後、レジスター 15 には、異常終了の理由を示すサブコードが入っています。可能な値としては、次のものがあります。

R15 内の 理由 コー ド (16 進 数)	説明	Module
04	RDDS からの AUTOIMPORT 時に出力エラーが発生し、RDDSERR=ABORT が指定されました。	DFSIP000
08	AUTOIMPORT 時に 64 ビット・ストレージ・エラーが発生しました。	DFSIP000

R15 内の 理由 コー ド (16 進 数)	説明	Module
0C	RDDS が定義されますが、2 つ未満が使用可能です。	DFSRDD10
10	入出力ブロック・ストレージ障害が発生しました。	DFSRDD10
14	この IMS によって 1 つ以上の RDDS が所有されていません。	DFSRDD10
20	IMSRSC リポジトリからの AUTOIMPORT 時にエラーが発生し、REPOERR=ABORT が指定されました。	DFSIP300

システムの処置:
IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

システム・リソース定義データ・セットの名前にメッセージ DFS3368E 内の情報を使用し、問題を識別して訂正します。訂正されたリソース定義データ・セットを使用して IMS をコールド・スタートしてください。

DFS4401E メッセージ内の情報を使用して、3368 RC=32 異常終了のエラーを識別してください。エラーを訂正してから、IMS をコールド・スタートします。

問題判別

処理中のシステム・リソース定義データ・セットの名前を DFS3368E メッセージから判別します。DFS3368E および DFS3397E メッセージを使用して、障害の原因を判別します。

DFS4401E メッセージ内の情報を使用して、異常終了の原因を識別してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSIP000、DFSRDD10、DFSIP300

関連情報

[DFS3368E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS3397E \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS4401E \(メッセージおよびコード\)](#)

3397

説明:

自動インポート処理中に、IMS はリソース定義または記述子定義でエラーを検出しました。

IMPORTERR=ABORT が DFSDfxxx PROCLIB メンバーで指定されました。自動インポートによって処理されるシステム・リソース定義データ・セットの名前については、メッセージ DFS3395I を参照してください。メッセージ DFS3398E または DFS3423E もしくはその両方の 1 つ以上のコピーが、発生したエラーのタイプを示すために異常終了の前に発行されたはずです。

システムの処置:

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答:

付随する DFS3398E および DFS3423E メッセージを使用して問題を特定し、訂正してください。訂正された定義を使用して IMS をコールド・スタートしてください。

問題判別:

処理中のリソース定義データ・セットの名前を DFS3395I メッセージから判別します。エラーのある定義を判別するには、DFS3398E および DFS3423E メッセージを使用してください。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSRIMPO

関連情報

[DFS3395I](#)

[DFS3398E](#)

[DFS3423E](#)

3398

説明

この異常終了コードは、データベース制御 (DBCTL) スレッドの DFS554 メッセージにのみ表示されます。スレッドが活動的にスケジュールされたが、DBCTL とコーディネーター制御 (CCTL) サブシステムとの間のインターフェースが終了したため縮小されたことを意味します。

システムの処置

この異常終了からは特に処置を取りません。

プログラマーの応答

トランザクションは完了していません。すべての変更はバックアウトされました。DBCTL-CCTL 接続が再び確立されてから、トランザクションを再実行できます。

ソース:

IMS 異常終了

3400

説明

この異常終了は、サンプル状況コード・エラー処理ルーチン DFS0AER によって発行されます。サンプル・アプリケーション・プログラムによって異常終了が要求されました。

理由として、次のものが考えられます。

- エラー状況コード (DFS3125A) の結果として、オペレーターが異常終了を要求した。
- エラー状況コードの結果として、アプリケーション・プログラムが異常終了を要求した。
- アプリケーション・プログラム実行中に、サンプル状況コード・エラー処理ルーチン DFS0AER の呼び出しが 20 回を超えた。

分析

このアプリケーション異常終了は、Primer Function サンプル状況コード・エラー処理ルーチン DFS0AER によって従属領域で発行されます。異常終了の時点における主なレジスターの使用については、以下で説明しています。

レジスター

使用法

7

DIB アドレス (CICS コマンド・レベル・プログラミングの場合)

8

DB-PCB アドレス。

9

入出力 PCB アドレス。

11

基底レジスター。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

プログラマーの応答

アプリケーション・プログラム、アプリケーション・プログラムによる DFS0AER の呼び出し、および DFS0AER によって生成される状況コード・エラーのリストを調べます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFS0AER

関連情報

[DFS3125A \(メッセージおよびコード\)](#)

3411

説明

DD 名 MODSTAT のデータ・セットをオープンしようとしているときに、IMS でエラーが発生しました。DD 名 MODSTAT の DD ステートメントが存在しないか、またはオープン処理中にオペレーティング・システムで入出力エラーが発生したかのいずれかです。

分析

これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: DD 名 MODSTAT の DD ステートメントが存在しないか、またはオープン処理中にオペレーティング・システムで入出力エラーが発生したかのいずれかです。この問題を解決するには、欠落している DD ステートメントを提供するか、または MODSTAT DD ステートメントで参照されるデータ・セットを作成してから IMS を実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

欠落している DD ステートメントを提供するか、または MODSTAT DD ステートメントで参照されるデータ・セットを作成してから (あるいは両方を実行してから) IMS を実行します。

問題判別:

11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール:

DFSIIOC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3412

説明

MODSTAT データ・セットを読み取ろうとしているときに、入出力エラーが検出されました。

分析

これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。この問題を克服するには、最後の正常なメッセージ DFS3410I または DFS3499I で示されている DD 名の MODSTAT データ・セットを再構成してから、IMS を実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ DFS3410I または DFS3499I で示されている DD 名の MODSTAT データ・セットを再作成してから、IMS を実行します。

問題判別

11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIIOC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3413

説明

MODSTAT データ・セットに無効な DD 名が含まれています。

分析

これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。この問題を克服するには、最後の正常なメッセージ DFS3410I または DFS3499I で示されている DD 名の MODSTAT データ・セットを再構成してから、IMS を実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ DFS3410I または DFS3499I で示されている DD 名の MODSTAT データ・セットを再作成してから、IMS を実行します。

問題判別

11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIIOC0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3414

説明

IMS がストレージを割り振れませんでした。

分析

これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。MODSTAT 作業域 (MSWA) に対する IMODULE GETMAIN が失敗しました。この問題を解決するには、領域で使用可能なストレージ量を増やしてから、IMS を実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

領域で使用可能なストレージの量を増やし、IMS を実行してください。

問題判別

11

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIIOC0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3415

説明

IMS が、メッセージ DFS3415X の DD 名で示されたデータ・セットに関連するデータ・セットに対して、ENQ を実行できませんでした。

分析

これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。この問題を克服するには、他のタスクがライブラリーを解放するまで待ってから、IMS を実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

他のタスクがライブラリーを解放するまで待ってから、IMS を実行します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSIIOC0

関連情報

DFS3415X

3416

説明

IMS は、メッセージ DFS3416X の DD 名ファイルで記述されているデータ・セットのジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) を検出できませんでした。参照される DD 名を持つ DD ステートメントが存在しないか、あるいはオープン処理中にオペレーティング・システムで入出力エラーが発生したかのいずれかです。

分析

これは、DFSIIOC0 によって発行される標準異常終了です。この問題を解決するには、欠落している DD ステートメントを提供するか、または指定された DD ステートメントで参照されるデータ・セットを作成してから IMS を実行します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

MODBLKSA DD ステートメントまたは MODBLKSB DD ステートメントで参照されるデータ・セットを作成するか、欠落している DD ステートメントを提供してから (あるいはその両方を実行してから)、IMS を実行します。

問題判別

11

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSIIOC0

関連情報

[DFS3416X](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3419

説明

IMS が、DL/I 制御ブロック・モジュールをロードできませんでした。メッセージ DFS3419X はモジュールを識別します。

分析

これは、DBFRRT00、DFSRDB00、DFSRPG00、および DFSRTR00 によって発行される標準異常終了です。

考えられる原因: 制御領域に使用可能な十分なストレージがないか、アクティブな MODBLKSA または MODBLKSB データ・セットが APF に対して許可されていませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

領域で使用可能なストレージ量を増やしてから、IMS を実行します。アクティブ MODBLKSA(B) データ・セットが APF 許可されていることを確認してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DBFRRT00、DFSRDB00、DFSRPG00、DFSRTR00

関連情報

[DFS3419X](#)

3420

説明

IMS が、存在しないトランザクションに関するメッセージを検出しました。トランザクション定義が、IMS システム・ログで示されているメッセージ・アクティビティと一致しません。

分析

これは、DFSQRST0 によって発行される標準異常終了です。ログ・データ・セットが、MODBLKS データ・セットでの定義と矛盾しています。初期設定中に MODBLKS からロードされた SMB ブロックが、前の IMS 実行中にアクティブだった SMB ブロックと同じではありません。この状態が発生するのは、不適切な DD 名のアクティブ MODBLKS データ・セットを指定して MODSTAT データ・セットが再作成されたか、または IMS が非アクティブ中に MODBLKS データ・セットの内容が変更された場合です。最新の IMS 実行時に使用していた MODBLKS の同じコピーを使用して、DUMPQ を指定して取られた最新のチェックポイントから /ERE で IMS を再始動します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

ログ・データ・セットが、MODBLKS データ・セットでの定義と矛盾しています。初期設定中に MODBLKS からロードされた SMB ブロックが、前の IMS 実行中に最後にアクティブだった SMB ブロックと同じではありません。この状態が発生するのは、不適切な DD 名のアクティブ MODBLKS データ・セットを指定して MODSTAT データ・セットが再作成されたか、または IMS が非アクティブ中に MODBLKS データ・セットの内容が変更された場合です。最新の IMS 実行時に使用していた MODBLKS の同じコピーを使用して、DUMPQ を指定して取られた最新のチェックポイントから /ERE で IMS を再始動します。

問題判別

1、2、3、4、5、6、8、10

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

DFSQRST0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3421

説明

IMS が /MODIFY COMMIT コマンド処理中に両立しない制御ブロックを検出する場合、この異常終了を発行します。DFSSMB0x または DBFRCTEx 制御ブロック・モジュールは、DFSPDIRx または DFSDDIRx 制御ブロッ

ク・モジュールと両立しません。参照される PSB または宛先コードが存在しません。

IMS のコールド・スタート中にこの異常終了が生じる場合、PDIR が存在しないか、RCTE が存在しないかのいずれかのために PDIR または RCTE を検出できませんでした。

分析

これは、/MODIFY COMMIT 処理中に DBFCPRCO または DFSCPSMO によって発行される標準異常終了です。DFSSMBOx または DBFRCTEx 制御ブロック・モジュールは、DFSPDIRx または DBFRCTEx 制御ブロック・モジュールと不整合です。存在しない PSB または宛先コードが参照されます。

考えられる原因: IMS システム定義のステージ 1 ソース・ステートメントにエラーがないかどうか確認します。IMS.MODBLKS(A)(B) (アクティブな MODBLKS データ・セット) に、適切な制御ブロック・モジュールのセット (DFSSMBOx、DFSPDIRx、DFSDDIRx または DBFRCTEx) が含まれているかどうかを確認します。ここで x は中核接尾部です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

動的リソース定義 (DRD) が使用可能でない場合、IMS.MODBLKSx に正しい制御ブロック・モジュール DFSSMBOx、DFSPDIRx、DFSDDIRx、および DBFRCTEx が含まれていることを確認します。上記の確認で問題が指摘されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を求めてください。

DRD が使用可能であり、リソース定義がコールド・スタート時に IMS.MODBLKSx データ・セットからインポートされる場合、IMS.MODBLKSx に正しい制御ブロック・モジュール DFSSMBOx、DFSPDIRx、DFSDDIRx、および DBFRCTEx が含まれていることを確認します。コールド・スタート時にリソース定義がリソース定義データ・セット (RDDS) からインポートされる場合、正しい RDDS が使用されていること、および RDDS に完全なリソース定義のセットがあることを確認します。上記の確認で問題が指摘されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を求めてください。

問題判別

1、2、3、4、5、6、8、10

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFCPRCO、DFSCPSMO、DFSRTRO0、DBFRRT00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3422

説明

IMS がストレージを割り振ることができなかったか、/MODIFY 処理中に BLDL リストがメモリー内のブロックと一致しませんでした。

この異常終了は、MODIFY 処理中に DFSCPDMO によって発行されることもあります。

分析

これは、PDIR、DDIR、SMB または RCTE 制御ブロックに対して IPAGE ストレージを取得できない場合に、DBFRRT00、DFSRDB00、DFSRPG00 および DFSRTRO0 によって発行される標準異常終了です。また、この異常終了は、リソース拡張ブロックを保持したり、リモート LTERM を保持したり、あるいはハッシュ・テーブルまたは英字チェーンにリソースを追加したりするのに十分なストレージを取得できない場合にも発行されます。

また、/MODIFY 処理中に BLDL リストがメモリー内のブロックと一致しない場合、異常終了 3422 は DFSCPDMO および DFSCPPSO によって発行されます。

考えられる原因: ストレージを増やし、IMS を実行するために IMS 制御領域に使用できる十分なストレージがありませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

サブプール 231 のストレージ量を増やします。メッセージ DFS3422X がリソース・タイプを RSCX と識別した場合は、サブプール 0 のストレージ量を増やします。メッセージ DFS3422X がリソース・タイプを RCNT と識別した場合は、サブプール 251 のストレージ量を増やします。

問題判別

1、2、3、4、5、6、8、10

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DBFRRT00、DFSCPDMO、DFSCPPSO、DFSIIINM0、DFSRDB00、DFSRPG00、DFSRTRO0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3423

説明

この異常終了は、IMS コールド・スタートまたはコールド・リスタート時のリソース処理中にエラーが発生した結果生じます。

システムの処置

IMS はメッセージ DFS3423E を出してから、異常終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ DFS3423E を参照して、異常終了の理由を判別します。

問題判別:

1、11

ソース:

IMS 異常終了

関連情報

DFS3423E

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3430

説明

TMS プロシーチャーの処理時に、モジュール ELXKSTAR が APF 許可されていません。

システムの処置

TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡して、ELXKSTAR モジュールを許可してもらいます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

ELXKSTAR

3431

説明

モジュール ELXKALNK をロード中に、LOAD マクロからゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システムの処置

TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡して、戻りコードを分析してもらいます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

ELXKCDSP

3432

説明

STASK ECB の待機リストをスキャン中に、ディスパッチャーが S タスク用の ECB がないことを検出しました。これは、論理エラーです。

システムの処置

TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

ELXKCDSP

3433

説明

S タスクの作成中に、作成される S タスクの数が TMS サブシステムで許可された最大数より多いことを、ディスパッチャーが検出しました。これは、論理エラーです。

システムの処置

TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
ELXKCDSP

3434

説明

TMS 初期設定処理中に、ELXKCINT が、現行の SCP(VS1) が TMS サブシステムによってサポートされていないことを検出しました。

システムの処置

TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

ELXKCINT

3435

説明

モジュールをロード中に、LOAD マクロからゼロ以外の戻りコードが戻されました。レジスター 5 に、モジュール名のアドレスが入っています。レジスター 6 に、LOAD からの元の異常終了コードが入っています。レジスター 7 に、LOAD からの元の理由コードが入っています。

システムの処置

この異常終了でダンプが生成されます。TMS サブシステムは、処理を継続するか、または終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

ELXKCINT

3436

説明

コマンド入力バッファー (CIB) を処理中に、QEDIT マクロからゼロ以外の戻りコードが戻されました。レジスター 6 に、異常終了が発生した場所を示す論理コードが入っています。レジスター 7 に、QEDIT からの元の戻りコードが入っています。

システムの処置

TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール

ELXKCSM

3439

説明

この異常終了は、オペレーターが **ABDUMP** コマンドを発行することによって発生しました。

システムの処置

TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
ELXCABNO

3440

説明

説明と処置は、次のように戻りコードに応じて異なります。

REASON CODE 1 (X'01')

STIMERM SET からの戻りコードが、論理エラーを示しています。戻りコードは、異常終了が発行される前に、レジスター 5 にコピーされました。この異常終了は、モジュール ELXKAPS1 によって発行されます。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 2 (X'02')

STIMERM CANCEL からの戻りコードが、論理エラーを示しています。戻りコードは、異常終了が発行される前に、レジスター 5 にコピーされました。この異常終了は、モジュール ELXKAPS1 によって発行されます。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 3 (X'03')

スケルトン・サブシステムが停止 (SVD1STOP 設定) の処理中に、ELXKAPS2 への呼び出しが行われました。APS サービスは利用不能のため、この呼び出しは無効です。この異常終了は、モジュール ELXKAPS2 によって発行されます。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 4 (X'04')

ELXKAPS2 への呼び出しで、無効なパラメーターがありました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 10 (X'0A')

FREEMAIN から ELXKAFRM にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 11 (X'0B')

SETLOCK から ELXKAFRM にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 12 (X'0C')

GETMAIN から ELXKAGTM にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 13 (X'0D')

SETLOCK から ELXKAGTM にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

REASON CODE 20 (X'14')

FREEMAIN から ELXKASSI にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 21 (X'15')

SETLOCK から ELXKASSI にゼロ以外の戻りコードが戻されました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 22 (X'16')

サブシステムがすでに開始されていることが検出されました - ELXKASSI。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 23 (X'17')

SSI listen 通知モジュールをロード中に、ELXKASSI に対する LOAD 障害が発生しました。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 24 (X'18')

SSI がすでに存在します - ELXKASSI または ELXKCDSP。

TMS インスタンス名が、既存のサブシステム SSI 名と一致します。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

プログラマーの応答: SSI は固有でなければなりません。次のいずれかを実行してください。

- SET コマンド・ステートメントで INSTANCE 名を変更します。
- IMS.PROCLIB のメンバー DFSPBxxx の IMSID パラメーターを変更するか、または、重複したサブシステム SSI 名を持つ IMS システムの IMS プロシージャ・ライブラリーにある IMSID パラメーターを変更します。
- SYS1.PARMLIB のメンバー IEFSSNxx の重複したサブシステム SSI 名を変更します。

REASON CODE 32 (X'20')

GETMAIN から ELXKABSK にゼロ以外の戻りコードが戻されました (ELXKABSK および ELXKABGS)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 33 (X'21')

SETLOCK から ELXKABSK にゼロ以外の戻りコードが戻されました (ELXKABSK および ELXKABGS)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 35 (X'23')

スタックを解放しようとして、ELXKABSK に無効な入力が渡されました (ELXKABFS)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 44 (X'2C')

サブシステム・エントリー・テーブル記述子のサイズが小さ過ぎます (ELXKAXMI)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

REASON CODE 45 (X'2D')

サブシステム・アドレス・スペースをスワップ不能にできませんでした (ELXKAXMI)。

システム処置: TMSS は、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーター応答: システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

ELXKAPS1、ELXKAPS2、ELXKAFRM、ELXKAGTM、ELXKASSI、ELXKCDSP、ELXKABSK、ELXKABGS、ELXKAXMI

3469

説明

プロログ処理中、スタック・ストレージを獲得しているときに、使用不能なストレージのためにスタック・マネージャーが異常終了しました。

システムの処置

TMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

システム・プログラマーの応答

システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

ELXKALNK

3476

説明

拡張端末オプション (ETO) 機能が実行パラメーター ETO=Y で要求されたとおりにインストールされていないかまたはライセンス交付を受けていないことが、制御領域初期設定で検出されました。エラーを示す DFS3676I メッセージが、この異常終了とともに出されます。

分析

これは、モジュール DFSAINB0 によって発行される標準異常終了です。ETO 機能を使用する計画がない場合は、実行パラメーターを ETO=N に変更してください。ETO 機能を使用する計画がある場合は、必ず、ETO 機能がインストールされ、ライセンス交付を受けていることを確認してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

付随するメッセージに示された状態を訂正します。

問題判別

1、4、5、6

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSAINB0

関連情報

[DFS3676I](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3477

説明

1 次マスター論理端末 (PMTO) がシステムに定義されていないことが、TM 初期設定で検出されました。IMS では、PMTO がシステム定義で正しく指定されている必要があります。エラーを示す DFS0507I メッセージが、この異常終了とともに出力されます。

分析

これは、DFSAINB0 によって発行される標準異常終了です。システム定義を確認して、PMTO が適切に指定されているようにしてください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

システム・プログラマーの応答

付随するメッセージに示された状態を訂正します。

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSAINB0

関連情報

[DFS0507I](#)

3498

説明

HALDB の DL/I 処理中に、予期しないユーザー環境エラーが検出されました。このエラーは、以下のイベントのいずれかを処理中に検出された可能性があります。

- HALDB 区画の選択

- 拡張ポインター・セットの検証

- 拡張ポインター・セットの訂正

分析

以下のいずれかの機能に対して HALDB の DL/I 処理中に、予期しないユーザー環境エラーが検出されたときに、このエラーが発生しました。

- 区画の選択

- 拡張ポインター・セットの検証

- 拡張ポインター・セットの訂正

異常終了時のレジスター 14 からレジスター 12 の内容は、PST 内の最新保管域のオフセット X'C' で始まる位置に保管されています。この保管域は、ラベル PSTSAVL で始まります。この保管域のオフセット X'1C' でエラー理由コードを検出できます。

考えられる理由コードは次のとおりです。

コード

説明

X'8001'

事前再編成ユーティリティーまたは DFSUPNT0 ユーティリティーが、ロードの前に実行されませんでした。

X'8010'

ターゲット区画が検出されませんでした。

X'8031'

オープン DMB 障害。

X'8051'

ユーザー区画の選択が失敗しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

問題判別

1、3、6、8、17a から 17d、35、40

ソース:

IMS 異常終了

モジュール

DFSDLR00、DFSDDL00、DFSDXMT0、DFSDDLCO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

3499

説明

HALDB の DL/I 呼び出しの処理中に、次の 2 つのいずれかの状態が発生しました。

- 事前区画構造 INIT 呼び出し、または事前区画構造 REBUILD 呼び出しから異常終了の要求が発生した。
- 区画選択呼び出し (FIRST、NEXT、または TARGET 区画) で、区画選択出口からの異常終了要求が受け取られた。

両方の事例とも、異常終了は、区画選択出口からの戻りコード 8 または 12 の結果であると見なされます。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

異常終了を要求した区画選択出口を調べて、要求が出された理由を判別します。

- 事前区画構造呼び出しの理由が「初期設定」または「再作成」で、出口から IMS に渡された戻りコードが 8 であった場合、出口を分析して、戻りコードが 8 の理由を判別します。事前区画構造呼び出しの理由が「終了」であった場合、出口からの戻りコードは無視されます。
- 区画選択呼び出しの理由が FIRST または TARGET で、出口から IMS に渡された戻りコードが 8 または 12 であった場合、出口を分析して、戻りコードが 8 または 12 の理由を判別します。区画選択呼び出しの理由が NEXT で、出口から IMS に渡された戻りコードが 8 であった場合、出口を分析して、戻りコードが 8 の理由を判別します。

呼び出し理由は、DFSPECA 制御ブロックの PECACT フィールドにあり、戻りコードは PECRC フィールドにあります。区画選択出口について詳しくは、「IMS V15 出口ルーチン」を参照してください。

ソース:
IMS 異常終了

3500-3998

説明

お客様が使用するために予約済みです。

ソース:
IMS 異常終了

3999

説明

「発生してはならない (this should never occur)」としてコーディングされているコード・パスが取られました。

システムの処置

IMS サブシステムは、異常終了コードおよびダンプを伴って終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡して、問題を分析してもらいます。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DBFLBEU0、DBFCDAR0

4000-4093

説明

お客様が使用するために予約済みです。

ソース:
IMS 異常終了

4095

説明

このコードは、制御領域内の別の IMS TCB が異常終了したため、IMS TCB が異常終了中であることを示しています。最初の異常終了に、問題を説明する異常終了コードが含まれています。これらの状況では、4095 異常終了は正常です。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

SDUMP または SYSUDUMP データ・セットを入手します。

問題判別

ダンプ・データ・セットには元の問題に関する情報が含まれています。元の異常終了状態を使用して、問題分析を続ける必要があります。

メッセージ DFS629I (4095 以外の TCB 異常終了コードを示す) およびその他の関連エラー・メッセージが、問題判別に役立つことがあります。詳しくは、メッセージを参照してください。

ソース:
IMS 異常終了

モジュール:
DFSFCST0、DFSFMOD0

関連情報

[DFS629I](#)

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書の他言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス 渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing

IBM Corporation

North Castle Drive, MD-NC119

Armonk, NY 10504-1785

US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、

次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

©(お客様の会社名)(年).

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux[®] は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンライン・プライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、『IBM プライバシー・ステートメント』（<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy>）および『IBM オンライン・プライバシー・ステートメント』（<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy/details>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』（<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>）というタイトルのセクションを参照してください。

参考文献

この参考文献のリストには、IMS 15 ライブラリーのすべての資料が記載されています。

表題	頭字語	資料番号
IMS V15 アプリケーション・プログラミング	APG	SC43-4281
IMS V15 アプリケーション・プログラミング API	APR	SC43-4279
IMS V15 コマンド 第1巻: IMS コマンド A-M	CR1	SC43-4284
IMS V15 コマンド 第2巻: IMS コマンド N-V	CR2	SC43-4285
IMS V15 コマンド 第3巻: IMS コンポーネントおよび z/OS コマンド	CR3	SC43-4286
IMS V15 コミュニケーションおよびコネクション	CCG	SC43-4277
IMS V15 データベース管理	DAG	SC43-4276
IMS V15 データベース・ユーティリティー	DUR	SC43-4280
IMS Version 15 Diagnosis	DGR	GC27-6786
IMS V15 出口ルーチン	ERR	SC43-4279 SA88-7180
IMS V15 インストール	INS	SC27-6788
IMS Version 15 Licensed Program Specifications	LPS	GC27-6799
IMS V15 メッセージおよびコード 第1巻: DFS メッセージ	MC1	GC43-4282
IMS V15 メッセージおよびコード 第2巻: DFS 以外メッセージ	MC2	GC43-4283
IMS V15 メッセージおよびコード 第3巻: IMS 異常終了コード	MC3	GC27-6791
IMS V15 メッセージおよびコード 第4巻: IMS コンポーネント・コード	MC4	GC27-6792
IMS V15 オペレーションおよびオートメーション	OAG	SC43-4275
IMS V15 リリース計画	RPG	GC43-4272
IMS V15 システム管理	SAG	SC43-4271
IMS V15 システム定義	SDG	GC43-4272
IMS V15 システム・プログラミング API	SPR	SC43-4269
IMS V15 システム・ユーティリティー	SUR	SC43-4270



プログラム番号: 5635-A06
5655-DS5
5655-TM4